2021年度
文学部
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2021/5/1］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

【A2000】卒業論文（哲学科）［哲学科教員］年間授業/Yearly 1
【A2000】卒業論文（日本文学科）［日本文学科教員］年間授業/Yearly 1
【A2000】卒業論文（英文学科）［英文学科教員］年間授業/Yearly 2
【A2000】卒業論文（史学科）［史学科教員］年間授業/Yearly 3
【A2000】卒業論文（地理学科）［地理学科教員］年間授業/Yearly 4
【A2000】卒業論文（心理学科）［心理学科教員］年間授業/Yearly 5
【A3819】歴史地理学（１）［米家　志乃布］春学期 6
【A3820】歴史地理学（２）［米家　志乃布］秋学期 7
【A3809,A3859】民俗学Ⅰ／民俗学Ⅰ（資格）［室井　康成］春学期 8
【A3810,A3860】民俗学Ⅱ／民俗学Ⅱ（資格）［室井　康成］秋学期 9
【A3811】イスラム世界論Ⅰ［松本　隆志］春学期 10
【A3812】イスラム世界論Ⅱ［松本　隆志］秋学期 11
【A3813】文学部生のキャリア形成［丹治　愛、宇都宮　美生、中俣　均］春学期 12
【A3814】現代のコモンセンス［高橋　敏治、中釜　浩一、王　安］秋学期 13
【A2304】哲学概論１［中釜　浩一］春学期 14
【A2305】哲学概論２［中釜　浩一］秋学期 14
【A2306】論理学概論１［安東　祐希］春学期 15
【A2307】論理学概論２［安東　祐希］秋学期 15
【A2308】倫理学概論１［君嶋　泰明］春学期 16
【A2309】倫理学概論２［君嶋　泰明］秋学期 16
【A2310】西洋哲学史Ⅰ－１　［奥田　和夫］春学期 17
【A2311】西洋哲学史Ⅰ－２　［奥田　和夫］秋学期 17
【A2312】西洋哲学史Ⅱ－１　［菅沢　龍文］春学期 18
【A2313】西洋哲学史Ⅱ－２　［菅沢　龍文］秋学期 19
【A2206】基礎演習１［安孫子　信］春学期 20
【A2207】基礎演習１［西塚　俊太］春学期 21
【A2209】基礎演習２［西塚　俊太］秋学期 22
【A2210】基礎演習２［安孫子　信］秋学期 23
【A2212】哲学特講（１）－１［奥田　和夫］春学期 24
【A2213】哲学特講（１）－２［山下　真］秋学期 25
【A2216】哲学特講（３）－１［松本　力］春学期 26
【A2217】哲学特講（３）－２［古屋　俊彦］秋学期 26
【A2218】哲学特講（４）－１［菅沢　龍文］春学期 27
【A2219】哲学特講（４）－２［近堂　秀］秋学期 28
【A2220】哲学特講（５）－１［西塚　俊太］春学期 29
【A2221】哲学特講（５）－２［相原　博］秋学期 30
【A2222】哲学特講（６）－１［大橋　基］春学期 31
【A2223】哲学特講（６）－２［小井沼　広嗣］秋学期 32
【A2224】哲学特講（７）－１［君嶋　泰明］春学期 33
【A2225】哲学特講（７）－２［大森　一三］秋学期 34
【A2226,A3672】哲学特講（８）－１／科学哲学Ⅰ［木島　泰三］春学期 35
【A2227,A3673】哲学特講（８）－２／科学哲学Ⅱ［中釜　浩一］秋学期 36
【A2301】国際哲学特講［安孫子　信］秋学期 36
【A2230】哲学演習（１）［安孫子　信］年間 37
【A2231】哲学演習（２）［奥田　和夫］年間 38
【A2232】哲学演習（３）［菅沢　龍文］年間 39
【A2233】哲学演習（４）［酒井　健］年間 40
【A2234】哲学演習（５）［笠原　賢介］年間 41
【A2235】哲学演習（６）［君嶋　泰明］年間 42
【A2236】哲学演習（７）［西塚　俊太］年間 43
【A2237】哲学演習（８）［安東　祐希］年間 45
【A2238】哲学演習（９）［中釜　浩一］年間 46
【A2239】哲学演習（１０）［山口　誠一］年間 47

【A2240】哲学演習（１１）［内藤　淳］年間 48
【A2241】科学哲学１［中釜　浩一］春学期 49
【A2242】科学哲学２［中釜　浩一］秋学期 49
【A2245】現代思想２（フランスの思想）１［大池　惣太郎］春学期 50
【A2246】現代思想２（フランスの思想）２［大池　惣太郎］秋学期 50
【A2247】美学・芸術学１［武田　昭彦］春学期 51
【A2248】美学・芸術学２［武田　昭彦］秋学期 52
【A2249】東洋哲学史１［青野　道彦］春学期 53
【A2250】東洋哲学史２［頼住　光子］秋学期 54
【A2251】宗教学１（伝統宗教）１［杉本　隆司］春学期 55
【A2252】宗教学１（伝統宗教）２［杉本　隆司］秋学期 56
【A2260】日本思想史１［西塚　俊太］春学期 57
【A2261】日本思想史２［西塚　俊太］秋学期 58
【A2262,A3851】文化史１／文化史１（資格）［伊藤　直樹］春学期 59
【A2263,A3852】文化史２／文化史２（資格）［伊藤　直樹］秋学期 60
【A2264】社会思想１（社会学概論）１［岩野　卓司］春学期 61
【A2265】社会思想１（社会学概論）２［岩野　卓司］秋学期 62
【A2266】社会思想２（社会思想史）１［政井　啓子］春学期 63
【A2267】社会思想２（社会思想史）２［鈴木　由加里］秋学期 64
【A2268】ラテン語１［金子　佳司］春学期 65
【A2269】ラテン語２［金子　佳司］秋学期 66
【A2270】ギリシア語１［白根　裕里枝］春学期 67
【A2271】ギリシア語２［白根　裕里枝］秋学期 68
【A2413,A2414,A2415,A2416,A2417,A2418,A2419,A2420,A2421,A2422】大学での国語力［加藤　昌嘉、伊海　孝充、佐藤　未央子、坂本　勝、中丸　宣明、小林　ふみ子、遠藤　星希、田中　和生、藤村　耕治］春学期 .. 69
【A2401】日本文芸学概論Ａ［尾谷　昌則ほか］春学期 70
【A2402】日本文芸学概論Ａ［尾谷　昌則ほか］春学期 71
【A2403】日本文芸学概論Ｂ［尾谷　昌則ほか］秋学期 72
【A2404】日本文芸学概論Ｂ［尾谷　昌則ほか］秋学期 73
【A2409】日本言語学概論Ａ［尾谷　昌則］春学期 74
【A2410】日本言語学概論Ａ［古牧　久典］春学期 74
【A2411】日本言語学概論Ｂ［尾谷　昌則］秋学期 75
【A2412】日本言語学概論Ｂ［古牧　久典］秋学期 76
【A2405】日本文芸史ＩＡ［坂本　勝］春学期 77
【A2406】日本文芸史ＩＡ［加藤　昌嘉］春学期 77
【A2407】日本文芸史ＩＢ［伊海　孝充］秋学期 78
【A2408】日本文芸史ＩＢ［小林　ふみ子］秋学期 79
【A2425】文学概論Ａ［中丸　宣明］春学期 80
【A2427】文学概論Ｂ［中丸　宣明］秋学期 81
【A2429】日本文芸史ⅡＡ［藤村　耕治］春学期 82
【A2430】日本文芸史ⅡＡ［岡野　幸江］春学期 83
【A2431】日本文芸史ⅡＢ［藤村　耕治］秋学期 84
【A2432】日本文芸史ⅡＢ［岡野　幸江］秋学期 85
【A2615】ゼミナール１Ａ［遠藤　星希］春学期 86
【A2616】ゼミナール１Ｂ［遠藤　星希］秋学期 87
【A2617】ゼミナール２Ａ［坂本　勝］春学期 88
【A2618】ゼミナール２Ｂ［坂本　勝］秋学期 88
【A2619】ゼミナール３Ａ［加藤　昌嘉］春学期 89
【A2620】ゼミナール３Ｂ［加藤　昌嘉］秋学期 90
【A2621】ゼミナール４Ａ［佐藤　明浩］春学期 91
【A2622】ゼミナール４Ｂ［佐藤　明浩］秋学期 92
【A2623】ゼミナール５Ａ［小秋元　段］春学期 93
【A2624】ゼミナール５Ｂ［小秋元　段］秋学期 94
【A2625】ゼミナール６Ａ［小林　ふみ子］春学期 94
【A2626】ゼミナール６Ｂ［小林　ふみ子］秋学期 95
【A2627】ゼミナール７Ａ［STEVEN GEORGE NELSON］春学期 96
【A2628】ゼミナール７Ｂ［STEVEN GEORGE NELSON］秋学期 97

【A2629】ゼミナール８Ａ［伊海　孝充］春学期 98
【A2630】ゼミナール８Ｂ［伊海　孝充］秋学期 99
【A2631】ゼミナール９Ａ［中丸　宣明］春学期 100
【A2632】ゼミナール９Ｂ［中丸　宣明］秋学期 100
【A2635】ゼミナール１１Ａ［藤村　耕治］春学期 101
【A2636】ゼミナール１１Ｂ［藤村　耕治］秋学期 102
【A2637】ゼミナール１２Ａ［三井　喜美子］春学期 103
【A2638】ゼミナール１２Ｂ［三井　喜美子］秋学期 104
【A2639】ゼミナール１３Ａ［間宮　厚司、古牧　久典］春学期 105
【A2639】ゼミナール１３Ａ［古牧　久典］春学期 105
【A2640】ゼミナール１３Ｂ［間宮　厚司］秋学期 106
【A2641】ゼミナール１４Ａ［竹林　一志］春学期 106
【A2641】ゼミナール１４Ａ［間宮　厚司、竹林　一志］春学期 107
【A2642】ゼミナール１４Ｂ［間宮　厚司］秋学期 107
【A2643】ゼミナール１５Ａ［尾谷　昌則］春学期 108
【A2644】ゼミナール１５Ｂ［尾谷　昌則］秋学期 109
【A2645】ゼミナール１６Ａ［尾谷　昌則］春学期 110
【A2646】ゼミナール１６Ｂ［尾谷　昌則］秋学期 111
【A2647】ゼミナール１７Ａ［藤谷　治］春学期 112
【A2648】ゼミナール１７Ｂ［藤谷　治］秋学期 112
【A2649】ゼミナール１８Ａ［山口　和人］春学期 113
【A2650】ゼミナール１８Ｂ［山口　和人］秋学期 114
【A2651】ゼミナール１９Ａ［田中　和生］春学期 115
【A2652】ゼミナール１９Ｂ［田中　和生］秋学期 115
【A2653】ゼミナール２０Ａ［田中　和生］春学期 116
【A2654】ゼミナール２０Ｂ［田中　和生］秋学期 116
【A2655】ゼミナール２１Ａ［根本　昌夫］春学期 117
【A2656】ゼミナール２１Ｂ［根本　昌夫］秋学期 118
【A2735】ゼミナール２２Ａ［王　安］春学期 119
【A2736】ゼミナール２２Ｂ［王　安］秋学期 120
【A2657】日本文芸研究特講（１）上代Ａ［坂本　勝］春学期 121
【A2658】日本文芸研究特講（１）上代Ｂ［坂本　勝］秋学期 122
【A2659】日本文芸研究特講（１）上代Ｃ［萩野　了子］春学期 122
【A2660】日本文芸研究特講（１）上代Ｄ［萩野　了子］秋学期 123
【A2661】日本文芸研究特講（２）中古Ａ［栗山　元子］春学期 124
【A2662】日本文芸研究特講（２）中古Ｂ［加藤　昌嘉］秋学期 126
【A2665】日本文芸研究特講（３）中世Ａ［小秋元　段］春学期 127
【A2666】日本文芸研究特講（３）中世Ｂ［小秋元　段］秋学期 128
【A2667】日本文芸研究特講（３）中世Ｃ［井　真弓］春学期 128
【A2668】日本文芸研究特講（３）中世Ｄ［井　真弓］秋学期 129
【A2669】日本文芸研究特講（４）近世Ａ［眞島　望］春学期 130
【A2670】日本文芸研究特講（４）近世Ｂ［小林　ふみ子］秋学期 131
【A2671】日本文芸研究特講（４）近世Ｃ［宮本　祐規子］春学期 132
【A2672】日本文芸研究特講（４）近世Ｄ［宮本　祐規子］秋学期 133
【A2673】日本文芸研究特講（５）近代Ａ［佐藤　未央子］春学期 134
【A2674】日本文芸研究特講（５）近代Ｂ［佐藤　未央子］秋学期 135
【A2677】日本文芸研究特講（６）現代Ａ［藤木　直実］春学期 136
【A2678】日本文芸研究特講（６）現代Ｂ［藤木　直実］秋学期 137
【A2679】日本文芸研究特講（６）現代Ｃ［高口　智史］春学期 138
【A2680】日本文芸研究特講（６）現代Ｄ［梅澤　亜由美］秋学期 139
【A2681】日本文芸研究特講（７）漢文Ａ［遠藤　星希］春学期 140
【A2682】日本文芸研究特講（７）漢文Ｂ［遠藤　星希］秋学期 141
【A2685】日本文芸研究特講（８）言語Ａ［王　安］春学期 142
【A2686】日本文芸研究特講（８）言語Ｂ［間宮　厚司］秋学期 143
【A2687】日本文芸研究特講（９）表現Ａ［藤谷　治］春学期 144
【A2688】日本文芸研究特講（９）表現Ｂ［藤谷　治］秋学期 144
【A2689】日本文芸研究特講（１０）演劇Ａ［伊海　孝充］春学期 145

【A2690】日本文芸研究特講（１０）演劇Ｂ［伊海　孝充］秋学期 145
【A2691】日本文芸研究特講（１０）演劇Ｃ［上野　火山］春学期 146
【A2692】日本文芸研究特講（１０）演劇Ｄ［上野　火山］秋学期 147
【A2693】日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史Ａ［本塚　亘］春学期 148
【A2694】日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史Ｂ［本塚　亘］秋学期 149
【A2695】日本文芸研究特講（１２）詩歌Ａ［四元　康祐］春学期 150
【A2696】日本文芸研究特講（１２）詩歌Ｂ［四元　康祐］秋学期 151
【A2697】日本文芸研究特講（１３）児童文芸Ａ［三井　喜美子］春学期 152
【A2698】日本文芸研究特講（１３）児童文芸Ｂ［三井　喜美子］秋学期 153
【A2699】日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸Ａ［福　寛美］春学期 154
【A2700】日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸Ｂ［福　寛美］秋学期 155
【A2703】日本文芸研究特講（１５）国際日本学Ａ［STEVEN GEORGE NELSON］春学期 156
【A2704】日本文芸研究特講（１５）国際日本学Ｂ［STEVEN GEORGE NELSON］秋学期 157
【A2581,A3861】文化史１／文化史１（資格）［安原　眞琴］春学期 158
【A2582, A3862】文化史２／文化史２（資格）［山口　恭子］秋学期授業/Fall 159
【A2707】日本文芸研究特講（１６）特域Ｃ［安原　眞琴］春学期 160
【A2708】日本文芸研究特講（１６）特域Ｄ［山口　恭子］秋学期 162
【A2605,A2606,A2607,A2608,A2609,A2610,A2611,A2612,A2613,A2614】ゼミナール入門［加藤　昌嘉、小林　ふみ子、坂本　勝、佐藤　未央子、伊海　孝充、中丸　宣明、遠藤　星希、尾谷　昌則、田中　和生、藤村　耕治］秋学期 163
【A2433】日本言語史Ａ［阿部　美菜子］春学期 164
【A2435】日本言語史Ｂ［間宮　厚司］秋学期 164
【A2437】日本文法論Ａ［阿部　美菜子］春学期 165
【A2438】日本文法論Ａ［尾谷　昌則］春学期 166
【A2439】日本文法論Ｂ［阿部　美菜子］秋学期 166
【A2440】日本文法論Ｂ［尾谷　昌則］秋学期 167
【A2441】日本文章史Ａ［細沼　祐介］春学期 168
【A2443】日本文章史Ｂ［細沼　祐介］秋学期 169
【A2445】文章表現論Ａ［田中　和生］春学期 170
【A2446】文章表現論Ａ［伊東　祐吏］春学期 171
【A2447】文章表現論Ｂ［田中　和生］秋学期 171
【A2448】文章表現論Ｂ［伊東　祐吏］秋学期 172
【A2553】日本文芸批評史Ａ［川鍋　義一］春学期 173
【A2555】日本文芸批評史Ｂ［川鍋　義一］秋学期 174
【A2558】日本言語学特殊研究Ａ［間宮　厚司］春学期 175
【A2560】日本言語学特殊研究Ｂ［間宮　厚司］秋学期 175
【A2561】中国文芸史Ａ［長谷川　真史］春学期 176
【A2562】中国文芸史Ａ［吉井　涼子］春学期 177
【A2563】中国文芸史Ｂ［長谷川　真史］秋学期 178
【A2564】中国文芸史Ｂ［吉井　涼子］秋学期 179
【A2566】書誌学［山口　恭子］春学期 180
【A2569】音楽芸能史特殊研究Ａ［野川　美穂子］春学期 181
【A2571】音楽芸能史特殊研究Ｂ［野川　美穂子］秋学期 182
【A2709】編集理論Ａ［福江　泰太］春学期 183
【A2710】編集理論Ｂ［福江　泰太］秋学期 184
【A2574】編集実務Ａ［谷村　順一］春学期 185
【A2576】編集実務Ｂ［谷村　順一］秋学期 186
【A2584】表現と著作権Ａ［内藤　裕之］春学期 187
【A2586】表現と著作権Ｂ［内藤　裕之］秋学期 188
【A2604】古文・漢文の基礎［栗山　元子］秋学期 189
【A2719 】書道Ａ(書写を中心とする)［橋本　匡朗］春学期 190
【A2721】書道Ａ(書写を中心とする)［橋本　匡朗］春学期 191
【A2720 】書道Ｂ(書写を中心とする)［橋本　匡朗］秋学期 192
【A2722】書道Ｂ(書写を中心とする)［橋本　匡朗］秋学期 193
【A2577,A3853】美術史（西洋）Ａ／美術史（西洋）Ａ(資格)［安藤　智子］春学期 194
【A2578,A3854】美術史（西洋）Ｂ／美術史（西洋）Ｂ（資格）［安藤　智子］秋学期 195
【A2715】情報リテラシー実習Ａ［谷村　順一］春学期 196

【A2716】情報リテラシー実習 B ［谷村　順一］秋学期 197
【A2717】情報メディア演習 A ［武田　俊、新見　直］春学期 198
【A2718】情報メディア演習 B ［武田　俊、新見　直］秋学期 199
【A2724】国語科教育法（1）［野澤　涼子］春学期 200
【A2725】国語科教育法（2）［野澤　涼子］秋学期 201
【A2727】国語科教育法（3）［南﨑　徳彦］春学期 202
【A2728】国語科教育法（4）［南﨑　徳彦］秋学期 203
【A2901】英語史Ａ［福元　広二］春学期 204
【A2902】英語史Ｂ［福元　広二］秋学期 205
【A2903】英文学史Ａ［丹治　愛］春学期 206
【A2904】英文学史Ｂ［丹治　愛］秋学期 207
【A2905】米文学史Ａ［宮川　雅］春学期 208
【A2906】米文学史Ｂ［宮川　雅］秋学期 209
【A2804】英語学概論Ａ［椎名　美智］春学期 210
【A2805】英語学概論Ｂ［福元　広二］秋学期 211
【A2806】言語学概論Ａ［石川　潔］春学期 212
【A2807】言語学概論Ｂ［石井　創］秋学期 213
【A2808】英語・言語学講義Ａ［椎名　美智］秋学期 214
【A2809】英語・言語学講義Ｂ［石川　潔］秋学期 215
【A2810】社会言語学［塩田　雄大］春学期 216
【A2811】応用言語学［川﨑　貴子］秋学期 217
【A2907】英米文学講義ＩＡ［宮川　雅］春学期 218
【A2908】英米文学講義ＩＢ［宮川　雅］秋学期 219
【A2909】英米文学講義ⅡＡ［丹治　愛］春学期 220
【A2910】英米文学講義ⅡＢ［丹治　愛］秋学期 221
【A2911】英語学講義Ａ［福元　広二］春学期 222
【A2912】英語学講義Ｂ［福元　広二］秋学期 223
【A2913,A2326】言語学講義ＩＡ／言語と論理１（言語学講義Ｉ）A ［石川　潔］春学期 224
【A2914,A2327】言語学講義ＩＢ／言語と論理１（言語学講義Ｉ）B ［石川　潔］秋学期 224
【A2915】言語学講義ⅡＡ［伊藤　達也］春学期 225
【A2916】言語学講義ⅡＢ［伊藤　達也］秋学期 225
【A2917】英語音声学Ａ［川﨑　貴子］春学期 226
【A2918】英語音声学Ｂ［川﨑　貴子］秋学期 226
【A2919】英語音声学Ａ［川﨑　貴子］春学期 227
【A2920】英語音声学Ｂ［川﨑　貴子］秋学期 228
【A2969】文学研究方法論Ａ［小島　尚人］春学期 229
【A2970】文学研究方法論Ｂ［小島　尚人］秋学期 230
【A2965】英米文学特殊講義Ⅰ［田中　裕希］春学期 231
【A2966】英米文学特殊講義Ⅱ［田中　裕希］秋学期 231
【A2968】英米文学特殊講義Ⅳ［小島　尚人］秋学期 232
【A2923】英語・言語学特殊講義Ａ［小野　綾子］春学期 233
【A2924】英語・言語学特殊講義Ｂ［小野　綾子］秋学期 234
【A2981】比較文化論（1）［小島　尚人］秋学期 235
【A2988】Comparative Culture(2) ［小島　尚人］春学期 236
【A2989】Comparative Culture(3) ［小島　尚人］秋学期 237
【A2982】英米文化概論 A ［田中　裕希］春学期 238
【A2983】英米文化概論 B ［田中　裕希］秋学期 238
【A2824】比較文学Ａ［柳橋　大輔］春学期 239
【A2825】比較文学Ｂ［柳橋　大輔］秋学期 240
【A2826】英語表現演習 (Writing)(1) Ａ［畑　和樹］春学期 241
【A2827】英語表現演習 (Writing)(1) Ｂ［畑　和樹］秋学期 242
【A2828】英語表現演習 (Writing)(2) Ａ［安藤　和弘］春学期 243
【A2829】英語表現演習 (Writing)(2) Ｂ［安藤　和弘］秋学期 244
【A2830】英語表現演習 (Writing)(3) Ａ［TIMOTHY J WRIGHT］春学期 245
【A2831】英語表現演習 (Writing)(3) Ｂ［TIMOTHY J WRIGHT］秋学期 246
【A2834】英語表現演習 (Writing)(5) Ａ［杉　亜希子］春学期 248
【A2835】英語表現演習 (Writing)(5) Ｂ［杉　亜希子］秋学期 249

【A2836】英語表現演習 (Writing)(6)A［宮川　雅］春学期 250
【A2837】英語表現演習 (Writing)(6) B［宮川　雅］秋学期 251
【A2838】英語表現演習 (Writing)(7) A［TIMOTHY J WRIGHT］春学期 252
【A2839】英語表現演習 (Writing)(7) B［TIMOTHY J WRIGHT］秋学期 254
【A2840】英語表現演習 (Writing)(8) A［田中　裕希］春学期 255
【A2841】英語表現演習 (Writing)(8) B［田中　裕希］秋学期 256
【A2846】英語表現演習 (Speaking)(1) A［杉　亜希子］春学期 257
【A2847】英語表現演習 (Speaking)(1) B［杉　亜希子］秋学期 258
【A2848】英語表現演習 (Speaking)(2) A［田尻　歩］春学期 259
【A2849】英語表現演習 (Speaking)(2) B［田尻　歩］秋学期 260
【A2850】英語表現演習 (Speaking)(3) A［Niall　Murtagh］春学期 261
【A2851】英語表現演習 (Speaking)(3) B［Niall　Murtagh］秋学期 262
【A2854】英語表現演習 (Speaking)(5) A［Niall　Murtagh］春学期 263
【A2855】英語表現演習 (Speaking)(5) B［Niall　Murtagh］秋学期 264
【A2856】英語表現演習 (Speaking)(6) A［TIMOTHY J WRIGHT］春学期 265
【A2857】英語表現演習 (Speaking)(6) B［TIMOTHY J WRIGHT］秋学期 267
【A2858】英語表現演習 (Speaking)(7) A［西野　方子］春学期 268
【A2859】英語表現演習 (Speaking)(7) B［西野　方子］秋学期 269
【A2860】英語表現演習 (Speaking)(8) A［田尻　歩］春学期 270
【A2861】英語表現演習 (Speaking)(8) B［田尻　歩］秋学期 271
【A2844】英語表現演習 (翻訳) (1) A［吉川　純子］春学期 272
【A2845】英語表現演習 (翻訳) (1) B［吉川　純子］秋学期 273
【A2866】英語表現演習 (翻訳) (2) A［安藤　和弘］春学期 274
【A2867】英語表現演習 (翻訳) (2) B［安藤　和弘］秋学期 275
【A2993,A2994】英語表現演習 (総合) ［BRIAN WISTNER］春学期 276
【A2995,A2996】英語表現演習 (総合) ［BRIAN WISTNER］秋学期 277
【A2984】Academic Writing A ［福元　広二］春学期 278
【A2985】Academic Writing B ［福元　広二］秋学期 279
【A2990】Second Language Learning and Teaching ［BRIAN WISTNER］秋学期 280
【A2991】Public Speaking ［椎名　美智］春学期 281
【A2889】海外英語演習［BRIAN WISTNER］夏期集中 282
【A2971】２年次演習（１）［田中　裕希］春学期 283
【A2972】２年次演習（２）［丹治　愛］春学期 283
【A2973】２年次演習（３）［小島　尚人］春学期 284
【A2974】２年次演習（４）［BRIAN WISTNER］春学期 285
【A2975】２年次演習（５）［椎名　美智］春学期 286
【A2976】２年次演習（６）［川﨑　貴子］春学期 287
【A2961】英語教育学演習Ａ［BRIAN WISTNER］春学期 288
【A2962】英語教育学演習Ｂ［BRIAN WISTNER］秋学期 289
【A3001】言語習得論演習 A ［福田　純也］春学期 290
【A3002】言語習得論演習 B ［福田　純也］秋学期 291
【A2935】英語学演習 (1) A［福元　広二］春学期 291
【A2936】英語学演習 (1) B［福元　広二］秋学期 292
【A2937】英語学演習 (2) A［椎名　美智］春学期 293
【A2938】英語学演習 (2) B［椎名　美智］秋学期 294
【A2939】言語学演習 (1) A［石川　潔］春学期 295
【A2940】言語学演習 (1) B［石川　潔］秋学期 296
【A2941】言語学演習 (2) A［川﨑　貴子］春学期 296
【A2942】言語学演習 (2) B［川﨑　貴子］秋学期 297
【A2943】英米文学演習 (1) A［宮川　雅］春学期 298
【A2944】英米文学演習 (1) B［宮川　雅］秋学期 299
【A2951】英米文学演習 (5) A［小島　尚人］春学期 300
【A2952】英米文学演習 (5) B［小島　尚人］秋学期 301
【A2953】英米文学演習 (6) A［丹治　愛］春学期 302
【A2954】英米文学演習 (6) B［丹治　愛］秋学期 303
【A2957】英米文学演習 (8) A［山崎　暁子］春学期 304
【A2958】英米文学演習 (8) B［山崎　暁子］秋学期 305

【A2959】英米文学演習 (9) A［宮本　文］春学期 306
【A2960】英米文学演習 (9) B［宮本　文］秋学期 307
【A2986】Seminar in Cross-cultural Studies A［田中　裕希］春学期 308
【A2987】Seminar in Cross-cultural Studies B［田中　裕希］秋学期 308
【A2977】英語の文法力Ⅰ［椎名　美智］春学期 309
【A2978】英語の文法力Ⅱ［椎名　美智］秋学期 310
【A2979】メディア・リテラシーⅠ［田中　邦佳］秋学期 311
【A2980】メディア・リテラシーⅡ［吉川　純子］秋学期 312
【A3101】日本史概説Ⅰ［小倉　淳一］春学期 313
【A3102】日本史概説Ⅱ［大塚　紀弘］秋学期 314
【A3103】日本史概説Ⅲ［松本　剣志郎］春学期 315
【A3104】日本史概説Ⅳ［長井　純市］秋学期 316
【A3105】東洋史概説Ⅰ［塩沢　裕仁］春学期 317
【A3106】東洋史概説Ⅱ［塩沢　裕仁］秋学期 318
【A3107】東洋史概説Ⅲ［宇都宮　美生］春学期 319
【A3108】東洋史概説Ⅳ［宇都宮　美生］秋学期 320
【A3109】西洋史概説Ⅰ［後藤　篤子］春学期 321
【A3110】西洋史概説Ⅱ［後藤　篤子］秋学期 322
【A3111】西洋史概説Ⅲ［高澤　紀恵］春学期 323
【A3112】西洋史概説Ⅳ［高澤　紀恵］秋学期 324
【A3152,A3855】考古学概論／考古学概論（資格）［古庄　浩明］春学期 325
【A3153,A2274】史学概論／歴史思想（史学概論）［高澤　紀恵］春学期 326
【A3119】日本考古資料学Ⅰ［阿部　朝衛］春学期 327
【A3120】日本考古資料学Ⅱ［阿部　朝衛］秋学期 328
【A3121】日本古代史料学Ⅰ［春名　宏昭］秋学期 329
【A3204】日本古代史料学Ⅱa［山口　英男］春学期 330
【A3206】日本古文書学Ⅰ［大塚　紀弘］春学期 331
【A3207】日本古文書学Ⅱ［大塚　紀弘］秋学期 332
【A3124】日本近世史料学Ⅰ［松本　剣志郎］春学期 333
【A3125】日本近世史料学Ⅱ［松本　剣志郎］秋学期 334
【A3126】日本近代史料学［長井　純市］秋学期 335
【A3127】日本現代史料学［劉　傑］秋学期 336
【A3139】東洋史外書講読Ⅰ［塩沢　裕仁］秋学期 337
【A3140】東洋史外書講読Ⅱ［宇佐美　久美子］秋学期 338
【A3147】西洋史外書講読Ⅰ［後藤　篤子］秋学期 339
【A3148】西洋史外書講読Ⅱ［古川　高子］春学期 340
【A3128】日本考古学演習［小倉　淳一］年間 341
【A3129】日本古代史演習［小口　雅史］年間 342
【A3130】日本中世史演習［大塚　紀弘］年間 343
【A3131】日本近世史演習［松本　剣志郎］年間 344
【A3203】日本近代史演習［長井　純市］年間 345
【A3134】日本現代史演習［差波　亜紀子］年間 347
【A3210】東洋史物質資料演習［塩沢　裕仁］年間 348
【A3211】東洋史文献史料演習［齋藤　勝］年間 349
【A3150】西洋前近代史演習［後藤　篤子］年間 350
【A3151】西洋近代史演習［高澤　紀恵］年間 351
【A3149】西洋現代史演習［大澤　広晃］年間 352
【A3113,A3856】日本考古学／日本考古学（資格）［古庄　浩明］秋学期 353
【A3114】日本古代史［春名　宏昭］春学期 354
【A3115】日本中世史［及川　亘］秋学期 355
【A3116】日本近世史［松本　剣志郎］秋学期 356
【A3117】日本近代史［長井　純市］春学期 357
【A3118】日本現代史［劉　傑］春学期 358
【A3154】日本史特講Ⅰ［中山　学］春学期 359
【A3155】日本史特講Ⅱ［大塚　紀弘］春学期 359
【A3156】日本史特講Ⅲ［稲田　奈津子］秋学期 360
【A3157】日本史特講Ⅳ［中山　学］秋学期 361

【A3158】日本史特講Ⅴ［友田　昌宏］秋学期 362
【A3159】日本史特講Ⅵ［米崎　清実］春学期 363
【A3160】日本史特講Ⅶ［山田　康弘］春学期 364
【A3201】日本史特講Ⅸ［長井　純市］春学期 365
【A3202】日本史特講Ⅹ［森田　貴子］秋学期 366
【A3216】日本史特講 XI［遠藤　慶太］秋学期 367
【A3135】東洋古代史［飯尾　秀幸］春学期 367
【A3136】東洋中世史［宇都宮　美生］秋学期 368
【A3208】東洋近現代史［芦沢　知絵］春学期 369
【A3209】東洋考古・美術史［塩沢　裕仁］春学期 370
【A3162】東洋史特講Ⅰ［飯尾　秀幸］秋学期 371
【A3163】東洋史特講Ⅱ［澁谷　由紀］春学期 372
【A3164】東洋史特講Ⅲ［芦沢　知絵］秋学期 373
【A3165】東洋史特講Ⅳ［塩沢　裕仁］秋学期 374
【A3166】東洋史特講Ⅴ［宇佐美　久美子］春学期 375
【A3217】東洋史特講Ⅶ［水上　和則］春学期 376
【A3218】東洋史特講Ⅷ［松本　隆志］春学期 377
【A3143】西洋古代史［後藤　篤子］春学期 378
【A3144】西洋中世史［小沼　明生］春学期 379
【A3145】西洋近代史［中嶋　毅］春学期 380
【A3146】西洋現代史［古川　高子］秋学期 381
【A3168】西洋史特講Ⅰ［後藤　篤子］秋学期 382
【A3169】西洋史特講Ⅱ［小沼　明生］秋学期 383
【A3170】西洋史特講Ⅲ［篠原　琢］秋学期 384
【A3171】西洋史特講Ⅳ［高澤　紀恵］春学期 385
【A3172】西洋史特講Ⅴ［高澤　紀恵］秋学期 385
【A3173】西洋史特講Ⅵ［大鳥　由香子］春学期 386
【A3174】西洋史特講Ⅶ［遠藤　泰生］秋学期 387
【A3219】西洋史特講Ⅸ［大和久　悌一郎］秋学期 388
【A3212】日本史序説Ⅰ［川上　真理］春学期 389
【A3213】日本史序説Ⅱ［齋藤　智志］秋学期 389
【A3214】東洋史序説［宇都宮　美生］春学期 390
【A3215】西洋史序説［志内　一興］春学期 391
【A3176,A3857】美術史（日本）A／美術史（日本）A（資格）［稲本　万里子］春学期 392
【A3177,A3858】美術史（日本）B／美術史（日本）B（資格）［稲本　万里子］秋学期 393
【A3401】地理学概論（1）［前杢　英明］秋学期 394
【A3402】地理学概論（2）［中俣　均］秋学期 395
【A3403】地理実習（1）［小原　丈明］秋学期 396
【A3404】地理実習（1）［小原　丈明］春学期 397
【A3405】地理実習（2）［羽佐田　紘大］春学期 398
【A3406】地理実習（2）［羽佐田　紘大］秋学期 399
【A3407】現地研究［地理学科教員］年間 400
【A3408】地誌学概論（1）［小寺　浩二］春学期 401
【A3409】地誌学概論（2）［南　春英］春学期 402
【A3410】日本地誌（1）［中俣　均］春学期 403
【A3411】日本地誌（2）［羽佐田　紘大］秋学期 404
【A3412】地球科学概論Ⅰ［宍倉　正展］春学期 405
【A3413】地球科学概論Ⅱ［宍倉　正展］秋学期 406
【A3509】地学実験 (1)（コンピュータ活用含む）［濱　侃］春学期 407
【A3510】地学実験 (1)（コンピュータ活用含む）［濱　侃］秋学期 408
【A3511】地学実験 (2)（コンピュータ活用含む）［加藤　美雄］春学期 409
【A3512】地学実験 (2)（コンピュータ活用含む）［加藤　美雄］秋学期 410
【A3416】地質・岩石学及び実験［外田　智千］春学期 411
【A3417】自然環境論［羽佐田　紘大］春学期 412
【A3418】地形学及び実験Ⅰ［前杢　英明］春学期 413
【A3419】地形学及び実験Ⅱ［前杢　英明］秋学期 414
【A3420】生物・土壌地理学及び実験Ⅰ［小川　滋之］春学期 415

【A3421】生物・土壌地理学及び実験Ⅱ［小川　滋之］秋学期 416
【A3422】気候・気象学及び実験Ⅰ［山口　隆子］春学期 417
【A3423】気候・気象学及び実験Ⅱ［山口　隆子］秋学期 418
【A3424】海洋・陸水学及び実験Ⅰ［小寺　浩二］春学期 419
【A3425】海洋・陸水学及び実験Ⅱ［小寺　浩二］秋学期 420
【A3426】社会経済地理学（1）［小原　丈明］秋学期 421
【A3427】社会経済地理学（2）［伊藤　達也］春学期 422
【A3428】社会経済地理学（3）［片岡　義晴］秋学期 423
【A3481】社会経済地理学（4）（エコツーリズム）［呉羽　正昭］秋学期 424
【A3482】文化地理学（1）［中俣　均］春学期 425
【A3483】文化地理学（2）［中俣　均］秋学期 425
【A3513】地理学史［中俣　均］秋学期 426
【A3434】自然地理学演習（1）［山口　隆子］年間 427
【A3435】自然地理学演習（2）［小寺　浩二］年間 428
【A3436】自然地理学演習（3）［前杢　英明］年間 429
【A3437】人文地理学演習（1）［小田　宏信］年間 430
【A3438】人文地理学演習（2）［中俣　均］年間 431
【A3439】人文地理学演習（3）［小原　丈明］年間 432
【A3440】人文地理学演習（4）［伊藤　達也］年間 434
【A3441】人文地理学演習（5）［米家　志乃布］年間 435
【A3443】世界地誌（1）［狩野　真規］春学期 436
【A3444】世界地誌（2）［南　春英］秋学期 437
【A3445】世界地誌（3）［小寺　浩二］秋学期 438
【A3446】世界地誌（4）［伊藤　達也］秋学期 439
【A3449】地理学読図演習（1）［羽佐田　紘大］春学期 440
【A3450】地理学読図演習（2）［羽佐田　紘大］秋学期 441
【A3500】自然地理学特講（1）［羽佐田　紘大］秋学期 442
【A3452】自然地理学特講（2）［飯泉　佳子］春学期 443
【A3453】自然地理学特講（3）［山口　隆子］春学期 443
【A3455】人文地理学特講（1）［小田　宏信］春学期 444
【A3456】人文地理学特講（2）［片岡　義晴］春学期 445
【A3457】人文地理学特講（3）［小原　丈明］春学期 446
【A3489】人文地理学特講（4）［伊藤　達也］秋学期 447
【A3459】地図学Ⅰ［若林　芳樹］春学期 448
【A3460】地図学Ⅱ［鈴木　厚志］秋学期 449
【A3461】測量学及び測量実習Ⅰ［川本　利一］春学期 450
【A3462】測量学及び測量実習Ⅱ［川本　利一］春学期 451
【A3463】写真判読Ⅰ［宮内　崇裕］春学期 452
【A3464】写真判読Ⅱ［郭　栄珠］秋学期 453
【A3465】数理地理学（1）［永保　敏伸］春学期 454
【A3469】外書講読（1）［前杢　英明］春学期 455
【A3470】外書講読（2）［中俣　均］秋学期 456
【A3471】地理情報システム（ＧＩＳ）Ⅰ［中山　大地］春学期 457
【A3472】地理情報システム（ＧＩＳ）Ⅱ［中山　大地］秋学期 458
【A3527】理科教育法（1）［狩野　真規］春学期 459
【A3528】理科教育法（2）［狩野　真規］秋学期 460
【A3530】理科教育法（3）［狩野　真規］春学期 461
【A3531】理科教育法（4）［狩野　真規］秋学期 462
【A3514】物理学概論Ⅰ［石川　壮一］春学期 463
【A3515】物理学概論Ⅱ［石川　壮一］秋学期 463
【A3516】化学概論Ⅰ［中島　弘一］春学期 464
【A3517】化学概論Ⅱ［中島　弘一］秋学期 464
【A3518】生物学概論Ⅰ［植木　紀子］春学期 465
【A3519】生物学概論Ⅱ［植木　紀子］秋学期 466
【A3520】物理学実験Ⅰ(コンピュータ活用含)［吉田　智］春学期 467
【A3521】物理学実験Ⅱ(コンピュータ活用含)［吉田　智］秋学期 467
【A3522】化学実験Ⅰ(コンピュータ活用含)［向井　知大］春学期 468

【A3523】化学実験Ⅱ(コンピュータ活用含)［向井　知大］秋学期 469
【A3524】生物学実験Ⅰ(コンピュータ活用含)［島野　智之］春学期 470
【A3525】生物学実験Ⅱ(コンピュータ活用含)［島野　智之］秋学期 471
【A3601,A2254】心理学概論／心理学１（心理学概論）１［福田　由紀］春学期 472
【A3602,A2255】心理学史／心理学１（心理学史）２［高砂　美樹］秋学期 473
【A3619】脳の科学［高橋　敏治］秋学期 474
【A3620】認知心理学［吉村　浩一］春学期 475
【A3622】発達心理学［渡辺　弥生］春学期 476
【A3667】言語心理学［福田　由紀］春学期 477
【A3624】学習心理学［押尾　恵吾］秋学期 478
【A3670】行動分析学［島宗　理］春学期 479
【A3625,A2256】社会心理学／心理学２（社会心理学）１［越智　啓太］春学期 480
【A3621】認知科学入門［田嶋　圭一］春学期 481
【A3701】心理統計法Ⅰ［三浦　大志］春学期 482
【A3702】心理統計法Ⅱ［三浦　大志］秋学期 483
【A3703】心理統計法実習Ⅰ［伊藤　尚枝］春学期 484
【A3704】心理統計法実習Ⅰ［伊藤　尚枝］春学期 485
【A3705】心理統計法実習Ⅱ［伊藤　尚枝］秋学期 486
【A3706】心理統計法実習Ⅱ［伊藤　尚枝］秋学期 487
【A3707】心理学基礎実験Ⅰ［島宗　理］春学期 488
【A3708】心理学基礎実験Ⅰ［島宗　理］春学期 489
【A3709】心理学基礎実験Ⅱ［矢口　幸康］秋学期 491
【A3710】心理学基礎実験Ⅱ［矢口　幸康］秋学期 492
【A3611】心理学測定法Ⅰ［押尾　恵吾］春学期 493
【A3612】心理学測定法Ⅰ［押尾　恵吾］春学期 494
【A3613】心理学測定法Ⅱ［菊池　理紗］秋学期 495
【A3614】心理学測定法Ⅱ［菊池　理紗］秋学期 496
【A3615】心理検査法Ⅰ［森　彩乃］春学期 497
【A3616】心理検査法Ⅰ［森　彩乃］春学期 498
【A3617】心理検査法Ⅱ［森　彩乃］秋学期 499
【A3618】心理検査法Ⅱ［森　彩乃］秋学期 500
【A3627】演習Ⅰ（1）［高橋　敏治］春学期 501
【A3628】演習Ⅰ（2）［渡辺　弥生］春学期 502
【A3629】演習Ⅰ（3）［三浦　大志］春学期 503
【A3630】演習Ⅰ（4）［下山　晃司］春学期 504
【A3631】演習Ⅰ（5）［矢口　幸康］春学期 505
【A3711】演習Ⅱ（1）［菊池　理紗］秋学期 506
【A3712】演習Ⅱ（2）［藤巻　峻］秋学期 507
【A3713】演習Ⅱ（3）［吉村　浩一］秋学期 508
【A3714】演習Ⅱ（4）［押尾　恵吾］秋学期 509
【A3715】演習Ⅱ（5）［田嶋　圭一］秋学期 510
【A3643】研究法Ⅰ（1）［高橋　敏治］春学期 511
【A3644】研究法Ⅰ（2）［吉村　浩一］春学期 512
【A3645】研究法Ⅰ（3）［渡辺　弥生］春学期 513
【A3646】研究法Ⅰ（4）［福田　由紀］春学期 514
【A3647】研究法Ⅰ（5）［田嶋　圭一］春学期 515
【A3649】研究法Ⅰ（7）［島宗　理］春学期 516
【A3650】研究法Ⅰ（8）［越智　啓太］春学期 517
【A3716】研究法Ⅰ（9）［荒井　弘和］春学期 518
【A3717】研究法Ⅰ（１０）［林　容市］春学期 519
【A3651】研究法Ⅱ（1）［高橋　敏治］秋学期 520
【A3652】研究法Ⅱ（2）［吉村　浩一］秋学期 521
【A3653】研究法Ⅱ（3）［渡辺　弥生］秋学期 522
【A3654】研究法Ⅱ（4）［福田　由紀］秋学期 523
【A3655】研究法Ⅱ（5）［田嶋　圭一］秋学期 524
【A3657】研究法Ⅱ（7）［島宗　理］秋学期 525
【A3658】研究法Ⅱ（8）［越智　啓太］秋学期 527

【A3718】研究法Ⅱ（９）［荒井　弘和］秋学期 528
【A3803】マス・メディア論［君塚　洋一］春学期授業/Spring 529
【A3719】研究法Ⅱ（１０）［林　容市］秋学期 530
【A3805】言語文化論Ⅰ［粟飯原　文子］春学期授業/Spring 531
【A3665】生理心理学［松田　いづみ］春学期 532
【A3806】言語文化論Ⅱ［大野　ロベルト］春学期授業/Spring 533
【A3666】生理心理学実習［松田　いづみ］秋学期 534
【A3668】感情心理学［足立　にれか］秋学期 535
【A3671】対人認知論［足立　にれか］春学期 536
【A3721】産業組織心理学［島宗　理］秋学期 537
【A3674】人工知能［市瀬　龍太郎］春学期 539
【A3659】精神生理学特講［高橋　敏治］春学期 539
【A3660,A2557】言語学特講Ⅰ／日本言語学特殊研究Ａ［田嶋　圭一］春学期 540
【A3661,A2559】言語学特講Ⅱ／日本言語学特殊研究 B ［田嶋　圭一］秋学期 541
【A3662】認知科学特講［田嶋　圭一］秋学期 542
【A3663】認知心理学特講［吉村　浩一］秋学期 543
【A3723】言語心理学特講［福田　由紀］秋学期 544
【A3669】行動分析学特講［島宗　理］秋学期 545
【A3675】情報処理技法Ⅰ［山口　剛］春学期 547
【A3676】情報処理技法Ⅰ［山口　剛］春学期 548
【A3677】情報処理技法Ⅱ［山口　剛］秋学期 549
【A3678】情報処理技法Ⅱ［山口　剛］秋学期 550
【A3720】心理学英語Ⅰ［常深　浩平］春学期 552
【A3722】心理学特殊講義Ⅰ［島宗　理］秋学期 553
【A3623】教育心理学［福田　由紀］秋学期 554
【A3626】学校心理学［原田　恵理子］秋学期 555
【A3683】発達臨床心理学Ⅰ［桜井　美加］春学期 556
【A3684】発達臨床心理学Ⅱ［桜井　美加］秋学期 557
【A3685】精神保健学Ⅰ［高橋　敏治］春学期 558
【A3686】精神保健学Ⅱ［高橋　敏治］秋学期 559
【A3724】人格心理学［杉山　崇］春学期 560
【A3725,A2303】集団社会心理学／心理学２（集団社会心理学）２［越智　啓太］秋学期 561
【A3690,A2258】臨床心理学／心理学３（臨床心理学）１［杉山　崇］秋学期 562
【A3691,A2259】犯罪心理学／心理学３（犯罪心理学）２［越智　啓太］秋学期 563
【A3726】カウンセリング心理学［下山　晃司］秋学期 564
【A3738】身体運動の心理と生理［林　容市］春学期 565
【A3680】発達心理学特講［渡辺　弥生］秋学期 566
【A3687】社会心理学特講［島宗　理、高橋　敏治、田嶋　圭一、渡辺　弥生、福田　由紀］秋学期 567
【A3664】スポーツ心理学特講［荒井　弘和］秋学期 568
【A3730】心理学英語Ⅱ［常深　浩平］秋学期 570
【A3727】心理学特殊講義Ⅱ［吉村　浩一］春学期 570
【A3728】心理学特殊講義Ⅲ［福田　由紀］秋学期 571
【A3801,A3821】福祉工学［川瀬　利弘］秋学期授業/Fall 572

PHL400BB

卒業論文（哲学科）

哲学科教員

授業コード：A2000 ｜ 曜日・時限：**集中・その他**
年間授業/Yearly・8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自らテーマを設定し、そのテーマに従って資料を収集検討し、引用等によって客観性を確保した上で、自分自身の議論を組み立て、一定枚数の論文を作成する。こうした作業を通して、４年間哲学科で学んできた成果を集大成させる。

【到達目標】
卒業論文を作成することで、1）問題・テーマを自ら発見する能力、2）参照すべき文献資料を選択し的確に読解する能力、3）客観的に分析し論理的に議論を組み立てる能力、4）明晰に説得力を持つ仕方で論述する能力、などが培われたことを、自ら確認するとともに、他者に証明する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
指導教員の指導の下で、定期的に個人あるいは集団で面談あるいは発表会を行い、テーマ、議論の展開、論述の妥当性、資料の客観性等を検討した上で、最終的に論文を完成させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1～28 回	指導・成果報告 提出・面接	テーマの検討、草稿のチェック、書式の修正

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指導教員の指導に従い、個人面談、事前発表、草稿提出等を行う。

【テキスト（教科書）】
学生のテーマによって決定する

【参考書】
適宜指導する

【成績評価の方法と基準】
指導教員の指導の下で、指示に従い適切な対応をしたか：３０％。
論文の内容が適正で客観性を持ち、かつ独自の議論を展開できているか：７０％

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
春学期の開始に先立って、学生ガイダンス等で卒業論文にかかわる説明があるので確認しておく。指導教員にはゼミ担当教員があたるので、ゼミ選択に注意する。卒業論文指導教員を期限内に必ず提出し、指導教員が確定した後は、その指示に従う。なお、指導教員の指導に従わず論文だけを提出した場合、評価が与えられないので注意すること。

【Outline and objectives】
By proving the abilities to pick out unique themes by themselves, to argue logically and creatively , and to write assertations in an objective and clear way, students will show their achievements of four years' learning at philosophy department.

LIT400BC/LIN400BC/ART400BC

卒業論文（日本文学科）

日本文学科教員

授業コード：A2000 ｜ 曜日・時限：**集中・その他**
年間授業/Yearly・8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
◆文学部日本文学科では、４年次において「卒業論文」を必修としています（文芸コースにおいては「創作」）。
◆卒業論文は、それまでに培った専門的知識、文献読解力、論理的思考力、文学的想像力、日本語表現力などを傾けて執筆される、学業の集大成です。

【到達目標】
◆以下のような力を発揮して、すぐれた論文（創作）を完成させることを、目標とします。
１．文学・言語・芸能の歴史と現状についての知識
２．作品・資料を正確に捉える読解力
３．自ら問題を発見し、考察を深める思考力（文学・言語コース）
　自ら主題を発見し、構想を深める想像力（文芸コース）
４．自らの研究や発想の成果を的確に伝える表現力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
◆卒業論文の指導は、２・３年次で履修した「ゼミナール」（ゼミ）の担当教員から受けます。
◆３年次秋学期末～４年次春学期初頭に、『卒業論文執筆のてびき』を受けとり、ゼミごとにガイダンスを受けます。
◆４年次の春学期に、必ず、「卒業論文」を履修登録してください。
◆４年次の６月に、「日本文学科 卒業論文指導願」を提出します（提出方法は、別途お知らせします）。
◆１月に卒業論文を提出します。その後、指導教員による面接審査（口頭試問）を受けます。
◆卒業論文の分量は、400 字詰め原稿用紙に換算して 50 枚以上です（2 万字相当）。書式や体裁については、指導教員の指示に従ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1～28 回	調査・執筆	調査 → 報告 → 執筆 → 推敲 → 提出 → 面接

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◆各自、テーマや方法を主体的に選び、調査や執筆を自発的に進めていくことが必須となります。

【テキスト（教科書）】
各自

【参考書】
各自

【成績評価の方法と基準】
◆評価は、卒業論文および面接審査の内容を踏まえ、総合的に下されます。以下の基準に照らして判定を行います。
《　文学・言語コース　》
　１．テーマの独創性・妥当性
　２．作品・資料に対する読解の正確さ
　３．先行研究の適切な調査・整理
　４．分析・論述の適切さ
《　文芸コース　》

1．作品形式の適切さ
2．作品内容の創意工夫
3．文章表現の創意工夫

【学生の意見等からの気づき】
◆優れた論文は、次年度に刊行される『日本文学誌要』に掲載されます。
◆優れた創作は、次年度に刊行される『法政文芸』に掲載されます。

【その他の重要事項】
◆４年次の４月に、「卒業論文」を履修登録すること。
◆４年次の６月に、「日本文学科 卒業論文指導願」を提出すること（提出方法については、別途お知らせします）。
◆４年次の１２月に、卒業論文の提出方法や提出期限を確認すること（文学部ホームページに掲載されます）。

【Outline and objectives】
The purpose is to complete the graduation thesis.

HUM400BD

卒業論文（英文学科）

英文学科教員

授業コード：A2000 ｜ 曜日・時限：**集中・その他**
年間授業/Yearly・8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学部英文学科では、卒業論文を必修としています。論文の分量としては、タイトルページと目次、そして謝辞がある場合はそれものぞいて、400 字詰め原稿用紙に換算して 35 枚以上、英語の場合は 5000 語以上とします。これまでに培った専門知識・思考力・文章力・調査力・批判力・判断力などすべてを傾注して作成される、４年間の学業の集大成です。

【到達目標】
学科の教育目標にのっとり、① 批判的思考能力の涵養、② 英語・日本語能力の養成を基準に置き、これらを充足させた卒業論文を作成することを目標とします。また、あわせて、専門領域の研究に深く分け入り、知的探求の成果を文章で他者に伝える営みに徹底的に携わることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
「卒業論文計画書」によって学科の決定した指導教員の指導のもとで、指定されたプロセスを踏みながら論文を完成させます。卒業論文ガイダンスは３年次の秋におこなわれますが、３年次の春から、「ゼミ」などの授業に参加しながら卒業論文について各自意識を高め、自主的に研究書や論文、また原典を読み進めて、自分のテーマを探すことが大切です（登録は４年次の科目ですが、１年間だけで完成できるものではありません）。英文学科全体では 11 月に「第１稿提出」をすることになっています。（教員によっては 10 月締め切りもあります。）卒業論文提出後に、面接審査をおこないますが、一般の授業でいえば定期試験に相当するこの面接審査までが、「卒業論文」という科目の内容です。指導は原則的に個別の指導教員による個人指導となります。指導をきちんと受けることが大切ですが、レポートとは異なり、テーマの設定や方法論も含めて主体的に選択し、執筆・作成することが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1〜28 回	成果報告	研究 → 報告 → 執筆 → 指導 → 推敲 → 提出 → 面接審査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、テーマや方法を主体的に選び、研究や執筆を自発的に進めていくことが必須となります。

【テキスト（教科書）】
各自

【参考書】
各自

【成績評価の方法と基準】
以下の評価項目および面接審査の内容を総合的に勘案し、成績の判定をおこないます。
① 論文研究の目的が明瞭で、先行研究を踏まえた独創性を含むか。
② 論理の展開が、飛躍や不整合がなく、明快であるか。
③ 十分な調査がなされ、根拠・論証や分析が示されているか。
④ 文章が明晰で、誤字脱字がなく、指定された書式で書かれているか。
⑤ 指導教員の指導をきちんと受け、まじめに取り組んだか。

【学生の意見等からの気づき】
執筆の過程で、専門知識だけでなく、社会人として今後も必要とされるタイムマネジメントの力や文章力も身についたという声が多かったです。

【その他の重要事項】
・３年次秋の卒業論文ガイダンスに始まる一連の卒業論文関係の行事や提出物などについては、『文学部履修の手引き』の「卒業論文の個別手続きについて」の当学科の記載をよく読むとともに、掲示に注意すること。
・卒論「第１稿提出」手続きを経ること。
・「卒業論文計画書」「卒業論文指導願」を所定の期日までに提出しないと卒業論文の提出が認められなくなるので注意すること。
・卒業論文ガイダンスの際に配布される「英文学科卒業論文作成・提出上の注意事項」をよく読み、作成のルールに従うこと。とくに剽窃 (plagiarism) についてはくれぐれも留意すること。
・優秀論文が英文学科 Links の雑誌『Smile』に掲載される。

【Outline and objectives】
The Department of English, Faculty of Letters requires a graduation thesis. It is the culmination of four years of academic work.

HUM400BE

卒業論文（史学科）

史学科教員

授業コード：A2000 ｜ 曜日・時限：**集中・その他**
年間授業/Yearly・8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学部史学科では卒業論文を必修としています。卒業論文は、これまでに培った専門知識・調査力・批判力・思考力などすべてを傾注して作成すべき、４年間の学業の集大成です。

【到達目標】
学科の教育目標および学位授与方針にのっとり、以下の能力の涵養を目標とします。
①研究史を批判的に踏まえて自ら問題（論題）を発見する能力。
②必要な史資料を博捜しその価値を判断する能力。
③自らの考えを論理化・体系化して文章で他者に伝える能力。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
卒業論文ガイダンスは４年次の年度初めに行われ、履修登録も４年次に行う科目ですが、卒業論文は１年間で完成できるものではありません。史学科では２年次以降に所属する演習の担当教員が卒業論文の指導教員となり、卒業論文作成に必要な知識・技術等の習得に向けた訓練は２年次から始まります。指導をきちんと受けることが大切ですが、それ以上に重要なのは主体性です。２～３年次のうちに演習や他の授業に参加しながら、各自が卒業論文について意識を高め、自主的に研究書や論文、また原典を読み進めて、自分の研究テーマ（卒業論文の論題）を探すようにしてください。個別の論題に即した指導は主として、演習の授業時あるいは授業時間外や合宿等での口頭報告と質疑応答、および研究室における個人指導という方法で行われます。１月上旬の卒業論文提出後、１月末頃に面接審査を行います。これは一般の授業でいえば定期試験に相当するもので、この面接審査までが「卒業論文」という科目の内容です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1～28 回	調査・執筆	指導・成果報告 提出・面接

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自、テーマや方法を主体的に選び、調査や執筆を自発的に進めていくことが必須となります。

【テキスト（教科書）】
各自のテーマに沿ったものを使用

【参考書】
各自のテーマに沿ったものを使用

【成績評価の方法と基準】
以下の評価項目および面接審査の内容を総合的に勘案し、卒論指導教員がＳ、Ａ＋、Ａ、Ａ－、Ｂ＋、Ｂ、Ｂ－、Ｃ＋、Ｃ、Ｃ－、Ｄ、Ｅの判定を行います。
①論文としての体裁を備えているか（論題設定、目次、章 [節・項] 立て、註、参考文献一覧など）。
②論題に関わる先行研究について十分に収集し、批判的に読み込んでいるか。
③先行研究を参照した部分について、その典拠を詳細に明示しているか。
④先行研究の引用・要約に終始するのではなく、自分自身の判断や解釈、考えを記しているか。
⑤自分自身の判断や解釈、考えの根拠・論拠を明示しているか。
⑥史資料を適切に取り扱い、出典を明記しているか。
⑦論理の展開に飛躍や矛盾がなく、全体として論旨明快な構成になっているか。
⑧日本語表現・表記が的確で、誤字脱字や文意不明な箇所などが無いか。

【学生の意見等からの気づき】
各自設定した論文題目は、当年度末に刊行される『法政史学』に掲載されます。

【その他の重要事項】
・卒業論文については『文学部履修の手引き』の「卒業論文について」及び前ページの記載をよく読むとともに、掲示に常に注意すること。
・４月に Hoppii 上で配布される「卒論指導用紙」を所定の期日までにゼミ担当教員に提出しないと卒業論文の提出が認められなくなるので、注意すること。
・４月に Hoppii 上で配布される「卒業論文の提出と評価について」をよく読み、提出期限の厳守と剽窃については特に留意すること。

【Outline and objectives】
A graduation thesis of history course is a required subject. As a compilation of all the studies, we have to fully recognize the importance of this graduation thesis.

GEO400BF

卒業論文（地理学科）

地理学科教員

授業コード：A2000 ｜ 曜日・時限：**集中・その他**
年間授業/Yearly・8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学部地理学科では卒業論文を必修としています。卒業論文はこれまで学んできた専門知識に加え、思考力・文章力・調査力・批判力・判断力などすべてを傾注して作成されるべき 4 年間の学業の集大成です。

【到達目標】
地理学科では、以下に示す水準に達した学生に対して、「学士（文学）」の授与を認めています。
(1) 人間の生活の舞台である地球表層の自然環境や人文・社会環境について基礎的な知識を身に付け、地理的諸事象の基本的メカニズムを理解しているとともに、幅広い教養も身に付けている。
(2) 地理学的な思考力やものの見方を身に付け、それらに基づく研究方法を用いて考察することができる。
(3) 地理学の知をもって社会の諸問題に関心を持ち、他者の声に耳を傾け、自分の考えを口頭表現や文章表現によって的確に発信することができる能力、地域社会のニーズに応えられる能力、および諸問題を解決する能力を身に付けている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
卒業論文ガイダンスは３年次の秋に行なわれ、履修登録は４年次に行なわれますが、卒業論文は１年間で作成できるものではありません。３年次から履修可能な「演習（いわゆるゼミ）」等に参加し、担当教員の指導を受けながら、主体的に卒業論文についての意識を高め、自分の研究テーマ（卒業論文の論題に直結します）を探していってください。ここで重要なのは「主体的」ということです。各自で研究テーマを見いだしていくには、「主体的」に学ぶことが必要になってきます。基本的には、３年次秋に提出してもらう「卒業論文申請書」に記載されている研究予定テーマ、さらに履修している演習等によって、卒業論文の指導教員は決定されます。しかし教員側が「研究テーマ」を一方的に与えるということは無く、あくまでも「主体的」にテーマを選定し、そのテーマを研究成果として結実させるための指導を各指導教員が担当するのです。個別の論題（テーマ）に即した指導は、基本的には演習の授業時での口頭発表、それに対する質疑応答を通して行なわれます。
１月上旬の卒業論文提出後は、１月末頃に卒業論文面接試問が実施されます。この面接試問は一般の授業の「定期試験」に該当します。卒業論文は「主体的」に取り組むことが要求され、したがってレポートとは異なり、方法論も含めて学び、執筆・作成することが求められる科目であることを再確認してください。卒業論文に対するフィードバックは、主に面接試問時に行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1〜27 回	指導・成果報告	卒業論文作成に向け、指導を受ける。
28 回	提出・面接	卒業論文を提出し、面接試問を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
卒業論文には独創性が求められます。これまでの研究成果を踏まえるために、研究論文を多く読むことが必要です。また、論題に応じて、地域調査や実験・観測も必要となります。但し、卒業論文作成の時間には限りがあります。従って、効率良く実施できるように、予め研究計画を練っておくことも必要となります。毎回の演習（ゼミ）の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書の指定はありません。卒業論文作成に必要となる参考文献・資料を使用してください。

【参考書】
参考書の指定はありません。必要があれば、卒業論文作成の指導を受ける教員に問い合わせてください。

【成績評価の方法と基準】
地理学科では、卒業論文の評価は以下のような項目に留意して、総合的に決められます。
①研究課題設定の妥当性、②研究対象地域選定の妥当性、③既往研究上での位置づけ、④調査方法や分析・解析手順の妥当性、⑤適切な分量、⑥論文構成の妥当性、⑦論旨の展開、⑧適切な文章表現、⑨文献等の適切な引用、⑩図表の体裁と正確さ、⑪分析・解析や考察と結果導出の妥当性、⑫論文全体の独創性（オリジナリティ）等。
卒業論文の内容と面接審査の内容を総合的に勘案して以下の基準で成績の判定を行ないます。

・ S ：評価項目の要件を十分に満たし、特に優れた論文と認められる場合
・ A+,A,A- ：評価項目の要件を満たし、優れた論文と認められる場合
・ B+,B,B- ：評価項目のほとんどの要件を満たしていると認められる場合
・ C+,C,C- ：評価項目の要件をある程度満たし、論文作成の努力が認められる場合
・ D ：多くの点で評価項目の要件を満たさず、卒業に適わないと評価される場合
・ E ：未提出

【学生の意見等からの気づき】
特にありません。

【その他の重要事項】
(1) 卒業論文については、『文学部履修の手引き』の「卒業論文について」の記載をよく読み、Hoppii 内の「学科からのお知らせ」に常に注意してください。
(2) 3 年次の秋に開催される卒業論文ガイダンスで配布される卒業論文申請書を、所定の期日までに提出しなければなりません。
(3) Hoppii 内の「学科からのお知らせ」や地理学科 HP に掲載されている『卒業論文について』をよく読んでください。そこには執筆要領（まとめ方やワープロ使用の際の形式等）が掲載されています。
(4) 卒業論文作成上のルールについても、上述の『卒業論文について』に記されています。特に剽窃には留意してください。

【Outline and objectives】
For writing a graduation thesis, it is needed that in addition to specialized knowledge you learned, thinking ability, writing ability, research ability, criticism ability, and judgment ability.

PSY400BG

卒業論文（心理学科）

心理学科教員

授業コード：A2000 ｜ 曜日・時限：**集中・その他**
年間授業/Yearly・8 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学部心理学科では、卒業論文を必修としています。これまでに培った専門知識・思考力・文章力・実証力・批判力・判断力などすべてを傾注して作成する、4 年間の学業の集大成です。

【到達目標】
学科の教育目標にのっとり、①実証的論理構成能力の養成、②批判的思考力の涵養を基準に置き、これらを充足させた卒業論文を作成することを目標とします。また、あわせて、専門領域の研究に深く分け入り、知的探求の成果を文章やデータで他者に伝える作業に徹底的に携わることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
3 年次に提出する卒業論文指導希望調査票によって学科で決定した教員の指導のもとで論文を完成させます。卒業論文指導願の提出は 4 年生になってから行ないますが、2 年次からの演習などの授業に参加しながら卒業論文に対する意識を高め、自主的に専門書や論文を読み進めて、自分のテーマを探すことが大切です（卒業論文の登録は 4 年次に行いますが、1 年間でできるものではありません）。1 月の卒業論文提出後に、面接審査に代わる研究発表会を行ないます。一般の授業で言えば定期試験に相当するその発表会での質疑応答までが、「卒業論文」という科目の内容です。指導をきちんと受けることが大切ですが、レポートとは異なり、方法論も含めて主体的に選択し、執筆・作成することが求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
1	指導・成果報告 提出・面接	構想 1
2	指導・成果報告 提出・面接	構想 2
3	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 1
4	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 2
5	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 3
6	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 4
7	指導・成果報告 提出・面接	文献研究 5
8	指導・成果報告 提出・面接	文献のまとめ
9	指導・成果報告 提出・面接	問題点の抽出
10	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の策定 1
11	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の策定 2
12	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の発表 1
13	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の発表 2
14	指導・成果報告 提出・面接	実験計画の修正等
15	指導・成果報告 提出・面接	実験実施 1
16	指導・成果報告 提出・面接	実験実施 2
17	指導・成果報告 提出・面接	実験実施 3
18	指導・成果報告 提出・面接	実験実施 4
19	指導・成果報告 提出・面接	分析 1
20	指導・成果報告 提出・面接	分析 2
21	指導・成果報告 提出・面接	考察 1
22	指導・成果報告 提出・面接	考察 2
23	指導・成果報告 提出・面接	研究のまとめと議論
24	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション準備 1
25	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション準備 2
26	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション練習 1
27	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション練習 2
28	指導・成果報告 提出・面接	プレゼンテーション実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回指導教員の指示に従って課題を行う。課題には実験、分析、プレゼンテーション準備、卒業論文の執筆などが含まれる。

【テキスト（教科書）】
その都度、担当教員が指示する。

【参考書】
各自の卒業論文内容に従って、担当教員が個別に紹介する

【成績評価の方法と基準】
心理学科では、提出された論文について、以下の 10 項目について評価し、面接審査（発表会）での質疑に対する応答を総合的に勘案し、S、A＋、A、A－、B＋、B、B－、C＋、C、C－、D、Eの判定を行ないます。
①タイトルの適切さ、②問題の適切さ、③研究方法の適切さ、④データ分析法の適切さ、⑤図表表現の完成度、⑥考察における文献の検討と問題との対応、⑦論文の独創性、⑧全体構成の論理性・明快さ、⑨文章表現の明快さ・分かりやすさ、段落構成の適切さ、⑩誤字・脱字、表現の不統一のなさ。

【学生の意見等からの気づき】
毎年、公開での卒論発表を行い、活発な議論が行われる。学生の評価は概して高いので、従来通りの方法で継続して行っていく予定である。

【その他の重要事項】
・実験・調査・検査などを行なうにあたっては、法政大学文学部心理学科・心理学専攻倫理委員会が作成する「人を対象とした研究倫理ガイドライン」を遵守し、実施に先立ち同委員会に「研究計画申請書」を提出し承認を得なければなりません。また､卒論本文の「方法」には、研究倫理審査を受け、承認を得ている旨と，研究計画申請書の最下部に記載の承認番号を明記してください。
・一連の卒業論文関係の説明会や提出物などについては､『文学部履修の手引き』の「卒業論文」の当学科の記載をよく読むとともに、心理学実習室前の掲示や『法政心理ネット』の記載に注意してください。
・卒業論文の要旨は『法政心理学会年報』に掲載されます。
・研究のオリジナル性を満たすため、文献の引用は適切に行ない、剽窃の疑いが生じることのないよう注意してください。
・法政大学文学部心理学科・心理学専攻倫理委員会への申請や卒業論文作成の詳細については、web ページ『法政心理ネット』の「卒論・修論・博論」のページに記載されているので、注意深く読んでおいてください。
・卒業論文の形式：原稿サイズは A4 判。『法政心理ネット』で公開されている所定のひな形をダウンロードして使ってください。1 ページあたりの字詰めは 40 字 ×30 行＝ 1,200 字、文字サイズは 11 ポイントに設定されています。余白の設定もそのまま使ってください（上下 20mm、左 30mm、右 20mm）。本文（内表紙、目次、引用文献の後に付録として付ける資料を除く。ただし本文中に含めるべき図表は本文ページ内に含む）と引用文献一覧を合わせて、この書式で 17 ページ目の最終行（30 行目）まで埋めるか超えることが必要条件です。表紙は各自で心理学科用のものを生協で購入して使用してください。
・「卒業論文要旨」の形式：原稿サイズは A4 判。『法政心理ネット』で公開されている所定のひな形をダウンロードして使ってください。レイアウトは二段組み、文字サイズは 9 ポイントに設定されています。余白の設定もそのまま使ってください（上下 20mm、左 30mm、右 20mm）。氏名、クラス、学生証番号、指導教員名、キーワードを明記してください。この書式で図表や引用文献一覧などを含めて 1 ページに収めることが必要条件です。書式は「卒論要旨チェックリスト」で確認をしてください。
・心理学科全体としては､提出する卒論に、内表紙　目次、要旨を含めることを必須とはしませんが、指導教員から卒論に含めるよう指示があれば、その指示に従ってください。

【Outline and objectives】
The Department of Psychology, Faculty of Letters requires a graduation thesis. It is the culmination of four years of academic work.

HUG200BA

歴史地理学（1）

米家　志乃布

授業コード：A3819　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理
本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世～近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】
この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
1．日本・世界における「遺産」の歴史について概要を説明します。2．日本・世界における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3．日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1～3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。ビデオ鑑賞の感想については、授業内で紹介し、コメントをつけて返却します。
1 限の中規模授業のため、対面授業は隔週とし、学習支援システムでパワーポイントやプリント資料もアップします（感染予防のため紙では配布しません）。授業開始時間にも配慮します。なお、大学の方針や社会状況の変化などによって授業方法は変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・授業方法の説明，成績評価の基準など （履修希望者の人数により、対面授業の回数や開始時間を考えます）
第 2 回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論
第 3 回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に，日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第 4 回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ
第 5 回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第 6 回	奈良の歴史地理①	奈良市内の歴史遺産，特に，平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 7 回	奈良の歴史地理②	飛鳥・吉野の歴史遺産，特に，古代～中世の宗教遺産について学ぶ
第 8 回	京都の歴史地理①	都城の歴史，平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 9 回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造，歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第 10 回	伏見の歴史地理①	豊臣秀吉による近世城下町プラン，城下町の復元研究について学ぶ
第 11 回	伏見の歴史地理②	近代以降の酒造業の発展，現在のまちづくりについて学ぶ
第 12 回	大阪の歴史地理①	石山本願寺，豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備，徳川時代へ
第 13 回	大阪の歴史地理②	近代以降の大阪城の意義，大阪のまちづくり
第 14 回	歴史観光都市・観光地の取り組み①	京都の祇園祭と現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義にかかわる準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。テレビの旅行番組を見たり、様々な旅行記などを読んで、様々な国や地域の観光の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】
特に指定はしません。適宜、学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】
適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので，他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで資料配信します。それを見ることができるように、機器類を準備してください。

【Outline and objectives】
This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.

HUG200BA

歴史地理学（2）

米家　志乃布

授業コード：A3820　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理
　本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19 世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17 世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民族支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける 17 世紀～20 世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】
この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民族・少数民族と近代国家の関係とはどういうものか、歴史地理学的方法を通して，受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
1．蝦夷地・北海道について，歴史地理学的方法を通して学びます。2．北方領土問題について学びます。3．近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民族との関係から考えます。北方領土問題やアイヌ民族の文化に関する映像を見て、感想を提出してもらいます。受講生のみなさんの感想は、授業内で紹介し、こちらでコメントして返却します。
1 限・中規模授業のため、対面授業は隔週とし、授業開始時間も配慮します。パワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します（感染予防のため紙での配布はありません）。
なお、大学の方針・社会状況の変化で授業方法を変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明，成績評価基準について 受講希望者の人数に応じて授業形態を考えます
第 2 回	地理的認識をめぐる歴史地理学	新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第 3 回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第 4 回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第 5 回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第 6 回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第 7 回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第 8 回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第 9 回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について，歴史地理学的方法で考える
第 10 回	北方領土問題①	北方領土問題の前史（フロンティアをめぐる日露関係）を学ぶ
第 11 回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係，北方領土問題を考える
第 12 回	千島列島（クリル諸島）の歴史地理	千島列島の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第 13 回	樺太（サハリン）の歴史地理	樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第 14 回	アイヌ民族の法的地位と研究資料	日本・ロシアにおける先住民族政策をおさえ，日本のアイヌ民族に関する歴史的資料の状況についておさえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義にかかわる準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民族に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】
米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』法政大学出版局。その他、必要に応じて、適宜資料を PDF ファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】
適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので，他学科・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムで資料配信します。それを見ることができるように、機器類を準備してください。

【Outline and objectives】
This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.

CUA200BA

民俗学Ⅰ／民俗学Ⅰ（資格）

室井　康成

授業コード：A3809,A3859　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
春学期・2 単位
備考（履修条件等）：**他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3859）で履修する。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本民俗学の創始者・柳田国男（1875 － 1962）の研究歴に沿いながら、民俗学の基礎を学ぶ。柳田の生涯は、西南戦争前の明治の初年から、アジア太平洋戦争後の高度経済成長期にまで及ぶ。言わば日本近代を凝縮した人生とも言えるわけで、その経歴に沿いながら、柳田が「民俗」に着目した動機とその社会背景を明らかにし、そこから彼が「民俗」の研究を通じて構想した社会像を考える。

【到達目標】
「民俗」とは、いったい何だろう。民俗芸能・民俗文化財・民俗宗教など、この語を冠した言葉は多用されているが、ここで言う「民俗」とは、私たちの日常生活のあり方を規定する文化的な事象を指している。しかし所与のものではなく、「近代」という時代状況の中で発見されたものである。その「民俗」が、何ゆえその時代に、いかなる契機によって発見されたのか。本講義では、「民俗」および「民俗学」を理解する前段階として、日本における民俗学の創始者・柳田国男の思想と学問を手掛かりとして、この問題を理解し、併せて現代を生きる私たちにとって、「民俗」の何が問題なのかということを考える視座を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
対面による講義形式にて行ないますが、今後の社会情勢の変化に応じてオンライン授業に切り替わった場合は、zoom による同期配信で講義を行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義全体の趣旨を説明します。
第 2 回	DVD『柳田国男―民俗の心を探る旅』の視聴と解説	柳田国男の生涯を描いた映像作品を視聴し、その特徴と問題点を指摘します。
第 3 回	生い立ちと貧困問題	柳田の民俗学構想には彼が幼少時に見聞した原体験があるとされ、その事例を確認します。
第 4 回	関西から関東への転居	柳田が幼少時に経験した関西から関東への転居が、その後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 5 回	恋愛抒情詩人から農政官僚へ	柳田は学生時代、後に高名な文学者となる友人を多く持ちました。彼らとの交流が後の民俗学に与えた影響を考えます。
第 6 回	近代化論と農業政策論	柳田は大学卒業後、農商務省の高級官僚となります。その職務を通じて彼が披歴した近代観・農業観の特徴を確認します。
第 7 回	『遠野物語』を読む（1）	柳田が官僚時代に刊行した『遠野物語』の学史的位置づけを押さえます。
第 8 回	『遠野物語』を読む（2）	具体的に『遠野物語』を通読し、そこから読み取れる柳田の思想を考えます。
第 9 回	政策課題としての「民俗」の発見	柳田の中で発見された「民俗」は、どのような性格のものであったのかを確認します。
第 10 回	ジャーナリストへの転向と大正デモクラシー	柳田は官僚を辞した後、ジャーナリストになりました。その時代の世相と彼の思想との関連性を考えます。
第 11 回	民俗学の組織化と柳田国男の孤立	柳田はジャーナリストとして活動しつつ民俗学の体系化を目指します。その過程で起きた問題点の学史的意味を考えます。
第 12 回	日本の敗戦と新たな民俗学構想	柳田は日本の戦争を止められなかったのは、自身を含めた知識人の力不足だったと考えました。柳田は民俗学を通じてどのような社会貢献をしようとしていたのかを考えます。
第 13 回	「公民」養成論としての民俗学へ	戦後の柳田は、民俗学の目的を「公民の養成」と明言しました。その意味を検討し、民俗学とは何かを考えます。
第 14 回	試験と総括	本講義を総括し、受講生諸氏の理解度を机上試験で測ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では毎回教員がレジュメを配布するので、そこに記された参考文献については通読しておくこと。また授業外の学習は、上記参考文献を用いた予習・復習（2 時間程度）のほか、個々の学生の日常生活の中に散見される「民俗」的な事象・問題に気配りし、それらを学問的に考える姿勢を求めます（随時）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。毎回教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】
室井康成『柳田国男の民俗学構想』（森話社）
その他は、授業時に配布するレジュメで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終授業時に課すリポート。その内容のみで成績を判定します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
zoom による同期配信を行ないますので、受講可能な機器をご準備ください。

【その他の重要事項】
本科目に関わる情報は、講師の Twitter（@ MuroiKosei）でも発信しますので、「学習支援システム」での情報とあわせて、ご確認ください。

【Outline and objectives】
In this class, you will learn about the history and characteristics of Japanese folklore-studies. Since the concept of folklore varies from country to country, this lesson will accurately learn the concept of "folklore" used in Japan.

CUA200BA

民俗学Ⅱ／民俗学Ⅱ（資格）

室井　康成

授業コード：A3810,A3860　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
秋学期・2 単位
備考（履修条件等）：**他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3860）で履修する。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多くの日本人の加齢の過程で行なわれる「七五三」「成人式」が、どのように形成されたのかを民俗学の立場から考えていく。具体的には、今日私たちが「当たり前」「常識」と考える事象が形成されるに至った歴史的要因・背景を明らかにし、今後の「民俗」との付き合い方を展望する。

【到達目標】
「民俗（folklore）」とは伝承的知識の総体と考えてよいが、その特質ついて、日本人にとって身近な人生儀礼である「七五三」および「成人式」を例に検討する。これらの行事は、多くの履修生にとって父母世代も経験したものであるため、これを行なうのが「当たり前」だと考えられがちだが、その「当たり前」という感覚がある程度一般化したのは、そう古いことではない。本講義では、それらの成立史を踏まえ、「民俗」の相対化を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
対面による講義形式にて行ないますが、今後の社会情勢の変化に応じてオンライン授業に切り替わった場合は、zoom による同期配信で講義を行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義全体の説明をしますので、履修希望者は必ず参加のこと。
第 2 回	「民俗」の概説	民俗および民俗学について概説します。
第 3 回	前近代の歳祝い「髪置き」「袴着」「帯解き」	明治維新以前に行なわれていた歳祝いについて概説します。
第 4 回	明治維新と都市住民の急増	急激な都市化が民俗文化に与えた影響を考えます。
第 5 回	「規範」の希求と商業主義の相乗	「七五三」が成立した社会的背景を考えます。
第 6 回	民法の制定と「民俗」との乖離	民法の制定により、それまで地域によって異なっていた成人年齢や「大人」の意識が、どのように変わったのかを概観します。
第 7 回	日清・日露戦争と「民俗」的意識の変容	対外戦争の勝利は、日本の「伝統」の発見にもつながります。それが「七五三」などの行事に与えた影響を考えます。
第 8 回	さまざまな成人儀礼（その１）－参考映像視聴	映像に記録された多様な成人儀礼を学びます。
第 9 回	さまざまな成人儀礼（その２）－全国の事例の比較	日本各地で行なわれていた多様な成人儀礼を比較することで、見えてくる課題を考えます。
第 10 回	「国民儀礼」の創出と地方文化の整除	もともと多種多様であった歳祝いや成人儀礼が、同一のものへと整除された背景を考えます。
第 11 回	「成人式」の起源は元服か？	今日の「成人式」の起源となる戦前の「成年式」から、その意義を考えます。
第 12 回	自治体主催「成人式」の当初の目的	戦後に始まった自治体主催による成人式の背景を考えます。
第 13 回	「七五三」「成人式」の全国化の背景	「七五三」や「成人式」を全国化させた「力」は何かを考えます。
第 14 回	行きたくない人の声に耳を傾ける	「七五三」や「成人式」への参加を苦痛と感じる人もいます。その人たちに対する答えも、学問が提示する必要があります。そのことを、ともに考えたいと思います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本講義では適宜教員がレジュメを配布するので（学習支援システムの授業ページにアップロード）、そこに記された参考文献については通読しておくこと。また授業外の学習は、参考文献の通読や関連するウェブサイトの閲覧などを通じて予習・復習（2 時間程度）を行なってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。適宜教員においてレジュメを作成し、配布します。

【参考書】
室井康成『事大主義－日本・朝鮮・沖縄の「自虐と侮蔑」』（中公新書）
島村恭則『みんなの民俗学－ヴァナキュラーって何だ？』（平凡社新書）
岩本通弥ほか編『民俗学の思考法――〈いま・ここ〉の日常と文化を捉える』（慶応義塾大学出版会）
その他、講義時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
学期終了時に課すリポート。その内容のみで成績を判定します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義（zoom）を受講可能な機器。

【その他の重要事項】
本科目の開講情報は、学習支援システムのほか、講師の Twitter(@MuroiKosei) でも発信しますので、大学からの情報と併せてご確認ください。

【Outline and objectives】
In this class, we will consider from the standpoint of folklore how the "Shichigosan" and "coming-of-age ceremony" that are held in the process of aging for many Japanese people.

HIS200BA

イスラム世界論Ⅰ

松本　隆志

授業コード：A3811　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在、世界のムスリムの人口は、アジアやアフリカだけではなく、ヨーロッパにおいても増え続け、国際社会におけるそのプレゼンスは、日に日に高まりを見せている。その一方で、イスラーム原理主義者やアメリカを中心とする西欧諸国から発信された、ムスリムに対する偏った理解や偏見が広まっているのも事実である。この授業では、既存の偏見に惑わされず、受講生一人一人が、イスラーム世界の多様な在り方を理解できるよう、イスラームという宗教に関する基礎的知識の習得を目指す。また、関連する時事問題についても解説を付していく。

【到達目標】
この授業は、イスラームという宗教に関する基礎的な知識を提供し、それらの知識に基づきイスラームという宗教、そしてムスリム（イスラーム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、現代のイスラーム世界を理解する上で欠かせない、イスラーム世界の歴史を扱う。授業の前半部では、教義を中心としたイスラームの基礎的知識について、後半部では、そのイスラームが各地域でどのように信徒を獲得し、受容されていったのかについて、政治史だけではなく、文化史にも焦点をあてながら解説する。
この授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた学生のコメントシートの作成・提出から成る。毎回のコメントシートについては講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。コメントシートの作成には講義後半の 20～30 分程度を予定している。講義内容をきちんと理解しているか、講義内容を踏まえて自身の見解を論理的に提示できているか、といった点を評価する。そして次の回の講義において、前回提出のコメントシートから数点をピックアップして講評することを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「イスラーム世界」とは何か？
第 2 回	聖典『クルアーン』の世界	『クルアーン』とアラビア語
第 3 回	イスラームの教義	六信五行など
第 4 回	イスラームの世界観	ユダヤ教、キリスト教、イスラームに共通する一神教的世界観・宗教観
第 5 回	イスラームの伝播	ムハンマド、正統カリフ時代におけるイスラーム共同体の拡大
第 6 回	イスラーム共同体の分裂	世襲王朝ウマイヤ朝成立の意義とイスラーム共同体の変質
第 7 回	イスラーム法の体系化	アッバース朝時代に確立した行政機構・法体系
第 8 回	イスラーム神秘主義と聖者	イスラームの伝播に果たした神秘主義教団の役割
第 9 回	西方のイスラーム王朝	北アフリカ・イベリア半島におけるイスラーム
第 10 回	イスラームとキリスト教世界	交易や十字軍を通しての接触
第 11 回	モンゴルとイスラーム	アッバース朝の滅亡とその影響
第 12 回	20 世紀のイスラーム①	第 1 次世界大戦後の国際社会とイスラーム
第 13 回	20 世紀のイスラーム②	第 2 次世界大戦後の国際社会とイスラーム
第 14 回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域の歴史を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介する）を参照しながら、各回の授業の予習・復習に努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
佐藤次高『イスラーム世界の興隆』中公文庫、2008
佐藤次高・鈴木董編『都市の文明イスラーム』講談社現代新書、1993
鈴木董編『パクス・イスラミカの世紀』講談社現代新書、1993
その他、授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するコメントシート（40 %）で評価する。試験は持ち込み可。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業であれば毎回の授業資料は紙で配布する予定だが、必要と判断した場合には学習支援システムを利用する場合もあり得る。。

【その他の重要事項】
上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline and objectives】
Today, the world's Muslim population continues to grow not only in Asia and Africa, but also in Europe, and its presence in the international community is increasing day by day. On the other hand, it is also a fact that biased understanding and prejudice against Muslims, which originated from Islamic fundamentalists and Western European countries centered on the United States, are widespread. In this class, we aim to acquire basic knowledge about the religion of Islam so that each student can understand the various ways of the Islamic world without being confused by existing prejudices. In addition, we will add explanations on related current affairs.

HIS200BA

イスラム世界論Ⅱ

松本　隆志

授業コード：A3812　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の「イスラム世界論 I」では、イスラーム世界の信仰と歴史を中心に解説するが、この授業では、現代のイスラーム世界の諸側面に焦点を当てる。18 世紀以降、イスラーム世界では近代化（＝西洋化）の波にさらされる中で、近代社会とイスラームをいかに接続させるか試行錯誤してきた。その営みは 21 世紀の現在もなお進行中である。この授業では、メディア等で取り上げられるイスラームの諸トピックについて、その歴史背景も含めた理解を促し、一般的なイスラーム認識を相対化する視座を提供することを目指す。

【到達目標】
この授業は、イスラーム世界の歴史や文化、そして宗教に関する基礎的知識を提供し、それらの知識に基づきイスラーム、そしてムスリム（イスラーム教徒）の多様性を理解することを目的とする。学生には、広い偏りのない視野で、現代の複雑なイスラーム世界に関する諸問題を自分の頭で主体的に考える能力を獲得してもらうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、現代のイスラーム世界を理解する上で欠かせないイスラーム世界の諸側面について、毎回テーマを定めて解説をおこなっていく。各テーマについて、特に歴史的背景を重視した解説をおこなう予定である。
授業は、講師による講義と、講義内容を踏まえた学生のコメントシートの作成・提出から成る。毎回のコメントシートについては講義内で設問が出されるので、学生はその設問に対して論述を作成してもらう。コメントシートの作成には講義後半の 20〜30 分程度を予定している。講義内容をきちんと理解しているか、講義内容を踏まえて自身の見解を論理的に提示できているか、といった点を評価する。そして次の回の講義において、前回提出のコメントシートから数点をピックアップして講評することを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業のテーマ、および授業への取り組み方について
第 2 回	イスラームの基本概念	唯一神、預言者、クルアーンなど
第 3 回	イスラームの儀礼・行事	巡礼や祭、およびライフサイクルにおけるイスラーム的な慣習
第 4 回	食をめぐる規定	ハラールとハラーム、そしてハラール認証ビジネス
第 5 回	イスラームとジェンダー	イスラームにおける女性の位置付けと西洋的ジェンダー観の関係
第 6 回	日本におけるイスラーム	在日・滞日ムスリムコミュニティ
第 7 回	スンナ派とシーア派	イスラームの二大派閥の概要と歴史的背景
第 8 回	イスラーム法学	イスラーム法学の歴史的背景と現代での役割
第 9 回	スーフィズム	スーフィズム（イスラーム神秘主義）の歴史的背景と現代での役割
第 10 回	イスラームと奴隷	前近代イスラーム社会における「奴隷」のあり方
第 11 回	イスラームの経済倫理	「リバー」の概念を中心としたイスラーム特有の経済倫理
第 12 回	イスラーム原理主義	「原理主義」の歴史的背景と現状
第 13 回	現代の中東情勢	近現代史の文脈における「イスラム国」の経緯
第 14 回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業では、西アジアだけではなく、ヨーロッパから東アジア・東南アジアにかけての広い地域を対象とするため、聞きなれないカタカナの固有名詞が色々と出てくる。これらの固有名詞についての理解を深めるために、参考書・工具書（各テーマごとに紹介する）を参照しながら、各回の授業の予習・復習に努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
小杉泰, 江川ひかり編,『イスラーム：社会生活・思想・歴史』, 新曜社, 2006 年.
小杉泰ほか編,『大学生・社会人のためのイスラーム講座』, ナカニシヤ出版, 2018 年.
菊地達也編著,『図説イスラム教の歴史』, 河出書房新社, 2017 年.
その他、授業中に各テーマに適した参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
記述式試験（60%）と毎回の授業終了後に提出するコメントシート（40 %）で評価する。試験は持ち込み可。授業で学習した知識を材料に、論理的に私見を述べられているか、という点を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業であれば毎回の授業資料は紙で配布する予定だが、必要と判断した場合には学習支援システムを利用する場合もあり得る。

【その他の重要事項】
上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があるが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知する。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておくこと。

【Outline and objectives】
This class will focus on aspects of the modern Islamic world. Since the 18th century, the Islamic world has been exposed to the wave of modernization (= westernization), and trials and errors have been carried out on how to connect modern society with Islam. This activity is still in progress in the 21st century. In this class, we aim to promote understanding of various Islamic topics taken up in the media, including their historical background, and to provide a perspective that relativizes general Islamic perceptions.

CAR200BA

文学部生のキャリア形成

丹治　愛、宇都宮　美生、中俣　均

授業コード：A3813　｜　曜日・時限：**金曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
法政大学文学部生として学ぶ皆さんは、自らの人生の中で、「働くこと」・「働き方」をどのように考えているでしょうか。文学部を卒業していった諸先輩はどのような進路や目標を定めて現在の社会で活躍しているのでしょうか。この授業ではさまざまな業界でご活躍の多くの卒業生をゲスト講師として迎え、それぞれの働き方の具体的な経験や働くことに対する考え方をお話しいただきます。それを通して、受講生の皆さんが自らの人生の中での「働くこと」の意義・位置づけ（＝キャリア）を考え、在学中に何をすべきかについて考える機会とします。
＊この授業は, 就業力に関連する「総合的」な能力を涵養する効果があります。

【到達目標】
以下の 3 つが到達目標です。
① 人生の中で「働くこと」の意義について、多角的な視点から考えることができる。
② 自らの目指す「働き方」を達成するために、どのような力が必要になるかを理解する。
③ 将来のライフプランを描くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連
英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連
史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連
地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連
心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
さまざまな分野で活躍している文学部卒業生を各回のゲスト講師に迎え、現実の職場で起きていること、仕事の喜びや苦労などを具体的に話していただきます。また、そうしたゲスト講師との質疑応答も行います。受講生はそれをふまえた上で、毎回授業内に小レポートを提出します。また、学期末には全体のテーマに関わるレポートを提出します。
授業の性格上、学生のコメントおよびそれへのフィードバックについては、質疑応答のかたちで行う。そのための時間を十分に確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス（授業の目的と進め方、評価方法などの説明）と「ライフプラン」(4/9)
第 2 回	ゲスト講師の講演（1)	中学校教員 (4/16)
第 3 回	ゲスト講師の講演（2）	地方公務員（市町村機関、総合職）(4/23)
第 4 回	ゲスト講師の講演（3）	鉄道会社（経営企画）(5/7)
第 5 回	Workshop（1）	学内講師によるワークショップ (5/14)
第 6 回	ゲスト講師の講演（4）	中高校教師 (5/21)
第 7 回	ゲスト講師の講演（5）	出版・編集業務 (5/28)
第 8 回	ゲスト講師の講演（6）	人事関係 (6/4)
第 9 回	ゲスト講師の講演（7）	ホテル業務 (6/11)
第 10 回	ゲスト講師の講演（8）	外資系サービス業 (6/18)
第 11 回	Workshop (2)	キャリアセンター職員によるワークショップ (6/25)
第 12 回	ゲスト講師の講演（9）	民間放送業（総合職）(7/2)
第 13 回	ゲスト講師の講演 (10)	法人向け地図商材の企画 (7/9)
第 14 回	まとめ	総括レポート作成 (7/16)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
さまざまな職種に就いている卒業生をゲスト講師として迎え、その講演が続きますので、自らの将来の生き方や、働くことの意義などを考え、卒業後の進路の選択などについて広い視野を持つように心がけてください。また、それぞれの業種や資格の概要についてもあらかじめ調べておいてください（いわゆる業界研究）。この講義の予習・復習時間は、各 2 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】
指定テキストはありません。必要に応じて担当教員あるいはゲスト講師が印刷物を配布します。

【参考書】
適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】
①毎回の小レポート（10 ～ 15 分程度でまとめるもの）の成績（80 %）
②学期末レポートの成績（20 %）
※①②は授業の評価のために必須とします。①、②ともに授業の終了後にその都度、提出することとなります。その時以外の提出は認められません。また、4 回以上の欠席（①小レポートの未提出）がある場合にはＥ評価とします。遅刻 2 回で欠席 1 回とカウントします。

【学生の意見等からの気づき】
「今後の人生・生活」における働き方や働くことの意義を考えるために、各ゲスト講師に「働き方」や「働くこと」に関連したいくつかのキーワードをふまえてご講演をお願いし、半期の授業全体を通して受講生が自らのライフプランを描くことが可能となるよう授業内容に配慮しました。
多様な職種の多様なゲスト講師それぞれのワーク・ライフバランスとワーク・ライフヒストリーを学生のみなさんは各自の視点から、また多様な関心の次元で受け止め、評価していることが、各回のレポートや学期末のレポートから読み取れました。そうした面でこの科目が学生のみなさんのキャリア形成、またワーク・ライフプランの形成過程に少なからず貢献できていると感じています。
そうした多様性（diversity）を今後も大事にしていきたいと思っています。

【その他の重要事項】
☆ 2021 年度はオンラインで実施する。
①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性があります。
②定員は 200 名程度です。受講希望者多数の場合には、第 1 回目の授業参加者（授業レポート提出者）の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席してください。この授業は文学部生のみを対象として開講します。他学部の学生は受講できません。
③担当教員が全授業に同席し、担当します。
④本学学部を卒業し、公務員、教員、銀行、出版、放送などでの勤務経験を有する講師が、オムニバス形式により、それぞれの職種における業務内容、仕事と様々なライフイベントとの関係、卒業後のキャリア形成に向けた学部時代の学びなどについて講義をする。

【Outline and objectives】
This aim of this course is to let students understand the basic knowledge and skills which are needed to help students decide their future jobs.
This careers education course provides an ideal stepping stone for students seeking to enter the career development profession.
Guest speakers, Hosei graduates, from a variety of fields will give a talk about job search techniques and their job search experiences.

CAR200BA

現代のコモンセンス

高橋　敏治、中釜　浩一、王　安

授業コード：A3814　｜　曜日・時限：**金曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会は日々ますます複雑化し、かつては考えられなかったような出来事や問題が頻繁に生じている。こうした中で、以前の常識や対処方法では通用しなくなっている事柄も数多い。この授業では、今まさに起こっている様々な事例を取り上げ、そうした事柄をどのように判断・評価し、さらにどのようにそれに対処していくべきかについての指針を学ぶ。
この授業によって、受講生は、情報収集・選択力、資料批判力、状況判断・対応力、自己変革力、架橋・変革力、協同行動力など総じて就業力を身につけることとなる。

【到達目標】
①自分自身を顧み、改善できるようになる。
②対人関係を顧み、改善できるようになる。
③自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できるようになる。
④難しい行為選択について考え、適切に対処できるようになる。
⑤社会の諸問題について考え、適切に対処できるようになる。
⑥国際化のなかで異文化について考え、適切に対処できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
哲学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」に関連
日本文学科のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連
英文学科のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連
史学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連
地理学科のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連
心理学科のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
今年度は、新型コロナ肺炎の流行の影響を考慮し、オンラインで行う。学内外から招いた講師による 60 分程度の講義・それに関する質疑・応答，そして授業の最後に課題テーマに関する小レポートを作成・提出してもらう。学期末の授業時に全体のテーマに関する試験（レポート形式）を行う。授業の性格上、学生のコメントおよびそれへのフィードバックについては、質疑応答のかたちで行う。そのための時間を十分に確保する。なお、学外から招く講師の事情により、授業日程が変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	担当教員によるガイダンスと講義
第 2 回	社会と規範 1	LGBTQ の動向とメンタルヘルス
第 3 回	対人問題 1	依存症とメンタルヘルス
第 4 回	社会と規範 2	身近なハラスメントと DV 問題
第 5 回	対人問題 2	パーソナリティ障害と発達障害
第 6 回	実践と倫理 1	減胎手術は許されるか
第 7 回	社会と規範 3	若者の消費者トラブルについて
第 8 回	社会と規範 4	職業モラルと社会人のマナー
第 9 回	社会と規範 5	ビジネス・コンプライアンス（職場と法令遵守）
第 10 回	社会と文化 1	社会と文化について
第 11 回	実践と倫理 2	「耐える」・「辞める」以外の「職場を改善する」という選択肢を考える
第 12 回	社会と文化 2	イサム・ノグチの庭園文化論
第 13 回	実践と倫理 3	著作権の現在
第 14 回	まとめ	総括　レポート課題の呈示

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　現代が抱えている様々な問題について考察・議論することになるので、新聞・雑誌・テレビ・インターネット等の各種メディアで報じられている社会事象のうち、各回のテーマに関わる事例に対して、これまで以上に注意を払う。また、その際に、単一のメディア情報に偏ることなく、複数のメディア情報から、一時的にではなく常々情報を収集し、評価・分析すると共に、冷静且つ客観的な判断を下す思考トレーニングを繰り返し行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しない。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①小レポート（10 ～ 15 分程度でまとめるもの）（80 %）
②学期末試験（レポート形式）（20 %）
なお，4 回以上授業に欠席した場合、あるいは授業に支障を生じると判断される言動等がある場合には、E 評価とする。また，遅刻 2 回で 1 回欠席とする。

【学生の意見等からの気づき】
新型コロナ肺炎流行のため，2020 年度は実施しませんでした。

【その他の重要事項】
①ゲスト講師の都合により、スケジュールが変更になる可能性がある。
②担当者が全授業に同席し担当する。
③成績評価の仕方や授業の進め方などについて、初回の授業で説明をしますので、必ず初回の授業に出席して下さい。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn various approaches trying to solve the problems our society faces today.　A wide range of social issues will be covered, such as relationships with others, modern social norms, practical ethics, and multiple cultures. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding, by participating in group activities and by individual literature study.

PHL100BB

哲学概論１

中釜　浩一

授業コード：A2304　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学や哲学者に関する知識を一切前提とすることなく、現実の中で生じてくるいくつかの具体的な「哲学的問」を直接検討することで、各自が「哲学的に思考する能力」の基礎を身につけることを目指す。春学期は、より基本的なトピックを扱う。

【到達目標】
①「哲学的に思考するとはどういうことか」を、いくつかの具体的問題を考えることで体験する。
②他の思考法とは区別される「哲学的思考法」が、いかなる方法や議論の仕方に基づくものかを理解する。
③「哲学すること」の意味に気付き、哲学的思考・議論の能力が現代においてどのような役割を果たしうるのかを了解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。毎回その回で論じた内容に関して小課題を課し、次回授業の冒頭で、補足的解説や疑問点の解答等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	常識の批判としての哲学
第 2 回	知識の問題（1）	自分は一体何を知っているのか
第 3 回	知識の問題（2）	夢と現実（フェイクとリアル）
第 4 回	知識の問題（3）	懐疑論（われわれは何も知りえない）とその批判
第 5 回	他者問題（1）	「他人の心を知る」とはどういうことか？
第 6 回	他者問題（2）	他人が「ゾンビ」でないと考える理由はあるのか
第 7 回	他者問題（3）	ロボットに心を認めてならない理由はあるのか
第 8 回	心の正体（1）	心身二元論と唯物論（心とは脳のことか）
第 9 回	心の正体（2）	二元論の致命的弱点
第 10 回	心の正体（3）	唯物論は勝利したのか
第 11 回	決定論と自由（1）	因果の根本原理
第 12 回	決定論と自由（2）	決定論（すべては決定されている）の証明
第 13 回	決定論と自由（3）	それでもなお「自由」は可能なのか
第 14 回	まとめ	まとめの議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に出される小課題の解答を Hoppii 上で提出する
指定された図書やプリント等を読んでおく。
本授業の予習復習時間は毎回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
トマス・ネーゲル「哲学ってどんなこと」（昭和堂）

【参考書】
プラトン「ゴルギアス」、　デカルト「省察」、ヒューム「人間本性論」、カント「プロレゴメナ」、ラッセル「哲学の諸問題」

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパーの内容：７０％
期末のレポート：３０％

【学生の意見等からの気づき】
全体的に見れば、新規な工夫を試みるよりも、従来型の講義ー質問ー応答という形が最も有効である。

【Outline and objectives】
Without presupposing any knowledge of philosophy and philosophers, by directly discussing some of the main philosophical problems,we aim to acquire the basic ability to philosophize or to think philosophically. In this lecture, we will focus on basic topics of philosophy.

PHL100BB

哲学概論２

中釜　浩一

授業コード：A2305　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
哲学概論１に引き続き、いくつかの具体的「哲学的問」を検討することで、自ら哲学的に思考する能力の基礎を身につけることを目指す。哲学概論２では、哲学概論１よりもより進んだトピックを扱う。

【到達目標】
①「哲学的に思考するとはどういうことか」を、いくつかの具体的問題を考えることで体験する。
②他の思考法とは区別される「哲学的思考法」が、いかなる方法や議論の仕方に基づくものかを理解する。
③「哲学すること」の意味に気付き、哲学的思考・議論能力が現代においてどのような役割を果たしうるのかを了解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。毎回その回で論じた内容に関して小課題を課し、次回授業の冒頭で、補足的解説や疑問点の解答等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	パラドクスと哲学
第 2 回	パルメニデスと否定のパラドクス（1）	「ないもの」はあるのか
第 3 回	パルメニデスと否定のパラドクス（2）	「ないもの」についてどうして語れるのか
第 4 回	否定のパラドクス（3）	「ないものがある」とは何を意味するか
第 5 回	ゼノンと運動のパラドクス（1）	飛ばない矢とアキレス
第 6 回	ゼノンと運動のパラドクス（2）	数学的解決と「無限」の概念
第 7 回	ゼノンと運動のパラドクス（3）	パラドクスは解決したのか？　数学と哲学
第 8 回	時間のパラドクス	「本当の今」は存在するのか？
第 9 回	時間のパラドクス（2）	宿命論（未来は変えられない）の議論
第 10 回	時間のパラドクス（3）	ニューカムの問題（過去は変えられる）の検討
第 11 回	道徳の逆説（1）	道徳の不自然さ
第 12 回	道徳の逆説（2）	罪と罰（道徳的運の問題）
第 13 回	道徳の逆説（3）	幸福と道徳（幸せに生きることと正しく生きること）は本当に両立できるのか？
第 14 回	まとめ	哲学的に思考するとはどういうことか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に課される小課題の解答を Hoppii 上で提出する。
指定された図書やプリント等を読んでおく。
本授業の予習復習時間は毎回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
セインズブリー「パラドクスの哲学」（勁草書房）。
サンデル「これからの「正義」の話をしよう」（ハヤカワ文庫）

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパーの内容：７０％
期末のレポート：３０％

【学生の意見等からの気づき】
全体的に見れば、従来型の講義ー質問ー応答という形が最も有効である。

【Outline and objectives】
Continuing A2304, by directly discussing some of the main philosophical problems,we aim to acquire the basic ability to philosophize or to think philosophically.In this lecture, we will focus on the more advanced topics.

PHL100BB

論理学概論 1

安東　祐希

授業コード：A2306　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人と話をするとき、考え事をするとき、意識するにせよしないにせよわれわれは論理を使う。では、論理的に思考するとはいったいどういうことなのであろうか。春期「論理学概論 1」と秋期「論理学概論 2」を通して、現代の記号論理学の基礎について、統語論と意味論の両面から学ぶ。このうち、春期科目では、命題の形式化の方法と、命題論理・述語論理における意味論を学ぶ。

【到達目標】
次のような疑問に対して答えることができる。
・命題はどのように表すことができるのか。
・命題が「正しい」とはどういうことか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
[授業形式：対面授業]
毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。
(「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	論理的な言明	日常言語における例
第 2 回	命題と論証	真偽と妥当性
第 3 回	命題の組み立て	論理結合子
第 4 回	主語と述語	変数と述語記号
第 5 回	「全て」と「存在」	量化子
第 6 回	形式的表現の整理	括弧の省略
第 7 回	多義性の分析	量化子の順序
第 8 回	命題論理の意味論	付値と真理値関数
第 9 回	命題の比較	論理式の同値
第 10 回	命題とは（再考）	同値による分類
第 11 回	論理的とは（再考）	恒真式と妥当な論証
第 12 回	述語の取り扱い	1 変数述語記号の解釈
第 13 回	述語論理の意味論	量化子と解釈
第 14 回	関係の取り扱い	2 変数述語記号の解釈

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
授業は自己完結する形で進むので、参考書は特に必要とされるわけではない。なお、さらに学習する際は、例えば次にあげる書籍などが参考となる。ただし、授業とは異なる記号表現を用いている場合もあるので注意されたい。
・松本和夫『復刊　数理論理学』（共立出版）2001 年（初版 1970）
・Raymond M. Smullyan, *First-Order Logic*, Dover 1995 (first published by Springer 1968)

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度を適切に調整したい。

【その他の重要事項】
単位取得後は、期間を空けずに秋期科目「論理学概論 2」を履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and techniques of modern symbolic logic, especially the way of formalization for propositions and the semantics for propositional and predicate logic.

PHL100BB

論理学概論２

安東　祐希

授業コード：A2307　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人と話をするとき、考え事をするとき、意識するにせよしないにせよわれわれは論理を使う。では、論理的に思考するとはいったいどういうことなのであろうか。春期「論理学概論 1」と秋期「論理学概論 2」を通して、現代の記号論理学の基礎について、統語論と意味論の両面から学ぶ。このうち、秋期科目では、論証の妥当性の分析と、健全で完全な形式的演繹体系の定義を学ぶ。

【到達目標】
次のような疑問に対して答えることができる。
・論証の妥当性を判定することは可能か。
・妥当な論証をすべて作り出す方法はあるか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
[授業形式：対面授業]
毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。
(「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	前提と結論の表現	推件式の定義
第 2 回	論理式との関係	推件式の意味論
第 3 回	妥当性の表現	恒真な推件式
第 4 回	判定機の組立て	木構造の表現
第 5 回	「かつ」の分析	連言の恒真分解
第 6 回	「または」の分析	選言の恒真分解
第 7 回	「ならば」の分析	含意の恒真分解
第 8 回	「でない」の分析	否定の恒真分解
第 9 回	「すべて」の分析	全称量化の恒真分解
第 10 回	「ある」の分析	存在量化の恒真分解
第 11 回	演繹体系の定義	LK 証明図の推論規則
第 12 回	構造規則の役割	LK 証明図 (命題論理)
第 13 回	変数の選択	LK 証明図 (述語論理)
第 14 回	演繹体系の性質	健全性と完全性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】
授業は自己完結する形で進むので、参考書は特に必要とされるわけではない。なお、さらに学習する際は、例えば次にあげる書籍などが参考となる。ただし、授業とは異なる記号表現を用いている場合もあるので注意されたい。
・松本和夫『復刊　数理論理学』（共立出版）2001 年（初版 1970）
・Raymond M. Smullyan, *First-Order Logic*, Dover 1995 (first published by Springer 1968)

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
問題の難易度を適切に調整したい。

【その他の重要事項】
履修にあたり、春期科目「論理学概論 1」の内容を理解していることが求められる。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and techniques of modern symbolic logic, especially the analysis for the validity of sequents and the definition of one of the sound and complete logical systems.

PHL200BB

倫理学概論１

君嶋　泰明

授業コード：A2308　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
倫理学とはどのような学問かを、関連するいくつかの基本概念の概観を通じて学ぶ。

【到達目標】
①倫理学の基本概念を理解する。
②倫理学とは何を明らかにしようとする学問かを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは次回授業の初めに行う。
教室定員にたいする受講者人数を把握するため、初回授業は Zoom で行う。アドレスは学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	倫理学とはどのような学問か
第 2 回	善	さまざまな「よさ」について
第 3 回	自律性	自分を律するとは
第 4 回	自由	自由とは何か
第 5 回	行為	行為の構造
第 6 回	責任	責任の条件
第 7 回	死	死について考える
第 8 回	自己①	自己とは何か
第 9 回	自己②	自己の一貫性
第 10 回	正義	正義についての諸理論
第 11 回	愛	愛の種類
第 12 回	悪	悪とは何か
第 13 回	神	神の視点
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度が 50%、期末試験が 50%。前者はリアクションペーパーの内容や質問、後者は上記「到達目標」の①②がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりとくになし。

【Outline and objectives】
We will learn what ethics is by way of an overview of some relevant basic concepts.

PHL200BB

倫理学概論２

君嶋　泰明

授業コード：A2309　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代から現代にかけて登場した西洋のいくつかの倫理思想を概観することを通じて、倫理学が歴史的にどのように展開してきたかを学ぶ。

【到達目標】
①西洋哲学史における主要な倫理思想の基本的主張を理解する。
②倫理学にはさまざまな立脚点がありうることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは次回授業の初めに行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	倫理思想史を学ぶということ
第 2 回	古代①	ソクラテス、プラトン
第 3 回	古代②	アリストテレス
第 4 回	古代③	エピクロス、ストア派
第 5 回	中世	アウグスティヌス、トマス・アクィナス
第 6 回	ライプニッツ	神学と倫理
第 7 回	ホッブズ	社会契約①
第 8 回	ロック	社会契約②
第 9 回	ヒューム	共感に基づく倫理
第 10 回	カント	義務論
第 11 回	ベンタム	功利主義
第 12 回	ニーチェ	習俗の倫理
第 13 回	ハイデガー	実存と倫理
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度が 50%、期末試験が 50%。前者はリアクションペーパーの内容や質問、後者は上記「到達目標」の①②がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりとくになし。

【Outline and objectives】
We will learn the historical development of ethics, by way of an overview of several Western ethical thoughts, which emerged throughout the history from ancient to modern.

PHL100BB

西洋哲学史Ｉ－１

奥田　和夫

授業コード：A2310　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋古代哲学史とくに古代ギリシア哲学に関する基礎的な知識を修得する。西洋において哲学がどのように始まり、それはどのように展開して西洋思想の基礎が作られたのかを学ぶことが目的である。「西洋哲学史Ｉ－２」（秋学期）とともに履修すること。

【到達目標】
各哲学者の思想を正確にかつ重要点をおさえて理解する。そしてそれらの思想を時間を追って総観した場合に、どのような「思考世界」が展開・成立するのかを把握することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義概要と資料をもとに講義する。毎回の出席確認ペーパーに質問・感想等を書いて提出する。質問には次回に回答する。また、適宜、小レポートを Hoppii を利用して提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	哲学史を学ぶ意義　古代哲学史研究の対象と範囲、研究上の制限
第 2 回	ミレトス学派	哲学の始まり
第 3 回	ピュタゴラスとその学派	輪廻転生と数的世界観
第 4 回	ヘラクレイトス	対立するものの調和、ロゴスの哲学
第 5 回	パルメニデス	有るものと有らぬもの 1
第 6 回	ゼノン、メリッソス	有るものと有らぬもの 2
第 7 回	エンペドクレス	多元論 1
第 8 回	アナクサゴラス	多元論 2
第 9 回	デモクリトス	原子論
第 10 回	ソフィストたち	プロタゴラス、ゴルギアス、ヒッピアス、プロディコス、「ノモスとピュシス」
第 11 回	ソクラテス 1	生涯、無知の自覚
第 12 回	ソクラテス 2	魂の配慮、エレンコス
第 13 回	ソクラテス 3	哲学と政治
第 14 回	小ソクラテス学派 春学期のまとめ	キュレネ学派、キュニコス学派、メガラ学派 ミレトス学派から小ソクラテス学派までの展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する授業内容レジュメ、資料等をよく読み、必要な関連事項を調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
春学期用：広川洋一『ソクラテス以前の哲学者』（講談社学術文庫）

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
適宜提出する小レポートの内容と期末試験（または状況により期末レポート）の内容によって評価する。小レポートの評価 30 %　期末試験の評価 70 %　計 100 %の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度は特になし。

【学生が準備すべき機器他】
なし。ただし、Hoppii　を利用する場合は PC 等が必要となる。

【その他の重要事項】
「西洋哲学史Ｉ－２」（秋学期）とともに履修すること。

【Outline and objectives】
In this class we learn the history of Greek philosophy to grasp the base of European thought. We study from Thales to the Minor Socratics in the term.

PHL100BB

西洋哲学史Ｉ－２

奥田　和夫

授業コード：A2311　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋古代哲学史とくに古代ギリシア哲学に関する基礎的な知識を修得する。西洋において哲学がどのように始まり、それはどのように展開して西洋思想の基礎が作られたのかを学ぶことが目的である。「西洋哲学史Ｉ－１」（春学期）とともに履修すること。

【到達目標】
各哲学者の思想を正確にかつ重要点をおさえて理解する。そしてそれらの思想を時間を追って総観した場合に、どのような「思考世界」が展開・成立するのかを把握することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義概要と資料をもとに講義する。毎回の出席確認ペーパーに質問・感想等を書いて提出する。質問には次回に回答する。また、適宜、小レポートを Hoppii を利用して提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期イントロダクション プラトン 1	ソクラテスまでの哲学史 生涯、著作
第 2 回	プラトン 2	ソクラテス哲学の継承
第 3 回	プラトン 3	『国家』等の著作に見られるイデア論
第 4 回	プラトン 4	哲人統治説と政治哲学
第 5 回	アリストテレス 1	生涯、著作
第 6 回	アリストテレス 2	哲学体系、形而上学
第 7 回	アリストテレス 3	自然学、倫理学
第 8 回	アリストテレス 4	政治学
第 9 回	エピクロス	認識論、自然学、倫理学
第 10 回	ストア学派	認識論、自然学、倫理学
第 11 回	懐疑派	認識論、倫理学
第 12 回	プロティノス 1	形而上学
第 13 回	プロティノス 2	世界の構造
第 14 回	古代哲学の終焉 秋学期のまとめ	古代哲学の思考世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する授業内容レジュメ、資料等をよく読み、必要な関連事項を調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
秋学期：教科書は使用しない（配布プリント、資料を使用）。

【参考書】
授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
適宜提出する小レポートの内容と期末試験（または状況により期末レポート）の内容によって評価する。小レポートの評価 30 %　期末試験の評価 70 %　計 100 %の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度は特になし。

【学生が準備すべき機器他】
なし。ただし、Hoppii を利用する場合は、PC　等が必要となる。

【その他の重要事項】
「西洋哲学史Ｉ－１」（春学期）とともに履修すること。

【Outline and objectives】
In this class we learn the history of Greek philosophy to grasp the base of European thought. We start to study from Plato to Plotinus in the term.

PHL200BB

西洋哲学史Ⅱ－１

菅沢　龍文

授業コード：A2312　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋の近代哲学思想の歴史を入門的に学びます。春学期は、西洋のルネサンスから始めて、18 世紀の哲学者カント以前の啓蒙思想に至る思想家たちの思想を取り上げます。そして哲学者たちが何を問題としたのか、その問題にどのように答えたのかを考察します。目標は、西洋近代の哲学思想史を視野に入れて、西洋近代文明がもつ意味や、抱える諸問題について、これまでよりいっそう深く考察できるようになることです。

【到達目標】
（1）［知識］西洋近代の諸哲学思想についての基礎知識を得る。
（2）［態度］人間、社会、世界、自然、宇宙、神などについて、西洋近代の哲学思想の観点も入れて考える態度を養う。
（3）［技術］近現代の文明の諸問題について、西洋近代思想に照らして考察し文章で表現する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はプリントを配布してプロジェクターを用いる講義です。毎回の課題プリントの提出が課せられます。プリントに疑問や感想を書くことができ、適宜之に対する応答がなされ、理解を深めることができます。授業の初めに、前回で提出された課題プリントについての気づきを、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	(1) 授業について、(2) 哲学史、(3) ルネサンス、(4) プラトン哲学の復興、など
第 2 回	ピコ・デッラ・ミランドラ	(1) 二重真理説、(2) カバラ、(3) 自由意志、など
第 3 回	ジョルダーノ・ブルーノ	(1) 宇宙の無限性、(2) 汎神論、(3) 近代宇宙論の展開、など
第 4 回	デカルト（1）	(1) 永遠真理の創造説、(2) 哲学の第一原理、(3) 神の存在、など
第 5 回	デカルト（2）	(1) 物体の存在、(2) 心身関係、(3) 高邁の精神、など
第 6 回	スピノザ	(1) 神学と理性、(2) 汎神論と決定論、(3) 神の知的愛、など
第 7 回	ライプニッツ	(1) モナドロジー、(2) 予定調和、(3) オプティミズム、など
第 8 回	ベーコン、ホッブズ	(1) 帰納法、(2) ホッブズの自然主義、(3) 社会契約と政教分離、など
第 9 回	ジョン・ロック	(1) 観念、(2) 知識、(3) 社会契約と宗教的寛容、など
第 10 回	バークリ、ヒューム	(1) 唯心論、(2) ヒュームの自然主義、(3) 道徳感情、など
第 11 回	パスカル	(1) 科学者パスカル、(2) 繊細の精神、(3) 気晴らしと信仰、など
第 12 回	ジャン・ジャック・ルソー	(1) フランス啓蒙思想、(2) 文明批判、(3) 社会契約と一般意志、など
第 13 回	トマジウス、ヴォルフ	(1) 近代自然法、(2) 倫理と法、(3) 完全性の原理、など
第 14 回	15～18 世紀半ばの西洋思想	(1) 人間、宇宙、神 (2) 対立する諸思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。
プリントや参考書などによって授業内容の復習をし、必要に応じて思想家の原典も読み、次回の授業のテーマと内容については参考書で関連箇所を調べて読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
近代西洋哲学史についての書物で自分に合ったものを使用してください（参考書欄参照）。授業時にはプリントを中心に用います。

【参考書】
基礎的なものとしては、近現代に関しては野田又夫著『西洋近代哲学史　ルネサンスから現代まで』（ミネルヴァ書房）、古代から現代にわたっては岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）があります。詳しいものは『哲学の歴史』４～７巻（中央公論新社）や宗像恵／中岡成文編著『西洋哲学史〔近代編〕』（ミネルバ書房）、西洋哲学史全体にわたるものでは、岡崎・春日部・中釜他著『西洋哲学史』（昭和堂）などがあり、またテーマ史的には、たとえば大東・奥田・菅沢・大貫編『自然と人間』（梓出版社）があります。その他にも入手しやすい新書や文庫をはじめ、基礎知識を前提とした高度な参考書まで数多くあるので、必要に応じて用いてください。

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回の参加態度、および提出物で確認された到達目標達成度
（2）春学期末に行う試験によって確認された到達目標達成度
（1）を 70%（2）を 30%の配分として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
口頭での説明を明瞭な発音で、ゆっくり分かりやすく行うようにする。

【Outline and objectives】
We study the elementary history of modern European philosophical thoughts.　What we learn during the spring semester is the thoughts of the philosophers who worked from the Renaissance to the Enlightenment of the 18th century before the philosopher Kant. On what questions the philosophers have discussed and how they've answered them will be examined. Through these examinations we will be able to think more deeply than ever about the significance and the problems of the modern western civilization.

PHL200BB

西洋哲学史Ⅱ－２

菅沢　龍文

授業コード：A2313　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
西洋の近代哲学思想の歴史を入門的に学びます。秋学期は、西洋の 18 世紀のカントから 19 世紀末のニーチェに至るまでの主要な思想家たちの思想を取り上げます。そして哲学者たちが何を問題としたのか、そしてその問題にどのように答えたのかを考察します。目標は、西洋近代の思想史を視野に入れて、西洋近代文明がもつ意味や、抱える諸問題について、これまでよりいっそう深く考察できるようになることです。

【到達目標】
（1）［知識］西洋近代の諸哲学思想についての基礎知識を得る。
（2）［態度］人間、社会、世界、自然、宇宙、神などについて、西洋近代の哲学思想の観点も入れて考える態度を養う。
（3）［技術］近現代の文明の諸問題について、西洋近代思想に照らして考察し文章で表現する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はプリントを配布してプロジェクターを用いる講義です。毎回の課題プリントの提出が課せられます。プリントに疑問や感想を書くことができ、適宜之に対する応答がなされ、理解を深めることができます。授業の初めに、前回で提出された課題プリントについての気づきを、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	カント（1）	(1) コペルニクス的転回、(2) アプリオリな綜合判断、(3) 現象と物自体、など
第 2 回	カント（2）	(1) 仮象、(2) アンチノミー、(3) 理念の統制的使用、など
第 3 回	カント（3）	(1) 定言命法、(2) 目的の国、(3) 最高善、など
第 4 回	フィヒテ	(1) カント哲学の発展的継承、(2) 自我と非我、(3) 無神論論争、など
第 5 回	シェリング	(1) 自然哲学、(2) 同一哲学、(3) 神の実存、など
第 6 回	ヘーゲル（1）	(1) カントからの自立、(2) フィヒテ、シェリングからの自立、(3) 弁証法、など
第 7 回	ヘーゲル（2）	(1) 精神の現象学、(2) 論理学、(3) 法哲学、など
第 8 回	ショーペンハウアー	(1) 根拠律、(2) 意志と表象としての世界、(3) ペシミズムと解脱、など
第 9 回	キルケゴール	(1) アイロニー、(2) 実存の三段階、(3) 絶望と信仰
第 10 回	ニーチェ	(1) 主知主義の批判、(2) 超人、(3) ニヒリズム、など
第 11 回	フォイエルバッハ、マルクス	(1) 神学の本質は人間学、(2) マルクスの近代市民社会批判、(3) 史的唯物論、など
第 12 回	ベンサム、ミル	(1) 功利主義、(2) ミルの功利主義と経験主義、(3) 自由論、など
第 13 回	コント、スペンサー	(1) 実証哲学、(2) 社会有機体説、(3) 社会進化論、など
第 14 回	18 世紀末〜19 世紀末の西洋思想	(1) 人間、世界、神 (2) 対立する諸思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。
プリントや参考書などによって授業内容の復習をし、必要に応じて思想家の原典も読み、次回の授業のテーマと内容については参考書で関連箇所を調べて読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
近代西洋哲学史についての書物で自分に合ったものを使用してください（参考書欄参照）。授業時にはプリントを中心に用います。

【参考書】
基礎的なものとしては、近現代に関しては野田又夫著『西洋近代哲学史　ルネサンスから現代まで』（ミネルヴァ書房）、古代から現代にわたっては岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）があります。詳しいものは『哲学の歴史』７～９巻（中央公論新社）や宗像恵／中岡成文編著『西洋哲学史〔近代編〕』（ミネルバ書房）、西洋哲学史全体にわたるものでは、岡崎・春日部・中釜他著『西洋哲学史』（昭和堂）などがあり、またテーマ史的には、たとえば大東・奥田・菅沢・大貫編『自然と人間』（梓出版社）があります。その他にも入手しやすい新書や文庫をはじめ、基礎知識を前提とした高度な参考書まで数多くあるので、必要に応じて用いてください。

【成績評価の方法と基準】
（1）毎回の参加態度、および提出物で確認された到達目標達成度
（2）秋学期末に行う試験によって確認された到達目標達成度
（1）を 70 %（2）を 30 %の配分として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
口頭での説明を明瞭な発音で、ゆっくり分かりやすく行うようにする。

【Outline and objectives】
We study the elementary history of the modern European philosophical thoughts. What we learn during the autumn semester is the thoughts of the significant philosophers from Kant to Nietzsche who worked from the end of the 18th century to the end of the 19th century. On what questions the philosophers have discussed and how they've answered them will be examined. Through these examinations we will be able to think more deeply than ever about the significance and the problems of the modern western civilization.

PHL200BB

基礎演習 1

［2 年 A 組］

安孫子　信

授業コード：A2206　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
■パスカルの人間観を学びます。
―パスカル (1623-62) の遺稿である『パンセ』をテキストに、人間を〈ひとり死すもの〉とみなすパスカルの人間観を学びます。
―テキストを〈読む〉、読んで〈考える〉、考えて〈書く〉という哲学の基礎作業のトレーニングを行います。

【到達目標】
■パスカルの人間観に迫り、その中で哲学の基礎力を鍛えます。
―『パンセ』に散りばめられている赤裸々な人間観を学び、最後には「人間は考える葦である」という周知の言葉の隠れた意味を理解します。
―テキスト読解とそれに基づくレポート作成に挑む中で、〈読み〉、〈考え〉、〈書く〉力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
※基本的に対面授業で行います。
■テキスト読解とレポート作成
―『パンセ』は断章からなります。毎回の授業は一つのテーマと、それに対応する断章をめぐって行われます。
―その際の議論は、受講者がそのテーマと断章について、前回に提出しており、その回に添削後返却されている小レポートに基づいて行われます。
―すなわち、受講者は、毎回、次回授業で用いることになる小レポートを作成し、それを持参して授業に参加します。
―学期末にはまとめのレポートの提出も求めます。
―なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	恋愛	授業の進め方の説明
第 2 回	気晴らし	活動する人間について　その 1
第 3 回	むなしさ・虚栄	活動する人間について　その 2
第 4 回	想像力	認識する人間について　その 1
第 5 回	習慣	認識する人間について　その 2
第 6 回	自己・自己愛	個としての人間について
第 7 回	社会と正義	集団としての人間について
第 8 回	死	人間の存在の根本条件　その 1
第 9 回	広漠たる中間	人間の存在の根本条件　その 2
第 10 回	懐疑論と独断論	理性の批判　その 1
第 11 回	デカルト批判	理性の批判　その 2
第 12 回	繊細の精神と幾何学的精神	理性の批判　その 3
第 13 回	理性	理性の批判　その 4
第 14 回	実存主義	パスカルの思想史上の位置について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
―毎回提出の小レポートを作成します。
―学期末にはまとめのレポート（予定テーマ「考える葦」）を作成します。
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
パスカル『パンセ』（前田陽一・由木康訳，中公文庫）が必携テキストです。

【参考書】
野田又男『パスカル』（岩波新書）
松浪信三郎『実存主義』（岩波新書）
前田陽一『パスカル「考える葦」が意味するもの』（中公新書）

【成績評価の方法と基準】
平常点 3 割、小レポート 4 割、学期末レポート 3 割で評価します。到達目標の達成度との関係では、平常点ではおもにパスカル理解によって、レポートでは理解が 5 割、表現が 5 割の重みで、それぞれ評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけわかりやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline and objectives】
We will learn about Pascal's view of humanity, with Pascal's manuscript PENSEES as text, considering human beings to die alone. At the same time, we will train the fundamental work of philosophy of reading, thinking and writing.

PHL200BB

基礎演習 1

［2 年 B 組］

西塚　俊太

授業コード：A2207　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
三木清の著作『パスカルにおける人間の研究』を読み解きながら、大学の哲学科での研究において必須となる技法である「哲学的テキストの読解」や「発表用のレジュメの作成」や「議論の技法と作法」の習得を目指す。

【到達目標】
・哲学の基礎的な水準のテキストを読み解くことが出来る。
・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語ることが出来る。
・議論を通じて、自身の思考内容を深めることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）受講者全員に三木清の『パスカルに於ける人間の研究』を発表担当箇所として割り当てる。
（2）担当者は該当箇所に関するレジュメを作成し、講義で発表をする。
（3）その発表に基づいて、テキスト解釈やテーマとなっている思想課題について参加者全員で議論する。
（4）討論の中で見出された重要な論点をまとめるレポートを毎回課し、そのレポートについて次回の講義の冒頭で講評しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の基礎の伝達と三木清に関する概説	三木清『パスカルに於ける人間の研究』に関する概要の説明と、講義内容や進め方および評価方法の説明。
第 2 回	大学での演習形式の学習方法について	演習形式での学習方法についての説明 参考文献の検索と引用方法 レジュメの作成の方法 演習での議論の形式
第 3 回	三木清『パスカルに於ける人間の研究』「第一　人間の分析」の一	三木清『パスカルに於ける人間の研究』「第一　人間の分析」の一　の発表と検討
第 4 回	「第一　人間の分析」の二	「第一　人間の分析」の二　の発表と検討
第 5 回	「第一　人間の分析」の三	「第一　人間の分析」の三　の発表と検討
第 6 回	「第二　賭」の一	「第二　賭」の一　の発表と検討
第 7 回	「第二　賭」の二	「第二　賭」の二　の発表と検討
第 8 回	「第三　愛の情念に関する説」の前半	「第三　愛の情念に関する説」　の前半部分の発表と検討
第 9 回	「第三　愛の情念に関する説」の後半　および「第四　三つの秩序」の一	「第三　愛の情念に関する説」の後半　および「第四　三つの秩序」の一　の発表と検討
第 10 回	「第四　三つの秩序」の二	「第四　三つの秩序」の二　の発表と検討
第 11 回	「第四　三つの秩序」の三　および「第五　方法」の一	「第四　三つの秩序」の三　および「第五　方法」の一　の発表と検討
第 12 回	「第五　方法」の二	「第五　方法」の二　の発表と検討
第 13 回	「第五　方法」の三　および「第六　宗教における生の解釈」の一	「第五　方法」の三　および「第六　宗教における生の解釈」の一　の発表と検討
第 14 回	「第六　宗教における生の解釈」の二　総まとめ	「第六　宗教における生の解釈」の二　および全体の総まとめの発表と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。
特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。
本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
三木清『パスカルにおける人間の研究』（岩波文庫）
教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上でゼミに参加すること。

【参考書】
まずは参考書などを参照せず、三木清が『パスカルに於ける人間の研究』に表現している思想を正確に把握することを目指して欲しい。その上で、各断章ごとの哲学テーマに関する参考書を自身で見つけ出していく力を養成することが、この基礎演習の主目的の一つである。
参考図書の見つけ方などについては、初回のガイダンスおよび第二回の講義内説明において紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表担当時の発表内容（レジュメの水準を含む）（40 %）と、講義内での発言や講義への参加姿勢（38 %）と学期末レポート（22 %）の合算によって評価する。
講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求め、発言・質問しなかった場合は出席したものとは見なさないので、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。

【学生の意見等からの気づき】
学生の討論時間を長く確保できるよう、今年度は時間配分の調整をより厳密にしていく。

【学生が準備すべき機器他】
発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。
紙媒体のレジュメが望ましいが、パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。
パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

【その他の重要事項】
※重要
新型コロナ感染症の流行状況によっては、オンラインを活用する可能性もあり得るので、学習支援システムを毎週欠かすことなく確認することが不可欠である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史
＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
＜主要研究業績＞
①「「ひと」であること、「私」であること―三木清の「哲学的人間学」をめぐって―」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③「『曾我物語』における敵討の動因――「実の父」の欠如と希求という観点から――」（『倫理学紀要第 26 輯』、2019）

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading thoroughly "Pascal's Anthropology" by Miki Kiyoshi.

PHL200BB

基礎演習２

［2 年 A 組］

西塚　俊太

授業コード：A2209　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
三木清の著作『パスカルにおける人間の研究』を読み解きながら、大学の哲学科での研究において必須となる技法である「哲学的テキストの読解」や「発表用のレジュメの作成」や「議論の技法と作法」の習得を目指す。

【到達目標】
・哲学の基礎的な水準のテキストを読み解くことが出来る。
・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語ることが出来る。
・議論を通じて、自身の思考内容を深めることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）受講者全員に三木清の『パスカルに於ける人間の研究』を発表担当箇所として割り当てる。
（2）担当者は該当箇所に関するレジュメを作成し、講義で発表をする。
（3）その発表に基づいて、テキスト解釈やテーマとなっている思想課題について参加者全員で議論する。
（4）討論の中で見出された重要な論点をまとめるレポートを毎回課し、そのレポートについて次回の講義の冒頭で講評しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の基礎の伝達と三木清に関する概説	三木清『パスカルに於ける人間の研究』に関する概要の説明と、講義内容や進め方および評価方法の説明。
第 2 回	大学での演習形式の学習方法について	演習形式での学習方法についての説明 参考文献の検索と引用方法 レジュメの作成の方法 演習での議論の形式
第 3 回	三木清『パスカルに於ける人間の研究』「第一　人間の分析」の一	三木清『パスカルに於ける人間の研究』「第一　人間の分析」の一　の発表と検討
第 4 回	「第一　人間の分析」の二	「第一　人間の分析」の二　の発表と検討
第 5 回	「第一　人間の分析」の三	「第一　人間の分析」の三　の発表と検討
第 6 回	「第二　賭」の一	「第二　賭」の一　の発表と検討
第 7 回	「第二　賭」の二	「第二　賭」の二　の発表と検討
第 8 回	「第三　愛の情念に関する説」の前半	「第三　愛の情念に関する説」　の前半部分の発表と検討
第 9 回	「第三　愛の情念に関する説」の後半　および「第四　三つの秩序」の一	「第三　愛の情念に関する説」の後半　および「第四　三つの秩序」の一　の発表と検討
第 10 回	「第四　三つの秩序」の二	「第四　三つの秩序」の二　の発表と検討
第 11 回	「第四　三つの秩序」の三　および「第五　方法」の一	「第四　三つの秩序」の三　および「第五　方法」の一　の発表と検討
第 12 回	「第五　方法」の二	「第五　方法」の二　の発表と検討
第 13 回	「第五　方法」の三　および「第六　宗教における生の解釈」の一	「第五　方法」の三　および「第六　宗教における生の解釈」の一　の発表と検討
第 14 回	「第六　宗教における生の解釈」の二　総まとめ	「第六　宗教における生の解釈」の二　および全体の総まとめの発表と検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。
特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。
本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
三木清『パスカルにおける人間の研究』（岩波文庫）
教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上でゼミに参加すること。

【参考書】
まずは参考書などを参照せず、三木清が『パスカルに於ける人間の研究』に表現している思想を正確に把握することを目指して欲しい。その上で、各断章ごとの哲学テーマに関する参考書を自身で見つけ出していく力を養成することが、この基礎演習の主目的の一つである。
参考図書の見つけ方などについては、初回のガイダンスおよび第二回の講義内説明において紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表担当時の発表内容（レジュメの水準を含む）（40 %）と、講義内での発言や講義への参加姿勢（38 %）と学期末レポート（22 %）の合算によって評価する。
講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求め、発言・質問しなかった場合は出席したものとは見なさないので、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。

【学生の意見等からの気づき】
学生の討論時間を長く確保できるよう、今年度は時間配分の調整をより厳密にしていく。

【学生が準備すべき機器他】
発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。
紙媒体のレジュメが望ましいが、パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。
パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

【その他の重要事項】
※重要
新型コロナ感染症の流行状況によっては、オンラインを活用する可能性もあり得るので、学習支援システムを毎週欠かすことなく確認することが不可欠である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史
＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
＜主要研究業績＞
①「「ひと」であること、「私」であること―三木清の「哲学的人間学」をめぐって―」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③「『曾我物語』における敵討の動因――「実の父」の欠如と希求という観点から――」（『倫理学紀要第 26 輯』、2019）

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading thoroughly "Pascal's Anthropology" by Miki Kiyoshi.

PHL200BB

基礎演習２

［2 年 B 組］

安孫子　信

授業コード：A2210　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
■パスカルの人間観を学びます。
―パスカル (1623-62) の遺稿である『パンセ』をテキストに、人間を〈ひとり死すもの〉とみなすパスカルの人間観を学びます。
―テキストを〈読む〉、読んで〈考える〉、考えて〈書く〉という哲学の基礎作業のトレーニングを行います。

【到達目標】
■パスカルの人間観に迫り、その中で哲学の基礎力を鍛えます。
―『パンセ』に散りばめられている赤裸々な人間観を学び、最後には「人間は考える葦である」という周知の言葉の隠れた意味を理解します。
―テキスト読解とそれに基づくレポート作成に挑む中で、〈読み〉、〈考え〉、〈書く〉力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
※基本的に対面授業で行います。
■テキスト読解とレポート作成
―『パンセ』は断章からなります。毎回の授業は一つのテーマと、それに対応する断章をめぐって行われます。
―その際の議論は、受講者がそのテーマと断章について、前回に提出しており、その回に添削後返却されている小レポートに基づいて行われます。
―すなわち、受講者は、毎回、次回授業で用いることになる小レポートを作成し、それを持参して授業に参加します。
―学期末にはまとめのレポートの提出も求めます。
―なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	恋愛	授業の進め方の説明
第 2 回	気晴らし	活動する人間について　その 1
第 3 回	むなしさ・虚栄	活動する人間について　その 2
第 4 回	想像力	認識する人間について　その 1
第 5 回	習慣	認識する人間について　その 2
第 6 回	自己・自己愛	個としての人間について
第 7 回	社会と正義	集団としての人間について
第 8 回	死	人間の存在の根本条件　その 1
第 9 回	広漠たる中間	人間の存在の根本条件　その 2
第 10 回	懐疑論と独断論	理性の批判　その 1
第 11 回	デカルト批判	理性の批判　その 2
第 12 回	繊細の精神と幾何学的精神	理性の批判　その 3
第 13 回	理性	理性の批判　その 4
第 14 回	実存主義	パスカルの思想史上の位置について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
―毎回提出の小レポートを作成します。
―学期末にはまとめのレポート（予定テーマ「考える葦」）を作成します。
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
パスカル『パンセ』（前田陽一・由木康訳，中公文庫）が必携テキストです。

【参考書】
野田又男『パスカル』（岩波新書）
松浪信三郎『実存主義』（岩波新書）
前田陽一『パスカル「考える葦」が意味するもの』（中公新書）

【成績評価の方法と基準】
平常点 3 割、小レポート 4 割、学期末レポート 3 割で評価します。到達目標の達成度との関係では、平常点ではおもにパスカル理解によって、レポートでは理解が 5 割、表現が 5 割の重みで、それぞれ評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけわかりやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline and objectives】
We will learn about Pascal's view of humanity, with Pascal's manuscript PENSEES as text, considering human beings to die alone. At the same time, we will train the fundamental work of philosophy of reading, thinking and writing.

PHL300BB

哲学特講（1）－1

奥田　和夫

授業コード：A2212　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソクラテスについて
「西洋哲学史Ⅰ」にて解説したように、ソクラテスは著作を残さなかった。そのため、歴史上のソクラテスの哲学を直接に知ることはできない。ただ、ソクラテスの近くにいた人たちがソクラテスについて残した著作を手掛かりにソクラテスの哲学を推測することができるだけである。
ソクラテスの哲学を考える際に、プラトンの著作が重要視されるのは当然である。が、その他の人々の著作はどれだけ活用できるのか。この問題については 19 世紀から 20 世紀にかけて学者たちの論争もあったが、今日でも意見がまとまっているわけではない。
この授業では、プラトンをはじめとしてプラトン以外の著作家たちの作品もあらためて読み直し、ソクラテス解釈上、許される論点をさぐり、ソクラテス解釈・理解を前進させることを目的とする。

【到達目標】
関連テクストの慎重な読解と分析にもとづき、新たに、ソクラテス哲学に関する解釈上の正当な論点をさぐること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、その授業の概要と資料を提示し、講義形式ですすめる。質問は口頭でもリアクションペーパーでも受けつける。後者の場合、回答は次回の授業の冒頭にて前回の授業の復習を行なう際にのべる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ソクラテスを考えるときの資料とその性格
第 2 回	アリストパネス劇とソクラテス	アリストパネスの劇作とソクラテス
第 3 回	アリストパネス劇の中のソクラテス	アリストパネスと人々が共有したソクラテス像
第 4 回	クセノポン	クセノポンの生涯と著作
第 5 回	クセノポンのソクラテス 1	クセノポンのソクラテス像 1
第 6 回	クセノポンのソクラテス　2	クセノポンのソクラテス像 2
第 7 回	プラトンのソクラテス 1	初期作品 1
第 8 回	プラトンのソクラテス 2	初期作品 2
第 9 回	プラトンのソクラテス 3	中期作品 1
第 10 回	プラトンのソクラテス 4	中期作品 2 後期作品
第 11 回	プラトンのソクラテス 5	プラトン作品に登場するソクラテス像（変化と全体像）
第 12 回	プラトンのソクラテスとアリストテレスのソクラテス	両者の相違点と近似点
第 13 回	ソクラテスの人物像	彼らはソクラテスに何を見ていたのか
第 14 回	ソクラテスの哲学　まとめ	ソクラテスは何者であったと考えられるのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で紹介する著作、関連する著作を読む。本授業の準備・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書はない。講義内容と講義で使用する資料からともに考えてもらう。

【参考書】
田中美知太郎『ソクラテス』（岩波新書）その他は講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 数回の小レポート (40%) ② 期末レポートの内容 (60%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
なし。

【その他の重要事項】
なし。

【Outline and objectives】
In this class we read Aristophanes, Xenophon, Plato and Aristotle, and then we challenge the Socratic Problem anew.
The objects of the class are careful reading of them and by doing this work finding another or new aspects of Socratic thoughts.

PHL300BB

哲学特講（1）－2

山下　真

授業コード：A2213　｜　曜日・時限：**水曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義のテーマは、「ヤスパース：実存と理性の哲学」です。
20 世紀ドイツの哲学者、カール・ヤスパースの極めて広大な思想は、〈実存〉と〈理性〉という二つの主要概念によって特徴づけることができます。まず彼の前期思想は、キルケゴールやニーチェの影響のもと、偶然性や死といった不条理な限界状況の只中にある個としての人間存在を捉え、独自の〈実存哲学〉を確立しました。しかし、ナチス政権下で迫害され、全体主義の脅威を経験した後期のヤスパースは、より積極的に、多様な他者との交わりに開かれた〈理性の哲学〉を提示するに至ります。
受講者は、こうしたヤスパース哲学の統一的な展開過程、および多面的な全体像を学び、その独自性と可能性を考察することで、現代哲学の一側面への理解を深めることとなるでしょう。

【到達目標】
受講者が達成すべき目標は、以下の三点です。
① ヤスパース哲学の基本概念と全体構想、および彼の思考の特質を学ぶ。
② 哲学的伝統や現代の実存思想、20 世紀の社会状況との関連を視野に入れ、ヤスパースの思考を導いた問題意識を理解する。
③ 現代に生きる自分たちにとって、実存および理性という概念が持つ、意義と可能性を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、配布資料を使って講義形式で進めます。毎回、ヤスパースが思考した中心課題や基本概念を解説し、問題となっている事柄を捉えていきます。
受講者には、出席票を兼ねたコメントカードで、感想や意見、質問を提出してもらいます。そのうち重要なものについては、次回の授業でいくつか取り上げ、応答することとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と導入	ヤスパース哲学の展開とその時代
第 2 回	〈存在の探求〉と実存	実存思想の歴史的背景と位置づけ
第 3 回	〈状況内存在〉からの出発	実存的思考の発生とその根本動機
第 4 回	実存と〈限界状況〉(1)	〈実存〉概念の含意と限界状況論の概要
第 5 回	実存と〈限界状況〉(2)	実存的自由と〈瞬間〉の思想
第 6 回	〈実存的交わり〉の論理	他者の存在との共同的自己生成
第 7 回	〈哲学的世界定位〉の意味	科学知の特性とその限界の露呈
第 8 回	暗号の形而上学 (1)	存在全体の問いから形而上学への超出
第 9 回	暗号の形而上学 (2)	超越者とその〈暗号解読〉という概念
第 10 回	形而上学的〈責め〉	ヤスパースの戦争責任論とその意図
第 11 回	〈哲学的論理学〉と理性	包括者論と理性概念の基本特徴
第 12 回	〈哲学的信仰〉の多元性	哲学と宗教との対話の可能性
第 13 回	原子爆弾と人間の未来	ヤスパースの原爆論とその射程
第 14 回	講義の総括と展望	実存の多元性と理性的思考

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講者は、配布資料や指定した参考文献を読解し、予習・復習を実施して参加すること（大学の基準では、本授業の準備・復習時間は、毎回 4 時間と規定されています）。
各回の連続性が高いので、欠席が多いと内容を理解できなくなります。学んだ事柄を自主的に整理した上で、極力休まず参加してください。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。

【参考書】
ヤスパースの主要著作の邦訳は、『哲学』全 3 巻（創文社）や『ヤスパース選集』全 37 巻（理想社）などで読めます。高価・入手難のものが多いので、まずは図書館を利用してください。また、さしあたりの概説的な書物として、宇都宮芳明『人と思想 ヤスパース』（清水書院）、重田英世『人類の知的遺産 ヤスパース』（講談社）、W・シュスラー『ヤスパース入門』（月曜社）を挙げておきます。その他の文献は、講義内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席状況およびコメントカードでの理解度や意見・質問の積極性、受講態度などの平常点（50 %）と、学期末の課題レポート（50 %）で、上記「到達目標」三点の達成度を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
各人の経験に引きつけて思考できるよう、常に具体的な実例を織り交ぜた説明を心がけています。また、背景となる哲学史的な知識や、様々な術語の原語に含まれるニュアンスなど、詳しく話しています。配布資料では哲学者のテクストを多く引用し、原典の言葉から問題を理解できるような手法をとります。コメントカードへの応答は内容理解に役立つとの声が多いので、留意していきます。

【Outline and objectives】
This course deals Karl Jaspers' philosophy. His thoughts can be characterized by two central concepts of 'existence and reason' (Existenz und Vernunft). The student will obtain basic knowledge about the development and concepts of Jaspers' philosophy. The goal of this course is to understand originality and possibility of his pluralistic thinking.

PHL300BB

哲学特講（3）－1

松本　力

授業コード：A2216　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『方法序説』では、デカルトが自らの哲学を打ち立てる動機を読み取ることで、デカルト哲学が目指す到達点を理解し、その到達点にたどり着くために『省察』において具体的にどのような議論を行っているかを学ぶことになります。

【到達目標】
デカルトにとっての理性とは何か。理性をもちいて到達する「考える私」の確かさとは何か。そしてデカルトにとっての神が、私たちの認識においてどのような役割を果たしているか。これらを考察することで、デカルト哲学の中心的な概念を理解し、説明できるようになることが、この授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
デカルトの主要な著作である『方法序説』と『省察』を配布資料をもとに読み進め、毎回、授業内容についての理解度を確認するための「課題」に答えてください (オンライン授業では、Hoppii 上で行います)。質問があれば、この「課題」への答えに書き込むこと。質問への回答は、次の授業回の冒頭（オンラインであれば「お知らせ」）で示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	デカルトの生涯と著作	デカルト哲学の全体像。
第 2 回	『方法序説』第一部	デカルト哲学の目的。
第 3 回	『方法序説』第二部	デカルト哲学の方法。
第 4 回	『方法序説』第三部	デカルトの暫定道徳。
第 5 回	『方法序説』第四部	「我思う故に我あり」。
第 6 回	『省察』第一部	疑いをさしはさみうるものについて。
第 7 回	『省察』第二部	考えるとはどのようなことか。
第 8 回	『省察』第三部前半	神の存在証明第一、神の観念の原因として。
第 9 回	『省察』第三部後半	神の存在証明第二、私の存在の原因として。
第 10 回	『省察』第四部	誤謬の原因について。
第 11 回	『省察』第五部	神の存在証明第三、神の存在論的証明。
第 12 回	『省察』第六部前半	想像すること、感覚すること、そして理解すること。
第 13 回	『省察』第六部後半	精神と身体との関係について。
第 14 回	試験	筆記試験により授業内容の理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り扱う箇所を、配布資料を参考に読み進め、その内容の要約し、疑問点をまとめておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『方法序説』については資料を配付する。『省察』については次のものを各自用意すること。『デカルト　省察　情念論』（中央公論新社、中公クラシックス、2002 年、1500 円＋税）

【参考書】
野田又夫『デカルト』（岩波新書、1966 年）

【成績評価の方法と基準】
定期試験（70 %）によりデカルト哲学の重要概念の理解度を、最終的に確認する。また、各回の「課題」（30 %）に答えることを平常点とする。

【学生の意見等からの気づき】
「課題」提出前には、必ずテキストと配布資料を読んでおくこと。また、「課題」の提出後も、疑問点があれば質問すること。自分の中で理解できていること、理解できていないことを確認しながら読み進めることが求められます。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of Meditations on First Philosophy of Descartes.

PHL300BB

哲学特講（3）－2

古屋　俊彦

授業コード：A2217　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソシュールの『一般言語学講義』を詳しく読み、現代思想の理解に不可欠な言語の本質についての考察を学ぶ。
構造主義と構造主義以後の現代思想を理解するためにはソシュールの『一般言語学講義』における考察を正確に知っていなければならない。
今は古典となっているこのような本の丁寧な読解は常に必要だが、特にソシュールの『一般言語学講義』は本質的かつ具体的な言語の考察が際立っていて今でも特異性を失わないので読む価値がある。

【到達目標】
ソシュールの『一般言語学講義』に書かれている、言語の本質に関する考え方や基本的な概念とその言い換えなどを理解する。予備知識として十九世紀から二十世紀の言語学の歴史を把握し、『一般言語学講義』の考察を、その中で位置づけて理解する。更に、『一般言語学講義』の考察を、現代思想、その中でも特に構造主義と構造主義以後の思想への影響の中で理解する。以上の理解を前提として、課題となる小論文の中で、『一般言語学講義』にならって言語に関する原理的な考察を自分なりに試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、ソシュールの『一般言語学講義』の講読を講義形式で進める。受講者は、事前に本を読み、疑問点や問題点を授業中あるいはウェブサイトで提示する。受講生は、毎回、受講報告として、授業を受けて考えたことを文章で書いて提出する。教員は疑問点や問題点に対して即答した上で詳しく検討して次の回に返答する。受講報告についても同様に次の回に必要に応じて返答する。要約や詳述などの資料は独自に作成したウェブサイトを使用して開示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要	授業の説明、自己紹介
第 2 回	まえおき　その 1	『一般言語学講義』の成立事情、基本概念、同時代の思想との関連
第 3 回	まえおき　その 2	言語学者としてのソシュールの経歴、影響関係
第 4 回	まえおき　その 3	比較言語学、音韻論、ソシュール以後の言語学との関係
第 5 回	前年度までの内容	序論、第 1 部、第 2 部、第 3 部の第 1 章まで
第 6 回	第 3 部　通時言語学	第 2 章　音変化
第 7 回	第 3 部　通時言語学	第 3 章　音的進化の文法的帰結
第 8 回	第 3 部　通時言語学	第 4 章　類推 第 5 章　類推と進化
第 9 回	第 3 部　通時言語学	第 6 章　民間語源 第 7 章　膠着
第 10 回	第 3 部　通時言語学	第 8 章　通時的な単位、同一性、現実性
第 11 回	第 3 部と第 4 部への付録	A 主観的分析と客観的分析 B 主観的な分析と下位単位の確定 C 語源学
第 12 回	第 4 部　言語地理学	第 1 章　言語の多様性について 第 2 章　地理的多様性の複雑化 第 3 章　地理的多様性の原因 第 4 章　言語的な波の伝搬
第 13 回	第 5 部　回顧的言語学の諸問題	第 1 章　通時言語学の 2 つの観点 第 2 章　最古の言語と原型 第 3 章　再建
第 14 回	第 5 部　回顧的言語学の諸問題 まとめ	第 4 章　人類学と先史学での言語の証拠 第 5 章　語族と言語類型

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ソシュールの『一般言語学講義』の指定箇所をあらかじめ読み、疑問点、問題点を書き出しておく。授業と並行して、小論文の課題を進める。小論文は、できるだけ早く提出を始めて、書き直しながら再提出を繰り返す。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『一般言語学講義』フェルディナン・ド・ソシュール、町田健訳、研究社、３５００円

【参考書】
授業の中で、必要に応じて紹介していく

【成績評価の方法と基準】
小論文６０％
　『一般言語学講義』の理解に基づいて言語に関する原理的な考察を継続的に文章の中で仕上げていく過程を特に評価の対象とする。基本的な概念の理解は重要だが考察を積み重ねていく努力を特に重視する。
平常点４０％
　毎回提出する受講報告から授業への取り組みの度合いを評価する

【学生の意見等からの気づき】
要約の資料だけでなく解説的な補足資料を用意する

【Outline and objectives】
Reading of the 'Course in the General Languistics' by Ferdinand de Saussure in japanese translation. We learn about the essence of the language itself for understanding of the contemporary philosophy.

PHL300BB

哲学特講（４）－１

菅沢　龍文

授業コード：A2218　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カント『道徳形而上学の基礎づけ』の内容についてテキストに沿って順次学び、考えます。毎回その回の内容について考えることにより、全体としては、カント倫理学に独特の考え方を知り、良心に従って道徳的に生きるとはどういうことかを考えます。

【到達目標】
（1）カント倫理学の基本知識を身につける。［知識］
（2）行為の道徳的価値について考えて振る舞う態度を身につける。［態度］
（4）哲学的・論理的な文章の意味を読み解き、論理的な文章で自分の考えを伝えることができる。［技能］

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）プロジェクターおよびプリントを用いて説明し、質問を受け付けます。
（2）毎回の課題プリントで考察のための課題を課します。この課題について自分の考えを書いて提出します。
（3）授業の初めに、前回に提出された課題プリントについての気づきを、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	(1) オリエンテーション (2) 道徳哲学 ※ 1-9 段落	(1) 本授業について (2) なぜ道徳哲学は純粋でなければならないのか
第 2 回	善い意志 ※ 15-20 段落	なぜ善い意志は無制限に善いのか
第 3 回	理性と道徳的価値 ※ 18-27 段落	なぜ人間に理性が与えられていて、行為に道徳的価値があるのか
第 4 回	道徳的行為 ※ 28-32 段落	なぜ道徳的な行為の確実な実例は示せないのか
第 5 回	自己 ※ 38-41 段落	なぜ愛しい自己を抑制しなければならないのか
第 6 回	意志 ※ 45-51 段落	なぜ意志は実践理性に他ならないのか
第 7 回	定言命法 ※ 52-61 段落	なぜ仮言命法と定言命法を区別するのか
第 8 回	定言命法と自然法則 ※ 62-74 段落	なぜ定言命法が隠れた仮言命法になるのか
第 9 回	人格 ※ 75-84 段落	なぜ物件と人格を区別するのか
第 10 回	定言命法と人間性 ※ 85-87 段落	なぜ自殺や虚の約束は禁ぜられるのか
第 11 回	定言命法と自己立法 ※ 88-91 段落	なぜ才能を伸ばすことや親切は義務なのか
第 12 回	意志の自律 ※ 92-95, 116 段落	なぜ意志は自分で自分を律するべきなのか
第 13 回	目的の国 ※ 98-110 段落	なぜ国が道徳的でなければならないのか
第 14 回	全体を振り返ったレポート作成	カントの定言命法の思想について ―― 良心的に生きるとはどういうことか ――

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。
（予習）授業で取り上げる段落をしっかり読み込んでおく。
（復習）授業でよく理解できなかった点について、テキストやプリントを繰り返し読み返し、参考書や哲学事典を調べるなどして理解に努める。

【テキスト（教科書）】
カント『道徳形而上学の基礎づけ』中山元 訳、光文社古典新訳文庫（段落番号付き）

【参考書】
カント『道徳形而上学の基礎づけ』宇都宮芳明 訳、以文社（段落番号付き）
カント『プロレゴメナ　人倫の形而上学の基礎づけ』（『基礎づけ』は野田又夫 訳）、中公クラシックス（段落番号は付いていない）
カント『人倫の形而上学』（カント全集：岩波版・第 11 巻、理想社版・第十一巻）

カント『実践理性批判』（岩波文庫、他）
ペイトン『定言命法』（行路社）

【成績評価の方法と基準】
成績評価基準】
（1）出席および参加態度と、毎回の課題プリントへの取り組み
（2）セメスター末の期末レポート
（1）を7割、（2）を3割として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
口頭での説明の際に、発音を明瞭にし、ゆっくり分かりやすく話すようにする。

【Outline and objectives】
We learn and think about the contents of Kant's "Groundwork for the Metaphysics of Morals" along the text one after another. On the whole we learn Kant's way of thinking which is peculiar to his ethics and we study what it means to live morally along our conscience.

PHL300BB

哲学特講（4）－2

近堂　秀

授業コード：A2219　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イマヌエル・カントの『純粋理性批判』を読みながら，カントの哲学思想の意義を検討する。

【到達目標】
学問としての哲学の特徴を理解し，哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
実際に『純粋理性批判』を読み，関連文献を参照しながら，現代社会に対してカントの哲学思想にどのような意義があるかを検討する。授業は講義形式で進め，課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学を学ぶとは	時代状況と哲学
第 2 回	カントの哲学思想 (1)	近代の哲学思想
第 3 回	カントの哲学思想 (2)	カント哲学の概要
第 4 回	カントの哲学思想 (3)	カントの理論哲学
第 5 回	『純粋理性批判』を読む (1)	「超越論的論理学」
第 6 回	『純粋理性批判』を読む (2)	「超越論的分析論」
第 7 回	『純粋理性批判』を読む (3)	「純粋悟性概念の演繹について」・予備的注意
第 8 回	『純粋理性批判』を読む (4)	「純粋悟性概念の演繹について」・上からの演繹
第 9 回	『純粋理性批判』を読む (5)	「純粋悟性概念の演繹について」・下からの演繹
第 10 回	カントの哲学思想 (4)	カントの実践哲学
第 11 回	カントと現代の哲学思想 (1)	カント哲学の解釈
第 12 回	カントと現代の哲学思想 (2)	カントと現象学・プラグマティズム・分析哲学
第 13 回	カントと現代の哲学思想 (3)	カントとウィトゲンシュタイン
第 14 回	カントと現代の哲学思想 (4)	分析哲学からカントへ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で参照を指示した資料文献を分析し，関連文献を調査する。準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業内で指示する。

【参考書】
牧野英二編『新・カント読本』，法政大学出版局，2018 年。
近堂秀『『純粋理性批判』の言語分析哲学的解釈――カントにおける知の非還元主義』，晃洋書房，2018 年。
トム・ロックモア『カントの航跡のなかで――二十世紀の哲学』牧野英二監訳，法政大学出版局，2008 年。

【成績評価の方法と基準】
学問としての哲学の特徴を理解し，哲学の著作を読む力は出席率と授業の内容理解度によって，哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力は学期末レポートによって，それぞれ 30 %と 70 %の割合で評価する。
※定期試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容と授業の内容理解度のバランスを随時調整する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental problems of Kant's philosophy.

PHL300BB

哲学特講（5）－1

西塚　俊太

授業コード：A2220　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、日本の近代哲学を代表する和辻哲郎の著作を読み解くことを通じて、日本近代思想の一端の把握を目指していく。講義形式ではあるが、原典の読解を軸にすることで、最終的に自身で哲学書を読み進めていく力を養成することを目的としている。

【到達目標】
・日本近代の哲学書を読み解くことが出来る。
・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）「原典読解」を中心とする講義形式を基本とする。
（2）毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
（3）毎回の講義の終盤に、講義内容の確認と次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。
（4）講義の始めに、前回の講義で提出された課題の講評を行いフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本近代思想を学ぶことの意味	講義内容や進め方および評価方法の説明 日本近代哲学の特徴はいかなる点に存在するのか
第 2 回	「倫理」という言葉の意味	和辻哲郎『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）pp.9-18 以下の回のページ数はすべて岩波文庫版による
第 3 回	「人間」という言葉の意味 「世間」あるいは「世の中」の意義	『人間の学としての倫理学』pp.18-38の解説
第 4 回	「存在」という言葉の意味 人間の学としての倫理学の構想	『人間の学としての倫理学』第一章の出だしのまとめ pp.38-52
第 5 回	アリストテレス論	個々の思想家の解説の開始、アリストテレス論 pp.52-69
第 6 回	カントのアントロポロギー	カントの人間学の考察 pp.69-83
第 7 回	コーヘン論	コーヘンの人間の「概念」化についての検討 pp.83-102
第 8 回	ヘーゲルの人倫の学	ヘーゲルの人倫の検討の開始 pp.102-126
第 9 回	ヘーゲルと和辻哲郎	ヘーゲルの人倫の思想と和辻哲郎の人間の学の対比 pp.126-152
第 10 回	フォイエルバッハの人間学	フォイエルバッハによる近代的な思考の登場 pp.152-165
第 11 回	マルクスの人間存在	哲学思想としてのマルクス pp.165-180
第 12 回	人間の問い 問われている人間	『人間の学としての倫理学』の方法論の検討の開始 pp.181-198
第 13 回	学としての目標 人間存在への通路	和辻倫理学の方向性の確定へ向けての検討 pp.198-233
第 14 回	和辻倫理学の解釈学的方法	和辻倫理学の方法論の確認 pp.233-258

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。
また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。
本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書として和辻哲郎『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）の 2007 年以降の版を指定する。毎回の講義において必ず使用することになるため、受講に際して必須の教科書となる。

【参考書】
参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義時に課すミニレポートの評価（45 %）と、学期末レポート（55 %）によって評価する。
講義における質問や発言は高く評価するポイントとなる。

【学生の意見等からの気づき】
正当な理由がない遅刻者への対応をより厳密することで、途中入室者への対応で講義が中断しないようにいっそう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【その他の重要事項】
講義終了後に質問を受け付けているが、時間の余裕がない場合は hoppii の掲示板機能などを利用しての質問を随時受け付けている。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史
＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
＜主要研究業績＞
①「「ひと」であること、「私」であること―三木清の「哲学的人間学」をめぐって―」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③「『曾我物語』における敵討の動因――「実の父」の欠如と希求という観点から――」（『倫理学紀要第 26 輯』、2019）

【Outline and objectives】
The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading various books. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

PHL300BB

哲学特講（5）－2

相原　博

授業コード：A2221　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、人間の尊厳というテーマで行います。人間の尊厳は、人間の絶対的な価値を意味し、あらゆる人間を尊重する根拠になるものです。近年は日本でも、クローン技術を規制する法律などで、この概念が使用されています。しかし、人間の尊厳が何を意味するのかについては、さまざまな議論があるため合意に至っていません。そこで授業では、西洋の哲学や思想を手がかりに、応用倫理学の議論も考慮しながら、人間の尊厳の内容や意義について考察します。人間の尊厳は、たしかに西洋思想に由来する概念ですが、基本的人権の根拠として、第二次世界大戦後に注目されるようになりました。もっとも現在では厳しい批判もあり、人間の尊厳の内実が問い直されています。受講生には、選択的人口妊娠中絶や尊厳死など応用倫理学の諸問題を手がかりに、人間の尊厳について議論してもらいます。その議論によって、人間の「かけがえのなさ」や「絶対的な価値」について考えることになるはずです。

【到達目標】
第一に、人間の尊厳とは何か、この概念の内容を説明できることです。
第二に、選択的人工妊娠中絶や尊厳死など、応用倫理学の諸問題を理解して、これらの問題における尊厳概念の意義を説明できることです。
第三に、選択的人工妊娠中絶や尊厳死について、自分の考えを言語化し表現できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。また積極的に参加してもらうため、グループディスカッションを実施します。受講にあたっては、自分自身で考えること、また授業で発言できることが必要です。その他、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介、尊厳概念の必要性	授業の概要と方法、どうして尊厳概念が必要なのか説明する
第 2 回	尊厳概念の歴史 (1)	古代から中世まで、尊厳概念の歴史を説明する
第 3 回	尊厳概念の歴史 (2)	ルネサンスから現代まで、尊厳概念の歴史を説明する
第 4 回	尊厳概念へのアプローチと拷問	尊厳概念を解明する方法と、「拷問」という尊厳侵害の実例を考察する
第 5 回	グループディスカッション (1)	胎児の障がいを理由とした人工妊娠中絶について、受講生と議論する
第 6 回	グループディスカッション (1) のまとめ	胎児の障がいを理由とした人工妊娠中絶について、その問題点を説明する
第 7 回	カントの尊厳概念	「道徳的行為」の可能性を重視した、カントの尊厳概念を説明する
第 8 回	マルセルの尊厳概念	人間の弱さと「兄弟愛」を重視した、マルセルの尊厳概念を説明する
第 9 回	マルガリートの尊厳概念	屈辱なき「良識ある社会」を構想した、マルガリートの尊厳概念を説明する
第 10 回	グループディスカッション (2)	障がいを理由とした尊厳死について、受講生と議論する
第 11 回	グループディスカッション (2) のまとめ	障がいを理由とした尊厳死について、その問題点を説明する
第 12 回	医療技術の進展と人間の尊厳	エンハンスメント（能力の改善を目的として心身に医学的に介入すること）の問題点、および人間の「卓越性」を重視するカスの尊厳概念を説明する
第 13 回	今日の尊厳概念	人間の尊厳とは何か、結論を提起する
第 14 回	試験・まとめと解説	学期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ディスカッションの前には、レポートを提出する必要があります。なおレポートが提出できない場合、ディスカッションには参加できません。また授業は発展的な内容を含むため、予習や復習は不可欠です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】
松田純『遺伝子技術の進展と人間の未来』、知泉書館、2005 年
金子晴勇『ヨーロッパの人間像』、知泉書館、2002 年
その他、必要に応じて参考書を授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加度と授業後のレポートによって、自分の考えを表現できるかどうか評価します (40%)。また学期末試験によって、人間の尊厳の内容を説明できるかどうか、応用倫理学の問題を理解できているかどうか評価します (60%)。

【学生の意見等からの気づき】
受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。またわかりやすい授業を行うために努力したい。

【Outline and objectives】
This course elucidates the concept of human dignity. Human dignity means the absolute value of human being. And it is also ground to respect a human being. Recently in Japan, human dignity came to be mentioned by laws to regulate the use of the new biotechnology. However, there is no agreement about what human dignity means. Therefore, considering arguments of western philosophy and applied ethics, this course presents meanings of human dignity. Being a concept which derives from western thoughts, human dignity came to attract attention as a basis of fundamental human rights after World War Ⅱ. But there is severe criticism against this concept. In this course you will discuss with human dignity in various contexts of applied ethics and finally think about human absolute value.

PHL300BB

哲学特講（6）－1

大橋　基

授業コード：A2222　｜　曜日・時限：木曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
戦後ドイツの哲学を代表する「フランクフルト学派」の歩みを、その都度の時代状況を背景に置きながら辿ることによって、「民主主義」の活性化のために必要とされる学問や芸術のあり方を学ぶ。

【到達目標】
フランクフルト学派の「批判理論」における理論と現実の関係を説明できる。「自由で民主的な社会」における「表現の自由」や「学問の自由」の意義を解説できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員が作成した「講義用資料」（学生各自が「学習支援システム」からプリントアウトする）を解説・考察を行う講義。
講義に関する質問・意見はEメール（motoi.ohashi@gmail.com）で受け付け、返信をもって教員からの回答とする。なお重要なものは、学生の個人名を伏せ、「学習支援システム」の「掲示板」に掲載する。その場合は、内容に応じて得点を与えて、試験成績に加算する。
＊受講者数と感染状況を勘案して、講義の方法等を変更するので、「学習支援システム」の「お知らせ」を、適宜、確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業案内	講義内容と成績評価についての説明
第 2 回	フランクフルト学派の問題意識	なぜ「アウシュヴィッツのあとで詩を書く」のは「野蛮」なのか？
第 3 回	近代化が生んだ「権威主義的パーソナリティ」	戦前・戦後でドイツ人の国民的メンタリティは変化したのか？
第 4 回	「歴史哲学」と「歴史の天使」	啓蒙主義以降の進歩史観とユダヤ教的歴史観の違いは何か？
第 5 回	ベンヤミンと美的経験の破壊的瞬間	複製技術による「アウラの消失」以後に可能な芸術表現とは？
第 6 回	アドルノとホルクハイマーの「啓蒙の弁証法」	アメリカに亡命した哲学者は過去と未来をどのように描いたか？
第 7 回	ハイデガーの復権と新世代の攻撃	戦後ドイツの政治文化はいかなる「ドイツ人」像を求めたか？
第 8 回	帰国後のアドルノの哲学的闘争	革命を目指さない身「西欧マルクス主義」の目的は何か？
第 9 回	行き場なき学生運動と戦後民主主義の再検討	哲学に「社会科学の言語」を導入することにどんな意義があるか？
第 10 回	「生活世界の植民地化」という「時代診断」	「奇跡の経済復興」の背後にどのような問題が潜んでいたのか？
第 11 回	「新しい社会運動」と「美的モデルネ」	ボイスやキーファーの芸術作品は何を表現しているのか？
第 12 回	ハーバーマスの「討議倫理学」の基本構図	支配や抑圧から自由な「コミュニケーション」の成立条件は何か？
第 13 回	「歴史家」論争への関与	「アウシュヴィッツは捏造だ」と主張するのも「学問の自由」か？
第 14 回	期末レポート	「フランクフルト学派」の視点からの事例分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業までに、テキストの該当箇所を読み、要点や疑問を整理しておく。
「学習支援システム」から該当回の「講義用資料」をプリントアウトして、テキスト同様、授業に持参する。
毎回、前回の授業内容を前提として議論が組み立てられているので、講義前に復習しておく。
講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
ベンヤミン『ベンヤミン・コレクション 1 近代の意味』ちくま学芸文庫 1995 年
アドルノ＆ホルクハイマー『啓蒙の弁証法』岩波文庫 2007 年
ハーバマス『道徳意識とコミュニケーション的行為』岩波書店 1991 年

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 90 %、平常点 10 %の比率で、成績評価を行い、60 点以上を及第点とする。Eメールや口頭での質問・意見を平常点算出の参考にする。

【学生の意見等からの気づき】
専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。
メールなどによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載して、受講者全員が確認できるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システム

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help student acquire an understanding of the philosophical attempts of The Frankfurt School in Germany before and after Nazi Era, in order to give careful consideration to the matters of our liberal democratic society that appear as poverty, discrimination, and populism. It deals with five themes as follow: 1. the authoritarian personality which was brought up through the modernization, 2. the dialectic of enlightenment in the real world, 3. the conceptual art as criticism for ourselves educated as a part of social system, 4. the possibility of the communication free from domination, 5. the freedom of the academism and its mission for the democratic politics.

PHL300BB

哲学特講（6）－2

小井沼　広嗣

授業コード：A2223　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は「ヘーゲル哲学と現代思想」をテーマとする。
「ヘーゲルには途方もない力があります。……私がここでみなさんにお話した思想のどれ一つとして、ヘーゲル哲学の中に少なくとも傾向として含まれていないものなど何一つない、ということを、私は十分自覚しています」（アドルノ『否定弁証法講義』）。
このように語ったのはアドルノだが、彼だけではなく、現代の多くの哲学者は、批判的にせよ受容的にせよ、ヘーゲル哲学から多大なインパクトを受けつつ、そこから独自の思想を展開している。そこでこの授業では、現代思想の動向の一端を、ヘーゲル哲学の批判・継承・発展という視角から検討していく。またそれを通じて、精神、人倫、欲望、否定性、相互承認、絶対的自由、外化、理念、絶対者といったヘーゲル哲学の主要な諸概念がもつ現代的意義を考察する。
具体的な人物とトピックとしては、チャールズ・テイラーの共同体主義・多文化主義、ユルゲン・ハーバーマスのコミュニケーション論・宗教論、アクセル・ホネットの承認論、ジェルジ・ルカーチの物象化論、ジュディス・バトラーのポストモダン・フェミニズム、マルクス・ガブリエルの新実在論、ロバート・ブランダムのネオ・プラグマティズム、森岡正博の生命学、を取り上げる。

【到達目標】
・多種多様なヘーゲル解釈やヘーゲル評価に触れることで、哲学古典のもつ豊かなポテンシャルを学ぶこと。
・現代思想において取り組まれている哲学的な諸問題とヘーゲル哲学との関連を、概略的にせよ、適切に説明できるだけの知識を習得すること。
・その知識をもとに、現代社会が抱えている諸課題について各自が理解と洞察を深めること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・教員による講義と受講者によるレジュメ発表とを組み合わせて進める。
・講義については、パワーポイントと配布プリントを用いる。
・各回の授業テーマについて、教科書内容のレジュメ発表（10～15 分程度）を特定の受講者に担当してもらう。受講者は全員、レジュメ発表を少なくとも一回は担当しなければならない。
・毎回リアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でそのレスポンスを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／イントロダクション	授業の進め方と成績評価の確認／ヘーゲル哲学の概要
第 2 回	テイラーのヘーゲル理解と哲学的人間学	啓蒙主義的な人間観と自由観への批判
第 3 回	テイラーの道徳文化論と政治哲学	「真正さ」の倫理と差異の相互承認
第 4 回	ヘーゲルとフランクフルト学派	ハーバーマスのコミュニケーション論とホネットの相互承認論
第 5 回	ルカーチの物象化論	資本主義とその変革主体をめぐって
第 6 回	ヘーゲルとポストモダン思想	ポストモダン思想におけるヘーゲル受容とバトラーのジェンダー論
第 7 回	バトラーの『アンティゴネー』論	『アンティゴネー』解釈とジェンダー問題
第 8 回	現代哲学の脱宗教化	ヘーゲルの宗教論とハーバーマスの世俗化論
第 9 回	ヘーゲルとネオ・プラグマティズム	分析哲学におけるヘーゲルの復権
第 10 回	ブランダムのヘーゲル解釈	「意味論的プラグマティズム」について
第 11 回	現代哲学の「実在論」的転回	新たな実在論の興隆とガブリエルの「世界の不在」論
第 12 回	ガブリエルの新実在論	領域的存在論とヘーゲル的な「絶対者」の行方
第 13 回	ヘーゲルと現代の生命論	「理念」としての生命把握
第 14 回	総括と展望	ヘーゲル哲学の現代的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回ごと教科書範囲を指定するので、かならず事前に読んでくること。
・レジュメ担当者は、事前に教科書の内容の要約レジュメを作り、授業日の前日までに教員に送ること。また、分からない内容についてはできるかぎり調べておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
寄川条路編著『ヘーゲルと現代社会』晃洋書房、2018 年（定価 1900 円＋税）

【参考書】
寄川条路編著『ヘーゲルと現代思想』晃洋書房
岡本裕一朗『ヘーゲルと現代思想の臨界』ナカニシヤ出版
仲正昌樹『ヘーゲルを超えるヘーゲル』講談社現代新書
それ以外の個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・平常点（14%）、各回のリアクションペーパーの提出とその内容（28 %）、レジュメ発表（18%）、期末レポート（40 %）、を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
リアクションペーパーへの応答を丁寧に行い、双方向的な授業を心がけたい。

【Outline and objectives】
The theme of this class is “Hegel’s philosophy and contemporary thought”.
Hegel’s philosophy has a great impact on many contemporary philosophers, each of whom is influenced critically or receptively by Hegel’s idea and develops his/her own thought.
In this class, we will examine the thoughts of some contemporary philosophers from the following perspectives; criticism, inheritance and development of Hegel’s idea. We will also examine the today’s significance of Hegel’s important ideas, such as Spirit, ethical life, desire, negativity, mutual recognition, absolute freedom, externalization, the Idea, the Absolute.
The following persons and topics are discussed in this class; Charles Taylor’s communitarianism and multiculturalism, Jürgen Habermas’s theory of communicative action and his thought on religion, Axel Honneth’s theory of recognition, Georg Lukács’s theory of reification, Judith Butler’s postmodern feminism, Markus Gabriel’s new realism, Robert Brandom’s neo-pragmatism, Masahiro Morioka’s life studies.

PHL300BB

哲学特講（7）－1

君嶋　泰明

授業コード：A2224　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
技術、テクノロジーは人間と不可分な関係にあるため、哲学で扱われるべきさまざまな問題を提起する。この授業では、そうした問題のいくつかを考えることを通じて、技術と人間の関係がもつ諸相に目を向け、それらを包括的に理解することを目指す。

【到達目標】
①技術はどのような問題を提起するかを理解する。
②それらの問題を解決するために考慮に入れるべき論点を理解する。
③それらの論点を踏まえ、個々の問題にたいして一定の結論を導けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。必要に応じてディスカッションを行う予定。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは次回授業の初めに行う。
この授業で扱われる問題の多くは、David E. Nye の *Technology Matters* という本から拝借したものである（未邦訳。下記「参考書」を参照）。それゆえこの本を座右に授業に臨めばより効果的に学習できるはずだが、それなしでもまったく支障はない。
教室定員にたいする受講者人数を把握するため、初回授業は Zoom で行う。アドレスは学習支援システムで連絡する。人数が多い場合は抽選を行う可能性もあるので、初回は必ず出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概要の説明
第 2 回	技術の定義	技術とは何か
第 3 回	技術決定論	技術は自律的か
第 4 回	技術の予測可能性	技術の今後は予測可能か
第 5 回	技術の歴史	歴史から何がいえるか
第 6 回	技術と文化	技術は文化を画一化するのか、多様化するのか
第 7 回	技術と自然	技術と自然の関係とはどのようなものか
第 8 回	技術と仕事	技術は仕事を奪うのか、生み出すのか
第 9 回	技術と市場	技術はどのように選択すべきか
第 10 回	技術と安全	技術は世の中を安全にするのか、危険にするのか
第 11 回	技術と視野	技術は視野を広げるのか、制限するのか
第 12 回	技術と科学	技術と科学の関係とはどのようなものか
第 13 回	技術と今後	技術とどう向き合うべきか
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
David E. Nye (2006) *Technology Matters: Questions to Live With*, The MIT Press.
その他の参考書は授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加度が 50%、期末レポートが 50%。前者はリアクションペーパーの内容やディスカッションへの参加状況、後者は上記「到達目標」の①②③がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline and objectives】
Since technology is inseparable from human beings, it raises various questions, which should be dealt with in philosophy. In this course, by way of considering some of the questions, we will look to various aspects of the relationship between technology and human beings, and aim to acquire a comprehensive knowledge of them.

PHL300BB

哲学特講（7）－2

大森　一三

授業コード：A2225　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業のテーマは「西洋教育哲学史」です。本授業では、古代から現代に至るまでの西洋教育思想、教育哲学を中心に学び、教育哲学の固有の課題と特徴を学び、考察してゆきます。
教育哲学がこれまでどのような問題を扱い、解決を与えようとしてきたのか、さらに、現在の教育哲学がどのような課題を抱えているのかを理解し、広い視野を持って思考できるようになることが本授業の到達目標です

【到達目標】
教育哲学の歴史と、教育に関する固有の哲学的課題を理解し、説明できるようになること。
今日の教育が抱える諸問題について理解し、それらの諸問題に対し、哲学的観点から自分の言葉で考察することができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式とディスカッションを組み合わせて行います。また、授業内でレポートを作成していただき、翌週の授業ではそのレポートの紹介を通じて、全体へのフィードバックを行いながら議論を進めてゆきます。
講義の内容は、教育哲学・教育思想が西洋哲学の起源である古代ギリシャからどのように生まれたのかを確認し、その後、ヨーロッパで「教育学」が確立してゆく 18 世紀に至るまで、時系列で諸教育思想の歴史と影響関係を考察してゆきます。19 世紀以降に関しては、トピックに応じて考察を進めてゆきます。また、関連する現代的な問題や現代の社会についても主体的に考察してゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	教育哲学とは何か。公民教育、歴史教育の観点から
第 2 回	諸文明における教育思想の起源と比較	教育思想の特徴と制限
第 3 回	西洋教育思想の起源	古代ギリシャにおける教育思想
第 4 回	ローマ・教父哲学での教育思想	ヘレニズムから教父哲学における教育思想の考察
第 5 回	ルネサンスの教育思想	ルネサンス期の教育思想の考察
第 6 回	宗教改革と教育	宗教改革期からコメニウスの教育思想の考察
第 7 回	18 世紀の教育思想	教育思想における「子供の発見」について
第 8 回	「教育学」の萌芽（1）	18 世紀ドイツの哲学と「教育学」について
第 9 回	「教育学」の萌芽（2）	公教育-国家による教育について
第 10 回	ヘルバルト派とロマン主義	ヘルバルト派教育学と日本への影響、およびロマン主義の教育思想について
第 11 回	英米系の教育思想	ロックからデューイに至るまでの教育思想につい
第 12 回	教育学と心理学（1）	ディルタイとディルタイ派の教育学
第 13 回	教育学と心理学（2）	発達心理学とケア倫理学と教育学の関係について
第 14 回	世界市民主義的教育」とは何か	教育哲学における「世界市民主義」について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介した内容について復習しておいてください。
また、事前に検討しておくべき事柄がある場合は、その授業前に示しますので、予習をしておいてください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した資料を適宜、授業内で配布します

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業内レポート（40 %）、期末レポート（40 %）に加え、授業中の参加の度合い、ディスカッションでの発言（20 %）などで総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
ディスカッションの際には全体ディスカッションとグループディスカッションを適宜組み合わせておこないます。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用してレポート提出をおこないます。したがって、学習支援システムを使用できるパソコンやタブレット、スマホの準備・持参をお願いします。なお、授業内に持参することができない場合でも、後日に入力・作成することができるようにします。

【Outline and objectives】
This course will help you to understand Historical and Philosophical aspects of Education. After taking this course you will be able to deepen the understandings about Philosophy of Education and its feature. This course will be taught in Japanese.

PHL300BB

哲学特講（8）－1／科学哲学Ⅰ

木島　泰三

授業コード：A2226,A3672　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
春学期・2 単位
備考（履修条件等）：**心理学科生は「科学哲学Ⅰ」として履修。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今期は「機械論的自然像の成立とその後の展開」をテーマにする。近代力学が描き出す世界のあり方は、近代科学の成立期以来、「機械」、さらにいえば「時計仕掛け」にたとえられてきた。今期の講義は、この比喩によって示される自然観の成立、その後の展開とそれへの批判、この自然観の正確な内実などを学び、科学的世界像と言われるものの哲学的な含意を考えていく。

【到達目標】
到達目標は次の 2 点である：
(1) 講義で取り上げた科学史的事項やそれと関連する哲学的諸問題について、概略的にではあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
(2) その知識をベースに、近代科学の成立によって開かれた「機械論的自然像」をめぐって、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は資料を配布しながら講義形式で行う。またリアクション・ペーパーや小レポートによる理解度の確認も随時行い、双方向的な、能動的な学びの機会を設ける（提出課題は翌週以降コメントを付して返却する）。また、最終回には授業内試験による確認問題を課し、同時にレポート提出を求める。
（なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに：	自己紹介、授業の進め方や成績評価などの説明、授業の概要など。
第 2 回	西洋思想史における哲学／科学のはじまり	ミレトスのタレスに始まる古代ギリシャの自然哲学について学ぶ
第 3 回	ソクラテスの道徳哲学とプラトン『ティマイオス』における目的論的自然観／アリストテレスの目的論的自然観（その 1）	ソクラテスとプラトンにおける、古代ギリシャ哲学の大きな転機を「目的論的自然観」の問題を中心に見た後、アリストテレスの思想を見ていく。
第 4 回	アリストテレスの目的論的自然観（その 2）	前回に引き続き、中世を通じて支配的な学説となるアリストテレス自然学にの概要を見ていく。
第 5 回	ストア派とエピクロス派の自然観／中世からルネサンス期までの展開	ヘレニズム期のストア派・エピクロス派の自然観を、後の機械論的自然観との対比で見た後、中世の中期から後期にかけて西ヨーロッパで進んだ、機械時計を含む機械技術の進歩を見ていく。
第 6 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判	17 世紀科学革命と言われている知的革新を概観する。
第 7 回	デカルトの機械論的自然観	機械論的自然観を哲学的に打ち出したデカルトの思想を見ていく。
第 8 回	機械論哲学と「時計仕掛け」のメタファーの興隆	「機械論哲学」と呼ばれた思想と、それに関連する機械時計のメタファーの流行を概観する。
第 9 回	スピノザによる目的論的自然観の批判	機械論哲学のある意味での徹底としてのスピノザの思想を、「目的論的自然観の批判」を中心に見ていく。
第 10 回	ライプニッツとニュートンの論争・その 1	スピノザのような徹底した目的論的自然観への批判に対し、目的論的自然観を守ろうとした思想家としてのライプニッツとニュートンの思想を、彼らの論争を中心に見ていく。
第 11 回	ライプニッツとニュートンの論争・その 2	前回の続き。ライプニッツのデザイン論的な機械論と、ニュートンの生気論はその後の主要な潮流の端緒になっていく。
第 12 回	18-19 世紀における機械論的自然観への批判	18 世紀から 19 世紀にかけての機械論的自然観批判を概観する。
第 13 回	機械論的自然観と現代	20 世紀以降の自然科学の発展の中で改めて機械論的自然観を考えていく。
第 14 回	まとめ：科学革命と現代／授業内試験／レポート回収	全体を振り返った後、授業内試験とレポートの回収を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
最低限必要な知識は授業内で提供し、完結した内容を提供するが、配布・紹介した参考資料は各自で読み一定の理解を得ておくこと。また講義後は十分に復習し不明な点は次回確認するなどすること。他に、期末レポートの適切な準備のためには、関連資料・関連文献の各自の参照は必須である。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】
個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、木島泰三『自由意志の向こう側――決定論をめぐる哲学史』（講談社選書メチエ）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、オットー・マイアー『時計じかけのヨーロッパ』（平凡社）、など。

【成績評価の方法と基準】
レポートによる「到達目標」(2) の到達度の評価を中心とする (70 %)。他に、期末確認試験の結果による「到達目標」(1) の到達度の評価 (15 %)、および、小レポート等を含む平常の授業への参加態度 (15 %) も参考にする。

【学生の意見等からの気づき】
板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline and objectives】
Our primary objective is to learn about the so-called modern "mechanical worldview" . It is a world view beginning with the "scientific revolution" in the 17th century, which conceives the natural world by analogy with a machine or a clockwork.
You shall learn the history of how this worldview emerged, developed, and criticized, as well as learn its detailed implications. Finally, we will consider philosophical meanings of the scientific worldview generally.

PHL300BB

哲学特講（８）－２／科学哲学Ⅱ

中釜　浩一

授業コード：A2227,A3673　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
秋学期・2 単位
備考（履修条件等）：**心理学科生は「科学哲学Ⅱ」として履修。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：自己と自己知。
「自己の正体と自己知の本性」の問題は、多くの哲学者を悩ませてきた難問の一つである。この問題に対するデカルト以降の代表的哲学者達の見解を現代的視点から検討することで、「自己」の問題への洞察を深める。

【到達目標】
「自己とは何か」に関する哲学者達の議論を理解し、「自己について知るとはどういうことか」を考える際の哲学的論点を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義とそれに対する学生からの疑問・質問、およびその解答によって議論を進める。
授業の冒頭で前回の小課題の解説、質問・疑問への解答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	「自己」はなぜ問題となるのか
第 2 回	デカルトと自己（1）	「自己」と確実な知識
第 3 回	デカルトと自己（2）	実体としての「自己」
第 4 回	ロックと自己（1）	自己の同一性の問題
第 5 回	ロックと自己（2）	身体と記憶
第 6 回	バークリーと自己（1）	観念論と自己
第 7 回	バークリーと自己（2）	想像力と自己
第 8 回	ヒュームと自己（1）	「自己」の知覚不可能性
第 9 回	ヒュームーと自己（2）	「自己」の非存在
第 10 回	カントと自己（1）	カントのデカルト批判
第 11 回	カントの自己（2）	超越論的「自己」
第 12 回	現代哲学と自己（1）	パーフィットの議論
第 13 回	現代哲学と自己（2）	シューメーカーの議論
第 14 回	まとめ	何が解けていないのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後に課された小課題を Hoppii 上で提出する。
デカルト、ロック、バークリー、ヒューム、カントらの著作から「自己」に関する議論を読んでおく。
本講義の準備復習時間は、毎回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
デカルト「省察」、ロック「人間知性論」、バークリー「人知原理論」、ヒューム「人間本性論」、カント「純粋理性批判」など。

【成績評価の方法と基準】
毎回の小課題の提出７０％、期末レポート３０％

【学生の意見等からの気づき】
学生の疑問点には可能な限り答えるが、容易に理解可能な正解があるかのような安易な答え方はしない。

【Outline and objectives】
Theme: Self and Self-knowledge
Problems of the Self and Self-knowledge is one of the most difficult philosophical problems which puzzled many great philosophers over the centuries. We will discuss some of main positions since Descartes, and deepen our insight concerning Self.

PHL200BB

国際哲学特講

安孫子　信

授業コード：A2301　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
■〈異文化理解〉の問題を海外で学びます.
―文化理解の問題を教室だけではなく，学期末に海外に出かけ，実際に異文化との接触の中で学びます.
―海外研修ではストラスブール大学（フランス）とハイデルベルグ大学（ドイツ）で合同ゼミを行います.
―日本語学科の学生たちとの合同ゼミで, 交流は日本語で行います.
―合同ゼミの合間をぬって，滞在地フランス，ドイツの文化遺産を見学し，食を始めとする生活文化に触れます.

【到達目標】
■〈自文化〉を学び直します.
―合同ゼミでは〈異文化〉の例として〈日本文化〉を取り上げます．そのため半期の教室授業では〈日本文化〉を学び直します.
■〈異文化〉を肌で知ります.
―海外研修では，フランス，ドイツの風物とともに，交流する学生たちの考え方に直接触れて，両文化をいわば肌で学びます.
■〈異文化理解〉の意味を学び直します.
―〈日本文化〉理解に打ち込むフランス，ドイツの学生たちとの交流を通して，〈異文化理解〉が知識の問題ではなく，生き方の問題であることを学びます.
■〈自分〉の見直しが生じます.
―「今までの大学生活で自分は何をしてきたのだろう」,「初めて外国語を本当に勉強したいと思った」などの言葉が，帰路に学生たちの口からもれます.〈異文化理解〉で何より理解されてくるのは，実はあるべき〈自分〉の姿です.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
※基本的に対面授業で行います.
■国内での授業
― 9 月からの授業期間には，教室で通常のゼミ形式の授業を行います.
―ただそれは，学期末に行う海外研修に備えてのもので，合同ゼミで取り上げられる問題に応じたテーマが取り扱われます．扱うテーマはハイデルベルク大学，ストラスブール大学との協議の上で，夏休み明けに決定します.
（下の「授業計画」は一昨年のもので、あくまでも一つの先例としてみて下さい）。
―ストラスブール大学との間では，秋学期の通常授業期間中に，スカイプで合同ゼミの予行演習を 3 － 4 回行います.
■海外での研修
― 2 月に 1 週間，フランス，アルザス地方にあるアルザス欧州日本学研究所（CEEJA）に滞在し，そこを拠点として，ハイデルベルグとストラスブールに移動しながら，両大学の学生と合同の授業を 5 回行います.
―その他の時間には，アルザスの歴史と現在に触れる多方面の見学を行います.
■注意事項
―この特講での単位取得には海外研修参加が必要です.
―ですから，長時間の飛行機での移動が健康上可能であること，また航空券代金を含む参加費の負担が可能であることが受講の条件となります.
―参加費は旅費・滞在費すべてを含めて 25 万円ほどを予定しています．なおその内の 4 分の 1(上限 5 万円) については大学から一人一人に補助が出ます．（以上の数字はあくまでも目安です．為替レートや航空運賃の変動に左右されます）.
―これは特講ですので 2 年生～4 年生まで受講可能です．ただ他の特講とは違って複数回の受講はできません．他方で，2 年生の特講受講の上限は，この特講を取るときは 6 単位まで引き上げられます（そうでなければ 4 単位まで）.
―また受講者数は 20 名を目途としています．それを大きく超える受講希望者がいた場合には，受講希望者に前もって提出してもらう「受講希望理由」と過年度の成績（GPA）とで選抜を行う場合があります.
―なお, 学期内授業では, リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し, さらなる議論に活かします.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業の意義と流れの説明.
第 2 回	ラフカディオ・ハーン『日本の面影』(1)	異文化理解の対象としての文化の検討（上）
第 3 回	ラフカディオ・ハーン『日本の面影』(2)	異文化理解の対象としての文化の検討（下）

第 4 回	ラフカディオ・ハーン『日本の面影』(3)	異文化理解の方法としての共感の検討（上）
第 5 回	ラフカディオ・ハーン『日本の面影』(4)	異文化理解の方法としての共感の検討（下）
第 6 回	ラフカディオ・ハーン『日本の面影』(5)	異文化理解が成功する理由の検討（上）
第 7 回	ラフカディオ・ハーン『日本の面影』(6)	異文化理解が成功する理由の検討（下）
第 8 回	ラフカディオ・ハーン『日本の面影』(7)	異文化理解が失敗する理由の検討（上）
第 9 回	ラフカディオ・ハーン『日本の面影』(8)	異文化理解が失敗する理由の検討（下）
第 10 回	伊藤成彦『物語日本国憲法第 9 条』(1)	日本文化の力としての憲法の平和主義（上）
第 11 回	伊藤成彦『物語日本国憲法第 9 条』(2)	日本文化の力としての憲法の平和主義（下）
第 12 回	伊藤成彦『物語日本国憲法第 9 条』(3)	日本文化の無力と憲法の平和主義（上）
第 13 回	伊藤成彦『物語日本国憲法第 9 条』(4)	日本文化の無力と憲法の平和主義（下）
第 14 回	総括	参加者からの問題提起を受けて，全体で総括の討論を行います．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
―扱うテキストに事前に目を通す．
―当番の各回でレジュメ発表準備を行う．
―節目節目で小レポート（リアクション・ペーパー）を作成する．
―海外合同ゼミでのパワポ発表準備を行う．
―海外合同授業での代表質問準備を行う．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
※授業計画中に上げたものは，海外研修が行われた一昨年度の合同ゼミでの共通テキストで，今年度のものについては，今後，ハイデルベルグ大学およびストラスブール大学との協議で，合同ゼミテーマと同時に決定されます．

【参考書】
※滞在するアルザスについては次のようなものがあります．
新田俊三『アルザスからヨーロッパの文化を考える』（東京書籍）
内田日出美『物語ストラスブールの歴史』（中公新書）
内村卓彦『アルザス文化史』（人文書院）

【成績評価の方法と基準】
学期内の通常の教室授業での平常点が 5 割，海外研修の合同セミでの平常点が 5 割で評価します．到達目標の達成度との関係では,2 つの評価方法の各々で, 自文化理解 2 割, 異文化理解 3 割, 異文化理解の意味の理解 3 割, 自分の理解 2 割の割合で勘案を行います．

【学生の意見等からの気づき】
国内・国外のプログラムの充実を図りつつも，過密・過重にならない工夫を行っていきます．

【その他の重要事項】
この特講についての「説明会」を 4 月新学期時に開催します．関心ある人は参加して下さい．（「説明会」の詳細については別途掲示します）．

【Outline and objectives】
We will learn about cultural understanding problems not only in the classroom but also abroad at the end of the term, actually in contact with different cultures. Concretely speaking, we will hold a joint seminar at Strasbourg University (France) and Heidelberg University (Germany), and visit the cultural heritage of France and Germany, and touch life and culture.

PHL400BB

哲学演習（1）

安孫子　信

授業コード：A2230　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
〈社会を開く、自分を開く〉
■パスカルの〈繊細の精神〉vs〈幾何学の精神〉の対比を、〈開いた魂〉vs〈閉じた魂〉に置き換えて、現代における〈開いた社会〉vs〈閉じた社会〉の問題を論じたのが、ベルクソンの『道徳と宗教の二源泉』（1932）です。
■〈閉じた社会〉は、それが〈よい社会〉であるとしても（〈よい社会〉であればあるほど）、構成員の画一化に、また他の社会の排除に向かいます。〈よい社会〉の〈よい子〉圧力は、〈悪い子〉を謝絶し、〈よい大学〉、〈よい会社〉へ進むようにと私たちを圧し続けます。このような圧力の出所はどこなのか。この圧力を免れる道はあるのか。それを免れる〈開いた社会〉とはどんな社会なのか。これらが問われる問いとなります。
■カント、ヘーゲルを生んだ理性の国であるドイツが、〈閉じた社会〉としてナチスの全体主義に全面的に屈していくその只中で書かれた『二源泉』は、次の言葉で閉じられます。「人類は今、自らのなしとげた進歩の重圧に半ば打ちひしがれて呻いている。しかも人類の将来が一にかかって人類自身にあることが、充分に自覚されていない。まず今後とも生き続ける意志があるのかどうか、それを確かめる責任は人類にある」。AI 圧力さえ加わる今日、私たちに〈閉じた社会〉を破る「生き続ける意志」は残されているのでしょうか。この問いを、『二源泉』第２章、第３章、第４章を読む中でともに考えていきたいと思います。

【到達目標】
―ベルクソンの〈生の哲学〉を通じて、日ごろ私たちには見えづらい〈開いた社会〉と〈閉じた社会〉の区別の問題への気づきを得ます。
―その気づきによって、ベルクソンに従って、私たちの先入見の転換を果たします。すなわち、「理性の命令は本能的もしくは夢遊病的性質のものだ」ということ。「一切の道徳は生物学的本質のものだ」ということ。
―そのような気づきによって、自分が生きていることを、新たに見直すことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
※基本的に対面授業で行います。
―ベルクソン『道徳と宗教の二源泉』を参照しつつ、〈開いた〉と〈閉じた〉と言われる二つの〈社会〉の問題を学んでいきます。
―授業では毎回テキスト箇所を定め、それについてのレポーターの発表を手がかりに、全員でテキスト読解を進めます。
―授業内容への感想や意見を記したリアクション・ペーパーを、毎回の授業後に提出してもらいます。
―学年末にはまとめのレポートの提出を求めます。
―なお、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	ゼミの流れの確認
第 2 回	静的宗教 (1)	「理性的存在における不条理について」の検討
第 3 回	静的宗教 (2)	「作話機能」の検討
第 4 回	静的宗教 (3)	「作話と生命」の検討
第 5 回	静的宗教 (4)	「「生の弾み」の意味」の検討
第 6 回	静的宗教 (5)	「作話の社会的役割」の検討
第 7 回	静的宗教 (6)	「断片的諸人格」の検討
第 8 回	静的宗教 (7)	「鬱への保険」の検討
第 9 回	静的宗教 (8)	「有益な作話作用の一般的主題」の検討
第 10 回	静的宗教 (9)	「非合理なものの激増」の検討
第 11 回	静的宗教 (10)	「予見不可能性への保険」の検討
第 12 回	静的宗教 (11)	「成功への意志」の検討
第 13 回	静的宗教 (12)	「偶然について」の検討
第 14 回	静的宗教 (13)	「文明人における原始的心性」の検討

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	動的宗教 (1)	「創造と愛」の検討
第 16 回	動的宗教 (2)	「悪の問題」の検討
第 17 回	動的宗教 (3)	「死後の生」の検討
第 18 回	最後の指摘―機械主義と神秘主義 (1)	「閉じた諸社会と開かれた社会」の検討

第 19 回　最後の指摘―機械主義と神秘主義 (2)　「自然的なものの存続」の検討
第 20 回　最後の指摘―機械主義と神秘主義 (3)　「自然的な社会の諸性格」の検討
第 21 回　最後の指摘―機械主義と神秘主義 (4)　「自然的社会と民主主義」の検討
第 22 回　最後の指摘―機械主義と神秘主義 (5)　「自然的な社会と戦争」の検討
第 23 回　最後の指摘―機械主義と神秘主義 (6)　「戦争と産業時代」の検討
第 24 回　最後の指摘―機械主義と神秘主義 (7)　「諸傾向の進化」の検討
第 25 回　最後の指摘―機械主義と神秘主義 (8)　「「二分法」と「二重狂乱」の検討
第 26 回　最後の指摘―機械主義と神秘主義 (9)　「単純な生活への回帰は可能か」の検討
第 27 回　最後の指摘―機械主義と神秘主義 (10)　「機械主義と神秘主義」の検討
第 28 回　授業のまとめ　ゼミで得られたことの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
―毎回、当該箇所のテキストの検討を行って授業に参加します。
―毎回、授業後にリアクション・ペーパーを作成します。
―学期に数回、発表レジュメを作成してレポーター役を果たします。
―各学期末にまとめのレポートを作成します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ベルクソン『道徳と宗教の二つの源泉』（合田正人・小野浩太郎訳、ちくま学芸文庫）

【参考書】
『思想―ベルクソン生誕 150 年』（2009 年 12 月，岩波書店）
久米博・中田光雄・安孫子信（編）『ベルクソン読本』（法政大学出版局）
平井靖史・藤田尚志・安孫子信（編）『ベルクソン「物質と記憶」を解剖する』（書肆心水）
平井靖史・藤田尚志・安孫子信（編）『ベルクソン「物質と記憶」を診断する』（書肆心水）
平井靖史・藤田尚志・安孫子信（編）『ベルクソン「物質と記憶」を再起動する』（書肆心水）

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパーを含む平常点 4 割、レジュメ発表 3 割、まとめのレポート 3 割で評価します。その際、各評価では、個々の問題の理解を 4 割、問題と他の問題とのつながりの理解を 3 割、問題と自分自身とのつながりの理解を 3 割で、勘案して行きます。

【学生の意見等からの気づき】
授業ではできるだけわれわれの日常に近い場所で考え論じるように努めます。

【Outline and objectives】
Closed society and open society
Germany, which is the nation of reason created by Kant and Hegel, succumbed to the Nazi totalitarianism as a < closed society > . At that time, Bergson was writing Two Sources of Morality and Religion (1932) . These are the words that close this book : “Mankind lies groaning, half-crushed beneath the weight of its own progress. Men do not sufficiently realize that their future is in their own hands. Theirs is the task of determining first of all whether they want to go on living or not.” Do we still have the will “to go on living” today, despite the inceasingly IT oriented and closed society? We'll consider this question together while reading Chapter 1 of Two Sources.

PHL400BB

哲学演習（2）

奥田　和夫

授業コード：A2231　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
プラトンの主著『国家』全十巻の読解（内容の理解と検討）をとおしてイデア論と関連する哲学思想、および哲人統治説に象徴される政治思想の把握と哲学的意義の考察が目的である。
今年度は昨年度に続き、第６巻から再開する。はじめに昨年度に読解した第 1 巻から第５巻までの復習を行なうので、新規の履修者も歓迎する。

【到達目標】
プラトンの主著『国家』全十巻を精読し、プラトン中期思想（中心思想）を把握しつつ、その哲学的意義を考察することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
『国家』はプラトン哲学の理解のための中心的なテクストであり、また正義と幸福と哲学というテーマをめぐって論じられる問題はきわめて多岐にわたる。この著作は今日の哲学的問題や現代社会の課題を考察する際にも、多くのヒントを提供する、文字どおりの古典中の古典である。この著作を翻訳をとおしてではあるが、精読・吟味する。必要な箇所は原文と英訳等を参照しつつ内容理解を深める。
履修者による「担当箇所の内容要旨・問題点・考察」の発表および発表者と参加者との討議によりすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 巻の復習	老年論から正義論へ
第 2 回	第２巻の復習	主題の再設定：真の正義とは何か。国家と守護者
第 3 回	第３巻の復習	守護者の教育、資質、選抜
第 4 回	第４巻の復習	守護者の任務等　国家の四元徳、魂の三区分説
第 5 回	第５巻の復習	守護者の諸規定、哲人統治説
第 6 回	第 6 巻第 1 － 7 章の検討・理解	哲学者の政治（統治）的資質
第 7 回	同巻第 8 － 14 章の検討・理解	非哲学と哲人統治
第 8 回	同巻第 15 － 21 章の検討・理解	善のイデア（太陽の比喩）、線分の比喩
第 9 回	第 7 巻第 1 － 6 章の検討・理解	洞窟の比喩
第 10 回	同巻第 7 － 12 章の検討・理解	哲学者のための高度教育：数学的諸学科
第 11 回	同巻第 13 － 18 章の検討・理解	ディアレクティケーと高度教育プログラム
第 12 回	第 8 巻第 1 － 6 章の検討・理解	不正な国家と人間：名誉支配制
第 13 回	不正な国家と人間：名誉支配制	承前：寡頭制、民主制
第 14 回	同巻第 13 － 19 章の検討・理解	承前：民主制と僭主独裁制 春学期のまとめ

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	第 9 巻第 1 － 4 章の検討・理解	承前：僭主独裁制
第 16 回	同巻第 5 － 8 章の検討・理解	もっとも不幸な人間ともっとも幸福な人間
第 17 回	同巻第 9 － 13 章の検討・理解	幸福と正義
第 18 回	第 10 巻第 1 － 10 章の検討・理解	ミーメーシス（模倣）としての詩論
第 19 回	同巻第 11 － 16 章の検討・理解	魂の不死と正義の報酬 全体のまとめ
第 20 回	『国家』の主題検討 1	正義論
第 21 回	同　上 2	国家論
第 22 回	同　上 3	魂論
第 23 回	同　上 4	哲学と政治 哲人統治
第 24 回	同　上 5	不正な国家 1

第 25 回	同　上 6	不正な国家２
第 26 回	同　上 7	正義と幸福　不正と不幸
第 27 回	履修者の発表１	テーマ別発表１
第 28 回	履修者の発表２	テーマ別発表２ まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プラトン『国家』全巻を精読する。プラトンの考えの是非とその理由を考える。また、参考書を読み、参考にすべき意見と批判すべき意見をその理由とともに考える。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プラトン『国家』（上・下）（藤沢令夫訳　岩波文庫）各自用意すること。

【参考書】
田中美知太郎『プラトン』Ⅰ―Ⅳ（岩波書店）
藤沢令夫『プラトンの哲学』（岩波新書）
加来彰俊『プラトンの弁明』（岩波書店）
内山勝利『プラトン『国家』逆説のユートピア』（岩波書店）
小池澄夫『イデアへの途』（京都大学学術出版会）
納富信留『プラトン理想国の現在』（慶応義塾大学出版会）
その他の専門書等は随時、紹介する。

【成績評価の方法と基準】
演習での発表、討議への参加・貢献度（50%）と、2 回の期末レポートの内容（50%）とを理解度に照らして評価する。

【学生の意見等からの気づき】
正確な読解力を鍛えること。

【学生が準備すべき機器他】
なし　ただし、Hoppii への投稿などのために PC 等が必要となる。

【その他の重要事項】
な　し

【Outline and objectives】
In this class we read PLato's "Republic." Plato wrote it in his middle period, and it contains his main thoughts. We will aim to understand and estimate them.

PHL400BB

哲学演習（3）

菅沢　龍文

授業コード：A2232　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カントの哲学思想は人類の持続可能性について何を語るだろうか。ゼミではこのような関心から、カントの次の小作品群を読んで検討する。『啓蒙とは何か』、『世界市民という視点から見た普遍史の理念』、『人類の歴史の憶測的な起源』、『万物の終焉』、『永遠平和のために』。現代は地球温暖化や地球規模での人口の爆発的増大などの現象が、人類の持続可能性に大きな脅威となっている。そこでそもそも、人類の存続の意味は何なのか、についてカントが提示する理念の観点で考察する。

【到達目標】
［知識］カントの思想を中心に、人類史や道徳、政治、宗教についてさまざまな考え方を知ることができる。
［態度］広く知識を求め、さまざまな視点から哲学的、論理的にものごとを深く考える態度を身につけることができる。
［能力］思想書を読んでその内容について理解し、整理し、伝達し、意見交換でき、自分の考えを養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）授業の初めに、前回で提出された課題プリントについての気づきを、フィードバックします。
（2）複数人の担当者で分担してテキストのレポートをし、これについて質疑応答する。
（3）課題プリントの課題について、グループで他人の考えを聞き、自分の考えを述べ、質疑応答のなかで、自分の考えを深め、その考えを書いて提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミの内容についての紹介
第 2 回	『啓蒙とは何か』前半（10-18 頁）	◇啓蒙の定義 ◇未成年状態 ◇理性の公的な利用と私的な利用（使用）
第 3 回	『啓蒙とは何か』後半（19-27 頁）	◇人間性の根本的規定（人類の根本的使命） ◇君主と啓蒙
第 4 回	『世界市民という視点からみた普遍史の理念』上（32-43 頁）	◇自由な意志と自然の意図 ◇自然の意図 ◇非社交的な社交性
第 5 回	『世界市民という視点からみた普遍史の理念』中（43-52 頁）	◇市民社会と支配者 ◇国際的な連合（連盟） ◇永遠平和と自然の目的
第 6 回	『世界市民という視点からみた普遍史の理念』下（53-65 頁）	◇世界市民状態と人類の道徳化 ◇自然の計画 ◇啓蒙と人類の歴史
第 7 回	『人類の歴史の憶測的な起源』上（70-80 頁）	◇憶測による歴史 ◇エデンの園 ◇想像力・理性・不安
第 8 回	『人類の歴史の憶測的な起源』中（81-90 頁）	◇自然の目的そのものとしての人間 ◇自然の歴史と自由の歴史 ◇文化と自然
第 9 回	『人類の歴史の憶測的な起源』下（91-103 頁）	◇狩猟、農耕・牧畜 ◇統治機構と都市 ◇摂理そして戦争・寿命・永遠の平和
第 10 回	『万物の終焉』上（110-118 頁）	◇永遠 ◇最後の審判 ◇救い
第 11 回	『万物の終焉』中（118-129 頁）	◇世界の終焉 ◇終焉の理念と三つの終焉 ◇反自然的な万物の終焉
第 12 回	『万物の終焉』下（129-140 頁）	◇神秘的な万物の終焉 ◇摂理 ◇キリスト教そして愛・自由・報い
第 13 回	振り返って考えを深める（期末レポート発表会Ⅰ）	(1)『啓蒙とは何か』 (2)『世界市民という視点からみた普遍史の理念』

第 14 回	振り返って考えを深める（期末レポート発表会Ⅱ）	(3)『人類の歴史の憶測的な起源』 (4)『万物の終焉』

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	『永遠平和のために』（148-156 頁）	◇政治家と学者 ◇停戦条約と平和条約 ◇国家・常備軍・軍事国際・内政干渉
第 16 回	『永遠平和のために』（156-164 頁）	◇卑劣な戦略・懲罰戦争・絶滅戦争 ◇許容法則 ◇平和状態
第 17 回	『永遠平和のために』（164 － 175 頁）	◇共和的な体制と自由・法の支配・平等 ◇共和制と戦争 ◇共和制と専制
第 18 回	『永遠平和のために』（175-185 頁）	◇国際的な連合 ◇平和連盟 ◇国際国家
第 19 回	『永遠平和のために』（185-191 頁）	◇訪問の権利 ◇訪問と征服 ◇世界市民法
第 20 回	『永遠平和のために』（191-198 頁）	◇永遠平和の保証 ◇摂理 ◇自然の配慮
第 21 回	『永遠平和のために』（199-207 頁）	◇戦争 ◇自然の意図 ◇天使の国と悪魔の国
第 22 回	『永遠平和のために』（207 － 213 頁）	◇世界王国 ◇商業の精神 ◇法律家と哲学者
第 23 回	『永遠平和のために』（214-224 頁）	◇政治と道徳 ◇道徳的な政治家 ◇実務的な法律家
第 24 回	『永遠平和のために』（224-234）	◇実務家の詭弁的な原則 ◇政治的な道徳家 ◇国家戦略と国家政策
第 25 回	『永遠平和のために』（234-244）	◇道徳と政治の争い ◇公開性と正義 ◇暴君への反乱
第 26 回	『永遠平和のために』（244-253）	◇国際法における公開性 ◇政治の策略、二枚舌 ◇永遠平和という課題
第 27 回	振り返って考えを深める（期末レポート発表会Ⅰ）	(1) 共和制 (2) 国際連合（連盟）
第 28 回	振り返って考えを深める（期末レポート発表会Ⅱ）	(3) 永遠平和の保証 (4) 道徳と政治 (5) 永遠平和

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。
［予習］ゼミで取り上げるテキストの該当箇所を読み込んでおく。レポート担当者はゼミで配布・説明するために、担当箇所の内容を整理して考察を加えたプリントを作成しておく。
［復習］ゼミで取り上げたテキストを読み返して、不消化であった点について考えてよく消化しておく。

【テキスト（教科書）】
カント『永遠平和のために／啓蒙とは何か 他３編』中山元 訳、光文社古典新訳文庫

【参考書】
○カント『啓蒙とは何か　他四篇』篠田英雄 訳、岩波文庫
○カント『永遠平和のために』宇都宮芳明 訳、岩波文庫
○中島義道『晩年のカント』講談社現代新書
※その他必要に応じてゼミで紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価基準】
（1）出席および参加態度と、毎回の課題レポート
（2）セメスター末の期末レポート
（1）を７割、（2）を３割として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業では、聞き取りやすい発声を心がける。

【Outline and objectives】
What would Kant's philosophical thoughts tell us about the sustainability of humankind? To investigate into this question we read and examine the following works of Kant: *What is Enlightenment? Idea for a Universal History from a Cosmopolitan Point of View*, *Conjectural beginning of human history*, *The End of All Things*, *Toward Perpetual Peace*. Today it is the global worming, the explosive increase in population, and so on, which are terrible threat against the sustainability of humankind. Therefor we now investigate the meaning of the existence of humankind from the viewpoint of Kant's ideas.

PHL400BB

哲学演習（4）

酒井　健

授業コード：A2233　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1）哲学と芸術の交わりを大きな課題に掲げる。
2）フランス現代思想の広さと深さを学ぶ。ドイツ語圏の思想家や表現者にも問いかける。
3）芸術、共同体、宗教、政治、性などアクチュアルな問題とのつながりを学んでいく。

【到達目標】
ジョルジュ・バタイユの『至高性』（『呪われた部分』第３巻、遺作）を中心にして、人間にとって何が最も大切なことなのか、人間性の本質について考えていく。至高性の定義から出発し、ニーチェの哲学、カフカの世界、さらにベケットの小説へ考察を進めていく。理性と非理性のかかわりから近代社会を捉えなおし、芸術の問題へ視野を広げていく。
1. 近代社会に対する非理性の位置を学ぶ＝人間の無益な欲望の発露を本来的と捉えるバタイユの視点から近代社会の問題点を摘出する。
2. 理性の可能性と限界に関して哲学的に考察を進める＝「知る」と「表現する」という理性の働きの可能性と限界について新たな見方を手に入れる。
3. 近代社会における芸術の意義を確認する＝近代社会においては単なる娯楽や趣味とみなされがちな芸術作品の享受について、その本来的な意義をしっかり認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
1）学生の発表が中心になる。
2）今年度の開校日は 4 月 8 日木曜日（3 時限）とする。原則として教室での対面授業を予定しているが、社会状況に応じてオン・ラインでのズーム授業に転じる場合もある。
3）課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。また優れた課題回答に対しては授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	この演習の特色を紹介。
第 2 回	フランス現代思想とバタイユの紹介	20 世紀から今日まで世界の思想界をリードしてきたフランス現代思想の歴史とバタイユの思想の概要を紹介
第 3 回	『至高性』第 1 回	『呪われた部分』について、およびその第 3 巻として構想された『至高性』の概要説明
第 4 回	『至高性』第 2 回	『至高性』第 1 部「至高性の意味するもの」第 1 章「至高性の認識」（邦訳 8 － 14 頁）の学生発表。
第 5 回	『至高性』第 3 回	『至高性』第 1 部第 1 章（邦訳 14 － 20 頁）の学生発表。
第 6 回	『至高性』第 4 回	『至高性』第 1 部第 1 章（邦訳 20-32 頁）の学生発表
第 7 回	『至高性』第 5 回	『至高性』第 1 部第 2 章「至高性の概要」（邦訳 33-39 頁）の学生発表
第 8 回	『至高性』第 6 回	『至高性』第 1 部第 2 章（邦訳 40-50 頁）の学生発表
第 9 回	『至高性』第 7 回	『至高性』第 1 部第 3 章「至高性の認識の歴史的展開」（邦訳 51-55 頁）の学生発表
第 10 回	『至高性』第 8 回	『至高性』第 1 部第 3 章（邦訳 56-70 頁）の学生発表
第 11 回	『至高性』第 9 回	『至高性』第 1 部第 4 章「至高者と主体の同一性」（邦訳 71-78 頁）の学生発表
第 12 回	『至高性』第 10 回	『至高性』第 1 部第 4 章（邦訳 78-88 頁）の学生発表
第 13 回	『至高性』第 11 回	『至高性』第 1 部第 4 章（邦訳 89-96 頁）の学生発表
第 14 回	『至高性』第 12 回とまとめ	『至高性』第 1 部第 4 章（邦訳 97-108 頁）の学生発表と学期末課題の提示

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	『至高性』第 13 回	第 4 部「ニーチェにおける至高なもの」第 4 章「現代と至高な芸術」（邦訳 312-322 頁）の学生発表
第 16 回	『至高性』第 14 回	第 4 部第 4 章（邦訳 322-332 頁）の学生発表
第 17 回	『至高性』第 15 回	第 4 部第 5 章（邦訳 333-337 頁）の学生発表
第 18 回	『文学と悪』第 1 回	「まえがき」（邦訳 13-15 頁）および「カフカ」の章（邦訳 232-234 頁）の学生発表
第 19 回	『文学と悪』第 2 回	「カフカ」の章（邦訳 234-240 頁）の学生発表
第 20 回	『文学と悪』第 3 回	「カフカ」の章（邦訳 241-250 頁）の学生発表
第 21 回	『文学と悪』第 4 回	「カフカ」の章（邦訳 250-257 頁）の学生発表
第 22 回	『文学と悪』第 5 回	「カフカ」の章（邦訳 257-264 頁）の学生発表
第 23 回	「モロイの沈黙」第 1 回	バタイユのベケット論「モロイの沈黙」（邦訳 84-89 頁）の学生発表
第 24 回	「モロイの沈黙」第 2 回	バタイユのベケット論「モロイの沈黙」（邦訳 90-93 頁）の学生発表
第 25 回	「モロイの沈黙」第 3 回	バタイユのベケット論「モロイの沈黙」（邦訳 94-98 頁）の学生発表
第 26 回	「モロイの沈黙」第 4 回	バタイユのベケット論「モロイの沈黙」（邦訳 98-102 頁）の学生発表
第 27 回	バタイユの文学論について	バタイユの至高性と文学の関係に関する学生の発表
第 28 回	まとめ	秋学期の復習をかねた記述論文テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. バタイユおよびニーチェの入門書、さらにカフカ、ベケットの小説を読んでおくこと。
2. 課題の優秀回答を毎回公表するので、それを参考にして各自、書き方から思想内容までしっかり確認しておくこと。
3. 本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
1）ジョルジュ・バタイユ著『至高性』湯浅博雄・中地義和・酒井健訳、人文書院
2）ジョルジュ・バタイユ著『文学と悪』山本功訳、ちくま学芸文庫
3）ジョルジュ・バタイユ著『詩と聖性』所収の「モロイの沈黙」古屋健三訳、二見書房『バタイユ著作集』第 13 巻

【参考書】
酒井健著『バタイユ入門』ちくま新書
永井均著『これがニーチェだ』講談社現代新書
酒井健著『特講　私にとっての文学部』景文館書店（2021 年 4 月出版予定）

【成績評価の方法と基準】
1）上記「到達目標」に記した 3 つの目標をどれだけ達成しているかに基準をおく。
2）授業での発表（25 %）、その際作成し配布される発表原稿（25 %）、毎回の課題への回答（25 %）期末のレポート・テスト（25 %）によって判定する。

【学生の意見等からの気づき】
とくにない。

【学生が準備すべき機器他】
とくにない。

【その他の重要事項】
発表をしっかり行うこと。無断欠席は厳禁。

【Outline and objectives】
This course introduces breadth and depth of French modern thought especially through our current problems as art, community, politics and sexuality.

PHL400BB

哲学演習（5）

笠原　賢介

授業コード：A2234　｜　曜日・時限：**月曜 3 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
不確実な今の時代を考え、生きてゆくうえで見落とすことのできない哲学者ニーチェを取り上げます。
前年度に引き続き、ニーチェ哲学のエッセンスが詰まった断章集『悦ばしき知恵』を読みます。同じ時期に書かれた『ツァラトゥストラ』との関係、ニーチェ哲学の現代哲学・思想・芸術への影響、哲学の伝統との関係にもふれてゆきます。
一般に流布されたニーチェについての既成観念を取り払って、ニーチェの言葉に直接耳を傾け、対話・討論することを目指します。

【到達目標】
ニーチェのテクストに直接触れ、討論を通して、ニーチェ哲学についての理解を深める。一般に流布されたニーチェ像を越えて、ニーチェ哲学の現代的な意義、魅力、問題点を各人の目でとらえ、討議する。現代哲学・思想、芸術に与えた影響、哲学の伝統との関係、ニーチェの時代のコンテクストをとらえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
はじめに『悦ばしき知恵』のいくつかの断章でニーチェの考え方の特徴を確認した後、授業計画に示したテーマごとに断章を選んで読み進めます。
テクストは『愉しい学問』（森一郎訳）講談社学術文庫を用います。
毎回、取り上げるテーマと報告者を決めて進めてゆきます。報告者は、レジュメを作成し、担当箇所を解きほぐして、問題点や疑問点を提起します。討論を通して、複数の視点から内容への理解を深めるという形で進めます。
リアクション・ペーパーにおける良いコメントは授業内で紹介し、討論に生かします。課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通して行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進め方について。ねらい。ニーチェと『悦ばしき知恵』についての導入的な話。
第 2 回	さまざまなニーチェ像・ニーチェ理解	参加者のニーチェについての理解を出し合いながら、ニーチェ像の多様性を確認し、今後の読み進めの方向性を探ります。以下の進度は、おおよその目安です。
第 3 回	『悦ばしき知恵』（1）ニーチェの言葉の魅力	『悦ばしき知恵』の読みやすい断章を取り上げ、ニーチェの言葉の魅力をとらえます。
第 4 回	『悦ばしき知恵』（2）ニーチェの言葉の魅力	引き続き『悦ばしき知恵』の読みやすい断章を取り上げ、ニーチェの言葉の魅力をとらえます。
第 5 回	『悦ばしき知恵』（3）〈考えること〉と〈生きること〉	ニーチェがなぜ断章という表現形式で書いたのか、そこにはどのような哲学が潜んでいるのかを考えます。
第 6 回	『悦ばしき知恵』（4）〈考えること〉と〈生きること〉	引き続き断章という表現形式を採用したニーチェの考え方、哲学を探ります。
第 7 回	『悦ばしき知恵』（5）〈知ること〉〈真理〉〈学問/科学〉をめぐって	〈知ること〉〈真理〉〈学問/科学〉をめぐる断章を取り上げ、〈遠近法〉というニーチェの考えを検討します。
第 8 回	『悦ばしき知恵』（6）〈知ること〉〈真理〉〈学問/科学〉をめぐって	引き続き〈知ること〉〈真理〉〈学問〉をめぐる断章を取り上げ、〈系譜学〉というニーチェの考えを検討します。
第 9 回	『悦ばしき知恵』（7）ニーチェと西洋哲学の伝統	ニーチェが〈真理〉をめぐる西洋哲学の伝統とどのように対決したのか、関連する断章を取り上げて考えます。
第 10 回	『悦ばしき知恵』（8）ニーチェと西洋哲学の伝統	ニーチェは、哲学の伝統を全否定しているのではなく、多面的に見ていることをプラトン、デカルトを論じた断章によって確認します。
第 11 回	『悦ばしき知恵』（9）〈神の死〉をめぐって	〈神の死〉が語られた断章を取り上げ、その意味を考えます。

第 12 回	『悦ばしき知恵』(10)〈神の死〉をめぐって	引き続き〈神の死〉が語られた断章を取り上げ、その意味を考えます。
第 13 回	『悦ばしき知恵』(11)ニーチェと相対主義、ニヒリズムの問題	これまで取り上げたテーマを踏まえて、ニーチェは相対主義者、ニヒリストなのかを討論します。
第 14 回	春学期のまとめ	期末レポートの執筆を見すえながら、春学期に取り組んだ内容を振り返り、討論とまとめをおこないます。春学期レポート課題の提示。

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	春学期のふりかえりと秋学期の展望	春学期の内容を整理し、秋学期の内容を展望します。配布のプリントによって討議します。
第 16 回	『悦ばしき知恵』(12)〈行動〉と〈運命愛〉	〈行動〉〈運命愛〉〈愛〉が語られた断章を取り上げ、考えます。
第 17 回	『悦ばしき知恵』(13)〈行動〉と〈運命愛〉	引き続き〈行動〉〈運命愛〉〈愛〉が語られた断章を取り上げ、掘り下げます。
第 18 回	レポートに基づく発表(1)	春学期のレポートのいくつかについて、執筆者が発表をし、皆で討議します。
第 19 回	レポートに基づく発表(2)	春学期のレポートのいくつかについて、執筆者が発表をし、皆で討議します。
第 20 回	『悦ばしき知恵』(14)〈時間〉〈瞬間〉をめぐって	〈時間〉〈瞬間〉をめぐる思索が示された断章を取り上げ、『ツァラトゥストラ』と関連させて考えます。
第 21 回	『悦ばしき知恵』(15)〈時間〉〈瞬間〉をめぐって	引き続き〈時間〉〈瞬間〉をめぐる思索が示された断章を取り上げ、『ツァラトゥストラ』と関連させて考えます。
第 22 回	卒業論文の中間発表(1)	卒論執筆予定者が内容の要点を発表し、質疑応答と討議をおこないます。
第 23 回	卒業論文の中間発表(2)	卒論執筆予定者が内容の要点を発表し、質疑応答と討議をおこないます。
第 24 回	『悦ばしき知恵』(16)〈芸術〉/〈制作〉をめぐって	ニーチェの〈芸術〉観が示された断章を取り上げ、その内容をとらえます。
第 25 回	『悦ばしき知恵』(17)〈芸術〉/〈制作〉をめぐって	ニーチェの〈芸術〉観が示された断章を取り上げ、一年間で明らかになったこととの関連を考えます。
第 26 回	『悦ばしき知恵』(18)〈音楽〉をめぐって	〈音楽〉を論じた断章を取り上げ、その哲学的意味を考えます。
第 27 回	哲学者たちのニーチェ理解	ヤスパース、ハイデガー、ビヒトのニーチェ解釈を示して、これまでに学んだ内容と関連させて考えます。
第 28 回	全体のまとめ。	期末レポートの執筆を見すえながら、今年度に取り組んだ内容をふりかえり、まとめをおこないます。秋学期レポート課題の提示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り上げる断章をあらかじめ読んでゼミにのぞむこと。各回の担当者は、担当箇所についてプリントをあらかじめ作成すること。補いの資料を配布した場合には、それを読んでポイントを確認すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ニーチェ (森一郎訳)『愉しい学問』講談社学術文庫。

【参考書】
青木隆嘉『ニーチェを学ぶ人のために』世界思想社。渡邊二郎他編『ニーチェを知る事典』ちくま学芸文庫。ニーチェ（氷上英廣訳）『ツァラトゥストラはこう言った（上）・(下)』岩波文庫。ビヒト（青木隆嘉訳）『ニーチェ』法政大学出版局。氷上英廣『ニーチェの顔』岩波文庫。柏原啓一『総合人間学』日本放送出版協会。笠原賢介「ニーチェとプラトン」『法政大学文学部紀要』第 79 号。

【成績評価の方法と基準】
平常点（討論・質疑応答への参加、発表、リアクション・ペーパー）とレポート（春学期末、秋学期末それぞれ一回）によって、到達目標を基準にして評価します（平常点 50 %、レポート 50 %）。

【学生の意見等からの気づき】
報告、質疑応答、討論に積極的に参加してほしい。リアクション・ペーパーへの記入を積極的におこない、活用してほしい。

【学生が準備すべき機器他】
Zoom で接続可能な機器が必要である。

【Outline and objectives】
Seminar on Nietzsche's Philosophy. Key words: The Gay Science, Thus Spoke Zarathustra; Diverse interpretations on Nietzsche' thought, Nietzsche's influence to modern thoughts, Nietzsche's confrontation with the western philosophical tadition.

PHL400BB

哲学演習（6）

君嶋　泰明

授業コード：A2235　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
マルティン・ハイデガーが 1950 年代に行った、技術、テクノロジーにかんする講演「物」(1950)、「建てること、住むこと、考えること」(1951)、「技術への問い」(1953)、「科学と省察」(1953) をこの順で読んでいく。
現実のありようを目立たない仕方で規定する現代技術。その本質を「総かり立て体制」と名づけるハイデガーの技術論が、私たちの生きる現実の隠された側面をいかに照らし出すかを見きわめる。

【到達目標】
①ハイデガーの技術論の概要を理解する。
②それが自分の生きる現実にどのように関係するかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
担当者は、割り当てられた箇所のレジュメを教員の指示に従って作成し、授業で報告する。授業ではそれに基づいて全員で議論する。別途課題を課した場合、それへのフィードバックは次回授業初めに行う。
用いるテキストは、春学期と秋学期の途中までは森一郎訳『技術とは何だろうか』、秋学期の残りは関口浩訳『技術への問い』。下記「教科書」を参照。「物」、「建てること、住むこと、考えること」、「技術への問い」は前者に、「科学と省察」は後者に収められているものを用いる（「技術への問い」は後者にも収められている。講演タイトルは前者では「技術とは何だろうか」と訳されている）。
なお、以下の授業計画に記したページ数はあくまで目安であり、進度に応じて適宜変更する（「科学と省察」はおそらく読み終わらない）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概要の説明
第 2 回	レジュメ・論文作法	レジュメや論文の書き方や守るべき形式などについて説明する
第 3 回	「物」①	報告と討議（15-19 頁）
第 4 回	「物」②	報告と討議（20-24 頁）
第 5 回	「物」③	報告と討議（25-29 頁）
第 6 回	「物」④	報告と討議（30-34 頁）
第 7 回	「物」⑤	報告と討議（35-39 頁）
第 8 回	「物」⑥	報告と討議（40-44 頁）
第 9 回	「建てること、住むこと、考えること」①	報告と討議（62-66 頁）
第 10 回	「建てること、住むこと、考えること」②	報告と討議（67-72 頁）
第 11 回	「建てること、住むこと、考えること」③	報告と討議（73-77 頁）
第 12 回	「建てること、住むこと、考えること」④	報告と討議（78-82 頁）
第 13 回	「建てること、住むこと、考えること」⑤	報告と討議（83-87 頁）
第 14 回	「建てること、住むこと、考えること」⑥	報告と討議（88-91 頁）

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期のイントロダクション	春学期を振り返る
第 16 回	「技術への問い」①	報告と討議（96-101 頁）
第 17 回	「技術への問い」②	報告と討議（102-107 頁）
第 18 回	「技術への問い」③	報告と討議（108-113 頁）
第 19 回	「技術への問い」④	報告と討議（114-119 頁）
第 20 回	「技術への問い」⑤	報告と討議（120-125 頁）
第 21 回	「技術への問い」⑥	報告と討議（126-131 頁）
第 22 回	「技術への問い」⑦	報告と討議（132-137 頁）
第 23 回	「技術への問い」⑧	報告と討議（138-143 頁）
第 24 回	「技術への問い」⑨	報告と討議（144-151 頁）
第 25 回	「科学と省察」①	報告と討議（68-72 頁）
第 26 回	「科学と省察」②	報告と討議（73-77 頁）
第 27 回	「科学と省察」③	報告と討議（78-82 頁）
第 28 回	まとめ	秋学期を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。担当者は、割り当てられた箇所のレジュメを教員の指示に従って作成する。参加者は該当箇所を熟読してくる。

【テキスト（教科書）】
M. ハイデガー著・森一郎訳、『技術とは何だろうか』、講談社（講談社学術文庫）、2019 年
M. ハイデガー著・関口浩訳、『技術への問い』、平凡社（平凡社ライブラリー）、2013 年

【参考書】
適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
担当者としての評価が 50%、参加者としての評価が 50%。前者はレジュメおよび報告の内容を、後者は議論への積極的な参加とそこでの発言を評価の対象とする。そのさい、上記の到達目標がどれだけ達成されているかが主な評価基準となる。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の理解度を配慮しながら適宜解説を加えつつ授業を進める。

【Outline and objectives】
We will read Martin Heidegger's series of lectures in the 1950's concerning technology: "The Thing" (1950), "Building, Dwelling, Thinking" (1951), "The Question Concerning Technology" (1953), and "Science and Reflection" (1953). We will focus on how Heidegger's theory of technology illuminates a hidden aspect of our reality.

PHL400BB

哲学演習（7）

西塚　俊太

授業コード：A2236　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『古事記』（春学期）と和辻哲郎『倫理学』（秋学期）を読み進めることを通じて、日本思想の一端を把握していく。特に、日本近代において一体何が問われていたのか、日本の近代性とは一体いかなるものであったのか、などの点に関する理解を目指していく。

【到達目標】
・日本古典と日本近代哲学のテキストの双方を読み解くことが出来る。
・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として語ることが出来る。
・議論を通じて、自身の思考内容を深めることが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）受講者全員に『古事記』（春学期）と和辻哲郎『倫理学』（秋学期）の担当箇所を割り当てる。
（2）担当者は該当箇所に関するレジュメを作成し、講義で発表をする。
（3）その発表に基づいて、テキスト解釈について参加者全員で議論する。
（4）演習の開始時に、前回の討論の論点を講評することを通じてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の実施方法	原典を読む技法の伝達 演習の実施方法についての説明
第 2 回	参考文献の検索方法 論文形式の文章の作成技法	哲学的な論文を作成する際の技法の伝達
第 3 回	『古事記』「上つ巻」の「神生み」まで	『古事記』（新潮日本古典集成）の「神生み」まで pp.17-33（以下、ページ数は新潮日本古典集成版）
第 4 回	「上つ巻」火の神生みから三貴子の誕生まで	火の神の誕生から三貴子の誕生までの範囲 pp.34-44 の一行目まで
第 5 回	須佐之男命について	須佐之男命について言及されている箇所の考察 pp.44-58 の 4 行目まで
第 6 回	大国主神について	大国主神の事績についての検討 pp.58-77 の 5 行目まで
第 7 回	中つ国へのことむけ	高天原から中つ国へのことむけの開始の出来事の確認 pp.77-88 の 5 行目まで
第 8 回	「上つ巻」のまとめ 天孫降臨神話	「上つ巻」のまとめとしての天孫降臨神話の考察 pp.88-107
第 9 回	「中つ巻」の開始 東征の開始から崇神天皇まで	「中つ巻」の開始にまつわる戦の数々の検討 pp.108-140 の後ろから 2 行目まで
第 10 回	垂仁天皇・景行天皇	天皇として「求められる」存在であること、 倭建命の死と「英雄」であること pp.140-173 の 7 行目まで
第 11 回	成務天皇・仲哀天皇・応神天皇 「中つ巻」のまとめ	「中つ巻」のまとめ 「聖」性とは何かという点についての考察 pp.173-203
第 12 回	「下つ巻」の開始 仁徳天皇から反正天皇まで	「聖帝」と呼ばれることの意味について pp.204-225 の後ろから 6 行目まで
第 13 回	允恭天皇・安康天皇	天皇と「ならない」こと、殺害される天皇 pp.225-239 の後ろから 3 行目まで
第 14 回	「下つ巻」のまとめ 雄略天皇から推古天皇まで	一言主神とはいかなる神か 語られない天皇とはいかなる天皇か（継体天皇） pp.239-271

秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	和辻哲郎『倫理学』の企図	和辻哲郎『倫理学』に関する概要の説明
第 2 回	和辻哲郎『倫理学（一）』「人間のとしての倫理学の意義」	「世の中」かつ「人」としての「人間」についての考察 pp.19-29 の後ろから 1 行目まで（以下、ページ数は和辻哲郎『倫理学（一）』（岩波文庫）による）
第 3 回	人間として「存在」することの意味	倫理学と人間の存在の関係についての考察 pp.29-47
第 4 回	和辻倫理学の方法論	和辻倫理学の独特の方法論についての考察 pp.48-61 の 3 行目
第 5 回	西洋哲学との対比	カントの哲学・倫理学思想との対比 pp.61-74
第 6 回	考察の出発点の確認	考察の出発点としての「日常的事実」の重視 pp.75-90
第 7 回	「個人として」あること	「個人」としての存在のあり方についての検討 pp.91-113 の 3 行目まで
第 8 回	「個人的あり方」の問題	人間を「個人」として捉えることの問題性について pp.113-133
第 9 回	人間の「全体的契機」	人間が有する「全体的側面」についての考察 pp.134-153
第 10 回	和辻倫理学の「否定性」	和辻倫理学の「否定」の論理の導入についての検討 pp.154-165 の 7 行目まで
第 11 回	「否定」の論理の根本的性格	「否定」の論理が和辻倫理学においていかなる効果を発揮しているか pp.165-180
第 12 回	倫理学の根本へ	倫理学の根本の探究へ向かうにあたって、まずは西洋思想を確認する pp.181-201 の 8 行目まで
第 13 回	「自由」と「否定性」の関係	和辻倫理学においていかなる形で「自由」が語り得るのかについて pp.201-217
第 14 回	私的・公共的	私的あり方と公共的あり方の関係性についての検討 pp.219-233

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の該当箇所を熟読した上で講義に参加することが必須である。
特に、発表担当者は担当箇所を幾度も綿密に読み込んだ上でレジュメを作成することが強く求められる。
本演習の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
春学期：『古事記』（新潮日本古典集成版）
教科書として指定してあるので、参加者は各自で必ず入手した上で演習に参加すること。
秋学期：和辻哲郎『倫理学（一）』（岩波文庫、2007 年以降の版）教科書指定しておくので、参加者は各自必ず入手した上で参加すること。

【参考書】
まずは参考書などを参照せず、原典そのものにあたって入念に読み込むことが先決である。そこで理解しきれなかった点を、講義内の議論を通じて深めていくことになる。
参考文献は講義内で適宜指示していくことになるが、まずは図書館を積極的に利用し文献検索に慣れることが重要である。論文の検索については、この演習を通じて CiNii の利用に慣れていくこと。

【成績評価の方法と基準】
発表担当時の発表内容（レジュメの水準を含む）（50 %）と、講義内での発言や講義への参加姿勢（30 %）と、学期末レポート（20%）によって評価する。
講義においては毎回の発言・質問を「必須」として求めるので、事前学習として事前に該当箇所を読み込んだ上で講義に出席することが必要である。

【学生の意見等からの気づき】
発表時間と討論時間の配分がうまく機能するように調整を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】
発表担当の際には必ずレジュメを作成し配布すること。
パワーポイントを使用する場合においても、議論を展開しやすいように重要箇所はなるべく文章形式を採用すること。
パワーポイントの使用を希望する際には、前の週までに講義担当教員にその旨を連絡すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史
＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
＜主要研究業績＞
①「「ひと」であること、「私」であること―三木清の「哲学的人間学」をめぐって―」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③「『三河物語』における譜代意識の根底―「慈悲」と「情」と「武辺」との関係から―」（『倫理学紀要第 24 輯』、2017）

【Outline and objectives】
The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese philosophy through reading thoroughly "Kojiki" and "Ethics" by Watsuji Tetsuro . By the end of this course, students should be able to fully grasp the background of Japanese thought in modern times.

PHL400BB

哲学演習（8）

安東　祐希

授業コード：A2237　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
記号論理はなぜ必要か、それを用いればどのようなことがわかるのか、について学ぶ。論理的な関係については、ぼんやりとはわかったような気がしても明確な説明を求められるとむつかしい、ということも少なくないであろう。例えば、「次に当てはまる方はこの遊具に乗ることができません：心臓に持病のある方、十歳未満の方」との注意書きがあったとする。このとき、「持病のある方、十歳未満の」にある読点すなわち「、」が担っている論理的な役割は何か。「かつ」であろうか、「または」であろうか。実はどちらの解釈をとることも可能なのであるが、それはなぜか。（ただし、いずれの場合でも「心臓に持病のある十歳未満」が搭乗不可、を意味するわけではない。）この例にもあらわれるような命題の論理的な関係を解析するために、記号論理の体系とそこで成り立つ定理について学んでゆく。

【到達目標】
記号論理を用いて、命題の間に成り立つ論理的な関係を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
［授業形式：対面授業］
教科書に従い、省略されている詳細部分も含め、定義・定理・証明あるいは例を履修者が分担して発表し、それに対して教員および他の参加者により質疑応答を行う。
（発表が「課題」であり、質疑応答において「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	何をどのように学ぶか	授業概要の説明
第 2 回	命題結合記号、命題と命題関数	教科書第 1 章 §1・§2
第 3 回	全称記号と存在記号、述語・性質	教科書第 1 章 §3・§4
第 4 回	概念・条件・集合、論理記号の用例（その 1）	教科書第 1 章 §5・§6
第 5 回	多変数の命題関数、自由変数と束縛変数	教科書第 1 章 §7・§8
第 6 回	変数を含む命題、論理記号の用例（その 2）	教科書第 1 章 §9・§10
第 7 回	→ の演繹、∧ の演繹	教科書第 2 章 §1・§2
第 8 回	∨ の演繹、7 の演繹	教科書第 2 章 §3・§4
第 9 回	∀ の演繹、∃ の演繹	教科書第 2 章 §5・§6
第 10 回	〈矛盾〉の演繹、〈排中律〉の演繹	教科書第 2 章 §7・§8
第 11 回	真理値の基本性質、7 の真理値	教科書第 3 章 §0・§1
第 12 回	→ の真理値、∧ の真理値	教科書第 3 章 §2・§3
第 13 回	∨ の真理値、命題の同値	教科書第 3 章 §4・§5
第 14 回	真理値について一般的な結論と注意	教科書第 3 章 §6

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	トートロジー、論理式	教科書第 4 章 §1・§2
第 16 回	論理式の真理値、真理値の基本性質	教科書第 4 章 §3・§4
第 17 回	演繹法の無矛盾性、無矛盾性の証明はなぜ必要か？	教科書第 4 章 §5・§6
第 18 回	命題論理の完全性	教科書第 4 章 §7
第 19 回	一重棒両側矢印の定義と置換法則	教科書第 5 章 §0・§1
第 20 回	置換法則の特別な場合、∀ および ∃ との関連	教科書第 5 章 §2・§3
第 21 回	置換法則の意味、置換定理	教科書第 5 章 §4・§5
第 22 回	述語の同値	教科書第 5 章 §6
第 23 回	ド・モルガンの法則	教科書第 6 章 §0〜§2
第 24 回	双対の定理	教科書第 6 章 §3〜§5
第 25 回	いろいろな同値式	教科書第 7 章
第 26 回	対象領域	教科書第 8 章
第 27 回	命題論理と述語論理の無矛盾性	教科書付録 I
第 28 回	3 つの論理が異なることの証明	教科書付録 II

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の定理について、紙に書きながら試行錯誤して自ら証明することを目指し、充分な演習を行うこと。また、発表に際しては、行間の説明や具体例の提示などを含めて準備しておくこと。
（なお、本授業の準備・復習時間は、毎回 4 時間を標準とする。）

【テキスト（教科書）】
前原昭二『記号論理入門［新装版］』（日本評論社）2005 年［初版 1967 年］

【参考書】
G. Gentzen, Untersuchungen über das logische Schließen, *Mathematische Zeitschrift*, 39 (1935) およびその M. E. Szabo による英訳、Investigations into logical deduction, in *The collected papers of Gerhard Gentzen*, North-Holland Publishing Company, 1969

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する問題の提示・解題能力を担当箇所の発表内容（60 %）において、さらに、目標の問題全般にわたる理解度を他者担当時の質疑応答（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】
参加者間の議論がより活発となるように、ゼミの運営方法をさらに工夫したい。

【Outline and objectives】
This course deals with some theorems in symbolic logic.

PHL400BB

哲学演習（9）

中釜　浩一

授業コード：A2238　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：「心」の正体を探る。心の存在・機能、脳と心、意識と無意識、自己等に関する心をめぐる現代の議論を検討し、心はいかなる仕方で存在するのか、心と身体との関係は何か、機械は心を持てるのか、等の問題に関して、自分と異なる立場の者たちとディベートを重ねながら、自分自身の見解を確立する。

【到達目標】
ダニエル・デネット「心はどこにあるのか」（春学期）とトマス・ネーゲル「コウモリであるとはどういうことか」（秋学期）を主要なテキストとし、また、「マインズアイ」所収の他の代表的論文も対象として、心に関する現代の種々の議論を検討し、ディスカッションを通して「心」に対する理解を深めるとともに、哲学的議論・批判・応答の方法に熟達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストの各章に関して、発表者、反論者、司会者の分担を決め，担当学生とフロアー側学生による発表・コメント・討論によって授業を進める．学生間のディスカッションやディベートを主体とする。毎回全員が発表に対するコメントを提出し、次回の冒頭で教員が解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	本ゼミの目的・方法・テキストの説明	教員の説明
第 2 回	デネット「心はどこにあるのか」第一章	「心はどこにあるのか」pp.11-42
第 3 回	デネット「心はどこにあるのか」第二章（1）	「心はどこにあるのか」pp.43-79
第 4 回	デネット「心はどこにあるのか」第二章（2）	「心はどこにあるのか」pp.79-105
第 5 回	デネット「心はどこにあるのか」第三章	「心はどこにあるのか」pp.107-140
第 6 回	デネット「心はどこにあるのか」第四章 (1)	「心はどこにあるのか」pp.142-166
第 7 回	デネット「心はどこにあるのか」第四章（2）	「心はどこにあるのか」pp.166-192
第 8 回	デネット「心はどこにあるのか」第五章（1）	「心はどこにあるのか」pp.193-214
第 9 回	デネット「心はどこにあるのか」第 5 章（2）	「心はどこにあるのか」pp.215-241
第 10 回	デネット「心はどこにあるのか」第六章	「心はどこにあるのか」pp.243-265
第 11 回	デネット「私はどこにいるのか」（1）	「マインズアイ」上 pp.322-332
第 12 回	デネット「私はどこにいるのか」（2）	「マインズアイ」上 pp.332-343
第 13 回	アラン・チューリング「計算機と知能」（1）	「マインズアイ」上 pp.70-80
第 14 回	アラン・チューリング「計算機と知能」（2）	「マインズアイ」上 pp.80-93

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	反物理主義の立場	教員による解説
第 16 回	ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」（1）	ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」pp.258-267
第 17 回	ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」（2）	ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」pp.267-271
第 18 回	ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」（3）	ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」pp271-278
第 19 回	ネーゲル「汎心論」（1）	ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」pp.283-289
第 20 回	ネーゲル「汎心論」（2）	ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」pp.289-296
第 21 回	ネーゲル「汎心論」（3）	ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」pp.296-304
第 22 回	ネーゲル「主観的と客観的」（1）	ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」pp.306-313
第 23 回	ネーゲル「主観的と客観的」（2）	ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」pp.313-321
第 24 回	ネーゲル「主観的と客観的」	ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」pp.321-331
第 25 回	サール「心・脳・プログラム」（1）	「マインズアイ」下 pp.178-184
第 26 回	サール「心・脳・プログラム」（2）	「マインズアイ」下 pp.184-196
第 27 回	サール「心・脳・プログラム」（3）	「マインズアイ」下 pp.196-210
第 28 回	全体のまとめ	まとめのディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表者とコメンテータは分担部分に関するレジュメを作成する
司会者は発表者・コメンテータのレジュメをあらかじめ読んだ上で、議論をどう進めていくかのプランを立てる。
他のものは毎回のテキストを精読し，各自質問を用意しておく．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ダニエル・デネット「心はどこにあるのか」（ちくま学芸文庫）
トマス・ネーゲル「コウモリであるとはどのようなことか」（勁草書房）

【参考書】
マインズアイ（上下）TBS ブリタニカ

【成績評価の方法と基準】
授業内の発表と討論への参加）：４０％
毎回の発表へのコメント：４０％
期末レポート： 20 ％

【学生の意見等からの気づき】
司会・発表者・代表反論者以外のフロアー側の者がより多く議論に加われるように工夫する。

【Outline and objectives】
We will discuss about some of the main philosophical problems of Mind, such as its nature, its functions, the relation between Brain and Mind, computer and mind, consciousness and unconsciousness, Self etc. and try to establish our own positions concerning the nature of Mind.

PHL400BB

哲学演習（１０）

山口　誠一

授業コード：A2239　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
壮大な西洋精神の根源へ皆さんを案内し、わたしたちの生存をみちびく哲学知を学んでゆきます。そのために《運命か自由な選択か》を出発点に、ニーチェの《運命愛》/永遠回帰とヘーゲルの《愛による運命との和解》を相互補完的に対照させます。そして、両者の合流点を、運命としての自己に求めることにします。

【到達目標】
受講者が、現代世界の根本問題の哲学的表明を、ニーチェのいう運命愛に求め、その自覚を永遠回帰そしてヘーゲルの悲劇的運命論を手がかりに考えることができるようになります。関連テキスト精読と映像から思想を読み取ることによって、哲学科基礎科目やリベラルアーツ科目の基盤科目や総合科目で身に着けた理解を発展させることができるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
ニーチェ/ヘーゲルの文章を正確に読み解いて卒業論文にできるところまで理解を深めます。その際に、ヘーゲルの最新テキストも参照したりします。また、ゼミレポートでは、プレゼンテーションスキルで難解な内容をわかりやすい言葉や概念図にして説明できるようにして就業力増進にもなるようにします。ニーチェ/ヘーゲルが高く評価したイエスの運命を『ダヴィンチ・コード』などの関連シネマからも解明します。その都度講評を予定しているリアクションペーパーなどで理解度を確認しながら進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミオリエンテーション	スライドショー形式でシラバスの詳細な解説をします。
第 2 回	西洋精神の根源 (1)	シネマ『エヴァンゲリヲンQ』の世界の上映と解説
第 3 回	西洋精神の根源 (2)	シネマ『マトリックス』三部作関連シーンの上映と解説
第 4 回	ニーチェ哲学の原点の運命論 (1)	初期ニーチェ論考「運命と歴史」前半部の検討
第 5 回	ニーチェ哲学の原点の運命論 (2)	初期ニーチェ論考「運命と歴史」後半部の検討
第 6 回	運命と意志の自由との関係 (1)	初期ニーチェ論考「意志の自由と運命」前半部の検討
第 7 回	運命と意志の自由との関係 (2)	初期ニーチェ論考「意志の自由と運命」後半部の検討
第 8 回	ニーチェ哲学の核心「運命愛」	『ニーチェ・セレクション』「運命とは何か」の検討
第 9 回	運命の自覚としての永遠回帰 (1)	シネマ『ニーチェの馬』関連シーンの上映と解説
第 10 回	運命の自覚としての永遠回帰 (2)	『ニーチェ・セレクション』「『悦ばしい知識』『善悪の彼岸』における表現」の検討
第 11 回	運命の自覚としての永遠回帰 (3)	『ニーチェ・セレクション』「予言者」の検討
第 12 回	運命の自覚としての永遠回帰 (4)	『ニーチェ・セレクション』「救済」の検討
第 13 回	運命の自覚としての永遠回帰 (5)	『ニーチェ・セレクション』「幻影と謎」の検討
第 14 回	運命の自覚としての永遠回帰 (6)	『ニーチェ・セレクション』「快癒しつつある人」の検討 夏期休暇課題レポートの説明

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期の予定まとめ	夏期休暇課題レポートの回収
第 16 回	わかるヘーゲル (1)	時代への信頼と生活苦から生まれ大学哲学へ向かったヘーゲル哲学
第 17 回	わかるヘーゲル (2)	ギリシア悲劇『アンティゴネー』前半とヘーゲル
第 18 回	わかるヘーゲル (3)	ギリシア悲劇『アンティゴネー』後半とヘーゲル
第 19 回	わかるヘーゲル (4)	ヘーゲル『精神現象学』概要の解説
第 20 回	わかるヘーゲル (5)	ヘーゲル『精神現象学』「人倫」の検討
第 21 回	ヘーゲルとシェークスピア (1)	シェークスピア『マクベス』前半とヘーゲル
第 22 回	ヘーゲルとシェークスピア (2)	シェークスピア『マクベス』後半とヘーゲル
第 23 回	愛による運命との和解 (1)	ヘーゲル『キリスト教の精神とその運命』第 1 章の検討
第 24 回	愛による運命との和解 (2)	ヘーゲル『キリスト教の精神とその運命』第２章１の検討
第 25 回	愛による運命との和解 (3)	ヘーゲル『キリスト教の精神とその運命』第２章２の検討
第 26 回	愛による運命との和解 (4)	ヘーゲル『キリスト教の精神とその運命』第３章１の検討
第 27 回	愛による運命との和解 (5)	ヘーゲル『キリスト教の精神とその運命』第３章２の検討
第 28 回	愛による運命との和解 (6)	ヘーゲル『キリスト教の精神とその運命』第３章３の検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の授業で扱うテキストを事前に精読し、疑問点を明確にしておいてください。映像教材の場合には、該当作品をなるべく事前に鑑賞しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
主要テキストとしては、ニーチェ講読には、渡邊二郎編『ニーチェ・セレクション』(平凡社ライブラリー) 関連部分を用い、ヘーゲル講読には、ヘーゲル『キリスト教の精神とその運命』(平凡社ライブラリー) 関連部分を用います。なお、後者のテキストは入手困難となっているのでこちらでコピーにして配布します。また、それ以外の参考文献やデジタルメディアも、その都度こちらで用意します。

【参考書】
山口誠一著『クリエートする哲学―新行為論入門』、弘文堂、２０００年
山口誠一著『ニーチェとヘーゲル』、法政大学出版局、２０１０年

【成績評価の方法と基準】
原則として、ゼミでの発表 (30%)、ニーチェの運命愛やヘーゲルの悲劇的運命論に関する夏期課題レポート (35%) と小レポート (35%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
映像と概念図などによるわかりやすさと哲学テキストの読みの深さを調和させてゆくことを心がけたいと思います。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to provide students with an interdependent relation of Nietzsche's amor fati and Hegel's reconciliation with fate by love, with texts drawn from Japanese, German and English.

PHL400BB

哲学演習（１１）

内藤　淳

授業コード：A2240　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
佐藤岳詩『メタ倫理学入門：道徳のそもそもを考える』（勁草書房、2017 年）を精読する。善悪や道徳判断とはそもそも何なのかという分析を考えることにより、善悪の本質やそれと人間本性との関係についての洞察を深めると同時に、倫理学的な思考と議論とはどういうものかを理解することが授業の目的である。

【到達目標】
(1) メタ倫理学における基本的な理論や立場を把握し、それらの間の対立点や争点を理解する。
(2) そうした知識を踏まえて、「道徳や善悪とは何か」「なぜ道徳に従わなければならないのか」について（直感や思い付きではなく）合理的な考察に基づいて、自分なりの見方や意見を持てるようになる。
(3) 専門的な説明文章を読んで適切に理解する読解力と、その内容をレジュメや図表を使って他の人に分かりやすく説明する力を身に付ける。
(4) 自分の意見を合理的・説得的に説明する力を習得すると共に、他人の意見を聞いてその趣旨を正しく理解する力、それに対して合理的に批判・反論する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業を行う。但し、状況に応じて Zoom 等でのオンライン授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。その点を含めて、授業実施上必要な連絡や調整は適宜学習支援システムを活用しつつ行う。
毎回あらかじめ報告者と応答者、小論担当者を定め、報告者による担当箇所の内容報告と応答者による質問・意見、小論担当者による自説の主張を中心に、参加者間での討論を行う。それらを通じて、受講生各人の思考力や分析力の鍛錬を図るので、受講生には主体的な授業参加と議論、その前提となる事前の十分な準備・予習を求める。
（オンライン授業を実施した場合は、上記の報告・小論文作成に相当する課題を受講生に課し、その内容を授業の中で検討したり、添削やコメント返却を行ったりする予定である。）また、秋学期には 4 年生の卒業論文の構想報告とそれについての議論・検討も行う予定である。
なお、ここでの内容は、善悪や道徳、人間やその心理、社会に関する倫理学的・哲学的・科学的な検討がねらいであって、政治的主張やイデオロギーを唱えたり戦わせたりすることはしないので十分注意すること。
授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。開講後の議論・検討状況等に応じて、進度や検討箇所は随時柔軟に設定していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要・やり方の説明
第 2 回	進行準備	担当箇所の割り当てや役割分担の説明、授業進行に関する説明・協議など
第 3 回	テキスト第１章１～３講読	メタ倫理学の分類について
第 4 回	テキスト第１章４～５講読	メタ倫理学での問いについて
第 5 回	テキスト第２章１講読	客観主義と主観主義について
第 6 回	テキスト第２章２～３講読	道徳相対主義について
第 7 回	テキスト第３章１～２講読	錯誤理論について
第 8 回	テキスト第３章３～４講読	道徳非実在論について
第 9 回	テキスト第４章１～２講読	道徳実在論について
第 10 回	テキスト第４章３～４講読	自然主義の種類について
第 11 回	テキスト第４章５～６講読	自然主義の問題点について
第 12 回	テキスト第５章１～２講読	非自然主義的実在論の分類について
第 13 回	テキスト第５章３～４講読	非自然主義的実在論の問題点について
第 14 回	テキスト第６章１～２講読	準実在論について

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テキスト第６章３～５講読	静寂主義について
第 16 回	第１回卒論構想報告１	卒論のテーマの報告と検討（４年生の第一グループ）
第 17 回	第１回卒論構想報告２	卒論のテーマの報告と検討（４年生の第二グループ）
第 18 回	第１回卒論構想報告３	卒論のテーマの報告と検討（４年生の第三グループ）
第 19 回	テキスト第７章１～２講読	表出主義について
第 20 回	テキスト第７章３～４講読	情緒主義について
第 21 回	テキスト第７章５～６講読	指令主義について
第 22 回	第２回卒論構想報告１	卒論の内容構成についての報告と検討（４年生の第一グループ）
第 23 回	第２回卒論構想報告２	卒論の内容構成についての報告と検討（４年生の第二グループ）
第 24 回	第２回卒論構想報告３	卒論の内容構成についての報告と検討（４年生の第三グループ）
第 25 回	テキスト第８章１～２講読	認知主義について
第 26 回	テキスト第８章３～５講読	ヒューム主義について
第 27 回	テキスト第９章１～３講読	道徳の理由について
第 28 回	テキスト第９章４～７講読	道徳の本質について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
報告者は、担当箇所の内容を整理し、レジュメを作成する。応答者は担当箇所に関する疑問点・問題点をまとめておく。小論担当者は、担当箇所について自分の考えを論じた小論文を書く。その他の参加者は、テキストを予習すると共に、指示した参考書などを読んで内容を把握しておく。報告者をはじめいずれの立場においても、テキストの内容について「分かったところ」「分からないところ」を正確且つ具体的に特定できるよう求めるので、中途半端でない十分な読解を予習として行うこと。詳細は授業の中で説明する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
佐藤岳詩『メタ倫理学入門：道徳のそもそもを考える』（勁草書房、2017 年）

【参考書】
赤林朗・児玉聡『入門・倫理学』（勁草書房、2018 年）
蝶名林亮編著『メタ倫理学の最前線』（勁草書房、2019 年）
その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①担当回の報告・コメント内容、②執筆小論文の内容、③討論への参加状況・議論内容により、「到達目標」で示した (1)～(4) の達成度を評価する。①②の点数を基礎に、③の内容に応じて 0～30 %程度の範囲で加点・減点して成績を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の意見やコメントを積極的に取り上げて、討論での検討の材料にしたい。

【その他の重要事項】
授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline and objectives】
This course introduces meta-ethical theories by reading "メタ倫理学入門" (Takeshi Sato). The aim of this course is to help students acquire specialist knowledge of ethics and ethical thinking. At the end of the course, participants are expected to have their own opinions on goodness and explain them rationally.

PHL200BB

科学哲学１

中釜　浩一

授業コード：A2241　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
正しく議論を組み立て、間違った論証を見分ける技能は、あらゆる分野において重要だが、論理学を実際の議論に適用することは必ずしも容易ではない。科学哲学１では、実際の議論への応用に最も適していると思われる「タブロー法」について解説し、証明と反論の技法に習熟することを目指す。

【到達目標】
タブロー法を用いた証明のテクニックを学び，通常の論理に加えて、様相概念や時制論理への適用を可能にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と、練習問題の解答および解説によって進める。
授業の冒頭で、前回の練習問題の解答と解説、誤りやすい点の指摘等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	論理と言語	通常の論理と様相論理の違い
第 2 回	命題論理とタブロー法（その１）	命題論理と記号言語
第 3 回	命題論理とタブロー法（その２）	論証の妥当性
第 4 回	命題論理とタブロー法（その３）	論証の妥当性に関するタブロー法による解法
第 5 回	述語論理とタブロー法（その１）	述語論理の説明
第 6 回	述語論理とタブロー法（その２）	述語タブローの説明
第 7 回	述語論理とタブロー法（その３）	タブロー法を用いた妥当性の判定
第 8 回	中間のまとめ	練習問題の解答と解説
第 9 回	様相論理（１）	様相概念の説明
第 10 回	様相論理（２）	可能世界意味論
第 11 回	様相論理（３）	様相体系 K の説明
第 12 回	様相論理（４）	様相論理とタブロー法
第 13 回	様相論理（５）	タブローによる証明
第 14 回	まとめ	練習問題の解答と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題として出される練習問題を自分で解く.
論理学概論程度の内容を理解しておく.
本授業の予習復習時間は毎回 4 時間を標準とする.

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない.

【参考書】
Wilfreid Hodges, Logic (penguin books)
リチャードジェフリー「形式的論理学」（産業図書）
中釜他「論理学の初歩」（梓出版）

【成績評価の方法と基準】
授業時の練習問題の解答　30 %
中間試験　３０%
期末の試験　40 %

【学生の意見等からの気づき】
練習問題の解説を丁寧に行う。

【その他の重要事項】
科学哲学２と合わせることで、様相命題論理を一通り理解することになるので、科学哲学２を合わせて受講すること。

【Outline and objectives】
The skill of construction of valid reasonings and criticize invalid reasonings is important in any intellectual areas, but to apply logic to actual discussions is not always easy. In this lecture, we will explain the tableau method which seems to be most applicable to actual affairs, and discuss some of the topics concerning philosophy of logic.

PHL200BB

科学哲学２

中釜　浩一

授業コード：A2242　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様相（必然、偶然、可能、不可能）は、現代の哲学の理解にとって必須の概念的装置である。科学哲学２では、科学哲学１に引き続いて、様相概念の意味と、それに関わる論理に習熟することを目指し、様相体系 S4、S5 と、時制論理への応用を扱う。

【到達目標】
科学哲学１の十分な理解を前提とし、タブローの方法の様相論理の体系Ｓ４，Ｓ５までの拡張、および時制論理についての同様の取り扱いを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
講義および練習問題とその解説によって進める。
授業の冒頭で課題の解答と解説を与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	タブロー法と様相に関する復習	様々な様相概念
第 2 回	体系 T（その１）	体系 T の概念の説明
第 3 回	体系 T（その２）	タブロー法による妥当性判定
第 4 回	体系 T（その３）	反証モデル
第 5 回	体系Ｓ４（その１）	体系Ｓ４の説明
第 6 回	体系Ｓ４（その２）	タブロー法のＳ４への適用
第 7 回	体系Ｓ４（その３）	S4 反証モデル
第 8 回	中間のまとめ	練習問題の解答と解説
第 9 回	体系Ｓ５（その１）	体系 S ５の説明
第 10 回	体系 S5（その２）	S5 タブローの説明
第 11 回	体系 S ５（その 3）	S5 反証モデル
第 12 回	時制論理（その１）	時制論理の説明
第 13 回	時制論理（その２）	時間に関する様々なモデルとタブロー法
第 14 回	まとめ	練習問題の解答と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
練習問題を自分で解く。
論理学概論・科学哲学１の内容を理解しておく。
本授業の予習復習時間は毎回 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。

【参考書】
リチャードジェフリー「形式的論理学」（産業図書）
中釜他「論理学の初歩」（梓出版）Pries
Priest, An Introduction to Non-Classical Logic

【成績評価の方法と基準】
練習問題の回答：３０%
中間試験：３０%
期末の試験：４０%

【学生の意見等からの気づき】
練習問題の解説を丁寧に行う。

【その他の重要事項】
科学哲学１の内容の理解を前提とするので、科学哲学１を受講しておくこと。

【Outline and objectives】
To understand the meanings of modal concepts(necessity, contingency, possibility, impossibility) is a key to modern philosophy. We try to master some skills of modal propositional logic in terms of tableau method, and deepen our thought about modality.

PHL200BB

現代思想２（フランスの思想）１

大池　惣太郎

授業コード：A2245　｜　曜日・時限：**金曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランスの精神分析医ジャック・ラカンの講義録『精神分析の四基本概念』をじっくり講読する。同書では、精神分析の四つの基礎的概念として「無意識」と「反復」、「転移」と「欲動」が取り上げられるほか、シニフィアンの機能、対象 a の理論、疎外と主体／他者の関係など、ラカン派精神分析の重要な論点が多数扱われている。ラカンのテクストに実際に触れながら、精神分析の基本となる考え方や概念の拡がりを学ぶことが授業目的です。

【到達目標】
・ラカンのテクストに実際に触れながら、精神分析の基本となる考え方や概念の拡がりについて学び、一定程度の水準で理解すること。
・学習した知見をレポートにおいて、説得的な形で論述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・本授業はオンライン（zoom を用いた双方向ライブ式）で実施します。詳細は学習支援システム Hoppii に掲示します。
・参加者全員が指定されたテクストを読んだ上で授業に参加する。毎回、発表担当者が決められ、担当者は、指定範囲のレジュメを作成する。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・授業では、担当者が重要と思う論点や疑問点を授業内で提起し、それを受けて全体でディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の目的と進め方の説明
第 2 回	精神分析家と精神科医の違い	教科書第一節の検討
第 3 回	無意識と反復	精神分析における「無意識」と「反復」について概説
第 4 回	無意識と構造	教科書第二節の検討
第 5 回	確信の主体	教科書第三節の検討
第 6 回	シニフィアンの編み目	教科書第四節の検討
第 7 回	テュケーとオートマトン	教科書第五節の検討
第 8 回	眼と眼差しの分裂	教科書第六節の検討
第 9 回	アナモルフォーズ	教科書第七節の検討
第 10 回	線と光	教科書第八節の検討
第 11 回	絵とは何か	教科書第九節の検討
第 12 回	転位について	精神分析における転移の重要性について概説
第 13 回	ラカン的主体について	ラカン的な主体について概説
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・参加者は、指定された範囲や関連文献をあらかじめ読んだ上で授業に参加する。
・発表担当者はレジュメを作り、事前に論点や疑問点を整理して授業に臨む。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ジャック・ラカン『精神分析の四基本概念』（上・下）、岩波文庫、2020 年）。

【参考書】
ブルース・フィンク『ラカン派精神分析入門：理論と技法』（誠信書房、2008 年）
ブルース・フィンク『後期ラカン入門』（人文書院、2013 年）

【成績評価の方法と基準】
授業への発表・参加（70%）と学期末のレポート（30%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回参加者全員が必ず発言するようにし、授業内の活気を高める。

【Outline and objectives】
The aim of this seminar is to understand some fundamental ideas of the Lacanian psychoanalysis. We read mainly Jacques Lacan's most important seminar: The Four Fundamental Concepts of Psychoanalysis (1973), to obtain basic knowledge and point of view of the Lacanian psychoanalysis theory concerning the "unconscious", "repetition", "transference", "drive", etc.

PHL200BB

現代思想２（フランスの思想）２

大池　惣太郎

授業コード：A2246　｜　曜日・時限：**金曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランスの精神分析医ジャック・ラカンの講義録『精神分析の四基本概念』をじっくり講読する。同書では、精神分析の四つの基礎的概念として「無意識」と「反復」、「転移」と「欲動」が取り上げられるほか、シニフィアンの機能、対象 a の理論、疎外と主体／他者の関係など、ラカン派精神分析の重要な論点が多数扱われている。ラカンのテクストに実際に触れながら、精神分析の基本となる考え方や概念の拡がりを学ぶことが授業目的です。

【到達目標】
・ラカンのテクストに実際に触れながら、精神分析の基本となる考え方や概念の拡がりについて学び、一定程度の水準で理解すること。
・学習した知見をレポートにおいて、説得的な形で論述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・本授業はオンライン（zoom を用いた双方向ライブ式）で実施します。詳細は学習支援システム Hoppii に掲示します。
・参加者全員が指定されたテクストを読んだ上で授業に参加する。毎回、発表担当者が決められ、担当者は、指定範囲のレジュメを作成する。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
・授業では、担当者が重要と思う論点や疑問点を授業内で提起し、それを受けて全体でディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	前期内容の復習
第 2 回	分析家の現前	教科書第十節の検討
第 3 回	分析と真理	教科書第十一節の検討
第 4 回	シニフィアンと性	教科書第十二節の検討
第 5 回	欲動の分解	教科書第十三節の検討
第 6 回	部分欲動とその回路	教科書第十四節の検討
第 7 回	愛からリビドーへ	教科書第十五節の検討
第 8 回	精神分析における他者について	精神分析における他者について概説
第 9 回	疎外について	教科書第十六節の検討
第 10 回	主体と＜他者＞	教科書第十七節の検討
第 11 回	「知っていると想定された主体」	教科書第十八節の検討
第 12 回	解釈から転位へ	教科書第十九節の検討
第 13 回	「君の中に、君以上のものを」	教科書第二〇節の検討
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・参加者は、指定された範囲や関連文献をあらかじめ読んだ上で授業に参加する。
・発表担当者はレジュメを作り、事前に論点や疑問点を整理して授業に臨む。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ジャック・ラカン『精神分析の四基本概念』（上・下）、岩波文庫、2020 年）。

【参考書】
ブルース・フィンク『ラカン派精神分析入門：理論と技法』（誠信書房、2008 年）
ブルース・フィンク『後期ラカン入門』（人文書院、2013 年）

【成績評価の方法と基準】
授業への発表・参加（70%）と学期末のレポート（30%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
毎回参加者全員が必ず発言するようにし、授業内の活気を高める。

【Outline and objectives】
The aim of this seminar is to understand some fundamental ideas of the Lacanian psychoanalysis. We read mainly Jacques Lacan's most important seminar, The Four Fundamental Concepts of Psychoanalysis (1973), to obtain basic knowledge and point of view of the Lacanian psychoanalysis theory concerning the "unconscious", "repetition", "transference", "drive", etc.

ART200BB

美学・芸術学 1

武田　昭彦

授業コード：A2247　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ソクラテスからデカルトまでの美学に造形美術を関係づけながら，美学を具体的に学びます．

【到達目標】
古代ギリシアから 17 世紀のデカルトまでの哲学・美学を各時代の造形美術との関連において理解することが目標です．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
独自のテクストを作成し，それをもとに授業を行います．質問などのフィードバックは授業時間に，リアクションペーパーの場合は次回授業の最初にフィードバックを行う．
なお，春学期は，対面授業を基本とするが，コロナ・ウイルスの影響により，学習支援システムによるオンデマンド授業になる場合もあるので，その場合は学習支援システムでお知らせする．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ピュグマリオンの物語． ホメロスとヘシオドス．
第 2 回	古代哲学・美学 1	プロメテウス神話． 彫刻家・哲学者としてのソクラテス．
第 3 回	古代哲学・美学 2	プラトン『エウチュプロン』．何故ソクラテスは彫刻を捨てたのか．
第 4 回	古代哲学・美学 3	クセノポン『ソクラテス言行録』から，芸術の本質とは．
第 5 回	古代哲学・美学 4	ニーチェ『悲劇の誕生』におけるソクラテス論．
第 6 回	古代哲学・美学 5	プラトンにおける芸術と技術．
第 7 回	古代哲学・美学 6	アリストテレス『形而上学』，彫刻の 4 原因説．
第 8 回	古代哲学・美学	プロティノスの非物質主義と見えないものの再現．
第 9 回	中世哲学・美学	アウグスティヌスの彫刻に関する考え方，彫刻家の創造力の否定．
第 10 回	ルネサンスと新たな造形概念 1	天才と規則，彫刻家チェリーニの場合．
第 11 回	ルネサンスと新たな造形概念 2	天才と規則，ミケランジェロの場合．
第 12 回	古典主義美学から 18 世紀の美学 1	デカルトと古典主義美学．
第 13 回	古典主義美学から 18 世紀の美学 2	デカルトの彫刻論とロボット，芸術と科学との関係．
第 14 回	古典主義美学から 18 世紀の美学 3	バウムガルテンの『美学』とヴィンケルマンの『ギリシア美術模倣論』．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術館，ギャラリーなどには，もちろん足を運んでほしいが，公園や公共空間に置かれた彫刻にも注意を向けてほしい．本授業の準備学習・復習時間は，4 時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
独自のテクストを学習支援システムにて提供します．

【参考書】
クルターマン『芸術論の歴史』（神林・太田訳，勁草書房）

【成績評価の方法と基準】
対面授業の場合，到達目標に関する小論等の記述試験で 100 点満点で評価し，60 点以上が合格となる．
オンデマンド授業になった場合は，試験をせず，到達目標に関する３度の課題提出によって 100 %の成績評価を行うが，合格点は対面授業の場合と同じである．

【学生の意見等からの気づき】
特になし．

【Outline and objectives】
You concretely learn the aesthetics from Socrates to Descartes in relations to plastic arts.

ART200BB

美学・芸術学２

武田　昭彦

授業コード：A2248　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
カントからヘーゲルまでの美学に造形美術を関係づけながら，美学を具体的に学びます.

【到達目標】
秋学期では，春学期に学んだことの復習から始め，18 世紀以降の哲学・美学と彫刻を中心とした造形美術に関係づけながら，造形美術に対する哲学・美学側からの解釈を学び，理解することが到達目標となります.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
独自のテクストを作成し，それをもとに授業を行います．質問などのフィードバックは授業時間内に，リアクションペーパーの場合は次回授業の最初にフィードバックを行います.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期のおさらいと，秋学期の予定．勉強の仕方と成績評価について.
第 2 回	18 世紀の哲学・美学 1	ラ・メトリの『人間機械論』，コンディヤックの彫刻における感覚.
第 3 回	18 世紀の哲学・美学 2	『百科全書』の技術と彫刻の概念.
第 4 回	18 世紀の哲学・美学 3	カント美学の彫刻と技術に関する定義．天才と技術.
第 5 回	18 世紀の哲学・美学 4	オウイディウスの『変身物語とルソーの『ピグマリオン』の自己贈与.
第 6 回	19 世紀の哲学・美学	ヘルダーの『彫刻』，ピグマリオンの造形に関する夢の見地から「形と姿」について.
第 7 回	ヘーゲルの『美学講義』1	哲学と美術史.
第 8 回	ヘーゲルの『美学講義』2	芸術作品の認識，彫刻の本質.
第 9 回	ヘーゲルの『美学講義』3	彫刻の理想，美と技術.
第 10 回	ヘーゲルの『美学講義』4	彫刻の歴史，形態の歴史と分類.
第 11 回	ヘーゲルの『美学講義』5	彫刻とパトス，芸術の理想と哲学的概念.
第 12 回	ヘーゲルの『美学講義』6	彫刻・詩・哲学.
第 13 回	ヘーゲルの『美学講義』7	芸術の死と彫刻の変転．現代芸術の問題.
第 14 回	期末試験	秋学期のまとめと理解度の確認試験.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術館，ギャラリーなどへはもちろん足を運んでほしいが，公園や公共空間に置かれた立体作品にも眼を注いでほしい．本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
私の作ったテクストをプリントして配布する.

【参考書】
クルターマン『芸術論の歴史』（神林・太田訳，勁草書房）

【成績評価の方法と基準】
到達目標に関する小論等の記述試験で 100 点満点で評価し，60 点以上が合格となる.

【学生の意見等からの気づき】
特になし.

【Outline and objectives】
You concretely learn the aesthetics from Kant to Hegel in relations to plastic arts.

PHL200BB

東洋哲学史 1

青野　道彦

授業コード：A2249　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
仏教について語る際、私たちは人々の信仰や教理・教義に注目することが多いだろう。確かにそれは主要な位置を占めているが、生活規範や制度もまた重要である。本講義では、それらを示した戒律に注目して仏教について考え直したい。

【到達目標】
・仏教における戒律の概要を理解する。
・仏教の基本用語を理解する。
・仏教について戒律という側面から改めて考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。資料はスライドで提示するとともに、適宜資料を配布します。リアクションペーパーを提出いただき、その中で特に興味深い視点を提示しているものを次の講義回で取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	インドでの仏教成立及び諸地域への伝播について概説する。
第 2 回	戒律の概要	戒律の成立経緯、目的、種類、構成等について概説する。
第 3 回	仏教教団の成り立ち	仏教教団の構成、成立経緯、成立基盤について概説する。
第 4 回	入門儀礼と教育制度	出家・受戒儀礼、出家者の教育について概説する。
第 5 回	出家者の日常生活 1	出家者の衣服、食事について概説する。
第 6 回	出家者の日常生活 2	出家者の居住環境について概説する。
第 7 回	出家者の年中行事	布薩、安居、自恣、カティナ等の年中行事について概説する。
第 8 回	破戒者の処罰	仏教教団は戒律に違反した比丘をどの様に処するのか概説する。
第 9 回	懲罰制度	仏教教団は重大な違法行為、脱法行為をどの様に処すのか概説する。
第 10 回	出家者と病	病で臥せった出家者をどの様に看病し、又、看取るのか概説する。
第 11 回	出家者と死	出家者の葬儀、遺産配分について概説する。
第 12 回	現代上座部仏教の出家者	現代の上座部仏教の出家者達が古代に成立した戒律を現代社会の中でどの様に用いているのか概説する。
第 13 回	まとめ	全授業内容の再確認
第 14 回	試験	授業内容の習熟度を確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習の必要はありませんが、授業中に紹介する参考書を読んで仏教について自ら積極的に学習してください。本授業の準備学習・復習時間は、毎回 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業中に適宜資料を配布します。

【参考書】
佐々木閑『出家とはなにか』大蔵出版、1999 年。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度・コメントペーパー（20 %）を考慮しつつ、授業内容への理解度を問う試験（80 %）に基づき評価します。
※定期試験は実施しません。

【学生の意見等からの気づき】
視覚的に分かり易い資料作りを目指します。

【None】
None

【Outline and objectives】
This course gives an overview of the monastic discipline of Buddhism from ancient time to present day. Students will learn how Buddhist monasticism was established and developed and how Buddhist communities are administrated by monks and nuns.

PHL200BB

東洋哲学史２

頼住　光子

授業コード：A2250　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、東洋哲学の基礎をなす仏教を中心として、儒教や神道についてもその思惟方法を理解します。特に日本において仏教がどのように受容され日本の思想の中で展開していったのかを具体的に検討します。
この授業では、終了時に学生が以下の能力を身につけていることを目標とします。
・ 仏教、儒教、神道などの重要用語・重要概念を知っている。
・ 日本における主な思想の展開を説明できる。
・　東洋哲学の主要なテーマとなる超越、自己、世界、時間などについて、西洋哲学と比較しながら特徴を説明できる。

【到達目標】
仏教に関しては、インドから中国、日本と仏教が展開した経緯とその過程における思想の変容について理解を深めます。その際、具体的な生活文化を取り上げ、考える手掛かりとします。
また仏教、儒教、神道の世界観、人間観、歴史観の具体的に違いについても検討します。
さらに、日本思想や文化において（たとえば茶の湯や武士道など）仏教をはじめとする東洋哲学のどのような考え方が反映されているのかを考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
対面式講義を行います。フィードバック方法としては、講義の開始時に前回のまとめを実施するとともに、リアクションペーパーの中で興味深い視点を提示していたものを講義の中で取り上げ紹介いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	東洋哲学と宗教	東洋哲学の基本を形作っている仏教、儒教の教えについて概説し、神道の思惟方法についても紹介します。
第 2 回	仏教の基本思想	仏教の基本思想として、「無我」「無常」「縁起―無自性―空」等を取り上げ、それが何を意味しているのかを考えます。
第 3 回	インド、中国、日本における仏教の展開	仏教の東洋における具体的な展開について検討します。特に、中国における儒教との相克や融合、日本における神仏習合について取り上げます。
第 4 回	仏教における「食」の意味	仏教において「食」はどのような基本的意味を持っているのかを検討します。
第 5 回	仏教における「食」の諸相	部派仏教、大乗仏教、中国仏教、日本仏教のそれぞれにおける「食」の諸相を検討します。
第 6 回	武士の思想と仏教―武士とは何か	武士の倫理思想について、従来行われてきた諸説を紹介しつつ検討します。
第 7 回	武士の思想と仏教――武士の道徳と仏教との関係	武士の道徳と仏教との関係について、相互補完的関係、対立関係という 2 側面から検討します。
第 8 回	「和」とは何か	「和」について、その語源や、仏教や儒教における「和」の思想を手掛かりとして考えます。
第 9 回	『十七条憲法』における「和」	「和をもって貴しとす」の意味するところと、その現代的意義について検討します。
第 10 回	わび茶における「和敬清寂」	「和」の思想について、千利休の侘び茶の考え方を手掛かりとして考えます。
第 11 回	「和敬清寂」の空間としての茶室	「和」の思想の具体的表現としての茶室について具体例に即しながら検討します。
第 12 回	日本仏教における中世と近世	「修行」と「修養」という二つの概念を手掛かりとして、日本の中世仏教と近世仏教の思想的特徴について検討します。
第 13 回	共生の根拠	仏教、儒教、神道を取り上げて、それぞれにおける共生の根拠を探求します。
第 14 回	総括	授業の総括を行い、理解度をはかる試験をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の指定範囲を予習しておいてください。
また、適宜、手に入りやすい参考書を授業内で紹介しますので、各自、読んで内容をよく理解し復習しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
頼住光子『さとりと日本人』ぷねうま舎、２０１７年

【参考書】
手に入りやすい入門的な辞典としては『岩波 仏教辞典 第二版』（岩波書店、２００２年）をおすすめします。それ以外の参考書については、授業内で適宜、ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（８０％）+リアクションペーパー（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
仏教独自の難しい概念や言い回し等については初心者向けに丁寧に説明するように心がけます。

【Outline and objectives】
By the end of the course, students should be able to do the following:
· Recognize and recall major terms and concepts in Buddhism, Confucianism, Shintoism and so on.
· Describe and explain development of Japanese philosophy.
· Describe and explain concepts such as transcendence, self, World and time in Eastern philosophy, comparing those in Western philosophy.

PHL200BB

宗教学１（伝統宗教）１

杉本　隆司

授業コード：A2251　｜　曜日・時限：木曜 4 限
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
21 世紀にはいり、西欧世界とイスラム世界に象徴されるように宗教間の摩擦や政治的な世俗化の問題に注目が集まっている。近年も世界各地で宗教的価値をめぐる暴力が現実のものとなり、私たちにも無関係な問題ではなくなりつつある。この授業では西欧における「他者の信仰」の歴史を学び、国際社会の宗教問題を広い視野から主体的に考察する知識を身につける。

【到達目標】
世界にはキリスト教、イスラム教、仏教といった世界三大宗教はじめとして多様な宗教があります。しかしこれらをすべて「宗教」Religion という同じカテゴリーに含むような意識が西欧世界で認知されたのは、せいぜいここ２世紀のことにすぎません。この授業ではキリスト教の成立から新大陸の「発見」までを歴史的に概観し、「宗教」概念が決して普遍的なものではなく、歴史性や論争的な性格を抱えつつ成立してきた流れを具体的に理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行います。中世までもっぱらユダヤ・キリスト教だけが本当の「宗教」で、それ以外の信仰は「異教」扱いでした。「異教」概念は、それを規定する側がなにがしかの「真の宗教」を前提としている点で排除の論理が働きます。しかし近世以降この前提は「異教」との接触によりいくつかの点から揺らぎ始めます。１．古代異教の復活（ルネサンス）。２．カトリック＝異教論の登場（宗教改革）。３．新大陸の異教との遭遇（大航海時代）。おもに西洋が経験したこの３つのテーマを中心に排除の論理と「他者の信仰」との関係について、毎回資料を配りながら進めていく予定です（授業計画参照）。学期の中盤に理解度を測るために中間小テストを行い、受講者全員に答案のフィードバックを行う予定です。
なお、この授業は秋学期の「宗教学１（伝統宗教）２」と連動しているので、秋学期授業の履修を考えている学生は本講義と合わせて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のテーマの説明
第 2 回	「他者の信仰」と現代（1）	宗教間摩擦の現在
第 3 回	「他者の信仰」と現代（2）	世俗化論と「宗教」概念の再考
第 4 回	ユダヤ＝キリスト教史（1）	ユダヤ教と旧約聖書
第 5 回	ユダヤ＝キリスト教史（2）	民族宗教から世界宗教へ
第 6 回	古代・中世キリスト教（1）	異教概念の成立
第 7 回	古代・中世キリスト教（2）	教父の偶像崇拝批判
第 8 回	宗教改革と異教批判（1）	宗教改革の歴史
第 9 回	宗教改革と異教批判（2）	異教＝教皇制批判
第 10 回	宗教改革と異教批判（3）	ウェーバーの脱魔術化論
第 11 回	宗教改革と異教批判（4）	悪魔学の盛衰
第 12 回	新大陸と魂の征服（1）	大航海時代と野生宗教の遭遇
第 13 回	新大陸と魂の征服（2）	キリスト教普遍史の揺らぎ
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業の参考文献・新聞記事を載せたレジュメを配布するので、自分の問題関心に沿う文献があれば、次回までに目を通しておくのが望ましい。また、中間の小テストや期末試験の形式は授業で習ったキーワードを予めお題として出すので、その予習が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。毎回プリント配布。

【参考書】
ジル・ケペル『宗教の復讐』晶文社、1992 年
ハルバータル、マルガリート共著『偶像崇拝―その禁止のメカニズム』法政大学出版局、2007 年
木崎喜代治『信仰の運命―フランス・プロテスタントの歴史』岩波書店、1997 年
その他随時授業で指示

【成績評価の方法と基準】
出席票を配るので必ず出席すること。授業の半ばに中間小テストの実施も考えている。中間・期末試験では到達目標の理解度を見るために、授業中の質問や授業内容に加え、そこから自分の考えを展開できているかといった点も考慮する。２つの試験（目安は中間 30 %、期末 70 %）の結果と出席等を考慮して総合的な評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
板書の見易さや早口にならないよう気をつけたい。

【Outline and objectives】
In the 21st century, as symbolized by the Western world and the Islamic world, the issue of friction and secularization among religions is getting political attention. In recent years, violence over religious values has become visible around the world, and it is becoming not an issue unrelated to us either. This course introduces the history of " the beliefs of others " in Western Europe to students taking this course, and the aim of course is to help students acquire knowledge to consider the religious problems of the international community from a broad perspective.

PHL200BB

宗教学１（伝統宗教）２

杉本　隆司

授業コード：A2252　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「宗教」批判の歴史的諸相の検討。春学期の授業に引き続き、「他者の信仰」や宗教寛容論等の現代的諸問題を異教問題として歴史的に考察する。秋学期では世俗権力と教会権力の政治力学も視野に入れながらルネサンスから啓蒙思想を経由して１９世紀の宗教学の成立までを概観し、現代の政教分離の原則や近代国家と宗教の関係がどのように確立されたのかを学ぶ。

【到達目標】
宗教学の誕生は、19 世紀のキリスト教神学から宗教学（科学）への転換によって特徴づけられる。これは、中世までのように「宗教」がいわば空気のごとく自明なものではなく、近代社会のなかで解決すべき一つの「問題」（クリティックの対象）として立ち現れたという認識の転換でもある。この授業ではおもに世俗の思想家たちの異教への視線や宗教観を通して、宗教学の成立と非宗教的な（ライックな）国民国家の形成を、キリスト教（教会権力）の相対化という長期的な視点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で行います。春学期の授業では宗教の基本知識とキリスト教の成立から大航海時代までを扱い、聖書に基づく教父や神学者の異教批判を見てきました。しかし１７世紀以降、異教問題は世俗の思想家や哲学者の宗教（不）寛容論へとその文脈を移動し、「宗教」批判の諸相として西欧思想の中心テーマの一つになります。この授業では、「他者の信仰」の問題を主に近代思想史の文脈から読み直し、１９世紀に成立する宗教学や社会学がいかなる思想的背景から誕生したのかを思想家のテキストを通じて具体的に検討します（授業計画参照）。
学期の中盤に理解度を測るために中間小テストを行い、受講者全員に答案のフィードバックを行う予定です。
なお、この授業は春学期の「宗教学１（伝統宗教）１」と連動しているので、本授業の履修を考えている学生は春学期授業と合わせて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	秋学期授業への導入
第 2 回	ルネサンスとユマニスム（1）	モアのユートピア宗教
第 3 回	ルネサンスとユマニスム（2）	新プラトン主義と合理主義神学
第 4 回	理神論と自然宗教（1）	「異教徒の救い」とデカルト周辺
第 5 回	理神論と自然宗教（2）	スピノザの汎神論
第 6 回	理神論と自然宗教（3）	ロックの生得観念批判
第 7 回	啓蒙思想と宗教批判（1）	フランス啓蒙の自然宗教論
第 8 回	啓蒙思想と宗教批判（2）	ヒュームの理神論批判
第 9 回	啓蒙思想と宗教批判（3）	ド・ブロスのフェティシズム論
第 10 回	仏革命とロマン主義（1）	革命宗教と非キリスト教化運動
第 11 回	仏革命とロマン主義（2）	ドイツ・ロマン主義の宗教感情論
第 12 回	実証主義と人間の宗教（1）	フォイエルバッハの人間学とコントの社会学
第 13 回	実証主義と人間の宗教（2）	デュルケムと宗教学の制度化
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業の参考文献を載せたレジュメを配布するので、自分の問題関心に沿う文献があれば、次回までに目を通しておくのが望ましい。また、中間の小テストや期末試験の形式は授業で習ったキーワードを予めお題として出すので、その予習が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。毎回プリント配布。

【参考書】
ハンス・キッペンベルク『宗教史の発見―宗教学と近代』岩波書店、2005 年
伊達聖伸『ライシテ、道徳、宗教学』勁草書房、2010 年
宇野重規ほか『共和国か宗教か、それとも』白水社、2015 年
その他随時授業で指示

【成績評価の方法と基準】
出席を毎回確認します（欠席が過半数を超える場合は、期末試験の資格を失うので注意）。授業の半ばに中間小テストの実施も考えている。中間・期末試験では到達目標の理解度を見るために、授業中の質問や授業内容に加え、そこから自分の考えを展開できているかといった点も考慮する。２つの試験（目安は中間 30 %、期末 70 %）の結果と出席等を考慮して総合的な評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
板書の見易さや早口にならないよう気をつけたい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical aspects of criticism of "religion". Continuing from the semester of the spring semester, this course deals with the historical issues such as "beliefs of others" and religious tolerance. In the autumn semester, while also considering the political dynamics between secular state and church authority, the goals of this course are to understand the current from the Renaissance through the enlightenment thought to the establishment of the science of religion of the 19th century, and to obtain basic knowledge about the principle of contemporary separation of church and state.

PHL200BB

日本思想史 1

西塚　俊太

授業コード：A2260　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、日本の古代から近代にかけての諸思想を読み解くことを通じて、日本人がそれぞれ生きた時代の中で何を信じ、何を求め、何を喜び・怖れ、何を愛し願っていたのかを検討していくことになる。その際、「やさしさ」「かなしみ」「愛」「別れ」「祈り」「祀り」「道」などの様々なテーマのもとで考察することで、現代にも受け継がれている日本思想・日本文化の特徴を把握することを目的とする。

【到達目標】
・日本の古典から近代へといたるまでの様々なテキストを読み解くことが出来る。
・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）講義形式を基本とする。
（2）毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
（3）毎回の講義の終盤に、次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。
（4）講義の開始時に、前週に提出されたレポートからいくつかを取り上げ講評し、課題のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本思想史を学ぶことの意味	講義内容や進め方および評価方法の説明。 日本思想史とはいかなる学問分野であるのかについての説明。
第 2 回	日本思想と「自然」	日本思想における理想としての「自然」についての考察
第 3 回	別離の思想史的意義	喪失と別離についての日本思想的考察
第 4 回	「祀り」の思想	他なる世界と関係を結ぶことに関する思想史的考察
第 5 回	日本思想史における「仏教」	仏教の受容と日本化の過程についての検討
第 6 回	古の物語に見る思想	神々の世界と人間の世界とを結ぶ思想のあり方について
第 7 回	「物」語りとは	日本語の端々に現れる「物」とは一体何であるのか
第 8 回	「武」の思想	「武」の社会の人間関係のあり方についての検討
第 9 回	「決断」の思想	武の世界に生きる者たちが示した「思い切ること」の意義の考察
第 10 回	集団が生み出す論理	集団の中に生まれてくる思想のあり方について
第 11 回	国際社会と日本の伝統	映像資料を用いて、日本の伝統思想と国際化との関係を考察する
第 12 回	「型」と「道」の思想史	日本の思想史の中に現れる「型」と「道」の思想の確認と検討
第 13 回	「愛」と「粋」	「愛すること」の中に見る思想のあり方の考察
第 14 回	「糸」と「ナイルの一滴」	人と人が出会うことの奇蹟についての考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。
また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。
本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定していない。毎回の講義時に教員側が作成したレジュメを配布するので、そのレジュメを紛失しないようにファイルしておくこと。

【参考書】
参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義時に課すミニレポートの評価（45 %）と、学期末試験（55 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
正当な理由のない遅刻者に対する対応をより厳密にして、講義が途中入室者への対応で中断しないよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史
＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
＜主要研究業績＞
①「「ひと」であること、「私」であること―三木清の「哲学的人間学」をめぐって―」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③「『曾我物語』における敵討の動因――「実の父」の欠如と希求という観点から――」（『倫理学紀要第 26 輯』、2019）

【Outline and objectives】
The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading various books. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

PHL200BB

日本思想史２

西塚　俊太

授業コード：A2261　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、日本の古代から近代にかけての諸思想を読み解くことを通じて、日本人がそれぞれ生きた時代の中で何を信じ、何を求め、何を喜び・怖れ、何を愛し願っていたのかを検討していくことになる。春学期開講の「日本思想史１」よりもいっそう「原典」の読解力の養成を重視する。

【到達目標】
・日本の古典から近代へといたるまでの様々なテキストを読み解くことが出来る。
・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）「原典読解」を中心とする講義形式を基本とする。
（2）毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
（3）毎回の講義の終盤に、講義内容の確認と次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。
（4）講義の開始時に、前週の講義で課した要約課題のいくつかを取り上げ講評し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本思想史の原典を読むことの意義	講義内容や進め方および評価方法の説明。 日本思想史とはいかなる学問分野であるのかについての説明。
第 2 回	日本思想と神話世界①	『古事記』に表現されている世界像について
第 3 回	日本思想と神話世界②	『古事記』の神代と人代の世界像の相違について
第 4 回	近世世界における神話の受容と変容	本居宣長と平田篤胤における神話世界観の検討
第 5 回	近代的な「記紀神話」読解	丸山真男の記紀神話読解に関する考察
第 6 回	厭離穢土と欣求浄土	求められる「浄土」とは何か、なぜ「浄土」は求められるのか、『往生要集』を通じて考察する
第 7 回	『歎異抄』の思想①	現代人は唯円の語る「悪人」を理解出来ているのだろうか
第 8 回	『歎異抄』の思想②	騙されているとしても「信じる」とはいかなる事態か
第 9 回	王朝文化とは何か	現世で到達し得る最高のあり方とはいかなるあり様か
第 10 回	『曾我物語』の思想①	武士社会の形成の原像についての検討
第 11 回	『曾我物語』の思想②	「敵討ち」で実現された「武士」像の研究
第 12 回	『三河物語』の思想②	戦闘者としての武士の社会から官僚としての侍の社会への変様を検討する
第 13 回	『三河物語』の思想②	大久保彦左衛門はなぜ「詞がけ」を希求したのか
第 14 回	『葉隠』の思想	『葉隠』の思想を、世間に流布しているイメージを排して一から読み直していく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。
また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。
本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定していない。毎回の講義時に教員側が作成したレジュメを配布するので、そのレジュメを紛失しないようにファイルしておくこと。

【参考書】
参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】
毎回の講義時に課すミニレポートの評価（42 %）と、学期末レポート（58 %）によって評価する。
講義における質問や発言は高く評価するポイントとなる。講義後に直接質問するだけではなく、Hoppii の掲示板機能などを通じて行うことも可能である。

【学生の意見等からの気づき】
正当な理由がない遅刻者への対応を厳密にすることで、途中入室者への対応で講義が中断しないようにいっそう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】
なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本近代哲学・日本思想史
＜研究テーマ＞京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究
＜主要研究業績＞
①「「ひと」であること、「私」であること―三木清の「哲学的人間学」をめぐって―」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
②『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
③「『三河物語』における譜代意識の根底―「慈悲」と「情」と「武辺」との関係から―」（『倫理学紀要第 24 輯』、2017）

【Outline and objectives】
The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading various books. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

PHL300BB

文化史１／文化史１（資格）

伊藤　直樹

授業コード：A2262,A3851　｜　曜日・時限：**火曜 1 限**
春学期・2 単位
備考（履修条件等）：**文学部以外の学生は資格科目として履修する（A3851）**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、縦軸に古代ギリシア文化をとり、横軸に演劇をとって講義をすすめ、アリストテレスの詩学、ギリシア悲劇、ニーチェ『悲劇の誕生』などを扱います。
かつて自然は、人間の文化を制約していました。しかし、人間はその制約を一つずつ取り払って行き、現代は、その制約をなきものにしようとする勢いです。その結果のひとつがＡＩでしょう。では、科学によって取り払われてきた、その「制約」とはどんなものでしょうか。古代ギリシアの場合、それは「神の秩序」です。人間はその秩序に支配され、受け入れ、しかし反抗し、そして人間自身の秩序を生み出そうとします。ギリシア悲劇が描こうとするのは、そうしたつばぜり合いであり、それが「ドラマ」のひとつの原型となるのです。
　本講義では、このつばぜり合いとしてのドラマであるギリシア悲劇を中心に据えて講義を進めます。

【到達目標】
講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のレポートにおいて、それを行なってもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
前提として、ギリシア神話についての知識が必要なので、学習支援システムで、マンガ形式の『ギリシア神話』を資料として示します。目を通しておいてください。
はじめは、アリストテレスの『詩学』から入ります。『詩学』――と聞くと、なんだか難しそうな作品ですが、光文社古典新訳文庫の帯が、その特徴を的確に述べています。「２０００年間、クリエーターたちの必読書である。「ストーリー創作」の原点。」そのとおり、どうすればよいドラマ（悲劇）が出来上がるのか、を論じている作品です。次に、ギリシア悲劇の全体像にふれます。三大悲劇作家、アイスキュロス、ソフォクレス、エウリピデスです。とくに、ソフォクレス『オイディプス王』をていねいに解説します。〈オイディプス〉は、フロイトのエディプス・コンプレックスの元になった話ですね。ここでは神と人間が抜き差しならないしかたで対峙しています。そのうえで、この舞台の映像を観ます。さらに、ニーチェによるギリシア悲劇の解釈である『悲劇の誕生』を扱います。この著作のキーワードは「ディオニュソスとアポロン」ですね。アリストテレスや『オイディプス王』を知った目からすると、この解釈がよりよくわかるでしょう。そして最後に、ドイツの哲学者 H-G・ガダマーの『真理と方法』での芸術論を扱います。ガダマーの芸術論が念頭に置いているのは演劇です。ギリシア悲劇も射程に入っています。
毎回、リアクションペーパーを書いてもらいます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うようにします。
また、1限の授業なので、授業の前半をオンデマンドにし、後半から対面授業を行うなどの方法をとるかもしれません。これについては、受講生のみなさんと決めてゆきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	下記の【その他の重要事項】の部分を参照してください。
第 2 回	ギリシア神話について	ギリシア神話の魅力について
第 3 回	アリストテレスの『詩学』（1）	アリストテレス思想の全体像
第 4 回	アリストテレスの『詩学』（2）	アリストテレスの『詩学』について；ミメーシス、歴史との違いなど
第 5 回	アリストテレスの『詩学』（3）	アリストテレスの『詩学』続き；カタルシスなど
第 6 回	ギリシア悲劇について（1）	ソフォクレス『オイディプス王』について
第 7 回	ギリシア悲劇について（2）	『オイディプス王』を観る
第 8 回	ニーチェ『悲劇の誕生』について（1）	ニーチェ思想の全体像
第 9 回	ニーチェ『悲劇の誕生』について（2）	ディオニュソスとアポロン
第 10 回	ニーチェ『悲劇の誕生』について（3）	ソクラテス主義と悲劇の死
第 11 回	ガダマーの芸術論（1）	ガダマー思想の全体像
第 12 回	ガダマーの芸術論（2）	芸術と遊び
第 13 回	ガダマーの芸術論（3）	形態化への変貌、ミメーシスの本質
第 14 回	まとめ	授業全体を回顧してまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回の授業内容を自分なりに復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業ごとに、資料を配布する。

【参考書】
参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末のレポート 70 %、授業への積極的な貢献度（コメントカードの記述など）30 %、となります。

【学生の意見等からの気づき】
学期末の学生のコメントを紹介します。
「マンガによる解りやすいギリシア神話の理解に始まり、悲劇や芸術に対するアリストテレスやガダマー、ニーチェの思想を学んできて、今後の芸術は、これまでと異なる視点での鑑賞が可能になったように感じます。演技や芸術に対する先生の解説も自分にとっては新鮮さを感じました。文化史で取り扱った今回の内容はどれも非常に面白かったです。」
とのことでした。

【Outline and objectives】
This course deals with Greek tragedy, Aristotle's Poetics, Nietzsche's The Birth of Tragedy, etc.
The culture of human beings was once restricted by mother nature. Humans, however, resolved those restrictions one by one over time eventually removing all of them by using the natural sciences. A.I. might be one of the results of such processes.
What was that restriction in ancient Greek? It was the law and order created by gods and goddesses. Humans were ruled by the order, accepted it, but eventually resisted and tried to create their own. Greek tragedy attempts to portray those struggles, and those struggles become the basis of theatricals.
This very drama is the central theme of this course.

PHL300BB

文化史２／文化史２（資格）

伊藤　直樹

授業コード：A2263,A3852　｜　曜日・時限：**火曜 1 限**
秋学期・2 単位
備考（履修条件等）：**文学部以外の学生は資格科目として履修する (A3852)**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
まず自伝の本質とは何かということについて解説する。そのうえで、アウグスティヌス『告白』、ルソー『告白』、ゲーテ『詩と真実』、フランクリン『フランクリン自伝』、福沢諭吉『福翁自伝』を、その時代状況のなかで読み解いてゆく。その上で、受講者全員が、任意の自伝を選びそれについて発表する。最後に、レポートで、上記の自伝を読み、その内容から得たものを報告する。さらに、自分で短い自分史を書く。
昨年度、受講生が自ら取り上げた自伝には、次のようなものがあった。
○菅原孝標女『更級日記』○高田明『伝えることから始めよう』○アンデルセン『アンデルセン自伝』○立入勝義『ADHD でよかった』○中田敦彦『幸福論「しくじり」の哲学』○内田春菊『ファザーファッカー』○フランソワ・ヴィゴ=ルシヨン『ナポレオン戦争従軍記』○郎朗『奇跡のピアニスト　郎朗自伝』○朝倉未来『強者の流儀』○福本清三『どこかで誰かが見ていてくれる　日本一の斬られ役　福本清三』○般若『何者でもない』○ミシェル・オバマ『マイ・ストーリー』
いろいろあって、興味深い。

【到達目標】
この授業では、「自伝」とはなにか、また著名な自伝はどのようなものであるかを、それぞれの作品が置かれている歴史的、地理的状況を踏まえつつ解説してゆく。受講生の大半は、「自伝」という言葉を知ってはいるが、実際に「自伝」にふれたことがない。しかし、受講生は、この講義を通して、「自伝」についての確実な知識を得て、かつ複数の「自伝」に目を通したことがあることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントを用いて、自伝一般について、また重要な自伝について講義をする。毎回、リアクション・ペーパーを配布し、それに応答しつつ理解を深める。そのうえで、受講生に、任意の一つの作品をとりあげて紹介してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション　―「学生に対する評価」を中心とした、シラバスの内容説明：自伝とはなにか（1）	自伝の定義：ルジュンヌなどを手がかりに、自伝とはなにかということを明らかにします。
第 2 回	自伝とはなにか（2）	自伝において、自己を語るということについて解説します。
第 3 回	自伝とはなにか（3）	さまざまな自伝を歴史的に概観します。
第 4 回	アウグスティヌス『告白』（1）	アウグスティヌスという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第 5 回	アウグスティヌス『告白』（2）	アウグスティヌスの『告白』の構造を解明します。
第 6 回	ルソー『告白』（1）	ルソーという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第 7 回	ルソー『告白』（2）	ルソーの『告白』の構造を解明します。
第 8 回	ゲーテ『詩と真実』（1）	ゲーテという人物と彼が置かれていた時代について紹介します。
第 9 回	ゲーテ『詩と真実』（2）	ゲーテの『詩と真実』の構造を解明します。
第 10 回	『フランクリン自伝』	ベンジャミン・フランクリンという人物とその時代、そしてその自伝について紹介します。
第 11 回	『福翁自伝』	福沢諭吉という人物とその時代、そしてその自伝について紹介します。
第 12 回	自伝紹介１	受講生に、自分で選んだ自伝を紹介してもらいます。
第 13 回	自伝紹介２	前回同様、自分で選んだ自伝を紹介してもらいます。
第 14 回	まとめ	全体を振り返り、クラス全体で自伝についての意見交換をします。そしてレポート提出をしてもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
11 月末に、自伝紹介レポートを提出してもらうので、それまでの講義を受けながら、自分なりに自伝とはなにかを問い、紹介すべき自伝を探す。そのうえで、紹介文を書く。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書となるような特定のテキストは用いません。

【参考書】
取り上げる自伝は、次のものです。アウグスティヌス『告白』岩波文庫ほか、ルソー『告白』岩波文庫ほか、ゲーテ『詩と真実』岩波文庫 ほか、ベンジャミン・フランクリン『フランクリン自伝』岩波文庫、福澤諭吉『福翁自伝』岩波文庫

【成績評価の方法と基準】
自伝紹介レポートの提出および発表。（自分自身で、任意の自伝を選び、それを読んで授業内で発表する。）
課題レポート。（授業内で取り扱った自伝作品についてのレポート。）
授業への積極的な貢献度（コメントカードの記述など）３０％　レポート７０％
自伝紹介レポートでは、講義された内容を踏まえつつ、受講生自らが自伝を選定し、読んで報告する。これが課題レポート提出の必要条件となる。次いで、課題レポートでは、講義内容、自分での自伝紹介を踏まえて、さらに、講義内容で扱われたテキストに自らあたることによって、自伝の理解を確認してもらう。
※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】
昨年度受講生の感想です。（昨年度は Zoom 授業だったので、授業のはじめに受講生にインタビューするという企画をやっていましたので、その感想が入ってます。）
「この授業で自伝や自分史を考えることで自分の人生についても考えるいい機会になりました。他の人の読んだ自伝やインタビューを聞いたり、自分史エピソードを読んだりして他の人の価値観や考え方に触れるのが面白かったです。」
「毎回、授業冒頭で他の学生のインタビューを聞くのが楽しいと思いました。自分と同じ趣味の人を見つけたり、自分とはちがう趣味に新たに興味を抱いたりできて、とてもいいです。有名な自伝を学び、自分で選んだ自伝を読んで、「こんなの書けないよ」と思ったけど、今回の自分史エピソードを読むと、文章力があったり、目の付け所が独特な人のエピソードは、本当に読み応えがあって感動しました。」

【Outline and objectives】
This course deals with the autobiography. We will start with the essence of autobiography. Its essence is “an autobiography contract” according to Philippe Lejene. Then we will look into separate autobiographies, for example, Augustinus ”Confessions”, Jean-Jacque Rousseau “Confessions”, Goethe ”My Life :Poetry and Truth”, Benjamin Franklin “ Autobiography”, and Fukuzawa Yukichi “Autobiography of Fukuzawa Yukichi”. These works are considered cultural historically in this course. All students are to give a presentation about their favorite autobiography.

PHL200BB

社会思想１（社会学概論）１

岩野　卓司

授業コード：A2264　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代では人と社会の関係は希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速させているし、ケータイやメールというコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものにしている。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていき、このことを理解していくことが授業の目標である。

【到達目標】
今日、資本主義の発展は多くの問題をもたらしている。一握りの金持ちが世界の富の大半を握っているとともに、派遣労働者や失業者の数の増大が社会問題と化している。また、家族の制度が崩壊しつつある昨今、無縁社会が問題となっている。そういう状況を考えてみると、共同体や人間の共同性について模索する必要があるのではないのか。授業では、この共同性を贈与との関係から考えていく。まず資本主義の功罪を簡単に説明したあと、講義では次の４つのテーマを検討していく。（１）人類は文明化によって人肉食をなくしてきたが、臓器移植というかたちで他人の肉体の一部を所有することで、人肉食と同じことをしているのではないだろうか。他者の肉体の贈与とカニバリズムの関係を考えてみる。（２）介護やボランティアは自己犠牲や滅私奉公などの物語を通して語られてきたが、本当にそうだろうか。そこに見返りのない贈与があるのだろうか。（３）資本主義は商品の交換による利益を求める関係を人間に強いる。また、未開社会の人間関係も互酬的な贈与交換に縛られている。現代のアナキズムは、こういった人間関係の根底に見返りも求めず「ただ与えるだけ」の人間関係を見出す。こういった考え方がどう現代社会に寄与していくかについて考えていく。（４）地球温暖化によって気候変動がもたらされ、地球の危機が訪れる可能性がある。われわれは自然との関係を見直さなければならない。自然の恵み（贈与）をどうとらえていけばいいのかを考えてみる。
授業では、これらのテーマを通して、贈与と共同体についての理解を深めることを目標にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式
毎回、前回の授業の復習をしたうえで、授業をすすめていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	共同体とは何か？ 贈与とは何か？
第 2 回	資本主義と無縁社会	行き過ぎた資本主義による人間関係の希薄化を検討。
第 3 回	肉食をどう考えるか。	宮沢賢治に例をとりながら肉食の禁止について考えてみる。
第 4 回	どうして人肉食は禁止されているのか。	カニバリズムと人間の本質
第 5 回	臓器移植と人肉食	臓器移植は人肉食の現代版というレヴィ＝ストロースの考えの検討。
第 6 回	ケアの倫理	人にサービスしたくなる感情、社会におけるケアの問題点。
第 7 回	ボランティアの哲学	ボランティアは純粋な贈与か。
第 8 回	相互扶助	資本主義に対抗する人間関係。互酬的ではない贈与の可能性。
第 9 回	現代アナキズムの可能性	グレーバーの『負債論』の検討。
第 10 回	利益に縛られない共同性	財産の私有によるのでもなければ財産の共有によるのでもない人間の共同性。
第 11 回	気候変動にどう対処すべきか？	自然の恵み（贈与）の再解釈。
第 12 回	コモンズ（共有されるもの）の可能性	共有地からはじまり空気、水、海に至るまでの共有物をどう考えていくべきか。
第 13 回	「所有」から「贈与」へ	人間どうしの関係や人間と自然との関係の根本にある贈与を考えてみる。
第 14 回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で配布したプリントや参考文献に基づいて復習し、自分の日常や取り巻く社会との
関係に照らし合わせて、よく考えてみること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業でプリントを配布
岩野卓司『贈与論　資本主義を突き抜けるための哲学』（青土社）

【参考書】
モーリス・ブランショ『明かしえぬ共同体』（ちくま文庫）
岩野卓司編『共にあることの哲学』（書肆心水）
岩野卓司編『共にあることの哲学と現実』（書肆心水）
マルセル・モース『贈与論』（岩波文庫）
森元斎『アナキズム入門』（ちくま新書）
栗原康『大杉栄伝』（夜光社）
栗原康『現代暴力論』（角川新書）
デヴィッド・グレーバー『負債論』（以文社）
アナ・チン『マツタケ』（みすず書房）
クロード・レヴィ＝ストロース『われらみな食人種（カニバル）』（創元社）
NHK スペシャル取材班『無縁社会』（文春文庫）
クロポトキン『相互扶助論』（同時代社）
平川克美『２１世紀の楕円幻想論』（ミシマ社）
ファビエンヌ・ブルジェール『ケアの倫理』（白水社）
仁平典宏『「ボランティア」の誕生と終焉』（名古屋大学出版会）
斉藤幸平『大洪水の前に』（堀之内出版）
斉藤幸平編『未来への大分岐点』（集英社新書）
中沢新一『カイエ・ソヴァージュ』（講談社）
中沢新一『日本の大転換』（集英社新書）
『宮沢賢治全集』（ちくま文庫）
金山秋男編『日本人の魂の古層』（明治大学出版会）

【成績評価の方法と基準】
平常点（３０％）と学期末の試験（７０％）
到達目標がどれだけ反映されているかが成績評価の規準となる。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
外国語の能力は必要とされない。社会思想の予備知識もいらない。

【Outline and objectives】
In modern times the relationship between people and society is becoming thin.　The spread of video games and the Internet has accelerated the isolation of human beings and the development of communication means such as mobile phones and e - mails, on the contrary, makes the "raw" human relationship less obscure.　Even though it is not a withdrawal or a geek, modern society forces people to live "lonely". However, although interpersonal relationships are scarce, we are subject to various social constraints as they try to be conscious of themselves.　"Nationality", "Law", "Age", "Fashion", "Media" and so on. In the lesson, it is the goal of the lesson to think about how human beings are "social animals" and to understand this.

PHL200BB

社会思想１（社会学概論）２

岩野　卓司

授業コード：A2265　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代では人と社会の関係は希薄になりつつある。テレビゲームやインターネットの普及は人間の孤立化を加速させているし、ケータイやメールというコミュニケーション手段の発展も逆に「生の」人間関係を影の薄いものにしている。引きこもりやオタクでなくても、現代社会は人に「孤独に」生きることを強いるのである。しかし、対人関係が希薄であるとはいえ、私たちは自分が意識しようとしまいと様々な社会的な制約を受けているのだ。「国籍」、「法」、「時代」、「流行」、「メディア」等々。授業では、人間がいかに「社会的動物」であるかということを考えていき、このことを理解していくことが授業の目的である。

【到達目標】
クリスマスやバレンタインのプレゼントや、お中元やお歳暮といったかたちで、われわれの身近には多くの贈与の習慣が存在している。ところで今日、この贈与が注目を集めている。というのも、ボランティア、臓器移植、ベーシックインカムといった今日的問題を語る際に贈与の論理が使われているからである。また、利益獲得の計算の上に発展した資本主義は、格差の増大、派遣労働者や失業、環境破壊といった今日多くの問題をもたらしており、再び贈与経済を見直そうという動きがあるからでもある。そして、資本主義に対抗する贈与経済の重要性に最初に注目したのは、フランスの人類学者マルセル・モースである。本講義では、まずモースの『贈与論』を分かりやすく紹介し、彼の贈与交換の理論について考えてみる。そのあとで、交換とは異なる贈与についても考察しながら、モースの理論の限界を指摘し、この理論を補ってさらに発展させなければならない必要について説明する。それを踏まえたうえで、日本文化における贈与の重要性について検討する。日本文化は、自然との関係において特異な贈与の考えを生み出してきた。その新たな可能性について考えていきたい。
最終的に、未来の社会における贈与の重要性を理解することが授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式
毎回、前回の授業の復習をしたうえで授業をすすめていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：贈与とは何か？	お中元やバレンタインなどの贈与の風習などに潜むわれわれの無意識。
第 2 回	マルセル・モース『贈与論』（1）	資本主義と贈与経済
第 3 回	マルセル・モース『贈与論』（2）	未開社会の贈与の慣習（1）：ハウ
第 4 回	マルセル・モース『贈与論』（3）	未開社会の贈与の慣習：（2）ポトラッチ
第 5 回	マルセル・モース『贈与論』（4）	平和主義や協同組合と贈与の思想
第 6 回	反功利主義の運動	モースの影響を受けた社会学者たちの活動。
第 7 回	狩猟時代の贈与	農耕以前の狩猟社会における贈与の役割。
第 8 回	縄文時代と弥生時代	日本文化の起源を考えながら、狩猟社会の贈与と定住社会の贈与の違いの検証する。
第 9 回	アイヌと海民	農耕社会の外に位置するアイヌと海民の密接な関係を考察する。
第 10 回	宮沢賢治の贈与観	賢治が「贈与」を通して何を語ろうとしたか。
第 11 回	折口信夫における神々の世界	折口が考えた古代の神であるマレビトと産霊の神における贈与の役割。
第 12 回	吉本隆明『母型論』を読む。	母系の未開社会における贈与の役割の分析。
第 13 回	日本文化における贈与	日本の慣習の考察
第 14 回	まとめ	理解の確認のための復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書、配布のプリント、参考書をよく読み、復習しておくこと。さらに、自分の日常と照らし合わせながら、よく考えてみること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントの配布。
ならびに岩野卓司『贈与論　資本主義を突き抜けるための哲学』（青土社）

【参考書】
マルセル・モース『贈与論』（岩波文庫）
アラン・カイエ『功利的理性批判』（以文社）
セルジュ・ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？』（作品社）
ジョルジュ・バタイユ『呪われた部分』（ちくま学芸文庫）
ジャック・デリダ『他者の言語』（法政大学出版）
マーシャル。サーリンズ『石器時代の経済学』（法政大学出版）
奥野克己『ありがとうもごめんなさいもいらない森の民と暮らして人類学者が考えたこと』（亜希書房）
煎川孝『アイヌの熊祭り』（雄山閣）
網野善彦『海民と日本社会』（人物往来社）
山田康弘『縄文時代の歴史』（講談社現代新書）
吉本隆明『母型論』（思潮社）
吉本隆明『共同幻想論』（角川文庫）
『宮沢賢治全集』（ちくま文庫）
『折口信夫全集』（中央公論社）
金山秋男編『日本人の魂の古層』（明治大学出版会）
岩野卓司編『共にあることの哲学と現実』（書肆心水）
中沢新一『カイエ・ソバージュ』（講談社）
桜井英治『贈与の歴史学』（中公新書）

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）学期末の試験（70 %）
到達目標にどれだけ近づいているかが成績に反映される。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【その他の重要事項】
外国語の能力は必要とはされない。春学期の授業を取らないでも、理解できる内容である。

【Outline and objectives】
In modern times the relationship between people and society is becoming thin. The spread of video games and the Internet has accelerated the isolation of human beings and the development of communication means such as mobile phones and e - mails, on the contrary, makes the "raw" human relationship less obscure. Even though it is not a withdrawal or a geek, modern society forces people to live "lonely". However, although interpersonal relationships are scarce, we are subject to various social constraints as they try to be conscious of themselves. "Nationality", "Law", "Age", "Fashion", "Media" and so on. In the lesson, it is the goal of the lesson to think about how human beings are "social animals" and to understand this.

PHL200BB

社会思想２（社会思想史）１

政井　啓子

授業コード：A2266　｜　曜日・時限：**水曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「社会思想史」は、「人間と社会共同体との関係はどうあるべきか」という問題についての人類の探求の歴史である。春学期では、ヨーロッパ社会思想史における、古代ギリシャから 18 世紀初頭までの基本的な諸思想を学び、学生が現代社会を考察する際に、それら古典思想の探求の仕方を参考にできることを目標とする。
古代ギリシャから近代まで、哲学者たちは「自然本来の不変な秩序」を探求していた。この「不変な秩序」とは、人間にとって変更不可能なものであり、また人間社会での、真偽、正不正、美醜善悪などを区別するための基準となるものでもある。探求の仕方は、知性主義あるいは感覚経験重視など、哲学者によって異なる。そして、「人間に認識可能な不変な秩序というものは無い」という懐疑思想も含めて、多様な世界観と人間観が提示される。このような根源的な探求に基づいて、望ましい社会のあり方が様々に考案された。
本授業では古典にふれながら、順序正しく考えることの大切さ，常識や教科書的な通説とされることを疑ってみることの重要性など、学生が人間の思考活動の豊かさを実感して、さらに自分の考えを具体的な表現で論理的に説明できるようになることを目指す。

【到達目標】
（1）学生が、古典的な思想を学ぶことを通して、「社会」のあり方に対する、基本的な問いの立て方と論理的な思考法を習得する。
（2）現代社会の諸問題についての冷静な分析力や判断力を養う。
（3）自分の考えをできるだけ明確にして、文章として表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式でおこない、毎回、授業のレジュメと資料を配布する（学習支援システムを使用）。受講生には、授業の終わりに質問や感想意見を書いてもらい、次回の授業で質問に答え、また感想や意見の幾つかを紹介する。できれば授業内でも意見を交換し合う時間を設けたい。
【追記】
第 1 回授業は、オンライン（オンデマンド）です。
4 月 7 日（水）に、学習支援システムの「教材」に配信します。
なお、第 2 回以降もオンライン授業になる場合があります。学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の概説	古代から近代までの社会思想の概観。レポートに関する説明。
第 2 回	古代ギリシャの民主制社会における思想	「自然本来の不変な秩序」と「人間社会の法」との関係
第 3 回	プロタゴラスの思想（人間は万物の尺度である）	「人間尺度論」と民主制
第 4 回	「道徳的相対主義」に対するソクラテスの思想	愛知の精神
第 5 回	プラトンの思想 1	イデア論
第 6 回	プラトンの思想 2	理想の「国家」と民主制
第 7 回	アリストテレスの思想	人間の幸福
第 8 回	ヘレニズム時代の思想	政治的自由の喪失と個人主義思想
第 9 回	ルネサンスの思想	古代哲学の復興
第 10 回	科学革命	「自然」の探求
第 11 回	デカルトの思想	「私は考える、ゆえに私は在る」、自然科学の基礎付け
第 12 回	近代の自然法思想	社会契約説
第 13 回	道徳哲学の２潮流	利己主義と利他主義
第 14 回	モラルセンス説の展開	ヒュームとアダム・スミスの思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回授業で配布する資料および授業内で紹介する文献を読んで、予習と復習をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
『社会思想史』（法政大学通信教育部　発行）。プラトンやアリストテレスなどの哲学者の著作。その他の参考文献は授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末のレポートと、数回の小レポート（授業内も有り）を提出。大体の目安としては、期末レポート 40 %、小レポート 25 %、毎授業後の感想質問 35 %。期末レポートと小レポートでは、授業で扱う各思想を単に要約説明するだけではなくて、学習した内容を理解した上で、現代社会の問題と関係づけながら、各思想に対する自分自身の考えを論理的にまとめてもらう。詳しいことは最初の授業の時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
学生が自分の疑問点や意見を授業中にまとめることができるように、板書や配布資料も工夫して、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire　an understanding of some fundamental thoughts in the history of European social thought from ancient Greece to the early of the 18th century.

PHL200BB

社会思想２（社会思想史）２

鈴木　由加里

授業コード：A2267　｜　曜日・時限：**水曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の目的は、社会思想としての「フェミニズム」について考察することである。現代の日本社会において、ジェンダー格差が問題にされることは多い。メディアの報道で世界経済フォーラムによるジェンダーギャップ指数のランキングなどを目にすることもある。「フェミニズム」は女性解放とジェンダー平等の実現を課題にしてきた社会運動であり、社会思想の一つである。本講義では、「フェミニズム」の歴史的意義と現代的価値について学び、現代社会に存在する具体的な問題、性暴力、セクシュアル・ハラスメントなどに対する考察と分析、対象方法などを考えることを目的としている。また、ジェンダー概念によって開かれた問題、性的マイノリティの権利問題などについても考察研究する予定である。

【到達目標】
社会思想に関する基本的な歴史を踏まえつつ、社会思想としての「フェミニズム」について論じられるようになることが本授業の目的である。歴史的な事象や現在世界および日本社会で起こっていることについて的確な情報の把握、学問的分析を行い、感情論ではない自分なりの見解を正しい知識の基づいて文章化できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、PowerPoint を使った講義と映像資料などを活用し、ディスカッションとレポート（リアクションペーパー）作成によって構成される。レポートは、大学の「課題」提出システムを使ったデジタルでの提出を予定している。リアクションペーパーについては、講義内で講評し特に優れたものについては、授業中に匿名で紹介する予定である。資料などはプリントアウトしたものを教室で配布予定。
また、コロナ禍が収束せず、対面授業が不可能な場合は、以下のような形での講義形式になる。
【遠隔授業の場合】
PowerPoint ファイルに動画を載せた動画やインターネット上の動画視聴と課題によって、構成される。質問などについては、授業時間中に文字チャットで対応。Google のシステム、ハングアウトを利用。課題は、Hoppii のシステムを利用し個別に採点して返却。こちらへの参加は、大学から与えられているメールアドレスでの参加をすること。
「学習支援システムガイド」の「お知らせ」から、授業動画、参照動画へのへのリンク先を指示する。教材のところから、各自レジュメ、資料などをダウンロードして学習に役立てること。
動画の視聴可能期間は、１週間。課題提出も１週間後に設定予定。オンデマンドなので、動画は何度でも視聴可能。質問や文字チャットによる意見交換（自由参加）は、水曜日４限の授業時間中に行う。課題提出をもって、出席とする。
なお、授業計画内容は学生の理解度などによって前後したり別のものに差し替えられる可能性がある。「学習支援システム」のお知らせを毎回確認して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業説明及び社会思想とフェミニズムの関係について。	課題提出の方法、成績評価の認定、レポートのレベルや採点基準の説明。簡単に講義全体のテーマについての説明を行う。課題の出題あり。
第 2 回	社会思想とはどのような学問か？（概論）	社会思想史という学問の歴史と対象領域についての基礎的なことについての講義を行う。
第 3 回	フェミニズムの歴史①	フェミニズム前史から第一波フェミニズムの成立まで。フランス革命から婦人参政権運動。
第 4 回	フェミニズムの歴史②	社会運動としての「フェミニズム」から第二波フェミニズム成立について歴史的経緯を学ぶ。
第 5 回	第二波フェミニズムの問題射程と現代社会	婦人参政権獲得後の「フェミニズム」の課題について学ぶ。アメリカとフランスの事例について。
第 6 回	日本におけるフェミニズム	「ウーマンリブ」とは何であったのか？ 第二波フェミニズムの日本への影響について。
第 7 回	フェミニズムとジェンダー概念	ジェンダー概念の意味と歴史的経緯を学ぶ
第 8 回	ジェンダーに対する社会的理解と誤解	日本の社会において「ジェンダー」という言葉がどのように使われてきたかを学ぶ。
第 9 回	「ジェンダー」概念によって開かれた問題①	ジェンダー・アイデンティティについて学ぶ
第 10 回	「ジェンダー」概念によって開かれた問題②	性的指向について学ぶ。いわゆる「LGBT」問題について考察する。
第 11 回	ジェンダー差別という問題設定	社会的不平等論と現代の日本社会について学ぶ
第 12 回	性暴力について	性暴力被害とはどのような「被害」であるのかを分析する。可能ならば動画の紹介をする。
第 13 回	社会問題としてのセクシュアル・ハラスメント	セクハラ問題の現状と分析
第 14 回	ジェンダー論とフェミニズムについて	フェミニズムは過去の社会思想なのかを問い直す。参考資料としての動画視聴と最終課題の提示。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献、資料などを読み、どの知識が不足しているのかを確認し、各自補足すること。参考文献、参考資料などを読み込んでおいてほしい。
授業後については、授業時間内では十分な形で各種の資料を紹介出来ない。できる範囲で映像資料を視聴したり、配布された文章資料などの読解をすすめる努力をしてもらいたい。授業内で配布された参考文献リストなどに目を通し、学習を深めておこう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成したデータをレジュメの形で、教室内で配布。遠隔授業の場合は学習支援システム「教材」にアップロードする。

【参考書】
『フェミニズム ワードマップ』江原 由美子 (編集), 金井 淑子 (編集)　新曜社 (1997/09)
『フェミニズムの歴史』　ジャン・ラボー著　加藤康子訳新評論 (1987/10)
『現代日本女性史―フェミニズムを軸として』　鹿野政直　有斐閣（2004/07）
『女性解放思想史 ちくま学芸文庫』　水田珠枝　筑摩書房 (1994/05)
『フェミニズム　（思考のフロンティア)』竹村和子　岩波書店（2000/10/20）

【成績評価の方法と基準】
「学習支援システム」で出題されるレポート課題すべてを提出すること。
単位取得条件は、課題をすべて提出すること。
成績評価は、課題提出の回数 × 取得点数/10 ＝総合点数 →100 点換算して成績評価
レポート・テストは各回 10 点満点
＊課題の回数は対面授業の場合と遠隔授業になった場合では異なるので開講時に具体的な課題の数を提示する。

【学生の意見等からの気づき】
遠隔授業であったために、学生からのレスポンスが見えにくく対応が難しかった。一部、システムの使い方に不慣れな学生も散見されたが、緊急事態だったためにやむを得ないと思われる。しかし、学生のデジタル環境などの把握は、大学当局に依存せざるを得ないので、学生の個人情報とはなるが何を受講のツールとしているかなどの情報が欲しかった。

【学生が準備すべき機器他】
課題の提出に「学習支援システム」を利用するのでレポート提出、文字チャットに耐えうる情報機器及び通信環境が必要。

【その他の重要事項】
この講義では、セクシュアリティについて語ることが多い。特に、第十二講、第十三講では、「性暴力」がテーマになる。PTSD、フラッシュバックなどを引き起こす可能性がある。心身の健康を考えて、受講を検討して欲しい。

【Outline and objectives】
The purpose of this lecture is to consider "feminism" as social thought."Feminism" is a social movement, a social movement that has been a subject of the realization of liberation of women and gender equality.This lecture aims to learn about the historical importance and contemporary value of "feminism", to consider and analyze concrete problems existing in contemporary society.

LIN200BB

ラテン語１

金子　佳司

授業コード：A2268　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を１年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語１では、名詞、形容詞、代名詞、動詞の基本的な変化などを学びます。
　古典ラテン語は紀元前１世紀から紀元後１世紀に使われた言語ですが、それ以降の西洋文化の根幹をなす言語でもありますから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】
　ラテン語１では、古典ラテン語の名詞、形容詞、動詞の基本的な変化を覚え、辞書を使えば簡単なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
　毎回、教科書の２～３課分の文法を説明し、それらの課の練習問題のラテン文の和訳を行なってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却します。
　なお、教科書が少し進んだら、教科書以外の簡単な読み物を読んでみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	第１課・第２課の説明	文字と発音 音節とアクセント
第 2 回	練習問題 1,2 第３課～第５課の説明	動詞第一、第二活用 名詞第一活用 動詞第三、第四、第五活用
第 3 回	練習問題 3,5,7 引用句 1 第６課～第８課の説明	名詞第二活用 (1) 形容詞第一、第二活用 (1) 動詞未完了過去形
第 4 回	練習問題 9,11,13 引用句 2,3 第９課～第 11 課の説明	名詞第二活用 (2) 形容詞第一、第二活用 (2) 動詞未来形
第 5 回	練習問題 15,17,19 引用句 4,5 第 12 課～第 14 課の説明	前置詞、所格 (locative)、eo の変化 不定詞、sum,possum の変化 i 音幹名詞
第 6 回	練習問題 21,23,25 引用句 6,7 第 15 課～第 17 課の説明	i 音幹形容詞 動詞完了形、過去完了形、未来完了形
第 7 回	練習問題 27,29,31 引用句 8,9 第 18 課・第 19 課の説明	黙音幹名詞、混合幹名詞
第 8 回	練習問題 33,35 引用句 10 第 20 課・第 21 課の説明	動詞受動相（受動態） 流音幹鼻音幹名詞
第 9 回	練習問題 37,39 引用句 11,12 第 22 課・第 23 課の説明	s 音幹名詞 混合幹形容詞、子音幹形容詞
第 10 回	練習問題 41,43 引用句 13,14 第 24 課・第 25 課の説明	動詞完了、過去完了、未来完了受動相（受動態） 動詞の主要部分、volo nolo ,malo の変化
第 11 回	練習問題 45,47 引用句 15 第 26 課・第 27 課の説明	名詞第四、第五活用 能動相（能動態）欠如動詞、fio,fero の変化
第 12 回	練習問題 49,51 引用句 16 第 28 課・第 29 課の説明	指示代名詞、限定代名詞 疑問代名詞、不定代名詞
第 13 回	練習問題 53,55 引用句 17,18 簡単な読み物	簡単なラテン語で書かれた文章を読んでみる。
第 14 回	理解度の確認	春学期に扱った練習問題、引用句、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
　また、今年度は Hoppii を使った授業と並行して、GoogleClassroom を使って随時、動画を配信する予定です。なお、GoogleClassroom の使い方については Hoppii 上で案内します。

【テキスト（教科書）】
田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】
　入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典〈改訂版〉』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
　毎回行なってもらう練習問題（＝ラテン文の和訳）（50%）と期末試験（50%）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
　昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえるようにしたいと思います。

【Outline and objectives】
　In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

LIN200BB

ラテン語２

金子　佳司

授業コード：A2269　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古代ローマで使われていた古典ラテン語を読むための基本的な文法の知識を１年間かけて修得することを目的としますが、ラテン語２では、接続法、命令法、条件文、比較文、不定詞、分詞、動名詞などを学びます。ラテン語２はラテン語１とは独立した科目ですが、ラテン語１で学んだ知識を前提としていますので、ラテン語２をとる場合は、できる限りラテン語１も受講してください。
古典ラテン語は西洋文化の根幹をなす言語ですから、西洋の文化や学問を理解するためにはラテン語の知識は必要不可欠です。

【到達目標】
ラテン語２では、ラテン語１で学んだ知識を踏まえた上で、さらに古典ラテン語の基本的な文法事項全体を身につけ、辞書を使えば標準的なラテン語が読めるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、教科書の２課分の文法を説明し、翌週それらの課の練習問題のラテン文の和訳を行ってもらいます。そして、解答に対しては毎回添削をして返却します。
なお、教科書がすべて終わったら、教科書以外の短い読み物を読んでみたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の授業の復習	動詞接続法現在形、未完了過去形、目
	第 30 課・第 31 課の説明	的節で使われる接続法
		人称代名詞
第 2 回	練習問題 57,59	所有形容詞、強意代名詞
	引用句 19,20	動詞接続法完了形、過去完了過去形、
	第 32 課・第 33 課の説明	間接疑問文で使われる接続法
第 3 回	練習問題 61,63	事実に反する仮定を表す条件文
	引用句 21	仮想を表す条件文と予想を表す条件文
	第 34 課・第 35 課の説明	
第 4 回	練習問題 65,67	動詞完了不定詞、対格不定詞節
	引用句 22,23	動詞未来不定詞
	第 36 課・第 37 課の説明	
第 5 回	練習問題 67,69	関係代名詞
	引用句 24	非人称動詞
	第 38 課・第 39 課の説明	
第 6 回	練習問題 73,75	動詞現在分詞
	第 40 課・第 41 課の説明	動詞完了分詞、未来分詞、状況を表す
		分詞
第 7 回	練習問題 77,79	パエドルスの寓話「人の欠点」を読む。
	文例 1	奪格の独立的用法
	第 42 課・第 43 課の説明	形容詞の比較級、最上級
第 8 回	練習問題 81,83	パエドルスの寓話「狐と葡萄」を読む。
	引用句 25,26	形容詞の不規則な比較級、最上級
	文例 2	数詞
	第 44 課・第 45 課の説明	
第 9 回	練習問題 85,87	動名詞
	第 46 課・第 47 課の説明	動形容詞
第 10 回	文例 3	カエサル『ガリア戦記』を読む。
	練習問題 89,91	動名詞の代わりに用いられる動形容詞
	引用句 27	動詞命令法
	第 48 課・第 49 課の説明	
第 11 回	練習問題 93,95	キケロ『善と悪の究極について』を
	文例 4,5	読む。
	第 50 課・第 51 課の説明	デカルト『省察』を読む。
		能動相（能動態）欠如動詞の命令法、
		主文における接続法
		目的分詞
第 12 回	練習問題 97,99	ユークリッド『幾何学原論』を読む。
	引用句 28,29	
	文例 6	
第 13 回	読み物	ラテン語で書かれた読み物を読む。
第 14 回	理解度の確認	秋学期に扱った練習問題、引用句、文例、読み物が理解できたかどうかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、指示された課の練習問題のラテン文をすべて和訳するとともに、そのラテン文を文法的に説明できるようにすること。また、授業後には、自分が間違っていたところを必ず見直すこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
また、今年度は Hoppii を使った授業と並行して、GoogleClassroom を使って随時、動画を配信する予定です。なお、GoogleClassroom の使い方については Hoppii 上で案内します。

【テキスト（教科書）】
田中利光著『ラテン語初歩（改訂版）』（岩波書店）

【参考書】
入手しやすい辞書には、水谷智洋編『羅和辞典〈改訂版〉』（研究社）があります。その他の参考書は、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回行なってもらう練習問題（＝ラテン文の和訳）（50%）と期末試験（50%）の結果で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度も、ラテン語と近現代語（特に英語）との関係の説明を心がけましたが、今年度もさらに、ラテン語がいかに近現代語に影響を及ぼしているかを理解してもらえるようにしたいと思います。

【Outline and objectives】
In this course, students learn the basics of classical Latin grammar. Classical Latin is a language used from the first century B.C. to the first century A.D., and on the model of it many generations after them have written their works in Latin. So Latin is very important to understand Western culture.

LIN200BB

ギリシア語 1

白根　裕里枝

授業コード：A2270　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的にしています。古典ギリシア語は、主として B.C. 5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン（ソクラテス）の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の$\Sigma\ \pi\ \gamma\ \beta\ \theta\ \mu$ や、時計のΩオメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】
　授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語文法の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。
　できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。通年での履修が望ましいです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
　下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回、補助解説用の「ツボ・プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。課題はできるだけ添削をして返します。動画による解説も予定しています。
*前年度までの教科書（『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著、岩波書店）はオンラインで独習に近い形で学ぶには難しいので、今年度は教科書を下記のものに変えます。急遽、プリントなどを用意する予定です。ハードですが易しいので、毎回 3 課ずつ進めば最後までできると思います。奇数の問題、偶数の問題だけでもよいので、付いてきてください。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文字を知る	1. 字母、発音、音韻の分類、気息記号
第 2 回	文字の読み方	2. 音節、アクセント、句読点、語末音
第 3 回	動詞、名詞変化 1	3. 動詞現在形
		4. 名詞 A 変化 1
		5. 名詞 A 変化 2
第 4 回	動詞、名詞変化 2	6. 動詞未来形
		7. 名詞 A 変化 3
		8. 名詞 A 変化 4
第 5 回	動詞、名詞、形容詞の変化	9. 動詞、未完了過去
		10. 名詞 O 変化
		11. 形容詞変化（第一・第二変化）
第 6 回	前置詞と動詞の時制変化	12. 前置詞
		13. 動詞アオリスト
		14. 動詞完了形
第 7 回	指示代名詞、強意代名詞と動詞の人称語尾	15. 指示代名詞、強意代名詞
		16. 本自称の人称語尾
		17. 副自称の人称語尾
第 8 回	mi 動詞、動詞中動相と代名詞	18.mi 動詞
		19. 疑問代名詞、不定代名詞
		20. 動詞中動相
第 9 回	動詞中動相と代名詞	21. 人称代名詞
		22. 動詞中動相 2
		23. 再帰代名詞その他
第 10 回	動詞と第三変化の名詞	24. 動詞第 2 アオリスト
		25. 動詞受動形
		26. 第三変化の名詞 1
第 11 回	動詞と第三変化の名詞 2	27. 約音動詞 1
		28. 第三変化の名詞 2
		29. 約音動詞 2
第 12 回	動詞と第三変化の形容詞	30. 動詞完了形 2、中動相
		31. 第三変化の形容詞 1
		32. 流音幹動詞
第 13 回	動詞と第三変化の名詞 3	33. 第三変化の名詞 3
		34. 動詞接続法
		35. 接続法中・受動
第 14 回	条件文と約音動詞	36. 母音交替
		37. 条件文
		38. 約音動詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、次回の練習問題の解答のための予習を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 ～ 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、2012

【参考書】
『しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語』堀川宏著、ベレ出版、2021

【成績評価の方法と基準】
平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席（課題の提出）による、練習問題の解答を重視します。対面授業の場合は、毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席・課題の提出 70 %、毎回の解答の出来具合 30 %）。練習問題を訳せるように毎回準備して、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
　学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、楽しいと学生は言う。初めが肝心で、基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【その他の重要事項】
　ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんが、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.
After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

LIN200BB

ギリシア語２

白根　裕里枝

授業コード：A2271　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、古典ギリシア語の基礎文法を学ぶことを目的にしています。古典ギリシア語は、主として B.C.5 世紀前後の古典期のアテナイを中心に哲学や歴史書などの散文に用いられた言語です。ヨーロッパの諸言語の元になる言語で、古典ギリシア語の知識があると、ラテン語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、英語などを学ぶ上で、その体系的理解に大いに役に立ちます。また、西洋文学の源をなすホメロスの『イリアス』や『オデュッセイア』、哲学の源であるプラトン (ソクラテス) の対話篇や、アリストテレスの諸著作、そして新約聖書などが書かれたこの言語を学ぶ意義は大変に大きなものです。数学や科学で使われるギリシア文字の$\Sigma\ \pi\ \gamma\ \beta\ \theta\ \mu$ や、時計のΩオメガ、シンポジウム、シンフォニー、オーケストラ、銀河鉄道 999 のメーテル、エヴァンゲリオン、胃腸薬のエビオスも、もとはギリシア語で、現在でもいろいろな場面でギリシア語に出会うことと思います。ギリシア語を学んでみたいという意欲ある学生の参加を望みます。

【到達目標】
　授業では、まずはギリシア語を読めるようになること、そして、ギリシア語の基本的な構造を理解して、自分で辞書や変化表を調べて、単語の意味を確実に捉え、基礎的な文を読んだり、古典の名文句などの内容を読んで理解できるようになることを目的としています。
　できるだけ、ギリシアの古典のなかから格言や平易な単文を選んで併読し、実際のギリシア語に親しみ、味わい、古典を読む喜びを共有したいと思います。哲学科の学生は、まずギリシア語を学ぶことから哲学を始めてほしいですし、また、法学や歴史・文学・経済など他専攻の学生も、在学中に一度はこの言語に挑戦していただきたい。というのも、他の科目は自分で本を読んで学ぶこともできますが、ギリシア語だけは、大学を出てしまうと、自分で学ぶこともよそで学ぶことも難しいからです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
　下記のテキストを用いて、全くの初歩から文法を学び、語形変化を記憶し、練習問題を解くという形で、この美しい言語を理解する力を養ってゆきます。毎回「補助解説プリント」を用いて、問題の解き方のポイントなどを詳しく解説します。学生は「書き込み用プリント」を用いて、単語の意味などの丁寧な下調べをすることができます。毎回、練習問題を解いてもらい、対面授業の場合は、文法的説明をもう一度一緒に学んだ上で、練習問題の解答を丁寧に解説することによって理解を深めてゆきます。オンラインの場合は、主として資料の配布と音声ファイルで授業を進めます。課題はできるだけ添削をして返します。動画による解説も予定しています。
*前年度までの教科書（『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著、岩波書店）はオンラインで独習に近い形で学ぶには難しいので、今年度は教科書を下記のものに変えます。急遽、プリントなどを用意する予定です。ハードですが易しいので、毎回３課ずつ進めば最後までできると思います。奇数の問題、偶数の問題だけでもよいので、付いてきてください。通年での履修が望ましいです。必ず前期から履修してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	動詞、名詞変化の基礎
第 2 回	不定法と第三変化の名詞４	39. 不定法１ 40. 不定法２ 41. 第三変化の名詞４
第 3 回	関係代名詞と動詞の希求法	42. 関係代名詞 43. 動詞希求法 44. 動詞希求法２
第 4 回	第三変化の形容詞、名詞、約音動詞	45. 第三変化の形容詞２ 46. 約音動詞の希求法 47. 第三変化の名詞５
第 5 回	分詞、第三変化の名詞	48. 分詞１ 49. 分詞２ 50. 第三変化の名詞６
第 6 回	分詞、形容詞の比較、希求法	51. 分詞３ 52. 形容詞の比較 53. 動詞希求法２
第 7 回	形容詞、副詞の比較、条件文	54. 形容詞の比較２ 55. 条件文２ 56. 副詞の比較
第 8 回	命令法	57. 命令法 58. 命令法２ 59. 命令法３
第 9 回	間接話法、動詞的形容詞	60. 間接話法１ 61. 間接話法２ 62. 動詞的形容詞
第 10 回	間接話法と否定詞、mi 動詞変化	63. 間接話法３ 64. 否定詞 65.mi 動詞変化１
第 11 回	mi 動詞変化	66.mi 動詞変化２ 67.mi 動詞変化３ 68.mi 動詞変化４
第 12 回	mi 動詞変化、格の用法	69.mi 動詞変化５ 70.mi 動詞変化６ 格の用法、冠詞について
第 13 回	まとめと復習１	長文講読練習１
第 14 回	まとめと復習２	長文講読練習２

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、練習問題の解答のための学習時間を必要とします。本授業の準備学習・復習時間は、各２～３時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『ギリシア語入門 新装版』田中美知太郎、松平千秋著、2012

【参考書】
『しっかり学ぶ初級古典ギリシャ語』堀川宏著、ベレ出版、2021

【成績評価の方法と基準】
平常点評価。語学の授業ですから、毎回の予習と出席（課題の提出）による、練習問題の解答を重視します。対面授業の場合は、毎回、前に出て黒板に解答を書いてもらいます。（出席・課題の提出 70 %、毎回の解答の出来具合 30 %）。練習問題を訳せるように毎回準備して、解答することを最後まで続けた者に対して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学ぶ機会の少ない古典ギリシア語という新しい言語を覚えることは、難しいけれど、意外にも、声を出して暗唱したり、変化を唱えるのも楽しいらしい。オンラインの場合は制約もあるが、むしろ、じっくり取り組めたと思う。基礎から、丁寧に分かりやすく教えるので、ぜひ最後まで挑戦してもらいたい。

【その他の重要事項】
　ギリシア語習得はたしかに難しいかもしれませんか、語学はのめり込むとおもしろく、大学で本当に勉強したという実感を持てるでしょう。とはいえ、ギリシア語を読むのは意外に簡単ですし、練習問題の内容も、現代の私たちが忘れた、古典的教養に満ちあふれた格言などが古典文化そのものへと誘ってくれます。言葉の船に乗って一緒に古代への旅にでましょう。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basics of classical Greek grammar.
After two semesters, students will be able to understand the outline of the classical Greek grammar and prepared to read classical Greek texts with the aid of dictionaries and grammar books.

BSP100BC

大学での国語力

［クラス指定あり］

加藤　昌嘉、伊海　孝充、佐藤　未央子、坂本　勝、中丸　宣明、小林　ふみ子、遠藤　星希、田中　和生、藤村　耕治

授業コード:A2413,A2414,A2415,A2416,A2417,A2418,A2419,A2420,A2421,A2422
｜　曜日・時限：**月曜 3 限, 月曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学では、“自ら課題を発見し、調査・分析を行い、説得力のある結論を導き出す力” が必要とされます。その基礎を養うために、この授業では、講義を的確に聴取し、論文を正確に読解し、意見を明快に表現することのできる「国語力」を鍛錬してゆきます。
★日本文学科の “必修科目” です。１年生は必ず受講してください。
★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載予定の《日本文学科「大学での国語力」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】
１，論理的な文章を正確に読解することができる
２，必要な文献を探索し参考にすることができる
３，自らの見解を論理的に表現することができる
以上のような力を身につけたうえで、「2000 字程度のレポートを書くこと」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
※４月１２日（月）、初回は、１０クラスとも、オンラインで実施します。Hoppii に入り、クラス表で指定された教員のクラスに仮登録し、「お知らせ」欄を御覧ください。

文章を読む、文章を書く、文献を捜す、口頭発表をするといった実践的な課題に取り組み、最終的に、2000 字程度のレポートを完成させます。
★受講者のレポートなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	自己紹介
2	ガイダンス②	図書館の使い方
3	導入編①	ノートの取り方
4	導入編②	文章を読む（見出しを付ける）
5	導入編③	文章を読む（要約）
6	導入編④	文章を読む（疑問点を挙げる）
7	基礎編①	レポートの書き方
8	基礎編②	資料の探し方
9	基礎編③	文献引用の仕方
10	基礎編④	文章を書く（根拠を挙げる）
11	発展編①	「問い」と「答え」の設定
12	発展編②	章立て（目次）を検討する
13	発展編③	レポート完成／相互採点
14	発展編④	レポートを修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の課題に取り組むこと。
※本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
『法政大学　学習支援ハンドブック』ＰＤＦ版
https://hosei-hondana.actibookone.com/

【成績評価の方法と基準】
１，各回の課題提出（３０％）
２，レポートの出来（７０％）

【学生の意見等からの気づき】
◎受講者からは、「具体例や根拠を挙げて文章を書くことの大切さが良くわかった」、「形式・構成・表現など、レポートの基本事項を身につけることが出来た」などの感想が寄せられました。
◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【その他の重要事項】
各担当者が本シラバス内容の授業を実施します（１０クラス開講）。

【Outline and objectives】
This course introduces critical reading, logical writing, and the methods of academic research.

LIT100BC

日本文芸学概論 A

尾谷　昌則ほか

授業コード：A2401　｜　曜日・時限：**土曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。
★「日本文芸学概論Ａ・Ｂ」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜２限か水曜６限、いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】
文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につけ、各専門分野の研究方法を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。
★春学期は、６名の教員が２回ずつ担当します。
★各教員の１回目の授業は、専門分野に関する授業です。授業後、学習支援システムの「課題」欄に、作文を提出してもらいます。
★各教員の２回目の授業は、受講者の課題・質問・意見に対するフォローアップ（フィードバック）と、補足講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	尾谷昌則「概説」
2	近現代文学	田中和生「現代批評」
3	近現代文学	田中和生「フォローアップ」
4	近現代文学	藤村耕治「作品論の実践」
5	近現代文学	藤村耕治「フォローアップ」
6	近現代文学	中丸宣明「近代小説の形成」
7	近現代文学	中丸宣明「フォローアップ」
8	対照言語学	王安「外国語から日本語を考える」
9	対照言語学	王安「フォローアップ」
10	近世文学	小林ふみ子「雅俗の近世文学」
11	近世文学	小林ふみ子「フォローアップ」
12	能楽	伊海孝充「能が描く空間」
13	能楽	伊海孝充「フォローアップ」
14	まとめ	尾谷昌則「総括と秋学期の概説」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各教員の１回目の授業を受講した後、３日以内に、学習支援システムの「課題」欄から、指定されたテーマの課題作文を提出してください。
※本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
６名の教員が、それぞれ、１回目の授業で課題を出します。３日以内に提出してください。
１，課題の提出状況（２０％）
２，課題の出来（８０％）

【学生の意見等からの気づき】
◎受講者が提出した課題や質問を、「フォローアップ」の回で紹介します。クラスメイトの意見や文章を見るのは、良い勉強になるでしょう。
◎「色々な作品、様々な研究について学べた」、「今まで興味がなかったジャンルにまで視野を広げられた」などの感想を多くもらいました。１２月にゼミを選ぶときの参考にもなると思います。

【Outline and objectives】
This course introduces the history of Japanese literature and art.

LIT100BC

日本文芸学概論 A

尾谷　昌則ほか

夜間時間帯
授業コード：A2402　｜　曜日・時限：**水曜 6 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。
★「日本文芸学概論Ａ・Ｂ」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜２限か水曜６限、いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】
文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につけ、各専門分野の研究方法を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。
★春学期は、６名の教員が２回ずつ担当します。
★各教員の１回目の授業は、専門分野に関する授業です。授業後、学習支援システムの「課題」欄に、作文を提出してもらいます。
★各教員の２回目の授業は、受講者の課題・質問・意見に対するフォローアップ（フィードバック）と、補足講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	尾谷昌則「概説」
2	近現代文学	田中和生「現代批評」
3	近現代文学	田中和生「フォローアップ」
4	近現代文学	藤村耕治「作品論の実践」
5	近現代文学	藤村耕治「フォローアップ」
6	近現代文学	中丸宣明「近代小説の形成」
7	近現代文学	中丸宣明「フォローアップ」
8	対照言語学	王安「外国語から日本語を考える」
9	対照言語学	王安「フォローアップ」
10	近世文学	小林ふみ子「雅俗の近世文学」
11	近世文学	小林ふみ子「フォローアップ」
12	能楽	伊海孝充「能が描く空間」
13	能楽	伊海孝充「フォローアップ」
14	まとめ	尾谷昌則「総括と秋学期の概説」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各教員の１回目の授業を受講した後、３日以内に、学習支援システムの「課題」欄から、指定されたテーマの課題作文を提出してください。
※本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
６名の教員が、それぞれ、１回目の授業で課題を出します。３日以内に提出してください。
１，課題の提出状況（２０％）
２，課題の出来（８０％）

【学生の意見等からの気づき】
◎受講者が提出した課題や質問を、「フォローアップ」の回で紹介します。クラスメイトの意見や文章を見るのは、良い勉強になるでしょう。
◎「色々な作品、様々な研究について学べた」、「今まで興味がなかったジャンルにまで視野を広げられた」などの感想を多くもらいました。１２月にゼミを選ぶときの参考にもなると思います。

【Outline and objectives】
This course introduces the history of Japanese literature and art.

LIN100BC

日本文芸学概論 B

尾谷　昌則ほか

授業コード：A2403　｜　曜日・時限：**土曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。
★「日本文芸学概論Ａ・Ｂ」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜２限か水曜６限、いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】
文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につけ、各専門分野の研究方法を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。
★秋学期は、６名の教員が２回ずつ担当します。
★各教員の１回目の授業は、専門分野に関する授業です。授業後、学習支援システムの「課題」欄に、作文を提出してもらいます。
★各教員の２回目の授業は、受講者の課題・質問・意見に対するフォローアップ（フィードバック）と、補足講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	中古文学	加藤昌嘉「『源氏物語』の謎」
2	中古文学	加藤昌嘉「フォローアップ」
3	中世文学	小秋元段「『平家物語』の魅力」
4	中世文学	小秋元段「フォローアップ」
5	上代文学	坂本勝「上代文学の世界」
6	上代文学	坂本勝「フォローアップ」
7	日本音楽史	スティーヴン・ネルソン「古典音楽の種目と楽器」
8	日本音楽史	スティーヴン・ネルソン「フォローアップ」
9	中国古典文学	遠藤星希「李白「静夜思」を読む」
10	中国古典文学	遠藤星希「フォローアップ」
11	近現代文学	佐藤未央子「近現代文学と映画の交流」
12	近現代文学	佐藤未央子「フォローアップ」
13	まとめ	尾谷昌則「１年間の総括」
14	ガイダンス	尾谷昌則「来年度の概説」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各教員の１回目の授業後、３日以内に、学習支援システムの「課題」欄から、指定されたテーマの課題作文を提出してください。
※本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
６名の教員が、それぞれ、１回目の授業で課題を出します。３日以内に提出してください。
１，課題の提出状況（２０％）
２，課題の出来（８０％）

【学生の意見等からの気づき】
◎「どの先生がどんな研究をしているのか良くわかった」、「専門分野ぞれぞれの着眼点や研究方法が良くわかった」などの感想をもらいました。１２月に「ゼミ志望用紙」を書くときの参考になると思います。

【Outline and objectives】
This course introduces the history of Japanese literature and art.

LIN100BC

日本文芸学概論 B

尾谷　昌則ほか

夜間時間帯
授業コード：A2404　｜　曜日・時限：**水曜 6 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の文学・言語・芸能の歴史や現状について、専門分野ごとに異なる視点で概説してゆきます。
★「日本文芸学概論Ａ・Ｂ」は、日本文学科の“必修科目”です。土曜２限か水曜６限、いずれかを選択して受講してください。

【到達目標】
文学・言語・芸能の歴史や現状について、基礎的な知識を身につけ、各専門分野の研究方法を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
日本文学科の専任教員がリレー（オムニバス）形式で授業を担当します。
★秋学期は、６名の教員が２回ずつ担当します。
★各教員の１回目の授業は、専門分野に関する授業です。授業後、学習支援システムの「課題」欄に、作文を提出してもらいます。
★各教員の２回目の授業は、受講者の課題・質問・意見に対するフォローアップ（フィードバック）と、補足講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	中古文学	加藤昌嘉「『源氏物語』の謎」
2	中古文学	加藤昌嘉「フォローアップ」
3	中世文学	小秋元段「『平家物語』の魅力」
4	中世文学	小秋元段「フォローアップ」
5	上代文学	坂本勝「上代文学の世界」
6	上代文学	坂本勝「フォローアップ」
7	日本音楽史	スティーヴン・ネルソン「古典音楽の種目と楽器」
8	日本音楽史	スティーヴン・ネルソン「フォローアップ」
9	中国古典文学	遠藤星希「李白「静夜思」を読む」
10	中国古典文学	遠藤星希「フォローアップ」
11	近現代文学	佐藤未央子「近現代文学と映画の交流」
12	近現代文学	佐藤未央子「フォローアップ」
13	まとめ	尾谷昌則「１年間の総括」
14	ガイダンス	尾谷昌則「来年度の概説」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各教員の１回目の授業後、３日以内に、学習支援システムの「課題」欄から、指定されたテーマの課題作文を提出してください。
※本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
６名の教員が、それぞれ、１回目の授業で、課題を出します。３日以内に提出してください。
１，課題の提出状況（２０％）
２，課題の出来（８０％）

【学生の意見等からの気づき】
◎「どの先生がどんな研究をしているのか良くわかった」、「専門分野それぞれの着眼点や研究方法が良くわかった」などの感想をもらいました。１２月に「ゼミ志望用紙」を書くときの参考になると思います。

【Outline and objectives】
This course introduces the history of Japanese literature and art.

LIN100BC

日本言語学概論 A

尾谷　昌則

授業コード：A2409　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、敬語、方言、隠喩など日本語の主要なトピックをとりあげ、それらに関する基礎的な知識を概観する。

【到達目標】
この授業は、1 年生から履修できる日文の必修科目ということで、日本語を様々な角度からよく観察し、客観的に分析する方法を学ぶことによって、日本言語学への理解を深め、その魅力を知ることを到達目標にします。ですから、「これを説明させたら誰にも負けない！」と胸を張って言えるようなトピックを２つ、３つ見つけてください。そして、それらの面白さについて、具体例を挙げながら説明できるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はスライドを用いて、講義形式で進めます。プリントも配布しますが、最低限のことのみ記載したものであり、受講者が授業を聴きながらメモをとることで完成するプリントです。
リアクションペーパーに「質問・コメント・感想等」を書いてもらいます。良い指摘があれば、次回の授業でそれを紹介し、皆さんにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本語の特徴	外国人から見た日本語の特徴について
第 2 回	ことばの役割	カテゴリー化と存在化について
第 3 回	ことばの多様性	地域方言や世代方言について
第 4 回	ことばのイメージ	方言のイメージや、ことばとアイデンティについて
第 5 回	ことばの変化 (2)	ことばの変化と誤用について
第 6 回	ことばの変化 (2)	新語、若者ことばについて
第 7 回	ことばの変化 (3)	ことばの意味の変化について（＝意味論入門）
第 8 回	ことばとコミュニケーション (1)	敬語や待遇表現について
第 9 回	ことばとコミュニケーション (2)	ポライトネス理論
第 10 回	ことばとコミュニケーション (3)	語用論入門
第 11 回	ことばと創造性 (1)	比喩について
第 12 回	ことばと創造性 (2)	文学作品を文法的に味わう
第 13 回	ことばと創造性 (3)	再び、新語や若者ことばについて
第 14 回	まとめ	定期試験の説明と注意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読んで、授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
授業内でその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー：　50 %
期末試験の点数　　：　50 %

【学生の意見等からの気づき】
教室授業にしてほしいという意見がありました。21 年度は対面授業が行われますが、途中からオンライン授業に逆戻りしないように、感染対策は万全にして授業に望みたいと思います。

【Outline and objectives】
In this lecture, we will survey some major topics of Japanese language such as honorifics, dialects, metaphors, and so on.

LIN100BC

日本言語学概論 A

古牧　久典

夜間時間帯
授業コード：A2410　｜　曜日・時限：**火曜 6 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ柔軟性・流動性という側面を中心に概観する。

【到達目標】
· ことばの性質に迫るための考察技法を理解する。
· 多角的な視点からことばを観察することができる。
· 日本語を相対化し、ことばの本質を捉える姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。考える必要のあるコメント・意見を集約し、一部を次の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに関連する現象について、実例を収集・整理する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「日本言語学概論」の概要
第 2 回	言語学とは？	言語の学問
第 3 回	「言語」とは？	言語・ことばの本質
第 4 回	言語はヒトだけのものか？	言語の使用
第 5 回	言語の祖先はどのようなものか？	歴史・比較言語学
第 6 回	ことばが異なれば思考も違うのか？	人類言語学
第 7 回	心とことばの関係は？	心理言語学
第 8 回	ことばはどう習得される（する）のか？	言語習得論
第 9 回	社会とことばの関係は？	社会言語学
第 10 回	「方言」とは？	地域方言学
第 11 回	ことばの世代差・男女差とは？	社会方言学
第 12 回	ことばの比喩とは？	レトリック・比喩論
第 13 回	対人関係を築くことば遣いとは？	ポライトネス理論
第 14 回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業は事前の予備知識は必要としないが、ことばに日頃から興味を持つ姿勢を身につける。授業で扱った現象の事例を収集、検討してみる。毎回簡単な課題が出るので、その課題に取り組む。疑問が生じた場合には、（質問も歓迎するが）図書館等を積極的に活用し、調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
配布資料

【参考書】
加藤 重広 著 『ことばの科学（学びのエクササイズ）』（ひつじ書房）
斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・課題（70 %）、期末レポート（30 %）（ただし、期末レポートが未提出の場合には、合格評価とはならない。）

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】
質問がある場合には、授業終了後に受け付ける。

【Outline and objectives】
This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. The aim of this class is to help students learn the methodology of linguistics and related fields. The goal is to introduce students to different perspectives on languages, in the areas of approaches to language as a sign system (General linguistics), the study of the historical relationships of languages (comparative linguistics), anthropology of language (ethnolinguistics), psychology of language (psycholinguistics), sociology of language (sociolinguistics), etc.

LIN100BC

日本言語学概論 B

尾谷　昌則

授業コード：A2411　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語学には様々な領域があるが、本講義では主要な領域となる音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論といった分野を概観する。

【到達目標】
言語学の各領域における基礎概念・用語を理解し、その概念について具体例を挙げながら分かりやすく説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
▼パワーポイントのスライドを用いて、様々なことばの問題・具体例を示しながら、それが言語学でどのように分析されているのかを紹介する。見解が分かれるような問題も取り上げるので、受講生にも意見を述べてもらう機会が多くなると思われる。その際は遠慮無く発言してほしい。
▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を併用する。その場合は、学習支援システムを通じて「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。
▼リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	外国語としてみた日本語
第 2 回	音韻論	音素、異音、音脱落、音添加など
第 3 回	形態論 (1)	形態素と語構成
第 4 回	形態論 (2)	連濁と複合語の意味
第 5 回	統語論 (1)	品詞と活用
第 6 回	統語論 (2)	文の要素と文法
第 7 回	統語論 (3)	４つの文法カテゴリー
第 8 回	意味論 (1)	語彙の意味
第 9 回	意味論 (2)	品詞の意味と文法
第 10 回	意味論 (3)	意味と認知
第 11 回	語用論 (1)	意味論から語用論へ
第 12 回	語用論 (2)	会話の含意
第 13 回	語用論 (3)	敬語と待遇表現
第 14 回	まとめ	半期の講義を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習　（１時間）
授業の復習　（２時間）
リアクションペーパーに書く具体事例探し　（１時間）

【テキスト（教科書）】
毎回独自のプリントを配布する。

【参考書】
『日本語学キーワード事典』（小池清治ほか、朝倉書店）
『言語学大辞典』（三省堂）
『日本語文法大辞典』（山口明穂・秋本守英編著、明治書院）
『日本語学研究事典』（飛田良文ほか、明治書院）
『日本語語用論のしくみ』（加藤重広、研究社）
『日本語音声学のしくみ』（猪塚元・猪塚 恵美子、研究社）
『認知意味論のしくみ』（籾山洋介、研究社）
『日本語文法のしくみ』（井上優、研究社）
『日本語学のしくみ』（加藤重広、研究社）
『言語学のしくみ』（町田健、研究社）

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】
具体例が多く分かりやすいとの意見が多いが、スライドの進行が早いとの苦情もあった。しかし、スライドを全て丸写しするのではなく、要領良くまとめてノートをとる練習もしてほしいので、早すぎず遅すぎずというスピード感を保てるよう注意したい。

【Outline and objectives】
We will survey some major linguistic areas such as syntax, semantics, and pragmatics.

LIN100BC

日本言語学概論 B

古牧　久典

夜間時間帯
授業コード：A2412　｜　曜日・時限：**火曜 6 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ安定性・規則性という側面を中心に概観する。

【到達目標】
・言語学の基礎知識を習得する。
・ことばについて多角的な視点で考えることができる。
・ことばの性質に迫るための考察技法を運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。考える必要のあるコメント・意見を集約し、一部を次の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに講義内で扱われた用語について、定義やその具体例を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要と目的、授業の方法について
第 2 回	「ことば」を考えるとは？	ことばの学問
第 3 回	ことばの様々な側面	言語学の射程
第 4 回	現代の（従来の）言語学とは？	比較言語学
第 5 回	ことばの相違性をどう考えるか？	言語類型論
第 6 回	ことばの共通性をどう考えるか？	言語普遍論
第 7 回	コミュニケーションとは？	語用論・コミュニケーション論
第 8 回	ことばの意味とは？	意味論・語彙論
第 9 回	文法とは？	文法論
第 10 回	文の構造とは？	統語論
第 11 回	単語とは？	形態論
第 12 回	言語音には何種類あるのか？	音声学
第 13 回	同じ発音とは？ 違う発音とは？	音韻論
第 14 回	まとめ	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で登場する用語・概念について、正確な定義と的確な具体例を提示できるかを確認するための課題が毎回出る。その課題に取り組む中で、疑問が生じた場合には、（質問も歓迎するが）図書館等を積極的に活用し、調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。（本授業は、同科目Ａを履修済みであることが望ましいが必須ではない。）

【テキスト（教科書）】
配布資料

【参考書】
黒田 龍之介 著 『はじめての言語学』（講談社現代新書）
斎藤 純男 著 『言語学入門』（三省堂）
斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』（三省堂）
その他、講義内で適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー・課題（70 %）、期末レポート（30 %）（ただし、期末レポートが未提出の場合には、合格評価とはならない。）

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

【Outline and objectives】
This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. This class provides an introduction to linguistic subfields analyzing sound pronunciation systems (phonetics and phonology), word and sentence structure (morphology and syntax, or grammar), and systems of meaning (semantics and pragmatics). At the end of the course, students are expected to understand linguistic data by using the methodology of modern linguistics.

LIT200BC

日本文芸史ＩＡ

坂本　勝

授業コード：A2405　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
上代（奈良時代）～中古（平安時代）の文学史を学ぶ。上代（奈良時代）～中古（平安時代）に作られた、史書・歌集・日記・物語を読み、文学史を概観する。同時に、古典文学にアプローチするための、さまざまな研究方法を学ぶ。
※「日本文芸史ＩＡ・Ｂ」は、日本文学科２～３年次、全コースの“必修科目”です。火曜６限（加藤＆小林）クラスか水曜２限（坂本＆伊海）クラス、いずれかを選んで受講してください。

【到達目標】
（A）古典文学の成立・構造・表現・背景などを知る。（B）古典文学を研究するための着眼点や方法を知る。（C）古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業内容などはＨｏｐｐｉ上で確認してください。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概説	授業概説
第 2 回	『古事記』	文学史における『古事記』の意義を学ぶ。
第 3 回	『日本書紀』	文学史における『日本書紀』の意義を学ぶ。
第 4 回	『萬葉集』	文学史における『萬葉集』の意義を学ぶ。
第 5 回	『竹取物語』	文学史における『竹取物語』の意義を学ぶ。
第 6 回	『古今和歌集』	文学史における『古今和歌集』の意義を学ぶ。
第 7 回	『土左日記』	文学史における『土左日記』の意義を学ぶ。
第 8 回	『蜻蛉日記』	文学史における『蜻蛉日記』の意義を学ぶ。
第 9 回	『伊勢物語』	文学史における『伊勢物語』の意義を学ぶ。
第 10 回	『源氏物語』	文学史における『源氏物語』の意義を学ぶ。
第 11 回	『更級日記』	文学史における『更級日記』の意義を学ぶ。
第 12 回	『枕草子』	文学史における『枕草子』の意義を学ぶ。
第 13 回	『大鏡』	文学史における『大鏡』の意義を学ぶ。
第 14 回	春学期総括、レポート提出。	春学期の学習理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読み進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
国語教育プロジェクト『ビジュアル資料　原色シグマ新国語便覧　増補三訂版』（文英堂）

【参考書】
授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】
学期末のレポート提出（51 %）と 2 回に 1 回の課題提出（35 %）、リアクションペーパーの提出（14 %）にによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】
個々の作品について理解することだけではなく、文学史全体を視野に入れて理解することの重要性。

【Outline and objectives】
A history of literature in the Nara Heian Period is learned.

LIT200BC

日本文芸史ＩＡ

加藤　昌嘉

夜間時間帯
授業コード：A2406　｜　曜日・時限：**火曜 6 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
※４月１３日（火６）初回のみ、動画を配信します（都合の良い時間に何度でも見られます）。４月２０日（火６）以降は、教室で授業を行います。

◆春学期「日本文芸史ＩＡ」（火曜６限）のテーマは、《古典文学の未解決問題》です。
◆中古（平安時代）～中世（鎌倉時代）の物語・日記・歌集を取り挙げ、その成立や表現などを考察します。と同時に、各作品について、今も議論が続いている“未解決問題”＝“謎”を、検討してゆきます。
◆なお、現代の作家が古典文学を自由に翻訳した作品なども、積極的に紹介してゆく予定です。
◆【注】「日本文芸史ＩＡ・Ｂ」は、日本文学科２～３年次の“必修科目”です。火曜６限（加藤＆小林）か水曜２限（坂本＆伊海）、いずれかを選んで受講してください。

【到達目標】
◆以下の３点を目標とします。
A．文学史の流れと、文学のジャンルを知る。
B．各作品の成立・構成・表現などを知る。
C．各作品のどこにどんな問題点があるのか考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
◆毎回、プリントを配布して、講義を行います。
◆受講者の質問・アイディア・課題作文などは、授業内で紹介し講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	日本文学史概説	まだ分からないことだらけ
2	『竹取物語』	不死？ 富士？
3	『伊勢物語』	在原業平の伝記？
4	『源氏物語』	完結？ 未完結？
5	『枕草子』	誰のために？ 何のために？
6	『蜻蛉日記』『更級日記』『和泉式部日記』	日記？ 自伝？ 物語？
7	『土左日記』	語っているのは誰？
8	『古今和歌集』	恋の順番？
9	『新古今和歌集』	現実でないものを歌う？
10	『百人一首』『百人秀歌』	どうして名歌じゃないものが採録されているのか？
11	『栄花物語』『大鏡』	どこまでが史実か？
12	『平家物語』	結末＝最終巻はどれ？
13	『今昔物語集』	本当にあった話？
14	『無名抄』『俊頼髄脳』	歌論書？ 説話集？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◆授業中、色々な本を紹介します。面白そうだと思ったものは、入手して読んでみてください。
※本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
◆以下の国語便覧は、作家・作品・歴史・文化の基礎情報を知るための、とても良いハンドブックになるでしょう（文学部の他の授業でも役立つはず）。カラー写真が満載で、900 円です。
◎足立直子ほか監修『プレミアムカラー国語便覧』（数研出版）

【参考書】
◆以下のデータベースで、古典文学の原文・現代語訳を読むことができます。
◎法政大学図書館ホームページ「オンラインデータベース」から入る → 自宅の場合はＶＰＮ接続をする → ログインする →「ジャパンナレッジ Lib」に入る →「本棚」の中の「新編日本古典文学全集」
・
◆以下の全集には、現代の作家たち（森見登美彦や小池昌代や町田康や伊藤比呂美や高橋源一郎など）が古典文学を自由に翻訳したものが、収められています。書店で見てみてください。
◎池澤夏樹個人編集『日本文学全集』全３０巻（河出書房新社）のうち、０１巻～１２巻。

【成績評価の方法と基準】
◆第 6 回と第 13 回に課題を出します。複数の選択肢から１つを選んで創作をしたり小論文を書いたりする課題です。その出来具合、８８％。
◆各回のリアクションペーパー（疑問やアイディアを自由に書く用紙）、１２％。

【学生の意見等からの気づき】
◆中古～中世の古典文学だけでなく、現代の文学・芸術や、海外の文学・思想も、積極的に取り挙げます。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the history of Japanese classical literature.

LIT200BC

日本文芸史Ｉ Ｂ

伊海　孝充

授業コード：A2407　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
◆秋学期は中世（院政期～室町時代）と近世（安土桃山時代～江戸時代）の文学史・芸能史を学ぶ。
◆芸能史の展開を辿ることを中心としながら、主要な文学作品についても解説していく。

【到達目標】
◆古典文学・古典芸能の特色・表現を知る。
◆古典文学・古典芸能の歴史的展開を知り、日本文化の大枠を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で進め、適宜発言を求める。質問と意見はリアクションペーパーで募る。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中世・近世の文学と芸能	概説
第 2 回	古代から中世	『平家物語』等
第 3 回	平家（平家語り）	『徒然草』・『無名抄』等
第 4 回	猿楽	『宇治拾遺物語』等
第 5 回	田楽	『太平記』等
第 6 回	連歌	「座」の文芸略史
第 7 回	能・狂言	『風姿花伝』等
第 8 回	古今伝授	中世和歌略史
第 9 回	幸若舞曲	『信長公記』・奈良絵本等
第 10 回	風流踊	芸能を描く絵画
第 11 回	人形浄瑠璃	「曾根崎心中」等
第 12 回	歌舞伎	狂言と役者
第 13 回	舌耕芸能	『醒睡笑』等
第 14 回	まとめ	中近世の文学史・芸能史の流れ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。中世・近世の文芸は１４回で収まりきれないほどの多様性がある。授業で紹介する参考文献をもとに、自身で興味を広げる研究をしてほしい。

【テキスト（教科書）】
毎回資料を配布する。

【参考書】
ジャンルごとに授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
２回に１回のペースで課題を提出（８０％））。リアクションペーパーの内容（２０％）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
In the fall semester, we will study the history of literature and performing arts in the medieval ((late12-16th C.) and early modern (17-early19th C) periods.

While focusing on tracing the development of the history of the performing arts, major literary works will also be explained.

LIT200BC

日本文芸史Ｉ Ｂ

小林　ふみ子

夜間時間帯
授業コード：A2408　｜　曜日・時限：**火曜 6 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【テーマ】中世後半～近世（鎌倉時代末～江戸時代）の文学史
時代の流れにゆるやかに即して、中世・近世に展開した、韻文・散文、さらに芸能も含むさまざまなジャンルの特徴について歴史的背景などもふくめて解説しつつ、主要な作品のさわりを読解し、その文体にも触れます。
有名作品を紹介していくだけでなく、近代文学が生まれてくるまで約 500 年間にわたる文学のダイナミズムを学びましょう。

【到達目標】
（A）中世・近世文学の各ジャンルの成立・特徴・表現などを知る。
（B）中世・近世文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と資料（デジタル）に触れてもらう時間、皆さん自身に作品を読解してもらう時間を交互に交えながら展開します。わかったこと、考えたこと Hoppii に授業内または直後に書き込んでもらう（リアクションペーパー）ことも予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『徒然草』が拓く世界 -中世１	鎌倉時代の末の成立から長らく、そして広く読み継がれた『徒然草』の影響力を探ります。
第 2 回	武者たちの物語の展開 -中世２	室町時代の軍記物語『太平記』『義経記（ぎけいき）』に触れ、その英雄たちがその後の文芸や芸能のなかで活躍するさまを見てみましょう。
第 3 回	昔話の由来 -中世３	「御伽草子」として知られる一群の作品について学び、昔話とのつながりを確認します。
第 4 回	連歌と俳諧 -中世から近世へ１	和歌の席の遊戯として始まった連歌と、そこから派生した俳諧が芭蕉によって近世文芸の重要ジャンルとして確立するまでを学びます。
第 5 回	漢詩と和歌（１） -中世から近世へ２	日本文学史を貫く重要ジャンルである漢詩と和歌が中世～近世前半にどのように展開したのかを学びます。かの一休も登場！
第 6 回	近世小説のはじまり - 近世１	太平の世を迎えて出版を通じて文学が流通し始める時代、どんな文学が生み出されたのか、その多様な展開に触れます。
第 7 回	「浮世」の楽しみ - 近世２	17 世紀の末、大坂に西鶴が登場します。前代とは異なる画期性はどこにあるのか、その次世代の作者たちがどんな工夫で先人を乗り越えようとしたのかを見ていきます。
第 8 回	劇場の愉楽 - 近世３	江戸時代らしい演劇として歌舞伎と人形浄瑠璃が発展します。双方を紹介しつつ、とりわけ人形浄瑠璃がどんな芸能なのかを理解します。
第 9 回	世にも奇妙な物語：近世版 - 近世４	怪異・奇談集のなかから『雨月物語』をはじめとする前期読本が生まれてくるさまをみてみましょう。
第 10 回	詩心のゆくえ：漢詩と和歌（２） - 近世５	江戸時代中期以後、漢詩や和歌も、近世らしい素材を扱う時代がやってきます。 文芸思潮の展開と共に学びましょう。
第 11 回	俳諧のその後、そして川柳 - 近世６	芭蕉門人ののちの俳諧の全国展開、そこから派生した川柳について学びます。
第 12 回	古典と戯れ、知で笑う：江戸の知識人文芸 - 近世７	18 世紀なかば以降、知的なしかけに富んだ笑いの文芸が江戸で流行します。黄表紙・洒落本・狂歌など、さまざまなジャンルに触れていきましょう。

第 13 回	落語はどのようにしてできたのか - 近世８	江戸時代に入って以来、上方でも江戸でも作られてきた笑話集から落語ができるまでを概観します。
第 14 回	事件、冒険、恋、笑い：江戸庶民の世界 - 近世９	読者層が拡大した 19 世紀、大衆に歓迎されるさまざまなジャンルが展開します。今日のエンタメにもつながるその諸相を学びましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後のリアクションペーパーも評価対象です。一定時間をかけてしっかり考えましょう。3～４回に一度のミニ・レポートは数回分の授業内容を踏まえた課題です。授業後にしっかり復習しておきましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各回、学習支援システムを通じて資料を配付します。

【参考書】
作品・ジャンルごとに、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパー代わりのコメント（Hoppii）40 %、３～４回に一度程度の小レポートで（60 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
中世・近世は時間数に対して、ジャンルの展開や作品数が多様なので、煩雑になりすぎないよう内容を厳選して構成します。
単なる知識の習得に終わらないよう、現物やデジタル資料ももちいて、文学＝書物のリアリティを体感できるように工夫します。
文芸コースや言語コースの人にも必修となっているのは、日本語の歴史、表現の多様な手法を知ることは創作においても言語分析においても不可欠だからです。前向きに履修しましょう！

【その他の重要事項】
（通学の学生のみなさんへ）担当教員の専門が近世であることから、中世についてはのちの時代につながる、影響の大きいジャンルや作品を中心に扱います。能楽も含め、中世を重点的に学びたい人は、水曜２限の伊海先生の日本文芸史 IB を選択することをオススメします。
とはいえ、高校までの教科書では接点が限られていた近世文学の豊穣な世界、きっと楽しめるはずです！

【Outline and objectives】
Learnig the history of Japanese Litrature from the medieval(late12-16th C.)to early modern(17-early19th C) times in various genres.

LIT200BC

文学概論 A

中丸　宣明

授業コード：A2425　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
19 世紀 20 世紀の文学。日本の 19 世紀 20 世紀文学の展開を論ずるとともに、文学的近代とは何かということについて論ずる。なお、講義の進行の中で、研究状況の進展を反映し、また受講者の反応に応じて、扱うテーマに若干の異同が生ずる場合がある。

【到達目標】
これまでの日本の文学史の常識や定説を相対化し、あわせて文学研究の今日的論点を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義によるが講義中に取り上げた作品・研究文献はつとめて読むようにすること。また映画・演劇なども取り上げるので、それらに対しても接する努力をすること。それらの経験をふまえて講ずる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、講義の際話題とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	一年間の講義の概要
第 2 回	文学史の時代区分について	口承から写本へ
第 3 回	文学史の時代区分について	印刷から出版へ
第 4 回	文学史の時代区分について	IT 時代へ
第 5 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 漢学・国学・洋学の展開 1
第 6 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 漢学・国学・洋学の展開 2
第 7 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開 1
第 8 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開 2
第 9 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 漢詩・和歌・俳諧の展開 3
第 10 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開 1
第 11 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開 2
第 12 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 説話・物語・小説の展開 3
第 13 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 演劇・芸能の展開 1
第 14 回	文学史のダイナミズム	上の文学／下の文学 演劇・芸能の展開 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業であつかう、ないしあつかった作品・論文などは読むように心がけること。なお、大学の講義は、すでに「教科書」となっている「常識」を講ずるのではなく、新しい発見や知見を摸索するものであるということを肝に命ずべし。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず。必要な場合はプリントによる。

【参考書】
講義中に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
期末レポートないしテスト（60 %）。および毎講義に提出してもらう「リアクションペーパー」の内容（40 %）。「リアクションペーパー」は単なる出席確認に留まらず、講義内容への感想・希望・理解度を反映させることができるものとする。

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくりとわかりやすい話し方を心がけ、リアクションカードを有効活用します。

【Outline and objectives】
See Japanese notation.Those who do not understand the Japanese language are not eligible.

LIT200BC

文学概論 B

中丸　宣明

授業コード：A2427　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
19 世紀 20 世紀の文学。日本の 19 世紀 20 世紀文学の展開を論ずるとともに、文学的近代とは何かということについて論ずる。なお、講義の進行の中で、研究状況の進展を反映し、また受講者の反応に応じて、扱うテーマに若干の異同が生ずる場合がある。

【到達目標】
これまでの日本の文学史の常識や定説を相対化し、あわせて文学研究の今日的論点を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義によるが講義中に取り上げた作品・参考文献はつとめて読むようにすること。また映画・演劇なども取り上げるので、それらに対しても接する努力をすること。それらの経験をふまえて講ずる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、講義の際話題とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の内容の確認と秋学期授業を聞く上での知識の確認。（春学期講義未受講者への対策指導あり）
第 2 回	メディア論 総論 1	メディアとは何か 1 リテラシーと都市
第 3 回	メディア論 総論 2	リテラシーの質
第 4 回	メディア論 書籍出版 1	仮名草子の世界
第 5 回	メディア論 書籍出版 2	江戸期の出版 1 洒落本系出板物の展開
第 6 回	メディア論 書籍出版 3	江戸期の出版 2 読本系出板物の展開
第 7 回	メディア論 書籍出版 4	江戸期の出版 3 草双紙系出板物の展開
第 8 回	メディア論 書籍出版 4	翻訳論ー読本の伝統から 純文学の出発
第 9 回	メディア論 新聞 1	草双紙から小新聞へ
第 10 回	メディア論 新聞	新聞に付属する出版 大衆文学へ
第 11 回	メディア論 雑誌論	投稿雑誌
第 12 回	メディア論 雑誌論	文学雑誌へ／から
第 13 回	デジタルメディア論	ＩＴ革命とは
第 14 回	デジタルメディア論	これからのメディア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業であつかう、ないしあつかった作品・論文などは読むように心がけること。大学の講義は、すでに「教科書」となっている「常識」を講ずるのではなく、新しい発見や知見を摸索するものであると言うことを肝に命ずべし。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めず。必要な場合はプリントによる。

【参考書】
授業中に適宜指示。特に分析対象作品は読むように心がけること。

【成績評価の方法と基準】
期末レポートないしテスト（60 %）、および毎講義の「リアクションペーパー」の内容（40 %）。リアクションペーパー」は単なる出席確認に留まらず、講義内容への感想・希望・理解度を反映させることができるものとする。

【学生の意見等からの気づき】
ゆっくりとわかりやすく、また日々のリアクションカードを有効活用します。

【Outline and objectives】
See Japanese notation.Those who do not understand the Japanese language are not eligible.

LIT200BC

日本文芸史Ⅱ A

藤村　耕治

授業コード：A2429　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
明治期の日本文芸の歴史を通して、現代につながる近代文学の生成と変化、文芸と社会との関わり、文学意識や理論などを学びます。
文学史的事実をただ羅列し、それを機械的に覚えてもらうのではなく、部分的にせよ作品に具体的に触れながら、その史的意義や現代との関わりなどについて理解することがテーマとなります。

【到達目標】
日本近現代文学史に対する概括的な知識を得るのみならず、個々の作家や作品が歴史の中において持つ位置や意義を、受講者が自分なりに考えられるようになるのが目標です。つまり、ただ受動的に講義を聞いて終わりにするのではなく、受講生各人が、より多くの作品に触れ、読解し、享受することのできる基本的な力をも身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期セメスターでは、明治初期から中期、日本近代文学の出発期の文芸史の流れを辿ります。上記の様々な問題について、なるべく具体的に作品にあたりながら、考えていきます。とはいえ、限られた授業時間で多くの作品を読んでいく事は事実上不可能ですから、毎回のテーマごとに読んで欲しい文献の案内を行いますので、受講者はそれを積極的に読み進めていって欲しい。
授業は講義が中心となりますが、場合によっては意見を求めたり、授業内で簡単なテストやレポートを随時書いてもらったりすることもあります。あるいは、指定した作品についての感想などを書いてもらう場合もあります。
また、毎回授業終了時に質問や意見、感想などをリアクションペーパーに記入してもらいます。そこで出された質問については次回授業冒頭で答えることで、前回の授業内容を簡単に復習しつつ、併せてフィードバックを行います。意見や感想についても適宜紹介し、理解をより深めたり授業改善に役立てたりすることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	明治日本の国家政策と文芸①	文明開化と啓蒙主義思想―福沢諭吉の思想
第 2 回	明治日本の国家政策と文芸②	江戸末期から明治に至る戯作文学の位置―馬琴から魯文まで
第 3 回	近代文学の出発・坪内逍遥①	「小説神髄」を読む
第 4 回	近代文学の出発・坪内逍遥②	「小説神髄」と「当世書生気質」
第 5 回	二葉亭四迷の挑戦①	二葉亭四迷「浮雲」第一篇を読む
第 6 回	二葉亭四迷の挑戦②	二葉亭四迷「浮雲」第二・三篇を読む
第 7 回	二葉亭四迷の挑戦③	「浮雲」はいかに書かれたか、その主題とは何か
第 8 回	森鷗外の場合①	「舞姫」を再読する
第 9 回	森鷗外の場合②	「舞姫」が描いたもの
第 10 回	森鷗外の場合③	「浮雲」と「舞姫」
第 11 回	硯友社の文学①	硯友社文学の理念と特徴
第 12 回	硯友社の文学②	尾崎紅葉の初期作品を読む
第 13 回	硯友社の文学③	尾崎紅葉「金色夜叉」を読む
第 14 回	近代文学の展開	紅露逍鷗の時代

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習としては、シラバスの各回の内容に沿って、各自が持っている文学史の書物の該当部分に眼を通してくることで、おおよその流れがつかみやすくなります。
また、授業内で紹介した作品や、特に読むことを指示した作品などをできるだけ多く読み、自分の文学鑑賞眼を磨くことを心がけてください。
したがって、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しません。読むべき作品などについては適宜指示・紹介します。

【参考書】
日本近代文学史についての書籍を一冊、用意しておくとよいでしょう。文献案内は授業の初回に行います。

【成績評価の方法と基準】
試験の成績 70 %、授業内で随時行う小レポートやリアクションペーパーの提出率及び内容 30 %、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明したり、次回冒頭でポイントを復習したりするなど、十全な理解ができるよう工夫します。

【その他の重要事項】
文学史の学習は、ともすれば作家や作品の羅列的暗記や、知識の吸収などに陥りがちなイメージがあります。もちろん、そういう学習もある程度は必要ですが、それを自分の興味や関心に引き付けて、生きた文学史知識とする為には、なるべく多くの実作品に触れる必要があります。上にも記したとおり、授業内で読める作品は非常に少ないものに限られますが、それを機会に、自ら進んで多くの作家・作品を読み進めていってほしい。

【Outline and objectives】
Throgh the history of Japanese literature in the Meiji era,students learn about the generation of modern literature,relationships with society,literary consciousness and theory.

LIT200BC

日本文芸史Ⅱ A

岡野　幸江

夜間時間帯
授業コード：A2430　｜　曜日・時限：**水曜 6 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、近代文学の成立の背景やその特徴、その後の展開やそれに伴う文学潮流などについて学びます。特に名作と評価されている文学作品を内容と文体の両面から分析し、その表現を通して作品が発するメッセージを把握し鑑賞する方法を学びます。また文学の面白さを味わいながら近代文学の歴史も概観し、合わせて日本の歴史や文化などについても考えます。

【到達目標】
近代の文学者が描いた世界を当時の歴史、経済、社会、文化との関係にも注意を払いながら検討し、理解することを目指します。具体的な作品を読解することによって、文学の面白さを実感し近代文学の特徴を把握することが学習の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義を中心としますが、各作品についてはグループディスカッションなども行いながら発表する場合も設けます。授業後はリアクションペーパーやミニレポートを提出してもらい、コメントして返却します。なお、授業形態（対面授業かオンラインか）によっては、取りあげる作品等を変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス―近代の幕開けと日本近代文学の成立	日本の近代はいつから始まり、その特徴は何か、また近代の始まりにはどのような文学が流通していたか考えます。
第 2 回	近代文学の成立Ⅰ―坪内逍遥「小説神髄」と二葉亭四迷「小説総論」	「小説神髄」が提起し、「小説総論」が深めた写実主義について考えます。
第 3 回	近代文学の成立Ⅱ―二葉亭四迷「浮雲」の新しさ	「浮雲」の新しさを内容と文体の面から考え、近代文学とは何かについて考えます。
第 4 回	近代文学の成立Ⅲ―二葉亭四迷「浮雲」と言文一致	言文一致とその運動について考えます。
第 5 回	女性文学の登場Ⅰ―樋口一葉「たけくらべ」の女性表象	「たけくらべ」の背景と近代の女性問題について考えます。
第 6 回	女性文学の登場Ⅱ―樋口一葉「たけくらべ」の背景	「たけくらべ」から女性文学登場の背景について考えます。
第 7 回	浪漫主義の高揚―国木田独歩「山林に自由存す」の抒情	「山林に自由存す」のロマンチシズムについて考えます。
第 8 回	浪漫主義から自然主義へ―国木田独歩「山林に自由存す」から「春の鳥」へ	「春の鳥」からロマンチシズムとリアリズムの融合について考えます。
第 9 回	自然主義とリアリズムの進化Ⅰ―田山花袋「少女病」の日常	「少女病」のリアリズムと日露戦後の日常について考えます。
第 10 回	自然主義とリアリズムの進化Ⅱ―田山花袋「少女病」から「蒲団」へ	自然主義の特徴や流行の背景について考えます。
第 11 回	自然主義とは異なる立場Ⅰ―夏目漱石「夢十夜」が見せる深層心理	漱石の人間探求の方法について考えます
第 12 回	自然主義とは異なる立場Ⅱ―森鷗外「かのやうに」にみる歴史認識	「かのやうに」を通して鷗外の捉えた国家と個人の問題を考えます。
第 13 回	自然主義とは異なる立場Ⅲ―石川啄木「時代閉塞の現状」にみる日露戦後	「時代閉塞の現状」を読み、日露戦後の社会と文学の関係を考えます。
第 14 回	まとめと試験	前期授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取りあげた作品について事前に読み、感想や意見を持って授業に臨むことが必要です。また、講義後には、学習したこと、疑問、質問などをリアクションペーパーに書き提出します。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『日本近代小説史　新装版』安藤宏、中公選書、2015 年、1700 円＋税

【参考書】
『文芸学講義』小田切秀雄、菁柿堂、2016 年

【成績評価の方法と基準】
S:100 ～ 90 点、A:89 ～ 80 点、B:79 ～ 70 点、C:69 ～ 60 点、D ： 59 点以下　E:受験資格無、レポート・課題未提出等。
試験 60 %、ミニレポートの内容 20 %、授業参加度 20 %とし、各項目を総合して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な作品をたくさん読みたいという意見がきかれるので、できるだけたくさんの作品に接することができるよう心掛けたいと思います。

【その他の重要事項】
取りあげる作品については必ず事前に読んで、一人一人が問題意識を持って疑問点や感想などをまとめ、主体的に授業に臨んでほしいと思います。

【Outline and objectives】
This course introduces the feature of Japan modern literature and literary trends by reading the masterpieces of literary works to students taking this course.
At the end of this course, participants are expected to obtain basic knowledge about the formation process of Japan modern literature, understand modern history and culture of Japan as the background of literary works and apply to the appreciation of literary works.

LIT200BC

日本文芸史Ⅱ B

藤村　耕治

授業コード：A2431　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の流れを受けて、明治後期の文芸作品に即しつつ、日本近代文学の確立と、多様化するそれぞれの文学状況を解説していきます。
文学史的事実をただ羅列し、それを機械的に覚えてもらうのではなく、部分的にせよ作品に具体的に触れながら、その史的意義や現代との関わりなどについて理解することがテーマとなります。

【到達目標】
A と同様、単なる知識の習得にとどまらず、個々の作家や作品が歴史の中において持つ位置や意義を受講者が各自で考え、文学作品を時代や作者の背景に留意しつつ読み解くことができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
明治中後期、すなわち日本近代文学の確立期の文芸史の流れを追っていきます。春学期と同様、なるべく具体的なテキストを読みながら考えていきます。
授業は講義が中心となりますが、適宜意見を求めたり、授業内で簡単なテストや小レポートを書いてもらったり、とり上げた作品について受講生同士で討論を行ってもらったりすることもあります。
また、毎回授業終了時に質問や意見、感想などをリアクションペーパーに記入してもらいます。そこで出された質問については次回授業冒頭で答えることで、前回の授業内容を簡単に復習しつつ、併せてフィードバックを行います。意見や感想についても適宜紹介し、理解をより深めたり授業改善に役立てたりすることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	近代文学の見取り図	明治期の文芸史についての概括的な解説
第 2 回	浪漫主義の文学①	北村透谷の文学論
第 3 回	浪漫主義の文学②	北村透谷の恋愛論
第 4 回	浪漫主義の文学③	北村透谷と浪漫主義文学
第 5 回	女性作家の登場①	樋口一葉とその初期作品
第 6 回	女性作家の登場②	樋口一葉「たけくらべ」を読む
第 7 回	女性作家の登場③	樋口一葉「たけくらべ」の文学史的位置
第 8 回	自然主義前史	ゾラの自然主義と日本自然主義前史
第 9 回	自然主義文学①	島崎藤村「破戒」を読む
第 10 回	自然主義文学②	島崎藤村「破戒」の可能性
第 11 回	自然主義文学③	田山花袋『蒲団』を読む
第 12 回	自然主義文学④	自然主義から私小説へ
第 13 回	自然主義文学への反応①	夏目漱石の場合
第 14 回	自然主義文学への反応②	芥川龍之介の場合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習としては、シラバスの各回の内容に沿って、各自が持っている文学史の書物の該当部分に眼を通してくることで、おおよその流れがつかみやすくなります。
また、授業内で紹介した作品や、特に読むことを指示した作品などをできるだけ多く読み、自分の文学鑑賞眼を磨くことを心がけてください。
したがって、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しません。読むべき作品などについては適宜指示・紹介します。

【参考書】
日本近代文学史についての書籍を一冊、用意しておくとよいでしょう。文献案内は授業の初回に行います。

【成績評価の方法と基準】
試験の成績 70 %、授業内で随時行う小レポートやリアクションペーパーの提出率及び内容 30 %、それに受講態度などを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
特に重要な点や理解しにくい点については、繰り返し説明したり、次回冒頭でポイントを復習したりするなど、十全な理解ができるよう工夫します。

【その他の重要事項】
日本文芸史ⅡＡに同じ。

【Outline and objectives】
Through the history of Japanese literature in the latter part of the Meiji era,students learn about the establishment and diversification of the modern literature.

LIT200BC

日本文芸史Ⅱ B

岡野　幸江

夜間時間帯
授業コード：A2432　｜　曜日・時限：**水曜 6 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、文学概論 A にひき続き、近代文学の確立や展開とそれに伴う文学潮流などについて学びます。特に名作と評価されている文学作品を内容と文体の両面から分析し、その表現を通して作品が発するメッセージを把握し鑑賞する方法をさらに磨いていきます。作品分析や鑑賞力の向上を目指すと同時に、さらに近代文学の歴史と日本の歴史の相関についても考えていきます。

【到達目標】
作品の分析と鑑賞のさらなる向上と、文学研究の方法を学ぶことを目指します。また近代文学の歴史を日本の歴史や文化との相関で把握できることが学習の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義を中心としますが、各作品についてはグループディスカッションなども行いながら発表する場合も設けます。授業後はリアクションペーパーやミニレポートを提出してもらい、コメントして返却します。なお、授業形態（対面授業かオンラインか）によっては、取りあげる作品等を変更することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	1910 年代・文芸雑誌の活況 ―『青鞜』と「新しい女」を中心に	『三田文学』『白樺』『青鞜』『新思潮』などの文芸雑誌の登場について考えます。
第 2 回	新たな現実解釈とその表現Ⅰ―芥川龍之介「戯作三昧」と芸術至上主義	「戯作三昧」から「芸術至上主義」とは何かについて考えます。
第 3 回	新たな現実解釈とその表現Ⅱ―芥川龍之介「藪の中」の語りと構造	芥川龍之介と新技巧派、新理知主義について考えます。
第 4 回	心境小説の成立―志賀直哉「城の崎にて」と生命思想	「城の崎にて」から心境小説とは何かについて考えます。
第 5 回	プロレタリア文学の抵抗Ⅰ―中野重治「雨の降る品川駅」と東アジア	「雨の降る品川駅」から植民地と民族の表象について考えます。
第 6 回	プロレタリア文学の抵抗Ⅱ―中野重治「雨の降る品川駅」と東アジア	プロレタリア文学とは何かについて考えます。
第 7 回	新世代の新しい感覚表現Ⅰ―横光利一「頭ならびに腹」と新感覚の表現	「頭ならびに腹」の表現の特徴と新しさについて考えます。
第 8 回	新世代の新しい感覚表現Ⅱ―横光利一「頭ならびに腹」から「機械」へ	新感覚派とは何かについて考えます。
第 9 回	文壇から遠く離れてⅠ―宮沢賢治「銀河鉄道の夜」の方法	「銀河鉄道の夜」の成立過程と改稿過程を検討します。
第 10 回	文壇から遠く離れてⅡ―宮沢賢治「銀河鉄道の夜」の世界	「銀河鉄道の夜」から宮沢賢治の世界観、宇宙観について考えます。
第 11 回	戦時下の文学Ⅰ―太宰治「散華」の抵抗と協力	「散華」の独特なレトリックから太宰治と戦争について考えます。
第 12 回	戦時下の文学Ⅱ―太宰治「散華」の抵抗と協力	戦時下の文学の諸相について考えます。
第 13 回	近代文学の確立と展開のまとめ	大正期から昭和初期に出現した様々な文学動向について振り返ります。
第 14 回	まとめと試験	後期授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取りあげた作品について事前に読み、感想や意見を持って授業に臨むことが必要です。また、講義後には、学習したこと、疑問、質問などをリアクションペーパーに書き提出します。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『日本近代小説史　新装版』、安藤宏、中公選書、2015、1700 円＋税

【参考書】
『文芸学講義』、小田切秀雄、菁柿堂、2016 年、2000 円＋税

【成績評価の方法と基準】
S:100 ～ 90 点、A:89 ～ 80 点、B:79 ～ 70 点、C:69 ～ 60 点、D ： 59 点以下　E ：受験資格無、レポート・課題未提出等。
試験 60 %、ミニレポートの内容 20 %、授業参加度 20 %。これらの項目を総合して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な作品をたくさん読みたいという意見がきかれるので、できるだけたくさんの作品に接することができるよう心掛けたいと思います。

【その他の重要事項】
取りあげる作品については全員が必ず事前に読んで、一人一人が問題意識を持って疑問点や感想などをまとめ、主体的に授業に臨んでほしいと思います。

【Outline and objectives】
This course introduces the feature of Japan modern literature and literary trends by reading the masterpieces of literary works to students taking this course.
At the end of this course, participants are expected to obtain basic knowledge about the establishment and deployment of Japan modern literature, understand modern history and culture of Japan as the background of literary works, and increase appreciation ability of literary works.

LIT300BC

ゼミナール１Ａ

遠藤　星希

授業コード：A2615　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【『唐詩選』精読】
『唐詩選』は、明代の李攀龍（1514 ― 1570）が編纂したとされる唐詩の選集（全部で 465 首の詩を収録）であり、江戸時代の日本で最もよく読まれた漢籍として知られている。本授業では、この『唐詩選』の中から比較的短い詩を選んで精読し、その魅力を堪能すると同時に、既存の日本語訳や漢文で書かれた注などを批判的に検討しながら、オリジナルの翻訳を完成させる。また、唐詩を生み出す土壌となった唐代の社会背景や文化・習慣、さらには唐詩の形式や規則についても併せて学ぶ。

【到達目標】
１．『唐詩選』についての基礎的な知識を習得する。
２．唐詩の形式や規則を把握する。
３．唐詩を読解するための基礎的なスキル（辞書の引き方や用例の調べ方を含む）を身につける。
４．既存の訳注を批判的に検討し、作品を独自に解釈・鑑賞する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
最初の数回のみ講義形式、残りは演習形式で行う。３年生と２年生から成るグループを作り、担当作品を決める。担当者はレジュメを準備して発表し、その内容を元にして全員で討論する。毎回リアクションペーパーを提出して頂き、そこに書き込まれた質問等については、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（1）	『唐詩選』と唐詩についての概説。担当者の決定。発表の方法についてのレクチャー。
第 2 回	ガイダンス（2）	唐詩の形式と規則についての概説。
第 3 回	ガイダンス（3）	中国古典文学関連の文献・資料・論文・用例の調べ方について。
第 4 回	『唐詩選』精読（1）	担当者による発表と討論（1）
第 5 回	『唐詩選』精読（2）	担当者による発表と討論（2）
第 6 回	『唐詩選』精読（3）	担当者による発表と討論（3）
第 7 回	『唐詩選』精読（4）	担当者による発表と討論（4）
第 8 回	『唐詩選』精読（5）	担当者による発表と討論（5）
第 9 回	『唐詩選』精読（6）	担当者による発表と討論（6）
第 10 回	『唐詩選』精読（7）	担当者による発表と討論（7）
第 11 回	『唐詩選』精読（8）	担当者による発表と討論（8）
第 12 回	『唐詩選』精読（9）	担当者による発表と討論（9）
第 13 回	『唐詩選』精読（１０）	担当者による発表と討論（１０）
第 14 回	『唐詩選』精読（１１）	担当者による発表と討論（１１）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者はその準備、その他の受講者は発表者の担当する詩について予習し、事前に内容を把握した上で、疑問点や検討を要する箇所について整理しておく。授業後には討論で得た情報と意見を自分なりにまとめておく。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布する。

【参考書】
・前野直彬注解『唐詩選』上・中・下巻（岩波文庫、1961-1963）
・高木正一著『唐詩選』一・二・三・四（朝日文庫、1978）
・松浦友久編著『漢詩の事典』（大修館書店、1999）
・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
報告者としての発表内容（４０％）、学期末レポート（４０％）、討論への参加度・貢献度（２０％）。学期中に必ず一度は発表することが成績評価の前提。

【学生の意見等からの気づき】
授業中の討論にほとんど参加せず、聞いているだけの受講者が毎回確認できたので、質問や問題提起をしやすいような雰囲気を作り、場合によっては教員から受講者に質問して回答やコメントを求めるなど、全員参加型の授業となるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】
・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の３分の２以上の出席がないと、原則として学期末レポートの提出資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。

【Outline and objectives】
Selected Tang Poems is an anthology of Tang poetry (a total of 465 poems were collected) compiled by Li Panlong (1514-1570) during the Ming dynasty, and is known to be a most widely read Chinese classic during the Edo period in Japan. In this course, we will select and closely read relatively short poems from the Selected Tang Poems, and while appreciating its charm, we will complete an original translation by critically examining existing Japanese translations as well as commentaries written in literary Chinese. In addition, we will learn the social background, culture and custom during the Tang which formed the foundation for the creation of Tang poetry, as well as forms and rules of Tang poetry.

LIT300BC

ゼミナール１Ｂ

遠藤　星希

授業コード：A2616　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【『三体詩』精読】
『三体詩』は、南宋の周弼が編纂したとされる唐詩の選集（全部で 494 首の詩を収録）であり、室町時代の日本で大変よく読まれた漢籍として知られている。本授業では、この『三体詩』の中から代表的な詩を選んで精読し、その魅力を堪能すると同時に、既存の日本語訳や漢文で書かれた注などを批判的に検討しながら、オリジナルの翻訳を完成させる。また、唐詩を生み出す土壌となった唐代の社会背景や文化・習慣、さらには唐詩の形式や規則についても併せて学ぶ。

【到達目標】
１．『三体詩』についての基礎的な知識を習得する。
２．唐詩の形式や規則を把握する。
３．唐詩を読解するための基礎的なスキル（辞書の引き方や用例の調べ方を含む）を身につける。
４．既存の訳注を批判的に検討し、作品を独自に解釈・鑑賞する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
最初の数回のみ講義形式、残りは演習形式で行う。３年生と２年生から成るグループを作り、担当作品を決める。担当者はレジュメを準備して発表し、その内容を元にして全員で討論する。毎回リアクションペーパーを提出して頂き、そこに書き込まれた質問等については、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	『三体詩』についての概説。担当者の決定。発表の方法についてのレクチャー。
第 2 回	春学期の復習	春学期で習得した知識の復習と秋学期における新たな課題の提示。
第 3 回	『三体詩』精読（１）	担当者による発表と討論（１）
第 4 回	『三体詩』精読（２）	担当者による発表と討論（２）
第 5 回	『三体詩』精読（３）	担当者による発表と討論（３）
第 6 回	『三体詩』精読（４）	担当者による発表と討論（４）
第 7 回	『三体詩』精読（５）	担当者による発表と討論（５）
第 8 回	『三体詩』精読（６）	担当者による発表と討論（６）
第 9 回	『三体詩』精読（７）	担当者による発表と討論（７）
第 10 回	『三体詩』精読（８）	担当者による発表と討論（８）
第 11 回	『三体詩』精読（９）	担当者による発表と討論（９）
第 12 回	『三体詩』精読（１０）	担当者による発表と討論（１０）
第 13 回	『三体詩』精読（１１）	担当者による発表と討論（１１）
第 14 回	『三体詩』精読（１２）	担当者による発表と討論（１２）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者はその準備、その他の受講者は発表者の担当する詩について予習し、事前に内容を把握した上で、疑問点や検討を要する箇所について整理しておく。授業後には討論で得た情報と意見を自分なりにまとめておく。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。プリントを配布する。

【参考書】
・村上哲見著『三体詩』一・二・三・四（朝日文庫、1978）
・田部井文雄著『唐詩三百首詳解』上巻・下巻（大修館書店、1988-1990）
・村上哲見著『漢詩と日本人』（講談社選書メチエ、1994）
・松浦友久編著『漢詩の事典』（大修館書店、1999）
・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005）
・村上哲見著『中国文学と日本　十二講』（創文社、2013）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
報告者としての発表内容（４０％）、学期末レポート（４０％）、討論への参加度・貢献度（２０％）。学期中に必ず一度は発表することが成績評価の前提。

【学生の意見等からの気づき】
授業中の討論にほとんど参加せず、聞いているだけの受講者が毎回確認できたので、質問や問題提起をしやすいような雰囲気を作り、場合によっては教員から受講者に質問して回答やコメントを求めるなど、全員参加型の授業となるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】
・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の３分の２以上の出席がないと、原則として学期末レポートの提出資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。

【Outline and objectives】
Santi Tangshi is an anthology (a total of 494 poems were collected) believed to be compiled by Zhou Bi in the South Song Dynasty, which is known to have been read quite broadly in Japan during the Muromachi period. In this course, we will select and closely read exemplary poems from Santi Tangshi, and while appreciating its charm, we will complete an original translation by critically examining Japanese translations, as well as commentaries written in literary Chinese. In addition, we will learn the social background, culture and custom during the Tang dynasty which formed the foundation for the creation of Tang poetry, as well as forms and rules of Tang poetry.

LIT300BC

ゼミナール２Ａ

坂本　勝

授業コード：A2617　｜　曜日・時限：**月曜５限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古事記や万葉集を中心に上代文学の世界を学びます。あわせて、古典文学の読み方、研究法など、卒論制作に必要な基礎的な力を身につけることを目標とします。古代の神話世界や古代人の心の世界を知ることで現代の持つ意味を考えていきます。

【到達目標】
古典文学の読み方、研究法、研究読解に必要な基礎的調査方法を身に着ける。２１世紀を生きる私たちが古代文学を読むことの意味を確かめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この時代は、日本の文学がはじめて文字に記録された時代です。祭や宴の場で語り継がれ、歌い継がれてきた神話や物語、歌謡などが、古代国家の成立とともに、新たな歴史書や歌集として再編された時代です。それは新たな文明へと向かう大きな転換の時代でもありました。日本文学史の中では最も古い時代に位置しますが、そこには、現代の私たちが、普段は忘れかけているようなものの見方や感じ方が息づいています。
夏休みに、飛鳥、出雲、伊勢など、上代文学ゆかりの地で合宿をします。（場所は皆さんと相談して決めます。ただし本年度は新型コロナ感染の状況次第で変更する可能性があります。）授業内容、毎回の進め方などはＨｏｐｐｉｉ上で確認してください。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス テキストについて	古事記について基本的な解説を行う。 解読の方法、調査、研究の方法を全般的に説明する。古事記のテキスト概説
第 2 回	研究史と参考文献について	古事記の研究史概説と 古事記研究の参考文献概説
第 3 回	発表と討議	学生によるグループ発表とディスカッションを重ねながら、各自作品の理解を深めながら、研究テーマの発見を目指して、読みの訓練をしていく。
第 4 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 5 回	発表内容と資料について	発表方法と資料作成概説
第 6 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 7 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 8 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 9 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 10 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 11 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 12 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 13 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 14 回	まとめ レポート提出	教員による春学期発表の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に問題となった資料を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
古事記（岩波文庫など）、万葉集（講談社文庫など）。ともに漢字原文のついているもの。

【参考書】
参考文献は授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期・秋学期各 1 回のリポート提出 (約 60 %)、平常点（約 40 %。ゼミへの参加状況、発表など）も考慮して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
自分で考え調べることの重要性。共同作業の重要性。

【Outline and objectives】
We would study Japanese classics focusing on Kojiki and Manyoshu. The aim of study is to acquire basic skills to write bachelor's thesis, like how to read classic literature and how to study them.

LIT300BC

ゼミナール２Ｂ

坂本　勝

授業コード：A2618　｜　曜日・時限：**月曜５限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古事記や万葉集を中心に上代文学の世界を学びます。あわせて、古典文学の読み方、研究法など、卒論制作に必要な基礎的な力を身につけることを目標とします。古代の神話世界や古代人の心の世界を知ることで現代の持つ意味を考えていきます。

【到達目標】
古典文学の読み方、研究法、研究読解に必要な基礎的調査方法を身に着ける。２１世紀を生きる私たちが古代文学を読むことの意味を確かめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この時代は、日本の文学がはじめて文字に記録された時代です。祭や宴の場で語り継がれ、歌い継がれてきた神話や物語、歌謡などが、　古代国家の成立とともに、新たな歴史書や歌集として再編された時代です。それは新たな文明へと向かう大きな転換の時代でもありました。日本文学史の中では最も古い時代に位置しますが、そこには、現代の私たちが、普段は忘れかけているようなものの見方や感じ方が息づいています。
授業内容などについて、毎回は Hoopi 上で確認してください。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス テキストについて	万葉集について基本的な解説を行う。 解読の方法、調査、研究の方法を全般的に説明する。万葉集のテキスト概説
第 2 回	研究史と参考文献について	万葉集の研究史概説。万葉集研究の参考文献概説
第 3 回	発表と討議	学生によるグループ発表とディスカッションを重ねながら、各自作品の理解を深めながら、研究テーマの発見を目指して、読みの訓練をしていく。
第 4 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 5 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 6 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 7 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 8 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 9 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 10 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 11 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 12 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 13 回	発表と討議	グループ発表と個人発表
第 14 回	まとめ レポート提出	教員による秋学期発表の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中に問題となった資料を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
古事記（岩波文庫など）、万葉集（講談社文庫など）

【参考書】
参考文献は授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】
春学期・秋学期各 1 回のリポート提出 (約 60 %)、平常点（約 40 %。ゼミへの参加状況、発表など）も考慮して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
自分で考え調べることの重要性。共同作業の重要性。

【Outline and objectives】
We would study Japanese classics focusing on Kojiki and Manyoshu. The aim of study is to acquire basic skills to write bachelor's thesis, like how to read classic literature and how to study them.

LIT300BC

ゼミナール３Ａ

加藤　昌嘉

授業コード：A2619　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
◆『源氏物語』の第１部～第２部を精読し、問題点を探ります。

【到達目標】
◆以下の４つの力を養うことを目標とします。
１，『源氏物語』の本文を正確に読む力
２，問題点を発見し、調査する力
３，わかりやすいプレゼンを行う力
４，皆でディスカッションする力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
◆担当者が各巻の問題点をレジュメにまとめて発表し、受講者全員で議論します。
◆フォローアップ（フィードバック）は、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス①	『源氏物語』概説
2	ガイダンス②	訳本ごとの違い
3	澪標①	Ａ班発表
4	澪標②	Ｂ班発表
5	澪標③	Ｃ班発表
6	絵合	Ｄ班発表
7	松風	Ｅ班発表
8	薄雲①	Ｆ班発表
9	薄雲②	Ｇ班発表
10	薄雲③	Ｈ班発表
11	朝顔①	Ｉ班発表
12	朝顔②	Ｊ班発表
13	少女①	Ｋ班発表
14	総括	秋学期の概説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◆「桐壺」巻～「明石」巻を、よく読んでおくこと。
◆本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
◆以下のいずれかを座右に置いてください。
◎柳井滋ほか校注『源氏物語』１～３（岩波文庫）
◎石田穣二ほか校注『新潮日本古典集成　源氏物語』１～３（新潮社）
◎林望『謹訳源氏物語　改訂新修』１～３（祥伝社文庫）
◎大塚ひかり全訳『源氏物語』１～２（ちくま文庫）
◎今泉忠義訳『源氏物語　新装版』１～２（講談社学術文庫）
◎円地文子訳『源氏物語』１～２（新潮文庫）
◎角田光代訳『日本文学全集　源氏物語』１（河出書房新社）

【参考書】
◎竹内正彦『図説 あらすじと地図で面白いほどわかる！　源氏物語』（青春新書）

【成績評価の方法と基準】
１，詳しく調査し、明快なプレゼンを行ったかどうか（５０％）
２，意欲的にディスカッションに加わったかどうか（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
◆自由に発言できる雰囲気作りを心がけます。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to read "The Tale of Genji" intensively.

LIT300BC

ゼミナール３Ｂ

加藤　昌嘉

授業コード：A2620　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
◆『源氏物語』の第１部～第２部を精読し、問題点を探ります。

【到達目標】
◆以下の４つの力を養うことを目標とします。
１，『源氏物語』の本文を正確に読む力
２，問題点を発見し、調査する力
３，わかりやすいプレゼンを行う力
４，皆でディスカッションする力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
◆担当者が各巻の問題点をレジュメにまとめて発表し、受講者全員で議論します。
◆フォローアップ（フィードバック）は、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	少女②	Ｌ班発表
2	藤裏葉①	M班発表
3	藤裏葉②	Ｎ班発表
4	若菜上①	Ｏ班発表
5	若菜上②	Ｐ班発表
6	若菜上③	Ｑ班発表
7	若菜下①	Ｒ班発表
8	若菜下②	Ｓ班発表
9	若菜下③	Ｔ班発表
10	若菜下④	Ｕ班発表
11	若菜下⑤	Ｖ班発表
12	ガイダンス①	来年度の概説
13	ガイダンス②	卒論の解説
14	合評会	卒論プラン発表会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◆「澪標」巻～「藤裏葉」巻を読んでおくこと。
※本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
◆以下のいずれかを座右に置いてください。
◎柳井滋ほか校注『源氏物語』１～５（岩波文庫）
◎石田穣二ほか校注『新潮日本古典集成　源氏物語』１～５（新潮社）
◎林望『謹訳源氏物語　改訂新修』１～６（祥伝社文庫）
◎大塚ひかり全訳『源氏物語』１～４（ちくま文庫）
◎今泉忠義訳『源氏物語　新装版』１～３（講談社学術文庫）
◎円地文子訳『源氏物語』１～３（新潮文庫）
◎角田光代訳『日本文学全集　源氏物語』１～２（河出書房新社）

【参考書】
◎大野晋＆丸谷才一『光る源氏の物語』上下（中公文庫）
◎藤原克己監修『はじめて読む源氏物語』（花鳥社）

【成績評価の方法と基準】
１，詳しく調査し、明快なプレゼンを行ったかどうか（５０％）
２，意欲的にディスカッションに加わったかどうか（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
◆近世の源氏絵を使い、視覚的に把握できるようにします。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to read "The Tale of Genji" intensively.

LIT300BC

ゼミナール４Ａ

佐藤　明浩

授業コード：A2621　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『百人一首』の注釈書『百人一首宗祇抄』をとりあげ、精細な読解と探究を実践します。

【到達目標】
・作品に精細な注釈を付しながら読解することをとおして、作品研究のための基礎的な調査、考究の方法を習得する。
・調査、考究した内容を的確に表現、提示できるようになる。
・写本、版本の文字を読むための基礎として、かなと基本的な漢字のくずし字を読解できるようになる。
・協同してディスカッションをすすめることのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・受講者各自の希望によって決めた担当歌と宗祇抄の注について、精細に読解するための調査をし、注釈を施し、考究した内容を、作成した資料を用いて発表します。それを基に全員で討論します。
・はじめに、作品の背景・概要、調査・考究の方法、発表の要領などについて、教員が提示します。
・随時、くずし字を読解する練習を行います。
・リアクション・ペーパーにより、学生の考えをききとります。また、発表、討論の内容、提出課題について、教員が講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	作品の読解ということ	調査・考究の方法　発表の要領
第 2 回	『百人一首』の基礎事項	『百人一首』と撰者藤原定家について
第 3 回	『百人一首宗祇抄』の基礎事項	『百人一首』の注釈書、宗祇について
第 4 回	『百人一首』の背景	鎌倉時代前期までの和歌文学史概要
第 5 回	『百人一首宗祇抄』読解	発表と討論
第 6 回	『百人一首宗祇抄』読解	発表と討論
第 7 回	『百人一首宗祇抄』読解	発表と討論
第 8 回	『百人一首宗祇抄』読解	発表と討論
第 9 回	『百人一首宗祇抄』読解	発表と討論
第 10 回	『百人一首宗祇抄』読解	発表と討論
第 11 回	『百人一首宗祇抄』読解	発表と討論
第 12 回	『百人一首宗祇抄』読解	発表と討論
第 13 回	『百人一首宗祇抄』読解	発表と討論
第 14 回	まとめ	春学期の課題の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各自の担当歌について、十分な調査、考究を行い、あらかじめ発表資料を提示して、発表に臨みます。担当者以外の受講者は、とりあげられる和歌について予習し、提示された資料を読んで、ポイントを把握して、討論に臨みます。
・くずし字の読解練習をすすめます。
・準備学習、復習の時間は、1 回につき平均で 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『実用変体がな』（かな研究会編　新典社　1988 年）
『百人一首抄〈宗祇抄〉』（吉田幸一編　笠間書院）

【参考書】
『新版 百人一首』（島津忠夫訳注　角川ソフィア文庫　1999 年）
その他、授業中に提示します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容 50 %、考察レポート 20 %、討論への参加状況 30 %を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
活発な討論ができるよう、受講者が進行を務めるなどの工夫をします。

【その他の重要事項】
あらかじめテキスト２種を入手して初回の授業に臨んでください。充実した発表内容を基に、活発に議論をすすめましょう。それを通じて課題を見出し深めていくことを大切にします。

【Outline and objectives】
This course deals with *Hyakunin Isshu Sougisho*.The aim of this course is to understand the characteristics of waka poetry and to acquire fundamental skills to study these works.

LIT300BC

ゼミナール４Ｂ

佐藤　明浩

授業コード：A2622　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『徒然草』をとりあげ、精細な読解と探究を実践します。

【到達目標】
・作品の精細な読解、問題点の探究をとおして、作品研究のための基礎的な調査、考究の方法を習得する。
・調査、考究した内容を的確に表現、提示できるようになる。
・写本、版本の文字を読むための基礎として、くずし字を読解する技能を向上させる。
・協同してディスカッションをすすめることのできる力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・初回に受講者各自が担当する章段を決めます。受講者は、担当する章段について、調査し、注釈を施し、考究した内容を、作成した資料を用いて発表します。それを基に全員で討論します。
・はじめに、作品の背景・概要、調査・考究の方法、発表の要領などについて、教員が提示します。
・随時、くずし字を読解する練習を行います。
・リアクション・ペーパーにより、学生の考えをききとります。また、発表、討論の内容、提出課題について、教員が講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	作品の読解ということ	調査・考究の方法　発表の要領
第 2 回	『徒然草』の概要	作品の成立背景
第 3 回	作者兼好法師	兼好法師についての研究史
第 4 回	『徒然草』の読解について	研究上の課題
第 5 回	1「いでや、この世に生まれては」	発表と討論
第 6 回	14「和歌こそなほをかしきもの」	発表と討論
第 7 回	52「仁和寺にある法師」	発表と討論
第 8 回	82「うすものの表紙は」	発表と討論
第 9 回	136「医師篤成、故法皇の御前に」	発表と討論
第 10 回	184「相模守時頼の母は」	発表と討論
第 11 回	188「ある者、子を法師になして」	発表と討論
第 12 回	236「丹波に出雲といふ所あり」	発表と討論
第 13 回	137「花はさかりに」	発表と討論
第 14 回	まとめ	秋学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各自の担当章段について、十分な調査、考究を行い、あらかじめ発表資料を提示して、発表に臨みます。担当者以外の受講者は、とりあげられる章段について予習し、提示された資料を読んで、ポイントを把握し、討論に臨みます。
・くずし字の読解練習をすすめます。
・準備学習、復習の時間は、平均すると 1 回につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『実用変体がな』（かな研究会編　新典社　1988 年）
『新版 徒然草』（小川剛生訳注　角川ソフィア文庫　2015 年）
ほかにテキストを配付します。

【参考書】
『兼好法師』（小川剛生　中公新書　2017 年）
その他、授業中に提示します。

【成績評価の方法と基準】
発表内容 50 %、考察レポート 20 %、討論への参加状況 30 %を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
活発な討論ができるよう、受講者が進行を務めるなどの工夫をします。

【その他の重要事項】
あらかじめテキストを入手して初回の授業に臨んでください。充実した発表内容を基に、活発に議論をすすめましょう。それを通じて課題を見出し深めていくことを大切にします。

【Outline and objectives】
This course deals with *Tsurezuregusa*.The aim of this course is to understand the characteristics of the Medieval Japanese Literature and to acquire fundamental skills to study these works.

LIT300BC

ゼミナール５Ａ

小秋元　段

夜間時間帯
授業コード：A2623　｜　曜日・時限：**金曜 6 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世文学を読む、調べる、発表する。『平家物語』をとりあげ、個人発表の形式で読み進めてゆく。

【到達目標】
本科目の到達目標は、以下の 3 項目にある。
1．『平家物語』について、その内容を正確に理解すること。
2．先行研究の批判、諸本の差違の考察、資史料との比較などを通じて、虚構化された作品世界の特質を理解すること。
3．自ら問題点を発見し、調査・考察する方法を身につけ、発表・討論を通じて、自らの研究内容をわかりやすく他者へ伝えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
『平家物語』を教材とする。感染症の影響を考慮し、本年度はグループ研究ではなく、個々に希望する章段をとりあげ、その語釈、訳、先行研究を調査し、さらには自ら設定した問題点に対する考察を行い、発表・討論する。そのうえで教員も講評を行う。また、夏期休業中にはレポートも執筆してもらう。レポートに対しては学生・教員による合評を行う。なお、授業に関する質問や研究の相談は教室、オフィスアワーで応じるほか、電子メール、Zoom で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	春学期の授業内容の紹介。
第 2 回	『平家物語』について（1）	作品の概要、成立、作者の解説。
第 3 回	『平家物語』について（2）	諸本の解説。
第 4 回	研究方法について	先行研究の検索方法についての解説。
第 5 回	調査（1）	研究テーマを設定する。
第 6 回	調査（2）	先行研究、諸本、資史料を収集し、問題点を整理する。
第 7 回	調査（3）	レジュメを作成し、発表方法について検討する。
第 8 回	発表（1）	『平家物語』の 3 つの章段をとりあげて発表する（3 名）
第 9 回	発表（2）	『平家物語』の 3 つの章段をとりあげて発表する（3 名）
第 10 回	発表（3）	『平家物語』の 3 つの章段をとりあげて発表する（3 名）
第 11 回	発表（4）	『平家物語』の 3 つの章段をとりあげて発表する（3 名）
第 12 回	発表（5）	『平家物語』の 2 つの章段をとりあげて発表する（2 名）
第 13 回	発表（6）	『平家物語』の 2 つの章段をとりあげて発表する（2 名）
第 14 回	まとめ	春学期の授業のまとめ、ふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
口頭発表の準備を授業時間以外に行ってもらう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
三弥井古典文庫、佐伯真一校注『平家物語』上・下（三弥井書店、1993・2000 年）

【参考書】
大津雄一・日下力・佐伯真一・櫻井陽子編『平家物語大事典』（東京書籍、2010 年）
延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈』巻一～十二（汲古書院、2005～19 年）

【成績評価の方法と基準】
授業時の討論の状況、研究発表の内容に 1/2 ずつの比重を置く。なお。欠席は 2 回までしか認めない。

【学生の意見等からの気づき】
調査時間を十分とりたいという要望があったので、これに対応して授業を進めたい。

【その他の重要事項】
例年、中世文学の舞台を訪ねるゼミ合宿を行っている。行き先は学生と相談のうえ決定する。これまで下記のような地を訪ねている。
2007 年度　京都
2008 年度　厳島神社（広島）、壇ノ浦（山口）
2009 年度　平泉（岩手）
2010 年度　太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）
2011 年度　京都
2012 年度　呉、厳島神社（広島）
2013 年度　京都
2014 年度　松江、出雲、大森銀山
2015 年度　京都
2016 年度　札幌、小樽
2017 年度　京都
2018 年度　太宰府（福岡）、壇ノ浦（山口）
2019 年度　京都
2020 年度　実施せず

【Outline and objectives】
In this course, we will read Heike-Monogatari.

LIT300BC

ゼミナール５Ｂ

小秋元　段

夜間時間帯
授業コード：A2624　｜　曜日・時限：**金曜 6 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世文学を読む、調べる、発表する。『義経記』をとりあげ、グループ発表の形式で読み進めてゆく。

【到達目標】
本科目の到達目標は、以下の 3 項目にある。
1．『義経記』について、その内容を正確に理解すること。
2．先行研究の批判、他ジャンルの作品（お伽草子・能・幸若舞の判官もの）との差違の考察などを通じて、作品世界の特質を理解すること。
3．自ら問題点を発見し、調査・考察する方法を身につけ、発表・討論を通じて、自らの研究内容をわかりやすく他者へ伝えること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
『義経記』を教材とする。2 人で 1 グループを作り、一巻ずつ分担し、巻の特色、先行研究、他ジャンルの作品（お伽草子・能・幸若舞）との差違などを調査し、さらには自ら設定した問題点に対する考察を行い、発表・討論してもらう。そのうえで教員も講評を行う。ただし、感染症の影響次第では個人発表の形式に切り替える。
また、夏期休業中に執筆したレポートに関する発表・討論も行い、教員による講評も行う。
なお、授業に関する質問や研究の相談は教室、オフィスアワーで応じるほか、電子メール、Zoom で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『義経記』について（1）	『義経記』の解説。
第 2 回	『義経記』について（2）	関連するお伽草子・能・幸若舞の解説。
第 3 回	レポート発表（1）	夏期休業中に執筆したレポートの発表（3 名）
第 4 回	レポート発表（2）	夏期休業中に執筆したレポートの発表（3 名）
第 5 回	レポート発表（3）	夏期休業中に執筆したレポートの発表（3 名）
第 6 回	発表（1）	『義経記』巻一の発表（2 名）
第 7 回	発表（2）	『義経記』巻二の発表（2 名）
第 8 回	発表（3）	『義経記』巻三の発表（2 名）
第 9 回	発表（4）	『義経記』巻四の発表（2 名）
第 10 回	発表（5）	『義経記』巻五の発表（2 名）
第 11 回	発表（6）	『義経記』巻六の発表（2 名）
第 12 回	発表（7）	『義経記』巻七の発表（2 名）
第 13 回	発表（8）	『義経記』巻八の発表（2 名）
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめとふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
口頭発表の準備をグループごとに授業時間以外に行ってもらう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
日本古典文学全集または新編日本古典文学全集の『義経記』（小学館）。古本でもよいので入手しておくこと。

【参考書】
徳田和夫編『お伽草子事典』（東京堂出版、2002 年）
神田龍身・西沢正史編『中世王朝物語・御伽草子事典』（勉誠出版、2002 年）

【成績評価の方法と基準】
夏休み中のレポート、授業時の討論の状況、研究発表の内容に 1/3 ずつの比重を置く。なお、欠席は 2 回までしか認めない。

【学生の意見等からの気づき】
グループごとの調査時間を十分とりたいという要望があったので、これに対応して授業を進めたい。

【Outline and objectives】
In this course, we will read Gikeiki.

LIT300BC

ゼミナール６Ａ

小林　ふみ子

授業コード：A2625　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　このゼミでは、近世文学について学びます。
　韻文・散文・演劇、雅・俗、和・漢と多岐にわたる近世文学の中でも、春学期は江戸時代後期の歌舞伎の名作四星鶴屋南北作『東海道四谷怪談』を読みます。
（このテーマは新 3 年生の話し合いで決めたものです）

【到達目標】
（1）辞書を引きて語釈をつけたり、その他の資料を調べたりしながら作品を精読する方法を身につける。
（2）研究成果を他者に伝える力、それについて議論する力を養う。
（3）作品論執筆に挑戦し、どのように作品を論じたらよいかについて知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
作品概要や研究法を全体で学んだあと、5 チームに分かれて分担を決め、担当する幕の概要と見どころについて研究する。
各チームの発表ののち、それについてディスカッションします。
それを受けて各チームでは研究を深めて補足の発表をします。
教員は発表準備への個別の助言、発表時の助言、最終レポートにはコメントをつけて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	目標・進め方の確認・作品選定・各種役割の決定
第 2 回	ガイダンス②	発表のしかた・発表順の決定、作品について、作者について
第 3 回	準備①	チーム内で分担した本文の内容を紹介し合い、梗概を把握する
第 4 回	準備②	チームごとに担当する幕の見どころを話し合う。
第 5 回	準備③	チームごとに話し合いをふまえて発表の大枠を決定する。
第 6 回	発表①	序幕
第 7 回	発表②	二幕目
第 8 回	発表③	三幕目
第 9 回	発表④	四幕目
第 10 回	発表⑤	大詰め
第 11 回	補足①	序幕・二幕目のチームがその後の研究の進展を発表する
第 12 回	補足②	三幕目・四幕目のチームがその後の研究の進展を発表する
第 13 回	補足③ まとめ	大詰のチームがその後の研究の進展を発表する 作品全体について考える
第 14 回	ふりかえり	春学期をふりかえり、秋学期のすすめ方や作品を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分のチームの担当箇所以外も、毎週事前にテキストを読んできましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
岩波文庫　河竹繁俊校訂『東海道四谷怪談』（岩波書店　1956）
＊新本で 1,000 円くらい、古本はアマゾンなら 100 円以下。図書館から借りてもいいので手元に用意しましょう。

【参考書】
郡司正勝校訂『新潮古典集成 45　東海道四谷怪談』（新潮社、1981）
岩波文庫本との本文の違いとその理由にも注意しましょう！

【成績評価の方法と基準】
　担当日の発表（35 %）、各期末のレポート (4000 字程度・35 %)、発言その他のゼミへの貢献度（30 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生間での意見交換が活発にできるように話し合いでは小グループ → 全体という流れを継続します。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムで資料共有を行うのでパソコンが使えるように用意しましょう。タブレットでも差し支えありませんが、卒論までにはキーボードやワードに習熟するようにしてください。

【その他の重要事項】
ゼミは学生が主体で運営するものです。毎回の出席はみんなでもりあげるため、当然の前提です。積極的な参加を期待しています。
ゼミの発表準備、研究発表によって、必要な情報を収集し、その要点を把握し、それらを批判的に検討して発信する力、それを論理的な文章にまとめあげる力をやしなうことは将来の就業力育成にもつながります。またゼミ運営自体が他人と協働する経験です。
意識的に、こうした社会で求められる力を養っていきましょう。

【Outline and objectives】
Studying early modern(Tokugawa period) literature from various genres, especially stories by Saikaku and Kyoden .

LIT300BC

ゼミナール６Ｂ

小林　ふみ子

授業コード：A2626　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
このゼミでは、近世文学について学びます。
秋学期のテーマや進め方は春学期の様子をふまえて話し合いで決定します。
関心の近い学生同士でグループを作って研究発表を行うと卒論につながる関心が育っていいかなと教員としては思いますが、どうしたらいちばんいいのかみんなでしっかり議論して決めましょう。

【到達目標】
（1）既存の注釈を、各種の文献に照らして再検討しながら、作品を精読する方法を身につける。
（2）研究成果を口頭で効果的に他者に伝える力、それについて議論する力を養う。
（3）作品論執筆に挑戦し、どのように作品を論じたらよいかについて知る。
（4）近世文学史について一通りの知識を身につけ、各自、卒業論文で取り組みたい作者・作品を見出す。（2年間を通じて）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
グループを作り、グループごとに作品を選び、テーマを決めて発表します。各学期に１グループ２～３回担当（グループ数による）。
発表グループは取り上げる作品について既存の注釈や先行研究と対照して点検した上で発表し、それについて皆で議論します。
教員は発表準備への個別の助言、発表時の助言、最終レポートにはコメントをつけて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	目標・進め方の確認・作品選定・各種役割の決定
第 2 回	ガイダンス②	発表のしかた・発表順の決定、作品について、作者について
第 3 回	グループ①	作品の概要紹介
第 4 回	グループ①	研究発表
第 5 回	グループ②	作品の概要紹介
第 6 回	グループ②	研究発表
第 7 回	グループ③	作品の概要紹介
第 8 回	グループ③	研究発表
第 9 回	グループ④	作品の概要紹介
第 10 回	グループ④	研究発表
第 11 回	グループ⑤	作品の概要紹介
第 12 回	グループ⑤	研究発表
第 13 回	グループ⑥	作品の概要紹介
第 14 回	グループ⑥	研究発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
他のグループの発表の場合も、各自、前もってテキストの該当箇所に目を通し、問題点がどこにあるかを考えてきましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内の学生の決定に従って、指定する。

【参考書】
『新版　近世文学研究事典』（おうふう　2006 年）／『〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典』（文学通信　2019 年）
作品やテーマ選びの参考にしましょう！

【成績評価の方法と基準】
担当日の発表（35 %）、各期末のレポート (4000 字程度・35 %)、また授業冒頭の文学史スピーチ（いずれかの学期に 1 回）や発言その他のゼミへの貢献度（30 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
質疑応答の際に質問を出すポイントについて、あらかじめ考える機会を設けたいと思います。
卒業論文への関心を育てるように参考文献などを積極的に提示するようにします。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムで資料共有や意見交換などをします。

【その他の重要事項】
　みなさんそれぞれが個人として成長するとともに、グループの一員として協働する力を伸ばしていってくれることを期待しています！

【Outline and objectives】
Studying early modern(Tokugawa period) literature from various genres.

ART300BC

ゼミナール７Ａ

STEVEN GEORGE NELSON

授業コード：A2627　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本年度のゼミのテーマは「『平家物語』と音楽」とします。これには：①音楽（語り物）としての「平家語り」、②『平家物語』の中の音楽、③『平家物語』と同時代（12 世紀）の音楽史との関係、④『平家物語』が後世の音楽・芸能に及ぼした影響（能、幸若舞、浄瑠璃、歌舞伎など）の事柄が含まれます。春学期はガイダンスの後、『平家物語』の音楽場面（巻第十の後半～巻第十一）を主たる研究対象とし、特に音楽関係の用語に注意を払いながら、その場面場面の内容を「正しく読む」ことを目的とします。

【到達目標】
1．音楽（語り物）としての「平家語り」の歴史と音楽構造を理解すること
2．『平家物語』の音楽場面を正しく把握し、説明できること
3．問題点を発見し、詳しく調査して上で、自らの見解が述べられること
4．発表が明快に行えること
5．問題点について客観的に討論できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
導入はネルソンによる講義・解説が中心ですが、第 5 回以降は学生による口頭発表が中心になります。グループごとに発表してもらい、質疑応答を行います。また、毎回ネルソンによる「解説コーナー」も設けます。なお、本ゼミナールは演習形式であり、ゼミ生個人個人に合せた指導をしますので、下記「授業計画」はあくまでも予定であり、実施に際して変更が当然生じてくるものと考えてください。また、演習形式ですので、フィードバックは原則授業内にて行ない、必要な場合はメールで補う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	自己紹介・序説	自己紹介（全員）、教員による授業の進め方の説明、ゼミ名簿作成、発表スケジュールの調整など
第 2 回	ガイダンス①	導入―『平家物語』と音楽― 音楽場面の調査方法について
第 3 回	ガイダンス②	『平家物語』に現れる楽器 管絃と舞楽
第 4 回	ガイダンス③	種々の声楽曲 奈良～平安時代の楽譜
第 5 回	巻第十の後半について 「横笛」を読む	発表（Ａグループ）と討論
第 6 回	「熊野参詣」を読む	発表（Ｂグループ）と討論
第 7 回	「維盛入水」を読む	発表（Ｃグループ）と討論
第 8 回	「藤戸」を読む	発表（Ｄグループ）と討論
第 9 回	巻第十一について 「那須与一」を読む	発表（Ｅグループ）と討論
第 10 回	「弓流」を読む	発表（Ｆグループ）と討論
第 11 回	「先帝身投」を読む	発表（Ｇグループ）と討論
第 12 回	「内侍所都入」を読む	発表（Ｈグループ）と討論
第 13 回	「鏡」を読む	発表（Ｉグループ）と討論
第 14 回	春学期のまとめ、および卒業論文の中間発表	春学期の授業の総括、および４年生による中間発表 期末レポート・楽譜課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 回　5 分程度の事項紹介を用意し、授業に期待することことが述べられるように考えておくこと
第 2 ～ 4 回　事前配付の資料を読んでくること
第 5 回以降　グループ発表の準備とレジュメ作成
第 14 回　期末レポート・楽譜課題作成
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐伯真一校注、三弥井古典文庫『平家物語』下（三弥井書店）。5 月までに手に入れるように。

【参考書】
山下宏明校注、校注古典叢書『平家物語』下（明治書院、1979 年初版の重版）。
遠藤徹 構成『雅楽』（平凡社、別冊太陽、2004 年）
五味文彦・櫻井陽子 編『平家物語図典』（小学館、2005 年）

今井勉（平家琵琶）、薦田治子（解説）『琵琶法師の世界 平家物語』（CV/DVD、Ebisu-13~19、2009 年）
『平家物語大事典』（東京書籍、2010 年）

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション（詳しく調査した結果を明快に発表できたか）30 %、平常点とディスカッション（毎回出席し、意欲的に、積極的に発言したか）30 %、レポートと楽譜課題（論証のしっかりしたレポートと誤りのない楽譜課題を提出したか）40 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
内容的に深く関わるので、2 年次までに特講（11）「音楽芸能史A」の単位取得を済ませることが望ましい。

【Outline and objectives】
This undergraduate seminar deals with the music of and music in *The Tale of the Heike*. This topic includes: 1. *The Tale of the Heike* as a genre of narrative music (*heike-gatari*); 2. the depiction of music in the tale; 3. its relationship to the music history of the time it depicts (12th century); and 4. the influence of the tale and its music on later genres of performing arts, including *nô*, *kôwaka-mai*, *jôruri* and *kabuki*. In the spring semester, four introductory lectures by the instructor are followed by close reading of episodes from the 10th and 11th chapters, with presentations each week by groups of students. Episodes include: "Yokobue," "The Pilgrimage to Kumano," "The Suicide of Koremori," "Fujito," "Nasu no Yoichi," "The Dropped Bow," "The Drowning of the Former Emperor," "The Sacred Mirror Enters the Capital," and "The Mirror." Particular attention is paid to the correct understanding of musical structure and terminology.

ART300BC

ゼミナール７Ｂ

STEVEN GEORGE NELSON

授業コード：A2628 ｜ 曜日・時限：**木曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本年度のゼミのテーマは「『平家物語』と音楽」とします。これには：①音楽（語り物）としての「平家語り」、②『平家物語』の中の音楽、③『平家物語』と同時代（12 世紀）の音楽史との関係、④『平家物語』が後世の音楽・芸能に及ぼした影響（能、幸若舞、浄瑠璃、歌舞伎など）の事柄が含まれます。秋学期では、『平家物語』（灌頂巻）の音楽場面の精読を続けるとともに、その影響を受けて成立した作品を取り上げ、影響関係を明らかにします。なお、取り上げる作品は受講者と相談して決めます。

【到達目標】
1．音楽（語り物）としての「平家語り」の歴史と音楽構造を理解すること
2．『平家物語』の音楽場面を正しく把握し、説明できること
3．問題点を発見し、詳しく調査して上で、自らの見解が述べられること
4．発表が明快に行えること
5．問題点について客観的に討論できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
導入はネルソンによる講義・解説が中心ですが、第 4 回以降は学生による口頭発表が中心になります。グループごとに発表してもらい、質疑応答を行います。また、毎回ネルソンによる「解説コーナー」も設けます。なお、本ゼミナールは演習形式であり、ゼミ生個人個人に合せた指導をしますので、下記「授業計画」はあくまでも予定であり、実施に際して変更が当然生じてくるものと考えてください。また、演習形式ですので、フィードバックは原則授業内にて行ない、必要な場合はメールで補う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	春学期レポートの講評、秋学期発表スケジュールの調整など
第 2 回	ガイダンス②	図書館ガイダンス
第 3 回	ガイダンス③	『平家物語』音楽研究史概説
第 4 回	灌頂巻について「女院出家」を読む	発表（Ａグループ）と討論
第 5 回	「大原入」を読む	発表（Ｂグループ）と討論
第 6 回	「大原御幸」を読む	発表（Ｃグループ）と討論
第 7 回	「六道之沙汰」を読む	発表（Ｄグループ）と討論
第 8 回	「女院死去」を読む	発表（Ｅグループ）と討論
第 9 回	卒業論文の中間発表 ガイダンス④	ゼミ 4 年生による卒業論文の中間発表、講評 『平家物語』の影響を受けて成立した作品に対する調査方法について
第 10 回	作品① 未定	発表（Ｆグループ）と討論
第 11 回	作品② 未定	発表（Ｇグループ）と討論
第 12 回	作品③ 未定	発表（Ｈグループ）と討論
第 13 回	作品④ 未定	発表（Ｉグループ）と討論
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期の授業の総括、および卒業論文の講評 期末レポート・楽譜課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 1 ～ 3、9 回　事前配付の資料を読んでくること
第 4 回以降　グループ発表の準備とレジュメ作成
第 14 回　期末レポート・楽譜課題作成
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐伯真一校注、三弥井古典文庫『平家物語』下（三弥井書店）。

【参考書】
山下宏明校注、校注古典叢書『平家物語』上（明治書院、1979 初版の重版）
遠藤徹 構成『雅楽』（平凡社、別冊太陽、2004 年）
五味文彦・櫻井陽子 編『平家物語図典』（小学館、2005 年）
今井勉（平家琵琶）、薦田治子（解説）『琵琶法師の世界 平家物語』（CV/DVD、Ebisu-13~19、2009 年）
『平家物語大事典』（東京書籍、2010 年）

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション（詳しく調査した結果を明快に発表できたか）30 %、平常点とディスカッション（毎回出席し、意欲的に、積極的に発言したか）30 %、レポートと楽譜課題（論証のしっかりしたレポートと誤りのない楽譜課題を提出したか）40 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
内容的に深く関わるので、2 年次までに特講（11）「音楽芸能史Ｂ」の単位取得を済ませることが望ましい。

【Outline and objectives】
This undergraduate seminar deals with the music of and music in *The Tale of the Heike*. This topic includes: 1. *The Tale of the Heike* as a genre of narrative music (*heike-gatari*); 2. the depiction of music in the tale; 3. its relationship to the music history of the time it depicts (12th century); and 4. the influence of the tale and its music on later genres of performing arts, including *nô*, *kôwaka-mai*, *jôruri* and *kabuki*. In the autumn semester, three introductory lectures are followed by close reading of episodes from the Initiates' Chapter, with presentations each week by groups of students. Episodes are: "The Imperial Lady Becomes a Nun," "The Imperial Lady Goes to Ôhara," "The Imperial Journey to Ôhara," "The Matter of the Six Paths," and "The Death of the Imperial Lady." Finally there are group presentations on four works from other genres of performing arts influenced by episodes studied in the spring and autumn semesters, selected according to the students' preferences.

LIT300BC

ゼミナール８Ａ

伊海　孝充

授業コード：A2629　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多く能の作品に触れ、能楽についての理解を深める。ゼミ在籍中にできるだけ多くの作品に触れると同時に、能の歴史についても知識を蓄える。また能は室町時代に生まれた総合芸術である。古典文学・日本文化・様々な芸能に対しての造詣を深めることによって、多角的に能という芸能を捉えることができるようにする。

【到達目標】
能を専門的に学ぶだけでなく、学んだ知識をアウトプットするまでが勉強・研究である。春学期は発表・発言するための土台作りに主眼をおき、どのような方法で調べれば、発表資料の作成ができるかを経験的に知ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的に個人の発表形式で進める。はじめに参考文献一覧を渡すので、それをもとに、能の作品の概要・歴史・問題点を調査した資料を作成し、口頭発表を行なう。年１，２回程度、能楽堂へ鑑賞に行き、夏期は、能楽に関わる芸能の見学を兼ねて合宿に行く予定。
授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介と年間の計画を相談。
第 2 回	能楽の基礎知識	能と狂言の関係とそれぞれの芸能的特質について。
第 3 回	能の種類	能の分類について解説する。
第 4 回	能の歴史について	世阿弥の功績と能作者について。
第 5 回	能の演技	実技体験（予定）。
第 6 回	能楽研究事始（１）	研究の方法と実践。
第 7 回	能楽研究事初（２）	「本説」と他芸能との関係。
第 8 回	謡曲精読（１）	脇能を口語訳しながら精読する。
第 9 回	謡曲精読（２）	修羅能を口語訳しながら精読する。
第 10 回	謡曲精読（３）	鬘物を口語訳しながら精読する。
第 11 回	謡曲精読（４）	物狂能を口語訳しながら精読する。
第 12 回	謡曲精読（５）	四番目物を口語訳しながら精読する。
第 13 回	謡曲精読（６）	鬼能を口語訳しながら精読する。
第 14 回	春学期のまとめ	これまで精読した作品を踏まえ、全体討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自主的に能楽鑑賞に行くことを勧める。能楽だけでなく、歌舞伎・人形浄瑠璃にも観劇に行ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『謡曲集』（伊藤正義校注、新潮社、1983 ～ 1988 年）

【参考書】
『風姿花伝・三道』（竹本幹夫校注、角川書店、2009 年）

【成績評価の方法と基準】
授業での発表　４０％
授業での発言やゼミ活動への積極的参加　４０％
学期末レポート　２０％

【学生の意見等からの気づき】
２年生には能楽の基礎知識に関する説明は丁寧に行ないます。３年生はその知識を研究に活用する機会を作ります。

【Outline and objectives】
Our goal is to come into contact with as many Noh plays as possible and to deepen our understanding of Noh theater. We will be exposed to as many Noh plays as possible during our time in the seminar, and at the same time, we will accumulate knowledge about the history of Noh. Noh is a comprehensive art form that originated in the Muromachi period. By deepening our knowledge of classical literature, Japanese culture, and various performing arts, we will be able to understand the performing art of Noh from multiple perspectives.

LIT300BC

ゼミナール８Ｂ

伊海　孝充

授業コード：A2630　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
能と狂言の個人・グループ発表を通して、能楽への理解を深める。能楽だけでなく古典文学・日本文化・様々な芸能に対しての知識を深めるのは春学期同様だが、その知識をアウトプットする方法を学ぶことに主眼を置く。またゼミのメンバーと討論することで、自分が考えた能の姿を何度も考え直していくことを目指す。

【到達目標】
能を専門的に学ぶだけでなく、学んだ知識をアウトプットするまでが勉強・研究である。社会に出て「能楽」の魅力を伝えることができるようになることが最終目標である。またグループごとの発表を通して、調査と資料の作成の仕方を学び、口頭発表とディスカッションの能力を鍛錬する。このような技術は、社会生活のあらゆる場面で役に立つはずである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、基本的にグループごとの発表形式で進める。はじめに能楽に関する基礎的知識を習得し、参考文献について学んでから、謡曲の輪読を進めていく。発表は報告を聞くだけではなく、問題点をグループごとに考えた上で、ディスカッションを行なう。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。また１，２回程度、能楽堂へ鑑賞に行き、ミニ遠足を行なう予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	春学期のまとめと秋学期の展望
第 2 回	グループ発表―課題曲１（口語訳）	課題曲の口語訳を行なう。
第 3 回	グループ発表―課題曲１（語釈）	重要語句の語釈を行なう。
第 4 回	グループ発表―課題曲１（テーマ研究）	課題曲の関連テーマについての分析。
第 5 回	グループ発表―課題曲１（まとめ）	問題点のディスカッション。
第 6 回	グループ発表―課題曲２（口語訳）	課題曲の口語訳を行なう。
第 7 回	グループ発表―課題曲２（語釈）	重要語句の語釈を行なう。
第 8 回	グループ発表―課題曲２（テーマ研究）	課題曲の関連テーマについての分析。
第 9 回	グループ発表―課題曲２（まとめ）	問題点のディスカッション。
第 10 回	グループ発表―課題曲３（口語訳）	課題曲の口語訳を行なう。
第 11 回	グループ発表―課題曲３（語釈）	重要語句の語釈を行なう。
第 12 回	グループ発表―課題曲３（テーマ研究）	課題曲の関連テーマについての分析。
第 13 回	グループ発表―課題曲３（本説）	課題曲の典拠の調査。
第 14 回	第 13 回　グループ発表―課題曲３（まとめ）	問題点のディスカッション。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ発表は、グループ構成メンバーと綿密に相談し、適宜サブゼミを開いて準備すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『謡曲集』（伊藤正義校注、新潮社、1983 ～ 1988 年）

【参考書】
『風姿花伝・三道』（竹本幹夫校注、角川書店、2009 年）

【成績評価の方法と基準】
授業での発表　４０％
授業での発言やゼミ活動への積極的参加　４０％
学期末レポート　２０％

【学生の意見等からの気づき】
作品をじっくり読む、観る時間を作ります。

【Outline and objectives】
Our goal is to deepen our understanding of Noh through individual and group presentations of Noh and Kyogen. As in the spring semester, we will deepen our knowledge not only of Noh but also of classical literature, Japanese culture, and various performing arts, but our main focus will be on learning how to output that knowledge. We will also aim to reconsider our own ideas about Noh over and over again through discussions with seminar members.

LIT300BC

ゼミナール９Ａ

中丸　宣明

授業コード：A2631　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
１９世紀・２０世紀前半の日本文学の研究。化政期・幕末・明治・大正期・昭和前期に発表された文学・芸能・演劇をとりあげ、文学研究の方法を学ぶ。

【到達目標】
文学研究の基礎を身につける。具体的には以下の通り。
・先行文献の調査・整理の方法
・注釈の方法
・文学・文化学の理論の理解と応用
・立論から行論・結論への構成法
・プレゼンテーション能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の担当者は、各自任意の作品を選び、調査・研究・発表する。受講者はその日に取り上げる作品についての感想レポートを提出し、司会者は全体の進行に当たる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、議論のテーマとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミ進行について
第 2 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 3 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 4 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 5 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 6 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 7 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 8 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 9 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 10 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 11 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 12 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 13 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 14 回	各自の発表	担当作品についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表者は担当作品に関する調査・研究を発表する。他の受講者は当該作品についての視点・論点の感想文を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者の便宜・要請に従って、決定する。発表者は当該作品のテクストを決定し、ゼミ員に指示すること。

【参考書】
各自の発表の中で、発表者の示すものに加えて指示。

【成績評価の方法と基準】
各自の発表内容（40 %）と討議参加内容（40 %）期末レポート（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
再発表（やりなおし）が必要な場合、集中して行い全体像を見失わないように導く。

【Outline and objectives】
See Japanese notation.Those who do not understand the Japanese language are not eligible.

LIT300BC

ゼミナール９Ｂ

中丸　宣明

授業コード：A2632　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミナール９Ａに引き続き、１９世紀・２０世紀前半の日本文学の研究。化政期（19 世紀前半、天保の改革まで）・幕末・明治・大正期・昭和前期に発表された小説・詩歌・演劇・芸能をとりあげ、文学・文化研究の方法を学ぶ。今年度は最終的に卒論にまで延長できるよう、各自の希望に合わせ、討議の結果対象作品を選択する。

【到達目標】
文学研究の基礎を身につける。具体的には以下の通り。
・先行文献の調査・整理の方法
・注釈の方法
・文学・文化学の理論の理解と応用
・立論から行論・結論への構成法
・プレゼンテーション能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の担当者は、各自任意の作品を選び、調査・研究・発表する。受講者はその日に取り上げる作品についての感想レポートを提出し、司会者は全体の進行に当たる。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、結果の集計ないし代表的な応答をプリント等で共有し、議論のテーマとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ゼミ進行について
第 2 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 3 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 4 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 5 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 6 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 7 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 8 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 9 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 10 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 11 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 12 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 13 回	各自の発表	担当作品についての発表
第 14 回	各自の発表	担当作品についての発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表者は担当作品に関する調査・研究を発表する。他の受講者は当該作品についての視点・論点の感想文を提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
受講者の便宜・要請に従って、岩波文庫版『日本近代短篇小説選　明治編大正篇』ないし『文壇出世作全集』（中央公論社, 昭和 10）を用いる。

【参考書】
各自の発表の中で、発表者の示すものに加えて指示。

【成績評価の方法と基準】
各自の発表内容（40 %）討議に参加内容（40 %）と期末レポート (20 %)

【学生の意見等からの気づき】
再発表（やりなおし）が必要な場合、集中して行い全体像を見失わないように導く。

【Outline and objectives】
See Japanese notation.Those who do not understand the Japanese language are not eligible.

LIT300BC

ゼミナール１１Ａ

藤村　耕治

授業コード：A2635　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の近現代作家とくに昭和から戦後を経て現代にいたるまでの作家の多くの作品に触れ、読解・分析・評価する具体的な方法を習得します。昭和期以降の作家・作品を取り上げ、作家の生涯の全体的な鳥瞰図、個別的な作品の主題・モチーフ・時代背景・影響関係・文体などの検討を通して、当該作品の作家における、また文学史における位置づけや価値などを追究し、評価を下すことができる力を身につけます。

【到達目標】
最終的には、卒業論文のテーマを発見し、執筆に取り組む下地を作ります。
そのためには、みずから上に記したさまざまなアプローチによって多角的に作品を探求すると同時に、先行研究を参照したり、他者と議論を戦わせたり、論理的に自説を展開したりする力を身につけることが必要です。
このゼミナールでは、これらの実践を通して、作家や作品に対する自らの考えを明確にし、それを的確に論として表現できる文章力を磨くことで、卒業論文を作成する能力を鍛えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
昭和初期から戦後にわたる作家たちの作品を一作ずつ取り上げます。
担当班による発表形式で行います。したがって受講者は、自分の希望する作家・作品をあらかじめ決定し、よく読み込んでおく必要があります。具体的には、作品構造・作中および執筆時期の時代背景・作中人物の分析などを通して、主題やモチーフ、方法を明らかにしていくとともに、当該作家の別の作品との関係や、先行研究の調査・検討なども加味して、各人なりの評価を下していくということです。発表班はサブゼミを行い、そこでの討論をもとに発表用レジュメを作成し、ゼミにのぞみます。一作品につき三回（三週）でまとめることを原則とし、各人一作品以上を担当することとします。レジュメは箇条書きやコピペでは不可で、ある程度の長さをもった文章で作成してもらいます。期末には、発表や討議を通して得た知見をもとに、作品論としてまとめたものを提出してもらいます。
また、発表担当者以外の受講生も、主題や疑問点などについての小レポート（800 字程度）を毎回作成して、それをもとに討議に参加してもらいます。したがって、全員がテキストを用意し、事前に精読して出席することが不可欠となります。小レポートは回収して添削やコメントを加えたのち返却します。
なお、下に挙げた作家・作品以外でも、対象に対して特別に強いモチベーションを持つ受講者に関しては、任意に発表作品を決定してもらう場合もあります。特に、卒業論文で対象とする作家を取り上げたいという希望については、できる限り受け入れたいと思います。
毎年夏季にゼミ合宿、冬季に卒論合宿を行います。合宿も授業の一環ですので、参加を原則とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミナールの進め方Ⅰ	発表の方法、レジュメの作成法などについてのガイダンス
第 2 回	ゼミナールの進め方Ⅱ	発表担当者、担当作品、スケジュールなどの決定
第 3 回	戦争文学Ⅰ	大岡昇平「野火」（新潮文庫）①問題提起と討議
第 4 回	戦争文学Ⅱ	大岡昇平「野火」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 5 回	戦争文学Ⅲ	大岡昇平「野火」③総括とレポートへの課題
第 6 回	戦後の文学Ⅰ	武田泰淳「ひかりごけ」（新潮文庫）①問題提起と討議
第 7 回	戦後の文学Ⅱ	武田泰淳「ひかりごけ」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 8 回	戦後の文学Ⅲ	武田泰淳「ひかりごけ」③総括とレポートへの課題
第 9 回	戦後の文学Ⅳ	坂口安吾「白痴」（新潮文庫）①問題提起と討議
第 10 回	戦後の文学Ⅴ	坂口安吾「白痴」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 11 回	戦後の文学Ⅵ	坂口安吾「白痴」③総括とレポートへの課題
第 12 回	昭和 30 年代の文学Ⅰ	開高健「裸の王様」（新潮文庫）①問題提起と討議
第 13 回	昭和 30 年代の文学Ⅱ	開高健「裸の王様」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 14 回	昭和 30 年代の文学Ⅲ	開高健「裸の王様」③総括とレポートへの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者は、各自上記のとおり事前に担当する作品について読み込み、さまざまな側面から作家・作品を分析・検討してもらいます。人物論・構造論・文体論・時代背景・作家の生涯・異稿の調査・先行研究の検討などといったテーマごとに担当者を決め、授業前にサブゼミを行い、発表班としての見解をまとめたレジュメを作成・発表してもらいます。この準備については、個人で 5 時間、サブゼミで 2 時間程度を標準とします。
また、これも上記のとおり発表担当者以外の受講者も、各自作品を読み、自分なりの考えをまとめた小レポートを作成、毎回提出してもらいます。この準備については、3 時間程度を標準とします。
一回の発表が終了するごとに、新たに問題となった点や、より深い考察を要する点などを発表班員のみならず受講者全員が共有して、繰り返し読み直すことになります。これをうけて、発表者・受講者それぞれが上記同様な準備と復習をしてもらうことになります。

【テキスト（教科書）】
なるべく上記文庫の最新版を使用してください。

【参考書】
大岡昇平「俘虜記」（新潮文庫）武田泰淳「評論集　滅亡について」（岩波文庫）坂口安吾「堕落論」（新潮文庫）開高健「パニック」（同上文庫）など。他に併読してもらいたい作品や書物等は適宜授業内で指示します。ただ、近現代文学史については各自で通史的なものを一冊ないし二冊用意しておくと良いでしょう。これも授業内で紹介しますが、まずは自分で探してみてください。

【成績評価の方法と基準】
全回出席を大原則とします。正当な理由のない欠席は認めません。（規定回数以上の無断欠席をしたものはその時点で受講資格を失います。）
発表とレジュメの水準・発言内容などの平常点が 60 %、期末の作品論（レポート）の評価が 30 %、発表班以外の受講者に課す提出物（小レポート）の評価が 10 %。これらを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
相互の議論を活発にするために、班内討議の時間をできる限りもうけます。

【その他の重要事項】
発表には周到な準備とレジュメ作成やサブゼミの負担がかかりますし、担当者以外にも担当者に準ずる用意が必要となります。ゼミに穴をあけることがないように、個人的なスケジュールを勘案して計画的に取り組んでください。

【Outline and objectives】
Learn concrete methods to comprehend,analyze,and evolute through the works of many Japanese writers from showa to the postwar period to the present age.

LIT300BC

ゼミナール１１Ｂ

藤村　耕治

授業コード：A2636　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の近現代作家たち、とくに昭和から戦後を経て現代にいたる作家の多くの作品に触れ、読解・分析・評価する具体的な方法を習得します。作家の生涯の全体的な鳥瞰図、個別的な作品の主題・モチーフ・時代背景・影響関係・文体などの検討を通して、当該作品の作家における、また文学史における位置づけや価値などを追究し、評価を下すことができる力を身につけます。

【到達目標】
最終的には、卒業論文のテーマを発見し、執筆に取り組む下地を作ります。
そのためには、みずから上に記したさまざまなアプローチによって多角的に作品を探求すると同時に、先行研究を参照したり、他者と議論を戦わせたり、論理的に自説を展開したりする力を身につけることが必要です。
このゼミナールでは、これらの実践を通して、作家や作品に対する自らの考えを明確にし、それを論として的確に表現できる文章力を磨くことで、卒業論文を作成する力を鍛えていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
戦後から現在にわたる作家たちの作品を一作ずつ取り上げます。
担当班（５名前後）による発表形式で行います。したがって受講者は、自分の希望する作家・作品をあらかじめ決定し、よく読み込んでおく必要があります。具体的には、作品構造・作中および執筆時期の時代背景・作中人物の分析などを通して、主題やモチーフ、方法を明らかにしていくとともに、当該作家の別の作品との関係や、先行研究の調査・検討なども加味して、各人なりの評価を下していくということです。発表班はサブゼミを行い、そこでの討論をもとに発表用レジュメを作成し、ゼミにのぞみます。一作品につき三回（三週）でまとめることを原則とし、各人一作品以上を担当することとします。レジュメは箇条書きやコピペでは不可で、ある程度の長さを持った文章で作成してもらいます。期末には、発表や討議を通して得た知見をもとに、作品論としてまとめたものを提出してもらいます。
また、発表担当者以外の受講生も、主題や疑問点などについての小レポート（800 字程度）を毎回作成し、それをもとに討議に参加してもらいます。したがって、全員がテキストを用意し、事前に精読して出席することが不可欠となります。小レポートは回収して添削やコメントを加えたのち返却します。
なお、下に挙げた作家・作品以外でも、対象に対して特別に強いモチベーションを持つ受講者に関しては、任意に発表作品を決定してもらう場合もあります。特に、卒業論文で対象とする作家を取り上げたいという希望については、できる限り受け入れたいと思います。毎年夏季にゼミ合宿、冬季に卒論合宿を行います。合宿も授業の一環ですので、参加を原則とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミナールの進め方	発表担当者・担当作品・スケジュールなどの決定
第 2 回	戦後文学の展開Ⅰ	三島由紀夫「金閣寺」（新潮文庫）①問題提起と討議
第 3 回	戦後文学の展開Ⅱ	三島由紀夫「金閣寺」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 4 回	戦後文学の展開Ⅲ	三島由紀夫「金閣寺」③総括とレポートへの課題
第 5 回	戦後文学の展開Ⅳ	安部公房「砂の女」（新潮文庫）①問題提起と討議
第 6 回	戦後文学の展開Ⅴ	安部公房「砂の女」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 7 回	戦後文学の展開Ⅵ	安部公房「砂の女」③総括とレポートへの課題
第 8 回	ミステリー文学Ⅰ	夢野久作「押絵の奇蹟」（角川文庫）①問題提起と討議
第 9 回	ミステリー文学Ⅱ	夢野久作「押絵の奇蹟」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 10 回	ミステリー文学Ⅲ	夢野久作「押絵の奇蹟」③総括とレポートへの課題
第 11 回	現代の文学Ⅰ	目取真俊「水滴」（文春文庫）①問題提起と討議
第 12 回	現代の文学Ⅱ	目取真俊「水滴」②先行研究の検討と前回討議内容を受けての深化・発展
第 13 回	現代の文学Ⅲ	目取真俊「水滴」③総括とレポートへの課題
第 14 回	総括	現代文学の展望について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者は、各自上記のとおり事前に担当する作品について読み込み、さまざまな側面から作家・作品を分析・検討してもらいます。人物論・構造論・文体論・時代背景・作家の生涯・異稿の調査・先行研究の検討などといったテーマごとに担当者を決め、授業前にサブゼミを行い、発表班としての見解をまとめたレジュメを作成・発表してもらいます。この準備については、個人で 5 時間、サブゼミで 2 時間程度を標準とします。
また、これも上記のとおり発表担当者以外の受講者も、各自作品を読み、自分なりの考えをまとめた小レポートを作成、毎回提出してもらいます。この準備については、3 時間程度を標準とします。
一回の発表が終了するごとに、新たに問題となった点や、より深い考察を要する点などを発表班員のみならず受講者全員が共有して、繰り返し読み直すことになります。これをうけて、発表者・受講者それぞれが上記同様な準備と復習をしてもらうことになります。

【テキスト（教科書）】
なるべく上記文庫の最新版を使用してください。

【参考書】
三島由紀夫「金閣寺創作ノート」（決定版三島由紀夫全集 6、新潮社）安部公房「砂漠の思想」（講談社文芸文庫）江戸川乱歩「押絵と旅する男」（光文社文庫版江戸川乱歩全集 5 その他各種文庫）「戦争 × 文学 20「オキナワ　終わらぬ戦争」（集英社）など。
他に併読してもらいたい作品や書物等は適宜授業内で指示します。ただ、近現代文学史については各自で通史的なものを一冊ないし二冊用意しておくと良いでしょう。これも授業内で紹介しますが、まずは自分で探してみてください。

【成績評価の方法と基準】
全回出席を大原則とします。正当な理由のない欠席は認めません。（規定回数以上の無断欠席をしたものはその時点で受講資格を失います。）
発表とレジュメの水準・発言内容などの平常点が 60 %、期末の作品論（レポート）の評価が 30 %、発表班以外の受講者に課す提出物（小レポート）の評価が 10 %。これらを総合的に加味して判断します。

【学生の意見等からの気づき】
相互の議論を活発にするために、班内討議の時間をできる限りもうけます。

【その他の重要事項】
発表には周到な準備とレジュメ作成やサブゼミの負担がかかりますし、担当者以外にも担当者に準ずる用意が必要となります。ゼミに穴をあけることがないように、個人的なスケジュールを勘案して計画的に取り組んでください。

【Outline and objectives】
Learn concrete methods to comprehend,analyze,and evolute through the wopks of many Japanese writers from showa to the postwar period to the present age.

LIT300BC

ゼミナール１２Ａ

三井　喜美子

授業コード：A2637　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本児童文学及び翻訳児童文学を研究対象とし、子どもと文学の問題を探求する。児童文学とは何かを、児童文学史や児童文学の作者及び作品、児童文化史などを研究することを通して捉えていくこと。実際に創作もする。現代児童文学研究に貢献的な研究課題を自ら考えていくことが重要である

【到達目標】
児童文学の研究課題を自ら設定し、参考文献及び資料のリストアップの方法を身につけ、グループで研究発表をすること。ディスカッションをすることができる。日本児童文学史の概要を理解すること。近代児童文学の誕生、『赤い鳥』の代表作家と作品、戦後児童文学作家と作品、反戦平和児童文学、現代児童文学の課題などについて理解することができる。児童文学創作をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
大学の指示に則り、状況に応じてオンラインも活用する。授業形態はすべて演習。グループ研究に基づく発表及びディスカッションを基本とする。
テーマ別に学年混合グループを編成し、グループで協力して研究結果を資料にまとめ、プレゼンテーションを行い、内容に関して全体でディスカッションをする。期末にディスカッション内容も盛り込んだレポートを作成して提出すること。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの心得と今期の目標設定	ゼミに参加する心構えの確認。自己紹介。先輩からのアドバイス。目標設定。演習計画を立て、グループ編成。
第 2 回	研究資料作成について	資料の検索方法の紹介。図書館ガイダンス
第 3 回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン①	一人５分のプレゼンテーション。質疑応答 5 分 ４名
第 4 回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン②	一人５分のプレゼンテーション。質疑応答 5 分 ４名
第 5 回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン③	一人５分のプレゼンテーション。質疑応答 5 分 ４名
第 6 回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン④	一人５分のプレゼンテーション。質疑応答 5 分 ４名
第 7 回	「私の好きな児童文学」をテーマに個人プレゼン⑤	一人５分のプレゼンテーション。質疑応答 5 分 ４名
第 8 回	研究計画の作成 ZOOM 開催。グループで相談	グループごとに研究計画を作成し、資料収集
第 9 回	第１回ゼミ発表とディスカッション	第１グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第 10 回	第２回ゼミ発表とディスカッション	第２グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第 11 回	第３回ゼミ発表とディスカッション	第３グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第 12 回	第４回ゼミ発表とディスカッション	第４グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第 13 回	第５回ゼミ発表とディスカッション	第５グループによるプレゼンテーションとその内容に関するディスカッション。課題抽出。
第 14 回	ゼミ発表の総括 論文の書き方について	過去のレポートや論文を参考に、論文の書き方について講義。今期のゼミ発表から学んだことを発表し合い、各自の次の課題を設定する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマを設定する。発表に向けてグループで立てた研究計画に応じて資料収集、資料整理などをして、発表準備を進める。グループで事前に発表内容を研究し、レジュメを作成する。
発表資料は前週配布。他のグループの発表で扱うテキストや資料については事前に読んでおく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
『日本児童文学大系』『児童文学辞典』『日本児童文学成立序説』『少年文学の系譜』その他必要に応じて順次紹介

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度）20 ％
発表 50%
レポートはグループ発表を分担執筆でまとめる３０％

【学生の意見等からの気づき】
発表に向けた取り組み段階におけるアドバイスをメールなどを通して行うこと

【学生が準備すべき機器他】
ゼミの SNS を作成し、全体の連絡情報交換などを行う。

【その他の重要事項】
秋学期との通年履修推奨。
卒論のテーマ設定と論文作成に活かしていくこと。

【Outline and objectives】
Students will research Japanese and translated children's literature and look into issues related to children and literature. Through the research of the history of children's literature, the authors and their works, students will be able to perceive what children's literature is. Will create a story and publish a collection of works within the class.

LIT300BC

ゼミナール１２Ｂ

三井　喜美子

授業コード：A2638　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春期ゼミナール１２ A を受け、個人の研究テーマを探求し、ゼミ発表を行う事ができる。
発表に関してディスカッションができるように、各テーマについての事前研究をすることができる。創作集の合評会を行い、児童文学についての理解を深める事ができる。

【到達目標】
創作集の合評をし、創作活動を促進するとともに、児童文学の理解を深める。
春期の研究を活かし、研究課題を新たに設定し、個人発表をすることができる。
研究をまとめて論文を作成する事ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
大学の指示に則り、オンラインを先行させ、状況によって対面で行う。
授業形態はいずれも演習。個人研究に基づく発表及びディスカッションを基本とする。
春期の研究方法を活かし、個人で研究結果を資料にまとめ、プレゼンテーションを行い、内容に関して全体でディスカッションをする。期末にディスカッション内容を踏まえて、30 枚程度の論文としてまとめる。
授業予定に記載できない 1 月 13 日は、創作合評会。
創作合評会を行い、創作意欲を持つ。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	夏季休暇中の課題の確認。 創作と最近の注目作品 注目作品を紹介しあう	夏季休暇中の課題である創作を確認し、合評会の方法を決める 最近の話題作、注目作品を紹介する。各自 5 分程度
第 2 回	秋期のゼミ計画を立てる 個人発表	個人発表の準備
第 3 回	個人発表１	3 年生の個人発表。2 名
第 4 回	個人発表２	3 年生の個人発表。2 名
第 5 回	個人発表３	3 年生の個人発表。2 名
第 6 回	個人発表４	3 年生の個人発表。2 名
第 7 回	個人発表５	3 年生の個人発表。2 名
第 8 回	2 年生の個人発表１	２年生の個人発表。2 名
第 9 回	2 年生の個人発表２	２年生の個人発表。2 名
第 10 回	２年生の個人発表３	２年生の個人発表。２名
第 11 回	２年生の個人発表４	２年生の個人発表。２名
第 12 回	２年生の個人発表５	２年生の個人発表。２名
第 13 回	創作合評会	文集委員による進行で創作の合評会
第 14 回	ゼミ活動の総括 成果と課題を明確にする 論文の書き方の確認	個人の研究に関してだけでなく、グループ討議についても総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
夏季休暇中に創作を完成させることができる。最近の話題作、注目作を選定することができる
文集委員は編集。冊子作りは全員協力のこと。
3 年生は卒論を意識して課題を設定し、個人発表を充実させることができる。
ゼミ発表の作品と資料を必ず事前に読み、質問を発表前に提出できるようにすること。当日はディスカッションができるようにすること。
書式と様式を守り、論文を書く事ができる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
児童文学用語集　児童文学事典

【参考書】
児童文学概論　児童文学用語集　日本児童文学史　世界児童文学史など

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への参加度）20 %　発表 40% 論文 20 %　創作作品 20 %
未提出課題が一つあればマイナス 50 %

【学生の意見等からの気づき】
プレゼンテーション能力を高めること。
ディスカッションが活発にできるようにすること。
ゼミのコミュニケーションを大事にすること。

【その他の重要事項】
春学期との通年履修推奨。
卒論のテーマ設定と論文作成に活かしていくこと。

【Outline and objectives】
After finishing the Spring Seminar 12A, students will be able to pursue his/her personal research theme and conduct seminar presentations. They will conduct pre-studies on teach themes to be able to do discussions concerning each presentation.　Students will together evaluate the class's collection of works and deepen their understanding of children's literature.

LIN300BC

ゼミナール１３Ａ

間宮　厚司、古牧　久典

授業コード：A2639　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語研究に関する各自のテーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。日本語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】
最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は日本語の研究に関することならば何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者はプリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介など
第 2 回	前年度の研究紹介（1）	発表順の決定や発表の仕方など
第 3 回	前年度の研究紹介（2）	プリントの作り方など
第 4 回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第 5 回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第 6 回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第 7 回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第 8 回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第 9 回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第 10 回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第 11 回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第 12 回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第 13 回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第 14 回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）・発表（30 %）・レポート（40 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教室授業にしてほしい。

【Outline and objectives】
This course will be an interactive lecture. In this course, you are going to have a presentation about what we learn in the class related to Japanese Language and a question and answer session.

LIN300BC

ゼミナール１３Ａ

古牧　久典

授業コード：A2639　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語研究に関する各自のテーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。日本語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】
最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は日本語の研究に関することならば何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者はプリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介など
第 2 回	前年度の研究紹介（1）	発表順の決定や発表の仕方など
第 3 回	前年度の研究紹介（2）	プリントの作り方など
第 4 回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第 5 回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第 6 回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第 7 回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第 8 回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第 9 回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第 10 回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第 11 回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第 12 回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第 13 回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第 14 回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）・発表（30 %）・レポート（40 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教室授業にしてほしい。

【Outline and objectives】
This course will be an interactive lecture. In this course, you are going to have a presentation about what we learn in the class related to Japanese Language and a question and answer session.

LIN300BC

ゼミナール１３Ｂ

間宮　厚司

授業コード：A2640　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語研究に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。日本語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】
最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は日本語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ長・副ゼミ長の選出
第 2 回	春学期のレポート紹介	発表順の決定など
第 3 回	秋学期の研究テーマ	研究テーマの確認など
第 4 回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第 5 回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第 6 回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第 7 回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第 8 回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第 9 回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第 10 回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第 11 回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第 12 回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第 13 回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第 14 回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）・発表（30 %）・レポート（40 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教室授業にしてほしい。

【Outline and objectives】
This course will be an interactive lecture. In this course, you are going to have a presentation about what we learn in the class related to Japanese Language and a question and answer session.

LIN300BC

ゼミナール１４Ａ

竹林　一志

夜間時間帯
授業コード：A2641　｜　曜日・時限：**月曜 6 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古典語（古文のことば）に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。古典語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】
最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は古典語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います（Zoom 授業では、レジュメを画面共有しながら発表してもらいます）。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介など
第 2 回	発表についての説明	発表順の決定や発表の仕方、レジュメの作り方など
第 3 回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第 4 回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第 5 回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第 6 回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第 7 回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第 8 回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第 9 回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第 10 回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第 11 回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第 12 回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第 13 回	ゼミ生の研究発表（11）	発表・質疑応答・助言（11）
第 14 回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を大いに活用し、必要に応じて担当教員（竹林）に相談して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）・発表（30 %）・レポート（40 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
しばらくの間は Zoom で授業を行う予定です。皆さんの御希望によっては教室での授業実施を検討します。

【学生が準備すべき機器他】
Zoom での授業が受けられるように準備しておいて下さい。

【その他の重要事項】
御質問や御相談がありましたら、お気軽にメールをお送り下さい。
竹林のメールアドレス
takebayashi.kazushi@nihon-u.ac.jp

【Outline and objectives】
This course will be an interactive lecture. In this course, you are going to have a presentation about what we learn in the class related to the Japanese language and a question and answer session.

LIN300BC

ゼミナール１４Ａ

間宮　厚司、竹林　一志

夜間時間帯
授業コード：A2641　｜　曜日・時限：**月曜 6 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古典語（古文のことば）に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。古典語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】
最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は古典語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います（Zoom 授業では、レジュメを画面共有しながら発表してもらいます）。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ生の自己紹介など
第 2 回	発表についての説明	発表順の決定や発表の仕方、レジュメの作り方など
第 3 回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第 4 回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第 5 回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第 6 回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第 7 回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第 8 回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第 9 回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第 10 回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第 11 回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第 12 回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第 13 回	ゼミ生の研究発表（11）	発表・質疑応答・助言（11）
第 14 回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を大いに活用し、必要に応じて担当教員（竹林）に相談して下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）・発表（30 %）・レポート（40 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
しばらくの間は Zoom で授業を行う予定です。皆さんの御希望によっては教室での授業実施を検討します。

【学生が準備すべき機器他】
Zoom での授業が受けられるように準備しておいて下さい。

【その他の重要事項】
御質問や御相談がありましたら、お気軽にメールをお送り下さい。
竹林のメールアドレス
takebayashi.kazushi@nihon-u.ac.jp

【Outline and objectives】
This course will be an interactive lecture. In this course, you are going to have a presentation about what we learn in the class related to the Japanese language and a question and answer session.

LIN300BC

ゼミナール１４Ｂ

間宮　厚司

夜間時間帯
授業コード：A2642　｜　曜日・時限：**月曜 6 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古典語（古文のことば）に関する各自の研究テーマについて、調査・分析・考察を行い、発表してもらいます。古典語を研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から、自分の頭で考え、自分のことばで表現し、自分なりの論を立てられるようになるための授業です。

【到達目標】
最終目標である卒業論文の作成に役立つスキルを身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ生による研究発表を中心に行います。発表内容は古典語の研究に関することならば、何でも可。ただし、研究に値する解決可能なテーマに限ります。発表者は、プリントを人数分準備・配布して発表し、発表後に質疑応答や助言を行います。誤りを恐れず、のびのびと研究発表をして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ長・副ゼミ長の選出
第 2 回	春学期のレポート紹介	発表順の決定など
第 3 回	秋学期の研究テーマ	研究テーマの確認など
第 4 回	ゼミ生の研究発表（1）	発表・質疑応答・助言（1）
第 5 回	ゼミ生の研究発表（2）	発表・質疑応答・助言（2）
第 6 回	ゼミ生の研究発表（3）	発表・質疑応答・助言（3）
第 7 回	ゼミ生の研究発表（4）	発表・質疑応答・助言（4）
第 8 回	ゼミ生の研究発表（5）	発表・質疑応答・助言（5）
第 9 回	ゼミ生の研究発表（6）	発表・質疑応答・助言（6）
第 10 回	ゼミ生の研究発表（7）	発表・質疑応答・助言（7）
第 11 回	ゼミ生の研究発表（8）	発表・質疑応答・助言（8）
第 12 回	ゼミ生の研究発表（9）	発表・質疑応答・助言（9）
第 13 回	ゼミ生の研究発表（10）	発表・質疑応答・助言（10）
第 14 回	まとめ	レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考書は各自の研究テーマにそって、そのつど指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）・発表（30 %）・レポート（40 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教室授業にしてほしい。

【Outline and objectives】
This course will be an interactive lecture. In this course, you are going to have a presentation about what we learn in the class related to Japanese Language and a question and answer session.

LIN300BC

ゼミナール１５Ａ

尾谷　昌則

授業コード：A2643　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日常の言葉を取り上げながら、言語を分析する手法を学ぶ。

【到達目標】
（1）論文の主張を的確に理解・要約することができる。
（2）論文の内容を分かりやすくプレゼンテーションすることができる。
（3）コーパスを使って、言葉遣いについて調べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
▼春学期は、決められたトピックに関してグループ発表を中心とし、皆でディスカッションをしながら授業を進める。基礎概念を補足説明については講義形式として行う場合もある。言語学的な研究手法を学ぶことができる雑誌記事・学術論文を読み、発表してもらう。
▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。
▼フィードバックは可能な限り授業内で行うこととし、レポートなどの提出物についても授業内で講評を行う。ただし、必要に応じてメールでも行う。
▼ゼミはディスカッションをすることが目的でもあるため、リアクションペーパーなどは用いない。質問があれば、その場ですること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コーパス、コンコーダンスの使い方	様々なコーパスとツールの紹介
第 2 回	３年生 (学生 A,B,C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 3 回	３年生 (学生 D,E,F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 4 回	グループ発表１（他己紹介）	各グループの自己紹介、他己紹介、テーマ紹介をする
第 5 回	３年生 (学生 G,H,I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 6 回	論文レビュー１（定量的な観点からの分析）	定量的分析を行っている論文を読み、皆でその問題点について討議する
第 7 回	グループ発表２（先行研究とまとめ）	各グループの研究テーマの先行研究とその問題点について発表する
第 8 回	３年生 (学生 A,B,C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 9 回	３年生 (学生 D,E,F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 10 回	論文レビュー２（意味変化の分析）	意味変化に関する論文を読み、皆でその問題点について討議する
第 11 回	３年生 (学生 G,H,I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 12 回	２年生 (学生 A,B,C,D,E) による論文リポート	２年生に論文リポート（発表）をしてもらい、その論文の問題点について討議する
第 13 回	２年生 (学生 F,G,H,I,J) による論文リポート	２年生に論文リポート（発表）をしてもらい、その論文の問題点について討議する
第 14 回	グループ発表３（調査結果と代案の提示）	各グループが調査したことを発表し、最終的な主張を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【1】課題論文の基本用語・重要概念については事前に参考書を使用して十分に理解し、授業で皆に説明できるようにしておく。　【2】グループワークでは各自の分担を明確にし、毎週のミーティング時に報告し、グループに貢献すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
（1）『認知言語学研究の方法―内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
（2）『日本語研究のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子、くろしお出版）
（3）『日本語文法大辞典』（山口明穂・秋本守英編著、明治書院）

【成績評価の方法と基準】
発表 30 %、質疑応答 30 %、課題 40 %
半期で３回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻２回で欠席１回とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の交流が少ないということだったので、意識的にその時間をとることにした。

【学生が準備すべき機器他】
グループワークではノート PC 必須。発表ではパワーポイント（Google クラウドでも可）。文字列検索ソフトとして KWIC Finder、形態素解析ソフトとして KH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノート PC を所有することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」（国立国語研究所提供）の利用者登録もしておくこと。

【Outline and objectives】
We will study how to analyze the structures and the meanings of Japanese we use in our dairy life.

LIN300BC

ゼミナール１５Ｂ

尾谷　昌則

授業コード：A2644　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代日本語を客観的に見つめ直し、文法的に分析する。

【到達目標】
（1）言語分析に必要な言語学の基本概念やコーパス使用法を習得する。
（2）ある問題について、論理的かつ言語学的に考えることができるようになる。
（3）グループ・ワークやサブゼミを通じ、他者と協働しながら課題を達成しようとする姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
秋学期は、各自で決めたトピックについてデータを採取し、自分なりに分析し、研究発表を行う。全員で読むべき重要な論文の場合には、課題として要約レポートを書いてもらい、その添削を行いながら内容の確認とディスカッションを行う。数多くの事例について皆で考えながら授業を進める。
▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	個人発表１	３年生による個人研究発表
第 2 回	個人発表２	３年生による個人研究発表
第 3 回	個人発表３	３年生による個人研究発表
第 4 回	グループ発表１	２年生各グループの発表（先行研究のまとめ）
第 5 回	課題論文１	定量的分析を行ってる論文を読む
第 6 回	コーパス実習１	BCCWJ などオンラインコーパスの使用法について
第 7 回	グループ発表２	２年生各グループの発表（先行研究の問題点）
第 8 回	課題論文２	言語変化について定量的に分析した論文を読む
第 9 回	コーパス実習２	KWIC コンコーダンサなどの詞用法について
第 10 回	グループ発表３	２年生各グループの発表（独自調査の報告）
第 11 回	個人発表４	３年生による個人研究発表
第 12 回	個人発表５	３年生による個人研究発表
第 13 回	個人発表６	３年生による個人研究発表
第 14 回	グループ発表４	２年生各グループの発表（結論の発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ発表に備え、各グループで毎週１回サブゼミを実施すること。また、各回の議論内容・決定事項・反省点などを報告すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
『認知言語学研究の方法― 内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
『日本語教育のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子著、くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】
発表 40 %、質疑応答 30 %、課題 30 %
半期で３回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻２回で欠席１回とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の交流が少ないということだったので、意識的にその時間をとることにした。

【学生が準備すべき機器他】
グループワークではノート PC 必須。発表ではパワーポイント（Google クラウドでも可）。文字列検索ソフトとして KWIC Finder、形態素解析ソフトとして KH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノート PC を所有することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」（国立国語研究所提供）の利用者登録もしておくこと。

【Outline and objectives】
We will study how to analyze the language grammatically.

LIN300BC

ゼミナール１６Ａ

尾谷　昌則

夜間時間帯
授業コード：A2645　｜　曜日・時限：**月曜 6 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者ことばのような、現代日本語の問題を取り上げながら、言語を分析する手法を学ぶ。

【到達目標】
（1）論文の主張を的確に理解・要約することができる。
（2）論文の内容を分かりやすくプレゼンテーションすることができる。
（3）コーパスを使って、言葉遣いについて調べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
▼決められたトピックに関してグループ発表を中心とし、皆でディスカッションをしながら授業を進める。基礎概念を補足説明については講義形式として行う場合もある。言語学的な研究手法を学ぶことができる雑誌記事・学術論文を読み、発表してもらう。
▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。
▼フィードバックは可能な限り授業内で行うこととし、レポートなどの提出物についても授業内で講評を行う。ただし、必要に応じてメールでも行う。
▼ゼミはディスカッションをすることが目的でもあるため、リアクションペーパーなどは用いない。質問があれば、その場ですること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	コーパス、KWIC の使い方	様々なコーパスの紹介を行う
第 2 回	３年生 (学生 A,B,C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 3 回	３年生 (学生 A,B,C) による個人研究発表 ３年生 (学生 D,E,F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 4 回	グループ発表１（他己紹介）	各グループの自己紹介、他己紹介、テーマ紹介をする
第 5 回	３年生 (学生 G,H,I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 6 回	論文レビュー１（若者言葉の分析）	若者言葉の意味・文法の拡張について研究した論文を読み、その問題点について討議する
第 7 回	グループ発表２（先行研究とまとめ）	各グループの研究テーマの先行研究とその問題点について発表する
第 8 回	３年生 (学生 A,B,C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 9 回	３年生 (学生 D,E,F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 10 回	論文レビュー２（ポライトネスに関する若者言葉の分析）	若者言葉とポライトネスに関する論文を読み、全員で討議する
第 11 回	３年生 (学生 G,H,I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 12 回	２年生 (学生 A,B,C,D,E) による論文リポート	２年生に論文リポート（発表）をしてもらい、その論文の問題点について討議する
第 13 回	２年生 (学生 F,G,H,I,J) による論文リポート	２年生に論文リポート（発表）をしてもらい、その論文の問題点について討議する
第 14 回	グループ発表３（調査結果と代案の提示）	各グループが調査したことを発表し、最終的な主張を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題論文の基本用語・重要概念については事前に下記参考書を使用して十分に理解し、授業で皆に説明できるようにしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
(1)『認知言語学研究の方法―内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
(2)『日本語教育のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子、くろしお出版）
(3)『日本語文法大辞典』（山口明穂・秋本守英編著、明治書院）

【成績評価の方法と基準】
発表 30 %、質疑応答 30 %、課題 40 %
半期で３回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻２回で欠席１回とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の交流が少ないということだったので、意識的にその時間をとることにした。

【学生が準備すべき機器他】
グループワークではノート PC 必須。発表ではパワーポイント（Google クラウドでも可）。文字列検索ソフトとして KWIC Finder、形態素解析ソフトとして KH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノート PC を所有することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」（国立国語研究所提供）の利用者登録もしておくこと。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
　現代日本語における意味論、文法論、語用論、認知言語学
＜研究テーマ＞
　認知言語学からみた意味拡張、文法化、構文ネットワーク
＜主要研究業績＞
　「アマルガム構文としての『「全然」＋肯定』に関する語用論的分析」（『言葉と認知のメカニズム』pp.103-115. ひつじ書房、2008 年）
　「構文文法の歴史的背景と今後の展望」（『人間情報学研究』第 11 巻、pp.25-43. 2006 年）
　「接続詞ケドの手続き的意味」（『語用論研究』第 7 号, pp.17-30. 2005 年）
　『構文ネットワークと文法　―認知文法論のアプローチ』（共著、研究社、2011 年）

【Outline and objectives】
We will study how to analyze the structures and the meanings of Japanese we use in our dairy life.

LIN300BC

ゼミナール１６Ｂ

尾谷　昌則

夜間時間帯

授業コード：A2646　｜　曜日・時限：**月曜 6 限**

秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
若者ことばを客観的に見つめ直し、文法的に分析する。

【到達目標】
(1) 言語分析に必要な言語学の基礎概念やコーパス使用法を習得する。　(2) ある問題について、論理的かつ言語学的に考えることができるようになる。(3) グループ・ワークやサブゼミを通じ、他者と協働しながら課題を達成しようとする姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
▼数多くの事例について皆で考えながら授業を進める。問題提起となる研究発表は、２年生はグループ発表中心で、３年生は個人発表中心で行う。
▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。
▼フィードバックは可能な限り授業内で行うこととし、レポートなどの提出物についても授業内で講評を行う。ただし、必要に応じてメールでも行う。
▼ゼミはディスカッションをすることが目的でもあるため、リアクションペーパーなどは用いない。質問があれば、その場ですること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	３年生 (学生 A,B,C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 2 回	３年生 (学生 D,E,F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 3 回	３年生 (学生 G,H,I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 4 回	グループ発表１（先行研究）	２年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 5 回	課題論文１（若者ことばの論文）	若者言葉の意味・文法の拡張について研究した論文を読み、その問題点について討議する
第 6 回	コーパス実習（BCCWJ）	BCCWJ などオンラインコーパスの使用法について学ぶ
第 7 回	グループ発表２（先行研究の問題点）	２年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 8 回	課題論文２（文法化の論文）	若者言葉を文法化の観点から研究した論文を読んで、その問題点を討議する
第 9 回	コーパス実習（KWIC 検索）	KWIC コンコーダンサなどの使用法を学ぶ
第 10 回	グループ発表３（調査結果の提示）	２年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 11 回	３年生 (学生 A,B,C) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 12 回	３年生 (学生 D,E,F) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する
第 13 回	３年生 (学生 G,H,I) による個人研究発表	学生の研究発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。
第 14 回	グループ発表４（代案の提示）	２年生のグループ発表を聞き、その問題点と、より良い研究にするためには何が必要かを討議する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループ発表に備え、各グループで毎週１回サブゼミを実施すること。また、各回の議論内容・決定事項・反省点などは、ポートフォリオ代りとなるフェイスブック・グループに書き込むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
『認知言語学研究の方法― 内省・コーパス・実験』（辻幸夫監修、ひつじ書房）
『日本語教育のためのコーパス調査入門』（李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子著、くろしお出版）

【成績評価の方法と基準】
発表 40 %、質疑応答 30 %、課題 30 %
半期で３回欠席した者は即刻単位不認定。遅刻２回で欠席１回とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士の交流が少ないということだったので、意識的にその時間をとることにした。

【学生が準備すべき機器他】
グループワークではノート PC 必須。発表ではパワーポイント（Google クラウドでも可）。文字列検索ソフトとして KWIC Finder、形態素解析ソフトとして KH Coder。両ソフトをインストールするために、個人でノート PC を所有することが望ましい。また、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の検索ができるように、「中納言」（国立国語研究所提供）の利用者登録もしておくこと。

【Outline and objectives】
We will study how to analyze the language grammatically.

LIT300BC

ゼミナール１７Ａ

藤谷　治

授業コード：A2647　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「読む」「批評する」「書く」「書き直す」という文学の基本を経験し、実践します。
既存の作品を批評することから始めて、実際に各自小説を創作し、ゼミ誌を作り、掲載作品について相互批評をします。

【到達目標】
文学を所与のもの、「与えられる」ものではなく、みずから作り上げ、参加するものとして体得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ生が主体的に進行させることになります。ディスカッションによって授業を進めます。リアクションペーパーの内容を次回の授業に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業について
第 2 回	購読作品の選定とスケジュール作り	批評する作品を選び、授業の進め方を考える。
第 3 回	受講生による発表１	選んだ作品を読んで批評します
第 4 回	受講生による発表２	能動的な文学への参加としての批評
第 5 回	受講生による発表３	読書は読者を現わす
第 6 回	受講生による発表４	批評の根拠
第 7 回	受講生による発表５	批評する言葉と批評される言葉
第 8 回	受講生による発表６	批評と創作について
第 9 回	ゼミ誌制作準備	創作とその過程について
第 10 回	受講生による発表１	作品批評と並行して、創作を始める
第 11 回	受講生による発表２	作品批評と、創作の進捗状況について
第 12 回	受講生による発表３	創作と批評の関係
第 13 回	受講生による発表４	書き直しの重要性について
第 14 回	受講生による発表５	前期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
いわゆる文学の古典的名作と呼ばれている作品を、片っぱしから読破する。滝壺に立って口を開け、滝を呑むようにして読んでいく。最低でも一日１～２時間は読書に充ててください。

【テキスト（教科書）】
ゼミ誌に掲載する作品を相互批評するので、教科書をみずから制作するようなものです。

【参考書】
一冊の作品が内包する他の作品。同じ作者の他作品、作品内で言及されている作品、影響関係のある作品、など。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加５０％、作品の評価５０％。

【学生の意見等からの気づき】
学生の意見がゼミの主体となります。

【学生が準備すべき機器他】
最初は特にありません。

【その他の重要事項】
講師は小説家。2003 年デビュー。2015 年『世界でいちばん美しい』で第 31 回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』（第 21 回三島由紀夫賞候補）『船に乗れ！』（第 7 回本屋大賞第 7 位）『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

【Outline and objectives】
We will experience the basics of literature through "reading" "reviewing" and "writing."

LIT300BC

ゼミナール１７Ｂ

藤谷　治

授業コード：A2648　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
前期の「読む」「批評する」「書く」に加えて、「読まれる」「批評される」という、文学の基本を経験します。
また、ゼミ誌の制作を通して、「初稿」「批評」「書き直し」「ゲラの訂正」といった、作品完成までの過程を実践します。

【到達目標】
ゼミ生の書いた作品を相互に批評します。批評し、批評されるという経験を実践します。最終的にゼミ誌を制作します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ生が主体的に進行させることになります。ディスカッションによって授業を進めます。リアクションペーパーの内容を次回の授業に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	後期の授業について
第 2 回	スケジュール作り	ゼミ誌制作へのスケジュール
第 3 回	受講生による発表１	初稿の相互批評
第 4 回	受講生による発表２	書き直しについて
第 5 回	受講生による発表３	書き直しの判断
第 6 回	受講生による発表４	書き直しの締め切り
第 7 回	受講生による発表５	ゲラ出しについて
第 8 回	受講生による発表６	校閲について
第 9 回	受講生による発表７	校閲の提出
第 10 回	受講生による発表８	校了について
第 11 回	受講生による発表９	印刷について
第 12 回	受講生による発表 10	見本の完成
第 13 回	文学の創作とは	文学とは具体的な経験である
第 14 回	まとめ	一年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
書くこと、及びそれに付随する必要事項を経験してください。具体的にはゼミの進捗状況に応じて指導します。読書には最低限１～２時間を費やしてください。

【テキスト（教科書）】
各自が創作する文学作品が、おのずと教科書になります。

【参考書】
創作のために読むべきものすべて。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加５０％、作品の評価５０％。

【学生の意見等からの気づき】
授業内でのゼミ生の主体性に応じて進行します。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
講師は小説家。2003 年デビュー。2015 年『世界でいちばん美しい』で第 31 回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』（第 21 回三島由紀夫賞候補）『船に乗れ！』（第 7 回本屋大賞第 7 位）『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

【Outline and objectives】
In addiction to experiencing the basics of literature by "reading" and "writing", we will explore through the eyes of the writer; how it is "to rewrite" "to be read" and "to be reviewed."

LIT300BC

ゼミナール１８Ａ

山口　和人

夜間時間帯
授業コード：A2649　｜　曜日・時限：**金曜 6 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小説の書き方について学びます。誰でも、納得のゆく“会心の作”を書いてみたいですよね。しかしアウトプットの前にはインプットが必要です。春学期では同時代作家（大江健三郎、村上春樹、小川洋子、角田光代、多和田葉子、堀江敏幸、川上未映子、村田沙耶香ほか多数）の短篇小説を講読します。優れた作品に触れることは何よりインスピレーションを与えてくれます。グラスの水があふれるくらい、自分も書きたくて堪らなくなるくらい、多くの作品に触れましょう。絵画でも音楽でも、スポーツでもダンスでも、最初は憧れとマネから始まります。同時に毎回、創作の具体的ヒントについて解説します。テーマ、プロット（ストーリー）、構造、タイトル、書き出し、登場人物、セッティング、場面、描写、会話、文体、視点、推敲などについて実践的なコツを示します。また夏休み期間を利用してゼミ誌を制作します。このゼミ誌は秋学期のテキストになります。文芸編集者として培った目を生かしながら、これを皆さんと一緒に合評し、気づきを通して小説の楽しさ、奥深さを探求します。

【到達目標】
ひとつの小説作品を書けるようになる。
小説作品を多面的・批評的に読解できるようになる。
自分の創作作品を読者の目で客観的に批評できるようになる。
正確で豊かな文章表現力が身に着く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式ゆえ積極的なクラス参加・貢献が必要です。
楽しく温かい雰囲気の中で、自由闊達な議論ができるゼミを目指します。
夏休み明けに創作を提出していただきます。
授業中、課題として提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	第１回　イントロダクション＆オリエンテーション	ゼミ概要、講読テキスト指定と作品批評発表の割り当て
第 2 回	現代日本の小説読解・批評その１	名作短篇小説を合評。創作のヒント①優れた小説とは？
第 3 回	現代日本の小説読解・批評その２	名作短篇小説を合評。創作のヒント②テーマ
第 4 回	現代日本の小説読解・批評その３	名作短篇小説を合評。創作のヒント③プロット
第 5 回	現代日本の小説読解・批評その４	名作短篇小説を合評。創作のヒント④小説構造
第 6 回	現代日本の小説読解・批評その５	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑤書き出し
第 7 回	現代日本の小説読解・批評その６	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑥登場人物
第 8 回	現代日本の小説読解・批評その７	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑦セッティング・場面
第 9 回	ゼミ誌制作の準備	創作作品は「本」になって初めて原稿ではなく「作品」になります。
第 10 回	現代日本の小説読解・批評その 8	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑧描写
第 11 回	現代日本の小説読解・批評その 9	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑨会話
第 12 回	現代日本の小説読解・批評その 10	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑩文体
第 13 回	現代日本の小説読解・批評その 11	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑪視点
第 14 回	現代日本の小説読解・批評その 12	名作短篇小説を合評。創作のヒント⑫推敲（上記項目は随時変更あり）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週論じる課題短篇小説の読了と予めの考察、および創作作品執筆とゼミ誌制作。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ゼミ初回に指定。あるいは随時指定、配布します。

【参考書】
特にありませんが、より多くの文学作品に親しむようにしましょう。

【成績評価の方法と基準】
クラス参加への積極性・貢献度５０％、提出創作作品の評価５０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度初出講のため該当しませんが、意見・感想等随時フィードバックを歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
Word ソフトを搭載した PC を使用できる環境にあること。

【その他の重要事項】
講談社・文芸出版部および「群像」にて永年にわたり編集に携わる。この間、赤坂真理、阿部和重、新井満、伊藤比呂美、絲山秋子、大江健三郎、小川洋子、奥泉光、加賀乙彦、角田光代、鹿嶋田真希、倉橋由美子、小島信夫、佐伯一麦、鷺沢萠、庄野潤三、諏訪哲史、高橋源一郎、高橋たか子、多和田葉子、津島佑子、中沢けい、平野啓一郎、藤野千夜、星野智幸、村上龍、村田沙耶香、室井光広、山田詠美、吉村昭各氏等多くの作家を担当。特に大江健三郎氏担当は異例の２５年以上に及ぶ。同時に海外翻訳小説の紹介にも力を入れ、J.K. ローリングの小説ほか、欧米の話題作、ベストセラー多数を編集・刊行。上智大学卒、マサチューセッツ大学大学院英米文学専攻修士課程修了、ペンシルヴェニア州立大学大学院比較文学専攻博士課程中退。

【Outline and objectives】
We will learn how to write a short story in this creative writing course. I am sure that everybody hopes to write a “masterpiece.” However, we need “input” before “output.” In the spring semester, we will read short stories by contemporary writers. To read excellent stories will inspire our creativity. Let’s read as many stories as possible, until you cannot wait to start writing something yourself, until water flows over the rim of a glass. In other fields such as painting, music, sports, and dance, they would also start with admiration and imitation. In every class, I will explain some practical writing tips; theme, plot, structure, beginning, character, setting, scene, showing/telling, conversation, style, point of view, and elaboration.
Students will edit and make a small literary magazine consisted of their own short stories during the summer break and we will use it as a textbook in the fall semester.

LIT300BC

ゼミナール１８Ｂ

山口　和人

夜間時間帯
授業コード：A2650　｜　曜日・時限：**金曜 6 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小説の書き方について学びます。誰でも、納得のゆく“会心の作”を書いてみたいですよね。しかしアウトプットの前にはインプットが必要です。春学期では同時代作家（大江健三郎、村上春樹、小川洋子、角田光代、多和田葉子、堀江敏幸、川上未映子、村田沙耶香ほか多数）の短篇小説を講読します。優れた作品に触れることは何よりインスピレーションを与えてくれます。グラスの水があふれるくらい、自分も書きたくて堪らなくなるくらい、多くの作品に触れましょう。絵画でも音楽でも、スポーツでもダンスでも、最初は憧れとマネから始まります。同時に毎回、創作の具体的ヒントについて解説します。テーマ、プロット（ストーリー）、構造、タイトル、書き出し、登場人物、セッティング、場面、描写、会話、文体、視点、推敲などについて実践的なコツを示します。また夏休み期間を利用してゼミ誌を制作します。このゼミ誌は秋学期のテキストになります。文芸編集者として培った目を生かしながら、これを皆さんと一緒に合評し、気づきを通して小説の楽しさ、奥深さを探求します。

【到達目標】
ひとつの小説作品を書けるようになる。
小説作品を多面的・批評的に読解できるようになる。
自分の創作作品を読者の目で客観的に批評できるようになる。
正確で豊かな文章表現力が身に着く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式ゆえ積極的なクラス参加・貢献が必要です。
楽しく温かい雰囲気の中で、自由闊達な議論ができるゼミを目指します。
夏休み明けに提出していただいた創作について、毎回ゼミ参加者の合評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション＆オリエンテーション	講読作品の選定とスケジュール作り。批評をレジュメで提出しましょう。
第 2 回	受講生創作作品の相互鑑賞	毎回前期で学んだ下記のポイントに着目して作品を読んでみましょう。
第 3 回	受講生創作作品の相互鑑賞	テーマ（順不同）
第 4 回	受講生創作作品の相互鑑賞	プロット
第 5 回	受講生創作作品の相互鑑賞	小説構造
第 6 回	受講生創作作品の相互鑑賞	書き出し
第 7 回	受講生創作作品の相互鑑賞	登場人物
第 8 回	受講生創作作品の相互鑑賞	セッティング（場所）
第 9 回	受講生創作作品の相互鑑賞	シーン（場面）
第 10 回	受講生創作作品の相互鑑賞	描写
第 11 回	受講生創作作品の相互鑑賞	会話
第 12 回	受講生創作作品の相互鑑賞	文体
第 13 回	受講生創作作品の相互鑑賞	視点
第 14 回	受講生創作作品の相互鑑賞	推敲／次作をイメージしてみましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週論じる課題創作作品の読了と予めの考察、および作品推敲。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ゼミ誌。あるいは随時指定、配布します。

【参考書】
特にありませんが、より多くの文学作品に親しむようにしましょう。

【成績評価の方法と基準】
クラス参加への積極性・貢献度５０％、提出創作作品の評価５０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度初出講のため該当しませんが、意見・感想等随時フィードバックを歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】
Word ソフトを搭載した PC を使用できる環境にあること。

【その他の重要事項】
講談社・文芸出版部および「群像」にて永年にわたり編集に携わる。この間、赤坂真理、阿部和重、新井満、伊藤比呂美、絲山秋子、大江健三郎、小川洋子、奥泉光、加賀乙彦、角田光代、鹿嶋田真希、倉橋由美子、小島信夫、佐伯一麦、鷺沢萠、庄野潤三、諏訪哲史、高橋源一郎、高橋たか子、多和田葉子、津島佑子、中沢けい、平野啓一郎、藤野千夜、星野智幸、村上龍、村田沙耶香、室井光広、山田詠美、吉村昭各氏等多くの作家を担当。特に大江健三郎氏担当は異例の２５年以上に及ぶ。同時に海外翻訳小説の紹介にも力を入れ、J.K. ローリングの小説ほか、欧米の話題作、ベストセラー多数を編集・刊行。上智大学卒、マサチューセッツ大学大学院英米文学専攻修士課程修了、ペンシルヴェニア州立大学大学院比較文学専攻博士課程中退。

【Outline and objectives】
We will learn how to write a short story in this creative writing course. I am sure that everybody hopes to write a “masterpiece.” However, we need “input” before “output.” In the spring semester, we will read short stories by contemporary writers. To read excellent stories will inspire our creativity. Let’s read as many stories as possible, until you cannot wait to start writing something yourself, until water flows over the rim of a glass. In other fields such as painting, music, sports, and dance, they would also start with admiration and imitation. In every class, I will explain some practical writing tips; theme, plot, structure, beginning, character, setting, scene, showing/telling, conversation, style, point of view, and elaboration.
Students will edit and make a small literary magazine consisted of their own short stories during the summer break and we will use it as a textbook in the fall semester.

LIT300BC

ゼミナール１９Ａ

田中　和生

授業コード：A2651　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】
創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むことが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦して、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第 2 回	詩を読む（1）	発表と質疑、リレー小説 1。
第 3 回	詩を読む（2）	発表と質疑、リレー小説 2。
第 4 回	詩を読む（3）	発表と質疑、リレー小説 3。
第 5 回	短歌を読む（1）	発表と質疑、リレー小説 4。
第 6 回	短歌を読む（2）	発表と質疑、リレー小説 5。
第 7 回	俳句を読む	発表と質疑、リレー小説 6。
第 8 回	戯曲を読む	発表と質疑、リレー小説 7。
第 9 回	小説を読む（1）	発表と質疑、リレー小説 8。
第 10 回	小説を読む（2）	発表と質疑、リレー小説 9。
第 11 回	小説を読む（3）	発表と質疑、リレー小説 10。
第 12 回	小説を読む（4）	発表と質疑、リレー小説 11。
第 13 回	小説を読む（5）	発表と質疑、リレー小説 12。
第 14 回	小説を読む（6）	発表と質疑、リレー小説 13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動での研究発表（3 割）と参加状況（2 割）、創作の内容（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline and objectives】
Choose the expression form that suits you and do literature creation in Japanese.

LIT300BC

ゼミナール１９Ｂ

田中　和生

授業コード：A2652　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】
創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	校正について	課題提出と授業計画。
第 2 回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第 3 回	創作合評（1）	合評と作者質疑。
第 4 回	創作合評（2）	合評と作者質疑。
第 5 回	創作合評（3）	合評と作者質疑。
第 6 回	創作について	創作についての考察。
第 7 回	創作合評（4）	合評と作者質疑。
第 8 回	創作合評（5）	合評と作者質疑。
第 9 回	創作合評（6）	合評と作者質疑。
第 10 回	文学を探せ！	文学的なものの調査。
第 11 回	創作合評（7）	合評と作者質疑。
第 12 回	創作合評（8）	合評と作者質疑。
第 13 回	創作合評（9）	合評と作者質疑。
第 14 回	創作合評（10）	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動での創作の内容（5 割）と平常点（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline and objectives】
Choose the expression form that suits you and do literature creation in Japanese.

LIT300BC

ゼミナール２０Ａ

田中　和生

夜間時間帯
授業コード：A2653　｜　曜日・時限：**月曜 6 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】
創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
いろいろな表現形式についての研究発表を中心に進め、夏休み明けに提出する創作の準備を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	役割分担と創作の計画。
第 2 回	詩を読む（1）	発表と質疑、リレー小説 1。
第 3 回	詩を読む（2）	発表と質疑、リレー小説 2。
第 4 回	詩を読む（3）	発表と質疑、リレー小説 3。
第 5 回	短歌を読む（1）	発表と質疑、リレー小説 4。
第 6 回	短歌を読む（2）	発表と質疑、リレー小説 5。
第 7 回	俳句を読む	発表と質疑、リレー小説 6。
第 8 回	戯曲を読む	発表と質疑、リレー小説 7。
第 9 回	小説を読む（1）	発表と質疑、リレー小説 8。
第 10 回	小説を読む（2）	発表と質疑、リレー小説 9。
第 11 回	小説を読む（3）	発表と質疑、リレー小説 10。
第 12 回	小説を読む（4）	発表と質疑、リレー小説 11。
第 13 回	小説を読む（5）	発表と質疑、リレー小説 12。
第 14 回	小説を読む（6）	発表と質疑、リレー小説 13。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに夏期休暇中の課題創作が重要です。春学期からじっくり書き方や内容を準備して取り組んでもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
可能なかぎり案内するが、自発的な読書が肝要である。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】
特になありません。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動での研究発表（3 割）と参加状況（2 割）、創作の内容（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したい。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導する。

【Outline and objectives】
Choose the expression form that suits you and do literature creation in Japanese.

LIT300BC

ゼミナール２０Ｂ

田中　和生

夜間時間帯
授業コード：A2654　｜　曜日・時限：**月曜 6 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分にあった表現形式を選び、日本語による文芸創作を行います。

【到達目標】
創作のジャンルは問いませんが、その表現形式の作品を読むのが好きであるということを条件として、自分が創作する表現形式を決定します。また文芸創作を行うことを前提として、作者の視点から文学作品を内的に理解する視点を身につけます。その上で模倣による創作にとどまらず、独創的な作品を書くことに挑戦し、言語能力を向上します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
夏休み明けに創作を提出し、その作品について合評を行います。できるだけ学生同士の自発的な議論に時間を使いますが、それを踏まえて授業の最後に教員からフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	校正について	課題提出と授業計画。
第 2 回	ゼミ誌について	リレー小説の校正。
第 3 回	創作合評（1）	合評と作者質疑。
第 4 回	創作合評（2）	合評と作者質疑。
第 5 回	創作合評（3）	合評と作者質疑。
第 6 回	創作について	創作についての考察。
第 7 回	創作合評（4）	合評と作者質疑。
第 8 回	創作合評（5）	合評と作者質疑。
第 9 回	創作合評（6）	合評と作者質疑。
第 10 回	文学を探せ！	文学的なものの調査。
第 11 回	創作合評（7）	合評と作者質疑。
第 12 回	創作合評（8）	合評と作者質疑。
第 13 回	創作合評（9）	合評と作者質疑。
第 14 回	創作合評（10）	合評と作者質疑。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに秋学期に提出する課題創作が重要です。夏期休暇中にじっくり納得のいくものを仕上げてもらいたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
可能なかぎり案内しますが、自発的な読書が肝要です。また読書だけでなく、日頃から映画や舞台などいろいろな表現に触れ、自らの感性を刺激するような好奇心を大切にしてください。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
ゼミ活動での創作の内容（5 割）と平常点（5 割）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教員も自分の好きなものだけに閉じこもらず、学生たちの反応からこれまでの文学観や嗜好を壊しながら新しい文章に出会うことを目指したいと思います。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして創作について指導します。

【Outline and objectives】
Choose the expression form that suits you and do literature creation in Japanese.

LIT300BC

ゼミナール２１Ａ

根本　昌夫

授業コード：A2655　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　小説は原則的には一人で書くものです。そして書くためにはたくさんの小説を読んでいることが条件のひとつです。小説の一般的な書き方などというものはありません。個々の小説それぞれに、個々の方法論があるにすぎません。しかし、言葉を感じること　文学を楽しむこと　言葉を美しく表現することが基本なのは間違ありません。このゼミでは、文章の基本と文芸作品のスタンダードモデルを様々な角度で提示します。
　また、よしもとばなな、島田雅彦を初め多くの新人作家のデビューに立ち会った編集経験をいかし、受講生の作品に適切なアドバイスをしていきます。

【到達目標】
小説や詩など文芸作品の面白さと深みを体験しながら、自分の書いた言葉・作品が読者（他者）によって、どう把握され、受容され、評価されるかを感じてもらい、卒業制作でオリジナルな小説が書ける表現力と創作力を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　受講生作品の講評および現代日本文学の鑑賞と解読 と随時レポート提出

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講座の概要
第 2 回	作品を書く前にすべきこと	文章の基本作法 1
第 3 回	同上	文章の基本作法 2
第 4 回	読むということについて 1	課題作品講評
第 5 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞 1	開高健から村上春樹まで
第 6 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞 2	開高健から村上春樹まで
第 7 回	読むということについて 2	課題作品講評
第 8 回	散文と詩	文章の基本作法 3
第 9 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞 3	開高健から村上春樹まで
第 10 回	読むということについて 3	課題作品講評
第 11 回	批評について	文章の基本作法 4
第 12 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞 4	開高健から村上春樹まで
第 13 回	読むということについて 4	課題作品講評
第 14 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞 5	開高健から村上春樹まで

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書・指定テキストの購読および提出作品作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　各誌文芸誌・文庫を随時指定。また講師作成のプリントを配布。

【参考書】
吉本隆明「マス・イメージ論」

【成績評価の方法と基準】
　平常点 50 %、提出作品 50 %の評価を総合して決定する

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし

【その他の重要事項】
早稲田大学在学中「早稲田文学」編集室のスタッフとして、小説にかかわるようになり、卒業後は「海燕」の前身である文芸雑誌「作品」の編集者になる。のちに「海燕」「野性時代」で、編集長を務める。
「海燕」では、島田雅彦、吉本ばなな、小川洋子、角田光代らの、「野性時代」では、瀬名秀明らのデビューに立ち会う。
退職後の 2002 年からは、カルチャーセンターや大学で、小説講座を担当。多くの新人賞受賞者を送り出す。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and principles of literary.

LIT300BC

ゼミナール２１Ｂ

根本　昌夫

授業コード：A2656　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小説は原則的には一人で書くものです。そして書くためにはたくさんの小説を読んでいることが条件のひとつです。小説の一般的な書き方などというものはありません。個々の小説それぞれに、個々の方法論があるにすぎません。しかし、言葉を感じること　文学を楽しむこと　言葉を美しく表現することが基本なのは間違ありません。このゼミでは、文章の基本と文芸作品のスタンダードモデルを様々な角度で提示します。
　また、よしもとばなな、島田雅彦を初め多くの新人作家のデビューに立ち会った編集経験をいかし、受講生の作品に適切なアドバイスをしていきます。

【到達目標】
小説や詩など文芸作品の面白さと深みを体験しながら、自分の書いた言葉・作品が読者（他者）によって、どう把握され、受容され、評価されるかを感じてもらい、卒業制作でオリジナルな小説が書ける表現力と創作力を身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
受講生作品の講評および現代日本文学の鑑賞と解読および随時レポート提出

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方など	質疑応答
第 2 回	読むということについて 1	課題作品作成提出
第 3 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞 1	課題作品の講評と解説
第 4 回	読むということについて 2	課題作品作成提出
第 5 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞 2	課題作品講評と解説
第 6 回	読むということについて 3	課題作品作成提出
第 7 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞 3	課題作品講評と解説
第 8 回	読むといことについて 4	課題作品作成提出
第 9 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞 4	課題作品講評と解説
第 10 回	読むということについて 5	課題作品作成提出
第 11 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞 5	課題作品講評と解説
第 12 回	読むということについて 6	課題作品作成提出
第 13 回	現代日本文学作品の解読と鑑賞 6	課題作品講評と解説
第 14 回	今期の総括	質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題図書・指定テキストの購読および提出作品作成。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各誌文芸誌・文庫を随時指定。また講師作成のファイルを提示。

【参考書】
根本昌夫「実践小説教室」

【成績評価の方法と基準】
授業参加 50 %、課題レポート提出作品 50 %の評価を総合して決定する

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
早稲田大学在学中に「早稲田文学」編集室のスタッフとして、小説にかかわるようになり、卒業後は「海燕」の前身である文芸雑誌「作品」の編集者になる。のちに「海燕」「野性時代」で、編集長を務める。
「海燕」では、島田雅彦、吉本ばなな、小川洋子、角田光代らの、「野性時代」では、瀬名秀明らのデビューに立ち会う。
退職後の 2002 年からは、カルチャーセンターや大学で、小説講座を担当。多くの新人賞受賞者を送り出す。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic concepts and principles of literary.

LIN300BC

ゼミナール２２Ａ

王　安

授業コード：A2735　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ゼミナール２２では、言語学的観点から日本語と中国語における主な共通点・相違点や中国語の特徴について学びます。具体的には、音声、文字、語彙、文法など様々な側面から日本語と中国語を比較しながら、両言語のらしさとメカニズムを相対的に捉えます。

【到達目標】
(1) 中国語に関する基礎的な知識を習得する。
(2) 言語学的観点から日本語と中国語における主たる相違点を把握する。
(3) テキストの内容を的確に解説し、発表・議論を通して、まとめる力とプレゼンテーション力を身に着ける。
(4) 自ら問題点を発見し、情報・資料を収集、調査する力を身に着け、最終的に卒業論文の作成に役立つスキルを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
最初の数回の授業では、講師が対照言語学及び日中対照研究について全体像を説明します。それから解説、プレゼン、ディスカッションを併用して授業を進めていきます。また、授業のフィードバックは随時授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業内容、進め方に関して説明を行い、発表分担やグループ分けを決める。
第 2 回	講義	中国語、対照研究概観
第 3 回	第二章　世界の中の中国語	発表と質疑
第 4 回	第三章　中国語の音	グループ発表と質疑
第 5 回	第四章、第五章　中国語の文字と語彙（１）	グループ発表と質疑
第 6 回	第四章、第五章　中国語の文字と語彙（２）	グループ発表と質疑
第 7 回	これまでの内容のまとめ	討論
第 8 回	第六章　中国語の文法（その１）	グループ発表と質疑
第 9 回	第六章　中国語の文法（その２）	グループ発表と質疑
第 10 回	第六章　中国語の文法（その３）	グループ発表と質疑
第 11 回	第六章　中国語の文法（その４）	グループ発表と質疑
第 12 回	第七章　中国語のパフォーマンス（その１）	グループ発表と質疑
第 13 回	第七章　中国語のパフォーマンス（その２）	グループ発表と質疑
第 14 回	討論とまとめ	総合発表と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１，テキストに出てくる基本用語・重要概念については事前に参考書を使用して十分に理解し、授業で説明できるようにしておく。
２，各グループでは各自の分担を決め、発表レジュメを用意しますが、グループ全員が担当部分全体の内容について把握しておく必要がある。
３，本授業の準備学習・復習時間は、各４時間～６時間を標準とします。
４，発表者以外の学生は毎回必ず質問やコメントができるように授業に参加してください。

【テキスト（教科書）】
『中国語　はじめの一歩』木村英樹（2017）　ちくま学芸文庫　（1200＋税）

【参考書】
○王占華他（2004）『中国語学概論』駿河台出版社
○相原茂他 (1996)『中国語の文法書』同学社
杉村博文 (1994)『中国語文法教室』大修館書店
井上優 (2002)『対照研究と日本語教育』
『日本語と外国語との対照研究 X』国立国語研究所
石綿敏雄　高田誠（1990)『対照言語学』桜楓社
生越直樹（2002)『シリーズ言語科学４対照言語学』東京大学出版会
大河内康内編（1997）『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版
寺村秀夫 (1982)「言語の対照的分析と記述の方法」『講座日本語学 10 外国語との対照』 明治書院
松岡栄志・古川裕　監訳 (2004）『現代中国語総説』三省堂

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション４０％ (レジュメ＋発表) ＋討論２０％＋レポート課題４０％
*発表レジュメは授業前日 (日曜日１７：００) までにメールで全員あてに送ってください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度から担当するためコメントありません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
１，参考書のうち、特に “○” がついている最初の二冊は頻繁に使うため、購入するかまたは図書館から借りておいてください。
２，新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、対面授業および zoom 形式を併用して授業を行う可能性があります。詳細は、hoppii にて連絡いたします。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞
対照言語学、現代中国語文法、認知言語学
＜研究テーマ＞
形容詞の意味と機能、感情の概念化と言語の多様性、感情表現の構文パターンにおける類型論的研究
＜主要研究業績＞
「中国語の＜主観性 ＞の再考察―使役表出文を例として―」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編. pp.35-50. 2018. 開拓社
「感情の普遍性とその言語化―感情表現の類型論的研究に向けて―」『ことばのパースペク ティヴ』 (中村芳久教授退職記念論文集刊行会編. pp.71-84. 2018. 開拓社
第 8 章「主体化」『認知言語学 基礎から最前線へ』森雄一・高橋英光編 2013. くろしお出版
「感情表現における日中対照研究―感情の語り方と人称制限の普遍性に着目して―」『言語研究の諸相』pp.35-45. 2010. 北海道大学出版

【Outline and objectives】
In this seminar, we will observe and analyze the main similarities and differences between Japanese and Chinese as well as the characteristics of Chinese language from a linguistic point of view.

LIN300BC

ゼミナール２２Ｂ

王　安

授業コード：A2736　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期では日中対照研究に関する重要なトピックを中心に，重要文献・論文を精読し，日中両言語の類似性及び相違点への理解を深める。

【到達目標】
１，言語学的観点から日本語と中国語における主たる相違点を把握する。
２，批判的に論文を読む力を身に付け、言語現象における問題発見力を養う。
３、対照研究の研究方法を理論的かつ体系的に学び、その方法を用いて自分の興味ある言語現象を説明できるように研究力を向上させる。
４，情報・資料を収集、調査する力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に演習形式で行う。初回の授業で読む論文、発表担当を決め、レジュメの作り方や授業のやり方について説明を行う。それ以後一週間または二週間に論文 1 本のペースで講読していく。具体的には、参加者全員が各自論文を読み、分からない用語や概念があれば事前に調べておく。発表担当者は論文の要点を要約しレジュメ (A4 サイズ３～４枚) を用意する。発表担当者以外の学生は授業でコメント・質問ができるように準備をしておく (例えば質問リストを作成するなど)。
また、授業のフィードバックは随時授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業内容、進め方に関して説明を行い、読む論文・発表分担を決める。
第 2 回	論文講読（１）	日、英、中三言語の言語類型について
第 3 回	論文講読（２）	グループ討論
第 4 回	論文講読（３）	日中同形語について
第 5 回	論文講読（４）	グループ討論
第 6 回	論文講読（５）	日中指示詞について
第 7 回	これまでの内容のまとめ	グループ討論
第 8 回	論文講読（６）	日中名詞のところ性について
第 9 回	論文講読（７）	グループ討論
第 10 回	論文講読（８）	日中両言語の場所表現について
第 11 回	論文講読（９）	グループ討論
第 12 回	論文講読（１０）	日中感情表現について
第 13 回	論文講読（１１）	グループ討論
第 14 回	討論とまとめ	総合発表と討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１，テキストに出てくる基本用語・重要概念については事前に参考書を使用して十分に理解し、授業で説明できるようにしておく。
２，各グループでは各自の発表分担を決め、発表レジュメを用意しますが、グループ全員が担当部分全体の内容について把握しておく必要がある。
３，本授業の準備学習・復習時間は、各４時間～６時間を標準とします。
４，発表者以外の学生は毎回必ず質問やコメントができるように授業に参加してください。
５，課題を課す場合があるので、しっかり調べて準備すること。

【テキスト（教科書）】
授業で配布する。

【参考書】
○王占華他（2004）『中国語学概論』駿河台出版社
○相原茂他 (1996)『中国語の文法書』同学社
杉村博文 (1994)『中国語文法教室』大修館書店
井上優 (2002)『対照研究と日本語教育』
『日本語と外国語との対照研究 X』国立国語研究所
石綿敏雄　高田誠（1990)『対照言語学』桜楓社
生越直樹（2002)『シリーズ言語科学４対照言語学』東京大学出版会
大河内康内編（1997）『日本語と中国語の対照研究論文集』くろしお出版
寺村秀夫 (1982)「言語の対照的分析と記述の方法」『講座日本語学 10 外国語との対照』 明治書院
松岡栄志・古川裕　監訳 (2004）『現代中国語総説』三省堂

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション４０％ (レジュメ＋発表) ＋討論２０％＋レポート課題４０％
*発表レジュメは授業前日 (日曜日１７：００) までにメールで全員あてに送ってください。

【学生の意見等からの気づき】
本年度から担当するためコメントありません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
１，参考書のうち、特に “○” がついている最初の二冊はよく使うため、購入するかまたは図書館から借りておいてください。
２，新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、対面授業および zoom 形式を併用して授業を行う可能性があります。詳細は、hoppii にて連絡いたします。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞
対照言語学、現代中国語文法、認知言語学
＜研究テーマ＞
形容詞の意味と機能、感情の概念化と言語の多様性、感情表現の構文パターンにおける類型論的研究
＜主要研究業績＞
「中国語の＜主観性 ＞の再考察―使役表出文を例として―」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編. pp.35-50. 2018. 開拓社
「感情の普遍性とその言語化―感情表現の類型論的研究に向けて―」『ことばのパースペク ティヴ』 (中村芳久教授退職記念論文集刊行会編. pp.71-84. 2018. 開拓社
第 8 章「主体化」『認知言語学 基礎から最前線へ』森雄一・高橋英光編 2013. くろしお出版
「感情表現における日中対照研究―感情の語り方と人称制限の普遍性に着目して―」『言語研究の諸相』pp.35-45. 2010. 北海道大学出版

【Outline and objectives】
In this seminar, we will observe and analyze the main similarities and differences between Japanese and Chinese as well as the characteristics of Chinese language from a linguistic point of view.

LIT200BC

日本文芸研究特講（１）上代Ａ

坂本　勝

授業コード：A2657　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古代日本の神話世界について講義します。現代の私たちが見失った古代人のものの見方、感じ方、考え方を学びます。

【到達目標】
なぜ私たちは神話という思考様式を生み出したのか、その意味を確かめる。古代日本の神話世界を理解するための文献解読法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
古事記、日本書紀、風土記などの古代のテキストを通して、古代日本の神話世界について考えていきます。私たち人間の歴史や文学に対する想像は、かつては神話的な物語として産み出されました。もちろん、そこに流れているのは、私たち人間自身についての深い思いです。私たち人間はどのような存在なのか、なぜこの世に存在し、そこにどんな喜びや悲しみ、驚きや感動があるのか、人生のさまざまな問題が神話を産み出す原動力でした。授業では、そうした古代の人々の思考の跡を、追っていきます。日本の神話にターゲットを据えますが、日本の神話と同じような神話が、世界の各地にも残っています。そうした諸外国の神話なども紹介しながら講義を進めていきます。第１回授業、各回の授業内容などについてＨｏｐｐｉｉ上で確認してください。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要 自然と文化の共生	授業全体の概説 賀茂の〈御生れ（ミアレ）〉神事と山城国風土記の神話
第 2 回	日本の《はじまり》物語	日本の創世記を紹介します
第 3 回	世界の《はじまり》物語	古事記、日本書紀の創世神話を学びます
第 4 回	最初の《喪失》体験	火の誕生と文化の始まりについて考えます
第 5 回	《生》と《死》の神話	神話を産み出す心のメカニズムを考えます
第 6 回	《黄泉の国》はどこにある	生と死の神話について考えます
第 7 回	《根の国》の話	大地と生命の神話について考えます。
第 8 回	ヲロチ退治の物語	英雄神話について考えます
第 9 回	《天》と《地》の神話	古代の宇宙観を学びます
第 10 回	《海》の神話	同前
第 11 回	神々と出会う《場所》	神話と祭りの関係について考えます
第 12 回	神々と出会う《人》	同前
第 13 回	神々と出会う《時》	同前
第 14 回	まとめとレポート提出	あらためて今、神話を学ぶ意味を考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『はじめての日本神話　古事記を読みとく』ちくまプリマー新書、７８０円、坂本勝。
書籍がない場合は電子書籍を購入すること
※電子書籍版の配信先は kindle,kobo,iBook, 紀伊国屋、honto など（Google 版を除く）
スマホ、タブレット、専用端末等、各社の端末やアプリにもすべて対応しているようです。
ほかに、プリント教材を配布。

【参考書】
参考文献『古事記の読み方』岩波新書、坂本勝

【成績評価の方法と基準】
リポート試験（1 回 60 点）に平常点（40 点、出席状況、リアクションペーパーによる授業への参加状況など）を加味して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
自分で考え調べること、小さな世界から大きな世界に自分の思考を広げることの大切さ。

【Outline and objectives】
Learn about the myths of ancient Japan.

LIT200BC

日本文芸研究特講（1）上代Ｂ

坂本　勝

授業コード：A2658　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
万葉集を通して古代日本の人間群像を考えます。

【到達目標】
上代文学の読解研究の基礎的方法を身に着ける。古典の面白さを味わい、ことばの重要性を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
万葉集が産み出された時代は、この列島が東アジアの辺境のクニ（国）から本格的な古代国家、当時の感覚では、急激な《近代》国家へと、大きな変貌を遂げた時代です。その時代の転換期に、人々はなにを感じ、なにを考え、どのような人生を生きたのでしょうか。《村》の暮らしから《都会》の暮らしに、自然の中に生きていた時代から、自然の外側で生きていくようになる時代へ、この時期の人々は、明治以降の近代の人々が経験したことと同じような劇的体験を重ねながら、その心の奇跡を多くの歌に刻みました。この授業では、時代の転換期を生きた万葉の人々のさまざまな人間模様を考えていきます。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義概要
第 2 回	初期万葉の大王たち	雄略天皇と舒明天皇
第 3 回	額田王	恋と言霊の姫王
第 4 回	有間皇子と大津皇子	悲劇の皇子たち
第 5 回	天武天皇と持統女帝	古代と近代の狭間
第 6 回	柿本人麻呂	愛と死の歌人
第 7 回	同前	同前
第 8 回	高市黒人と長意吉麻呂	旅と笑いの歌人
第 9 回	山部赤人と笠金村	自然の発見と王権讃美
第 10 回	大伴旅人と山上憶良	人生を見つめる
第 11 回	後期万葉の女たち	坂上女郎ほか
第 12 回	防人歌と東国民衆の歌謡	東国の歌謡と抒情
第 13 回	大伴家持	倭歌の離陸
第 14 回	まとめとレポート提出	万葉集を学ぶ意義をあらためて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント教材など、Hoppi 上で確認してください。

【参考書】
参考文献については授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】
リポート試験（1 回,60 点）と平常点（40 点、リアクションペーパーなど、授業への参加態度）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】
自分で調べ考えることの大切さ。ひとつのことばに自然と人間の深い交流が刻まれていること、そういうことばの大切さを知ること。

【Outline and objectives】
We would explore humanity in ancient Japan, through the study of Manyoshu.

LIT200BC

日本文芸研究特講（1）上代Ｃ

萩野　了子

夜間時間帯
授業コード：A2659　｜　曜日・時限：**水曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『万葉集』をテーマごとに読み進めていく。各テーマに関連する上代・中古の文献も参照しながら、古代の人々の世界観を学ぶ。
『万葉集』の時代は、まだ平仮名が成立していないため、韻文散文問わず全て漢字で表記される。平安以降の和歌との決定的違いがそこには存在する。当時の時代背景や、文字表記の工夫について学び、『万葉集』の特殊性に対する理解を深める。

【到達目標】
『万葉集』に載る歌の、用語や文法について詳細に学び、当時の人々が和歌の表現にどのような工夫をしているのかを確認することで、歌の作者の心情に迫ることが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行う。
「学習支援システム」に教材（プリント・音声）をアップロードする。各自ダウンロードして学習すること。
授業後「学習支援システム」を通して、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーに寄せられた良いコメントは授業内で紹介し、質問にも次回授業で回答していく。
「学習支援システム」内の提示、お知らせ、メール通知などを、よく確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業方針の説明
第 2 回	古代文学史・『万葉集』概説（1）	散文について
第 3 回	古代文学史・『万葉集』概説（2）	韻文について
第 4 回	古代文学史・『万葉集』概説（3）	第一期について
第 5 回	古代文学史・『万葉集』概説（4）	第二期について
第 6 回	古代文学史・『万葉集』概説（5）	第三期について
第 7 回	古代文学史・『万葉集』概説（6）	第四期について
第 8 回	『万葉集』の文字表記と訓み（1）	難訓万葉歌・万葉仮名について
第 9 回	『万葉集』の文字表記と訓み（2）	略体歌について
第 10 回	『万葉集』の文字表記と訓み（3）	義訓・戯書について
第 11 回	『万葉集』の文字表記と訓み（4）	上代特殊仮名遣いについて
第 12 回	『万葉集』の文字表記と訓み（5）	表記と修辞技法の関連性
第 13 回	『万葉集』の修辞技法	枕詞・序詞について
第 14 回	試験	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後、学んだ内容を自分の中に定着させるべく、授業内容を復習しておく。配布資料内の古典の原文がしっかり解釈出来る状態にあるか確認すること。授業中紹介された「参考文献」を中心に、授業に関わる文献を適宜読みさらに理解を深める。
本授業の準備・復習時間は、各４時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムに資料をアップロードするので、テキストを用意する必要はない。

【参考書】
授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %・期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】
学習支援システムの掲示板、もしくはリアクションペーパーで質問を受け付ける。

【Outline and objectives】
The goals of this class are to
(1) acquire the knowledge about Early Japanese literature,especially Manyoshu.
(2) understand the social situation and the way of notation at that time.

LIT200BC

日本文芸研究特講（1）上代D

萩野　了子

夜間時間帯
授業コード：A2660　｜　曜日・時限：**水曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『万葉集』をテーマごとに読み進めていく。各テーマに関連する上代・中古の文献も参照しながら、古代の人々の世界観を学ぶ。
現存最古の歌集『万葉集』の中には、現代の我々には到底理解しえないような発想、感覚などが多く見られる。その発想、感覚の違いを把握しないまま和歌を読解しても、それは現代の感覚によって理解したものに過ぎず、当時の人々の考えに寄り添ったものとは言えないだろう。当時の人々の感性に向き合い、理解を深めた上で改めて『万葉集』の歌を読解し、その歌が伝えたい内容を正しく読み取る力をつける。

【到達目標】
当時の人々の発想、感覚と、現代の我々のそれとの擦れを意識しながら読解を進めることで、『万葉集』の歌を正しく解釈する力がつくと同時に、固定観念に囚われることなく古典作品に向き合うことが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行う。
「学習支援システム」に教材（プリント・音声）をアップロードする。各自ダウンロードして学習すること。
授業後「学習支援システム」を通して、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーに寄せられた良いコメントは授業内で紹介し、質問にも次回授業で回答していく。
「学習支援システム」内の提示、お知らせ、メール通知などを、よく確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	万葉集の概要
第 2 回	万葉で語られる伝承（1）	伝承の話型
第 3 回	万葉で語られる伝承（2）	恋と夢について
第 4 回	万葉で語られる伝承（3）	タブーについて
第 5 回	万葉で語られる伝承（4）	平安文学との比較
第 6 回	万葉で語られる伝承（5）	女達の描かれ方
第 7 回	『万葉集』巻十六の特殊性（1）	平安物語の萌芽
第 8 回	『万葉集』巻十六の特殊性（2）	相手の短所を笑う歌
第 9 回	『万葉集』巻十六の特殊性（3）	漢字を駆使した技巧
第 10 回	東国の歌（1）	訛りと方言
第 11 回	東国の歌（2）	鄙の世界の恋愛
第 12 回	古代の死生観（1）	記紀における死の表現
第 13 回	古代の死生観（2）	挽歌の表現
第 14 回	試験	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業後、学んだ内容を自分の中に定着させるべく、授業内容を復習しておく。配布資料内の古典の原文がしっかり解釈出来る状態にあるか確認すること。授業中紹介された「参考文献」を中心に、授業に関わる文献を適宜読みさらに理解を深める。
本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムに資料をアップロードするので、テキストを用意する必要はない。

【参考書】
授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】
学習支援システムの掲示板、もしくはリアクションペーパーで質問を受け付ける。

【Outline and objectives】
The goals of this class are to

(1) acquire the knowledge about Early Japanese literature,especially Manyoshu.
(2) understand the social situation and people's way of thinking at that time.

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古A

栗山　元子

授業コード：A2661　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『源氏物語』というと主人公である光源氏の物語というイメージが強いですが、光源氏の死後の次世代のことを描く続篇では、まったく異なるタイプの主人公・薫が登場します。薫は光源氏の子として育てられましたが、実は密通の結果生まれた子であり、そうした出生の秘密を負っているため厭世的で、恋にも後ろ向きという特異な設定となっています。そんな薫が没落皇族の八宮の三人の娘たちと出会い、次々にその恋を失っていくーというのが宇治十帖の顛末になりますが、中でもその最後の相手である浮舟との関係の中で、薫の人物像にも変容が見られ、物語についての理解を一層複雑なものにしています。
この授業では、この薫という人物に照準を当てながら続編の物語を宇治十帖を中心に読み進めていきます。具体的には薫と八宮の姫君たちとが関わる場面を取り上げ、その人物像についての考察を行います。この薫の造型がその後の平安時代の物語の主人公像に強い影響を与えたと指摘されていますが、それは当時の読者には薫が人気だったことを意味しています。現代では薫像への受け止め方は平安期とはかなり異なっているようですが、こうした薫像の享受のあり方についても触れていきます。続編の物語世界を味わい、その表現についての理解を深め、かつこの物語が後世に与えた影響についても考えていきます。＊なお授業の形態については、初回以外は対面講義で行います。

【到達目標】
①『源氏物語』の原文に触れてその内容を精読することで、古典作品についての知識を深め、また古典や古語ならではの表現の魅力や意義を自ら見出す。
②『源氏物語』が後世の物語に与えた影響について考えることで、文学史における『源氏物語』の位地やその達成についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・講義形式です。第一回目はオンラインになりますが、基本的に対面授業になる予定です。ただ今後の状況により変更する場合もあります。変更の場合は授業内掲示板等で通知します。
・理解度をはかるためにリアクションペーパーを毎時間作成し提出してもらいます。フィードバックとしては質問や意見などを次の授業で回答・紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 正編の物語の確認（オンライン）	授業方法や内容などについてのガイダンスを行います。また『源氏物語』正篇の物語の世界を概観し、人物関係やテーマの継承などについても見ていきます。
第 2 回	源氏物語』続篇の世界―主人公・薫についての概観	第一回に続き正篇の物語世界から続篇の物語への継承ということを考えつつ、第三部の主人公・薫の造型の特異性について見ていきます。

第 3 回　薫と大君①	薫と没落皇族である八の宮の娘・大君との出会いについて見ていきます。
第 4 回　薫と大君②	八宮亡き後、その娘である大君への恋愛感情をたかぶらせていく薫の様子を見ていきます。
第 5 回　薫と大君③	薫と大君とのすれ違いについて見ていきます。
第 6 回　薫と大君④	薫の思いと薫を拒否したまま死に向かう大君の複雑な心情を読み解いていきます。
第 7 回　薫と大君⑤	大君の死の場面を中心に読み、薫の悲しみについて考えます。
第 8 回　薫と中君・浮舟①	薫が大君の妹である中君に思いを寄せていく様相を確認していきます。また大君の身代わりとして登場してきた浮舟に対する薫の態度や反応を描いた場面を精読していきます。
第 9 回　薫と浮舟①	薫と浮舟とのずれ、そして匂宮が浮舟と関係を持つことで勃発した三角関係について考えていきます。
第 10 回　薫と浮舟②	苦悩し入水しようとまで追い詰められていく浮舟の心情と、浮舟に対する薫の反応を見ていきます。
第 11 回　薫と浮舟③	浮舟失踪後の薫と匂宮の反応や横川僧都一行に助け出された浮舟のその後を見ていきます。
第 12 回　薫と浮舟④	浮舟の生存を知った薫の反応について見ていきます。
第 13 回　薫像の享受について	後世の作品での薫評や薫型の主人公が登場する作品などについて紹介します。
第 14 回　全体のまとめと確認	授業全体を振り返ってのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習として各授業前に、授業で取り上げる箇所に至る迄の展開などを確認しておいてください。またその際に各巻の概容や年立上の位置、登場人物の人間関係や年齢などの確認をしておき、授業内容の理解につなげていってください。また授業後は授業内容を確認し、物語への理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に講師作成のプリントを配布します。

【参考書】
中野幸一編『新装版　常用　源氏物語要覧』（武蔵野書院　2012）、秋山虔・小町谷照彦編『源氏物語図典』（小学館　1997 初版）、林田孝和他編『源氏物語事典』（大和書房　2002）、秋山虔・三田村雅子『源氏物語を読み解く』（小学館　2003）など。またさまざまな新書版での入門書もあります。原文で読みたい人には、角川ソフィア文庫や岩波文庫などのものが入手しやすいと思います。なお風俗博物館（京都）のサイトは、平安時代の風俗や年中行事を知る上で非常にわかりやすく参考になります。http://www.iz2.or.jp/

【成績評価の方法と基準】
授業時作成するコメントシートによる評価（７０％）と期末レポートにおける評価（３０％）とを合算して成績をつけます。なお評価方法については、前者は授業の到達目標①の達成度を、後者は到達目標の①と②をそれぞれ５０％ずつの配分にしてその達成度を計り評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業時間内に一つのテーマがまとまるように時間配分に留意します。分かりやすくめりはりのついた授業になるよう心がけます。

【Outline and objectives】
In this class,we'll read "The Tale of Genji"focusing Kaoru who is the main character of Uzi Zyuzyo(宇治十帖) − the second half of the story.Kaoru has a secret birth and has a complex personality. Therefore Kaoru was misanthropic and timid in love. Kaoru wants to be a priest and continues to sway with religious spirit and love, resulting in loss of love one after another. Such a hero image is the exact opposite of Hikaru Genji or a typical hero image of the story so far. Why did the story need such a hero image? Also, how was such a hero image accepted in posterity? We need to consider such issues through the analysis of the story or knowing oh the reception of "The Tale of Genji".

LIT200BC

日本文芸研究特講（２）中古Ｂ

加藤　昌嘉

授業コード：A2662　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
◆秋学期「特講（２）中古Ｂ」のテーマは、《密通と性愛の物語史》です。
◆中古（平安時代）～中世（鎌倉時代）の物語や日記を対象とし、《姦通》や《性》にスポットを当て、各作品の作劇法や当時の文化などを、多角的に考察してゆきます。

【到達目標】
◆Ａ，物語の仕掛け・作劇法を、客観的に分析する力を養う。
◆Ｂ，中古（平安時代）～中世（鎌倉時代）の制度や文化を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
◆毎回、プリントを配布して講義を行います。
◆受講者のみなさんが書いた質問・アイディアなどは、授業内で紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	シェイクスピアもフローベールも、	世界文学の中心は《姦通》と《性》
2	『伊勢物語』『源氏物語』	天皇の后が密通して子どもが出来る
3	『源氏物語』	これはベッドシーン？
4	『蜻蛉日記』『源氏物語』	「一夫多妻制」では、ない！
5	『とりかへばや物語』と『とりかえ・ばや』	男装／女装、入れ替わり
6	『有明けの別れ』『新蔵人』	男装する女たち
7	『我が身にたどる姫君』	同性どうしの愛／女帝
8	『紫式部日記』	女目線／男目線
9	『台記』『石清水物語』	同性どうしの愛
10	『風に紅葉』	少年を愛でる
11	課題発表	《最終課題》のテーマ（選択肢５つほど）を発表
12	『とはずがたり』と『後宮』	複数の男との関係
13	『今昔物語集』巻 29 第 3 話	むちで打つ
14	『日本霊異記』下 18、中 13	まら・つび／愛欲

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
◆授業で取り挙げられた作品のうち、面白そうだと思ったものを、ぜひ、入手して読んでみてください。
※本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
◆毎回、プリントを配布します。
◆各作品のテキスト（原文・注釈書・現代語訳）は、授業内で紹介します。

【参考書】
◆授業内容と関わる入門書・解説書を挙げます。面白そうだなと思うものを、書店や図書館で手に取って見てみてください。
◎田中貴子＆田中圭一『セクシィ古文』（メディアファクトリー新書）
◎大塚ひかり『本当はエロかった昔の日本』（新潮文庫）
◎林望『古典文学の秘密―「本当はとてもえっちな古典文学」改題―』（光文社文庫）
◎工藤重矩『源氏物語の結婚―平安朝の婚姻制度と恋愛譚―』（中公新書）
◎神田龍身『物語文学、その解体』（有精堂）
◎伊藤比呂美ほか『作家と楽しむ古典』（河出書房新社）
◎板坂則子『江戸時代恋愛事情―若衆の恋、町娘の恋―』（朝日選書）
◎日本歴史編集委員会編『恋する日本史』（吉川弘文館）
◎ゲイリー・Ｐ・リューブ／藤田真利子訳『男色の日本史』（作品社）
◎中村隆文『男女交際進化論「情交」か「肉交」か』（集英社新書）
◎喜志哲雄『シェイクスピアのたくらみ』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】
◆授業で扱った作品のうち幾つかを読んだ上で、２０００字程度の《最終課題》を書いてもらいます（８６％）。５つほどテーマを挙げます → １つを選択してもらいます。
◆毎回、リアクションペーパー（質問・情報などを自由に書く用紙）を提出してもらいます（１４％）

【学生の意見等からの気づき】
◆受講者のみなさんからもらったリアクションペーパー（質問・情報・体験談など）をもとに、授業内容を膨らませてゆきます。
◆中古・中世の文学を考察する際、比較対照として、現代の小説・映画・漫画などを積極的に取り挙げます。

【Outline and objectives】
This course deals with love affairs and adulterous relationships in the Japanese classics(8c-13c).

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世A

小秋元　段

授業コード：A2665　｜　曜日・時限：**土曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『平家物語』を読む。
『平家物語』は日本文学科に入ったからには、絶対に読んでおきたい偉大な古典である。この授業を通じて『平家物語』に接し、その作品を深く理解してみよう。

【到達目標】
1．『平家物語』を原文で読み、その内容（虚構性や表現の特徴等）を理解し、それを説明する力を身につける。
2．中世の文学と歴史・思想・文化全体への理解を養い、そこから『平家物語』に描かれた諸事象を共時的に理解し、それを説明する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、一つの章段をとりあげ、原文を朗読し、その内容を解説する。そして、歴史・思想・文化的背景を説明しながら、『平家物語』の叙述の特徴を指摘する。なお、講義は「法政大学オンデマンドシステム」を通じて動画配信するかたちで進めるほか、対面もしくは Zoom による授業を 3 回とりいれる（実施日は「学習支援システム」で通知する）。各回の受講後、「学習支援システム」を通じて 100～200 字程度のコメントを提出してもらう（3/29 追記：コメントの提出回数は、履修者数により変更する場合がある。「学習支援システム」を通じて通知する）。そこで出された質問への回答は、個別に行うほか、内容によっては Zoom 授業で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『平家物語』に触れよう	巻一「祇園精舎」の講読し、『平家物語』の世界に触れる。
第 2 回	『平家物語』概説	『平家物語』のあらすじ、成立、作者に関して講義する。
第 3 回	平家の繁栄～巻 1「殿下乗合」～	巻 1「殿下乗合」を講読し、平清盛・重盛父子の人物造形の特徴を中心に講義する。
第 4 回	院近臣の策謀～巻 1「鹿谷」～	巻 1「鹿谷」を講読し、政治的事件を描く作者の方法を中心に講義する。
第 5 回	質疑応答【対面もしくは Zoom】	第 1～4 回の質疑応答。
第 6 回	俊寛の悲劇～巻 3「足摺」～	巻 3「足摺」を講読し、悲劇を描く作者の方法を中心に講義する。
第 7 回	以仁王の変の発端～巻 4「競」～ いくさ語りの諸相～巻 4「橋合戦」～	巻 4「競」「橋合戦」を講読し、「いくさ語り」と『平家物語』の関係を中心に講義する。
第 8 回	清盛の死～巻 6「入道死去」～	巻 6「入道死去」を講読し、清盛の死の物語と浄土思想の関係を中心に講義する。
第 9 回	平家の都落ち～巻 7「忠教都落」～ 木曾義仲の入京～巻 8「猫間」～	巻 7「忠教都落」、巻 8「猫間」を講読し、『平家物語』における人物造形を中心に講義する。
第 10 回	質疑応答【対面もしくは Zoom】	第 6～9 回の質疑応答。
第 11 回	一谷の悲劇～巻 9「敦盛最期」～	巻 9「敦盛最期」を講読し、「父子の恩愛」の造形を中心に講義する。
第 12 回	扇の的～巻 11「那須与一」～	巻 11「那須与一」を講読し、覚一本と延慶本の物語の描き方の違いを中心に講義する。
第 13 回	平家滅亡～巻 11「先帝身投」「能登殿最期」～ 宗盛の最期～巻 11「大臣殿被斬」～	巻 11「先帝身投」「能登殿最期」「大臣殿被斬」を講読し、平宗盛・知盛の役割を中心に講義する。
第 14 回	質疑応答【対面もしくは Zoom】	第 10～13 回の質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業でとりあげる本文は、『平家物語』のうちの一部に過ぎない。授業で触れられない章段について、各自、読み進めておいてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリント使用。

【参考書】
新潮日本古典集成、水原一校注『平家物語』上・中・下（新潮社、1979～81 年）
新日本古典文学大系、梶原正昭・山下裕明校注『平家物語』上・下（岩波書店、1991・93 年）
新編日本古典文学全集、市古貞次校注・訳『平家物語』上・下（小学館、1994 年）
三弥井古典文庫、佐伯真一校注『平家物語』（三弥井書店、1993・2000 年）
大津雄一ほか編『平家物語大事典』（東京書籍、2010 年）
王新禧訳『全訳本平家物語』（上海訳文出版社、2011 年）

【成績評価の方法と基準】
コメントカード 50 %、学期末レポート 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、質問に対しては全て個別に回答してきましたが、コメントについてもできるかぎり返信できるよう努力します。

【Outline and objectives】
In this course, we will read Heike-Monogatari.

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世Ｂ

小秋元　段

授業コード：A2666　｜　曜日・時限：**土曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世の説話と和歌
日本文学の歴史を深く理解するために、この授業では中世の説話と和歌について講義する。そこから中世文学の特徴について実感し、日本文学史を俯瞰する目を養うことを目的とする。

【到達目標】
1．中世文学の歴史を理解し、それを説明する力を身につける。
2．説話と和歌を原文で読み、その内容や特徴を理解し、それを説明する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。毎時間、作品の解題（基本的な事項の説明）と本文の解釈を中心に行う。
第 1～4 回、第 6～9 回、第 11～13 回は「法政大学オンデマンドシステム」を通じて動画を配信する。第 5・10・14 回は対面もしくは Zoom を使用し、授業を行う（実施日は「学習支援システム」通知する）。
各回の受講後、「学習支援システム」を通じて 100～200 字程度のコメントを提出してもらう。そこで出された質問への回答は、個別に行うほか、内容によっては Zoom 授業で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中世とはいかなる時代か	中世、および中世文学の特徴について解説。
第 2 回	『今昔物語集』	『今昔物語集』の解題・講読。
第 3 回	『宇治拾遺物語』	『宇治拾遺物語』の講読。
第 4 回	説話と絵巻	『宇治拾遺物語』講読、『伴大納言絵詞』の鑑賞。
第 5 回	質疑応答【対面もしくは Zoom】	第 1～4 回の質疑応答。
第 6 回	『江談抄』と『十訓抄』	『江談抄』『十訓抄』の解題・講読。
第 7 回	『古今著聞集』	『古今著聞集』の解題・講読。
第 8 回	『宝物集』	『宝物集』の解題・講読。
第 9 回	『発心集』	『発心集』の解題・講読。
第 10 回	質疑応答【対面もしくは Zoom】	第 6～9 回の質疑応答。
第 11 回	和歌の基礎知識	勅撰和歌集についての解説。
第 12 回	『新古今和歌集』	『新古今和歌集』の解題・講読。
第 13 回	中世和歌の世界	『玉葉和歌集』『風雅和歌集』の解題・講読。
第 14 回	質疑応答【対面もしくは Zoom】	第 11～13 回の質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高等学校の国語（古文）の授業で行われた文学史や古典文法の内容を理解していることを前提に講義を進める。その理解に自信のない学生は、個々に自習することを望む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
プリント使用。

【参考書】
『日本古典文学大辞典』全 6 巻（岩波書店、1983～85 年）
『日本古典文学大事典』（明治書院、1998 年）
小山弘志編『日本文学新史〈中世〉』（至文堂、1990 年）

【成績評価の方法と基準】
毎時のコメントカード…… 30 %
期末レポート…… 70 %

【学生の意見等からの気づき】
出された質問については必ず回答していますが、コメントについてもできるだけ返信するように努力します。

【Outline and objectives】
In this course, we will read Setsuwa and Waka.

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世Ｃ

井　真弓

夜間時間帯
授業コード：A2667　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世王朝物語を読む（前編）
鎌倉時代以降の物語文学に大きな影響を与えた『源氏物語』は、その卓越した優秀性から物語作者の自由な発想を阻害し、舞台設定の似通った多くの「中世王朝物語」を生み出した。このような「中世王朝物語」は、単に『源氏物語』の亜流・模倣に終始しているわけではなく、独自の世界観や主題を描出し、趣向を凝らすことによって『源氏物語』からの脱却、進化を図っている作品群である。
本講義では『源氏物語』の存在を念頭におきつつ中世王朝物語を丁寧に読み解き、その文学的価値を確認することを目的とする。

【到達目標】
（1）物語個々の特徴を把握するとともに、その作品の文学史的意義を理解する。
（2）物語相互の影響関係を把握し、物語がどのように変容していくかを理解する。
（3）『源氏物語』以降、どれほど多くの物語が書き継がれていたのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。原文を丁寧に読み解き、その内容を解説する。そしていかに先行作品、特に『源氏物語』の影響を享受し、独自性の創造に至ったかを趣向や表現、歴史的・思想的背景を交えながら指摘する。
授業の初めには前回のリアクションペーパーに寄せられた質問事項の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	物語文学概説（1）	物語とは何か、『源氏物語』までの物語の流れ
第 2 回	物語文学概説（2） 中世王朝物語とは（1）	『源氏物語』の存在とは 呼称、研究史について
第 3 回	中世王朝物語とは（2）	趣向について
第 4 回	『しのびね物語』を読む	「しのびね型」とは
第 5 回	『石清水物語』を読む（1）	作品概説、物語構造、『源氏物語』との比較
第 6 回	『石清水物語』を読む（2）	男色について
第 7 回	『石清水物語』を読む（3）	武士という設定について
第 8 回	『風に紅葉』を読む	男色について、『石清水物語』との比較
第 9 回	『松浦宮物語』を読む（1）	作品概説、物語構造について
第 10 回	『松浦宮物語』を読む（2）	三人の女性の意味について
第 11 回	『松浦宮物語』を読む（3）	主人公帰国後の物語展開について
第 12 回	『我が身にたどる姫君』を読む（1）	作品概説、『松浦宮物語』との比較
第 13 回	『我が身にたどる姫君』を読む（2）	巻五における女帝の人物造型について
第 14 回	『我が身にたどる姫君』を読む（3）	巻六における前斎宮の人物造型について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（授業前）
・全員が次回の講義箇所の概略をつかんでおく。
（授業中）
・講義を聞き、物語の内容を理解する。
・授業中に配布するプリントに講義内容を書き取る。
・物語本文の解釈に不明なところが残らないように一文ずつ理解していく。
（授業後）
・授業で扱った箇所を再読し、読み方・内容を十分に理解するようにする。
・不明箇所は次回に質問して十分に理解するよう心がける。
・授業で取り上げる本文は作品の一部である。授業で触れることできない部分について通読する。
《授業前（予習）と授業後（復習）、それぞれ 120 分は必要》

【テキスト（教科書）】
授業内でプリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。
（1）大槻修、神野藤昭夫編『中世王朝物語を学ぶ人のために』（世界思想社）
（2）神田龍身、西沢正史編 『中世王朝物語・御伽草子事典』（勉誠出版）
（3）ドナルド・キーン『日本文学史　古代・中世篇二・三・五』（中公文庫）
（4）中村真一郎『王朝物語』『王朝文学論 』（新潮文庫）
（5）『日本の歴史５～９』（中公文庫）

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーの提出）30%、（授業で学び、考えたことをリアクションペーパーに報告できるか）
学期末試験 70%（授業で扱った内容に関する問題に答えることができるか）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
古典作品の原文を扱うため、古語辞典や電子辞書を用意するとよい。

【Outline and objectives】
"Chusei Ocho Monogatari" is not just a sub-stream or imitation of "Genji Monocatari", but it breaks away from "Genji Monogatari" by drawing out its own world view and theme and elaborating its taste.
The purpose of this lecture is to carefully read "Chusei Ocho Monogatari" and confirm its literary value, keeping in mind the existence of "Genji Monogatari".

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世Ｄ

井　真弓

夜間時間帯
授業コード：A2668　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
秋学期・2 単位
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世王朝物語を読む（後編）
鎌倉時代以降の物語文学に大きな影響を与えた『源氏物語』は、その卓越した優秀性から物語作者の自由な発想を阻害し、舞台設定の似通った多くの「中世王朝物語」を生み出した。このような「中世王朝物語」は、単に『源氏物語』の亜流・模倣に終始しているわけではなく、独自の世界観や主題を描出し、趣向を凝らすことによって『源氏物語』からの脱却、進化を図っている作品群である。
本講義では『源氏物語』の存在を念頭におきつつ中世王朝物語を丁寧に読み解き、その文学的価値を確認することを目的とする。

【到達目標】
（1）物語個々の特徴を把握するとともに、その作品の文学史的意義を理解する。
（2）物語相互の影響関係を把握し、物語がどのように変容していくかを理解する。
（3）『源氏物語』以降、どれほど多くの物語が書き継がれていたのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。原文を丁寧に読み解き、その内容を解説する。そしていかに先行作品、特に『源氏物語』の影響を享受し、独自性の創造に至ったかを趣向や表現、歴史的・思想的背景を交えながら指摘する。
授業の初めには前回のリアクションペーパーに寄せられた質問事項の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『夢の通ひ路物語』を読む（1）	作品概説、物語の構造について
第 2 回	『夢の通ひ路物語』を読む（2）	『源氏物語』との比較
第 3 回	『夢の通ひ路物語』を読む（3）	登場人物の人物造型について
第 4 回	『松陰中納言物語』を読む（1）	作品概説、物語の構造について、流罪について
第 5 回	『松陰中納言物語』を読む（2）	『夢の通ひ路物語』との比較
第 6 回	『松陰中納言物語』を読む（3）	主人公召還後の物語展開について
第 7 回	『源氏物語』を読む	『雲隠六帖』『山路の露』を読むための内容の振り返り
第 8 回	『雲隠六帖』を読む（1）	作品概説、雲隠巻について
第 9 回	『雲隠六帖』を読む（2）	巣守巻、桜人巻について
第 10 回	『雲隠六帖』を読む（3）	法の師巻について
第 11 回	『山路の露』を読む（1）	作品概説、物語の構造について
第 12 回	『山路の露』を読む（2）	作品内表現について
第 13 回	『山路の露』を読む（3）	浮舟の人物造型について
第 14 回	『別本八重葎』を読む	作品概説、『源氏物語』との比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（授業前）
・全員が次回の講義箇所の概略をつかんでおく。
（授業中）

・講義を聞き、物語の内容を理解する。
・授業中に配布するプリントに講義内容を書き取る。
・物語本文の解釈に不明なところが残らないように一文ずつ理解していく。（授業後）
・授業で扱った箇所を再読し、読み方・内容を十分に理解するようにする。
・不明箇所は次回に質問して十分に理解するよう心がける。
・授業で取り上げる本文は作品の一部である。授業で触れることできない部分について通読する。
《授業前（予習）と授業後（復習）、それぞれ 120 分は必要》

【テキスト（教科書）】
授業内でプリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。
（1）大槻修、神野藤昭夫編『中世王朝物語を学ぶ人のために』（世界思想社）
（2）神田龍身、西沢正史編『中世王朝物語・御伽草子事典』（勉誠出版）
（3）ドナルド・キーン『日本文学史　古代・中世篇二・三・五』（中公文庫）
（4）中村真一郎『王朝物語』『王朝文学論』（新潮文庫）
（5）『日本の歴史５～９』（中公文庫）

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーの提出）30%、（授業で学び、考えたことをリアクションペーパーに報告できるか）
学期末試験 70%　（授業で扱った内容に関する問題に答えることができるか）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
古典作品の原文を扱うため、古語辞典や電子辞書を用意するとよい。

【Outline and objectives】
"Chusei Ocho Monogatari" is not just a sub-stream or imitation of "Genji Monocatari", but it breaks away from "Genji Monogatari" by drawing out its own world view and theme and elaborating its taste.
The purpose of this lecture is to carefully read "Chusei Ocho Monogatari" and confirm its literary value, keeping in mind the existence of "Genji Monogatari".

LIT200BC

日本文芸研究特講（4）近世Ａ

眞島　望

授業コード：A2669　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本近世文学のみならず、本邦の古典を代表する詩人たる芭蕉。その手になる『おくのほそ道』の読解を手がかりに、日本文学の潮流の一つである紀行文学や地誌への理解を深めるとともに、江戸時代の新興文芸である俳諧の特質と、そこに底流する和歌・謡曲をはじめとする日本文化のエッセンス、特に名所や歌枕の概念を学ぶ。また、その主な経路となった東北地方の歴史的な位置づけについて知ることを通して、東国文化の特質や「日本」とはいかなる文化なのかを考える。

【到達目標】
1、紀行文学や地誌の歴史や、他の散文・韻文文芸との関係を理解する。
2、俳諧という文芸の特質や、その代表者の一人である芭蕉の生涯とその芸術について理解する。
3、『おくのほそ道』の文学作品としての特色を説明できるようになる。
4、我々も現在その一部に属している東（あずま）という土地の歴史性に興味をもち、そのことについて自分なりの意見を述べることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
主に質疑応答を含めた講義形式（適宜資料を配付する）で進めるが、必要に応じて討論や作業（授業内課題など）も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと概説	授業の概要の説明 芭蕉の図像としてのイメージに触れる。
第 2 回	俳諧の歴史と展開	俳諧文芸の史的展開と、そこに芭蕉がいかに位置付けられるかを知る。
第 3 回	俳人芭蕉の生涯①	芭蕉の前半生について解説し、その作品（談林時代）を鑑賞する。
第 4 回	俳人芭蕉の生涯②	芭蕉の後半生について解説し、その作品（漢詩文調～蕉風開眼以後）を鑑賞して、俳風の変遷を学ぶ。
第 5 回	『おくのほそ道』の諸本とその形態	『おくのほそ道』の諸本とその関係を確認し、紀行文としての特色を知る。
第 6 回	読解①（発端・出立）	旅の目的となっている歌枕とは何かを知る。
第 7 回	読解②（第一夜）	江戸時代の「日本」認識と「東国」・「奥羽」の歴史とイメージを知る。
第 8 回	読解③（室の八島）	歌枕「室の八島」の変遷とその背景に見える当地の歴史を学ぶ。
第 9 回	読解④（日光１）	能・謡曲からの影響と、「東国」の聖地としての日光の歴史を学ぶ。
第 10 回	読解⑤（日光２）	同行者である曽良の経歴と謎の多い半生について知り、日光との関わりを探る。
第 11 回	読解⑥（白河の関）	歌枕「白河の関」の和歌における本意を学び、本文に見える芭蕉の作意を知る。
第 12 回	読解⑦（壺の碑）	東北各藩の歌枕に対する眼差しと、「壺の碑」の来訪で芭蕉が得た芸術理論について知る。
第 13 回	読解⑨（平泉１）	平泉の古戦場としての歴史を知り、芭蕉の歴史観を考察する。
第 14 回	読解⑩（平泉２）・全体のまとめ	後半部を中心に、不易流行論との関係を主題に読み解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に『おくのほそ道』全文を読み通しておくこと。また、毎授業前に該当箇所の本文・語釈・現代語訳などを確認しておく。授業後には、配布資料や板書事項を中心に復習しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
潁原退蔵・尾形仂訳注『新版おくのほそ道』〈角川ソフィア文庫〉（角川書店、2003 年３月）￥760
※同出版社・同レーベルの「ビギナーズ・クラッシクス」版は避けて下さい（内容に差異があります）。

【参考書】
阿部喜三男・久富哲雄著『増訂版　詳考奥の細道』（日栄社、1979 年 11 月）
堀切実編『『おくのほそ道』解釈事典』（東京堂出版、2003 年 7 月）
上野洋三・櫻井武次郎校注『芭蕉自筆　奥の細道』〈岩波文庫〉（2017 年 7 月）
※そのほか多数。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60 %・小テスト 30 %・平常点 10 %

【学生の意見等からの気づき】
学生のコメントに対するフィードバックが充分に行えなかった反省を踏まえ、できる限りきめ細かい対応を目指したいと思います。

【Outline and objectives】
In this course, students will understand the art of “Haikai” that was new style poetry in the Edo period, and the essence of Japanese traditional culture by reading famous travel literature “Oku no Hosomichi” written by Matsuo Basho. And, students will learn the historical background of the Tohoku Region in japan.
For that purpose, it is necessary to come into contact with the classical texts of japan and china, for example, 31-syllable Japanese poems, Noh songs, or Chinese poetry, because “Oku no Hosomichi” is based on a lot of the different classics.

LIT200BC

日本文芸研究特講（4）近世 B

小林　ふみ子

授業コード：A2670　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
江戸っ子の笑いと機知を読み解く。
18 世紀後半に成熟期を迎えた江戸で「江戸っ子」という言葉が生まれ、その独自の気風・美学からさまざまな文学が生み出される。その笑いと機知を読み解きながら、語彙や文体における近世文芸の表現の多様性を考える。

【到達目標】
1. 江戸戯作の各ジャンルの特質・表現について理解する。
2. うがち、ちゃかし、地口などの江戸文芸の笑いの技法に親しむ。
3. 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。
4. デジタル公開されている江戸の文芸や浮世絵の資料の調査方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
1～3 回で 1 ジャンルを学ぶ。
提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解いてもらい、各ジャンルの特徴を知る。
100 分を個人での課題への取り組み、グループでの共有、講義などを織りまぜて構成する。発表に対しては授業内でフィードバックし、最終レポートはコメントを付けて返却する。
戯作の発想方法を理解するために、創作にもチャレンジする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	クラスの人を知る。
	時代背景	江戸っ子の時代概説
	短詩系文学①	川柳のうがちに触れる。
第 2 回	黄表紙の奇想①	デジタル資料から黄表紙の特徴を探る。 子ども絵本の荒唐無稽さを逆手にとって戯れた黄表紙を理解する。
第 3 回	黄表紙の奇想②	「かちかち山」の後日談『親敵討腹鼓』を読み解く。－上
第 4 回	黄表紙の奇想③	「かちかち山」の後日談『親敵討腹鼓』を読み解く。－下 浮世絵の利用法を知る。
第 5 回	見立絵本のしかけ①	見立ての概念と見立て絵本を知る。
第 6 回	見立絵本のしかけ②	江戸時代の妖怪文化を知る。 見立絵本『画本纂怪興』を読み解く。
第 7 回	短詩系文学②	辞書や辞典を駆使しながら、狂歌を読解する
第 8 回	滑稽本の表現力①	物真似のような口語体を駆使して笑いを追求した滑稽本の概説
第 9 回	滑稽本の表現力②	「敦盛最期」を当世化して遊ぶ式亭三馬『大千世界楽屋探』の読解
第 10 回	滑稽本の表現力③	三馬『大千世界楽屋探』の読解とまとめ
第 11 回	合巻の情緒①	デジタル展示（メトロポリタン美術館の源氏物語展）より、江戸時代の源氏物語享受のさまを探る
第 12 回	合巻の情緒②	『源氏物語』の江戸時代版『偐紫田舎源氏』を読み解く－上
第 13 回	合巻の情緒③	『源氏物語』の江戸時代版『偐紫田舎源氏』を読み解く－下
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末の試験やレポートを課す代わりに、単元ごとの小課題を出します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準に考えます。

【テキスト（教科書）】
各回、資料提供し、参照すべき URL を提示します。

【参考書】
小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』（集英社インターナショナル［インターナショナル新書］、2019）
黄表紙について、見立絵本についてのまとまった解説があります（とくに見立絵本はこの授業で扱う作品を解説しています）ので、参照すると課題にとりくむにあたって役立つでしょう。

【成績評価の方法と基準】
毎回のふり返り（Hoppii40 %）、計 4 回の課題の得点（60 %）を合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】
口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と（予習も含めた）個人での読解作業とグループでの解読と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。
グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
対面とオンライン（双方向）併用を想定しての実施です。
デジタル資料の参照を推奨しますので、教室で参加する場合も（スマホでもいいのですが）、ノートパソコンまたはスマホより画面の大きなタブレットを用意しましょう。
図書館のデータベースのうちジャパンナレッジは随時使えるようにしておきましょう。（授業内で接続方法は案内します）

【その他の重要事項】
質問は Hoppii に提出してもらう各回の感想、および Hoppii の掲示板で受け付けます。

【Outline and objectives】
Reading and analizing the comic works from the late 18th centry Edo(now Tokyo) to know diversity of literary style, vocabulary and expressions in those works.

LIT200BC

日本文芸研究特講（4）近世C

宮本　祐規子

夜間時間帯
授業コード：A2671　｜　曜日・時限：**水曜 4 限**
春学期・2 単位
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世の前期小説である浮世草子を中心に、近世文学の多様さと面白さを知る。古典の知識、地方の特色、当代性の摂取、後世への影響など、色々な視点で浮世草子を読む。

【到達目標】
①近世らしさが花開き始めた時期の、上方の文学・文化について知る。
②井原西鶴を中心に、江島其磧、太宰治といった後続作者の小説も紹介し、近世文学の面白さと多様さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
対面講義の場合は、毎授業時に資料を配布し、授業内に、小課題・リアクションペーパー・創作などの提出を課す。提出された課題類は、次週に授業内で紹介、コメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	近世前期という時代	江戸と上方
第 2 回	近世小説の特徴及び浮世草子の特徴	実用書から小説まで
第 3 回	浮世草子と古典	西鶴の好色ものと『伊勢物語』『源氏物語』
第 4 回	浮世草子と挿絵	西鶴『新可笑記』の新しい読み
第 5 回	浮世草子の王道	西鶴の町人もの『世間胸算用』『日本永代蔵』
第 6 回	浮世草子の女性たち	『好色五人女』のヒロイン
第 7 回	浮世草子の毒	西鶴の武家もの『武家義理物語』『武道伝来記』
第 8 回	浮世草子の怪異	『西鶴諸国はなし』の闇
第 9 回	浮世草子と裁判	『本朝桜蔭比事』と現実社会
第 10 回	浮世草子と手紙	書簡体小説『万の文反古』
第 11 回	浮世草子と中国文学	『二十四孝』と『本朝二十不孝』
第 12 回	浮世草子と西鶴以後①	西鶴から太宰治『新釈諸国噺』
第 13 回	浮世草子と西鶴以後②	八文字屋本と江島其磧
第 14 回	まとめ	まとめ
	期末試験	期末試験
	解説	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時には、配布する資料に事前に目を通すことを求める。
授業内だけでなく次週のレポート提出や、創作課題を課すことがある。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
『新編日本古典文学全集　西鶴集』（小学館）、『八文字屋本全集』（汲古書院）など。

【成績評価の方法と基準】
平常点　６０％（小課題、リアクションペーパーなどを含める）
試験　４０％

【学生の意見等からの気づき】
授業で取り上げた作品をより深く学べるように、授業後に各自で読むことのできるような論文・資料などを紹介していく。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書の持ち込みを推奨する。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けないが、質問等は授業後に受け付ける。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire a literature of the Edo period.Ukiyo Zoshi is one of the major literary forms in the early Kinsei Bungaku.

LIT200BC

日本文芸研究特講（4）近世D

宮本　祐規子

夜間時間帯
授業コード：A2672　｜　曜日・時限：**水曜 4 限**
秋学期・2 単位
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、「怪異」を取り上げる。
近世の前期小説である浮世草子を中心に、仮名草子・読本・演劇といったジャンルにおける怪異を扱う作品を読む。一読してすぐに怖い話というよりは、不思議な話に見えるが、よく考えると「恐怖」を感じるような作品を考察したい。また、現代のホラーとは何が共通し、何が違うのかを考えてみてほしい。
また、仮名草子・浮世草子は比較的読みやすい板本なので、受講者はくずし字で原文を読むことを目指したい。

【到達目標】
①近世期の原本に触れ、くずし字を読むことが出来る。
②近世文学に描かれた文化的背景について知る。
③井原西鶴を中心に、仮名草子・上田秋成・近世演劇の怪異を描く作品を紹介し、近世文学の面白さと多様さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
対面講義の場合は、毎授業時に資料を配布し、授業内に、小課題・リアクションペーパー・創作・簡単なくずし字小試験などの提出を課す。提出された課題類は、次週に授業内で紹介、コメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	近世前期という時代 くずし字の基本	近世の文化的・経済的背景 くずし字の基本的知識
第 2 回	仮名草子の短編怪談集	初期の素朴な怪談集
第 3 回	浮世草子『西鶴諸国はなし』①	西鶴の描きたい「不思議」とは何か
第 4 回	『西鶴諸国はなし』② 水筋のぬけ道	女性の怨みの晴らし方
第 5 回	『西鶴諸国はなし』③ 夢路の風車	桃源郷の理想と現実
第 6 回	『西鶴諸国はなし』④ 楽しみの男地蔵	愛の境界線を探る
第 7 回	『西鶴諸国はなし』⑤ 行末の宝船	人間の欲望と末路
第 8 回	『西鶴諸国はなし』⑥ 身を捨てる油壺	伝説と現実
第 9 回	浮世草子の怪談と笑話	恐怖を突き詰めれば (笑) となるか
第 10 回	読本『雨月物語』①吉備津の釜	男が描く、女の一念
第 11 回	『雨月物語』②浅茅が宿	中国と日本における恐怖
第 12 回	演劇の怪談①	四谷怪談　お岩と『仮名手本忠臣蔵』
第 13 回	演劇の怪談②	累物
第 14 回	まとめ 期末試験	まとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する資料に事前に目を通すことは必須。

授業内の提出課題だけでなく、次週までにレポート・創作課題などの提出を課すことがある。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
『増補改訂 仮名変体集』（伊地知鉄男編、新典社）、『近世怪異小説研究』（太刀川清著、笠間書院）、『新編日本古典文学全集　西鶴集』（小学館）、『新潮日本古典集成　上田秋成集』（新潮社）など。

【成績評価の方法と基準】
平常点　６０％（小課題、リアクションペーパーなどを含める）
試験　４０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書の持ち込みを推奨する。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは特に設けないが、質問等は授業後に受け付ける。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire a literature of the Edo period.Ukiyo Zoshi is one of the major literary forms in the early Kinsei Bungaku.

LIT200BC

日本文芸研究特講（５）近代Ａ

佐藤　未央子

授業コード：A2673　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
春学期・2 単位
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、日本近代文学と同時期に発展した映画が、作家によってどう捉えられたか考えるため、映画との関わりが深い谷崎潤一郎の作品を取り上げる。谷崎は早くから映画のメディア的・芸術的可能性を見抜き、１９２０年には映画会社に招聘されて映画脚本を数本発表した。またその経験をもとにした映画論や映画小説も数多く残している。それらのテクストが持つ同時代的意義やアクチュアリティを学び、他のメディアとの関わりの中で成立する文学の在り方について考察する。

【到達目標】
・作家の言説を相対化し、客観的に分析することができる。
・同時代資料を読み解き、歴史的に意味づけることができる。
・映画やメディアの知識を援用して、作品を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明
第 2 回	「秘密」	盛り場・浅草に登場した映画館を、谷崎がいかなる場として描いたか読み解く。
第 3 回	「魔術師」	谷崎は映画を、身体性を持つ魔術的なメディアとして捉えていたことを確認する。
第 4 回	「人面疽」①	作中で描かれた映画女優と身体表象の問題について、映画の果たした役割を踏まえて考察する。
第 5 回	「人面疽」②	ヴァルター・ベンヤミンの理論を援用しながら、映画がもたらす複製の恐怖について考察する。
第 6 回	大正活映と谷崎潤一郎	谷崎が所属した大正活映の活動を中心に、日本映画の改良運動とその意義について確認する。
第 7 回	「アマチユア倶楽部」	谷崎が実作した映画について、シナリオをもとに表現の新規性を分析する。
第 8 回	「葛飾砂子」	泉鏡花の小説を映画の原作に選んだ根拠と、演出の特徴について考察する。
第 9 回	「月の囁き」	谷崎の未映画化シナリオを取り上げ、女性の狂気とまなざしのドラマツルギーについて論じる。
第 10 回	「アヅ・マリア」①	作中で語り手に引用されるセシル・B・デミル監督の映画や女優について資料と照合し、事実と語りの差異を分析する。
第 11 回	「アヅ・マリア」②	語り手が映画を過去性を持つメディアとして捉えるさまを、アンリ・ベルクソンの哲学を援用して考察する。

第 12 回 「青塚氏の話」①	観客の能動的な映画受容に着目し、同時代的な映画ファンの様相と欲望の問題性を明らかにする。
第 13 回 「青塚氏の話」②	映画が拡散する情報と物語の展開を連関させて読み解き、作品の現代的な批評性を析出する。
第 14 回 総括	授業内容の復習と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
対象作品を読んでいることを前提に講義を進めるので、毎回必ず予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・谷崎潤一郎著、千葉俊二編『潤一郎ラビリンス（11）銀幕の彼方』（1999、中央公論社）
ほか、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

【参考書】
・千葉伸夫『映画と谷崎』（1989、青蛙房）
・五味渕典嗣 『言葉を食べる　谷崎潤一郎、1920-1931』（2009、世織書房）
・田中純一郎『日本映画発達史』１、２巻（1975～1976、中央公論社）
ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】
・リアクションペーパーを含む授業への参加度： 50 %
・学期末テスト（講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題）： 50 %
以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度より授業を担当するため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】
This course deals with Tanizaki Jun'ichiro's film theory and "film novels". It also explains actuality significance of works, and the form of literature established in the relation with other media.

LIT200BC

日本文芸研究特講（５）近代Ｂ

佐藤　未央子

授業コード：A2674　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
谷崎潤一郎の小説は、１９３０年代以降の文芸映画ブームの中で次々と映画化されていった。本講義では、谷崎の小説が映画化されるに際して生じた問題とその背景を考察する。具体的には、映画に際して働いたバイアスや表現規制と、女性（女優）の演出に焦点を当てる。映画化された文学が持つ新たな相貌とその波及効果、さらに女優が社会状況を反映して表象されていく様相について考えていく。

【到達目標】
・作家の言説を相対化し、客観的に分析することができる。
・同時代資料を読み解き、歴史的に意味づけることができる。
・映画やメディアの知識を援用して、作品を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明
第 2 回	アダプテーションとは何か	文学作品から多様な形に変換されていく「アダプテーション」（翻案）行為の意義について考える。
第 3 回	「蛇性の婬」	大正活映時代の谷崎が『雨月物語』をいかに翻案したのか、シナリオを分析する。
第 4 回	「春琴抄」①	1930 年代の文芸映画ブーム以降、繰り返し映画化されてきた理由と演出の傾向を分析する。
第 5 回	「春琴抄」②	映像を具体的に確認し、原作と比較する。
第 6 回	「春琴抄」③	「春琴抄」の主題である「盲目」を映画化することの意味と問題性について考察する。
第 7 回	「盲目物語」①	戦時下に映画化されるにあたり、原作のいかなる点が前掲化されたのか分析する。
第 8 回	「盲目物語」②	谷崎がイメージした映画化の案と、実際の映画のギャップについて考察する。
第 9 回	「痴人の愛」①	戦前に小説「痴人の愛」と登場人物の「ナオミ」がもったインパクトを明らかにする。
第 10 回	「痴人の愛」②	戦後の映画化で、ストーリーの根幹が大きく変更された背景と要因を考える。
第 11 回	「鍵」①	特殊な文体と構成をもつ長編が、映画化にあたりいかに再編されたか考える。
第 12 回	「鍵」②	同時代のセクシュアリティのあり方を背景に、「鍵」が切り結んだ問題を明らかにする。
第 13 回	「瘋癲老人日記」	「鍵」の考察を踏まえて、女性身体がいかに表象されたか検討する。

第 14 回　総括　　授業内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
対象作品を読んでいることを前提に講義を進めるので、毎回必ず予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

【参考書】
・谷崎潤一郎著、千葉俊二編『潤一郎ラビリンス（11）銀幕の彼方』（1999、中央公論社）
・千葉伸夫『映画と谷崎』（1989、青蛙房）
・北村匡平『スター女優の文化社会学　戦後日本が欲望した聖女と魔女』（2017、作品社）
・田中純一郎『日本映画発達史』３～５巻（1976、中央公論社）
ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】
・リアクションペーパーを含む授業への参加度： 50 %
・学期末テスト（講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題）： 50 %
以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】
今年度より授業を担当するため、フィードバックできません。

【Outline and objectives】
This course deals with the problems that occurred when Tanizaki Jun'ichiro's novels that has been made into a movie. It also explains censorship and bias of expression with film-making, and actress's performance.

LIT200BC

日本文芸研究特講（6）現代A

藤木　直実

授業コード：A2677　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
森鷗外の作品とそのアダプテーション (鷗外作品を素材とする演劇や映画) を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して 読む。20 世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文 学との相関の様 相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テクストを批評的 に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】
近現代文学作品および演劇や映画を、ジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第 2 回	「舞姫」(1)	「近代的自我とその挫折の物語」としての受容の系譜
第 3 回	「舞姫」(2)	定番教材としての受容の系譜
第 4 回	「舞姫」(3)	「妊娠小説」へのパラダイムシフトと日本のフェミニズム文学批評について
第 5 回	「舞姫」(4)	ジェンダーの観点から「舞姫」を再読する
第 6 回	映画「舞姫」(1)	篠田正浩監督「舞姫」を鑑賞する
第 7 回	映画「舞姫」(2)	鑑賞の続きとグループワークによる批評
第 8 回	映画「舞姫」(3)	各グループでの討議内容の発表
第 9 回	男たちの「妊娠小説」	夏目漱石、長塚節などの作品を読む
第 10 回	女たちの「妊娠小説」(1)	水野仙子、森しげ、与謝野晶子などの作品を読む
第 11 回	女たちの「妊娠小説」(2)	村田沙耶香、田中兆子、川上未映子などの作品を読む
第 12 回	鷗外と性欲の問題系	「ヰタ・セクスアリス」などの鷗外作品を読む
第 13 回	鷗外と性暴力の問題系	「魔睡」「鼠坂」などの鷗外作品を読む
第 14 回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。
【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。
【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリント配布する。鷗外作品の多くについては青空文庫でのダウンロードを用いる
。映像作品の視聴方法については授業時に指示する。

【参考書】
『鷗外近代小説集』(岩波書店)、金子幸代編『鷗外女性論集』(不二出版)、山崎明子・藤木直実編『〈妊婦〉アート論』（青弓社）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーおよび小レポートの内容 30 %、期末レポート (または試験)70 %。3 分の 2 以上の出席を必須とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日的トピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパー用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンが使用できることが望ましい。プリンターがあれば学習効率がより高くなると思われる。

【その他の重要事項】
明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム／ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については授業時に受け付けるほかメールでも対応する。メールでの質問の場合は、件名を「日本文芸研究特講　学籍番号　氏名」とすること。メール宛先： fujiki@olive.ocn.ne.jp

【Outline and objectives】
We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

LIT200BC

日本文芸研究特講（6）現代B

藤木　直実

授業コード：A2678　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
森鷗外の作品とそのアダプテーション (鷗外作品を素材とする演劇や映画) を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して 読む。20 世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テクストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】
近現代文学をジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の内容、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第 2 回	森鷗外「半日」の波紋	「半日」成立までの鷗外と作品の概要
第 3 回	「作家の妻」とテクスチュアルハラスメント	テクスチュアルハラスメント概念についての紹介
第 4 回	森しげ「波瀾」の宛先	森しげ（鷗外夫人）の代表作「波瀾」の概要
第 5 回	森しげ「あだ花」の戦略	森しげの代表作「あだ花」の概要
第 6 回	鷗外・しげの間テキスト性	鷗外夫妻の作品の相互性について
第 7 回	森しげ「お鯉さん」の逸脱と挫折	森しげの最後の作品「お鯉さん」の概要
第 8 回	雑誌『三越』と鷗外・しげ	三越百貨店機関誌および百貨店文化と鷗外夫妻との関わりについて
第 9 回	鷗外と与謝野晶子	鷗外と与謝野晶子との影響関係
第 10 回	与謝野晶子と『台湾愛国婦人』	愛国婦人会台湾支部機関誌『台湾愛国婦人』と与謝野晶子
第 11 回	永井愛「鷗外の怪談」(1)	演劇作品「鷗外の怪談」(2014) の鑑賞
第 12 回	永井愛「鷗外の怪談」(2)	「鷗外の怪談」鑑賞の続きと解説
第 13 回	鷗外と大逆事件	大逆事件の影響下に発表された鷗外作品の概略
第 14 回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。
【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。
【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリント配布する。

【参考書】
『鷗外近代小説集』(岩波書店)、『明治文学全集』(筑摩書房)、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパーの内容 30 %、期末レポート (または試験)70 %。3 分の 2 以上の出席を必須とする。

【学生の意見等からの気づき】
学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日的トピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパーを用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【その他の重要事項】
明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム／ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については各回の授業時に対応するほかメール fujiki@olive.ocn.ne.jp でも受け付ける。メールでの質問の場合は件名を「学籍番号　氏名」とすること。

【Outline and objectives】
We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

LIT200BC

日本文芸研究特講（6）現代C

高口　智史

夜間時間帯
授業コード：A2679　｜　曜日・時限：**木曜 6 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
戦後文学を読む――現在を相対化するために
　文学は芸術であり、娯楽であるが、批評でもある。文学作品を、一部の研究者や一部の熱心なファンのものから社会的に開かれたものにするためには、文学を批評として読む視点が必要である。この授業では批評としての文学について考えてみようと思う。そしてその対象として「戦後文学」を読み返したい。
　ここで言う「戦後文学」とは大雑把に第二次大戦後に発表された文学作品や、旧来の文学史で「戦後派」にカテゴライズされた文学を指すのではない。作品の中に戦争体験や戦争の記憶が影を落としているような作品のことである。
　いまなぜ「戦後文学」を読むのか。戦争- 敗戦とは日本人全体が共有した歴史的挫折体験だった。そして現在の日本が新型コロナの影響もあって、大きな歴史的転換期にあることは誰しもが感じるところだろう。戦争は暴力が人間社会を破壊するのに対して、新型コロナは活動停止という静かな恐怖が人間社会を破壊していく。コロナ終息後にどのような光景が広がるのか、今はまだわからない。しかし大切なことはこれを単なる天災とせず、この危機の中で露呈している人間の問題をしっかり見据えその反省を終息後の社会の再構築に活かす必要がある。そのためには〈いま〉を相対化するために（言い換えれば〈いま〉に振り回されないために）歴史に学ぶ必要がある。その一つの方法として戦後文学を読もうと思う。文学こそが同時代に対する戦争 - 敗戦を生きた人間の証言であり批評であるからだ。
　この授業で考えてもらいたいことは、今年で敗戦から 76 年を迎えるが、日本人は変わったのだろうか、ということである。「変わった」とは「反省した」ということだ。変わったのならば、戦後文学は古びた歴史な文献資料に過ぎなくなる。逆に変わらないとすれば、私たちはいまだ歴史を反省せずに過ごしてしまったということだ。実際、授業で一人ひとりが作品を読みながら考えてほしい。

【到達目標】
・戦後文学の歴史的意味を再評価する。
・日本の戦後文学の批評性が現在にどのような意味を持つのか理解する。
・小説の基本的な構造分析と読みの方法について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。各作品に入る時、簡単な感想を提出してもらい、次の時間に発表する。また毎回終了時にリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業で紹介し、質問に対しても答える。また質問については学習支援システムも活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・授業の方向性や進め方について ・現在「戦後文学」を再読する意味について
第 2 回	Ⅰ〈廃墟〉としての戦後① 志賀直哉「灰色の月」を読む	・敗戦のもたらした〈廃墟〉とは何か ・志賀直哉は敗戦をどうとらえたか（志賀直哉のナショナリズム）
第 3 回	Ⅰ〈廃墟〉としての戦後② 原民喜「夏の花」を読む　第一回	・原民喜と「リアリズム」について―「夏の花」の表現について考える
第 4 回	Ⅰ〈廃墟〉としての戦後③ 原民喜「夏の花」を読む　第二回	・戦中と戦後の〈断絶〉を考える ・人類の敗北としての〈戦後〉
第 5 回	Ⅱ延命した〈戦前〉① 坂口安吾「白痴」を読む　第一回	・「白痴」の表現について考える
第 6 回	Ⅱ延命した〈戦前〉② 坂口安吾「白痴」を読む　第二回	・坂口安吾に於ける戦中と戦後の〈連続〉と〈断絶〉 ・「堕落」しない日本人
第 7 回	Ⅱ延命した〈戦前〉③ 中野重治「五勺の酒」を読む　第一回	・「五勺の酒」の表現について考える―前衛小説としての「五勺の酒」

第 8 回	Ⅱ延命した〈戦前〉④ 中野重治「五勺の酒」を読む　第二回	・「政治小説」としての「五勺の酒」―天皇制と民主主義について
第 9 回	Ⅲ忘却された〈戦後〉① 野坂昭如「火垂るの墓」を読む①	・「火垂るの墓」の表現について考える―特に冒頭表現の特徴について
第 10 回	Ⅲ忘却された〈戦後〉② 野坂昭如「火垂るの墓」を読む①	・忘却された〈戦災孤児〉から日本の〈戦後〉について考える
第 11 回	Ⅲ忘却された〈戦後〉③ 目取真俊「水滴」を読む①	・「水滴」の表現について考える―幽霊の意味を中心に
第 12 回	Ⅲ忘却された〈戦後〉④ 目取真俊「水滴」を読む②	・二重に隠蔽された沖縄戦の記憶と忘却―「戦争の悲惨さ」について考える
第 13 回	まとめ	・戦後文学が批評した日本の〈戦後〉と日本人について ・戦後文学がコロナ後の日本に投げかけるもの
第 14 回	試験	春学期の総括―「戦後文学」の批評性について理解できたか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に必ず作品を読んで授業に臨んでほしい。さらに今回取り上げる戦時中から戦後の時代についても歴史を予習し、時代についてのおおまかなイメージをつかんでおいてほしい。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業で使用するテキストは学習支援システムで配信する。

【参考書】
・内田樹『映画の構造分析』（文春文庫）なぜテクスト論なのか、映画を対象にテクスト分析の実際をわかりやすく論じている。
・土方洋一『物語のレッスン』（青簡舎）手に入りにくいが、読み方をめぐる最良の入門書。探してでも読んでほしい。
・廣野由美子『批評理論入門―『フランケンシュタイン』解剖講義』（中公新書）カタログ的な本だが、テクスト分析用語、様々な批評理論についての知識を身につけるためにはよい。
・『日本の歴史』

【成績評価の方法と基準】
・各作品をめぐる感想（600 字程度）（３０％）
・平常点（２０％）
・学期末試験（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
・講義形式で一方通行になりがちなので、学習支援システムを有効に活用し出来る限りリアクションペーパーや感想を通して受講生の声を取り上げていきたい。

【Outline and objectives】
Read the Works of “Postwar Literature”
In this class, we consider the possibility of literature as criticism. For this purpose, we are going to read the works of “postwar literature.”
“Postwar literature” includes the works which described the experiences and memories of World War Ⅱ. Why do we read the works of “postwar literature” now? World War Ⅱ and defeating in the war were the frustration all Japanese people had at that time. At present, everybody knows Japan (and the rest of the world) face historical turning points by the influence of the coronavirus. However, nobody knows how our world will change in the future when things turn to normal. Importantly, we shouldn’t think that this is a kind of natural disaster, but we should think that we focus on the problems occurring among human beings in this crisis and that we make use of rebuilding the normal society after going away the coronavirus. We need to study history and literature in order to learn from the past and consider the present relatively.
It has been 76 years since Japan defeated in World War Ⅱ. Japanese people probably spend that period without thinking about the war and defeating in the war so much. Criticism unfolded in “postwar literature” has been existed until now. Reading various literary works, each of us wants to inspect this.

LIT200BC

日本文芸研究特講（６）現代Ｄ

梅澤　亜由美

夜間時間帯
授業コード：A2680　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＊近現代小説の語りの構造、および視点と小説の関係について考える。
→ この授業では、1930 年代以降の一人称で書かれた小説を読みます。小説の背景を学ぶと同時に、一人称の小説の語りの構造、および視点に注目し、その効果を考えていきます。また、実際に自分で一人称小説を探し、分析をしてもらいます。最終的には、小説における語り・視点の分析が自分でできること、またその役割について理解することを目標とします。

【到達目標】
１、小説における語り・視点の役割について、理解することができる。
２、語りの構造や視点と小説の関係を分析することができる。
３、学んだことを応用し、自分で小説の分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、以下の３つによって講義を進めます。
１、指定された資料を用いての事前学習
２、教員による講義、および学生同士の意見交換
３、その日のワーク
ワーク①：小説の内容確認や語り・視点についての分析をしてもらいます。
ワーク②：語り・視点を変えた場合の小説の可能性について考察してもらいます。
→ ワークについては、前回の授業で提出されたものの中からいくつかをとりあげ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のテーマ、目標、やり方について説明する。
第 2 回	太宰治『駈込み訴え』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 3 回	太宰治『恥』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 4 回	太宰治『葉桜と魔笛』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 5 回	太宰治『ヴィヨンの妻』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 6 回	武田泰淳『審判』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 7 回	安部公房『死んだ娘が歌った……』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 8 回	三島由紀夫『雛の宿』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 9 回	山田詠美『蜘蛛の指環』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 10 回	村上春樹『レキシントンの幽霊』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。

第 11 回	川上弘美『蛇を踏む』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第 12 回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第 13 回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第 14 回	まとめ①	一人称小説の語り、視点の特徴とは何か。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・指定されたテキストを必ず読み、以下を行う。
→ 登場人物を抜き出す（テキストに印をつける）。
→ 語り手の特徴を抜き出す（テキストに印をつける）。
・講義をもとに、提示された課題を行う。
→ 語り・視点を変えた場合の小説への影響を考える（他の人物が語り手になったらどう変わるか）。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小説テキストについては、前半の太宰治については青空文庫などを用います。後半については、指定された文庫の購入を勧めます。
武田泰淳『審判』、『上海の蛍・審判』P+D BOOKS 所収
安部公房『死んだ娘が歌った……』、『R 62 号の発明・鉛の卵』新潮文庫所収
三島由紀夫『雛の宿』、『女神』新潮文庫所収
山田詠美『蜘蛛の指環』、『色彩の息子』新潮文庫所収
村上春樹『レキシントンの幽霊』文春文庫
川上弘美『蛇を踏む』文春文庫

【参考書】
安藤宏『「私」をつくる―近代小説の試み』岩波新書
廣野由美子『一人称小説とは何か―異界の「私」の物語』ミネルヴァ書房
石原千秋他・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋世織『読むための理論』世織書房

【成績評価の方法と基準】
①各回ワーク（60 パーセント）
②学期末課題（40 パーセント）
※学期末課題は、以下の 2 つから 1 つを選んでもらう予定です。
①自分で一人称小説を探し、学んだことをもとに分析してもらいます。自分で一人称の在り方が面白いと思う小説をとりあげてほしいです。
②語り手を変えて、小説の一部を書き換えてもらいます。
なお、学期末課題の提出は 12 回授業終了より前、12 月初旬となります。授業のまとめとして、提出されたレポートを紹介していく予定です。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は、オンデマンドと Zoom の併用を行いました。学生同士の意見交換について要望が出ていますので、この点を工夫したいと考えています。

【その他の重要事項】
※秋学期の授業となります。2021 年 9 月の状況によっては、授業内容の変更もあり得ます。必ず秋学期最初に、再度、シラバスを確認するようにしてください。
※毎週、指定された小説テキストを必ず読んでおくことが、受講の必須条件となります。毎週 1 作の小説を読みワークに臨むので、かなり忙しい授業となります。そのつもりで受講しましょう。

【Outline and objectives】
This course introduces one of the style of stories called a first-person novel written after the 1930's.We learn about its positioning in the history of literature, and analyze it about the problem of its perspectives style.

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文 A

遠藤　星希

授業コード：A2681　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【諸子百家の文を読む】
先秦時代の諸子百家の書から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。諸子百家の「諸子」とは、孔子・孟子・韓非子・老子・荘子・墨子・孫子などを代表とする諸々の思想家たちのこと、「百家」とは、儒家・法家・道家・墨家・兵家などを代表とする数多くの学派のことである。戦乱が恒常化した世の中で、学術・思想の自由競争社会を生き抜くため、春秋・戦国時代の思想家たちは様々に思索をめぐらせた。諸子百家の書を通じて彼らの思索を追体験することにより、現代社会をとらえ直す新たな視野を獲得することを目指し、同時に漢文を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】
1，漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2，訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3，書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4，諸子の各学派の思想的特徴を把握する。
5，漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
初回と第 2 回のみ、動画を YouTube で配信する、オンデマンド方式で実施する。第 3 回以降は、教室での対面方式で、講義形式の授業を行う。毎回リアクションペーパーを提出して頂き、そこに書き込まれた質問等については、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	諸子百家の思想とその時代背景についての概説
第 2 回	儒家の思想（1）	『論語』を読む（1）：「為政篇」「公冶長篇」「先進篇」等より
第 3 回	儒家の思想（2）	『論語』を読む（2）：「雍也篇」「述而篇」「憲問篇」等より
第 4 回	儒家の思想（3）	『孟子』を読む（1）：「公孫丑上」「離婁上」等より
第 5 回	儒家の思想（4）	『孟子』を読む（2）：「梁恵王上」「尽心上」等より
第 6 回	道家の思想（1）	『老子』を読む：「第一章」「第五章」等より
第 7 回	道家の思想（2）	『荘子』を読む（1）：「斉物論篇」「大宗師篇」等より
第 8 回	道家の思想（3）	『荘子』を読む（2）：「応帝王篇」「秋水篇」等より
第 9 回	道家の思想（4）	『列子』を読む：「天瑞篇」「周穆王篇」等より
第 10 回	法家の思想（1）	『韓非子』を読む（1）：「五蠹篇」等より
第 11 回	法家の思想（2）	『韓非子』を読む（2）：「外儲説篇」等より
第 12 回	雑家の思想	『淮南子』を読む：「人間訓」等より
第 13 回	墨家の思想	『墨子』を読む：「非攻篇上」等より
第 14 回	兵家の思想	『孫子』を読む：「謀攻篇」「軍争篇」等より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料のプリントは 1 週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を教室で配布する。

【参考書】
・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015 年）
・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009 年）
・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010 年）
・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011 年）
・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012 年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
100 %学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】
・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の３分の２以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、授業の予定を一部変更する可能性がある。

【Outline and objectives】
We will carefully select relatively famous passages from the writings of zhuzi baijia (the Hundred Schools of Thought) during the Pre-Qin period in China and closely read them in the original language. Zhuzi in zhuzi baijia refers to various thinkers including Confucius, Mencius, Han Fei, Laozi, Zhuangzi, Mozi, and Sunzi. B ǎ ijiā refers to a variety of schools including Confucianism, Daoism, Mohism, and the School of the Military. Against the backdrop of continuous wars, thinkers during the Spring and Autumn period and the Warring States period pursued their thoughts in various forms in order to survive the free competition between schools of thought. Through the works of zhuzi baijia, we will relive their thoughts and in so doing we seek to attain a novel perspective from which to revisit the contemporary society, while at the same time developing basic skills for reading literary Chinese.

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文 B

遠藤　星希

授業コード：A2682　｜　曜日・時限：木曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
【『戦国策』と『史記』を読む】
史書の『戦国策』と『史記』の中から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。『戦国策』は、戦国時代の遊説家の弁論や献策、逸話などを国別にまとめたもので、前漢末の劉向の編とされる。平安時代の日本にはすでに伝来しており、その後もわが国で広く読まれた。『史記』は前漢の司馬遷が著した史書であり、黄帝の時代から前漢中期に至る三千年にわたる通史である。『枕草子』に「ふみは、文集、文選、新賦、史記五帝本紀……」とあるように平安時代の貴族にとって最も馴染み深い漢籍の一つであり、『源氏物語』にもその影響が色濃く見えるのみならず、その後の日本文学にも影響力を持ち続けた。本授業では、『戦国策』と『史記』の文を精読することを通して、古代中国の社会・文化に対する理解を深め、そこに描かれた人々の英知を吸収すると同時に、漢文資料を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】
１，漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
２，訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
３，書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
４，『戦国策』と『史記』についての基礎的な知識を習得する。
５，漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行う。毎回リアクションペーパーを提出して頂き、そこに書き込まれた質問等については、次回の授業の冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『戦国策』ガイダンス	『戦国策』と中国の戦国時代についての概説
第 2 回	『戦国策』精読（1）	「斉策」より
第 3 回	『戦国策』精読（2）	「燕策」より
第 4 回	『戦国策』精読（3）	「楚策」より
第 5 回	『戦国策』精読（4）	「魏策」より
第 6 回	『史記』ガイダンス	『史記』と司馬遷についての概説
第 7 回	『史記』精読（1）	「廉頗藺相如列伝」より「完璧」
第 8 回	『史記』精読（2）	「廉頗藺相如列伝」より「澠池の会」
第 9 回	『史記』精読（3）	「項羽本紀」より
第 10 回	『史記』精読（4）	「淮陰侯列伝」より
第 11 回	『史記』精読（5）	「管晏列伝」より
第 12 回	『史記』精読（6）	「伍子胥列伝」より
第 13 回	『史記』精読（7）	「孫子呉起列伝」より
第 14 回	『史記』精読（8）	「刺客列伝」より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料のプリントは 1 週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015 年）
・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009 年）
・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010 年）
・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011 年）
・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012 年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
100 %学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】
・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の３分の２以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数は受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、授業の予定を一部変更する可能性がある。

【Outline and objectives】
We will carefully select and read relatively famous passages from Zhan Guo Ce (Strategies of the Warring States) and Shiji in the original language. Zhan Guo Ce is a compilation by dynasty of rhetoric, strategic suggestions and anecdotes of strategists during the Warring States period, compiled by Liu Xiang at the end of the former Han period. It had already been introduced to Japan by the Heian period, and was widely read since then. Shiji is a history book written by Sima Qian during the early Han period, and is one of the most familiar Chinese classic books that not only exerted strong influence on the Tale of Genji but also had enduring effects on the subsequent Japanese literature. In this course, through close reading of passages from Zhan Guo Ce and Shiji, we will deepen our understanding on ancient Chinese society and culture and absorb wisdom of people described therein, and develop basic skills for reading Chinese classical writings.

LIT200BC

日本文芸研究特講（８）言語Ａ

王　安

授業コード：A2685　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言葉は言葉で独立しているのではなく、使い手である言語主体、すなわち私たち自身の認知のあり方を反映している。あらゆる言語表現の意味には言語主体の解釈や捉え方が関与している。同じ事態でも、言語主体の視点や解釈が違えば言語表現の意味も異なってくる。本講義では、認知言語学の基本を学び、日本語や英語、中国語の言語事例を取り上げ、言語主体の捉え方がどのように言葉の意味に反映されているのかを理解していく。

【到達目標】
(1) 認知言語学の基本理念、概念を理解する。
(2) 言語表現の意味と言語主体の「捉え方」との関係を理解する。
(3) 認知言語学の基本的な考えを利用して、言語表現の意味構造を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で進めるが、内容と必要に応じて、調査課題を与え、発表をしてもらったり、皆でディスカッションをしたりしながら授業を進める。また、授業の理解度を確認するために、毎回あるいは二回の授業に一度リアクションペーパーを書いてもらう。
フィードバックは随時授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 章	授業ガイダンス、認知言語学と言語学
第 2 回	第 2 章	ことばの記号性
第 3 回	第 3 章	ものの見方と意味
第 4 回	第 4 章	プロトタイプとカテゴリー
第 5 回	第 5 章	イメージ・スキーマ
第 6 回	第 6 章	イメージ・スキーマと比喩
第 7 回	第 7 章	意味のネットワーク
第 8 回	第 8 章	メタファー（隠喩）
第 9 回	第 9 章	メトニミー（換喩）
第 10 回	第 10 章	概念メタファー
第 11 回	第 11 章	方向性のメタファー
第 12 回	第 12 章	色とことば
第 13 回	第 13 章	構文と意味
第 14 回	これまでのまとめ	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１，授業前にテキストを読み、予習を行う。知らない概念や用語があれば、調べておく。（２時間）
２，授業のあと、当日授業で学んだ内容を整理し、復習を行う（１～2 時間）
３，課題がある場合、しっかり参考書などを調べ、課題を行う（3 時間）

【テキスト（教科書）】
『学びのエクササイズ　認知言語学』谷口一美　ひつじ書房　1200 円

【参考書】
○『言葉のしくみ』高橋英光　2010　北海道大学出版会
○『ファンダメンタル認知言語学』2014　野村益寛　ひつじ書房

○『新編　認知言語学キーワード事典』　2013　辻幸夫編　研究社
『日本語表現で学ぶ　入門からの認知言語学』籾山洋介　研究社
『日本語研究のための認知言語学』籾山洋介、研究社
『認知言語学とは何か』高橋英光　野村益寛　森雄一　くろしお出版
『認知意味論: 言語から見た人間の心』ジョージレイコフ著、紀伊国屋書店
『認知意味論のしくみ』籾山洋介著、研究社
『認知意味論の新展開―メタファーとメトニミー』谷口一美著、研究社

【成績評価の方法と基準】
課題・小レポート３０％＋リアクションペーパー２０％＋期末レポート５０％

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
１，参考書のうち、特に “○” がついているものは頻繁に使うため、購入するかまたは図書館から借りておいてください。
２，新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、対面授業および zoom 形式を併用して授業を行う可能性があります。詳細は、hoppii にて連絡いたします。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域＞
対照言語学、現代中国語文法、認知言語学
＜研究テーマ＞
形容詞の意味と機能、感情の概念化と言語の多様性、感情表現の構文パターンにおける類型論的研究
＜主要研究業績＞
「中国語の＜主観性 ＞の再考察―使役表出文を例として―」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編. pp.35-50. 2018. 開拓社
「感情の普遍性とその言語化―感情表現の類型論的研究に向けて―」『ことばのパースペク ティヴ』 (中村芳久教授退職記念論文集刊行会編. pp.71-84. 2018. 開拓社
第 8 章「主体化」『認知言語学 基礎から最前線へ』森雄一・高橋英光編 2013. くろしお出版
「感情表現における日中対照研究―感情の語り方と人称制限の普遍性に着目して―」『言語研究の諸相』pp.35-45. 2010. 北海道大学出版

【Outline and objectives】
This course will study the basic knowledge of cognitive linguistics. Through the Japanese, English, Chinese language examples, we will understand how the cognitive subject’s construe is reflected in the meaning and structure of the language.

LIT200BC

日本文芸研究特講（８）言語Ｂ

間宮　厚司

授業コード：A2686　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
『万葉集』の名歌・類歌・難訓歌を取り上げ、言語学的に読み解く方法について考えます。万葉歌の訓読の再検討と類歌の比較を行うことにより、上代日本語の表記・文法・表現について理解を深めます。

【到達目標】
千年以上も前に、漢字だけで書かれた万葉歌を言語学的に読み解くプロセスを通して、上代日本語の歌ことばについて学びます。テキストを読み進め、解説することで、問題点の発見・資料の集め方・論証の仕方・論の展開・結論の導き方についても学び、応用のきく、考える力を多方面から身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式で、テキストとプリントを併用して、丁寧に解説します。講義形式の授業ですが、リアクションペーパーに書かれた「質問・コメント・感想等」を次の授業で紹介したり、質問に対しては個別に答えたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・テキスト・成績評価等についての説明
第 2 回	『万葉集』の基礎知識	テキストの４～２０頁を解説
第 3 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（１）	テキストの第１話
第 4 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（２）	テキストの第２話と第２話補遺
第 5 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（３）	テキストの第３話導入と第３話
第 6 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（４）	テキストの第４話と第５話
第 7 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（５）	テキストの第６話と第７話
第 8 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（６）	テキストの第８話と第９話
第 9 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（７）	テキストの第１０話と第１１話
第 10 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（８）	テキストの第１２話と第１３話
第 11 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（９）	テキストの第１４話と第１５話
第 12 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（１０）	テキストの第１６話と第１７話
第 13 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（１１）	テキストの第１８話と第１９話
第 14 回	まとめ	定期試験の説明と注意事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを事前に読んで、授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
間宮厚司『万葉異説［増補版］』（森話社、2021 年、2000 円＋税）

【参考書】
参考書はテキストの１４４頁に一覧してありますが、授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーによる授業の理解度及び質問・コメント・感想等の内容）と定期試験の点数を各 50 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教室授業にしてほしい。

【Outline and objectives】
In this lecture, you are going to use a textbook that I’ve showed on the list. The lecture introduces the way of how to read the poems of “Manyoshu” to students taking this course.

LIT200BC

日本文芸研究特講（9）表現A

藤谷　治

授業コード：A2687　｜　曜日・時限：**水曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学における多様な表現の諸相を、小説を例にとり原理的に考えていきます。

【到達目標】
文学における「表現」の意義、目的を多角的にとらえる。「読む」ことから見えてくる文学のあり方の基本を、小説を例にとって考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
藤谷治「小説は君のためにある」を読みながら、講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「君」とは何か	文学が成り立つ最低必要条件である「君」という存在について
第 2 回	表現の存在意義	なぜ表現はあるのか
第 3 回	文学とは何か	文学を定義する
第 4 回	文学の評価	文学を評価するための基本について
第 5 回	文学の拠点	文学のありかについて
第 6 回	書く	文学における創作という側面と、その価値について
第 7 回	表現と情報	表現と情報の違いについて
第 8 回	小説- 人物の複数性	小説の顕著な特徴である「登場人物」とその複数性について
第 9 回	作者の存在	小説における作者の役割と、その存在がもたらす文学への影響について
第 10 回	小説の自由	小説表現が本来持っている自由について
第 11 回	稗史としての小説	稗史と、その子孫としての小説の一面について
第 12 回	非現実	小説における荒唐無稽や空想について
第 13 回	ストーリー	小説にとってのストーリーの位置と価値
第 14 回	まとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤谷治「小説は君のためにある」（ちくまプリマー新書）

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
授業の参加状況５０％。レポート５０％。

【学生の意見等からの気づき】
授業後に毎回リアクション・ペーパーを提出していただきます。そこからの意見や質問等を選び、次回の授業で応じます。

【その他の重要事項】
講師は小説家。2003 年デビュー。2015 年『世界でいちばん美しい』で第 31 回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』（第 21 回三島由紀夫賞候補）『船に乗れ！』（第 7 回本屋大賞第 7 位）『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

【Outline and objectives】
We will observe the elementary study of various aspects of literature with selected examples from novels.

LIT200BC

日本文芸研究特講（9）表現B

藤谷　治

授業コード：A2688　｜　曜日・時限：**水曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学における表現の諸相が、作品を実際に書く上でどのように実現されるか、小説の創作を例にとって解析する。

【到達目標】
表現と創作の実際的な困難や非論理性などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めます。リアクションペーパーの内容を次回の授業に活かします。１～２回レポートを課し、査定して返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	発想	趣向について
第 2 回	取材	空気を吸うことについて
第 3 回	文章	スタイルの選択
第 4 回	起筆	書き出しについて
第 5 回	持続	書き続けることの困難
第 6 回	題名	題名を決める
第 7 回	人物	性格の否定について
第 8 回	禁止	自らに課す禁止事項及びポルノの自戒について
第 9 回	推敲	文章の検討と批判
第 10 回	改稿	初稿の否定について
第 11 回	構成	作品全体について
第 12 回	秘密	語りえないこと及び読者との秘密の共有について
第 13 回	完成	作品の独立について
第 14 回	まとめ	一年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤谷治「世界でいちばん美しい」（小学館文庫）

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
授業の参加状況５０％。レポート５０％。

【学生の意見等からの気づき】
「情報」ではなく、経験に基づいた「思索」を中心に講義を進めます。

【その他の重要事項】
講師は小説家。2003 年デビュー。2015 年『世界でいちばん美しい』で第 31 回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』（第 21 回三島由紀夫賞候補）『船に乗れ！』（第 7 回本屋大賞第 7 位）『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

【Outline and objectives】
We will analyze the way a story progress with selected example from novels and discuss how the phase of expression is realized in literary works.

LIT200BC

日本文芸研究特講（１０）演劇Ａ

伊海　孝充

授業コード：A2689　｜　曜日・時限：**月曜２限**
春学期・２単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、古典芸能の「能」の基本を学んでいく。能は難解で敷居の高い芸能だと思われている。確かに、独特なルールが存在するが、初心者でもその世界を堪能できる視点もある。その視点の一つとして、本講義では、能を日本古典文学の名場面集として捉えていき、それがいかに身体で表現されるかを考えていく。

【到達目標】
本講義では、能という芸能の基本を理解し、自分の言葉でこの芸能を説明できることを目標とする。能と言えば、「幽玄」などの固定観念で説明されることが多い。そうした既成の言葉ではなく、自身の言葉で能を形容できるようになるのが、目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	能はなぜ難しいと言われるのか？
第２回	能楽の基本	用語と劇構成
第３回	能楽の歴史	室町時代から江戸時代までの能の歴史を概観する。
第４回	能《頼政》を読む①	『平家物語』と能
第５回	能《頼政》を読む②	作品を読む
第６回	能《野宮》を読む①	『源氏物語』と能
第７回	能《野宮》を読む②	作品を読む
第８回	能《高砂》を読む①	和歌と能
第９回	能《高砂》を読む②	作品を読む
第10回	能《道成寺》を読む①	絵巻と能
第11回	能《道成寺》を読む②	作品を読む
第12回	能《安宅》を読む①	義経伝承と能
第13回	能《安宅》を読む②	作品を読む
第14回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。実際能楽堂まで行き、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。

【参考書】
授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席状況及びコメントカードの評価　５０％
授業内小テスト（２～３回）　２０％
学期末レポート　３０％

【学生の意見等からの気づき】
初めて能について学ぶ学生もついてこられるように、はじめの説明を丁寧に行ないます。

【Outline and objectives】
In this lecture, We will read books of secrets written by Zeami. In this lecture, we will learn the basics of Noh, a classical performing art. Noh is often thought of as an esoteric and difficult art form. It is true that there are unique rules, but there are also perspectives from which even beginners can enjoy the world of Noh. As one of these perspectives, this lecture will consider Noh as a collection of famous scenes from Japanese classical literature, and how it is expressed physically.

LIT200BC

日本文芸研究特講（１０）演劇Ｂ

伊海　孝充

授業コード：A2690　｜　曜日・時限：**月曜２限**
秋学期・２単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
古典芸能の「狂言」の基本を学ぶ。狂言はテレビや高校までの芸術鑑賞会で観たことがあるかもしれないが、能との関係やその歴史については知らない者も多いだろう。そうした者を対象として、代表的な演目を通し、狂言の特質を学んでいく。また狂言は、作品が作られた時代の文化を反映した史劇であるとともに、フィクション世界でもある。狂言を通して、中近世の人間模様と非現実な遊戯空間を読み解いていく。

【到達目標】
本講義では、「狂言とはこのような芸能である」と自分の言葉で正確に説明できることを目標とする。そのためには、狂言の台本を正確に読み、また舞台のセリフ・演技を理解することが必要である。中近世の口語で構成されている狂言のセリフ慣れ、狂言の舞台を台本なしで鑑賞できるようになってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	能と狂言の関係
第２回	狂言の歴史	狂言の形成と展開
第３回	狂言概説	狂言の流派と家
第４回	附子①	狂言「附子」を読む
第５回	附子②	太郎冠者と次郎冠者
第６回	武悪①	狂言「武悪」を読む
第７回	武悪②	下剋上の文学
第８回	髭櫓①	狂言「髭櫓」を読む
第９回	髭櫓②	わわしい女
第10回	首引①	狂言「首引」を読む
第11回	首引②	豪傑と狂言
第12回	川上①	狂言「川上」を読む
第13回	川上②	狂言と〈社会的弱者〉
第14回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とする。現存する芸能の、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを配布する。

【参考書】
授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席状況及びコメントカードの評価　５０％
授業内小テスト（２～３回）　２０％
学期末レポート　３０％

【学生の意見等からの気づき】
時間の制約上、狂言のビデオ全部見られない曲もあります。それらの曲について、DVD の貸し出しなども行ないます。

【Outline and objectives】
In this class, we will learn the basics of Kyogen, a classical art form. You may have seen Kyogen on TV or at art appreciation events in high school, but many of you may not know the relationship between Kyogen and Noh or its history. In this course, students will learn about the characteristics of Kyogen through representative performances. Kyogen is both a historical drama and a fictional world that reflects the culture of the times in which it was created. Through Kyogen, we will try to decipher the human character and the unrealistic play space of the middle and modern ages.

LIT200BC

日本文芸研究特講（１０）演劇Ｃ

上野　火山

夜間時間帯
授業コード：A2691　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は『比較演劇学』といいます。
ここでは古今東西、そしてジャンルを問わず、社会学的視点、思想史的視点、及び政治経済的視点から人間の行う演劇的営為を観察し比較することで、現代に失われ理解されないままでいる価値観や倫理を再発見し、「今」を理解したいと思います。

【到達目標】
< 到達目標> 受講者は、受身のまま、思考停止状態に甘んじることなく、批判的及び批評的に思考することを正しく理解し、作品鑑賞のみならず現実世界に応用できるようになる。
< 講義内容> 演劇とはドラマです。舞台芸術を始め、映画、テレビ、ラジオ、インターネットといった様々なメディアを通じ、演劇は姿を 変えながらも存在し続けています。あるメディアと別のメディア、海外と日本、過去と現在、日常と非日常、見えるものと見えないもの、見せられているものと隠れているもの、といった比較対照を通して、失われ見えにくくなったり、 あるいはまた、あらかじめ隠されているものを発見 し、在るはずの、在るべきものを見いだしてみたいと思います。演劇はどこへ向かう のだろうか。このまま権力のプロパガンダに堕すのだろうか。それを考えることは我々自身がどこへ向かっているのかを見据えることになると思います。作品自体の比較もさることながら、方法論の差異、世 界観価 値観の差異、時代の差異、思想の差異といった比較を通して「ドラマ」あるいは「物語」の共通性や普遍性へ向かい、単なる「消費者」ではない「真の良き観客」をめざしたいと思います。仮にあなたが創作者であろうとも、すべては「真の良き観客」であるところから始まるのですから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心に行います。
授業ごとにリアクションペーパーを出して頂き、各講義の最初にリアクションペーパーの内容を一部取り上げ、質問等にも答えていきます。
時にはディスカッションも組み 込みたいと思いますので、発言を求められた場合は積極的にお願いします。講義中に映像等の資料も観ていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	演劇 (ドラマ) とは何か	比較演劇学への招待
第 2 回	テレビドラマの可能性①	テレビという媒体の絶望と希望の間で
第 3 回	映画と演劇の「劇場性」	その歴史と未来:劇場とは何か
第 4 回	テレビドラマの可能性②	忖度し萎縮する媒体とその未来とは
第 5 回	< 映像作品を観る>	「劇映画」を授業内で観ます
第 6 回	演劇の制度化:80 年代以降のポストモダニズムの系譜	ポストモダニズムとは何だったのか; 現代への影響と余韻
第 7 回	リアルとは何か	現在のリアリティー; 空気を読む時代
第 8 回	禁忌（タブー）について	疑問を持ってはならない:教育の刃
第 9 回	メディアコントロール	劇場化した政治経済と民主主義の幻想; 市民の家畜化
第 10 回	ネオリベラリズムと演劇	ステルスマーケティングとサブリミナルの実在; 演劇の価値観付与機能
第 11 回	< 映像作品を観ます>	ドキュメンタ リー作品を授業 内で観ます
第 12 回	日本人の戦後教育の実態	終わりなき GHQ の影とその影響; 現在の日本の真の姿と形
第 13 回	共感の次元へ	「共感」とその可能性:孤立化し分断された時代に「再発見」しなくてはならないもの
第 14 回	前期試験	与えられたテーマに沿った「小論文」試験です。 テーマは前もって講義の中でお伝えします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この講義に出る限りは、できる限り多くの舞台作品、もしくは映像作品に触れて欲しいと思います。そして講義で触れた文献の読書及び作品の鑑賞、それらが準備であり復習です。
従って、本授業の準備・復習時間は、紹介作品の鑑賞を含め各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用致しません。

【参考書】
特に用意して頂く参考書はございません。 毎回、レジュメ（プリントもしくは PDF）を講義内でお渡しします。参考文献等はレジュメに明記します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は以下の通りに行います。
●平常点（授業への参加態度を含む） 70%
●小論文試験 30%
※「試験」のみの参加では単位にはなりません。

【学生の意見等からの気づき】
種々様々な問題が噴出しているこの萎縮した時代にあって、例年にも増して、更に一層自分自身の言葉を大切に、学生諸君に伝えていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline and objectives】
This course is called "Comparative Dramatics".
I hereby account for this class as follows ;
Comparative Dramatics is one of the analytic ways for DRAMA, through which we can analyze so many dramas to understand the meaning and value of current real world from the view of Sociology, Ideology, Politics and Economics and so on.

LIT200BC

日本文芸研究特講（１０）演劇Ｄ

上野　火山

夜間時間帯
授業コード：A2692　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は『比較演劇学』といいます。
ここでは古今東西、そしてジャンルを問わず、社会学的視点、思想史的視点、及び政治経済的視点から人間の行う演劇的営為を観察し比較することで、現代に失われ理解されないままでいる価値観や倫理を再発見し、「今」を理解したいと思います。

【到達目標】
< 到達目標> 受講者は、受身のまま、思考停止状態に甘んじることなく、批判的及び批評的に思考することを正しく理解し、作品鑑賞のみならず現実世界に応用できるようになる。
< 講義内容> 演劇とはドラマです。舞台芸術を始め、映画、テレビ、ラジオ、インターネットといった様々なメディアを通じ、演劇は姿を 変えながらも存在し続けています。あるメディアと別のメディア、海外と日本、過去と現在、日常と非日常、見えるものと見えないもの、見せられているものと隠れているもの、といった比較対照を通して、失われ見えにくくなったり、 あるいはまた、あらかじめ隠されているものを発見 し、在るはずの、在るべきものを見いだしてみたいと思います。演劇はどこへ向かう のだろうか。このまま権力のプロパガンダに堕すのだろうか。それを考えることは我々自身がどこへ向かっているのかを見据えることになると思います。作品自体の比較もさることながら、方法論の差異、世 界観価 値観の差異、時代の差異、思想の差異といった比較を通して「ドラマ」あるいは「物語」の共通性や普遍性へ向かい、単なる「消費者」ではない「真の良き観客」をめざしたいと思います。仮にあなたが創作者であろうとも、すべては「真の良き観客」であるところから始まるのですから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心に行います。
授業ごとにリアクションペーパーを出して頂き、各講義の最初にリアクションペーパーの内容を一部取り上げ、質問等にも答えていきます。
時にはディスカッションも組み 込みたいと思いますので、発言を求められた場合は積極的にお願いします。講義中に映像等の資料も観ていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	エンターテインメントを考える	娯楽の価値と、武器としての娯楽
第 2 回	不条理と物語ること	我々の価値観を知らぬ間に決定づける隠喩とは
第 3 回	永遠と一日	「反復とずれ」から考える小津安二郎の世界
第 4 回	夢見る力について	スノビズムとシニシズムの超克
第 5 回	日常の向う側	創り手のモラル (道徳) とエスィックス (倫理) の問題
第 6 回	< 映像作品> を観ます	劇映画を観ます
第 7 回	コーポラティズム (企業中心主義) の世界	極端な商業主義的、もしくは新自由主義的資本主義の下で「芸術」は可能か
第 8 回	「ならず者たち」より	J. デリダの最後の言葉から現在 野政治のドラマ性と虚偽性を読み解く
第 9 回	すべてはラストシーンからはじまった	1970 年代という時代
第 10 回	メッセージ	本気の時代から、本気を取り戻す時代へ
第 11 回	< 映像作品> を観ます	ドキュメンタリー作品を観ます
第 12 回	喜劇と悲劇の間で	日常の何気ない営為こそドラマである
第 13 回	「共感の次元」を超えて	「汝と我」を繋ぎ、そして隔てるもの
第 14 回	後期試験	与えられたテー マに沿った「小論文」試験です。テーマは講義の中でお伝えします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この講義に出る限りは、できる限り多くの舞台作品、もしくは映像作品に触れて欲しいと思います。そして講義で触れた文献の読書及び作品の鑑賞、それらが準備であり復習です。
従って、本授業の準備・復習時間は、紹介作品の鑑賞を含め各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用致しません。

【参考書】
特に用意して頂く参考書はございません。 毎回、レジュメ（プリントもしくは PDF）を講義内でお渡しします。参考文献等はレジュメに明記します。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は以下の通りに行います。
●平常点（授業への参加態度を含む） 70%
●小論文試験 30%
※「試験」のみの参加では単位にはなりません。

【学生の意見等からの気づき】
種々様々な問題が噴出しているこの萎縮した時代にあって、例年にも増して、更に一層自分自身の言葉を大切に、学生諸君に伝えていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline and objectives】
This course is called "Comparative Dramatics".
I hereby account for this class as follows ;
Comparative Dramatics is one of the analytic ways for DRAMA, through which we can analyze so many dramas to understand the meaning and value of current real world from the view of Sociology, Ideology, Politics and Economics and so on.

ART200BC

日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史Ａ

本塚　亘

授業コード：A2693　｜　曜日・時限：木曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。春学期は「日本の音楽とは何か」という問題について考えます。雅楽や仏教音楽、平家語りなどを中心に、「日本の音楽」を外来文化とのかかわりの中で客観的に捉え、その普遍性と特殊性について考えてみましょう。

【到達目標】
・日本音楽史（古代・中世）の概要について理解を深めます。
・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
・日本の音楽と外来文化との関係性について理解を深めます。
・日本の音楽の普遍性と客観性について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
オンデマンド授業（資料型）とします。毎週、授業時間までに hoppii 経由で資料を公開します。受講生は、毎時設定される締切までに、小テストおよび質問事項等の入力を hoppii 上で行います。授業連絡、および質問事項等に対するフィードバックは hoppii を利用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方、評価方法等の確認を行う。
第 2 回	雅楽《越殿楽》	《越殿楽》を鑑賞し、雅楽（管絃）に用いられる楽器や楽譜、演奏形式の由来について考える。
第 3 回	日本の様々な伝統楽器	正倉院の楽器を中心に日本の様々な伝統楽器について学び、そのルーツについて考える。
第 4 回	東大寺大仏開眼供養会	東大寺大仏開眼供養会の概要、規模、演目について学び、当時の音楽の機能と歴史的背景について考える。
第 5 回	日本の音楽の「起源」	出土品や『隋書』倭国伝の記述などをもとに、日本の音楽の黎明について学び、その様相や対外的な機能について考える。
第 6 回	雅楽寮の成立と内外楽の整理	律令制度の整備に伴って組織化された日本の音楽の体系を学び、その機能や思想的背景について考える。
第 7 回	日本の「在来」歌舞	国風歌舞（久米舞、大和舞、東遊などの在来歌舞）について学び、その由来や享受について考える。
第 8 回	舞楽（左方・右方）	舞楽（左方・右方）の編成や形式などについて学び、『源氏物語』における舞楽の描写を鑑賞する。
第 9 回	管絃と御遊	管絃の編成や御遊の形式などについて学び、『源氏物語』における管絃の描写を鑑賞する。
第 10 回	催馬楽	御遊などで歌われる催馬楽について学び、『源氏物語』における催馬楽の引用場面について鑑賞する。
第 11 回	仏教と音楽	法会の形式や法要の種類、声明の曲種などについて学び、仏教における音楽の意義や、雅楽との関係について考える。
第 12 回	声明から語り物へ	後の語り物芸能に影響を与えた、和讃や講式などの声明の曲種について学び、その音楽性と文学性について考える。
第 13 回	平家語り、語り物の普遍性	平家語りについて学び、雅楽や声明から受けた影響について考える。また国外の語り物文化との関係について学び、語り物芸能の普遍性について考える。
第 14 回	春学期総括・レポート課題の出題	これまでの授業と学生のリアクションなどをふまえ総括。レポート課題を出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎時、hoppii 上での小テスト回答、および質問事項等の入力が必須となります。質問については、まず自分自身で調べてみて、その上で行ってください。なお、準備学習・復習については 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。hoppii を経由して資料を公開します。

【参考書】
岸辺成雄『古代シルクロードの音楽』（講談社、1982）
平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
遠藤徹『雅楽を知る事典』（東京堂出版、2013）
その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
【到達目標】に照らして以下の 2 項目を評価の対象とします。
・リアクションペーパー　60%
・期末レポート　40%

【学生の意見等からの気づき】
専門的で理解が難しいといった旨のご意見を多くいただきました。授業の性質上、どうしても専門的な資料や用語などを多用せざるを得ないのですが、毎時の学習到達目標を示すことによって、理解すべき点を明確にしたいと存じます。

【学生が準備すべき機器他】
hoppii にアクセスできるＰＣ、インターネット環境を用意してください。

【その他の重要事項】
新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、hoppii にて連絡いたします。

【Outline and objectives】
This is an undergraduate-level lecture giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the spring semester, we center on the question "What is Japanese music?" by learning about *gagaku*, Buddhist music, *Heike-gatari* and so on. We objectively consider these genres of "Japanese music" in relation to foreign cultures and learn about their universal and unique characteristics.

ART200BC

日本文芸研究特講（１１）音楽芸能史Ｂ

本塚　亘

授業コード：A2694　｜　曜日・時限：木曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。秋学期は「うたと音楽との関係」について考えます。和歌や催馬楽、朗詠などを中心に、旋律に乗って歌われる言葉の機能や、替え歌によって生じるイメージの拡がりを分析し、その多様性と複層性について考えてみましょう。

【到達目標】
・日本音楽史（古代・中世）の概要についての理解を深めます。
・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
・日本の「うた」の文学性と音楽性についての理解を深めます。
・歌謡における旋律と詞章との重層的な関係について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
オンデマンド授業（資料型）とします。毎週、授業時間までに hoppii 経由で資料を公開します。受講生は、毎時設定される締切までに、小テストおよび質問事項等の入力を hoppii 上で行います。授業連絡、および質問事項等に対するフィードバックは hoppii を利用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方、評価方法等の確認を行う。
第 2 回	和歌を歌う	歌会始における歌披講を鑑賞し、現代における和歌の歌唱例について考える。
第 3 回	上代における歌唱事例	記紀や『万葉集』などにおける歌唱例について学び、それぞれのうたがどのように、また何のために歌われたのか考える。
第 4 回	和歌のレトリック１	和歌（短歌）の成立過程、および枕詞、序詞などのレトリックについて学び、その発声上の機能について考える。
第 5 回	和歌のレトリック２	縁語や掛詞、本歌取り、体言止めなどのレトリックについて学び、和歌史における質的な変遷について考える。
第 6 回	歌合における音楽と歌唱	歌合の歴史を概観しながら、歌合において催される音楽や、和歌の詠唱方法について学ぶ。
第 7 回	「誦ず」と「うたふ」	『源氏物語』における歌謡の発声場面で用いられる二つの動詞（誦ず、うたふ）に注目し、その使い分けについて考える。
第 8 回	『源氏物語』と催馬楽	『源氏物語』における催馬楽の歌唱場面に注目し、演奏上の特性や文学的効果について考える。
第 9 回	催馬楽の音楽的性質	催馬楽における二重の同音性について学ぶ。同じ旋律で歌われる催馬楽同士の関係について考える。
第 10 回	催馬楽と唐楽・高麗楽の先後	催馬楽と同じ旋律をもつ唐楽・高麗楽曲との関係について注目し、同音関係の生じた経緯について考える。
第 11 回	平家語りの音楽とことば	『平家物語』における朗詠や今様などの音楽描写について注目し、琵琶法師が語る「音楽」の意味について考える。
第 12 回	越殿楽の系譜	雅楽が寺院歌謡に取り込まれ、やがて越殿楽歌物として様々な芸能分野に拡散していく過程を追う。
第 13 回	あらためて、うたを歌うとは	和歌や朗詠、隆達節歌謡など、様々な形で伝播し、やがて数奇な運命をたどるに至った「君が代」について考える。
第 14 回	秋学期総括・レポート課題の出題	これまでの授業と学生のリアクションなどをふまえ総括。レポート課題を出題する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎時、hoppii 上での小テスト回答、および質問事項等の入力が必須となります。質問については、まず自分自身で調べてみて、その上で行ってください。なお、準備学習・復習については 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。hoppii を経由して資料を公開します。

【参考書】
平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
青柳隆『日本朗詠史 研究篇』（笠間書院、1999）
『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
渡部泰明編『和歌とは何か』（岩波文庫 新赤版 1198、2013）
その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
【到達目標】に照らして以下の 2 項目を評価の対象とします。
・毎時小テスト・質問事項　60%
・期末レポート　40%

【学生の意見等からの気づき】
専門的で理解が難しいといった旨のご意見を多くいただきました。授業の性質上、どうしても専門的な資料や用語などを多用せざるを得ないのですが、毎時の学習到達目標を示すことによって、理解すべき点を明確にしたいと存じます。

【学生が準備すべき機器他】
hoppii にアクセスできるＰＣ、インターネット環境を用意してください。

【その他の重要事項】
新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、hoppii にて連絡いたします。

【Outline and objectives】
This is an undergraduate-level lecture giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the autumn semester, we center on the relationship between song and music by learning about *waka*, *saibara*, *rōei*, and so on. We analyze the function of the words sung to the melody and the spread of the image caused by change in the lyrics, and think about the diverse and multilayered nature of song.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１２）詩歌Ａ

四元　康祐

授業コード：A2695　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
詩を書いてみる、読んでみる、考えてみる。
コトバの魔術としての詩、ココロの発露としての詩。物語る詩、歌う詩、祈る詩。目の詩、耳の詩。詩のさまざな在り方に親しむことによって、詩とは何か、そして詩を書く唯一の動物としての人間の知性とはどのようなものなのか、頭だけでなく、五感を使って洞察する。春期は詩の原理と構造を中心に、秋期は原型的な詩人像を巡って講義と演習を行います。

【到達目標】
「詩」と呼ばれる人類特有の営みの、時代や文化ごとに移り変わる多様性に触れるとともに、深層的な象徴言語としてのその普遍性について学び、自分自身の意識の根底に組み込まれた詩的想像力の働きを自覚する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ズームを利用したオンライン授業による講義と、対面授業による演習・発表・ディスカッションを隔週で行う予定です。（ただし最初の二回のみ、オンライン授業が続くことになります。）オンライン授業はリアルタイムを基本とします。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
１回目に受講規模者に課題を出し、希望者が多い場合は選抜を行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（オンライン）	講師と受講生の自己紹介。この授業の目的、進め方、期待するものなどの相互確認。受講規模者に課題を出し、希望者が多い場合は選抜を行います
第 2 回	講義１：詩の世界を眺望する（オンライン）	古今東西のさまざまな詩の形や詩人たちの系譜を概観する
第 3 回	演習１：詩を書いてみる１（対面）	与えられたテーマ・手法に則して予め書いてきた詩を発表し合い、相互に観賞・批評、推敲する。
第 4 回	講義２：声の詩、文字の詩（オンライン）	詩の中に太古から在る口承の要素と、文字を用いる詩の特徴を比較し、詩が目と耳、そして肉体と理性に、それぞれどのように働きかけてくるかを学ぶ。
第 5 回	演習２：詩を訳してみる（対面）	外国語の詩に限らず、日本の古典や近・現代詩、小説、映画、マンガなど他ジャンルの作品を、「詩」にしてみる。
第 6 回	講義３：物事の詩、心の詩（オンライン）	中世の叙事詩、近代の俳句、現代のイマジスト派などを通して、詩における、事と心の相互作用を学ぶ。
第 7 回	演習３：詩を書いてみる２（対面）	与えられたテーマ・手法に則して予め書いてきた詩を発表し合い、相互に観賞・批評、推敲する。
第 8 回	講義４：宴と孤心（オンライン）	大岡信の『宴と孤心』理論を中心に、詩における個と共同体のダイナミズムについて学ぶ。
第 9 回	演習４：ミニ連詩（対面）	小グループに分かれて、短い行を交互に連ねることによって、連歌・連詩の醍醐味を体感する。
第 10 回	講義５：AI(人工知能）に詩は書けるか？（オンライン）	ＡＩを用いた詩の制作を通して、人間の意識と言語の関わりを考察す。
第 11 回	演習５：ＡＩ詩で遊ぶ（対面）	短歌・俳句自動作成アプリや「偶然短歌」などを利用して自分だけのＡＩ詩を作ってみる。
第 12 回	講義６：詩とは何か？（オンライン）	古今東西の詩論や、詩について書かれた詩を通して、詩を定義しようとする人類の情熱と、それを逃れ続ける詩の多様性・変容性を認識する。
第 13 回	演習６：詩を書いてみる３（対面）	与えられたテーマ・手法に則して予め書いてきた詩を発表し合い、相互に観賞・批評、推敲する。
第 14 回	まとめと解説（オンライン）	春季の授業を振り返り、必要に応じて解説をするとともに、生徒の側から見て良かった点、不満だった点を共有する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「詩を書いてみる」演習（第３回、7 回、13 回）の授業には、予め課題の詩や文章を書いてくる。
それ以外の授業では、その回に学んだことの感想や質問を簡潔にまとめて提出する。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。必要な資料はその都度スライドを準備して配布します。

【参考書】
四元康祐著『詩人たちよ！』思潮社 2015 年
四元康祐著『ホモサピエンス詩集　四元康祐翻訳集現代詩篇』澪標 2020 年
あくまでも参考です。授業のために読んでおく必要はありません。

【成績評価の方法と基準】
レポート　80 %
平常点　20 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
Expose oneself to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, discussing varieties of poems. Gain insight as to the function and nature of the poetic language, and the role of poetic imagination in the human intelligence.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１２）詩歌Ｂ

四元　康祐

授業コード：A2696　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
詩を書いてみる、読んでみる、考えてみる。
コトバの魔術としての詩、ココロの発露としての詩。物語る詩、歌う詩、祈る詩。目の詩、耳の詩。詩のさまざな在り方に親しむことによって、詩とは何か、そして詩を書く唯一の動物としての人間の知性とはどのようなものなのか、頭だけでなく、五感を使って洞察する。春期は詩の原理と構造を中心に、秋期は原型的な詩人像を巡って講義と演習を行います。

【到達目標】
「詩」と呼ばれる人類特有の営みの、時代や文化ごとに移り変わる多様性に触れるとともに、深層的な象徴言語としてのその普遍性について学び、自分自身の意識の根底に組み込まれた詩的想像力の働きを自覚する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
すべて教室での対面授業を想定しています。
講義と演習を交互に繰り返してゆく予定です。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講師と受講生の自己紹介。この授業の目的、進め方、期待するものなどの相互確認。
第 2 回	講義１：放浪と越境の詩人たち	ダンテ『神曲』、紀貫之『土佐日記』、伊藤比呂美『河原荒草』などを例に、詩における放浪と越境の意味を問う。
第 3 回	演習１：詩を書いてみる１	与えられたテーマ・手法に則して予め書いてきた詩を発表し合い、相互に観賞・批評、推敲する。
第 4 回	講義２：部族の声としての詩人たち	ウォルト・ホイットマン、アレン・ギンズバーグ、シェーマス・ヒーニーなどを例に、共同体の代弁者としての詩人像を探る。
第 5 回	演習２：詩を訳してみる	外国語の詩に限らず、日本の古典や近・現代詩、小説、映画、マンガなど他ジャンルの作品を、「詩」にしてみる。
第 6 回	講義３：愛と孤独の女性詩人たち	和泉式部、エミリー・ディキンソン、石垣りんらを例に、女性詩人の系譜を追う。
第 7 回	演習３：詩を書いてみる２	与えられたテーマ・手法に則して予め書いてきた詩を発表し合い、相互に観賞・批評、推敲する。
第 8 回	講義４：言語を疑う詩人たち	ゲーテ『ファウスト』と谷川俊太郎『詩人の墓』を例に、詩における言語と現実との関係を探る。
第 9 回	演習４：国際詩祭をプロデュースする	実際の国際詩祭の記録を参考に、もしも自分たちがプロデュースするなら、どんな詩祭を実現したいか、企画立案する。
第 10 回	講義５：自由と抵抗の詩人たち	金子光晴、マイケル・パーマー、現代の香港の詩人たちを例に、詩における自由と抵抗の在り方について考察する。
第 11 回	演習５：定型で遊ぶ	俳句、短歌、長歌、ソネット、カプレット、4 行詩、ラップなど、予め与えられた詩形やルールに則して詩を書いてみる。
第 12 回	講義６：笑う詩人たち	ジョン・ダン、ウィリアム・ブレイク、サイモン・アーミテッジ、平田俊子らを例に、詩におけるユーモアの働きを探る。
第 13 回	演習６：詩を書いてみる３	与えられたテーマ・手法に則して予め書いてきた詩を発表し合い、相互に観賞・批評、推敲する。
第 14 回	まとめ	後期の授業のまとめと質疑応答、意見交換。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「詩を書いてみる」演習（第３回、7 回、13 回）の授業には、予め課題の詩や文章を書いてくる。
それ以外の授業では、その回に学んだことの感想や質問を簡潔にまとめて提出する。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。必要なテキストは、授業の都度配布します。

【参考書】
四元康祐著『詩人たちよ！』思潮社 2015 年
四元康祐著『ホモサピエンス詩集　四元康祐翻訳集現代詩篇』澪標 2020 年
あくまでも参考です。授業のために読んでおく必要はありません。

【成績評価の方法と基準】
レポート　80 %
平常点　20 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
Expose oneself to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, discussing varieties of poems. Gain insight as to the function and nature of the poetic language, and the role of poetic imagination in the human intelligence.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１３）児童文芸Ａ

三井　喜美子

授業コード：A2697　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本児童文学について総論的に歴史や意義を理解する。各論的には、明治期における巌谷小波の業績とその意義、翻訳児童文学の影響、大正期における「赤い鳥」の果たした役割、昭和期における戦前戦後の日本児童文学の諸相等について理解する。短編児童文学を創作し、合評会を行う

【到達目標】
明治から現代に至る日本の児童文学史の代表的な作品を読んで感想を意見交換することができる。明治期の児童文学は、巌谷小波・翻訳小説を中心に特徴を捉えることができる。小波の「こがね丸」は日本児童文学史の始まりとされている作品であるので、必ず読了すること。特に、声に出して読むこと。大正期においては、雑誌「赤い鳥」の果たした役割を理解すること。昭和期の児童文学については、現代の児童文学の多様性を捉えること。また、代表的な作家の業績をとらえること。実際に児童文学の創作をし、合評会で意見交換ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義。大学の指示に則り、状況に応じてオンラインも活用する。
講義内容に即した関連作品を毎回読むこと。児童文学の創作を提出し、合評会を行うこと。出席表に感想を書き、講師とコミュニケーションをとること。
具体的な授業の準備や課題など、詳細は授業支援システムで確認のこと
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	児童文学の領域について	現代児童文学をどう捉えるか、現代の児童文学の多様さについて視野を広げる
第 2 回	明治期の児童文学	巌谷小波の功績
第 3 回	小波の「こがね丸」 ここまでに作品を読了しておくこと	「こがね丸」の面白さについて理解することを通して、日本児童文学の出発を考えることができる
第 4 回	翻訳児童文学	「小公子」と「十五少年」を中心に翻訳児童文学の特性を理解する。特に文体の特徴を捉えることができる
第 5 回	大正期の児童文学	御伽噺から童話へどのように変化していったか理解することができる
第 6 回	小川未明「赤い船」その他	情緒性と文体の特徴を理解することができる
第 7 回	小川未明「赤いろうそくと人魚」	作品の評価を巡って、児童文学史における未明作品の価値を理解することができる
第 8 回	「赤い鳥」の功績	赤い鳥運動と大正デモクラシーについて理解することができる
第 9 回	鈴木三重吉の求めたもの	文壇作家の作品を読み、その特性を理解することができる
第 10 回	浜田廣介の作品と作家像「泣いた赤鬼」を中心に	廣介童話といわれる作風の特徴を理解することができる 童心主義とは何かを理解する
第 11 回	創作の相互評価と合評会	実作した作品を読み合い、感想を出し合う。ベスト作品を選定する。
第 12 回	豊島与志雄その他	夢を書くということについて考える 大人の文学と子どもの文学その 1
第 13 回	千葉省三その他 創作集について	子どもを描くということについて考える
第 14 回	坪田譲治その他	大正から昭和へ作品の変化を理解することができる 大人の文学と子どもの文学その 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義で扱う作品を事前に必ず読むこと。
講義後の感想を必ず提出すること。
児童文学短編を創作すること。
合評会をして作品評価をすること
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
各作家の短編集
小川未明・浜田広介・坪田譲治及び赤い鳥傑作集は文庫本で必携のこと

【参考書】
明治の児童文学　大正期の児童文学　現代児童文学
『児童文学入門』（関口安義著　中教出版　2200 円）『アプローチ児童文学』（関口安義編　翰林書房　2000 円）

【成績評価の方法と基準】
学習支援システム (ホッピー) の掲示板に毎回感想を投稿し、教員とコミュニケーションをとること。
平常点（授業への参加態度と授業感想）４０％
児童文学 (掌編) の創作と合評３０％
小論文３０％
出席は開始１０分までを認める

【学生の意見等からの気づき】
学生とのコミュニケーションを大事にすること。
学生同士の交流を取り入れること。
スクリーンを活用して、映像や音声による資料の提示も積極的に導入する予定。

【その他の重要事項】
創作は学習支援システムの相互評価を活用し、その結果をもとに合評会を行う。
合評及び選考会は必ず出席のこと。
合評会の運営方法は、受講者登録が終わった段階で決定する

【Outline and objectives】
Students will generally understand the history and significance of Japanese children's literature. Topics will focus on themes such as Iwaya Sazanami's works and their significance during the Meiji Era, the influence of translated children's literature, the role that the children's literature magazine Akai Tori played during the Taisho era, and the various phases of Japanese children's literature during the pre- and post-WWII Showa era. Students will create a short children's story and have an evaluation session.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１３）児童文芸Ｂ

三井　喜美子

授業コード：A2698　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の内容を受けて、秋学期では特に昭和から現代に至る児童文学について、具体的に作家やジャンルごとのテーマに沿って講義をする。それぞれの作家の作風や表現の特徴を捉えることができる。ジャンルの特徴を捉えることができる。また、子どもを取り巻くメディアにも広く関心を向けて児童文学を捉えた時、児童文学を読み、考えることで、どういう「今」が見えてくるか、現代社会を批評的に見据えていくことを視座として、児童文学を考えいくことができる。アクティブラーニングとして推薦絵本のブルリオバトル風に紹介する

【到達目標】
現代の児童文学の多様化を、読者論、社会論的に探究し、その問題と可能性を検討し、意見を伝えることができる。取り上げる作家についての代表作や文学史的評価を捉えることができる。児童文学のジャンルについてその特徴や歴史的意味を捉えることができる。絵本の紹介を通して、児童文学の可能性を考えることができる。児童文学 (絵本) の作品評価をプレゼンテーションすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
大学の指示にのっとり、状況に応じてオンラインを活用する。
個人的に取り上げる作家は、新美南吉と宮沢賢治。また、ジャンル別に作品を取り上げ、幼年童話、戦争児童文学、歴史児童文学、少年少女小説、ファンタジーなどについて、諸相を捉えていくこと。また、絵本も積極的に取り上げる。
新たなる児童文学の観点も意識して、推奨絵本作品をプレゼンテーションする。
詳細はホッピー（学習支援システム) にて連絡するので、確認をすること
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	絵本の今日的読まれ方	今学期の授業の進め方のオリエンテーションを含む。 大人も楽しむ児童文学 ビブリオバトルのガイド
第 2 回	新美南ごんぎつね」を中心に	南吉文学の特徴である不条理の世界を理解することができる
第 3 回	新美南吉の民話的作品	新実南吉の人と作品について
第 4 回	絵本の世界～かこさとしとヨシタケシンスケを中心に	絵本の児童文学性、芸術性、多様性について認識を深め、絵本ビブリオに挑む
第 5 回	宮沢賢治のユーモア作品について	宮沢賢治の民話的作品の世界また独特のユーモアを理解することができる
第 6 回	宮沢賢治「なめとこ山の熊」を中心に	宮沢賢治の不条理の世界観　また、独特の表現の特徴と効果を理解することができる
第 7 回	宮沢賢治「銀河鉄道の夜」	宮沢賢治のファンタジー世界を理解する
第 8 回	推薦したい絵本を紹介しあい、児童文学の評価を考える	推薦絵本のビブリオバトル
第 9 回	幼年文學	松谷みよ子、今西祐行を中心に幼年童話の特徴を理解することができる
第 10 回	戦争児童文学①	「かわいそうな象」「干からびた象と象使いの話」を中心に
第 11 回	戦争児童文学②	今西祐行作品を中心に
第 12 回	歴史児童文学	歴史児童文学のジャンルについて作品を読み、特徴を理解することができる
第 13 回	少年少女小説と YA	児童と大人の狭間の読者論的理解
第 14 回	ファンタジー	ファンタジーの系譜を理解し、ファンタジー作品の文学の力について考えをまとめることができる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地域の図書館や書店で絵本を出来るだけたくさん読み、今だからこそ紹介したい本を見つけること。推薦絵本のビブリオバトルを行う。方法は受講登録がすんで受講者数に応じて決定する。
フィールドワークは、検討中。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定なし。新美南吉、宮沢賢治、松谷みよ子、今西祐行の短編集は必携

【参考書】
別冊太陽特集絵本　○○年のベスト絵本　その他授業で紹介

【成績評価の方法と基準】
学習支援システム (ホッピー) の掲示板に毎回感想を投稿し、教員とコミュニケーションをとること。
授業への参加態度と感想文４０％、
推薦絵本プレゼンテーション１５％
推薦絵本の書評１５％
レポート３０％
出席は開始 10 分までを認める

【学生の意見等からの気づき】
教員とのコミュニケーションをとること。
学生間のコミュニケーションをとること。
プレゼンの経験を積むこと。

【学生が準備すべき機器他】
OHC の使用

【その他の重要事項】
絵本紹介はアクティブラーニングとして必須
詳細は学習支援システムに掲載する

【Outline and objectives】
After finishing the spring term, the fall term will focus on children's literature from the Showa era to present, from specific authors or genres and observe their styles and features of each.　Students will view children's literature from the media that involve children, as well as read and consider children's literature itself, and through doing so, they will observe the present times, utilizing children's literature as a tool. They will make a presentation on their evaluation of recommended children's books.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸Ａ

福　寛美

授業コード：A2699　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
琉球王国初の文字資料である神歌集、『おもろさうし』のおもろ（神歌）に親しむ。また琉球の口頭伝承を記した『遺老説伝（いろうせつでん）』の説話や口頭伝承に影響を及ぼしたと考えられる事象を知る。

【到達目標】
『おもろさうし』は簡単な漢字とひらかなを用いた神歌集であるが、内容は難解で日本本土のどのような歌とも似ていない。その不思議な神歌（おもろ）の世界に分け入り、独特の世界観と信仰を知ることを目的とする。あわせて、琉球王国時代の口頭伝承を書き記した『遺老説伝（いろうせつでん）』、おもろや口頭伝承に影響を及ぼした、と考えられる日本本土由来の説話のことも考察していく。その過程を通し、琉球の神歌や文芸が周辺諸地域と関わりを持ちつつ、独自の世界を形成していることを知ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心とする。琉球・沖縄の文学を知るためには、民俗や音楽も知る必要があり、音源を鑑賞する時間も設ける。また、授業数回に一回程度、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーに対しては、次回の授業でフィードバックする。具体的には質問にこたえ、感想に対して所感を述べる。状況に応じて学習支援システムを用い、簡単な課題を出す。課題に目を通し、各自に対し所感を述べる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	『おもろさうし』の鷲 1	『おもろさうし』のおもろの読み方と、おもろ世界の鷲の用例をみていく。
第 2 回	『おもろさうし』の鷲 2	おもろの中で「鷲をつかむ」という用例がある。その用例を詳しくみていく。
第 3 回	鷲をとる	「鷲をとる」というおもろの意味を考えていく。
第 4 回	鷲の霊能 1	おもろ世界の鷲は霊能を持つ存在である。それが具体的にどのようなものかをみていく。
第 5 回	鷲の霊能 2	おもろ世界の鷲は不可視のものをみる、とされる。その意義を考えていく。
第 6 回	鷲の地名	おもろ世界では鷲のつく地名がある。その地名を考察していく。
第 7 回	鷲と王権	おもろ世界の鷲と王権は深く結びついている。そのことを考察していく。
第 8 回	鷲と戦い	鷲、鷲羽には戦勝の霊力があるとみなされていた。そのことを考察していく。
第 9 回	船と鷲	おもろ世界では船が猛禽類とダブルイメージされることがある。そのことを考察していく。
第 10 回	琉球船と猛禽類	琉球船は猛禽類と同一視されることがある。そのことを考察していく。
第 11 回	『遺老説伝』の鷲羽	琉球の口頭伝承を集めた『遺老説伝』にある鷲羽の事例をみていく。
第 12 回	鷲のイメージ・神話・矢羽根	巨大な鷲のイメージがいかに形成されたかを神話、鷲の尾羽が矢羽根として珍重されていた事象などから考察していく。
第 13 回	鷲のイメージ・鳥の墓	南西諸島には宇佐八幡の唱導文芸、百合若大臣が伝わっている。その物語に登場する鷹のイメージを考察していく。
第 14 回	鷲之鳥節の鷲	八重山諸島で現在も愛される鷲之鳥節の鷲のイメージを考察していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の『火山と竹の女神』の「おもろ世界の鷲」を読むこと。また、おもろを読んでいく上で必要なことは、別にプリントを作成する。学習支援システムにアップするので、教科書の理解を進めるために、読んでいくこと。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『火山と竹の女神』（福寛美、七月社、2021 年）を教科書として使用する。2021 年 3 月末に出版予定につき、価格は未定。

【参考書】
『喜界島・鬼の海域』（福寛美、新典社、2008 年）
『『おもろさうし』と群雄の世紀』（福寛美、森話社、2013 年）
『ぐすく造営のおもろ』（福寛美、新典社、2015 年）
『奄美群島おもろの世界』（福寛美、南方新社、2018 年）

【成績評価の方法と基準】
・記述式の期末試験を行う。問題をいくつか提示し、その内 2 つを選んで、それぞれ 300 字以上記述する、という形をとる。
・平常点も参考にする。最低 6 回は出席すること。
・期末試験で 70%、平常点で 30%の配分とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容を『おもろさうし』主体にすると、必ず難解である、という学生からの意見がある。それは仕方がない部分もあるが、なるべくわかり易く説明するように努める。

【学生が準備すべき機器他】
資料は学習支援システムにアップするので、それらを参照しながら授業を受講することが好ましい。

【Outline and objectives】
The Omoro Soshi is the first written compilation of sacred songs and poems collected by Ryukyu kingdom. The Ryukyuan folklores in the Irousetsuden and the Okinawan cultural background may have affected the development of its oral traditions. In this course, you will learn the Ryukuan sacred songs and literature are related to the cultures of surrounding areas and developed their own unique styles.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１４）沖縄文芸Ｂ

福　寛美

授業コード：A2700　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
南西諸島の神話や民俗は南九州と深く関わっている。薩摩（さつま）、そして薩南の島々を自在に航海していた人々を、隼人（はやと）という。その隼人の神話を学び、移動する海民について考察する。

【到達目標】
・日本神話と火山、という視点は従来あまり顧みられなかった。しかし、火山列島でもある日本で、噴火はまさに神の仕業としか考えられなかったはずである。その視点で神話を読み解くと、新たな知見が得られる。
・コノハナノサクヤビメ、そしてその神話的末裔の『竹取物語』のカグヤヒメを火山と関わる存在、と捉えると興味深い事象が認識できる。
・南九州を出自とする隼人と日本神話の関係から、日本神話における隼人の存在価値を知り、古代の九州の文化への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心とする。授業数回に一回、リアクションペーパーの提出を求める。リアクションペーパーには講義内容に対する質問などを書くこととする。次回の授業で質問に答えるようつとめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	噴火	日本古代における火山の噴火について述べる。
第 2 回	コノハナノサクヤビメ	降臨した天孫（てんそん）と結ばれた地上の女神について考察する。
第 3 回	コノハナノサクヤビメの行動	女神についての神話を解説し、女神が天上のアマテラスを模すこと、一方で隼人の女神らしい行動をとることを述べる。
第 4 回	ヨ（よ・世・代・節）1	ヨ（ユ）は区切られた年代のほか、様々な意味を持つ。そのことを考察する。
第 5 回	ヨ 2	南西諸島の祭祀において、世を乞う（ユークイ）という儀礼が行なわれる。ヨ、ユとは何かを考察する。
第 6 回	ヨ 3	『竹取物語』のカグヤヒメは竹の節にいた。この節もまたヨといわれる。そのことを考察する。
第 7 回	カグという語	カグヤヒメのカグは、大和三山の香具（カグ）山、火の神のカグツチと関わる。そのことを考察する。
第 8 回	カゲ（影）	カゲは霊力を意味する言葉であり、南西諸島では光を意味することもある。その用例を考察する。
第 9 回	隼人と畿内	南九州の隼人が畿内に移動していたことと、その働きについて考察する。
第 10 回	このはなのサクヤビメとなよたけのカグヤヒメ	サクヤビメとカグヤヒメの神話的類似について考察する。
第 11 回	富士山	コノハナノサクヤビメは富士山の女神とされる。そのことを考察する。
第 12 回	隼人と水の献上	隼人は古代の朝廷で水を献上する役割を担っていた。そのことを考察する。
第 13 回	日向出身の皇妃	神話には日向出身の隼人の女性が皇妃になったことを語る。その意義を考察する。
第 14 回	隼人と狗（いぬ）吠え	朝廷で、隼人は魔を祓うため特殊な声を出す（狗吠え）役割を担っていた。そのことを考察し、秋学期の授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・『火山と竹の女神』の「火山と竹の女神」の項目をよく読むこと。また授業内容の理解を助けるためのプリントを授業支援システムにアップするので、プリントも参照すること。
・簡単な参考文献、インターネットで読める資料なども周知するようにするので、そちらも参考にすること。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『火山と竹の女神』（福寛美、七月社、2021 年）2021 年 3 月末に刊行予定のため、価格は未定。

【参考書】
『夜の海、永劫の海』（福寛美、新典社、2011 年）
『うたの神話学』（福寛美、森話社、2014 年）
『新うたの神話学』（福寛美、新典社、2020 年）

【成績評価の方法と基準】
・学期末に試験を行う。問題を複数提示し、2 問を選び、それぞれ 300 字以上記述する、という形にする。
・平常点も留意する。最低 6 回は出席すること。
・試験を 70%、平常点を 30%として採点する。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容が受講生にとって未知で難解なものである場合、戸惑いの声を聞くこともあるが、なるべくわかりやすく解説するようにつとめる。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに授業の内容の理解を深めるためのプリントをアップするので、それを見ることができる環境（パソコン）があることが望ましい。

【Outline and objectives】
The myths and folklore of Nansei Islands are closely related to Southern Kyushu. The Hayato were the people who sailed across the Southern Kyushu and Southern Satsuma islands. In this course, the myth of the Hayato and the people of the sea who sailed across the Nansei areas will be learned. The relationship between the Hayato from the Southern Kyushu and Japanese myths reveals the presence of Hayato people in Japanese myths. The culture of ancient Kyushu will be deeply learned.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１５）国際日本学Ａ

STEVEN GEORGE NELSON

授業コード：A2703　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかかわり合いを、主に 2 つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人 3 人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。
・内村鑑三（1861-1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908。*Japan and the Japanese*［1894］の改訂版）。
・新渡戸稲造（1862-1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
・岡倉天心（1862-1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。
文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】
・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心ですが、計 3 回の討論会（授業第 5・9・13 回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず 1 回参加するとともに、議論にも参加します。授業第 1 ～ 3 回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート プレゼンテーション担当の調整
第 2 回	「（国際）日本学」とは	世界の中の日本 文化圏の存在 プレゼンテーションの準備
第 3 回	日本意識の芽生えと発展	「中華思想」との接触 中世の日本意識 プレゼンテーションの準備（続）
第 4 回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	キリスト教宣教師の見聞（ザビエルとフロイス） 長崎（出島）歴代オランダ商館長らの研究 博物学と本草学
第 5 回	討論会① 内村鑑三著『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第 6 回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン等
第 7 回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japan の設立と活動
第 8 回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第 9 回	討論会② 新渡戸稲造『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第 10 回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第 11 回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の大出世
第 12 回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第 13 回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第 14 回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからパウンド・イェイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 5・9・13 回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。
第 6 回　テキスト pp. 10-17
第 7 回　テキスト pp. 18-23
第 8 回　テキスト pp. 64-69、70-77
第 14 回　テキスト pp. 104-111
その他の回　事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。
プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著　ゴンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】
授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー（35 %）、プレゼンテーションと議論への参加度（25 %）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40 %）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline and objectives】
This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Students give presentations (3 sessions in total) on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１５）国際日本学Ｂ

STEVEN GEORGE NELSON

授業コード：A2704 ｜ 曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた *The Chrysanthemum and the Sword*（菊と刀、1946）と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960 年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】
・「文化の型」という見方で 20 世紀前半の日本を捉えた *The Chrysanthemum and the Sword* の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
・戦後、特に 1960 年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義が中心ですが、計 3 回の討論会（授業第 5・9・12 回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず 1 回参加するとともに、議論にも参加します。授業第 1 ～ 3 回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第 2 回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第 3 回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第 4 回	『菊と刀』③	青木保（『「日本文化論」の変容』）の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第 5 回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第 5 章 “Debtor to the Ages and the World” と第 6 章 “Repaying One-Ten-Thousandth”
第 6 回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー 等の活躍
第 7 回	60 ～ 70 年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー 等
第 8 回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま（極論も含めて）
第 9 回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第 7 章 “The Repayment Hardest to Bear” と第 8 章 “Clearing One’s Name”
第 10 回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第 11 回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧（イ・オリョン）、ハルミ・ベフ、青木保 ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第 12 回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐって	プレゼンテーションと討論 第 10 章 “The Dilemma of Virtue”
第 13 回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化の恥」論
第 14 回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 5・9・12 回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。
第 2 回　テキスト pp. 182-187
第 6 回　テキスト pp. 214-219、266-271
第 7 回　テキスト pp. 248-253
第 11 回　テキスト pp. 260-265
その他の回　事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。
プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著　ゴンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】
青木保『「日本文化論」の変容　戦後日本の文化とアイデンティティー』（中央公論社、1990）中公文庫 533、1999

【成績評価の方法と基準】
リアクション・ペーパー（35 %）、プレゼンテーションと議論への参加度（25 %）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40 %）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】
『菊と刀』の内容検討に当てる授業数を増やしました。

【その他の重要事項】
担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline and objectives】
This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict’s *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict’s book, students give presentations (3 sessions in total) on Benedict’s discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 & 6), *giri* (Chapters 7 & 8), and *haji* (Chapter 10). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

LIT300BC

文化史１／文化史１（資格）

安原　眞琴

夜間時間帯

授業コード：A2581,A3861　｜　曜日・時限：**木曜 6 限**

春学期・2 単位

備考（履修条件等）：**・日本文学科生でない文学部生が「文化史１」(資格）を履修する場合は哲学科主催の「文化史１」（資格）(A2262)を履修すること。**

・本科目を履修済みの場合、A2707「日本文芸研究特講（１６）特域Ｃ」（夜間科目）は履修不可。

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

概要：この授業では、仮名草子について多角的に学ぶことで、〈文学〉が、いつ頃、どのように始まったのかを探る。

目的：我々は、日本文学史の中で看過されてきた仮名草子について学び、その重要性を知り、また、常日頃、何かを書いたり読んだりしているが、それが当たり前ではなかったことを学び、それによって、気持ちと言葉と表現媒体の関係性について認識をあらたにする。

【到達目標】

①日本文学史で看過されてきた仮名草子を学び、その特徴や重要性が説明できるようになる。

②仮名草子の社会的背景を学び、文学と社会との関係性が説明できるようになる。

③出版文化を中心とする江戸初期の書物史の概要を学び、説明できるようになる。

④古語、故事などを学びながら仮名草子を読むことで、読解力と古典的な素養を身に付けることができる。

⑤リアクションペーパーやレポートなどを通して、文章力を身につけることができる。

⑥個別の作品読解と同時に、「人が何かを書き発信し読む」ことに注目しながら学習していくことで、応用編として、執筆動機と、言葉と、表現媒体の関係性について持続的な関心を持つことができ、その考察のために時代やジャンルを問わず情報収集を行い、それらを批判的に取捨選択した上で、創造的に再構築する力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

①講義形式だが、以下のような予習の答え合わせやリアクションペーパーのフィードバック時に、質疑応答やグループシスカッションなど、アクティブラーニングを行う。

②予習として、配布テキストを読み、分からない言葉などを調べ、ノートにまとめ、次の授業までに、学習支援システム等で提出する（ノートの定型は授業時に伝える）。

③毎回リアクションペーパーまたはクイズを提出し、授業内容の理解を深める。そして、次の授業のはじめの時間で、リアクションペーパーから良いコメントをいくつかとりあげ（またはクイズの答えを発表し）、全体に対してフィードバックすることで、知識を共有し、認識を高め合う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業準備	予習：仮名草子について調べて、50 字程度で簡単にまとめる。ネット利用可。 授業：授業の内容や進め方、成績評価方法などについて概説する。
第 2 回	仮名草子とは？ ～文学のはじまり？ ～	予習：指示した「仮名草子」の参考文献を読んでくる。 授業：「仮名草子」の通説と授業で学ぶ内容の違いを、おおよそ理解する。
第 3 回	日本文学史を概観する（1） 仮名草子以前の文学	予習：「お伽草子」を調べて 50 字程度でまとめてくる。ネット利用可。 授業：「お伽草子」や絵巻、写本などの概要を理解する。
第 4 回	日本文学史を概観する（2） 仮名草子以後の文学	予習：「浮世草子」を調べて 50 字程度でまとめてくる。ネット利用可。 授業：「浮世草子」や井原西鶴などの概要を理解する。
第 5 回	準備体操 仮名草子の時代と作者	予習：仮名草子の参考文献に出てくる作者について調べてくる。ネットも利用可。 授業：作者に注目することで、仮名草子の特徴の一端を理解する。
第 6 回	時代背景を知る 『可笑記』を読む①	予習：『可笑記』の作者とその時代背景について調べてくる。ネット利用可。 授業：作者が生きた時代背景を理解する。
第 7 回	本文を読む＋語釈 『可笑記』を読む②	予習：提示した『可笑記』のテキストを読んでくる。 授業：作者の執筆動機の一端を理解する。
第 8 回	落語のはじまり 『醒睡笑』を読む①	予習：落語の始まりについて調べてくる。ネット利用可。 授業：『醒睡笑』の内容について理解する。
第 9 回	江戸初期書物史の一端 『醒睡笑』を読む②	予習：板倉重宗について調べてくる。ネット利用可。 授業：口承、書承、出版、販売という展開について理解する。
第 10 回	恋愛小説の変化と社会的背景 『うらみのすけ』を読む①	予習：『ドン・キホーテ』の予習：あらすじを調べてくる。ネット利用可。 授業：仮名草子とそれ以前の恋愛小説の違いを理解する。
第 11 回	執筆動機と社会的背景 『うらみのすけ』を読む②	予習：かぶき者について調べてくる。ネット利用可。 授業：執筆動機と社会的背景の関係性について理解する。
第 12 回	浮世という俗世で生きる人々 『竹斎』を読む①	予習：「竹斎」という名前を調べてくる。ネット利用可。 授業：庶民の生活を描いた文学としての『竹斎』について理解する。
第 13 回	都市観光文学のはじまり？ 『竹斎』を読む②	予習：『竹斎』のあらすじを調べてくる。ネット利用可。 授業：『竹斎』を読みながら、都市観光文学を概観する。
第 14 回	仮名草子とメディア 写本から版本へ	予習：写本、版本、古活字本、整版本、嵯峨本について調べてくる。ネット利用可。 授業：仮名草子を通して、作者、読者の誕生や、表現媒体と表現心理の関係性などについて考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間として、１回につき４時間以上かける。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、複数の参考書を使って授業を進める。

【参考書】

基本的に、複数の参考書を、それぞれ部分的に利用する予定である。

授業時にも指示するが、いくつかあげておけば、次のような参考書を用いる。

・榎本隆司編『はじめて学ぶ日本文学史』（ミネルヴァ書房、2010 年）

・渡辺守邦『可笑記』（教育社新書〈原本現代訳〉51、教育社、1979 年（1986 年新装））

・前田金五郎校注『日本古典文学大系 90 仮名草子集』（岩波書店、1965 年）

【成績評価の方法と基準】

・毎回のリアクションペーパーまたはクイズ（50 %：到達目標との対応①②③④⑤）

・予習＝宿題（30 %：到達目標との対応①②③④）

・期末レポートおよび試験（20 %：到達目標との対応①②③④⑤⑥）

（注１）試験は最終授業時に行う。その日にどうしても受けられない学生は翌朝（8 時頃）学習支援システム等を介して前日とは内容の異なる試験を受ける。

（注２）期末レポートは、学習支援システム等を介して、最終授業終了時から１週間後の 23:59 までの間に提出する。

（注３）スクーリング学生はメールでの提出を受け付ける。メールが不可能な学生は授業時に指示するのでオフィスアワーに申し出ること。

【学生の意見等からの気づき】

毎年、学生の授業への参加度が高いため目標達成度も高いが、授業以外の学習時間は少ないようなので、予習、復習の促進と同時に、高度な情報収集やまとめを課すなどして、学習への意欲をより一層高めたい。

【学生が準備すべき機器他】

この授業では、学習支援システムを利用するので、使える準備をしてください。ただし、スクーリング学生は、学習支援システムの代わりになるものを授業時に指示します。

また、もしオンライン授業になった場合、PC かスマホが必要になります。

【その他の重要事項】

オフィスアワーに質問などを受け付けます。

・対面授業の場合、授業終了後、教卓前に来てください。

・オンライン授業の場合、授業終了後、zoom などのチャットで行います。

・それ以外の時間は、学習支援システム等に記入してください（その場合即答はできません）。

・上記が不可能な場合やどうしても連絡が必要な場合は、安原眞琴公式サイトの contact から連絡してください。

安原眞琴公式サイト

http://www.makotooffice.net/

【Outline and objectives】
Outline: In this class, we will explore when and how "literature" began by learning about Kanazoshi from various angles.
objectives: We usually write and read something, but learn that it was not the norm, thereby renewing our awareness of the relationship between feelings, words and media of expression.

LIT300BC

文化史２／文化史２（資格）

山口　恭子

夜間時間帯
授業コード：A2582, A3862　｜　曜日・時限：**木曜 6 限**
秋学期授業/Fall・2 単位
備考（履修条件等）：**・日本文学科生でない文学部生が「文化史２」(資格）を履修する場合は哲学科主催の「文化史２」（資格）(A2263）を履修すること。**
・本科目を履修済みの場合、A2707「日本文芸研究特講（１６）特域Ｄ」（夜間科目）は履修不可。

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

【到達目標】
中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史的事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。
なお、授業の内容に関して毎時リアクションペーパーを提出してもらいます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・書および書道史研究について
	中国書道史１	・古代の漢字
	（殷・周の書）	・甲骨文と金文
第 2 回	中国書道史２	・始皇帝の文字統一
	（秦・漢の書）	・隷書の発展と後漢の石碑
第 3 回	中国書道史３	・書体の発展
	（三国の書）	
第 4 回	中国書道史４	・王羲之、王献之の書
	（東晋の書）	
第 5 回	中国書道史５	・北朝の石刻について
	（南北朝の書）	
第 6 回	中国書道史６	・初唐の三大家と楷書
	（唐の書）	
第 7 回	日本書道史１	・文字の受容
	（飛鳥・奈良の書）	・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第 8 回	日本書道史２	・三筆の書
	（平安前期の書）	
第 9 回	日本書道史３	・三蹟の書
	（平安中期の書）	・和様の成立
第 10 回	日本書道史４	・仮名の書とその書美
	（仮名の書のさまざま）	
第 11 回	日本書道史５	・西本願寺本三十六人家集
	（平安後期の書）	
第 12 回	日本書道史６	・尊円親王の書
	（中世の書）	・さまざまな書流
第 13 回	日本書道史７	・寛永の三筆の書
	（近世の書）	
第 14 回	まとめ	中国書道史、日本書道史のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館で、『書道全集』（平凡社、１９７４年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、１９９６年）といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】
・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮　書道史年表事典』（萱原書房、２００５年）

・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、２００９年）
・名児耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、２００９年）
そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験（70 %）平常点（30 %）により評価します。とくに、試験では、主要な書道史的事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy. The aim of this course is to understand the fundamentals of calligraphy history, such as typefaces, calligraphers, written works.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１６）特域C

安原　眞琴

夜間時間帯
授業コード：A2707　｜　曜日・時限：**木曜 6 限**
春学期・2 単位
備考（履修条件等）：**・本科目を履修済みの場合、A2581「文化史１」（夜間科目）は履修不可。**
・学芸員の資格取得に本科目は適用となりません。A2581「文化史１」を履修登録してください。

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
概要：この授業では、仮名草子について多角的に学ぶことで、〈文学〉が、いつ頃、どのように始まったのかを探る。
目的：我々は、日本文学史の中で看過されてきた仮名草子について学び、その重要性を知り、また、常日頃、何かを書いたり読んだりしているが、それが当たり前ではなかったことを学び、それによって、気持ちと言葉と表現媒体の関係性について認識をあらたにする。

【到達目標】
①日本文学史で看過されてきた仮名草子を学び、その特徴や重要性が説明できるようになる。
②仮名草子の社会的背景を学び、文学と社会との関係性が説明できるようになる。
③出版文化を中心とする江戸初期の書物史の概要を学び、説明できるようになる。
④古語、故事などを学びながら仮名草子を読むことで、読解力と古典的な素養を身に付けることができる。
⑤リアクションペーパーやレポートなどを通して、文章力を身につけることができる。
⑥個別の作品読解と同時に、「人が何かを書き発信し読む」ことに注目しながら学習していくことで、応用編として、執筆動機と、言葉と、表現媒体の関係性について持続的な関心を持つことができ、その考察のために時代やジャンルを問わず情報収集を行い、それらを批判的に取捨選択した上で、創造的に再構築する力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
①講義形式だが、以下のような予習の答え合わせやリアクションペーパーのフィードバック時に、質疑応答やグループシスカッションなど、アクティブラーニングを行う。
②予習として、配布テキストを読み、分からない言葉などを調べ、ノートにまとめ、次の授業までに、学習支援システム等で提出する（ノートの定型は授業時に伝える）。
③毎回リアクションペーパーまたはクイズを提出し、授業内容の理解を深める。そして、次の授業のはじめの時間で、リアクションペーパーから良いコメントをいくつかとりあげ（またはクイズの答えを発表し）、全体に対してフィードバックすることで、知識を共有し、認識を高め合う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業準備	予習：仮名草子について調べて、50 字程度で簡単にまとめる。ネット利用可。 授業：授業の内容や進め方、成績評価方法などについて概説する。
第 2 回	仮名草子とは？ ～文学のはじまり？ ～	予習：指示した「仮名草子」の参考文献を読んでくる。 授業：「仮名草子」の通説と授業で学ぶ内容の違いを、おおよそ理解する。
第 3 回	日本文学史を概観する（1） 仮名草子以前の文学	予習：「お伽草子」を調べて 50 字程度でまとめてくる。ネット利用可。 授業：「お伽草子」や絵巻、写本などの概要を理解する。
第 4 回	日本文学史を概観する（2） 仮名草子以後の文学	予習：「浮世草子」を調べて 50 字程度でまとめてくる。ネット利用可。 授業：「浮世草子」や井原西鶴などの概要を理解する。
第 5 回	準備体操 仮名草子の時代と作者	予習：仮名草子の参考文献に出てくる作者について調べてくる。ネットも利用可。 授業：作者に注目することで、仮名草子の特徴の一端を理解する。

第 6 回	時代背景を知る 『可笑記』を読む①	予習：『可笑記』の作者とその時代背景について調べてくる。ネット利用可。 授業：作者が生きた時代背景を理解する。
第 7 回	本文を読む＋語釈 『可笑記』を読む②	予習：提示した『可笑記』のテキストを読んでくる。 授業：作者の執筆動機の一端を理解する。
第 8 回	落語のはじまり 『醒睡笑』を読む①	予習：落語の始まりについて調べてくる。ネット利用可。 授業：『醒睡笑』の内容について理解する。
第 9 回	江戸初期書物史の一端 『醒睡笑』を読む②	予習：板倉重宗について調べてくる。ネット利用可。 授業：口承、書承、出版、販売という展開について理解する。
第 10 回	恋愛小説の変化と社会的背景 『うらみのすけ』を読む①	予習：『ドン・キホーテ』の予習：あらすじを調べてくる。ネット利用可。 授業：仮名草子とそれ以前の恋愛小説の違いを理解する。
第 11 回	執筆動機と社会的背景 『うらみのすけ』を読む②	予習：かぶき者について調べてくる。ネット利用可。 授業：執筆動機と社会的背景の関係性について理解する。
第 12 回	浮世という俗世で生きる人々 『竹斎』を読む①	予習：「竹斎」という名前を調べてくる。ネット利用可。 授業：庶民の生活を描いた文学としての『竹斎』について理解する。
第 13 回	都市観光文学のはじまり？ 『竹斎』を読む②	予習：『竹斎』のあらすじを調べてくる。ネット利用可。 授業：『竹斎』を読みながら、都市観光文学を概観する。
第 14 回	仮名草子とメディア 写本から版本へ	予習：写本、版本、古活字本、整版本、嵯峨本について調べてくる。ネット利用可。 授業：仮名草子を通して、作者、読者の誕生や、表現媒体と表現心理の関係性などについて考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間として、１回につき４時間以上かける。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定せず、複数の参考書を使って授業を進める。

【参考書】
基本的に、複数の参考書を、それぞれ部分的に利用する予定である。
授業時にも指示するが、いくつかあげておけば、次のような参考書を用いる。
・榎本隆司編『はじめて学ぶ日本文学史』（ミネルヴァ書房、2010 年）
・渡辺守邦『可笑記』（教育社新書〈原本現代訳〉51、教育社、1979 年（1986 年新装））
・前田金五郎校注『日本古典文学大系 90 仮名草子集』（岩波書店、1965 年）

【成績評価の方法と基準】
・毎回のリアクションペーパーまたはクイズ（50 %：到達目標との対応①②③④⑤）
・予習＝宿題（30 %：到達目標との対応①②③④）
・期末レポートおよび試験（20 %：到達目標との対応①②③④⑤⑥）
（注１）試験は最終授業時に行う。その日にどうしても受けられない学生は翌朝（8 時頃）学習支援システム等を介して前日とは内容の異なる試験を受ける。
（注２）期末レポートは、学習支援システム等を介して、最終授業終了時から１週間後の 23:59 までの間に提出する。
（注３）スクーリング学生はメールでの提出を受け付ける。メールが不可能な学生は授業時に指示するのでオフィスアワーに申し出ること。

【学生の意見等からの気づき】
毎年、学生の授業への参加度が高いため目標達成度も高いが、授業以外の学習時間は少ないようなので、予習、復習の促進と同時に、高度な情報収集やまとめを課すなどして、学習への意欲をより一層高めたい。

【学生が準備すべき機器他】
この授業では、学習支援システムを利用するので、使える準備をしてください。ただし、スクーリング学生は、学習支援システムの代わりになるものを授業時に指示します。
また、もしオンライン授業になった場合、PC かスマホが必要になります。

【その他の重要事項】
オフィスアワーに質問などを受け付けます。
・対面授業の場合、授業終了後、教卓前に来てください。
・オンライン授業の場合、授業終了後、zoom などのチャットで行います。
・それ以外の時間は、学習支援システム等に記入してください（その場合即答はできません）。
・上記が不可能な場合やどうしても連絡が必要な場合は、安原眞琴公式サイトの contact から連絡してください。
安原眞琴公式サイト
http://www.makotooffice.net/

【Outline and objectives】
Outline: In this class, we will explore when and how "literature" began by learning about Kanazoshi from various angles.
objectives: We usually write and read something, but learn that it was not the norm, thereby renewing our awareness of the relationship between feelings, words and media of expression.

LIT300BC

日本文芸研究特講（１６）特域Ｄ

山口　恭子

夜間時間帯
授業コード：A2708　｜　曜日・時限：**木曜 6 限**
秋学期・2 単位
備考（履修条件等）：**・日本文学科生でない文学部生が「文化史２」(資格) を履修する場合は哲学科主催の「文化史２」(資格) (A3862) を履修すること。**
・本科目を履修済みの場合、「文化史２」(A2582)(夜間) は履修不可。
・日本文学科生が学芸員の資格を取得するには「文化史２」(A2582) を履修登録する必要があります。特域 D では学芸員科目になりませんのでご注意ください。

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

【到達目標】
中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史的事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。
なお、授業の内容に関して毎時リアクションペーパーを提出してもらいます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・書および書道史研究について
	中国書道史１	・古代の漢字
	（殷・周の書）	・甲骨文と金文
第 2 回	中国書道史２	・始皇帝の文字統一
	（秦・漢の書）	・隷書の発展と後漢の石碑
第 3 回	中国書道史３	・書体の発展
	（三国の書）	
第 4 回	中国書道史４	・王羲之、王献之の書
	（東晋の書）	
第 5 回	中国書道史５	・北朝の石刻について
	（南北朝の書）	
第 6 回	中国書道史６	・初唐の三大家と楷書
	（唐の書）	
第 7 回	日本書道史１	・文字の受容
	（飛鳥・奈良の書）	・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第 8 回	日本書道史２	・三筆の書
	（平安前期の書）	
第 9 回	日本書道史３	・三蹟の書
	（平安中期の書）	・和様の成立
第 10 回	日本書道史４	・仮名の書とその書美
	（仮名の書のさまざま）	
第 11 回	日本書道史５	・西本願寺本三十六人家集
	（平安後期の書）	
第 12 回	日本書道史６	・尊円親王の書
	（中世の書）	・さまざまな書流
第 13 回	日本書道史７	・寛永の三筆の書
	（近世の書）	
第 14 回	まとめ	中国書道史、日本書道史のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館で、『書道全集』（平凡社、１９７４年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、１９９６年）といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定しません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】
・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮　書道史年表事典』（萱原書房、２００５年）
・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、２００９年）
・名児耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、２００９年）
そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】
試験（70 %）平常点（30 %）により評価します。とくに、試験では、主要な書道史的事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy. The aim of this course is to understand the fundamentals of calligraphy history, such as typefaces, calligraphers, written works.

BSP100BC

ゼミナール入門

［クラス指定あり］

加藤　昌嘉、小林　ふみ子、坂本　勝、佐藤　未央子、伊海　孝充、中丸　宣明、遠藤　星希、尾谷　昌則、田中　和生、藤村　耕治

授業コード:A2605,A2606,A2607,A2608,A2609,A2610,A2611,A2612,A2613,A2614
｜　曜日・時限：**月曜 3 限, 月曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文学科では、２・３年次に所属する「ゼミナール」（ゼミ）によって、文学／言語／文芸の３コースに分かれます。ゼミでは、専門性の高い課題に、共同で取り組んでゆきます。そして、４年次には、学業の集大成として、卒業論文を執筆することになります。
この授業では、ゼミで必要なプレゼンテーション力やディスカッション力を養うために、発表の技術や討議の方法を「入門」的に学んでゆきます。
★「ゼミナール入門」は、２・３年次にゼミで学習してゆくための導入授業です。１年生の受講を強く推奨します。
★「大学での国語力」と「ゼミナール入門」は、学生証番号によって受講クラスが指定されています。文学部ホームページに掲載される《日本文学科「大学での国語力」「ゼミナール入門」クラス表》を見て、担当教員と曜日時限を確認し、履修登録をしてください。

【到達目標】
１，問題提起的な発表内容を準備することができる
２，わかりやすいレジュメを作成することができる
３，他人の発表を聴き疑問点を見出すことができる
以上のような力を身につけたうえで、「レジュメ（発表資料）を使って研究成果を発表し、他者と議論することができること」を、最終到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文献調査、レジュメの作成、口頭発表（プレゼンテーション）、質疑応答（ディスカッション）など、実践的な課題に取り組んでもらいます。
★受講者のレジュメなどに対するフォローアップ（フィードバック）は、授業内および学習支援システム内で行います。
★１０月末に、コースとゼミ選抜についてのガイダンスを実施します（全クラス合同）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介・課題選択など
2	準備編①	テーマを考える
3	準備編②	文献調査
4	準備編③	ミーティング
5	準備編④	レジュメの準備
6	ガイダンス	コースとゼミ選抜の説明
7	発展編①	発表・質疑応答
8	発展編②	発表・質疑応答
9	発展編③	発表・質疑応答
10	発展編④	発表・質疑応答
11	応用編①	発表・質疑応答
12	応用編②	発表・質疑応答
13	応用編③	発表・質疑応答
14	応用編④	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメの作成や発表の準備を、各自で進めること。
※本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
『法政大学　学習支援ハンドブック』ＰＤＦ版
https://hosei-hondana.actibookone.com/

【成績評価の方法と基準】
１，問題提起的な発表内容を準備することができたか（３０％）
２，わかりやすいレジュメを作成することができたか（４０％）
３，他人の発表を聴き疑問点を見出すことができたか（３０％）

【学生の意見等からの気づき】
◎受講者からは、「どうやってテーマを絞るのか、どうやってレジュメに落とし込むのか、どうやってプレゼンをするのか、具体的に理解できた」、「クラスメイトと議論することができ、ゼミに入るための準備ができた」などの感想が寄せられました。
◎担当教員全員でミーティングを行い、授業内容を検討し工夫しています。

【その他の重要事項】
各担当者が本シラバス内容の授業を実施します（１０クラス開講）

【Outline and objectives】
This course introduces the methods of academic presentation and academic discussion.

LIN200BC

日本言語史 A

阿部　美菜子

授業コード：A2433　｜　曜日・時限：水 5/Wed.5
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
奈良時代～鎌倉・室町時代の日本語を概観すると共に、各回のテーマに関する知識や理解を深める。

【到達目標】
日本語の歴史についての理解を深め、日本語の現在・未来について考える視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストのほか、プリントを使った講義形式での授業を基本とする。このほか、リアクションペーパー（毎時間）や小レポートを書いてもらうこともある。※授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	奈良時代の日本語（1）	話し言葉中心の社会
第 2 回	奈良時代の日本語（2）	文字との出会い
第 3 回	奈良時代の日本語（3）	万葉仮名
第 4 回	奈良時代の日本語（4）	日本固有の文字
第 5 回	奈良時代の日本語（5）	発音
第 6 回	平安時代の日本語（1）	日本語最古の文章
第 7 回	平安時代の日本語（2）	和語による翻訳
第 8 回	平安時代の日本語（3）	カタカナの誕生
第 9 回	平安時代の日本語（4）	「万葉仮名」から「草仮名」への変化
第 10 回	平安時代の日本語（5）	ひらがなの表現
第 11 回	鎌倉・室町時代の日本語（1）	係り結びの法則（強調表現）
第 12 回	鎌倉・室町時代の日本語（2）	係り結びの法則（疑問・反語表現）
第 13 回	鎌倉・室町時代の日本語（3）	係り結びの衰退、消滅
第 14 回	鎌倉・室町時代の日本語（4）	武士の言葉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストや配布資料を事前に読んだ上で授業に臨むこと。
講義を聞き流すだけではなく、各回の内容についての自らの考えを深化させることを心がけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
山口仲美『日本語の歴史』、岩波書店、2006 年、820 円＋税

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
小レポート（40%）と授業内試験（40%）、リアクションペーパー（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業内容・方法の変更は、今後、学習支援システムを通じて告知する。

【Outline and objectives】
It is intended to deepen knowledge and the understanding about Japanese of the Nara period - the Kamakura and Muromachi period.

LIN200BC

日本言語史 B

間宮　厚司

授業コード：A2435　｜　曜日・時限：水 5/Wed.5
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

【到達目標】
日本語の「過去・現在・未来」について理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200 字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介し、質問に答えます。なお、受講者数が確定した段階で、座席を指定する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	江戸時代の言語的特徴（1） 受講生の春学期の大レポートの報告（1）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（1）
第 3 回	江戸時代の言語的特徴（2） 受講生の春学期の大レポート報告（2）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（2）
第 4 回	江戸時代の言語的特徴（3） 受講生の春学期の大レポート報告（3）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（3）
第 5 回	江戸時代の言語的特徴（4） 受講生の春学期の大レポート報告（4）	プリント等で解説し、授業内に小レポートを提出（4）
第 6 回	明治時代から戦前の言語的特徴（1） 受講生の春学期の大レポート報告（5）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（5）
第 7 回	明治時代から戦前の言語的特徴（2） 受講生の春学期の大レポート報告（6）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（6）
第 8 回	明治時代から戦前の言語的特徴（3） 受講生の春学期の大レポート報告（7）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（7）
第 9 回	明治時代から戦前の言語的特徴（4） 受講生の春学期の大レポート報告（8）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（8）
第 10 回	戦後の言語的特徴（1） 受講生の春学期の大レポート報告（9）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（9）
第 11 回	戦後の言語的特徴（2） 受講生の春学期の大レポート報告（10）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（10）
第 12 回	戦後の言語的特徴（3） 受講生の春学期の大レポート報告（11）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（11）
第 13 回	戦後の言語的特徴（4） 受講生の春学期の大レポート報告（12）	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出（12）
第 14 回	まとめ	大レポート提出と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を活用し、日本語史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定せず、プリントを使用します。

【参考書】
参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎時間提出する小レポート (30%) と最終授業時に提出する大レポート (40%) と発表（30 %）の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教室授業にしてほしい。

【Outline and objectives】
In this lecture, you are going to use several handouts that I'm going to give you in the class. The lecture introduces the history of Japanese Language to students taking this course.

LIN200BC

日本文法論 A

阿部　美菜子

授業コード：A2437　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の文法システムやその特徴に関する知識や理解を深めることを目的とする。また、日本語文法について「考える力」の向上を目指す。

【到達目標】
(1) 日本語文法の基礎を理解する。
(2) 日本語文法に関する問題点について理解し、それらを詳細に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式での授業を基本とする。このほか、リアクションペーパー（毎時間）や、小レポートを書いてもらうこともある。
※授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入 (1)	授業の目的、授業の進め方などの確認
第 2 回	導入 (2)	日本語文法について「考える」ことの意義
第 3 回	品詞	品詞の定義、分類
第 4 回	活用 (1)	活用の仕組み、用法
第 5 回	活用 (2)	学校文法の活用表
第 6 回	格助詞 (1)	格助詞の性質
第 7 回	格助詞 (2)	格助詞の用法、使い分け
第 8 回	文構造と文法カテゴリー	語義と文法的性質の関係
第 9 回	主題と主語	主語の定義、さまざまな主題化
第 10 回	ボイス (1)	受身の定義、機能、種類
第 11 回	ボイス (2)	使役の定義、構造
第 12 回	自動詞と他動詞	定義、対応のパターン
第 13 回	授受表現	授受動詞の対立、使い分け
第 14 回	まとめ	春学期の学習内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料をよく読むこと。講義を聞き流すだけではなく、各回の内容について自らの考えを深化させることを心がけてほしい。
※本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 40 %、小レポート 40 %、リアクションペーパー 20 %　により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

【Outline and objectives】
It is intended to deepen knowledge and the understanding about a Japanese grammar system and the characteristic. In addition, I aim at the improvement of "the power to think" about Japanese grammar.

LIN200BC

日本文法論 A

尾谷　昌則

夜間時間帯
授業コード：A2438　｜　曜日・時限：**木曜 6 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
小中学校の国語で習う文法は橋本進吉の理論に基づいており「学校文法」とも呼ばれている。しかし、教科書に採用されているからといって、決して完璧な理論とは言えず、不備や例外もある。どこが間違っているのか、どう修正すべきなのか、それらを考えながら、学校文法を概観する。

【到達目標】
(1) 国語教員が押さえておきたい学校文法の基礎を理解し、それについて具体例をあげて説明できるようになる。
(2) 学校文法の不備・例外について理解し、それについて具体例を挙げて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で進めるが、単に結論を暗記すればいいと思ってもらっては困るので、受講生に積極的に発言してもらうべく、様々な問題・課題を与え、解答（もしくは回答）をリアクションペーパーに書いてもらう。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	品詞	品詞の定義と問題点について
第 2 回	活用	活用のしくみとその問題点について
第 3 回	文構造	文節同士の関係と文構造について
第 4 回	格助詞	格助詞の用法と意味について
第 5 回	副助詞	副助詞の用法と意味について
第 6 回	接続助詞	接続助詞の用法と意味について
第 7 回	修飾	連用修飾と連体修飾の問題点について
第 8 回	助動詞 (1)	受身・使役・可能の助動詞とその問題点について
第 9 回	助動詞 (2)	否定・時間の助動詞とその問題点について
第 10 回	助動詞 (3)	モダリティに関して
第 11 回	助動詞と働きかけの形式	対人的モダリティについて
第 12 回	敬語	敬語の分類とその問題点
第 13 回	文章・談話	文よりも大きな単位の研究について
第 14 回	文法	総括として、文法とは何かを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習（1時間）
授業内レポート（小テスト）の準備（2時間）
その日の講義の復習（1時間）

【テキスト（教科書）】
山田敏弘著『国語教師が知っておきたい日本語文法』東京：くろしお出版.（￥1,600）

【参考書】
庵功雄ほか 2000.『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』東京：スリーエーネットワーク.（￥2,310）
町田健　2002.『まちがいだらけの日本語文法』東京：講談社（￥735）

【成績評価の方法と基準】
授業内レポート（小テスト）　50 %
期末レポート　50 %

【学生の意見等からの気づき】
小中学校で習った文法にも多くの例外や不備があるということが新鮮だったとのコメントが多かった。そういった例外についてもっと深く考えてもらい、「文法は単なる暗記の授業ではない」ということを分かってもらうためにも、受講生が考え、発言する時間を多めにとりたい。

【Outline and objectives】
After reviewing the Japanese traditional grammar adopted to the textbooks for Japanese public junior high schools, we will discuss and study the irregularities or bugs in it. The objectives of this class are to understand such irregularities and to become able to explain them to someone else.

LIN200BC

日本文法論 B

阿部　美菜子

授業コード：A2439　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の文法システムやその特徴に関する知識や理解を深めることを目的とする。また、日本語文法について「考える力」の向上を目指す。

【到達目標】
(1) 日本語文法の基礎を理解する。
(2) 日本語文法に関する問題点について理解し、それらを詳細に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式での授業を基本とする。このほか、リアクションペーパー（毎時間）や、小レポートを書いてもらうこともある。
※授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	テンス (1)	テンスの役割、対立
第 2 回	テンス (2)	ル形、タ形の用法
第 3 回	アスペクト	状態と動き、「～ている」と「～てある」
第 4 回	モダリティ	モダリティの定義、分類
第 5 回	複文	複文の定義と分類
第 6 回	とりたて	「とりたて」の定義、とりたて助詞の性質
第 7 回	「は」と「が」	「は」と「が」の使い分け
第 8 回	修飾	連用修飾と連体修飾
第 9 回	のだ	「のだ」の分類、用法
第 10 回	敬語 (1)	敬語の分類
第 11 回	敬語 (2)	敬語の問題点、誤用
第 12 回	言葉の地域差	方言に関するさまざまな研究
第 13 回	言葉の変化、ゆれ	ら抜き言葉、さ入れ言葉
第 14 回	まとめ	秋学期の学習内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料をよく読むこと。講義を聞き流すだけではなく、各回の内容について自らの考えを深化させることを心がけてほしい。
※本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
適宜、プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 40 %、小レポート 40 %、リアクションペーパー 20 %　により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、フィードバックできません。

【Outline and objectives】
It is intended to deepen knowledge and the understanding about a Japanese grammar system and the characteristic. In addition, I aim at the improvement of "the power to think" about Japanese grammar.

LIN200BC

日本文法論 B

尾谷　昌則

夜間時間帯
授業コード：A2440　｜　曜日・時限：**木曜 6 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
認知言語学・構文文法の観点から、日本語文法について考え直すことを目的とする。授業の前半は認知言語学の基本的な概念を学び、中盤では分析事例について学ぶ。後半では、実際に学術論文を読むことで、学習した概念が言語分析にどのように利用されているのかを学ぶ。

【到達目標】
意味や文法における様々な「拡張・逸脱表現」について、(1) そのような表現のどの部分が「拡張・逸脱」であるのかを理解することと、(2) そのような「拡張・逸脱」が生まれたプロセスや動機付けについて、認知言語学の観点から分析・説明できるようになること、の 2 点が到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
▼テキストに沿って講義形式で進めるが、身近な言語事例をできるだけ多く挙げ、皆で会話をするようにじっくり進める。12 月頃には、授業で学習した概念を使用した研究事例となる学術論文を３，４本読みたいと考えている。
▼授業の終わりに、理解度を確認するための小テストを実施する。
▼必要に応じて、ZOOM を用いたオンライン授業を行う。その場合は、学習支援システムの「お知らせ」で URL や事前課題などを連絡する。チャット機能を利用した双方向授業になるため、通信環境を整えておくこと。
▼リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	伝統文法から認知言語学まで	言語学史を概観する
第 2 回	認知言語学の特徴 1	記号的言語観、動機付け、経験基盤主義、図地分化について
第 3 回	認知言語学の特賞 2	スキーマやプロトタイプについて
第 4 回	動的用法基盤モデル	Langacker の Usage-based モデルについて
第 5 回	構文文法	構文の定義とネットワークについて
第 6 回	類推拡張	類推に基づく拡張について
第 7 回	構文の分析 1	構文に反映されるスキャニングについて
第 8 回	構文の分析 2	構文に反映される語用論的意味について
第 9 回	構文の分析 3	構文の拡張と再分析
第 10 回	構文の分析 4	文法化と主観化について
第 11 回	事例研究 1	論文（文法化に関するもの）を読み、批判的に検討する。
第 12 回	事例研究 2	論文（主観化に関するもの）を読み、批判的に検討する。
第 13 回	事例研究 3	論文（スキャニングに関するもの）を読み、批判的に検討する。
第 14 回	まとめ	本講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習（2 時間）
その日の講義の復習（2 時間）

【テキスト（教科書）】
『構文ネットワークと文法』（尾谷昌則・二枝美津子著、研究社、3200 円税抜）

【参考書】
参考書・参考資料等
『認知言語学大事典』（新倉書店）
『ことばの認知科学事典』（辻幸夫編集、大修館書店）
『新編　認知言語学キーワード事典』（辻幸夫、研究社）
『日本語学キーワード事典』（小池清治ほか編著、朝倉書店）
『日本語文法大辞典』（山口明穂・秋本守英編著、明治書院）
『日本語研究のための認知言語学』（籾山洋介著、研究社）
『認知意味論: 言語から見た人間の心』（ジョージレイコフ著、紀伊国屋書店）
『認知意味論のしくみ』（籾山洋介著、研究社）
『認知意味論の新展開―メタファーとメトニミー』（谷口一美著、研究社）
『概念化と意味の世界　認知意味論のアプローチ』（深田智・仲本康一郎著、研究社）

【成績評価の方法と基準】
小テスト　60 %　　期末レポート　40 %

【学生の意見等からの気づき】
受講生がじっくり考える時間をとったことが好評であったため、今年度もそういった時間を多めに取り入れる。リアクションペーパーに記入した回答の全てについてコメントを返すのは難しいが、面白い回答はなるべく多く紹介したい。

【Outline and objectives】
This course is an introduction of cognitive linguistics and construction grammar.
Following "Nihon Bunpo-ron A" in the spring semester, this semester we will focus on the grammatically exceptional expressions or the extended constructions in Japanese, and try to locate them in the networks of our linguistic knowledge.

LIT200BC

日本文章史 A

細沼　祐介

授業コード：A2441　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文章を書くことは一種の特別な技術です。特に文学的な文章となればより専門的な技術が求められることとなりますし、実際にこれまで千差万別の様々な技巧が各人の工夫によって活かされてきました。また、それを正確に読み取り、鑑賞するために「読みの理論」も並行して整備されてきたことも見落とせません。この授業では、現代的な読みの理論としての文学理論を参照項としつつ、これまでの日本文学の歴史において試みられてきた様々な文章上の手法をテーマ小史のかたちで検証し、古代から現代にいたるまで、どう書かれ／どう読まれてきたかを学びます。

【到達目標】
日本文章史 A(春学期) では「文体と目的」、「視点と語り」、「オリジナリティ」の三つのテーマでそれぞれの推移を学びます。これらの項目にのっとり、歴代の作家たちの工夫とその推移を理解することを目的とします。また、それらを意味づけるために援用する各種の文学理論について理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
現時点では対面による講義形式を考えていますが、今後の状況次第で変更の可能性もあります。授業内ではリアクションペーパーの提出を行い、よい内容は授業でも
とりあげるほか、授業自体の方針にも反映させていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	読む理論と書く技術の関連について
第 2 回	文体と目的の文学史①	文章を書く目的について
第 3 回	文体と目的の文学史②	文学的文章の効能について
第 4 回	文体と目的の文学史③	雅／俗それぞれの利点について
第 5 回	文体と目的の文学史④	画期的な文体上の実践について
第 6 回	視点と語りの文学史①	様々な焦点化について
第 7 回	視点と語りの文学史②	語り手の機能と性質について
第 8 回	視点と語りの文学史③	叙述の順序と時制について
第 9 回	視点と語りの文学史④	語り手の前景化について
第 10 回	オリジナリティの文学史①	作品とテクストについて
第 11 回	オリジナリティの文学史②	「作者」という意識について
第 12 回	オリジナリティの文学史③	「間テクスト性」と「世界」について
第 13 回	オリジナリティの文学史④	鑑賞における読者の創造性について
第 14 回	まとめ	春学期の総括および課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各授業において、代表的な例として具体的な作品名を挙げることがあります。その場合次の授業までに必ず読んでおいてください。手に入りやすく短いものを挙げるつもりですが、たとえ書き手であっても読解力や資料の捜索能力は大前提として不可欠です。以下に提示した参考書を読むことも含めて、怠ることなく積極的に多くを読んでいきましょう。その場合の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
直接テキストとして指定する本はありません。そのかわり以下の「参考書」の項目にある本は適宜参考にしますので、復習する際に参照してください。

【参考書】
①廣野由美子『批評理論入門』中公新書、2015 年 2 月
②蓼沼正美『超入門！ 現代文学理論講座』ちくまプリマー新書、2015 年 1 月
③真銅正宏『小説の方法』萌書房、2007 年 4 月
このうち一冊読んでおけば問題ありません。② → ① → ③の順で難しくなりますが、そのぶん網羅的に学べます。おすすめは①です。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 50 %、授業内でのリアクションペーパー (内容および提出状況含む)50 %で評価します。仮に今後の情勢に応じて授業形態の変更があった場合はその都度連絡します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
まだ予断を許さない状況が続いていますので、学習支援システムを用いて課題等のやりとりをする可能性があります。

【その他の重要事項】
基本的に通年で履修することを前提としています。

【Outline and objectives】
This course introduces the transition of writing and reading in Japanese literature, focusing on literary theory.

LIT200BC

日本文章史Ｂ

細沼　祐介

授業コード：A2443　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本文章史 B では、A の内容を踏まえながら、「作品」を構成する文章以外のファクターにも目を向けつつ、それが文章自体の鑑賞にどのような作用をもたらすかも学んでいきます。

【到達目標】
日本文章史 B(秋学期) では「虚と実」、「メディア」、「読み」の三つのテーマでそれぞれの推移を学びます。これらの項目にのっとり、これまで文学作品がどう読まれ、どう理解されていったかについて学ぶことを目的とします。また、それらを意味づけるために援用する各種の文学理論について理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
現時点では対面による講義形式を考えていますが、今後の状況次第で変更の可能性もあります。授業内ではリアクションペーパーの提出を求めますが、よい内容は授業内で紹介するほか、内容によっては授業の展開自体に反映させるつもりです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	春学期を踏まえての今後の展開について
第 2 回	虚と実の文学史①	文学作品の虚構性について
第 3 回	虚と実の文学史②	虚構を書く／読む意味について
第 4 回	虚と実の文学史③	自然主義と私小説について
第 5 回	虚と実の文学史④	メタフィクションについて
第 6 回	メディアの文学史①	受容理論について
第 7 回	メディアの文学史②	パラテクストの作用について
第 8 回	メディアの文学史③	ジャンルの功罪について
第 9 回	メディアの文学史④	メディアの差異による技巧の変化について
第 10 回	読みの文学史①	読者の変遷について
第 11 回	読みの文学史②	文学作品の鑑賞について
第 12 回	読みの文学史③	読むための理論について
第 13 回	読みの文学史④	「よりよく読む」ことについて
第 14 回	まとめ	秋学期の総括および課題提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
秋学期同様、各授業において、代表的な例として具体的な作品名を挙げることがあります。その場合次の授業までに必ず読んでおいてください。手に入りやすく短いものを挙げるつもりですが、たとえ書き手であっても読解力や資料の捜索能力は大前提として不可欠です。以下の参考書を含めて、怠ることなく積極的に多くを読んでいきましょう。その場合の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
直接テキストとして指定する本はありません。そのかわり以下の「参考書」の項目にある本は適宜参考にしますので、復習する際に参照してください。

【参考書】
①廣野由美子『批評理論入門』中公新書、2015 年 2 月
②濱沼正美『超入門！ 現代文学理論講座』ちくまプリマー新書、2015 年 1 月
③真銅正宏『小説の方法』萌書房、2007 年 4 月
このうち一冊読んでおけば問題ありません。② → ① → ③の順で難しくなりますが、そのぶん網羅的に学べます。おすすめは①です。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 50 %、授業内でのリアクションペーパー (内容および提出状況含む)50 %で評価します。仮に今後の情勢に応じて授業形態の変更があった場合はその都度連絡します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
まだ予断を許さない状況が続いていますので、学習支援システムを用いて課題等のやりとりをする可能性があります。

【Outline and objectives】
This course introduces the transition of writing and reading in Japanese literature, focusing on literary theory.

LIT200BC

文章表現論A

田中　和生

授業コード：A2445　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
書きたいことを自分で見つけ、それを自分の好きなように書く、という新しい文章がはじまることの自由さを味わい、同時にその困難さも理解します。その自由さと困難さを入口にして、どうしたら自分の言いたいことをうまく言葉にできるのか、日本語による表現を模索し、その延長線上に現われる、詩や物語や批評といった文学的な言葉の使い方を手に入れることを目指します。

【到達目標】
まず書きたいことを見つけて文章を書きはじめる、という基本的な構えを身につけて文章に向かうこと。
次にその書きたいことをできるだけ明確に他人に伝える、という自分なりの表現を模索する姿勢を手に入れること。
以上を目標とし、理想としてはそれでもうまく言葉にすることができない、文学的な文章を書くということの自由さと困難さを実感します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。作文には毎回フィードバックとして書き込みの指摘と講評を行い、また学生自身が評価をする機会も設けて、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文章表現とはなにか	作文の基礎知識について確認します。
第 2 回	メモと作文	メモを取って作文することを実践します。
第 3 回	テーマと題名	書きたいことを自分で見つけるとはどういうことかを考察します。
第 4 回	詩の言葉への触手	散文と詩の違いを理解します。
第 5 回	書き出しの言葉を待つ	書き出しに注意して作文を実践します。
第 6 回	作文を評価する 1	学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。
第 7 回	具体的に書く	抽象的な書き方の問題について理解を深めます。
第 8 回	物語の力	小説と物語の違いについて考察を加えます。
第 9 回	別の角度から考える	客観的な言葉を書くための準備を行ってから作文に取り組みます。
第 10 回	紋切り型と一般論	自分の言葉を見つけるとはどういうことかを理解します。
第 11 回	批評性のある文章	批評的な言葉に触れます。
第 12 回	感情のなかで書く	言葉の力を実感しながら作文することを目指します。
第 13 回	作文を評価する 2	学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。
第 14 回	書き終わりは突然に	文章の終わりについて考察します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要時応じて指示しますが、とくに 2 回目以降の作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを配布します。

【参考書】
加藤典洋『言語表現法講義』（岩波書店）、荒川洋治『日記をつける』（岩波現代文庫）をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】
授業中に 4 回 800 字以内の作文を書いて提出してもらいます。またおたがいに作文を評価しあう機会が 2 回あります。作文自体の評価（5 割）と、作文へ取り組む姿勢（5 割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして講義し、作文を評価します。

【Outline and objectives】
Through the exploration of finding what you want to write and writing it as you like, experience the freedom of starting a new writing and understand its difficulties. By knowing both its freedom and difficulties, you will seek phrases in Japanese to well express what you want to say, and acquire the usage of literary words within poetries, stories and criticisms.

LIT200BC

文章表現論Ａ

伊東　祐吏

夜間時間帯
授業コード：A2446　｜　曜日・時限：**水曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人はなぜ文章を書くのか。書くとは、どういう行為なのか。
私は、書くことは、自分の考えを表現する手段や技術であるだけでなく、考えるという行為そのものだと考えます。それは、文学（小説や批評）に限らず、学問（論文や研究）にも共通しています。書くことによって、テーマと向き合い、自分自身と対話し、自分も知らなかった自分の考えを発見する。この授業は、書くことの本質を体験するための習練の場です。書く楽しさと苦しさを全身で味わってください。

【到達目標】
自分の書きたいことを見つける。
自分の文章のスタイルを身につける。
文学や学問についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
生徒が書いた文章をもとに、講義や講評をおこないます。（毎回、課題にコメントをつけて返却する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文章表現とは何か	文章を書くうえでの心得
第 2 回	メモと設計図	構想の練り方
第 3 回	書き出しと書き終わり	冒頭と末尾の決め方
第 4 回	テーマと題名	書く内容と方向性を定める
第 5 回	文章の呼吸と運動	文章の生命はどこから来るのか
第 6 回	詩と散文	その性質と違い
第 7 回	書きやすさと書きにくさ	文章への力の入れ方
第 8 回	紋切型と一般論	自分だけの言葉を書く
第 9 回	批評という酵母	批評的要素の働きについて
第 10 回	読者の想定	人に届く文章のあり方
第 11 回	物語と小説	両者の違いと関係性
第 12 回	執筆と感情	執筆時の感情との向き合い方
第 13 回	熱意と体力	執筆の肉体労働性について
第 14 回	小説を書く理由	人はなぜ小説を書くのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、おもに事前にテーマを発表して、作文の準備をしてもらいます。（準備や復習は、各人の自由にまかせる。）

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを配布します。

【参考書】
梅田卓夫・清水良典・服部左右一・松川由博『新作文宣言』（ちくまライブラリー）、加藤典洋『言語表現法講義』（岩波テキストブックス）

【成績評価の方法と基準】
800 字程度の作文を 4 回ほど提出してもらいます。その内容への評価（5 割）と取り組む姿勢（5 割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新規につき該当なし

【Outline and objectives】
basic practice for writing a novel, criticism,and,essay

LIT200BC

文章表現論Ｂ

田中　和生

授業コード：A2447　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分がよく知っていることを正確に書く困難さと、その内容に限界があることを理解し、知らないことやフィクションを交えた文章を書く自由さを体験します。そうして知っていることだけを書く文章と知らないことを交えた文章の違いに注意することで、フィクションとして自分が書きたいことはどんなことなのか、自らの主題を深く模索することを目指します。

【到達目標】
まずよく知らないことを交えた内容を、知っていることだけを書いた文章であるかのように書こうとすること。
次にそうでなくては明確に他人に伝える文章で書けないこと、むしろ書きやすいものがあるということを知ること。
以上を目標とし、主に小説の歴史を参照しながらフィクションの自由さについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
書いてもらった作文を軸にして講義を進めます。作文には毎回フィードバックとして書き込みの指摘と講評を行い、また学生自身が評価する機会も設けて、作文を書くことと評価されることについて、双方向的に理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	フィクションと事実	文章表現の本質について考察を加えます。
第 2 回	他人になりきって書く	事実を離れて作文することを実践します。
第 3 回	細部まで想像する	文章が真実らしくなる条件について考察します。
第 4 回	一人称と三人称	人称から小説の文章について分析します。
第 5 回	スピードを落とす	客観的な言葉を選ぶことを目指して作文を書きます。
第 6 回	フィクションを評価する 1	学生自身が他の学生の作文を評価し、コメントを交換します。
第 7 回	フィクションの真実	知っていることを書くとはどういうことかを考察します。
第 8 回	描写と「もの」	リアリズムという視点から小説の歴史をふり返ります。
第 9 回	声を合わせる	他人の言葉で書くことを実践します。
第 10 回	主観と客観のあいだ	読者にとってリアリティのある文章とはどういうものか考察します。
第 11 回	衣装としての文章	引用と参照による文学史を構想します。
第 12 回	知らない人に向かって書く	引用と参照を行った作文を実践します。
第 13 回	フィクションを評価する 2	学生自身が他の学生の作文を評価し、よい作文を選ぶという作業を行います。
第 14 回	時間を流す	散文的芸術の本質について考察を加えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、とくに作文では事前にテーマを発表して作文の準備をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを配布します。

【参考書】
村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫）、高橋源一郎『一億三千万人のための小説教室』（岩波新書）をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】
授業中に 4 回 800 字以内の作文を書いて提出してもらいます。またおたがいに作文を評価しあう機会が 2 回あります。作文自体の評価（5 割）と、作文へ取り組む姿勢（5 割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
提出される作文に応じ、いつも文章表現とはなにかを考えながら授業に臨んでいます。

【その他の重要事項】
文芸評論家として創作を批評する経験をもつ者が、その知見を生かして講義し、作文を評価します。

【Outline and objectives】
Understand the difficulty of writing exactly of what you know well and the restriction of its contents, and at the same time experience the freedom of writing texts of unknown and fiction. By paying attention to the difference between texts of the known and unknown, seek out what you want to write as fiction and what is your theme.

LIT200BC

文章表現論 B

伊東　祐吏

夜間時間帯
授業コード：A2448　｜　曜日・時限：**水曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人はなぜ文章を書くのか。書くとは、どういう行為なのか。
私は、書くことは、自分の考えを表現する手段や技術であるだけでなく、考えるという行為そのものだと考えます。それは、文学（小説や批評）に限らず、学問（論文や研究）にも共通しています。書くことによって、テーマと向き合い、自分自身と対話し、自分も知らなかった自分の考えを発見する。この授業は、書くことの本質を体験するための習練の場です。書く楽しさと苦しさを全身で味わってください。

【到達目標】
自分の書きたいことを見つける。
自分の文章のスタイルを身につける。
文学や学問についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
生徒が書いた文章をもとに、講義や講評をおこないます。（毎回、課題にコメントをつけて返却する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「書く」までのアプローチ	その道のりと空白を楽しむ
第 2 回	「書く」ことの楽しみ	書くなかでの発見を待つ
第 3 回	「読む」と「書く」	自分の読書方法を点検する
第 4 回	疑問を育てる	論点の見極めとテーマの設定
第 5 回	論を書く	学問の仕組みを知る
第 6 回	学問と文学	「頭のよさ」と「頭の強さ」の違い
第 7 回	描写と比喩	言葉による描写の特徴
第 8 回	事実とフィクション	両者の違いと共通点
第 9 回	リアリティの正体	人は文章のどこに真実味を感じるか
第 10 回	一人称と三人称	人称と小説の関係
第 11 回	フィクションの力	その必要性と可能性
第 12 回	小説への道のり	「私」ではない人物として文章を書く
第 13 回	取材と調査	書き手に必要な準備とは
第 14 回	オリジナルと模倣	独創への近道と回り道

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
必要に応じて指示しますが、おもに事前にテーマを発表して、作文の準備をしてもらいます。（準備や復習は、各人の自由にまかせる。）

【テキスト（教科書）】
毎回プリントを配布します。

【参考書】
村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫）、井上ひさし『自家製文章読本』（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】
800 字程度の作文を 4 回ほど提出してもらいます。その内容への評価（5 割）と取り組む姿勢（5 割）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新規につき該当なし

【Outline and objectives】
basic practice for writing a novel, criticism,and,essay

LIT300BC

日本文芸批評史 A

川鍋　義一

授業コード：A2553　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
批評だの評論だのというものは、一体、なんでしょうか？　それは文学原論ともいうべきものであり、表現理論であり、創作理論であり、読者の理論であり、作品論・作家論であり、場合によっては社会と人間のあり方を考察する政治論をも射程に入れます。
要するに鷗外の「小説といふものは何をどんな風に書いても好いものだ」をもじって、批評・評論というのは論理的な書き方をしてあれば何を書いてもよいものなのです。
ところが狭い意味での論理性などを無視した批評というのもあって、それが人の心を強く打つものだったりする。そうなると批評ってなんだと考えてみても、もう訳がわかりませんね。困ったものだ。
ということでこの授業では、たとえば「論理性って文学に必要なのか？」ということを小林秀雄に聞いてみましょう。「文学って自分の体験したこともないことを描けるのか？」ということを有島武郎と一緒に考えてみましょう。「文学は現実を写すことができるのか？」、「文学って役に立つのか？」、「文学は現実とどのように切り結ぶべきなのか？」……といろんな批評に聞いてみましょう。
そういった難問に向き合った先輩たちの真摯な態度が批評する態度であり、その著作をヒントにして難問と向き合うわたしたち自身の態度が批評であると言えるかもしれません。授業のテーマはそれらの難問に明確な答えを出すことではなく、わたしたち自身が思考する上でのヒントを得ることです。
上記テーマを達成するためには、近現代日本文学史、表現理論、政治、思想の基本的なことがらについての理解も必要になります。諸君はこれらの問題についても知識を身につけます。

【到達目標】
上記「授業の概要」の問題意識に沿って、文学とはなにか、表現とはなにかということを、論理的な側面から考えられるようにすることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
オンライン（オンデマンド）の講義形式。授業は金曜４限に授業支援システム、Google Classroom などで公開されます。パワーポイントのファイルなどを視聴し、Google フォームの課題に答える形式で授業は進行します。
文学史上に残る著名な批評を１本読み、まずは作品の読解をし、次に時代（文学史・社会史）背景との関連で作品を理解し、批評史の通史的な観点を持てるようにし、さらに作品から逸脱して、発展的な考察を加えます（近現代文学史になじみのない人も多いでしょうから、そのあたりの導入にも配慮します。心配しないでいいですよ）。これを５講（６作品）で繰り返します。
以上のような形式で進行しますから、まずはテキストの指定箇所を事前に読んできてもらいます。難しい文章も多いけど、読む気のない人は受講しないでください。それが受講の条件です。難解な箇所は解説します。テキストは必ず持参すること。
また、批評の研究ですから、話が理屈っぽくなるのは仕方ない。「理屈なんかカンケーねーよ」という人は受講しないでください。
春学期は『小説神髄』から大正末・昭和初期のいわゆる三派鼎立の状況（主に新感覚派）まで。
各回、Google フォームで課題に答えてもらいます。締め切り後、受講生の回答をまとめて公開し、受講生同士で共有します（氏名などは伏せます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと予備知識	授業進行の説明と近代文学史理解のための予備知識
第 2 回	近代文学の始まり	坪内逍遙「小説神髄」（抄）：近代文学の言語
第 3 回	近代文学の始まり	坪内逍遙「小説神髄」（抄）：近代文学の内容
第 4 回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：時代背景
第 5 回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：読解
第 6 回	文学と人生	北村透谷「人生に相渉るとは何の謂ぞ」：発展的考察
第 7 回	自然主義	文学は現実を描き得るか 田山花袋「露骨なる描写」：リアリズムとはなにか
第 8 回	自然主義	文学は現実を描き得るか 田山花袋「露骨なる描写」：発展的考察
第 9 回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：文学史的背景
第 10 回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：有島の文学理論
第 11 回	白樺派	文学は何を描き得るか 有島武郎「宣言一つ」武者小路実篤「新しき村に就て」：体験と文学
第 12 回	三派鼎立の状況 千葉亀雄「新感覚派の誕生」	文学史的背景
第 13 回	三派鼎立の状況 千葉亀雄「新感覚派の誕生」	横光利一作品読解および表現理論への発展的考察
第 14 回	試験まとめと解説	試験まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定箇所は授業前に必ず読んでおくこと。これは受講のための必須の条件であり、これを怠る人には単位を認定しません。
本授業の準備・復習時間は、各１時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選【明治・大正篇】』（岩波文庫）品切れのため、プリントなどでこれに代える。ほかに適宜プリント配布。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点（Google フォームなどを利用した課題）５０％、期末のレポート５０％。

【学生の意見等からの気づき】
※　近現代日本文学を専門としない学生の受講も歓迎するため、専門用語には解説をつけることを心がけています。
※　上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時限に、学習支援システム、Google Classroom などで公開されます。
※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020 年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。
※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【その他の重要事項】
春学期の明治～大正と、秋学期の昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire Japanese modern literary criticism concerned in novels, poems, politics, and so on.

LIT300BC

日本文芸批評史 B

川鍋　義一

授業コード：A2555　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の「日本文芸批評史 A」と同様、先人たちの批評というたたかいから、わたしたち自身の考えるヒントを得ていきましょう。
秋学期は昭和初年から 1950 年代までの批評を読みます。
したがって、秋学期は春学期の問題意識に加え、もう一つ、戦争（第二次世界大戦）というテーマが加わります。戦争に突き進む時代に、文学者たちはどのように振る舞ったか。戦争中、権力とどのような距離をとったか。戦後、どのように新しい文学・思想を始めたか。
それらの時代に、文学者は流れに抵抗しようとしながらも、流れに棹さし、流れに飲み込まれ、密かに文学の孤塁を守り、あるいはとりかえしのつかないことをしてしまいました。
昨今単純で直線的で勇ましく、痛みを伴わない言説が幅を利かしています。わたしたちはそういう時流といかに向き合うか。そのヒントを得たいと考えます。
秋学期の授業では、諸君は「政治と文学」という、近現代文学の難問をいろんな局面で自らの課題として考えることが要求されます。

【到達目標】
上記「授業の概要」の内容を達成することは、近現代日本文学史、表現理論、政治、思想の基本的なことがらについて理解することです。これらの問題について、知識を身につけることを諸君の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
オンライン（オンデマンド）の講義形式。授業は金曜４限に授業支援システム、Google Classroom などで公開されます。パワーポイントのファイルなどを視聴し、Google フォームの課題に答える形式で授業は進行します。
文学史上に残る著名な批評を 1 本読み、まずは作品の読解をし、次に時代（文学史・社会史）背景との関連で作品を理解し、批評史の通史的な観点を持てるようにし、さらに作品から逸脱して、発展的な考察を加えます（近現代文学史になじみのない人も多いでしょうから、そのあたりの導入にも配慮します。心配しないでいいですよ）。これを 4 講（8 作品）で繰り返します。
以上のような形式で進行しますから、まずはテキストの指定箇所を事前に読んできてもらいます。難しい文章も多いけど、読む気のない人は受講しないでください。それが受講の条件です。難解な箇所は解説します。テキストは必ず持参すること。
また、批評の研究ですから、話が理屈っぽくなるのは仕方ない。「理屈なんかカンケーねーよ」という人は受講しないでください。
秋学期は三派鼎立のうちプロレタリア文学の理論と、その批判者であった小林秀雄から始めて、吉本隆明までを読みます。
各回、Google フォームで課題に答えてもらいます。締め切り後、受講生の回答をまとめて公開し、受講生同士で共有します（氏名などは伏せます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「様々なる意匠」とプロレタリア文学 蔵原惟人「プロレタリヤレアリズムへの道」	マルクス主義とはどういうものか
第 2 回	「様々なる意匠」とプロレタリア文学 蔵原惟人「プロレタリヤレアリズムへの道」	文学史的背景および蔵原文読解
第 3 回	「様々なる意匠」とプロレタリア文学 小林秀雄「様々なる意匠」	印象批評とはなにか
第 4 回	「様々なる意匠」とプロレタリア文学 小林秀雄「様々なる意匠」	小林文読解
第 5 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 武田泰淳「司馬遷伝」	戦中文学史概観・転向について
第 6 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 武田泰淳「司馬遷伝」	戦中文学史概観・転向について
第 7 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 坂口安吾「堕落論」	無頼派の戦中・戦後
第 8 回	戦後文学の始まり：無頼派と戦後派 坂口安吾「堕落論」	その文学史・思想史上の意義
第 9 回	戦後左翼の分岐点 小田切秀雄「文学における戦争責任の追求」	『新日本文学』について
第 10 回	戦後左翼の分岐点 平野謙「政治と文学」	『近代文学』について
第 11 回	戦後左翼の分岐点 平野謙「政治と文学」	「政治と文学」論争
第 12 回	『近代文学』から吉本隆明へ 本多秋五「転向文学論」（抄）吉本隆明「転向論」	本多文読解
第 13 回	『近代文学』から吉本隆明へ 本多秋五「転向文学論」（抄）吉本隆明「転向論」	吉本文読解
第 14 回	秋学期総括	秋学期総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの指定箇所は授業前に必ず読んでおくこと。これは受講のための必須の条件であり、これを怠る人には単位を認定しません。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選【昭和篇】』（岩波文庫）品切れのため、プリントなどでこれに代える。ほかに適宜プリント配布。

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点（Google フォームなどを利用した課題）５０％、期末のレポート５０％。

【学生の意見等からの気づき】
※　近現代日本文学を専門としない学生の受講も歓迎するため、専門用語には解説をつけることを心がけています。
※　上にも書いてありますが、この授業はオンライン（オンデマンド）で実施します。授業はそれぞれの曜日時限に、学習支援システム、Google Classroom などで公開されます。
※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。2020 年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。
※ コンピュータ、通信などの問題が生じたとき、教員の使っているそれらの用語を知らないときは、まずググりましょう。

【その他の重要事項】
春学期の明治～大正と、秋学期の昭和とで問題が完結するので、通年での受講を強く推奨します。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire Japanese modern literary criticism concerned in novels, poems, politics, and so on.

LIT300BC

日本言語学特殊研究 A

間宮　厚司

夜間時間帯
授業コード：A2558　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、上代・中古・中世における日本の文学作品について、言語学的に考え、正しく解釈する方法を学ぶことを目的にします。

【到達目標】
文学作品を成り立たせている日本語そのものを研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から自分なりの論を立てられるようになるための授業です。卒業論文の作成に役立つ知識やスキルを身につけることが、到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、文学作品の言語表現の問題点について説明します。それから受講生全員に共通の課題を出し、次の授業で一人ずつ全員に報告してもらい、質疑応答を行います。そして、節目節目でレポートを提出する形で進めます。提出されたレポートは次の時間に紹介し、質問にも答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	上代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 3 回	上代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 4 回	上代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 5 回	上代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 6 回	中古文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 7 回	中古文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 8 回	中古文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 9 回	中古文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 10 回	中世文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 11 回	中世文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 12 回	中世文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 13 回	中世文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 14 回	まとめ	春学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を大いに活用し、必要に応じて、研究相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考書は研究テーマにそって、そのつど提示します。

【成績評価の方法と基準】
課題報告の内容（30 %）・質疑応答の発言（20 %）・レポート（50 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教室授業にしてほしい。

【Outline and objectives】
This course will be an interactive lecture. In this course, you are going to learn about the problems of Japanese Language Studies.

LIT300BC

日本言語学特殊研究 B

間宮　厚司

夜間時間帯
授業コード：A2560　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、近世・近代・現代における日本の文学作品について、言語学的に考え、正しく解釈する方法を学ぶことを目的にします。

【到達目標】
文学作品を成り立たせている日本語そのものを研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から自分なりの論を立てられるようになるための授業です。卒業論文の作成に役立つ知識やスキルを身につけることが、到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まず、文学作品の言語表現の問題点について説明します。それから受講生全員に共通の課題を出し、次の授業で一人ずつ全員に報告してもらい、質疑応答を行います。そして、節目節目でレポートを提出する形で進めます。提出されたレポートは次の時間に紹介し、質問にも答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	近世文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 3 回	近世文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 4 回	近世文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 5 回	近世文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 6 回	近代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 7 回	近代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 8 回	近代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 9 回	近代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 10 回	現代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 11 回	現代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 12 回	現代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 13 回	現代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 14 回	まとめ	秋学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
図書館を大いに活用し、必要に応じて、研究相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
参考書は研究テーマにそって、そのつど提示します。

【成績評価の方法と基準】
課題報告の内容（30 %）・質疑応答の発言（20 %）・レポート（50 %）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教室授業にしてほしい。

【Outline and objectives】
This course will be an interactive lecture. In this course, you are going to learn about the problems of Japanese Language Studies.

LIT200BC

中国文芸史 A

長谷川　真史

授業コード：A2561　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本に強い影響を及ぼした中国古典（特に漢詩）を毎回取り上げ、中国文学がどのように日本に流入し、日本がどのようにそれらを吸収し自国の文化に取り入れていったかを、文学作品の鑑賞を通して紹介しする。また、原文とその注釈を読解しながら、漢字・漢語・語法・修辞などに関する基礎的な事柄を確認する。

【到達目標】
中国古典文学（詩・韻文・散文、日本漢文を含む）の語法を知り、読解能力を高めることを目標とする。また、文学作品の鑑賞を通して、アジア漢字文化圏に生きる一員として必要不可欠「教養」を身につけ、日本文化・日本文学との関わりから、現在に生きる中国古典の有りようについての「問い」をもち、考える端緒を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は ZOOM によるオンライン授業を予定している。（リアルタイム配信）
状況に応じてオンラインと対面を切り替える場合もある。
基本的に講義形式で授業を行い、随時レポート課題を出す。
中間レポートについては授業時間内に全体でリフレクションを行う。
期末レポートについては個別に総評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（教養としての漢詩）	漢詩の基礎知識（漢字の中古音と平仄）についての概説
第 2 回	「詩」の源流について	『詩経』とその注釈・翻訳についての概説
第 3 回	近体詩と古体詩について	陶淵明「飲酒」解説：古詩の解説
第 4 回	近体詩について①	杜牧「江南春」解説：絶句の規則についての概説
第 5 回	近体詩について②	杜甫「春望」解説：律詩の規則についての概説
第 6 回	対句の構造について	杜甫「登高」解説：全対格についての概説
第 7 回	中間レポートガイドライン解説	レポート「漢詩をつくろう」：漢詩作成キットの解説
第 8 回	楽府について	李白「子夜呉歌」「秋浦歌」解説：古楽府と新楽府についての概説
第 9 回	版本とテキスト	李白「静夜思」解説：異同と校勘についての概説
第 10 回	日本文学との関わり①	白居易「香炉峰」詩解説：『白氏文集』と平安文学についての概説
第 11 回	日本文学のとの関わり②	菅原道真「不出門」解説：平安知識人と漢文についての概説
第 12 回	期末レポートガイドライン解説	中国古典学のレファレンスとリテラシーについての概説とレポート作成についての解説
第 13 回	漢詩と日本人①	明治時代の文学者と漢詩についての概説
第 14 回	漢詩と日本人②	井伏鱒二の翻訳詩についての概説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
シラバスに記載した事項や書籍、文学作品について下調べをして「問い」をもって講義に臨むことが望ましい。
分からない言葉については辞書で調べること。
人名や地名などについてはインターネット等を利用して調べてもよい。
授業前後、各３時間程度の準備・復習時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。（適宜資料を配布する。）

【参考書】
【研究書】松浦友久『校注唐詩鑑賞辞典』（大修館書店）、松枝茂夫『中国名詩選』上中下（岩波文庫）興膳宏『中国文学を学ぶ人のために』（世界思想社）
【辞書類】『大漢和辞典』（大修館書店）、『学研漢和大字典』（学習研究社）は図書館で利用。所持用としては『新字源』（角川書店）、『漢字源』（学習研究社）、『漢字海』（三省堂）。電子辞書も可。
これ以外については授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（50%）、中間レポート（20%）、授業の出席（30%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
インターネットに接続し、閲覧できる機器。パソコンかタブレットが望ましいが、スマートフォンでも受講できるよう配慮する。
漢和辞典（電子辞書も可）を手元においておくとよい。

【その他の重要事項】
出席を重視する。事故、病気などやむを得ない事情は考慮する。公欠、やむを得ず欠席する場合などは事後報告でも構わないので、証明書類等を提出すること。
全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末レポートを認めない。

【Outline and objectives】
Lecture on Chinese classics that had a strong influence on Japan,introduce how Chinese literature flowed into Japan and how Japan absorbed them and incorporated them into their own culture.Also, while reading the original text and its annotations, check the basic matters related to kanji, grammar, rhetoric, etc.

LIT200BC

中国文芸史 A

吉井　涼子

夜間時間帯
授業コード：A2562　｜　曜日・時限：**月曜 6 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
先秦時代の有名な書物や親しみのある故事成語の典拠などを用い、比較的短文のものやシンプルな構造のものから読み始めることで、漢文（古典中国語）の訓読法の基礎を学習する。当時の文化や習俗も合わせて学んでいく。

【到達目標】
漢文の基礎構造を学び、訓読の手法を理解する。
有名な文献や故事成語の典拠、エピソードなどを読むことで、古代中国の歴史・文化に対する知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。訓点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文資料をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。読解に必要な時代背景や古代中国の文化に関する知識も、適時解説する。
毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。
授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱うものであり、適宜加える可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、先秦時代についての概要を学習する。
第 2 回	『論語』を読む	為政篇を中心に学ぶ。
第 3 回	『孟子』を読む	梁恵王上から「五十歩百歩」などの出典の部分などを読む。
第 4 回	『管子』を読む	牧民から「倉廩実ちて則ち礼節を知り、衣食足りて則ち栄辱を知る」の成語を学ぶ。
第 5 回	『荘子』を読む	『荘子』は寓意的な話の宝庫である。斉物論から「夢に胡蝶となる」の話を、応帝王から「混沌の死」を読み解く。
第 6 回	『淮南子』を読む	『淮南子』人間から「塞翁が馬」の故事を読む。
第 7 回	『春秋左氏伝』を読む	『春秋』と『春秋左氏伝』の違いについて解説し、「不及黄泉、無相見也」の故事を知る。
第 8 回	『史記』越世家を読む（1）	「臥薪嘗胆」の故事で有名な『史記』越世家を読む。
第 9 回	『史記』越世家を読む（2）	「呉越同舟」でも知られる呉と越が、どのような結末を迎えるかを知る。
第 10 回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（1）	当時の中国の歴史状況を解説しつつ、「完璧」の故事の部分を読む。
第 11 回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（2）	「完璧」の故事の部分を精読し、当時の秦と六国の関係性を理解する。
第 12 回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む（3）	「完璧」の故事の部分の結末を読む。
第 13 回	復習と総括	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に配布するプリントをテキストとする。

【参考書】
三省堂『全訳　漢辞海』（漢和辞典）
高校時代に使用した国語便覧など。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を３０％、期末考査の点数を７０％として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。
１回ごときちんと理解ができるよう、授業はゆるやかなペースで行う。

【Outline and objectives】
Learn kanji reading in classical Chinese by using the authority of familiar stories.
Start with a simple and short sentence, famous books of the pre Qin Dynasty, carefully reading while touching the Chinese culture and story, cultivating the fundamental power for reading classical Chinese.

LIT200BC

中国文芸史 B

長谷川　真史

授業コード：A2563　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中国古典の文章を題材として、原文を読解しながら、漢字・漢語・語法・修辞などに関してより高度な事柄を確認する。また、古抄本をテキストとして利用することで、テキストクリティークやリテラシー、レファレンス事項についても学習していく。さらに、典故となる経書・史書も読み込むことで、背景となる思想や社会文化についても深く掘り下げ、作品を中国文学史の観点から立体的に確認していく。

【到達目標】
中国古典文学の語法を深く理解し、読解能力をより高めることを目標とする。また、中国文学研究に必要とされる作業として、原文に当たって根拠と自信をもって読み込むことができるようになることが狙いである。 加えて、より高度な専門的知識として、リテラシーやレファレンス能力を習得し、自ら問いをもって研究調査を行っていくための基盤をつくることも視野に入れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
ZOOM によるオンライン授業を予定している（リアルタイム配信）が、状況によって対面に切り替える。
基本的に講義形式で授業を進め、随時レポート課題を出す。
レポートは授業時間内に全体でリフレクションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	中唐文学における「尤物」論の展開と白居易「長恨歌」「李夫人」の版本及び旧抄本についての概説
第 2 回	陳鴻「長恨歌伝」読解①	『管見抄』本「長恨歌伝」及び「長恨歌」の概説
第 3 回	陳鴻「長恨歌伝」読解②	「長恨歌」制作の由来についての概説
第 4 回	白居易「李夫人」読解①	神田本『白氏文集』「新楽府」についての概説
第 5 回	白居易「李夫人」読解②	漢武帝と李夫人の「愛と死」についての概説
第 6 回	白居易「李夫人」読解③	『漢書』郊祀志・外戚伝との関係についての概説
第 7 回	白居易「李夫人」読解④	「新楽府」の創作意図についての概説
第 8 回	『漢書』外戚伝読解①	李夫人の入内の場面についての解説
第 9 回	『漢書』外戚伝読解②	李夫人の死の場面についての解説
第 10 回	『漢書』外戚伝読解③	李夫人反魂の場面についての解説
第 11 回	期末レポートのガイドライン解説	中国古典文学のレファレンス、リテラシーについての概説、レポート作成についての解説
第 12 回	『春秋左氏伝』における尤物①	叔向とその母のいさかいの場面についての解説
第 13 回	『春秋左氏伝』における尤物②	叔向の母の「尤物」論についての解説
第 14 回	『春秋左氏伝』における尤物③	叔向の結婚とその結末についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
（1）難解な語句は必ず辞書で調べる。手元の辞書で見つからない場合、『大漢和辞典』等で調べる。『大漢和』は「索引」と「語彙索引」とがあり、よみで調べることができる。
（2）人名、地名など固有名詞はインターネットなどでもよいので確認する。
（3）訓読・現代日本語訳する。
（4）内容について考察する。
（1）（2）は最低限調べ、ひと通り訓読した上で授業に臨むことが望ましい。
授業前後含め、各 3 時間程度の準備・復習時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。（適宜資料を配布する。）

【参考書】
【研究書】近藤春雄『新楽府・秦中吟の研究』（明治書院）、岡村繁（新釈漢文大系）『白氏文集』シリーズ（明治書院）、川合康三『白楽天詩選』上下（岩波文庫）
【辞書類】『大漢和辞典』（大修館書店）、『学研漢和大字典』（学習研究社）は図書館で利用。所持用としては『新字源』（角川書店）、『漢字源』（学習研究社）、『漢字海』（三省堂）。電子辞書も可。
これ以外については授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（50%）、中間レポート（20%）、授業の出席（30%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
　インターネットに接続し、閲覧できる機器。パソコンかタブレットが望ましいが、スマートフォンでも受講できるよう配慮する。
漢和辞典（電子辞書も可）を手元に用意しておくとよい。

【その他の重要事項】
成績評価については、出席を重視する。やむをえない事情で欠席する場合は事前か事後に必ず報告する。事故、病気などやむを得ない事情は考慮する。
全授業回数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末レポートの提出を認めない。

【Outline and objectives】
While reading the original text based on classical Chinese texts, check more advanced matters regarding kanji, grammar, rhetoric, etc. Also, learn about text critique, literacy, and reference, furthermore, by reading the allusions and historical books, deeply understand the underlying ideas and social culture, and confirm the work from the perspective of Chinese literary history.

LIT200BC

中国文芸史 B

吉井　涼子

夜間時間帯
授業コード：A2564　｜　曜日・時限：**月曜 6 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
親しみのある歴史上人物の話をテキストとして用い、漢文（古典中国語）訓読の基礎を学習する。
当時の中国文化・歴史に触れつつ長文を精読し、漢文読解のための基礎力を高める。

【到達目標】
漢文の基礎構造を学び、訓読のスキルを習得する。
有名な故事成語の典拠や書物、エピソードを用いることで、古代中国の歴史・文化に対する広い視野を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。訓点（句読点・返り点・送り仮名）を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。
毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。
授業計画各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、『史記』や司馬遷についての概要を学習する。
第 2 回	『史記』刺客列伝を読む（1）	『史記』の刺客列伝から荊軻の部分を精読する。
第 3 回	『史記』刺客列伝を読む（2）	精読することで、燕国と秦国の状況や荊軻の置かれた立場などを理解する。
第 4 回	『史記』刺客列伝を読む（3）	太子と荊軻の認識の差などに留意しつつ精読する。
第 5 回	『史記』刺客列伝を読む（4）	荊軻の暗殺計画がどのような結末を迎えたのか、その結果歴史がどうなっていったのかを理解する。
第 6 回	『史記』秦始皇本紀を読む（1）	「本紀」について解説し、秦の始皇帝とその時代について知る。
第 7 回	『史記』秦始皇本紀を読む（2）	始皇帝の行った歴史的事業を理解する。
第 8 回	『史記』項羽本紀を読む（1）	所謂「項羽と劉邦」のことを学ぶ。
第 9 回	『史記』項羽本紀を読む（2）	「鴻門の会」の箇所など、登場人物を整理しながら精読する。
第 10 回	『史記』項羽本紀を読む（3）	項羽と劉邦の関係などに重点を置きつつ、彼らの移動・転戦を地図を用いながら読み進める。
第 11 回	『史記』項羽本紀を読む（4）	「四面楚歌」の出典となった部分を精読する。
第 12 回	「報任少卿書」を読む	漢代に至るまでの多くの人間の歴史を知り尽くした司馬遷自身の死生観を学ぶ。
第 13 回	復習と総括	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。
予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時に配布するプリントをテキストとする。

【参考書】
三省堂『全訳　漢辞海』（漢和辞典）
高校時代に使用した国語便覧など。

【成績評価の方法と基準】
毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を３０％、期末考査の点数を７０％として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】
本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

【Outline and objectives】
Using a story of a person on a familiar history, learn the basics of classical Chinese reading
Carefully read the long sentences while touching the then Chinese culture and history, and raise the fundamental power for reading Chinese sentences.

LIT300BC

書誌学

山口　恭子

夜間時間帯
授業コード：A2566　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・授業の概要
書誌学とは、「本」そのものを研究対象とする学問です。本の形態や歴史、料紙や出版書肆など幅広く精査し、それを踏まえてその本の作成年代や流通などについて追究することを目的とします。本授業では、とくに日本の江戸時代までの本を対象とし、書物の装訂や素材、出版の展開など、書誌学の基礎的なことがらについて講義します。
・授業の目的
日本古典籍書誌学の基礎を学ぶことを目的とします。本にまつわる様々な文化、およびそれを作りあげた人々の知の世界をともに眺めてゆきましょう。

【到達目標】
・「書誌学」の概念を知る。
・日本古典籍書誌学の基礎的事項、とくに江戸時代までの写本と版本の特徴や歴史、本にまつわる文化について理解し、かつそれらを的確に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・日本古典籍書誌学の概念と基礎的事項を講義します。また、書誌学の講義と並行して、書誌学的な調査研究に欠くことのできない基本的なくずし字の解読（翻刻）作業も行います。
・書誌学については配布プリントをもとに進め、くずし字については写本・版本の教材（和歌等）を皆で翻刻してゆく時間を設けます。
・毎時、リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・「書誌学」という学問の概要や目的について ・くずし字の基礎について ・授業計画について
第 2 回	装訂の様々	・巻子本から冊子本に至る、書物の主な装訂と発展について
第 3 回	写本の姿（1）	・写本に関する様々な用語の意味と使い方について
第 4 回	写本の姿（2）	・転写本における「写す」方法と特徴について
第 5 回	古筆切と手鑑	・古筆切の種類と特徴、および手鑑の歴史について
第 6 回	料紙について（1）	・紙の歴史、および和紙の材料と製法について
第 7 回	料紙について（2）	・日本の加工料紙、とくに平安時代の料紙装飾について
第 8 回	版本の歴史（1）	・版本の種類に関する概説 ・中世までの印刷の歴史について
第 9 回	版本の歴史（2）	・キリシタン版について ・古活字版の特徴と種類について
第 10 回	版本の歴史（3）	・古活字版から整版本への移行について
第 11 回	江戸時代の本屋について	・書肆（本屋）の始まりと展開について
第 12 回	本の顔かたち（1）	・本の構成要素、とくに、「表紙」「外題」のバリエーションについて
第 13 回	本の顔かたち（2）	・本の構成要素、とくに、「内題」「奥付」「刊記」について ・前回の講義内容とあわせ、書物の特徴を理解するための観点について講ずる
第 14 回	まとめ	半期の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・参考文献や授業資料に予め目を通し、授業に臨みましょう。
・随時配布される復習用プリントをもとに復習に努めましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
くずし字の翻刻のために笠間影印叢刊刊行会編『字典かな』（笠間書院）を用意すること（他社の字典をすでにお持ちであればそれを使用して構いません）。書誌学に関してはテキストを定めず、配布プリントを用います。

【参考書】
・廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』（世界思想社、１９９８年）
・『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、１９９９年）
・橋口侯之介『和本入門』・『続和本入門』（平凡社、２００５年・２００７年）
・堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、２０１０年）
このほか、授業時に提示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の成績（80%）に、平常点（20%）を加味して評価します。期末試験は筆記試験とし、書誌学という学問の意味を理解したか、そして、授業において講じた書誌学の基本事項を理解したかを主な評価基準とします。後者には、書誌学的事項を正しく説明できるかについての評価も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】
実際の古典籍を多く見せたり、現代の書物・出版物との関連を示すなどすることで、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline and objectives】
"Bibliography" is a study of books.
This course deals with the basic concept of bibliography.
The purpose of this course is as follows.
(1) master basic knowledge on Japanese classical bibliography
(2) Understand the culture of books

ART300BC

音楽芸能史特殊研究 A

野川　美穂子

授業コード：A2569　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世以降に発展した芸能のうち、「三曲」と呼ばれる種目の特徴と魅力を学びます。

【到達目標】
音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（とくに「三曲」）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。
春学期には、お稽古事の対象として普及し、音楽のみで楽しまれることの多い「三曲」（地歌、箏曲、尺八楽、胡弓楽）をとりあげます。まずは「三曲」に使われる楽器を紹介し、続いて、それらの音色を生かし、歌としての魅力にも富む多彩な作品を紹介します。知識としてではなく、目で耳で感じ取ることができるよう、多くの視聴覚教材を使います。
毎授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのコメントや質問にもとづいて、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。 近世芸能の概観。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の特徴。
第 2 回	三曲とは何か。 三曲に使う楽器。	三曲の伝承者の特徴。三曲に使う楽器（箏、三味線、尺八、胡弓）の特徴。絹糸弦の製作方法。
第 3 回	三味線の伝来。 地歌の歴史と特徴①	三味線伝来の経緯。伝承の基本となった三味線組歌と長歌物。
第 4 回	地歌の歴史と特徴②	叙情性に満ちた端歌物。
第 5 回	地歌の歴史と特徴③	音色の重なりと緩急の変化が楽しい手事物。
第 6 回	地歌の歴史と特徴④	芝居の一場面を歌う浄瑠璃物と滑稽な物語を歌う作物。
第 7 回	箏曲の歴史と特徴①	箏の製作方法。箏曲の誕生。
第 8 回	箏曲の歴史と特徴②	伝承の基本となった箏組歌。器楽曲である段物のルーツ。
第 9 回	箏曲の歴史と特徴③	段物の魅力。美しい響きの幕末新箏曲。
第 10 回	箏曲の歴史と特徴④	江戸で人気を得た山田流箏曲。
第 11 回	尺八楽の歴史と特徴①	尺八の歴史のなぞ。尺八本曲の魅力。
第 12 回	尺八楽の歴史と特徴② 胡弓楽の歴史と特徴。	尺八本曲の魅力。 胡弓の歴史のなぞと胡弓曲の魅力。
第 13 回	明治時代の三曲。	明治時代の演奏会の特徴。明治新曲について。
第 14 回	他の種目との関連。	文楽や歌舞伎に登場する地歌・箏曲。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に紹介される作品を、自身の感性を研ぎ澄まし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。授業前の予習はとくに必要ありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次回の授業に備えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】
参考書は、授業時に随時紹介します。「三曲」の魅力を味わえる演奏会情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、平常点 40 %、期末試験 60 %（配布資料とノートの持ち込み可）の比率で評価します。出席回数が授業総数の３分の２に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ具体的に、わかりやすく説明します。

【Outline and objectives】
Regarding Japanese performing arts developed after the early modern era, we will learn about the history, the characteristics of music and lyrics, the relation to theater and dance, the characteristics of experts and enthusiasts, mainly with music. In the spring semester, we mainly target music of koto, shamisen, shakuhachi and kokyu.

ART300BC

音楽芸能史特殊研究 B

野川　美穂子

授業コード：A2571　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世以降に発展した芸能のうち、歌舞伎、文楽を中心に、それぞれの特徴と魅力を学びます。

【到達目標】
音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（とくに歌舞伎と文楽）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。
秋学期には、舞踊や演劇との関連が強い文楽や歌舞伎をとりあげます。また、箏や尺八などを用いる「三曲」の大正時代以降の状況、歌舞伎の明治以降の状況を紹介し、音楽芸能の未来についても考えます。
多くの視聴覚教材を使って授業を進めます。教室内のプロジェクターによる鑑賞ではありますが、それぞれの芸能の魅力をじっくりと味わってもらいたいと思います。
毎授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのコメントや質問にもとづいて、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。近世の芸能。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の分類。
第 2 回	劇場で使われる楽器。	文楽や歌舞伎で使われる楽器の特徴。
第 3 回	文楽の歴史と特徴①	義太夫節の歴史。三業一体とは何か。
第 4 回	文楽の歴史と特徴②	文楽の名作の魅力。
第 5 回	歌舞伎の歴史と特徴①	歌舞伎の歴史。歌舞伎における音楽の役割。
第 6 回	歌舞伎の歴史と特徴②	歌舞伎の名作の魅力。
第 7 回	文楽と歌舞伎の比較。	同じ題材の作品で、文楽と歌舞伎の演出を比較する。
第 8 回	豊後系浄瑠璃。	歌舞伎舞踊を支える常磐津節と清元節の魅力。艶のある新内節の魅力。
第 9 回	他の種目との関連①	道成寺物の魅力。
第 10 回	長唄①	歌舞伎を支える長唄の魅力。
第 11 回	長唄②	長唄の多様性。
第 12 回	他の種目との関連②	石橋物の魅力。
第 13 回	近代・現代の三曲。	洋楽を取り入れた新日本音楽。多様性を見せる現代邦楽。
第 14 回	現代の歌舞伎。	現代劇の脚本家や演出家とのコラボレーションをはじめ、最新技術を駆使して新しい展開を見せる歌舞伎。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時に紹介する作品を、自身の感性を生かし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。授業前の予習はとくに必要ありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次回の授業に備えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】
参考書は、必要に応じて、授業時に随時紹介します。文楽や歌舞伎の上演情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】
成績は、平常点 40 %、期末試験 60 %（配布資料とノートの持ち込み可）の比率で評価します。出席回数が授業総数の３分の２に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。

【学生の意見等からの気づき】
それぞれの作品の特徴をできるだけ具体的に説明します。

【Outline and objectives】
Regarding Japanese performing arts developed after the early modern era, we will learn about the history, the characteristics of music and lyrics, the relation to theater and dance, the characteristics of experts and enthusiasts, mainly with music. In Fall semester, we mainly focus on Bunraku and Kabuki.

LIT200BC

編集理論 A

福江　泰太

夜間時間帯
授業コード：A2709　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちはテクストを、多くの場合、書物や雑誌のかたちで享受しています（web 空間におけるテクストについては秋学期に扱います）。まず、テクストが書物や雑誌へと姿を現していく過程をしっかりと理解していきます。

【到達目標】
これまでの「読む」という側からだけでなく、「作る」という編集・制作という視点からも、書籍や雑誌を隅々まで味わいつくすための知識を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
現在の書籍や雑誌の制作過程を追体験的に講義していきますが、歴史的な背景や経緯を含めた説明に留意します。また同時に編集過程とは常に「テクスト」とは何かという問いかけを内包した行為であることも学んでいきます。映像資料を使い、実際的・具体的な授業内容となるよう心がけます。授業ごとに感想や疑問点を書いてもらいます。次の授業でそれを反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	作者／編集者／読者	テクストに編集という行為はどういう作用を及ぼし、編集者とはいったいどういう存在なのか考えます。
第 2 回	編集の流れ 1	実際の編集作業の流れを、DVD の視聴を通じて理解します。
第 3 回	編集の流れ 2	「ゲラ」の動きを中心に、作家／編集者／校正者／印刷・製本業者の協働を考えます。
第 4 回	資材論 1	印刷用紙の大きさと書籍・雑誌の判型の関係を歴史的に考察します。
第 5 回	資材論 2	「紙」の性質の考察のほか、書籍作りに不可欠な資材について学びます。
第 6 回	文字考	書籍や雑誌に使われる文字の大きさや種類、字形／字体／書体の関係について学びます。
第 7 回	文字と版面	書籍や雑誌のページがどのように設計されるのか、その基礎を学びます。
第 8 回	台割と折	書籍・雑誌の全体のページ展開がどのように構成されているのか、その原則を学びます。
第 9 回	校正・校閲について	編集過程における校正・校閲の重要さを学びます。また当用漢字から新常用漢字に至る国語・国字問題も考察します。
第 10 回	装幀考	そのテクストにふさわしい造本とはどのようなものか、造本感覚について学びます。
第 11 回	現代の印刷・製本について	印刷および製本の基礎的な知識について学びます。
第 12 回	現代の書籍・雑誌の流通	書籍・雑誌の流通は固有な制度によって成り立っています。その制度の問題点を含め、流通全体を概観します。
第 13 回	定価と印税	書籍・雑誌の定価はどのようにして決められていくのか、また印税の歴史についても考察します。
第 14 回	読書／読者考	書店や図書館などの「購書空間」「選書空間」「読書空間」の変遷を含め、本を読むという行為の歴史を考察します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分にとって魅力的な本や雑誌は、どこが魅力的なのか、足繁くリアル書店に通い、編集者になったつもりで改めて考えてみてください。あらかじめ、次回授業のキーワードを提示しますので、可能な限り、予備知識を得ておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時プリントを配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢 50%　期末のレポート内容 50%　を併せ成績の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気の授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】
随時 DVD を視聴します。

【その他の重要事項】
編集理論 AB の通年履修が好ましい。
「実務経験」大学在学中より編集の世界に携わり、學藝書林、小澤書店、集英社「青春と読書」編集部等を経て、2000 年より編集事務所を主宰し、現在に至る。編集の現場で起きている問題を素材に、編集の困難と可能性について、受講生とともに考えていきたい。

【Outline and objectives】
What kind of a task is an editor ? Through an usual work of an editor, I show you the process of publishing.

LIT200BC

編集理論 B

福江　泰太

夜間時間帯

授業コード：A2710　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**

秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
紙も印刷術も存在しない時代の書物作りから現代の web 空間でのテクストまで、書物の歴史を概観し、旧来の書物制作者から「近代的編集者」がいかに特化し誕生したかを考察します。またテクストと編集行為との関係、さらに加速化するネット社会における新たなテクスト状況についても概観します。

【到達目標】
編集理論 A で対象とした現代の書籍や雑誌は決して最高の到達点ではありません。むしろ切り捨ててしまった面や退化したところも多くあります。書物の姿は時代とともに変遷します。書物制作の歴史を学ぶことにより、書物がそれぞれの時代に提示してきた「豊饒さ」を新たに認識し、編集という行為の歴史的・文化史的意義を学び、同時に電子書籍をはじめとした現代の web 空間におけるテクストのあり方も考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
書物制作の歴史を西洋・東洋ともに概観します。また電子書籍や web 空間での新たな問題も考察します。DVD 視聴や可能な限り、パピルスや羊皮紙、中世写本やインキュナブラの零葉、和本や明治期の特殊な製本様式による書物など「原物」に接するようにします。授業ごとに感想や疑問点を書いてもらいます。次の授業でそれを反映させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	書物におけるアナログ／デジタル	なぜ今書物の歴史を学ぶことが大切なのか、その意義を考えます。
第 2 回	紙以前の書写材料	パピルス、羊皮紙、バイラーンなど、紙以前の資材とそれによって作られた書物について考察します。
第 3 回	紙の発明とその伝播	紙はいかに作られたのか、中国から西欧への伝播と、東西での製紙法の差を概観します。
第 4 回	書物の形態考	巻子本と冊子本（コデックス）を中心に、様々な書物の「かたち」を紹介し、書物の「かたち」が読書という行為に与えた影響を考えます。
第 5 回	日本・東洋の書物史 1	百万塔陀羅尼から写経、摺経、写本の時代を考察します。
第 6 回	日本・東洋の書物史 2	膠泥活字、木活字、銅活字、鉛活字による中国・朝鮮・日本の古活字の時代を考察します。
第 7 回	日本・東洋の書物史 3	浮世草子をはじめとした近世の書物制作と、書物問屋という出版制度を考察します。
第 8 回	西洋の書物史 1	グーテンベルク以前の、ギリシア・ローマ時代の書物制作、中世の写本文化を概観します。
第 9 回	西洋の書物史 2	グーテンベルクの印刷術の発明とその影響、ルネッサンス、宗教改革、大航海時代の書物のあり方を概観します。
第 10 回	西洋の書物史 3	産業革命以降の書物制作で、ウィリアム・モリスの「プライベート・プレス」の試みとペーパーバックスの誕生について概観します。
第 11 回	画像表現の歴史	手書きによる挿画、版画の利用、写真の印刷への応用というヴィジュアル・コミュニケーションの変遷を考察します。とりわけ「写真」の果たした役割を考えます。
第 12 回	日本における近代書物の誕生	整版から鉛活字による組版、和本から洋装本へと移行する明治の 20 年間の書物制作者のさまざまな試みを考察します。
第 13 回	出版と書物の大衆化	大正末から昭和初めの円本ブーム以降、戦後の流通革命、印刷・製本技術の革新により、書物が一気に大衆化していったことの意味を考え、現在の書物の姿の根拠をとらえます。
第 14 回	電子書籍と web 空間	テクストが紙媒体であることを脱ぎ捨てようとする現代、そこでは編集という行為はどうなっていくのか、その意味を考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
古今東西のさまざまな書物の姿を、図書館等にある図録を利用して調べてください。書物の歴史については、日本史、世界史の知識が背景として必要です。授業内容に該当する時代については、事前に歴史的背景を学習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
随時コピーを配布します。

【参考書】
随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加姿勢 50%　期末のレポート内容 50%　を併せ成績の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】
講義形式ですが、議論しあえる自由な雰囲気の授業にしましょう。

【学生が準備すべき機器他】
随時 DVD を視聴します。

【その他の重要事項】
編集理論 AB の通年履修が好ましい。
「実務経験」大学在学中より編集の世界に携わり、學藝書林、小澤書店、集英社「青春と読書」編集部等を経て、2000 年より編集事務所を主宰し、現在に至る。編集の現場で起きている問題を素材に、編集の困難と可能性について、受講生とともに考えていきたい。

【Outline and objectives】
Through learninng the history of books, I show you the book of the future.

LIT200BC

編集実務 A

谷村　順一

授業コード：A2574　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
出版業界で標準となっているコンピュータを用いた DTP（Desk Top Publishing）による誌面構成の方法を中心に、本作りの実際を学ぶ

【到達目標】
編集実務に必要な基礎技術の習得を目標とし、具画像編集に使用する Adobe Photoshop、ポスターなどの印刷物やロゴマークなどの制作に使用する Adobe Illustrator の基本的な操作方法の取得を目的とします。なお、ページものの編集には Adobe InDesign を使用するので、InDesign をあつかう「編集実務 B」と併せて受講することが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業内容】
　書籍，雑誌の誌面デザインに必要な各種アプリケーションの操作方法を学び，対面授業が可能であれば実際にパソコンを使って誌面デザインを行います。オンラインの場合は操作方法についてのデモンストレーションを行います。数回の小課題の作成とプレゼン，期末課題には小冊子の作成を予定しています。
【授業方法】
　アプリケーションの操作方法などを講義。その後は各自で課題を作成し，プレゼンを行ってもらいます。
※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	DTP とはなにか？	DTP の概略についての講義
第 3 回	Adobe Photoshop ① 切り抜きと合成	Photoshop を用いた画像の切り抜きと合成について
第 4 回	Adobe Photoshop ② 写真のレタッチ	Photoshop を用いた写真のレタッチについて
第 5 回	Adobe Photoshop ③ クリッピングマスク（選択範囲の作成）	Photoshop を用いてアートワークをマスクする方法について（選択範囲を作成する方法）
第 6 回	Adobe Photoshop ④ クリッピングマスク（クリッピングパスの作成）	Photoshop を用いてアートワークをマスクする方法について（クリッピングパスを実際に作成する）
第 7 回	Adobe Photoshop ⑤ Illustrator や InDesign との連携	Photoshop で作成したビットマップ画像を、Illustrator や InDesign といったベクター画像を扱うアプリケーションで使用する方法について
第 8 回	小課題	小課題作成
第 9 回	Adobe Illustrator ① 長方形ツールと楕円形ツール	長方形ツールと楕円形ツールを用いて基本的なオブジェクトの作成方法について
第 10 回	Adobe Illustrator ② オブジェクトの塗りと線の設定	オブジェクトの塗りと線の設定方法について
第 11 回	Adobe Illustrator ③ 選択ツールとダイレクト選択ツール	Illustrator の基本操作の要となる選択ツールとダイレクト選択ツールについて
第 12 回	Adobe Illustrator ④ 文字の入力	テキストツールを用いた文字の入力方法について
第 13 回	Adobe Illustrator ⑤ Photoshop との連携	Illustrator で作成したオブジェクトを Photoshop で使用する方法について
第 14 回	小課題	小課題作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・『文字の組方ルールブック　タテ組編』日本エディタースクール
・『文字の組方ルールブック　ヨコ組編』日本エディタースクール
・『文字組版入門』モリサワ
※その他必要に応じて授業中に紹介します。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点と小課題，期末課題で評価します。
平常点　30 %　小課題＋期末課題　70 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
※授業の性質上，自分の手で実際に演習してみることが重要になります。授業時間内・外に関わらず演習に時間を惜しまないでください。また気になった書籍や雑誌を見つけたら，その本の「どこ」が気になるのか，「何」に惹かれるのか，意識して見るようにしてください。 コンピュータの数に限りがあるため、24 名限定とします。受講希望者が多い場合は 1 回目の授業時に選抜を行います。
※ InDesign を扱う編集実務 B を併せて履修することがのぞましい。
※「情報科学実習 1・2（ f コース中の DTP 入門編) を事前に履修しておくとよりいい。

【Outline and objectives】
Learn the actual fact of making books, centering on methods of magazine composition by DTP (Desk Top Publishing) using computers that are standard in the publishing industry

LIT200BC

編集実務 B

谷村　順一

授業コード：A2576　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
出版業界で標準となっているコンピュータを用いた DTP（Desk Top Publishing）による誌面構成の方法を中心に、本作りの実際を学ぶ

【到達目標】
編集実務に必要な基礎技術の習得を目標にします。具体的にはページものの作成に不可欠な Adobe InDesign の基本的な操作方法の取得を目的とします。なお、画像やイラストなど誌面に必要な要素の作成のために Adobe Photoshop、Illustrator を使用するので「編集実務 A」と併せて受講することが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業内容】
　書籍，雑誌の誌面デザインに必要な各種アプリケーションの操作方法を学び，対面授業が可能であれば実際にパソコンを使って誌面デザインを行います。オンラインの場合は操作方法についてのデモンストレーションを行います。数回の小課題の作成とプレゼン，期末課題には小冊子の作成を予定しています。
【授業方法】
　アプリケーションの操作方法などを講義。その後は各自で課題を作成し，プレゼンを行ってもらいます。
※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	本作りの過程	企画から編集、製本までの一連の書籍製作の過程について
第 3 回	Adobe InDesign ① グリッドフォーマットの作成	誌面作成の基礎となる版面の設定方法について
第 4 回	Adobe InDesign ② マスターページの設定と文字の流し込み	マスターページの役割と文字の流し込みの実際について
第 5 回	Adobe InDesign ③ 文字組み設定	組版の基本となる各種設定について
第 6 回	Adobe InDesign ④ ルビ	ルビの振り方について
第 7 回	Adobe InDesign ⑤ 画像の取り込み	Photoshop や Illustrator で作成した各種画像の取り込み方について
第 8 回	小課題	小課題作成
第 9 回	総合課題① Photoshop、Illustrator、InDsign を使用して表紙、誌面を作成する	ラフの作成
第 10 回	総合課題② Photoshop、Illustrator、InDsign を使用して表紙、誌面を作成する	素材の準備
第 11 回	総合課題③ Photoshop、Illustrator、InDsign を使用して表紙、誌面を作成する	各種アプリケーションを用いたレイアウト作業
第 12 回	総合課題④ Photoshop、Illustrator、InDsign を使用して表紙、誌面を作成する	提出データの最終確認
第 13 回	発表と講評	発表と講評
第 14 回	発表と講評	発表と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・『文字の組方ルールブック　タテ組編』日本エディタースクール
・『文字の組方ルールブック　ヨコ組編』日本エディタースクール
・『文字組版入門』モリサワ
※その他必要に応じて授業中に紹介します。

【参考書】
必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点と小課題，期末課題で評価します。
平常点　30 %　小課題＋期末課題　70 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
※授業の性質上，自分の手で実際に演習してみることが重要になります。授業時間内・外に関わらず演習に時間を惜しまないでください。また気になった書籍や雑誌を見つけたら，その本の「どこ」が気になるのか，「何」に惹かれるのか，意識して見るようにしてください。 コンピュータの数に限りがあるため、24 名限定とします。受講希望者が多い場合は 1 回目の授業時に選抜を行います。
※ Illustrator,Photoshop を扱う編集実務 A と併せて履修することがのぞましい。
※「情報科学実習 1・2（ f コース中の DTP 入門編) を事前に履修しておくとよりいい。

【Outline and objectives】
Learn the actual fact of making books, centering on methods of magazine composition by DTP (Desk Top Publishing) using computers that are standard in the publishing industry

LIT200BC

表現と著作権 A

内藤　裕之

夜間時間帯
授業コード：A2584　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
著作権を知的財産権にまで広げて考える。著作者人格権と財産権としての著作権、身の回りにある知的財産権について理解し、権利を守る立場を確認する。文芸誌、週刊誌、男性ヴィジュアル誌で体験した実例をもとに、法律とは別の現場感覚を伝えたい。簡単に発信してしまう、拡散してしまうことはどれだけ危険か。氾濫する情報を利用するにあたって、知的財産権について、どう対処すべきか。コロナ禍で在宅の活動に縛られて、情報の比較ができにくい中にあって、注意すべき事柄を考える。

【到達目標】
知識の量ではなく、ものの考え方、考える道筋を獲得する。そのためには、法律ではなく、現場は何を守り、何は誤りを認めるべきと考えられているかを紹介しつつ、謝る力を身につけることを目指す。どんな職業についても、必ず関わってくる知的財産権について、著作権のジャンルから、クロ、シロ、グレーを見分けられることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義を中心としながら、授業内での課題発表、もしくはグループディスカッションを講座のまとめの意味で行う予定。また課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の進め方と手順	知的財産権についての概説と法律家でない現場の見方
第 2 回	知的財産権には何があるか。	身近にある具体例について考える。
第 3 回	知的財産権２	知的財産権の侵害例。
第 4 回	それでは著作権とは何か。	著作権と著作者人格権
第 5 回	知的財産権とトラブル①	週刊誌の現場で学んだこと
第 6 回	知的財産権とトラブル②	月刊誌の現場で学んだこと
第 7 回	盗作と剽窃	文芸の世界で学んだこと
第 8 回	アイデアとタイトル	書籍の編集で学んだこと
第 9 回	権利侵害についての実例	表現形式の違いによる侵害例
第 10 回	グループにわかれて討議①	著作権侵害の原告となってみる。
第 11 回	グループにわかれて討議②	著作権侵害の被告となってみる。
第 12 回	グループにわかれて討議③	判決を下すとすれば。
第 13 回	誰でもが発信者になれる危険性。	発進、あるいは安易な拡散がもたらすもの。
第 14 回	総括	編集者として肝に銘じていること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。リアルタイムに起きた事件を可能な限り取り込んでいきますので、世の中の出来事について関心を持ち、事実関係を理解していることを望みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
発表やグループワークへの参加は必須とし、30 %。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20 %、通常授業での平常点 30 %、課題評価 20 %。
ただし、オンラインが想定されていますので、各回にコメントや感想を求める可能性があります。この場合、これを平常点とします。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
ｵﾝﾗｲﾝになったときは PC で受講されることを望みます。

【その他の重要事項】
出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【Outline and objectives】
Know what intellectual property rights are.　We live by taking advantage of various rights.　Understand the intellectual property rights around you and confirm your position to protect them.Based on the examples I experienced in literary magazines, weekly magazines, and men's visual magazines, I would like to convey a sense of the field that is different from the law.

LIT200BC

表現と著作権 B

内藤　裕之

夜間時間帯
授業コード：A2586　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
メディアの違いによる特質を理解し、表現と社会についての関連をつかむ。同時にグループワーク等を通じて、各メディアの現場がどのような視点から情報発信しているかを体験し、情報が氾濫する現代にあって、振り回されることなく、的確な判断ができる姿勢を獲得することを目指す。

【到達目標】
同じ事件、情報であっても、メディアによって、視点、切り口、方向性は、自ずと違ってくる。メディアの特質やこれらの違いを理解し、情報を取捨選択できる判断力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各メディアの規模、特徴などを講義により理解し、メディアの特性から、同じテーマのニュースであっても、視点や切り口、方向性が違い、選び取られたものがいかに違うかを知る。受講人数によるが、後半は各メディアを想定したグループに分かれ、メディアの性質を活かす企画を考える。模擬実務体験のグループワークを行い、メディアの立場から社会との関連を考える。また課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と進め方	秋学期は、講座名からは少し離れて、メディアについて考える。知識の量ではなく、求められるのは、考える過程。
第 2 回	メディアを概観する	新聞、テレビ、雑誌、出版メディアの規模と実情について学ぶ。
第 3 回	新聞について考えてみる①	発行形態から見る、ジャンルから見る。新聞が果たしてきた役割。新聞に求められるもの
第 4 回	新聞について考えてみる②	ジャーナリズムとは何か。戦争報道は何を遺したか。誤報とねつ造。
第 5 回	テレビについて考えてみる①	「テレビがテレビから追い出される日」。テレビの現場は、いま何を考えているか。
第 6 回	テレビについて考えてみる②	事実と真実の差。「切り取られた真実」と理解するには。
第 7 回	雑誌について考えてみる①	女性誌、男性誌、週刊誌、月刊誌、総合誌、文芸誌、マスマガジン、クラスマガジン。読者対象や刊行形態から雑誌を分析する。
第 8 回	雑誌について考えてみる②	紙のエンターティナーか、野次馬精神か。企画力と企画達成力の違い。
第 9 回	出版について考えてみる①	文庫は月刊総合誌。「読んでから見るか、見てから読むか」。 名作からスタンダードに。
第 10 回	出版について考えてみる②	新書は知の最前線。単行本も時代を切り取るジャーナリズム。
第 11 回	グループワークでメディアの企画を制作してみる①	新聞記者になってみる。目線は一体どこにあるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第 12 回	メディアの企画を制作してみる②	テレビを作る、雑誌を作る。企画はどこから生まれるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第 13 回	制作した企画を発表する。	発表された企画について、フリートーク、ディスカッション。
第 14 回	SNS 時代の危険な落とし穴に落ちないために。総括	ＳＮＳ時代のメディア。電子書籍とは何か。受信者でしかなかった者が、簡単に発信者になれる時代に待ち構える危険な落とし穴。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。雑誌を見る、本を読む。リアルタイムで起きた事件、情報を、可能な限り取り込んでいきます。事実関係や背景などの説明に要する時間を限りなくゼロに近づけたいと思っていますので、授業内容の理解の手助けになると思います。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】
特にありません。

【成績評価の方法と基準】
積極的な発言や質問等を加点評価します。発表やグループワークへの参加は必須とし、30 %。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20 %、通常授業での平常点 30 %、課題評価 20 %。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規担当のため、アンケートがありません。

【学生が準備すべき機器他】
自宅等で、インターネット環境を持っていることが望ましい。

【その他の重要事項】
出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【担当教員の専門分野】
＜専門領域（現職）＞　日本文化を海外に発信するべく、若い世代の文化交流と海外の日本語教育の普及、支援に努める公益財団法人 国際文化フォーラムの前代表理事 常務理事。
文芸分野（フィクション）を統括する講談社 元文芸局長。
＜主要研究業績（社歴）＞
群像編集部、PENTHOUSE 編集部、FRIDAY 副編集長、小説現代副編集長、文庫出版部次長、文庫出版部長、文芸局次長兼文芸図書第二出版部長、文芸局長、文芸局長兼文芸文庫出版部長、文芸局長兼群像編集長。

【Outline and objectives】
If you think the news is all same in every media, that is incorrect.Each media has his original opinion.The newspaper article is not neutral,and also the television. The students must learn the difference of each media news,how different there is and why it will happen.

LIT100BC

古文・漢文の基礎

栗山　元子

授業コード：A2604　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、「古文・漢文をもっと楽しむ・もっと理解する」ことを目指し、古文や漢文の原文に触れつつ、その基本知識を確認していきます。具体的には、『枕草子』や『源氏物語』などで引用された有名な漢文故事や漢詩などを取り上げて、訓読などの基本事項を押さえつつ、その内容についての理解を深めていきます。さらにそうした漢詩文の引用が『枕草子』や『源氏物語』においてどのような意図をもってなされたのかということを、本文を丁寧に読み解いていくことで探っていきます。教育実習で古文や漢文を教える予定の人や、古文・漢文の基礎を学び直したいという人に向けての講義です。

【到達目標】
①古典文法や漢文の句法について正しく理解する。
②文法以外にも、古文・漢文を読むにあたっての必要な基礎知識を増やしていく。
③古文においては、辞書を使用すれば現代語訳に頼らずとも原文を読みかつ味わうことができる能力の涵養を最終目標とする。
④漢文においては、訓読を正確に行う力を養い、かつ読解力を高めていくこと、頻出する言葉や有名な作品・作者についての知識を深めることを最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
・毎回講師作成のプリントなどの教材を準備します。
・毎回、理解度の確認のためのレポートを課します。期末試験は行いません。また各授業時のはじめに答え合わせや講評などの課題に対するフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容・方針についての説明
第 2 回	『枕草子』と漢詩文①	「香炉峰の雪」―『白氏文集』を踏まえた応酬について
第 3 回	『枕草子』と漢詩文②	孟嘗君の故事を踏まえた応酬について
第 4 回	『枕草子』と漢詩文③	「雪月花の時」「遊子なほ残りの月に行く」などの漢詩の朗詠がテーマとなっている章段を読む
第 5 回	『枕草子』と漢詩文④	「草の庵を誰かたづねむ」に見える清少納言の漢才について
第 6 回	『源氏物語』と「長恨歌」①	桐壺巻における白楽天の「長恨歌」の引用について・その 1
第 7 回	『源氏物語』と「長恨歌」②	桐壺巻における白楽天の「長恨歌」の引用について・その 2
第 8 回	『源氏物語』と『史記』	賢木巻における『史記』引用について
第 9 回	『源氏物語』と『蒙求』	蛍巻における「蛍雪の功」の故事の引用について
第 10 回	『源氏物語』須磨巻と漢詩文	須磨巻における白楽天や菅原道真の漢詩文引用について
第 11 回	『源氏物語』柏木巻と漢詩文	柏木巻における白楽天の詩「自嘲」の引用について
第 12 回	『源氏物語』と「李夫人」	宇治の大君物語における「李夫人」引用について
第 13 回	『源氏物語』と「陵園妾」	浮舟物語における「陵園妾」引用について
第 14 回	まとめと確認	授業を振り返ってのまとめや復習・フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・古文・漢文を読むためには文法はもちろんのこと、作品の書かれた時代などの背景についての知識も必要になります。また授業で扱う作品以外にも視野を広げて読んでいくことで、より一層理解や関心が深まります。下記に挙げた参考書などを少しづつ継続して読んでいってください。紹介した以外でも自分で参考書を探してもらっても構いません。自分にとって分かりやすい参考書を見つけることは、「こういう言い方・書き方であれば分かりやすい」ということを発見することになりますから、教える立場に立ったときに「どう説明すればよいか」という教授法の参考になると思います。上記に挙げたことを授業の準備学習として行ってください。また授業を受けた後は、復習しその内容を定着させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講師作成のプリントを配布します。

【参考書】
古語辞典・漢和辞典などは使いなれたものでよいので、必ず手元に置いて参考にしてください。また可能であれば複数の辞書を見比べたりなどすると、より理解が深まります。なお参考にしてほしい書を以下に挙げます。
【参考書】
○古文…
・松尾聰『古文解釈のための国文法入門』(ちくま学芸文庫、2019 年 9 月　1,700 円＋税)
・小田勝『古代日本語文法』(ちくま学芸文庫、2020 年 5 月、1,400 円＋税)
・小西甚一『古文の読解』（ちくま学芸文庫　2010 年 10 月、1,500 円＋税）
○漢文…
・塚田勝郎著『新人教師のための漢文指導　入門講座』（大修館書店、2014 年 11 月、2,200 円＋税）
・前野直彬著『精講　漢文』（ちくま学芸文庫　2018 年８月、1,700 円＋税）
・鈴木健一編『漢文のルール』（笠間書院　2018 年 5 月　1,200 円＋税）
【インターネット上での情報】
①「海外へいあん文学情報」（※平安文学研究者の伊藤鉄也氏によるまとめ情報。海外での研究情報だけでなく国内のサイトの紹介が詳しく載っています）　https://genjiito.org/update/heian_website01/
②古典総合研究所のページ　http://www.genji.co.jp/
　語彙検索などもできます
③風俗博物館のサイト（源氏物語の場面・衣装などを再現しています）
http://www.iz2.or.jp/

【成績評価の方法と基準】
・毎回の授業内容を踏まえて作成する小レポートの成績による評価（８０%）
・平常点としての授業への取り組み姿勢、参加度に対する評価（２０%）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
In Heian period,the Chinese classical literature insupired the many of Japanese classical works. Therefore, it is quoted in many waka poems and stories. And it is no exception to works by women.So, in this class, we'll learn how "The Tale of the Genji" or "The Pillow Book of Sei Shonagon" quoted the Chinese classic literature, and explore their intentions.Through such work, we'll also acquire basic knowledge of Japanese and Chinese classical works (including the classic grammer) .Then we can develop reading comprehension about Japanese and Chinese classical literature.

LIT300BC

書道 A(書写を中心とする)

橋本　匡朗

授業コード：A2719　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】
良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踰えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第 2 回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第 3 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第 4 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第 5 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第 7 回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）背勢の原理で書く。
第 10 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）向勢の原理で書く。
第 11 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第 12 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第 13 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）前半６文字を中心に学び全体をまとめる。
第 14 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）後半６文字を中心に学び全体をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】
プリント配布

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（８０％）
適時レポート（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】
用具・用材
大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低２０枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】
書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline and objectives】
From the viewpoint of "calligraphy is an expression by writing letters", classes take a form centered on practical skills to enhance the expressive power of calligraphy, but We will take care of developing an appreciation ability for the calligraphy and the feeling of loving the calligraphy.
A study on Kihonn-Kou of calligraphy.

LIT300BC

書道 A(書写を中心とする)

橋本　匡朗

夜間時間帯
授業コード：A2721　｜　曜日・時限：**金曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】
良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踰えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス①	構え・執筆方法・文房四宝
第 2 回	ガイダンス②	書体の変遷・書の特徴・いろいろな書
第 3 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「上下大」を中心に習い全体をまとめる。
第 4 回	楷書①基本点画	「上下大小日同」（大筆）「小日同」を中心に習い全体をまとめる。
第 5 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「人近力」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	楷書②基本点画	「人近力字心式」（大筆）「字心式」を中心に習い全体をまとめる。
第 7 回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「登山」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	楷書③筆使い	「登山雲海」（大筆）「雲海」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）背勢の原理で書く。
第 10 回	楷書④形のまとめ方	「徳潤身」（大筆）向勢の原理で書く。
第 11 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「談笑無」を中心に習い全体をまとめる。
第 12 回	楷書⑤形のまとめ方	「談笑無還期」（大筆）「還期」を中心に習い氏名の書き方も工夫する。
第 13 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）前半６文字を中心に学び全体をまとめる。
第 14 回	楷書⑥文字の並べ方	「思即老而逾妙学乃小而可勉」（小筆）後半６文字を中心に学び全体をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】
プリント配布

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（８０％）
適時レポート（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】
用具・用材
大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低２０枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】
書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline and objectives】
From the viewpoint of "calligraphy is an expression by writing letters", classes take a form centered on practical skills to enhance the expressive power of calligraphy, but We will take care of developing an appreciation ability for the calligraphy and the feeling of loving the calligraphy.
A study on Kihonn-Kou of calligraphy.

LIT300BC

書道 B(書写を中心とする)

橋本　匡朗

授業コード：A2720　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】
良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踰えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」（大筆）
第 2 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」（大筆）
第 3 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懐遠人」（大筆）
第 4 回	行書①	行書の特徴・各書体（篆書・隷書・楷書・行書・草書）の歴史
第 5 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第 7 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」（大筆）
第 10 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清」（大筆）
第 11 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「恵風和暢」（大筆）
第 12 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰観宇宙之大」（大筆）
第 13 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清恵風和暢仰観宇宙之大」（小筆）
第 14 回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」（大筆）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】
プリント配布

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（８０％）
適時レポート（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】
用具・用材
大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低２０枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】
書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline and objectives】
From the viewpoint of "calligraphy is an expression by writing letters", classes take a form centered on practical skills to enhance the expressive power of calligraphy, but We will take care of developing an appreciation ability for the calligraphy and the feeling of loving the calligraphy.
A study on Kihonn-Kou of calligraphy.

LIT300BC

書道 B(書写を中心とする)

橋本　匡朗

夜間時間帯
授業コード：A2722　｜　曜日・時限：**金曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「書は文字を書くによる表現」という視点に立ち、授業は書写の表現力を高めるための実技を中心とした形態をとりますが、書に対する基本的な鑑賞力や、書を愛好する心情を養えるように配慮します。

【到達目標】
良い字とはどんな字か、どうしたらよい字が書けるのか、「心に欲するところに従って、規矩を踰えず」という境地を最終目標に考え方・制作手順・制作方法等をいろいろ模索し、自分なりに書に対する見方を持てるように努力してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
具体的には代表的な書の「古典」作品の「臨書」を通じて、楷書の基本的な筆使い・形のまとめ方・文字の並べ方や、行書の筆の使い方・形の簡化・姿の変化を学びます。また、かなの基本的な筆使いや、字母についても学習します。各課題における添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「清泉」（大筆）
第 2 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「東越青丘」（大筆）
第 3 回	楷書⑦古典臨書	欧陽詢『九成宮醴泉銘』から「以文徳懐遠人」（大筆）
第 4 回	行書①	行書の特徴・各書体（篆書・隷書・楷書・行書・草書）の歴史
第 5 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「我忘」を中心に習い全体をまとめる。
第 6 回	行書②筆使い	「我忘吾」（大筆）「吾」と氏名の書き方を工夫し全体をまとめる。
第 7 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「徳不孤」を中心に習い全体をまとめる。
第 8 回	行書③形の簡化	「徳不孤必有隣」（大筆）「必有隣」を中心に習い全体をまとめる。
第 9 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天風」（大筆）
第 10 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清」（大筆）
第 11 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「恵風和暢」（大筆）
第 12 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「仰観宇宙之大」（大筆）
第 13 回	行書④古典臨書	王羲之『蘭亭序』から「天朗気清恵風和暢仰観宇宙之大」（小筆）
第 14 回	かなの筆使い	書写における平がなの書き方「いろは歌」（大筆）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された展覧会の鑑賞とレポート提出本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
①今井凌雪著『今井凌雪の書道入門』全三巻の上巻と中巻（講談社）
②プリント配布

【参考書】
プリント配布

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的な貢献度と清書課題および夏休みの宿題をもって行います。（８０％）
適時レポート（２０％）

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外科目のため非実施。

【学生が準備すべき機器他】
用具・用材
大筆・小筆（最低各一本）/硯一面/墨一丁（墨汁の使用可ただし墨も必要）/文鎮/水滴（スポイドも可）/半紙（毎回最低２０枚ぐらい用意）/雑巾一枚/古新聞紙数枚/下敷（書道用フェルト）/その他必要な道具は事前に連絡

【その他の重要事項】
書道家。書写ボランティア活動の経験あり。

【Outline and objectives】
From the viewpoint of "calligraphy is an expression by writing letters", classes take a form centered on practical skills to enhance the expressive power of calligraphy, but We will take care of developing an appreciation ability for the calligraphy and the feeling of loving the calligraphy.
A study on Kihonn-Kou of calligraphy.

ART300BC

美術史（西洋）A ／美術史（西洋）A(資格)

安藤　智子

授業コード：A2577,A3853　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
春学期・2 単位
備考（履修条件等）：**文学部以外の学生は資格科目として履修（A3853）**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な視点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】
芸術作品の主題、様式、技法等に関する美術史の基礎知識の習得に加え、同時代の政治や社会状況の考察を踏まえた上で、作品を多角的・重層的に捉える視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業の場合は、パワーポイントで画像を映写し、レジュメ（資料・参考文献）を配布した上で講義を行う。
オンラインの授業では、Youtube にアップされた動画教材を視聴する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と展覧会情報 美術史の学習方法・参考文献
第 2 回	美術史の基礎概念と美術史の基礎用語	美術におけるジャンルとは？ 絵画様式や絵画を叙述する上で必要となる基本的な美術用語を確認
第 3 回	絵画のジャンル①	絵画のジャンルの確認 宗教画・神話画～ギリシア神話や聖書に典拠した絵画とは？
第 4 回	絵画のジャンル②	寓意画とは何か？ 物語における抽象的な概念をいかに表象するか？
第 5 回	絵画のジャンル③	肖像画、静物画、風景画
第 6 回	絵画のジャンル④	風俗画～時代の風俗を映した絵画
第 7 回	主題から作品へ①～身ぶりからの読解	聖書の「受胎告知」という主題とした作品を取り上げて、テキストを典拠として描かれた身ぶりを検証
第 8 回	主題から作品へ②～イコノロジーとは？	フェルメールの寓意画を考察する
第 9 回	主題から作品へ③	物語を視覚的に叙述する 異時同図
第 10 回	瞬間を捉える	１９世紀フランス絵画において、瞬間を捉えた作品に焦点を当てる
第 11 回	都市と自然①	１９世紀フランス第二帝政期の都市改造計画によって生まれ変わった都市パリを表象した絵画を検証
第 12 回	都市と自然②	パリで生活している人々を描いた絵画を見る
第 13 回	都市と自然③	１９世紀フランスの地方を表象した絵画を考察する
第 14 回	まとめと質疑応答	これまでの考察をもとに、芸術作品への見方の多様性を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
美術館に積極的に出向き、常設のコレクションや企画展において、実際に美術作品を見てほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
対面授業では、教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。各回の参考文献は授業中に紹介する。

【参考書】
『世界美術大全集　西洋編』、小学館、19-24 巻、1993-96 年
高階秀爾・三浦篤編『西洋美術史ハンドブック』、新書館、1997 年
三浦篤『まなざしのレッスン１―西洋伝統絵画』、東京大学出版会、2001 年
三浦篤『まなざしのレッスン 2 －西洋近現代絵画』、東京大学出版会、2015 年

【成績評価の方法と基準】
対面授業の場合は、学期末レポート（80 %）と、平常点（20 %）を参考に成績評価を決定する。
また、オンライン授業となった場合は、小レポートを３回（60 %）、最終レポート（40 %）で評価する予定。
　芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容の理解度を確認するために、小レポートを提出してもらい、そのレポートに対してコメントをつけて返却する

【Outline and objectives】
Based on the modern art and contemporary art, we will study art works from multiple points of view and learn how to understand them in the context of the art history.

ART300BC

美術史（西洋）B／美術史（西洋）B（資格）

安藤　智子

授業コード：A2578,A3854　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
秋学期・2 単位
備考（履修条件等）：**文学部以外の学生は資格科目として履修（A3854）**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代から現代までの美術史の文脈において、芸術作品を様々な観点から考察するとともに、その鑑賞方法を習得する。

【到達目標】
芸術作品の生成と構造を、美術史の基礎概念をもとに、さらに深く理解する。芸術と社会との関係性をより多角的に捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
Youtube にアップされた動画教材の中で、作品を解説し美術史的な考察を行っていく。
隔週（３回の予定）で動画の内容を見た上での課題を提出し、こちらからコメントによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要 美術史へのアプローチ
第 2 回	美術史の基礎概念と基礎用語	作品主題のジャンル 造形性を表す用語の確認
第 3 回	筆触の多様性	美術史の流れに従って、筆触という技法の表現が変容していく過程を考察する
第 4 回	視点とパースペクティブ	絵画空間における視点、及びパースペクティヴに着目し、１９世紀後半から２０世紀初頭にかけて、ドラスティックな絵画空間の変化を探る
第 5 回	異文化との出会い①	１９世紀にイギリスやフランスで開催された万国博覧会から異国の文化が波及する過程を追う
第 6 回	異文化との出会い②	主に１９世紀のフランス美術が日本の彩色木版画（浮世絵）から受けた影響について紹介する
第 7 回	展覧会と展示	芸術作品を展示する展覧会のシステムについて、フランスを中心に社会的な考察を加える
第 8 回	再現性の消失と抽象絵画	対象を現実に見ているように再現する芸術作品から、概念によって構成された芸術作品へと転換する過程を考察する
第 9 回	美術コレクションとコレクター	２０世紀初頭に形成されたコートールド・コレクションやバーンズ・コレクションから現代の個人や企業によるコレクションまでを視野に入れ、コレクターとコレクションについて考察する
第 10 回	美術市場の形成	デュラン＝リュエル、ヴォラールなどの過去の画商の活動を参照し、現代のコレクター、美術批評家、芸術家のネットワークを考える
第 11 回	美術館の役割	収集、収蔵、研究、展示、教育など美術館が持つ機能と役割をロンドンの「ナショナル・ギャラリー」を例に考察する
第 12 回	美術作品の値段	ゴッホの〈ひまわり〉などを例にとり、美術品の値段を社会学的に考察する
第 13 回	美術鑑賞と美術批評	美術作品を見る立場にある鑑賞者の視点に立って、鑑賞形態や作品を批評することについて考える。
第 14 回	双方向の授業によるディスカッション	これまでの総括 芸術と社会との関係性を包括的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
できれば、春学期と通年で履修してください。
状況が許せば、様々な美術館の展覧会に出向き、芸術作品を実際に鑑賞してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに指定しません。
授業内に資料を配付致します。

【参考書】
授業中に適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】
対面授業の場合は、学期末レポート（80 %）と、平常点（20 %）を参考に成績評価を決定する。
また、オンライン授業となった場合は、小レポートを３回（60 %）、最終レポート（40 %）で評価する予定。
　芸術作品に関する基礎知識を身に付けた上で、分析と論証の手続きが一定のレベルに達しているかを評価基準とする。

【学生の意見等からの気づき】
今学期は展覧会見学でできないことをを考慮しつつ、これからに向けて、授業の内容に沿って、都内の美術館の展示を紹介する。

【Outline and objectives】
Based on the modern art and the contemporary art, we will study the construction of art works from the multiple view points and learn how to interpret them in the context of the Art History.

PRI100BC

情報リテラシー実習 A

谷村　順一

授業コード：A2715　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけではなく、21 世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。

【到達目標】
インターネットや各種電子情報通信機器、また従来の紙媒体といったアナログコンテンツを含め、高度情報通信社会において必要となる「情報の取り扱い」に関する広範囲な知識と能力の取得を目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
インターネットや各種電子情報通信機器の仕組みや扱い方、情報化社会で求められる著作権などの知識の取得とともに、電子文書作成に使われることの多い「Microsoft Word」をメインに使用して、実際に文書を作成し、アプリケーションの操作方法を学び、読みやすい文書とは何かについて考える。なお「Microsoft Excel」、「Microsoft PowerPoint」をあつかう「情報リテラシー実習 B」とあわせて受講することが望ましい。
※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	情報メディアの歴史	メディアの発達と変化
第 3 回	情報メディアの技術的背景	高度情報化社会と人間との関わり
第 4 回	情報リテラシーの実際	ネットリテラシーについて
第 5 回	アナログ情報メディアと視聴覚メディア	電子メディアの特性と活用方法
第 6 回	インターネットによる情報検索と発信方法	各種データベース（OPAC 等）と情報検索方法
第 7 回	情報メディアと著作物利用に関する諸問題①	知的財産制度について
第 8 回	情報メディアと著作物利用に関する諸問題②	法規範や情報倫理について
第 9 回	情報メディアと著作物利用に関する諸問題③	創造活動や知的財産権、情報倫理について
第 10 回	Microsoft Word の基本操作	文字入力と変換、書式設定
第 11 回	Microsoft Word で案内状を作成する	インデント設定など
第 12 回	Microsoft Word で暑中見舞いを作成する	Word での画像の扱い方について
第 13 回	Microsoft Word でメニューを作成する	段組の設定
第 14 回	Microsoft Word で表の入った文書を作成する	Word での表の作成方法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しません。

【参考書】
参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%＋課題 70%
課題については、課題毎にいくつかのポイントを設定し、そのポイントをクリアすることによって点数を加算します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
受講に際しては情報センターのユーザー登録情報が必要です。各自、受講前に必ず確認のこと。

【Outline and objectives】
With the theme of characteristics and utilization of information media like Internet and various electronic media etc. Under the information communication environment which continues to progress daily, not only the technology handling traditional traditional media such as books and magazines, but also the 21st century We will explain information gathering means required for us living in an information society such as knowledge and skill acquisition handling information including copyright.

PRI100BC

情報リテラシー実習 B

谷村　順一

授業コード：A2716　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけではなく、21 世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。

【到達目標】
インターネットや各種電子情報通信機器、また従来の紙媒体といったアナログコンテンツを含め、高度情報通信社会において必要となる「情報の取り扱い」に関する広範囲な知識と能力の取得を目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
様な情報メディアの特性と活用をテーマに、インターネットや各種電子メディアなど日々進展を続ける情報通信環境のもとで、従来の伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術だけではなく、21 世紀という情報化社会を生きる我々に求められる情報収集手段および著作権を含む情報を扱う知識とスキルの修得について解説する。「情報リテラシー実習 B」では主に Microsoft Excel を用いた表作成、PowerPoint で作成したスライドを用いた効果的なプレゼン方法の実際について学ぶため、文書作成で使用する Word を主にあつかう「情報リテラシー実習 A」とあわせて受講することが望ましい。
※課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	Microsoft Excel ① 基本操作	Excel の基本操作について
第 3 回	Microsoft Excel ② セル、行、列について	表作成に必要となるセル、行、列について
第 4 回	Microsoft Excel ③ ワークシート	ワークシートを用いた効率的な表の管理について
第 5 回	Microsoft Excel ④ 数データ入力方法	数値、連続するデータなどの入力方法について
第 6 回	Microsoft Excel ⑤ 表の作成の実際	罫線などの設定方法について
第 7 回	Microsoft Excel ⑥ 表計算	数式と関数を用いて表計算を行う方法について
第 8 回	Microsoft PowerPoint の基本操作	PowerPoint の基本操作について
第 9 回	Microsoft PowerPoint での入力と書式① 書体のあつかい	スライドの読みやすさの基本となる書体の選択方法などについて
第 10 回	Microsoft PowerPoint での入力と書式② 見やすいスライドとは	行間、インデント等、スライドの見やすさに直接つながる項目の設定方法について
第 11 回	Microsoft PowerPoint でのデザインとレイアウト① スライドのテーマ	共通テーマを設定することでスライドに統一イメージを持たせる方法について
第 12 回	Microsoft PowerPoint でのデザインとレイアウト② スライドのデザイン	スライドのデザインをより印象的なものとするための背景と配色について
第 13 回	Microsoft PowerPoint でのスライドの切り替え方法	アニメーションとトランジションの設定
第 14 回	総合課題	総合課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内にて指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しません。

【参考書】
参考文献は授業時に適宜紹介します。また必要な資料等は授業時に配布します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%＋課題 70%
課題については、課題毎にいくつかのポイントを設定し、そのポイントをクリアすることによって点数を加算します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
受講に際しては情報センターのユーザー登録情報が必要です。各自、受講前に必ず確認のこと。

【Outline and objectives】
With the theme of characteristics and utilization of information media like Internet and various electronic media etc. Under the information communication environment which continues to progress daily, not only the technology handling traditional traditional media such as books and magazines, but also the 21st century We will explain information gathering means required for us living in an information society such as knowledge and skill acquisition handling information including copyright.

PRI100BC

情報メディア演習 A

武田　俊、新見　直

夜間時間帯

授業コード：A2717　｜　曜日・時限：**金曜 5 限**

春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における、テキストを中心としたメディアとその編集のあり方について考えていきます。現役編集者という立場から近年の具体的事例を紹介します。演習形式のため、様々なツールを使い生徒一人ひとりに考えるだけではなく、実践してもらいます。
メディアに携わりたい／編集者になりたいという人だけに役立つものではなく、情報化社会を生きる誰にとっても避けて通れない、「情報」といかに接するべきか、いかにして届けることができるかという問いかけに手をかけることが目標です。

【到達目標】
実際のメディアに触れ、編集者と意見を交わし、グループワークやワークショプを通して「情報」との向き合い方を考え、適切に扱える技術を身につけることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
※授業開始日は 4 月 9 日（金）です。
※オンライン授業となった場合も、通常の授業開始時間より行います。
※初日の詳細は学習支援システムにて当日までにおしらせします。
原則としてオムニバス形式です。領域や立場の異なる現役編集者である武田俊と新見直による実践的なプログラムになっています。時にはメディア業界で活躍するゲスト講師をお呼びする予定です。
講義では、実際に手を動かすワークショップの時間と課題も予定しています。1 回の講義の中で、前回受講時に回収したリアクションペーパーでの質疑に回答するフィードバック、講義、実践を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいについて武田俊と新見直で、それぞれの業務を紹介しながら話します。受講生からの質疑応答、ヒアリングの時間も予定しています。
第 2 回	現代メディア論：現代のメディアの縮図	現代社会におけるメディアやその役割について、俯瞰的にお話します。
第 3 回	現代メディア論：テキストメディアのあり方とビジネスモデル	新聞、雑誌、書籍、Web …現代のテキストメディアの特性とビジネスモデルについて学び、考え、実際に触れてみます。
第 4 回	記事制作 ワークショップ 1 ： WEB メディアにはどのような記事があるか	実在する WEB メディアを参照に、記事のタイプや特徴などをリサーチします。
第 5 回	記事制作ワークショップ 2 ：取材のしかた	インタビューやコラム、レビューなどの記事を制作するための取材のしかたを学び、実践します。
第 6 回	記事制作ワークショップ 3 ：記事のつくり方、届け方	取材を通して得た情報をどのように扱い記事に仕上げ、また広く届けることができるのか。実践を通して学びます。
第 7 回	講評	できあがった記事について、プレゼンと講評を行います。
第 8 回	現代編集論 1 ：現代の編集者たち	今の時代、編集者にはどのようなタイプがおり、どのような仕事の仕方をしているかお話します。
第 9 回	現代編集論 2 ：雑誌編集者	雑誌の編集者がどのような仕事をしているのか、ゲストをお招きし現役の立場からお話しいただきます。
第 10 回	現代編集論 3 ：書籍編集者	書籍の編集者がどのような仕事をしているのか、ゲストをお招きし現役の立場からお話しいただきます。
第 11 回	現代編集論 4 ：マンガ編集者	マンガの編集者がどのような仕事をしているのか、ゲストをお招きし現役の立場からお話しいただきます。
第 12 回	企画制作ワークショップ	編集者がどのように企画をつくるのか。講師が企画書の制作の仕方についてレクチャーし、企画書を作成してもらいます。
第 13 回	講評	できあがった企画について、プレゼンと講評を行います。
第 14 回	まとめ	前期を振り返る、まとめの講義を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内でのワークショップや、実際に手を動かす課題などがあります。
講義の中で作業時間を設けますが、発表に際して講義外で作業をしてもらう可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
明確な教科書はありません。
適宜資料や URL を紹介します。

【参考書】
講義の際に、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義内での課題 70 %、リアクションペーパーの提出率と内容評価で 30 %。加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起こっているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
現在の情勢を踏まえ、オンライン授業を実施する可能性があります。その場合、リアルタイムでのオンライン授業となるので、配信を閲覧できるパソコン機材と安定したネットワーク環境があるのが望ましいです。
ただし、配信はスマートフォンでも視聴可能ですので、上記は必須ではありません。

【その他の重要事項】
講義を行う武田俊・新見直は、ともに本学の文学部日本文学科の OB で、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした双方向的な講義を目指します。
春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、あわせて受講することで、より深く実践的な学びが得られるので、おすすめします。カジュアルなゼミのような気分で受講してもらうとよいと思います。

【Outline and objectives】
This course introduces modern media and how to edit it to students taking this course.
It is supposed not only to lecture but also to actually use some media and practice.

PRI100BC

情報メディア演習 B

武田　俊、新見　直

夜間時間帯

授業コード：A2718　｜　曜日・時限：**金曜 5 限**

秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会における、デジタルメディアとその編集のあり方について考えていきます。現役編集者という立場から近年の具体的事例を紹介します。時には、様々なツールや SNS を使い、生徒一人ひとりに考えるだけではなく、実践してもらいます。
メディアに携わりたい／編集者になりたいという人だけに役立つものではなく、情報化社会を生きる誰にとっても避けて通れない、「情報」といかに接するべきか、いかにして届けることができるかという問いかけに手をかけることが目標です。

【到達目標】
実際のメディアに触れ、編集者と意見を交わし、グループワークやワークショプを通して「情報」との向き合い方を考え、適切に扱える技術を身につけることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
原則としてオムニバス形式です。領域や立場の異なる現役編集者である武田俊と新見直による実践的なプログラムになっています。時にはメディア業界で活躍するゲスト講師をお呼びする予定です。
講義では、実際に手を動かすワークショップの時間と課題も予定しています。1 回の講義の中で、前回受講時に回収したリアクションペーパーでの質疑に回答するフィードバック、講義、実践を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいについて武田俊と新見直で、それぞれの業務を紹介しながら話します。受講生からの質疑応答、ヒアリングの時間も予定しています。
第 2 回	デジタルメディア史：デジタルメディアの誕生と変遷	インターネット誕生以降のデジタルメディアの歴史を紐解きます。 様々な種類の SNS について、その特徴と主だったコンテンツのあり方をレクチャーします。 クラス全員で、デジタルメディア史を実際に制作します。
第 3 回	SNS ワークショップ 1：コンセプトワーク	実際に SNS のアカウントを構築し、運用するためのコンセプトを考えます。
第 4 回	SNS ワークショップ 2：コンテンツ制作	コンセプトに最適なコンテンツのあり方を考え、実際に制作していきます。
第 5 回	SNS ワークショップ 3：コンテンツ発信	コンセプトに最適なコンテンツのあり方を考え、制作・発信していきます。
第 6 回	講評	運用された SNS のアカウント・コンテンツについてプレゼンしてもらい、講評します
第 7 回	デジタルメディアと社会：社会に与えた恩恵と危機	デジタルメディアが社会生活にもたらした恩恵と危機について、時事的な事例を用いて俯瞰的にお話します
第 8 回	メディアに携わる仕事｜デザイナー	デザイナーとはどのような仕事なのか？　何をするのか？　ゲストをお招きし講義してもらいます。
第 9 回	メディアに携わる仕事｜フォトグラファー	フォトグラファーとはどのような仕事なのか？　何をするのか？　ゲストをお招きし講義してもらいます。
第 10 回	メディアに携わる仕事｜映像作家	映像作家とはどのような仕事なのか？　何をするのか？　ゲストをお招きし講義してもらいます。
第 11 回	ビブリオバトル 1	書評を戦わせるゲーム「ビブリオバトル」について、そのルールや成り立ちを学び企画してもらいます。
第 12 回	ビブリオバトル 2	実際にビブリオバトルを行います。
第 13 回	ビブリオバトル 3	引き続き、実際にビブリオバトルを行います。
第 14 回	まとめ	ビブリオバトルの講評とまとめの講義を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内でのワークショップや、実際に手を動かす課題などがあります。
講義の中で作業時間を設けますが、発表に際して講義外で作業をしてもらう可能性があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
明確な教科書はありません。
適宜資料や URL を紹介します。

【参考書】
講義の際に、随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
講義内での課題 70 %、リアクションペーパーの提出率と内容評価で 30 %。
加えて講義への参加意識などを加味し、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生とのコミュニケーションを重視し、随時講義内容をアップデートしていきます。また最新の事例を紹介しながら講義することで、実際に社会で起こっているメディアを取り巻く課題に実感を持てるよう工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】
現在の情勢を踏まえ、オンライン授業を実施する可能性があります。その場合、リアルタイムでのオンライン授業となるので、配信を閲覧できるパソコン機材と安定したネットワーク環境があるのが望ましいです。
ただし、配信はスマートフォンでも視聴可能ですので、上記は必須ではありません。

【その他の重要事項】
講義を行う武田俊・新見直は、ともに本学の文学部日本文学科の OB で、起業経験を持つ現役の編集者です。その視点から、単純な座学ではなく最新事例をもとにした双方向的な講義を目指します。
春学期・秋学期それぞれで受講することが可能ですが、あわせて受講することで、より深く実践的な学びが得られるので、おすすめします。カジュアルなゼミのような気分で受講してもらうとよいと思います。

【Outline and objectives】
This course introduces digital media and how to edit it to students taking this course.
It is supposed not only to lecture but also to actually use some media and practice.

EDU200BC

国語科教育法（1）

野澤　涼子

授業コード：A2724　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国語科の教材に関して、学習指導要領を念頭に置きつつ、文学、言語学、教育学などの観点から問題点や留意点を炙り出し、それらについて検討する。その上で、教材研究の方法、学習評価のあり方、発展的な学習内容の学習指導への位置づけなどについて検討する。

【到達目標】
学習指導要領の考え方を基に、教材研究をすることができる。また、3つの資質・能力（知識・技能　思考力・判断力・表現力等　学びに向かう力・人間性等）を育成するために必要な学習指導を考えることができる。その上で、国語科の指導における本質的な問題を検討し、さらに発展的な学習内容として学習指導に繋げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教員による講義を中心に行う。適宜、グループワークや学生による発表、ディスカッション等を組み合わせて授業を進めていく。その際、グループワークの成果やディスカッションに関して授業内でミニレポートを課し、教室内でその内容を共有する。教員からのフィードバックも授業内で行う。
また、オンラインで授業が行われる場合には、授業方法、課題提出等についてその都度連絡する。したがって、教員からの連絡を頻繁にチェックすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	国語科が置かれている状況、問題点を把握すること。
第 2 回	学習指導要領と教材（1）	教科書落選教材と採用教材を比較し、検討すること。
第 3 回	学習指導要領と教材（2）	学習指導要領と落選及び採用教材を比較し、検討すること。
第 4 回	教材研究（1）	中学校国語科の定番物語教材について、教材研究の方法を把握すること。
第 5 回	教材研究（2）	中学校国語科の論説文教材について、教材研究の方法を把握すること。
第 6 回	教材研究（3）	中学校国語科の古典教材について、教材研究の方法を把握すること。
第 7 回	教材研究（4）	高等学校国語科の定番小説教材について、教材研究の方法を把握すること。
第 8 回	教材研究（5）	高等学校国語科の評論教材について、教材研究の方法を把握すること。
第 9 回	教材研究（6）	詩歌教材について、教材研究の方法を把握すること。
第 10 回	教材研究（7）	学習指導要領と教材との関係について把握すること。
第 11 回	コミュニケーション（1）	学習指導要領を基に「話すこと・聞くこと」について把握すること。
第 12 回	コミュニケーション（2）	学習指導要領を基に「書くこと」について把握すること。
第 13 回	国語科の課題	国語科の今日的な課題について把握すること。
第 14 回	国語科の授業設計	国語科の授業設計について把握すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 具体的な教材について取り上げる際には、事前に指示するので、必ず予め読んでから授業に参加すること。
2. 講義に際してはレジュメを配布するので、授業後に必ず復習すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
『学習指導要領』及び解説書（中学校国語科・高等学校国語科　最新版、文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
主体的に教材研究に取り組むことが出来る、という観点から評価する。
具体的には、ミニレポート 40%（4 回）、学期末レポート 60%（1 回）とする。定期試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
講義内容の記録、講義資料の保管に役立つものを準備すること。

【その他の重要事項】
スケジュールは、学生の希望その他を考慮し変更することがあります。

【Outline and objectives】
In this course, we will study about the problems and focal points of Japanese teaching materials (Kokugo-ka kyozai) allow for the government course guidelines. And think about the matter in terms of literature, linguistic and education. Besides we discuss the method of teaching materials studies, evaluation and teaching of enrichment program.

EDU200BC

国語科教育法（2）

野澤　涼子

授業コード：A2725　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国語科教育法（1）の授業内容を踏まえた上で、生徒の現状、実践研究の動向を視野に入れつつ、学習指導案の作成に取り組む。その際、国語科の特性に応じた情報機器及び機材の効果的な活用を組み込むこととする。また、学習指導案を基に模擬授業を実施し、議論を通じて授業をよりよく改善していくことに取り組む。

【到達目標】
国語科教育法（1）の授業のテーマ及び到達目標を前提にして、学習指導案を作成することができる。また、具体的な授業場面を想定し、模擬授業を行うことができる。他の学生の模擬授業に関して議論した上で、授業を改善することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学習指導案の書き方について学び、それぞれ模擬授業に取り組む。その際に互いに学習指導案の書き方、授業の工夫の仕方に関して議論し、実践的に学び合う。
学習指導案や模擬授業の評価については、その内容を教室内で共有する。教員からのフィードバックも教室内で行う。
またオンライン授業を行う場合は、授業方法、模擬授業方法についてその都度連絡するので教員からの連絡を頻繁にチェックすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学習指導案とそれに基づく授業計画について把握すること。
第 2 回	学習指導案（1）	学習指導案の基本的な書式について把握すること。
第 3 回	学習指導案（2）	「教材について」、「教材研究」の書き方について把握すること。
第 4 回	学習指導案（3）	「学習目標」、「学習計画」の書き方について把握すること。
第 5 回	学習指導案（4）	「本時の展開案」、「評価」の書き方について把握すること。
第 6 回	模擬授業（1）	学習指導案に基づく模擬授業（物語教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点を探究すること。
第 7 回	模擬授業（2）	学習指導案に基づく模擬授業（小説教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 8 回	模擬授業（3）	学習指導案に基づく模擬授業（論説文教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 9 回	模擬授業（4）	学習指導案に基づく模擬授業（評論教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 10 回	模擬授業（5）	学習指導案に基づく模擬授業（古典教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 11 回	模擬授業（6）	学習指導案に基づく模擬授業（詩歌教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 12 回	模擬授業（7）	学習指導案に基づく模擬授業（話すこと・聞くこと教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 13 回	模擬授業（8）	学習指導案に基づく模擬授業（書くこと教材）を 30 分間実施し、授業づくりの改善点について探究すること。
第 14 回	学力の形成と教育原理	年間指導計画の作成方法について把握すること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1. 具体的な教材について取り上げる際には、事前に指示するので、必ず予め読んでから授業に参加すること
2. 講義に際してはレジュメを配布するので、復習すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを配布する。

【参考書】
『学習指導要領』及び解説書（中学校国語科・高等学校国語科　最新版　文部科学省）

【成績評価の方法と基準】
主体的に学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができるという観点から評価する。
具体的には、模擬授業や議論への参加の積極性 40%、まとめのレポート 60 %（1 回）とする。定期試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】
学習指導案の作成と模擬授業にに取り組むことのよって、学習指導要領の内容を、実践的に学ぶことができた、との声が寄せられている。

【学生が準備すべき機器他】
講義内容の記録、講義資料の保管に役立つもの。

【その他の重要事項】
スケジュールは、学生の希望その他を考慮し変更することがあります。

【Outline and objectives】
On the basis of Teaching Method (1),in this course you will learn to master how to plan. Then you will do and check the lessons through trying to practice you for yourselves.

EDU200BC

国語科教育法（3）

南﨑　徳彦

授業コード：A2727　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育学と現代言語学・文学の理論をベースに、中学校や高等学校の国語科で扱うテキストを教材化するための分析や解釈ができる力をつけるとともに、さまざまな教室環境の中で、実際に授業を展開するためのスキルを身につけるための授業実習演習を行う。具体的には、『羅生門』（芥川龍之介）などの定番作品を既成の読みにとらわれず、主体的に深く考え、「トリガークエスチョン（生徒の興味・関心を引き出す質問）を作り出せるような授業実践力を培う。

【到達目標】
言語による思考力、判断力、表現力等を問う記述式問題や知識技能を活用する問題の解法のスキルや知識教養を学ぶ。また、時代の流れの中で、学校環境の中で起こるさまざまな問題を想定しながら、多様な背景や思想を持つ他者への想像力を培い、客観的に状況を分析する力と、生徒の生きる力を養う指導力を育てる。最終的には魅力ある国語の授業のための学習指導案作成の力と授業の実践を行う力を付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文学概論及び言語学概論を確認して、国語科教材の分析及び授業法を学ぶ。模擬授業を行うことによって、実践力や授業スキルを身につける。講義力、及び教室空間をデザインして、アクティブラーニング、グループ演習を実践する方法を学ぶ。
授業の「振り返りシート」等における良いコメントは授業内で紹介し、更なる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「中学校学習指導要領解説 国語編」と「高等学校学習指導要領解説 国語編」の学習	国語の授業の目的などについて、「学習指導要領解説 国語編」を参考にしながら考え、意見交換を行う。
第 2 回	小説の読み方概論	小説『羅生門』の様々な作品分析の紹介を行った後、それぞれの学生が作成した「主題文」を材料にして考えを深め合う。
第 3 回	高等学校定番小説教材の分析と実践例①	『羅生門』が小説教材の導入に用いられる理由や、教材としての価値について考えを深め、自分たちなりの授業展開をグループで話し合う。
第 4 回	小説『羅生門』の教材分析と授業実践の展開	語りの構造やメタファーなどの表現の特徴、また登場人物の人物像を深く探り、模擬授業の展開方法についてディスカッションを行う。
第 5 回	現代文学理論概要	現代文学理論による教材分析の方法と国語教材の傾向や選定の方法について理解する。
第 6 回	中学校定番小説教材の分析と実践例②	小説教材としての、『高瀬舟』の教材分析と授業実践の展開について具体的に考える。
第 7 回	小説『高瀬舟』の授業実践の展開と模擬授業演習①	模擬授業実践演習のあり方について理解し、『高瀬舟』の授業展開についてのアイデアを全体で共有する。
第 8 回	小説『高瀬舟』の教材分析と模擬授業演習②	小説『高瀬舟』を語りの構造から読み解き、それを模擬授業実践演習に取り入れる方法について考えを深める。
第 9 回	小説教材の授業計画法と評価法	模擬授業実践演習を振り返り、小説教材の学習指導案作成法や定期試験問題の作成法について理解を深める。
第 10 回	詩歌句の読解と授業法	詩歌句の読解方法について意見交換を行い、教材としての詩歌句の指導のポイントや授業実践について考える。
第 11 回	授業教材例として詩歌句の模擬授業演習	「宮沢賢治」「高村光太郎」の作品を教材にした授業実践方法について意見交換を行い、詩歌句の授業法について考えを深める。
第 12 回	古典教材の教材分析と授業法	古典教材の価値やそれを授業で扱う意義などについて、具体的な作品をイメージしながら考える。
第 13 回	古文教材での授業法実践と模擬授業演習	「伊勢物語」「徒然草」など日本古典文学を教材にした授業実践について考え、模擬授業実践演習を行う。
第 14 回	漢文教材での授業法	漢詩や『三国志』など漢文教材の意義について考え、その指導法と模擬授業実践演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料検索、読書、レポート作成、授業見学、ディスカッションなど。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『中学校学習指導要領解説 国語編』(文部科学省)、『高等学校学習指導要領解説　国語編』（文部科学省）、『教育実習の手引き』（法政大学教職課程委員会）

【参考書】
参考書・参考資料等 『実践国語教育法』（学文社）、『現代文学理論』（新曜社）、『文学は教育を変えられるか』（コールサック社）、『読むことの教育』（山吹書店）、『文学理論』（ひつじ書房）、『教師の条件』（学文社）、『持続可能な未来のための教職論』（学文社）、『小説作品論集』（クレス出版）、他

【成績評価の方法と基準】
学生に対する評価
課題やレポート（30 %）、学習指導案（20 %）、模擬授業実践演習・質疑応答（30 %）、模擬授業の振り返りシート（10 %）、授業への貢献度（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、フィードバックはありません。

【Outline and objectives】
The objectives of Teaching Method II, on the basis of Teaching Method I, are for students to learn both the theories on modern language and literature and the skills to cultivate the learner＇ s abilities of thinking, judging and expressing, to analyze the contents of teaching and learning materials for Japanese language, and to try to practice the lessons for themselves.

EDU200BC

国語科教育法（4）

南﨑　徳彦

授業コード：A2728　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育学と現代言語学・文学の理論をベースに、中学校や高等学校の国語科で扱うテキストを教材化するための分析や解釈ができる力をつけるとともに、さまざまな教室環境の中で、実際に授業を展開するためのスキルを身につけるための授業実習演習を行う。具体的には、『羅生門』（芥川龍之介）などの定番作品を既成の読みにとらわれず、主体的に深く考え、「トリガークエスチョン（生徒の興味・関心を引き出す質問）を作り出せるような授業実践力を培う。

【到達目標】
言語による思考力、判断力、表現力等を問う記述式問題や知識技能を活用する問題の解法のスキルや知識教養を学ぶ。また、時代の流れの中で、学校環境の中で起こるさまざまな問題を想定しながら、多様な背景や思想を持つ他者への想像力を培い、客観的に状況を分析する力と、生徒の生きる力を養う指導力を育てる。最終的には魅力ある国語の授業のための学習指導案作成の力と授業の実践を行う力を付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文学概論及び言語学概論を確認して、国語科教材の分析及び授業法を学ぶ。模擬授業を行うことによって、実践力や授業スキルを身につける。講義力、及び教室空間をデザインして、アクティブラーニング、グループ演習を実践する方法を学ぶ。
授業の「振り返りシート」等における良いコメントは授業内で紹介し、更なる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	評論文の教材分析と授業実践	評論『知識社会という幻想』（西垣通）を教材として、評論文の読解方法や教材としての評論文の扱い方について考える。
第 2 回	評論文教材分析と授業実践と模擬授業実践演習	評論『知識社会という幻想』（西垣通）を教材にして、指導案作成と模擬授業を行う。
第 3 回	評論文教材の模擬授業の振り返り	評論文の授業実践をそれぞれ個人で振り返った後、グループディスカッションを行い、評論文教材の授業について考えを深める。
第 4 回	学生の選んだ評論文での模擬授業演習①	前回の授業理論を踏まえて、評論教材の授業実践を行う。その後、授業に関する質疑応答やディスカッションを行う。
第 5 回	学生の選んだ評論文での模擬授業演習②	評論文教材を用いてのアクティブラーニング、グループ学習の方法について実際に体験した上で、意見交換を行う。
第 6 回	翻訳文学の授業方法	翻訳文学教材として『少年の日の思い出』(ヘルマン・ヘッセ) を用いて、教材分析と指導案作成を行う。
第 7 回	翻訳文学の授業実践	翻訳文学教材として『少年の日の思い出』(ヘルマン・ヘッセ) を用いて、模擬授業実践演習を行う。
第 8 回	現代文学作品の授業法①と教育観	「鞄」や「赤い繭」(安部公房) など、メタファーの強い小説の教材分析と授業実践方法について考える。
第 9 回	現代文学の授業法②と模擬授業演習	小説教材『鞄』（阿部公房）の指導案作成と模擬授業実践を行い、現代文学の授業についてディスカッションを行う。
第 10 回	現代文学講義と現代文学理論	「メタファー（暗喩）」をはじめとするさまざまな比喩表現や修辞法について確認し、生徒の表現力を豊かにさせる方法について考える。
第 11 回	小説の教材の分析と授業実践について	小説教材『山月記』を用いて、教材分析と授業実践例を踏まえた指導案作成と模擬授業実践演習を行う。
第 12 回	教材例として小説『山月記』の教材分析と授業実践	これまでの授業実践を踏まえて、「トリガークエスチョン（生徒の興味・関心を引き出す質問）の作り方について考えをまとめる。
第 13 回	小説教材の模擬授業実践	小説『山月記』の教材分析と模擬授業実践演習（グループ学習の方法）
第 14 回	小説教材の指導案と教育実習に向けての心得	小説『山月記』を教材にして、それぞれが学習指導案を完成させるとともに、教育実習に関する質疑応答を行い、教育実習の心得について具体的に考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
資料検索、読書、レポート作成、授業見学、ディスカッションなど。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『中学校学習指導要領解説 国語編』(文部科学省)、『高等学校学習指導要領解説　国語編』（文部科学省）、『教育実習の手引き』（法政大学教職課程委員会）

【参考書】
参考書・参考資料等 『実践国語教育法』（学文社）、『現代文学理論』（新曜社）、『文学は教育を変えられるか』（コールサック社）、『読むことの教育』（山吹書店）、『文学理論』（ひつじ書房）、『教師の条件』（学文社）、『持続可能な未来のための教職論』（学文社）、『小説作品論集』（クレス出版）、他

【成績評価の方法と基準】
学生に対する評価
課題やレポート（30 %）、学習指導案（20 %）、模擬授業実践演習・質疑応答（30 %）、模擬授業の振り返りシート（10 %）授業への貢献度（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により、フィードバックはありません。

【Outline and objectives】
The objectives of Teaching Method II, on the basis of Teaching Method I, are for students to learn both the theories on modern language and literature and the skills to cultivate the learner ' s abilities of thinking, judging and expressing, to analyze the contents of teaching and learning materials for Japanese language, and to try to practice the lessons for themselves.

LIN200BD

英語史 A

福元　広二

授業コード：A2901　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約 1500 年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】
英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所に関しても説明します。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の紹介
第 2 回	英語外面史	英語外面史の概観
第 3 回	英語外面史と地名	英語外面史と地名との関係
第 4 回	世界語としての英語	世界における英語の分布
第 5 回	インド・ヨーロッパ祖語	インド・ヨーロッパ祖語とゲルマン語族
第 6 回	古英語の時代背景	古英語期における社会的・文化的時代背景
第 7 回	古英語の名詞	古英語における名詞の性・数・格
第 8 回	古英語の形容詞・副詞・代名詞	古英語における形容詞・副詞・代名詞の語形変化
第 9 回	古英語の動詞活用	古英語の強変化動詞と弱変化動詞の活用
第 10 回	古英語の語順・否定	古英語における語順、否定、その他
第 11 回	古英語の作品講読	古英語の代表的な作品を講読する
第 12 回	中英語の時代背景	中英語期における社会的・文化的時代背景
第 13 回	中英語の名詞・形容詞	中英語における名詞と形容詞の語形変化
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中尾俊夫・寺島廸子 『図説　英語史入門』大修館書店

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
評価については、期末試験と平常点を総合して評価します。
期末試験 70% 平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、秋学期に開講される「英語史 B」と合わせて履修することをお勧めします。

【Outline and objectives】
This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

LIN200BD

英語史 B

福元　広二

授業コード：A2902　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約 1500 年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】
・英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
・現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所に関しても説明します。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の復習と秋学期で扱うテーマの紹介
第 2 回	中英語の動詞	中英語における動詞活用
第 3 回	中英語の文法	中英語に特徴的な文法
第 4 回	中英語の語彙	中英語期における借入語
第 5 回	中英語の作品講読	中英語の代表的な作家である Chaucer の作品講読
第 6 回	初期近代英語の時代背景	初期近代英語期における社会的・文化的時代背景
第 7 回	初期近代英語の文法	初期近代英語期に特徴的な文法
第 8 回	初期近代英語の語彙	初期近代英語期における借入語
第 9 回	初期近代英語の作品講読	初期近代英語の代表的な作家である Shakespeare の作品講読
第 10 回	後期近代英語の時代背景	後期近代英語期における社会的・文化的時代背景と英文法書・辞書の発達
第 11 回	後期近代英語の文法	後期近代英語期に特徴的な文法
第 12 回	アメリカ英語の成立	アメリカ英語の成立と語彙の特徴
第 13 回	現代英語の変化	現在進行中である英語の文法的変化
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中尾俊夫・寺島廸子 『図説　英語史入門』大修館書店

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
評価については、期末試験と平常点を総合して評価します。
期末試験 70% 平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、春学期に開講される「英語史 A」と合わせて履修することをお勧めします。

【Outline and objectives】
This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

LIT200BD

英文学史 A

丹治　愛

授業コード：A2903　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
イングランド統一、ノルマン人による征服、百年戦争、宗教改革（英国国教会の成立）、海洋国家としての台頭、ピューリタン革命、議会制度の確立、農業革命と産業革命、連合王国の形成といった歴史的事件を背景にして、古英語の時代（中世前期）から 19 世紀初頭までのイギリス文学の歴史を駆け足でたどるが、そのなかで、とくにイングランドのナショナル・アイデンティティとの関連性をもつ作品を優先的に読んでいく。そのことをとおして、文学が全体的な歴史の動向とどのように関連しあい、そしてその作品が生み出された時代のナショナル・アイデンティティをどのように反映しているかを見ていく。

【到達目標】
・イギリス文学史を、イギリス史の大きな動向と関連づけながら概観できる。
・そのことをとおして、イギリス（イングランド）の国家像（ナショナル・アイデンティティ）がどのように形成され変容してきたかを述べることができる。
・文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、中世前期—— *Beowulf*	古代から中世前期までの歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 2 回	中世後期—— Chaucer,*The Canterbury Tales*; Malory, *Le Morte d'Arthur*; Langland, *Piers Plowman*	中世後期の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 3 回	ルネサンス（物語）—— More, *Utopia*	ルネサンスの歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（物語）的状況を学習する。
第 4 回	ルネサンス（詩）—— Spenser,*The Faerie Queene*; Shakespeare: *The Sonnets*	ルネサンスの言語的・文化的・文学（詩）的状況を学習する。
第 5 回	Shakespeare 映画を見て、ディスカッション	Shakespeare 映画のひとつを見て、その内容について議論する。
第 6 回	ルネサンス（劇）—— Shakespeare, *Richard II*; *King Lear*; *As You Like It*	ルネサンスの言語的・文化的・文学（劇）的状況を学習する。
第 7 回	17 世紀—— Bunyan, *Pilgrim's Progress*; Milton, *Paradise Lost*; *Paradise Regained*	17 世紀の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 8 回	18 世紀前半（小説）—— Defoe, *Robinson Crusoe*	18 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 9 回	18 世紀後半（詩）—— Wordsworth & Coleridge, *Lyrical Ballads*	18 世紀後半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 10 回	19 世紀前半（詩）—— Blake, *Milton* , Wordsworth, *The Prelude*	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（詩）的状況を学習する。
第 11 回	Austen 映画を見て、ディスカッション	Austen, *Sense and Sensibility* を見て、その内容について議論する。
第 12 回	19 世紀前半（小説）（1）—— Austen, *Sense and Sensibility*; *Pride and Prejudice*; *Northanger Abbey*	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学（小説）的状況を学習する。
第 13 回	19 世紀前半（小説）（2）—— Austen, *Emma*; *Mansfield Park*; *Persuasion*	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 14 回	期末試験とまとめ	学期全体をとおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】
授業内で配布する資料。
Shakespeare の作品ひとつと Austen の作品ひとつ。

【参考書】
教科書以外で、授業であつかうことになる作品。
Patrick Parrinder, *Nation and Novel: The English Novel from Its Origins to the Present Day* (Oxford UP)

【成績評価の方法と基準】
１．イギリスの歴史を概観できること。
２．それとの関連で文学作品の特徴を説明できること。
リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点５０％
期末試験５０％

【学生の意見等からの気づき】
できるだけアクティブラーニング的な要素を増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
質問は授業中に積極的におこなってください。

【Outline and objectives】
This lecture treats the history of English and British literature from the era of the Old English (the early Medieval period) to the early 19th century, with the background of such historical incidents as the Unification of England, the Norman Conquest, the Hundred Years' War, the English Reformation (the Establishment of the Church of England), the Rise as a Maritime State, the English Revolution, the Formation of the Parliamentary System, the Agricultural Revolution and the Industrial Revolution, the Formation of the United Kingdom. In particular, this lecture selects works having relevance to the English national identity, and in doing so, explains how literature relates to the overall historical trends and how a literary work reflects the national identity of the era when it was created.

LIT200BD

英文学史Ｂ

丹治　愛

授業コード：A2904　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業革命の結果としての急激な都市化、それと反比例する農村の衰退、帝国主義的展開と植民地の拡大、国民退化論の流行、二つの世界大戦、福祉国家への転換、英国病の蔓延とサッチャリズムといった歴史的事件を背景にして、19 世紀から 20 世紀後半までのイギリス文学の歴史をたどるが、そのなかで、とくにイングランドのナショナル・アイデンティティとの関連性をもつ作品を優先的に読んでいく。そのことをとおして、文学が全体的な歴史の動向とどのように関連しあい、そしてその作品が生み出された時代のナショナル・アイデンティティをどのように反映しているかを見ていく。

【到達目標】
・イギリス文学史を、イギリス史の大きな動向と関連づけながら概観できる。
・そのことをとおして、イギリス（イングランド）の国家像（ナショナル・アイデンティティ）がどのように形成され変容してきたかを述べることができる。
・文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（19 世紀初頭までの流れ）	19 世紀初頭までの英文学史の流れを、ナショナル・アイデンティティと関連させながら概観する。
第 2 回	19 世紀前半―― Dickens, *Oliver Twist*, Brontë,*Wuthering Heights*	19 世紀前半の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 3 回	19 世紀なかば（小説）―― Gaskell, *North and South*; Eliot, *Adam Bede*	19 世紀なかばの歴史的出来事とともに、文化的・文学（小説）的状況を学習する。
第 4 回	19 世紀なかば（詩）―― Tennyson, “In Memoriam”; Arnold, “Dover Beach”	19 世紀なかばの歴史的出来事とともに、文化的・文学（詩）的状況を学習する。
第 5 回	19 世紀末―― Hardy, *Tess of the D’Urbervilles*; Morris, *News from Nowhere*	19 世紀末の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 6 回	20 世紀前半（1）―― Gissing, *The Private Papers of Henry Rycloft*	1900 年代の歴史的出来事とともに、言語的・文化的・文学的状況を学習する。
第 7 回	映画 *Howards End* を見てディスカッション	映画 *Howards End* を見て、その内容について議論する。
第 8 回	20 世紀前半（2）―― Forster, *Howards End*; *Maurice*	1910 年代の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 9 回	20 世紀前半（3）―― Woolf, *Mrs Dalloway*; *Between the Acts*	戦間期の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 10 回	20 世紀前半（4）―― Country House Novels	いくつかのカントリーハウス・ノヴェルをとりあげながら、カントリーハウスの文化史をたどる。
第 11 回	20 世紀後半（1）―― Osborne, *Look Back in Anger*; Sillitoe, "The Loneliness of the Long-Distance Runner"	第二次大戦後の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 12 回	映画 *The Remains of the Day* を見て、ディスカッション	映画 *The Remains of the Day* を見て、その内容について議論する。
第 13 回	20 世紀後半（2）―― Ishiguro, *The Remains of the Day*	20 世紀後半の歴史的出来事とともに、文化的・文学的状況を学習する。
第 14 回	期末試験とまとめ	学期全体をとおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】
授業内で配布する資料。
授業であつかう作品のうち２つ。

【参考書】
教科書以外で、授業であつかうことになる作品。
Patrick Parrinder, *Nation and Novel: The English Novel from Its Origins to the Present Day* (Oxford UP)

【成績評価の方法と基準】
１．イギリスの歴史を概観できること。
２．それとの関連で文学作品の特徴を説明できること。
リアクションペーパーと中間レポートなどの平常点５０％
期末試験５０％

【学生の意見等からの気づき】
できるだけアクティブラーニング的な要素を増やしていきたい。

【Outline and objectives】
This lecture follows the history of English and British literature from the 19th century to the latter half of the 20th century, with the background of such historical incidents as the rapid urbanization as a result of the Industrial Revolution, the decline of rural areas inversely proportional to it, the development of imperialism and the expansion of colonies, the spread of the national degeneration theory, the outburst of two World Wars, the formation of a welfare state, the diffusion of the British disease and the appearance of Thatcherism as the reaction to it. This lecture selects works with relevance to the national identity of England, and in doing so, explains how literature relates to the overall historical trends and how a literary work reflects the national identity of the era when it was created.

LIT200BD

米文学史 A

宮川　雅

授業コード：A2905　｜　曜日・時限：月曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ文学の「アメリカンネス」とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。
春学期Aは、植民地時代の文学から 19 世紀中葉の南北戦争前までのアメリカ文学の歴史を、ピューリタニズムという宗教問題、黒人やネイティヴ・アメリカンであらわになる人種問題、産業革命と近代的自我の不安の問題、人間中心主義問題などとアメリカ作家・文学との関連を考えながら、たどる。
目的は、
(1) アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えることと、
(2) 積極的に作品を読み文学テキストに触れること、
により、アメリカ文学の歴史的なパースペクティヴを得ることである。

【到達目標】
(1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
(2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
(3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
(4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
(5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
(6) アメリカ文学について人に語れる。
(7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに読み取れるのか、どんなふうにむつかしいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。
前期のAでは 17 世紀初頭の植民地時代から南北戦争のころまでを扱う予定。
講義。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。
昨年度は、コロナ禍とは無関係なプランとして、(1) ボルヘスの文学史を教科書とし (けっきょく電子化して英語原書＋注釈書を配布)、(2) レポートは 1 作品のみとしたのでしたが、今年は（1）なんでもいいから米文学史の本を各自 1 冊読むこと、（2）レポートは 3 作品、3 本とすること、に改めます。
提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	移民の国アメリカ	イントロダクション：アメリカという国の性格について。
第 2 回	植民地時代の文学 I	ピューリタニズムとタイポロジカルな想像力。
第 3 回	植民地時代の文学 II	エレジーと名前の重要性。
第 4 回	ベンジャミン・フランクリンの自伝	アメリカの宗教と理神論 (Deism) について。プロテスタンティズムと資本主義の精神。自伝とフィクション。
第 5 回	チャールズ・ブロックデン・ブラウンとアメリカン・ゴシックの伝統	ノヴェル対ロマンス。ゴシック・ロマンス。
第 6 回	ジェイムズ・フェニモア・クーパー	"Leather-Stocking Tales"とウェスタン的英雄像。フロンティアと文学的想像力。
第 7 回	ワシントン・アーヴィング	ゴシックの変容とアメリカ的ユーモア。アメリカの短篇小説。
第 8 回	エマソンとアメリカ超絶主義	アメリカ的ロマン主義と自己信頼。ソローとホイットマン。
第 9 回	エドガー・アラン・ポー	ロマン主義とゴシック。ゴシックの多様性。芸術至上主義と象徴主義。
第 10 回	ホーソーンとロマンス	ホーソーンの小説論。ノヴェル対ロマンス (2)。
第 11 回	メルヴィルの小説	小説の極限について。長篇・短篇・詩。
第 12 回	感傷小説の伝統	大衆小説、高級小説。プロット、ストーリー、キャラクター。女性読者・女性作家・男性作家。
第 13 回	ホイットマンとディキンソン	詩の独自性と現代詩へのつながり。アメリカ詩の伝統。
第 14 回	南北戦争その他	19 世紀の文化と社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を必ず一冊読むこと（試験において確認する）。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】
現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義　アメリカ文学史 [全４巻]』（研究社、2007, 2010）であろう。文学的洞察としてより（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社, 2010）。英語で書かれたもので、すぐれたものは、やや古いが、英国の学者による Marcus Cunliffe, *Literature of the Unites States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思う。米国内の多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたうえで詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ボルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である（柴田元幸の翻訳が出ている）。
さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。古典的研究書を２冊だけ前もってあげておくなら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソーン学者 Randall Stewart の、*American Literature and Christian Doctrine* (1958)（邦訳『アメリカ文学とキリスト教』）、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス=ノヴェルとした Richard Chase の、*The American Novel and Its Tradition* (1958)（邦訳『アメリカ小説とその伝統』）。

【成績評価の方法と基準】
(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20 %）、(2) 3作品を読んでのレポート（40 %）、(3) 期末試験（40 %）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】
むつかしくなりすぎないようにやさしく語ること。やさしくなりすぎないように論理を構築すること。

【その他の重要事項】
後期（秋学期）の「米文学史 B」との継続履修が望ましい。

【Outline and objectives】
This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."

LIT200BD

米文学史Ｂ

宮川　雅

授業コード：A2906　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ文学の「アメリカンネス」（ナショナル・アイデンティティーとかかわるもの）とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。
秋学期Ｂは、南北戦争を契機にヨーロッパに遅れて起こるリアリズムの運動を、自然主義やフェミニズムや社会の変化と関連付けながら理解し、その後 20 世紀前半のモダニズムや後半のカウンターカルチャーを経て、あらためて 1960 年代以降から今日までの非リアリズム的な文学に至る大きな変化を考える。

【到達目標】
(1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
(2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
(3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
(4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
(5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
(6) アメリカ文学について人に語れる。
(7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
アメリカ文学とはどんな文学なのか、講義形式で歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに読み取れるのか、どんなふうにむつかしいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。
後期のＢでは南北戦争から現代までを扱う予定。
ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。
昨年度は、コロナ禍とは無関係なプランとして、(1) ボルヘスの文学史を教科書とし (けっきょく電子化して英語原書＋注釈書を配布)、(2) レポートは１作品のみとしたのでしたが、今年は（１）なんでもいいから米文学史の本を各自１冊読むこと、（２）レポートは３作品、３本とすること、に改めます。
提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	南北戦争とアメリカ文学のリアリズム	ジャーナリズムと文学の文体。
第 2 回	ルイーザ・メイ・オールコットの家庭小説と少女小説とスリラー	女性小説の伝統。
第 3 回	サミュエル・クレメンズ（マーク・トウェイン）と語りのスタイル	American vernacular について。
第 4 回	ヘンリー・ジェイムズと幽霊	視点（point of view）の問題。
第 5 回	フランク・ノリス、スティーヴン・クレイン、セオドア・ドライサー	アメリカの自然主義文学。
第 6 回	アメリカ文学の世紀末	エコロジー、神秘主義、神秘学。
第 7 回	アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルド、ウィリアム・フォークナー	ロスト・ジェネレーションの文学。
第 8 回	ＳＦと探偵小説	小説のジャンル、ジャンルの分化の問題。
第 9 回	Ｔ・Ｓ・エリオット、エズラ・パウンド、ガートルード・スタイン	アメリカの現代詩。
第 10 回	ジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーグ、ゲーリー・スナイダー	ビート・ジェネレーションの文学。
第 11 回	カウンター・カルチャーとアメリカ文学	カルト的なものも含めてアメリカ文化・文学の特性をあらためて考える。
第 12 回	トマス・ピンチョンとジョン・バース	ポスト=モダンな意識とは何か。
第 13 回	アメリカン・ドラマ	演劇とミュージカル。
第 14 回	同時代作家たち	アメリカ文学の現在。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を一冊読むこと。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】
渡辺利雄『講義　アメリカ文学史 [全４巻]』（研究社、2007, 2010）
平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社, 2010)
Marcus Cunliffe, *Literature of the Unites States* (1964; rpt. Pelican Books)
Emory Elliott, *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988)
Jorge Luis Borges, *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974)

【成績評価の方法と基準】
(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20 %）、(2) 作品３冊を読んでのレポート（40 %）、(3) 期末試験（40 %）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】
やさしさを心がける。

【その他の重要事項】
前期（春学期）の「米文学史Ａ」との継続履修が望ましい。

【Outline and objectives】
This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."

LIN100BD

英語学概論 A

椎名　美智

授業コード：A2804　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語学の研究領域の全体を、２セメスターをかけて概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、文体論、英語教育を中心に、英語学研究の全体像が把握できるように広い視野を持って学習します。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく１年次に、春・秋と連続して履修することが望ましいと思います。

【到達目標】
英語学研究の諸分野の内容、アプローチと研究の現状を学び、自分の興味のある分野の研究を概観し、さらに今後の自分の研究テーマの位置づけができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始は 4 月 13 日です。一回目はリモートです。テキストはそれまでに自分で生協にて買っておいてください。毎週 HOPPII「学習支援システム」に何らかの授業の課題ややってほしいこと、読んでほしい箇所などの情報を入れます。授業日が火曜日 3 限ですので、必ず、前日までには HOPPII をチェックしてください。ハンドアウト、パワーポイント、課題、指示、いろんなメディアを使って、授業のエッセンスをお伝えします。基本的には対面授業の予定ですが、場合によっては、オンデマンドやオンラインになることもあるかもしれません。そうした情報も含め、全て前日までには HOPPII でお知らせします。HOPPII から皆さんへはメールでお知らせがいくようにします。
＊＊＊＊＊＊＊
「言語」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭のなかの言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されます。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もあります。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していきます。テキスト、ハンドアウト、パワーポイントを使います。次々と新しい分野へ移動していくので、テキストの該当する部分の予習と復習が必要です。英語で書かれたテキストなので、予習、復習、エキササイズなどは、各自、自分で読み進めていく必要があります。
*****
リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 毎週、授業日の前日に、必ず HOPPI を見てください。	英語学研究の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	世界の英語 (1)	世界語としての英語について
第 3 回	世界の英語 (2)	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第 4 回	形態論 (1)	形態論の概説、単語ができるしくみ
第 5 回	形態論 (2)	形態論と形態素
第 6 回	中間の振り返り	これまでの内容のまとめと復習と演習
第 7 回	意味論 (1)	意味論の概説
第 8 回	意味論 (2)	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第 9 回	語用論 (1)	語用論の概説、言葉の意味について
第 10 回	語用論 (2)	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第 11 回	文体論 (1)	文体論の概説
第 12 回	文体論 (2)	テキスト分析の方法、言語の規則性
第 13 回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第 14 回	社会言語学、言葉と社会、およびコンサルテーション	社会言語学の概説、および春学期の講義内容についてのまとめ、コンサルテーション、課題に対する解説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修する学生は、事前にテキストの該当部分を読んでから授業に出席する必要があります。また、HOPPII にアップロードされた授業の資料は必ずしも、すべてを授業でとりあげるわけではないので、自分で読んで復習をする必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
影山太郎他、『First Steps in English Linguistics:英語学の第一歩』くろしお出版

【参考書】
内容ごとに参考文献や資料を紹介し、HOPPII にアップロードします。

【成績評価の方法と基準】
通常の授業では、学期末試験 70%、レポート 10%、平常点 20%で、評価します。変更しなければならない状況になったら、HOPPII にて連絡をします。

【学生の意見等からの気づき】
進み方が早いようなので、毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックします。また、理解度をチェックする小テストを行いたいと思います。最初は難しいと思うかもしれませんが、予習と復習をきちんとすると、だんだん理解できるようになります。

【学生が準備すべき機器他】
課題は、基本的に HOPPII に添付ファイルの形で提出してもらいます。

【その他の重要事項】
・パワーポイントの資料は、必要な場合は、授業後に HOPPII にアップします。
・オフィスアワーについて、詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire an overview of the English linguistics. The course will focus on important issues in the fields such as World Englishes, Morphology, Semantics, Pragmatics, Sociolinguistics, Stylistics and English teaching.

LIN100BD

英語学概論Ｂ

福元　広二

授業コード：A2805　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　**グローバル：**　**成績優秀：**○　**実務教員：**

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期（A）では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期（B）では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、伝統的文法から最近の生成文法に至るまでの基本的な知識を習得します。言語学研究の諸分野のアプローチと研究の現状を学びます。自分の今後の英語学研究の基礎となるような内容が身につきます。

【到達目標】
この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できるようになります。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第２言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、学校文法から最近の生成文法についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、英語母語話者の発音を聞き、実際に発音してみます。リアクション・ペーパーも提出してもらいます。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について
第 2 回	音を出す仕組み	音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み
第 3 回	音声・音韻論 (1)	音韻論の演習:母音の発音の実践
第 4 回	音声・音韻論 (2)	音声学の概説:子音の仕組み
第 5 回	音声・音韻論 (3)	音声学の演習：子音の発音の実践
第 6 回	音声・音韻論 (4)	英語と日本語の違い：音節とモーラ
第 7 回	統語論の基礎	統語論の概説：言語の構造について
第 8 回	統語構造	統語論の理論について：生成文法による構造分析
第 9 回	言語構造の解析 (1)	言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か
第 10 回	言語構造の解析 (2)	句構造が全て基本的に同じ構造であること
第 11 回	言語習得 (1)	言語習得の基礎的概念
第 12 回	言語習得 (2)	言語習得を説明する主な理論
第 13 回	英語の歴史	言語の歴史について。英語史の概説
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書の該当する箇所は必ず事前に読んでおきます。自分で辞書を引きながらとりあえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけること。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳内に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解くことでしっかり記憶ができます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』
影山太郎、日比谷潤子、ブレント　デ・シェン　著
くろしお出版

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
到達目標に示した、その分野の基礎的知識が充分に理解できているかで評価します。
期末試験　７０％
平常点　３０％

【学生の意見等からの気づき】
「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

【その他の重要事項】
できれば、1 年次に春学期「英語学概論 A」と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、「英語学概論 A」と「英語学概論 B」を両方履修してはじめて得られます。授業の構成や順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正する場合もあります。出席は毎回とります。

【Outline and objectives】
This course introduces students to basic terminology and concepts in the study of the English language.Students get a general introduction to English linguistics, including phonetics and phonology (the study of speech sounds), syntax (the structure of sentences), and language acquisition (how children acquire their native language) and the history of the English language.

LIN100BD

言語学概論 A

石川　潔

授業コード：A2806　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るというより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことになるので、それぞれの分野が自分に向いているか向いていないかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】
-「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向きの判断の材料を得る
　（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。
　教材配信と zoom 授業で、二重に説明を行います。また、配信した教材に基づく質問、口頭説明のリクエストを募り、また、リアクションペーパーを書いてもらいます。zoom 授業では、それらに応じる形のフィードバックも行う予定です。
　配信教材は、「短い動画デモ・ファイルと解説 pdf ファイルの配信」という形が基本となりますが、内容に応じて、違う形態になる場合もあります（例えば動画なしとか）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	この授業の紹介
第 2 回	「音素」その１（音声学・音韻論）	*party* はカタカナで何と言うべき？
第 3 回	「音素」その２（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第 4 回	「音節」その１（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第 5 回	「音節」その２（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第 6 回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第 7 回	今日の文法理論その１（統語論）	「５文型」のアホさ
第 8 回	今日の文法理論その２（統語論）	統語論「研究」実体験
第 9 回	今日の文法理論その３（統語論）	理論的な道具、およびその「心理学的実在性」
第 10 回	今日の文法理論その４（統語論）	新たな（？）潮流
第 11 回	今日の文法理論その５（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第 12 回	今日の文法理論その６（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出せるか
第 13 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その１	「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第 14 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）その２	*Without her contributions failed to come in*. ってどういう意味？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。
なお本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　学習支援システムにて教材を配布します。

【参考書】
　参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
　期末試験、100 %。
　公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。
　但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は授業改善アンケートが行なわれませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムには自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておく（または、法政 gmail で、自分がアクセスするメアドへの自動転送を設定しておく）こと。

【その他の重要事項】
　この授業は『言語学概論Ｂ』とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline and objectives】
An introduction to linguistic sciences for novice. You will take a look at how research in each of the fields is typically conducted so that you will be able to (partially) judge whether each would be the right field for you.

LIN100BD

言語学概論 B

石井　創

授業コード：A2807　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の内容は、「経験科学」としての言語学入門になります。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における各分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】
1．言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2．身近で話されている言語の事実に敏感に気付ける、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
3．科学研究の方法論に対し、正しい認識をもっている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
1．授業形態
本シラバス執筆時点では、文学部の新型コロナウィルス感染対策方針及びその他諸般の事情により、以下の２つの形態のどちらかで授業を実施する予定です。
A. 隔週で「対面授業」と「オンライン授業」を交互に実施
B. 毎週「オンライン授業」を実施
なお、「オンライン授業」は Zoom などの双方向通信アプリを用いたリアルタイム配信形式を予定しています。A と B のどちらの形態になるかは、秋学期開始前にその時期の新型コロナウィルス流行状況とそれに付随する社会情勢などを考慮して教員が決定し、その旨を学習支援システム経由で履修者にお知らせします。
2．授業の進め方
授業形態が上記の A と B のどちらになるかにかかわらず、本授業は教員による講義形式で進められます。ただし、教員が一方的にレクチャーするだけでなく、内容理解を助けるために、受講者が練習問題を解く機会も適宜設けていきます（練習問題を課す頻度は、上記の授業形態の違いによって多少変わってくるでしょうが）。
教員は具体的な言語現象とそれにまつわる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えはいずれも「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもっともらしさを自分で疑う姿勢を大切にし、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答もしくはリアクションペーパー（「オンライン授業」の場合は学習支援システムの「テスト／アンケート」機能で代用）で積極的に発信することが望まれます。また、リアクションペーパー等で得られた面白い質問やコメントは、時間の許す限りその後の授業内で紹介して教員がそれに答えることで、授業における話題や議論を広げるのに役立てていきます。
なお、受講者の理解度などに応じ、説明にかける授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	言語学ってどんな学問？
第 2 回	言語理論と言語観	ソシュール以降の「言語」の捉え方とその変遷
第 3 回	形態論 1	語の内部構造と形態素
第 4 回	形態論 2	語の作られ方
第 5 回	形態論 3	日本語の「ラ」抜きはどのようにして生じたか？
第 6 回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第 7 回	音声学 1	音声産出と子音・母音の体系
第 8 回	音声学 2	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第 9 回	音韻論	音節とモーラ
第 10 回	統語論 1	句構造と X-bar Theory
第 11 回	統語論 2	句構造から文構造へ
第 12 回	統語論 3	生成文法における「移動」と「痕跡」の概念
第 13 回	意味論 1	意味の記述と語彙分解
第 14 回	意味論 2	述語のアスペクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業 1 回あたりの標準の準備・復習時間は、各２時間とします。
1．準備
後述するように、事前配布されるその授業日のハンドアウトにあらかじめ目を通しておくと、その日の授業内容の理解の助けになるでしょう。また、前回の授業内容を理解していることを前提にその日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。
2．復習（宿題、その他応用学習も含む）
その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されていた場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出てきたら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや学習支援システムの掲示板、あるいは授業後の質問のような形で教員に示してもらえれば、こちらもそれに対してさらなるリアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいです。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、代わりに適宜ハンドアウトを配布します。なお、授業形態が上記の A, B どちらになるにせよ、必ず「オンライン授業」が実施される関係で、今年度は紙のハンドアウトは基本的に教室で配布せず、授業日の前にその日に使用するハンドアウトの電子データを学習支援システムにアップロードすることにします（アップロードのスケジュールは学期開始時にお知らせします）。よって、受講者は各自でハンドアウトのデータを事前にダウンロードし、手元に用意した状態で授業に臨んでください（授業中にハンドアウトに直接書き込みをしたい人は、紙に印刷するか、もしくはデータに直接書き込みができるタッチペン等のデバイスを用意してください）。

【参考書】
参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】
1．期末課題 100%
授業形態が上記の A, B のどちらになるかにより、実施可能な課題形式も変わってくるため、以下は本シラバス執筆時点での見通しになります（ゆえに、形式変更の可能性あり）。形態 A の場合、定期試験期間中の新型コロナウィルス流行状況や大学の教室使用状況にもよりますが、基本的には教室での期末試験を行い、その点数を成績とする予定です。一方で形態 B になった場合、教室内試験はおそらく不可能であるため、(1) 期末レポートの提出、(2) 学習支援システムのテスト機能等を用いたオンラインでの期末試験、のどちらかにより成績評価を行う予定です。
2．プラスアルファの加点
上記１の通り、本科目の成績は基本的には期末課題による一発勝負での評価となりますが、それに加え、下記の項目を満たした受講生には成績にプラスアルファで少々の加点をいたします。
　a. リアクションペーパーや質疑応答などで、授業内容に対し良い質問やコメントを行った者
　b. 授業外で学内教員の実施する実験に参加した者（不参加の者が減点されることはない）
なお、本授業では出席は取りません。よって、リアクションペーパーも出席票ではなく、授業の内容や方法に対して受講者が意見や質問、希望を記すためのものであり、「出さないと減点される」という類のものではありません。ゆえに、出席票を出すノリでいい加減なリアクションペーパー (e.g., 氏名を記入しただけのもの、「面白かった」「興味深かった」等の一言感想だけのもの) を提出した者は、逆に成績から減点いたします。

【学生の意見等からの気づき】
1．以前学生から「説明を聞き逃すと理解が追い付かなくなる」という意見が出されたため、一昨年度は説明を極力丁寧に繰り返す方針で授業を進めましたが、それに対し「理解しやすかった」と「同じ説明を何度も繰り返してくどい」という相反する意見が出されました。また、１つあたりの学習項目に費やす説明時間を増やしたために全体的な進度に遅れが生じ、以前は終わらせることができた予定学習範囲を一昨年度はすべてカバーすることができませんでした。従って、今年度は、「オンライン授業」の場合なかなか難しいとも思われますが、授業中に学生の理解度を可能な限り細やかに確認しながら説明量を適切に調整することで、上記した一昨年度の問題を解消できるように努めていきます。
2．一昨年度は授業中に学生が練習問題を解く機会を増やしましたが、それに対して「具体例で実際に手を動かしながら考えてみることで、理解が促進された」等の好意的な意見を多くもらいました。よって、今年度も練習問題を解く機会を、授業形態に応じて、可能な限り積極的に設けていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】
授業形態が上記 A, B のどちらになるにせよ、「オンライン授業」は必ず実施されるため、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。
　a. Zoom などの双方向通信アプリを使用できるデバイス（スマートフォンではなく PC が望ましい）
　b. 上記アプリによるリアルタイム配信授業の視聴に十分耐えうるインターネット回線
これらの機器・環境を用意するのが経済的な理由などで困難な受講生は、大学の事務課に相談してみてください（昨年度はオンライン授業の学生向け受講環境支援が大学により実施されていました）。

また、本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりの学生は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておいてください。

【その他の重要事項】
本科目で「対面授業」を実施することになった場合に備えて、授業内での新型コロナウィルス感染への対策の１つとして、「受講者同士が十分なソーシャルディスタンスを確保できる規模の教室」を用意してもらえるよう、本シラバス執筆時点で事務課に要請しています。しかし、もし本科目に割り当てられた教室が上記の要請を満たせない規模のものであった場合には、「その教室においてソーシャルディスタンスを十分に確保できる程度の人数」にまで履修者数を絞る目的で、履修希望者に対して抽選による履修者選抜を実施します。抽選実施の有無は履修希望者数次第になるため、その詳細は後日連絡しますので、履修希望者は教員もしくは事務課からの抽選に関するお知らせに十分ご注意ください。

【Outline and objectives】
This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics in these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

LIN200BD

英語・言語学講義 A

椎名　美智

授業コード：A2808　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
初回は 9 月 21 日です。授業形態（対面・リモート）は HOPPII で連絡します。互いに日本語で話をしているのに、なにを言いたいのかわからない時があります。外国語だとなおさらそうです。原因の多くは「意味論的意味」と「語用論的意味」のズレ、つまり言葉の辞書的な意味と伝えたいメッセージが一致していないことにあります。本講義では、そうした「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一局面を探ります。
講義のテーマは、「語用論」の中でも特に注目されている「ポライトネス」です。理論的枠組みを学び、知識としてだけでなく、実際のコミュニケーションの技術を身につけ、人間関係を見つめなおす切り口を探ることです。「語用論」を学ぶことによって、「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一局面を探ります。

【到達目標】
授業の最終目標は、コミュニケーション力を向上させていく感性を身につけることです。語用論やポライトネス理論を学ぶと、日常生活でのコミュニケーションギャップの理由が理解できるようになります。よって、「コミュニケーション力」アップを目指す学生への履修をお勧めします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書、ハンドアウト、PPT を使った講義形式です。日本語のテキストなので、授業前に予習をしてきてください。実際に人々のコミュニケーションを観察するフィールドワークやロールプレイも行います。
基本的には対面授業の予定ですが、状況に応じて、授業の形式は変わりますので、毎週、授業の前日までには HOPPII を見てください。
毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学問領域の概説と、各自の課題設定
第 2 回	語用論とは何か	語用論とポライトネスについて概説
第 3 回	第１章：ポライトネスの背景（１）	人間関係に関わる普遍的なルール
第 4 回	第１章：ポライトネスの背景（２）	ポライトネスについて
第 5 回	第２章：ブラウン＆レビンソンのポライトネス理論（１）	効率と配慮について
第 6 回	第２章：ブラウン＆レビンソンのポライトネス理論（２）	ポライトネスと言語文化について
第 7 回	第３章：敬語とポライトネス（１）	会話の場で人間関係を切り分けることについて
第 8 回	第３章：敬語とポライトネス（２）	敬語と距離感について
第 9 回	第４章：距離とポライトネス（１）	「人を呼ぶこと」と「ものを呼ぶこと」の語用論
第 10 回	第４章：距離とポライトネス（２）	呼称と指示語について
第 11 回	第５章：ポライトネスのコミュニケーション（１）	会話のスタイル・言語行為・文化差について
第 12 回	第５章：ポライトネスのコミュニケーション（２）	言語の形式と機能について
第 13 回	第６章：終助詞の意味とポライトネス	話者が直観的にしていることについて
第 14 回	歴史語用論概説	歴史語用論の射程の方法論について、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常生活における人々のコミュニケーションを観察するフィールド・ワークを実践します。自分の生活の中の会話の分析をします。レポートの課題については、ワークショップの形で考えていきたいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。
滝浦真人（2008）『ポライトネス入門』（研究社）

【参考書】
「ポライトネス」「語用論」「コミュニケーション論」といったタイトルのついた本は、おおむね参考になります。

【成績評価の方法と基準】
期末レポート 80%、平常点 20%で評価します。学期末のレポート以外に、学期中に教員が提案したテーマについて提出された課題レポートは加点の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】
授業で使った PPT 資料は、授業後に学習支援システムにアップする予定ですので、それを参考にしてください。授業中はスクリーンの内容をノートにとることよりも、授業の内容に集中してください。講義中心の一方通行の授業になりがちなので、テーマにそって議論できるチャンスを毎回作ります。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【その他の重要事項】
オフィスアワーは火曜日４限です。
「社会言語学」も履修すると、さらに広い言語観を身につけることができるようになります。

【Outline and objectives】
This course deals with human communication with politeness on focus. Students are expected to find problems regarding their own everyday communication.

LIN200BD

英語・言語学講義 B

石川　潔

授業コード：A2809　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】
現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　具体的なネタを取り上げた **zoom** 講義、および、**zoom のチャット機能を利用した**訳や作文の実習。
　訳や作文に授業時にコメントを加え、かつ、リアクションペーパーへのコメントを返す予定です。
　なお、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	巷の日本語論の嘘（その１）	うなぎ文（その１）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第 2 回	巷の日本語論の嘘（その２）	うなぎ文（その２）：奥津説、菅井説
第 3 回	「訳」についての誤解（その１）	代名詞と役割語
第 4 回	「訳」についての誤解（その２）	意味と文法的手段
第 5 回	文化と思考と言語	概念の切り取り方の文化／言語ごとの違い
第 6 回	ハとガ、英語の冠詞（その１）	情報の新旧説……英語の冠詞
第 7 回	ハとガ、英語の冠詞（その２）	情報の新旧説……日本語の助詞
第 8 回	「黒人」英語（その１）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第 9 回	「黒人」英語（その２）	無意識の規則
第 10 回	「黒人」英語（その３）	必要な（意味論的）概念の整備
第 11 回	「黒人」英語（その４）	細かい意味的な区別
第 12 回	強形・弱形・再強勢形	*do* の３単現（その１）
第 13 回	音節量	*do* の３単現（その２）
第 14 回	外来語での音節量調整	*do* の３単現（その３）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えてきてください。
　また、授業で学んだ方法論を身近な他の問題に応用して考えてみてください。
　なお本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】
参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】
　平常点 30 %、授業内オンライン試験 70 %。
　公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。
　但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】
（シラバス執筆段階での結果に基づいています。）
ハンドアウトへの書き込みが必要と思われる回については、通常の LaTeX + pdf という形でなく Word の形にしましたが、毎回を Word にしてほしいという声がありました。pdf でも実は書き込みは可能ですし、Word だとハンドアウトは大変作りにくいのですが、内容と照らし合わせつつ、Word に出来るものは Word にすることも考えます。
また、テスト／アンケートが不定期になってしまったことは、ご指摘を受けるまでもなく、自分でもまずかったと思っていましたが、急遽の代打の講義が入るという特殊な状況だったためであり、今年度はそんな事態にはならないと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておく（または、自分が普段アクセスするアドレスへの自動転送を法政 gmail で設定しておく）こと。

【Outline and objectives】
Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.

LIN200BD

社会言語学

塩田　雄大

授業コード：A2810　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語を研究する観点として、「言語そのもの」の構造を明らかにしようとするものと、「現実の社会とのかかわりの中で、言語がどのように使われているか」に注目するものがある。後者が、当講義で扱う「社会言語学」と呼ばれる分野である。
社会言語学が取り扱うテーマは多岐にわたるが（ことばの使われ方の多様性／言語の変化／「ことばの乱れ」意識／ことばの地域差／コミュニケーション／アイデンティティー／言語・方言どうしの接触／言語政策／…）、講義ではこれらを射程に入れつつ、今年度は特に「方言・ことばの地域差」の観点から考察を進める。毎回の課題準備と、学生諸君からの意見の紹介・検討を通して、「いま・現在」のことばの使われ方を、各自が知恵を絞って考えてゆく。
（履修者の状況に応じて、内容を適宜変更する場合がある）

【到達目標】
社会言語学的・方言学的な「ものの見方・考え方」ができるようになる。履修前と履修後でことばをめぐる風景が異なって見えるようになり、最終的には自分で選んだテーマによるしっかりしたレポートを仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講師による講義形式のものだけではなく、学生諸君から寄せられた成果・意見の公開を積極的におこなう。また、スマホ・タブレット・ＰＣを用いたアンケートや意見収集を講義中または講義時間外に実施することがある。
課題等の提出・フィードバックは、Google フォームおよび学習支援システムを通じて行う予定。
対面講義を想定しているが、状況により判断する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全般の説明
第 2 回	方言の区画・東西対立	西と東で異なることば　ほか
第 3 回	周圏論的／逆周圏論的分布・いろいろな分布	「アホ」と「バカ」の分布、「ら抜き」の変化はなぜ遅いのか　ほか
第 4 回	地点と年齢差	年齢差の観点から見た方言分布　ほか
第 5 回	発音・アクセント・イントネーションの地域差	「箸を持って橋の端を渡る」のアクセント　ほか
第 6 回	アスペクト・条件表現・オノマトペの地域差	「この講義を受ければ／受けると／受けたら」の地域差　ほか
第 7 回	あいさつ・話の進め方の地域差	買い物をしたら何と言って店を出るか　ほか
第 8 回	コミュニケーション意識・待遇表現・昔話の地域差	会話においてボケとツッコミは大切か　ほか
第 9 回	共通語化・方言と共通語の使い分け	方言は共通語化したのか　ほか
第 10 回	伝統方言・中間方言・新方言、近年の地域差	新たに生まれてくる方言　ほか
第 11 回	社会と方言、地域資源としての方言、方言研究の社会的意義	「方言がコンプレックス」から「方言ってかわいい」へ　ほか
第 12 回	言語意識、バーチャル方言、方言ステレオタイプ、方言コスプレ	アニメのキャラクターがなぜ方言を話すのか　ほか
第 13 回	レポート検討	各自のレポートについて検討する。
第 14 回	まとめ	講義の総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
課題の事前準備（テキスト該当箇所の要約および批判的検討）・提出を毎回求める予定である。事前準備等には毎回ある程度のまとまった時間（標準的には 4 時間以上）が必要であるはずなので、その旨承知されたい。

【テキスト（教科書）】
『方言学入門』（木部暢子ほか編著、三省堂、2013 年、1,800 円＋税）
https://www.sanseido-publ.co.jp/publ/gen/gen2lang/hogengak_prm/
履修者は必ず購入のうえ毎回持参すること。

【参考書】
一般論として、書籍はできるかぎり購入して自分のものにしておくこと。すぐに読めなくてもかまわない。そのなかに、いずれ役に立つものが出てくる。学生時代に三千円の投資をケチる人は、その後に三千円以上の損をすることになる。
（1）『はじめて学ぶ方言学』（井上史雄ほか 編著、ミネルヴァ書房、2016 年、2,800 円＋税）
（2）『日本語は「空気」が決める』（石黒圭、光文社新書、2013 年、840 円＋税）
（3）『朝倉日英対照言語学シリーズ［発展編］ 1　社会言語学』（井上逸平編著、朝倉書店、2017 年、3,200 円＋税）
（4）『新・方言学を学ぶ人のために』（徳川宗賢ほか編、世界思想社、1991 年、1,893 円＋税）

【成績評価の方法と基準】
・毎回の事前準備課題　30 %
・最終レポート　70 %
いずれも、「分量」よりも「内容の質」を重視する。
課題および最終レポートに関しては、剽窃・無断引用が不可であるのはもちろん、テキストの内容のみや、講義内で講師が提示した内容のみを記したものも、不可となる。

【学生の意見等からの気づき】
前年度も優秀な学生が多く、共に学ぶことができた。引き続き努力を怠らないようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
各自が使用するメールアドレスは原則として法政大学のアカウントとする。全員への連絡事項は基本的に学習支援システムを用いておこなう予定である。

【その他の重要事項】
質問・相談は、講義終了後、あるいは学習支援システム上にて随時受け付ける。本講義の受講にあたっては英語の能力を前提としておらず、日本語の知識だけで十分である。ただし毎回の事前準備が必要であり、決して「楽な」講義ではない。知的好奇心の高い学生、なにかを真剣に知ろうとする学生が集まって知恵を寄せ合い、満足度の高い時間を共有することを目指したい。こうした考えに共感する学生の履修を、強く希望する。

【Outline and objectives】
To study linguistics, there are two kinds of viewpoint, one is to clarify the structure of "the language itself", and the another one is to research "how the language is used in the real context of society". The latter one is called "sociolinguistics" which will be dealt in this lecture.
The themes dealt on sociolinguistics are diverse (ex. divercity of language usage / language change / consciousness of "language disturbance" / regional dialect / communication / identity / language contact / language policy / ...). In this lecture, these topics will be put in range, while the themes of "regional variation in recent years" should be discussed with greater emphasis in this term.

LIN200BD

応用言語学

川﨑　貴子

授業コード：A2811　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学びます。

【到達目標】
こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。
授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の内容説明
第 2 回	言語知識	子供と大人の言語知識
第 3 回	第一言語習得 1	子供の言語習得
第 4 回	第一言語習得 2	入力の問題点・生得性
第 5 回	第一言語習得 3	臨界期仮説
第 6 回	第一言語習得 4	第一言語習得の研究
第 7 回	言語教育～言語習得	第二言語習得の歴史
第 8 回	第二言語習得 1	第二言語習得における入力問題
第 9 回	第二言語習得 2	L1 と L2 の相違点
第 10 回	第二言語習得 3	言語差と難易度
第 11 回	SLA 研究	実験方法の変遷
第 12 回	SLA 理論 1	パラメタと有標性
第 13 回	SLA 理論 2	パラメタの習得
第 14 回	SLA 理論 3	SLA 理論の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。また宿題も課されます。指示された映像課題をノートをとりながら見ること、宿題の解答を頭の中で考えるだけではなく書いてまとめることが求められます。これらの宿題も試験の範囲に含まれます。

【テキスト（教科書）】
毎回、プリントを配布します。PDF ファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】
参考文献は適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最終試験を 100 %として評価します。

【学生の意見等からの気づき】
言語習得の分野の奥深さを知っていただいたこと、研究の手法などにも興味を持っていただいたことが良かったと思います。

【学生が準備すべき機器他】
連絡、資料の追加配布などに、学習支援システムを使用します。

【Outline and objectives】
Among various fields of applied linguistics, this course mainly concentrates on theoretical aspects of first and second language acquisition.

LIT200BD

英米文学講義Ｉ Ａ

宮川　雅

授業コード：A2907　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。
(1) 英米文学作品テクストを具体的にかじり読みし、
(2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
(3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】
(1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
(2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
(3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
(4) 英文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。リアクション・ペーパーを提出してもらう。
提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	英語文学とは何か	導入。地理と歴史、空間と時間。
第 2 回	英語史と英米文学	言葉とスタイルの変容。
第 3 回	映画と文学（1）	映画を観る。
第 4 回	映画と文学（2）	映画を読む。
第 5 回	小説とは何か	歴史的・構造的考察。
第 6 回	ノヴェルとロマンス	イギリス文学の特性。
第 7 回	ノヴェルとロマンス（2）	アメリカ文学の特性。
第 8 回	小説の登場人物について	round character と flat character（E・M・フォースターの『小説の諸相』）
第 9 回	会話と話法について	学校文法のおさらいから。
第 10 回	視点と人物について	全知の視点と腹心の友。
第 11 回	背景の知識について	ゴシック小説と美学。
第 12 回	英語の辞書のはなし（1）	*OED* その他の標準辞典。
第 13 回	英詩のはなし	英詩の構造、rhyme と meter。
第 14 回	本の蒐集について	本を買う、借りる、閲覧する、ダウンロードする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳ででも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を教室で配布／学習支援システムの「教材」に蓄積

【参考書】
豊田昌倫『英語のスタイル』（研究社, 1981）
豊田昌倫『英語のスタイル――教えるための文体論入門』（研究社, 2017）
E. M. Forster, *The Aspects of the Novel*　『小説の諸相』（ダヴィッド社）
英米の文学史（教室でリストを配布する）
その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント
レポート 20 パーセント
期末試験　60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】
課題を過大にしない。

【Outline and objectives】
This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

LIT200BD

英米文学講義ＩＢ

宮川　雅

授業コード：A2908　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。
(1) 英米文学作品テクストを具体的にかじり読みし、
(2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
(3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

【到達目標】
(1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
(2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
(3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
(4) 英文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。（ときどき、なかば演習スタイルで）作品を読んでリサーチの方法・辞書の引き方を体感する。リアクション・ペーパーを提出する。
提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の辞書のはなし（2）	俗語、慣用句、方言、引用、その他。
第 2 回	キリスト教と英米文学	聖書、コンコーダンス。
第 3 回	シェークスピアと演劇	エリザベス朝の舞台から大衆演芸まで。
第 4 回	引用について	引用と盗用（剽窃）。引用的想像力。
第 5 回	アメリカの短篇小説を読む（1）	19 世紀アメリカの短篇小説。
第 6 回	注釈について	注釈について。
第 7 回	本文校訂とテクストの問題	textual criticism と “text” の多様な意味について。
第 8 回	Speech/ Narration ―― 話法について（2）	とくに描出話法、中間話法、自由間接文体について。
第 9 回	スタイルについて（1）	style のいろいろな意味といろいろなスタイルについて。
第 10 回	スタイルについて（2）	subordination と coordination
第 11 回	アメリカの短篇小説を読む（2）	20 アメリカの短篇小説。
第 12 回	視点と話法について―― 話法について（3）	作品に即して具体的に考える。
第 13 回	ナラトロジーについて	ジュネットとプース、その他
第 14 回	エンディング	作品の結末と終末。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳ででも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を教室で配布／学習支援システムの「教材」に蓄積。

【参考書】
授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント
レポート 20 パーセント
期末試験　60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】
課題を余裕のあるものとする。

【その他の重要事項】
前期春学期の「英米文学講義ＩＡ」からの継続履修がこころから望ましい。

【Outline and objectives】
This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

LIT200BD

英米文学講義ⅡA

丹治　愛

授業コード：A2909　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、18 世紀前半から中期ヴィクトリア朝までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、一人称的語りと三人称的語り、リアリズムとゴシックを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】
・18 世紀前半のダニエル・デフォーから中期ヴィクトリア朝（1870 年以前）までのイギリス小説の流れを概観できる。
・そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを説明できる。
・作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（小説以前の物語）	小説というジャンルに影響をあたえた小説誕生以前の物語形式について学習する。
第 2 回	Defoe, *Robinson Crusoe* とピカレスク小説	*Robinson Crusoe* をテクストにして、ピカレスク小説について学習する。
第 3 回	Swift, *Gulliver's Travels* と風刺	*Gulliver's Travels* をテクストにして、風刺文学について学習する。
第 4 回	*Gulliver's Travels*（映画）	*Gulliver's Travels* の映画を見て、その内容を議論する。
第 5 回	Richardson, *Pamela* と書簡体小説	*Pamela* をテクストにして、書簡体小説について学習する。
第 6 回	Fielding, *Joseph Andrews* と三人称の語り	*Joseph Andrews* をテクストにして、一人称小説と三人称小説の違いについて学習する。
第 7 回	Sterne, *Tristram Shandy* とメタフィクション	*Tristram Shandy* をテクストにして、メタフィクションについて学習する。
第 8 回	Walpole, *The Castle of Otranto* とゴシック的伝統	*The Castle of Otranto* をテクストにしてゴシックについて学習する。
第 9 回	*The Castle of Otranto*（映画）と Radcliffe, *The Italian*	*The Castle of Otranto* の短編映画を見て、ゴシック小説の発展について学習する。
第 10 回	Austen, *Northanger Abbey* と自由間接話法	*Northanger Abbey* をテクストにして、自由間接話法について学習する。
第 11 回	*Northanger Abbey*（映画）	*Northanger Abbey* の映画を見て、その内容について議論する。
第 12 回	Brontë Sisters, *Jane Eyre* & *Wuthering Heights*	*Jane Eyre* & *Wuthering Heights* をテクストにして、女性の文学について学習する。
第 13 回	Dickens, *Oliver Twist* 以後の社会小説	*Oliver Twist* をテクストにして、社会小説について学習する。
第 14 回	期末試験とまとめ	授業全体のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】
授業内で配布する資料
授業であつかう作品のうち２つ

【参考書】
『講座英米文学史８　小説Ⅰ』『講座英米文学史９　小説Ⅱ』（大修館）
The Cambridge Companion to the Eighteenth-Century Novel (Cambridge UP)
The Cambridge Companion to the Victorian Novel (Cambridge UP)

【成績評価の方法と基準】
１．イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
２．それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点５０％
期末試験５０％

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

【Outline and objectives】
While reading typical British novels and watching the movies with them as their original, this lecture explains how realism, which is the essential element of the novel, has diversified. This lecture deals with the history of British novels from the first half of the 18th century to the middle Victorian period, and, in doing so, explains how they developed, taking special notice of the contrasts of first person and third person narratives, and realism and Gothicism. We read novels, and watch movies, practically grasp the method for interpreting them, and learn about differences in expression between novels and movies.

LIT200BD

英米文学講義ⅡB

丹治　愛

授業コード：A2910　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
代表的なイギリス小説を読み、かつ、それを原作とした映画を見ながら、小説の本質的要素であるリアリズムがどのように多様化していくかを確認する。この講義では、19 世紀末から 21 世紀初頭までをあつかい、その間に、イギリス小説がどのようなかたちで展開したかを、リアリズムとゴシック、リアリズムとメタフィクション、モダニズムとポストモダニズムとを軸にして概観する。小説を読み、また、小説を原作とした映画を見て、作品を解釈するための方法を実践的に把握するとともに、小説と映画との表現的差異についても学習する。

【到達目標】
・19 世紀末から 21 世紀初頭までのイギリス小説の流れを概観できる。
・そのなかでリアリズムがどのように変容しているか、リアリズム小説とゴシック小説が、小説ジャンルの発展においてそれぞれどのような役割を演じているかを説明できる。
・作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをとおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション（19 世紀末までの小説の展開）	イントロダクションとして 19 世紀末までの小説の展開を概観する。
第 2 回	映画 *Bram Stoker's Dracula* を見てディスカッション	映画 *Bram Stoker's Dracula* を見て、その内容を議論する。
第 3 回	世紀末のゴシック（1）恐怖小説とファンタジー―― *Dr Jekyll and Mr Hyde*, *Dracula*, *The Princess and the Goblin*	*Dr Jekyll and Mr Hyde* などをテクストにして、恐怖小説とファンタジーについて学習する。
第 4 回	世紀末のゴシック（2）ミステリーとＳＦ―― Sherlock Holmes もの、*The Time Machine*	*The Time Machine* などをテクストにして、ミステリーとＳＦについて学習する。
第 5 回	唯美主義―― *The Picture of Dorian Gray*	*The Picture of Dorian Gray* をテクストにして、唯美主義について学習する。
第 6 回	主観的・内的リアリズム―― *Heart of Darkness*, *The Secret Agent*, *Mrs Dalloway*	*Heart of Darkness* などをテクストにして、主観的・内的リアリズムについて学習する。
第 7 回	芸術家小説―― *A Portrait of the Artist as a Young Man*, *Sons and Lovers*, *To the Lighthouse*	*To the Lighthouse* などをテクストにして、芸術家小説について学習する。
第 8 回	アンチユートピア―― *Nineteen Eighty-Four*	*Nineteen Eighty-Four* をテクストにして、アンチユートピアについて学習する。
第 9 回	怒れる若者たち――"The Loneliness of the Long-Distance Runner"	"The Loneliness of the Long-Distance Runner"をテクストにして 1950 年代の小説について学習する。
第 10 回	ヒストリオグラフィカル・メタフィクション―― *The French Lieutenant's Woman*	*The French Lieutenant's Woman* などをテクストにして、ヒストリオグラフィカル・メタフィクションについて学習する。
第 11 回	マジック・リアリズム―― *Midnight's Children*	*Midnight's Children* などをテクストにして、マジック・リアリズムについて学習する。
第 12 回	映画 *Atonement* を見てディスカッション	映画 *Atonement* を見て、その内容について議論する。
第 13 回	ポストモダン・メタフィクション―― *Atonement*	*Atonement* をテクストにして、ポストモダン・メタフィクションについて学習する。
第 14 回	期末試験とまとめ	全体の授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること、そして指示された主題に関して中間レポートを書くこと。

【テキスト（教科書）】
授業内で配布する資料 授業であつかう作品のうち２つ

【参考書】
『講座英米文学史９　小説Ⅱ』『講座英米文学史 10　小説Ⅲ』（大修館）
The Cambridge Companion to the Victorian Novel (Cambridge UP)
The Cambridge Companion to the Twentieth-Century Novel (Cambridge UP)

【成績評価の方法と基準】
１．イギリス小説の歴史とリアリズムの歴史を概観できること。
２．それとの関連で、それぞれの小説とそのジャンルの特徴を説明できること。
リアクションペーパー、中間レポートなどの平常点５０％
期末試験５０％

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ双方向的な授業をめざします。積極的な参加を期待します。

【Outline and objectives】
While reading typical British novels and watching the movies with them as their original, this lecture explains how realism, which is the essential element of the novel, has diversified. This lecture deals with the history of British novels from the end of the 19th century to the beginning of the 21st century, and, in doing so, explains how they developed, taking special notice of the contrasts of realism and Gothicism, realism and metafiction, modernism and postmodernism. We read novels, and watch movies, practically grasp the method for interpreting them, and learn about differences in expression between novels and movies.

LIN200BD

英語学講義 A

福元　広二

授業コード：A2911　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代英語についての、とくに統語構造つまり文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点も紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。適宜、様々な分析アプローチについても紹介します。

【到達目標】
英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。英語力も確実に向上します。又、英語・言語の分析法の代表的なものについてある程度の知識を持つことができるようになります。英語と日本語の違いと共通点が言語構造に基づくものであることを理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、教科書を使って講義形式で行います。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクション・ペーパーも提出してもらいます。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については HOPPII で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第 2 回	現代英語について	実は知っているようで知らない英語の真実
第 3 回	品詞	学校英文法の見直し
第 4 回	実際の英語	実際に英語の問題を解いてみよう
第 5 回	英語の文型	5 文型の分析
第 6 回	英語における主語	意味上の主語とは何か
第 7 回	代表的な統語構造ーその 1	名詞構文
第 8 回	代表的な統語構造ーその 2	動名詞
第 9 回	代表的な統語構造ーその 3	不定詞
第 10 回	代表的な統語構造ーその 4	分詞
第 11 回	英語の動詞（1）	他動詞の特徴
第 12 回	英語の動詞（2）	自動詞の特徴
第 13 回	英語の助動詞	助動詞の性質
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で触れる予定の構文については、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中島平三 (2017)『斜めからの学校英文法』（開拓社）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験と平常点で、総合的に判断します。(期末試験 60 %、平常点 40 %)

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
とくにありません。

【その他の重要事項】
授業の構成、内容や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。受講生の理解度に応じて、さらに必要と思われる内容を入れていくこともあります。

【Outline and objectives】
This course deals with the study of the characteristics of English syntax. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.

LIN200BD

英語学講義 B

福元　広二

授業コード：A2912　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代英語についての、とくに統語構造つまり文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点を紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。適宜、様々な分析アプローチについても紹介します。

【到達目標】
英語の基本的な構造について、知識が持てるようになる。英語力の向上も目指す。B の授業では、受講するとさらに代表的な構文について、主要な理論を使った分析方法についての知識を持てるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、ハンドアウトを使いながら講義形式で行います。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
　授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については HOPPII で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容について
第 2 回	現代英語の特徴	現代英語の特徴
第 3 回	現代英語の構文	実際に問題を解いてみようー基本的な事実が完璧に理解できているだろうか？
第 4 回	英語の動詞	非定形動詞について
第 5 回	形容詞＋ to 不定詞構文	現代英語の形容詞＋ to 不定詞構文の多様さ
第 6 回	to 不定詞を使った構文ー (1)	現代英語の to 不定詞を使った構文について、詳しくその性質を分析する。
第 7 回	to 不定詞を使った構文ー (2)	共通の性質を持つ不定詞構文について
第 8 回	動名詞、分詞を使った構文	どこが共通でどこが違うのか
第 9 回	結果構文	結果構文の特徴を理解する。
第 10 回	二重目的語構文	二重目的語構文の特徴を理解する。
第 11 回	There 構文	There 構文の特徴を理解する
第 12 回	英語構文と文法化	英語における文法化の例
第 13 回	文法化	文法化のメカニズムについて
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で触れる予定の構文については、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
中島平三 (2017)『斜めからの学校英文法』（開拓社）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験と平常点で、総合的に判断します。(期末試験 60 %、平常点 40 %)

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、春学期の内容をどの程度理解できているかに応じて柔軟に対応させていきます。

【Outline and objectives】
This course deals with the study of the characteristics of English syntax. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures

LIN200BD

言語学講義ＩＡ／言語と論理１（言語学講義Ｉ）Ａ

石川　潔

授業コード：A2913,A2326　｜　曜日・時限：**月曜３限**
春学期・２単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語と日本語を、主として音声の面から比較します。

【到達目標】
母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
資料配信と zoom 授業を組み合わせる形を予定しています。資料は、オンデマンド教材としても成立するような資料を予定していますので、zoom 授業では、特に口頭説明のリクエストがある部分の解説、リアクションペーパーへの口頭でのフィードバックを行う予定です。学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第１回	導入	授業全体の説明
第２回	鼻音１	鼻音についての誤解
第３回	鼻音２	母音挿入
第４回	母音挿入は防げるか（その１）	母音の無声化の利用
第５回	母音挿入は防げるか（その２）	「有声」子音の後ろの場合
第６回	「有声」と「無声」（その１）	半濁点、VOT
第７回	「有声」と「無声」（その２）	知覚における VOT の categorical perception
第８回	ヤ行、ワ行の発音（その１）	大まかな捉え方
第９回	ヤ行、ワ行の発音（その２）	より正確な捉え方
第 10 回	音節についての、よくある誤解	子音・母音の結合ではないこと、および強勢の話
第 11 回	英語における強勢	強勢の有無に伴う音の違い
第 12 回	英語のリズム	強弱交替
第 13 回	聞き取り	実習
第 14 回	様々な話	出生前の習得、歌

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で学んだ話に基づいて、日本語話者による英語（その他の言語）の誤解を探してみてくださいませ。
また、英語で歌う機会も設けてください（理由は授業を受ければわかる……はず）。
なお本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムにて資料配布。

【参考書】
適宜、指示。

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、期末試験 70 %。
公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】
（昨年度はアンケートは実施されなかったので、一昨年の結果に基づいて書きます。）
リアクションペーパーへの返信について良い評価をいただきましたが……めちゃくちゃ時間を取られすぎるので、あのままを継続するのはちょっと非現実的に思えます。そういうことも考慮し、zoom 授業での返答を行う予定です。

【その他の重要事項】
原則「言語学講義Ｉ Ｂ」と連続履修すること。

【Outline and objectives】
Comparisons of English and Japanese phonetics.

LIN200BD

言語学講義ＩＢ／言語と論理１（言語学講義Ｉ）Ｂ

石川　潔

授業コード：A2914,A2327　｜　曜日・時限：**月曜３限**
秋学期・２単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語と日本語を、意味の面から比較します。また、文理解についての実験研究も少し眺めます。

【到達目標】
・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
・論理的な分析能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教材配信と zoom 授業で、二重に説明を行う予定です。また、配信した教材に基づく質問、口頭説明のリクエストを募り、また、リアクションペーパーを書いてもらいます。zoom 授業では、それらに応じる形のフィードバックも行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	時制とアスペクト１	述語の２分類
第２回	時制とアスペクト２	英語の進行形の基本
第３回	時制とアスペクト３	英語の進行形の応用
第４回	時制とアスペクト４	英語に「未来形」ってあるのか？
第５回	時制とアスペクト５	英語の完了形の基本
第６回	時制とアスペクト６	英語の完了形の応用
第７回	時制とアスペクト７	日本語に「現在形・過去形」はない？
第８回	時制とアスペクト８	日本語だって「現在形・過去形」だ！（その１）
第９回	時制とアスペクト９	日本語だって「現在形・過去形」だ！（その２）
第 10 回	時制とアスペクト 10	telicity
第 11 回	時制とアスペクト 11	日本語のテンスについての補足
第 12 回	時制とアスペクト 12	従属節の時制の日英比較
第 13 回	時制とアスペクト 13	「～している」の意味（基本編）
第 14 回	文理解	文中における曖昧語の理解の仕方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
時制・アスペクトについても授業でカバーしきれない事柄はたくさんあります。授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、日ごろ日本語（や英語）に接していれば見つかるはずです。見つけてください。もし学期中に見つかれば、教員に反論してくださいませ（有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれれば、平常点に大幅加点となります）。
なお本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムにて教材配信。

【参考書】
教材に記載。

【成績評価の方法と基準】
各回での「テスト／アンケート」（リアクションペーパーも含む）が 100 %。
公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】
シラバス執筆段階で回答者が１人のみだったので、解釈が難しいのですが、昨年度、教材配信（＋リアクションペーパーへの答えの配信）のみというのが不足という印象を受けました。なので、今度は、資料配信に上乗せする形での zoom 授業も行います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておくこと。

【その他の重要事項】
原則「言語学講義Ｉ Ａ」と連続履修すること。

【Outline and objectives】
Comparisons of English and Japanese semantics, as well as a glimpse of experimental studies on sentence processing.

LIN200BD

言語学講義Ⅱ A

伊藤　達也

授業コード：A2915　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】
言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	形態論 (1)	形態素の種類
第 3 回	形態論 (2)	派生と語の内部構造
第 4 回	形態論 (3)	造語
第 5 回	統語論 (1)	文の構成素分析
第 6 回	統語論 (2)	句構造規則で文を作る
第 7 回	統語論 (3)	変形規則で文を変える
第 8 回	第 2 回から第 7 回のまとめ	まとめ
第 9 回	意味論	語、句、文の意味
第 10 回	語用論 (1)	協調の原理と会話の公理
第 11 回	語用論 (2)	発話行為、ポライトネス
第 12 回	社会言語学 (1)	地域や人種による言語の変異
第 13 回	社会言語学 (2)	ジェンダーと言語
第 14 回	第 9 回から第 13 回のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。次回扱う資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んできてください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】
こちらでプリントを用意します。

【参考書】
『フロムキンの言語学』、ビー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (70%) と平常点 (30%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
配布物は完成前にしっかりと目を通して、タイポがないように気をつけます。

【Outline and objectives】
This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal of this course is to become able to think deeply about language.

LIN200BD

言語学講義Ⅱ B

伊藤　達也

授業コード：A2916　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】
言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	音声学 (1)	母音、子音
第 3 回	音声学 (2)	自然類
第 4 回	音韻論 (1)	弁別素性
第 5 回	音韻論 (2)	音素と異音
第 6 回	音韻論 (3)	音韻規則
第 7 回	音韻論 (4)	強勢
第 8 回	第 2 回から第 7 回のまとめ	まとめ
第 9 回	心理言語学 (1)	子供の言語習得
第 10 回	心理言語学 (2)	構文解析
第 11 回	歴史言語学 (1)	イギリス史、語彙変化
第 12 回	歴史言語学 (2)	音声変化、統語変化、意味変化
第 13 回	歴史言語学 (3)	言語の系統
第 14 回	第 9 回から第 13 回のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。次回扱う資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んできてください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】
こちらでプリントを用意します。

【参考書】
『フロムキンの言語学』、ビー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (70%) と平常点 (30%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
配布物は完成前にしっかりと目を通して、タイポがないように気をつけます。

【Outline and objectives】
This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal of this course is to become able to think deeply about language.

LIN100BD

英語音声学Ａ

川﨑　貴子

授業コード：A2917　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語・英語の音声的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学びます。

【到達目標】
日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号（IPA）などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。
授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第 2 回	発声・調音（1）	呼吸, 発声・構音
第 3 回	発声・調音（2）	調音器官
第 4 回	音とシンボル (1)	国際音声記号（子音）
第 5 回	音とシンボル (2)	国際音声記号（母音）
第 6 回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第 7 回	気音と VOT	音素、VOT と範疇知覚
第 8 回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第 9 回	本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第 10 回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第 11 回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第 12 回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第 13 回	音節構造と音声変化	英語の/l/
第 14 回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
●授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
●宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく、書いてまとめることが求められます。

【テキスト（教科書）】
授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】
Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition.* Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】
学期末試験　　...100%

【学生の意見等からの気づき】
一昨年よりの気付きですが、多くの人が初めて学ぶ音声学、熱心に学び、気づきを得てくださった人が多かったようで嬉しく思います。言語学の授業の礎となる授業なので、しっかり基礎を固められるよう、今後も問題を織り交ぜながら進めてまいります。

【その他の重要事項】
この授業は原則として「英語音声学 B」と連続履修して下さい。

【Outline and objectives】
This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

LIN100BD

英語音声学Ｂ

川﨑　貴子

授業コード：A2918　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「英語音声学 A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するのかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。

【到達目標】
この授業では、「英語音声学 A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ること。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見いだし、記述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するのかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。
授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	音声学の基礎（1）	日・英の子音・母音
第 2 回	音声学の基礎（2）	音節構造・モーラなど
第 3 回	音声規則（1）	音素・音声変化の記述
第 4 回	音声規則（2）	英語の音声変化—気音化
第 5 回	音声規則 (3)	英語の音声変化— flapping
第 6 回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第 7 回	日本語のプロソディー	モーラとアクセント
第 8 回	英語のプロソディー (1)	英語の音節タイプとストレス
第 9 回	英語のプロソディー (2)	英語のストレスルール
第 10 回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第 11 回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第 12 回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第 13 回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第 14 回	まとめ	音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
●授業内容の復習をすることがとても重要です。
●また、「英語音声学 A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学 A」の復習を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
●授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
●宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく、書いてまとめることが求められます。

【テキスト（教科書）】
授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布いたします。

【参考書】
Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition.* Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】
学期末試験　　...100%

【学生の意見等からの気づき】
一昨年よりの気付きになりますが、英語音声学 A の基礎知識のもとに発展的な内容を行う授業であるため、楽しめる学生と、難しく感じた学生がいたようですが、諦めず努力した方が多かったようです。授業内での理解の確認に加え、復習の機会をより多く設けるよう心がけたいと思います。

【その他の重要事項】
この授業の内容は「英語音声学 A] で学ぶ内容を発展させたものとなります。「英語音声学 A」と連続履修して下さい。

【Outline and objectives】
This course further explores English and Japanese phonetics and phonology.

LIN100BD

英語音声学 A

川﨑　貴子

授業コード：A2919　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語・英語の音声的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学びます。

【到達目標】
日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号（IPA）などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。
授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第 2 回	発声・調音（1）	呼吸, 発声・構音
第 3 回	発声・調音（2）	調音器官
第 4 回	音とシンボル (1)	国際音声記号（子音）
第 5 回	音とシンボル (2)	国際音声記号（母音）
第 6 回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第 7 回	気音と VOT	音素、VOT と範疇知覚
第 8 回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第 9 回	本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第 10 回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第 11 回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第 12 回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第 13 回	音節構造と音声変化	英語の/l/
第 14 回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
● 予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
● 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
● 宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく、書いてまとめることが求められます。

【テキスト（教科書）】
授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】
Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】
学期末試験　　...100%

【学生の意見等からの気づき】
一昨年よりの気付きですが、多くの人が初めて学ぶ音声学、熱心に学び、気づきを得てくださった人が多かったようで嬉しく思います。言語学の授業の礎となる授業なので、しっかり基礎を固められるよう、今後も問題を織り交ぜながら進めてまいります。

【その他の重要事項】
この授業は原則として「英語音声学 B」と連続履修して下さい。

【Outline and objectives】
This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

LIN100BD

英語音声学Ｂ

川﨑　貴子

授業コード：A2920　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「英語音声学 A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するのかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。

【到達目標】
この授業では、「英語音声学 A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ること。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見いだし、記述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するのかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	音声学の基礎（1）	日・英の子音・母音
第 2 回	音声学の基礎（2）	音節構造・モーラなど
第 3 回	音声規則（1）	音素・音声変化の記述
第 4 回	音声規則（2）	英語の音声変化—気音化
第 5 回	音声規則 (3)	英語の音声変化— flapping
第 6 回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第 7 回	日本語のプロソディー	モーラとアクセント
第 8 回	英語のプロソディー (1)	英語の音節タイプとストレス
第 9 回	英語のプロソディー (2)	英語のストレスルール
第 10 回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第 11 回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第 12 回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第 13 回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第 14 回	まとめ	音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
● 授業内容の復習をすることがとても重要です。
● また、「英語音声学 A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学 A」の復習を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
● 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
● 宿題の回答を頭の中で考えるだけではなく、書いてまとめることが求められます。

【テキスト（教科書）】
授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布いたします。

【参考書】
Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition.* Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】
学期末試験　　...100%

【学生の意見等からの気づき】
一昨年よりの気付きになりますが、英語音声学 A の基礎知識のもとに発展的な内容を行う授業であるため、楽しめる学生と、難しく感じた学生がいたようですが、諦めず努力した方が多かったようです。授業内での理解の確認に加え、復習の機会をより多く設けるよう心がけたいと思います。

【その他の重要事項】
この授業の内容は「英語音声学 A] で学ぶ内容を発展させたものとなります。「英語音声学 A」と連続履修して下さい。

【Outline and objectives】
This course further explores English and Japanese phonetics and phonology.

LIT200BD

文学研究方法論 A

小島　尚人

授業コード：A2969　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。
①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか
②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
という 4 つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。
題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノヴェル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

【到達目標】
①「授業の概要と目的」に掲げた 4 つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもあれば、事前に配布して宿題として読んでくることを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらう。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	英米文学研究にまつわる 4 つの問い
第 2 回	「メディアを読む」こと	形式と内容、その連関 「メディアはメッセージである」とは
第 3 回	作品解釈と歴史的コンテクスト	ミッキーはなぜ口笛を吹くのか
第 4 回	解釈は推理で（も）ある①	「モルグ街の殺人」における犯人特定のプロセス
第 5 回	解釈は推理で（も）ある②	「モルグ街の殺人」のさまざまな解釈の実例
第 6 回	はじめてのナラトロジー	物語の組み立てを知る 『ピーナッツ』の主人公は誰か
第 7 回	「語られたもの」のナラトロジー	物語の組み立てを知る 順序、提示方法、速度
第 8 回	「語るもの」のナラトロジー	語れるものと語れないもの 人称、視点人物、焦点化
第 9 回	ナラトロジー応用編	「信頼できない語り手」とは何か
第 10 回	作品鑑賞と解釈の実践：『ピノキオ』①	映像の形式・視点・描写とその効果
第 11 回	作品鑑賞と解釈の実践：『ピノキオ』②	感想からレポートへ：5 つのステップ
第 12 回	作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』①	映像の形式・視点・描写とその効果
第 13 回	作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』②	感想からレポートへ：5 つのステップ
第 14 回	まとめ：文学・文化研究のススメ	さまざまな面白さと役立て方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①フィードバックシート（受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの）を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。（1 時間）
②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（1 時間）
③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。（2 時間）

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】
テリー・イーグルトン『文学とは何か（上・下）』岩波文庫、2014 年。
J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008 年。
林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009 年。
丹治愛・山田広昭（編）『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018 年。
大橋洋一（編）『現代批評理論のすべて』新書館、2006 年。
筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000 年。
ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50 %
期末試験（授業内容を踏まえた論述問題が中心）：50 %
※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時にのみ提出できる（事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない）。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

【その他の重要事項】
この授業は原則として「文学研究方法論 B」と連続履修してください。

【Outline and objectives】
This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in.

LIT200BD

文学研究方法論 B

小島　尚人

授業コード：A2970　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。
①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか
②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
という 4 つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。
題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノヴェル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

【到達目標】
①「授業の概要と目的」に掲げた 4 つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもあれば、事前に配布して宿題として読んでくることを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらう。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	批評理論とは何か、何の役に立つのか
第 2 回	心理と無意識に着目する 精神分析批評①	理論の概要と実例を知る ハムレットはなぜ復讐を引き延ばすのか
第 3 回	心理と無意識に着目する 精神分析批評②	ミッキーの無意識をさぐる
第 4 回	性とジェンダーに着目する フェミニズム批評とクィア批評①	理論の概要と実例を知る ベクデル・テストを使いこなす
第 5 回	性とジェンダーに着目する フェミニズム批評とクィア批評②	エルサの物語をどう読むか プルートのジェンダー・アイデンティティ
第 6 回	作品鑑賞と解釈の実践①	「気づきの道具」としての批評理論
第 7 回	作品鑑賞と解釈の実践②	フィードバックシートを用いてレポートに繋げる
第 8 回	異文化・異民族の描かれ方に着目する ポストコロニアル批評①	理論の概要と実例を知る オリエンタリズムとは
第 9 回	異文化・異民族の描かれ方に着目する ポストコロニアル批評②	『ロスト・イン・トランスレーション』における日本人と日本文化
第 10 回	社会的・階級的意味に着目する マルクス主義批評①	理論の概要と実例を知る クラリッサの見えないタクシー
第 11 回	社会的・階級的意味に着目する マルクス主義批評②	『フランケンシュタイン』の怪物とは何か
第 12 回	作品鑑賞と解釈の実践③	「気づきの道具」としての批評理論
第 13 回	作品鑑賞と解釈の実践④	フィードバックシートを用いてレポートに繋げる
第 14 回	まとめ：文学・文化研究　他者を読み、自分を読みかえる経験のススメ、ふたたび	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
①フィードバックシート（受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの）を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。（1 時間）
②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（1 時間）
③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。（2 時間）

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】
テリー・イーグルトン『文学とは何か（上・下）』岩波文庫、2014 年。
J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008 年。
林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009 年。
丹治愛・山田広昭（編）『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018 年。
大橋洋一（編）『現代批評理論のすべて』新書館、2006 年。
筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000 年。
ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50 %
期末レポート（授業で学んだアプローチを応用して課題作品を分析・解釈）：50 %
※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時にのみ提出できる（事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない）。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

【その他の重要事項】
この授業は原則として「文学研究方法論 A」と連続履修してください。

【Outline and objectives】
This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in.

LIT200BD

英米文学特殊講義 Ⅰ

田中　裕希

授業コード：A2965　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代アメリカ文学を読み翻訳する。お互いの訳文を読み合い批評し、現代の英語を現代の日本語に訳す方法を模索する。人称やリズム、文化的背景など、翻訳されることで失われるニュアンスをどう伝えるか。春学期は詩を、秋学期は散文を翻訳する。

【到達目標】
英語を和訳することで、総合的な英語力また日本語力を伸ばす。
言葉の意味や音楽性に敏感になる。
読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ワークショップ形式を軸にした、ディスカッション中心の授業。　授業内でのフィードバックをもとに訳文を練り直す。コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	英語のリズムを翻訳	Elizabeth Bishop
第 3 回	ワークショップ（1）	翻訳の合評
第 4 回	"I"をどう訳すか	Louise Glück
第 5 回	ワークショップ（2）	翻訳の合評
第 6 回	口調 (voice, tone) を翻訳	James Tate
第 7 回	ワークショップ（3）	翻訳の合評
第 8 回	詩型を翻訳	Henri Cole
第 9 回	ワークショップ（4）	翻訳の合評
第 10 回	ポップカルチャーを翻訳	Timothy Donnelly
第 11 回	ワークショップ（5）	翻訳の合評
第 12 回	歴史的背景を翻訳	マイノリティー詩人
第 13 回	ワークショップ（6）	翻訳の合評
第 14 回	結び	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
詩を翻訳し、お互いの訳文を読み批評する。また配布されたプリントを読む。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムを通じて配布。

【参考書】
授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題 50%
平常点（課題、出席、プレゼンテーション、など）50%
４回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
In this course, we will read the works of contemporary American writers and translate them. The spring semester will focus on poetry while the fall semester will be devoted to prose.

LIT200BD

英米文学特殊講義 Ⅱ

田中　裕希

授業コード：A2966　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代アメリカ文学を読み翻訳する。お互いの訳文を読み合い批評し、現代の英語を現代の日本語に訳す方法を模索する。人称やリズム、文化的背景など、翻訳されることで失われるニュアンスをどう伝えるか。春学期は詩を、秋学期は散文を翻訳する。

【到達目標】
英語を和訳することで、総合的な英語力また日本語力を伸ばす。
言葉の意味や音楽性に敏感になる。
読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
ワークショップ形式を軸にした、ディスカッション中心の授業。　授業内でのフィードバックをもとに訳文を練り直す。コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	小説の冒頭を翻訳	J. D. Salinger, *The Catcher in the Rye*
第 3 回	ワークショップ（1）	翻訳の合評
第 4 回	短編小説を翻訳	Denis Johnson, *Jesus' Son*
第 5 回	ワークショップ（2）	翻訳の合評
第 6 回	ショートショートを翻訳	Lydia Davis, Deb Olin Unferth
第 7 回	ワークショップ（3）	翻訳の合評
第 8 回	Memoir を翻訳	Charles Simic, *A Fly in the Soup*
第 9 回	ワークショップ（4）	翻訳の合評
第 10 回	ノンフィクションを翻訳	Roxane Gay, *Bad Feminist*
第 11 回	ワークショップ（5）	翻訳の合評
第 12 回	散文詩を翻訳	Claudia Rankine, *Citizen*
第 13 回	ワークショップ（6）	翻訳の合評
第 14 回	結び	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
散文を翻訳し、クラスメートの翻訳した作品を読み批評する。また配布されたプリントを読む。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業支援システムを通じて配布。

【参考書】
授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
課題 50%
平常点（課題、出席、プレゼンテーション、など）50%
４回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
In this course, we will read the works of contemporary American writers and translate them. The spring semester will focus on poetry while the fall semester will be devoted to prose.

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅳ

小島　尚人

授業コード：A2968　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
テーマ：『ハックルベリー・フィンの冒険』から読み解くアメリカ
概要と目的：
この授業では、19 世紀後半の米国の国民的文学者 Mark Twain の代表作 *Adventures of Huckleberry Finn*（1884）を題材に、そこから見えてくる「アメリカ」の姿を学ぶ。名作長篇をくわしく読解することを通じて小説のおもしろさ、解釈をおこなうことのおもしろさを知るとともに、米文学・文化・社会の理解および文学研究の方法・意義の理解を深めることを目的とする。

【到達目標】
・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。
・他者の考えに耳を傾けて理解し、建設的なやり方で応答することができる。
・自分の考えを分かりやすく効果的に伝えることができる。
・自分の解釈を論理的に記述することができる。
・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持つ。
・『ハックルベリー・フィンの冒険』について、テクストの具体的なキャラクターや細部に触れながら自分なりに語れるようになる。
・マーク・トウェインの生涯と作品、時代背景を学ぶことを通じ、米国の歴史・文化についての知識を深める。
・小説と映画の解釈および比較分析の実践を通して、文学研究の意義を体験的に理解し、その基本的方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・講義と演習を組み合わせながら進める。
・学期序盤は講義が主となる。映画版を見て物語の内容を知るとともに、原作小説を読み解く上で必要なアメリカの文化的・歴史的背景（南北対立、黒人奴隷制など）を学ぶ。
・学期中盤以降は演習形式に適宜講義を取り入れた形式の授業となる。『ハックルベリー・フィンの冒険』の指定された版の翻訳を教科書として各自購入し、翌週で扱う範囲を予習として読んできた上で授業に臨む。
・予習状況の確認のために、作品の内容理解を問う授業内小テストが不定期に課される。
・各自の予習を前提としてグループディスカッションをおこない、受講者同士で解釈や疑問を共有しながら作品とその背景の多角的な理解を深める。
・リアクションペーパー等における良いコメントは翌週の授業内で紹介される。それを踏まえてさらに考察を重ね、より議論の射程を広げつつ掘り下げていく。
・そのような実践の積み重ねを通じて、小説や映画がアメリカの社会・文化の動向とどのように関連しあい、生み出された時代のありさまをどのように反映しているかを能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明、学習内容の概観
第 2 回	映画『ハック・フィンの大冒険』	ディズニー制作の実写映画版（1993 年）を視聴して考察
第 3 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』の背景①：アメリカ南部と北部	アメリカ南部と北部の文化的・社会的差異や対立・衝突の歴史を学ぶ
第 4 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』の背景②：黒人奴隷制	黒人奴隷制はどのようにして始まり、なぜ南北戦争に至ったか、南北戦争後とはどのような時代だったのか、その歴史を学ぶ
第 5 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む①――語り手ハックの言葉と人物像	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 6 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む②――黒人奴隷ジムの立場とその内面	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 7 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む③――「冒険」と「逃亡」	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 8 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む④――ハックとジムの「自由」とは	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 9 回	映画『トム・ソーヤーの大冒険』	ディズニー制作の実写映画版（1995 年）を視聴して考察
第 10 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む⑤――南部社会の姿	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 11 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む⑥――ハックの葛藤と決断	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 12 回	『ハックルベリー・フィンの冒険』を読む⑦――トム・ソーヤーの（再）登場と結末の分析	内容把握を問う小テスト、導入講義、グループディスカッション、クラス全体での議論と補足解説
第 13 回	20・21 世紀のハックたち	『ハックルベリー・フィンの冒険』がその後のアメリカ文学・文化・社会に与えた影響と現代的意義を学ぶ
第 14 回	学期のまとめ	学んだ内容を振り返りながらまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業で扱う作品を事前に読む。気になった箇所、感想、疑問点などをメモしておき、授業内での小テストや課題に対応できるようにしておく。（3 時間）
・授業で学んだ作家の他の作品や、教員が紹介する参考文献や映画を積極的に読んだり観たりする。（1 時間）

【テキスト（教科書）】
①マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒けん』柴田元幸訳、研究社、2017 年（ISBN: 9784327492014）
② Mark Twain, *Adventures of Huckleberry Finn*. Dover Thrift Editions, 1994. (ISBN: 9780486280615)

【参考書】
柴田元幸『『ハックルベリー・フィンの冒けん』をめぐる冒けん』（研究社、2019 年）
亀井俊介『マーク・トウェインの世界』（南雲堂、1995 年）
後藤和彦『迷走の果てのトム・ソーヤー　小説家マーク・トウェインの軌跡』（松柏社、2000 年）
日本マーク・トウェイン協会編『マーク・トウェイン　研究と批評』（毎年 1 冊発刊、南雲堂）
亀井俊介監修『マーク・トウェイン文学／文化事典』（彩流社、2010 年）

【成績評価の方法と基準】
①平常点：小テスト、課題、グループディスカッションへの参加度： 40 %
予習ができているか（ちゃんと作品を読んできているか）、授業内容を理解しているか、課題やディスカッションを通じて積極的に参加しているか、自分なりの解釈を試みているか、他の人に伝わるような形で説明できているか
②期末試験： 60 %
小説を読み、授業内容を理解し、作品の内容を正確に把握していることを前提に出題される記述・論述中心のテスト

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションや課題へのフィードバック等を通じて皆さんの考察や疑問をクラス全体に共有しつつ講義内容に反映させていくことで、各々の能動的な参加を促したいと思います。

【その他の重要事項】
必須ではありませんが、文学系の導入科目を少なくとも一つは履修済みで、文学研究の意義や作品解釈のアプローチについての基本的な理解を得ている状態で履修するとよいと思います。

【Outline and objectives】
This is a special topics course focusing on Mark Twain's *Adventures of Huckleberry Finn*. Beginning with a historical survey of American slavery and the North-South divide the course offers a close reading of the novel. Through an intensive discussion on Twain's masterpiece and its film adaptations, students develop their skills to analyze literary texts in a critical way with focus both on their individuality and historicity. Most classes consist of quizzes, lectures, and group discussions.

LIN200BD

英語・言語学特殊講義 A

小野　綾子

授業コード：A2923　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業形態（対面・リモート）は、HOPPII で連絡します。
この授業は、日本語文法の基礎と全体像を学びます。日本語文法について初めから考えたい、あるいは、日本語教師を目指す人にも向いています。
日本語学、言語学に関しては、さまざまな見方があります。分野によって、あるいは学者によっても現象の捉え方や品詞分類が異なることがあります。このテキストの内容も多くの見方の中のひとつだと思ってください。そのため、ここで参考書として挙げた本の内容とも異なる記述があります。
この授業を通してひとつの見方を知るだけでなく、自分で興味をもち、ぜひ他の本や論集を読んでほしいと思います。そして、何気なく話す日本語がどのようなしくみであるかも考えてみましょう。今後の話し方や文章の書き方も変わってくるかもしれません。
レポートに関しては授業の中でお伝えします。

【到達目標】
日本語文法の基礎を学ぶことで、日本語の構造がわかるようになる。日本語での文章作成の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
コロナ禍が去り状況が変われば対面にしたいと思いますが、現在のところ、基本はオンライン授業です。人数によって方法を変えるので、初回は授業前に資料を送ります。HOPPII を見てください。
その後の授業は（人数にもよりますが）メールやリアクションペーパーで皆さんからの意見も確認しながら進めていきます。世の中がこのような状況なので、しばらくは流動的ですが、３回目までには安定するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション テキスト 第１章その１ 基本文型	導入 基本文型とは何かを知る
第 2 回	第１章その２ 格助詞	格助詞を分析する
第 3 回	第２章その１ 格成分の主題化	格成分の働きを考え、格成分の主題化について学ぶ
第 4 回	第２章その２ 格成分以外の主題化	格成分以外の主題化について
第 5 回	第３章その１ 自他の区別	自他の区別の表現について考える
第 6 回	第３章その２ 自他の対応による分類	自他の対応による分類について
第 7 回	第４章その１ 受身文	受身の表現について考える
第 8 回	第４章その２ 使役文とその他のヴォイス	使役文とその他のヴォイスについて役割を考える
第 9 回	第５章その１ テンス	絶対テンスと相対テンスについて
第 10 回	第５章その２ タ形	テンス以外のタ形について
第 11 回	第６章その１ テ形と「いる」「ある」	「～ている」と「～てある」について
第 12 回	第６章その２ 動詞分類	金田一の動詞分類について
第 13 回	第７章 ムード	ムードについて考える
第 14 回	特別編 品詞	品詞の分類について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
それぞれの回のテキストの問題演習をやってもらいます。レポートの課題については、受講生の人数とレベルにあわせて考えます。今のところ、授業の途中で課題を出し、ZOOM でやりとりすることを考えています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。
原沢伊都夫（2018）『考えて、解いて、学ぶ日本語教育の文法』

【参考書】
「日本語」「言語」に関する本は参考になります。考え方は様々です。品詞分類も異なることがありますので、興味のある人は色々なものを読んでみてください。以下、全体を通して参考にできる書籍をあげておきます。
風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健（2007）『言語学　第２版』
渡辺実（2013）『日本語概説』
第７回、第８回の授業で参考になる本
椎名美智（2021）『「させていただく」の語用論　人はなぜ使いたくなるのか』

【成績評価の方法と基準】
レポート 80 %、平常点 20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
質問や意見は、授業後にメールで受けます。基本は個人に返します。もし全体にフィードバックしたほうが良さそうな内容であれば（匿名で）全体と共有させてもらうこともあります。もし全体との共有を望まない場合、そのこともメールでお知らせください。もちろん、個人的な気づきや意見などの場合は、質問者に確認後、全体に共有します。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is to learn about one view of basic Japanese grammar. Students are expected to have an interest in the structure of Japanese.

LIN200BD

英語・言語学特殊講義 B

小野　綾子

授業コード：A2924　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業形態（オンライン・対面）は HOPPII で連絡します。この授業は日本語のしくみに言及しつつ、日本語文章表現を向上させるクラスです。レポートや論文で分かりやすい表現とはどのようなものか、日本語の特徴を伝えながらテキストを進めていきます。テキストはレポートの書き方を中心になっていますが、日本語についての資料情報（参考論文などの情報）を適宜お伝えする予定です。

【到達目標】
日本語の特徴をつかみながら、文章表現の向上を目指します。文章を書くための日本語がどのような仕組みになっているのか、どのように伝えたら効果的であるかを文法的な観点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の前にテキストのまとめの資料を送ります。予習や復習が必要な場合もあります。文章の課題やレポートがあります。提出された課題やレポートをどのように直したら分かりやすくなるのか順番を決め ZOOM でやりとりすることになると思いますが、人数や学生のレベルによって方法を変えるかもしれません。最初の数回は資料や課題を送りながら考えますが、3 回目までには安定すると思います。人数によっては、最終試験としてプレゼンを行う予定です。プレゼンをする場合、加点とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション テキスト 第 1 課 日本語の特性と表現	日本語文章表現について
第 2 回	第 2 課 レポートの形	日本語ならではの特徴を踏まえて考察する
第 3 回	第 3 課 構想と情報	構想を練り、情報を調べる
第 4 回	第 4 課 テーマと目標	テーマを絞り、目標を規定する
第 5 回	第 5 課 文章構造	文章を組み立てる 課題あり（予定）
第 6 回	第 6 課 再検討	組み立ての再検討をする
第 7 回	第 7 課 パラグラフ	パラグラフを書く 日本語文章の構造について
第 8 回	第 8 課 文章の運び	本文を書き込む 接続詞の役割について
第 9 回	第 9 課 引用と表現	どこでどのように引用をすれば効果的であるか、その表現方法について
第 10 回	第 10 課 点検作業	文章・表現・形式を点検する
第 11 回	第 11 課 発表準備	発表の準備について
第 12 回	第 12 課 口頭発表	口頭発表について方法を考える
第 13 回	第 13 課 振り返り	テキストの振り返り 日本語の品詞について
第 14 回	第 14 課 日本語表現	全体の振り返り 日本語表現について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日ごろから新聞や本などを読み、レポートに使える材料や日本語表現などをストックしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。
大島弥生　池田玲子　大場理恵子　加納なおみ　高橋淑郎　岩田夏穂（2019）『ピアで学ぶ大学生の日本語表現』[第 2 版]（ひつじ書房）

【参考書】
「日本語表現」「小論文」「レポート」といったタイトルのついた本は、おおむね参考になります。
以下の本は第 1 章が参考になります。
町田健（2020）『日本語のしくみがわかる本』（研究社）
以下の本も第 1 章が参考になります。
野矢茂樹（2019）『論理トレーニング 101 題』（産業国書）

【成績評価の方法と基準】
レポート 80%、平常点 20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
質問や意見はメールで受け付けます。基本は個人とのやりとりで返します。もし全体に共有した方がいい場合は、（必要があれば匿名で）質問者に確認後、共有することもあります。
授業前に読む資料や課題があり、レポート課題の配分も大きいので、よく考えて受講してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to improve writing ability. It based on construction grammar of Japanese.

ARS200BD

比較文化論（1）

小島　尚人

授業コード：A2981　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国をはじめとした英語圏の国々における「日々の暮らしの中の伝統文化と現代文化」に着目し、日本文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテクストから現在の社会を問い直す視座を探る。

【到達目標】
1）英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
2）アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
3）英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
4）多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
5）以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
アメリカ合衆国と他の英語圏の国々の比較を念頭に置きながら、日常生活のレベルにおける様々な文化的事象を学ぶ。扱う題材は、食生活、民話、歌、年中行事、スポーツ、現代大衆文化など多岐にわたる。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。
授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび授業の導入	人間の日々の生活の営みとしての文化
第 2 回	移民国家アメリカ	多文化社会を読み解くための歴史的考察
第 3 回	文化を「比較」することの意味	世界から見た日本文化（留学生を迎えてのディスカッション①）
第 4 回	食生活	「英米の料理はまずい」は本当か
第 5 回	年中行事	ハロウィンとクリスマスの地域差、国ごとの差
第 6 回	民話とその起源	それぞれの伝統を知り教訓を学ぶ
第 7 回	アメリカ人の愛唱歌とその起源	歌詞の比較から見えてくる価値観とは
第 8 回	文化のグローバル化とアメリカ化	世界各国におけるアメリカ文化（留学生を迎えてのディスカッション②）
第 9 回	ポップカルチャー進化論	異文化混交から生まれる新しさ
第 10 回	デジタル時代に生きる伝統文化	文化的越境の媒体としてのインターネット
第 11 回	学生によるグループ・プレゼンテーション	食生活、スポーツ、年中行事
第 12 回	学生によるグループ・プレゼンテーション	民話、音楽、インターネット文化
第 13 回	異文化交流のこれから	現状と課題を話し合う（留学生を迎えてのディスカッション③）
第 14 回	異文化相互理解のために必要なこと	授業のまとめと授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。（2 時間）
・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。（1 時間）
・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。（1 時間）

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
佐々木英明（編）『異文化への視線――新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996 年）
アメリカ学会（編）『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018 年）
ウェルズ恵子、リサ・ギャバート『多文化理解のためのアメリカ文化入門 社会・地域・伝承』（丸善出版、2017 年）

【成績評価の方法と基準】
授業内での課題および授業への貢献度 30 %
グループ・プレゼンテーション 30 %
授業内期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】
「留学生とのディスカッション」の回で英語で発言をしやすい環境をつくるため、準備のアクティビティをより工夫したいと思います。

【その他の重要事項】
定員を 30 名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。
履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】
This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

ARS200BD

Comparative Culture(2)

小島　尚人

授業コード：A2988　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
春学期・2 単位
備考（履修条件等）：**定員 30 名を超えた場合は文学部所属学生を優先して選抜する**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course examines culture and society of the United States in comparison with other countries of immigrants such as Canada and Mexico, focusing on its transborderness and mobility. Often conceived of as a cross-border experience across regions and nations, the experience of traveling has been one of the central concerns in the history of literary and visual narratives particularly in the US. Through the analysis of American road movie and travel literature in comparison with those of other countries, this course introduces students to ways of thinking about US culture in a comparative and historical perspective.

【到達目標】
Through this course, students are expected to be able to do the following:
1. Examine the ways in which travel is represented in literary and visual narratives
2. Develop their skills to discuss culture through literary and visual texts
3. Give presentations in which the concepts and topics covered in the course are applied

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group or individual presentation toward the end of the semester.
Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction	Review course goals; brief self-introduction by students; characteristics of the US as a nation of immigrants
第 2 回	US and North America	The historical and cultural background of the US in comparison with other North American countries (Canada and Mexico)
第 3 回	Transborderness	The role of Mexico in Jack Kerouac's *On the Road*
第 4 回	Mobility	American frontier, Western expansion, and cultural fusion
第 5 回	Americalization	Family and national identity
第 6 回	Ethnicity	Ethnic pluralism and cultural diversity
第 7 回	Social Class	Migrant workers and *The Grapes of Wrath*
第 8 回	Gender	Travel narrative and the domestic ideology; Feminist politics in *Thelma & Louise*
第 9 回	Slavery and African American culture	*Adventures of Huckleberry Finn* as travel narrative
第 10 回	Orientalism	Travel narrative and power relations: reading an essay
第 11 回	Language Barrier and Communication	Representation of Tokyo and the Japanese characters in *Lost in the Translation*
第 12 回	Study Abroad as a Cross-border Experience	The image of "America" in post-WWII Japan
第 13 回	Student Presentations (1)	Student presentations on "Family" and "Ethnicity"
第 14 回	Student Presentations (2)	Student presentations on "Gender" and "Orientalism"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1) Reading assigned texts (or watching assigned films) and preparing for quizzes and in-class discussions (2 hours)
2) Preparing for a group presentation (2 hours)

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class.

【参考書】
Primeau, Ronald. *Romance of the Road: The Literature of American Highway*. Bowling Green, OH: Bowling Green State UP, 1996.
Laderman, David. *Driving Visions: Exploring the Road Movie*. Austin: U of Texas P, 2002.
King, Homay. *Lost in Translation: Orientalism, Cinema, and the Enigmatic Signifier*. Durham: Duke UP, 2010.

【成績評価の方法と基準】
Class participation (worksheets, discussions, and other in-class activities): 40%
Presentations: 20%
Final Exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】
I plan to allot more time for students to share their thoughts with the class.

【その他の重要事項】
定員を 30 名とし、それを超える場合は選抜をおこないます（文学部生を優先とする）。
履修希望者は、辞書（電子辞書可・携帯電話不可）を持参の上、必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】
N/A

ARS200BD

Comparative Culture(3)

小島　尚人

授業コード：A2989　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
秋学期・2 単位
備考（履修条件等）：**定員 30 名を超えた場合は文学部所属学生を優先して選抜する**

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Among the most colorful, complex, and eventful periods in American history, the 1960s marks a turning-point of contemporary world. This course is designed to be an introduction to the history and culture of America in this decade for better understanding of current affairs we are facing today. Through the analysis of cultural materials including films, essays, stories, music tracks and lyrics in comparison with those of other countries, this course introduces students to ways of thinking critically about cultural phenomena and practices in a comparative and historical perspective.

【到達目標】
Through this course, students are expected to be able to do the following:
1. Explain the ways in which the counterculture movement challenged the established norms of American society
2. Analyze cultural phenomena and practices through literary, visual, and audio texts
3. Give presentations in which the concepts and topics covered in the course are applied

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group or individual presentation toward the end of the semester.
Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Course Introduction	Review course goals; brief self-introduction by students; Overview of the history of the 1960s and introduction to the major issues to be discussed in this course
第 2 回	Society	Comparative overview of the social conditions of the US, the UK, and Japan in the 1960s
第 3 回	Family	Comparative overview of family and domestic life in the US, the UK, and Japan in the 1960s
第 4 回	Education	Comparative overview of education and school system in the US, the UK, and Japan in the 1960s
第 5 回	Youth	The Beat generation, rock and roll, and drug culture
第 6 回	Race	From Civil Rights to Black Power
第 7 回	Ethnicity	Latinos, Asian Americans, and Native Americans
第 8 回	Gender	The women's movement and the sexual revolution
第 9 回	Sexuality	The gay liberation
第 10 回	Environmentalism	Rachel Carson, *Silent Spring*
第 11 回	International Counterculture	Counterculture in Japan and the UK
第 12 回	Counterculture in the 21st Century	The legacy and future of counterculture
第 13 回	Student Presentations (1)	Student presentations on "Counterculture" and "The Black Arts" in the 1960s
第 14 回	Student Presentations (2)	Student presentations on "The Women's Movement" and "Environmentalism" in the 1960s

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
1) Reading assigned texts (or watching assigned films) and preparing for quizzes and in-class discussions (2 hours)
2) Preparing for a group presentation (2 hours)

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class.

【参考書】
Alexander Bloom and Wini Breines, eds. *Takin' it to the Streets: A Sixties Reader*. 4th edition. Oxford University Press, 2015.
Ann Charters, ed. *The Portable Sixties Reader*. Penguin Classics, 2002.
David Farber and Beth Bailey, *The Columbia Guide to America in the 1960s*. Columbia University Press, 2001.
David Farber, *The Age of Great Dreams: America in the 1960s*. Farrar, 1994.
Maurice Isserman and Michael Kazin, *America Divided: The Civil War of the 1960s*. 5th edition. Oxford University Press, 2015.
Todd Gitlin, *The Sixties: Years of Hope, Days of Rage*. Bantam Books, 1993.

【成績評価の方法と基準】
Class participation (worksheets, discussions, and other in-class activities): 40%
Presentations: 20%
Final Exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】
I plan to allot more time for students to share their thoughts with the class.

【その他の重要事項】
定員を 30 名とし、それを超える場合は選抜をおこないます（文学部生を優先とする）。
履修希望者は、辞書（電子辞書可・携帯電話不可）を持参の上、必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】
N/A

ARS200BD

英米文化概論 A

田中　裕希

授業コード：A2982　｜　曜日・時限：**月曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「帝国」をテーマに、19 世紀末から 20 世紀にかけてのイギリス文学・映画を読み解く。イギリス帝国主義の根底にある進歩主義や異文化への偏見が作品でどう描かれ、二つの世界大戦を経てどう変化していくのか。授業の後半では、イギリス統治下のアイルランドと南アフリカについても学ぶ。

【到達目標】
歴史的文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画批評を通して、イギリス文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	帝国主義とは
第 2 回	Joseph Conrad, *Heart of Darkness*	啓蒙思想と帝国
第 3 回	*Heart of Darkness*	語りの構造
第 4 回	*Heart of Darkness*	『闇の奥』批判
第 5 回	戦争詩人	第一次世界大戦
第 6 回	Virginia Woolf, *Mrs Dalloway*	帝国の時間観
第 7 回	*Mrs Dalloway*	意識の流れ
第 8 回	*Mrs Dalloway*	帝国の退廃
第 9 回	*The King's Speech*	第二次世界大戦
第 10 回	*The King's Speech*	人間としての王
第 11 回	W. B. Yeats, "The Song of Wandering Aengus"	アイルランド文芸復興運動
第 12 回	James Joyce, "Araby"	アイルランドの夢と現実
第 13 回	Nadine Gordimer, "Once Upon a Time"	南アフリカにおける植民地政策
第 14 回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『闇の奥』(光文社古典新訳文庫)　ジョゼフ コンラッド (著), 黒原 敏行 (翻訳)
『ダロウェイ夫人』(集英社文庫)　ヴァージニア・ウルフ (著), 丹治 愛 (翻訳)
必要に応じて、授業支援サイトを通じ資料を配布する。

【参考書】
D・ボードウェル, K・トンプソン『フィルム・アート―映画芸術入門―』(名古屋大学出版会)

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー 30 %
期末テスト 70 %
４回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【Outline and objectives】
This class focuses on the representation of the British Empire in literature and films. We will analyze the foundational values of British imperialism and how they changed and were critiqued over the course of the twentieth century.

ARS200BD

英米文化概論 B

田中　裕希

授業コード：A2983　｜　曜日・時限：**月曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ文学・映画を通じてアメリカン・ドリームとはなにかを考える。建国の時代から根強くのこるアメリカン・ドリームという概念は、アメリカ独自の価値観に強く関わってくる。自治の精神、民主主義、機会平等の理念、などアメリカの「夢」にまつわる主題を考えながら、作品を読み解く。また、西部劇のようになぜ特定のジャンル映画がアメリカン・ドリームを体現するに至ったかも考える。

【到達目標】
歴史的文脈・文化的文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画を通して、アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカン・ドリームの歴史
第 2 回	Walt Whitman, *Song of Myself*	建国の理念と叙事詩
第 3 回	*Red River*	民主主義の夢
第 4 回	*Red River*	西部劇と民主主義
第 5 回	F. Scott Fitzgerald, *The Great Gatsby*	語りの構造
第 6 回	*The Great Gatsby*	情景描写と文明批判
第 7 回	*The Great Gatsby*	幻想としてのアメリカンドリーム
第 8 回	Langston Hughes	人種と夢
第 9 回	Sylvia Plath	ジェンダーと夢
第 10 回	*Easy Rider*	60 年代のアメリカ
第 11 回	*Easy Rider*	New Hollywood とは
第 12 回	*Moonlight*	マイノリティーの夢
第 13 回	*Moonlight*	成長物語
第 14 回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『グレート・ギャツビー』(新潮文庫) フィツジェラルド (著), 野崎 孝 (翻訳)
必要に応じて、授業支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】
D・ボードウェル, K・トンプソン『フィルム・アート―映画芸術入門―』(名古屋大学出版会)
Jim Cullen, *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation* (Oxford University Press)

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー 30 %
期末テスト 70 %
４回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
大規模の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【Outline and objectives】
In this class, we will analyze the representation of the American Dream in literature and films. The idea of the American Dream has been present since the founding of the nation. We will consider some of the reasons why it has exercised such fascination in American society. By tracing the motif of dream in American cinema, we will discuss the role of self-governance, democracy, equal opportunity, and the frontier in the U.S. history. We will also discuss why particular genres such as the Western came to embody the spirit of the American Dream more than any other genres.

LIT200BD

比較文学 A

柳橋　大輔

授業コード：A2824　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ドイツ語文化圏を拠点としながら、英米語文化圏や日本語文化圏との相互的越境について考えます。ある文化的・社会的・歴史的文脈において生み出された文化的産物が別の文脈に移しかえられるとき、どのような変異が生じるでしょうか。この問いについて、主に児童文学や青少年向け映画作品を手掛かりに考察していきます。

【到達目標】
ドイツ語圏文化が英米語圏・日本語圏においてどのように受容されてきたか、具体的に理解し述べることができる。
「文化的越境」について、ドイツ語圏文化からの具体例をもとに概略的に説明することができる。
文化的事象のうちにひそむ歴史的・社会的コンテクストに対する鋭敏な感覚と、これまで自明視してきた文化的環境を相対化する柔軟な思考力を養う。
ドイツ語圏の文学・文化・映画やその歴史に関心をもち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的越境についてお話します（講義形式）。なお、場合によってはその途中で受講生のみなさんに質問を投げかけ、必要があればさらに説明を行ないます（演習形式）。
文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の概要と紹介
第 2 回	グリム兄弟とディズニー（1）	19 世紀のメルヒェンから 20 世紀のスクリーンへ：『白雪姫』『シンデレラ』
第 3 回	グリム兄弟とディズニー（2）	ディズニー・プリンセスの変容：『いばら姫』と『眠れる森の美女』、『野ぢしゃ』と『ラプンツェル』のあいだ
第 4 回	ディズニーとドイツ――〈危険な関係〉？（1）	ナチス高官もユダヤ系知識人もミッキーマウスに夢中！
第 5 回	ディズニーとドイツ――〈危険な関係〉？（2）	ドナルドは武器をとる――ディズニーと対独プロパガンダ
第 6 回	バンビ：ゲルマンの森から聖林（ハリウッド）へ（1）	狩猟家が描く森の物語？ ――フェーリクス・ザルテン『バンビ』とディズニー映画
第 7 回	バンビ：ゲルマンの森から聖林（ハリウッド）へ（2）	〈人間〉という脅威――小説／映画『バンビ』と環境批評
第 8 回	ハイジは誰のもの？――スイス、アメリカ、日本（1）	シュピリ『ハイジ』：〈自然〉と〈文明〉を往還する修業時代
第 9 回	ハイジは誰のもの？――スイス、アメリカ、日本（2）	世界を循環する〈ハイジ〉――ハリウッド映画と日本アニメ
第 10 回	ハリウッドという「ファンタージエン」？ ――『はてしない物語』と『ネバーエンディングストーリー』のあいだ（1）	エンデ『はてしない物語』とファンタジーの権利
第 11 回	ハリウッドという「ファンタージエン」？ ――『はてしない物語』と『ネバーエンディングストーリー』のあいだ（2）	『ネバーエンディングストーリー』とハリウッドの論理
第 12 回	手塚治虫とドイツ――ファウスト、ヒトラー、メトロポリス（1）	メフィストーフェレスは手塚を三度訪れる、あるいは転生するファウスト
第 13 回	手塚治虫とドイツ――ファウスト、ヒトラー、メトロポリス（2）	ドイツ生まれのアトム？ ――〈ドイツ〉から読む手塚作品
第 14 回	越境するドイツ語圏文化	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、それぞれ約２時間を標準とします。
授業であつかう文学作品については該当する箇所を日本語（場合によっては英語）で配布するので、事前に目を通しておいてください。
授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひ DVD レンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。
なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返しながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】
必要なテクスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60 %
学期末レポート：40 %（提出しない場合は単位の認定ができません）
――なお、授業回数の３分の２以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を行なう場合に備え、念のため PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
授業の進度により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline and objectives】
In this course, we will consider the cross-border relations between the German-speaking world and the Anglo-American and Japanese-speaking world. What kind of mutations occur when cultural products produced in one cultural, social, or historical context are transferred to another? We will examine this question using mainly children's literature and films for young people as a guide.

LIT200BD

比較文学Ｂ

柳橋　大輔

授業コード：A2825　｜　曜日・時限：木曜 5 限
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近現代のドイツ文化史において「ヴァイマル共和国」期（1918-1933年）はひとつの黄金時代だったといえます。とりわけこの時代に製作された映画作品は、先行する文学史に影響を受けながら、名高い光と影の美学や特徴的なモティーフとともに、世界中で熱狂的に受容されました。ヴァイマル映画のヨーロッパ諸国やアメリカ、日本などにおける受容について、文学や映画など映像作品を手掛かりに分析します。

【到達目標】
ドイツ語圏文化が英米語圏・日本語圏においてどのように受容されてきたか、具体的に理解し述べることができる。
「文化的越境」について、ドイツ語圏文化からの具体例をもとに概略的に説明することができる。
文化的事象のうちにひそむ歴史的・社会的コンテクストに対する鋭敏な感覚と、これまで自明視してきた文化的環境を相対化する柔軟な思考力を養う。
ドイツ語圏の文学・文化・映画やその歴史に関心をもち、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
論及の対象となる文学作品や映画作品の抜粋を紹介したあと、教員がその作品における文化的越境についてお話します（講義形式）。なお、場合によってはその途中で受講生のみなさんに質問を投げかけ、必要があればさらに説明を行ないます（演習形式）。
文学作品ないし映画作品について、また講義についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の講義で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義内容の概要と紹介
第 2 回	『ファウスト』は越境する（1）	ゲーテ『ファウスト』とムルナウによるその映画化
第 3 回	『ファウスト』は越境する（2）	スクリーンで変身するファウスト——クレール、黒澤、ソクーロフ
第 4 回	〈人造人間〉の系譜（1）	巨大ロボットは魂をもつか？ ——『巨人ゴーレム』、そして『鉄人 28 号』『エヴァンゲリオン』
第 5 回	〈人造人間〉の系譜（2）	人造人間は〈友〉？ それとも〈敵〉？ ——『メトロポリス』、そして『鉄腕アトム』『ドラえもん』
第 6 回	〈切断〉される身体——アンピュテーション／プロテーゼ（1）	第一次世界大戦と〈身体〉——表現主義絵画（ディックス、キルヒナー）とフリッツ・ラング
第 7 回	〈切断〉される身体——アンピュテーション／プロテーゼ（2）	抹消は中枢を支配する？ ——『芸術と手術』、シュルレアリスム、ベンヤミン、川端
第 8 回	〈吸血鬼〉——境界侵犯の主題と変奏（1）	疫病、戦争、ユダヤ人——ストーカー『ドラキュラ』とムルナウ『吸血鬼ノスフェラートゥ』
第 9 回	〈吸血鬼〉——境界侵犯の主題と変奏（2）	〈吸血鬼〉は生き続ける？ ——ムルナウと『シャドウ・オブ・ヴァンパイア』
第 10 回	〈影の美学〉——ドイツからの輸入品（1）	亡命する「ドイツ表現主義映画」——ハリウッドのドイツ人たち
第 11 回	〈影の美学〉——ドイツからの輸入品（2）	ジャンルを越境する「ドイツ表現主義映画」——フィルム・ノワールと SF 映画
第 12 回	〈影の美学〉——ドイツからの輸入品（3）	「ドイツ表現主義映画」と日本——『狂った一頁』と谷崎『陰影礼讃』
第 13 回	映画の日独同盟——『新しき土』	ドイツ人監督は〈日本回帰〉を演出する
第 14 回	変位／変異するイメージ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、それぞれ約２時間を標準とします。
授業であつかう文学作品については該当する箇所を日本語（場合によっては英語）で配布するので、事前に目を通しておいてください。
授業中に映画作品の抜粋を視聴してもらいます。作品全体を観ることは原則的に難しいので、ぜひ DVD レンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。
なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返しながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】
必要なテクスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】
授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60 %
学期末レポート：40 %（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の３分の２以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を行なう場合に備え、念のため PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。
授業の進度により、授業内容が変更される可能性があります。

【Outline and objectives】
The Weimar Republic (1918-33) was a golden age in modern German cultural history. In particular, the films produced during this period were enthusiastically received around the world with their characteristic aesthetics and motifs. In this course, we will analyze the reception of Weimar films in European countries, the U.S., and Japan, using literature and visual works as clues.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(1) A

［2 年 L 組］

畑　和樹

授業コード：A2826　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は段階的な執筆活動を通じて、履修生の英語ライティング力を養う。履修生は、教材を基にした活動を通じて英語ライティングの基本事項を学び、理解した内容を各々のエッセイにおいて実践することで、一貫性および論理性を持った英文を様々な形式に沿って執筆できるようにする。また、本科目は合理的・客観的な思考の実践や論述への応用も取り扱う。

【到達目標】
本科目は履修生に対し、英文ライティングにおける以下の目標を設定する。
a) くだけた表現を避けて形式的な文章を使い続けることができる。
b) 授業で扱う文法を駆使して、ある程度正確な表現をすることができる。
c) パラグラフを意識して、一貫性のある文章を構成することができる。
d) 主張や背景がはっきりした「導入」を構成することができる。
e) 指定された形式を保ちながら、一貫性をもつ文章を構成することができる。
f) Oxford 2000 で示された単語を、適宜適切に使うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目は対話型の演習を多く取り入れる。教科書の活動は、原則としてペア・グループワークにおいて主体的に解決することが求められる。如何なる問いに対しても、担当教員が一方的に答えを示すことはせず、まず履修生による自主的な回答や問題解決を促す。そのため、本科目は履修生の主体的な参加を求める。また、効果的な活動実践のためには、履修者の予習・復習が必須となる。各課題におけるフィードバックは適宜オンラインシステムおよびメールにて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	導入	科目説明／アカデミック・ライティングの基本解説
2	Chapter 1	Supporting an opinion essay with reasons; Using transition words
3	Chapter 2	Comparing the past and the present; Present perfect with 'as a result'
4	演習：文章校正	Finding and correcting mistakes in a sample essay
5	Chapter 4	Introducing a narrative essay; Using time markers
6	Chapter 5	Writing an essay about causes; Using 'especially' with prepositional phrases
7	演習：言い換え	Rephrasing a sentence
8	Chapter 7	Writing about effects
9	Chapter 8	Writing a summary and a personal response; Using contrasting words
10	演習：複文の要約	Combining two or more complete sentences into one
11	演習： Introduction	Writing an introduction section with a thesis statement and background
12	演習： Supporting paragraphs	Constructing a paragraph with a topic sentence and supporting ideas
13	演習： Conclusion	Re-emphasising main points at the conclusion
14	まとめ	エッセイの最終提出およびフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：履修生は事前に示された箇所を授業前に終わらせること。特に「文法事項」の多くは予習課題として課される。
復習：既習内容をもう一度見直すこと。また、各週において出された執筆課題を授業内演習の時間だけで完成させることは難しい。定期的にエッセイの加筆・修正を行うこと。
※ 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Savage A. and Ward, C. (2015). Trio Writing (Level-3). Oxford University Press. ISBN: 978-0-19-485421-4
（必ず初回授業までに購入しておくこと）

【参考書】
ハンドアウトを適宜配布する。

【成績評価の方法と基準】
・最終エッセイ： 45%
・課題： 45%
・授業貢献度： 10%
本科目では履修者の積極的で主体的な取り組みを期待する。

【学生の意見等からの気づき】
授業形式（対面・遠隔）が変更される可能性を考慮し、説明時の教材の提示方法や評価基準など、前年度より一部の内容を変更している。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンもしくはタブレット（Microsoft Word 必須）

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【None】
None

【Outline and objectives】
This course aims to enhance students' prospects for writing essays through step-by-step writing activities. In this module, the students will be provided opportunities to utilise or apply what has been learnt in other modules. In the 14 weeks, the students will be engaged in a series of activities and practices, in which they can apply understanding of several writing styles on given topics.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(1) B

[2 年 L 組]

畑　和樹

授業コード：A2827　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目は履修生の英語ライティング力を養う。履修生は、教材を基にした活動を通じてアカデミックライティングの基本事項を学び、理解した内容を各々のエッセイにおいて実践することで、一貫性および論理性を持ったエッセイを形式に沿って執筆できるようにする。また、本科目は合理的・客観的な思考の実践や論述への応用も取り扱う。

【到達目標】
本科目は履修生に対し、以下の目標を設定する。
・くだけた表現と形式的（アカデミック）な文章を判別できる。
・意味の逸脱のない程度で「文法的および語用的」に正しい文章が書ける。
・「主張」のはっきりしたパラグラフの構築ができる。
・パラグラフ内で「主張の裏付け・論拠」を示すことができる。
・他者の意見や論拠を正しく「引用」できる。（本科目では APA スタイルを用いる）
・各パラグラフの繋がりによる「一貫性を持った」エッセイを書くことができる。
・本科目で扱うエッセイの各スタイルの違いを理解し、自らのエッセイに応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本科目は対話型の授業となる。各授業の初めに担当教員が講義を行い、扱う単元に関する基本項目や概念を説明する。原則、説明は PowerPoint と板書を用いて行う。その後、教材を用いて演習を行うことで、理解の向上や強化および実践を図る。
如何なる問いに対しても、担当教員が一方的に答えを示すことはせず、まず履修生による自主的な回答や問題解決を促す。そのため、本科目は履修生の主体的な参加を求める。また、効果的な活動実践のためには、履修者の予習・復習が必須となる。
各課題におけるフィードバックは適宜オンラインシステムおよびメールにて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	導入	科目説明／アカデミック・ライティングの基本解説
2	Starting the process (pp. 16-19)	エッセイタイトル／ライティングのための思考／「言い換え」の必要性 (文法：形式的文章における動詞)
3	Descriptions (1) (pp. 28-31)	視覚情報のライティング (文法：名詞句および関係詞節による定義付け)
4	Topic sentences (pp. 44-47)	トピックセンテンスと論拠付け (文法：複合名詞句)
5	Essay introduction (pp.60-63)	エッセイの主題構築／「導入」の機能と目的 (文法：焦点を保持するための受動態)
6	Essay conclusion (pp. 76-79)	アイディアの一貫性／「結論」の機能と目的 (文法：繰り返しと類語)
7	Descriptions (2) (pp. 92-95)	過程を示すパラグラフ・ライティング (文法：能動体と受動態の使い分け)
8	Comparison essays (pp. 109-112)	論述のためのアイディア構築／比較と対照／校正の実践 (文法：従属)
9	Citation and references (pp. 124-127)	剽窃の理解と防止／参照物の引用 (文法：引用のための"it"と "there")
10	Argument essays (pp. 140-144)	主題の支持と論拠の構築／引用による論拠の支持 (文法：条件節"if"の代替)
11	Cause and effect essays (pp. 157-160)	原因と結果の示し方 (文法：原因と結果に関わる語彙と語法)
12	Problem-solution essays (pp. 173-176)	問題解決型エッセイの理解と実践 (文法：間接表現と非人称構文)
13	Examination essays (pp. 190-194)	エッセイの「一貫性」 (文法：題名における動詞および構造)
14	まとめ・最終課題に関するアドバイス	各単元のまとめ、および実践への応用性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：履修生は、シラバスにて示された教材（下記参照）の該当箇所を「授業前に」終わらせること。場合により予習箇所を限定することがあるが、その際は前週の授業内で告知する。
復習：配布資料（授業で使用したスライドや追加資料）を見直し、該当箇所をもう一度見直すこと。
※ 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Chazal, E., & McCarter, S. (2016). *Oxford EAP: A course in English for academic purposes (upper-intermediate / B2)*. Oxford: Oxford University Press.
（履修者は、必ず第 2 回までに教科書を購入すること）

【参考書】
Hewings, M., & McCarthy, M. (2012). *Cambridge academic English B2 upper intermediate student's book: An integrated skills course for EAP*. Cambridge: Cambridge University Press.

【成績評価の方法と基準】
最終エッセイ： 40%
課題： 50 %
授業貢献度： 10%
本科目では履修者の積極的で主体的な取り組みを期待する。

【学生の意見等からの気づき】
授業形式（対面・遠隔）が変更される可能性を考慮し、説明時の教材の提示方法や評価基準など、前年度より一部の内容を変更している。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコンもしくはタブレット (Microsoft Word 必須)

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【None】
None

【Outline and objectives】
This module aims to enhance your academic prospects and cultivate essay writing abilities through practical activities.　Students will be provided solid understanding of key aspects of academic writing alongside with other common academic practices; including general language and critical thinking skills.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(2) A

[2 年 M 組]

安藤　和弘

授業コード：A2828　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リサーチ・ペーパー体裁のレポートの書きかたを学ぶ。受講者各自が知的な関心を持って取り組める話題を選び、リサーチを行いながら自分の意見を形成し、しっかりと構成されたレポートのかたちで議論を展開する技術と力を身につけることを目標とする。内容は各自の関心に即したものとするが、感想文とは違い、レポートには特に客観的な説得力が求められる。そのために必要な文章作法をこの授業では段階的に学び、学期末までに各自なりのモデル・レポートを完成させる。

【到達目標】
学生が、大学学部レヴェルで求められる英文レポートを、学術英語の文章作法を身につけ、しっかりとした構成を持たせて書くことができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はすべての回、Zoom を使ってオンラインで行う予定である。
上記の目標を効果的に達成するために、概ね以下の授業計画に則り、主にワークショップ形式で、段階的にレポートの書きかたを学ぶ。授業においては、重要事項をまず教員が解説し、それを踏まえた上で各自が、他の学生と意見交換を行いながら、各回の課題に設定された要素を自分のレポート作りに組み込んでいく。毎週、教室で学んだことを踏まえて、作成過程にあるレポートの見直し、書き直しを予習作業として行い、次の回に備えるというサイクルで、学期をつうじて段階的にレポートを完成に近づけていく。
課題等の提出は「学習支援システム」で行い、フィードバックは授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	主題の設定	Topics; Research
第 3 回	議論の柱の設定	The Beginning Thesis Statement
第 4 回	レポート全体の構成	The Working Outline
第 5 回	議論の柱と全体の構成の統合的な見直し	Revising the Thesis Statement and Working Outline
第 6 回	実際にレポートを書くにあたって	Writing the First Draft
第 7 回	タイトルと序の部分の書きかた	Writing the Title; Writing the Introduction
第 8 回	本体部分の書きかた	Support, Accuracy, and Logic; Writing the Body
第 9 回	結論部分の書きかた	Writing the Conclusion; Avoiding Plagiarism
第 10 回	書き直しを行う上での注意点	Evaluating and Rewriting
第 11 回	学生間での意見交換と初稿の完成	Draft 1 (Peer Reading 1)
第 12 回	学生間での意見交換と第二稿の完成	Draft 2 (Peer Reading 2)
第 13 回	決定稿の完成	Draft 3 (Conferencing)
第 14 回	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げるテーマに対応する教科書の章の英文に予め目をとおしておく。各回の授業のワークショップで、作成中のレポートをどう改善できるのかが見えてくるので、それを踏まえて次回の授業に向けて書き直しを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
David E Kluge, Matthew A Taylor, *Basic Steps to Writing Research Papers, Second Edition*, Cengage Learning 2018

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
毎週の予習状況と授業時の積極的な取り組みが 40 %、学期半ば過ぎに提出する中間レポートが 20 %、学期末に提出する完成版レポートが 40 %の比率で総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
This course is designed for helping students learn how to write research papers for their undergraduate studies. The aim of this course is for students to equip themselves with basic knowledge and skills for research paper writing so they can select appropriate topics for their research, form and refine their ideas on the selected topics, and turn them into the form of research papers where their ideas are coherently organised and developed, as well as properly supported by their research. Under the supervision of the teacher students actively engage themselves in learning about different aspects of research paper writing and constantly generating output every week and, after peer review and editing sessions, produce a completed version of their work by the end of the term.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(2) B

[2 年 M 組]

安藤　和弘

授業コード：A2829　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
リサーチ・ペーパー体裁のレポートの書きかたを学ぶ。受講者各自が知的な関心を持って取り組める話題を選び、リサーチを行いながら自分の意見を形成し、しっかりと構成されたレポートのかたちで議論を展開する技術と力を身につけることを目標とする。内容は各自の関心に即したものとするが、感想文とは違い、レポートには特に客観的な説得力が求められる。そのために必要な文章作法をこの授業では段階的に学び、学期末までに各自なりのモデル・レポートを完成させる。

【到達目標】
学生が、大学学部レヴェルで求められる英文レポートを、学術英語の文章作法を身につけ、しっかりとした構成を持たせて書くことができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はすべての回、Zoom を使ってオンラインで行う予定である。
上記の目標を効果的に達成するために、概ね以下の授業計画に則り、主にワークショップ形式で、段階的にレポートの書きかたを学ぶ。授業においては、重要事項をまず教員が解説し、それを踏まえた上で各自が、他の学生と意見交換を行いながら、各回の課題に設定された要素を自分のレポート作りに組み込んでいく。毎週、教室で学んだことを踏まえて、作成過程にあるレポートの見直し、書き直しを予習作業として行い、次の回に備えるというサイクルで、学期をつうじて段階的にレポートを完成に近づけていく。教材は春学期と同じだが、学生は春学期とは違う話題を選び、春学期に学んだことを活かしてより高いレヴェルで学習をする。
課題等の提出は「学習支援システム」で行い、フィードバックは授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	主題の設定	Topics; Research
第 3 回	議論の柱の設定	The Beginning Thesis Statement
第 4 回	レポート全体の構成	The Working Outline
第 5 回	議論の柱と全体の構成の統合的な見直し	Revising the Thesis Statement and Working Outline
第 6 回	実際にレポートを書くにあたって	Writing the First Draft
第 7 回	タイトルと序の部分の書きかた	Writing the Title; Writing the Introduction
第 8 回	本体部分の書きかた	Support, Accuracy, and Logic; Writing the Body
第 9 回	結論部分の書きかた	Writing the Conclusion; Avoiding Plagiarism
第 10 回	書き直しを行う上での注意点	Evaluating and Rewriting
第 11 回	学生間での意見交換と初稿の完成	Draft 1 (Peer Reading 1)
第 12 回	学生間での意見交換と第二稿の完成	Draft 2 (Peer Reading 2)
第 13 回	決定稿の完成	Draft 3 (Conferencing)
第 14 回	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の授業で取り上げるテーマに対応する教科書の章の英文に予め目をとおしておく。各回の授業のワークショップで、作成中のレポートをどう改善できるのかが見えてくるので、それを踏まえて次回の授業に向けて書き直しを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
David E Kluge, Matthew A Taylor, *Basic Steps to Writing Research Papers, Second Edition*, Cengage Learning 2018

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
毎週の予習状況と授業時の積極的な取り組みが 40 %、学期半ば過ぎに提出する中間レポートが 20 %、学期末に提出する完成版レポートが 40 %の比率で総合評価。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
This course is designed for helping students learn how to write research papers for their undergraduate studies. The aim of this course is for students to equip themselves with basic knowledge and skills for research paper writing so they can select appropriate topics for their research, form and refine their ideas on the selected topics, and turn them into the form of research papers where their ideas are coherently organised and developed, as well as properly supported by their research. Under the supervision of the teacher students actively engage themselves in learning about different aspects of research paper writing and constantly generating output every week and, after peer review and editing sessions, produce a completed version of their work by the end of the term.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(3) A

[2 年 N 組]

TIMOTHY J WRIGHT

授業コード：A2830 ｜ 曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The goals and objectives of this course are for students to make marked improvement on their English writing abilities and skills in class through weekly training and homework targets. We will work every class on improving English writing, grammar and stylistic skills through our textbook: Enjoying College Life: Writing and Listening Practice with Natural English by Kevin L. Mark & Yukiko Itoh, TSURUMI SHOTEN. In addition, we will also be using a number of handouts every week to help develop stronger sentence structure, vocabulary building, grammar ability, spelling and penmanship. Hopefully, students will be able to make steady progress throughout the semester and retain their ability into their working careers in the future.

【到達目標】
I hope that students will work seriously on improving their English writing skills through weekly classwork as well as completing English writing targets and goals in order to boost their skill levels to better prepare themselves for their future working careers after university. This can easily be achieved if they are serious and work diligently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will work weekly through textbook exercises and other material given through handouts. I want students to practice especially hard on improving grammar, writing stylistics, and clear, concise sentence structure. I have a number of classroom team writing projects that should also interest and help motivate the students to reach our goals. Feedback will be given in class by the teacher with writing exercises and outside of class on writing work. I will correct every paper and return them to the students. A detailed blackboard explanation will be offered to the class to help them understand various errors and target points to become more proficient writers.
Every student should come to class with an open mind and goal to learn to develop more concrete skills that will eventually turn into better writing ability as the semester goes on.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction. "Goals and rules of the class"	I would like you to read and do UNIT 1 of ENJOYING COLLEGE LIFE - pages 1 and 2. You can write in your book, but use a pencil not an ink pen. Also, I would like you to write a Self-Introduction essay. Tell me about yourself. You can write in pencil or type 1 A-4 side. I don't care how long it is. Just tell me all about yourself. *Please keep your essay in a plastic folder and I will collect them when we eventually meet.
第 2 回	Writing Skills: "How to begin English writing"	Continue on Unit 1 of our book and do pages 3 and 4. Be sure to write in your book and use a pencil, not ink. Don't worry about the answers because I will give them to you every week either on-line or after in our classroom. I also would like you to write a second essay telling me about your High School Days. There is no limit on how many words you can write, but just be specific and explain how you liked or disliked high school. You can also write about some interesting things that happened. *Again, please keep your essay in a plastic folder and I will collect it in time.
第 3 回	Writing Skill: "Starting point- on the runway"	This week, I want you to try writing a longer essay about what you have been doing during this past Holiday during the COVID-19 Breakout. It has been very difficult for all of you, so tell me how you have coped during these weeks? If you stayed at home inside, how did you pass the time? * Again, please keep your essay in a plastic folder for me to collect at a later date.
第 4 回	Writing Skills and Stylistics: "Developing better stylistics in your essays."	Begin by going to UNIT-2 in our book. Do the exercises on pages 5 through 6. It is a fun chapter, so maybe all of you will enjoy it. Do NOT use ink, but a pencil. I also would like you reread and review the past essays which you wrote during the previous three weeks. If you spot an error or have something that you would like to change, feel free to do it.
第 5 回	Writing Skills and Stylistics: "Tackling roadblocks to better writing"	We are going to review Unit-1 and correct Unit-2 as a class exercise. Next, we will have some additional writing exercises from outside material working on sentence structure and vocabulary building. Last, we will begin Unit-3.
第 6 回	Writing Skills and Stylistics through Unit 3. "Pinpoints to a smoother transition skills"	Continuing and finishing all of Unit-3 as a class exercise. Classroom essay number three.
第 7 回	Writing Skills and Stylistics. "Review of all material covered in the past six weeks"	Working and completing all of Unit-4.
第 8 回	Mid-term check and evaluation. "Now it is time to show what you have learned so far"	Review and Mid-term Writing check.
第 9 回	Writing Skills and Grammar lecture. "Most important points to remember in grammar writing"	Sentence structure and vocabulary building and Grammar lecture with exercises and Q&A. Begin Unit-5.
第 10 回	Writing Skills and Stylistics. "Vital lessons to help develop creativity in essays"	Continuation and completion of Unit-5. Classroom mini-team writing exercises. English essay number four.
第 11 回	Week #11: Grammar review and Writing Skills and Stylistics. "Continuation of grammar building and creative essay development"	Grammar lecture and writing stylistics advice with Q&A. Begin Unit-6.
第 12 回	Writing Skills and Stylistics. "Lecture and class teamwork on essay conclusions"	Working on and completion of Unit-7. Final English essay number 5.

第 13 回	Review of English Grammar and overall review. "A comprehensive review of all material covered during the semester"	Final lecture on English Grammar, sentence structure and vocabulary building. Review of all material covered during this semester.
第 14 回	Summary of course content and Final Written Essay. "The final check on you creative writing ability efforts"	Summary and review of the material covered this semester. Final Writing essay.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Please bear in mind that weekly assignments and some essays will be required to be completed throughout the semester. Please make an effort to review at home every week what we studied in class. Practice your skills to improve you ability while you are outside of the classroom as much as possible.
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
We have one textbook that we will be using, and it is available in Hosei's Bookstore. It is ENJOYING COLLEGE LIFE by Kevin L. Mark & Yukiko Itoh, published by TSURUMI SHOTEN. Please buy the book as soon as possible because you will be using it every week, and it will count as part of your final grade.

【参考書】
I strongly recommend looking at English Writing material from the University of Michigan and Georgetown University ESL Programs. Also, I highly recommend reading anything that you can on the Kunihiro Masao Methodology.

【成績評価の方法と基準】
In class training and classwork 60%
Assignments 20%
Final Essay 20%
*Student Classroom Evaluation; All students will be evaluated weekly in class for overall classroom work and interaction. Non-active participation or sleeping in class is not allowed and will seriously hurt final grade evaluation. Attendance is also very important in order to receive a passing grade. You must attend class every week and be active in training. Please do not be worried. If you come to class and just try your best, you will succeed.

【学生の意見等からの気づき】
I welcome any and all students comments.

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
The goals and objectives of this class are mainly for students to make marked improvement on their English writing abilities and skills through in class weekly training and assignment targets. We will work weekly on improving writing, grammar and stylistic skills through our textbook: Enjoying College Life: Writing and Listening Practice with Natural English by Kevin L. Mark & Yukiko Itoh, TSURUMI SHOTEN. The class will also be using a number of other handouts every week to help develop stronger sentence structure, vocabulary building, grammar ability, spelling and penmanship. Hopefully, students will be able to make steady progress throughout the semester and retain their ability into their working careers in the future.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(3) B

[2 年 N 組]

TIMOTHY J WRIGHT

授業コード：A2831　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Intensive English Writing

【到達目標】
The target of the fall semester is to retain and improve upon what you have learned during the spring term in English writing. From this semester there will be five major homework essay assignments that all students must submit on a variety of subjects to check skill improvement.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will continue with the textbook and other exercises hoping to increase skill levels for all of the students enrolled. Students should try to make as much effort as possible to reach even higher levels of English writing. Feedback will be given in class and on each writing assignment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Welcome back and introduction/explanation of the course for the fall semester. "Class Introduction"	Introduction of course guidelines, syllabus, and rules of the class.
第 2 回	Review of all material covered during spring semester. "A look back at what we achieved during the first semester"	Review of all material covered during the spring semester. Tips on how to train in English writing.
第 3 回	Writing exercises I. Lecture on Grammar and Sentence Structure. "Overview on the importance of improving grammar in writing"	Chapter review of all material covered during the first semester.
第 4 回	Writing exercises I. Lecture on Grammar and Sentence Structure including drills. "A comparison of grammar and structure"	In class mini-essay exercise and preparation for 1st Essay assignment
第 5 回	Begin Chapter 4 of textbook. Lecture on writing stylistics and writing exercises. "Training steps to mastering textbook writing drills"	Essay #1 due the following week.
第 6 回	Review of Chapter 4 and beginning work on Chapter 5 of textbook. New material and exercises on sentence development and drills. "How to become more proficient writers"	Essay #2 due the following week. Explanation on writing errors.

第 7 回	Completion of Chapter 5. Creative essay drills. Logical writing skill development. "Learning to go to the nest level of writing"	Lecture on Grammar and Sentence Structure including drills and exercises.
第 8 回	Chapter 5. of textbook covered during this class. Creative essay drills. Logical writing skill development. "How to add more logic in your essays"	Essay #3 due the following week.
第 9 回	Chapter 6. of textbook covered during this class. Creative essay drills. Logical writing skill development. "The first steps to real creativity"	Continuing lecture on improving writing stylistics and English Grammar focal points.
第 10 回	Review of all material covered so far this semester. Textbook chapter overview. "Vital review of all material covered during the semester"	Essay #4 due the following week.
第 11 回	Chapter 7 of textbook covered during this class. "Final textbook vital points"	Essay #4 due the following week.
第 12 回	Chapter 8 of textbook covered during this class. Explanation of Final Examination. "Continuation of developing better logic"	Final essay #5 due the following week.
第 13 回	Final Writing essay due next week. "Advice and tips on better writing skills for the evaluation. Chapter 9 of textbook covered during this class."	Final lecture on writing skills and logical essay development.
第 14 回	Final textbook work covering all of Chapter 10. "Take-home essay deadline is due"	Review of material covered during this semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
There will be weekly writing assignments that will be due the following Monday and five major essay writing assignments due during the semester. Extra work and individual classroom guidance will be offered to any student wishing. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Enjoying College Life: Writing and Listening Practice with Natural English
By Kevin L. Mark and Yukiko Itoh
Tsurumi Shoten
ISBN 978-4-7553-0365-4

【参考書】
Materials published by the Georgetown University School of Languages and Linguistics.
Materials published by the University of Michigan ESL Program.

【成績評価の方法と基準】
All students will be graded on class attendance, classwork, attitude, weekly assignments, and the final examination.
50% Classwork and Participation, 30% Outside work, 20% Final Examination.
*Student Classroom Evaluation: All students will be evaluated weekly in class for overall classroom work and interaction. Non-active participation or sleeping in class is not allowed and will seriously hurt final grade evaluation. Attendance is also very important in order to receive a passing grade. You must attend class every week and be active in training.

【学生の意見等からの気づき】
I will take into strong consideration student comments on the semester surveys. As a result of last year's surveys, I have made a number of changes in my course. If a student tries his or her best despite limitations in ability, I will take this into strong consideration during final grading. However, perfect or near-perfect attendance is necessary. Chronic absences will hurt your overall grade.

【学生が準備すべき機器他】
Bring your textbook weekly to class.

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
The objective of this course is to have students make significant progress in their English writing skills through weekly textbook training, handout exercises, writing skill and English grammar lectures, and a series of five essay homework assignments that will be required throughout the semester.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(5) A

杉　亜希子

授業コード：A2834　｜　曜日・時限：**月曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Familiarizing yourself with English paragraph structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.
論理的な文章の展開を理解し、書きたいことを読み手にわかりやすく伝えるためのパラグラフ構成を学ぶ。
注）英語表現演習 (Writing)(5)B と併せて受講することが望ましい。

【到達目標】
Through understanding each model paragraph, you will
· Be able to recognize and identify key structures
· Learn how to gather ideas and organize them into groups (outlining)
· Get used to editing and improving your writing
· Apply the structures to your own writing and produce formal/academic writing
論文の基本構成要素とその論理性を理解し、学生のレポート作成の基礎となる Paragraph の構造とスタイルをマスターしていく。授業の中で段階を踏みながら各自で選択したトピックに基づくライティングをし、その後のグループワークで自分では気づかなかった内容的な不足個所を指摘・提案しあうことで、互いを高めあうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Acquiring the idea of what an English paragraph should be like, you will improve their skills to write your own work.
1) In each unit you will first internalize the essential writing process following the guidance (a reading about the topic; vocabulary building exercise, etc.) given in the text.
2) You will then gather ideas, organize an outline, draft, revise, edit and submit the final draft.
· Preparation for each class will be a must
· Active and cooperative performance in every class from each student is fully expected
· Late submission of the assessed work will NOT be accepted
論文の基本構成要素とその論理的展開を理解し、学生のレポート作成の基礎となる paragraph スタイルをマスターしていく。英語で書かれている教科書を使い、予習していることを前提に授業をすすめる。
フィードバックは、課題提出後に授業内又は「授業支援システム」を通じて行います。
＊状況に応じてオンラインによる授業が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance	General briefing
第 2 回	Unit 1: Facing Challenges (Writing a Narrative Paragraph)	Planning for writing
第 3 回	Unit 1: Facing Challenges (Writing a Narrative Paragraph)	Writing a narrative paragraph (Understanding the basics of a rhetorical structure)
第 4 回	Unit 1: Facing Challenges (Writing a Narrative Paragraph)	Writing a narrative paragraph (Writing the first draft)
第 5 回	Unit 1: Facing Challenges (Writing a Narrative Paragraph)	Revising your draft
第 6 回	Unit 1: Facing Challenges (Writing a Narrative Paragraph)	Editing and preparing the final draft
第 7 回	Unit 2: Branded for Success (Writing a Descriptive Paragraph)	Planning for writing
第 8 回	Unit 2: Branded for Success (Writing a Descriptive Paragraph)	Writing a descriptive paragraph (Outlining and writing the first draft)
第 9 回	Unit 2: Branded for Success (Writing a Descriptive Paragraph)	Revising your draft
第 10 回	Unit 2: Branded for Success (Writing a Descriptive Paragraph)	Editing and preparing the final draft
第 11 回	Unit 3: Foods for Thought (Writing an Opinion Paragraph)	Planning for writing
第 12 回	Unit 3: Foods for Thought (Writing an Opinion Paragraph)	Writing an opinion paragraph (Outlining and writing the first draft)
第 13 回	Unit 3: Foods for Thought (Writing an Opinion Paragraph)	Revising your draft
第 14 回	Unit 3: Foods for Thought (Writing an Opinion Paragraph)	Editing and preparing the final draft

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
模範となるパラグラフは、内容を理解し問題を解くだけにとどまらず、その構成スタイルを把握し自分のライティングに役立てていく。採点された提出物も再度見直すこと。質問はいつでも受けます。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Colin Ward, *Focus on Writing* 3 (Pearson, 2012), ￥2,300+税
大学生協で購入できます

【参考書】
An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.　英英辞書の積極的な利用を推奨する。
Useful websites:
http://dictionary.cambridge.org/
http://www.merriam-webster.com/
Thesaurus: http://thesaurus.com/
Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】
① 70 % by Assessed work submitted at the end of each unit
② 30% by reports submitted each class
注意 1 ：出席が 7 割未満の場合は原則として単位修得の資格を失う
注意 2 ：各 Unit ごとに提出する Assessed work(Paragraph) と授業中の参加意欲や学びへの積極性と努力による総合評価。各センテンスの意味が通じているかだけでなく、各ユニットで学ぶポイントが反映されているか、そして各 paragraph や Essay 全体の構成が logic に沿ったものかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
Assessed work は全て添削します。受講生からは「提出物が添削されるのでためになる」とのコメントがあります。「なんとなくの感覚で」書いていたところから始まり、次第に「書き方の基本を知れた」「プロセスに沿って考えて直したことで力になった」「苦手意識がなくなった」など、今後学術世界や社会に出た時にも必要となる英文の構成を学べたことを実感してくれています。Writing には絶対的な「答え」はありません。自分の主張したいこと、言いたいことを持てるかどうか、そしてそれを如何に読者に伝えられるか、ここが評価の軸となります。
基本的に書く作業は一人でするものですが、構成理解の段階や、書いたものを仲間と読みあい評価するペアまたはグループ・ワークで、活発に意見を出し合いお互いを刺激しあって高めて行けるグループもありますが、授業の雰囲気は皆さんの協力姿勢・積極性で決まります！

【学生が準備すべき機器他】
授業内でのパソコン使用可。提出物は指示されたフォーマットに沿ってワードで作成し、印刷してか、または添付の形で授業支援システムから提出してもらいます。授業内で出される指示に従ってください。

【その他の重要事項】
授業支援システムへのアクセスに問題が起きる場合もあり、その際にはメールでの提出（akiko.sugi4i@hosei.ac.jp）も認めています。
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
Familiarizing yourself with English paragraph structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(5) B

杉　亜希子

授業コード：A2835　｜　曜日・時限：**月曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Familiarizing yourself with English essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.
春学期に学んだパラグラフから発展し、他のテーマで essay を書いていく。論理的な文章の展開を理解し、書きたいことを読み手にわかりやすく伝えるための English essay の構成を学ぶ。
注）英語表現演習 (Writing)(5)A と併せて受講することが望ましい。後期からの受講を希望する場合には要相談。

【到達目標】
Through understanding each model essay, you will
· be able to recognize and identify key structures
· learn how to gather ideas and organize them into groups (outlining)
· get used to editing and improving your writing
· apply the structures to your own essay writing and produce formal/academic writing
論文が持つ基本構成要素とその論理性を理解し、大学や社会に出た時に必要となる英文の essay スタイルをマスターしていく。各自で選択したトピックでライティングをし、その後のグループワークで自分では気づかなかった内容的な不足個所を指摘・提案しあうことで互いを高めあうことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Acquiring the idea of what an English essay should be like, you will improve your skills to write an essay.
1) In each unit you will first internalize the essential writing process following the guidance (a reading about the topic; vocabulary building exercise, etc.) given in the text.
2) You will then gather ideas, organize an outline, draft, revise and edit and submit the final draft.
· Preparation for each class will be a must
· Active and cooperative performance in every class activity from each student is fully expected
· Late submission of the assessed work will NOT be accepted
You will be writing essays which will be assessed.
フィードバックは、課題提出後に授業内又は「授業支援システム」を通じて行います。
＊状況に応じてオンラインによる授業が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Reviewing; Unit 4: Public Spaces (Writing a persuasive essay)	General briefing; reviewing paragraph structures; Planning for writing (Short reading)
第 2 回	Unit 4: Public Spaces (Writing a persuasive essay)	Planning for writing (Building word knowledge; Focused practice; Selecting a topic)
第 3 回	Unit 4: Public Spaces (Writing a persuasive essay)	Writing a persuasive essay (Learning the essay structure: Introduction)
第 4 回	Unit 4: Public Spaces (Writing a persuasive essay)	Writing a persuasive essay (Learning the essay structure: Body; Outlining)
第 5 回	Unit 4: Public Spaces (Writing a persuasive essay)	Writing a persuasive essay (Writing the first draft)
第 6 回	Unit 4: Public Spaces (Writing a persuasive essay)	Writing a persuasive essay (Editing)
第 7 回	Unit 4: Public Spaces ; Unit 5: Jobs of the Future (Writing a compare-contrast essay)	Writing a persuasive essay (Peer-editing); Planing for writing (Short reading)
第 8 回	Unit 5: Jobs of the Future (Writing a compare-contrast essay)	Planning for writing (Building word knowledge; Focused practice; Selecting a topic)
第 9 回	Unit 5: Jobs of the Future (Writing a compare-contrast essay)	Writing a compare-contrast essay (Outlining) Reviewing and preparing the final draft
第 10 回	Unit 5: Jobs of the Future (Writing a compare-contrast essay)	Writing a compare-contrast essay (Outlining) Editing and preparing the final draft
第 11 回	Unit 5: Jobs of the Future (Writing a compare-contrast essay)	Writing a compare-contrast essay (Writing the first draft)
第 12 回	Unit 5: Jobs of the Future (Writing a compare-contrast essay)	Writing a compare-contrast essay (Editing)
第 13 回	Unit 5: Jobs of the Future (Writing a compare-contrast essay)	Writing a compare-contrast essay (Peer-editing and preparing the final draft)
第 14 回	Timed writing	Writing an essay within a set-time

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
模範となるエッセイは、内容を理解し問題を解くだけにとどまらず、その構成スタイルを把握し自分のライティングに役立てていく。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
春学期と同様に、Colin Ward, *Focus on Writing* 3 (Pearson, 2012), ￥2,300+税

【参考書】
An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.　英英辞書の積極的な利用を推奨する。
Useful websites:
http://dictionary.cambridge.org/
http://www.merriam-webster.com/
Thesaurus: http://thesaurus.com/
Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】
① 70 % by Assessed Essay submitted at the end of each unit
② 30% by reports submitted each class
注意 1 ：出席が 7 割未満の場合は原則として単位修得の資格を失う
注意 2 ：各 Unit ごとに提出する Assessed Essay と授業中の参加意欲や学びへの積極性と努力による総合評価。各センテンスの意味が通じているかだけでなく、各ユニットで学ぶポイントが反映されているか、そして各 paragraph や Essay 全体の構成が logic に沿ったものかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
春学期同様、Assessed work は全て添削します。受講生は「書き方の基本を知れた」「論理的に文の構成を組み立てることが出来るようになった」「プロセスに沿って考えて直したことで力になった」「苦手意識がなくなった！」とコメントしているように、今後学術世界や社会で必要と思われる代表的な英語文の構成を学ぶことができたことを実感しています。その構成の仕方は英語だけでなく、日本語で物事を考えまとめる時にも参考になります。評価の軸となるのは、自分の主張したいことをしっかり見極め、表現し、言いたいことを如何に読者に伝えるかです。書いたものを仲間と読みあい評価しあう Peer-editing の作業では、活発に意見を出し指摘しあえるグループはお互いを高めていくことが出来ています。積極的に授業やグループ作業に参加することで、人に刺激を与え、人から学べる受講生が最終的にかなり伸びています。

【学生が準備すべき機器他】
春学期同様、授業内でのパソコンやネットの使用可。提出物は指示されたフォーマットに沿ってワードで作成、印刷か又は添付の形で授業支援システムから提出してもらいます。授業で出される指示に従ってください。

【その他の重要事項】
授業支援システムへのアクセスに問題が起きる場合もあり、その際にはメールでの提出（akiko.sugi4i@hosei.ac.jp）も認めています。
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
Familiarizing yourself with English essay structure and mechanics and putting language knowledge and writing experience to work more effectively.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(6)A

宮川　雅

授業コード：A2836　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「作文」の授業を、若い時いらい、ひさしぶりに担当することになってアレコレ思う春です。先日、ラジオの放送大学の「大学の窓」（授業科目案内）で、「耳から学ぶ英語」という科目の狙いについて聞き（取り）ました。担当の大橋理枝准教授の、英語を聞く力を養うためにこだわった点。――私自身が耳からなんですね。耳からだったんです。10 歳のときにアメリカに行って、生活しながら学んだので、耳からだったんです。それも英語の語順で聞き取れるようになるというのを重視しました。文字で書いてある言語っていうのは、読むときって後ろから前にひっくりかえして読んだりとか、何回も読み直したりとかできるんですけども、話し言葉を聴くってなると、話された順番にしか絶対聞こえてこない。そうなると、英語で話された順番に聞き取り、かつそれで情報処理をしないといけないっていう点がキーポイントだな、と思いました。

さて、いま自分がやったのは日本語の聞き取りで、それを文字に起こして書いてみたわけですが、類比的に writing の問題をいくつか思いました。ひとつは、なるほど、書き言葉は読み直しができる（それはプラトンからソシュールにいたる伝統的なパロール／エクリチュールの対立概念に即していえば、書き言葉は羽根がなくて死んでいるから解剖可能なのでしょうが）けれど、書き言葉だって書かれた順番に読み取り情報処理をおこなうのがまっとうだろうこと、です。話すように書きたい、というなら（とりあえず）それはそれ、しかし、書くように話すという人もいて、それはアレですよね、どうやら異質の基準があるらしい。とりあえずはフォーマリティーという概念が有効そうですけど、話し言葉は心理重視で書き言葉は論理重視という一般論がありそうです。けれども、ファッションとの類比をもちだすなら、スタイルとか TPO とかフォーマル・インフォーマル（どれも死語とは言わずとも古臭い感じがしますかね）とかは、どうやら書き物の「ジャンル」（論文だったり日記だったり手紙だったり創作だったり、手紙も私信だったり商用だったり公用だったり）によって異なるだろうし、時代の変化や個人の嗜好もありそうです。それで、それもふくめて formality という概念について（これは書き言葉に限らないわけだけど）学ぶべきだろうな、と。付随的に、標準・非標準とむかしは云々された standard という意識についても。ふたつめは、いまの「引用」にもかかわる、形式的な、話法とかも含めた、表記の仕方の問題（MLA スタイルとかいうときの意味での「スタイル」）、また句読法の習慣の問題。みっつめは、（間接的に思ったことですが）「作文」「構文」を語ったり論じたりする言葉を共有する問題です。

というわけで、この授業（前半の春学期の A のこの授業）では、スタイルの基本となる formality の概念、そして subordination/ coordination の概念をまずは勉強し、並行して writing の実践と議論を試み、その後の学生同士の議論の準備をととのえていきたい、と思います。

というわけで、秋学期のＢがほんとうの実践篇になるかもしれませんが、伝統的な修辞のモードとされてきた、Narration、Description、Exposition、Argument についての作文を試みる、その前段階として理論篇としてスタイルについて学んでいく、という段取りを考えています。しかしリクツだけだと飽きられそうですから、それなりの実践、それなりの議論を春からおこなっていきたい。

【到達目標】
・毎週継続して、50～200 ワードの英文を書き続けることができる。
・英語の文体と構造について理屈を語れるようになる。
・自分の文章について、その意図や特徴を説明できる。また、どう推敲すればより良い文章になるのか理解し、これを実践することができる。
・他者の文章についてその良い点・悪い点、特徴を分析し、自身の英語力（writing と reading の）向上につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
・およそ毎週（あるいは数週にわたって）ライティング（あるいはリーディング）課題を出すので、それに沿って（授業前日までに）英文執筆をおこなってもらう。授業では履修者同士でお互いのペーパーにコメントをし、どうやったらよりよい文章になるのか、どういった点に気をつければいいのかを考えてもらう。週ごとのテーマに応じて、担当講師による概説・解説を講義する。履修者同士のディスカッション、講師と学生の双方向的なコミュニケーションを基軸とする、ライティング・ワークショップ形式で授業を展開する。初回授業で参加人数を確認し、クラスのサイズに合わせて授業内容を調整する。
・授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	レポート課題（George Orwell, "Politics and the English Language"）の説明／履修者各自のライティング経験、それにかかわる苦手意識や気持ちを共有する。
第 2 回	自分について書く①	自己紹介の文章を書いてみる。ライティングにおいて「私（の声）」を形作ることの重要さを概説する。
第 3 回	自分について書く②	パーソナル・ステイトメントの役割を理解し、実際に書いてみる。
第 4 回	自分について書く③	代名詞と視点について／自伝というジャンルを理解し、実際に書いてみる。
第 5 回	スタイルについて	スタイルという語の意味の多様性と英語のスタイル。
第 6 回	フォーマリティーについて	formal/ informal
第 7 回	標準・非標準と卑俗性	standard/ nonstandard, vulgarity
第 8 回	構文について	coordination/ subordination
第 9 回	句読法と引用	punctuation/ quotation
第 10 回	英語を読むことと書くこと	ライティング力の向上は、他人が書いた文章をどれだけ読み込み考察したか、というリーディング体験と結びついている。書くことと読むことの連環について考える。
第 11 回	手紙を書く①	手紙の社会・文化的役割について考えつつ、自分でも書いてみる。
第 12 回	手紙を書く②	オープン・レターの機能を理解し、実際に書いてみる。
第 13 回	手紙を書く③	名文とよばれる書簡をいくつか選び、その特徴を分析する。
第 14 回	春学期の総括	これまで学んだことの振り返り。またライティングのあり方や意識の変化について、自己評価をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業課題に基づいて、毎週 50～200 ワード程度の英文を執筆し、授業で公開・共有できる状態にしておく。（1 時間～2 時間半）
・授業中のコメントを踏まえ、授業後に自身の文章を読み直す。どういった修正・推敲の余地があるか考える。（30 分）
・授業で扱うジャンルについて、関係する文章をサンプル・お手本として目を通す。リーディングを通じて、それぞれのジャンルの特性を理解する。（30 分～1 時間）

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
折に触れて提示し、学習支援システムにも示す。
レポート課題 < https://www.orwellfoundation.com/the-orwell-foundation/orwell/essays-and-other-works/politics-and-the-english-language/ >

【成績評価の方法と基準】
毎週のライティング課題に対する取り組み 70 %
George Orwell, "Politics and the English Language" を読んでのレポート課題 30 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
《重要》（他の該当科目と共通する重要事項）
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

【Outline and objectives】
This course introduces undergraduate students to various modes of writing in English. English writing is heterogeneous, and more varied than simply learning how to write academic essays. Students will participate in a weekly workshop including reading and writing "Narration," "Description," "Exposition," and "Argumentation." These activities will develop an awareness of "style," and also an awareness that the practice of writing is embedded in everyday life. The course aims to help students experience the pleasure of writing in addition to guiding them toward the improvement of their skills of analysis and critical thinking.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(6) B

宮川　雅

授業コード：A2837 ｜ 曜日・時限：木曜 2 限
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期のBがほんとうの実践篇になるかもしれないが、伝統的な修辞のモードとされてきた、Narration、Description、Exposition、Argument についての作文を試みる、前段階として春学期に理論篇としてスタイルについて学んだ、それを時々復習する。
英語のライティングの世界は、あたりまえだけど、広い。異なるジャンルについて、異なるスタイルについて、あれこれと考えながら、味読し、書くという営みを続けることで、英語についての意識を高めることが目的である

【到達目標】
・毎週継続して、50～200 ワードの英文を書き続けることができる。
・英語の文体と構造について理屈を語れるようになる。
・自身の文章について、その意図や特徴を説明できる。また、どう推敲すればより良い文章になるのか理解し、これを実践することができる。
・他者の文章についてその良い点・悪い点、特徴を分析し、自身の英語力（writing と reading の）向上につなげることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
・毎週ライティング（あるいはリーディング）課題を出すので、それに沿って（授業前日までに）英文を執筆してもらう。授業では履修者同士でお互いのペーパーにコメントをし、どうやったらよりよい文章になるのか、どういった点に気をつければいいのかを考えてもらう。週ごとのテーマに応じて、担当講師による当該ジャンルの概説・解説をおこなう。履修者同士のディスカッション、講師と学生の双方向的なコミュニケーションを基軸とする、ライティング・ワークショップ形式で授業を展開する。初回授業で参加人数を確認し、クラスのサイズに合わせて授業内容を調整する。
・授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	英語ライティングの世界とアカデミック・イングリッシュの関わりを考える。
第 2 回	Narration ――出来事について書く①	英字新聞を参照しつつ、ジャーナリストになりきってニュース記事を書いてみる。
第 3 回	出来事について書く②	文学事典の作品項目や、論文における作品要約を参照しつつ、過去に起こった出来事について記述してみる。
第 4 回	出来事について書く③	出来事に遭遇する「私」（一人称）の視点について考える。
第 5 回	Description ――言葉によるスケッチ①	telling と showing。
第 6 回	言葉によるスケッチ②	外に出かけて言葉によるスケッチをおこなう（写生大会）。
第 7 回	言葉によるスケッチ③	天気に関わる文章を読み、エコ・クリティシズムについて概説する。
第 8 回	Exposition ――ハウ・ツーものを書く①	取説的な文章や解説的な文章の作法――命令形。
第 9 回	Exposition ――ハウ・ツーものを書く②	料理本やゲーム本を読んでみる。
第 10 回	Exposition ――ハウ・ツーものを書く③	自分の趣味領域でハウツーものを書いてみる。
第 11 回	Argumentation ――本について書く①	研究の世界における「書評」の役割・位置づけを考える。実際に英文雑誌に掲載された書評を読んでみる。
第 12 回	本について書く②	実際に書評を書いてみる。「論文」のスタイル習慣について学ぶ。
第 13 回	本について書く③	前回に引き続き、書評を書いてみる。これを踏まえて、研究における二次文献の精査（のやり方）を考える。
第 14 回	秋学期の総括	1 年間のまとめをおこな、今後の課題を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・授業課題に基づいて、毎週 50～200 ワード程度の英文を執筆し、授業で公開・共有できる状態にしておく。（2 時間半）
・授業中のコメントを踏まえ、授業後に自身の文章を読み直す。どういった修正・推敲の余地があるか考える。（30 分）
・授業で扱うジャンルについて、関係する文章をサンプル・お手本として目を通す。リーディングを通じて、それぞれのジャンルの特性を理解する。（1 時間）

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。

【参考書】
折に触れて（配布プリントの中で）紹介したり、抜粋プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】
毎週のライティング課題に対する取り組み　70 %
学期末レポート　30 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
《重要》（他の該当科目と共通する重要事項）
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

【Outline and objectives】
This course introduces undergraduate students to various modes of writing in English. English writing is heterogeneous, and more varied than simply learning how to write academic essays. Students will participate in a weekly workshop including reading and writing "Narration," "Description," "Exposition," and "Argumentation." These activities will develop an awareness of "style," and also an awareness that the practice of writing is embedded in everyday life. The course aims to help students experience the pleasure of writing in addition to guiding them toward the improvement of their skills of analysis and critical thinking.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(7) A

TIMOTHY J WRIGHT

授業コード：A2838　｜　曜日・時限：**月曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The goals and objectives of this course are mainly for students to make marked improvement on their English writing abilities and skills through in class weekly training and assignment targets. We will work weekly on improving English writing, grammar, and stylistic skills through our textbook: Enjoying College Life: Writing and Listening Practice with Natural English by Kevin L. Mark & Yukiko Itoh, TSURUMI SHOTEN. We will also be using a number of other handouts every week to help develop stronger sentence structure, vocabulary building, grammar ability, spelling, and penmanship. Hopefully, students will be able to make steady progress throughout the semester and retain their ability into their working careers in the future.

【到達目標】
I hope that students will work seriously on improving their English writing skills through weekly classwork as well as completing English writing assignments in order to boost their skill levels to better prepare themselves for their future working careers after university. This can easily be achieved if they are serious and work diligently.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will work weekly through textbook exercises and other material given in handouts. I want students to practice especially hard on improving grammar, writing stylistics, and clear, concise sentence structure. I have a number of classroom team writing projects that should also interest and help motivate the students to reach our goals. Feedback will be given in class and on each writing assignment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction "Rules and regulations of our class"	Please begin the textbook for UNIT-1 on pages 3 and 4. I would like you to write in the book on each page with a pencil. Do NOT use ink. It is a fun book and I am sure that you will laugh and enjoy the stories and exercises throughout the year. After that, I would like you to write an essay on My Self-introduction. Please tell me about yourself...introduce yourself. Their is no limit on how many words I want you to write. You can either type it in on your computer and save it or just write it on one-side A-4 paper. It would be better to write it with a pencil since you probably will be making changes later on. Do NOT write in INK! Good luck!

第 2 回	Essay review and "editing." "Focal points on your first essay"	Please review your first essay and feel free to make any corrections or changes necessary if you need to. This week's essay will be on My Favorite Sports. Everybody likes some kind of sports or activities even if you are not a good sportsman or sportswoman. Walking from JR Ichigaya Station round trip to Hosei is a kind of urban walking and could also be considered as a sport. For me, my favorite sports are swimming and water sports like scuba diving and surfing even though I am over 60 years old. So tell me about your favorite sport. There in no word limit so just try to write as best as you can. Please save it on your computer or write in pencil and save your essay until I collect it at a later date.
第 3 回	Writing Skills. "How to successfully begin your textbook training"	Begin by finishing UNIT-1 in your book on page 3 to 4. Make sure you write your answers in your book with a pencil. I also would like you to write another essay on My Hobbies. Everybody has hobbies, so tell me about yours. I like to visit art galleries, explore Tokyo, listen to music and swim. How about you?
第 4 回	Writing Skills. "Proof checking and the benefits of postponed rereading"	Please reread all of your saved essays and feel free to correct or rewrite parts of them if necessary. There is no textbook assignment this week. I will give my first lecture on how to improve your sentence structure, vocabulary and Grammar.
第 5 回	Writing Skills and Stylistics. "Learning for our first two chapters of our textbook"	Review of Unit-1. Begin working on Unit-2 as a class exercise and complete the entire chapter.
第 6 回	Writing Skills and Stylistics. "An introduction to outside writing stylistics and personalities"	Begin working on Unit-3 of our textbook. We will also have some new outside mriting exericse material that we can work as pairs and teams either in Breakout Rooms or in the actual classroom.
第 7 回	Review of material covered so far and Preparation for Mid-term. "Important review of the past six classes"	Finishing Unit-3 and continuation of Unit-4 in our textbook. Essay number 4.
第 8 回	Review and Mid-term evaluation. "Evaluation of student potential"	Review and Mid-term Writing Evaluation.
第 9 回	Building better sentence structure and Grammar training. "Benefits of becoming stronger in grammar"	Sentence Structure and vocabulary building as well as Grammar lecture with exercises and Q&A. Begin Unit-5.
第 10 回	Writing Skills and Stylistics. "Mini-team writing training and competition"	Completion of Unit-5 Classroom mini-team writing exercise. Essay number 5.
第 11 回	Writing Skills and Stylistics. Grammar training. "More stylistics, grammar points and frank advice on your essays"	Work on Unit-6. Grammar lecture with writing stylistics advice including Q&A. Begin Unit 6.
第 12 回	Writing Skills and Stylistics. "Textbook training, logical understanding and learning"	Finish Unit-6 and begin on Unit-7.
第 13 回	Review of all material covered so far this semester. "Important review covering all material from the semester"	Completion of Unit-7. Final lecture on English Grammar, sentence structure and vocabulary building. Review of all material covered during the semester.
第 14 回	Final Writing evaluation of the semester. "Time to show your writing creativity!"	Summary and review of the content of the semester. Final Essay evaluation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Please bear in mind that weekly assignments and essays will be required to be completed throughout the semester. I will NOT accept late material, so make sure that you turn it in when it is due. Be punctual.
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
We are going to use a book titled ENJOYING COLLEGE LIFE by KEVIN L. MARKS & YUKIKO ITOH, TSURUMI SHOTEN. The books are already in Hosei's Bookstore on campus, so please buy it immediately because you will need the book in class every week and it will count as part of your final grade.

【参考書】
I strongly recommend looking at English Writing material from the University of Michigan and Georgetown University ESL Programs. Also, I highly recommend reading anything that you can on the Kunihiro Masao Methodology.

【成績評価の方法と基準】
In class training and classwork 60%
Homework 20%
Final Essay 20%
*Student Classroom Evaluation; All students will be evaluated weekly in class for overall classroom work and interaction. Non-active participation or sleeping in class is not allowed and will seriously hurt final grade evaluation. Attendance is also very important in order to receive a passing grade. You must attend class every week and be active in training.

【学生の意見等からの気づき】
I welcome any and all students comments.

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
The goals and objectives of this course are mainly for students to make marked improvement on their English writing abilities and skills through in class weekly training and writing targets. We will work weekly on improving English writing, grammar, and stylistic skills through our textbook: Enjoying College Life: Writing and Listening Practice with Natural English by Kevin L. Mark & Yukiko Itoh, TSURUMI SHOTEN. We will also be using a number of other handouts every week to help develop stronger sentence structure, vocabulary building, grammar ability, spelling, and penmanship. Hopefully, students will be able to make steady progress throughout the semester and retain their ability into their working careers in the future.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(7) B

TIMOTHY J WRIGHT

授業コード：A2839 ｜ 曜日・時限：**月曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Intensive English Writing

【到達目標】
The target of the fall semester is to retain as much as possible of the material which we covered during the spring semester in order to help students become better writers of L2 English. All students enrolled in this class should work as hard as possible to achieve these goals.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will continue with the textbook and a variety of new exercises hoping to improve skill levels to a higher degree. Feedback will be given in class and on each writing assignment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Welcome back and explanation of fall semester. "Our new beginning!"	Introduction of course, guidelines, syllabus and rules of the class.
第 2 回	Review of all material covered during the spring semester. "Intensive review of last semester"	Complete review of all material covered during the spring semester. Tips on how to train at home in English writing.
第 3 回	Writing exercises I. In-class essay on the past summer vacation. "How did we spend summer vacation: Important points"	Chapter review of all material covered in textbook during the spring semester.
第 4 回	Writing exercises I. Strunk & White exercises. Logical writing exercises (1.). "The importance of becoming a more logical writer"	Essay #1 due the following week.
第 5 回	Writing exercises I. Strunk & White exercises. Logical writing exercises (2.). "Learning to develop creativity in essays" Complete Chapter 4. of textbook.	Review of essay and lecture on Grammar focal points.
第 6 回	Complete Chapter 5 of textbook. Additional exercises of logical writing and structure essays. "The difference between sound logic and better creativity in writing"	Essay #2 due next week. Tips and advice for improvement.
第 7 回	Complete Chapter 6 of textbook. Writing exercises II. Strunk & White exercises. Logical writing exercises. Creative writing drills (1.). "making your personality shine in writing"	Essay #3 due next week.
第 8 回	Complete Chapter 7. of textbook. Writing exercises II. Strunk & White exercises. Logical writing exercises. Creative writing drills (II.). "How to mix creativity, logic and personality together into good essays"	Essay #4 due next week.
第 9 回	Complete Chapter 8. of textbook. Writing exercises II. Strunk & White exercises. Logical writing exercises. Creative writing drills (9.). "More development into sound logic in your writing"	Essay #5 due next week.
第 10 回	Review of all material covered so far this semester. Tips and advice on difficult textbook material covered. "A full review of the semester"	Review and test of material covered so far. Lecture on essay material.
第 11 回	Writing exercises III. Complete Chapter 8 of textbook. "Last chance to become better textbook writers"	Additional material on how to develop and maintain better essay skills.
第 12 回	Writing exercises III. Final Strunk & White exercises and review. Chapter 9 of textbook. "The depths of logic, creativity and personality in writing"	Final take-home Essay assigned.
第 13 回	Writing exercises III. Final creative writing drills. "Final steps on creativity in writing"	Overall review of material including Q&A session by students.
第 14 回	Final review of material taught during this semester and last Q&A session by students. "Our last chance for asking and answering in English writing2	Deadline of Final Essay Assignment.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
All students will be obligated to complete weekly in-class writing assignments and complete five major take home essay assignments during the term. Students will also be encouraged to do a number of creative writing "free" essays as well. Please read as much English as possible in your free time and be focused during this class as well as serious! 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Enjoying College Life: Writing and Listening Practice with Natural English
By Kevin L. Mark and Yukiko Itoh
TSURUMI SHOTEN
ISBN 978-4-0365-4

【参考書】
Materials published by the Georgetown University School of Languages & Linguistics.
Materials published by the University of Michigan ESL Program.

【成績評価の方法と基準】
All students will be graded on class attendance, classwork, attitude, essays, and the final examination.
50% Classwork and Participation, 30% Essays, 20% Final Examination.
*Student Classroom Evaluation: All students will be evaluated weekly in class for overall classroom work and interaction. Non-active participation or sleeping in class is not allowed and will seriously hurt final grade evaluation. Attendance is also very important in order to receive a passing grade. You must attend class every week and be active in training.

【学生の意見等からの気づき】
I have made a number of changes in my course based on last year's student surveys. If a student tries his or her best despite limitations in the language and has perfect or near-perfect attendance, this will have a positive influence on your final grade. However, chronic absences will only hurt you in the end, so make sure that you come to class.

【学生が準備すべき機器他】
None

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
Students will work weekly in their textbooks and numerous handouts. The overall objectives will be to reach a marked improvement in English writing skills and hopefully, a marked improvement in ability from the spring semester.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(8) A

田中　裕希

授業コード：A2840　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で創作するクリエイティブ・ライティング入門講座。お互いの作品を読み合い批評し、その過程で英語力を高める。ただ単に文法的に正しい英語ではなく、英語の音楽性を肌で感じ、第二言語学習者だからこそできる独創的な英語表現を目指す。春学期は詩が中心。

【到達目標】
英語で創作することにより、総合的な英語力を伸ばす。
言葉の意味や音楽性に敏感になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。ワークショップ形式を軸にした、ディスカッション中心の授業。授業内でのフィードバックをもとに作品を練り直す。創作に入っていきやすいよう、お題を出し既存の文学作品を例として使う。詩を中心に書いていくが、学生の興味に応じて他のジャンルにも挑戦したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	翻訳から創作へ	日本文学を英訳
第 3 回	英語のリズム	Theodore Roethke, "My Papa's Waltz"
第 4 回	ワークショップ（1）	詩の合評
第 5 回	自分以外の誰かになりきって書く	John Berryman, "Dream Song 14"
第 6 回	ワークショップ（2）	詩の合評
第 7 回	絵画をもとに書く	Anne Sexton, "The Starry Night"
第 8 回	ワークショップ（3）	詩の合評
第 9 回	物になりきって書く	Suji Kwock Kim, "Monologue for an Onion"
第 10 回	ワークショップ（4）	詩の合評
第 11 回	言葉から連想して書く	Marina Tsvetaeva　, "Poems for Blok"
第 12 回	ワークショップ（5）	詩の合評
第 13 回	朗読会	朗読会前半
第 14 回	結び	朗読会後半、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語で創作し、クラスメートの書いた作品を読み批評する。また配布されたプリントを読む。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『日本人の英語』(岩波新書) マーク・ピーターセン (著)
学習支援システムを通じて配布。

【参考書】
授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
作品群 50%
平常点（課題、出席、プレゼンテーション、など）50%
４回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き活発なディスカッションを心がける。

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

※「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※ なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
In this class, students will write both prose and poetry in English and learn to critique one another's work in a workshop format.

BSP200BD

英語表現演習 (Writing)(8) B

田中　裕希

授業コード：A2841　｜　曜日・時限：木曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語で創作するクリエイティブ・ライティング入門講座。お互いの作品を読み合い批評し、その過程で英語力を高める。ただ単に文法的に正しい英語ではなく、英語の音楽性を肌で感じ、第二言語学習者だからこそできる独創的な英語表現を目指す。秋学期は散文が中心。

【到達目標】
英語で創作することにより、総合的な英語力を伸ばす。
言葉の意味や音楽性に敏感になる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。ワークショップ形式を軸とし、ディスカッション中心に進めていく。授業内でのフィードバックをもとに作品を練り直す。創作に入っていきやすいよう、お題を出したり既存の文学作品を例として使う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	翻訳から創作へ	日本文学を英訳
第 3 回	散文詩を書く	Robert Hass, "A Story about the Body"
第 4 回	ワークショップ（1）	作品の合評
第 5 回	ショートショートを書く	Grace Paley, "Mother"
第 6 回	ワークショップ（2）	作品の合評
第 7 回	風景を描写する	短編小説からの例
第 8 回	ワークショップ（3）	作品の合評
第 9 回	人物を描写する	小説からの例
第 10 回	ワークショップ（4）	作品の合評
第 11 回	エッセイ	他ジャンルへの挑戦
第 12 回	ワークショップ（5）	作品の合評
第 13 回	朗読会	朗読会前半
第 14 回	結び	まとめ、朗読会後半

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
英語で創作し、クラスメートの書いた作品を読み批評する。また配布されたプリントを読む。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムを通じて配布。

【参考書】
授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
作品群 50%
平常点（課題、出席、プレゼンテーション、など）50%
４回以上の欠席で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】
引き続き活発なディスカッションを心がける。

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※ なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
In this class, students will write both prose and poetry in English and learn to critique one another's work in a workshop format.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(1) A

[2 年 L 組]

杉　亜希子

授業コード：A2846　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is not a conversation class. The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment. We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.
このクラスは英会話のクラスではない。ミニスピーチ作成とプレゼンテーションを最終目標とし、インプットで表現力を増しながら、英語の論理的な文章の構成力を磨き、コミュニケーション能力を高める。
注）英語表現演習 (Speaking)(1)B と併せて受講することが望ましい

【到達目標】
Through pre-activity and input, you will be able to
-Improve and expand your vocabulary and useful expressions
Through output activities (practicing new expressions, writing out your speech and giving a mini-speech), you will be able to
-Activate and devlop existing English language skills
-Acquire a habit of thinking logically
-Get used to speaking in front of others in English
-Devlop communicative competence and fluency in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
-Pre-activity: Practice useful phrases in everyday conversations
-Input: Listening to a model text; understanding the context
-Output: Making your own short speech; practicing and memorizing; giving presentations
-A purpose of leaning language must be to communicate with other people, so active, positive and cooperative performance in all class activities from each student is fully expected
-Instructions will be given primarily in English
模範テキストを使用し、発音と重要な表現をインプットする。アウトプットでは、学んだ形式や表現を利用し自分の short speech を作り発表することで、英語で自分を表現する力をつけていく。
フィードバックは、課題提出後に授業内又は「授業支援システム」を通じて行います。
＊状況に応じてオンラインによる授業が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance	General briefing
第 2 回	1. Greetings; My Personality	Learning expressions for greetings; getting to know your partners; Learning model cases
第 3 回	1. My Personality	Reviewing the model cases
第 4 回	1. My Personality 2. My Strong Points	Describing yourself to others; Learning model cases
第 5 回	2. My Strong Points	Reviewing the model cases
第 6 回	3. My Weak Points	Learning model cases
第 7 回	3. My Weak Points	Reviewing the model cases; Describing your strong and weak points to others (Preparation)
第 8 回	Presentation	Describing your strong and weak points to others
第 9 回	4. My Hobbies	Learning model cases
第 10 回	4. Hobbies	Reviewing the model cases; Describing your hobbies (Preparation)
第 11 回	Final Presentation (Preparation)	Making an outline and writing out your speech
第 12 回	Final Presentation (Preparation)	Editing your draft
第 13 回	Final Presentation (Preparation)	Final editing; practicing
第 14 回	Final Presentation	Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Model cases や pre-activity で習った表現は、声に出して復唱する復習を徹底し、小テストなどを通して自分のものにしていく。スピーチ作成に向け、アウトラインを作成することで話の流れを自分で明確にすることで Draft の校正に時間をかけられるようにしましょう。
本授業の準備・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Handouts will be given.　プリントを配布する。
Note: Topics are subject to change.

【参考書】
An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.　英英辞書を使用して使われ方を再確認する癖をつけましょう。
http://dictionary.cambridge.org/
http://www.merriam-webster.com/
Thesaurus: http://thesaurus.com/
Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】
発表 50 %、平常点 50 %（小テストの結果、授業中の積極性、特にスピーチ作成の過程における努力を重視し、総合的に評価）
注意 1 ：出席が 7 割未満の場合は原則として単位修得の資格を失う
注意 2 ：このクラスで特に重要視するのは英語習得に対する「積極性」です。学んだ表現がすぐに使えないこともありますが、新しい表現を Input で確実に自分のものにして、vocabulary を豊富にしておく必要があります。またスピーチ作りでは、ただ与えられた長さの話が出来れば良いのではなく、一度書き出してみたスピーチが本当にロジカルで人に伝わるものなのか再検証して練り上げていく作業の努力を惜しまないことが「成長」する鍵となり、ここが評価のポイントでもあります。

【学生の意見等からの気づき】
このクラスは、自分たちで作り上げ発展させていくことが出来ます。例年ですと受講生は「ほかの人が考えていることが知れて面白かった」「グループワークで楽しかった」と感じるように人から刺激を受けることで、ただ英語を訳すのではなく、自分の考えを披露することで英語で人を説得する方法も同時に身につけています。オンライン授業だった昨年度は徹底した自己学習ではありましたが、リスニングでは表現を「正しく予測」することや「フレーズを意識して聞く」ことが出来たとしているように、課題を解くだけではなく、自分なりの「気付きを意識しながら取り組む姿勢を身につけることが出来た」ようです。アウトプットでは実際に人前での発表は出来ませんでしたが、それでも「聴衆がいる」という意識を持つことを忘れず「伝えようとする気持ちを忘れてはいけないと思った」とあるように、「相手」を忘れないコミュニケーションの形を意識した英語の学習にきちんと繋げていました。「声に出すということがいかに大切で、効率的であるかということが本当によくわかりました」というような感想を持てた受講生は英語力が向上していきます。この授業の時間を有効に活用できるかどうかは受講生の一人一人のやる気と姿勢にかかっています。

【学生が準備すべき機器他】
発表では自分のパソコンやタブレットを使用してスライドを見せるなどの工夫を推奨しています。

【その他の重要事項】
欠席した場合、その週に行った授業内容をクラスメートに確認しておくこと。適切な理由で欠席を余儀なくされる場合には必ず連絡を入れ（メール akiko.sugi4i@hosei.ac.jp）、次回授業に参加する際にその証拠を持参のうえ相談に来ること。
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
This is not a conversation class.　The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment.　We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(1) B

［2 年 L 組］

杉　亜希子

授業コード：A2847　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This is not a conversation class.　The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment.　We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.
このクラスは英会話のクラスではない。ミニスピーチ作成とプレゼンテーションを最終目標とし、インプットで表現力を増しながら、英語の論理的な文章の構成力を磨き、コミュニケーション能力を高める。

【到達目標】
Through pre-activity and input, you will be able to
-Improve and expand your vocabulary and useful expressions
Through output activities (practicing new expressions, writing out your speech and giving a mini-speech), you will be able to
-Activate and develop existing English language skills
-Acquire a habit of thinking logically
-Get used to speaking in front of others in English
-Develop communicative competence and fluency in English

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
- Pre-activity: Practice useful phrases in everyday conversations
- Input: Listening to a model text; understanding the context
- Output: Based on the model text, making your own short speech; practicing and memorizing; giving presentations
- A purpose of leaning language must be to communicate with other people, so active, positive and cooperative performance in all class activities
from each student is fully expected
- Instructions will be given primarily in English
模範テキストを使用し発音練習と重要な表現のインプットを行う。アウトプットでは、学んだ形式や表現を利用して自分の short speech を作り発表することで、英語で自分を表現する力をつけていく。
フィードバックは、課題提出後に授業内又は「授業支援システム」を通じて行います。
＊状況に応じてオンラインによる授業が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Guidance 1. My Childhood	General briefing; Learning the model cases
第 2 回	1. My Childhood	Reviewing the model cases
第 3 回	2. My Horror Story	Learning the model cases
第 4 回	2. My Horror Story	Reviewing the model cases
第 5 回	3. My Little Pleasure	Learning the model cases
第 6 回	3. My Little Pleasure	Reviewing the model cases; Choosing your own topic
第 7 回	Presentation (Preparation)	Making an outline and practicing your speech
第 8 回	Presentation	Presentation
第 9 回	4. My Opinion on Japanese Education	Learning the model cases
第 10 回	4. My Opinion on Japanese Education	Reviewing the model cases
第 11 回	5. My Values Concerning Material Things	Learning the model cases
第 12 回	5. My Values Concerning Material Things	Reviewing the model cases; Choosing your own topic
第 13 回	Final Presentation (Preparation)	Editing your draft; practicing
第 14 回	Unit 3: Smoking Issues	Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Model cases や pre-activity で習った表現は、声に出して復唱する復習を徹底し、小テストなどを通して自分のものにしていく。スピーチ作成に向け、アウトラインを作成することで話の流れを自分で明確にすることで Draft の校正に時間をかけられるようにしましょう。
本授業の準備・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Handouts will be given. プリントを配布
(Topics are subject to change)

【参考書】
An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.　英英辞書の使用を勧めます
http://dictionary.cambridge.org/
http://www.merriam-webster.com/
Thesaurus: http://thesaurus.com/
Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】
発表 50 %、平常点 50 %（小テストの結果、授業中の積極性、特にスピーチ作成の過程における努力を重視し、総合的に評価）
注意 1 ：出席が 7 割未満の場合は原則として単位修得の資格を失う
注意 2 ：このクラスで特に重要視するのは英語習得に対する「積極性」です。学んだ表現がすぐに使えないこともありますが、新しい表現を Input で確実に自分のものにして、vocabulary を豊富にしておく必要があります。またスピーチ作りでは、ただ与えられた長さの話が出来れば良いのではなく、一度書き出してみたスピーチが本当にロジカルで人に伝わるものなのか再検証して練り上げていく作業の努力を惜しまないことが「成長」する鍵となり、ここが評価のポイントでもあります。

【学生の意見等からの気づき】
このクラスは、自分たちで作り上げ発展させていくことが出来ます。例年ですと受講生は「ほかの人が考えていることが知れて面白かった」「グループワークで楽しかった」と感じるように人から刺激を受けることで、ただ英語を訳すのではなく、自分の考えを披露することで英語で人を説得する方法も同時に身につけています。オンライン授業だった昨年度は徹底した自己学習ではありましたが、リスニングでは表現を「正しく予測」することや「フレーズを意識して聞く」ことが出来たとしているように、課題を解くだけではなく、自分なりの「気付きを意識しながら取り組む姿勢を身につけることが出来た」ようです。アウトプットでは実際に人前での発表は出来ませんでしたが、それでも「聴衆がいる」という意識を持つことを忘れず「伝えようとする気持ちを忘れてはいけないと思った」とあるように、「相手」を忘れないコミュニケーションの形を意識した英語の学習にきちんと繋げていました。「声に出すということがいかに大切で、効率的であるかということが本当によくわかりました」というような感想を持てた受講生は英語力が向上していきます。この授業の時間を有効に活用できるかどうかは受講生の一人一人のやる気と姿勢にかかっています。

【学生が準備すべき機器他】
自分のパソコンやタブレットを使用しスライドを見せるなどプレゼンの工夫を推奨しています。

【その他の重要事項】
欠席した場合、その週に行った授業内容をクラスメートに確認しておくこと。適切な理由で欠席を余儀なくされる場合には必ず連絡を入れ（akiko.sugi4i@hosei.ac.jp）、次回授業に参加する際にその証拠を持参のうえ相談に来ること。
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
This is not a conversation class.　The course is designed to give opportunities to express yourselves in English and to be engaged in an English speaking environment.　We will aim at developing your confidence of telling your stories and presenting your ideas with a logical structure and communicating with others.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(2) A

［2 年 M 組］

田尻　歩

授業コード：A2848　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、英語での総合的な発表スキルを養います。「発表」と一口で言っても、自己紹介のような比較的カジュアルなものから、自分の考えを論理的に他者に説得するものまで、トピックに応じて必要な発表のスキルは異なります。この授業では、一学期に 4 つの異なるトピックを取り上げ、それにふさわしい表現や語彙を身につけ、他人にわかりやすく自身の考えを伝える発表の技術を学んでいきます。
　発表は純粋な日常会話の能力とは異なるスキルが必要です。そのなかには、話す能力だけでなく、わかりやすく論理的に原稿を書くライティング力、他者の発表を聞いて理解するリスニング力、また別の発表者と特定のトピックについて議論を深めていくための応答の能力も含まれます。本授業では、これらの発表能力を総合的に養うことを目的とします。

【到達目標】
・発表トピック・ジャンルに応じた適切な語彙・表現を学ぶことができる。
・個別の単語の発音やイントネーション、間のとり方といった発音方法を学び、伝わりやすい話し方を学ぶことができる。
・原稿執筆と教員のフィードバックを通して、自分の考えをわかりやすく伝える発表原稿の書き方を学ぶことができる。
・他受講生の発表を通して多様な考え方を知り、視野を広げることができる。
・発表に対して、どのように英語でレスポンスをすればよいかを学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
　本授業は、オンデマンド型のオンライン授業です。授業日に学習支援システム（Google classroom を予定）において学習資料・課題をアップロードします。履修者は、その指示を通じて、各自で学習を進めます。
　提出していただく課題（発音練習、原稿、発表音声など）に対して教員がフィードバックをおこないます。
　また、オンデマンド授業ではありますが、他受講生の発表を聴いて質問・コメントをするというアクティビティにおいては、学生同士での活発な双方向のやり取りができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方や評価方法などについてお話します。
第 2 回	Unit 1: Introduction	Unit 1 で学習する内容を確認した上で、わかりやすく発表していくための発音練習をします。
第 3 回	Unit 1: Introduction	他受講生に向けて自己紹介の発表をおこなうための原稿を執筆します。
第 4 回	Unit 1: Introduction	他受講生に向けて自己紹介の発表音声を録音します。
第 5 回	Unit 2: An Important Person or Thing	Unit 2 の内容を確認して、内容確認クイズを解きます。音声ファイルで受講生の自己紹介の発表を聞き、数名にコメント・質問します。
第 6 回	Unit 2: An Important Person or Thing	自分にとって大切な人物や大切にしているものに関する発表原稿を執筆します。
第 7 回	Unit 2: An Important Person or Thing	他受講生に向けて大切な人／ものについての発表音声を録音します。
第 8 回	Unit 3: Places	Unit 3 の内容を確認して、内容確認クイズを解きます。音声ファイルで受講生の Unit 2 の発表を聞き、数名にコメント・質問します。
第 9 回	Unit 3: Places	自分にとってお気に入りの場所やこれから訪れたい場所に関する発表原稿を執筆します。
第 10 回	Unit 3: Places	他受講生に向けてお気に入りの場所についての発表音声を録音します。

第 11 回	Unit 4: Opinions	Unit 4 の内容を確認して、発音練習をします。音声ファイルで受講生の Unit 3 の発表を聞き、数名にコメント・質問します。
第 12 回	Unit 4: Opinions	社会的なトピックを一つ選び、それについての意見を原稿に書きます。
第 13 回	Unit 4: Opinions	他受講生に向けて、自分の意見を主張する発表音声を録音します。
第 14 回	Unit 4: Opinions	音声ファイルで受講生の Unit 4 の発表を聞き、数名にコメント・質問します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
新たな Unit に入る際には、その Unit の教科書の内容を事前に読み、把握しておくこと。また、トピックによっては、原稿を書くにあたって学術的な文献をいくつか読む必要があります。

【テキスト（教科書）】
Herman Bertelen, Malcolm Kostiuk, Ready to Present: A Guide to Better Presentations, Cengage Language, 2019.

【参考書】
正しい英文を書くために文法事項に関しては『総合英語フォレスト』桐原書店を参照してください。

【成績評価の方法と基準】
Unit はじめ課題 (内容確認クイズ and/or 課題音声提出) 各 4%×4=16%
原稿執筆 各 9%×4=36%
発表音声作成 各 9%×4=36%
発表者への質問各 3%×4=12%
合計 100%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
音声を録音して提出するため、スマートフォンをはじめとする録音可能な機材が必要です。原稿執筆にはパソコンを推奨しますが、紙に書いて撮影したファイルを送ってもらってもかまいません。

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
In this on-demand online course, you will learn how to deliver a good presentation. You will make four different types of presentations, from introducing yourself to logically stating your opinions. In so doing, you will learn various expressions and phrases appropriate to the topic, how to write clearly and logically, and how to respond to other presenters in a productive way.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(2) B

［2 年 M 組］

田尻　歩

授業コード：A2849　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、英語での総合的な発表スキルを養います。「発表」と一口で言っても、自己紹介のような比較的カジュアルなものから、自分の考えを論理的に他者に説得するものまで、トピックに応じて必要な発表のスキルは異なります。この授業では、一学期に 4 つの異なるトピックを取り上げ、それにふさわしい表現や語彙を身につけ、他人にわかりやすく自身の考えを伝える発表の技術を学んでいきます。
発表は純粋な日常会話の能力とは異なるスキルが必要です。そのなかには、話す能力だけでなく、わかりやすく論理的に原稿を書くライティング力、他者の発表を聞いて理解するリスニング力、また別の発表者と特定のトピックについて議論を深めていくための応答の能力も含まれます。本授業では、これらの発表能力を総合的に養うことを目的とします。

【到達目標】
・発表トピック・ジャンルに応じた適切な語彙・表現を学ぶことができる。
・個別の単語の発音やイントネーション、間のとり方といった発音方法を学び、伝わりやすい話し方を学ぶことができる。
・原稿執筆と教員のフィードバックを通して、自分の考えをわかりやすく伝える発表原稿の書き方を学ぶことができる。
・他受講生の発表を通して多様な考え方を知り、視野を広げることができる。
・発表に対して、どのように英語でレスポンスをすればよいかを学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は、オンデマンド型のオンライン授業です。授業日に学習支援システム（Google classroom を予定）において学習資料・課題をアップロードします。履修者は、その指示を通じて、各自で学習を進めます。
提出していただく課題（発音練習、原稿、発表音声など）に対して教員がフィードバックをおこないます。
また、オンデマンド授業ではありますが、他受講生の発表を聴いて質問・コメントをするというアクティビティにおいては、学生同士での活発な双方向のやり取りができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方や評価方法などについてお話します。
第 2 回	Unit 5: Biography	Unit 5 で学習する内容を確認した上で、内容確認クイズを解きます。
第 3 回	Unit 5: Biography	尊敬する（歴史上の）人物を紹介する発表のための原稿を執筆します。
第 4 回	Unit 5: Biography	他受講生に向けて尊敬する人物についての発表音声を録音します。
第 5 回	Unit 6: Stories	Unit 6 の内容を確認して、内容確認クイズを解きます。音声ファイルで受講生の Unit 5 の発表を聞き、数名にコメント・質問します。
第 6 回	Unit 6: Stories	自分が経験した面白い・悲しい・不思議なエピソードを発表する原稿を執筆します。
第 7 回	Unit 6: Stories	ストーリーについての発表音声を録音します。
第 8 回	Unit 7: Solving Problems	Unit 7 の内容を確認して、音声練習をします。音声ファイルで受講生の Unit 6 の発表を聞き、数名にコメント・質問します。
第 9 回	Unit 7: Solving Problems	Unit 7 ではある社会問題の問題点と解決策について論理的に発表するので、その原稿を執筆します。
第 10 回	Unit 7: Solving Problems	他受講生に向けて Solving Problems の発表音声を録音します。
第 11 回	Unit 8: Final Presentation	Unit 8 の内容を確認して、発音練習をします。音声ファイルで受講生の Unit 7 の発表を聞き、数名にコメント・質問します

第 12 回	Unit 8: Final Presentation	最後に他受講生に伝えたいトピックを一つ選び、それについての原稿を書きます。
第 13 回	Unit 8: Final Presentation	他受講生に向けて、Final Presentation の発表音声を録音します
第 14 回	Unit 8: Final Presentation	音声ファイルで受講生の Unit 8 の発表を聞き、数名にコメント・質問します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
基本的に、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
新たな Unit に入る際には、その Unit の教科書の内容を事前に読み、把握しておくこと。また、トピックによっては、原稿を書くにあたって学術的な文献をいくつか読む必要があります。

【テキスト（教科書）】
Herman Bertelen, Malcolm Kostiuk, Ready to Present: A Guide to Better Presentations, Cengage Language, 2019.

【参考書】
正しい英文を書くために文法事項に関しては『総合英語フォレスト』桐原書店を参照してください。

【成績評価の方法と基準】
Unit はじめ課題 (内容確認クイズ and/or 課題音声提出) 各 4%×4=16%
原稿執筆 各 9%×4=36%
発表音声作成 各 9%×4=36%
発表者への質問各 3%×4=12%
合計 100%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
音声を録音して提出するため、スマートフォンをはじめとする録音可能な機材が必要です。原稿執筆にはパソコンを推奨しますが、紙に書いて撮影したファイルを送ってもらってもかまいません。

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※ なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
In this on-demand online course, you will learn how to deliver a good presentation. You will make four different types of presentations, from introducing yourself to logically stating your opinions. In so doing, you will learn various expressions and phrases appropriate to the topic, how to write clearly and logically, and how to respond to other presenters in a productive way.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(3) A

[2 年 N 組]

Niall Murtagh

授業コード：A2850 | 曜日・時限：**火曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective is to improve speaking skills in English

【到達目標】
Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events in addition to more academic themes. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Each week, students will be required to speak briefly on a selected topic. The textbook will help students develop basic conversational skills and understand patterns of communication. Homework will consist of preparing ideas for discussion in class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own. Twice each semester, students will be asked to give a short presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course outline
第 2 回	Foundations for communication	Vocabulary improvement
第 3 回	Foundations for comprehension	Common grammatical issues
第 4 回	Basic expressions	Application of strategies
第 5 回	Development	Conversational examples
第 6 回	Everyday expressions	Detailed descriptions
第 7 回	Formal expressions	Detailed descriptions
第 8 回	Examples of everyday topics	Descriptive phrases
第 9 回	Examples of unusual topics	Descriptive phrases
第 10 回	Applications of topics	Expressing opinions
第 11 回	Usage of topics	Expressing regret
第 12 回	Further development	Expressing disagreement
第 13 回	Conclusions	Summary
第 14 回	Speeches	Topics from text book

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Preparation of short presentations and speeches to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】
Thinking About Our Place in the World -New Questions, New Answers- Francois de Soete SEIBIDO, 2017,
ISBN 9784791960361, 1,900 円（税込 2,090 円）
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】
Internet dictionary: https://eow.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (40%), and presentations (60%). Course credits will not be given where a student is absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】
Students will be encouraged to comment and express their own ideas as much as possible.

【その他の重要事項】
https://learningenglish.voanews.com/
《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
The class will enable students to communicate in an English speaking environment. Emphasis will be placed on accuracy and fluency in the spoken word, but listening, reading and some writing will also form part of the course.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(3) B

[2 年 N 組]

Niall　Murtagh

授業コード：A2851　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective is to improve speaking skills in English

【到達目標】
To enable students to communicate in an English speaking environment, emphasis will be placed on accuracy and fluency in the spoken word, but listening, reading and some writing will also form part of the course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Each week, students will be required to speak briefly on a selected topic. The textbook will help students develop basic conversational skills and understand patterns of communication. Homework will consist of preparing ideas for discussion in class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own. Twice each semester, students will be asked to give a short presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course outline
第 2 回	General themes	Expressing general ideas
第 3 回	Theme development	Expressing details
第 4 回	Theme strategies	Expressing abstract concepts
第 5 回	Selection of themes	Expressing hypothetical concepts
第 6 回	Confidence Building	Word usage: nouns
第 7 回	Special topics	Word usage: verbs
第 8 回	Work situations	Word usage: adjectives
第 9 回	Academic situations	Word usage: adverbs
第 10 回	Applying ideas covered in spring semester	Speech writing
第 11 回	Applying ideas covered in fall semester	Editing issues
第 12 回	Other applications of ideas	Strategies for improving style
第 13 回	Review and Evaluation	Selected topics
第 14 回	Conclusion	Summary of course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading of text and preparation of short presentations and speeches for class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】
Thinking About Our Place in the World　-New Questions, New Answers-
Francois de Soete SEIBIDO, 2017,
ISBN 9784791960361, 1,900 円（税込 2,090 円）
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】
Internet dictionary: https://eow.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (40%), and presentations (60%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】
Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

【その他の重要事項】
https://learningenglish.voanews.com/
《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events in addition to more academic themes. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(5) A

Niall　Murtagh

授業コード：A2854　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective is to improve speaking skills in English

【到達目標】
Students will be given opportunities to gain confidence in expressing themselves in English, based on Internet texts about various non-fiction stories. While the emphasis is on speaking, some writing will also be required in order to organize ideas before expressing them orally.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students will listen to and read spoken articles. Analysis and discussion in class will involve some writing. Students will give their opinions on what they have heard and read. Homework will consist of preparing ideas for discussion in a subsequent class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own to facilitate the free exchange of ideas. Twice each semester, students will be asked to give a presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course outline
第 2 回	Introduction to conversation strategies	Basic ideas
第 3 回	Development of conversation strategies	Further ideas
第 4 回	General topics	Conversational styles
第 5 回	Academic topics (1)	Application to literary themes
第 6 回	Academic topics (2)	Application to lifestyle
第 7 回	Modern themes	Use of Internet search
第 8 回	News items	Japan-based issues
第 9 回	Society	International issues
第 10 回	Political themes	Controversial issues
第 11 回	Work-place scenarios	Career-based themes
第 12 回	Work-place presentations	Role playing
第 13 回	Themes for evaluation	Various topics
第 14 回	Conclusion	Summary of course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading of text and preparation of short reports or presentations to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】
English through the News Media, 2021 Edition 高橋優身, 伊藤典子, Richard Powell 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-156637, ￥1700 円（+ tax）
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】
Internet dictionary: https://eow.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (40%), and presentations (60%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】
Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

【その他の重要事項】
https://learningenglish.voanews.com/
《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events in addition to more academic themes. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(5) B

Niall　Murtagh

授業コード：A2855　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The objective is to improve speaking skills in English

【到達目標】
Students will be given opportunities to gain confidence in expressing themselves in English, based on Internet texts about various non-fiction stories. While the emphasis is on speaking, some writing will also be required in order to organize ideas before expressing them orally. Students will obtain skills and knowledge for communication and expressing ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students will listen to and read spoken articles. Analysis and discussion in class will involve some writing. Students will give their opinions on what they have heard and read. Homework will consist of preparing ideas for discussion in a subsequent class. Interaction among students will be emphasized and students will be encouraged to introduce topics of their own to facilitate the free exchange of ideas. Twice each semester, students will be asked to give a presentation. Individual feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Course outline
第 2 回	Current affairs	Topics from recent news
第 3 回	Japan-oriented topics	Travel themes
第 4 回	International topics	Current European issues
第 5 回	Topics in literature	European writers
第 6 回	Topics in sport	European news
第 7 回	Speech editing	Use of Internet for grammar issues
第 8 回	Speech motivational strategies	Examples from Internet
第 9 回	How to ask questions after a speech	Questioning styles and strategy
第 10 回	How to improve speeches	Reaction to comments and corrections
第 11 回	Selection of speech topics	Purpose of speeches
第 12 回	Discussion of topics	Examples of speeches
第 13 回	Evaluation methods	Student selected themes
第 14 回	Conclusion	Summary of course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Reading of text and preparation of short reports or presentations to be made in class. The basic requirement is 4 hours per week.

【テキスト（教科書）】
English through the News Media, 2021 Edition 高橋優身, 伊藤典子, Richard Powell 朝日出版社 ISBN: 978-4-255-156637, ￥1700 円（+ tax）
(This will be used for both Spring and Fall semesters)

【参考書】
Internet dictionary: https://eow.alc.co.jp/

【成績評価の方法と基準】
Grades will be based on participation in class, including reading and discussions (40%), and presentations (60%). Course credits will not be given where students are absent three or more times in a semester without submitting a reason.

【学生の意見等からの気づき】
Students will be encouraged to comment and express their ideas as much as possible.

【その他の重要事項】
https://learningenglish.voanews.com/
《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
Students will gain skills and confidence in expressing their opinions. The topics covered will be diverse, covering news and current events in addition to more academic themes. Evaluation and grading will be based on communication abilities, emphasising the spoken word.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(6) A

TIMOTHY J WRIGHT

授業コード：A2856　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The overall objectives for this Speaking Communication course will be three fold. 1. To have each student develop a strong command of everyday communicative English. This means to go beyond the average and limited level of conversation textbook English and be able to hold an above-average ability of communication with a potential native speaker. This can be achieved if students train seriously during class every week and competently do their assignments daily. 2. To have each student develop a strong level of clear and understandable pronunciation through accent reduction by also seriously training during class and outside of class. 3. To better understand the global world and foreign customs which are different from their own.

【到達目標】
I sincerely hope that all of the students will make a sincere effort to train intensively in order to improve their English communicative ability. Success takes hard work, so make it your target to reach a higher level as a competent and internationally-minded person. If you can, you will be a successful person in the future. The challenge is yours.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will work on developing communicative competence in English mainly through the Kunihiro Masao Method. I will also incorporate material taken from the Hyde Yano Method of English accent reduction and will also be using material from the University of Michigan ESL program as well. Feedback will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction. "Rules and regulations of our class"	I will introduce my syllabus and begin oral training. Please go to YOUTUBE every week and first watch General Douglas MacArthur's Goodbye Speech to Congress: "Old Soldiers Just Fade Away." Listen and watch the entire speech and then, later practice reading out loud by starting and stopping the recording. Do this slowly each night for one week.
第 2 回	Articulatory Phonetics review and Communication training. "How to speak and be understood by a native speaker"	Please study my handouts carefully. During this week try to copy my intonation and avoid speaking in a monotone voice. Next, practice the Speaking material by talking out loud and do your best to memorize the questions and your answers. For your historical speech, please review MacArthur. And then finally, go back to YOUTUBE and open up any of the many versions of President Lincoln's Gettysburg Address speech to watch.
第 3 回	Intensive communication training with accent reduction. "Communicate and cut your accent!"	We will continue with my English and Communication covering pages 1 – 5 and train either in a Breakout Room setting or in the classroom. Next, we will work on Articulatory Phonetics exercises training how to improve your pronunciation and accent. Following that, we will continue with MacArthur and Lincoln's speeches.

第 4 回	Intensive communication training. Kunihiro Methodology introduced. "The world of Kunihiro Methodology!"	A continuation of our Intensive English Communication training reviewing pages 1 – 5 and continuing on to pages 6 – 10 through class drilling partner review and group training. More drills on the Kunihiro Method with various oral exercises.
第 5 回	Intensive communication training. Kunihiro Methodology."The magic of Articulatory Phonetics."	Class will begin with Intensive English Communication training covering pages 11 – 20. A final review of Kunihiro's first two speeches and then, starting John F. Kennedy's next speech. Articulatory Phonetics drills and accent reduction training continues.
第 6 回	Emphasis on Accent Reduction and improvement on Articulatory Phonetics. "Tips on becoming a more competent English speaker!"	Further exercises on accent reduction and Articulatory Phonetics in pairs, groups and class drills. Intensive oral reading on JFK's famous historical speech. Intensive English Communication training moves on to pages 21- 25.
第 7 回	Review of all material covered during the semester so far. "Review of all material covered so far"	Review of all material covered so far in preparation for the upcoming mid-term examination.
第 8 回	Review and Mid-evaluation. "Check on student progress and understanding"	Review of key concepts and Mid-term Examination.
第 9 回	Intensive communication training. "Intensive training tips and drills to better English speaking"	Intensive English Communication training going on to pages 26-35. Review of all three Kunihiro speeches covered so far. Articulatory Phonetic drills with new material in handout form.
第 10 回	Intensive communication training. Kunihiro Methodology. "More steps and tips on English conversation"	Continuation of Articulatory Phonetic drills and accent reduction exercises in pairs, groups and classroom training. Kunihiro Methodology continues with new material and the next historical speech, Martin Luther King's, "I Have a Dream."
第 11 回	Week #11: Intensive communication training. Vocabulary building. Kunihiro Methodology. "The importance of English vocabulary building"	Kunihiro training and MLK speech training. Intensive English Communication training moves on to pages 36 – 41. Articulatory Phonetic and accent reduction drills continue.
第 12 回	Intensive communication training. Kunihiro Methodology. Articulatory Phonetics and emphasis on accent reduction. "Dos and don't on slang and idioms!	Articulatory Phonetic and accent reduction drills. Intensive English Communication training going further on to pages 42 – 50.
第 13 回	Final review of all material covered. Student check. "Important final review of what we learned this semester."	Review of all material covered during the semester and preparation for the final examination.
第 14 回	Summary and review of the semester. Final evaluation of all students. "Here we go! Part 1 and II"	Final summary, review, and evaluation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
There will be weekly homework and training assignments to do after every class throughout the semester.
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
We will use numerous materials that I will either hand out during the first few weeks or put on-line for you to download. In addition, we are going to be training with Kunihiro's "Historical Speech Methodology" to help all of you become more fluent speakers of English.

【参考書】
If you can read anything based on the late, Kunihiro Masao that would be to your benefit.

【成績評価の方法と基準】
80% in class training, 20% final examination.
So this means that attending and training in class is vitally important in order to receive a passing grade. Please do not be chronically absent if you hope to pass this course.
*Student Classroom Evaluation; All students will be evaluated weekly in class for overall classroom work and interaction. Non-active participation or sleeping in class is not allowed and will seriously hurt final grade evaluation. Attendance is also very important in order to receive a passing grade. You must attend class every week and be active in training.

【学生の意見等からの気づき】
I welcome any and all student feedback.

【その他の重要事項】
I welcome students to challenge both the TOEFL and UNATE Examinations. I would be very happy to support and coach any student who would like to challenge any of the numerous All Japan University English Speech Contests.
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※ なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
The overall objectives for this Speaking Communication course will be three fold. 1. To have each student develop a strong command of everyday communicative English. This means to go beyond the average and limited level of conversation textbook English and be able to hold an above-average ability of communication with a potential native speaker. This can be achieved if students train seriously during class every week and competently do their homework daily. 2. To have each student develop a strong level of clear and understandable pronunciation through accent reduction by also seriously training during class and outside of class. 3. To better understand the global world and foreign customs which are different from their own.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(6) B

TIMOTHY J WRIGHT

授業コード：A2857 ｜ 曜日・時限：**月曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
Intensive training in English speech and drama.

【到達目標】
This course will be focused on working to improve students' ability to become better English speakers through intensive English speech and drama training. We will focus on Hyde Yano and Kunihiro Masao Methodology to help achieve this goal.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
We will work on improving speech training skills in English. In addition, we will be focusing on numerous drama techniques, skits, and short plays as well as intensive communicative training methodology. Feedback will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Opening Class and introduction. "Rules and regulations of the course"	Greetings and detailed explanation of class syllabus and student obligations for the fall semester.
第 2 回	Overview of numerous methodologies. Preparation for self-introduction speeches for new students and speeches on summer vacation. "Preparing your speeches and ideas"	Speech communication techniques and drama theory reviewed.
第 3 回	Overview of numerous methodologies. Speeches by all students. "Giving your first English speech"	Speech communication techniques and drama theory reviewed.
第 4 回	Overview of numerous methodologies. Kunihiro Masao Methodology training. "The world of Kunihiro Masao and his methodology"	Speech communication techniques and drama theory reviewed as well as articulatory phonetics/accent reduction methodology.
第 5 回	Speech & Drama Training I. Communication exercises. Hyde Yano Principle training. Kunihiro Masao training. "Becoming a better speaker through various training philosophies"	Historical speech training and dramatic skits.
第 6 回	Speech & Drama Training II Communication exercises. Hyde Yano Principle training. Kunihiro Masao training. "More training techniques that will help you become better English speakers"	Prepared Speech I. Dramatic exercises and team-skits.
第 7 回	Speech & Drama Training III. Communication exercises. Hyde Yano Principal training. Kunihiro Masao training. "Tips on learning to develop a fluent accent"	Speech communication techniques and dramatic exercises with team-skits.
第 8 回	Speech & Drama Training IV. Communication exercises. Hyde Yano Principle training. Kunihiro Masao training. "Opening the world of intensive reading out loud methodology"	Prepared Speech II. Dramatic exercises with dynamic readings.
第 9 回	Review and Mid-term Examination. "Vital and important review of material covered so far this semester"	Speech communication techniques and dramatic exercises with follow-up if time permits.
第 10 回	Speech & Drama Training V. Communication exercises. Hyde Yano Principle training. Kunihiro Masao training. "How to achieve better skills"	Prepared Speech Evaluation III. Wright Method I. Dramatic exercises with team-skits.
第 11 回	Speech & Drama training VI. Communication exercises. Hyde Yano Principle training. Kunihiro Masao training. "More tips and hard training exercises"	Wright Method II. Dramatic exercises with team-skits.
第 12 回	Speech & Drama training VII. Communication exercises. Hyde Yano Principle training. Kunihiro Masao training. "Drama and Dynamics in speaking"	Prepared Speech Exam IV. Wright Method III. Dramatic exercises with team-skits.
第 13 回	Speech & Drama Training VIII. Final Communication exercises and Hyde Yano Principle training. Kunihiro Masao training. "Final overview of training"	Final training before final evaluation.
第 14 回	Review and Final Evaluation.	Review and evaluation of all material covered during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Please read English as much as possible and study EIKEN, UNATE, and TOEFL examination materials if at all possible. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
We will use numerous materials that I will either hand out during the first few weeks or put on-line for you to download. In addition, we are going to be training with Kunihiro's "Historical Speech Methodology" to help all of you become more fluent speakers of English.

【参考書】
Various Kunihiro Masao books. Review of "method acting."

【成績評価の方法と基準】
70% Active classroom training and participation. 20% Tests. 10% Final evaluation.
All students will be graded on class attendance, classwork, attitude, weekly assignments, and the final evaluation.
*Student Classroom Evaluation; All students will be evaluated weekly in class for overall classroom work and interaction. Non-active participation or sleeping in class is not allowed and will seriously hurt final grade evaluation. Attendance is also very important in order to receive a passing grade. You must attend class every week and be active in training.

【学生の意見等からの気づき】
I have made a number of changes in my new syllabus for this course based on student advice from last year's evaluations. Please keep in mind that chronic absences will hurt your final grade, so please make sure that you come to class and train.

【その他の重要事項】
I would strongly like to encourage all students to enter some All-Japan university speech contests.
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※ なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
This class will meet weekly and work on the textbook as well as numerous handouts with the overall objective of having students make a significant improvement in their English ability.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(7) A

西野　方子

授業コード：A2858 ｜ 曜日・時限：**水曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は英語によるスピーチ原稿の作成およびプレゼンテーションの技法を学ぶことを目的としたものです。サンプルとなるスピーチ原稿を分析し、また映画や文学作品などの表現にも触れ、言語を使って表現するために必要なインプットとアウトプットを行います。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下の 3 点です。
1) 英語の文章の基本構造を理解する
2) 人に伝えるためのプレゼンテーション・スキルを身につける
3) 使える英語表現を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では教科書のサンプル・エッセイなどの分析や解説を行い、受講生にはそのエッセイに基づき原稿を執筆し、次回以降の授業でスピーチをしてもらいます。また教科書でプレゼンテーションの基本の型を学ぶだけではなく、映画や文学作品の英語に触れ実際に簡単な作品を創作し、その創作行為との比較からプレゼンテーションの表現についての考察も行います。授業内で学んだ英語の表現の定着のために定期的に小テストも行います。スピーチに関するフィードバックはスピーチ終了後に伝え、小テストは次の授業で返却します。
※進度や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・導入	授業内容の説明・文章の構造
第 2 回	Unit 1 Paragraph の構造	文章の解説、原稿作成
第 3 回	Unit 2 Topic Sentence	スピーチ、文章の解説、原稿作成
第 4 回	Unit 3 Supporting Sentences	小テスト、文章の解説、原稿作成
第 5 回	Unit 4 Concluding Sentence	スピーチ、文章の解説、原稿作成
第 6 回	Unit 1-4 まとめ／Creative Writing	小テスト、文章の解説、原稿作成
第 7 回	Unit 5 Listing	スピーチ、文章の解説、原稿作成
第 8 回	Unit 5 Listing	小テスト、文章の解説、原稿作成
第 9 回	Unit 6 Chronological Order	スピーチ、文章の解説、原稿作成
第 10 回	Unit 6 Chronological Order	小テスト、文章の解説、原稿作成
第 11 回	Creative Writing	スピーチ、文章の解説、原稿作成
第 12 回	Unit 7 Classification	スピーチ、文章の解説、原稿作成
第 13 回	Unit 7 Classification	小テスト、文章の解説、原稿作成
第 14 回	今学期のまとめ	スピーチ、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習では辞書をひきながらテキストを読み、原稿作成のための準備（トピック選び、使える表現のピックアップ）をしてください。予習は疑問を見つけるための作業と考え、授業はその疑問を解消する場として利用してください。また授業後には授業内で執筆した原稿を見直し発音の練習をするなど、スピーチをするための準備を行ってください。定期的に授業内で身につけた知識を振り返り、知識を定着させることもしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Message Delivered < Upper Intermediate >（2020 年、南雲堂 ￥2200）
その他の教材に関してはプリントを配布します。

【参考書】
授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業内で行うスピーチ（執筆原稿、クラスメートのスピーチへのコメントなども含む）70%、小テスト 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業には必ず辞書を持参してください。
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students to develop their skills for delivering speeches in English.　Students will learn techniques for giving a presentation, improve English vocabulary and develop their confidence in public speaking.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(7) B

西野　方子

授業コード：A2859　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は英語によるスピーチ原稿の作成およびプレゼンテーションの技法を学ぶことを目的としたものです。サンプルとなるスピーチ原稿を分析し、また映画や文学作品などの表現にも触れ、言語を使って表現するために必要なインプットとアウトプットを行います。

【到達目標】
この授業の到達目標は以下の 3 点です。
1) 英語の文章の基本構造を理解する
2) 人に伝えるためのプレゼンテーション・スキルを身につける
3) 使える英語表現を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では教科書のサンプル・エッセイなどの分析や解説を行い、受講生にはそのエッセイに基づき原稿を執筆し、次回以降の授業でスピーチをしてもらいます。また教科書でプレゼンテーションの基本の型を学ぶだけではなく、映画や文学作品の英語に触れ実際に簡単な作品を創作し、その創作行為との比較からプレゼンテーションの表現についての考察も行います。授業内で学んだ英語の表現の定着のために定期的に小テストも行います。スピーチやプレゼンテーションに関するフィードバックは終了後に授業内で伝え、小テストは次の授業で返却します。
※進度や各回の具体的な内容は学生の関心や理解度に応じて変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明・文章の構造
第 2 回	Unit 8 Comparison and Contrast	文章の解説、原稿作成
第 3 回	Unit 8 Comparison and Contrast	小テスト、文章の解説、原稿作成
第 4 回	Unit 9 Cause and Effect	スピーチ、文章の解説、原稿作成
第 5 回	Unit 9 Cause and Effect	小テスト、文章の解説、原稿作成
第 6 回	Creative Writing	スピーチ、文章の解説、原稿作成
第 7 回	Unit 10 Problem-Solution	スピーチ、文章の解説、原稿作成
第 8 回	Unit 10 Problem-Solution	小テスト、文章の解説、原稿作成
第 9 回	Unit 8-10 まとめ／ Creative Writing	スピーチ、文章の解説、原稿作成
第 10 回	Unit 11 Paragraph to Presentation (Introduction)	スピーチ、文章の解説、原稿作成
第 11 回	Unit 12 Paragraph to Presentation (Body)	小テスト、文章の解説、原稿作成
第 12 回	nit 13 Paragraph to Presentation (Conclusion)	小テスト、文章の解説、原稿作成
第 13 回	Unit 14 Evaluation	小テスト、文章の解説、原稿作成
第 14 回	プレゼンテーション発表	プレゼンテーション、今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習では辞書をひきながらテキストを読み、原稿作成のための準備（トピック選び、使える表現のピックアップ）をしてください。予習は疑問を見つけるための作業と考え、授業はその疑問を解消する場として利用してください。また授業後には授業内で執筆した原稿を見直し発音の練習をするなど、スピーチをするための準備を行ってください。定期的に授業内で身につけた知識を振り返り、知識を定着させることもしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Message Delivered < Upper Intermediate >（2020 年、南雲堂 ￥2200）
その他の教材に関してはプリントを配布します。

【参考書】
授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
授業内で定期的に行うスピーチと学期末に行うプレゼンテーション（執筆原稿、クラスメートのスピーチへのコメントなども含む）70%、小テスト 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業には必ず辞書を持参してください。
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students to develop their skills for delivering speeches in English. Students will learn techniques for giving a presentation, improve English vocabulary and develop their confidence in public speaking.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(8) A

田尻　歩

授業コード：A2860　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、英語プレゼンテーションの総合的な能力を養います。わかりやすく印象に残るプレゼンテーションには、あるトピックを適切な方法でわかりやすく提示するスキルが必要です。この授業では、トピックに応じた語彙・表現を身につけ、わかりやすい原稿の書き方、パワー・ポイントのスライドの作り方を学びます。
自己紹介の回以外は数人一組でグループをつくり企画・提案しながら一つの発表をつくるので、グループ内で企画や提案をおこなうというプロセスもあり、楽しく学べます。プレゼン本番の前の授業では発表のリハーサルもするので、できるかぎり無駄な緊張はせず受講生が最大限の力を発揮できるような流れになっています。受講生の数によっては進行を多少変更する可能性があります。

【到達目標】
・効果的で印象的な英語発表がどういうものであるかを学ぶことができる。
・発表トピック・ジャンルに応じた適切な語彙・表現を学ぶことができる。
・英語発表において、わかりやすくかつ印象に残るパワーポイントをつくることができる。
・原稿執筆と教員のフィードバックを通して、自分の考えをわかりやすく伝えたり、情報を正確に伝達したりする発表原稿の書き方を学ぶことができる。
・他受講生とグループで発表準備を進めるなかで、様々な考えや価値観があることを学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、オンライン授業になります。主としてリアルタイム同時配信での実施になります。ただし、原稿修正およびスライド作成の回は受講生が各自で作業して完成したものを提出し、それに教員がフィードバックをおこなうという形になります。Google classroom および Zoom を使用する予定です。
進め方としては、一学期間かけて三つの発表プロジェクトをおこないます。一つのプロジェクトの流れとしては、原稿執筆 → パワーポイント作成 → リハーサル → 発表というかたちになります。提出していただいた原稿やスライド、またオンラインでの発表に対して教員がフィードバックをします。
オンラインでの発表は、スライドを操作しながらおこなうので、パソコンやタブレットをお持ちでない受講生は大学から借りる必要があります。その点はご留意ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法などをお話します。また、Project 1: Self-Introduction の内容解説もおこないます。
第 2 回	Project 1: Introducing Yourself: Step 1	自己紹介の原稿を執筆します。
第 3 回	Project 1: Introducing Yourself: Step 2	原稿に対するフィードバックをもとに、パワーポイントのスライドを作成します。
第 4 回	Project 1: Introducing Yourself: Step 3	二人一組に分かれて自己紹介の発表のリハーサルをします。お互いにどうしたらさらに良くなるかアドバイスをし合います。
第 5 回	Project 1: Introducing Yourself: Presentation	自己紹介の発表を行います。
第 6 回	Project 2: News Digest: Step 1	Project 2: News Digest の内容解説とグループ・担当箇所を決め、原稿を執筆します。
第 7 回	Project 2: News Digest: Step 2	教員のフィードバックを参考に原稿を修正し、パワーポイントのスライドを作成します。
第 8 回	Project 2: News Digest: Step 3	グループでスライドをひとつにまとめ、リハーサルをします。
第 9 回	Project 2: News Digest: Presentation	短いニュース番組の発表をおこないます。
第 10 回	Review	発表に対するフィードバックをします。

第 11 回	Project 3: Promoting Your Vacation Plans: Step 1	Project 3: Promoting Your Vacation Plans の内容の解説をおこない、原稿を執筆します。
第 12 回	Project 3: Promoting Your Vacation Plans: Step 2	教員のフィードバックを参考に原稿を修正し、パワーポイントのスライドを作成します。
第 13 回	Project 3: Promoting Your Vacation Plans: Step 3	グループでスライドをひとつにまとめ、リハーサルをします。
第 14 回	Project 3: Promoting Your Vacation Plans: Presentation	夏休みのプランについて発表をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原稿執筆に際しては、トピックの選定や執筆作業のため、授業時間外での作業が少なくとも 1-2 時間は必要になります。
また、授業中に発表のリハーサルの時間を取りはしますが、発表前の個人練習、グループでの練習の時間も授業時間外に取る必要があります。

【テキスト（教科書）】
Noboru Matsuoka, Takashi Tachino, Hiroko Miyake, *Presentations to Go: Building Presentation Skills for Your Future Career*, Cengage Language, 2014. 2500 円＋税

【参考書】
正しい英文を書くために、文法事項に関しては『総合英語フォレスト』桐原書店を参照してください。

【成績評価の方法と基準】
原稿　各 10%×3 = 30%
パワーポイントのスライド　5%（Project 1）+5%（Project 2）+6%（Project 3）= 16%
リハーサルへの取り組み　各 3%×3 = 9%
発表　各 15%×3 = 45%
合計 100%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインでの発表のためにパソコン・タブレットが必須になります。お持ちでない方は貸与型パソコンの利用をお願いします。また、Word および Power Point のソフトも必要になります。

【その他の重要事項】
グループでプレゼンを組み立てていくため、なるべく欠席しないようにしてください。
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
In this online course, you will learn how to deliver a good presentation. You will make three different types of presentations: introducing yourself, reporting news, and promoting your vacation plans (in the latter two, you will make a group presentation). In so doing, you will learn various expressions and phrases appropriate to the topic, how to write clearly and logically, and how to make good slides.

BSP200BD

英語表現演習 (Speaking)(8) B

田尻　歩

授業コード：A2861　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、英語プレゼンテーションの総合的な能力を養います。わかりやすく印象に残るプレゼンテーションには、あるトピックを適切な方法でわかりやすく提示するスキルが必要です。この授業では、トピックに応じた語彙・表現を身につけ、わかりやすい原稿の書き方、パワーポイントのスライドの作り方を学びます。
最後の将来のプラン以外は、数人一組でグループをつくり企画・提案しながら一つの発表をつくるので、グループ内で企画や提案をおこなうというプロセスもあり、楽しく学べます。プレゼン本番の前の授業では発表のリハーサルもするので、できるかぎり無駄な緊張はせず受講生が最大限の力を発揮できるような流れになっています。

【到達目標】
・効果的で印象的な英語発表がどういうものであるかを学ぶことができる。
・発表トピック・ジャンルに応じた適切な語彙・表現を学ぶことができる。
・英語発表において、わかりやすくかつ印象に残るパワーポイントをつくることができる。
・原稿執筆と教員のフィードバックを通して、自分の考えをわかりやすく伝えたり、情報を正確に伝達したりする発表原稿の書き方を学ぶことができる。
・他受講生とグループで発表準備を進めるなかで、様々な考えや価値観があることを学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、オンライン授業になります。方法としては、主としてリアルタイム同時配信での実施になります。ただし、原稿修正およびスライド作成の回は、受講生が各自で作業して完成したものを提出し、それに教員がフィードバックをおこなうという形になります。Google classroom および Zoom を使用する予定です。
進め方としては、一学期間かけて三つの発表プロジェクトをおこないます。一つのプロジェクトの流れとしては、原稿執筆 → パワーポイント作成 → リハーサル → 発表というかたちになります。提出していただいた原稿やスライド、オンラインでの発表に対して教員がフィードバックをします。
オンラインでの発表は、スライドを操作しながらおこなうので、パソコンやタブレットをお持ちでない受講生は大学から借りる必要があります。その点はご留意ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、成績評価方法などをお話します。また、Project 4 の内容解説、グループ決めもおこないます。
第 2 回	Project 4: Introducing a Country: Step 1	特定の国の歴史や文化を調べて紹介する発表の原稿を執筆します。
第 3 回	Project 4: Introducing a Country: Step 2	原稿に対するフィードバックをもとに、パワーポイントのスライドを作成します。
第 4 回	Project 4: Introducing a Country: Step 3	グループでスライドをひとつにまとめ、Project 4 の発表のリハーサルをします。
第 5 回	Project 4: Introducing a Country: Presentation	特定の国の歴史・文化・社会についての発表をおこないます。
第 6 回	Project 5: Discussing Social Issues: Step 1	Project 5: Discussing Social Issues の内容解説とグループ・担当箇所を決め、原稿を執筆します。
第 7 回	Project 5: Discussing Social Issues: Step 2	教員のフィードバックを参考に原稿を修正し、パワーポイントのスライドを作成します。
第 8 回	Project 5: Discussing Social Issues: Step 3	グループでスライドをひとつにまとめ、リハーサルをします。
第 9 回	Project 5: Discussing Social Issues: Presentation	社会問題についての発表をおこないます。
第 10 回	Review	発表に対するフィードバックをします。
第 11 回	Project 6: Talking about your Future Plans: Step 1	Project 6: Talking about your Future Plans の内容の解説をおこない、原稿を執筆します。

第 12 回	Project 6: Talking about your Future Plans: Step 2	教員のフィードバックを参考に原稿を修正し、パワーポイントのスライドを作成します。
第 13 回	Project 6: Talking about your Future Plans: Step 3	グループでスライドをひとつにまとめ、リハーサルをします。
第 14 回	Project 6: Talking about your Future Plans: Presentation	将来のプランについて発表をおこないます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原稿執筆に際しては、トピックの選定や執筆作業のため、授業時間外での作業が少なくとも 1-2 時間は必要になります。
また、授業中に発表のリハーサルの時間を取りはしますが、発表前の個人練習、グループでの練習の時間も授業時間外に取る必要があります。

【テキスト（教科書）】
Noboru Matsuoka, Takashi Tachino, Hiroko Miyake, *Presentations to Go: Building Presentation Skills for Your Future Career*, Cengage Language, 2014. 2500 円＋税

【参考書】
正しい英文を書くために、文法事項に関しては『総合英語フォレスト』桐原書店を参照してください。

【成績評価の方法と基準】
原稿　各 10%×3 = 30%
パワーポイントのスライド　5%（Project 1）+5%（Project 2）+6%（Project 3）= 16%
リハーサルへの取り組み　各 3%×3 = 9%
発表　各 15%×3 = 45%
合計 100%

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインでの発表のためにパソコン・タブレットが必須になります。お持ちでない方は貸与型パソコンの利用をお願いします。また、Word および Power Point のソフトも必要になります。

【その他の重要事項】
グループでプレゼンを組み立てていくため、なるべく欠席しないようにしてください。
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
In this online course, you will learn how to deliver a good presentation. You will make three different types of presentations: introducing cultures, analyzing and discussing social issues, presenting your future plans (in the former two, you will make a group presentation). In so doing, you will learn various expressions and phrases appropriate to the topic, how to write clearly and logically, and how to make effective slides.

BSP200BD

英語表現演習 (翻訳) (1) A

吉川　純子

授業コード：A2844　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、自然な日本語に移し替えるにはどうしたらよいのか、演習を通じてそのコツを学びます。

【到達目標】
英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、原文のニュアンスを生かした自然な日本語に翻訳できる。日本語の文法や語彙のニュアンスに敏感になり、適切な表現ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、対面で行います。１回の授業を前半と後半に分け、前半はテキストに沿って英文フィクションの和訳のコツを学びます。後半は、Truman Capote *"Breakfast at Tiffany's"*を、複数の翻訳を参照しながら実際に訳してみます。毎回、授業のはじめの５分程度で日本語の語彙力クイズも行います。翻訳テキストの問題の解答や、英文テキストの訳を発表してもらう形で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回 4 月 23 日	イントロダクション	オリエンテーション
第 2 回 4 月 30 日	辞書について Capote（1）	こまめな辞書引き
第 3 回 5 月 7 日	代名詞 Capote（2）	代名詞の省略
第 4 回	形容詞 Capote（3）	落とし穴が多い
第 5 回	補充訳 Capote（4）	時には必要
第 6 回	訳す順番 Capote（5）	原文の頭から
第 7 回	国語力 Capote（6）	磨こう
第 8 回	動詞 Capote（7）	ふくみを見落とさず
第 9 回	名詞 Capote（8）	誤訳はごまかせない
第 10 回	助動詞 Capote（9）	甘く見てはいけない
第 11 回	態 Capote（10）	能動態、受動態の転換
第 12 回	品詞転換訳 Capote（11）	その技法
第 13 回	訳語がない場合 Capote（12）	自分で作ろう
第 14 回	まとめ	到達度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習、復習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
金子光茂『英文翻訳上達の秘訣』南雲堂、2009 年。1500 円＋税
Capote のテキストおよび翻訳は、ウェブにアップします。

【参考書】
文法の参考書は、『FOREST』桐原書店 1,500 円（税別）を薦めます。
英和・和英大辞典および英英辞典の利用を薦めます。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度（参加、予習など）30%、試験 70%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「受験の英文解釈とは違う翻訳のコツがわかってきた」「日本語の語彙が増えた」などの感想をいただき、受講者の作る訳文が飛躍的にレベルアップしたので、大変満足しています。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書

【その他の重要事項】
出席が悪いと授業についていけなくなるので、注意してください。予習も必須です。
春学期・秋学期合わせての履修を必須とします。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【Outline and objectives】
We are going to acquire the skills of translating English fiction into not only correct but also natural Japanese.

BSP200BD

英語表現演習 (翻訳) (1) B

吉川　純子

授業コード：A2845　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、自然な日本語に移し替えるにはどうしたらよいのか、演習を通じてそのコツを学びます。

【到達目標】
英語の小説を、文法的に正しいだけでなく、原文のニュアンスを生かした自然な日本語に翻訳できる。日本語の文法や語彙のニュアンスに敏感になり、適切な表現ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、対面で行います。1 回の授業を前半と後半に分け、前半はテキストに沿って英文フィクションの和訳のコツを学びます。後半は、Truman Capote"*Breakfast at Tiffany's* を、複数の翻訳を参照しながら、前期の続きを実際に訳してみます。毎回、授業のはじめの５分程度で日本語の語彙力クイズも行います。翻訳テキストの問題の解答や、英文テキストの訳を発表してもらう形で授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	オリエンテーション
第 2 回	英文和訳について Capote（1）	何を日本語に移し換えるのか？
第 3 回	英文和訳について Capote（2）	どこまで訳してよいか？
第 4 回	代名詞 Capote（3）	代名詞の省略 (前期の内容復習を含む)
第 5 回	所有格 Capote（4）	所有格の省略
第 6 回	形容詞 Capote（5）	働きに注意
第 7 回	不定詞 Capote（6）	訳の工夫
第 8 回	動名詞 Capote（7）	訳し方
第 9 回	分詞 Capote（8）	訳し方
第 10 回	名詞 Capote（9）	動名詞のように訳す
第 11 回	態 Capote（１０）	能動態、受動態の転換 (前期の内容復習を含む)
第 12 回	前置詞 Capote（１１）	どう捉えるのか？
第 13 回	訳語がない場合 Capote（１２）	自分で作ろう (前期の内容復習を含む)
第 14 回	まとめ	到達度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの予習、復習。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
矢作三蔵　*Deep Reading*『読みから訳への要領』開文社、1997 年。1600 円＋税
Capote のテキストおよび翻訳は、ウェブで配布します。

【参考書】
文法の参考書は、『FOREST』桐原書店 1,500 円（税別）を薦めます。
英和・和英大辞典および英英辞典の利用を薦めます。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度（参加、予習など）30%、到達度確認 70%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「受験の英文解釈とは違う翻訳のコツがわかってきた」「日本語の語彙が増えた」などの感想をいただき、受講者の作る訳文が飛躍的にレベルアップしたので、大変満足しています。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書（オンライン授業の際は、手元に置いてください）

【その他の重要事項】
出席が悪いと授業についていけなくなるので、注意してください。
春学期・秋学期合わせての履修を必須とします。後期のみの受講はできませんので、注意してください。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【Outline and objectives】
We are going to acquire the skills of translating English fiction into not only grammatically correct but also natural Japanese.

BSP200BD

英語表現演習 (翻訳) (2) A

安藤　和弘

授業コード：A2866　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学作品に材をとる翻訳演習。まずは英文を精確に読む学習を文法事項の復習なども含めて行い、英語から自然で分かりやすい日本語への変換を行うという、二段階のステップを踏む授業である。その変換の作業をつうじて英文読解力の向上を図るのが主目的だが、小説を読みながらそこに描かれる現代のイギリス社会や文化、ユーモアのセンスなどについて学ぶことにもなる。Jonathan Coe の長編小説 *Expo 58* を教材に取り上げる。Jonathan Coe は、日本ではどういうわけかほとんど紹介されていないのだが、英国文壇では確固とした地歩を築き、高い評価を受けている作家である。1980 年代のサッチャリズムを痛烈に諷刺した *What a Carve Up!* (1994) 以後、優れて英国的ユーモアのセンスが効いた社会諷刺連作を物し、現代英国を代表する作家の一人としての地位を確かなものとした。この講座で取り上げる作品は 2013 年刊行の最近作。時代は 1958 年。舞台は、主にその年にブリュッセルで開催された万国博覧会と、ロンドン。ユーモラスな筆致で書かれたスパイもの。読者を飽きさせることがない楽しい作品であるが、叙情的な側面も併せ持っている。また、大英帝国が崩壊した第二次世界大戦後、英国が自国をどう表象しようとしていたのかを垣間見ることもできる。作品を鑑賞するのに必要なイギリスについての背景知識は、随時、教員が提供する。

【到達目標】
文学作品の英語を可能なかぎり精確に読むことができるようになることと、それに基づいて、英文の意味を押さえながら自然で分かりやすい日本語に変換する技術を身につけることを目標とする。その際、学生はただ単に英文の意味をおよそ伝える日本語に変換するのではなく、英文の精確な意味と細かなニュアンスまでをも反映する「生きた」訳文を作る基本技術を実地で身につけ、翻訳力の基礎を習得するとともに、言わばその照り返しで英文読解力の向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はすべての回、Zoom を使ってオンラインで行う予定である。
毎週、一定分量の英文を読み、その一部を日本語に訳す。（訳す箇所以外は、各自がざっと目を通しておよその物語展開を把握しておくこと。）授業は講義形式と演習形式の組み合わせで行われる。前の週に、読む範囲と日本語に訳す箇所を予め決めておき、授業では、その範囲での物語展開の確認と、学生が作成する日本語訳の検討を行う。前者は講義形式でなされ、後者は演習形式でなされる。毎週、授業に先立ち学生は指定の期日までに課題レポートを提出し、教員はそこから数本を選び、取りまとめ、資料（レジュメ集）としてアップロードする。学生は授業時までに資料を良く吟味し、授業時に意見を述べることができるように準備をしておく。課題等の提出は「学習支援システム」で行い、提出されたレポート、レジュメ集、学生の意見へのフィードバックは授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業についての説明
第 2 回	演習第 1 回	'We're all excited about Brussels'
第 3 回	演習第 2 回	'What's gone is gone'
第 4 回	演習第 3 回	'These are modern times'
第 5 回	演習第 4 回	'Trying to build up a picture'
第 6 回	演習第 5 回	'*Welkom terug*'
第 7 回	演習第 6 回	'Rum sort of cove'
第 8 回	演習第 7 回	'Calloway's Corn Cushions'
第 9 回	演習第 8 回	'Motel Expo'
第 10 回	演習第 9 回	'The British are part of Europe'
第 11 回	演習第 10 回	'We deal in information'
第 12 回	演習第 11 回	'I can love whoever I want'
第 13 回	演習第 12 回	'The girl from Wisconsin' & 'Artificial stimulants'
第 14 回	総括	この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業参加に向けて、指定範囲の英文に目をとおし、およその物語展開を把握した上で、指定された箇所の日本語訳を作成する。訳文を作成する際には、それまでの回で学んだ事柄を活かす積み上げ式で、回を重ねるにつれてより良い訳ができるようになるという意識を明確に持ちながら作業する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Jonathan Coe, *Expo 58*, Penguin, 2014
ISBN: 978-0241966907
生協に入荷する指定の版を購入すること。それ以外の版の使用は認めない。（Kindle など電機書籍の併用は任意だが、上記紙媒体書籍の購入は必須とする。）

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題 80 %、授業時の発言 20 %の比率で評価をする。

【学生の意見等からの気づき】
教材で取り上げる小説の舞台背景を知りたいという要望があるので、現代イギリスの社会や文化について解説をできるだけ詳しく行う。

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
On this course students practise in literary translation (from English to Japanese), with a view to improving their reading skills in English. Developing the ability to be sensitive to voices, nuances, and psychologies 'archived' in the written, literary text is the key to this particular approach to improving reading skills. The steps taken involve translating English texts into Japanese in ways that make the translated Japanese texts sound authentic and natural as Japanese texts, and reading the feel of that authenticity and naturalness back into the original English texts. This is a seminar and students are encouraged to actively engage themselves in these tasks so that they discover the significance and utility of this approach, as well as actual techniques that help facilitate the learning process based on it. Equally important, students are encouraged to first learn from their peers' work, not from the teacher. The teacher comments on students' works at the end of the class to sum up what they have learned in that class. The novel we are going to read is *Expo 58* (2013) by Jonathan Coe, a contemporary English novelist.

BSP200BD

英語表現演習 (翻訳) (2) B

安藤　和弘

授業コード：A2867　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学作品に材をとる翻訳演習。まずは英文を精確に読む学習を文法事項の復習なども含めて行い、英語から自然で分かりやすい日本語への変換を行うという、二段階のステップを踏む授業である。その変換の作業をつうじて英文読解力の向上を図るのが主目的だが、小説を読みながらそこに描かれる現代のイギリス社会や文化、ユーモアのセンスなどについて学ぶことにもなる。Jonathan Coe の長編小説 *Expo 58* を教材に取り上げる。Jonathan Coe は、日本ではどういうわけかほとんど紹介されていないのだが、英国文壇では確固とした地歩を築き、高い評価を受けている作家である。1980 年代のサッチャリズムを痛烈に諷刺した *What a Carve Up!* (1994) 以後、優れて英国的ユーモアのセンスが効いた社会諷刺連作を物し、現代英国を代表する作家の一人としての地位を確かなものとした。この講座で取り上げる作品は 2013 年刊行の最近作。時代は 1958 年。舞台は、主にその年にブリュッセルで開催された万国博覧会と、ロンドン。ユーモラスな筆致で書かれたスパイもの。読者を飽きさせることがない楽しい作品であるが、叙情的な側面も併せ持っている。また、大英帝国が崩壊した第二次世界大戦後、英国が自国をどう表象しようとしていたのかを垣間見ることもできる。作品を鑑賞するのに必要なイギリスについての背景知識は、随時、教員が提供する。

【到達目標】
文学作品の英語を可能なかぎり精確に読むことができるようになることと、それに基づいて、英文の意味を押さえながら自然で分かりやすい日本語に変換する技術を身につけることを目標とする。その際、学生はただ単に英文の意味をおよそ伝える日本語に変換するのではなく、英文の精確な意味と細かなニュアンスまでをも反映する「生きた」訳文を作る基本技術を実地で身につけ、翻訳力の基礎を習得するとともに、言わばその照り返しで英文読解力の向上を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はすべての回、Zoom を使ってオンラインで行う予定である。
毎週、一定分量の英文を読み、その一部を日本語に訳す。（訳す箇所以外は、各自がざっと目を通しておよその物語展開を把握しておくこと。）授業は講義形式と演習形式の組み合わせで行われる。前の週に、読む範囲と日本語に訳す箇所を予め決めておき、授業では、その範囲での物語展開の確認と、学生が作成する日本語訳の検討を行う。前者は講義形式でなされ、後者は演習形式でなされる。毎週、授業に先立ち学生は課題レポートを指定の期日までに提出し、教員はそこから数本を選び、取りまとめ、資料（レジュメ集）としてアップロードする。学生は授業時までに資料を良く吟味し、授業時に意見を述べることができるように準備をしておく。課題等の提出は「学習支援システム」で行い、提出されたレポート、レジュメ集、学生の意見へのフィードバックは授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業についての説明と、春学期に読んだ範囲の物語展開の概要
第 2 回	演習第 1 回	'Wilkins'
第 3 回	演習第 2 回	'A nice old pickle'
第 4 回	演習第 3 回	'A private room'
第 5 回	演習第 4 回	'The trouble with happiness'
第 6 回	演習第 5 回	'Tooting Common'
第 7 回	演習第 6 回	'Too many statistics!'
第 8 回	演習第 7 回	'*Pastorale d'Eté*'
第 9 回	演習第 8 回	'Excellent work, Foley'
第 10 回	演習第 9 回	'Like a Princess'
第 11 回	演習第 10 回	'The easiest thing'
第 12 回	演習第 11 回	'Well and truly over'
第 13 回	演習第 12 回	'Unrest' & '*Hollahi hollaho*'
第 14 回	総括	総括　この学期、何を学習したのかの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週の授業参加に向けて、指定範囲の英文に目をとおし、およその物語展開を把握した上で、指定された箇所の日本語訳を作成する。訳文を作成する際には、それまでの回で学んだ事柄を活かす積み上げ式で、回を重ねるにつれてより良い訳ができるようになるという意識を明確に持ちながら作業する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
Jonathan Coe, *Expo 58*, Penguin, 2014
ISBN: 978-0241968864
生協に入荷する指定の版を購入すること。それ以外の版の使用は認めない。（Kindle など電機書籍の併用は任意だが、上記紙媒体書籍の購入は必須とする。）

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
レポート課題 80 %、授業時の発言 20 %の比率で評価をする。

【学生の意見等からの気づき】
教材で取り上げる小説の舞台背景を知りたいという要望があるので、現代イギリスの社会や文化について解説をできるだけ詳しく行う。

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
On this course students practise in literary translation (from English to Japanese), with a view to improving their reading skills in English. Developing the ability to be sensitive to voices, nuances, and psychologies 'archived' in the written, literary text is the key to this particular approach to improving reading skills. The steps taken involve translating English texts into Japanese in ways that make the translated Japanese texts sound authentic and natural as Japanese texts, and reading the feel of that authenticity and naturalness back into the original English texts. This is a seminar and students are encouraged to actively engage themselves in these tasks so that they discover the significance and utility of this approach, as well as actual techniques that help facilitate the learning process based on it. Equally important, students are encouraged to first learn from their peers' work, not from the teacher. The teacher comments on students' works at the end of the class to sum up what they have learned in that class. The novel we are going to read is *Expo 58* (2013) by Jonathan Coe, a contemporary English novelist.

BSP200BD

英語表現演習 (総合)

BRIAN WISTNER

授業コード：A2993,A2994　｜　曜日・時限：**木曜 2 限, 金曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

【到達目標】
Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:
1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students will discuss and react to articles that they read. They will also write and present their opinions. Most classes will consist of pair work, group discussions, and individual writing and presentations. Feedback will be given after each presentation and writing assignment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	What is important for improving second language skills?
第 2 回	Presentation basics	Characteristics of effective presentations
第 3 回	Presentations: Visual aids	Creating and explaining visual aids
第 4 回	Introducing Japanese culture	Discuss and write about elements of Japanese culture
第 5 回	Discussing Japanese culture	Present opinions and elements of Japanese culture
第 6 回	Exercise and health	What is the relationship between exercise and health?
第 7 回	Exercise and student life	Present opinions and research on students' lifestyles
第 8 回	Education and technology	Discuss advancements in education and technology
第 9 回	Digital education	Read about technology advancements and discuss opinions
第 10 回	Handwriting and typing	Summarize the differences between handwriting and typing
第 11 回	TV and education	Read about the effects of TV on educational outcomes and summarize various viewpoints
第 12 回	Sleep and education	Read about the relationship between sleep and education and write a summary
第 13 回	Research and data collection	Choose a topic and collect data
第 14 回	Presentations	Present the findings of your research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
The Japan Times
The New York Times

【成績評価の方法と基準】
In-class presentations: 50%
Final exam: 50%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a final exam. Highly evaluated presentations demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（総合）」の４コマに関しては、「事前登録」が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、受講希望者は必ず期日内に申請し、「事前登録結果」を確認してください。
「事前登録結果」発表時に掲示される、定員に空きのあるコマを追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

【Outline and objectives】
This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

BSP200BD

英語表現演習 (総合)

BRIAN WISTNER

授業コード：A2995,A2996 ｜ 曜日・時限：**木曜 2 限, 金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

【到達目標】
Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:
1. Summarize texts and discuss various viewpoints of the texts
2. Create effective visual aids for presentations
3. Demonstrate effective presentation skills

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
Students will discuss and react to articles that they read. They will also write and present their opinions. Most classes will consist of pair work, group discussions, and individual writing and presentations. Feedback will be given after each presentation and writing assignment.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	What is important for improving second language skills?
第 2 回	Presentation basics	Characteristics of effective presentations
第 3 回	Presentations: Visual aids	Creating and explaining visual aids
第 4 回	Introducing Japanese culture	Discuss and write about elements of Japanese culture
第 5 回	Discussing Japanese culture	Present opinions and elements of Japanese culture
第 6 回	Exercise and health	What is the relationship between exercise and health?
第 7 回	Exercise and student life	Present opinions and research on students' lifestyles
第 8 回	Education and technology	Discuss advancements in education and technology
第 9 回	Digital education	Read about technology advancements and discuss opinions
第 10 回	Handwriting and typing	Summarize the differences between handwriting and typing
第 11 回	TV and education	Read about the effects of TV on educational outcomes and summarize various viewpoints
第 12 回	Sleep and education	Read about the relationship between sleep and education and write a summary
第 13 回	Research and data collection	Choose a topic and collect data
第 14 回	Presentations	Present the findings of your research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
The Japan Times
The New York Times

【成績評価の方法と基準】
In-class presentations: 50%
Final exam: 50%

Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a final exam. Highly evaluated presentations demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】
Not applicable.

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（総合）」の４コマに関しては、「事前登録」が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、受講希望者は必ず期日内に申請し、「事前登録結果」を確認してください。
「事前登録結果」発表時に掲示される、定員に空きのあるコマを追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。

【Outline and objectives】
This course focuses on improving students' communicative ability in English. Students interact with a variety of English texts through listening, reading, writing, and speaking. Emphasis is placed on the second language skills students need in order to become junior high or high school English teachers.

BSP200BD

Academic Writing A

福元　広二

授業コード：A2984　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、アカデミックな英文エッセイの基本を理解し、実際にエッセイを書くことでアカデミック・ライティング能力の向上を目的とする。様々な種類のパラグラフの構造を理解したうえで、パラグラフ・ライティングのルールと型を学び、一貫性や結束性を備えた論理的な文章の書き方を学習する。

【到達目標】
・文法的に正しく、形式に則した英文エッセイを書くことができる。
・わかりやすく、説得力のある英語のエッセイを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では、エッセイ・ライティングに対応した教科書を用いて、それぞれのユニットごとにエッセイを書いていきます。
　リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明
第 2 回	Explanatory Paragraphs	説明型エッセイについて学習する
第 3 回	Information Paragraphs	情報型エッセイについて学習する
第 4 回	Opinion Paragraphs	意見文型エッセイについて学習する
第 5 回	エッセイ・ライティング	実際にエッセイを書く
第 6 回	Comparative Paragraphs	比較型エッセイについて学習する
第 7 回	Contrast Paragraphs	対比型エッセイについて学習する
第 8 回	Cause and Effect Paragraphs	原因・結果型エッセイについて学習する
第 9 回	Argumentative Paragraphs	論証型エッセイについて学習する
第 10 回	Time-order Paragraphs	時系列型エッセイについて学習する
第 11 回	Process Paragraphs	過程型エッセイについて学習する
第 12 回	Five Paragraph Essays	5 段落のエッセイについて学習する
第 13 回	Concluding Paragraphs for Essays	結論の段落について学習する
第 14 回	プレゼンテーション	実際に書いたエッセイを発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に、教科書をしっかりと読んで、予習をしておいてください。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Mariko Kawasaki et al. (2019) Real Writing（南雲堂）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション（４０％）、平常点（３０％）、レポート課題（３０％）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
This course aims to introduce essay writing skills and academic writing styles, focusing on various paragraph styles that are important in academic writing. In this course, students will learn how to write paragraphs and essays in English for academic purposes.

BSP200BD

Academic Writing B

福元　広二

授業コード：A2985　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、相手に読みやすくわかりやすいパラグラフを書く基本を学びます。パラグラフの構成を理解し、実際に英文を書くことでアカデミック・ライティング能力の向上を目的とする。また、説得力のある英文を書くためのストラテジーを学び、一貫性や結束性を備えた論理的な文章の書き方を学習する。

【到達目標】
・文法的に正しく、形式に則したパラグラフを書くことができる。
・わかりやすく、説得力のある英文エッセイを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業では、ライティングスキル向上に対応した教科書を用いて、それぞれのユニットごとにタスクをこなしていきます。
　リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明
第 2 回	Flow of Sentences	英文の流れの作り方を学ぶ
第 3 回	Basic Paragraph	パラグラフの基本構成
第 4 回	Developing Coherence	文法的結束と語彙的結束
第 5 回	Guiding your Readers	読者の誘導の仕方
第 6 回	Hedges and Boosters	ヘッジ表現とブースター表現の使用法
第 7 回	エッセイ・ライティング	実際にエッセイを書く
第 8 回	How to Attract Your Readers	topic sentrence の書き方
第 9 回	Supporting Your Ideas	Supporting sentence の書き方
第 10 回	Concluding Paragraphs	Concluding sentence の書き方
第 11 回	Essay Structure	Thesis statement の書き方
第 12 回	Problem-Solving Essay	問題解決のエッセイの書き方
第 13 回	The First Step for Academic Papers	研究論文の書き方の基礎
第 14 回	プレゼンテーション	実際に書いたエッセイを発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前に、教科書をしっかりと読んで、予習をしておいてください。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Yasuo Nakatani (2020) Academic Writing Strategies（金星堂）

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
プレゼンテーション（４０％）、平常点（３０％）、レポート課題（３０％）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
「本年度授業担当者変更によりフィードバックできません」

【その他の重要事項】
《重要》
「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2) と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、今年度から英文学科指定の「定員」数が設定され、かつ英文学科全体で「事前抽選」制度が導入されます。抽選が 4 月頭（初回授業日よりも前）に実施されるので、必ず期日内に申請し、「事前抽選結果」を確認してください。さらに、「事前抽選結果」発表時に掲示される、定員に空きのある科目を追加で履修希望する場合、春学期授業初回に担当教員による選抜がありうるので、必ず出席してください。
※　「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されているので、受講希望者は期日内（4 月頭）にそちらに申請をしてください。
※　なお、2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3) に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline and objectives】
This course aims to introduce essay writing skills and academic writing styles, focusing on various paragraph styles that are important in academic writing. In this course, students will learn how to write paragraphs and essays in English for academic purposes.

LIN200BD

Second Language Learning and Teaching

BRIAN WISTNER

授業コード：A2990　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course examines second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine the variables that influence L2 acquisition and investigate how they are addressed in principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】
Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:
1. Identify and explain the variables that influence L2 acquisition
2. Investigate the connection between L2 learning and teaching

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation. Check Hoppii for any updates regarding this course.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	First language acquisition	How do people learn an L1?
第 3 回	Second language acquisition	How do adults learn an L2?
第 4 回	Age and L2 acquisition	How does age affect L2 acquisition?
第 5 回	Interaction in L2 classrooms	Does interaction lead to L2 acquisition?
第 6 回	Focus on form	Attending to meaning and form in L2 learning
第 7 回	Acquisition of L2 grammar	How is L2 grammar acquired?
第 8 回	Acquisition of L2 vocabulary	Issues related to L2 vocabulary acquisition
第 9 回	Contexts of instructed second language acquisition	In what ways does the linguistic environment influence L2 acquisition?
第 10 回	Foreign language aptitude	Does language aptitude influence L2 learning?
第 11 回	Motivation	To what extent does motivation affect L2 learning?
第 12 回	Affect and other individual differences	What other variables play a role in L2 learning?
第 13 回	Research presentations	Research project presentations
第 14 回	Feedback on research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' presentations and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class–this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】
Patsy M. Lightbown, and Nina Spada. (2013). *How languages are learned*. Oxford University Press. Approximately 4,200 yen.

【参考書】
Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.

Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.
H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.
H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】
In-class presentations: 50%
Written report: 25%
Final exam: 25%
Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】
Students commented that some of the topics were interesting and helpful.

【その他の重要事項】
定員 25 名を超えた場合は文学部所属学生を優先して選抜する。
履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline and objectives】
This course examines second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine the variables that influence L2 acquisition and investigate how they are addressed in principled approaches to L2 pedagogy.

LIN200BD

Public Speaking

椎名　美智

授業コード：A2991　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・2 単位
備考（履修条件等）：**定員 20 名を超える場合は抽選にて選抜する**
他学部公開：　グローバル：○　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
The course will focus on developing and improving students' public speaking skills in English by introducing basic technics of public speaking and also by assigning tasks of giving English speeches in the class. Students will deepen their understanding of the linguistic behaviours of public speaking in English by giving speeches themselves and observing their classmates' speeches.

【到達目標】
The goal of this course is to acquire enough linguistic knowledge and skills to make speech in English themselves in the class, and also critical attitude to evaluate other people's speeches.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
The first class starts on 12/April. The style of the class will be announced by HOPPII. So please check HOPPII every week.
The course consists of lectures and presentations. Reading tasks and preparing a few speeches are required. Since this course mainly consists of students' presentations, the number of the students should be limited to 20 at maximum. Those who would like to take this class should attend the first class as there may be a selection.
You are required to submit a reaction paper every week and I will deal with some of them in the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Introduction of the instructor, handing out the syllabi, explanation of grading and attendance policies. Assignment of introductory speeches.
第 2 回	Basic Principles of Speech Communication	Focus class discussion on selected exercises. Explanation of introductory speeches.
第 3 回	Introductory Speeches I	Students give introductory speeches and evaluate other students' speeches.
第 4 回	Introductory Speeches II	Students give introductory speeches and evaluate other students' speeches.
第 5 回	Speaking to Inform	Assignment of informative speeches: guidelines for informative speaking
第 6 回	Choosing Topics and Purposes	Focus class discussion and lecture on topics and purposes of speeches
第 7 回	Organizing the Body of the Speech	Focus class discussion and lecture on organization of the body of the speech
第 8 回	Introductions and Conclusions	Focus class discussion and lecture on introductions and conclusions
第 9 回	Outlining the Speech	Focus class discussion and lecture on outlining the speech
第 10 回	Delivering the Speech	Focus class discussion and lecture on delivering the speech
第 11 回	Using Visual Aids	Focus class discussion and lecture on using visual aids
第 12 回	Informative Speeches I	Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches
第 13 回	Informative Speeches II	Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches

第 14 回	Informative Speeches III	Presentations by the students, the audience have to evaluate the speeches, we will also review the previous classes

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Students are responsible for doing required reading and tasks before and/or after each class. Preparation for the speech and presentations will be required for credit. You need two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】
All the materials will be uploaded at HOPPII. Students need to download and print them as needed.

【参考書】
Any English textbooks related to public speaking

【成績評価の方法と基準】
50%: Classroom participation
50%: Presentation

【学生の意見等からの気づき】
I would like to spend more time for students' presentations.

【その他の重要事項】
The order of the classes above mentioned can be changed in order to accommodate the students' needs.

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire linguistic competence in English so that students can make speeches or presentations in public situations confidently when they start working.

BSP900BD

海外英語演習

BRIAN WISTNER

授業コード：A2889 ｜ 曜日・時限：**集中・その他**
夏期集中・4 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
夏期 SA プログラム～ユニバーシティ・カレッジ・ダブリン。

【到達目標】
アイルランドのユニバーシティ・カレッジ・ダブリン（UCD）で夏期休暇中の３週間を過ごす「夏期 SA プログラム（UCD）」では、英語圏で生活することにより実践的な英語力を集中的に習得し、アイルランドを含む英語圏の文化への理解を深め、国際的視野を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
出発前には主に安全面の確認のための事前指導をおこない、帰国後には SA 報告会と英語による面接試問を通じて事後指導をおこなう。留学先では、UCD の語学センター（Applied Language Centre）に所属する教員が、英語を母語としない学生を対象とした EFL（外国語としての英語）のプログラムを担当する。
クラスは習熟度別に４段階（Advanced, Upper Intermediate, Intermediate, Lower Intermediate）に分かれ、指導が行き届くよう少人数教育をおこなう。通常、授業は月曜日から金曜日の午前 9 時から午後 1 時頃まで実施される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】

回	テーマ	内容
1~14	初回にクラス分け試験が実施され、その結果により、学生は各自、適切なクラスに振り分けられる。そのクラスの担当教員により、毎回の授業の目標が示される。	配属されたクラスごとに、学生のレベルにあわせた目標にそった内容を学習する。Reading, Writing, Listening, Speaking の４技能をバランスよく身につけられる内容の授業がおこなわれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
現地で指示される。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
現地で提供される。

【参考書】
現地で指示される。

【成績評価の方法と基準】
留学先から送付された成績証明書および出席証明書、留学期間中に現地から SA 委員会に提出する英語レポート、帰国報告会時のプレゼンテーション、口頭試問についての SA 委員会の評価を参考にして総合的に合否を判断する。評価は合格を「RS」、不合格を「D」または「E」とする。

【学生の意見等からの気づき】
アンケート対象外につき該当なし。

【その他の重要事項】
詳細は、「夏期 SA プログラム（UCD）」パンフレット参照。

【Outline and objectives】
Students participate in the study abroad program at University College Dublin during the summer term.

BSP200BD

２年次演習（１）

田中　裕希

授業コード：A2971　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英米文学を代表する短編小説・詩・映画を鑑賞し、分析の仕方を学ぶ。テーマは「自己」。「私」がどう文学や映画で表現されているかを考える。受け身の読み手から能動的な読み手になるために、作品を構成する一つ一つの要素（語り、文体、登場人物など）を分析し、言葉の細部を主題に結びつける訓練をする。

【到達目標】
精読能力を高め、作品の主題を論じる力を身につける。毎週プレゼンテーションを担当する学生を決め、気づいたことなどを発表し、クラス全体でディスカッションする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。学生のプレゼンテーションとディスカッションを中心とする。授業またオフィスアワーで課題に対するフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「私」とは
第 2 回	Raymond Carver, "Cathedral"	自己と他者
第 3 回	"Cathedral"	人物描写の変化
第 4 回	Katherine Mansfield, "The Garden Party"	自己とジェンダー
第 5 回	"The Garden Party"	成長物語とは
第 6 回	*Brooklyn*	移民としての私
第 7 回	Frank O'Hara, *Lunch Poems*	都市に生きる私
第 8 回	Li-Young Lee, "Persimmon"	異文化と私
第 9 回	英詩の創作	ワークショップ
第 10 回	Ernest Hemingway, "Big Two-Hearted River (Part 1)	戦争体験とトラウマ
第 11 回	"Big Two-Hearted River (Part 2)"	物語の構造
第 12 回	*Taxi Driver*	Self-made man とは
第 13 回	Solmaz Sharif, *Look*	9.11 以後の私
第 14 回	結び	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週配布されるテクストを予習し、ディスカッションの準備をする。
本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業時にプリントを配布する。

【参考書】
阿部公彦『英詩のわかり方』(研究社)
デイヴィッド ロッジ、柴田元幸訳、斎藤兆史訳『小説の技巧』(白水社)

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度 30%
プレゼンテーション 30%
期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
引き続きアクティブにディスカッションする

【その他の重要事項】
４回以上の欠席で単位を失う。

【Outline and objectives】
In this class, we will study the art of literature by reading major works of fiction and poetry as well as film in English. We will learn to become more active readers by focusing on what constitutes a literary text (narrative, style, characters etc).

BSP200BD

２年次演習（２）

丹治　愛

授業コード：A2972　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
G. B. Shaw の演劇、*Pygmalion* を読んだうえで、この作品についての批評を読み、文学批評（解釈）の方法を学習する。また、それを原作としたミュージカル映画 *My Fair Lady* を見て、映像の読み方も学ぶ。そのうえでレポートを書く。

【到達目標】
・英語を聞く能力・読む能力を向上させる。
・テクスト（小説と映画）を批判的に読むことをとおして、自分なりの解釈をつくりだすことができるようになる。
・自分なりの解釈を、その妥当性を論証しながら、説得力をもって提示することができるようになる。
・プレゼンテーションやディスカッションをつうじて、口頭でのコミュニケーション力を向上させる。
・文学批評と映画批評の理論と方法論の基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を適宜併用することになる。第１回目は遠隔授業で行う。
・*Pygmalion* を精読し、重要箇所について議論する。
・*Pygmalion* を原作とした映画を観て、原作との異同の意味について議論する。
・以上を踏まえて、自分なりの *Pygmalion* 論を書く。
・基本的に授業は演習形式で進める。
・予習は必須。欠席の場合も、かならず毎週の課題を提出すること。良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・提出されたレポートについてはルーブリックで講評する（希望者にたいして）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと自己紹介 (Zoom 授業)	授業の進め方を説明し、分担者を決定する。その後、学生どうしの自己紹介。
第 2 回	文学批評とは何か	文学批評（作品解釈）の方法を学習する。
第 3 回	作品の精読とディスカッションする。（1）	*Pygmalion* 第１幕を精読し、その重要箇所について議論する。
第 4 回	作品の精読とディスカッション（2）	*Pygmalion* 第２幕前半を精読し、その重要箇所について議論する。
第 5 回	作品の精読とディスカッション（3）	*Pygmalion* 第２幕後半を精読し、その重要箇所について議論する。
第 6 回	作品の精読とディスカッション（4）	*Pygmalion* 第３幕を精読し、その重要箇所について議論する。
第 7 回	アダプテーション研究（1）	映画作品の（原作の第１幕から第３幕に対応する）部分（抜粋）を見て、その異同の意味について議論する。
第 8 回	これまでの総括	作品およびイギリス社会の理解をさらに深める。
第 9 回	作品の精読とディスカッション（5）	*Pygmalion* 第４幕を精読し、その重要箇所について議論する。
第 10 回	作品の精読とディスカッション（6）	*Pygmalion* 第５幕を精読し、その重要箇所について議論する。
第 11 回	アダプテーション研究（2）	映画作品の（原作の第４幕から第５幕に対応する）部分（抜粋）を見て、その異同の意味について議論する。
第 12 回	原作と映画の比較	映画の見方、映像の読み方の基本を確認してから、演劇と二つの映画を相互に比較する。
第 13 回	映画 *Pretty Woman* 鑑賞	各自で映画 *Pretty Woman* (1990) を見たうえで、それ がどのようなかたちで *Pygmalion* の主題を展開しているかについて議論する。
第 14 回	授業の総括	授業の総括および期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、毎週、指示されたテクストは授業前にかならず読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
英語のテクストは Hoppii で配付する。
ジョージ・バーナード・ショー『ピグマリオン』（光文社文庫）

【参考書】
George Bernard Shaw, *Pygmalion* and Alan Jay Lerner, *My Fair Lady* (Signet Classics)
Sparknotes をふくめ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】
1）授業内での発表・議論への参加（予習のうえ、討議に積極的に参加すること）　５０％
2）2000 字程度の期末レポート（選んだ主題にそって詳しく調査を行い、自分の解釈を論理的に展開する）と期末試験　５０％

【学生の意見等からの気づき】
議論を促す工夫をする。

【Outline and objectives】
In this class, students read G. B. Shaw's play, *Pygmalion*, read critiques about this work and learn how to interpret literary works. Also, they learn how to read the film by looking at the movie based upon *Pygmalion*, and the musical movie *My Fair Lady* that is another adaptation of *Pygmalion*. Then they write a critical essay.

BSP200BD

２年次演習（３）

小島　尚人

授業コード：A2973　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
F. Scott Fitzgerald の小説 *The Great Gatsby* を読んだうえで、この作品についての批評を読み、小説について論じる方法を学習する。また、この小説を原作とした映画のうち 2013 年に公開された最新のものを見て、映画の分析の仕方も学ぶ。小説の英語の精読と映像・小説の比較検討というやや趣きの異なる二つの分析方法に同時並行的に取り組むことで、受講者それぞれが作品への理解をより深めるとともに、自分の批評的関心のありかを考える機会をもつことができる。そうした関心を発展させて、期末レポートにまとめる。

【到達目標】
・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって解読しようとする習慣をつける。
・アメリカ文学を代表する作品の一つを原書で読みとおすことの達成感を味わうことで、さらなる読書への意欲を持つことができる。
・小説、映画の分析方法について、その基礎を学ぶことができる。
・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持てるようになる。
・文学作品を題材にした発表とディスカッションを通じて、自分の考えを分かりやすく効果的に伝える力、人の考えに耳を傾け理解する力を伸ばす。
・自分の解釈を、先行研究を踏まえてレポートにまとめる技法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
小説 *The Great Gatsby* を精読する。基本的に授業は演習形式で進め、毎回二人の担当者が発表をおこなった後、受講者全員でディスカッションをする。小説の解釈にくわえて、映画の該当箇所を参照し、さまざまな異同とその意味についても吟味する。学期後半には批評論文の調査、収集、読解の実践を通じて、期末レポートに向けた準備をおこなう。
発表に対しては授業内で口頭によるレスポンスがなされ、レポートに対してはフィードバックのコメントをつけたファイルが返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／映画版を観る（1）	授業の進め方の説明のあと、映画『華麗なるギャツビー』を観始める。
第 2 回	映画版を観る／導入	映画『華麗なるギャツビー』を観終える。フィツジェラルドの生涯とその作品についての概説。発表の分担を決定する
第 3 回	小説の読解、映画との比較（1）	*The Great Gatsby* の第一章を精読する。発表（初回は教員が担当）と質疑応答、ディスカッション
第 4 回	小説の読解、映画との比較（2）	*The Great Gatsby* の第二章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 5 回	小説の読解、映画との比較（3）	*The Great Gatsby* の第三章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 6 回	小説の読解、映画との比較（4）	*The Great Gatsby* の第四章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 7 回	小説の読解、映画との比較（5）	*The Great Gatsby* の第五章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 8 回	小説の読解、映画との比較（6）	*The Great Gatsby* の第六章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 9 回	小説の読解、映画との比較（7）	*The Great Gatsby* の第七章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 10 回	小説の読解、映画との比較（8）	*The Great Gatsby* の第八章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 11 回	小説の読解、映画との比較（9）	*The Great Gatsby* の第九章を精読する。担当学生による発表と質疑応答、ディスカッション
第 12 回	批評論文の読解（1）	*The Great Gatsby* について書かれた日本語論文を読む。日本語論文の調査、収集法についても学ぶ

第 13 回　批評論文の読解（2）	*The Great Gatsby* について書かれた英語論文を読む。英語論文の調査、収集法についても学ぶ
第 14 回　まとめ	受講者が各自レポートの計画について発表し、意見交換をする。その後、作品の主題を整理して、授業のまとめをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前に作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておく（予習 4 時間）。

【テキスト（教科書）】
F. Scott Fitzgerald, *The Great Gatsby* (Scribner, 2004). ISBN: 9780743273565

【参考書】
アンドルー・ターンブル『完訳　フィッツジェラルド伝』（こびあん書房、1988 年）
野崎孝（編）『フィッツジェラルド』（研究社、1966 年）
村上春樹『ザ・スコット・フィッツジェラルド・ブック』（中央公論新社、2007 年）
リチャード・リーハン『「偉大なギャツビー」を読む――夢の限界』（旺史社、1995 年）
他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内での発表・議論への参加度： 40 %
期末レポート（3000 字以上）： 60 %

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんが発言しやすい環境がつくれるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。

【Outline and objectives】
This course is an introduction to literary studies in seminar classes. Through the close reading of *The Great Gatsby* as well as one of its film adaptations, students will develop their skills to discuss literary and visual texts in a critical way. Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures.

BSP200BD

2年次演習（4）

BRIAN WISTNER

授業コード：A2974　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course introduces students to the key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】
Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:
1. Explain the core issues in L2 acquisition research
2. Examine the connection between L2 research and pedagogy
3. Reflect on their own L2 learning experience

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
This course introduces key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by examining research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	First language acquisition	How do people learn an L1?
第 3 回	Second language acquisition	How do adults learn an L2?
第 4 回	Age and L2 acquisition	How does age affect L2 acquisition?
第 5 回	L2 Fluency	How is L2 fluency developed?
第 6 回	Contexts of instructed L2 acquisition	In what ways does the linguistic environment influence L2 acquisition?
第 7 回	Teaching reading	Approaches to and issues in reading instruction
第 8 回	Speaking and pronunciation	Issues in incorporating pronunciation instruction in L2 classes
第 9 回	Classroom-based assessment	How can L2 performance be assessed?
第 10 回	Communication and fluency	Issues in incorporating communication and fluency practice in L2 classes
第 11 回	Teaching listening	Intensive and extensive approaches to listening instruction
第 12 回	Individual differences	What other variables play a role in L2 learning?
第 13 回	Research presentations	Research project presentations
第 14 回	Feedback on research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' presentations and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class–this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.

Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.
H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.
H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】
In-class presentations: 50%
Written report: 25%
Final Exam: 25%
Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】
Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

【Outline and objectives】
This course introduces students to the key concepts in second language (L2) acquisition theory, research, and pedagogy. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

BSP200BD

２年次演習（５）

椎名　美智

授業コード：A2975　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の言語コミュニケーションの中でも、特に言葉の意味に関することについて学びます。

【到達目標】
語用論、コミュニケーション論の基礎的な知識を身につけることにより、日常のコミュニケーションの意味を、言語学的に分析できる力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始日は 4 月 7 日です。担当や発表について決めるので、必ず出席してください。
教員がその日のテーマに関する講義を行いながら授業を進めます。個人やグループで課題に取り組む演習もあります。
1 限の授業なので、基本的には、前半（8:50-9:40) はオンデマンドやオンライン、後半 (9:40-10:30) に対面授業となります。前半の部分については、課題を入れておきますので、当日その場でやるのではなく、前日までにみてやっておいてください。後半の対面では、それを元に授業を行います。
毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。
オフィスアワーに、勉強の仕方やレポートのコンサルテーションをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明と自己紹介
第 2 回	プレゼンテーション実践１（１０人の学生）	自己紹介プレゼンテーションと相互フィードバック
第 3 回	プレゼンテーション実践２（前回発表していない１０人による）	自己紹介プレゼンテーションと相互フィードバック
第 4 回	語用論の基礎の講義 (1)	語用論の基礎的な事柄についての説明
第 5 回	語用論の基礎で第４回に扱わなかった内容 (2)	言葉と意味、インプリカチャーについて
第 6 回	研究の方法論	調査の方法について：データ収集と分析方法について
第 7 回	調査課題ワークショップ	学生が自分の研究課題を決めるためのワークショップ
第 8 回	先行研究調査	図書館での演習
第 9 回	研究の進め方	グループでのコンサルテーション
第 10 回	個人調査課題発表会（1）（１０人の学生による）	学生による発表（１）
第 11 回	個人調査課題発表会（2）（前回発表しなかった１０人による発表）	学生による発表（２）

第 12 回　英語学文献研究（1）　ビブリオバトル（1）
（１０人の学生による）
第 13 回　英語学文献研究（2）　ビブリオバトル（2）
（前回発表しなかった
１０人による発表）
第 14 回　まとめと今後の課題　研究の進め方についてのまとめと今後の課題、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・発表の準備、授業の予習・復習が必要です。
・各自、初回の自己紹介以外に発表が 2 回あります。
・毎回、授業で課題が出されるので、準備をしてくることが必要です。
・言語、コミュニケーションに関する本を自分で読んでおくことが必要です。
・日常のコミュニケーションで気づいたことをメモしておくことが必要です。
・準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
田中典子著『はじめての論文：語用論的な視点で調査・研究する』春風社（自分で生協などで買っておいてください。）
他の教材は HOPPII にアップロードします。必要なものは自分でダウンロードして印刷して持ってきてください。

【参考書】
滝浦真人著『日本語リテラシー』放送大学教育振興会

【成績評価の方法と基準】
課題発表 30%、授業への貢献 30%、研究発表を 40% として評価します。

【学生の意見等からの気づき】
学生の発表やワークショップに時間をかけると研究への興味が高まるようなので、今年は学生の発表のために、ワークショップやグループワークの時間を多くしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
PC があると良いと思います。

【その他の重要事項】
・初回の授業には必ず出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前に連絡して下さい。
・授業に欠席する場合、教員に欠席する旨と欠席の理由をメールにて連絡して下さい。事前に連絡なく 3 回以上欠席した場合、連続して 2 回欠席した場合、発表しなかった場合は D 評価となります。

【Outline and objectives】
This course deals with human communication. Students are expected to find problems regarding meaning of speech.

BSP200BD

２年次演習（6）

川﨑　貴子

授業コード：A2976　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の言語コミュニケーションの中でも、特に音声に関することについて学びます。

【到達目標】
音声学・心理言語学の基礎的な知識を身につけることにより、身の回りの言語現象を分析できる力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教員、およびテーマによっては学生がその日のテーマに関する発表・講義を行いながら授業を進めます。
授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の説明・自己紹介
第 2 回	プレゼンテーション実践 1	自己紹介プレゼンテーション
第 3 回	プレゼンテーション実践 2	プレゼンテーションの相互フィードバック
第 4 回	音声学基礎	音声学の基礎を復習
第 5 回	音象徴 1	音とイメージとのつながり
第 6 回	音象徴 2	担当学生による発表ー音象徴
第 7 回	音声と文字	担当学生による発表ー音声と文字
第 8 回	音声と表記	学生による発表ー音声と表記
第 9 回	調音音声学	調音音声学の導入講義
第 10 回	音声イリュージョン	学生による発表ー音声イリュージョン
第 11 回	グループ調査課題	学生による調査課題の計画
第 12 回	言語学文献研究 1	ビブリオバトル 1
第 13 回	言語学文献研究 2	ビブリオバトル 2ー発表公評
第 14 回	調査発表	グループ調査の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ー発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自 2 度の発表回数があります。（自己紹介除く。）
ー毎回、授業で指示される文献を読んでくることが必要です。
ー毎週、課題の文献を読んだり、議論したりする中で得た知識・浮かんだ問いを必ずノートに書き、メモを残していくこと。
ー本授業の準備・復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
授業内で適宜ご紹介致します。

【成績評価の方法と基準】
最終レポートを 30%、授業内参加を 30%、授業内発表を 40% といたします。

【学生の意見等からの気づき】
学生による発表とグループでの調査課題が好評だったので，引き続き発表機会をできるだけ多く設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
・初回の授業には出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前にご連絡下さい。
・授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。事前に連絡なく 3 回を超えて欠席した場合には、D 評価となります。

【Outline and objectives】
This course deals with human speech communication. Students are expected to find small problems regarding speech sounds, and conduct a small experiment.

LIN300BD

英語教育学演習 A

BRIAN WISTNER

授業コード：A2961 ｜ 曜日・時限：**金曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course examines the process of second language (L2) acquisition from theoretical and practical viewpoints. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

【到達目標】
Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:
(1) Explain the L2 acquisition process
(2) Examine the relationships among input, output, feedback, and instruction

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	Input	What is the role of input in L2 learning?
第 3 回	Output	What is the role of output in L2 learning?
第 4 回	Age and L2 acquisition	How does age affect L2 acquisition?
第 5 回	Interaction in L2 classrooms	Does interaction lead to L2 acquisition?
第 6 回	Feedback	What is the purpose of feedback in L2 learning?
第 7 回	Implicit negative feedback	What is the role of implicit negative feedback in L2 learning?
第 8 回	Prompts and recasts	What are the effects of prompts and recasts in L2 instruction?
第 9 回	Interactional feedback	Effects of the instructional environment and feedback
第 10 回	Implicit and explicit feedback	Effects of feedback on learning L2 grammar
第 11 回	Focused and unfocused feedback	Effects of focused and unfocused feedback on L2 learning
第 12 回	Oral and written feedback	Effects of oral and written feedback on L2 learning
第 13 回	Research presentations	Research project presentations
第 14 回	Feedback on research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' research projects and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class–this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.
Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.
H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.
H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】
In-class presentations: 50%
Written report: 25%
Final Exam: 25%
Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation, report, or test) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】
Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

【Outline and objectives】
This course examines the process of second language (L2) acquisition from theoretical and practical viewpoints. Students examine and classify theories of L2 learning and apply the findings to the development of principled approaches to L2 pedagogy.

LIN300BD

英語教育学演習 B

BRIAN WISTNER

授業コード：A2962 ｜ 曜日・時限：**金曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
This course examines connections between second language (L2) acquisition and pedagogy. Students examine principled approaches to L2 pedagogy and consider how to develop their own teaching philosophy.

【到達目標】
Upon successful completion of this course, students are expected to be able to do the following:
(1) Examine the connection between second language research and second language pedagogy
(2) Identify and explain effective approaches to instructed second language learning

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
This course examines key concepts in L2 acquisition theory, research, and pedagogy. Students then apply this knowledge by conducting research, presenting findings, and participating in group discussions. Most classes will consist of group discussions, presentations, and lectures on topics in L2 acquisition and pedagogy. Feedback will be given after each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction to the course	Presentation of key concepts in second language acquisition and teaching
第 2 回	From SLA to language pedagogy	Connections between second language acquisition and second language pedagogy
第 3 回	History of second language teaching methods	Traditional approaches to second language teaching
第 4 回	Identifying components of a language course	Key parts of a language course
第 5 回	Second language tasks	The use of tasks in second language teaching
第 6 回	Beginning to listen and speak	Teaching listening and speaking to beginning learners
第 7 回	Teaching listening	Approaches and research in teaching listening
第 8 回	Teaching speaking	Approaches and research in teaching speaking
第 9 回	Teaching reading	Approaches and research in teaching reading
第 10 回	Teaching writing	Approaches and research in teaching writing
第 11 回	Developing fluency	Approaches to and research on fluency development
第 12 回	Designing language tests	Types and purposes of language tests
第 13 回	Analyzing language tests	Methods of analyzing language tests
第 14 回	Research presentations and final exam	Discussion of and feedback on students' presentations and final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
Students should complete reading assignments before the class in which they are discussed. Presentations should be prepared outside of class–this entails meeting and coordinating with your group members.

【テキスト（教科書）】
There is no required textbook for this course.

【参考書】
Shawn Loewen. (2015). *Introduction to instructed second language acquisition*. Routledge.
Lourdes Ortega. (2009). *Understanding second language acquisition*. Hodder Education.
Rod Ellis. (2008). *The study of second language acquisition* (2nd edition). Oxford University Press.
H. Douglas Brown. (2007). *Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy* (3rd edition). Longman.
H. Douglas Brown. (2006). *Principles of language learning and teaching* (5th edition). Longman.

【成績評価の方法と基準】
In-class presentations: 50%
Written report: 25%
Final exam: 25%
Students will be evaluated based on in-class presentations related to the content covered in class and their performance on a writing assignment and final exam. Highly evaluated presentations and reports demonstrate synthesis of the course content and follow academic presentation and writing conventions. Details will be given in class. A grade of "E" will be given for missing an assignment (i.e., presentation or report) or for being absent from four or more classes.

【学生の意見等からの気づき】
Students commented that they benefited from conducting research and preparing presentations on the course content. I plan to allot more time for students to reflect on the course content and to conduct research for their presentations.

【Outline and objectives】
This course examines connections between second language (L2) acquisition and pedagogy. Students examine principled approaches to L2 pedagogy and consider how to develop their own teaching philosophy.

LIN300BD

言語習得論演習 A

福田　純也

授業コード：A3001　｜　曜日・時限：**水曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、応用言語学のうち言語習得にかかわる基本的問題をとりあげる。まず、言語研究を通して解明されうる心の問題にはどのようなものがあるのかを理解し、その問題を解き明かすために使用される言語の分析方法や心理学的実験手法に関する基礎的知識を身につける。そして、当研究分野でどのような研究が行われてきたのかを俯瞰し、研究における問いの立て方・解決の仕方を学ぶ。

【到達目標】
(1) 言語習得の基礎を学び、解明されるべき問題にはどのようなものがあるのかを理解する
(2) 先行研究ではどのような分析方法や実験手法が用いられてきたかを俯瞰し、研究における問いの立て方・解決の仕方を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式と、ディスカッションおよび問題解決型学習により進める。ディスカッションやコメントの内容に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	応用言語学とは何か
第 2 回	心の問題 1	言語一般と習得の問題について
第 3 回	心の問題 2	第二言語習得の特徴・特有の問題
第 4 回	言語習得理論の変遷	「心の問題 1 」を踏まえ、その解決に努めた理論の変遷をたどる
第 5 回	認知言語学による言語理論	主にラネカーの認知文法について
第 6 回	認知言語学による言語習得理論	主にトマセロの社会・語用論的アプローチについて
第 7 回	認知的アプローチによる第二言語習得論	５・６回目で扱った理論の第二言語習得研究への応用
第 8 回	概念内容と概念化	言語の意味とその習得について
第 9 回	構文の習得にかかわる諸問題 1	語彙・コロケーション
第 10 回	構文の習得にかかわる諸問題 2	節・複文
第 11 回	意識の働きとしての言語習得	意識の働きという観点から言語習得の理論を見つめなおす
第 12 回	意識的・無意識的言語習得 1	認知心理学における研究の概観
第 13 回	意識的・無意識的言語習得 2	第二言語習得における意識的・無意識的言語習得の概観
第 14 回	総括	これまでの内容の復習等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内の学習のみで本演習の扱う基礎的知識を身につけることは極めて困難です。講師が授業内で示したポイントについて毎授業後に必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
福田純也（2018）『外国語学習に潜む意識と無意識』開拓社
村野井仁・白畑知彦・若林茂則（2009）『詳説第二言語習得研究− 理論から研究法まで』研究社

【成績評価の方法と基準】
期末レポートによる評価 30 %
コメント・ディスカッション等による授業への貢献 70 %

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【その他の重要事項】
4 回以上欠席した場合は、単位取得不可能になります。

【Outline and objectives】
In this course, students are required to discuss the basic issues related to language acquisition in applied linguistics. First, we will review some psychological problems in linguistics, and the methodology of language analysis and psychological experiments used to solve these problems. Second, we will learn how to formulate hypotheses and test them in language acquisition research.

LIN300BD

言語習得論演習 B

福田　純也

授業コード：A3002　｜　曜日・時限：**水曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
言語が他領域と関わるさまざまな現象をとりあげ、分野横断的にさまざまなアプローチで問いを解決する方法を学ぶ。

【到達目標】
(1) 広く応用言語学が扱うこころとことばの諸問題としてどのようなものがあるのかを理解する。
(2) それにもとづき、批判的な視点に基づき物事を相対化する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式と、ディスカッションおよび問題解決型学習により進める。ディスカッション及びコメントに対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	応用言語学とはなにか
第 2 回	心を覗く窓としての言語	言語から心理にどのようにアプローチできるのかを学ぶ
第 3 回	意識のはたらきと言語	意識の働きとして言語を捉えなおす
第 4 回	身体化された認知	認知と身体のかかわりについて学ぶ
第 5 回	物体の認識	モノの認識について、主としてクワインの相対論をめぐって
第 6 回	動作の認識	視覚的認識と言語表現、およびイメージスキーマの拡張
第 7 回	空間の認識	その表現と物理的な経験領域の認知基盤
第 8 回	数量の認識	位置情報を持つ抽象概念 1
第 9 回	時間の認識	位置情報を持つ抽象概念 2
第 10 回	さまざまな言語相対論	言語相対論にかかわる諸理論の紹介
第 11 回	言語相対論を捉えなおす	どのレベルで何が相対的なのか？
第 12 回	目に見えないものの存在について	我々は目に見えないものをいかにして研究していくか
第 13 回	言語習得論の教育への応用について	安易なアプリケーションを避けるために注意すべきこと
第 14 回	総括	まとめと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内の学習のみで本演習の扱う基礎的知識を身につけることは極めて困難です。講師が授業内で示したポイントについて毎授業後に必ず復習してください。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
参考文献：スティーブン・ピンカー（2009）『思考する言語（上・中・下）』NHK ブックス
：ガイ・ドイッチャー（2012）『言語が違えば世界も違って見えるわけ』インターシフト
：福田純也（2018）『外国語学習に潜む意識と無意識』開拓社

【成績評価の方法と基準】
期末レポートによる評価 30 %
コメント・ディスカッション等による授業への貢献 70 %

【学生の意見等からの気づき】
N/A

【その他の重要事項】
4 回以上欠席した場合は、単位取得不可能になります。

【Outline and objectives】
Students will learn various phenomena in which language is related to other fields, and learn how to solve questions using a variety of approaches across disciplines.

LIN300BD

英語学演習 (1) A

福元　広二

授業コード：A2935　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語学・言語学に関するトピックを取り上げ、単なる「理解」から「研究」に発展させていくことをめざします。先生が講義したことや参考文献に述べられていることを正しいこととして、無前提に受け入れるのではなく、常に「本当にそうなのか？ 何故そうなのか？」と疑問を持ちながら学習し、研究ができるようになることを目標とします。

【到達目標】
この授業を受講することで、学生は既存の学説を受け入れるだけでなく批判的に学ぶことができるようになります。自らの『仮説』を立て、その正しさを証明していく手順を身につけることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書は担当者を決めて発表してもらいます。また、統語論に関して書かれた文章を学生が順番に、その内容について発表します。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。
これとは別に受講生個々人に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関しても指導する予定です。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については HOPPII で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	専門的研究への準備	英語学・言語学の基礎知識の復習
	プレゼンテーション	卒論テーマの発表 (1)
第 3 回	統語論	1 Heads and modifiers
	プレゼンテーション	卒論テーマの発表 (2)
第 4 回	統語論　（英語）	2 Constituent structure
	プレゼンテーション	卒論テーマの発表 (3)
第 5 回	統語論　（英語）	3 Constructions
	プレゼンテーション	卒論テーマの発表 (4)
第 6 回	インターネットを使った調査	質問項目のたてかた
第 7 回	統語論（英語）	論文精読（1）
第 8 回	統語論　（英語）	論文精読（2）
第 9 回	グループ・プロジェクト	各グループの取り上げるトピックについての発表
第 10 回	統語論（英語）	4 Word classes 論文精読 (3) ：批判的な読み方とは
第 11 回	統語論（英語）	5 The lexicon 現代英語の構造の特徴を正確に理解する

第 12 回	ターム・ペーパーについて	ターム・ペーパーの書き方などの指導
第 13 回	統語論（英語）	6 Clauses Ⅰ 現代英語の構造の問題点
第 14 回	春学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げる教科書や論文などに関しては、内容をきちんと把握して、授業にのぞむことが必要です。また、担当者でない場合も必ず予習してきてください。内容に関して、自分なりに批判的に読むという態度も養うように努めてください。
辞書を常に手元に置いて活用すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Jim Miller (2009) An Introduction to English Syntax. Second Edition. Edinburgh University Press.

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
発表、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパーで、総合的に判断します。(タームペーパー 40 %、平常点 60 %)

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業は春学期・秋学期と別れた形式になっていますが、内容をみるとわかるように、当然ながら、春学期だけ履修したり、春学期を履修せず秋学期から履修しても意味がありません。留学などの事情で春学期だけを履修したり、秋学期から履修するという場合を除いて、原則として A・B と通年で履修してください。
また、4 年生の卒業論文に関しての重要な連絡や全般的な注意項目の指導などは、この授業を通じて行います。各自留意してください。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to examine linguistic theory and develop students'research skills. After successful completion of this course, students will be able to analyze different types of English sentences theoretically.
This course also includes some tips for giving a good oral presentation in class and instructions for writing a good research paper.

LIN300BD

英語学演習 (1) B

福元　広二

授業コード：A2936 ｜ 曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語学・言語学に関するトピックを取り上げ、単なる「理解」から「研究」に発展させていくことをめざします。先生が講義したことや参考文献に述べられていることを正しいこととして、無前提に受け入れるのではなく、常に「本当にそうなのか？ 何故そうなのか？」と疑問を持ちながら学習し、研究ができるようになることを目標とします。

【到達目標】
この授業を受講することで、学生は既存の学説を批判的に継承し、独自の分析を加えて発展させていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書は担当者を決めて発表してもらいます。また、統語論に関して書かれた文章を学生が順番に、その内容について発表します。それに基づいてクラス全体でディスカッションします。
これとは別に受講生個々人に、自分の研究テーマを探してもらいます。受講者各自がもっとも興味を持ったテーマに関して自由に調べて、タームペーパーを作成する準備をしてもらいます。トピックに関して、プレゼンテーションもしてもらいます。プレゼンテーションやタームペーパーの技法に関しても指導する予定です。
リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については HOPPII で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	統語論	春学期に学んだ内容の確認
第 3 回	統語論	7 Clauses Ⅱ 異なる言語を比較する際の問題点
第 4 回	統語論	8 Clauses Ⅲ
第 5 回	統語論	9 Grammatical functions 日本語の構造と英語の構造の比較
第 6 回	統語論	10 Syntactic linkage 日本語と英語はどの点が共通で、どの点が違うのか
第 7 回	各国語比較研究	日本語、英語以外の言語における言語現象について
第 8 回	グループ・プロジェクト	調査と分析について
第 9 回	統語論	12 Roles
第 10 回	統語論	13 Clauses, sentences, text
第 11 回	統語論	まとめとディスカッション
第 12 回	プレゼンテーション (1)	ゼミの成果の紹介
第 13 回	プレゼンテーション (2)	3 年生の研究発表 卒論についての説明
第 14 回	秋学期のまとめ	授業の総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
担当者になった場合、割り当てられた教科書や論文は精密に読んで、授業に臨むことが大事です。他のゼミ生からの質問に答えられるようにあらゆる角度から準備しておくことを心がけてください。
担当でない場合でも、必ず、事前に予習しておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Jim Miller　(2009) An Introduction to English Syntax. Second Edition. Edinburgh University Press.

【参考書】
適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
発表、ディスカッションへの参加、プレゼンテーション、タームペーパーで、総合的に判断します。(タームペーパー 40 %、平常点 60 %)

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
授業は春学期・秋学期と別れた形式になっていますが、内容をみるとわかるように、当然ながら、春学期だけ履修したり、春学期を履修せず秋学期から履修しても意味がありません。留学などの事情で春学期だけを履修したり、秋学期から履修するという場合を除いて、原則として A・B と通年で履修してください。
授業を通しての卒業論文に関しての連絡事項も増えていくので、授業は必ず出席すること。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to examine linguistic theory and develop students'research skills. After successful completion of this course, students will be able to analyze different types of English sentences theoretically.
This course also includes some tips for giving a good oral presentation in class and instructions for writing a good research paper.

LIN300BD

英語学演習 (2) A

椎名　美智

授業コード：A2937　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、「語用論」の理論的枠組みを学び、様々な言語現象を分析する技術・能力・言語センスを身につける訓練をします。自分自身のコミュニケーションを見つめなおすヒントにもなるでしょう。

【到達目標】
この演習の目標は、まず「語用論」の理論的枠組みを実際のコミュニケーションの分析に応用した研究論文を批判的に読解できるようになることです。最終的な目標は、そうした言語分析の研究方法を自らの研究に応用し、研究論文が執筆できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
初回は 4 月 13 日です。担当を決めるので、履修する学生は必ず出席してください。まず（4 年生には）復習と（3 年生には）導入を兼ねて語用論の色々な理論を概観します。演習なので、基本的に、学生の発表と質疑応答で進んでいきます。毎時間、テキストの担当者を決めて、3 人ずつ発表してもらいます。発表者は、担当箇所についてレジュメやパワーポイントを使って、みんなの前で 15 分〜 20 分程度のプレゼンテーションをします。引き続き質疑応答とディスカッションをし、最後に教員が補足説明をしてまとめます。テキストの最初の方は重要なので、担当者に全文和訳をしてもらうことになると思います。初回に履修ガイダンスをしますので、必ず第一回目の授業に出席してください。オフィスアワーに、研究の仕方、レポートのコンサルテーションをします。
リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究領域の概説と履修条件について
第 2 回	Chapter 1: Definition	語用論の理論の概説
第 3 回	Chapter 1: Background	学生による演習と議論
第 4 回	Chapter 2: Deixis	学生による演習と議論
第 5 回	Chapter 2: Distance	学生による演習と議論
第 6 回	Chapter 3: Reference	学生による演習と議論
第 7 回	Chapter 3: Inference	学生による演習と議論
第 8 回	Chapter 4: Presupposition	学生による演習と議論
第 9 回	Chapter 4: Entailment	学生による演習と議論
第 10 回	Chapter 5: Cooperation	学生による演習と議論
第 11 回	Chapter 5: Implicature	学生による演習と議論
第 12 回	Chapter 6: Speech acts	学生による演習と議論
第 13 回	Chapter 6: Speech events	学生による演習と議論
第 14 回	復習	春学期のまとめ、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は、授業で扱う予定の箇所を必ず読んで、和訳できるように予習をして授業に臨む必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
George Yule (1996)*Pragmatics*, (Oxford Introduction to Language Study). Oxford: Oxford University Press 各自、アマゾン等で入手してください。他にも日本語のテクストを使う予定です。

【参考書】
語用論に関する文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席は毎回とり、3 回以上欠席した学生は、それ以降の受講資格を失います。発表 2 割、レポート 8 割で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
レポートの執筆指導とフィードバックを丁寧に行い、卒論執筆にスムーズに進めるように指導します。オフィス・アワーは、今年度もひきつづき 4 年生の論文執筆のためのコンサルテーションのために主に使いますが、3 年生の相談にも喜んでのりますので、遠慮をしないで研究室に来て下さい。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、ハンドアウト

【その他の重要事項】
単位取得のためには、必ず秋学期の英語学演習 (2)B を引き続き履修しなければなりません。
また椎名に卒論を指導してほしい４年生は、単位に関係なく必ず履修してください。この演習は卒論指導に関して学生と教員が連絡をとる場でもあります。卒論に関する重要な連絡はすべてこの授業の前後に行われるので、履修していないと、実質的に卒論指導が受けられません。ゼミ・コンパへの参加は、勉強のためにも親睦のためにもたいへん重要ですので、参加してください。よって、火曜６限は空けておいてください。また、秋セメスター直前くらいに夏合宿をして、卒論指導と集中演習をしますので、参加してください。積極的にゼミとゼミ関連の活動に参加する学生にだけ履修してほしいタイプのゼミです。
オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire linguistic knowledge on pragmatics and discourse analysis.

LIN300BD

英語学演習 (2) B

椎名　美智

授業コード：A2938　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この演習では、「語用論」の理論的枠組みを学び、様々な言語現象を分析する技術・能力・言語センスを身につける訓練をします。自分自身のコミュニケーションを見つめなおすヒントにもなるでしょう。

【到達目標】
この演習の目標は、まず「語用論」の理論的枠組みを実際のコミュニケーションの分析に応用した研究論文を批判的に読解できるようになることです。最終的な目標は、そうした言語分析の研究方法を自らの研究に応用し、研究論文が執筆できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期に引き続き、学生の発表と質疑応答で進んでいきます。毎時間、テキストの担当者を決めて、３人ずつ発表してもらいます。担当の学生に全文を和訳してもらうことになると思います。発表者は、担当箇所についてレジュメやパワーポイントを使って、みんなの前で 15 分～ 20 分程度のプレゼンテーションをします。引き続き質疑応答とディスカッションをし、最後に教員が補足説明をしてまとめます。
学生の要望があれば、ゲスト・スピーカーにコミュニケーションについてレクチャーをしてもらい、学生がプロジェクト発表をする機会を設けることもあります。
オフィスアワーに、勉強の仕方、発表の内容、レポートのコンサルテーションをします。
リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の復習
第 2 回	Chapter 7: Politeness	学生による演習と議論
第 3 回	Chapter 7: Interaction	学生による演習と議論
第 4 回	Chapter 8: Conversation	学生による演習と議論
第 5 回	Chapter 8: Preference structure	学生による演習と議論
第 6 回	Chapter 9: Discourse	学生による演習と議論
第 7 回	Chapter 9: Culture	学生による演習と議論
第 8 回	復習	ここまでの内容の総括と復習
第 9 回	学生によるプロジェクト	学生による自主的プロジェクトの発表と、講演者のトーク
第 10 回	ゲストスピーカーによる講演	学生による自主的プロジェクトの発表と、講演者のトーク
第 11 回	学生によるプロジェクトとゲストスピーカーによる講演	学生による自主的プロジェクトの発表と、講演者のトーク
第 12 回	復習	プロジェクトの総括と復習
第 13 回	卒論発表会（1）	4 年生による卒論発表とフィードバック
第 14 回	卒論発表会（2）	4 年生による卒論発表とフィードバック、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う予定の箇所に目を通してきてください。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
George Yule (1996) *Pragmatics* (Oxford Introductions to Language Study). Oxford: Oxford University Press.
各自アマゾン等で入手してください。日本語のテクストも使用する予定ですが、それについては、授業内に紹介します。

【参考書】
語用論、ポライトネスに関する文献を適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
出席は毎回とり、３回以上欠席した学生は、それ以降の受講資格を失います。発表２割、レポート 8 割で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
レポートの執筆指導とフィードバックを丁寧に行い、卒論執筆にスムーズに進めるように指導します。オフィス・アワーは、今年度もひきつづき４年生の論文執筆のためのコンサルテーションのために主に使いますが、３年生の相談にも喜んでのりますので、遠慮をしないで研究室に来て下さい。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、ハンドアウト

【その他の重要事項】
・単位取得のためには、必ず春学期の英語学演習 (2)A を前もって履修しておかなければなりません。秋学期のみの単独の履修はできません。
・椎名に卒論指導を希望する４年生は、単位に関係なく必ず履修してください。卒論に関する重要な連絡はすべてこの授業の前後に行われるので、履修していないと、実質的に卒論指導が受けられません。また最終の二回の授業は４年生による卒論発表会です。全員からもらうフィードバックは論文を仕上げるための重要なヒントになります。ゼミのコンパへの参加は重要です。
・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire linguistic knowledge on pragmatics and discourse analysis.

LIN300BD

言語学演習 (1) A

石川　潔

授業コード：A2939　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語の統語論的な諸事実を入門レベルで学びます。

【到達目標】
・日本語の言語事実の知識を身に着けること。
・言語学的な議論の仕方を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
zoom での授業を予定しています。授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、いずれにせよ、学生の発表がメインであり、それぞれの発表へのコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の説明
第 2 回	受動態１	導入
第 3 回	受動態２	直接受け身
第 4 回	受動態３	間接受け身
第 5 回	図書館ガイダンス（日程変更の可能性、大）	資料検索
第 6 回	研究テーマ発表１	４年生による発表
第 7 回	研究テーマ発表２	３年生による発表
第 8 回	使役１	「を」vs.「に」
第 9 回	使役２	The double-*o* Constraint
第 10 回	使役３	使役受け身
第 11 回	使役４	「被害」の使役
第 12 回	使役５	語彙受け身
第 13 回	歌詞作り	母音挿入
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表準備、他の人の発表にコメントできるような予習、そして復習。
なお本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
図書館にて、電子ブックの Tsujimura, Natsuko. (2014). *An Introduction to Japanese Linguistics*. (3rd edn.) にアクセスし、Chapter 5（Syntax の章）をオンラインで見るか、または pdf でダウンロードしてください（なお、ダウンロードについては量の制限があり、この章をダウンロードしたら、もう他の章のダウンロードは不可能になるはずです。他方で、オンラインで授業中に見るのは技術的に非現実的かもしれません）。

【参考書】
授業内で適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %
発表点 40 %
take-home exam 20 %

【学生の意見等からの気づき】
一昨年度までは方法論の授業であり、昨年度からはコンテンツの話になったので、該当するのは昨年度のアンケート結果のはずなのですが、昨年度はアンケートは実施されておりません。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておく（または法政 gmail にて自動転送の設定をしておく）こと。

【その他の重要事項】
原則として「言語学演習 (1) B」と連続履修してください。欠席するときは理由を明記の上、事前に教員に連絡をするようにしてください。

【Outline and objectives】
We will study various syntactic facts in Japanese at an introductory level.

LIN300BD

言語学演習 (1) B

石川　潔

授業コード：A2940　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主として日本語の統語論的な諸事実を入門レベルで学びます。

【到達目標】
・日本語の言語事実の知識を身に着けること。
・言語学的な議論の仕方を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
zoom での授業を予定しています。授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性がありますし、あるべきだと考えますが、いずれにせよ、学生の発表がメインであり、それぞれの発表へのコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業進行の確認
第 2 回	卒論の中間発表	４年生による発表
第 3 回	関係節 1	導入
第 4 回	関係節 2	The *ga* / *no* conversion
第 5 回	関係節 3	空所なしの関係節
第 6 回	関係節	主要部内在型
第 7 回	卒論のための実験 1	実験実施
第 8 回	軽動詞構文	全体像
第 9 回	卒論のための実験 2	実験実施
第 10 回	第２言語としての日本語の習得 1	再帰代名詞の日英語の文法的な違い
第 11 回	第２言語としての日本語の習得 2	母語干渉の有無の観察
第 12 回	歌	弱起
第 13 回	研究成果の発表	４年生による発表
第 14 回	研究テーマ発表	３年生による発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表準備、他の人の発表にコメントできるような予習、そして復習。
なお本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
図書館にて、電子ブックの Tsujimura, Natsuko. (2014). *An Introduction to Japanese Linguistics*. (3rd edn.) にアクセスし、Chapter 5（Syntax の章）をオンラインで見るか、または pdf でダウンロードしてください（なお、ダウンロードについては量の制限があり、この章をダウンロードしたら、もう他の章のダウンロードは不可能になるはずです。他方で、オンラインで授業中に見るのは技術的に非現実的かもしれません）。

【参考書】
授業内で適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %
発表点 40 %
take-home exam 20 %

【学生の意見等からの気づき】
回答者は 1 人のみだったので、解釈が難しいのですが、皆の実力アップにつながるようなコメントを工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムには、自分が普段アクセスするメールアドレスを登録しておく（または法政 gmail にて自動転送の設定をしておく）こと。

【その他の重要事項】
原則として「言語学演習 (1) A」と連続履修してください。欠席するときは理由を明記の上、事前に教員に連絡してください。また、教員が実施する実験に参加した場合には加点が行われる可能性があります。

【Outline and objectives】
We will primarily study various syntactic facts in Japanese at an introductory level.

LIT300BD

言語学演習 (2) A

川﨑　貴子

授業コード：A2941　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人が知らず知らずのうちに行っている言語処理や言語習得を、身近な事例を通して学びます。言語学・言語習得に関する論文を読み、発表することにより、言語学・言語習得の分野の研究手法を学ぶことを目的とします。

【到達目標】
音声学・心理言語学の基礎的な知識を身につけることにより、身の回りの言語現象を分析できる力を身につけることを目標とします。自らの研究・調査内容を、十分に理解し、他者に分かりやすく提示する力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
教員、およびテーマによってはゼミ学生がその日のテーマに関する発表・講義を行いながら授業を進めます。
授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の説明・自己紹介
第 2 回	テーマ紹介	自己紹介プレゼン・研究テーマ紹介
第 3 回	音声による言語処理（1）	音声・音韻論についての基本講義
第 4 回	音声による言語処理（2）	音声・音韻論と言語処理について一論文発表（1）
第 5 回	音声による言語処理（3）	音声・音韻論と言語処理について一論文発表（2）
第 6 回	第二言語と音声コミュニケーション（1）	学生による発表（L2 と音声コミュニケーション）（1）
第 7 回	第二言語と音声コミュニケーション（2）	学生による発表（L2 と音声コミュニケーション）（2）
第 8 回	第二言語と音声コミュニケーション（3）	学生による発表（L2 と音声コミュニケーション）（3）
第 9 回	言語学文献研究 1	ビブリオバトル 1
第 10 回	言語学文献研究 2	ビブリオバトル 2
第 11 回	グループ発表準備	選択した論文のポスター発表準備
第 12 回	グループごとのポスター発表	選択した論文のポスター発表準備
第 13 回	卒論テーマ発表 1	4 年生による卒論テーマ発表
第 14 回	卒論テーマ発表 2	4 年生による卒論テーマ発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
– 発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自 2 度の発表回数があります。（自己紹介を除く。）
– 授業で指示される文献を読んできていただきます。

【テキスト（教科書）】
読むべき論文は授業内で指示します。

【参考書】
授業内で適宜ご紹介致します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加による貢献・・・30%
授業内発表・・・30%
授業内課題・・・40%
といたします。
●遅刻・欠席は必ずメールにてご連絡ください。
●事前に連絡なく３回を超えて欠席した場合には、D 評価となります。

【学生の意見等からの気づき】
昨年はサバティカルで担当しておりませんが、一昨年はグループ活動が刺激になったようです。今年度も継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】
・初回の授業には出席してください。やむを得ず欠席しなければならない場合には、欠席日と理由を必ず事前にご連絡下さい。

・ゼミ生（演習受講生）は授業に欠席する場合、教員に理由と欠席の旨をメールにて連絡して下さい。
・原則として、所属生のみ履修可です。
・言語学演習（2）B と連続して履修して下さい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to provide an introduction to research methods and practices in linguistics.

LIT300BD

言語学演習 (2) B

川﨑　貴子

授業コード：A2942　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第二言語音韻習得・言語心理学を学びます。また、日常の言語現象を取り上げ、理論的に考えていきます。

【到達目標】
日常の様々な言語データを分析的に見る力を養い、卒業論文につながるテーマを見つけることを目標とします。目的・方法・結果・分析・結論という、論文の構成を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期に引き続き、日常の言語現象を分析することを通じて、第二言語習得・音韻論・言語処理の基礎を学び、研究テーマを見つけていただこうと考えております。学生の発表、グループディスカッションを通して、それぞれの履修者が新たな問いを発見してくれればと思います。
授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	L 2音韻習得（1）	L 2音韻習得についての導入
第 2 回	L 2音韻習得（2）	L 2音韻習得についての文献調査
第 3 回	語彙記憶の調査（1）	語彙知識の測定方法の先行研究1
第 4 回	語彙記憶の調査（2）	語彙知識の測定方法の先行研究2
第 5 回	身の回りの音声イメージ	音象徴ー音とイメージ
第 6 回	聴覚・視覚・記憶（1）	3 年生による発表1
第 7 回	聴覚・視覚・記憶（2）	3 年生による発表2
第 8 回	聴覚・視覚・記憶（3）	3 年生による発表3
第 9 回	卒論発表1	4 年生による研究発表− 1週目
第 10 回	卒論発表2	4 年生による研究発表− 2週目
第 11 回	教員の研究発表	担当教員による研究発表
第 12 回	視覚・聴覚と言語	ビブリオバトル1
第 13 回	視覚・聴覚と言語	ビブリオバトル2
第 14 回	第二言語習得	音韻の L 2習得・教育への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
− 発表準備、授業の予習、復習が必要です。各自 2 度の発表回数があります。担当者は発表の資料を作成する必要があります。
− 毎回、授業で指示される文献を読んできて、議論に参加していただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】
授業で使用する論文などは、学習支援システムにアップロードする予定です。

【参考書】
授業内で適宜ご紹介致します。

【成績評価の方法と基準】
授業参加による貢献・・・30%
授業内発表・・・30%
授業内課題・・・40%
といたします。
遅刻・欠席の連絡は必ずお願いします。
事前に連絡無く 3 回を超えて欠席があった場合には D 評価といたします。

【学生の意見等からの気づき】
昨年はサバティカルで担当しておりませんが、一昨年はグループ活動が刺激になったようです。今年度も継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】
原則として、春学期の言語学演習（2）A と継続して履修して下さい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to provide an introduction to research methods and practices in linguistics.

LIT300BD

英米文学演習 (1) A

宮川　雅

授業コード：A2943　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカの中篇小説を読む
(1) レポーター制による発表・質疑応答により、
①英文テクストを分析・解釈する営みを身につけるとともに、
②読んだ内容・情報を自らのことばでまとめる能力を養い、
③論理的思考力を養う。
(2) レポーター以外も積極的に予習をして、
④辞書を丁寧に引く習慣を身につけるとともに、
⑤議論に参加する積極性を養う。
(3) アメリカ作家とその作品について知識を得る。

【到達目標】
抽象的には、(1) アメリカ文学作品で描かれている、英語が使われている国・地域の歴史と文化について理解している。
(2) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
(3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
具体的には、①アメリカ短篇小説の歴史と特徴についてある程度の知識を得る　② 19 世紀後半から現代の代表的なアメリカ短篇作家の作品について、アメリカ文学・文化における位置づけとともに理解している　③一見して雑然とした散文を読んでも重要な要素や重視したい箇所を自身の判断で指摘・抽出できる　④読むため・理解するために調べること、とくに固有名詞や歴史的・社会的背景について調べることを面倒だと思わずできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
1 回 1 章（以上）を原則に読む。授業はレポーター制の演習形式で展開する。レポーターは、①《梗概（要約）》②《注意すべき語句や表現》③《コメント》をまとめたハンドアウトを用意し、担当箇所について意見交換のたたき台を用意する。レポーター以外の参加者も自身の予習に基づいて質問したり意見を述べることが必要となる。担当作品の割り振りについては、ある程度機械的に初回に決める予定。
リアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ウィラ・キャザーと彼女の小説理論について／参考文献紹介／レポーター割り振り／プリント配布
第 2 回	Part One, Chapters 1 & 2	時代背景／レポーターによる発表および意見交換①〔教員がレポーター役を務める〕
第 3 回	Part One, Chapters 3 & 4	語りのスタイル／レポーターによる発表および意見交換②〔教員がレポーター役を務める〕
第 4 回	Part One, Chapter 5	自然主義と印象主義／レポーターによる発表および意見交換③
第 5 回	Part One, Chapter 6	シンボリズム／レポーターによる発表および意見交換④
第 6 回	Part One, Chapter 7	showing と telling ／レポーターによる発表および意見交換⑤
第 7 回	Part One, Chapter 8	心理学的洞察／レポーターによる発表および意見交換⑥
第 8 回	Part One, Chapter 9	レポーターによる発表および意見交換⑦
第 9 回	Part Two, Chapters 1 & 2	レポーターによる発表および意見交換⑧
第 10 回	Part Two, Chapters 3 & 4	レポーターによる発表および意見交換⑨
第 11 回	Part Two, Chapters 5 & 6	レポーターによる発表および意見交換⑩
第 12 回	Part Two, Chapters 7 & 8	レポーターによる発表および意見交換⑪
第 13 回	Part Two, Chapter 9	レポーターによる発表および意見交換⑫
第 14 回	Willa Cather, "	レポーターによる発表および意見交換⑬／まとめとミニテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
辞書を引いて予習する。読み取った情報や気になる点をノートに書き留める、あるいはプリントに書き込む。固有名詞や背景事情等について必要ならばネット検索をして調べる。他の作品や参考文献などを随時読む。
翻訳を参考にしてかまわないが、演習各回ではあくまでテクスト原文を精読するため、レポーターに限らず各回の準備を怠らないようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
ネブラスカ大学出版の Willa Cather Scholarly Edition を使用する。Willa Cather, [Historical Essay by Susan J. Rosowski; Explanatory Notes by Kari A. Ronning; Textual Editing by Charles W. Mignon & Frederick M. Link] (Lincoln: University of Nebraska Press, 1997).

【参考書】
ウェイン・ブース、米本弘一ほか訳『フィクションの修辞学』（水声社, 1991）
E・M・フォースター『小説の諸相』（みすず書房, 新潮文庫, ダビッド社ほか）
佐藤宏子『キャザー――美の祭司』（冬樹社, 1977）
その他、教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】
レポーター発表（内容及びプレゼンテーションに対する評価）40 パーセント
授業への積極的参加度（予習と参加の度合い）20 パーセント
期末ペーパー（試験に代替する可能性もある）40 パーセント
以上の合計を百点法換算して 60 点以上で合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
学生がさぼらぬようにきちんと指導する。

【Outline and objectives】
Close reading of *A Lost Lady*, a novella by Willa Cather. Students will also examine literary and psychological theories to analyze and interpret the tale.

LIT300BD

英米文学演習 (1) B

宮川　雅

授業コード：A2944　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカ小説研究
半期で読める中篇小説を精読する。今回は、作家自身は "novel" と呼んだが、ゆるやかにつながった短篇小説集とも言える、Sherwood Anderson の *Winesburg, Ohio*(1919) を読む。中篇小説を丁寧に精読しながら、分析・解釈の具体的な方法を学ぶことを目的とする。英語の読解・注釈作業をとおして論理的思考やリサーチ能力を高め、説得力のあるプレゼンテーションと質疑応答の能力を身につける。

【到達目標】
抽象的には、(1) アメリカ文学作品で描かれている、英語が使われている国・地域の歴史と文化について理解している。
(2) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
(3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
具体的には、① 19 世紀の農本主義から産業主義への変化におけるアメリカ人の姿を眺める　②アメリカ的な短篇小説の特徴について、アンダーソンの作品を通して理解する　③一見して雑然とした散文を読んでも重要な要素や重視したい箇所を自身の判断で指摘・抽出できる　④読むため・理解するために調べること、とくに固有名詞や歴史的・社会的背景について調べることを面倒だと思わずできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
Norton Critical Edition を使用して過去の研究や批評にも目を向けながら読む。授業はレポーター制の演習形式で展開するが、いっぽうで分析や解釈のポイントないし主題について考えながら読み進める（各回のテーマを参照）。レポーターは、①《梗概（要約）》②《注意すべき語句や表現》③《コメント》をまとめたハンドアウトを用意し、担当箇所について意見交換のたたき台を用意する。レポーター以外の参加者も自身の予習に基づいて質問したり意見を述べることが必要となる。レポーター担当の割り振りについては、ある程度機械的に初回に決める予定。
提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	注釈から批評行為へ	歴史的な概説と文学史的評価など／参考文献紹介／レポーター割り振り／"The Book of the Grotesque"を読む
第 2 回	論証と精読とリサーチ	"Hands," "Paper Pills"／レポーターによる発表および意見交換①。
第 3 回	作品分析――テクスト	"Mother"／レポーターによる発表および意見交換②
第 4 回	作品分析――ストーリーとプロット	"The Philosopher"／レポーターによる発表および意見交換③
第 5 回	作品分析――登場人物（キャラクター、ピープル）	"Nobody Knows"; "Godliness: A Tale in Four Parts," Part I ／レポーターによる発表および意見交換④
第 6 回	作品分析――比喩、イメジ、象徴	"Godliness: A Tale in Four Parts," Part II; "Surrender" (Part III) ／レポーターによる発表および意見交換⑤
第 7 回	作品分析――視点と語り	"Terror" (Part IV) ／レポーターによる発表および意見交換⑥
第 8 回	作品分析――ストーリーとフレーム	"A Man of Ideas"; "Adventure"／レポーターによる発表および意見交換⑦
第 9 回	作品解釈――歴史的コンテクスト	"Respectability"; "The Thinker"／レポーターによる発表および意見交換⑧
第 10 回	作品解釈――キャラクター	"Tandy"; "The Strength of God"／レポーターによる発表および意見交換⑨
第 11 回	作品解釈――語り	"The Teacher"; "Loneliness"／レポーターによる発表および意見交換⑩
第 12 回	作品解釈――視点	"An Awakening"; "Queer"／レポーターによる発表および意見交換⑪
第 13 回	作品解釈――象徴主義	"The Untold Lie"; "Drink"／レポーターによる発表および意見交換⑫
第 14 回	まとめ	"Death"; "Sophistication"; "Departure"／レポーターによる発表および意見交換⑬

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
辞書を引いて予習する。読み取った情報や気になる点をノートに書き留める、あるいはプリントに書き込む。固有名詞や背景事情等について必要ならばネット検索をして調べる。他の作品や参考文献などを随時読む。
翻訳を参考にしてもらってかまわないが、演習各回ではあくまでテクスト原文を精読するため、レポーターに限らず各回の準備を怠らないようにする。

【テキスト（教科書）】
Sherwood Anderson, *Winesburg, Ohio*. Ed. Charles E. Modlin and Ray Lewis White. New York: Norton, 1995. 256pp. ISBN: 978-0-393-97614-4

【参考書】
平石貴樹『アメリカ文学史』(2010)
Norton Critical Edition 所収の一次資料・二次資料、また、Bibliography 参照。
その他、折にふれて教室で提示するが、全体に参照して有益な研究書として、Judy Jo Small, *A Reader's Guide to the Short Stories of Sherwood Anderson* (G.K.Hall, 1994) 446pp.(図書館にあり）と高田賢一・森岡裕一編著『シャーウッド・アンダソンの文学――現代アメリカ小説の原点』（ミネルヴァ書房, 1999）を挙げておく。

【成績評価の方法と基準】
レポーター発表（内容及びプレゼンテーションに対する評価） 40 パーセント
授業への積極的参加度（予習と参加の度合い）20 パーセント
期末ペーパー（試験に代替する可能性もある）　40 パーセント
以上の合計を百点法換算して 60 点以上で合格となる。

【学生の意見等からの気づき】
学生がさぼらぬようにきちんと指導する。学生の積極的参加と議論を促す工夫をする。

【Outline and objectives】
Close reading of Sherwood Anderson's "novel" (loosely connected series of short stories), *Winesburg, Ohio*(1919). Use research to deepen understanding text and to develop analytical thinking that demonstrate the connections between the primary and secondary sources.Students will also examine literary and psychological theories to analyze and interpret short stories.

LIT300BD

英米文学演習 (5) A

小島　尚人

授業コード：A2951　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカの作家の長篇をくわしく読解することを通じて、小説のおもしろさ、解釈をおこなうことのおもしろさを知るとともに、米文学・文化への理解および文学研究の方法論への理解を深めることを目的とする。今学期は、20 世紀半ばの南部女性作家 Carson McCullers が 23 歳にして発表した繊細かつ大胆な長編デビュー作 *The Heart Is a Lonely Hunter*（1940）を一学期かけて読破する。

【到達目標】
・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。
・他者の考えに耳を傾けて理解し、建設的なやり方で応答することができる。
・自分の考えを分かりやすく効果的に伝えることができる。
・自分の解釈を論理的に記述することができる。
・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持つ。
・『心は孤独な狩人』について、テクストの具体的なキャラクターや細部に触れながら自分なりに語れるようになる。
・カーソン・マッカラーズの生涯と作品、その時代背景を学ぶことを通じ、米国の文化と社会についての知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者は毎週予習として作品を読み、感想・疑問や気になったことをまとめて授業に臨む。予習の段階では適宜翻訳を参照して構わないが、授業内での発表やディスカッションにおいては基本的に英語原書を用いる。授業は演習形式で進め、毎回発表担当者がハンドアウトを作成のうえでプレゼンテーションをおこない、担当コメンテーターによるコメント・質問、そして受講者全員参加によるディスカッションをする。適宜教員による補足説明がおこなわれる。発表担当者は、担当箇所の物語内容を要約したうえで、本文から気になった箇所をいくつか引用して分析し、ディスカッションのためのトピックを提示する。
発表に対しては授業内で口頭によるレスポンスがなされ、レポートに対してはフィードバックのコメントをつけたファイルが返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	顔合わせ・自己紹介のあと、授業の進め方と発表の仕方を説明し、発表分担者を決定する。カーソン・マッカラーズとその作品についての導入講義
第 2 回	カーソン・マッカラーズとその時代：1930 年代アメリカ南部、人種問題と貧困問題	作品読解に先立ち、作品の舞台となるアメリカ南部という土地と、1930 年代という時代についての理解を得る
第 3 回	*The Heart Is a Lonely Hunter* 読解①――書き出しを分析する	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 4 回	*The Heart Is a Lonely Hunter* 読解②――大不況下の南部の町	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 5 回	*The Heart Is a Lonely Hunter* 読解③――ジェイクと貧乏白人	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 6 回	*The Heart Is a Lonely Hunter* 読解④――コープランド医師と人種問題	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 7 回	*The Heart Is a Lonely Hunter* 読解⑤――少女ミックの悩み	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 8 回	*The Heart Is a Lonely Hunter* 読解⑥――コミュニケーションの形	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 9 回	*The Heart Is a Lonely Hunter* 読解⑦――シンガーの役割	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 10 回	*The Heart Is a Lonely Hunter* 読解⑧――人々の変化	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 11 回	*The Heart Is a Lonely Hunter* 読解⑨――結末を考える	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 12 回	映画と小説の比較	映画『愛すれど心さびしく』（1968 年）を視聴してディスカッション
第 13 回	批評論文の読解	*The Heart Is a Lonely Hunter* について書かれた論文を読み、小説を論じる方法について考える
第 14 回	まとめのワークショップ	受講者が各自のレポートの計画について発表し、それについて討議することを通じて、今学期のまとめをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前に作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておく（予習 4 時間以上）。
授業でのディスカッションを通じて自分の興味・関心のありかを見定め、それに関する研究書、論文、関連資料などを自ら調査・収集して読むことも重要。

【テキスト（教科書）】
Carson McCullers, *The Heart Is a Lonely Hunter*. Penguin Classics, 2000.
ISBN: 9780141185224

【参考書】
ヴァージニア・スペンサー・カー『孤独な狩人――カーソン・マッカラーズ伝』（国書刊行会、1998 年）
吉岡葉子『南部女性作家論―ウェルティとマッカラーズ』（旺史社、1999 年）
諏訪部浩一（編）『アメリカ文学入門』（三修社、2013 年）
杉野健太郎（編）『アメリカ文化入門』（三修社、2010 年）
ほか適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業への貢献度（ちゃんと予習ができているか、討議に積極的に参加しているか）：30 %
・プレゼンテーション（担当箇所の内容が正確に把握できているか、引用箇所の分析がよくできているか、討議のための主題を提示できているか）：30 %
・4000 字程度の期末レポート（自分の解釈を提示し、リサーチにもとづいて、適切な箇所を引用しながらその解釈の妥当性を論証する）：40 %

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんが発言しやすい環境がつくれるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。

【その他の重要事項】
秋学期に英米文学演習 (5) B を履修することが望ましい。

【Outline and objectives】
This course is a seminar on American literature. Through the close reading of *The Heart Is a Lonely Hunter* and its film adaptation, students will develop their skills to analyze literary and visual texts in a critical way. Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures.

LIT300BD

英米文学演習 (5) B

小島　尚人

授業コード：A2952　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アメリカの作家の長篇をくわしく読解することを通じて、小説のおもしろさ、解釈をおこなうことのおもしろさを知るとともに、米文学・文化への理解および文学研究の方法論への理解を深めることを目的とする。今学期は、純文学と SF を横断し「SF 界のシェイクスピア」とも称される作家 Philip K. Dick の歴史改変小説 *The Man in the High Castle*（1962）を一学期かけて読破する。

【到達目標】
・作品の細部に目を配り、正確に意味をとって読解しようとする習慣をつける。
・他者の考えに耳を傾けて理解し、建設的なやり方で応答することができる。
・自分の考えを分かりやすく効果的に伝えることができる。
・自分の解釈を論理的に記述することができる。
・多様な批評の方法についての知識を得て、関心を持つ。
・『高い城の男』について、テクストの具体的なキャラクターや細部に触れながら自分なりに語れるようになる。
・フィリップ・K・ディックの生涯と作品、時代背景、米国 SF 小説史の概略を学ぶことを通じ、米国の文化と社会についての知識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者は毎週予習として作品を読み、感想・疑問や気になったことをまとめて授業に臨む。予習の段階では適宜翻訳を参照して構わないが、授業内での発表やディスカッションにおいては基本的に英語原書を用いる。授業は演習形式で進め、毎回発表担当者がハンドアウトを作成のうえでプレゼンテーションをおこない、担当コメンテーターによるコメント・質問、そして受講者全員参加によるディスカッションをする。適宜教員による補足説明がおこなわれる。発表担当者は、担当箇所の物語内容を要約したうえで、本文から気になった箇所をいくつか引用して分析し、ディスカッションのためのトピックを提示する。
発表に対しては授業内で口頭によるレスポンスがなされ、レポートに対してはフィードバックのコメントをつけたファイルが返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／卒業論文中間発表会	授業内容の確認と発表分担者の決定決定ののち、4 年生による卒論テーマ、章立て、概要についてのプレゼンテーション
第 2 回	アメリカ小説ブックトーク／米国 SF 小説史概説講義	3 年生によるブックトーク（夏休みに読んだおススメ作品の紹介）ののち、フィリップ・K・ディックとその作品、第二次大戦後の米国社会と SF 小説の関わりについての概説講義
第 3 回	*The Man in the High Castle* 読解①——書き出しを分析する	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 4 回	*The Man in the High Castle* 読解②——語り手と文体	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 5 回	*The Man in the High Castle* 読解③——冷戦と 1950～60 年代	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 6 回	*The Man in the High Castle* 読解④——歴史改変小説の系譜	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 7 回	映画と小説の比較分析①	Amazon オリジナルドラマ『高い城の男』（2015-19）の該当エピソードを鑑賞してディスカッション
第 8 回	*The Man in the High Castle* 読解⑤——日本の立ち位置	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 9 回	*The Man in the High Castle* 読解⑥——現実と虚構、本物と偽物	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 10 回	*The Man in the High Castle* 読解⑦——メタフィクション	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 11 回	*The Man in the High Castle* 読解⑧——結末を考える	分担者によるプレゼンテーション、全員参加のディスカッション、教員による補足
第 12 回	映画と小説の比較分析②	Amazon オリジナルドラマ『高い城の男』（2015-19）の該当エピソードを鑑賞してディスカッション
第 13 回	批評論文の読解	*The Man in the High Castle* について書かれた論文を読み、小説を論じる方法について考える
第 14 回	まとめのワークショップ	受講者が各自のレポートの計画について発表し、それについて討議することを通じて、今学期のまとめをおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者になっているときはもちろん、そうでないときも、毎回事前に作品を読んで、ディスカッションに積極的に参加できるように準備しておくことが最も重要。読みながら面白かった点、気になった点、質問したい点などについてメモをとっておく（予習 4 時間以上）。
授業でのディスカッションを通じて自分の興味・関心のありかを見定め、それに関する研究書、論文、関連資料などを自ら調査・収集して読むことも重要。

【テキスト（教科書）】
Philip K. Dick, *The Man in the High Castle*. Penguin Essentials, 2014. ISBN: 9780241968093

【参考書】
早川書房編集部（編）『フィリップ・K・ディック・リポート』（早川書房、2002 年）
ポール・ウィリアムズ『フィリップ・K・ディックの世界』小川隆訳（河出書房新社、2017 年）
ローレンス・スーチン（編）『フィリップ・K・ディックのすべて——ノンフィクション集成』飯田隆昭訳（ジャストシステム、1996 年）
P・K・ディック他『悪夢としての P・K・ディック　人間、アンドロイド、機械』（サンリオ、1986 年）
三田格（編）『あぶくの城——フィリップ・K. ディックの研究読本』（北宋社、1983 年）
諏訪部浩一（編）『アメリカ文学入門』（三修社、2013 年）
杉野健太郎（編）『アメリカ文化入門』（三修社、2010 年）
ほか適宜授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
・授業への貢献度（ちゃんと予習ができているか、討議に積極的に参加しているか）：30 %
・プレゼンテーション（担当箇所の内容が正確に把握できているか、引用箇所の分析がよくできているか、討議のための主題を提示できているか）：30 %
・4000 字程度の期末レポート（自分の解釈を提示し、リサーチにもとづいて、適切な箇所を引用しながらその解釈の妥当性を論証する）：40 %

【学生の意見等からの気づき】
学生の皆さんが発言しやすい環境がつくれるようつとめます。また、クラス全体のディスカッションと教員による補足解説との配分をバランスよくしたいと思います。

【その他の重要事項】
春学期に英米文学演習 (5) A を履修しておくことが望ましい。

【Outline and objectives】
This course is a seminar on American literature. Through the close reading of *The Man in the High Castle* and its film adaptation, students will develop their skills to analyze literary and visual texts in a critical way. Most classes consist of presentations by students, class discussions, and lectures.

LIT300BD

英米文学演習 (6) A

丹治　愛

授業コード：A2953　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学批評とは、第一義的に、文学作品（文学テクスト）を解釈する行為である。解釈とはテクストを読むための特定のコンテクストを定めて、テクストの意味を確定していく行為である。それは感想文とどういう点で異なるのかといった問いをとおして、文学解釈が成立するための要素を学習したのち、具体的にテクスト（イギリス小説）を、文化的社会的コンテクストに関連づけながら分析していく。そのプロセスで、小説を分析するために必要な基本的な概念群・キーワード群を学習する――物語（ストーリー／プロット／ディスコース）、キャラクター、語り手（ナレーター）と視点人物、イメージとシンボルとアレゴリーなど。最終的に、教材となった文学作品についての個々の学生の解釈を確認する。

【到達目標】
この授業は文学作品を解釈するための具体的な方法を学習することを目的とする。文学批評とはどのような行為なのかをはじめに学習したうえで、ひとつの作品（イギリス小説）を選び、それを対象として具体的に精読を進めていく。その精読のプロセスをとおして、英語の読解力、批判的読解をとおして論理的にものを考える力、作品の文化的社会的背景をリサーチする能力、プレゼンテーションとディスカッションとライティングの能力の養成をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・原則、対面授業であるが、コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、適宜、対面授業と遠隔授業を併用する。第 1 回目は対面授業で行う予定。
・演習なので、原則、学生のプレゼンテーションとディスカッションとで進める。
・予習は必須。欠席の場合も、かならず毎週の課題を提出すること。良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・提出されたレポートについてはルーブリックで講評する（希望者にたいして）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	文学批評とは何か――テクストの多義性と解釈	文学批評とはなにかを議論する。
第 2 回	論証と精読（批判的読解）とリサーチ	論証と精読（批判的読解）とリサーチの方法について議論する。
第 3 回	作品の分析（第一部）	第一部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション
第 4 回	作品の分析（第二部）	第二部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション
第 5 回	作品の分析（第三部）	第三部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション
第 6 回	作品の分析（第四部）	第四部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション
第 7 回	作品の分析（第五部）	第五部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション
第 8 回	作品の分析（第六部）	第六部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション
第 9 回	作品の分析（第七部）	第七部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション
第 10 回	作品の分析（総括）	これまでのまとめ。教員への質問と学生どうしのディスカッション
第 11 回	批評作品の読解（1）	英語で書かれた批評論文を読解する
第 12 回	批評作品の読解（2）	英語で書かれたもうひとつの批評論文を読解する
第 13 回	批評作品の読解（3）	英語で書かれたさらにもうひとつの批評論文を読解する
第 14 回	レポートの主題の発表	学生がそれぞれレポート主題と要旨を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテクストを読み、自分の意見をまとめる。

【テキスト（教科書）】
Virginia Woolf, *To the Lighthouse*, Oxford World's Classics

【参考書】
『灯台へ/サルガッソーの広い海』(池澤夏樹=個人編集 世界文学全集 2-1)、河出書房新社
丹治愛・山田広昭編『文学批評への招待』（放送大学教育振興会）
デイヴィッド・ロッジ『小説の技法』（白水社）
Abrams & Harpham, *A Glossary of Literary Terms*

【成績評価の方法と基準】
1．文学批評のプロセスを理解している。
2．文学批評のキー概念を理解し、それを正しく活用することができる。
3．授業であつかった作品について自分なりの解釈を提示できる。
授業への貢献度　５０％（プレゼンテーションとディスカッション）
期末レポート　５０％

【学生の意見等からの気づき】
演習らしい演習になるよう、学生各自に積極的な授業参加をうながす。指名して発言を求める。

【Outline and objectives】
Literary criticism is primarily an act of interpreting literary works (literary texts). Interpretation is an act of fixing a specific context for reading a text and defining the meaning of the text. After learning the elements for making a literary interpretation through questions such as how it differs from a book report, students concretely analyze a text (a British novel) in relation to some cultural and social context. In that process, students learn the basic concepts and keywords necessary to analyze a novel - stories (plots and discourses), characters, narrators and focalizers, images, symbols and allegories, etc. Finally, students discuss one another's interpretations of the literary work treated in class.

LIT300BD

英米文学演習 (6) B

丹治　愛

授業コード：A2954　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
文学批評とは、第一義的に、文学作品（文学テクスト）を解釈する行為である。解釈とはテクストを読むための特定のコンテクストを定めて、テクストの意味を確定していく行為である。文学解釈が成立するための要素を学習したのち、具体的にテクスト（イギリス小説を原作とした映画）を、文化的社会的コンテクストに関連づけながら分析していく。そのプロセスで、映画を分析するために必要な基本的な概念群・キーワード群のうち、映像分析に関わるものを学習する。そして原作との比較をとおして映画を解釈するアダプテーション研究の方法を実践的に学習する。最終的に、教材となった映画作品についての個々の学生の解釈を確認する。

【到達目標】
この授業は文学作品を解釈するための具体的な方法を学習することを目的とする。文学批評とはどのような行為なのかを学習したうえで、ひとつの映画作品を選び、それを対象として具体的に精読を進めていく。その精読のプロセスをとおして、英語の読解・聴解力、批判的読解をとおして論理的にものを考える力、作品の文化的社会的背景をリサーチする能力、プレゼンテーションとディスカッションとライティングの能力の養成をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
・原則、対面授業であるが、コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、適宜、対面授業と遠隔授業を併用する。第 1 回目は対面授業で行う予定。
・演習なので、原則、学生のプレゼンテーションとディスカッションとで進める。
・予習は必須。欠席の場合も、かならず毎週の課題を提出すること。良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
・提出されたレポートについてはルーブリックで講評する（希望者にたいして）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	映画批評とは何か――映画の要素	映画批評とは何かを議論する。
第 2 回	作品の分析（1）	第一部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション
第 3 回	作品の分析（2）	第二部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション
第 4 回	作品の分析（3）	第三部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション
第 5 回	作品の分析（4）	第四部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション
第 6 回	作品の分析（5）	第五部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション
第 7 回	作品の分析（6）	第六部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション
第 8 回	作品の分析（7）	第七部の重要箇所のリストアップとそれについてのプレゼンテーションとディスカッション
第 9 回	作品の分析（総括）	これまでのまとめ。教員への質問と学生どうしのディスカッション
第 10 回	映画の鑑賞	映画を見て、原作との異同などをディスカッション
第 11 回	批評作品の読解（1）	英語で書かれた批評論文を読解する
第 12 回	批評作品の読解（2）	英語で書かれたもうひとつの批評論文を読解する
第 13 回	批評作品の読解（3）	英語で書かれたさらにもうひとつの批評論文を読解する
第 14 回	レポートの主題の発表	学生がそれぞれレポート主題と要旨を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にテクストを読み、自分の意見をまとめる。 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
Jane Austen, *Pride and Prejudice* (Penguin Classics)
Pride and Prejudice (2005 film)

【参考書】
『高慢と偏見』（ちくま文庫）
丹治愛・山田広昭編『文学批評への招待』（放送大学教育振興会）
Abrams & Harpham, *A Glossary of Literary Terms*
『*Film Analysis*　映画分析入門』

【成績評価の方法と基準】
1．文学批評のプロセスを理解している。
2．文学批評のキー概念を理解し、それを正しく活用することができる。
3．授業であつかった作品について自分なりの解釈を提示できる。
授業への貢献度　５０％（プレゼンテーションとディスカッション）
期末レポート　５０％

【学生の意見等からの気づき】
演習らしい演習になるよう、学生各自に積極的な授業参加をうながす。指名して発言を求める。

【Outline and objectives】
Literary criticism is primarily an act of interpreting literary works (literary texts). Interpretation is an act of fixing a specific context for reading a text and defining the meaning of the text. After learning the elements for making a literary interpretation, students concretely analyze a text (a movie based on a British novel) in relation to some cultural and social context. In that process, students learn the basic concepts and keywords necessary to analyze a film. Then students learn practical methods for adaptation studies to interpret a movie through comparing it with the original work. Finally, students discuss one another's interpretations of the film treated in class.

LIT300BD

英米文学演習 (8) A

山崎　暁子

授業コード：A2957　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、英語で書かれた様々な短編小説を原語で読み、小説の一部分を日本語に翻訳してみることにより、文学作品の英語表現を学ぶ。また、小説のテーマや表現についてのディスカッションを通して、英語圏の国・地域の文化に関する知識を身につけ、多様な視点を獲得することを目指す。

【到達目標】
英語を正確に読む技術を向上させる。自分の常識だけで解釈するのではなく、コンテクストに沿った解釈ができるようになる。ひとつのテクストのなかに現れる、口調の違いや別のテクストへの言及への感度を高める。ディスカッションでは自らの考えを表現するとともに、様々な考え方を理解し、思索を深める。期末レポートにおいては、授業で扱った小説について自分なりの問題提起をして論じることで、考察を深め、論理的に文章を組み立てられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
“beauty” をキーワードとして、様々な短編小説を読む。イギリスの児童文学を中心に、英語圏の複数の国、異なるジャンルの短編を読むことで、文化と文学の多様性に触れる。この学期は、Oscar Wilde, Lucy Maud Montgomery, P. L. Travers, Eleanor Farjeon, Frances Hodgson Burnett の作品を扱う。授業では 1〜2 回にわたって 1 つの短編（または抜粋) を扱う。毎回発表者を決めて、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。ディスカッションの司会も学生が交代で担当する。
期末レポートにはコメントをつけて返却する。
※履修希望者は必ず第 1 回授業に出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方を説明し、受講者の知識・興味を確認する
第 2 回	ブレインストーミング	キーワード “beauty” についてディスカッション
第 3 回	イングランドの昔話 ― 昔話の英語と物語の特徴	"Kate Crackernuts" の発表とディスカッション
第 4 回	イギリスの代表的作家（1）― 19 世紀後半のイギリス	Oscar Wilde, "The Birthday of the Infanta" 前半の発表とディスカッション
第 5 回	イギリスの代表的作家（2）― 寓話の特徴	Oscar Wilde, "The Birthday of the Infanta" 後半の発表とディスカッション
第 6 回	カナダの作家― キリスト教的価値観	Lucy Maud Montgomery, *Anne of Green Gables* 抜粋の発表とディスカッション
第 7 回	カナダの作家 ― 20 世紀初頭のカナダ	Lucy Maud Montgomery, *Anne of Green Gables* 抜粋の発表とディスカッション
第 8 回	翻訳（1）―第 4 回〜7 回の短編の一部を翻訳・検討	翻訳の発表とディスカッション
第 9 回	イギリスの代表的児童文学作家①（1）― 20 世紀初頭のイギリス	P. L. Travers, *Mary Poppins* 抜粋の発表とディスカッション
第 10 回	イギリスの代表的児童文学作家①（2）― 散文と韻文	P. L. Travers, *Mary Poppins* 抜粋の発表とディスカッション
第 11 回	イギリスの代表的児童文学作家②― 枠物語	Eleanor Farjeon, "The Veil of Irazade" の発表とディスカッション
第 12 回	イギリスの代表的児童文学作家③― 20 世紀初頭の子供像	Frances Hodgson Burnett, *The Secret Garden* 抜粋の発表とディスカッション
第 13 回	翻訳（2）―第 9 回〜12 回の短編の一部を翻訳・検討	翻訳の発表とディスカッション
第 14 回	まとめ	春学期に読んだテクストを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テクストの指定範囲を熟読し、できる限りの下調べをする。調べてわかったことと、残っている疑問点をノートにまとめたうえでディスカッションに参加する。
本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業で配布する。

【参考書】
辞書は必ず持参すること。
石塚久郎編『イギリス文学入門』三修社　2014 年
諏訪部浩一編『アメリカ文学入門』三修社　2013 年
ハウエルズ、コーラル・アン他編『ケンブリッジ版カナダ文学史』彩流社　2016 年
Williams, Mark. *A History of New Zealand Literature*. Cambridge UP, 2016.
桂宥子他編『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房　2007 年

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度と参加の度合 30 %、発表・司会 30 %、期末レポート 40 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
自由に意見を言い合える雰囲気づくりに努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業で配布する資料を授業支援システムにもアップロードする。

【Outline and objectives】
This course helps students to learn about the diverse culture and literature of English-speaking countries through presentations and discussions about literary text. We will read various short stories in English that are related to "beauty" and translate some passages into Japanese. At the end of the course, participants should have acquired the knowledge and skills needed to analyse English literary text and will be able to discuss stories logically from their own viewpoint.

LIT300BD

英米文学演習 (8) B

山崎　暁子

授業コード：A2958　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、英語で書かれた様々な短編小説を原語で読み、小説の一部分を日本語に翻訳してみることにより、文学作品の英語表現を学ぶ。また、小説のテーマや表現についてのディスカッションを通して、英語圏の国・地域の文化に関する知識を身につけ、多様な視点を獲得することを目指す。

【到達目標】
英語を正確に読む技術を向上させる。自分の常識だけで解釈するのではなく、コンテクストに沿った解釈ができるようになる。ひとつのテクストのなかに現れる、口調の違いや別のテクストへの言及への感度を高める。ディスカッションでは自らの考えを表現するとともに、様々な考え方を理解し、思索を深める。期末レポートにおいては、授業で扱った小説について自分なりの問題提起をして論じることで、考察を深め、論理的に文章を組み立てられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
“beauty” をキーワードとして、様々な短編小説を読む。イギリスの児童文学を中心に、英語圏の複数の国、異なるジャンルの短編を読むことで、文化と文学の多様性に触れる。この学期は、Margaret Mahy, Agatha Christie, Ursula K. Le Guin, Edith Nesbit, Philippa Pearce, Joan Aiken, Katherine Mansfield の作品を扱う。
授業では 1〜2 回にわたって 1 つの短編（または抜粋）を扱う。毎回発表者を決めて、プレゼンテーションとディスカッションを中心に進める。ディスカッションの司会も学生が交代で担当する。
期末レポートにはコメントをつけて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	夏休み課題報告、秋学期に扱う作品の紹介、受講者の知識・興味の確認
第 2 回	ニュージーランドの代表的児童文学作家（1）— 20 世紀のニュージーランド	Margaret Mahy, "A Work of Art "前半の発表とディスカッション
第 3 回	ニュージーランドの代表的児童文学作家（2）— ファンタジー	Margaret Mahy, "A Work of Art" 後半の発表とディスカッション
第 4 回	イギリスの推理小説作家（1）— 20 世紀前半のイギリス	Agatha Christie, "The Case of the City Clerk" 前半の発表とディスカッション
第 5 回	イギリスの推理小説作家（2）— 伏線の作用	Agatha Christie, "The Case of the City Clerk" 後半の発表とディスカッション
第 6 回	アメリカの SF 作家 — SF	Ursula K. Le Guin, "The Kerastion" の発表とディスカッション
第 7 回	翻訳（1）—第２回〜６回の短編の一部を翻訳・検討	翻訳の発表とディスカッション
第 8 回	イギリスの代表的児童文学作家④（1）— 20 世紀初頭のイギリス	Edith Nesbit, *Five Children and It* 抜粋の発表とディスカッション
第 9 回	イギリスの代表的児童文学作家④（2）— ストーリーテリング	Edith Nesbit, *Five Children and It* 抜粋の発表とディスカッション
第 10 回	イギリスの代表的児童文学作家⑤ — リアリズム	Philippa Pearce, "Her Father's Attic" の発表とディスカッション
第 11 回	イギリスの代表的児童文学作家⑥ — メタフィクション	Joan Aiken, "Four Angels to My Bed" の発表とディスカッション
第 12 回	ニュージーランドの代表的作家 — 意識の流れ	Katherine Mansfield, "The Young Girl" の発表とディスカッション
第 13 回	翻訳（2）—第８回〜１２回の短編の一部を翻訳・検討	翻訳の発表とディスカッション
第 14 回	まとめ	秋学期に読んだテクストを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テクストの指定範囲を熟読し、できる限りの下調べをする。調べてわかったことと、残っている疑問点をノートにまとめたうえで授業に出席する。本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業で配布する。

【参考書】
辞書は必ず持参すること。
石塚久郎編『イギリス文学入門』三修社　2014 年
諏訪部浩一編『アメリカ文学入門』三修社　2013 年
ハウエルズ、コーラル・アン他編『ケンブリッジ版カナダ文学史』彩流社　2016 年
Williams, Mark. *A History of New Zealand Literature*. Cambridge UP, 2016.
桂宥子他編『はじめて学ぶ英米児童文学史』ミネルヴァ書房　2007 年
ゴックシク、カレン・M 他著『映画で実践！ アカデミック・ライティング』小鳥遊書房　2019 年

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献度と参加の度合 30 %、発表・司会 30 %、期末レポート 40 % の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
自由に意見を言い合える雰囲気づくりに努めたい。

【学生が準備すべき機器他】
授業で配布する資料を授業支援システムにもアップロードする。

【Outline and objectives】
This course helps students to learn about the diverse culture and literature of English-speaking countries through presentations and discussions about literary text. We will read various short stories in English that are related to "beauty" and translate some passages into Japanese. At the end of the course, participants should have acquired the knowledge and skills needed to analyse English literary text and will be able to discuss stories logically from their own viewpoint.

ARS300BD

英米文学演習 (9) A

宮本　文

授業コード：A2959　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
毎年異なる角度からアメリカ文学や文化への理解を深めるゼミです。今年度のテーマは「アメリカ文学と家族」です。家族は、その不在である場合も含めて、アイデンティティの形成に大きく影響を与えるものであり、文学作品の中に描かれる家族のあり方（あるいは家族が不在であること）に着目することによって、人物たちの人間関係や文化的背景や人生観を読み取ることもできます。また、それぞれの作品間の家族の描かれ方の違いをアメリカ文学史のなかで考えることは歴史観を養うことにもつながります。これらのことを具体的に作品を読みながら全員で考えていきます。

【到達目標】
1．扱う作家・作品について理解を深める
2．感想や意見や疑問を、効果的に表現・プレゼンテーションすることができるようになる
3．ゼミの仲間の意見に耳を傾け、建設的にレスポンスすることができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
シャーロット・パーキンス・ギルマン (1860-1935)、アーネスト・ヘミングウェイ (1899-1961)、ウィリアム・フォークナー (1897-1962)、バーナード・マラマッド (1914-86) の作品に具体的に触れ、家族を定点として作品が提示する世界や諸問題に理解を深めていきます。いずれもよく知られたアメリカを代表する作家たちです。担当箇所を決め、学生による発表、教員による補足説明、全員での討論のという形で進めていきます。学期の後半には、春学期と秋学期に扱う各作家の他作品を各自が読んで考察する、各 5 分程度のプレゼンテーションも予定しています。授業の最初に前回提出されたリアクションペーパーから代表的な意見や独創的な意見を紹介します。資料持ち込みテストについては、秋学期のはじめに全体的な講評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容と進め方、次回までの宿題の説明
第 2 回	アメリカ文学と家族についての様々なあり方	アメリカと「家族」に関する背景的知識
第 3 回	Charlotte Perkins Gilman (1860-1935) “The Yellow Wall Paper” (1892) シャーロット・パーキンス・ギルマン「黄色い壁紙」	女性の抑圧・創造的表現行為・ヒステリー治療
第 4 回	Ernest Hemingway (1899-1961) “Indian Camp” (1924) アーネスト・ヘミングウェイ「インディアン・キャンプ」	父と子とイニシエーション
第 5 回	Ernest Hemingway “The Doctor and the Doctor’s Wife” (1925) アーネスト・ヘミングウェイ「医師とその妻」	夫婦関係と子ども
第 6 回	William Faulkner (1897-1962) “Barn Burning” (1939) ウィリアム・フォークナー「納屋を焼く」(前半)	正義か血か？
第 7 回	William Faulkner (1897-1962) “Barn Burning” (1939) ウィリアム・フォークナー「納屋を焼く」(後半)	血の呪縛からの解放？
第 8 回	Bernard Malamud (1914-1986) “First Seven Years” (1950) バーナード・マラマッド「最初の 7 年」(前半)	20 世紀ニューヨーク、ユダヤ系移民たちのコミュニティの風景
第 9 回	ペーパーの書き方	短い引用・長い引用・要約の練習、パラグラフ・ライティング
第 10 回	Bernard Malamud (1914-1986) “First Seven Years” (1950) バーナード・マラマッド「最初の 7 年」(後半)	家族の再生産
第 11 回	ブックトーク（ギルマン、ヘミングウェイ、フォークナー）	各自、授業で読まなかった作品を紹介する
第 12 回	ブックトーク（マラマッド、キングストン、カーヴァー）	各自、授業で読まなかった作品を紹介する
第 13 回	ブックトーク（オコナー、ボールドウィン、ル＝グィン）	各自、授業で読まなかった作品を紹介する
第 14 回	資料持ち込みの試験とまとめ	春学期まとめ、夏休みのペーパー課題の説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者はハンドアウトを作成し、人数分コピーを用意します。ハンドアウトの作成方法は、初回の授業時に詳しく説明します。発表担当者でない場合にも、授業で扱う短編小説の該当箇所をかならず読み、指摘すべき箇所に下線を引いてコメントを準備し、授業での発言やグループディスカッションに備えます。その他、復習を確認するための課題に、授業時間外で取り組むこともあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
初回の授業時に指示します。短編小説は英語で読みますが、どの作品も翻訳が出ていますので、積極的に比較・参照してみてください。

【参考書】
授業でその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）、発表（35 %）、資料持ち込みテスト（35 %）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
演習ですので、ゼミ生による毎回の討論の積み重ねが大事です。仲間のために遅刻や欠席をしないように心がけましょう。ゼミ履修以前には小説をあまり読んだことがなかった人でも、ゼミの討論に参加する中で小説の読み方を身につけられたという声がありましたので、心配せずに受講してください。

【Outline and objectives】
The aim of this seminar is to understand American literature by focusing on different aspects of culture every year. This year we will read American short stories by paying special attention to the family. Most of the stories we will deal with were written by 20th century and contemporary writers. The seminar also enhances students’ skills in close reading of texts and in effective oral presentations.

ARS300BD

英米文学演習 (9) B

宮本　文

授業コード：A2960　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
毎年異なる角度からアメリカ文学や文化への理解を深めるゼミです。今年度のテーマは「アメリカ文学と家族」です。家族は、その不在である場合も含めて、アイデンティティの形成に大きく影響を与えるものであり、文学作品の中に描かれる家族のあり方（あるいは家族が不在であること）に着目することによって、人物たちの人間関係や文化的背景や人生観を読み取ることもできます。また、それぞれの作品間の家族の描かれ方の違いをアメリカ文学史のなかで考えることは歴史観を養うことにもつながります。これらのことを具体的に作品を読みながら全員で考えていきます。授業の最初に前回提出されたリアクションペーパーから代表的な意見や独創的な意見を紹介します。第 14 回の授業で提出するペーパーについては、春休み中に全体的な講評を「学習支援システム」を通じて送ります。

【到達目標】
1．扱う作家・作品について理解を深める
2．感想や意見や疑問を、効果的に表現・プレゼンテーションすることができるようになる
3．ゼミの仲間の意見に耳を傾け、建設的にレスポンスすることができるようになる
4．文献検索の方法を身につけ、テーマを設定してペーパーを書けるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
フラナリー・オコナー (1925-64)、ジェイムズ・ボールドウィン (1924-1987)、マキシーン・ホン・キングストン (1940-)、レイモンド・カーヴァー (1938-1988)、アーシュラ・K・ル=グィン (1929-2018) の作品に具体的に触れ、理解を深めていきます。いずれもよく知られたアメリカを代表する作家たちであり、秋学期はとくにマイノリティや移民、あるいは女性・生殖などの問題を絡めながら「家族」の問題を考えていきます。また、夏休みに 3 冊の長編作品の中から 1 冊を選んで短いペーパーを書き、秋学期後半のグループ発表に繋げます。ゼミ仲間や教員からのフィードバックを参考にしつつ、ペーパーをリヴァイズする作業にも取り組みます。自分を生み出した家族を否定し、自らの創造主として振舞う男が主人公であるスコット・フィッツジェラルドの『グレート・ギャツビー』(*The Great Gatsby*, 1925)、19 世紀から 20 世紀にかけて中国系移民の家族・世代の物語を描いたマキシーン・ホン・キングストン『チャイナ・メン』(*China Men*, 1980)、現代のハーレムを舞台に親から性的虐待を受けて第二子目を妊娠中のティーンネイジャーが読み書き習得と共に自分の世界を再構築していく サファイア『プレシャス』(*Push*, 1996) の 3 冊を予定しています。授業では、担当箇所を決め、学生による発表、教員による補足説明、全員での討論という形で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	短いペーパー提出、文献検索方法	図書館データベースの使い方を学ぶ
第 2 回	文献検索フォローアップ、グループ分け	文献検索結果について各自が発表、要約の仕方を学ぶ
第 3 回	Flannery O'Connor (1925-1964) "Everything That Rises Must Converge" (1961) フラナリー・オコナー「すべて上昇するものは一点に集まる」(前半)	人種差別的な母と進歩的な息子?
第 4 回	Flannery O'Connor (1925-1964) "Everything That Rises Must Converge" (1961) フラナリー・オコナー「すべて上昇するものは一点に集まる」(後半)	価値観の変容と痛み
第 5 回	James Baldwin (1924-1987) "Sunny's Blues" (1957) ジェイムズ・ボールドウィン「サニーのブルース」(前半)	ハーレムのレトリックと無力感
第 6 回	James Baldwin (1924-1987) "Sunny's Blues" (1957) ジェイムズ・ボールドウィン「サニーのブルース」(後半)	兄が弟にできること
第 7 回	Maxine Hone Kingston (1940-) "No Name Woman" (1975) マキシーン・ホン・キングストン「名のない女」	語られなかった女性たちの歴史
第 8 回	研究論文の読み方、映画の読み方	ゼミで扱った作品について書かれた論文を読む
第 9 回	Raymond Carver (1938-1988)"My Father's Life" (1984) レイモンド・カーヴァー「父の肖像」	労働とプライド、家族を養うこととその重圧
第 10 回	Ursla K. Le Guin (1929-2018) "Standing Ground" (1992) アーシュラ・K・ル=グィン「立場を守る」	若年介護者の娘と母、中絶をめぐる言説空間
第 11 回	F. Scott Fitzgerald (1896-1940) *The Great Gatsby* (1925) スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』	グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）
第 12 回	Maxine Hone Kingston (1940-) *Chine Men* (1980) マキシーン・ホン・キングストン『チャイナ・メン』	グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）
第 13 回	Sapphire (1950-) *Push* (1996) サファイア『プレシャス』	グループ発表（夏休みのペーパーごとにテーマ設定）
第 14 回	秋学期のまとめ、書き直した長めのペーパーの提出と自己評価	家族の扱い、ペーパーのブラッシュアップ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者はハンドアウトを作成し、人数分コピーを用意します。発表担当者でない場合にも、授業で扱う短編小説の該当箇所をかならず読み、指摘すべき箇所に下線を引いてコメントを準備し、授業での発言やグループディスカッションに備えます。また、図書館データベースを利用しての文献検索、雑誌論文の要約作成、ゼミ仲間のペーパーへのフィードバックの作成など、論文執筆に必要なスキルを身につけるための課題を予定していますので、授業時間外に取り組み、提出締切を厳守するようにします。授業時間外で、グループ発表のための準備も進めていきます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
初回の授業時に指示します。短編小説は英語で読みますが、どの作品も翻訳が出ていますので、積極的に比較・参照してみてください。

【参考書】
授業でその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（30 %）、発表（35 %）、ペーパー関連（35 %）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
演習ですので、ゼミ生による毎回の討論の積み重ねが大事です。仲間のために遅刻や欠席をしないように心がけましょう。ゼミ履修以前には小説をあまり読んだことがなかった人でも、ゼミの討論に参加する中で小説の読み方を身につけられたという声がありましたので、心配せずに受講してください。

【Outline and objectives】
The aim of this seminar is to understand American literature by focusing on different aspects of culture every year. This year we will read American short stories by paying special attention to the family. Most of the stories we will deal with were written by 20th century and contemporary writers. The seminar also enhances students' skills in close reading of texts and in effective oral presentations and papers.

ARS300BD

Seminar in Cross-cultural Studies A

田中　裕希

授業コード：A2986　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「自己」をテーマに、主に英語圏の文学作品と映画を分析する。子供時代、思春期、成人期といった自己形成のプロセスが作品でどのように描かれているか。文化や歴史は「私」にどのような影響を与えるのか。非英語圏の作品とも比較しながら考える。

【到達目標】
Students will develop the ability to read texts closely, with an eye to their cross-cultural contexts.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will receive feedback on their work in class, via Hoppii, and during office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	Nature vs. nurture
第 2 回	Dylan Thomas, "Fern Hill"	Childhood and self
第 3 回	Katherine Mansfield, "Garden Party"	Coming of age
第 4 回	"Garden Party"	Gender and self
第 5 回	*Boyhood*	Time and self
第 6 回	Ernest Hemingway, "Big Two-Hearted River"	War and trauma
第 7 回	"Big Two-Hearted River"	Continued
第 8 回	James Baldwin, "Notes of a Native Son"	Racial identity
第 9 回	"Notes of a Native Son"	Family and self
第 10 回	*Pariah*	Race and sexuality
第 11 回	Sylvia Plath	Confessional poetry
第 12 回	Soseki Natsume, *Kokoro*	Confession as a genre
第 13 回	*Kokoro*	Japanese self?
第 14 回	Conclusion	Final discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Each week, students will read a novel, a short story, or a poem or two. They are expected to spend at least four hours preparing for each class.

【テキスト（教科書）】
『こころ』(新潮社) 夏目 漱石 (著)
Handouts will be distributed in class.

【参考書】
To be announced in class.

【成績評価の方法と基準】
Attendance, Participation, Homework: 30%
Presentation: 30%
Final Paper: 40%
More than three absences will result in an "E."

【学生の意見等からの気づき】
引き続き活発なディスカッションを心がける。

【Outline and objectives】
In this class, we will analyze literary texts and films that focus on the making of self. How do characters and speakers evolve over the course of the text? How do cultural and historical contexts inform this process?

ARS300BD

Seminar in Cross-cultural Studies B

田中　裕希

授業コード：A2987　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「都市」をテーマに、ニューヨークにまつわる文学と映画を見ていく。ニューヨークの文化や歴史的背景をふまえつつ、都市に生きるとはどういうことなのか、また都市特有の文学とは何かを考える。授業後半では東京を舞台にした作品を通じて、都市文学への理解を深める。

【到達目標】
Students will develop the ability to read texts closely, with an eye to their cross-cultural contexts.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will receive feedback on their work in class, via Hoppii, and during office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	The city in literature and film
第 2 回	*Age of Innocence*	NYC in the 1870s
第 3 回	*Age of Innocence*	Freedom and tradition
第 4 回	New York School (1)	Art in New York
第 5 回	New York School (2)	Walking in the city
第 6 回	Elizabeth Bishop, "The Man-Moth"	The city and solitude
第 7 回	*The Apartment*	Working in the city
第 8 回	*The Apartment*	Continued
第 9 回	Langston Hughes, "The Weary Blues"	Race and the city
第 10 回	Bernard Malamud, "The Jewbird"	Immigrants in NYC
第 11 回	Poetry Workshop	Writing about the city
第 12 回	*Lost in Translation*	Life in Tokyo
第 13 回	*Lost in Translation*	Continued
第 14 回	Conclusion	Final discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
Each week, students will read a novel, a short story, or a poem. They are expected to spend at least four hours preparing for each class meeting.

【テキスト（教科書）】
Handouts will be distributed in class.

【参考書】
To be announced in class.

【成績評価の方法と基準】
Attendance, Participation, Homework: 30%
Presentation: 30%
Final Paper: 40%
More than three absences will result in an "E."

【学生の意見等からの気づき】
引き続き活発なディスカッションを心がける。

【Outline and objectives】
In this class, we will explore the theme of the city by analyzing literary texts and films set in New York City. What are some of the characteristics of city life and how are they represented in these texts?

LIN200BD

英語の文法力Ⅰ

椎名　美智

授業コード：A2977　｜　曜日・時限：**月曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生に必要な英語力の基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力ですので、本授業は、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力をアップさせることを目的にしています。

【到達目標】
英語を話すときに必要な構文やフレーズが、実際のコミュニケーションで自然に使えるようになります。役にたつ英語の構文を理解し、必要なフレーズを暗記し、応用することによって、自然に自分の言いたいことが、適切な構文と語彙を使って言えるように、書けるようになります。また、PPT を使って、英語でプレゼンテーションができるようになる勉強もします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業開始日は 4 月 13 日です。初回はリモートの予定ですが、HOPPII で連絡します。
それまでに生協などで、教科書を手に入れておいてください。
テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。学生によるプレゼンテーションも行います。少人数での演習タイプの授業を行う予定なので、履修希望者が多い場合は、小テストによる選抜を行います。よって、履修希望者は必ず初回の授業に出席してください。
毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究領域の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	Unit 1: 動詞の基礎と文型 (1)	学生のプレゼンテーション、動詞の基礎と文型についての復習と総括
第 3 回	Unit 1: 動詞の基礎と文型 (2)	学生のプレゼンテーション、動詞の基礎と文型についての演習、小テスト
第 4 回	Unit 2: 動詞２ (1)	学生のプレゼンテーション、動詞についての復習と総括
第 5 回	Unit 2: 動詞２ (2)	学生のプレゼンテーション、動詞の用法と演習、小テスト
第 6 回	Unit 3: 時制　(1)	学生のプレゼンテーション、時制についての復習と総括
第 7 回	Unit 3: 時制 (2)	学生のプレゼンテーション、時制についての演習、小テスト
第 8 回	中間のまとめと復習	学生のプレゼンテーション、これまでの復習と演習、小テスト
第 9 回	Unit 4: 助動詞　(1)	学生のプレゼンテーション、助動詞についての復習と総括、小テスト
第 10 回	Unit 4: 助動詞 (2)	学生のプレゼンテーション、助動詞についての演習、小テスト
第 11 回	Unit 5: 名詞・冠詞・代名詞 (1)	学生のプレゼンテーション、名詞・冠詞・代名詞についての復習と総括、小テスト
第 12 回	Unit 5: 名詞・冠詞・代名詞 (2)	学生のプレゼンテーション、名詞・冠詞・代名詞についての演習、小テスト
第 13 回	Unit 6: 形容詞と副詞 (1)	学生のプレゼンテーション、形容詞と副詞についての復習と総括、小テスト
第 14 回	Unit 6: 形容詞と副詞 (2)、試験とまとめ	学生のプレゼンテーション、形容詞と副詞についての演習、春セメスターで学んだことについての試験と振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習し、問題をやった上で、授業に出席する必要があります。また、復習をきちんと行い、宿題で指定された構文を暗記して、小テストに備える必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
町田健・豊島克己　（２０１４）『大学生のための英文法再入門』研究社

【参考書】
必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを配布します。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 80 %、プレゼンテーション 20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題は HOPPII の課題として添付ファイルで提出してもらいます。

【その他の重要事項】
・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋セメスターと、連続して履修してください。
・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

LIN200BD

英語の文法力Ⅱ

椎名　美智

授業コード：A2978　｜　曜日・時限：**月曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
大学生に必要な英語力を身につけるための基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力ですので、本授業では、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力をアップさせる勉強をします。

【到達目標】
英文法を総復習し、反復的な演習を行うことによって、英語を話すときに必要な構文やフレーズが、実際のコミュニケーションで自然に使えるように練習します。役にたつ英語の構文を理解し、必要なフレーズを暗記し、応用することによって、自然に自分の言いたいことが、適切な構文と語彙を使って言えるように、書けるように勉強します。また、パワーポイントを使って英語でプレゼンテーションができるようになる練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には対面授業の予定ですが、状況によっては、リモートになるかもしれません。HOPPII で連絡します。連絡事項や課題は前日までに HOPPII にアップロードするので、必ず見てから授業に臨んでください。
テキストを中心にして、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。学生はプレゼンテーションを行います。少人数による演習タイプの授業を行う予定です。履修希望者が多い場合は、初回の授業で、小テストによる選抜を行いますので、履修希望者は必ず初回授業に出席してください。
毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	扱う領域の概説と秋学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	Unit 7: 態　(1)	学生によるプレゼンテーション、態についての復習と総括
第 3 回	Unit 7: 態　(2)	学生によるプレゼンテーション、態についての演習、小テスト
第 4 回	Unit 8: 否定・疑問 (1)	学生によるプレゼンテーション、否定・疑問についての復習と総括、小テスト
第 5 回	Unit 8: 否定・疑問 (2)	学生によるプレゼンテーション、否定・疑問についての演習、小テスト
第 6 回	Unit 9: 準動詞 (1)	学生によるプレゼンテーション、準動詞についての復習と総括、小テスト
第 7 回	Unit 9: 準動詞 (2)	学生によるプレゼンテーション、準動詞についての演習、小テスト
第 8 回	中間のまとめと復習	学生によるプレゼンテーション、これまでの復習と演習、エッセイライティング
第 9 回	Unit 10: 準動詞２・接続詞 (1)	学生によるプレゼンテーション、準動詞２・接続詞についての復習と総括、小テスト
第 10 回	Unit 10: 形容詞と副詞 (2)	学生によるプレゼンテーション、準動詞２・接続詞についての演習、小テスト
第 11 回	Unit 11: 関係詞 (1)	学生によるプレゼンテーション、関係詞についての復習と総括、小テスト
第 12 回	Unit 11: 関係詞 (2)	学生によるプレゼンテーション、関係詞についての演習、小テスト
第 13 回	Unit 12: 形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句 (1)	学生によるプレゼンテーション、形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句 についての復習と総括、小テスト
第 14 回	Unit 12: 形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句 (2)、テストと振り返り	学生によるプレゼンテーション、形容詞的修飾語句と副詞的修飾語句について演習、秋セメスター全体のテスト、これまでの授業のまとめに加え試験、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習し、問題をやった上で、授業に出席する必要があります。また、復習をきちんと行い、宿題で指定された構文を暗記して、小テストに備える必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
町田健・豊島克己　（２０１４）『大学生のための英文法再入門』研究社

【参考書】
必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを HOPPII にアップロードします。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 80%、課題・プレゼンテーション 20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
課題は HOPPII に添付資料で提出してもらいますので、自分用の PC があると良いと思います。

【その他の重要事項】
・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋セメスターを続けて履修してください。
・オフィスアワーについては、授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

BSP200BD

メディア・リテラシーⅠ

田中　邦佳

授業コード：A2979　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
新聞、雑誌、テレビなどのメディアやインターネット上には多種多様なデータがグラフなどの形で可視化され掲載されています。データを目に見える形にする方法には様々な手法があり、読み取りが困難であったり、そのまとめ方に何らかの意図が込められている場合もあります。
本授業は、これまでデータ分析にあまり馴染みのない参加者を対象にします。授業では、データを受け取る側として各種のグラフの読み取り方や、読み取りの注意点を学び、データを発信する側として、データの種類によってどのような手法を用いるのが適切か、また、データ化や可視化における注意点を学びます。
授業の参加者各自が何らかのテーマを設定し、データを可視化して誰にもわかりやすいレポートを完成することを最終目的とする。

【到達目標】
(1) 各種のグラフの読み取りができるようになる。
(2) 具体的な場合に応じたデータのグラフ化ができるようになる。
(3) データを客観的に文で報告できるようになる。
(4) 上記の 3 つの項目を踏まえて、何らかのデータを適切に発信できるように１枚のポスターにしてまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式でメディア上で見られる、各種のデータ・グラフを紹介します。
参加者は、それらのデータから読み取れることを考えたり、作図する演習を行い、レポート執筆の準備を行います。データの解釈やまとめ方についてグループディスカッションを行うこともあります。
授業の最終目標のレポートの完成に向け、各自が考えたデータ分析のテーマや可視化の手法について教員からコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方の説明
第 2 回	様々なグラフ	グラフの種類の紹介
第 3 回	棒グラフ	棒グラフについて学ぶ
第 4 回	ヒストグラム	ヒストグラム
第 5 回	折れ線グラフ	折れ線グラフ
第 6 回	２つの手法が組み合わされたグラフ	２つの手法が組み合わされたグラフ
第 7 回	散布図	散布図
第 8 回	円グラフ	円グラフ
第 9 回	適しているグラフ適していないグラフ	データのまとめ方に合わせたグラフの選び方
第 10 回	データを表にする	データを表にする
第 11 回	データの数値化	データを数値としてまとめる時の注意点
第 12 回	平均値と中央値	平均値と中央値
第 13 回	標準偏差	標準偏差
第 14 回	ことばで報告する	データを文で説明する場合の注意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参加者は、各種データを読み取って文にまとめたり、数値データをまとめてグラフなどの形に作図し準備しておく必要があります。最終レポートに向け、データ分析の計画を立て、途中経過を報告する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布します。

【参考書】
特にありません。
個別の項目に対し、参考になりそうな情報に関しては授業中にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】
40%: 期末課題（ポスター）
60%: 授業内外の課題
以下のいずれかに該当する場合は評価の対象としません。
・授業での課題の未提出が 4 回に達した場合
・期末の課題が提出されなかった場合

【学生の意見等からの気づき】
実現可能なレポートのテーマの設定や、データの構築、分析に時間を要することが伝わっていないように感じました。その点についてより実感を持って理解できるように促すことができたらと思います。

【学生が準備すべき機器他】
課題の提出のために学習支援システムを使用する予定です。

【その他の重要事項】
作図の演習では、データの入力など初歩的な項目から実際のデータ分析においてミスをしてしまいがちなポイントや、困難点になりそうな点を紹介します。
本授業では、卒業論文などのために調査や実験の結果の可視化の具体的な手法を学びたい、今後のためにデータの可視化の手法を学びたいという参加者を対象にします。授業では記述統計の手法を扱いますが、推測統計は扱わないことに留意してください。

【Outline and objectives】
In this course, students will learn methods for summarizing and visualizing data.

BSP200BD

メディア・リテラシーⅡ

吉川　純子

授業コード：A2980　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、今日的なさまざまなトピックについて自分で調べ、何が正しいのか比較検討して選択をする訓練を通して、主体的に情報の取捨選択ができる力、すなわちメディア・リテラシーを身につけます。

【到達目標】
学校で教わったことやマスコミで流される情報を鵜呑みにしている人のことを、ネットの世界では「情報弱者（情弱）」と呼びます。だまされて操られる「カモ」にされかねない「情弱」を脱却し、一つのトピックについて異なる立場や意見があることを調べて理解できるようになり、考えて議論することができるようになり、主体的に情報を取捨選択できる「情報強者（情強）」になることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は、対面の演習形式で行います。初回の授業で、各トピックについてのリーディングリストを受講者全員に配布します。ただし、それはあくまで考えるきっかけであって、そこに書いてあることを鵜呑みにしてほしいわけではありません。発表担当者はそのトピックについて調べ、わかったことや考えたことを発表します。その際、自分がこれまで知っていたこと、思っていたことと何が違うのかをはっきりさせてください。そして、どのような意見の違いがあるのかを紹介し、自分の考えを述べます。他の受講者は、同じトピックについて自分でも調べて考えてきてください。授業では担当者の発表の後、議論をしますが、結論を出すことが目的ではなく、立場の違いが明確になればよしとします。一人最低一回は発表をしなければなりませんが、発表後に教員のコメントを述べる形でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
イントロダクション	「情弱」と「情強」	授業の進め方など
第一回	日本の階級	格差社会の現状
第二回	健康格差	経済と健康のリンク
第三回	日本の人口減少	人口の減少によって何が起こるのか
第四回	貧困世代	なぜ今の若者世代は貧困に陥る可能性が高いのか
第五回	過労鬱、過労自殺	現状と対策
第六回	介護保険	介護保険の仕組み
第七回	消費税	消費税の仕組み
第八回	コロナ禍とワクチン	コロナ禍とワクチンをめぐる論争
第九回	食糧問題	食品添加物、農薬、遺伝子組み換え食品など
第十回	電磁波、経皮毒	どの程度有害か？
第十一回	ショック・ドクトリンと新自由主義	惨事便乗資本主義とは何か？
第十二回	戦後の日米関係と日米安全保障条約	なぜ重要なのか？
第十三回	今期学んだことのまとめ	今期学んだことを振り返り、議論する。レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者は、担当のトピックについて調べて論点を整理します。他の受講者も、同じトピックについて調べて考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
初回にリーディングリストを配布します。

【参考書】
初回に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
発表 30%、授業への貢献度 30%、レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】
「情報強者への一歩を踏み出せた」「マスコミの情報を鵜呑みにしてはいけないということがわかった」という感想をいただいて、とても心強く思いました。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン

【その他の重要事項】
取りあげるトピックは、知って楽しいものはないかもしれませんが、皆さんがこれから社会に出て大人として生きていくにあたって重要なものばかりです。社会の厳しい現実を直視し、「情報強者」として生き延びていくための重要な武器の一つははメディア・リテラシーです。「知的サバイバー」を目指して、ぜひこの授業に主体的に参加してください。

【Outline and objectives】
We are going to acquire media literacy by making research and giving presentations, and having discussions on several important topics.

HIS100BE

日本史概説Ⅰ

小倉　淳一

授業コード：A3101　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
旧石器時代から古墳時代までの概要を学ぶ。
日本史の基盤となる原始・古代の人間集団の動向を掴み、自己の研究基盤形成の基礎とすることを目標とする。
歴史学・考古学の研究を行う上で、歴史的事実とその解釈について理解する。

【到達目標】
考古学的な成果に基づき、各時代における文化的な特色を説明することができる。
各時代の人々の自然環境・社会環境への対応について検討することができる。
旧石器時代から古墳時代までの人間集団のありかたについて説明することができるとともに、それらを比較検討することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
日本列島において人類が活動を開始した旧石器時代から、狩猟・採集経済に生活の基礎がおかれた縄文時代、大陸型の水稲耕作が広く行われる弥生時代、前方後円墳が営まれ政治権力が広範囲に発達してゆく古墳時代までの展開について、考古学資料を中心として学ぶ。列島の原始・古代像を考えるための基礎となる授業と位置づけたい。
授業方法は講義形式による。受講者は必ず自分のノートを作成すること。プリントも併用する。
小テストを実施する場合や筆記試験のフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜 5 限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	旧石器時代の姿	人類の進化と旧石器文化の概要
第 3 回	日本の旧石器文化	日本列島における旧石器文化の概要
第 4 回	旧石器時代から縄文時代へ	旧石器時代後期の石器から土器の登場まで
第 5 回	縄文時代の生業	採集・狩猟文化の概要
第 6 回	縄文時代の社会	集落や墓からみる縄文時代の社会構造
第 7 回	縄文時代から弥生時代へ	縄文時代の終焉と新文化の形成
第 8 回	稲作の開始	稲作農耕技術の姿と主体者
第 9 回	弥生農村の姿	環濠集落と集団関係
第 10 回	金属器の普及とその意義	青銅器を中心とする儀器・祭器のありかた
第 11 回	弥生墓制と社会の特質	地域的な墓制の展開と地方間の関係
第 12 回	前方後円墳の成立と波及	弥生墳丘墓から古墳への変化と社会
第 13 回	古墳時代中期の政治と外交	中期古墳の特徴とヤマト王権の変質
第 14 回	古墳時代の終焉	後期古墳の特徴および古墳の消滅

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
関連文献を読み、旧石器時代から古墳時代にかけての理解を深めておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。ただし、参考書として掲げたもののうち、新書等は非常に読みやすいので、十分に活用すること。

【参考書】
日本列島を中心とした旧石器時代から古墳時代にかけての概説書を読んでおくこと。通史のシリーズなどに触れ、各時代の特色を理解すべきである。このほかの文献については授業内で紹介する。
吉田晶（1998）『新日本新書　490　倭王権の時代』新日本出版社
今村啓爾（1999）『歴史文化ライブラリー　76　縄文の実像を求めて』吉川弘文館
白石太一郎編（2002）『日本の時代史　1　倭国誕生』吉川弘文館
鈴木靖民編（2002）『日本の時代史　2　倭国と東アジア』吉川弘文館
石川日出志（2010）『農耕社会の成立　シリーズ日本古代史 1』岩波新書
吉村武彦（2010）『ヤマト王権　シリーズ日本古代史 2』岩波新書
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ

【成績評価の方法と基準】
期末に論述式の筆記試験を行う。授業内にも小テストを実施することがある。
試験は成績評価の 70 %とする。平常点は成績評価の 30 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
授業外に取り組む学習が成績に結びつくことを理解してほしい。参考書類を事前に読んで授業に臨むことで理解度も高まり、試験にも余裕を持って臨むことが可能となる。
高校までの授業形態を意識した講義形式で授業を進めるので、聴く力、まとめる力を十分に発揮し、考える力を伸ばしてほしい。

【その他の重要事項】
※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料にもとづく歴史展開を中心に講義する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to learn about Japan from the Paleolithic Age to the Kofun period.

HIS100BE

日本史概説Ⅱ

大塚　紀弘

授業コード：A3102　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・２単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国際的な視点から日本中世前期の社会や国家に対する理解を深めるため、地理感覚や中国との貿易による経済的な関係を題材に学ぶ。武家などの政治権力の関与もふまえつつ、貿易に伴う社会の変化に力点を置いて説明する。あわせて、史料を読解して史実を追究し、歴史像を描くという、歴史学の研究方法に親しむことを目的とする。

【到達目標】
平安時代後期から鎌倉時代における地理感覚や中国との経済的関係の実態について総体的に把握することができる。また、中国との経済的関係が日本中世社会の形成・展開に及ぼした影響について理解することができる。日本中世の漢文史料を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
７章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。パワーポイントの文面については、事前に各章毎に「学習支援システム」にアップロードする。授業の最後に、理解度を確認するため、小テストを実施する。小テストに記入された疑問点については、次回の授業で回答する（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	東アジアの中の日本中世史（１）	履修のガイダンスと日本中世史の概説
第２回	東アジアの中の日本中世史（２）	履修のガイダンスと日本中世史の概説
第３回	中世の国土観と境界地域（１）	西南・東北の境界地域と鎌倉幕府
第４回	中世の国土観と境界地域（２）	西南・東北の境界地域と鎌倉幕府
第５回	唐船の往来と博多綱首（１）	貿易船の形態と博多の貿易集団
第６回	唐船の往来と博多綱首（２）	貿易船の形態と博多の貿易集団
第７回	唐船貿易の構造（１）	京都貴族の唐物嗜好と日宋貿易の構造
第８回	唐船貿易の構造（２）	京都貴族の唐物嗜好と日宋貿易の構造
第９回	平氏政権と唐船貿易（１）	平清盛の外交・貿易政策
第10回	平氏政権と唐船貿易（２）	平清盛の外交・貿易政策
第11回	銅銭の輸入と流通（１）	渡来銭の流通と社会の変化
第12回	銅銭の輸入と流通（２）	渡来銭の流通と社会の変化
第13回	鎌倉幕府と唐船貿易	モンゴル襲来以前の貿易形態
第14回	唐船が中世社会にもたらしたもの	授業内容の総括（試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。ノート等を見直して復習する。また、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。各章毎にプリントを配布する。

【参考書】
村井章介『増補中世日本の内と外』（筑摩書房、２０１３年、初版１９９９年）
榎本渉『僧侶と海商たちの東アジア』（講談社、２０１０年）
石井正敏『ＮＨＫさかのぼり日本史外交篇８鎌倉　「武家外交」の誕生』（ＮＨＫ出版、２０１３年）
山内晋次『ＮＨＫさかのぼり日本史外交篇９平安・奈良　外交から貿易への大転換』（ＮＨＫ出版、２０１３年）
大塚紀弘『日宋貿易と仏教文化』（吉川弘文館、２０１７年）
その他は、授業の際、各章毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】
小テストの点数２８％、学期末試験の点数７２％の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席で、小テストが受けられない場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

【学生の意見等からの気づき】
授業評価は概して低かったが、記名・無記名のアンケートを合わせても、複数の学生に指摘された問題点はなかった。そこで、改善すべき点について、さらに学生に積極的に意見を出してもらう取り組みをしたい。

【Outline and objectives】
Learn historical research methods of reading historical materials, pursuing historical facts, and drawing historical images.

HIS100BE

日本史概説Ⅲ

松本　剣志郎

授業コード：A3103　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史は暗記物ではなく、思考を求めるものである。本授業の目的は、受講生が日本近世史について概略的な説明ができるようになることである。それは単なる事件の羅列ではなく、論理の説明でなければならない。歴史的思考力の鍛錬を求める所以である。本授業は日本近世史について概説するものである。戦国乱世を経て、およそ２６０年の泰平を享受した時代が対象である。とはいえ、仔細にこれを見るならば、そこにさまざまな矛盾を見出すことは容易い。それは表立った政治的な事件の場合もあれば、社会の深部でのうねりであることもある。近世の国家と社会が動いていく大きな方向を見定めていきたい。

【到達目標】
①日本近世の特質を説明できる。
②われわれの常識や慣習が歴史的につくられてきたものであることを理解し、それを説明できる。
③江戸時代と現代との差異を理解し、それを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業である。ただし、ときに教師は問いを発し、受講学生の意見を求める。Hoppii にアップされた教材を各自プリントアウトして授業に持参すること。あるいはタブレット端末等を持参し、画面上でみてもよい。13 回目の授業で、まとめや復習だけでなく、授業内で実施した試験や小レポート等、課題に対する講評や解説もおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容や進め方について
第 2 回	天下人の時代	信長・秀吉・家康
第 3 回	百姓世界	百姓成立（なりたち）
第 4 回	武士の変容	戦士から官僚へ
第 5 回	元禄時代	西鶴の眼
第 6 回	大江戸の光と影	荻生徂徠と武陽隠士
第 7 回	享保改革	商品貨幣経済
第 8 回	宝暦―天明期	絶対主義への傾斜
第 9 回	文人の時代	漢詩・俳諧・和歌・絵画
第 10 回	金次郎と尊徳	関東農村荒廃
第 11 回	内憂外患の時代	天保期の事態
第 12 回	世直し	希求された世の中
第 13 回	総括	まとめ
第 14 回	試験	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に参考書などを読むこと。授業中に適宜参考文献を示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。

【参考書】
深谷克己『江戸時代』（岩波ジュニア新書）
藤井譲治ほか『シリーズ日本近世史』１～５（岩波新書）
そのほか授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
声の大きさには気をつけますが、前の方に座ることを勧めます。

【Outline and objectives】
This course introduces early modern history of Japan to students taking this course.　At the end of the course, participants are expected to describe the characteristics of early modern history of Japan.

HIS100BE

日本史概説Ⅳ

長井　純市

授業コード：A3104　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・授業の概要：日本近現代史を手がかりとする日本史及び日本史研究に関する概説である。毎回、日本近現代史における政治・経済・外交・軍事・文化・生活に関わるトピックを取り上げ、その概要を説明すると共に、その周辺事情についても日本史全体の流れをふまえた解説を行う。
・目的：受講生は日本史、とりわけ日本近現代史に関する基礎的な知識を得ると共に、日本史研究、とりわけ日本近現代史研究の現状に関する基礎的な情報を得る。

【到達目標】
到達目標：1）日本史、あるいは日本近現代史を通観して概略的に説明することができるようになること。2）その上で、人々が歴史を叙述したり、また歴史研究を行ったりしてきたことの意味について、自分自身の捉え方を持つこと。3）過去・現在・未来と自分との関わりを考える手がかりを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
・進め方：講義形式である。
・方法：受講生の能動的な学習を促し、また双方向的な授業運営に努め、受講生の授業後のコメントや疑問などを適宜授業内で取り上げ、受講生との質疑応答を取り入れる。教室での対面授業を行うが、新型コロナウィルス感染問題への対応策として教室での対面授業をZOOM を利用して同時配信する方式を併用することもある。リアクションペーパーにおける受講生の疑問や質問、コメントなどには、次回の授業冒頭あるいは学習支援システムにおいて対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要説明。
第 2 回	日本近現代史概観	国会の歴史にかかわるビデオの紹介とその解説。
第 3 回	ペリー来航とその残像	日本の近代化を前近代及び現代日本との関わりから解説する。
第 4 回	明治六年政変	日本の近現代における国政指導解説。
第 5 回	殖産興業	日本の近代産業出発点の解説。
第 6 回	文明開化	日本の近代化初期における文明開化とそれに対する批判の解説。
第 7 回	近代政治思想の発達	日本の近代化を進めた政治思想に関するビデオの紹介とその解説。
第 8 回	日清戦争	日清戦争の種々相の解説。
第 9 回	日露戦争	日露戦争の種々相の解説。
第 10 回	大正政変	日本の近代化における政党政治の種々相の解説。
第 11 回	オレンジ作戦	米国の対日戦争構想をめぐる種々相解説。
第 12 回	女性運動	日本の近代化における女性の地位向上に関するビデオの紹介とその解説。
第 13 回	戦後概念について	日本近代史における戦後という表現の種々相解説。
第 14 回	まとめ	授業の総括と質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習：授業前に、学習支援システムにアップロードされる授業プリントをダウンロードし読んでおくこと。また、授業テーマに関する記事や参考書を読んでおくこと。
・復習：授業プリントを、授業後に読み直すこと。また、学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに授業後に記される毎回の授業の要点や補足説明などを読むこと。
・授業の中で紹介された参考文献を読むこと。
・授業内容に関する質問や疑問があれば学習支援システムの「一般ディスカッション」サイトに投稿すること。
・本授業の準備・復習時間として、各２時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
刊本としてのテキストは使用しない。毎回、授業内容をまとめたプリント（授業プリント）を学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに添付ファイルでアップロードする。受講生各自、授業前にダウンロードすること。

【参考書】
『日本近代の歴史』（吉川弘文館）全６巻
『現代日本政治史』（吉川弘文館）全５巻
アジア歴史資料センターや独立行政法人国立公文書館、国立国会図書館のウェブサイトにおける日本史関連解説コラム

【成績評価の方法と基準】
・平常点 40 %、試験 60 %（本科目の到達目標に沿った設題とする。参照可）。
・特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には、あるいは試験を受験しない場合には、不合格の評価とする。
・教室での試験実施が、新型コロナウィルス感染問題により、できない場合には、試験をリポート（設題方針は、上記の通り）に切り替えることもある。

【学生の意見等からの気づき】
日本史、あるいは日本近現代史に関する基礎的な知識の不足を感じている受講生もいることから、受講生の各授業テーマの前提となる基礎的な知識の理解度や授業で紹介した知識の定着度を試す質疑応答を効果的に利用する。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを利用することのできる IT 機器。
・ZOOM 授業を受講することができる IT 機器。

【その他の重要事項】
・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
・新型コロナウィルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、頻繁に閲覧し、見落とさないようにすること。
・担当教員宛の直接連絡にはメールを利用すること。そのメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline and objectives】
This course has two main points. The first point is to get a basic knowledge on the Japanese history through several topics of the modern Japanese history, for instance, politics, economy, diplomacy, military, culture, or life style. The second one is to get a basic information on the current academic trends in the study of Japanese history.

HIS100BE

東洋史概説 I

塩沢　裕仁

授業コード：A3105　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在の東アジア地域は経済や文化など多方面で飛躍的な発展を遂げ、今後世界の中で非常に重要な存在となっていくのは確実です。それ故に、アジアを如何に認識するかは我々にとって重要かつ急務な問題といえますが、実際のところアジアという地域の歴史、地理、民族などに対する知識が十分であるとはいえません。
当授業では東アジアにおける文明の発生から前漢の崩壊までの王朝の歴史や地域空間の変化を講じます。初めて東洋史を学ぶ学生にも、東洋史を学ぶことの意義を理解してもらいたいと思います。

【到達目標】
文献史料や近年増大する考古学の成果などを踏まえ，時間的・空間的に地域相をとらえながら，東アジア世界に対する研究の現状と問題点への理解を深めることができます。また、東アジアという地域に対して，これまでとは違ったものの見方，考え方，接し方，ひいては新たな歴史認識ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
遺蹟の残存・保護状況ならびに研究調査の状況、様々な文物に対する見方などを交えながら、東アジアで今後問題となりうる民族と地域を基軸と“覚える歴史”ではなく“考える歴史”を講じていきたいと考えています。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	東洋史の意義	現在の東アジア状況
第 2 回	東アジアの空間構成	東アジアの地域区分
第 3 回	文明とは	一元論と多元論
第 4 回	新石器時代の意義	新石器の集落展開
第 5 回	草創期の国家とは	王朝の誕生
第 6 回	邑制国家論	殷王朝の意義
第 7 回	封建国家とは	周と封建制度
第 8 回	地域観の成立	春秋時代の諸問題
第 9 回	分裂期の意義	戦国時代の諸問題
第 10 回	領域国家とは	都市国家と秦統一前史
第 11 回	統一国家とは	秦の統一と諸改革
第 12 回	漢帝国成立の意義	漢の登場とその性格
第 13 回	漢帝国拡大の影響	漢帝国の拡大と変容
第 14 回	秦漢代の社会	秦漢代の社会と民衆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
東洋史を勉強するのがはじめてという学生が大多数です。それゆえに、歴史事項だけでなく地理情報も講義を理解する上で不可欠な内容となります。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。事前に示したキーワードの理解ができていることを前提に講義をします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。適宜教材としてプリントを配布します。

【参考書】
参考文献については逐次紹介しますが、基本的なものとして『中国の歴史 上（古代－中世）・下（近代－近現代）』（愛宕元・冨谷至、昭和堂、2009 年改訂版）、『東アジア史入門』（布目潮渢・山田信夫著、法律文化社、1995 年版）、『ビジュアル版世界の歴史５、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史８、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）などに目を通しておいてもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。
あらかじめ授業内で課題を提示しますので、自らの考えを示せるよう、平素より講義内容を整理しておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
継続的な学習が原則ですので、欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。整理の中で生じた質問には応じます。

【その他の重要事項】
質問は当該授業の内容にかぎって授業終了後に受け付けます。

【Outline and objectives】
On studying Chinese History and Customs change with the times from the beginning of civilization to the collapse of West Han-Dynasty, we will be able to understand importance of study on Oriental History.

HIS100BE

東洋史概説Ⅱ

塩沢　裕仁

授業コード：A3106　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現在の東アジア地域は経済や文化など多方面で飛躍的な発展を遂げ、今後世界の中で非常に重要な存在となっていくのは確実です。それ故に、アジアを如何に認識するかは我々にとって重要かつ急務な問題といえますが、実際のところアジアという地域の歴史、地理、民族などに対する知識が十分であるとはいえません。
当授業では春学期（東洋史概説Ⅰ）の内容を踏まえ、後漢より三国、魏晋南北朝、隋の成立までの東アジア地域の歴史を講じます。東アジア地域の農耕・遊牧民族の性格や仏教文化などを再認識する場にしたいと考えています。

【到達目標】
文献史料や近年増大する考古学の成果などを踏まえ，時間的・空間的に地域相をとらえながら，東アジア世界に対する研究の現状と問題点への理解を深めることができます。また、東アジアという地域に対して，これまでとは違ったものの見方，考え方，接し方，ひいては新たな歴史認識ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
遺蹟の残存・保護状況ならびに研究調査の状況、様々な文物に対する見方などを交えながら、東アジアで今後問題となりうる民族と地域を基軸とし”覚える歴史”ではなく“考える歴史”を講じていきたいと考えています。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	豪族社会とは	後漢王朝の性格
第 2 回	曹操が構築したもの	曹操政権の性格
第 3 回	新時代の支配層とは	貴族制の成立
第 4 回	魏晋の民族問題	三国志の興亡と遊牧民族の登場
第 5 回	遊牧民族国家の意義	五胡十六国の興亡
第 6 回	鮮卑勃興の要因とは	部族制の克服
第 7 回	千年帝国論	北魏帝国の成立と変容
第 8 回	仏教の興隆	雲崗と龍門
第 9 回	隋唐時代への流れⅠ	北魏の分裂
第 10 回	隋唐時代への流れⅡ	北周から隋へ
第 11 回	江南王朝の意義	南朝諸王朝の興亡
第 12 回	貴族制の限界	南朝貴族制の変容
第 13 回	稀代の都建康	江南文化の熟成
第 14 回	東アジアの国際関係	古代日本と大陸交渉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
東洋史を勉強するのがはじめてという学生が大多数です。それゆえに、歴史事項だけでなく地理情報も講義を理解する上に不可欠な内容となります。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。事前に示したキーワードの理解ができていることを前提に講義をします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。適宜教材としてプリントを配布します。

【参考書】
参考文献については逐次紹介しますが、基本的なものとして『中国の歴史 上（古代－中世）・下（近代－近現代）』（愛宕元・冨谷至、昭和堂、2009 年改訂版）、『東アジア史入門』（布目潮渢・山田信夫著、法律文化社、1995 年版）、『ビジュアル版世界の歴史５、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史８、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）などに目を通しておいてもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %
あらかじめ授業内で課題を提示しますので、自らの考えを示せるよう、平素より講義内容を整理しておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
継続的な学習が原則ですので、欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。整理の中で生じた質問には応じます。

【その他の重要事項】
質問は当該授業の内容にかぎって授業終了後に受け付けます。

【Outline and objectives】
On studying the Chinese History and the Customs change with the times from East Han-Dynasty to the birth of Sui-Dynasty, we will be able to understand the difference between Agricultural and Nomadic cultures and realize the Buddhist culture.

HIS100BE

東洋史概説Ⅲ

宇都宮　美生

授業コード：A3107　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。隋から北宋までの中国の歴史を世界帝国の興亡と国際関係をテーマに見ていく。隋が築いた体制がどのように後世に継承されあるいは影響を与えたか、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に日中関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

【到達目標】
中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。質問に関しては授業中随時受け付け、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要	授業の進め方、歴史研究の意義
第 2 回	隋による国家統一	隋の成立と文帝の政治
第 3 回	隋の繁栄と衰退	煬帝の時代
第 4 回	隋と周辺民族	高句麗・西域との関係
第 5 回	隋から唐へ	唐王朝の成立とその背景
第 6 回	唐の成熟と国際文化	則天武后から玄宗へ
第 7 回	唐朝の危機と再建	安史の乱から徳宗の治世へ
第 8 回	唐の衰亡	牛李党争から黄巣の乱へ
第 9 回	唐と周辺諸地域	遣唐使、羈縻支配、節度使
第 10 回	唐宋変革の過渡期	五代中原王朝と十国の興亡
第 11 回	宋による中国再統一	節度使体制の解体と北宋の政治
第 12 回	党派の争い	王安石と司馬光
第 13 回	宋の経済と海外貿易	南海・日宋貿易
第 14 回	遼・金の建国と華北支配	北宋との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。プリントを配布する。

【参考書】
冨谷至・森田憲司『概説　中国史（上）』 昭和堂、2016 年
冨谷至・森田憲司『概説　中国史（下）』 昭和堂、2016 年
愛宕元・冨谷至編『中国の歴史　上・下』昭和堂、2009 年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』4～7 巻、講談社、2005 年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30%) と筆記試験（70%、事前に問題を知らせる）

【学生の意見等からの気づき】
学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
色鉛筆、マーカーなど。

【その他の重要事項】
履修希望者は第 1 回目の授業に出席し、ガイダンスを理解した上で履修すること。

【Outline and objectives】
This course introduces an understanding of Chinese history (from Sui to Northern Song Periods) in respect to international relations with other countries.　The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

HIS100BE

東洋史概説Ⅳ

宇都宮　美生

授業コード：A3108　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
豊富な歴史資料を有する中国を基軸として東アジア世界の形成の歴史過程を学習し、日本の制度や文化と深い関係をもつ東アジア諸国家に対する認識を深めていく。特に、日本と中国の交流史を通して、中国および世界の人々への関心を深め、国際社会の一員としての自覚と資質を培っていく。南宋から清までの中国の歴史を世界帝国の興亡と国際関係をテーマに見ていく。征服王朝と漢族の関係を軸に体制がどのように後世に継承されあるいは影響を与えたか、政治・財政・法制・軍政・農業・文化・対外関係などの視点から変遷過程を学んでいく。同時に欧米及び日本との関係史も学び、中国史から現在の日本社会を再考していく。

【到達目標】
中国史の流れをつかみ、史実を生み出した要因と背景、それによる影響と発展、さらには周辺国との相互影響と国際関係について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物・遺構・古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献・地図・写真・絵・表などの資料を多用し、その活用の仕方を学ぶ。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要	授業の進め方　歴史と日常生活
第 2 回	南宋による再建と安定	領土縮小と南方文化の開花
第 3 回	北宋・南宋の文化	発明と国外への伝播
第 4 回	南宋の滅亡とモンゴルの統一	金・モンゴルとの関係
第 5 回	元の繁栄と衰亡	多民族国家の政治と文化
第 6 回	明の成立と安定	皇帝独裁政治と靖難の変
第 7 回	アジアの中の明帝国	海禁から永楽帝の中華世界
第 8 回	北虜南倭の時代	長城と南海貿易
第 9 回	明の斜陽	中央政権の弱体化と北京落城
第 10 回	満洲族の中国統一	満洲国の樹立から北京遷都へ
第 11 回	清の全盛と華夷思想	康熙帝から乾隆帝へ
第 12 回	ヨーロッパの進出と戦乱	アヘン戦争から義和団事件へ
第 13 回	清の文化	中国の伝統とヨーロッパの科学
第 14 回	清の衰退	西太后から宣統帝へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に資料・論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。授業内で質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。レジュメを事前に配布するので各自印刷しておくこと。

【参考書】
冨谷至・森田憲司『概説　中国史（上）』 昭和堂、2016 年
冨谷至・森田憲司『概説　中国史（下）』 昭和堂、2016 年
愛宕元・冨谷至編『中国の歴史　上・下』昭和堂、2009 年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』7～10 巻、講談社、2005 年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30%) とレポート（70%、事前に問題を知らせる）

【学生の意見等からの気づき】
学生にわかりやすい授業を心掛けるが、書き写すだけでなく、考えていく姿勢を求める。また、授業内での教師の質問にも積極的に答えてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
色鉛筆、マーカーなど。

【その他の重要事項】
履修希望者は第 1 回目の授業に出席し、ガイダンスを理解した上で履修すること。

【Outline and objectives】
This course introduces an understanding of Chinese history (from Southern Song to Qing Periods) in respect to international relations with other countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

HIS100BE

西洋史概説Ⅰ

後藤　篤子

授業コード：A3109　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、鉄や文字を後世に遺した古代オリエント世界、「民主主義」の原型を生んだ古代ギリシア世界の歴史と文化、アレクサンドロスの東征とヘレニズム世界について学びます。最後に、アレクサンドロス評価の変遷を見ることで、歴史学の性格についても学びます。

【到達目標】
古代メソポタミア文明・古代エジプト文明の成立と展開、古代オリエント世界における「国際化」と「帝国」の出現、古代ギリシア世界の展開と古代アテナイにおける民主政の発展、アレクサンドロス大王の東征とヘレニズム諸王国の成立について、基本的知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主に１年生を対象に、前 3000 年紀から前２世紀後半までの西アジア・東地中海世界の歴史を講述します。毎回の講義レジュメは原則として１週間前に学習支援システムの教材欄にアップし、教室授業は補足説明と質疑応答を中心に進めます。また、古代アテナイの民主政、アレクサンドロス大王をどう評価するかをテーマに、グループ討議と討議内容の発表、全体でのディスカッションを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	なぜ古代オリエント史は「西洋史」に区分されるのか
第 2 回	古代メソポタミア文明の成立と展開	西アジア諸国の興亡
第 3 回	古代エジプト文明の成立と展開	統一王国の形成から新王国時代まで
第 4 回	前２千年紀後半のオリエント世界	印欧語族の到来とオリエント世界の「国際化」
第 5 回	東地中海世界の変動	「海の民」と、諸民族―アラム人、ヘブライ人、フェニキア人―の活動
第 6 回	前１千年紀前半～中葉の西アジア世界	アッシリア帝国の興亡とアケメネス朝ペルシアの繁栄
第 7 回	古代ギリシア世界 (1)	エーゲ文明とポリスの誕生
第 8 回	古代ギリシア世界 (2)	アテナイの発展とペルシア戦争
第 9 回	古代ギリシア世界 (3)	アテナイ民主政の完成とペロポネソス戦争
第 10 回	アテナイ民主政と現代の民主政の比較	グループ討議と討議内容の発表、全体でのディスカッション
第 11 回	前４世紀のギリシア世界とアレクサンドロス大王	マケドニア王国の台頭とアレクサンドロスの東征
第 12 回	ヘレニズム世界	ヘレニズム諸王国の成立と展開
第 13 回	アレクサンドロス大王をどう評価するか	グループ討議と討議内容の発表、全体でのディスカッション
第 14 回	授業のまとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義レジュメは原則として１週間前に学習支援システムの教材欄にアップするので、事前に目を通し、知らない人名や事項については『世界史辞典』（角川書店）等の参考図書類、プリント記載の参考文献などを利用して、まず自分で調べる努力をする。それでも分からない点は、授業の質疑応答の時間に必ず質問して解決を図ること。授業後は講義内容について復習し、理解が不十分と思われる点や疑問点について、補足説明時にとったノートや参考文献を利用して調べてみること。それでも残る疑問点等については、学習支援システムの授業内掲示板等に設定する質問受付コーナーか、次回授業の質疑応答時間に必ず質問して解決するようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。講義内容および関連史料・図版等を記載したレジュメを毎回、学習支援システムを通じて事前に配布します。

【参考書】
服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、ミネルヴァ書房、2006 年。
本村凌二・中村るい『古代地中海世界の歴史』、ちくま学芸文庫、2012 年。
その他の参考文献は、講義の進捗に合わせ、講義レジュメで随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末筆記試験 80 %、平常点（質問やグループ討議・全体ディスカッションでの発言等、授業への積極的参加度）20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は全科目がオンライン授業となり、それへの対応で授業準備に例年をはるかに上回る時間を要したため、予習時間を十分に確保できるようなタイミングで講義レジュメを事前アップできなかったことが、最大の反省点です。2021 年度は 1 週間前のアップを心がけ、諸般の事情で遅れる場合でも、2020 年度のような大幅な遅れにはならないようにします。

【Outline and objectives】
This course deals with the historical outlines of the ancient Orient, ancient Greece, and the Hellenistic age.

HIS100BE

西洋史概説Ⅱ

後藤　篤子

授業コード：A3110　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、近代以降の西洋世界に有形無形の大きな遺産を遺した古代ローマの歴史と社会、そしてローマによって統一された古代地中海世界が解体していく過程について学び、合わせて、古代ローマ人による戦争正当化の論理、「ローマの平和」の功罪など、現代世界に通じる問題についても考えます。

【到達目標】
都市国家として出発したローマが古代地中海世界を支配下に置き「帝国」となる過程、その支配の拡大がローマ社会に及ぼした影響、帝政期ローマの歴史と社会、ローマ帝国が東西に分化していく過程について、基本的知識を習得する。
古代ローマが現代世界に提起する諸問題（戦争正当化の論理、「ローマの平和」の功罪、文明「衰亡論」など）について、批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主に１年生を対象に、都市国家ローマの成立から後７世紀頃までの地中海世界の歴史と社会について講述します。毎回の講義レジュメは原則として１週間前に学習支援システムの教材欄にアップし、教室授業は補足説明と質疑応答を中心に進めます。また、ローマ人による戦争正当化の論理、「ローマの平和」が現代世界に提起する諸問題をテーマに、グループ討議と討議内容の発表、全体でのディスカッションを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	西洋史における古代ローマ史の意義
第 2 回	都市国家ローマの成立	建国伝説と歴史学
第 3 回	共和政期ローマの国制	ローマ「共和政」の特質
第 4 回	都市国家から世界帝国へ (1)	イタリア制覇とポエニ戦争
第 5 回	都市国家から世界帝国へ (2)	東地中海制覇とローマ人の戦争正当化の論理。
第 6 回	ローマ人の戦争正当化の論理をめぐって	グループ討議と討議内容の発表、全体でのディスカッション
第 7 回	ローマ共和政の動揺	支配拡大による社会の変質とグラックス兄弟の改革
第 8 回	共和政から帝政へ	「内乱の百年」とユリウス・カエサル。
第 9 回	皇帝位なき「帝政」の成立	アウグストゥスによる「帝政」樹立と「パンとサーカス」
第 10 回	ローマ帝政前期の政治と社会	「小さな政府」による帝国統治と「ローマ化」の問題
第 11 回	「ローマの平和」をめぐって	グループ討議と討議内容の発表、全体でのディスカッション
第 12 回	帝国の危機と再編	「３世紀の危機」と帝政後期における「大きな政府」の出現
第 13 回	ローマ帝国の「衰亡」をめぐって	「西ローマ帝国の滅亡」に至る政治史と、「衰亡論」の陥穽
第 14 回	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義レジュメは原則として１週間前に学習支援システムの教材欄にアップするので、事前に目を通し、知らない人名や事項については『世界史辞典』（角川書店）等の参考図書類、プリント記載の参考文献などを利用して、まず自分で調べる努力をする。それでも分からない点は、授業の質疑応答の時間に必ず質問して解決を図ること。授業後は講義内容について復習し、理解が不十分と思われる点や疑問点について、補足説明時にとったノートや参考文献を利用して調べてみること。それでも残る疑問点等については、学習支援システムの授業内掲示板等に設定する質問受付コーナーか、次回授業の質疑応答時間に必ず質問して解決するようにする。本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。講義内容および関連史料・図版等を記載したレジュメを毎回、学習支援システムを通じて事前に配布します。

【参考書】
服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、ミネルヴァ書房、2006 年。
本村凌二・中村るい『古代地中海世界の歴史』、ちくま学芸文庫、2012 年。
その他の参考文献は、講義の進捗に合わせ、講義レジュメで随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末筆記試験 80 %、平常点（質問やグループ討議・全体ディスカッションでの発言等、授業への積極的参加度）20 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は、予習時間を十分に確保できるようなタイミングで講義レジュメを事前アップできなかったことが、最大の反省点です。2021 年度は 1 週間前のアップを心がけ、諸般の事情で遅れる場合でも、2020 年度のような大幅な遅れにはならないようにします。Zoom のブレイクアウトルーム機能を使ったグループ討議については、意見が分かれていました。2021 年度はハイブリッド型になるかもしれませんが、グループ討議の運営方法を工夫したいと思います。学習支援システム上に質問コーナーを設定したことは好評だったので 2021 年度も継続しますが、教室でも積極的に質問してほしいと思います。

【Outline and objectives】
This course deals with the historical outlines of ancient Rome and the transformation of the ancient Mediterranean world.

HIS100BE

西洋史概説Ⅲ

高澤　紀恵

授業コード：A3111　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アンシアン・レジーム社会からフランス革命に至る経緯を通して、主権国家、憲法、国民主権、政治的自由、政教分離など現代社会の基底にある諸制度が西ヨーロッパで成立した過程と意味を学ぶ。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】
ヨーロッパ近世・近代社会の形成過程を理解し、私たちが生きる世界を歴史的に捉え、各人が主体的に考察できる複眼的視点の獲得を到達目標とする。具体的には、フランス革命がもたらした変化の意味を世界史的に把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義とディスカッションを組み合わせる。ディスカッションは、事前に課題資料とテーマを提示するので、学生は自分の考えを A4 一枚程度のレポートにまとめてグループ・ディスカッションにのぞむこと。レポートは、ディスカッション後に提出のこと。
毎回、リアクションペーパーの提出を求める。レポート、リアクションペーパーへのフィードバックは、次の授業の冒頭に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	近世・近代ヨーロッパと現代社会との繋がり
第 2 回	近世ヨーロッパ政治社会	その複合性について
第 3 回	アンシアン・レジーム（1）	教会と王権
第 4 回	アンシアン・レジーム（2）	官僚制と暴力
第 5 回	アンシアン・レジーム（3）	お金のうごき
第 6 回	ディスカッション	特権の体系とその矛盾をめぐって
第 7 回	フランス革命への道	世論と身分制議会
第 8 回	フランス革命（1）	議会と民衆運動
第 9 回	フランス革命（2）	91 年体制と憲法
第 10 回	ディスカッション	国王処刑をめぐって
第 11 回	フランス革命（3）	ヨーロッパのなかのフランス革命
第 12 回	フランス革命（4）	独裁と暴力
第 13 回	フランス革命（5）	終焉はいつ？
第 14 回	まとめ	フランス革命・ヨーロッパ・日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ディスカッションについては、一週間前までに必要な資料が配付されるので、必ずよく読み、自分の意見を A4 一枚程度のレポートにまとめてディスカッションにのぞむ。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに定めず。適宜、資料を配付する。

【参考書】
高澤紀恵「「自由」をめぐる葛藤」歴史学研究会編『世界史 20 講』岩波書店,2014 年。
歴史学研究会編『世界史史料集　6』岩波書店、2007 年。
山崎耕一『フランス革命−− 「共和国」の誕生』刀水書房、2018 年。

【成績評価の方法と基準】
ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、
エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
リーディングを予め配布するスタイルでのディスカッションに加えて、史料を読む度に出来れば毎回短く学生同士でディスカッションすることが有益で授業を活性化することに気づきました。オンライン授業でも、毎回、課題を出した上でのグループ・ディスカッションを行うことができました。2021 年度もできるだけこの方法を続けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムに課題などの提出を求めますので、パソコンを使える環境が望ましいです。

【Outline and objectives】
This course aims to help students understand the European institutions that underpin the contemporary world by studying French history from the Ancient Régime to the Revolution. This course consists of lectures and discussions. Students are expected to read assignments in advance.

HIS100BE

西洋史概説Ⅳ

高澤　紀恵

授業コード：A3112　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フランスを中心に 19 世紀ヨーロッパにおける社会的・経済的・政治的変動プロセスを通して、国民国家、ナショナリズム、帝国主義、ポピュリズムなど現代社会に連なる諸現象が西ヨーロッパで生じた過程と意味を学ぶ。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会を二度もうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】
ヨーロッパ近代社会の形成過程を理解し、私たちが生きる世界を歴史的に捉え、各人が主体的に考察しうる複眼的視点の獲得を到達目標とする。フランスを軸に、ナポレオンの登場から第三共和政の成立までにヨーロッパ世界の内外で生じた変化を世界史的に把握できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義とグループ・ディスカッションを組み合わせる。
リアクション・ペーパーは毎回提出を求める。リアクション・ペーパーへのフィードバックは、次回授業の冒頭で口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	近代ヨーロッパの形成とその遺産
第 2 回	ナポレオンの登場	ナポレオンとヨーロッパ
第 3 回	ウィーン体制と復古王政	ウィーン体制下のフランスとヨーロッパ
第 4 回	七月革命	出来事とインパクト
第 5 回	産業化と新しい思潮	自由主義と社会主義
第 6 回	ディスカッション	民衆の政治参加をめぐって
第 7 回	1848 年革命	出来事とインパクト
第 8 回	第二共和政	共和政は根付くのか
第 9 回	第二帝政	理念と変容
第 10 回	ディスカッション	幕末・明治の日本人は何を見たのか？
第 11 回	普仏戦争とパリ・コミューン	パリとフランス
第 12 回	第三共和政と国民統合	統合と排除
第 13 回	第三共和政と帝国主義	文明化の使命の行く末
第 14 回	まとめ	ヨーロッパからの視点、アジアからの視点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストの該当箇所を事前に読んでおくことがのぞましい。とくにディスカッションについては、事前に資料を配付するので、資料を熟読の上、出された課題について自分の考えを A4 一枚程度のレポートにまとめ、ディスカッションに持参すること。グループ・ディスカッション後にこのレポートは提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに定めず。適宜、資料を配付する。

【参考書】
歴史学研究会編『世界史史料集　6』岩波書店、２００７年。
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵（編）『新しく学ぶ西洋の歴史――アジアから考える』ミネルヴァ書房、２０１６年。
授業のスタイルに応じて課題などの pdf を Hoppi にアップすることがあります。注意して下さい。

【成績評価の方法と基準】
ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、
エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
事前に配布した史料を読んでディスカッションするスタイルに加えて、毎回用いる史料を基に短くとも学生同士で議論することが、授業を活性化することに気づきました。とくにオンライン授業では一方的に授業を受けるだけでなく、学生相互に議論する機会が貴重であると感じました。今年度もその方式を続けたいと思います。

【Outline and objectives】
This course, focus on French history in the 19th century, aims to help students understand the contemporary issues like nationalism, populism, imperialism, and so on. This course consists of lectures and discussions. Students are expected to read assignments in advance.

HIS200BE

考古学概論／考古学概論（資格）

古庄　浩明

授業コード：A3152,A3855　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
春学期・2 単位
備考（履修条件等）：**他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】
日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。
考古学的方法が発達する過程が理解できる。
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
主に学史の観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。
授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援室システムに課題を提出していただき、そのフィードバックも学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答も学習支援システムを利用する。資料も利用する。授業のプリントは「古庄浩明の講義ノート」（https://wacoffee.blogspot.com/）から各自ダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。
毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	考古学とは何か	考古学の本質
第 3 回	古代日本における考古学的認識	考古学的営為を試みた先人たち
第 4 回	近世日本における学術的展開	近代科学につながる学術的な先駆者たち
第 5 回	ヨーロッパ考古学の展開	古典考古学と先史考古学
第 6 回	層位学と型式学	学術的方法の整備
第 7 回	近代科学として導入された考古学	外国人による近代の考古学的営為
第 8 回	人種・民族論争と記紀	近代考古学を担った日本人研究者たち
第 9 回	実証主義研究の展開	貝塚研究と編年学派
第 10 回	戦時体制と考古学	言論統制と考古学
第 11 回	戦後考古学の光と影（1）	岩宿遺跡と登呂遺跡
第 12 回	戦後考古学の光と影（2）	大規模開発と遺跡破壊
第 13 回	現代と考古学（1）	関連諸科学と考古学
第 14 回	現代と考古学（2）	文化財保護行政と考古学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
古庄浩明 2021『第 2 版　考古学の世界－初めて考古学を勉強する方のために』三恵社
ISBN 978-4-86693-380-1 C1020　定価 1650 円（本体 1500 円＋税 10 %）

【参考書】
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）

【成績評価の方法と基準】
授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を 50 %とし、期末試験による評価を 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【学生が準備すべき機器他】
ネット環境とディバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.

HIS200BE

史学概論／歴史思想（史学概論）

高澤　紀恵

授業コード：A3153,A2274　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学とはどのような学問なのだろうか。過去に向き合うことはどのような意味があるのだろうか。そのために必要な作法は何だろうか。この授業は、東西の歴史家の営みに学びながらこうした問題と向き合い、歴史的思考を育み、自ら研究する基礎を獲得することを目標とする。授業の全体は A）史学史篇と B）実践篇にわける。この授業を通して、受講生は歴史学の方法論をめぐる書物を読み、報告し、議論することを期待されている。

【到達目標】
この授業は３つの目標を掲げる。
①歴史学を専門に学ぶ上で必要な史学史的な基礎を理解する。
②歴史学が今、直面する課題について考える。
②歴史学を主体的に学ぶための技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は、報告、ディスカッション、講義の組み合わせで進める。受講生は、学期中に一回、設定した十のテーマから一つを選び、指定された文献を読んでレジュメを用意して報告をする。報告に基づいてグループ・ディスカッションを予定している。授業では、毎回、リアクション・ペーパーの提出を求める。フィードバックは、次回授業の冒頭に口頭で行う。
最後に、４０００字のレポートの提出を求める。レポートに対する総括的講評を学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要の説明、テーマ毎グループ分け。
第 2 回	過去と向き合う	村上春樹『猫を捨てる』を題材に、過去と向き合う意味を考える。
第 3 回	歴史は役にたつ？	マルク・ブロックの『歴史のための弁明』を導きの糸に歴史学の有用性について考える。
第 4 回	史学史篇① 制度としての歴史学	制度としての歴史学が形成されるプロセスを学ぶ。
第 5 回	史学史篇② 日本における展開	日本において、日本史・東洋史・西洋史の三区分が生まれた経緯を考える。
第 6 回	史学史篇③ 戦後歴史学の挑戦	敗戦後の日本の社会科学と歴史学の展開を考える。
第 7 回	史学史篇④ アナールの挑戦	１９７０年代に日本に大きな影響を与えたアナールの挑戦について考える。
第 8 回	史学史篇⑤ 記憶と歴史	１９８０年代以降の記憶をめぐる議論について考える。
第 9 回	史学史篇⑥ 現代歴史学への「転回」	英語圏で展開した言語論的転回と新しい文化史について考える。
第 10 回	史学史篇⑦ グルーバル・ターン？	グローバル化の進展に伴う観察尺度の変化を考える。
第 11 回	実践篇① 史料を読む	史料の探し方、読み方を学ぶ。
第 12 回	実践篇② 事実と解釈	歴史研究の現場から、事実と解釈について考える。
第 13 回	実践篇③ 歴史を書く	自分で歴史を書くために必要な作法を考える。
第 14 回	総括討論	これまでの学びを通して見えてきた論点を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ではグループ・ディスカッションを多用するので、課題テクストを読んだり、事前準備を求められることが多い。
報告は、おそらくグループ報告となるので、他のメンバーと一緒に作業をすることになろう。担当週に集中して準備することになるが、平均すると各週の準備ならびに復習には週４時間を要する。

【テキスト（教科書）】
特に指定せず。適宜プリントなどを配布する。

【参考書】
・リン・ハント（長谷川貴彦訳）『なぜ歴史を学ぶのか』岩波書店、2019.
・ジョー・グルディ、D・アーミテージ（平田雅弘・細川道久訳）『これが歴史だ！　21 世紀の歴史学宣言』刀水書房、2017.
・ジョン・H・アーノルド『歴史』岩波書店、2003. ほか。
初回に参考文献表を配付する。

【成績評価の方法と基準】
授業での報告 (40 %) + レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
今年度がはじめての担当であるため特になし。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを最大限利用するため、パソコンがあることが望ましい。

【Outline and objectives】
What characterizes history as an academic discipline? What does it mean to confront the past? What skills and attitudes should we learn?
This course aims to offer students opportunities to think about these problems through reading works of previous historians of the East and the West, nurture historical thinking, and acquire the ability to conduct historical research.
The course consists of two parts; the first treats historiography (A), and the second treats practical skills required in historical research (B). Students are expected to read, do presentations about, and discuss books and articles about historical methodology.

HIS300BE

日本考古資料学 I

阿部　朝衛

授業コード：A3119　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
考古学の基礎である遺物の観察視点・方法を学びとることを目的とします。皆さんが今まで考古学の論文などで学んできた内容が、どのような手続きを経て成り立っているかを知ることになります。春学期では土器を中心に行います。

【到達目標】
土器の製作・使用にかかわる属性を理解し、先史時代人の細部の意識と行動を推定できる能力を身に付け、同時に土器の所属時期を判断できる基礎的基準を習得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
土器や石器などの実際の遺物を観察して情報を読み取り、その結果を図や拓本、写真で表現し、それをもとに資料についての記述を行います。どのような計画でどのような行為が行われるとどのような事実が資料に残されるかを知るため、簡単な実験も行います。これによって有用な情報を確認します。まさしく見る目を養います。遺物とは情報の集合体です。これらは発掘調査報告書や論文の作成を念頭においた作業ですので、実践的な知識と技術を身に付けることになります。
基本的に室内での作業です。室内では遺物を常時観察します。「授業計画」の各テーマを 3、4 時間かけて消化していきますが、各テーマの最初の時間に目的・方法を説明します。その後、目と手を使って具体的作業に入ります。技術習得は五感による学習ですので、本や論文を読んでもすぐには習得できません。したがって、遅刻・欠席はいけません。
作業中では常時、質問を受け付けます。また、各自の進行状況・達成度に従って適宜アドヴァイスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業計画・土器研究方法・縄の撚り方
第 2 回	動作研究と縄つくり	縄の撚り方修得と縄・動作の名称
第 3 回	縄文原体作成　1	1・2 段の縄
第 4 回	縄文原体作成　2	3 段の縄、撚り戻し
第 5 回	縄文原体作成　3	合わせ撚り
第 6 回	縄文原体作成　4	結束・結節の縄
第 7 回	縄文原体作成　5	撚り糸文、組紐
第 8 回	土器の文様復元	縄文原体と圧痕の対応関係の確認、および土器片の模様の復元
第 9 回	土器の理解と表現　1	土器の観察と実測
第 10 回	土器の理解と表現　2	土器の外形と実測
第 11 回	土器の理解と表現　3	土器の模様の実測
第 12 回	土器片の理解と表現　1	土器片の観察
第 13 回	土器片の理解と表現　2	土器片の拓本
第 14 回	総括	レポート作成・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館などで考古学資料の観察を行ってください。また、研究室にある発掘調査報告書の中で考古学資料がどのような方法で情報化されているかを検討してください。授業時間外で資料を用いた作業を行う場合、教員や史学科室員の指示にしたがって行動してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使いませんが、必要な資料はコピーして配布します。参考文献などは随時、教室で紹介します。

【参考書】
参考文献などは随時、教室で紹介します。また参考とする資料はコピーして配布します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、作業結果（縄文原体、実測図、拓本）およびレポートで評価し、平常点は 30 %、作業結果・レポートは 70 %とします。作業結果は各授業で製作したもの、レポートはそれら製作物についての記述とします。各テーマの作業量はかなり多いので、欠席が多いとレポートを提出できなくなります。また、授業は数学と同様に積み上げ式ですので、休むと次の作業に取り組めません。

【学生の意見等からの気づき】
具体的資料の操作には慣れていないので、小テーマの最初の授業はゆっくり行います。抽出した要素とその意味は、論文等の関連で解説します。

【学生が準備すべき機器他】
筆記用具等は各自が準備してください。

【その他の重要事項】
土器や石器は本物ですので、遺物の実習室外への持ち出しは厳禁です。壊れやすい資料ですので、取り扱いには気をつけなければなりません。実測用具・トレース用具などは実習室で準備しますが、鉛筆などは各自が用意することにします。一部に高価な器材がありますので、取り扱いには十分注意してください。
授業の最初に当日の目的・方法を説明をし、その後、遺物や道具を使っての作業に入りますので、遅刻をして他者に迷惑をかけないようにしてください。

【Outline and objectives】
This course deals with the archaeological method and practice concerning the technology and typology of the Jomon pottery. Students are expected to twine plant fiber into many kinds of strings, and roll them on clay plate to reproduce the Jomon pottery designs. Students will be able to learn Takuhon (rubbed copy) skill to copy the Jomon designs by using the Takuhon ink and dabber.

HIS300BE

日本考古資料学Ⅱ

阿部　朝衛

授業コード：A3120　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
考古学の基礎である遺物の観察視点・方法を学びとることを目的とします。皆さんが今まで考古学の論文などで学んできた内容が、どのような手続きを経て成り立っているかを知ることになります。秋学期は石器を中心に行います。また、写真撮影技術・図版作成方法などの、論文における基礎的表現技術を学ぶことも目的とします。

【到達目標】
石器の製作、使用にかかわる属性を理解し、観察結果の表現方法（文章、図、写真）を修得します。それによって石器製作・使用にかかわる先史時代人の意識と行動を理解できる能力を身に付け、同時に石器の名称、所属時期を判断できる基礎的能力を修得します。
資料を直接観察する時間が少ない場合、石材獲得に係わる旧石器時代人・縄文時代人の行動形態にも焦点を当てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
実際の遺物を観察して情報を読み取り、その結果を図や写真で表現し、それをもとに資料についての記述を行います。どのような計画でどのような行為が行われるとどのような事実が資料に残されるかを知るため、簡単な実験を行う予定です。これによって有用な情報を確認します。これらは発掘調査報告書や論文の作成を念頭においた作業ですので、実践的な技術を身に付けることになります。
室内では遺物を常時観察します。「授業計画」の各テーマを 3、4 時間かけて消化していきますが、各テーマの最初の時間に目的・方法を説明します。その後、目と手を使って具体的作業に入ります。ある石器製作技術を習得するのに、手本を見せるだけと、手本を見せて同時に言葉で説明するという二つの方法で学習実験を行ったら、両者に差がなかったという結果が報告されています。技術習得は五感による学習ですので、本や論文を読んでもすぐには習得できません。したがって、遅刻・欠席はいけません。なお、受講生が多い場合は、写真撮影等の時間は減らします。
オンライン授業が長引いた場合、石材の種類、日本列島での分布、獲得方法についても焦点をあてます。できるだけ写真資料等をオンライン授業では使います。
対面授業の作業では常時、質問を受けつけます。また、各自の進行状況・達成度にしたがって適宜アドヴァイスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業計画・石器研究方法
第 2 回	石器製作実験	原石の打ち割り
第 3 回	石器使用実験	剥片で切断作業
第 4 回	石核・剥片接合作業	原石（母岩）分類と石核・剥片の接合
第 5 回	剥片剥離の順番復元	接合剥片の打撃の順番の理解
第 6 回	剥離工程の理解	原石の粗割り、打面作成・調整、目的剥片剥離などの工程把握
第 7 回	剥片石器の実測 1	測量方法の原理
第 8 回	剥片石器の実測 2	図の展開と輪郭線の描き方
第 9 回	剥片石器の実測 3	剥離面の境界線の理解
第 10 回	剥片石器の実測 4	リング、フィッシャーの意味と表現
第 11 回	磨製石器の実測 1	製作工程の理解
第 12 回	磨製石器の実測 2	研磨痕、使用痕の抽出と表現
第 13 回	遺物写真撮影	簡易写場での具体的資料の撮影
第 14 回	総括	作業結果の点検とレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博物館を訪れ、考古学資料の観察を行ってください。研究室にある発掘調査報告書等をみて、石器資料の情報化の在り方を検討してください。授業時間外で実習室・資料を使う場合、教員ないし史学科室員の指示にしたがって作業してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
今年は大学内で実物資料を観察する時間が短くなると予想されますので、博物館等の見学をおすすめします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使いませんが、必要資料はコピーして配布します。

【参考書】
適宜、指示します。関連資料はコピーし配布します。

【成績評価の方法と基準】
平常点、作業結果およびレポートで評価します。配分は、平常点 30 %、作業結果・レポート 70 %です。作業結果は、実測図・トレース・写真を重視し、レポートはそれらで取り扱った石器の記述とします。欠席が多いとレポートは提出できなくなります。また、授業は数学と同様に積み上げ式ですので、休むと次の作業に取り組めません。

【学生の意見等からの気づき】
実物の取り扱いに慣れていないので、小テーマの最初の授業の説明はゆっくりと行います。資料の観察と理解を重視しますので、受講人数によっては、写真撮影の時間は多めに取ります。

【学生が準備すべき機器他】
筆記用具等は各自で準備してください。

【その他の重要事項】
遺物の実習室外への持ち出しは厳禁です。壊れやすい遺物ですので、取り扱いには気をつけなければなりません。しかし、実験石器は剃刀のように切れますので十分な注意が必要です。実測用具・トレース用具・撮影用具などは実習室で準備しますが、鉛筆などは各自が用意することにします。一部に高価な器材がありますので、取り扱いには十分注意してください。
授業の最初に当日の目的・方法を説明し、その後、遺物・道具を使っての作業となりますので、遅刻しないようにしてください。

【Outline and objectives】
This course deals with the basic method and practice of examining the archaeological materials. Students are expected to understand stoneknapping technology and stonetool typology, through collecting raw materals for stonetool, making stonetools of the materials, and comparing them with the Palaeolithic and Neolithic (Jomon) stonetools.

HIS300BE

日本古代史料学Ⅰ

春名　宏昭

授業コード：A3121　｜　曜日・時限：**水曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「続日本紀の史料学」と題して講義を行ないます。八世紀の日本は、当時先進の文化を誇った中国のような国家建設を目標に掲げて邁進していました。『続日本紀』を題材に史料への取り組み方を学び、日本古代史における歴史の流れ、あり方の把握を目指します。

【到達目標】
続日本紀の記事を数点取り上げ、史料へのアプローチの仕方を習得することができる。この授業を通して、奈良時代の基礎的な理解を身につけ、他の史料に対してもつねに興味を持って臨めるようになり、それを論理的に解析し正しい理解に到達できる技能を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
取り上げた記事を糸口に、その背後にある問題点を探り出し検証していきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組むことが必要です。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。
課題を課した場合は、次の授業でコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	続日本紀とはどのような史料か？
第 2 回	左右京尹の設置（1）	天平宝字五年二月丙辰朔条の紹介
第 3 回	左右京尹の設置（2）	左右京尹に対するわたしの理解
第 4 回	左右京尹の設置（3）	左右京尹の新たなる性格分析
第 5 回	紫微内相と兵権（1）	天平宝字元年五月丁卯条の紹介
第 6 回	紫微内相と兵権（2）	紫微内相の性格分析
第 7 回	奈良から平安へ	藤原仲麻呂政権の評価
第 8 回	天平二年の太政官奏（1）	天平二年六月甲寅朔条の紹介
第 9 回	天平二年の太政官奏（2）	続日本紀の３つのテキスト
第 10 回	天平二年の太政官奏（3）	わずか 31 文字の史料の“奥行”
第 11 回	慶雲元年の公廨銀（1）	慶雲元年七月庚子条の紹介
第 12 回	慶雲元年の公廨銀（2）	公廨銀から見えてくるもの
第 13 回	税司主鎰（1）	大宝二年二月乙丑条の紹介
第 14 回	税司主鎰（2）	大宝令施行直後の地方政治

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
取り上げた記事が含む意味を理解するためには、それぞれの記事に現れた事象の時代背景を知る必要があります。そのためには、どれでもいいですから参考書（奈良時代該当巻）を読んでみて下さい。著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。
この講義では、現在の通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを述べていきます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。
この講義の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】
岩波書店・新日本古典文学大系『続日本紀』が基本です。他に一般啓蒙書として、中央公論社 (文庫)・小学館 (文庫)・集英社・講談社 (文庫) から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波新書『シリーズ日本の古代史』、『岩波講座日本歴史』の該当巻があります。

【成績評価の方法と基準】
平常点とレポートで評価します。基準は平常点 30 %、レポート 70 %です。レポートで取り上げるテーマは学生各人で選んでよいことにしていますが、どのようなテーマを選んでも授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】
板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につきません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作って下さい。　”自分で考える”がキーポイントです。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉日本古代政治史
〈研究テーマ〉日本古代の皇権と官制
〈主要研究業績〉
『律令国家官制の研究』(吉川弘文館)
『平城天皇』(吉川弘文館)
『皇位継承　歴史をふりかえり変化を見定める』（共著、山川出版社）
『〈謀反〉の古代史　平安朝の政治改革』(吉川弘文館)

【Outline and objectives】
This lecture is attended under the heading of “The world of Shokunihongi". In the way of taking up some descriptions of Shokunihongi,we were to learn how to grapple with problems in order to understand how Japan changed in the ancient regime.

HIS300BE

日本古代史料学Ⅱａ

山口　英男

授業コード：A3204　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
正倉院文書と木簡を中心に、日本古代史料研究の課題、古代史料の特徴、歴史情報抽出の方法を学び考えます。史料のどこに注目したらよいかを知ることで、史料の背後の世界へと視野が広がります。
日本古代史を研究するための材料となる史料は、他の時代に比べて数が限定されている印象が強く、新たな検討の余地は少ないように思われがちです。しかし、周知の史料でありながら十全な検討がなされていないものや、研究の進展に応じた再調査・再検討が必要となっている史料が意外に多くあります。何よりも、正倉院文書や木簡など、当時の実務の現場で用いられた書面が大量に残されていることが、日本古代史料の特質です。現代に引きつけていえば、お役所の内部書類が外部に流出したようなものです。まさに「宝の山」といってよい史料群であり、分析されることを待っている情報がまだまだたくさんあります。
これらをどのように分析するのか。記載内容（文字）を読み取るだけではなく、史料を「もの」として分析することで、古代史料学・古文書学の新たな知見が蓄積されて来ています。より多くの情報を史料から抽出することで、古代史研究の地平をさらに拡げていくことが期待できます。本講義では、古代史料の「すがた・かたち」を検討しながら、史料の分類と分析の視角・手法を考え、古代史研究の新たな視野を展望します。

【到達目標】
古代史料研究の課題について理解する。
古代史料の特徴を知り、歴史情報を抽出するための視角と分析手法を身につける。
史料に対する目のつけどころ、問いかけ方を学ぶことで、史料の持つ豊かで多様な情報に近づくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式（対面授業）で進めます。
配布した史料プリントを使いながら、史料の分析とはどういう作業であるのか、その結果何がわかるのか、具体的な例を挙げながら解説します。
３回程度の講義のまとまりごとに、小レポートを提出してもらうことで、理解と認識の深まりを確かめながら進めます。小レポートについては、下記も参照してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義のねらいと進め方
第 2 回	古代の実務文書の面白さ	正倉院文書と木簡
第 3 回	古代史料学の課題と視角①	古代史料の概要と史料批判
第 4 回	古代史料学の課題と視角②	古代史料の特徴と分析視角
第 5 回	古代史料学の課題と視角③	実務官司の仕事と書面
第 6 回	古代史料に見る情報の定着と移動①	情報の記録・伝達と〈書類学〉という考え方
第 7 回	古代史料に見る情報の定着と移動②	仕事に用いる文書とメモ
第 8 回	古代史料に見る情報の定着と移動③	仕事の進行と成長する書面
第 9 回	木簡と帳簿①	木簡と古代史料学の関係
第 10 回	木簡と帳簿②	紙の書面と木簡
第 11 回	木簡と帳簿③	「食口」という方法と木簡
第 12 回	口頭伝達と書面の関係①	書面の背後に見える口頭伝達
第 13 回	口頭伝達と書面の関係②	口頭伝達の記録
第 14 回	口頭伝達と書面の関係③	「口状」の発見からわかった業務の実態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布するテキストに目を通しておいてください。また、講義の内容を、自分なりに文章に整理しておくことをすすめます。参考書や、講義中に紹介した研究文献にもできるだけ目を通してください。
本授業の準備・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを配布するので、講義に必ず持参してください。教科書は使用しません。

【参考書】
栄原永遠男『正倉院文書入門』（角川学芸出版、2011 年）
市川理恵『正倉院写経所文書を読みとく』（同成社、2017 年）
山口英男『日本古代の地域社会と行政機構』（吉川弘文館、2019 年）
山口英男「正倉院文書に見える「口状」について」（佐藤信編『史料・史跡と古代社会』吉川弘文館、2018 年）
山口英男「写経所の機構」（犬飼隆編『古代の文字文化』竹林舎、2017 年）
山口英男「正倉院文書から見た「間食」の意味について」（『正倉院文書研究』13、2013 年）
東京大学史料編纂所編『日本史の森を行く』（中公新書、2014 年）
山口英男「正倉院文書に見える文字の世界」（国立歴史民俗博物館他編『古代日本と古代朝鮮の文字文化交流』大修館書店、2014 年）
正倉院文書マルチ支援（多元的解析支援）データベース SHOMUS・奈良時代大日本古文書フルテキストデータベース（東京大学史料編纂所 SHIPS データベース　http://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/db.html）
奈良文化財研究所　木簡庫データベース　http://mokkanko.nabunken.go.jp/en/

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、期間中に提出してもらう複数の小レポートの内容によって行います。講義の進行に合わせて課題を出します。小レポートでは、講義の受講を前提に、講義内容の整理とその批判的論評を求めます。理解力（４０％）、調査・考察力（３０％）、文章力・独創性（３０％）を基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
小レポートは、提出の翌週にコメントと評価を付して返却しますので、次のレポート作成の参考にしてください。これを繰り返すことで、文章のレベルや内容、説得力が確実にアップします。

【その他の重要事項】
インターネット等から文章を「剽窃」したレポートに対しては厳格な措置を取ります。他人の文章を盗み、あたかも自分の文章であるかのように人を欺く行為が許されないことを十分認識してください。

【Outline and objectives】
Learn research subjects on ancient historical materials in Japan,features of ancient historical documents,and the method of historical information extraction,focusing on Shosoin Document and Wooden Tablet.

HIS300BE

日本古文書学Ⅰ

大塚　紀弘

授業コード：A3206　｜　曜日・時限：木曜 5 限
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教科書を基に日本古文書学を体系的に学ぶとともに、古文書読解の基礎的な能力を身につける。日本古代（奈良時代から平安時代）に成立した代表的な古文書の様式・機能について理解し、読解力を養成することを目的とする。

【到達目標】
律令に規定された公式様文書、公式様文書から派生した公家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書や関連する古文書を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。また、簡単な崩し字を解読することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の内容に沿いつつ、配布プリントを基に講義を進める。古文書について解説した後、参加者に訓読してもらう。また、古文書写真のプリントを配布し、参加者に翻刻してもらう機会を設ける。日本古代史または日本中世史で卒論を書く予定の学生を主な対象とする。漢文訓読の基礎知識を有することを前提に進める。引き続き秋学期に「日本古文書学Ⅱ」を履修することが望ましい。授業の初めに、前回の授業で訓読した古文書をいくつか取り上げ、フィードバックを行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	古文書学とは	履修のガイダンス
第 2 回	検非違使別当宣	古文書に親しむ
第 3 回	紛失状	古文書に親しむ
第 4 回	公式様文書　宣命・詔	様式・機能の解説と訓読
第 5 回	公式様文書　符（1）	様式・機能の解説と訓読
第 6 回	公式様文書　符（2）	様式・機能の解説と訓読
第 7 回	公式様文書　移	様式・機能の解説と訓読
第 8 回	公式様文書　牒	様式・機能の解説と訓読
第 9 回	公式様文書　解	様式・機能の解説と訓読
第 10 回	公式様文書　宣旨	様式・機能の解説と訓読
第 11 回	公家様文書　官宣旨	様式・機能の解説と訓読
第 12 回	公家様文書　院庁下文	様式・機能の解説と訓読
第 13 回	公家様文書　摂関家政所下文	様式・機能の解説と訓読
第 14 回	公式様文書と公家様文書	授業内容の総括（試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書を用いて予習し、配布プリントを用いて復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤進一『新版　古文書学入門』（法政大学出版局、２００３年）

【参考書】
日本歴史学会編『概説古文書学　古代・中世編』（吉川弘文館、１９８３年）
久留島典子・五味文彦編『史料を読み解く１　中世文書の流れ』（山川出版社、２００６年）
苅米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、２０１５年）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の点数１００％で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
次回取り上げる文書を予告する。

【Outline and objectives】
Learn Japanese archaeological studies systematically and acquire the basic ability of reading old documents.

HIS300BE

日本古文書学Ⅱ

大塚　紀弘

授業コード：A3207　｜　曜日・時限：木曜 5 限
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「日本古文書学Ⅰ」から継続し、教科書を基に日本古文書学を体系的に学ぶとともに、古文書読解の基礎的な能力を身につける。日本中世（平安時代から室町時代）に成立した代表的な古文書の様式・機能について理解し、読解力を養成することを目的とする。

【到達目標】
公家様文書および公家様文書から派生した武家様文書の機能と様式について理解することができる。教科書に取り上げられた古文書や関連する古文書を正確に訓読し、内容の概要を読み取ることができる。また、簡単な崩し字を解読することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書の内容に沿って、配布プリントを基に講義を進める。古文書について解説した後、参加者に訓読してもらう。また、古文書写真のプリントを配布し、参加者に翻刻してもらう機会を設ける。日本古代史または日本中世史で卒論を書く予定の学生を主な対象とする。漢文訓読の基礎知識を有することを前提に進める。春学期に「日本古文書学Ⅰ」を履修することを必須とする。授業の初めに、前回の授業で訓読した古文書をいくつか取り上げ、フィードバックを行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	古文書学とは	履修のガイダンス
第 2 回	公家様文書　国司庁宣	様式・機能の解説と訓読
第 3 回	公家様文書　綸旨	様式・機能の解説と訓読
第 4 回	公家様文書　院宣	様式・機能の解説と訓読
第 5 回	公家様文書　御教書	様式・機能の解説と訓読
第 6 回	武家様文書　下文（1）	様式・機能の解説と訓読
第 7 回	武家様文書　下文（2）	様式・機能の解説と訓読
第 8 回	武家様文書　下知状（1）	様式・機能の解説と訓読
第 9 回	武家様文書　下知状（2）	様式・機能の解説と訓読
第 10 回	武家様文書　鎌倉幕府の御教書	様式・機能の解説と訓読
第 11 回	武家様文書　室町幕府の奉書	様式・機能の解説と訓読
第 12 回	武家様文書　室町幕府の直状	様式・機能の解説と訓読
第 13 回	起請文・売券・譲状	様式・機能の解説と訓読
第 14 回	公家様文書と武家様文書	授業内容の総括（試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書を用いて予習し、配布プリントを用いて復習する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
佐藤進一『新版　古文書学入門』（法政大学出版局、２００３年）

【参考書】
日本歴史学会編『概説古文書学　古代・中世編』（吉川弘文館、１９８３年）
久留島典子・五味文彦編『史料を読み解く１　中世文書の流れ』（山川出版社、２００６年）
苅米一志『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、２０１５年）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の点数１００％で判定する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
次回取り上げる文書を予告する。

【Outline and objectives】
Learn Japanese archaeological studies systematically and acquire the basic ability of reading old documents.

HIS300BE

日本近世史料学Ⅰ

松本　剣志郎

授業コード：A3124　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世史研究において、くずし字の解読能力を身につけていることは、研究の幅を大きく広げると同時に、学問をより深めるものとなる。本授業は、基礎的な読解能力を養成することを目的とする。あわせて基本的な近世文書の種類を覚えていってもらいたい。

【到達目標】
①くずし字の読解能力を身につける。
②基本的な近世文書の種類を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と演習を併用するかたちをとる。古文書のコピー Hoppii にアップするので、まずは自力で解読に取り組む（教室でプリントは配布しない）。授業時に割り当てるので、学生はこれを板書し、答え合わせをする。教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	くずし字の辞典について
第 2 回	古文書解読入門	近世史料学講義
第 3 回	検地帳読解（1）	数字を覚えよう
第 4 回	検地帳読解（2）	単位を覚えよう
第 5 回	武家屋敷組合名簿読解（1）	名前を覚えよう
第 6 回	武家屋敷組合名簿読解（2）	通称を覚えよう
第 7 回	領地宛行状読解	大名家領の安堵
第 8 回	年貢割付状読解	年貢請求書
第 9 回	年貢皆済目録読解	年貢領収書
第 10 回	宗門人別改帳読解	江戸時代の家族
第 11 回	五人組帳前書読解	百姓への規制
第 12 回	変体仮名読解	俳句をよむ
第 13 回	金子借用証文読解	年貢滞納
第 14 回	試験とまとめ	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に、配布された古文書のコピーを辞書を引きながら予習すること。事後には、読めなかった字を必ず復習すること。とにかく古文書をながめる時間をたくさんとること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
『新編古文書解読字典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）など
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
まずは自分で辞書をひきながら読むことが大事です。

【その他の重要事項】
本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline and objectives】
This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing.

HIS300BE

日本近世史料学Ⅱ

松本　剣志郎

授業コード：A3125　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様な近世史料の読解能力を養うことを目的とする。さまざまなくずし字を解読すると同時に、読解した史料の意味を理解することが重要となる。

【到達目標】
①くずし字を解読することができる。
②読解した史料の意味を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は日本近世史料学Ⅰを履修済みであることを前提として授業を進める。Hoppii に古文書のコピーをアップするので、これにまずは自力で解読に取り組む。授業時に答え合わせし、教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。古文書解読の中級編として、近世の行政文書のほか、書状や発句など書体の異なる史料も対象とする。なお、近世ゼミの夏合宿で撮影した古文書をテキストとすることがある。また、現物古文書の整理作業を体験することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	発句読解	変体仮名
第 2 回	離縁状読解	三行半
第 3 回	触書読解（1）	ペリー来航
第 4 回	触書読解（2）	株仲間再興
第 5 回	武家文書読解（1）	御堀の管理
第 6 回	武家文書読解（2）	橋梁の管理
第 7 回	武家文書読解（3）	三方領地替（前半）
第 8 回	武家文書読解（4）	三方領知替（後半）
第 9 回	漢詩読解	七言絶句
第 10 回	書状読解（1）	松平容保書簡（前半）
第 11 回	書状読解（2）	松平容保書簡（後半）
第 12 回	日記読解（1）	自家年譜（前半）
第 13 回	日記読解（2）	自家年譜（後半）
第 14 回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布された古文書のコピーを、辞書を使って自力で読むこと。事後には、必ず復習すること。多くの古文書に触れることが重要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
『新編古文書解読字典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
筆の動きをみることが、古文書読解能力向上のためのポイントです。

【その他の重要事項】
本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline and objectives】
This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing.

HIS300BE

日本近代史料学

長井　純市

授業コード：A3126　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・授業の概要：史料を通して日本近代史の種々相を学ぶ。
・目的：和紙に毛筆・草書体で書かれた史料の読解力を養うこと。

【到達目標】
到達目標：1）日本近代史に関する幅広い知識を得る。2）日本近代史研究に関わる史料の所蔵機関や利用法に関わる知識を得ること。3）日本近代史研究に関わる史料の調査・収集に関わる知識を得ること。4）日本近代史研究に関わる史料の読解力を養うこと。5）情報・知識の調査・収集・分析・利用に関わる能力・技術を養い、高める手がかりを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・進め方：講義形式である。
・方法：受講生の能動的な学習促進と双方向的な授業運営のために、教員と受講生間の質疑応答、受講生グループの助け合い学習による草書体文字の翻刻作業を取り入れる。新型コロナウィルス感染防止策への対応が必要な場合には、教室での対面授業を ZOOM を使って同時配信する方式を採用する。リアクションペーパーにおける受講生の疑問や質問、コメントなどには、次回の授業冒頭あるいは学習支援システムにおいて対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要説明。
第 2 回	主な史料所蔵機関のウェブサイト	独立行政法人国立公文書館、外務省外交史料館、防衛省防衛研究所戦史研究センター、国立国会図書館など主な史料所蔵機関のウェブサイトの説明。
第 3 回	日本近代古文書読解（1）	第 1 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 4 回	日本近代古文書読解（2）	第 2 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 5 回	日本近代古文書読解（3）	第 3 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 6 回	日本近代古文書読解（4）	第 4 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 7 回	日本近代古文書読解（5）	第 5 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 8 回	日本近代古文書読解（6）	第 6 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 9 回	日本近代古文書読解（7）	第 7 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 10 回	日本近代古文書読解（8）	第 8 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 11 回	日本近代古文書読解（9）	第 9 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 12 回	日本近代古文書読解（10）	第 10 回毛筆・草書体史料の読解トレーニング。
第 13 回	日本近代古文書読解（11）	第 11 回毛筆・草書体資料の読解トレーニング。
第 14 回	まとめ	授業総括と質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習：学習支援システムにアップロードされる授業プリントを事前にダウンロードして読んでおくこと。
・復習：授業プリントを読み直すこと。授業後、学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに掲示される毎回の授業要点を読むこと。授業テーマに関するウェブサイト（国立国会図書館電子展示会、アジア歴史資料センター、独立行政法人国立公文書館など）の関連コラムを読むこと。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・刊本としてのテキストは使用しない。
・毎回授業前に、授業の要点をまとめたプリントや史料プリント（国立国会図書館所蔵「寺内正毅関係文書」コピー版）を学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに添付ファイルでアップロードする。

【参考書】
・くずし字辞典
・『日本近代の歴史』（吉川弘文館）全 6 巻
・アジア歴史資料センター、独立行政法人国立公文書館、国立国会図書館電子展示会の各ウェブサイトにおける日本近代史関連解説コラム。

【成績評価の方法と基準】
・平常点 40 %、試験 60 %（設題は、到達目標をふまえたものとする。参照可）。
・特別な事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には、あるいは試験を受験しない場合には、不合格の評価とする。
・新型コロナウィルス感染防止策に対応して教室での試験ができない場合には、リポートに切り替えることもある。

【学生の意見等からの気づき】
日本近代史に関する基礎的な知識の不足や草書体漢文調史料読解スキルの不足を感じている受講生がいることから、教員・受講生間の質疑応答や受講生同士の助け合い学習を積極的に取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを利用することのできる IT 機器。
・ZOOM 授業を受講することのできる IT 機器。

【その他の重要事項】
・「日本近代史」（春学期）との継続履修を強く推奨する。
・大学院の学部合同科目（「日本近代史研究Ⅱ」）である。
・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習や教育自習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
・新型コロナウィルス感染防止策として教室での対面授業ができない場合には、授業内容を変更することがある。
・授業に関する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや「授業内掲示板」サイトで行うので、これらを頻繁に閲覧し、見落としがないようにすること。

【Outline and objectives】
This course has four main points. The first point is to get a basic knowledge about Japanese modern archives. The second one is to get an academic skill for reading old documents written in cursive style of Chinese characters in the Meiji era. The third is to study the Japanese modern history through reading old documents above. The fourth is to get clues for getting or improving the general skill of researching, gathering, analyzing and utilizing of information and knowledge each student of this class gets in his/her career.

HIS300BE

日本現代史料学

劉　傑

授業コード：A3127　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代史史料の探し方、読み方を学び、史料のなかの日本外交を考える。
具体的には、外交記録、日記、手紙、報告書、回想録など多様な史料の調査法、利用法などを習得する。
昭和 12 年、日本と中国は全面戦争に突入する。戦争の拡大と平行して展開された外交は、戦争そのものだけでなく、戦後日本のあり方にも大きな影響を与えた。外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。戦争の時代における外交の可能性について考える。
戦後の日本外交は対米関係を基軸に展開され、日本は直接戦争に巻き込まれることなく今日の繁栄を築きあげた。戦後日本の政治家と外交官の外交理念を辿りながら、平和な国際環境を創出するための日本外交の戦後史を学ぶ。

【到達目標】
近現代の日本外交に関連する記録を解読し、近現代日本外交の特徴や、外交政策を影響する諸要素を史料のなかから読み解く方法を身に付けることができる。
史料の探し方、史料批判の方法、史料利用の方法などについて検討し、多様な史料を手がかりに、日本とアジア、世界とのかかわりかたを理解する。
また、討論を通じて、世界の中の日本を理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解読」する方法を学んでいく。授業中の質問に対しては、討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	昭和史研究と史料	昭和期史料の特徴を概観する。
第 2 回	日中戦争下の外交 (1)	史料を読み、日中戦争中の「和平工作」を考える。
第 3 回	日中戦争下の外交 (2)	「近衛声明」の意味とその影響について討論する。
第 4 回	外交官と戦争（1）	外交官の日記を読み、その史料価値を考える。
第 5 回	外交官と戦争 (2)	外交官の報告を読み、その影響について分析する。
第 6 回	太平洋戦争下の外交（1）	開戦をめぐる諸問題を外交官の報告で考える。
第 7 回	太平洋戦争下の外交（2）	対中外交を軍人の報告書で読む。
第 8 回	太平洋戦争下の外交（3）	占領地政権問題を日記で考える。
第 9 回	終戦外交（1）	陸軍の終戦構想を記録で検証する。
第 10 回	終戦外交（2）	外交記録で終戦を読む。
第 11 回	冷戦下の日本外交 (1)	メディアのあり方と冷戦について討論する。
第 12 回	冷戦下の日本外交（2）	中国、台湾の公的文書をよみ、日本のアジア外交を考える。
第 13 回	日中国交回復とアジア外交の新展開（1）	日中両国の史料を読み、日中関係の特質について討論する。
第 14 回	日中国交回復とアジア外交の新展開（2）	日中の新聞記事を分析し、日本のアジア外交を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された参考書を授業の前後に読むこと。
配布史料を授業後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】
その他の参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくと便利であろう。
箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史: 黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房 (2016 年）
井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003 年）
増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック――解説と資料――』（有信堂、2007 年）
川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007 年）
劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006 年）
劉傑・川島真『1945 年の歴史認識』（東京大学出版会、2009 年）
劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013 年）

【成績評価の方法と基準】
毎回授業時間内に討論か、小リポート課題を完成していただく。学期末にこれを参考にし（50 %）、試験（50 %）とともに成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義の詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用するなど、履修者によりよく内容を理解してもらうように努める。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンなどの通信機器。

【その他の重要事項】
新型コロナウィルス感染防止対策として、Web 学習支援システムなどを利用する。授業方式や課題などを見落とさないように注意し、指示にしたがって学習を行ってください。

【Outline and objectives】
In this lesson we will learn how to research and read historical materials of modern history of Japan. Also think about Japanese diplomacy in historical materials.
Specifically, we will learn how to find and analysis documents such as diplomatic records, diaries, letters, reports, memoirs.
In 1937, Japan and China started a general war. The diplomatic negotiations between Japan and China had a great influence not only on the war itself but also on the way of Japan after the war. We will discuss how did diplomats' perceptions and diplomatic approaches influence China-Japan relations? And think about the possibility of diplomacy in the era of war.

HIS300BE

東洋史外書講読Ⅰ

塩沢　裕仁

授業コード：A3139　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東洋史を研究していく上で不可欠な漢文史料読解の訓練を行います。
基本的かつ様々な種類の漢文史料講読を通じて、東洋史研究への理解を深めることが目的です。東洋史研究で用いる史料に対して，これまでとは違った見方，考え方、接し方ができるようになります。

【到達目標】
史料として馴染みの薄い漢文の史料ですが、単に史料を読み進めていくだけでなく近年増加する考古資料との関わりを考えることによって、より身近なものにすることができます。また、初期段階にある個々人が、史料の講読練習を積み重ねることによってより高みを目指すとともに、東洋史への興味関心を増大させ、特講や演習への理解を深めることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
史料の読解練習と近年増大する考古学の成果などを踏まえた解説とを交互に行います。史料は『三国志』関羽列伝、『睡虎地秦簡』法律答問、『水経注』という異なる性格の史料を用いますが、平易かつ歴史的に有名なところを選定していますので、興味を持って参加してみることを勧めます。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	講読に必要な入門書・辞書類の紹介並びに訓読基本の解説
第 2 回	テキスト（正史）講読Ⅰ	『三国志』と『三国志演義』の相違
第 3 回	テキスト（正史）講読Ⅱ	『三国志』の講読と三国志研究の現状１
第 4 回	テキスト（正史）講読Ⅲ	『三国志』の講読と三国志研究の現状２
第 5 回	テキスト（正史）講読Ⅳ	『三国志』の講読と三国志研究の現状３
第 6 回	テキスト（簡牘）講読Ⅰ	簡牘に関する説明と研究の現状
第 7 回	テキスト（簡牘）講読Ⅱ	『睡虎地秦簡』法律答問の講読１
第 8 回	テキスト（簡牘）講読Ⅲ	『睡虎地秦簡』法律答問の講読２
第 9 回	テキスト（簡牘）講読Ⅳ	『睡虎地秦簡』法律答問の講読３
第 10 回	テキスト（地理書）講読Ⅰ	『水経注』の解説
第 11 回	テキスト（地理書）講読Ⅱ	『水経注』黄河編の講読１
第 12 回	テキスト（地理書）講読Ⅲ	『水経注』黄河編の講読２
第 13 回	テキスト（地理書）講読Ⅳ	『水経注』黄河編の講読３
第 14 回	テキスト（地理書）講読Ⅴ	『水経注』黄河編の講読４

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
辞書を活用することで漢文を学んだことがなくとも十分に対応ができると思いますので、積極的な予習を期待します。また、史料の読解と内容への理解を深めるため、博物館や展示会には頻繁に出掛け自分の目で遺物を観察してもらいたいと思います。
特定の教科書は使用しませんが、『ビジュアル版世界の歴史５、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）と『ビジュアル版世界の歴史８、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）には目を通しておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜教材としてプリントを配布します。

【参考書】
参考文献については逐次紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、レポート課題 30 %。

【学生の意見等からの気づき】
専門書や大型の辞書などの書籍については個人で購入することは困難です。授業中に収蔵場所などを示しますので、図書館などを積極的に活用し予習するようにしてください。

【その他の重要事項】
継続的な学習が原則ですので、欠席した場合には当該授業の内容について友人などを通じて情報を得て整理しておくようにしてください。

【Outline and objectives】
On reading basic and various Chinese historical records for doing research on Chinese history, we will aim to gain more understanding on Chinese history and be able to see an issue from various perspectives.

HIS300BE

東洋史外書講読Ⅱ

宇佐美　久美子

授業コード：A3140　｜　曜日・時限：**金曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インド洋西海域における移民史研究に関する英語文献を輪読していく。
さらに移民史研究について、その方法論や研究史を含めた概略を学ぶ。

【到達目標】
英語で書かれた論文を読むスキルを身につける。
単に英語を日本語に置き換えるのではなく、論理の展開に注目して適切な訳語・訳文を選択できるようになる。
特に、研究史をふまえて「定訳」を確認する習慣を身に付ける。
移民史研究についての基礎知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
対面授業形式で、インド洋西海域における移民史に関する英語文献（研究論文または史料）を講読する。
毎回、発表担当者が提出した訳文をもとに質疑応答を行い、全受講生の提案をふまえて訳文を推敲する。
さらに、リアクションペーパー等のコメントを次回授業内で紹介し全受講生へのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	テキスト紹介	テキスト配布など
第 2 回	英文論文読解の基本事項の説明	テキスト講読
第 3 回	インド洋西海域史研究の概略	テキスト講読
第 4 回	移民史研究の概略	テキスト講読
第 5 回	インド洋の自然環境と航海技術	テキスト講読
第 6 回	14 世紀までのインド洋西海域の移民史	テキスト講読
第 7 回	15～16 世紀のインド洋西海域の移民史	テキスト講読
第 8 回	17～18 世紀のインド洋西海域の移民史	テキスト講読
第 9 回	19 世紀のインド洋西海域の移民史 (1)	テキスト講読
第 10 回	19 世紀のインド洋西海域の移民史 (2)	テキスト講読
第 11 回	19 世紀のインド洋西海域の移民史 (3)	テキスト講読
第 12 回	20 世紀のインド洋西海域の移民史 (1)	テキスト講読
第 13 回	20 世紀のインド洋西海域の移民史 (2)	テキスト講読
第 14 回	20 世紀のインド洋西海域の移民史 (3) ／小テスト	テキスト講読／小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。
進度に合わせ、毎回予習として担当箇所以外も英文テキストを読む。
固有名詞、歴史用語などについて不明点があれば調べておく。
和訳担当者は担当箇所の訳文を授業時に配布し、他の受講者が検討できるようにする。
復習時には頻出用語の定訳をリストアップするとともに、キーセンテンスを辿って著者の論考の流れを確認しておく。

【テキスト（教科書）】
教科書は第 1 回の授業で決定し配布する。

【参考書】
家島彦一『海域から見た歴史―インド洋と地中海を結ぶ交流史』名古屋大学出版会 2006 年
古賀正則・内藤雅雄・浜口恒夫編『インド人移民社会の研究』東大出版会 2000 年

【成績評価の方法と基準】
平常点 (80 %) と最終講義における小テスト (20 %) を総合して成績を決定する。
平常点については、テキストを読み取る上での重要な論点を提起し、その背景を詳しく調べるなど、論議を深めようという意欲を高く評価する。
小テストでは、授業での論議や検討をふまえ、論理の展開に注目して適切な訳語を選択する力、段落のキーセンテンスの正確な解釈力を評価する。
単に英語の能力だけで評価するわけではない点を十分に留意してもらいたい。

【学生の意見等からの気づき】
「英語の論文を初めて読んだので難しかったが、勉強になった。」という意見を参考に、さらに丁寧に授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】
新型コロナウィルス感染拡大防止の観点などから見て、やむを得ない事情で欠席した学生の便宜を図るため、学習支援システム Hoppi を利用します。

【その他の重要事項】
第 1 回の授業でテキストを配布し、輪読の分担を決めるため、必ず出席すること。
難易度や進度について要望がある者は、必ずその場で意見を述べてもらいたい。
教員との連絡用メールアドレスは下記のとおり。
kumiko.usami.c4@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】
The students are required to read an English thesis dealing the historical development of community networks and the maritime trade activities in the western part of the Indian Ocean.
They are provided the opportunity to speculate historiography, especially on the historical studies of the immigrant communities or 'slavery/ slave trade' in various areas.

HIS300BE

西洋史外書講読 I

後藤　篤子

授業コード：A3147　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の論説文から著者の主張を正確に読み取る能力は、西洋史で卒業論文を書く際に必要となるだけでなく、グローバル化時代の社会人にも広く求められるものです。この授業では西洋前近代に関連する学術論文を素材として、英語論説文の読解方法を学びます。

【到達目標】
（1）英文の構造を正確に把握できるようになる（これは、英文を速読できるようになるためにも、必須の能力です）。
（2）接続詞等に留意しつつ著者の立論をたどり、その主張を正確に理解できるようになる。
（3）英語学術論文の註の付け方の基本を学び、註内容を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
古代ローマが中世・近現代ドイツでどのように受容されたかをテーマにする英語論文を精読します。毎回の授業前に学習支援システム上で、受講生にはテキストの指定箇所の和訳を提出してもらい、教員からは該当箇所の試訳と簡単な英文構造説明を配布します。受講生はそれらを参照しつつ自分が提出した和訳を見直したうえで、毎回の教室授業に臨んでください。教室授業は、指定箇所の英文構造等の詳説、質疑応答、内容に関する討議を中心に進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	テキストの確認と授業の進め方の解説。英文構造を把握するとはどういうことかの説明。
第 2 回	英語学術文献の読み方	英語論文和訳に向けた予習方法および毎回の課題提出方法の説明。
第 3 回	ドイツ地域とローマの歴史的関係 (1) ―古代ローマ帝国からいわゆる神聖ローマ帝国へ	第 1 回課題に関する解説と質疑応答、討議。
第 4 回	ドイツ地域とローマの歴史的関係 (2) ―「ドイツ国民の神聖ローマ帝国」へ	第 2 回課題に関する解説と質疑応答、討議。
第 5 回	ローマの多様なイメージの展開―ルネサンス期の状況	第 3 回課題に関する解説と質疑応答、討議。
第 6 回	ドイツの「人文主義」における古典古代	第 4 回課題に関する解説と質疑応答、討議。
第 7 回	19 世紀におけるドイツ「民族主義」高揚の影響	第 5 回課題に関する解説と質疑応答、討議。
第 8 回	ドイツ帝国における古代ローマのイメージ	第 6 回課題に関する解説と質疑応答、討議。
第 9 回	ナチス時代における錯綜した「古代」受容	第 7 回課題に関する解説と質疑応答、討議。
第 10 回	第 2 次世界大戦後、特に東ドイツにおける状況	第 8 回課題に関する解説と質疑応答、討議。
第 11 回	考古学研究の発展 (1) ―啓蒙時代以後の古代ローマ研究の進展	第 9 回課題に関する解説と質疑応答、討議。
第 12 回	考古学研究の発展 (2) ―ドイツ帝国下のローマ考古学の進展とナチス時代の「反ローマ的」考古学の進展	第 10 回課題に関する解説と質疑応答、討議。
第 13 回	考古学研究の発展 (3) ―東西ドイツおよび統一後の状況	第 11 回課題に関する解説と質疑応答、討議。
第 14 回	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、テキストの指定箇所の和訳を期限までに学習支援システムの課題欄に提出。その後、教材欄で配布される教員による試訳と英文構造説明を参照しつつ自分の和訳を見直し、誤訳や不適訳があった場合はその原因を考える。それだけの予習をしたうえで、毎回の教室授業に臨むこと。教室授業後は、課題箇所に関する教員の解説、および質疑応答や討議の内容を踏まえて、自分が英語論文の内容を正確に把握できているか確認すること。その確認は次回課題の予習に必要となる。受講生の基本的英語力によって多少の違いはあっても、本授業の準備学習には目安として 3 ～ 4 時間を、復習にも 1 ～ 2 時間を要するであろう。

【テキスト（教科書）】
Manuela Struck, "The *Heilige Römische Reich Deutscher Nation* and Hermann the German", in: Richard Hingley ed., *Images of Rome: Perceptions of ancient Rome in Europe and the United States in the modern age*, Portsmouth, 2001.

【参考書】
歴史学研究会編『幻影のローマ―〈伝統〉の継承とイメージの変容』青木書店、2006 年。
アルベール・ドゥマン、栗田伸子訳「アドルフ=ヒトラーの政治思想におけるローマとゲルマニア」、倉橋良伸ほか編『躍動するローマ世界―支配と解放運動をめぐって』（理想社、2002 年）所収。

【成績評価の方法と基準】
平常点（毎回の課題の提出状況および和訳の精度）60 %、期末試験 40 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度アンケートは回答数が少なすぎて精度には欠けるかもしれないが、オンライン授業の方法自体は好評だったようだ。特に教員の試訳配布は復習に役立つので次年度以降も続けてほしいという要望があったので、2021 年度も継続するつもりである。ただ、課題の量が多過ぎた、教員による試訳や英文構造のアップのタイミングが遅すぎたという声もあったため、2021 年度は受講生とも相談して課題量を加減する、課題提出期限と教員による試訳・英文構造説明のアップのタイミングを調整する等、改善を図りたい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students improve themselves in reading comprehension of academic works written in English.

HIS300BE

西洋史外書講読Ⅱ

古川　高子

授業コード：A3148　｜　曜日・時限：**月曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語の基礎文献を講読し、内容を解説しながら歴史学の基礎概念についての解説も行う。

【到達目標】
基本的な英語文献を丁寧に精読し、歴史学の基礎概念を身につけ、歴史学の研究に必要な英文史資料や英語研究文献の読解力を養成する。英文を理解して、訳せるようにすることが最大の目標である。その際、英文の註表記なども使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・Tara Zahra, *Kidnapped Souls. National Indifference and the Battle for Children in the Bohemian Lands, 1900-1948* (Ithaca/London, 2008)（タラ・ザーラ『誘拐された魂　ボヘミア地方における国民的冷淡さと子どもをめぐる闘争　1900 年-1948 年』）の第 1 章「チェコ人の子どものためにチェコ語の学校を！」を精読する。本著作はオーストリア＝ハンガリー二重君主国内ボヘミア（＝チェコ）地方において、将来の国民の源泉として地域に住む子どもをいかにしてチェコ人あるいはドイツ人にするかをめぐって行われたチェコ人ナショナリストとドイツ人ナショナリストの相克についての研究書である。多言語地域における住民の生活や教育を学ぶことを通じて国民形成がいかになされるのかを教えてくれるこの本は、近現代史を学ぼうとする学生には好適書だと考えられる。
・テキストは学習支援システムを通して配布する。
・テキストを一文ずつ毎回あてるゆえ、学生は、音読後、その場で日本語に訳す必要がある。その際、英語の脚注も読むため、併せて読んでおくこと。
・期末テスト以外に一ヶ月に一度、読解の小テスト（計 3 回）行う。小テストについては、翌週の授業時に返却するので、必ず復習しておくこと。
・授業中に疑問に感じたことについては授業の最後に質問時間を設定するので、そこで回答する。できなかった質問については学習支援システムに通して全員に回答を送付する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	英語文献の読み方・調べ方、歴史学についての概論、テキスト・著者の紹介などを書いたガイダンス
第 2 回	一文ずつのテキスト精読	Chap. 1, Czech Schools for Czech Children!, pp. 13-14 を精読
第 3 回	一文ずつのテキスト精読	Chap. 1, Czech Schools for Czech Children!, pp. 15-16 を精読
第 4 回	小テスト（1） 一文ずつのテキスト精読	・第 2 回と第 3 回で読んだ部分の読解小テスト ・Chap. 1, Czech Schools for Czech Children!, pp. 17-18 を精読
第 5 回	一文ずつのテキスト精読	Chap. 1, Czech Schools for Czech Children!, pp. 19-20 を精読
第 6 回	一文ずつのテキスト精読	Chap. 1, Czech Schools for Czech Children!, pp. 21-22 を精読
第 7 回	小テスト（2） 一文ずつのテキスト精読	第 4 回から第 6 回で読んだ部分の読解小テスト ・Chap. 1, Czech Schools for Czech Children!, pp. 22-23 を精読
第 8 回	一文ずつのテキスト精読	Chap. 1, Czech Schools for Czech Children!, pp. 24-25 を精読
第 9 回	一文ずつのテキスト精読	Chap. 1, Czech Schools for Czech Children!, pp. 26-27 を精読
第 10 回	小テスト（3） 一文ずつのテキスト精読	・第 7 回から第 9 回で読んだ部分の読解小テスト ・Chap. 1, Czech Schools for Czech Children!, pp. 27-28 を精読
第 11 回	一文ずつのテキスト精読	Chap. 1, Czech Schools for Czech Children!, pp. 29-30 を精読
第 12 回	一文ずつのテキスト精読	Chap. 1, Czech Schools for Czech Children!, pp. 31-32 を精読
第 13 回	一文ずつのテキスト精読	Chap. 1, Czech Schools for Czech Children!, pp. 33-34 を精読
第 14 回	まとめと期末テスト	精読した部分全範囲の読解テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
数回毎に読解の小テストを行うので、教室授業のための予習・復習には各回、それぞれ最低 2 時間を必要とする。

【テキスト（教科書）】
Tara Zahra, *Kidnapped Souls. National Indifference and the Battle for Children in the Bohemian Lands, 1900-1948* (Ithaca/London, 2008)

【参考書】
タラ・ザーラ執筆の別の本が翻訳されたので、参照すること。
タラ・ザーラ著、三時眞貴子/北村陽子監訳/岩下誠/江口布由子訳『失われた子どもたち　第二次世界大戦後のヨーロッパの家族再建』（みすず書房、2019）。

【成績評価の方法と基準】
授業への貢献・平常点（20%）、学期中 3 回行われる小テスト（30 %）、期末テスト（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
・重要：学習支援システムを通じてテキスト配布を行うので、必ず学習支援システムに仮登録してください。それをしないと授業に参加できません。
・授業に出席して、テキストの文章の意味を理解しておかないと、小テストを受けても点が取れず、テスト範囲が長い期末テストにも追いつけなくなるという悪循環に陥るので、予習を十分した上で、必ず出席してノートをとり、テスト前にしっかり復習しておくこと。

【Outline and objectives】
Reading an English basic book and lecturing basic concepts of history

HIS300BE

日本考古学演習

小倉　淳一

授業コード：A3128　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本考古学に関する研究を自立的に進めていくための演習形式の授業とする。考古学の実践研究例を研究論文によって検討し、考古学資料から歴史を再構成し考察を加えてゆくための方法や基礎力をつける。

【到達目標】
2 年生：考古学の専門論文を読み解く力がつき、その成果を他者に説明し、討論に参加することができる。また、考古学の扱う範囲や研究方法について実践的に理解することができる。
3 年生以上：考古学の専門論文を解説し、自らの着眼点や問題意識をもとにして検討を加え、討論を主導していくことができる。また、卒業論文を執筆するためのテーマと実践方法を獲得し、研究構想に関する発表を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
考古学の研究論文を読解し、その論理構成、資料の扱い方などを批判的に検討する。その結果をもとに自己の研究レポートや論文の制作につなげる。卒業論文を書くための準備作業に相当する。そのほかに考古学方法論に関する文献講読や、リポートの研究発表も実施する。
毎回の授業は演習形式とする。司会進行役を設け、各回の発表者が資料を作成した上で論文を解題し、論旨や方法について集団で検討する。課題が残れば調査の上で追加発表する。基本的には演習参加者の討論が基礎となるので、事前に資料を読み込んでおくことが必要である。受講者は各回とも必ず出席し、討論に参加して自己の見解を表明すること。なお、ゼミの際に事前準備をしていない者は退室してもらうことがある。
レポート等のフィードバックについては授業内に行うかオフィス・アワー（月曜 5 限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ
第 2 回	論文講読発表（1）	文献解題と討論（1）
第 3 回	論文講読発表（2）	文献解題と討論（2）
第 4 回	論文講読発表（3）	文献解題と討論（3）
第 5 回	論文講読発表（4）	文献解題と討論（4）
第 6 回	論文講読発表（5）	文献解題と討論（5）
第 7 回	研究発表（1）	卒業論文に関連する研究発表（1）
第 8 回	研究発表（2）	卒業論文に関連する研究発表（2）
第 9 回	研究発表（3）	卒業論文に関連する研究発表（3）
第 10 回	論文講読発表（6）	文献解題と討論（6）
第 11 回	論文講読発表（7）	文献解題と討論（7）
第 12 回	論文講読発表（8）	文献解題と討論（8）
第 13 回	論文講読発表（9）	文献解題と討論（9）
第 14 回	春学期のまとめ	春学期講評・レポート課題提示

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	概要説明	授業の概要と方法・授業進行の打ち合わせ・春学期レポートの回収
第 16 回	論文講読発表（10）	文献解題と討論（10）
第 17 回	論文講読発表（11）	文献解題と討論（11）
第 18 回	論文講読発表（12）	文献解題と討論（12）
第 19 回	論文講読発表（13）	文献解題と討論（13）
第 20 回	論文講読発表（14）	文献解題と討論（14）
第 21 回	研究発表（4）	卒業論文に関連する研究発表（4）
第 22 回	研究発表（5）	卒業論文に関連する研究発表（5）
第 23 回	研究発表（6）	卒業論文に関連する研究発表（6）
第 24 回	論文講読発表（15）	文献解題と討論（15）
第 25 回	論文講読発表（16）	文献解題と討論（16）
第 26 回	論文講読発表（17）	文献解題と討論（17）
第 27 回	論文講読発表（18）	文献解題と討論（18）
第 28 回	秋学期のまとめ・レポート提出	秋学期の講評と課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表担当者は扱う文献にもとづいて発表資料を作成し、解説と検討ができるよう準備すること。参加者はあらかじめ当該文献を批判的に読み、討論に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
考古学の研究雑誌は多く出ており、研究室や図書館で検索することができる。演習の素材にふさわしい研究論文を各自で探すことを求める。情報収集能力を涵養することも大切である。

【参考書】
佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）、コリン・レンフルー，ポール・バーン／池田裕ほか訳（2007）『考古学　理論・方法・実践』東洋書林

【成績評価の方法と基準】
春学期・秋学期それぞれレポートを提出すること（必須・評価割合は 30 %）。発表時の内容（テーマの選択・論理構成・説明・討論など）および通常の参加態度（司会・質問・討論など）も含め（授業時の評価は発表と参加態度をあわせて 70 %）、総合的に成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】
2 年生から 4 年生までのゼミ生が一堂に会して行う学生主体の授業です。論文講読やゼミ合宿等も含めた自主的な取り組みが大切です。共に学び合い、実力を涵養しましょう。

【その他の重要事項】
※担当者は博物館学芸員としての実務経験を有しており、授業では物質資料からの情報の引き出し方、それをもとにした研究の方法についても実践的に解説・指導する。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students deepen the discussion through reporting articles of their own choice on Japanese archaeology.

HIS300BE

日本古代史演習

小口　雅史

授業コード：A3129　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本古代国家の骨格が形成された 8 世紀の律令時代について、国家によって編纂された正史である『続日本紀』と、世界史の奇跡といわれる「正倉院文書」という二大史料群をもとに、それら文献史料から具体的に古代社会の実態を自力で具体的に読み取れるようになることを目標とします。『続日本紀』については北方史関係史料を、「正倉院文書」については土地経営関係史料を主たるテーマにして実施します。

【到達目標】
二つの史料群を素材に、文献史料から具体的に古代社会の実態を自力で具体的に読み取れるようになることを目標とします。正史の場合には、中央政府内の編纂者による色眼鏡がかかっていますから、それをいかに取り除いて実態に迫れるかについて訓練します。また古文書の場合には、当事者同士で自明なことは史料上に書かないという特徴があります。その時代の人間になりきって、いかにその古文書を読み解いて、当時の社会を再構成できるかが勝負です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に 1 回ごとに参加者 1 人が報告し、それをもとに参加者全員で議論を行います。個別の担当史料を律令法典や同時代の文学作品をも参考にしながら、その正確な読みから日本古代社会の実態を復原する方法を取得できるよう工夫してもらいます。正史の場合には、中央政府内の編纂者による色眼鏡がかかっていることもありえるのでそれをいかに取り除くかについて訓練します。また古文書の場合には、当事者同士で自明なことは書かないという特徴がありますから、いかにその時代の人間になりきって古文書を読めるようになるかが重要な論点となるはずです。
発表へのフィードバックについては、次回の授業の初めに、前回の授業で提出資料からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの運営方針、担当配分など
第 2 回	『続日本紀』解題	『続日本紀』の特徴について
第 3 回	史料 338、341 を読解する	大伴駿河麻呂について
第 4 回	史料 339 を読解する	出羽国への征夷について
第 5 回	史料 340 を読解する	鎮守府の官職について
第 6 回	史料 342 を読解する	古代の船について
第 7 回	史料 343 を読解する	出羽守について
第 8 回	史料 344、347 を読解する	俘囚の移配について
第 9 回	史料 345 を読解する	免田租について
第 10 回	史料 346 を読解する	陸奥国征夷について
第 11 回	史料 348 を読解する	免課役について
第 12 回	史料 349、350 を読解する	渤海使について
第 13 回	史料 351 を読解する	陸奥介について
第 14 回	まとめ	古代北方史の特質について

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	演習内容を理解する	正倉院文書の性格、担当割当確認
第 16 回	正倉院（東南院文書）解題	正倉院文書と東南院文書の特徴
第 17 回	史料集成１を読む（1）	桑原荘の成立
第 18 回	史料集成１を読む（2）	桑原荘の景観
第 19 回	史料集成２・３を読む（1）	桑原荘の経営（1）
第 20 回	史料集成２・３を読む（2）	桑原荘の経営（2）
第 21 回	史料集成５を読む	桑原荘経営の困難
第 22 回	史料集成７を読む	桑原荘田使の引責解任
第 23 回	史料集成８を読む	桑原荘の溝の改修
第 24 回	史料集成９・１０を読む	造東大寺司と桑原荘（1）
第 25 回	史料集成１１・１３を読む（２）	造東大寺司と桑原荘（2）
第 26 回	史料集成６・１２を読む	鯖田国富荘の経営実態
第 27 回	史料集成２８を読む	高串荘立荘時の作為と条里制
第 28 回	天平の社会改革の総括	古文書を通じてわかったこと、すなわち天平時代とはどのような時代であったのか、その特徴をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストはかなり難解なので、発表者は言うまでもないが、他の参加者も事前に必ず担当テキストを熟読しておくこと。司会担当者、コメンテーターは、進行の仕方を事前に検討し、また発表内容についての疑問点をあらかじめリストアップしておくこと。本授業の準備・復習時間は標準的には各２時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】
『青森県史』資料編古代Ⅰ・『青森県史資料編古代Ⅰ補遺』（いずれもコピーで可）
『デジタル古文書集日本古代土地経営関係史料集成　東大寺領・北陸編（大学テキスト版）』（同成社）

【参考書】
『続日本紀（前篇）』新訂増補国史大系（吉川弘文館）・新日本古典文学大系『続 日本紀』（岩波書店）／『令義解』新訂増補国史大系（吉川弘文館）／『律令』 日本思想大系・新装版（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】
平常のゼミ内での活動から判断する。発表内容では古典籍・古文書写真からの文字の解読・判定についての、パソコンを用いての正確な翻刻実習の成果も判定の対象とする。担当の史料を正確に読めるかどうかがもっとも重要なポイントとなる。それに加えて夏休みにはプレ卒論として、レポート作成に取り組んでもらう。ゼミでの発表内容が７５％、ゼミ内での質疑応答が２５％の割合で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度はサバティカルにつきなし。

【学生が準備すべき機器他】
事前に授業支援システムにアップされたレジュメを画面に投影しながらゼミをすすめます。パソコンで古代史料を適切に組み上げる能力を鍛えてください。

【その他の重要事項】
このゼミは卒論を執筆するための準備の場です。全ての作業が卒論に直結しています。夏休みにはミニ卒論も書いてもらいます。

【担当教員の専門分野等】
〈専門領域〉
日本古代史・法制史・北方史・国際日本学
〈研究テーマ〉
日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史
〈主要研究業績〉
2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』
2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院
2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－ FileMaker による Datebase の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline and objectives】
On the 8th century of Japan, based on the two major historical materials named "Shoku-nihongi" and "Shosoin documents", we will sutudy.
For the "Shoku-Nihongi", we extract and analyze Northern History in ancient Japan. Regarding "Shosoin documents", we will carry out with the main theme of land management. We will aim to become readable.

HIS300BE

日本中世史演習

大塚　紀弘

授業コード：A3130　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期は、鎌倉幕府の歴史書である『吾妻鏡』の講読を中心とし、担当者の読解・考察についての報告を基に全員で議論する。秋学期は、日本中世史に関する自由発表を中心とし、担当者の研究または論文批評の報告を基に全員で議論する。中世の漢文史料を読解する基礎的な力を養成し、中世の国家・社会・文化等について批判的に研究する方法を習得することを目的とする。

【到達目標】
中世の漢文史料を正しく訓読した上で、語句を調べ、内容を正確に理解し、現代語訳することができる。所定の事項を満たしたレジュメを作成し、発表することができる。関連史料や先行研究を収集・読解して内容を整理し、自分なりの論点を提示することができる。鎌倉幕府や朝廷、鎌倉や京都の都市社会を中心に、日本中世史に関する事柄について、自身の見解を提示あるいは発言することができる。所定の条件を満たしたレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式で進める。担当者が発表レジュメに基づいて発表した後、発表内容に基づいて、司会者の進行のもと、全員で議論する。また、日本中世史に関係する史跡や博物館を見学する機会を設ける。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」または「メール」を通じて行なう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	『吾妻鏡』とは（1）	履修のガイダンス
第 2 回	『吾妻鏡』とは（2）	史料の性格と調べ方の解説
第 3 回	『吾妻鏡』講読（1）	読解・考察の報告と議論
第 4 回	『吾妻鏡』講読（2）	読解・考察の報告と議論
第 5 回	『吾妻鏡』講読（3）	読解・考察の報告と議論
第 6 回	『吾妻鏡』講読（4）	読解・考察の報告と議論
第 7 回	『吾妻鏡』講読（5）	読解・考察の報告と議論
第 8 回	『吾妻鏡』講読（6）	読解・考察の報告と議論
第 9 回	『吾妻鏡』講読（7）	読解・考察の報告と議論
第 10 回	『吾妻鏡』講読（8）	読解・考察の報告と議論
第 11 回	『吾妻鏡』講読（9）	読解・考察の報告と議論
第 12 回	『吾妻鏡』講読（１０）	読解・考察の報告と議論
第 13 回	『吾妻鏡』講読（１１）	読解・考察の報告と議論
第 14 回	鎌倉幕府と都市鎌倉	講読・議論内容の総括

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	自由発表（1）	研究または論文批評の報告と議論
第 16 回	自由発表（2）	研究または論文批評の報告と議論
第 17 回	自由発表（3）	研究または論文批評の報告と議論
第 18 回	自由発表（4）	研究または論文批評の報告と議論
第 19 回	自由発表（5）	研究または論文批評の報告と議論
第 20 回	自由発表（6）	研究または論文批評の報告と議論
第 21 回	自由発表（7）	研究または論文批評の報告と議論
第 22 回	自由発表（8）	研究または論文批評の報告と議論
第 23 回	自由発表（9）	研究または論文批評の報告と議論
第 24 回	自由発表（１０）	研究または論文批評の報告と議論

第 25 回　自由発表（１１）　　研究または論文批評の報告と議論
第 26 回　自由発表（１２）　　研究または論文批評の報告と議論
第 27 回　自由発表（１３）　　研究または論文批評の報告と議論
第 28 回　日本中世史研究の課題　報告・議論内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
『吾妻鏡』講読では、全員が事前に講読する部分の訓読文を作成する。担当者は担当部分を読解し、関係する論文や史料を収集・読解・整理し、発表レジュメを用意する。発表後、レジュメを修正して全員に配布する。自由発表では、全員が事前に発表に関係する論文を読み、批評文を作成する。担当者は、発表１週間前までに論文をコピーおよびスキャンし、全員に配布する。また、関連する論文や史料を収集・読解・整理し、発表レジュメを用意する。春学期末、秋学期末の２度、所定の課題についてのレポートを執筆する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『吾妻鏡』講読では、講読する部分のコピーを配布する。自由発表では、担当者が論文のコピーを配布する。

【参考書】
授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点５６％（宿題提出２８％、発言２８％）、発表点２２％（春学期１１％、秋学期１１％）、学期末レポート点２２％（春学期１１％、秋学期１１％）の合計で評価する。春学期・秋学期それぞれ５回以上、正当な理由なく欠席した場合は、D評価とする。担当の発表、レポートを正当な理由なく１度でも怠った場合は、D評価とする。正当な理由によって欠席した場合は、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。評価基準の詳細は、初回に指示する。

【学生の意見等からの気づき】
議論が活発になるように努める。

【Outline and objectives】
Read the medieval Chinese texts and train the ability to understand the contents deeply.

HIS300BE

日本近世史演習

松本　剣志郎

授業コード：A3131　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は、江戸の町触を素材として、学生が史料の読解力を高めることをまずは目的とする。ついで先行する研究論文の批判的な読解力を身につけることを目指す。そのうえで、学生がそれぞれに深めていく研究テーマを、論理的かつ適切な表現を用いて発表する能力を獲得することを最終的な到達目標とする。歴史を学ぶ者にとって、史料の正確な読解は基本であり、そこから自らの歴史像を組み立てることを要求される。それのみならず歴史学は積み重ねの学問であるから、先行研究の正確な理解のうえで、これに対する自らの立場を明らかにすることが必要である。こうして本授業は、適切に課題を把握し、これを実証的に解決していく能力の養成を図っていくものとなる。なお、夏休みには地域の文化遺産の探訪および博物館の見学や史料調査等をおこなう合宿を、春休みには受講生全員の卒論報告会を実施する合宿を予定している。

【到達目標】
①史料を正確に音読し、現代語訳することができる。
②史料上の用語について調べ、それを説明できる。
③史料の内容を理解し、それを時代背景のなかに位置づけることができる。
④史料の解釈について討議できる。
⑤研究論文を正確に読解し、著者の意図を理解できる。
⑥研究論文を批判的に読むことができる。
⑦先行研究と史料から自らの課題を立ち上げ、これを論理的に解決できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
学生の報告および討議が中心である。春学期は、まず『江戸町触集成』の史料についてグループ毎に発表する。つぎに概ね 2000 年以降の学術雑誌掲載の近世史の論文をグループ毎に講読する。秋学期は、それぞれのテーマで研究報告をおこなう。発表の際に教師は課題に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの説明
第 2 回	近世史研究入門	研究テーマの見つけ方
第 3 回	図書館の使い方	図書館ガイダンス
第 4 回	史料講読（1）	江戸町触集成１号
第 5 回	史料講読（2）	江戸町触集成２号
第 6 回	史料講読（3）	江戸町触集成３号
第 7 回	史料講読（4）	江戸町触集成４号、ほか
第 8 回	論文講読（1）	政治史研究
第 9 回	論文講読（2）	社会史研究
第 10 回	論文講読（3）	文化史研究
第 11 回	論文講読（4）	村落史研究、ほか
第 12 回	個人発表（1）	４年生の卒論発表
第 13 回	個人発表（2）	３年生の卒論構想発表
第 14 回	個人発表（3）	２年生の夏休みレポートテーマ発表

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	３年生研究発表（１）	研究テーマの適切性
第 16 回	３年生研究発表（２）	先行研究の取扱い
第 17 回	３年生研究発表（３）	史料批判の方法
第 18 回	３年生研究発表（４）	史料引用の仕方
第 19 回	３年生研究発表（５）	論理展開の方法
第 20 回	３年生研究発表（６）	研究テーマの位置づけ
第 21 回	３年生研究発表（７）	研究テーマのひろがり
第 22 回	２年生研究発表（１）	研究テーマの適切性
第 23 回	２年生研究発表（２）	先行研究の取扱い
第 24 回	２年生研究発表（３）	史料批判の方法
第 25 回	２年生研究発表（４）	史料引用の仕方
第 26 回	２年生研究発表（５）	論理展開の方法
第 27 回	２年生研究発表（６）	研究テーマの位置づけ
第 28 回	２年生研究発表（７）	研究テーマのひろがり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
史料講読においては、報告担当者以外も事前学習として史料の書き下しと現代語訳に取り組み、語句などを調べてくること。論文講読においては、報告担当者以外も論文を読み込み、疑問点をリストアップすること。授業後には、史料の意味確認や授業時に紹介された参考文献などを読み、理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『江戸町触集成』（塙書房）。購入する必要はなく、図書館や史学科書庫にあるものから該当ページをコピーすればよい。

【参考書】
『国史大辞典』（吉川弘文館）、大石学編『江戸幕府大事典』（吉川弘文館）ほか

【成績評価の方法と基準】
１報告（４０％）。担当者は、レジュメを作成し、出席者に配布する。２レポート (４０％)。３質疑応答（２０％）。グループ割りをするので、第１回および第２回の授業への欠席は原則認められない。

【学生の意見等からの気づき】
卒論を書ける力を養成していきます。

【Outline and objectives】
This course deals with the early modern history of Japan.It also enhances the development of student's skill in making oral presentation.

HIS300BE

日本近代史演習

長井　純市

授業コード：A3203　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・授業の概要：史料に基づく日本近代史像の再構成作業を学ぶ。
・目的：日本近代史に関する知識を増やしたり、理解を深めたりする論文を読むと共に、一次史料（プライマリー・ソース）を正確に理解するトレーニングを行い、卒業論文作成のスキルを学ぶ。

【到達目標】
到達目標：（1）日本近代史に関わる史料の読解能力を養成すること。（2）史料に基づいて関連文献を調査し、得られた情報を取捨選択した上で配布資料を作成し、プレゼンテーション（発表）を行うスキルを身につけること。（3）日本近代史研究に関わる文献を論評する作法および自ら論文を作成するスキルを身につけること。（4）プレゼンテーションをふまえての質疑応答やディスカッションの作法を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
・授業の進め方：グループ発表形式。班編成及び各班担当の日程・史料・論文については、担当教員が行い、学習支援システムの「お知らせ」サイトで通知する。
・方法：あらかじめ担当教員が受講生全員に配布する史料コピー、課題論文目録・データ（PDF 版）、発表・配布プリント・フォーマット（原則として、すべて学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに添付ファイルでアップロードするので、受講生各自、ダウンロードすること）に基づいて、授業前半において発表班が発表を行い、後半には担当教員および受講生全員による講評と質疑応答を行う。教室での対面授業を行うが、新型コロナウィルス感染防止策として ZOOM を利用して教室での対面授業を同時配信する方式を併用することもある。リアクションペーパーにおける受講生の疑問や質問、コメントなどには、次回の授業冒頭あるいは学習支援システムにおいて対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要説明
第 2 回	ガイダンス（1）	発表の作法と配布資料（レジュメ）作成のルール
第 3 回	ガイダンス（2）	古文書読解の作法
第 4 回	発表（1）	学術雑誌掲載論文の論評（1）
第 5 回	発表（2）	学術雑誌掲載論文の論評（2）
第 6 回	発表（3）	学術雑誌掲載論文の論評（3）
第 7 回	発表（4）	学術雑誌掲載論文の論評（4）
第 8 回	発表（5）	学術雑誌掲載論文の論評（5）
第 9 回	発表（6）	学術雑誌掲載論文の論評（6）
第 10 回	発表（7）	学術雑誌掲載論文の論評（7）
第 11 回	発表（8）	学術雑誌掲載論文の論評（8）
第 12 回	発表（9）	学術雑誌掲載論文の論評（9）
第 13 回	発表（10）	学術雑誌掲載論文の論評（10）
第 14 回	発表（11）	学術雑誌掲載論文の論評（11）

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	発表（12）	学術雑誌掲載論文の論評（12）
第 16 回	発表（13）	「棚橋小虎日記」解説（1）

第 17 回　発表（14）　「棚橋小虎日記」解説（２）
第 18 回　発表（15）　「棚橋小虎日記」解説（３）
第 19 回　発表（16）　「棚橋小虎日記」解説（４）
第 20 回　発表（17）　「棚橋小虎日記」解説（５）
第 21 回　発表（18）　「棚橋小虎日記」解説（６）
第 22 回　発表（19）　「棚橋小虎日記」解説（７）
第 23 回　発表（20）　「棚橋小虎日記」解説（８）
第 24 回　発表（21）　「棚橋小虎日記」解説（９）
第 25 回　発表（22）　「棚橋小虎日記」解説（10）
第 26 回　発表（23）　「棚橋小虎日記」解説（11）
第 27 回　発表（24）　「棚橋小虎日記」解説（12）
第 28 回　まとめ　授業全体の総括と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習：発表班は、発表前にメンバーの役割分担や配布資料のとりまとめなどについて協議し、効率的な作業を行うこと。発表班以外の受講生は、授業前に課題史料や課題論文を読んでおき質問事項を考えておくこと。
・復習：発表班は、発表に対する質疑応答の中で提示された問題点を解消する作業を行い、学習の深化をはかること。発表班以外の受講生は、発表内容に関する参考文献を読むこと。そして、受講生全員、学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに毎回授業後に掲示される授業の要点や発表に対する担当教員のコメントを読むこと。疑問や質問があれば、学習支援システムの「一般ディスカッション」サイトに書き込みを行い、担当教員や受講生と質疑応答を行うこと。
・本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・テキストとなる「棚橋小虎日記」については、その史料コピー（PDF 版）と釈文プリント（ワード版）を学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに添付ファイル形式でアップロードする。受講生各自、ダウンロードすること。同日記は、法政大学大原社会問題研究所が所蔵する、戦前・戦後の労働運動家のものであり、その中の大正時代の部分をテキストとして使用する。
・もう一つのテキストとなる学術論文については、雑誌『法政史学』（法政大学史学会編・刊）に掲載された日本近代史研究に関わる論文のリストを配布する。その中の一部の論文は本学図書館の学術リポジトリにおいて公開されており、受講生各自、ダウンロードすること。非公開の論文については、PDF 版を上記「授業内掲示板」サイトに添付ファイルでアップロードするので、こちらも受講生各自、ダウンロードすること。

【参考書】
・『日本近代の歴史』（吉川弘文館）全６巻。
・アジア歴史資料センター、国立国会図書館電子展示会、独立行政法人国立公文書館などのウェブサイトに公開されているコラム。
・その他、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %として成績評価を行う。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には、不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】
発表前、草書体の史料の読解に困難を感じたり、発表項目の選定に迷う受講生がいることから、事前相談（メール、あるいは ZOOM）を行っている。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを利用することのできる IT 機器。
・ZOOM 授業を受講することのできる IT 機器。

【その他の重要事項】
・発表班は、発表日の前週末までに、配布レジュメを添付ファイル形式で学習支援システムの「一般ディスカッション」サイトにアップロードし、受講生が各自ダウンロードできるようにしておくこと。
・欠席が目立つ場合には、欠席事情の報告を求めると共に、学習不足を補うリポートを課す。
・やむを得ない事情により欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
・授業に関する連絡は学習支援システムの「お知らせ」サイトや「授業内掲示板」サイトで通知する。これらを頻繁に閲覧し、見落とさないように努めること。
・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。そのメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline and objectives】
This course has three main points. The first point is to study cursive style of Chinese characters through reading copies of the diary written by Kotora Tanahashi, one of the notable activists of the labor movements in the prewar period. The second one is to get an academic writing skill through reading several articles on the Japanese modern history of the Journal of the Hosei Historical Society (HOSEI SHIGAKU) in 1998-2020. The third is to have a presentation on the above diary or articles by group of two or three and get an academic skill for a presentation.

HIS300BE

日本現代史演習

差波　亜紀子

授業コード：A3134　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、研究論文および資料を題材に参加者が報告を行なうことを通じて、日本近現代史研究に取り組むための方法を学ぶ。

【到達目標】
①近現代史に関する知識や関心を養う。
②参考文献・論文や資料を探す方法を身につける。
③論文とはどんなものか、論文の書き方を学ぶ。
④資料の読み方、加工の方法を学ぶ。
⑤調査・検討結果をわかりやすく人に伝える方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
夏学期は研究論文を、秋学期は資料をもとに、担当者が報告をし、その後質疑を行なう形で授業を進める。秋学期で報告対象とする資料は、テキスト B 掲載のもの、もしくは夏季休暇中の課題に関係するものとし、詳細は教員との相談によって決めることとする。
内容理解を深めるために予習を必須とし、その内容を授業支援システムで共有すると共に、授業中、教員が補足を行なう。またリアクションペーパーの提出も、毎回、学習支援システムを通じて行なうこととし、それについては授業支援システムで回答するか、次回授業時に適宜振り返りを行なうこととする。
状況に応じ、オンライン、Zoom を併用しての開講となる。予習課題やリアクションペーパーの提出は毎回、学習支援システムを通じて行なう。授業内での報告用レジュメの提出・配付も学習支援システムを利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ		内容
第 1 回	授業説明		授業方法の説明
第 2 回	テキスト A	序章	報告と質疑
第 3 回	テキスト A	第 1 章	報告と質疑
第 4 回	テキスト A	第 2 章	報告と質疑
第 5 回	テキスト A	第 3 章	報告と質疑
第 6 回	テキスト A	第 4 章	報告と質疑
第 7 回	テキスト A	第 5 章	報告と質疑
第 8 回	テキスト A	第 6 章	報告と質疑
第 9 回	テキスト A	第 7 章	報告と質疑
第 10 回	テキスト A	第 8 章	報告と質疑
第 11 回	テキスト A	第 9 章	報告と質疑
第 12 回	テキスト A	第 10 章	報告と質疑
第 13 回	テキスト A	終章	報告と質疑
第 14 回	まとめ		報告と質疑

秋学期

回	テーマ		内容
第 15 回	夏季課題報告①		報告と質疑
第 16 回	夏季課題報告②		報告と質疑
第 17 回	テキスト B	資料①	報告と質疑
第 18 回	テキスト B	資料②	報告と質疑
第 19 回	テキスト B	資料③	報告と質疑
第 20 回	テキスト B	資料④	報告と質疑
第 21 回	テキスト B	資料⑤	報告と質疑
第 22 回	テキスト B	資料⑥	報告と質疑
第 23 回	テキスト B	資料⑦	報告と質疑
第 24 回	テキスト B	資料⑧	報告と質疑
第 25 回	テキスト B	資料⑨	報告と質疑
第 26 回	テキスト B	資料⑩	報告と質疑
第 27 回	テキスト B	資料⑪	報告と質疑
第 28 回	テキスト B	資料⑫	報告と質疑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業前には、各自テキストを熟読し、疑問点等をまとめ、学習支援システムで提出する。授業後は報告を踏まえて見解をまとめ、学習支援システムを通じてリアクションペーパーを作成・提出する。本授業の予習・復習時間には、あわせて 4 時間を要する。

【テキスト（教科書）】
テキスト A　法政大学社会問題研究所・榎一江編『戦時期の労働と生活』法政大学出版局、2018 年
テキスト B　時事新報社政治部編『手紙を通じて』宝文館、1929 年（国立国会図書館デジタルコレクション　https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1191

【参考書】
伊藤隆監修、百瀬孝著『事典　昭和戦前期の日本－制度と実態－』吉川弘文館、1990 年
鳥海靖他編『日本近現代史研究事典』東京堂出版、1999 年
その他は授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、平常点（予習課題・リアクションペーパーの提出、授業内での発言）、報告及びコメント、夏季休業中レポートを勘案して行なう。評価の割合は、平常点 40 %、報告 30 %、夏季休業中レポート 30 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
参加者同士の質疑をより活発にしていきたいと考える。

【学生が準備すべき機器他】
資料配付や課題提出等のために学習支援システムを利用する。そのためパソコンやタブレット、スマートフォン等、インターネットが使用できる情報機器と、必要によりプリンターを用意すること。
また授業の一部において、双方向型 WEB 会議システムを利用する。そのためカメラやマイク、イヤホンなども用意することが望ましい（PC 等に内蔵の場合は別途用意する必要はない）。

【その他の重要事項】
授業方法等の変更指示や質問の受付等は、学習支援システムを通じて行なう。
そのため授業開始日までに、学習支援システムで授業の仮登録をしておくこと。
その後は通知の見落としがないよう留意すること。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge to read and write thesis about modern and current history of Japan.

HIS300BE

東洋史物質資料演習

塩沢　裕仁

授業コード：A3210　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東アジア物質資料への理解

【到達目標】
中国考古・美術・建築に関するテキストの講読を通じて物質資料の性格を理解する手掛かりを見出すとともに、資料整理の方法を習得することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
『漢代物質文化資料図説』（中国国家博物館学術叢書）をテキストとして用い、その講読と内容発表を行います。各自が興味をもつテーマをテキストの中より選び、そのテーマを研究する上で必要な研究文献や研究資料の収集を行い、報告資料を作成の上、発表を行ってもらいます。物を見る力を養い、関連する資料を如何に見出し資料の性格を理論的に組み立てていくかという問題を互いに議論していく必要があります。
前半では、まずテキストを読み解き、特別な用語に慣れることに主眼をおきます。テキストは現代中国語ですので、読解に慣れた上級生と不慣れな下級生との組み合わせで担当するテーマについて、内容の要約と説明を行ってもらいます。後半では各自の研究計画テーマに沿ってテキストよりテーマを選択し発表してもらいますが、互いに論評し合うことによって各々がより良い研究への方向性を見出していくことを期待します。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	導入 1	年間計画・テキストの説明と配布
第 2 回	導入 2	基本書籍・工具書の紹介
第 3 回	図書館ガイダンス	物質文化関連書籍の閲覧と図書館利用法
第 4 回	テキストの講読 1	『漢代物質文化資料図説』講読第 1 回
第 5 回	テキストの講読 2	『漢代物質文化資料図説』講読第 2 回
第 6 回	テキストの講読 3	『漢代物質文化資料図説』講読第 3 回
第 7 回	テキストの講読 4	『漢代物質文化資料図説』講読第 4 回
第 8 回	テキストの講読 5	『漢代物質文化資料図説』講読第 5 回
第 9 回	テキストの講読と発表 1	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第 1 回
第 10 回	テキストの講読と発表 2	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第 2 回
第 11 回	テキストの講読と発表 3	『漢代物質文化資料図説』自由選択テーマ、第 3 回
第 12 回	博物館見学	東京国立博物館見学
第 13 回	研究発表 1	4 年生対象 1
第 14 回	研究発表 2	4 年生対象 2

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	テキストの講読と発表 4	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 1 回
第 16 回	テキストの講読と発表 5	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 2 回
第 17 回	専門図書館の見学	東洋文庫
第 18 回	テキストの講読と発表 6	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 3 回
第 19 回	テキストの講読と発表 7	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 4 回
第 20 回	テキストの講読と発表 8	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 5 回
第 21 回	テキストの講読と発表 9	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 6 回
第 22 回	テキストの講読と発表 10	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 7 回
第 23 回	テキストの講読と発表 11	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 8 回
第 24 回	テキストの講読と発表 12	『漢代物質文化資料図説』研究テーマ別、第 9 回
第 25 回	研究計画発表 1	3 年生対象 1
第 26 回	研究計画発表 2	3 年生対象 2
第 27 回	研究計画発表 3	2 年生対象 1
第 28 回	研究計画発表 4	2 年生対象 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習で見学する博物館や図書館だけでなく、都内各所で開催される展覧会などに積極的に出掛け、物を見る目を培ってもらいたいと思います。
研究室の図書を積極的に活用し、また上級生や同級生との議論を重ねながら自分が研究しようとするテーマを定めるようにしてください。
なお、提携先の世界文化遺産龍門石窟での課外学習を予定しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『漢代物質文化資料図説』（中国国家博物館学術叢書）を用いますが、プリントして授業にて配布します。

【参考書】
授業の進行に合わせ適宜紹介していきますが、研究室所蔵の資料を積極的に活用してください。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %、レポート課題 30 %。

【学生の意見等からの気づき】
興味の対象は多岐にわたると思いますが、学習を進める中で自分のテーマが明確に見えてくると思います。

【Outline and objectives】
On reading various Historical records and doing research about the Oriental Archaeology, Art and Architecture, we will aim to gain the method for doing research on the Oriental Material Culture.

HIS300BE

東洋史文献史料演習

齋藤　勝

授業コード：A3211　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東洋史研究のための基礎の習得と実践
自分の力で卒論を書くために必要な東洋史研究の手法を身につける。

【到達目標】
東洋史の研究に必要となる文献史料（漢文）と先行研究（日本語・中国語・英語）の収集・読解に関わる技能・知識について、自力で研究を進め論文を執筆できるレベルまで習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「文献を読み込む」という作業について習熟することが最重要である。まずは出来るだけ多くの史料・研究を読み進め、全ての前提となる読解力を身につけたい。次に読んだ文献の性質を見極め、さらにそこから内容を吟味する力を身につけていくための訓練を行っていきたい。そしてその上で、卒論に向けた準備を進めていきたい。なお、課題に対するフィードバックは、文献を読み進めていくなかで行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	演習の概要	進め方、テキストについて
第 2 回	先行研究及び史料	論文の見つけ方、漢籍の分類、辞書の使い方
第 3 回	史料講読	先秦儒家文献（1）『孟子』
第 4 回	史料講読	先秦儒家文献（2）『荀子』
第 5 回	史料講読	先秦諸子文献（1）『墨子』
第 6 回	史料講読	先秦諸子文献（2）『韓非子』
第 7 回	史料講読	正史（1）『史記』
第 8 回	史料講読	正史（2）『史記会注考証』
第 9 回	史料講読	正史（3）『漢書』
第 10 回	史料講読	正史（4）『漢書補注』
第 11 回	史料講読	正史（5）『三国志』
第 12 回	史料講読	正史（6）『三国志集解』
第 13 回	史料講読	編年史書『資治通鑑』
第 14 回	先行研究の整理	中国史

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	先行研究の整理	中国史以外
第 16 回	文献学の基礎	書誌学について
第 17 回	文献学の基礎	漢籍の成立と伝世について
第 18 回	史料講読と考証	考証学・顧炎武・『日知録』について
第 19 回	史料講読と考証	『日知録』の講読・考証
第 20 回	史料講読と考証	『塩鉄論』について
第 21 回	史料講読と考証	『塩鉄論校注』の講読・考証
第 22 回	史料講読と考証	『白居易集』について
第 23 回	史料講読と考証	『白居易集』諸本の比較
第 24 回	中文研究書の講読	陳寅恪の研究
第 25 回	中文研究書の講読	陳垣の研究
第 26 回	英文研究書の講読	近現代中国もしくは諸地域について
第 27 回	卒論準備	卒論の書き方について
第 28 回	卒論準備	卒論の準備状況の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講読にあたる部分は当番制をとらないので、参加者各自に毎回、史料を読んできてもらいます。考証にあたる部分は当番制をとりますが、夏休み中の準備が必要になります。また予備知識にあたる部分は、参考文献を提示し各自で予習してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
上記の授業計画に挙げた文献についてコピーして配布します。

【参考書】
授業内容に応じて適宜、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %、レポート類 50 %
講読・発表をこなすことが平常点の最低条件になります。ただし甚だしく努力を怠る、理解が及んでいない等の場合は、成績として加算しません。
レポート類は、各学期中に加え、長期休暇の際も宿題として課します。全て提出することが条件となります。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
Learning basic skills to study ancient Chinese history

HIS300BE

西洋前近代史演習

後藤　篤子

授業コード：A3150　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業論文の作成に向けて、西洋前近代史に関する研究を自立的に進めるためのさまざまな基礎力―必要な情報・文献の収集力、学術文献の批判的読解力、プレゼンテーション能力、自分の考えを簡明に表現できる文章力など―を習得します。

【到達目標】
(1) 英語・日本語の学術文献の読解能力を身につける。
(2) 各自の関心に沿った文献収集・調査能力を身につける。
(3) レジュメ作成能力と口頭発表能力を身につける。
(4) 他者の報告を聞いて疑問点や問題点を発見する能力を身につける。
(5) 討議に積極的に参加する態度を身につける。
以上を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期はこれまでと内容を変え「西洋の古典を精読する」をテーマとします。具体的にはカエサル（前 100～前 44）が著した『ガリア戦記』１～７巻を素材とし、まずは個々の受講生に担当箇所の概要を報告してもらいます。その間に「軍人としてのカエサル」「政治家としてのカエサル」「カエサル時代のガリア・ゲルマン社会」「ローマ政界に向けたカエサルの自己弁明」というテーマ別に、グループでの読解と討議を進めてもらい、春学期の後半４回はグループ発表と質疑応答・討議を行います。春学期の最後は、総合的に見てカエサルをどう評価するか、受講者各自に意見を述べてもらい、全体討議を行います。秋学期は、３年生は卒論中間発表、２年生は自由研究発表という形で、個人発表と質疑応答・討議を行います。２年生の自由研究発表の際は、３年生に司会・コメンテーター役を務めてもらいます。質疑応答で答えられなかった質問に対しては「宿題」とし、後日補足報告をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方および秋学期の個人発表に向けた準備の説明。『ガリア戦記』についての説明、および概要報告の担当箇所割り当てとテーマ別グループ分け。
第 2 回	図書館の高度な活用方法	図書館スタッフによる専門ゼミ別ガイダンス
第 3 回	『ガリア戦記』第１巻の概要	担当者による概要報告と質疑応答 (1)
第 4 回	『ガリア戦記』第２・３巻の概要	担当者による概要報告と質疑応答 (2)
第 5 回	『ガリア戦記』第４巻～第５巻第２節の概要	担当者による概要報告と質疑応答 (3)
第 6 回	『ガリア戦記』第５巻第３節～第６巻の概要	担当者による概要報告と質疑応答 (4)
第 7 回	『ガリア戦記』第７巻の概要	担当者による概要報告と質疑応答 (5)
第 8 回	軍人としてのカエサル	グループ別発表と質疑応答・討議 (1)
第 9 回	政治家としてのカエサル	グループ別発表と質疑応答・討議 (2)
第 10 回	『ガリア戦記』から窺えるガリア社会・ゲルマン社会	グループ別発表と質疑応答・討議 (3)
第 11 回	政治的自己弁明の書としての『ガリア戦記』	グループ別発表と質疑応答・討議 (4)
第 12 回	カエサルをどう評価するか (1)	受講生各自の意見の発表
第 13 回	カエサルをどう評価するか (2)	これまでの発表・討議内容を踏まえての全体討議
第 14 回	春学期のまとめ	カエサルの『ガリア戦記』執筆意図に関する討議と、ゼミ合宿（開催可能であれば）および秋学期に向けた準備の説明

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期の概要説明	３年生による卒論中間発表および２年生の自由研究発表の日程調整と確定。
第 16 回	３年生の卒論中間発表 (1)	事前に学習支援システムに提出されたレジュメに基づく３年生の卒論中間発表と質疑応答・討議 (1)
第 17 回	３年生の卒論中間発表 (2)	事前に学習支援システムに提出されたレジュメに基づく３年生の卒論中間発表と質疑応答・討議 (2)
第 18 回	３年生の卒論中間発表 (3)	事前に学習支援システムに提出されたレジュメに基づく３年生の卒論中間発表と質疑応答・討議 (3)
第 19 回	３年生の卒論中間発表 (4)	事前に学習支援システムに提出されたレジュメに基づく３年生の卒論中間発表と質疑応答・討議 (4)
第 20 回	３年生の卒論中間発表 (5)	事前に学習支援システムに提出されたレジュメに基づく３年生の卒論中間発表と質疑応答・討議 (5)
第 21 回	自分の進路を考える	キャリアセンターのアドヴァイザーによる就職活動に向けてのガイダンス
第 22 回	２年生の自由研究発表 (1)	２年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (1)
第 23 回	２年生の自由研究発表 (2)	２年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (2)
第 24 回	２年生の自由研究発表 (3)	２年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (3)
第 25 回	２年生の自由研究発表 (4)	２年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (4)
第 26 回	２年生の自由研究発表 (5)	２年生による自由研究発表と質疑応答・討議 (5)
第 27 回	自由研究を深化させる (1)	２年生の「宿題」報告をめぐる討議 (1)
第 28 回	自由研究を深化させる (2)	２年生の「宿題」報告をめぐる討議 (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
春学期は、各自で『ガリア戦記』の読解を進めて担当箇所の概要報告に備え、その間もグループ別テーマに沿った読解と討議を進めて、レジュメの共同作成などグループ発表の準備をする。加えて春学期中から、２年生は秋学期の自由件件発表に向けた文献収集・読解を進め、３年生は秋学期の卒論中間発表に向けた準備を進める。
秋学期は、３年生は卒論中間発表レジュメ、２年生は自由研究発表レジュメを、発表予定日の１週間前までに作成し、学習支援システムにアップする。他の受講生はそれをダウンロードして、２年生の自由研究発表に関しては事前配布の参考論文も合わせて事前に熟読したうえで、毎回の質疑応答や討議に臨むことが必要。２年生は質疑応答で十分に答えられなかった問題についてさらに調査し、「宿題」報告レジュメを指定された期日までに学習支援システムにアップする。３年生は発表時の質疑応答や講評を踏まえて自主的に勉学を進め、２月初旬に実施予定の２度目の卒論中間発表に備える。本授業の準備学習・復習には、各２時間以上を要するでしょう。

【テキスト（教科書）】
カエサル『ガリア戦記』、國原吉之助訳、講談社学術文庫、1994 年。

【参考書】
『カエサル戦記集　ガリア戦記』、高橋宏幸訳、岩波書店、2015 年。
スエトニウス『ローマ皇帝伝 (上)』（国原吉之助訳、岩波文庫、1986 年）の「第一巻　カエサル」。
村川堅太郎編『プルタルコス英雄伝・下』（ちくま文庫、1987 年）所収の「カエサル」（長谷川博隆訳）。
長谷川博隆『カエサル』、講談社学術文庫、1994 年。
マティアス・ゲルツァー『ローマ政治家伝Ⅰ　カエサル』、長谷川博隆訳、名古屋大学出版会、2013 年。
高橋宏幸『『ガリア戦記』――歴史を刻む剣とペン』、岩波書店、2009 年。
、

【成績評価の方法と基準】
平常点のみ（古典読解の予習度・精度 20 %、グループ発表の準備度・内容 30 %、個人発表の準備度・内容 30 %、質問や討議への参加度など授業への積極的参加度 20 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は Zoom によるゼミ運営となり、運営方法について受講生と頻繁に意見交換していたためか、授業改善アンケートへの回答率が非常に低かったです。2021 年度春学期の内容を、英学術語論文の精読ではなく、邦訳による古典史料の精読に変更し、グループ別学習を導入したのも、受講生との意見交換の結果ですが、新しい運営方法なので、新２年生の意見も聞きながら適宜改善していきたいと考えています。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the basic academic skills to write a graduation thesis on pre-modern Western history, such as reading comprehension of academic works written in Japanese and English, logical thinking, presentation skills and academic writing.

HIS300BE

西洋近代史演習

高澤　紀恵

授業コード：A3151　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2021 年度春学期は、ヴォルテール『寛容論』を背景を調べつつ丁寧に読み、その主張と内容を正確に理解することを目指す。主として日本語版を用いるが、フランス語によるオリジナル、英語版を常に参照し、古典の翻訳という知的営為についての理解を深める。
秋学期は、Dale K. Van Kley, Reform Catholicism and the International Suppression of the Yesuits in Enlightenment Europe
(Yale University Press, 2018) を精読する。

【到達目標】
古典と呼ばれるテクストを精読できる力の習得を到達目標とする。春学期は、近世・近代ヨーロッパ史、政治学、思想史、教育史など広範な専門領域で読み継がれてきたヴォルテールのテクストを、彼が生きた 18 世紀のコンテクストの中で読み解く。
秋学期は、英語のテクストに慣れ、よくわからない言葉、概念、出来事に出会ったときに、徹底的に調べる方法を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
演習形式の授業である。学生たちの間で分担を決め、レジュメを用意して報告をすること。毎回、短くグループ毎に議論する時間を設ける。報告へのフィードバックは、毎回の授業の後半を当てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	今、『寛容論』を読む意味について考える
第 2 回	テクストの背景	著者とその時代
第 3 回	『寛容論』（1）	第一章　ジャン・カラスが死に至った概要 第二章　ジャン・カラス処刑の結果
第 4 回	『寛容論』（2）	第三章　一六世紀における宗教改革の概要 第四章　寛容は危険であるか、またいかなる民族において寛容は許されているか
第 5 回	『寛容論』（3）	第五章　寛容はどうすれば許されるか 第六章　不寛容は自然法と人定法に含まれているか 第七章　不寛容はギリシア人によって知られていたであろうか
第 6 回	『寛容論』（4）	第八章　ローマ人は寛容であったか 第九章　殉教者たち
第 7 回	『寛容論』（5）	第一〇章　誤った伝説の危険と迫害とについて 第一一章　不寛容の害
第 8 回	『寛容論』（6）	第一二章　不寛容はユダヤ教では神授法であったのか、それは常に実施されていたのか 第一三章　ユダヤ人の極度な寛容
第 9 回	『寛容論』（7）	第一四章　不寛容はイエス・キリストが教えたものであるか 第一五章　不寛容に不利な証言
第 10 回	『寛容論』（8）	第一六章　瀕死の人と元気な人との対話 第一七章　書簡 第一八章　不寛容が人権として認められる唯一の場合
第 11 回	『寛容論』（9）	第一九章　シナでの教義論争の報告 第二〇章　国民に迷信を信じ込ませておくことは有益であるかどうか
第 12 回	『寛容論』（１０）	第二一章　美徳は学問にまさる 第二二章　あまねき寛容について 第二三章　神への祈り
第 13 回	『寛容論』（１１）	第二四章　追録 第二五章　決着と結語
第 14 回	まとめ	加筆された一章ならびに総括討論

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	クラスの導入	著者、Dale　K. Van Kley について A
第 16 回	Preface and Introduction	講読と解説
第 17 回	From the Catholic Enlightenment to Reform Catholicism (1)	講読と解説
第 18 回	From the Catholic Enlightenment to Reform Catholicism (2)	講読と解説
第 19 回	The Genesis and Trajectory of Anti-Jesuitism (1)	講読と解説
第 20 回	The Genesis and Trajectory of Anti-Jesuitism (2)	講読と解説
第 21 回	The Case of France, 1758-1764 (1)	講読と解説
第 22 回	The Case of France, 1758-1764 (2)	講読と解説
第 23 回	Portugal and Spain, 1754-1767 (1)	講読と解説
第 24 回	Portugal and Spain, 1754-176 (2)	講読と解説
第 25 回	Naples, Parma, and the Bourbon Family Pact, 1767-1773 (1)	講読と解説
第 26 回	Naples, Parma, and the Bourbon Family Pact, 1767-1773 (2)	講読と解説
第 27 回	The End of the Jesuits and the Polarization of Catholic Europe, 1773-1791 (1)	講読と解説
第 28 回	The End of the Jesuits and the Polarization of Catholic Europe, 1773-1791 (2) Afterward as Fast-Forward	講読と解説と総括討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、担当者を決めるが、全員がテクストを読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
春学期：ヴォルテール（中川信訳）『寛容論』中公文庫、2011.
秋学期： Dale K. Van Kley, Reform Catholicism and the International Suppression of the Jesuits in Enlightenment Europe, Yale University Press, 2018.

【参考書】
森村敏己『なぜ「啓蒙」を問い続けるのか』清水書院、2020.
ジョン・ロバートソン（野原慎司訳）『啓蒙とはなにか―― 忘却された〈光〉の哲学』白水社、2019.

【成績評価の方法と基準】
平常点　50 %　+期末レポート　50 %

【学生の意見等からの気づき】
通年のゼミの良さを最大限に生かすためには学生たちの主体性を尊重して授業をすすめる大切さに気がつくことができました。オンライン授業でも、グループでのディスカッションは有効に行うことができました。今年度も引きつづき、上級生と下級生が議論し、グループ・ワークをする機会を設けたいと考えています。

【Outline and objectives】
This course aims to get an academic skill to read Japanese and English books and deepen the knowledge of European Modern History. This year we will study on Voltaire. Students are expected to read assignments in advance.

HIS300BE

西洋現代史演習

大澤　広晃

授業コード：A3149　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
2021 年度は、「第一次世界大戦がのこしたもの」を演習のテーマとし、大戦が後の時代に与えた影響を考える。春学期は、関連する日本語文献を読み、テーマの多角的理解につとめる。秋学期は、英語文献を講読し、テーマについての理解をさらに深めるとともに、英語論文の読み方やその構造を学ぶ。また、卒業研究や自主研究にかんする発表の機会を設け、受講生が関心をもつテーマについてみなで議論する。

【到達目標】
・西洋現代史の主要なトピックを多角的に検討し、対象を総体としてみる姿勢を身につける。
・歴史学の研究に必要な基礎的スキルを習得する。
・研究成果を、学術的作法に即して正確かつ明快に発表する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は演習形式で行う。文献講読も研究発表も受講生が主体なので、積極的な授業参加が求められる。授業内容や課題に対するフィードバック・コメントは、授業時間内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期イントロダクション	春学期の授業計画の確認と役割分担の決定
第 2 回	日本語文献講読 1	『現代の起点　第一次世界大戦 4 ―遺産』（以下、日本語文献）第 1 章を読む。
第 3 回	日本語文献講読 2	日本語文献第 2 章を読む。
第 4 回	日本語文献講読 3	日本語文献第 3 章を読む。
第 5 回	日本語文献講読 4	日本語文献第 4 章を読む。
第 6 回	日本語文献講読 5	日本語文献第 5 章を読む。
第 7 回	日本語文献講読 6	日本語文献第 6 章を読む。
第 8 回	日本語文献講読 7	日本語文献第 7 章を読む。
第 9 回	日本語文献講読 8	日本語文献第 8 章を読む。
第 10 回	日本語文献講読 9	日本語文献第 9 章を読む。
第 11 回	自主研究の発表 1	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（1）
第 12 回	自主研究の発表 2	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（2）
第 13 回	自主研究の発表 3	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（3）
第 14 回	自主研究の発表 4	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（4）

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	秋学期イントロダクション	秋学期の授業計画の確認と役割分担の決定
第 16 回	英語文献講読 1	The Cambridge History of the First World War vol.3: Civil Society（以下、英語文献）Introduction と Chapter 22（前半）を読む。
第 17 回	英語文献講読 2	英語文献 Chapter 22（後半）を読む。
第 18 回	英語文献講読 3	英語文献 Chapter 23（前半）を読む。
第 19 回	英語文献講読 4	英語文献 Chapter 23（後半）を読む。
第 20 回	英語文献講読 5	英語文献 Chapter 24（前半）を読む。
第 21 回	英語文献講読 6	英語文献 Chapter 24（後半）を読む。
第 22 回	自主研究の発表 1	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（1）
第 23 回	自主研究の発表 2	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（2）
第 24 回	自主研究の発表 3	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（3）
第 25 回	自主研究の発表 4	受講生による自主研究の発表と質疑・討論（4）
第 26 回	卒論構想案の発表 1	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論（1）
第 27 回	卒論構想案の発表 2	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論（2）
第 28 回	卒論構想案の発表 3	受講生による卒論構想案の発表と質疑・討論（3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
文献講読については、課題文を精読し、あらかじめ問いや質問を準備して授業に臨む。研究発表については、図書館やデータベースを活用して自主的に準備を進める。レジュメは事前に提出する。なお、文献講読・研究発表ともに、質疑応答で回答できなかった点については、追加の調査をして、翌週の授業で改めてフィードバックをする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
山室信一・岡田暁生・小関隆・藤原辰史編著『現代の起点　第一次世界大戦 4 ―遺産』岩波書店、2014 年
Winter, Jay. ed. The Cambridge History of the First World War vol.3: Civil Society. Cambridge: Cambridge University Press, 2014.

【参考書】
「レクチャー　第一次世界大戦を考える」シリーズの各巻

【成績評価の方法と基準】
・平常点（授業への取り組み、発表や質疑応答の質などを評価）：50 %
・期末課題： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
ゼミ生どうしが交流し、主体的に学びあう環境を整えることに、なおいっそう注力していきたいと思います。

【Outline and objectives】
This course explores the First World War (WWI) and its impact.　Students read relevant literature on the theme written in Japanese (spring term) and in English (autumn term), examining varied impact of WWI on people and society. Meanwhile, students are required to give presentations about their graduation research and/or independent research projects.

HIS200BE

日本考古学／日本考古学（資格）

古庄　浩明

授業コード：A3113,A3856　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
秋学期・2 単位
備考（履修条件等）：**他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3856）で履修する。**

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本列島の旧石器時代から奈良時代に至る歴史展開の中で、中国や朝鮮半島との交流を中心に獲得した各種の生産技術や社会制度を理解することを目標とする。考古学資料にもとづく交流と技術の歴史学的解明がテーマである。

【到達目標】
物質文化としてとりあげる各種の技術の系譜と展開を説明することができる。各種の技術の意義について解説することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
日本列島における原始・古代の生産と技術について考え、生産活動を支える技術の進化が列島史にどのような影響を与えてきたのか学ぶ。
授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援室システムに課題を提出していただき、そのフィードバックも学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答も学習支援システムを利用する。資料も利用する。授業のプリントは各自「古庄浩明の講義ノート」（https://wacoffee.blogspot.com/）からダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第 2 回	旧石器時時代（1）	列島の文化形成の前提となる石器製作技術
第 3 回	旧石器時時代（2）	後期旧石器時代の石刃技法と細石刃技法
第 4 回	縄文時代（1）	縄文土器の起源と製作
第 5 回	縄文時代（2）	縄文時代の生業技術
第 6 回	弥生時代（1）	稲作の伝播と展開
第 7 回	弥生時代（2）	青銅器の生産
第 8 回	弥生時代（3）	木器・木製品の生産
第 9 回	弥生時代（4）	玉作の技術と対外交流
第 10 回	古墳時代（1）	古墳時代前期の対外交流
第 11 回	古墳時代（2）	須恵器生産の開始
第 12 回	古墳時代（3）	製鉄・冶金・彫金
第 13 回	奈良時代	正倉院宝物の国際性
第 14 回	原始・古代の技術革新	全体のふりかえりと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
教科書・参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。
期末試験を課すので、それに関する資料の渉猟と読み込みを行うこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
古庄浩明 2013『第 2 回改訂版「日本」のはじまり－考古学からみた原始・古代』和出版
ISBN978-4-9906476-0-5 C1021 定価 3300 円（本体 3000 円＋税 10 %）

【参考書】
白石太一郎編（2002）『日本の時代史　1　倭国誕生』吉川弘文館
鈴木靖民編（2002）『日本の時代史　2　倭国と東アジア』吉川弘文館
石川日出志（2010）『農耕社会の成立　シリーズ日本古代史 1』岩波新書
吉村武彦（2010）『ヤマト王権　シリーズ日本古代史 2』岩波新書
大津透ほか編（2013）『岩波講座日本歴史　第 1 巻　原始・古代 1』岩波書店

【成績評価の方法と基準】
授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を 50 %とし、期末試験による評価を 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
物質文化を扱う科目なので、概念的な理解のみでなく、物質資料そのものやその歴史的意義に対する理解も大切にしたい。受講者は博物館等や美術館において（環境が整わない場合には HP 等も活用して）考古学資料や美術資料に触れ、物質資料に対する感覚を充分に養ってほしい。
授業内容をわかりやすくするため、実物資料の写真や図面をまじえた画像の投影によって授業を進める。オンライン授業となった場合も同様である。画像や配付資料をもとに要領よくノートを作成し、学習を進める必要があることを念頭に措いてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
ネット環境とディバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】
本科目は資格課程の関連科目として公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline and objectives】
The aim of this class is to learn the technologies and social systems that Japan has introduced from mainland China and Korean Peninsula.

HIS200BE

日本古代史

春名　宏昭

授業コード：A3114　｜　曜日・時限：**水曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「平安時代と貴族社会」と題して講義します。平安前期の改革の時代の国家・政治のあり方、貴族たちのあり方を理解するようつとめます。

【到達目標】
平安時代の貴族社会のあり方の把握を目指します。基礎的な知識を得て、その上でそれぞれの事象に興味を持ってアプローチし、国家・政治の本質を理解できる能力を身につけましょう。平安時代の官僚のあり方は現代の日本にも通じるオンタイムの問題ですから、現代の政治が抱える問題点も理解できるようになるでしょう。そのような視点から課題レポートにも取り組んで下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
平安前期の改革によって国家・政治のあり方がどのように変わっていったのか、この変化が平安中期の王朝貴族の時代に帰結していったのかを検証していきます。この授業では、一般啓蒙書に書かれることのない天皇や貴族たちのあり方を見ていきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組むことが必要です。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。
課題を課した際には、学生の課題をすべて読んだ後、総評的にコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容の説明
第 2 回	〈時代〉の変化	ワンランク上の国家を目指して
第 3 回	官人たちの変化	良吏政治のスタート＝大同元年勅
第 4 回	天皇の性格変化	桓武天皇と平城天皇
第 5 回	良吏政治の展開	嵯峨朝への政策継承
第 6 回	良吏政治の実践	弘仁三年勅から天長元年官符へ
第 7 回	承和の変の前奏	淳和朝・仁明朝の政治状況
第 8 回	承和の変	母橘嘉智子と娘正子内親王
第 9 回	貴族の時代へ	文徳朝・清和朝の様相
第 10 回	応天門の変	安定の時代、摂関政治へ
第 11 回	源氏と藤原氏	源氏の左大臣と藤原氏の右大臣
第 12 回	藤原基経の国政運営	清和天皇の悲嘆と陽成天皇の廃位
第 13 回	阿衡の紛議	昌泰の変へ
第 14 回	平安前期という時代	平安時代史概観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
平安時代に関して問題意識を持つには、その前提として平安前期・中期の知識が必要ですし、奈良時代から平安時代への推移についても概括的な理解は必要です。それらを得るために、どれでも参考書（該当巻）を読んでみて下さい。ただし、著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。
この講義では、通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを述べます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。また、平城天皇の事績をより詳しく知るには私の『平城天皇』（吉川弘文館人物叢書）を、延喜年間以降については『岩波講座日本歴史』第５巻の「摂関時代と政治構造」を読んで下さい。
この講義の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
春名宏昭『〈謀反〉の古代史　平安朝の政治改革』(吉川弘文館)
授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】
中央公論社 (文庫)・小学館 (文庫)・集英社・講談社 (文庫) から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波書店の『シリーズ日本の古代史』(新書)、『岩波講座日本歴史』の該当巻。

【成績評価の方法と基準】
平常点とレポートで評価します。基準は平常点 30 %、レポート 70 %です。レポートで取り上げる範囲は平安時代に限りますが、テーマは学生各人で選んでよいことにしています。ただ、どのようなテーマを選んでも、授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】
板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につきません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作って下さい。

【Outline and objectives】
This lecture is attended under the heading of “The Heian period and the aristcracy". We try to understand how should be the nation and aristcrats in the former term of the Heian period when the political innovation was extensively carried out.

HIS200BE

日本中世史

及川　亘

授業コード：A3115　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代人の生活はしばしば「都市的」と形容される。生活の都市化によって、われわれは都市を基軸とする社会的分業がもたらす様々な日常の便利さや快適さを享受するとともに、都市ならではの問題にも直面する。日本列島で初めてそれらを民衆レベルまで含めて体験することになったのは、中世の人々であると言ってよいだろう。本授業では、16 世紀前半から 17 世紀前半の京都を描いた「洛中洛外図屏風」を素材として、そこに描かれるものを一つ一つ読み解きながら、中世から近世に至る都市景観の変化や、都市に住む人々の生活のあり方について考える。

【到達目標】
「洛中洛外図屏風」の読解を通じて、画像史料読解の基礎を学ぶとともに、都市に関連するトピックを中心として、日本中世・近世史の基礎的な概念や考え方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
最初に「洛中洛外図屏風」に描かれている場面の読み方や調べ方を例示し、その後は担当者（受講人数によってはグループ）を決めて、担当箇所に何がどのように描かれているか、調べて分かったこと、考えたことを発表してもらい、参加者全員で討論する。併せて教員側からは関連資料を提示しながら解説（フィードバック）する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「洛中洛外図屏風」について	ガイダンス　授業の進め方と利用史料について
第 2 回	「洛中洛外図屏風」歴博甲本を読む　①	下京隻（右隻）第一・二扇を読む。
第 3 回	「洛中洛外図屏風」歴博甲本を読む　②	下京隻（右隻）第三・四扇を読む。
第 4 回	「洛中洛外図屏風」歴博甲本を読む　③	下京隻（右隻）第五・六扇を読む。
第 5 回	「洛中洛外図屏風」歴博甲本を読む　④	上京隻（左隻）第一・二扇を読む。
第 6 回	「洛中洛外図屏風」歴博甲本を読む　⑤	上京隻（左隻）第三・四扇を読む。
第 7 回	「洛中洛外図屏風」歴博甲本を読む　⑥	上京隻（左隻）第五・六扇を読む。
第 8 回	小括　Ⅰ	戦国期の京都の都市景観
第 9 回	「洛中洛外図屏風」林原本を読む　①	右隻第一〜三扇を読む。
第 10 回	「洛中洛外図屏風」林原本を読む　②	右隻第四〜六扇を読む。
第 11 回	「洛中洛外図屏風」林原本を読む　③	左隻第一〜三扇を読む。
第 12 回	「洛中洛外図屏風」林原本を読む　④	左隻第四〜六扇を読む。
第 13 回	小括　Ⅱ	近世初期の京都の都市景観
第 14 回	まとめ	京都の変貌　中世から近世へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
報告担当者は、担当箇所について何が描かれているか、そして描かれているものに関する語彙や背景知識を十分に調査検討し、史料を読み込むことが求められる。もちろん担当者以外も予習することが求められる。

【テキスト（教科書）】
前半の「洛中洛外図屏風」歴博甲本については、国立歴史民俗博物館のウェブサイトで公開されている画像（https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/gallery/webgallery/rakuchu_kou/rakuchu_kou_l.html https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/gallery/webgallery/rakuchu_kou/rakuchu_kou_r.html）を利用し、後半の「洛中洛外図屏風」林原本については配布プリントを利用する。また適宜プリントを利用する。

【参考書】
石田尚豊監修ほか『洛中洛外図大観』小学館
京都国立博物館編『洛中洛外図　都の形像』淡交社
高橋康夫・吉田伸之ほか編『図集　日本都市史』東京大学出版会
高橋慎一朗・千葉敏之編『中世の都市　史料の魅力、日本とヨーロッパ』東京大学出版会
笠松宏至ほか編『日本思想体系 22　中世政治社会思想　下』岩波書店
『日本都市史・建築史事典』丸善出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 60 %、期末試験（またはレポート）40 %で評価する。
積極的な授業参加を期待する。

【学生の意見等からの気づき】
歴史学では必ずしも一つの答えが見つかるわけではないが、史料読解や論理展開にいくつかの可能性がある場合も、それらをなるべく分かりやすく整理して解説したい。

【学生が準備すべき機器他】
予習・復習のためにインターネット環境が必要である。

【その他の重要事項】
新型コロナウィルス感染症の流行が収束しない場合は、授業は ZOOM を利用して行う。URL は HOPPII の本授業のページに掲載する。

【Outline and objectives】
The life of modern people is often described as "urban". Through the urbanization of life, we enjoy the various conveniences and comforts of everyday , and also face the problems unique to the city. It can be said that it was the medieval people who first experienced them in the Japanese archipelago, including at the people's level. In this class, using "Rakuchu Rakugai Zu Byobu", which depicts Kyoto from the first half of the 16th century to the first half of the 17th century, as a material, while reading each one drawn there, changes in the cityscape from the Middle Ages to the early modern period, Think about the way people live in the city.

HIS200BE

日本近世史

松本　剣志郎

授業コード：A3116　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本近世における都市化社会の形成と展開を広い視野に立って考え、城下町の達成と限界、新しい社会関係や社会意識の萌芽を理解し、これらを適切な表現のもとに説明できるようになることを目的とする。城下町は、身分制を体現した都市である。その社会構造を理解するためには、それぞれの身分および空間に即した検討が必要である。その際、イメージをもつことが重要であるから、図像史料を読み解きながら理解を深めていきたい。

【到達目標】
①城下町の特質を説明できる。
②城下町江戸を構成した諸社会、諸要素について説明できる。
③図像史料を読み解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式の授業である。ただし、ときに教師は問いを発し、学生の意見を徴し、それをもとに授業を進める。hoppii に教材をアップするので各自プリントアウトして授業にのぞむこと。あるいはタブレット端末等でみてもよい。13 回目の授業で、まとめや復習だけでなく、授業内で実施した試験や小レポート等、課題に対する講評や解説もおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	都市とは何か
第 2 回	江戸前史	地層と地形
第 3 回	江戸城のなか	表・奥・大奥と殿中席
第 4 回	マチの支配	町奉行と町年寄
第 5 回	マチとチョウ	大江戸八百八町
第 6 回	町人の生活	家持・地借・店借・屋守と日用
第 7 回	寺社地の空間と社会	信仰と生業と娯楽
第 8 回	大名屋敷のなか	御殿空間と詰人空間
第 9 回	武家拝領屋敷の相対替	主従関係と内実売買
第 10 回	武家抱屋敷の売買	土地の売買と所持
第 11 回	役屋敷と近世官僚制	老中役屋敷の成立と都市社会
第 12 回	公共空間の維持管理	外堀
第 13 回	総括	まとめ
第 14 回	試験	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に参考書などを読むこと。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
高橋康夫・吉田伸之編『日本都市史入門』Ⅰ～Ⅲ（東京大学出版会、1989～1990 年）
吉田伸之編『日本の近世』9（中央公論社、1992 年）
松本剣志郎『江戸の都市化と公共空間』（塙書房、2019 年）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】
日本近世史を専攻しない学生にも理解できるよう授業する積もりですが、参考文献を予め読んでおくことを勧めます。

【Outline and objectives】
This course introduces urban history of early modern Japan to students taking this course.The aim of this course is to help students acquire an understanding of the urbanisation in the castle town.

HIS200BE

日本近代史

長井　純市

授業コード：A3117　｜　曜日・時限：月曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・授業の概要：日露戦争後の明治時代の政治史を学ぶ。20 世紀初頭の日露戦争での勝利を経て、世界の列強の注目する軍事力を有することとなった大日本帝国が、経済・産業・生活などの分野における後進性の克服に努める様相を学ぶ。
・目的：1）大日本帝国の政治に関する知識を得る。2）アジア地域唯一の列強となった大日本帝国の国際社会における影響力行使と問題点とに関する知識を得る。3）日本近代史研究の現状に関する情報を得る。4）大日本帝国と日本国との連続性と断絶とについて考える手がかりを得る。

【到達目標】
到達目標：1）日露戦争後の政治、とりわけ桂園体制と称される政治状況に関する知識を得る。2）当該期の経済・産業・文化・生活の発展・向上に関する知識を得る。3）そうした知識の修得を通して、今日の日本との連続性と断絶を捉え、20 世紀日本の総合的理解と 21 世紀日本の展望とを併せ持つ手がかりを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・進め方：講義形式である。
・方法：受講生の能動的な学習と双方向的な授業運営に努め、授業での配布プリントに記載された史料を受講生が音読することや、教員・受講生間の質疑応答、受講生同士のディスカッションを取り入れる。
・教室での対面授業を行うが、新型コロナウィルス感染防止策に対応して、ZOOM を利用して教室での対面授業を同時配信する方式を併用することもある。リアクションペーパーにおける受講生の疑問や質問、コメントなどには、次回の授業冒頭あるいは学習支援システムにおいて対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要説明。
第 2 回	帝国議会と国会	国会開設百年に関するビデオの視聴とその解説。
第 3 回	帝国議会の制度と人（1）	帝国議会に関する制度の解説。
第 4 回	帝国議会の制度と人（2）	帝国議会に関わる人々の解説。
第 5 回	第 25 回帝国議会	第 25 回帝国議会の状況と争点の解説。
第 6 回	第 25 回帝国議会後の社会情勢	第 25 回帝国議会後の社会情勢の解説。
第 7 回	第 26 回帝国議会	第 26 回帝国議会の状況と争点の解説。
第 8 回	第 26 回帝国議会後の社会情勢	第 26 回帝国議会後の社会情勢の解説。
第 9 回	第 27 回帝国議会	第 27 回帝国議会の状況と争点の解説。
第 10 回	第 27 回帝国議会後の社会情勢	第 27 回帝国議会後の社会情勢の解説。
第 11 回	第 28 回帝国議会	第 28 回帝国議会の状況と争点の解説。
第 12 回	第 28 回帝国議会後の社会情勢	第 28 回帝国議会後の社会情勢の解説。
第 13 回	第 29 回帝国議会、大正時代の幕開け	第 29 回帝国議会の状況と争点の解説。大正時代の幕開けと展望の解説。
第 14 回	まとめ	授業総括と質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習：学習支援システムの「授業内掲示板」サイトにテキストとなる授業プリントを添付ファイルでアップロードするので、受講生各自、授業前にダウンロードして読んでおくこと。授業テーマに関する参考文献を読んでおくこと。
・復習：授業後に授業プリントを読み直すこと。学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに記される毎回の授業の要点を読むこと。授業の中で示された参考文献を読むこと。
・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
・刊本としてのテキストは使用しない。
・授業内容をまとめたプリント（授業プリント）を学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに添付ファイルでアップロードする。

【参考書】
佐々木隆『日本の歴史 21 明治人の力量』（講談社）
小風秀雅『日本の時代史 23 アジアの帝国国家』（吉川弘文館）
飯塚一幸『日本近代の歴史 3 日清・日露戦争と帝国日本』（吉川弘文館）
宮田昌明『英米世界秩序と東アジアにおける日本』（錦正社）
アジア歴史資料センター、独立行政法人国立公文書館、国立国会図書館の各ウェブサイトにおける日本近代史関連解説コラム

【成績評価の方法と基準】
・平常点 40 %、試験 60 %（設題は到達目標に沿うものとする）。参照可。
・特別な事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には、あるいは試験を受験しない場合には、不合格の評価とする。
・新型コロナウィルス感染防止策として教室での試験ができない場合には、リポート（設題方針は試験の場合と同じ）に切り替えることもある。

【学生の意見等からの気づき】
日本近代史に関する基礎的な知識の不足を感じている受講生もいることから、授業内容の理解と定着に資する質疑応答を積極的に行い、受講生の学習の動機付けや意欲を高めるように努める。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを利用することができる IT 機器。
・ZOOM 授業を受講することができる IT 機器。

【その他の重要事項】
・「日本近代史料学」（秋学期）との継続履修を強く推奨する。
・大学院における学部合同科目（「日本近代史研究Ⅰ」）である。
・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
・新型コロナウィルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、頻繁に閲覧し、見落とさないようにすること。
・担当教員宛の直接連絡にはメールを利用すること。そのメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline and objectives】
This course has four main points. The first point is to study the politics of Japan in the early 20th century, the period from the end of the Russo-Japanese War to the end of the Meiji Era. The second one is to study how Japan developed economy, industry, or life style in the above period as one of the Great Powers. The third is to get a basic information on the academic trends in the study of Japanese modern history. The fourth is to get clues for a comprehensive image of the 20th century Japan and a prospect on the 21st century Japan.

HIS200BE

日本現代史

劉　傑

授業コード：A3118　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
昭和期の日本は、戦争と戦後復興を経て、世界の経済大国になった。激動する日本が歩んだ道を振り返り、世界のなかの日本、アジアのなかの日本という視点から、昭和期日本の内政と外交に対する理解を深め、「昭和」は日本にとってどのような時代だったのかを考えていきたい。多様な近代史史料の利用法も学んでいく。
昭和戦前期日本の内政と外交は、戦争と密接な関係にあった。議会や軍部はもちろん、経済界、メディアなども外交政策の策定や外交交渉の遂行に影響を与えた。複雑な力が働くなかで、外務省はどのように行動したのか。とりわけ外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。「事件」や「事変」、戦争が絶えなかった時代における外交の可能性について、考えていきたい。

【到達目標】
内政と外交に関する多様な記録を教員と共に選択し、解読することによって、現代日本が進んできた道筋に対する理解を深めることができる。また、外交の特徴や、内政と外交の関係、及び外交政策を影響する諸要素を討論形式で考え、客観的、多面的な歴史理解をめざす。講義や討論を通じて、日本と世界の国々とのかかわりかたを理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解読」する方法を学んでいく。授業中の質問に対しては討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「昭和」という時代（1）	日本近代史の中の昭和時代について考える。
第 2 回	「昭和」という時代（2）	昭和初期の世相を多様な資料を通じて理解する。
第 3 回	「昭和」という時代（3）	メディアと政治について討論する。
第 4 回	外務省と軍部（1）	外務省の歴史を概観し、日本外交の特質を理解する。
第 5 回	外務省とメディア（2）	世論の形成と外交官の世論への影響を考える。
第 6 回	昭和初期の外務省と外交官（1）	外務省内の中国通はどのように形成したのか、その役割について討論する。
第 7 回	昭和初期の外務省と外交官（2）	外務省の外交政策論を諸外国と比較しながら考える。
第 8 回	山東出兵と日本外交（1）	山東出兵の経緯と中国の対応を事例として、日本外交に対する理解を深める。
第 9 回	山東出兵と日本外交（2）	田中外交と幣原外交、蒋介石の対日認識と政策について討論する。
第 10 回	満州事変と日本外交（1）	日本にとって、満洲はなんだったのかを理解する。
第 11 回	満州事変と日本外交 (2)	満洲事変への各方面の対応を検討する。
第 12 回	満州事変と日本外交 (3)	満洲国の成立、満州国が目指したもの、満州国の評価について討論する。
第 13 回	日中戦争前の国交調整	陸軍の華北進出と日本の中国政策について考える。
第 14 回	昭和戦前期の日本外交	日中戦争までの日本外交について総合討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
指定された参考書を授業の前後に読むこと。
配布史料を授業終了後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】
参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくと便利であろう。
箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史: 黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房 (2016 年）
増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック――解説と資料――』（有信堂、2007 年）
井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003 年）
川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007 年）
劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006 年）
劉傑・川島真『1945 年の歴史認識』（東京大学出版会、2009 年）
劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013 年）

【成績評価の方法と基準】
学期末に試験を実施する。普段のレポートや討論への参加も成績評価の対象になる。試験 7 割、平常点 3 割。

【学生の意見等からの気づき】
講義に関する詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用する。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】
新型コロナウィルス感染防止対策として、Web 学習支援システムなどを利用する。授業方式や課題などを見落とさないように注意し、指示にしたがって学習を行ってください。

【Outline and objectives】
This lecture covers the domestic affairs and diplomacy of Japan in the Showa period.
Congress and the military as well as the economic circle and the media influenced the formulation of foreign policy and the diplomatic negotiations. How did the Ministry of Foreign Affairs act before the Sino-Japanese War? How did diplomats' recognition and techniques influence Japanese diplomacy? We will think about the possibility of diplomacy in the era of war.

HIS200BE

日本史特講Ⅰ

中山　学

授業コード：A3154　｜　曜日・時限：**水曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業テーマ：享保改革期の医薬政策
18 世紀前期から中期にかけて、江戸幕府は、支配の再強化を目的とした一連の政策を実施した。８代将軍徳川吉宗の親裁によって実施された、いわゆる「享保改革」がそれである。この授業では、当時実施された政策うち、吉宗が特に意を注いだと考えられる医薬分野の政策に注目し、当該政策が強力に推し進められた要因を探る。近世日本が、自己完結しえない世界の中に位置づいていたが故の政策展開であったという点に注視したい。

【到達目標】
享保改革期に実施された医薬政策の内容とその特質を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
歴史資料（史料）を読み解きながら講義する。
なお、授業の内容理解を確かなものとするため、学習支援システムを利用して課題を出し、提出されたリポートにコメントを付すなど、個別指導も実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	徳川吉宗の人物像 (1)	吉宗の出自と将軍職就任の事情（開始前に授業ガイダンスを実施）
第 2 回	徳川吉宗の人物像 (2)	将軍家の正統性観念と救済の秩序、そして吉宗の自覚
第 3 回	徳川吉宗の人物像 (3)	将軍家の正統性観念と救済の秩序、そして吉宗の自覚（続）
第 4 回	享保改革期の医薬政策 (1)	政策実施の背景：都市社会の形成と薬材需要の高まり
第 5 回	享保改革期の医薬政策 (2)	政策実施の背景：医学界の新機軸「古医方」の出現
第 6 回	享保改革期の医薬政策 (3)	特殊人材の採用と薬草調査
第 7 回	享保改革期の医薬政策 (4)	特殊人材の採用と薬草調査（続）
第 8 回	享保改革期の医薬政策 (5)	和薬種改めの実施
第 9 回	享保改革期の医薬政策 (6)	和薬種改めの実施（続）
第 10 回	享保改革期の医薬政策 (7)	和薬種改めの実施（続）
第 11 回	医薬政策の展開要因 (1)	「にせ薬種」問題
第 12 回	医薬政策の展開要因 (2)	「にせ薬種」問題（続）
第 13 回	医薬政策の展開要因 (3)	「にせ薬種」問題（続）
第 14 回	医薬政策の展開要因 (4) まとめ	「にせ薬種」問題（続）／享保改革期医薬政策の歴史的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書に基づく自習及び配布プリントをもとにした復習（56 時間）

【テキスト（教科書）】
特に指定しない（資料を配付する）。

【参考書】
辻　達也『徳川吉宗』吉川弘文館 (1985 年)
安田　健『江戸諸国産物帳－丹羽正伯の人と仕事』晶文社 (1987 年)
新村　拓『日本医療史』吉川弘文館 (2006 年)

【成績評価の方法と基準】
小リポート（50 %）、期末リポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
この授業では近世史料を素材とします。このため講義内容はやや難しくなりがちですが、できるだけ平易な説明となるよう努めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので、各自インターネットの使用を前提としたパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】
日本史特講Ⅳのテーマと関連します。

【Outline and objectives】
Understand the historical significance of medical policy promoted by Tokugawa Yoshimune.

HIS200BE

日本史特講Ⅱ

大塚　紀弘

授業コード：A3155　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
中世前期（鎌倉時代から南北朝時代）の武士を始めとする人々に対する理解を深めるため、人物史の視点から学ぶ。武家などの政治権力との関わりをふまえつつ、特に仏教信仰に力点を置いて説明する。あわせて、史料を読解して史実を追究し、歴史像を描くという、歴史学の研究方法を習得することを目的する。

【到達目標】
平安時代後期から南北朝時代にかけての地方武士（御家人）について、在地領主としての活動のみならず、仏教信仰や文化活動からうかがえる心性を含めて、人物像を明確に描くことができる。日本中世の和様漢文史料を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
６章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。配布プリントとパワーポイントの文面については、事前に各章毎に「学習支援システム」の「教材」にアップロードする。授業の最後に、理解度を確認するため、小テストを実施する。小テストに記入された疑問点については、次回の授業で回答する（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中世武士論の現在（1）	履修のガイダンスと平安・鎌倉武士論の概略
第 2 回	中世武士論の現在（2）	履修のガイダンスと平安・鎌倉武士論の概略
第 3 回	中世武士論の現在（3）	履修のガイダンスと平安・鎌倉武士論の概略
第 4 回	武蔵武士熊谷直実と鎌倉幕府（1）	熊谷直実の活動と武家政権
第 5 回	武蔵武士熊谷直実と鎌倉幕府（2）	熊谷直実の活動と武家政権
第 6 回	熊谷直実の出家と浄土宗（1）	出家の経緯と念仏者としての活動
第 7 回	熊谷直実の出家と浄土宗（2）	出家の経緯と念仏者としての活動
第 8 回	ある紀伊武士の出家と西大寺流（1）	出家の経緯と尾道浄土寺の創建
第 9 回	ある紀伊武士の出家と西大寺流（2）	出家の経緯と尾道浄土寺の創建
第 10 回	近江武士佐々木導誉と南北朝文化（1）	バサラ大名の文化活動と仏教信仰
第 11 回	近江武士佐々木導誉と南北朝文化（2）	バサラ大名の文化活動と仏教信仰
第 12 回	文字を拝む中世人（1）	梵字・名号・題目の礼拝と中世の浄土思想
第 13 回	文字を拝む中世人（2）	梵字・名号・題目の礼拝と中世の浄土思想
第 14 回	中世前期の武士と仏教文化	授業内容の総括（試験）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。ノート等を見直して復習する。また、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。各章毎にプリントを配布する。

【参考書】
『週刊朝日百科　週刊新発見！ 日本の歴史 21　鎌倉時代 4　鎌倉仏教の主役は誰か』（朝日新聞出版、２０１３年）
その他は、授業時に各章毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】
小テストの点数２８％、学期末試験の点数７２％の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席で、小テストが受けられない場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

【学生の意見等からの気づき】
各章の論点を最初に明示する。

【Outline and objectives】
Learn historical research methods of reading historical materials, pursuing historical facts, and drawing historical images.

HIS200BE

日本史特講Ⅲ

稲田　奈津子

授業コード：A3156　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
平安時代の貴族いえば、藤原道長がすぐに思い浮かぶであろう。望月の歌で知られるように、道長の時代は摂関政治の絶頂期を迎えたのであるが、その前提として、父・兼家の存在を忘れることはできない。恵まれた条件のもとで成功を収めた子・道長が、鷹揚な性格として肯定的に語られることが多いのに対して、度重なる挫折を味わいながらも虎視眈々と権力の座を狙い続けた父・兼家は、一般的に粗暴・傲慢不遜といった否定的なイメージが持たれている。だが一方で、逆境を乗り越える不屈で逞しい姿は、魅力的にも映るのである。本講義では、兼家に関する史料群の読解を中心に、彼の生きた平安貴族社会の様相を、様々な角度から垣間見ていくことにしたい。

【到達目標】
１．歴史書・日記・文学作品といった様々な歴史資料に触れ、その特質を理解するとともに、それらを読み解く力を身につける。
２．教科書的な知識から一歩すすみ、具体的な史料読解を通して、平安時代像をより鮮明に捉え直すことができる。
３．史料批判を通じて批判的精神を養い、問題を発見し解決するための論理的な思考過程を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・講義スタイルで進めます。
・講義中には、指名によって史料を音読してもらうことがあります。ただし流暢さではなく取り組み方を重視するので、古文の苦手な人や留学生も臆さず参加してください。
・講義中には、画像も提示する予定ですが、提示した画像をすべてレジュメとして配布するわけではありません。毎回の出席が肝要となります。
・（第３回より）毎回授業の冒頭で、前回授業に関する小テストを実施します（10 分程度）。期末試験・期末レポートは予定していません。
・やむを得ず休講とする際には、レポートを課す場合があります。また授業進度をみた上で、授業スケジュールに一部変更を加える場合があります。
・質疑応答は授業内や授業前後に口頭で、または授業後に提出してもらうリアクションペーパーで受け付けます。受講者全員の参考になるような質問・意見は、次回授業の冒頭に紹介・回答します。リアクションペーパーでクイズに回答してもらう場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、出自と官歴
第 2 回	内裏焼亡	若き日々
第 3 回	安和の変	969 年
第 4 回	兄・兼通との確執（１）	972 年
第 5 回	兄・兼通との確執（２）	977 年
第 6 回	兼家をめぐる女性たち（１）	正妻と妾
第 7 回	兼家をめぐる女性たち（２）	蜻蛉日記
第 8 回	兼家をめぐる女性たち（３）	娘の入内
第 9 回	花山天皇の出家	その裏幕
第 10 回	栄華の絶頂	摂政就任
第 11 回	六十算賀	儀式の風景
第 12 回	老いと死	仏教への傾倒、葬儀
第 13 回	こどもたち	詮子、道隆、道長
第 14 回	まとめ	兼家の時代

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・事前学習　次回講義に関するレジュメを配布するので、事前に目を通しておいてください。（２時間程度）
・事後学習　レジュメを読みなおし疑問を残さないようにして、小テストに備えてください。（２時間程度）

【テキスト（教科書）】
レジュメを配布します。

【参考書】
古瀬奈津子『シリーズ日本古代史⑥ 摂関政治』（岩波新書、2011 年）

【成績評価の方法と基準】
・小テスト・レポート（100 %）…小テストは授業時間の冒頭に実施します。レポートの提出は授業支援システムを利用します。
・授業の積極性（加点要素）…リアクションペーパー、授業内での音読・発言など。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度、オンライン向けに変更した評価方法（毎回の小テスト実施、期末試験の廃止）が好評であったので、今年度も継続する予定である。

【Outline and objectives】
In this class, we will study about Fujiwara-no-Kaneie, a famous politician of Heian period. The aim of the class is for students to become familiar with ancient records, and to be able to read it at a basic level. In addition, through reading comprehension, the course aims to develop students' interest in the politics, society, and culture of the Heian period and enable them to investigate and consider matters with a sense of the issues that arise.

HIS200BE

日本史特講Ⅳ

中山　学

授業コード：A3157　｜　曜日・時限：**水曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
当授業のテーマ：徳川吉宗と書物
８代将軍徳川吉宗は、いわゆる「享保改革」の主導者として著名である。その歴史的評価は、周知のごとく、主に幕府の組織改革、行財政改革において定着した感がある。だが、とくに行財政面で実績をあげたと評価される当の本人が真っ先に着手したのは、将軍家蔵書（御文庫）の目録の閲覧であった。この蔵書目録の閲覧以降、将軍家蔵書の保存・管理を使命とした書物方役人は激務を担い、吉宗の直接的指示のもと、20 年以上にわたってあらゆる分野の書物の校合、校勘といった作業、またはその補助作業に追われ続けることになる。要するに、吉宗は各種書物の真正なテキストの作成、あるいは証本の作成を組織的かつ大規模的に実施したと考えられるのだが、彼はなぜそのような作業に熱中したのか。授業では如上の事実について理解を深めるところから、吉宗政権の歴史的意義について考える。

【到達目標】
吉宗が徳川家蔵書の真正性を担保しようとした事実にいかなる意義が認められるか論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
歴史資料（史料）を読み解きながら講義する。
なお、授業の内容理解を確かなものとするため、学習支援システムを利用して課題を出し、提出されたリポートにコメントを付すなど、個別指導も実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	徳川吉宗の人物像 (1)	吉宗の出自と将軍職就任の事情（開始前に授業ガイダンスを実施）
第 2 回	徳川吉宗の人物像 (2)	「徳川実紀」の中の吉宗像
第 3 回	将軍家の文庫 (1)	御文庫と将軍家蔵書の沿革
第 4 回	将軍家の文庫 (2)	御文庫と将軍家蔵書の沿革（続）
第 5 回	将軍家の文庫 (3)	御文庫と将軍家蔵書の沿革（続）
第 6 回	吉宗と書物 (1)	徳川吉宗による実践的武家故実の研究
第 7 回	吉宗と書物 (2)	徳川吉宗による実践的武家故実の研究（続）
第 8 回	吉宗と書物 (3)	徳川吉宗による実践的武家故実の研究（続）
第 9 回	吉宗と書物 (4)	徳川吉宗による実践的武家故実の研究（続）
第 10 回	吉宗と書物 (4)	テキスト校合の内実（書物奉行下田師古の日記を読む）
第 11 回	吉宗と書物 (5)	テキスト校合の内実（書物奉行下田師古の日記を読む）（続）
第 12 回	吉宗と書物 (6)	テキスト校合の内実（書物奉行下田師古の日記を読む）（続）
第 13 回	吉宗と書物 (7)	テキスト校合の内実（書物奉行下田師古の日記を読む）（続）
第 14 回	まとめ	将軍家蔵書の歴史的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考書にもとづく自習及び配布プリントをもとにした復習（56 時間）

【テキスト（教科書）】
特に指定しない（資料を配付する）。

【参考書】
福井　保『江戸幕府の参考図書館　紅葉山文庫』郷学舎 (1980 年)
小川剛生『日本史リブレット 78　中世の書物と学問』山川出版社 (2013 年 3 刷)
その他、下田師古に関する研究論文等

【成績評価の方法と基準】
小リポート（50 %）、期末リポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
この授業では近世史料を素材とします。このため講義内容はやや難しくなりがちですが、できるだけ平易な説明となるよう努めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用しますので、各自インターネットの使用を前提としたパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】
日本史特講Ⅰのテーマとも関連します。

【Outline and objectives】
Tokugawa Yoshimune used the books of Shogun Tokugawa to inspect many books including classical literature and made efforts to make those sentences and letters error free. It is the purpose of this lesson to think about what this historical fact means.

HIS200BE

日本史特講Ⅴ

友田　昌宏

授業コード：A3158　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・２単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今から約 150 年前、日本は大変大きな変革を体験しました。明治維新です。ペリーの来航、つづく開国によって、日本はいやおうなく国際社会のなかに組み込まれることになりました。それに呼応するかたちで国内でも改革の気運が高まります。幕府・朝廷・諸藩、そして、庶民たち、あらゆる階層の人々が、大なり小なり国難に向き合って行動し、その結果、日本には、天皇を君主とする新しい政府が生まれ、その政府のもと様々な改革が行われます。この講義はペリー来航から西南戦争までの日本の国内政治に関して概観します。
現在、日本は国内外に様々な問題を抱えています。150 年前の日本がどのような問題に直面し、そのなかで人々はいかに行動したのかを知ることは、私たちが現在の日本を深く知る上でも重要なことでしょう。

【到達目標】
1、ペリー来航から西南戦争にいたるまでの時代の経過が理解できる。
2、さまざまな勢力から多角的に時代を考察することができる。
3、どこか時代の流れの変わり目か、その前後で状勢がどのように変わったのか理解できる。
4、現代の問題にリンクしてこの時期を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
新型コロナウイルスの感染状況によって授業は形態も内容もかわります（シラバスに掲げた授業内容は対面での授業を想定したものです）。
対面での授業が可能な場合は、プリントを配布して講義形式で授業を行います。講義形式ですが、時折、意見を求めることがあります。折にふれてリアクションペーパーの提出を求めます。リアクションペーパーにはコメントを入れて次の回に返却するかたちでフィードバックします。
対面での講義が困難な場合は、基本的にオンデマンドでの授業となります。配布した教材をもとに各自学習し、その内容に関する課題を課します。課題については学習支援システムを用いてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ペリー来航の衝撃	これからの授業の概要を示したうえで、幕末の動乱の幕開けと言われるペリー来航が国内政治にどのような影響を与えたのかを考察します。
第 2 回	条約締結問題と将軍継嗣問題―諸藩・朝廷の台頭―	通商条約の締結をめぐって幕府と諸大名・朝廷の対立がおこり、諸大名が将軍継嗣に介入、朝廷との結びつきを強めていく様相を探ります。
第 3 回	戊午の密勅と安政の大獄―井伊直弼の危機感―	条約調印への批判を安政の大獄で弾圧し、桜田門外の変で倒れた大老井伊直弼。彼は何に危機感をいだき、いかにして一連の政策に踏み切ったのか探ります。
第 4 回	公武合体と破約攘夷―諸藩の国事周旋活動―	公武合体により幕府が権威の再建を図ろうとするなか、薩長ら西南雄藩が国政への介入をはかり、国事周旋活動を展開します。ここでは薩長の国事周旋活動の特質を探ります。
第 5 回	分裂の解消にむけて―模索する国政のありかた―	文久 3 年 8 月 18 日の政変で長州藩が京都から駆逐され、新たな国政のあり方が模索されます。しかし、それは新たに幕府と薩摩藩など雄藩の対立を生み出しました。ここではその過程を考察します。
第 6 回	条約問題と長州処分問題	ここでは、長年の懸案であった条約問題がいかに解決されたのか、長州処分問題が幕府の内部にいかなる亀裂を生み、薩摩藩と長州藩との連合を決定づけたのかを探ります。
第 7 回	王政復古と王政復古	慶応 3 年、将軍徳川慶喜は朝廷に大政奉還、その 2 ヶ月後、薩摩藩は慶喜を排除する形で王政復古を断行、ここではその間の慶喜と薩摩藩の駆け引きを探ります。

第 8 回	戊辰戦争（1）―維新官僚の台頭―	薩長と旧幕府との対立は、戊辰戦争に帰結します。ここでは戦争の過程において薩長の藩士層が新政府の実権を握っていく様相を探ります。
第 9 回	戊辰戦争（2）―奥羽越列藩同盟―	新政府は旧幕府とともに朝敵となった会津・庄内両藩の奥羽諸藩に命じます。これに対して、奥羽越諸藩は列藩同盟を結成し、やがて会庄両藩とともに新政府軍と交戦します。ここでは奥羽越列藩同盟の形成過程とその性質を探ります。
第 10 回	廃藩置県への道―中央集権への道―	戊辰戦争に勝利した新政府は、藩への統制を強めていき、それは廃藩置県に帰結します。廃藩置県はどのような過程を経て実現したのか探ります。
第 11 回	岩倉使節団と留守政府	廃藩置県後、岩倉具視ら一行が、欧米へと向かいます。一方、留守を預かった政府は改革を押し進めます。改革をめぐる両者の相違を考察します。
第 12 回	大久保政権の成立	明治 6 年政変、佐賀の乱、台湾出兵などの危機を乗り越え、政府内では指導権を握ったのは大久保利通でした。大久保政権の成立の意義を探ります。
第 13 回	自由民権と士族反乱	大久保政権の確立によって政府から排除された勢力、大久保政権の政策によって既得権益を失っていく士族は、不満は募らせます。その結果、自由民権運動と士族反乱という二つの反政府運動が生まれます。ここではこれら 2 つの運動の関係性と特質を探ります。
第 14 回	まとめ	これまでの授業を総括して明治維新とは何だったのか考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中紹介した参考文献をあらかじめ目を通して予習し、授業中に配布した資料をもとに復習をしてください。予復習に費やす時間はおおむね 4 時間とします。

【テキスト（教科書）】
とくに定めません。プリントを配布して講義します。

【参考書】
その都度紹介いたしますが、さしあたり青山忠正『明治維新（日本近世の歴史 6）』（吉川弘文館、2012 年）を挙げておきます。

【成績評価の方法と基準】
授業が対面で行われる場合は、リアクションペーパー（20 %）・期末試験（70 %）・授業に対する取り組み方（10 %）によって評価します。
リモートの授業の場合は、定期的に課すレポートの内容（100 %）によって評価します

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
とくにリモートの場合はパソコンが必要になってくると思いますので、事前に手配していただければと思います。

【Outline and objectives】
Japan was embedded into the Western international system without any choices after Perry came from America to Japan in 1853 and the Tokugawa Shogunate entered into the Treaty of Amity and Commerce with five countries in 1858. Following the opening of the country to the world, the spirit of the domestic reform grew in Japan. Not only the Tokugawa Shogunate, but also the Imperial Court, the clans and the common people more or less faced national crisis and reacted to it. Therefore the new government was established under the Emperor and various reforms were carried out. This class focuses on The Meiji restoration, especially the domestic politics from the Perry's arrival in 1853 to the Seinan War in 1877.
It is important for us to know what crisis Japan faced and how the people reacted to it about 150 years ago, for understanding domestic and diplomatic problems that today's Japan have.

HIS200BE

日本史特講Ⅵ

米崎　清実

授業コード：A3159　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本各地には文化遺産ともいえる近世の地方文書が伝来しています。近世の国家や社会を理解するために、地方文書の分析を通じた地域社会からアプローチする方法があります。授業では、地方文書の解読、分析方法を学ぶとともに、それらを通じた近世地域社会の成立、維持運営、展開について理解します。

【到達目標】
・地域史研究の意義を理解します。
・さまざまな近世の地方文書が作成され、伝来してきた意義を理解します。
・地方文書を解読し、分析できる力を修得します。
・地方文書の分析を通じて、近世の国家や社会を理解します。
・今日の街づくりや地域文化について考える視野を培います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
主に関東の地方文書の解読、分析を通じて近世の地域社会の成立から近代移行期までを項目ごとに解説します。受講生自らが史料を解読し、主体的に考え、意見を述べてもらう双方向の授業運営を図ります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の内容と評価の方法、課題の説明、文化遺産としての地方文書、近世地域史研究の意義
第 2 回	近世の支配体制と地方文書	近世の支配体制、地方文書の成立、地方文書の種類
第 3 回	近世村落の成立と検地	検地帳の記載内容、検地帳の分析、検地の意義、郷から村
第 4 回	百姓の家	宗門人別帳の記載内容、宗門人別帳の分析、家の特徴、村内の家格
第 5 回	村の法・財政と村落運営	村議定、村入用、村役人の家、村役人制
第 6 回	村組と地域格差	村の中のムラ、村組の役割、村の中心、村役人をめぐる村組の対立
第 7 回	支配のしくみと地域社会	幕領支配のしくみ、中間支配機構の成立と役割、非領国地域の特質
第 8 回	百姓の年貢諸役	年貢諸役、年貢諸役を負担するしくみと意識
第 9 回	地域社会の身分集団	地域社会の身分集団、村を訪れる人々、村人と身分集団
第 10 回	村人の信仰と文化活動	村社会と寺院、村人の信仰、旅と参詣、村人の文化活動
第 11 回	村の祭りと若者仲間	村の社会組織・祭祀組織、祭礼の秩序とその変容、若者仲間と地域意識
第 12 回	村社会の生業と百姓意識	村人の生業、商品生産の展開、救済と百姓成り立ち
第 13 回	村社会と家族の秩序	村落生活の変化と家族、家族への眼差し、家と村の存続
第 14 回	まとめ	近世から近代へ、異文化としての近世の地域社会、現代まで続く近世の地域社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布史料（活字にした近世の地方文書）を理解できるように、わからない文言などを辞書で調べて、授業に出席してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。資料を配布します。

【参考書】
木村礎『近世の村』（1980 年、教育社）、水林彪『封建制の再編と日本的社会の確立』（1987 年、山川出版社）、大石学編『多摩と江戸』（2000 年、けやき出版）、その他授業の中で適宜紹介します。大藤修『近世村人のライフサイクル』（2003 年、山川出版社）、水本邦彦『村―百姓たちの近世―』（2015 年、岩波新書）

【成績評価の方法と基準】
期末試験（８０%）、平常点（２０%）

【学生の意見等からの気づき】
資料（配布資料）を用いて具体的に近世の地域社会について解説します。また、学生との意思疎通を図る双方向の授業運営を心がけます。

【担当教員の専門分野等】
日本近世・近代史。博物館学。文化政策学。

【Outline and objectives】
Local documents of Edo period, which can be regarded as cultural heritage exist in all part of Japan.In order to understand the nation and society of Edo period, there is a method to approach from local community through analysis of regional documents.In this course students learn the method of deciphering and analyzing the documents. And through the process, students comprehend formation, operation and maintenance of local communities of Edo period.

HIS200BE

日本史特講Ⅶ

山田　康弘

授業コード：A3160　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史学は単に「昔のことを知る」だけの学問ではない。歴史学は、過去を知り、過去と現代とを比較することによって、現代（私たち現代人が「当たり前」すぎて気づきにくい現代）をより深く理解していく、という学問である。また、歴史学は「この史料（データ）は信用できるのか」、「この史料からどのようなことを読み取ることができるのか」といったことを考えながら、事実によって裏付けられ、かつ、論理的につじつまの合った結論を考えていく――そのような学問でもある。そして、こうした「比較することで「当たり前」を相対化し、新たな気づきを得る」、「データを吟味・解釈し、そこから事実と論理に基づいた結論を導き出す」という歴史学の手法は、学生諸君が大学を卒業したあと、たとえばビジネスの世界などで活躍していく際に、きっと強力な武器になっていくことだろう。
そこで本講義では、こういった歴史学の手法を学生諸君が身につけることができるよう、これを分かりやすく解説していく。

【到達目標】
歴史学の存在意義を認識しうるとともに、論理整合性と事実立脚性という歴史学の決まりごとを理解することができる。また、データ（史料）の正しい取り扱い方や、問題設定から歴史像の構築にいたるまでの手法を把握することができ、さらに、歴史学研究の「社会的使命」や、歴史学のもつ「限界」をきちんと理解したうえ、歴史学の隣接諸科学におけるさまざまな理論の使い方などを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
３章構成とし、講義形式で進める。配布プリントを使って解説する。授業の最後に理解度を確認するため、小テストを実施する。小テストに記入された疑問点については、次回の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション―歴史学は何のためにあるのか？	「過去を知って何の役に立つのか」「過去から教訓を得られるのか」「過去を知って未来を予測できるのか」「一体、歴史学は何を対象としているのか」といったことを考える。
第 2 回	戦国時代とは何か（１）―応仁・文明の乱までの足利将軍たち。	初代将軍・尊氏から８代将軍・義政までの事績を概観し、「なぜ足利は政権が不安定だったのか」「応仁・文明の乱の原因は何か」「天皇はなぜ存続したのか」を考えていく。
第 3 回	戦国時代とは何か（２）―９代将軍義尚、10 代将軍義稙、11 代将軍義澄の時代。	戦国初期に活躍した将軍たちを取り上げ、「将軍は無力だったのか」「明応の政変とはどのような事件か」「将軍たちは何と戦ったのか」などを考えていく。
第 4 回	戦国時代とは何か（３）― 12 代将軍義晴、13 代将軍義輝の時代。	戦国中期に活躍した将軍に注目し、その事績を概観していくことで「将軍家はなぜすぐに滅亡しなかったのか」「将軍と戦国大名との関係はどのようなものだったのか」といった問題を考えていく。
第 5 回	戦国時代とは何か（４）― 14 代将軍義栄、15 代将軍義昭と織田信長の時代。	最期の将軍義昭と織田信長との闘争を取り上げ、「義昭と信長の関係はいかなるものであったのか」「義昭とその同盟者たちは、なぜ信長を倒せなかったのか」などを考えていく。
第 6 回	戦国時代とは何か（５）―戦国社会全体の「構造」を考える。	隣接諸科学の知見を援用しながら、戦国社会全体の「構造」（骨組み）についての見取り図を描き、将軍とは戦国社会のどこに位置づけられる存在だったのか、を考えていく。
第 7 回	戦国時代とは何か（６）―戦国と現代の「構造」を比較することで現代を知る。	ここまでの議論を纏めるとともに、「戦国時代を研究することは、現代においていかなる意味があるのか」を考える。

第 8 回	歴史学とはいかなる学問か（1）―歴史学の決まりごとは何か。	遅塚忠躬『史学概論』に導かれながら「歴史学とは何を明らかにする学問か」「歴史学の決まりごとは何か」「歴史学の限界はどこにあるのか」などを考えていく。
第 9 回	歴史学とはいかなる学問か（2）―歴史学と歴史趣味との違いは何か。	引き続き遅塚『史学概論』をもとに「構造とは何か」「比較にはどのような種類があるのか」「発展的、反省的、尚古的歴史学とは何か」などを考える。
第 10 回	歴史学の手法（1）―問題を設定し、史料を集め、批判し、選択していく。	「問題はどう設定すべきか」「研究の細分化問題とは何か」「一次史料とはいかなるものか」「史料批判する理由は何か」といったことを考える。
第 11 回	歴史学の手法（2）―考証によって事実を明らかにし、その「意味」を問う。	「考証とは何か」「事実と真実の違いとは」「なぜ考証で歴史学の作業は終わりではないのか」「素朴実在論とは何か」といったことを論じていく。
第 12 回	歴史学の手法（3）―理論などを援用しつつ、自分なりの「歴史像」を構築す。	「歴史学が踏み込めない領域とは」「歴史像構築の際に留意すべき点は何か」「歴史理論はなぜ必要か」「歴史学と文学はどう違うのか」などを考える。
第 13 回	歴史学の手法（4）―議論し合い、仮説を修正していく。	「議論は何のためにするのか」「議論の作法とは何か」「歴史学と社会科学とはどう異なるのか」といったことを考えていく。
第 14 回	まとめ	これまでの内容を整理し、「過去だけしか知らない」「現在だけしか知らない」は共に避けるべきであることを説く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
プリント、ノートを見直して復習する。また、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】
遅塚忠躬『史学概論』（東京大学出版会、２０１８年。初版は２０１０年）。
山田康弘『足利義輝・義昭――天下諸侍、御主に候』（ミネルヴァ書房、２０１９年）。
その他は、授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】
小テストの点数４０％、学期末試験の点数５０％、平常点１０％の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席で、小テストが受けられない場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

【学生の意見等からの気づき】
出席カードやリアクションペーパーなどで授業に関する疑問点などを書いてもらえれば、次回授業の際に取り上げていきたい。

【Outline and objectives】
Learn historical research methods of reading historical materials,pursuing historical facts, and drawing historical images.

HIS200BE

日本史特講Ⅸ

長井　純市

授業コード：A3201　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
春学期・2 単位
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
・授業の概要：欧米人の見た 20 世紀前半期の大日本帝国と日本人の種々相を、日本滞在経験を有する欧米人、とりわけ米国人が残した英文の著述や公文書などの一節を読むことを通して、学ぶ。
・目的：1）日本近代史全般に関わる知識を得、あるいは増やす。2）今日の日本と将来の日本を考える手がかりを得る。3）異文化との衝突や交流について考える手がかりを得る。

【到達目標】
到達目標：1）日本近代史に関する英文資料の読解力を養い、向上させること。2）英文資料の講読を通して、日本近代史全般に関する知識を得、理解を深めること。3）欧米人の近代日本及び日本人に対する多様な見方や解釈を理解すること。4）異文化との衝突や交流、共生について考える手がかりを得ること。5）グローバリゼーションという現象を多様な視点から考える手がかりを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・進め方：講義形式である。
・方法：受講生の能動的な学習を促し、また双方向的な授業運営に努め、受講生の授業後のコメントや疑問などを適宜授業内で取り上げ、受講生との質疑応答を取り入れる。教室での対面授業を行うが、新型コロナウィルス感染問題への対応策として教室での対面授業を ZOOM を利用して同時配信する方式を併用することもある。リアクションペーパーにおける受講生の疑問や質問、コメントなどには、次回の授業冒頭あるいは学習支援システムにおいて対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要説明。
第 2 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（1）	英文資料―日本観と日本人観―
第 3 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（2）	英文資料―政治（1）―
第 4 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（3）	英文資料―政治（2）―
第 5 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（4）	英文資料―政治（3）―
第 6 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（5）	英文資料―経済―
第 7 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（6）	英文資料―産業―
第 8 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（7）	英文資料―植民地（1）―
第 9 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（8）	英文資料―植民地（2）―
第 10 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（9）	英文資料―文化（1）―
第 11 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（10）	英文資料―文化（2）―
第 12 回	欧米人の見た大日本帝国と日本人（11）	英文資料―生活（1）―

第 13 回　欧米人の見た大日本帝　英文資料―生活（２）―
　　国と日本人（12）
第 14 回　まとめ　　授業の総括と質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・準備学習：学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに授業プリントの英文資料を添付ファイルでアップロードするので、授業前に、それをダウンロードし、読んで和訳しておくこと。
・復習：授業プリントを読み直すこと。毎回の授業後、学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに授業の要点を掲示するので、それを読むこと。さらに、授業プリントの内容に関連する記事や参考書を読んでおくこと。
・本授業の準備・復習時間は、各２時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】
刊本としてのテキストは使用しない。毎回授業前に、英文資料プリントを学習支援システムの「授業内掲示板」サイトに添付ファイルでアップロードする。

【参考書】
オリーブ・チェックランド『明治日本とイギリス』（法政大学出版局）
ジョセフ・ヘニング『アメリカ文化の日本体験』（みすず書房）
ポール・クローデル（奈良道子訳）『孤独な帝国日本の 1920 年代』（草思社）
中條忍『ポール・クローデルの日本』（法政大学出版局）

【成績評価の方法と基準】
・平常点 40 %、試験 60 %（設題は、到達目標をふまえたものとする。参照可）。
・特別な事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合には、あるいは試験を受験しない場合には、不合格の評価とする。
・新型コロナウィルス感染防止策として、教室での試験を行うことができない場合には、試験をリポートに切り替えることもある。

【学生の意見等からの気づき】
日本近代史に関する知識の不足を感じたり、英文の和訳や解釈に手間取ったりする受講生がいることから、受講生の学習の動機付けや意欲を高める質疑応答、受講生同士の助け合い学習などを活用する。

【学生が準備すべき機器他】
・学習支援システムを利用することのできる IT 機器。
・ZOOM 授業を受講することのできる IT 機器。

【その他の重要事項】
・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。
・新型コロナウィルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、頻繁に閲覧し、見落とさないようにすること。
・担当教員宛の直接連絡にはメールを利用すること。そのメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline and objectives】
This course has three main points. The first point is to study the Japanese modern history through reading and translating English sentences extracted from the Foreign Relations of the United States or the books or articles written by American intellectuals in the early 20th century. The second one is to study the viewpoints on Japan and the Japanese people in modern times from the eyes of the Westerners. The third is to study the cultural exchange and conflicts between different cultures. Thorough this course students obtain ability and skill of critical thinking on the Japanese modern history.

HIS200BE

日本史特講Ｘ

森田　貴子

授業コード：A3202　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　幕末期の開港によって、政治的・軍事的・経済的に近代化を迫られた日本は、明治以降、封建的な制度を撤廃し、近代的な制度を急激に形成した。多様な法律・規則が制定・改廃され、多くの社会的な変動と改革がなされた。
　本講義では、明治初年から第二次世界大戦までの日本について、制度変革の観点から、多角的に近代日本の社会を歴史的事実に基づき理解する。

【到達目標】
　本講義は、明治初年から第二次世界大戦までの日本について、経済・社会・教育などの多角的な制度変革の観点から、日本の近代を歴史的事実に基づき理解し、広い視野と現代社会を主体的に考察する視角を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各回テーマごとに、講義を進めながら、近代日本の諸制度について、考えていく。
毎回、リアクションペーパーを提出する。
授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーから良い意見や多く出された意見を取り上げて紹介し、議論を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的・進め方。歴史学の方法。現代社会について主体的に考察するための歴史学の持つ意義について。
第 2 回	土地制度（1）	近世期の土地制度
第 3 回	土地制度（2）	地租改正の実施
第 4 回	土地制度（3）	地租改正の意義
第 5 回	司法制度（1）	近世期の裁判制度
第 6 回	司法制度（2）	近代的司法制度の確立
第 7 回	土地制度と司法制度（1）	近代的司法制度と裁判の実態
第 8 回	土地制度と司法制度（2）	地主制
第 9 回	教育制度（1）	小学校の成立
第 10 回	教育制度（2）	小学校の確立
第 11 回	金融制度（1）	明治期の貨幣制度
第 12 回	金融制度（2）	国立銀行の設立
第 13 回	金融制度（3）	日本銀行の創設
第 14 回	試験とまとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞・ニュースの経済面を、積極的に読むこと。
本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は、特に指定しない。
教場で、資料レジュメを配布する。

【参考書】
教場で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（４０%）と、試験１回（６０%、持ち込み不可）による。

【学生の意見等からの気づき】
本年度は対面授業で実施する。

【その他の重要事項】
３分の２以上の出席は必須です。

【Outline and objectives】
This course aims for students to gain a good understanding of the Japanese modern age examining the historical facts about Japan from the beginning of the Meiji period to the Second World War from diverse perspectives, including laws, economy, society, education, and urban development.

HIS200BE

日本史特講 XI

遠藤　慶太

授業コード：A3216　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義は、日本最初の公式な歴史書である『日本書紀』について、基礎的な知識や調査の方法を習得することを目的とする。『日本書紀』は古代史の基本史料であるだけでなく、古典として長く読み継がれてきた。現在のわたしたちが目にする活字や電子テキストの背後には、時代ごとの写本や刊本、個性的な解釈が存在する。そこでこの講義では、『日本書紀』の具体的な記事を取りあげ、テキストの特色にも注意しながら、歴史を書き記す意味について考えてゆく。

【到達目標】
『日本書紀』の成り立ちや特色について、史料的根拠や歴史学の研究の現状に即して理解し、その内容を説明できるようになることを目標とする。そのためには漢文で書かれた記事の内容やテキスト（写本、刊本、注釈）を比較しながら、史料批判に代表される歴史学の基本的な考え方を学び、論理立てて自ら判断する思考を養っていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で、受講生の質問にも応えながら進行します。実際に史料を読んでもらうことや、調べてもらったことを発表してもらうこともあります。受け身ではなく意欲ある受講が、より深い学びにつながると考えるからです。前回の授業のリアクションペーパーからいくつか取り上げて授業内で紹介し、さらなる議論に活かしてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	日本書紀の成立	ガイダンス／日本書紀についての概説
第 2 回	日本書紀の受容史	日本紀講と写本のながれ
第 3 回	日本書紀の材料	大王系譜（帝紀）の成り立ち
第 4 回	神社の鎮座伝承	初期倭王権と崇神・垂仁朝
第 5 回	日本武尊をめぐって	倭王権の拡大と婚姻伝承
第 6 回	対外交渉記事①	神功皇后伝承と一次史料について
第 7 回	対外交渉記事②	倭の五王と古墳研究
第 8 回	日本書紀と漢籍	武烈天皇の暴虐記事をめぐって
第 9 回	仏教伝来の記事	六世紀の東アジアと倭国
第 10 回	聖徳太子について	聖徳太子信仰と研究の現状
第 11 回	押坂王家	百済大寺の発掘調査と 7 世紀の王統
第 12 回	大化改新の再評価	木簡と日本書紀をめぐる史料批判
第 13 回	藤原鎌足の記事	功臣の評価と藤原氏の成立
第 14 回	壬申の乱をたどる	戦乱の叙述方法／まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回講義についての資料を配布するので、事前に読んでおいてください。とくに質問する項目については、各自で調べておいてください。この講義の準備・復習時間は各 2 時間を基本とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、必要は資料は配布する。

【参考書】
河内春人ほか編『日本書紀の誕生』（八木書店、2018 年）、図録『日本書紀の世界』（熱田神宮宮庁、2020 年）、『芸術新潮』2020 年 2 月号

【成績評価の方法と基準】
成績評価は、発言や発表など意欲ある講義参加（３０％）、小テストやレポート課題（７０％）を総合して行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義の時間内で典籍や史跡の画像や江戸時代の木版本の実物をみてもらい、関係書籍を紹介するなかで、受講生がより分かりやすく、さらに学ぶきっかけを提供できるよう心がける。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to teach students basic knowledge and methods of research about the old Japanese history book, 'Nihonshoki'. 'Nihonshoki' is not only a basic historical source of ancient history, but has been read as a classic for a long time. Behind the Type text and Electronic text that we see today, there are books that have been transcribed, published, and even unique annotations. In this lecture, we will take a concrete article on 'Nihonshoki' and consider the meaning of writing History while paying attention to the characteristics of each Text.

HIS200BE

東洋古代史

飯尾　秀幸

授業コード：A3135　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「家族」は、人類の誕生とともに居住単位・婚姻単位・経済単位として存在するが、歴史の各段階においてそれは変遷する。この授業においては、文化人類学・考古学の成果に学びつつ、婚姻単位としての家族が如何なる構造をもつものであったのかを中国古代史を対象として考える。

【到達目標】
家族とは、いかなるものかを 19 世紀～20 世紀における文化人類学の展開から理解し、説明できる。
また、集落・家屋といった考古学的研究の成果をどのように歴史学に取り入れるかを習得することができる。
史料の扱い方（漢籍と甲骨文字・青銅器銘文など）に精通することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式
文化人類学の調査などを参考に、歴史学において家族をどう捉えたらよいかを考え、中国の新石器時代における家族を、とくに婚姻単位としての家族という観点から位置づける。
現代の家族問題と比較して、受講生自身の問題意識を高め議論を深めていきたい。
なおリアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	歴史学における空間（地域）を考える。	n 地域論を理解し、具体的に地域間の諸関係を考える。
第 2 回	歴史学における時間（時代区分論）を考える。	時代区分論を理解し、具体的に時代の画期を提示し、その変化の意味を考える。
第 3 回	核家族のイメージの再考	モソ族（中国南部）、モン族（ヴェトナム北部）の集落構造・婚姻制度から歴史的家族を考える。
第 4 回	婚姻単位としての家族を考える。	文化人類学における家族の方法論から家族論を検討する。
第 5 回	経済単位としての家族を考える	社会経済史の議論から家族論を考える
第 6 回	歴史学が考える家族の成立と社会・国家との関係を検討する。	婚姻単位・経済単位としての家族が居住単位としての家族に合一することを家族の成立と定義する意味を考える。
第 7 回	国家と社会・家族の理論的展開を概観する。	社会と家族が国家支配と如何なる関係にあるのかを検討する。
第 8 回	中国考古学の成果、検討する。	中国文明の地域的多様性を考える。
第 9 回	姜寨遺跡の紹介	発掘された紀元前 4500 年ころの一つの集落の構造を考える。
第 10 回	ボロロ族の集落構造	レヴィストロースの調査に基づいて、ブラジルのボロロ族の集落構造・婚姻制度を紹介する。
第 11 回	姜寨遺跡からみた集落構造の意味	ボロロ族を参考に、仰韶文化期の集落構造を考える。
第 12 回	半坡遺跡、その他の仰韶文化期の遺跡の紹介	仰韶文化期のその他の遺跡から集落構造、婚姻制度を考える。
第 13 回	竜山文化期以降の集落遺跡の紹介と「家族」成立前史	新石器時代後半の集落と家屋の状況を考える。
第 14 回	授業内テストと春学期のまとめ・解説	歴史学、文化人類学での家族の扱い方をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中国古代史をテーマとした概説書を読むことを予習として、知識を得てください。また授業中で歴史学、文化人類学などの研究書を紹介いたしますので、参照してください。とくに興味を引くテーマには積極的に検索して書物のありかを確認して調べていただきたい。
予習・復習は、講義 1 回につき 4 時間を標準とします。
また絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】
飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】
授業内テストを実施します。その成績評価を 80 %、平常点として 20 %とします。

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすく説明することとに心がける。

【その他の重要事項】
質問は、授業中に原則として受けます。また初回の授業でＥメールアドレスを提示しますので、いつでもメールでも質問してください。。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history , family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

HIS200BE

東洋中世史

宇都宮　美生

授業コード：A3136　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の生活に不可欠な水を通して、中国が水問題に対してどのように対処したのか、水をどのように有効利用したのかをみていく。これにより、近年頻発する日本の水害についても考えていきたい。

【到達目標】
水に関する中国人の活動に対し、それを生み出した要因と背景、それによる影響と発展について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物、遺構、古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献、地図、写真、絵、表などの資料の使い方を学習する。また、与えられた資料を使って、分析する方法を学ぶ。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	水問題	水問題と学習の意義
第 2 回	河川史 1	黄河
第 3 回	河川史 2	長江
第 4 回	河川史 3	渭水
第 5 回	河川史 4	洛水
第 6 回	運河史 1	運河の構造
第 7 回	運河史 2	運河の発展
第 8 回	穀倉	穀物の運搬と保管
第 9 回	船舶史	船舶の種類と発展
第 10 回	水軍史	水上の軍事行動
第 11 回	農業史	灌漑と水車
第 12 回	庭園 1	庭園の種類と発展
第 13 回	庭園 2	皇室庭園
第 14 回	水害	災害と防災

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で資料、論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。また、質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。資料については配布するが、レジュメは配布しない。

【参考書】
愛宕元・冨谷至編『中国の歴史　上・下』昭和堂、2009 年改訂版
冨谷至・森田憲司編『中国の歴史　上・下』昭和堂、2016 年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』講談社、2005 年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 (30%) と筆記試験（70%、事前に問題を知らせる）

【学生の意見等からの気づき】
この授業では自分で書くことにより、「自分のノート」を作ってもらいたいので、写真撮影を禁じる。

【学生が準備すべき機器他】
色鉛筆（あれば青色）：作業をしてもらう。

【その他の重要事項】
特になし

【Outline and objectives】
This course introduces an understanding of Chinese history in respect to various issues on water. The aim of this course is to help students acquire an importance of water in life, city, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

HIS200BE

東洋近現代史

芦沢　知絵

授業コード：A3208　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は「外交からみる中国近現代史」をテーマとする。
現在、中国は東アジアのみならず、世界全体に大きな影響力を持つ「グローバル大国」となった。もっとも、歴史的に見れば、こうした国際社会における中国の位置づけは、中国国内の政治局面の変化とともに、常に大きく揺れ動いてきたといえる。特に近代以降は、欧米列強や日本の中国進出、戦後の冷戦構造の下で、極端な外交政策の転換も迫られた。
本授業では、こうした近現代における中国の外交の歴史を中心にたどりながら、現在の「グローバル大国」中国がどのように形成されてきたのか概観する。その上で、昨今の中国をめぐる国際的な諸問題について、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】
近現代における中国の外交の歴史をたどり、中国近現代史に関する知識や理解を深めるとともに、現在の中国をめぐる国際的な諸問題について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、授業内で文献・史料の読解を行うため、ある程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中国近現代史入門	中国近現代史を学ぶ意義・方法
第 2 回	前近代中国の対外関係	王朝体制と「華夷秩序」
第 3 回	清朝とアヘン戦争	中国における「西洋の衝撃」
第 4 回	清末の条約・開港	中国近代外交の幕開け
第 5 回	日清戦争と「瓜分の危機」	伝統的国際秩序の崩壊
第 6 回	辛亥革命と中華民国の成立	近代国家としての中国
第 7 回	軍閥割拠とナショナリズム	「国民外交」の希求
第 8 回	南京国民政府の成立	国民党の外交戦略
第 9 回	満洲事変から日中戦争へ	日中対立と国際社会
第 10 回	国共内戦と中華人民共和国の成立	戦後東アジアの冷戦構造
第 11 回	社会主義体制と文化大革命	中国共産党の国際的孤立
第 12 回	改革開放の時代	協調外交への転換
第 13 回	現代中国の対外関係	「グローバル大国」の行方
第 14 回	中国近現代史の課題と展望	中国近現代史をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識と理解を深める。また、中国に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。
岡本隆司・箱田恵子編著『ハンドブック近代中国外交史――明清交替から満洲事変まで』ミネルヴァ書房，2019 年.
川島真・毛里和子著『グローバル中国への道程――外交 150 年 (叢書 中国的問題群 12)』岩波書店，2009 年.
毛里和子『現代中国外交』岩波書店，2018 年.
吉澤誠一郎他『中国近現代史①～⑤』岩波書店（岩波新書），2010～14 年.

【成績評価の方法と基準】
①　平常点　30 %
毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。
②　期末試験　70 %
授業内容に関する論述問題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】
初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用する。

【Outline and objectives】
This course introduces the history of modern China focusing on diplomatic relations. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical process and current issues about modern China as a great power.

HIS200BE

東洋考古・美術史

塩沢　裕仁

授業コード：A3209　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】
高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。
中国三千年王朝史の 9 割にもおよぶ期間都が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。
青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	中国考古学の現状
第 2 回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物 1	仰韶文化と彩陶
第 3 回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物 2	竜山文化と灰陶、黒陶
第 4 回	文明多元論	河母渡・大地湾・夏家店・良渚文化
第 5 回	中国王朝の曙	二里頭遺址と出土遺物
第 6 回	殷王朝の文化 1	偃師商城・鄭州商城遺址と出土遺物
第 7 回	殷王朝の文化 2	殷墟の甲骨と青銅器
第 8 回	周王朝の文化 1	周原の遺跡と出土遺物
第 9 回	周王朝の文化 2	東周洛陽の遺跡と出土遺物
第 10 回	春秋戦国の文化 1	曾公乙墓と出土遺物
第 11 回	春秋戦国の文化 2	曲阜孔廟と関連遺産
第 12 回	四川独自の文化	三星堆の遺構と出土遺物
第 13 回	秦初期の文化	天水・雍城の遺構と出土遺物
第 14 回	始皇帝の理想とその文化	始皇帝陵と兵馬俑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。
また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史５、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史８、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985 年）などには目を通しておいてもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。
あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline and objectives】
On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological datas in China,we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

HIS200BE

東洋史特講Ⅰ

飯尾　秀幸

授業コード：A3162　｜　曜日・時限：**月曜２限**
秋学期・２単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「家族」は、居住単位・婚姻単位・経済単位として存在したが、歴史のある段階で、その三者が合一する。そのことをこの授業においては、家族の成立と考え、その家族の成立過程において、婚姻単位と経済単位とが居住単位としての家族と如何なる関係をもち、それらの関係がどう変容し、どのように三者が合一していったのかを、中国古代史を対象にして考える。

【到達目標】
考古学資料を歴史学としての扱い方を身に付ける。
甲骨文字・青銅器銘文（金文）をどう扱うかを習得する。
文字史料を読み込む力をつける。
家族を歴史的に把握する方法を得ることで、現代の家族の問題を考える視点を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式
殷代における居住単位・婚姻単位・経済単位としての「家族」の変遷を、考古学の成果、甲骨文字、殷代青銅器銘文などを概観しつつ、中国の最古の「王朝」と呼ばれる時代の家族の形態を中心に、家族の在り方について考える。現代の家族問題と比較して、受講生の問題意識を高め議論を深めていきたい。なおリアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	家族とは何か	中国新石器時代の姜寨集落遺跡とブラジルのボロロ族集落を比較する（確認）
第 2 回	中国考古学の成果―青銅器時代	ニ里頭文化の前期・後期の紹介し、夏と殷について考える。
第 3 回	殷墟文化とその社会	殷代の祭祀区と墓葬区（小屯と侯家荘遺跡）を紹介し、殷代社会構造を考える。
第 4 回	甲骨文字の出土と甲骨文字の性格	甲骨文字の性格（祭祀と占いと政治）を考える。
第 5 回	殷代の政治と社会の構造	甲骨文字から見える殷代の政治方法と社会構造を考える。
第 6 回	殷代の「家族」についての諸学説の紹介	王位の継承についてのニ学説（王家存在説と王家不存在説）を紹介し、問題点を考える。
第 7 回	王家不存在説からみた王族グループの存在	王家不存在説から王族の構造を考える。王名・王妣名と太陽神話（10 個の太陽）を紹介する。
第 8 回	王家不存在説からみた王位継承法	王位継承の仮説から、王族グループの構造について考える。姜寨集落遺跡との比較（連続性）
第 9 回	王家不存在説への批判とそれへの反論しての殷代青銅器銘文の性格	親族称問題を紹介する。殷代青銅器銘文の分類から親族称問題を考える。
第 10 回	殷代青銅器銘文分類のうちの宝貝賜与金文の構造	宝貝賜与金文から青銅器作器者問題を考え、それが親族称問題と密接につながることを理解する。
第 11 回	殷代青銅器の種類と青銅器鋳造方法と青銅器鋳造集団の存在。	外范分割法の紹介。銘文と文様の鋳込み方を紹介する。
第 12 回	殷代青銅器作器者問題を考える実例紹介	貴卣・貴尊の比較から青銅器作器者問題を考える。
第 13 回	親族称問題と青銅器作器者問題のまとめ	王家不存在説という仮説が成立していることを確認し、家族構造の連続性説の意味を考える。
第 14 回	授業内テストとまとめ・秋学期の解説	各授業での質疑を含め、秋学期のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中国古代史をテーマとする概説書を読んで知識を得てください。また興味を引いたテーマについては図書館などで研究書のありかを検索し、積極的な学びを実践していただきたい。
予習・復習は、講義 1 回につき 4 時間を標準とします。

絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】
授業内で資料・図版を配布する。

【参考書】
飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】
授業内テスト（80 %）、平常点（20 %）

【学生の意見等からの気づき】
分かりやすく説明することを心掛けたい。。
現代の問題と関連づけて授業を進めることとしたい。

【その他の重要事項】
質問は授業内で原則受け付けます。またＥメールアドレスを提示するので、質問などはメールにていつでも送信してください。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history , family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

HIS200BE

東洋史特講Ⅱ

澁谷　由紀

授業コード：A3163　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、東南アジア近世史（14 世紀～ 19 世紀）を概説する。いわゆる東南アジア諸国とは、ASEAN ＋ 1 の 11 か国をいう。現在、東南アジアは 1 つの地域として存在感を持っているが、それぞれ言語や宗教が異なっており、政治史を軸とした 1 本の歴史として「東南アジア史」を叙述することは難しい。このことは、歴史的に形成されてきた、東南アジア地域の特徴といえる。この授業では、東南アジアの域内・域外のさまざまな勢力との関わりあいのなかで、現在の東南アジア諸国の領土的枠組みが形成されていく過程を学び、それぞれの地域的特性を理解できるようする。

【到達目標】
この授業では、高校の世界史では得られなかった新たな知識として、東南アジア近世史（14 世紀～19 世紀）に関する基礎的な知識を身につけることを目的とする。
歴史的な知識を基盤として、現在の東南アジア地域の様々な問題を筋道立てて理解することができるようにする。
欧米を介した知識ではなく、日本との直接的な関係において、アジア地域を見ることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各回ごとに、講師が作成したレジュメ、参考資料を「学習支援システム」にて配布。内容を正しく理解できているかを確認するため、各回ごとに課題を出す（課題提出とフィードバックは「学習支援システム」を利用）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	「東南アジア」地域とは	自己紹介、授業の進め方を説明する。「東南アジア」という地域概念が形成されてきた過程を概説する。
第 2 回	古代の東南アジア	東南アジアの古代史を概説する。
第 3 回	マラッカ王国	港市国家マラッカの形成過程と構造を概説する。
第 4 回	アユタヤ（タイ）	アユタヤ史の展開を追う。
第 5 回	北方「タイ人」諸王国	現在の東南アジアと中国、インドのあいだに広がる山間盆地の状況を見る。
第 6 回	タウングー朝ビルマと周辺地域	現在のミャンマー地域の 16～17 世紀の状況を見る。
第 7 回	ベトナム	現在のベトナム地域の 16～17 世紀の状況を見る。
第 8 回	島嶼部の港市国家群	東南アジア島嶼部の 16～17 世紀の状況を見る。
第 9 回	大陸部における「大国」の形成	18 世紀の大陸部東南アジアを概観する。
第 10 回	ポスト・アンコールのカンボジア	アンコール王都放棄後のカンボジア史の展開を追う。
第 11 回	オランダ東インド会社のジャワ島支配	18 世紀のジャワ島の状況を見る。
第 12 回	海域の分割と陸域の分割	19 世紀の島嶼部・大陸部東南アジアを概観する。
第 13 回	植民地支配下の東南アジア	植民地支配下での東南アジア社会の変容を概観する。
第 14 回	まとめ	一連の授業を総括し、理解度を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料を整理して論点をまとめ、疑問に思うところ、よく分からなかったところがあれば、質問できるようにまとめる（＊質問は学習支援システムを利用して受けつける）。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を基準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、担当教員が作成したレジュメ、参考資料を「学習支援システム」にて配布。

【参考書】
石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999 年、山川出版社
池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999 年、山川出版社
石井米雄他編『岩波講座東南アジア史 3 東南アジア近世の成立』2001 年、岩波書店

桜井由躬雄他編『岩波講座東南アジア史 4 東南アジア近世国家群の展開』2001 年、岩波書店
斎藤照子他編『岩波講座東南アジア史 5 東南アジア世界の再編』2001 年、岩波書店

【成績評価の方法と基準】
平常点（各回の課題 40 %）、期末レポート（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline and objectives】
This class is aim to understand the early modern history (14th~19th century) and culture of Southeast Asia.

HIS200BE

東洋史特講Ⅲ

芦沢　知絵

授業コード：A3164　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。
中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。
本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】
近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、授業内で文献・史料の読解を行うため、ある程度の予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第 2 回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第 3 回	清末の近代化①	開港と外国資本
第 4 回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第 5 回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第 6 回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第 7 回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第 8 回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第 9 回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第 10 回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第 11 回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第 12 回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第 13 回	改革開放と経済成長②	WTO 加盟とグローバル化
第 14 回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で紹介した参考文献や配布プリントをもとに知識と理解を深める。また、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。
岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会，2013 年.（第 4・5 章）
久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会，2016 年.
丸川知雄『現代中国経済』有斐閣，2013 年.

【成績評価の方法と基準】
① 平常点　30 %
毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。
② 期末レポート　70 %
授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】
初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを利用する場合がある。

【Outline and objectives】
This course introduces the history of the modern Chinese economy. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical process and problems of China's economic growth.

HIS200BE

東洋史特講Ⅳ

塩沢　裕仁

授業コード：A3165　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。
近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】
高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。
中国三千年王朝史の 9 割にもおよぶ期間都が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。
青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	長安の都市と陵墓	長安の都市圏と皇帝陵墓
第 2 回	洛陽の都市と陵墓	洛陽が有する都市空間
第 3 回	漢の諸文化	馬王堆漢墓
第 4 回	後漢三国・北朝の都城	許昌と鄴都
第 5 回	六朝の都城	六朝の都城建康と貴族文化
第 6 回	遊牧都市文化	フフホト・盛楽・大同・洛陽の遺構と出土遺物
第 7 回	仏教文化 1	西域・敦煌・麦積山石窟
第 8 回	仏教文化 2	雲崗・龍門石窟
第 9 回	隋唐の長安	隋唐の都城長安と隋唐陵墓
第 10 回	隋唐の洛陽	煬帝・武則天の都城洛陽
第 11 回	法門寺出土遺物	唐代の金属工芸技術
第 12 回	青磁と曜変天目	越窯・汝窯・鈞窯・建窯
第 13 回	白磁	定窯と景徳鎮窯
第 14 回	漆器	茶文化と漆器

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。
また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。

【参考書】
授業の進行に合わせ適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史５、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史８、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985 年）『ビジュアル版世界の歴史 11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985 年）には目を通しておいてもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 %。
あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

【Outline and objectives】
On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological data in China,we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

HIS200BE

東洋史特講Ⅴ

宇佐美　久美子

授業コード：A3166　｜　曜日・時限：**金曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
インド洋西海域における地域交流史を東アフリカのスワヒリ地域を中心に学ぶ。
ダウ船による遠距離海上交易が、どのようにアラブ、ペルシア、インド、東アフリカなどの各地域を結び付けたのかを具体的に紹介する。
さらに、ポルトガル、イギリスなどヨーロッパ勢力のインド洋進出がもたらした影響を考察する。
学生各自が専門とする地域・時代における地域交流史と比較考察する機会を得ることによって史学研究について知見を深める。

【到達目標】
海洋史研究の方法論を習得する。
遠距離海上交易が結び付けたアラブ、ペルシア、インド、東アフリカなど各地域の関係を理解する。
環インド洋地域の諸社会とヨーロッパ勢力の海洋支配の捉え方を比較して説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
教材プリントを使う対面授業での講義形式をとる。授業内での受講生からの積極的な質問を歓迎するとともに、リアクションペーパー等のコメントを次回授業内で紹介し全受講生へのフィードバックを行う。DVD や VHS などの視覚教材も活用する予定。課題として史料を配布し、受講生の分析結果を後日まとめて紹介するなど双方向型の取り組みも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	インド洋交流史の枠組（その１）	海上交流の捉え方など
第 2 回	インド洋交流史の枠組（その２）	自然条件など
第 3 回	インド洋交流史の枠組（その３）	ダウ船について
第 4 回	インド洋交流史の枠組（その４）	時代区分・特産品など
第 5 回	スワヒリ社会の成立	スワヒリ社会の成立
第 6 回	スワヒリ地域とインド洋（その１）	スワヒリ地域とアラビア半島・ペルシャ湾岸地域との交流
第 7 回	スワヒリ地域とインド洋（その２）	『キルワ年代記』
第 8 回	ポルトガルの進出（その１）	スワヒリ地域の事例
第 9 回	ポルトガルの進出（その２）	インド洋西海域の事例
第 10 回	スワヒリ地域とオマーン（その１）	オマーンについて
第 11 回	スワヒリ地域とオマーン（その２）	ザンジバルへの進出
第 12 回	スワヒリ地域とオマーン（その３）	インド洋奴隷貿易
第 13 回	インド人移民（その１）	19 世紀まで
第 14 回	インド人移民（その２）	20 世紀

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地図や年表を活用して、事前に対象地域の概略を押さえておく。
毎回、講義の復習を行い、必修項目を確認し身に付ける。
重要事項に関する予習・復習課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に指定しない。

【参考書】
家島彦一『海域から見た歴史―インド洋と地中海を結ぶ交流史』 名古屋大学出版会　2006 年
富永智津子『スワヒリ都市の盛衰』(世界史リブレット) 山川出版社　2008 年
この他にも講義において適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
不定期に実施する小テストなどの平常点 (50 %) と期末レポート (50 %) の評価を総合して成績を決定する。
小テストは、講義内容の理解度を確認するために実施する。
期末レポートは、講義で取り上げたインド洋地域交流史の内容をふまえ、それをさらに深く考察してオリジナルな論議を展開できるかどうかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】
多くの学生にとって、スワヒリ地域というアフリカの一地域の歴史的展開を学ぶ機会を得たことが最も印象的であったようだ。アフリカやイスラームに関心を抱くきっかけを提供するためにも、さらに詳しく論じたい。
また、「東洋とは？」「東洋史とは？」という問いを考察する機会も提供したいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
新型コロナ感染防止の観点などから見て、やむを得ない事情で欠席した学生の便宜を図るため、学習支援システム Hoppi を利用します。

【その他の重要事項】
授業終了後に教室において質問を受け付ける。
もしくは下記メールアドレスに連絡する。
kumiko.usami.c4@hosei.ac.jp

【Outline and objectives】
This lecture deals with the historical development of maritime activities in the western part of the Indian Ocean.
It introduces how the long-distance maritime trade using dhows contributed to develop the vibrant interregional connection in the Indian Ocean World, from the Red Sea, the Arabian Peninsula, the Persian Gulf, to the west coast of the Indian Sub-Continent and to the east coast of Africa also known as Swahili coast.
Focuses are set on the historical development of this East African coastal communities.
It also deals with the various effects of arrival of European Powers, Portuguese and British and others in the Indian Ocean World.
The students will be provided the opportunity to speculate historiography further comparing their majoring subjects with the history of Indian Ocean World.

HIS200BE

東洋史特講Ⅶ

水上　和則

授業コード：A3217　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、中国陶磁史について行う。
アジアの大国である中国は、芸術・文化が早くから栄え、周辺諸地域へ影響を与えつづけた。本講義では、土器や陶器・磁器のもつ様々な生産の歴史や造形美について学習する。個々の作品に美しさを感じ、各時代の陶磁器から誕生の背景をよみ、一貫してながれる中国のやきものの歴史を学んでゆく。

【到達目標】
私たちの暮らしに無くてはならない“やきもの”に長い歴史のあることを学び、よく理解し、そのうえで身近な器の持つ美しさを再発見する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各回講義を中心に行い、後半で画像提示をして陶磁作品鑑賞や講義の詳細解説を行う。
【授業形式】基本的に対面授業を行う。
キャンパス入校ルールに従い、オンデマンド授業に切り変える場合もある。
フィードバックは基本的に授業内で行う。授業内で出来なかった質問等は、教員の学内メールにて受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	中国やきものの曙	新石器時代陶器を生んだ風土とその材料である黄土は、どの様にしてできたのだろうか。
第 2 回	中国の土器	仰韶文化のやきものは、肌理の細かな粘土を用いること、回転台を使っての仕上げ作業を行ない、初めて窯を用いて焼成することが行われるようになる。
第 3 回	漢魏の明器	春秋・戦国時代には、大勢の殉葬者を出すことが現世権力の保持のためにマイナス要因であるため、人に似せた人形である俑を副葬したという。
第 4 回	越州窯のやきもの	越国では、全国に先立ち漢代に瓷器が生産された。生産された製品は全国にもたらされ、瓷器焼造の技法は近隣の諸国に伝えられ次々に生産窯が現れた。
第 5 回	原料のはなし	“やきもの”の原料である粘土はどのように生まれ、地表のどこにあるのか。ここでは、やきもの原料について学んでゆく。
第 6 回	白瓷のはじまり	人々の白い焼物を望む声は強く、遠く殷時代にはすでに白陶として無釉の白い焼物が作られる。
第 7 回	定窯の白瓷	『定窯』は、唐代に始まり、宋代から金代に隆盛し、元代初期頃まで命脈を保つ、白瓷の焼造を専業とした中国を代表する名窯である。
第 8 回	天目茶碗	我が国茶の湯文化における天目茶碗は、中国点茶法導入期において重要な位置を占めている。天目と呼ばれる茶碗の形や釉色について学んで行く。
第 9 回	龍泉窯の青瓷	16 世紀の大航海時代にあった世界中の港町からは、景徳鎮の青花瓷と共に龍泉窯青瓷が例外なく出土するという。
第 10 回	景徳鎮のやきもの	陶瓷器に紋様を描くことが装飾の中心になると、景徳鎮が世間で広く注目を浴び、以後景徳鎮で創始された窯業技法が、全国の窯業生産に強い影響を与えることとなる。
第 11 回	大航海時代の青花 (染付け) 瓷器	景徳鎮窯では、明代後期から清代初期に青花瓷や赤絵が作られた。貿易陶瓷として日本や朝鮮・東南アジア諸国にもたらされた。

第 12 回	意匠と年代	先進文化と共に中国から輸入された陶磁器は、各国で常に倣製の対象となっていた。倣製から始まるやきもの文化の、なかでも意匠について学んでゆく。
第 13 回	鑑賞とたのしみ	美術館・博物館での見学等、やきもの鑑賞の楽しみの数々を紹介する
第 14 回	中国の陶磁器まとめ	この講義のまとめと学びの確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各２時間を標準とします。事前に印刷テキストを配布する。他に、逐次印刷物を配布するので、該当箇所を読んでおくこと。

【テキスト（教科書）】
本講義用のプリントを配布する。

【参考書】
佐藤雅彦『中国陶磁史』平凡社 1978 年

【成績評価の方法と基準】
筆記試験を実施する。
期末試験 (75%)、平常点・その他提出物 (25%) を合計し評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更のため、アンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
考古学・中国陶磁史・陶芸に興味をもつ学生の受講を歓迎する。
本講義用ノートを準備して、細かく筆記することを求める。
「実務経験のある教員による授業」
陶磁成形・釉調合・築窯技術など陶芸全般の実務経験がある。
学生各人の実技経験に応じ、やきものを身近に感じられるように指導を行う。

【Outline and objectives】
This lecture is about history of Chinese ceramics.
In China which was an Asian large country, art, culture prospered early. And it was continued affecting the neighboring areas.We learn about the history and the molding beauty of various production of porcelain.

HIS200BE

東洋史特講Ⅷ

松本　隆志

授業コード：A3218　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、古代地中海世界から説き起こし、アラビア半島での預言者ムハンマドの出現、中東地域への発展と分裂を経て、現在の私たちが知るところの「イスラーム」が形成されていった最初期のプロセスを学んでいきます。本授業を通じて、受講生がイスラームの生成と展開についてその歴史背景も含めて自分の理解を形成すること、そして自身の理解を文章で他者へ提示することを学びます。

【到達目標】
この授業を通じて受講生は、高校の世界史教科書等では断片的な情報しか得られないイスラームの生成と発展について、古代地中海世界に固有の信仰伝統の文脈の中で理解を形成していくことになります。そうして形成された理解を自分の言葉で語ることができるようになることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
古代以来の歴史背景から説き起こし、イスラームの誕生と展開、完成に至るプロセスを時系列に沿って学んでいきます。毎回の授業は講師による講義と受講生によるペーパーの作成・提出で構成されます。課せられるペーパーは毎回の授業内容に関する論述です。次回の授業で前回提出のペーパーの内容についてフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、テーマの説明と意義、授業の受け方について。
第 2 回	古代地中海世界の宗教伝統	古代地中海世界の信仰伝統としての一神教信仰について。
第 3 回	古代末期の地中海世界とアラビア半島	ビザンツ帝国とサーサーン朝の抗争と、その時代のアラビア半島の位置付けについて。
第 4 回	預言者ムハンマドと神の啓示	預言者ムハンマドの生涯とイスラームの誕生について。
第 5 回	預言者没後の指導者をめぐる試行錯誤の始まり	正統カリフ時代～第一次内乱に至る出来事について。
第 6 回	統一の再生と崩壊	第一次内乱の経緯とウマイヤ朝の成立について。
第 7 回	指導者の資格とは何か	第二次内乱前後の状況とウマイヤ朝の再興について。
第 8 回	ウマイヤ朝の到達点	ウマイヤ朝最盛期の歴史的位置付けと問題点について。
第 9 回	ウマイヤ朝の衰退、対抗勢力の胎動	ウマイヤ朝末期の状況とハーシミーヤ運動について。
第 10 回	アッバース朝の確立	アッバース朝最初期の状況について。
第 11 回	革命をもう一度	アミーンとマアムーンの内乱について。
第 12 回	イスラームの完成、帝国の限界	イスラームとアッバース朝カリフの関係について。
第 13 回	イスラーム世界の確立	諸王朝の乱立とイスラーム世界確立の関係について。
第 14 回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回配布する資料でその日の授業内容に関わる追加の参考文献を適宜紹介するとともに、次回内容に関わるキーワードを示していきます。追加文献に目を通したり、提出したペーパーを再検討することが復習になります。
また、配布資料で示される次回のキーワードについて調べることが予習になります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定の教科書は使用しません。
毎回授業資料を配布します。

【参考書】
・概説書
小杉泰, 『イスラーム帝国のジハード』（講談社学術文庫）, 講談社, 2016 年.
菊地達也編著, 『図説イスラム教の歴史』, 河出書房新社, 2017 年.
・工具書
大塚和夫ほか編, 『岩波イスラーム辞典』, 岩波書店, 2002 年.
その他の参考文献は適宜配布資料に記載します。

【成績評価の方法と基準】
毎回提出のペーパー（60 %）、期末試験（40 %）
ペーパーについては毎回素点をつけ、その累積で評価します。
期末試験は論述試験となる予定です。
毎回のペーパーも試験も、ともに設問に対して自身の見解を論述するものになります。授業内容を踏まえて自分なりの見解・解釈を生み出すこと、それを論理的に文章で示すことが評価の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
対面授業であれば毎回の授業資料は紙で配布する予定だが、必要と判断した場合には学習支援システムを利用する場合もあり得る。

【その他の重要事項】
上記の内容は状況の変化によって変更される可能性がありますが、その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておいてください。

【Outline and objectives】
In this class, We will learn the process of the earliest period in which the "Islam" we know today was formed through the introduction to the religious traditions of the ancient Mediterranean world, the emergence of the Prophet Muhammad on the Arabian Peninsula, the development into the Middle East and the division of the community. The students of this class need to form their own understanding of Islam's generation and development, including its historical background, and to be able to present their understanding in writing to others.

HIS200BE

西洋古代史

後藤　篤子

授業コード：A3143　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、２世紀後半～５世紀のローマ帝国の詳しい歴史を政治史を中心に学び、帝政後期のローマ社会を概観することで、ローマ帝国の「東西分裂」という表現や、「ローマ」対「ゲルマン」という二項対立的見方の妥当性について考えます。

【到達目標】
２世紀後半～５世紀のローマ帝国の政治と社会についての基本的知識を習得する。
帝政前期からの変化をもたらしら諸要因について、自分で考えることができる。
ローマ帝国の「東西分裂」という表現や、「ローマ」対「ゲルマン」という二項対立的見方の妥当性について、自分で考えることがきる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式で進めますが、講義レジュメは原則として１週間前に学習支援システムの教材欄にアップするので、受講者は事前によく目を通し、予習したうえで授業に臨むこと。教室授業は講義レジュメの補足説明と、学習支援システム上に設定する質問受付コーナーに事前に投稿される質問や、その場で出される質問・意見へのフィードバックを中心に進めます。グループディスカッションを行う回は各グループから討議内容を報告してもらい、最後に全体へのフィードバックを行う予定ですが、時間が足りない場合は学習支援システムを利用しての報告提出とフィードバックに切り替えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	帝政前期ローマ社会の概要
第 2 回	「ローマの平和」の終焉	「五賢帝」時代末期からセウェルス朝期の政治史
第 3 回	「アフリカ人皇帝」の復讐？	セプティミウス・セウェルス帝の評価をめぐるグループディスカッション
第 4 回	３世紀のローマ帝国 (1)	「軍人皇帝時代」の開始
第 5 回	３世紀のローマ帝国 (2)	「軍人皇帝時代」の展開
第 6 回	「３世紀の危機」？	「危機」の諸相。軍人皇帝への再評価をめぐるグループディスカッション。
第 7 回	「危機」の克服	ディオクレティアヌス登位からコンスタンティヌス帝死去までの政治史
第 8 回	「大きな政府」の出現	ディオクレティアヌス・コンスタンティヌス両帝の諸改革と帝政後期の社会
第 9 回	４世紀のローマ帝国	コンスタンティヌス帝死去から「ゲルマン民族大移動」の開始まで
第 10 回	「ローマ」と「ゲルマン」	ローマ・ゲルマン関係史と「ゲルマン民族大移動」開始後の状況。
第 11 回	ローマ帝国の「東西分裂」？	４世紀末～５世紀初頭の政治史
第 12 回	５世紀前半のローマ帝国	ローマとコンスタンティノープル
第 13 回	５世紀後半のローマ帝国	テオドシウス朝断絶後の状況
第 14 回	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義レジュメは原則として１週間前に学習支援システムの教材欄にアップするので、受講生は事前に目を通し、知らない人名や事項については『世界史辞典』（角川書店）等を利用してまず自分で調べてみること。そのうえで、不明点や疑問点は授業時の質疑応答で解決を図ること。授業後は講義や質疑応答の内容を復習し、まだ理解が不十分と思われる点や疑問点について、まず自分で講義時にとったノートや参考文献を利用して考えてみる。それでも残る不明点・疑問点については、学習支援システムの授業内掲示板等に設定する質問受付コーナーか、次回授業の質疑応答時間に必ず質問して解決するようにする。また、ディスカッションの素材は 1 週間前に配布する講義レジュメに記載するので、よく読んで自分の意見を言えるようにしておくこと。本授業の予習・復習時間は各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。講義概要と関連史料・図版等を記載したレジュメを、原則として講義の１週間前に、学習支援システムの教材欄にアップします。

【参考書】
井上文則『軍人皇帝のローマ―変貌する元老院と帝国の衰亡』講談社選書メチエ、2015 年。
ベルナール・レミィ『ディオクレティアヌスと四分統治』、大清水裕訳、白水社（文庫クセジュ）、2010 年。
ベルトラン・ランソン『コンスタンティヌス―その生涯と治世』、大清水裕訳、白水社（文庫クセジュ）、2012 年。
弓削達『永遠のローマ』講談社学術文庫、1991 年。
田中創『ローマ史再考―なぜ「首都」コンスタンティノープルが生まれたのか』NHK ブックス、2020 年。
その他の参考文献は、講義レジュメで随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（質問やディスカッションでの発言等、授業への積極的参加度）20 %、期末筆記試験 80 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は全科目がオンライン授業となり、それへの対応で授業準備に例年をはるかに上回る時間を要したため、予習時間を十分に確保できるようなタイミングで講義レジュメを事前アップできなかったことが、最大の反省点です。2021 年度は 1 週間前のアップを心がけ、諸般の事情で遅れる場合でも、2020 年度のような大幅な遅れにはならないようにします。

【Outline and objectives】
This course deals with the history of the Roman empire from the late 2nd century through the 5th century, considering such themes as the division of the Roman empire into the western and eastern parts, and the relationship between the 'Romans' and the 'Germans'.

HIS200BE

西洋中世史

小沼　明生

授業コード：A3144　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代の国際社会を理解するために不可欠な知識を中心に、古代ローマ世界の終わりから１５世紀までを扱います。巨大な文明の崩壊後、新しい世界の萌芽となる古代末から、キリスト教ヨーロッパの基礎を築いた中世初期、現代の国際関係のもととなる国民意識を生みだした中世後期の世界までを概観します。現代世界に通じる部分と異質な部分を合わせ持つ前近代の西洋世界の歴史を学ぶことを通じて、今の自分自身が置かれた位置を広い視野で考えてほしいと思います。

【到達目標】
この授業には二つの目的を設定します。一つ目は、異文化や異世界に対する理解と、自らの文化や世界に対する相対的な見方、そして歴史的なものの考え方を身につけることです。二つ目は、文献を収集、比較・分析し、そこから自分の見解を導きだし、表現できるようになることです。前者については授業内容で、後者についてはレポートの作成を通じて学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では一回に一つのトピックを取り上げ、時代の流れの中に位置づけながら解説します。現代を生きる上でぜひ知っておいてほしい事件やことがらを厳選して紹介していきます。各授業の終わりに、日本語に訳された史料、つまり歴史を書く際に証拠として使われてきたテキストや画像、音楽などを取り上げ、その時代背景や作者の情報、意図などを自由に想像して考えてもらいます。続く授業でその史料の内容と背景を解説し、そこからどのような歴史像が作られてきたかを学びます。
フィードバックや質問は授業コメント欄にお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	西洋前近代の歴史を学ぶこと
第 2 回	ローマ世界の終焉	民族大移動と古代の終わり
第 3 回	フランク王国の成立と発展	カールの戴冠と西ヨーロッパ世界
第 4 回	ローマカトリックの伝播	聖歌の成り立ちから見る典礼の成立
第 5 回	聖職叙任権闘争	カノッサの屈辱から見えること
第 6 回	十字軍	西ヨーロッパの拡大とその目的
第 7 回	中世の世界観	地図から見る世界観の変遷
第 8 回	サンチャゴ巡礼とレコンキスタ	巡礼の書と巡礼地の発展
第 9 回	教会建築の変化	ゴシック建築の誕生
第 10 回	黒死病と死の舞踏	パンデミックとその原因・結果
第 11 回	百年戦争	中世的国家の変質
第 12 回	中世の終焉とルネサンス	ルネサンスの源流を探る
第 13 回	宗教改革	ウィクリフから、フス、ルターまで
第 14 回	まとめとレポート講評	テキストを批判的に読むこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の最後に次回の授業で使う課題を渡します。課題の中のキーワードなどを参考に予習をしておくことを勧めます。
また、レポートの作業を分割して進めますので、毎週４時間ほどの準備時間を用意してください。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。授業ごとにプリントを用意します。

【参考書】
木下康彦ほか編『改訂版詳説世界史研究』山川出版社、２００８年

【成績評価の方法と基準】
学期中に簡単な小レポートを二回、そしてそれを踏まえた形で学期末にレポートを提出してもらいます。合計三回のレポートの評価と、出席状況および授業への参加を合計して最終的な評価を行います。なお、授業への参加については、授業内での課題への回答を見て評価します。配点は以下の通りです：
出席と授業参加： 30
レポートＡ： 10
レポートＢ： 20
レポートＣ： 40

【学生の意見等からの気づき】
毎回課題に回答してもらいますが、正解を求めるというより想像力を働かせて推理するという気持ちでやってみてください。

【学生が準備すべき機器他】
必須ではありませんが、課題の内容に限定して、授業中にスマートフォンなどでの検索を許可しますので、ネットにつながる状態で用意しておくとよいでしょう。

【Outline and objectives】
This is the lecture about European history focusing on the middle ages. The lecture, based on the basic knowledge of world history, begins with the post-Roman era and ends with the 15th century. Students in this class will get a historical point of view and the techniques to read historical texts critically.

HIS200BE

西洋近代史

中嶋　毅

授業コード：A3145　｜　曜日・時限：**水曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近代ロシアの政治社会を多面的に考察する。本講義では、ロシア帝国の形成から第一次世界大戦に至るまでのロシア近代史を概観し、ヨーロッパの政治発展の一類型としてのロシア世界を考察する。

【到達目標】
近代ロシア帝国の歩みを、主に政治社会史の観点から検討し、近代国家の特徴を比較考察する視角を習得する。また、ロシア近代史の経験を近代世界の中に位置づける作業を通じて、歴史的思考を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式。授業の最後に小課題を提示し、Hoppii で提出してもらう。その際、授業および課題作成にあたっての質問を随時記載してもらい、次回授業時までに回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ロシア帝国の形成（1）	ピョートル 1 世と帝国の形成
第 2 回	ロシア帝国の形成（2）	ピョートルからエカチェリーナへ
第 3 回	ロシア帝国の形成（3）	エカチェリーナ 2 世とロシア帝国の発展
第 4 回	19 世紀前半のロシア帝国（1）	ナポレオンを破った大国ロシア
第 5 回	19 世紀前半のロシア帝国（2）	ニコライ 1 世と帝国の安定化
第 6 回	ロシア帝国の近代化（1）	アレクサンドル 2 世の「大改革」
第 7 回	ロシア帝国の近代化（2）	近代化の苦悩
第 8 回	近代ロシアの成熟	19 世紀末のロシア帝国
第 9 回	近代ロシアの危機	ニコライ 2 世のロシア帝国
第 10 回	第一次世界大戦とロシア帝国	総力戦への対応
第 11 回	二月革命	ロシア帝国から共和制ロシアへ
第 12 回	十月革命とボリシェヴィキ政権	社会主義ロシアへの転換
第 13 回	全体のまとめ（1）	近代ロシアの特徴（1）
第 14 回	全体のまとめ（2）	近代ロシアの特徴（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
近代ロシア史の概説書を読み、歴史の大まかな流れを理解する。また、授業の際に提示する課題に取り組み、復習や準備学習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。配布資料を用いて授業を進める。

【参考書】
和田春樹編『世界各国史 22　ロシア史』（山川出版社、2002 年）。田中陽兒・倉持俊一・和田春樹編『世界歴史大系・ロシア史』全3巻（山川出版社、1994-97 年）。参考文献リストは授業時間に配布する。

【成績評価の方法と基準】
授業中に課する課題の提出（50 %）と学期末試験（50 %）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
An overview of modern history of Russia from the formation of the Russian empire to the First World War. The Russian world as a type of European political development will be considered.

HIS200BE

西洋現代史

古川　高子

授業コード：A3146　｜　曜日・時限：**月曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
歴史的考察力を養い、現代世界で生じている様々な事件や事柄を理解するために、国民国家、国民、民族、地域という視点から歴史を学ぶ。

【到達目標】
西洋近現代史において扱われる国民国家、国民、民族、地域といった概念で示される事象が具体的にどのようなものだったのか、またどのような意味を持っていたのかを理解する。そして、特に多言語地域における国民国家の形成や地球全体にまたがる人の移動とそれらの歴史的変容過程を学ぶことで、現在の諸問題の端緒を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
・国民、国民国家、自由主義、国民主義、帝国主義等の諸概念に関する歴史学上の議論を紹介するとともに、多言語地域における国民形成に関する事例研究や政治文化等を交えて、西洋現代史の諸事象を国民や民族、地域といった視点で考察する。授業は講義を中心に進める。
・講義のレジュメは、前日までに学習支援システムを通じて配布するので、各自プリントアウトして、授業に持参し、参照にすること。
・講義において疑問に感じたことについては授業の最後に質問時間を設定するので、そこで回答する。できなかった質問については学習支援システムを通して全員に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	国民国家の諸問題	ネイション概念、国民国家、ネイション・ナショナリズム研究の紹介、地域概念等の解説
第 2 回	フランス革命と国民	フランス革命の意味、フランス革命と植民地支配、女性にとってのフランス革命
第 3 回	産業革命・社会問題	資本と労働、階級形成、社会問題、社会主義の思想、1848 年革命、ウィーンの労働者街区
第 4 回	自由主義と国民主義– 事例研究（1）ハプスブルク帝国	19 世紀後半における国民形成運動、多言語使用地域、「民族」対立
第 5 回	帝国主義の時代	帝国主義、米西戦争、南アフリカ戦争他
第 6 回	世界をマクロとミクロに把握する	近代化論、従属論、世界システム論、エトノスという把握の仕方
第 7 回	人の移動と世界	大都市の成立、新大陸、移民の世紀
第 8 回	ヴェルサイユ体制と国民国家の制度化	第一次世界大戦前のネイションとナショナリティ、ウィルソンの 14 箇条、マイノリティ保護
第 9 回	ファシズム時代の国民主義と国民的抵抗	世界各地のファシズム、世界恐慌、反ファシズム
第 10 回	戦間期から第二次世界大戦直後までの国民形成– 事例研究（2）子供をいかにして国民とするか	多言語地域、国民的帰属への無関心、ユダヤ教徒の子供、連合国による国民化政策
第 11 回	アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国	冷戦、アジア諸国の独立、アラブ地域の動向と中東戦争、アフリカ諸国の独立、ラテンアメリカの動向
第 12 回	冷戦の時代	ヨーロッパにおける冷戦、国民国家体制の普遍化、冷戦国家
第 13 回	新自由主義の時代	新自由主義の成立、グローバル・サウス、新自由主義のヘゲモニー
第 14 回	試験、まとめ	授業内筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内で指示する参考書をできるだけ読み、国民、国民国家、民族あるいは地域といった概念や事例の理解を深めること。本授業の予習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は特に用いない。

【参考書】
参考書は授業中に適宜指示する。
但し、以下の参考書は本講義において重要なので可能な限り読んでおくこと。
・小沢弘明「東欧における地域とエトノス」歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題 II 1980-2000 年　国家像・社会像の変貌』（青木書店、2003）pp. 223-237.
・木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店、2014）.

【成績評価の方法と基準】
平常点（20 %）および筆記試験（80 %）による総合評価を行う。
授業で学んだ事柄について、多くの参考書を読んで理解を深め、論点を抜き出してノートにまとめておき、それをもとに筆記試験に臨むこと。試験は暗記ではなく、思考力と論理力を求めるものとなるため、文章を正しく、論理的に書く練習をしておくこと。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【Outline and objectives】
Understanding the meanings and roles of nations, ethnic groups and areas in world history of 19. and 20. century.
Introducing ideas and discussions about nations, nation-states, and ethnic groups. Including some case studies, examining events in world history from the viewpoint of nations, nation-states, and ethnic groups.

HIS200BE

西洋史特講Ⅰ

後藤　篤子

授業コード：A3168　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ローマ帝国の「衰亡」をめぐっては、当時から現代に至るまで実に多くの見解が出されています。本授業ではローマ帝国「衰亡論」の歴史の概要を学ぶと同時に、それを通じて「歴史は今を映す鏡」と言われる所以を考えます。さらにグループ学習を通じて、他者の見解を批判的に読解してその問題点を発見する能力を養います。本授業での学びを通じて、昨今また盛んになっている「国家の衰亡」をめぐる種々の論議を批判的に読み解く力を習得することが、本授業の目指すところです。

【到達目標】
・「ローマ帝国衰亡論」の歴史について基本的知識を習得する。
・今日までに展開されてきた多様な「衰亡」原因論を批判的に考察し、それらの問題点を発見する能力を習得する。
・自分の見解を、他者に理解・納得してもらえるような形で口頭や文章で発表する、プレゼンテーション能力を習得する。
・質疑応答やディスカッションを通じて自分の見解を客観的に見直し、必要な修正等を施すことができる柔軟な思考力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は講義形式で進めますが、その間にグループ学習を進めてもらい、後半はグループ別発表と質疑応答、およびディスカッションを中心とします。学習支援システム上に設定する質問等受付コーナーに投稿される質問・意見等へのフィードバックは毎回の授業時に行う予定ですが、時間が足りなそうな場合は、数回分をまとめて学習支援システム上でフィードバックします。グループ発表へのフィードバックは当該授業内および学習支援システム上で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、および期末レポート課題の説明と、参考文献リストの配布。
第 2 回	ローマ帝国概観	背景知識が不十分な受講者向けに、帝政期のローマの歴史と社会を概述
第 3 回	近代歴史学成立以前の「衰亡」論	古代ローマ人の衰退論～ギボン『ローマ帝国衰亡史』まで
第 4 回	ローマ帝国の「衰亡」をめぐる多様な見解 (1)	「民族移動」や自然的要因を重視する諸説をめぐって
第 5 回	ローマ帝国の「衰亡」をめぐる多様な見解 (2)	人間的要因や政治・軍事的要因を重視する諸説をめぐって
第 6 回	ローマ帝国の「衰亡」をめぐる多様な見解 (3)	「衰亡」という捉え方自体をめぐってー「古代末期」学派の出現と同派への批判
第 7 回	ローマ帝国の「衰亡」をめぐる多様な見解 (4)	近年の動向をめぐって
第 8 回	グループ発表に向けて	グループ毎の発表レジュメの作成と質疑応答
第 9 回	グループ発表と質疑応答 (1)	モミリアーノ論文・ジョーンズ論文の概要と、両者が考える「衰亡原因」についての批判的考察
第 10 回	グループ発表と質疑応答 (2)	弓削達氏が考える「衰亡原因」の概要と、それについての批判的考察
第 11 回	グループ発表と質疑応答 (3)	南川高志氏が考える「衰亡原因」の概要と、それについての批判的考察
第 12 回	グループ発表と質疑応答 (4)	J・シュミットが考える「ローマ帝国の衰退」の概要と、それについての批判的考察
第 13 回	ローマ帝国の「衰亡」をめぐって	各グループ発表を受けての全体討議。グループ別発表を終えての各自の感想の提出。
第 14 回	まとめ	教員による全体講評。期末レポートの提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義レジュメは原則として 1 週間前に学習支援システムの教材欄にアップするので、受講生は事前によく目を通しておき、不明点や疑問点は授業時の質疑応答で解決を図るか、学習支援システム上でも質問を受け付けるのでそこに投稿すること。授業後に残った不明点や疑問点も、学習支援システムに投稿すること。
グループ学習は参考書欄に記載した 4 点のうち一つを選んで進めてもらいますが、グループ分けは受講者の希望に沿う形で行うので、グループ分けまでにどの参考文献を精読したいか、各自で決めておくこと。グループ別発表のレジュメ作成時間は授業内でも取りますが、それまでにグループで参考書の読み込みを進め、発表内容を協議しておく必要があります。したがって、本授業の準備・復習時間は計 4 時間が標準ですが、それ以上の時間を要するかもしれないことは承知しておいてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しません。講義形式で進める部分のレジュメは、原則として講義の 1 週間前に、学習支援システムの教材欄にアップします。

【参考書】
(1) 古代学協会編『西洋古代史論集Ⅲ』東京大学出版会、1978 年。
A. モミリアーノ「キリスト教とローマ帝国の衰亡」(秀村欣二訳)
　A. H. M. ジョーンズ「ローマ帝国の衰退」(杉村貞臣訳)
(2) 弓削達『ローマはなぜ滅んだか』講談社現代新書、1989 年。
(3) 南川高志『新・ローマ帝国衰亡史』岩波新書、2013 年。
(4) ジョエル・シュミット『ローマ帝国の衰退』文庫クセジュ、2020 年。
グループ学習で使用する上記 4 点以外の参考文献リストは初回時に配布します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（質問やグループ発表・ティスカッション時の発言等、授業への積極的参加度）20 %、グループ学習を終えての感想（全員提出）20 %、期末レポート 60 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は、予習時間を十分に確保できるようなタイミングで講義レジュメを事前アップできなかったことが最大の反省点で、2021 年度は 1 週間前のアップを心がけます。また、2020 年度は Zoom のブレイクアウトルーム機能を使ったグループ討議の時間も設けましたが、教員自身が不慣れであったためグループ毎の質問への対応に手間取るなど、あまりうまく運営できていなかったと思いますので、その点についても改善を図ります。

【Outline and objectives】
This course aims at learning the history of various opinions about "the decline and fall" of the Roman Empire, and thereby acquiring the basic ability for critical reading and logical thinking.

HIS200BE

西洋史特講Ⅱ

小沼　明生

授業コード：A3169　｜　曜日・時限：**金曜２限**
秋学期・２単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の西洋中世史では有名な事件やトピックを中心に紹介しましたが、後期のこの講義では西洋中世の社会構造や思考・行動の在り方を中心に見ていきます。時系列ではなく、社会を構成していた要素、つまり皇帝、国王、貴族、聖職者、都市、農民などに注目していきます。授業ごとに紹介する史料から、過去の社会を想像することを通じて理解を深めていきます。

【到達目標】
この授業には二つの目的を設定します。一つ目は西洋文化の基礎を作った時代である中世の歴史的知識を、またそれを通じて歴史的な見方・考え方を身につけます。二つ目は文献を収集、比較・分析し、そこから自分の見解を導きだし、表現できるようになることです。前者については授業内容で、後者についてはレポートの作成を通じて学んでいきます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業では一回に一つのトピックを取り上げ、時代の流れの中に位置づけながら解説します。西洋中世史を学ぶ上でぜひ知っておいてほしい事件やことがらを厳選して紹介していきます。各授業の終わりに、日本語に訳された史料、つまり歴史を書く際に証拠として使われてきたテキストや画像、音楽などを取り上げ、その時代背景や作者の情報、意図などを自由に想像して考えてもらいます。続く授業でその史料の内容と背景を解説し、そこからどのような歴史像が作られてきたかを学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第１回	ガイダンス	異世界としての中世・ルーツとしての中世
第２回	王と皇帝と教皇	中世的世界の成立とその本質
第３回	騎士と貴族の世界	貴族的社会と文化の成立と発達
第４回	修道院と修道士の世界１	修道院の始まりとその発展
第５回	修道院と修道士の世界２	托鉢修道会の成立と発展
第６回	ローマカトリック教会の発展	教会の構造とその発達
第７回	ローマカトリック教会の変質	教会分裂と公会議
第８回	都市の成立と発展	西洋における都市の成立過程とその特徴
第９回	手工業者と都市住民	手工業と手工業者の発展
第10回	ドゥームズデイブックと中世の農村	農村の形態と農民・領主関係
第11回	中世農村と農奴制	農奴制の成立と変化
第12回	西洋中世の貨幣と貨幣制度	貨幣単位の由来と互換関係、購買力
第13回	１４世紀の危機	黒死病の流行と中世後期の世界
第14回	まとめとレポート講評	テキストを批判的に読むこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の最後に次回の授業で使う課題を渡します。課題の中のキーワードなどを参考に予習をしておくことを勧めます。
また、レポートの作業を分割して進めますので、毎週４時間ほどの準備時間を用意してください。

【テキスト（教科書）】
特に定めません。授業ごとにプリントを用意します。

【参考書】
木下康彦ほか編『改訂版詳説世界史研究』山川出版社、２００８年
甚野尚志『中世の異端者たち』世界史リブレット２０、山川出版社、１９９６年
朝倉文市『修道院にみるヨーロッパの心』世界史リブレット２１、山川出版社、１９９６年
河原温『中世ヨーロッパの都市世界』世界史リブレット２３、山川出版社、１９９６年
堀越宏一『中世ヨーロッパの農村世界』世界史リブレット２４、山川出版社、１９９７年など

【成績評価の方法と基準】
学期中に簡単な小レポートを二回、そしてそれを踏まえた形で学期末にレポートを提出してもらいます。合計三回のレポートの評価と、出席状況および授業への参加を合計して最終的な評価を行います。なお、授業への参加については、授業内での課題への回答を見て評価します。配点は以下の通りです：
出席と授業参加： 30
レポートＡ： 10
レポートＢ： 20
レポートＣ： 40

【学生の意見等からの気づき】
毎回課題に回答してもらいますが、正解を求めるというより想像力を働かせて推理するという気持ちでやってみてください。

【学生が準備すべき機器他】
必須ではありませんが、課題の内容に限定して、授業中にスマートフォンなどでの検索を許可しますので、ネットにつながる状態で用意しておくとよいでしょう。

【Outline and objectives】
This is the lecture about European history focusing on the middle ages. Its time scope is from the 5th through the 15th century and we will work on the society and culture of each social stratum in this era; emperors, kings and nobles, the clergy and monks, citizens and farmers. Students in this class will get a historical point of view and the techniques to read historical texts critically

HIS200BE

西洋史特講Ⅲ

篠原　琢

授業コード：A3170　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ハプスブルク帝国の領域は、ハプスブルク帝室が戦争と婚姻によって相続した雑多な諸王国・諸地域の複合的な集積でしかなく、そもそも近代国家を構成する凝集力に欠けており、帝国末期には、国民主義が浸透し、言語紛争が絶えなかった。長い 19 世紀は、そもそも帝国が必然的に衰退する過程であった・・・。この種の議論は、集権的で同質的な「国民国家」Nation State を近代国家の理念型として想定し、ハプスブルク帝国を近代ヨーロッパの発展から逸脱した「非正常」とみなす視点を暗黙のうちに持っている。帝国の継承諸国では、社会主義体制下も含めて、それぞれの国家の「民族的」性格が強調されたため、この種の歴史観は、当然の前提とみなされることが多かった。
　果たして帝国の 19 世紀史をそのように捉えることは妥当だろうか。授業では「中央ヨーロッパ」という歴史的世界の検討を行い、「帝国から国民国家へ」という歴史の方向性を具体的に見直す。ハプスブルク君主国の成立過程を概観した後、さらに若干の理論的・史学史的考察を行い、昨年度から引き続き「長い 19 世紀史」のなかで帝国史の再検討を行う。中心的に検討の対象とする地域は、ベーメン（チェコ）諸邦とガリツィア（今日のポーランド南東部からウクライナ西部にかけての地域）である。

【到達目標】
18 世紀末から第一次世界大戦期までの「長い 19 世紀史」におけるハプスブルク君主国の歴史を概観しながら、「国民形成」、ナショナリズム、市民社会、帝国的秩序といったより一般的な歴史的テーマについて再検討を加える。ハプスブルク帝国史研究の現段階を理解するだけでなく、目的論的なヨーロッパ近代史の概念への批判的なアプローチを獲得することが授業の目標である。それを通して、現代世界の問題について、新たな歴史的視点を得ることを目指そう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的に講義形式で授業を進める。授業中、史料や文献を使って、グループ・ディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	高校世界史と指導要領の中のハプスブルク君主国	高校教科書を中心に、講義で扱う地域（中央ヨーロッパ）がどのようにヨーロッパ史の中に位置づけられているのか、その記述の特徴を検討する。
第 2 回	ヨーロッパ史の中の「中央ヨーロッパ」	「東ヨーロッパ」として語られてきた地域を「中央ヨーロッパ」と捉え直すのはどのような意味があるか、考える。
第 3 回	ハプスブルク君主国の形成：神聖ローマ帝国とハプスブルク家	ハプスブルク家がオーストリア諸邦支配を確立し、ドイツ王・神聖ローマ帝国皇帝位を獲得する過程を概観する。
第 4 回	ベーメン王国とフス派戦争	ベーメン王国を例として、国王と議会との関係を考える。
第 5 回	30 年戦争期の国家変動	16 世紀初頭から 17 世紀にかけて、君主と諸身分（議会）との緊張関係は、宗教改革の影響を受けつつ、深刻化していった。オスマン帝国の拡大もこの時期の国家建設に大きな影響を与えている。30 年戦争期にハプスブルク君主国がどのように国家の凝集力を確保していったのか検討する。
第 6 回	帝国建設への道	啓蒙改革期以降、諸王国・諸領邦の集合体であったハプスブルク君主国は、国家の支配機構を整えながら、次第に帝国としての体裁を整えていった。ハプスブルク朝による国家建設過程を考える。
第 7 回	人民主権とネイション形成	ネイション形成を論じる前提として、人民主権論の展開を検討する。
第 8 回	ネイション形成の段階論	ナショナリストにとってネイションは太古より存在するものではあっても、歴史研究者には新しい現象である。ネイション形成の「段階論」を検討する。
第 9 回	「できごと」としてのネイション－ National Indifference 概念の挑戦	ネイションを社会的文脈に依存するものとして考える新しい研究動向を検討する。
第 10 回	ポーランド分割と「ガリツィア王国」の成立	ポーランド分割によってハプスブルク君主国は「ガリツィア」を領有することになった。この「帝国辺境」の支配が、帝国支配の確立にどのように作用したのか考える。
第 11 回	「ポーランドの揺籃」としてのガリツィア	ガリツィアにおけるポーランド・ナショナリズムの成長を検討する。
第 12 回	1848 年革命をどのように考えるか	「諸国民の春」として論じられてきた 1848 年革命を帝国再編論から捉え直す。
第 13 回	「諸国民の社会」の形成	ネイション（国民社会、National society）の形成をベーメン、ガリツィアを比較しながら考える。
第 14 回	まとめ	ネイション・帝国・国民国家（ネイション・ステイト）について、「長い 19 世紀」の発展を再考する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業時に指示する。

【参考書】
授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】
グループ・ディスカッションの結果をレポートとして提出する： 30%
期末に提出する最終レポート： 70%

【学生の意見等からの気づき】
昨年度の指摘に基づいて、授業テーマの理解の基礎となる通史的解説を充実させた。

【学生が準備すべき機器他】
授業は基本的に同期型のオンライン授業として行う。史料・資料は Hoppii で配布する。オンライン（Zoom）で授業を行うため、授業に関心のある学生は必ず仮登録は行うこと。

【その他の重要事項】
授業が対象とする地域についての知識は必要ありません。ヨーロッパ近代史、ナショナリズム、国民国家などに関心のある方の受講を歓迎します。英文の論文を授業中に検討し、グループ・ディスカッションの材料としますので、意欲的な方々の参加をお待ちしています。

【Outline and objectives】
Habsburg Monarchy was a mere amalgam of defferent territories acquired and inherited by the house of Habsburgs through marriages and wars. Therefore it was anachronistic exixtence by itsself, lacking a potentiality to develop to an integrated modern state. The Long Nineteenth century was for it a process of decay leading to an inevitable dissolution, a process driven by nationalism, nationality conflicts... Such an argument is based on a view which presupposes a centralized homogeneous nation-state as a normality of modern state, and depicts history the Habsburg monarchy as an anormality deviated from the "normal" development of European modernity. As its succeeding states in Central and Eastern Europe legitimates their existing by stressing their "national" characters, such vision of history often constructed basic pattern of historical narrative. Can we still understand history of the Monarchy in such a way? In this course, first, we will briefly sketch a historical region "Central Europe", then the building of the Habsburg monarchy from the Middle age to the Enlightenment. After summarizing historiography of Habsburg monarchy and more important theoretical problems, we will investigate some of the most essential topics of the Monarchy in "the long 19th. century".
Following the course last academic year, the main object of the analyse is history of Bohemian Lands and Galicia (today, south-eastern part of Poland and western Ukraine).

HIS200BE

西洋史特講Ⅳ

高澤　紀恵

授業コード：A3171　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近世西ヨーロッパ社会の基底で起こった変化を、「生存の条件」「社会的結合関係」「文化変容」「緊張と排除」という 4 つの視角から検討する。対象とする時期は 16 世紀から 18 世紀とする。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】
近世ヨーロッパ社会史をテーマとするこの授業は、2 つの到達目標をもつ。ひとつは、16 世紀以降のヨーロッパの歴史を基底でゆっくり変化する人々の生活・宗教・意識の変化から追い、近代ヨーロッパの理解を深めることである。二つ目は、日常性に着目する社会史の方法と成果を学ぶことを通して、私たちの生きる時代と社会を相対化し、その歴史的特質を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義、学生による報告、ディスカッションを組み合わせたクラスである。
リアクション・ペーパーは毎回提出を求める。次回授業の冒頭で、学生のリアクションへのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会史とはなにか
第 2 回	映画『帰ってきたマルタン・ゲール』	次回、感想文を提出のこと
第 3 回	生存の条件	他者としての過去との出会い
第 4 回	社会的結合関係（1）	血縁的な結合
第 5 回	ディスカッション（1）	婚姻と家をめぐって
第 6 回	社会的結合関係（2）	宗教的結合と地縁的結合
第 7 回	文化変容（1）	宗教改革とカトリック改革
第 8 回	文化変容（2）	民衆文化と時間・空間意識
第 9 回	文化変容（3）	文字文化の浸透
第 10 回	緊張と排除（1）	魔女
第 11 回	緊張と排除（2）	放浪者・貧民
第 12 回	緊張と排除（3）	ユダヤ人
第 13 回	ディスカッション（2）	近代と排除
第 14 回	まとめ	啓蒙のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受講学生は、テーマの一つを選び、報告（30 分）を準備すること。
ディスカッションに際しては、事前に配布された資料について課題に対する自分の考えを A 4 一枚程度のレポートにまとめて持参すること。レポートはディスカッション終了後に提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくに定めず

【参考書】
ナタリー・ゼーモン・デーヴィス『帰ってきたマルタン・ゲール―― 16 世紀フランスの偽亭主事件』平凡社ライブラリー、1993 年ほか。
参考文献表を最初の授業で配布する。

【成績評価の方法と基準】
報告への評価（４０％）
ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（２０％）
エッセイ形式の期末試験（４０％）

【学生の意見等からの気づき】
二〇一九年度は分厚い参考文献表を最初の授業に配布しましたが、受講生はあまり活用していないことに気がつきました。今年はリストを短くして必読文献に絞るほうが有益かと思います。

【Outline and objectives】
Social history is not a simple branch of history but a critical history in its own right. By grasping the society as a whole on the level of everyday experience, it illuminates every aspect of social life considered meaningful to each historian. In this course, participants are expected to make a presentation on a topic provided in advance, and engage in discussion.

HIS200BE

西洋史特講Ⅴ

高澤　紀恵

授業コード：A3172　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
都市は、政治・社会・経済・宗教の変動の最先端にあり、新たな統治技術が生まれる場でもあった。2021 年度においては、パリという具体的な都市の歴史に即して、空間、建物、信仰の三点から中・近世における変化を分析する。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】
中・近世都市の歴史をテーマとするこの授業は、三つの到達目標をもつ。ひとつは、「市民」、「公共性」、「代表」、「救貧」といった概念が、どのような歴史的現実の中で育まれ、変容してきたかを理解することである。二つ目は、都市史研究の成果と方法を学び、自分の生活空間を学問的に検討する力を養うことである。三つめは、自分の課題意識に応じたレポート作成の技術を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
このコースは、講義を中心とするが、グループ・ディスカッションも行う。その場合は、事前に配布された資料をよく読み、A4 一枚程度に考えをまとめてレポートを作成すること。このレポートをディスカッションに持参し、提出のこと。レポートならびにディスカッションへのフィードバックは、授業内で行う。また学生のリアクションへのフィードバックは、次回の授業冒頭でまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	福澤諭吉から考える都市
第 2 回	空間を読む（1）	パリの三つの顔
第 3 回	空間を読む（2）	シテ島の中心性
第 4 回	空間を読む（3）	右岸と市民
第 5 回	空間を読む（4）	左岸と大学
第 6 回	ディスカッション	都市と大学をめぐって
第 7 回	建物を読む（1）	ノートル・ダムを読む
第 8 回	建物を読む（2）	サン・ポールを読む
第 9 回	ディスカッション	残るもの、失うもの
第 10 回	見えないものを読む（1）	教区と街区
第 11 回	見えないものを読む（2）	教区教会の役割
第 12 回	見えないものを読む（3）	教区における闘い
第 13 回	見えないものを読む（4）	都市と信仰、都市の信仰
第 14 回	まとめ	都市を考える、都市から考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中心のクラスであるが、ディスカッションに際しては事前に配布された資料を熟読の上、課題に答える A4 一枚程度のレポートを用意し、これを基にディスカッションを行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくになし

【参考書】
吉田伸之、伊藤毅（編）『伝統都市　全四巻』東京大学出版会、2010 年。
高澤紀恵『近世パリに生きる――ソシアビリテと秩序』岩波書店、2008 年。
高澤紀恵、アラン・ティレ、吉田伸之編『パリと江戸―― 伝統都市の比較史へ』山川出版社、2009 年。

【成績評価の方法と基準】
ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、
エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
2019 年度のクラスでは、ディスカッションに際して多くの学生がよく考えて準備してくれたと思います。2020 年度は、オンラインで行いましたが、ほぼ毎回事前に課題を出してグループ・ディスカッションを行いました。学生たちは、積極的に参加してくれ、オンライン授業が充実したものとなりました。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出などは学習支援システムを活用しますので、パソコンを使える環境がのぞましい。

【その他の重要事項】
関心のある方は必ず仮登録をしてください。
ネット環境が整わない方は、メールで相談してください。

【Outline and objectives】
This course aims to help students understand the social and spatial transformation in early modern Paris, focusing on the following four topics: topography, architecture, and religion. This course consists of lectures and discussions. Students are expected to read assignments in advance.

HIS200BE

西洋史特講Ⅵ

大鳥　由香子

授業コード：A3173　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本年（2021 年）、アメリカ合衆国の歴史では初めて、女性が副大統領に就任した。カマラ・ハリス氏が副大統領に当選した昨年（2020 年）はまた、連邦レベルでの女性参政権が認められて 100 年の節目であった。本講義では 19 世紀後半からのアメリカ史をたどり、アメリカ政治における女性とジェンダーについて考察を深める。ジェンダーギャップという点からすると、日本よりもアメリカ社会の方が「進んでいる」という評価を下されることが多い。一方、アメリカ合衆国のなかには、人工妊娠中絶が厳しく規制される州、一夫多妻制が行われているコミュニティがあるなど、決して「アメリカの方が進んでいる」という一言では片付けられない側面もある。結局のところ、連邦レベルでの女性参政権の付与は、アメリカ政治をどのように変えたのだろうか。アメリカ政治をジェンダーの視点から分析すると、どのような変化が起きてきたのだろうか。なお、現代アメリカの政治情勢に鑑み、人種問題や中絶問題に関する事柄を多く扱うことになる。

【到達目標】
アメリカの政治文化における政治とジェンダーについての基礎的な知識を得る。英文の史料を解釈する能力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は基本的に講義形式で進める。履修人数によっては、演習形式を取り入れる場合もあるが、毎週のリーディング課題に関するリアクションペーパーの提出は必須となる。また、日本語訳のない英語の史料の講読を課題とする週もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の紹介
第 2 回	19 世紀アメリカにおける女性と教育	女性参政権運動はどのように始まったのか。
第 3 回	ハル・ハウスの女性たち	参政権のない女性たちはどのように政治に関わったのか。
第 4 回	第一次世界大戦と女性参政権	アメリカ女性はなぜ戦争に協力したのか。
第 5 回	フェミニズムと産児制限運動	妊娠や出産をめぐる規制はどのように変化してきたのか。
第 6 回	ニューディールと女性たち	アメリカ女性は社会福祉にどのように関わっていたのか。
第 7 回	第二次世界大戦と女性の戦争参加	第二次世界大戦はアメリカ女性の暮らしをどのように変えたのか。
第 8 回	冷戦と女性	軍産複合体はアメリカ女性の暮らしをどのように変えたのか。
第 9 回	ジム・クロウ法への挑戦	黒人女性は何をどのように変えようとしたのか。
第 10 回	フェミニズムと女性の社会進出	1970 年代のフェミニズムはどのような法改正を要求したのか。
第 11 回	妊娠中絶をめぐる戦い	なぜアメリカで妊娠中絶は政治の争点になったのか。
第 12 回	女性の政治進出	ガラスの天井とは何か。女性の政治進出は何をどのように変えたのか。
第 13 回	同性婚論争	同性婚の権利はどのようにして認められたのか。
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。学生は授業の復習のほか、毎週のリーディングに関する課題を行ってもらいます。課題については次週の授業で解説を行う、また皆さんのコメントを取り上げるなどの形でフィードバックを行います。履修人数によっては、皆さんの提出課題に基づくディスカッションを授業内で行うことも予定しています。また、南北戦争期以降アメリカ史の基本的な流れを各自で抑え、授業内で行う小テスト（持ち込み不可）でアメリカ史に関する基本的な事項に関する定着を図ります。学期中に最低 1 本は授業内容に関するドキュメンタリーを視聴し、作品分析を行うレポートを執筆します。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。資料については、適宜配布する。

【参考書】
リンダ・K・カーバー、ジェーン・シェロン・ドゥハート編著、有賀夏紀 [ほか] 編訳『ウィメンズアメリカ　資料編』　(2000)
エレン・キャロル・デュボイス、リン・デュメニル著 、石井紀子 [ほか] 訳『女性の目からみたアメリカ史』(2009)
有賀夏紀、小檜山ルイ『アメリカ・ジェンダー史研究入門』(2010)

【成績評価の方法と基準】
毎週の課題（履修者数によってディスカッションへの参加と貢献）： 30 %
中間レポート： 20 %
小テスト： 10 %
期末試験： 40%

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更により該当せず

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する予定。

【Outline and objectives】
This course explores how women became enfranchised in the United States and how their formal participation in federal politics shaped twentieth-century American society.

HIS200BE

西洋史特講Ⅶ

遠藤　泰生

授業コード：A3174　｜　曜日・時限：**月曜２限**
秋学期・２単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主に植民地時代から 19 世紀末までのアメリカ合衆国の歴史と文化を概観し、現代のアメリカ合衆国社会に見られるさまざまの社会規範の淵源を探ります。宗教やジェンダーの問題も出てくるでしょう。しかし、2020 年以来アメリカ社会を揺るがし、世界の耳目を集めてきた BLM(Black Lives Matter) の運動の背景を理解することにこの学期の授業は多くの時間を費やします。人種をめぐる緊張が世界大に広まっていることを意識し、アメリカ合衆国の歴史と世界の他国の歴史を比較の視野に収めながら、多元社会を生きる意味を学びます。

【到達目標】
学生はこの授業を受講することで、北米英領植民地が開かれて以来、出自を異にする多民族がアメリカ合衆国という国民国家に包摂されるまでの歴史を学びます。その際、時間の長さから見れば他国に比べ比較的短い歴史しか持たない合衆国が、建国以来わずか 100 年間余りで世界髄一の工業生産力を誇る大国に成長し、民主主義の光と影を併せ持つ政治体制を築き上げるにいたった経緯をたどります。一方で、誰をも平等に扱うという抽象的な国是のもと、伝統や因習を削ぎ落され、「アメリカ国民」への変容を余儀なくされた人々の苦しみも学びます。映画や絵画などの図像史料に触れながら、ヴィジュアルなアメリカ理解を培うことが学生には期待されます。また、課題図書の読書レポートを準備する過程で、論文を記すための文章の構成や言葉遣いを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業は行います。学生とのインターアクティブな会話を重視し、各授業内に質疑の時間を必ず設けます。提出してもらった読書レポートにはコメントを付けて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入：アメリカ合衆国の近代史を学ぶ意義	歴史と記憶
第 2 回	先住民社会と英領北米植民地	映画『新世界』（2006）
第 3 回	政教分離：寛容と非寛容	合衆国憲法修正第一条
第 4 回	市民社会の形成：公共の成立	ベンジャミン・フランクリン著『自伝』（1793）
第 5 回	国際関係の中の独立宣言：独立と相互承認	アメリカ合衆国独立宣言
第 6 回	アメリカ女性運動の黎明：ジェンダーと政治	「所感の宣言」（1848）
第 7 回	西欧近代世界における奴隷	映画『アーミスタッド』（1997）
第 8 回	アメリカ合衆国の成立と黒人奴隷制度	トマス・ジェファソン著『ヴァージニア覚え書』（1785）
第 9 回	奴隷制度即時撤廃運動と環大西洋世界	フレデリック・ダグラス著『自伝』（1835）
第 10 回	たった一人の反乱	ヘンリー・D・ソロー『市民の反抗』（1849）

第 11 回	南北戦争のその記憶：事実と史実	アブラハム・リンカン「ゲチスバーグ演説」
第 12 回	アメリカン・ランドスケイプの成立	ハドソン・リヴァー派からカントリー派へ
第 13 回	“少年” の良心とその葛藤	マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』（1890）
第 14 回	連邦再建とジム・クロウ：周縁化される人種問題	映画『国民の創生』（1915）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業での議論の要となる短い史料を毎週事前に配布するので、必ず読んでくること。英文も混じります。講義ノートを読み返し、問題点、不明点があれば、翌週の授業で質問をすること。映画は授業では抜粋しか見られないので、可能な限り全編を鑑賞する時間を設けること。

【テキスト（教科書）】
ヘンリー・D・ソロー著/飯田実訳『市民の反抗』（岩波文庫、1997）
マーク・トウェイン著/西田実訳『ハックリベリー・フィンの冒険 上・下』（岩波文庫、1977）

【参考書】
和田光弘『大学で学ぶアメリカ史』（ミネルヴァ書房、2014）

【成績評価の方法と基準】
・学期末論述テスト－ 60 %
・学期中に提出する読書レポート－ 30 %
・白地図提出－ 10 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】
授業時に随時、指示を出します。

【その他の重要事項】
アメリカ合衆国に関する事前の知識は何も必要ありません。オフィスアワーは設けませんが、質問は随時受け付けます。授業時間外に質問をしたい学生は必ずメールで事前の予約をすること。

【Outline and objectives】
We often look at issues related to ethnicity and race as irrelevant to our everyday life in Japan. In the 21st century, in which the globalization is an unavoidable trend, however, such a carefree attitude and insensibility towards diversity must be carefully scrutinized. In this class, you are expected to study history not as the dead past but as the living lessen to live with people of different color, gender, and belief.

HIS200BE

西洋史特講Ⅸ

大和久　悌一郎

授業コード：A3219 ｜ 曜日・時限：**水曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
第一次世界大戦期のイギリスを検討する。特に、前線のみでなく、銃後とされた国内の工場における動員について、社会史的観点から検討し、近代から現代への画期とされるこの時期の変化を、イギリス史の文脈に位置付けながら考察していきたい。史料としてはイギリス公文書館の政府関連資料および新聞や日記を利用する。

【到達目標】
イギリス近現代史の概説を把握することができる。また、第一次世界大戦についての知識を得るとともに、社会史、経済史、政治史、文化史それぞれのアプローチを整理することができる。またそれらを通して、現代における国家と社会との関係について、比較史的な議論を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
各回ごとにプリントを配布し、それに従って講義を進めていきます。また各回ごとにリアクションペーパーでの質問・感想・意見などの提出を求めます。またいただいた回答については、次の回に解説や応答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	イギリスの地理について
第 2 回	イギリス史概説①	産業と帝国
第 3 回	イギリス史概説②	二度の世界大戦と福祉国家
第 4 回	イギリス史概説③	サッチャー主義以後の政治とコモンウェルス
第 5 回	第一次世界大戦概説	総力戦と銃後
第 6 回	イギリスにおける銃後の動員①	ロイド＝ジョージと経済政策
第 7 回	イギリスにおける銃後の動員②	大量生産と女性の労働
第 8 回	イギリスにおける銃後の動員③	賃金とストライキ
第 9 回	総力戦と社会①	労働と管理
第 10 回	総力戦と社会②	都市の変貌
第 11 回	総力戦と社会③	爆薬と医療
第 12 回	総力戦と社会④	家族とコミュニティの変容
第 13 回	まとめ	得たものと失ったもの
第 14 回	テスト	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前にイギリス史の概説書を読んでおくこと。授業後はプリントの再読が望ましい。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験４０パーセント、平常点６０パーセント。平常点には、リアクションペーパーの回答も含みます。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
Especially from 1960s, many historians try to analyze WWI in Britain, and one of topics is "home front", munitions factories and their workers and so on. And they discussed social change in Great War, or relationship between state intervention and social, economic, and political situation. So I will review and discuss these topics again, not only about social, economic, but also cultural aspects, with documents of the Ministry of Munitions and diaries, newspapers.

HIS100BE

日本史序説Ⅰ

川上　真理

授業コード：A3212　｜　曜日・時限：**月曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、芸能の場に注目して日本の通史を学ぶ。それにより、政治・経済に偏らない日本史の理解を目指す。

【到達目標】
日本史の流れを、文化の視点から理解できるようになる。
事実を複眼的に観察し、検証する姿勢が身につくようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は、授業計画に基づいてプリントを配布し、その内容を説明しながら行う。学生は毎回、リアクションペーパーを提出する。その内容を次回の授業で紹介し、補足説明を行ったり、課題や関心を受講生の間で共有して進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	シラバスを用いたガイダンス／歴史とは何か、芸能とは何か
第 2 回	古代（1）	在来楽と外来楽の受容
第 3 回	古代（2）	雅楽の成立と展開
第 4 回	古代（3）	流行芸能の誕生
第 5 回	中世（1）	琵琶と天皇
第 6 回	中世（2）	笙と足利将軍家
第 7 回	中世（3）	猿楽と室町幕府
第 8 回	近世（1）	身分と生業
第 9 回	近世（2）	儀式と芸能
第 10 回	近世（3）	江戸の祝祭
第 11 回	近代（1）	演劇と「国民」の誕生
第 12 回	近代（2）	儀式と音楽教育
第 13 回	近代（3）	音楽と郷土教育
第 14 回	試験・まとめと解説	授業のまとめ/授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・各回の該当する時代の概要について参考書等を読んで予習する。
・授業のプリントを見直し、参考書・関連文献等やフィールドワーク（現地見学・博物館見学等）によって得られた知見を補足する。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定せず、授業計画に基づいたレジュメを配布する。

【参考書】
○『岩波ジュニア新書　日本の歴史』全 9 巻、岩波書店、1999～2000 年、￥780 ＋税。
○尾藤正英『日本文化の歴史』（岩波新書）岩波書店、2000 年、￥700 ＋税
○網野善彦『「日本」とは何か』（日本の歴史 00）講談社、2000 年、￥2,200 ＋税
○佐藤信ほか編『詳説日本史研究（改訂版）』山川出版社、2017 年、￥2,500 ＋税。
その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）、試験（60 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
各回の目的を明瞭に示す。

【その他の重要事項】
著しい遅刻は欠席とみなす。
質問は授業の前後に教室で受け付ける。

【Outline and objectives】
In this class, we will focus on the performing arts and learn about Japanese history. By doing so, we aim to understand Japanese history that is not biased toward politics and economy.

HIS100BE

日本史序説Ⅱ

齋藤　智志

授業コード：A3213　｜　曜日・時限：**月曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、原始から現代までの日本の歴史を概括的に学びます。その際、文書や絵画などの史料、さまざまな文化遺産を取り上げて時代像をつかむとともに、各時代に対する社会的イメージがどのように形成・利用されてきたかという問題も考察します。これを通じて、日本の歴史に関する基本的な知識と多角的な見方を身につけることを目的とします。

【到達目標】
日本の歴史の各時代の特徴と変遷を概括的に理解する。
史料をもとに歴史を考察する上での基本的な考え方や、歴史を多角的に捉える視点を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の授業（第 2 回～第 12 回）は前半・後半に分けます。前半は時代の概観をおこない、後半はテーマを定めてそれぞれの時代の多角的な捉え方について学びます。
プリントとスライドを用いた講義を中心とし、適宜授業内で提示する課題（史料読解など）に取り組みます。
毎回、リアクションペーパーに感想や意見、質問などを記入してもらい、次の授業や学習支援システムで共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと概論	・授業方針について ・歴史と史料／歴史を学ぶ意味
第 2 回	文化の黎明と国家形成	・日本列島における文化の黎明 ・日本の黎明の描かれ方
第 3 回	古代の国家と社会	・律令国家の成立と変容 ・遺跡の復元を考える
第 4 回	中世社会の成立	・院政から武家政権へ ・絵巻物から見る中世社会
第 5 回	中世社会の諸相	・室町・戦国時代の動乱 ・戦乱の時代の英雄像と庶民像
第 6 回	幕藩体制の成立	・江戸幕府の成立と国内外の秩序形成 ・江戸ブームの歴史と現在
第 7 回	幕藩体制の動揺	・社会の変動と幕政改革 ・村の生活と社会変動：『見聞集録』を読む
第 8 回	近代国家の形成	・明治維新と立憲国家の成立 ・「明治」イメージの諸相
第 9 回	近代国家の展開	・デモクラシーと帝国主義 ・帝国を見せる：第五回内国勧業博覧会
第 10 回	近代の社会と文化	・明治・大正期の文化変容と工業化 ・伝統文化の発見：文化財保護前史
第 11 回	第二次世界大戦と日本	・軍部の台頭と総力戦 ・戦時下の雑誌を読む
第 12 回	戦後日本の歩み	・戦後改革と高度経済成長 ・戦後の戦争観
第 13 回	歴史叙述の歴史と現在	・日本の歴史はどのように描かれてきたか ・現代社会のなかの歴史
第 14 回	授業内試験	・授業全体のまとめ ・授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で用いるレジュメ等の資料は、原則として前の回の授業で配布するので、事前に内容を確認してわからない単語等を調べ、参考書の関連箇所を読んで予習する。
授業終了後はレジュメを読み返して復習し、内容の理解を深める。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しません。配布するレジュメ等を用いて授業を行います。

【参考書】
佐々木潤之介・佐藤信・中島三千男・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜編『概論 日本歴史』吉川弘文館、2000 年

藤井譲司・伊藤之雄編著『日本の歴史　近世・近現代編』ミネルヴァ書房、2010 年
『大学の日本史：教養から考える日本史へ』（全４巻）山川出版社、2016 年
佐藤信・五味文彦・高埜利彦・鳥海靖編『詳説日本史研究』山川出版社、2017 年

【成績評価の方法と基準】
平常点 40 %、期末レポート 30 %、期末試験 30 %で評価します。
※期末レポートの提出、期末試験の受験は、いずれも必須とします。

【学生の意見等からの気づき】
より双方向的な授業となるよう工夫します。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用できる機器・環境を用意してください。

【その他の重要事項】
毎回の授業前後の時間に質問を受け付けます。
また、授業期間中、学習支援システムの掲示板およびメールで常時質問を受け付けています。

【Outline and objectives】
This course deals with a summary of Japanese history from the primitive period to the contemporary period. In doing so, we will take up historical materials (documents, paintings, etc.) and cultural heritage to understand the image of each period. In addition, we also consider how each period has been drawn. The aim of this course is to help students acquire basic knowledge and ideas on Japanese history.

HIS100BE

東洋史序説

宇都宮　美生

授業コード：A3214　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
春学期・2 単位
他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
四方を海に囲まれた日本は、古くより東アジアを中心に諸外国・諸地域と関係を有してきた。グローバル化がさけばれ、国際関係が問題となる現代において、日本が対外関係をいかに構築してきたか、中国・日本・朝鮮の対外関係を中心に、アジアと欧米の関係史についても理解を深めていく。

【到達目標】
中国の影響を受けた日本が諸外国とどのように交流していったか、日本・中国の歴史および諸外国の歴史を考えながら理解する。原因・経過・結果・影響が自分の言葉でまとめられるようにする。今後の日本がどのように外交を進め、諸外国と交流すべきかを考えられるようにする。地図や年表の作成ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
日本の対外関係について時代ごとに学習する。日本の社会の発展に外国との交流がいかに関わっているか、諸外国の歴史とともに具体的にみていく。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	古代の外交１	倭国の対外関係１
第 2 回	古代の外交２	倭国の対外関係２
第 3 回	古代の外交３	遣隋使
第 4 回	古代の外交４	遣唐使１
第 5 回	古代の外交５	遣唐使２
第 6 回	古代の外交６	遣唐使３
第 7 回	中世の外交１	日宋貿易
第 8 回	中世の外交２	日元貿易と元寇
第 9 回	近世の貿易	日明貿易
第 10 回	近世の貿易１	日清貿易１
第 11 回	近世の貿易２	日清貿易２
第 12 回	近世の貿易３	日清貿易３
第 13 回	近代の外交	日欧外交
第 14 回	中朝関係史	中国と朝鮮の対外関係史

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業が終わった後、復習をかねて年表や地図を作成する。関心のある時代に関しては図書館の文献等で調べて、知識を深める。また、諸外国からみた日本との交流についても各自調べて、双方向からの学習をする。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
指定の教科書はないが、随時プリントを配布し、参考文献を紹介する。

【参考書】
森克己・沼田次郎編『対外関係史』山川出版社、1978 年
鈴木靖民編『日本古代交流史入門』勉誠出版、2017 年、3800 円+税
村井章介『中世日本の内と外』筑摩書房、2013 年、1200 円+税
中田易直編『近世対外関係史論』有信堂高文社、1979 年、2500 円＋税
簑原俊洋,・奈良岡聰智編著『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』ミネルヴァ書房、2016 年、3000 円+税

田中健夫編『日本前近代の国家と対外関係』吉川弘文館、1987 年、13000 円＋税
＊このほか、日本の対外関係史に関する文献は多数あるので、図書館等で利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】
出席 30 %、オンライン授業の場合はレポート、または対面（教室）授業の場合は試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】
わかりやすい授業を心がける。
身近な物事に関心を持ち、その歴史や変遷の経緯について考える姿勢を持ってほしい。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
ビデオ・カメラ撮影を禁じる。

【事務への連絡事項】
パワーポイントを使用するため、プロジェクター等機器設備のある教室を希望します。
パソコンの貸し出しも希望します。

【Outline and objectives】
This course introduces an understanding of Japanese, Chinese and Korean histories in respect to international relations with other Asian and Western countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

HIS100BE

西洋史序説

志内　一興

授業コード：A3215　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地中海・ヨーロッパ世界の歴史を、古代世界から近代まで概説的に取り扱っていきます。大学に入学し、様々な授業を履修して学習を進める際の下敷きとなるような、ヨーロッパ史に関する基礎的知識の習得を目指します。

高校までの「世界史」の授業において、ヨーロッパ史の理解が不十分であったり、あるいは今ひとつ興味が持てないと感じていた学生をおもな対象としながら授業を展開します。歴史の基本的な部分をふまえてもらったうえで、さらに深い内容へと踏み込んでいきます。そしてそれはどんな意味を持つのか、それをどう理解すればよいか、他の歴史事象とどう関わっているか、さらには「いま」とどう関連しているかを問いかけながら、教室で受講生の皆さんと一緒に考えていきたいと思います。
受講生がこの授業をつうじて興味・関心の幅をひろげ、大学で色々な勉強を主体的に進めていけるようになることを希望しています。

【到達目標】
歴史の事象に関する知識を単なる断片的な知識（年号や人名の羅列）とすることなく、それぞれの相互のつながりや意味を、受講生がしっかり理解できるようになることを目標とします。そのために授業では、俯瞰的な視野からの説明を加え、地中海・ヨーロッパ世界の歴史を受講生各位が体系的に理解できるようになることを目指します。
また、歴史学で使われる様々な基本的概念や用語、研究の潮流などについても、授業の流れの中で随時説明を加えることで、受講生が今後、歴史学の議論に参加できるようになる手助けをするつもりです。
最終的には、過去のヨーロッパの歴史についての知識を「いま」のヨーロッパとつなげる大局的な視野が、受講生のそれぞれに備わることを目標とします。今後、受講生各自が社会に出て、さらには世界で活躍する時に、その大局的な視野を役立ててくれることを期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
各回ごとに時代とテーマを設定して講義を進めていきます。また随時、それまで扱ってきた、あるいはこれから扱う時代の流れを大づかみで提示する回を設定し、扱われた内容が相互に有機的に結びつくように、講義を展開する予定です。
毎回、出席確認を兼ねたリアクションペーパー等の提出を求めますので、質問やみずからの考えを記してください。随時授業内小レポートを課すこともあります。提出には Hoppii を活用する予定です。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを紹介し、さらなる議論に活かします。それに応じ、授業内容が前後したり、変更されたりすることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	テーマ設定：「いま」のヨーロッパ世界
第 2 回	文字の歴史を通じた、各地の文化交流	オリエント文明から、地中海文明へ
第 3 回	ギリシア人の世界	「民主政」の概念と「オリエンタリズム」
第 4 回	ローマ国家の興隆	ローマ興隆の原因論と、その近代世界への影響：「三権分立」の歴史的背景を知る
第 5 回	ローマの平和と、古代地中海文化圏の形成	ローマの「平和」の実相：付　歴史的事実の解釈について
第 6 回	古代から中世へ	ヨーロッパ史の時代区分と、「ピレンヌ・テーゼ」「アナール学派」
第 7 回	ビザンツ文明圏の成立	「ギリシア正教」を核とするもう一つのヨーロッパを知る
第 8 回	「ヨーロッパ」の誕生	「カールの戴冠」の歴史的意義と、「ヨーロッパ」という概念を理解する
第 9 回	フランス・ドイツ国家の誕生と発展	中世盛期のヨーロッパ世界を理解する
第 10 回	文明の衝突？ ：中世シチリア王国と「１２世紀ルネサンス」	文明の共存の可能性を歴史のなかに見る

第 11 回	オスマン帝国とヨーロッパ	ヨーロッパとは何か、を外からの視線で理解する
第 12 回	ロシア世界の展開	ヨーロッパとロシアの関係を考える
第 13 回	16 世紀：ハプスブルクの時代	中世から、近世・近代への転換
第 14 回	授業の総括	授業内容を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高等学校で使用した世界史教科書を用意し、あるいは世界史の参考書を手元に置き、授業前、および授業後に関係箇所を読むことで、記述内容に関する意味理解の深化に努めて下さい。
また効果的に授業を受講するため、理解できなかった内容に関し、積極的に質問する、あるいは毎回紹介する参考文献を自ら手に取るなど、主体的に授業に参加してくれることを希望します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しません。

【参考書】
参考文献は、授業のなかで随時指示します。

【成績評価の方法と基準】
評価は、リアクションペーパーの内容や授業内小レポートの評価（40 %）、および学期末の筆記試験ないしレポート（60 %）によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
高校での世界史学習が不十分な学生に、十分配慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】
授業内容についての質問、あるいは履修・出席について等の相談がある場合は、shiuchi@rku.ac.jp までメールをください。

【Outline and objectives】
This course introduces students to the general historical outline of the Mediterranean and European worlds from the classical times through the modern era.The goal of this course is to get basic knowledges about the history of European world. I hope the students of this class will use these knowledges to widen their own interests and to challenge themselves to various subjects and specialties.

HIS200BE

美術史（日本）A／美術史（日本）A（資格）

稲本　万里子

授業コード：A3176,A3857　｜　曜日・時限：**水曜 5 限**
春学期・2 単位
備考（履修条件等）：**文学部以外の学生は資格科目として履修する（A3857）**
他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、平安時代後期に制作された絵巻を取りあげ、基礎知識を説明するとともに、どのような技法と表現法が使われているのか解説し、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。
この授業の目的は、視覚表象（ヴィジュアル・イメージ）をさまざまな角度から分析する手法を知るために、絵巻を鑑賞し、技法と表現法を理解し、美術史研究の現況を把握することである。

【到達目標】
授業で取りあげた絵巻の基礎知識を修得し、技法と表現法について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこなう。はじめに、美術史と絵巻についての概説をおこなう。次に、平安時代後期に制作された「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」「伴大納言絵巻」を取りあげ、基本的な事柄を説明する。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。そのうえで、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。その際、ジェンダーやクラスの視点から注文主の権力や幻想、欲望を読み解く新しい美術史学（ニュー・アート・ヒストリー）の方法を紹介する。授業で紹介する手法を用いて、現代の我々を取り巻く視覚表象の問題についても考えてもらいたい。質問はコメントペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。筆記試験の結果と優秀レポートは、成績提出後に講評をおこなう。
また、現在私たちが作品を鑑賞する場のひとつになっている“展覧会”というイベントについて考えるために、授業期間中に開催されている日本美術の展覧会を紹介し、美術館・博物館が現在抱えている問題点を指摘するので、展覧会場に足を運んでもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、美術史概説	授業内容の説明、美術史の研究方法・ジャンル・時代区分
第 2 回	絵巻概説	絵巻の形態、鑑賞法
第 3 回	「源氏物語絵巻」Ⅰ	「源氏物語絵巻」概説
第 4 回	展覧会の見方	独立行政法人化と指定管理者制度の問題
第 5 回	「源氏物語絵巻」Ⅱ	「源氏物語絵巻」柏木第一段～御法段
第 6 回	「源氏物語絵巻」Ⅲ	「源氏物語絵巻」の情景選択法、竹河第一段～東屋第二段
第 7 回	「源氏物語絵巻」Ⅳ	「源氏物語絵巻」蓬生段・関屋段、諸問題の検討
第 8 回	「信貴山縁起絵巻」Ⅰ	「信貴山縁起絵巻」概説
第 9 回	「信貴山縁起絵巻」Ⅱ	「信貴山縁起絵巻」飛倉巻、延喜加持巻、尼公巻

第 10 回 「信貴山縁起絵巻」Ⅲ 「信貴山縁起絵巻」諸問題の検討、レポートの書き方
第 11 回 「伴大納言絵巻」Ⅰ 「伴大納言絵巻」概説
第 12 回 「伴大納言絵巻」Ⅱ 「伴大納言絵巻」上巻～下巻、諸問題の検討
第 13 回 授業のまとめⅠ 筆記試験の説明
第 14 回 授業のまとめⅡ 各作品の相違点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。授業後、作品と作品名が一致するように、各自で参考図版を見ておくこと。ただし「源氏物語絵巻」については、『源氏物語』の内容を講義する時間がないので、あらかじめ物語のあらすじを把握しておくことが望ましい。参考書に記した『すぐわかる源氏物語の絵画』が便利。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

【参考書】
入門書として、田口榮一監修、稲本万里子・木村朗子・龍澤彩『すぐわかる源氏物語の絵画』（東京美術、2009）、稲本万里子『源氏の系譜―平安時代から現代まで』（森話社、2018）、佐野みどり『じっくり見たい『源氏物語絵巻』』（小学館、2000）、泉武夫『躍動する絵に舌を巻く 信貴山縁起絵巻』（小学館、2004）、黒田泰三『思いっきり味わいつくす伴大納言絵巻』（小学館、2002）。
各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の筆記試験 80 %、コメントペーパー 20 %。
筆記試験は、基礎知識を習得しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の 1/4 をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】
毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業の場合は、学生が準備すべき機器はない。

【その他の重要事項】
時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。

【Outline and objectives】
This course introduces the basics of narrative scroll study to students taking this course.
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the analysis method of visual image.

HIS200BE

美術史（日本）B／美術史（日本）B（資格）

稲本　万里子

授業コード：A3177,A3858 ｜ 曜日・時限：**水曜 5 限**
秋学期・2 単位
備考（履修条件等）：**文学部以外の学生は資格科目として履修する (A3858)**
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、平安時代後期から鎌倉時代に制作された絵巻を取りあげ、基礎知識を説明するとともに、どのような技法と表現法が使われているのか解説し、制作年代や注文主などの諸問題を検討する。秋学期は、どのような社会がどのような視覚表象（ヴィジュアル・イメージ）を作り出したのかという問題に重点をおいて講義を進める。
この授業の目的は、視覚表象をさまざまな角度から分析する手法を知るために、絵巻を鑑賞し、技法と表現法を理解し、美術史研究の現況を把握することである。

【到達目標】
授業で取りあげた絵巻の基礎知識を修得し、技法と表現法について説明することができる。
どのような社会がどのような視覚表象を作り出したのか説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式でおこなう。はじめに、美術史と絵巻についての概説をおこなう。次に、平安時代後期から鎌倉時代に制作された絵巻を取りあげ、基本的な事柄を説明する。毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写しながら、どのような技法が用いられ、どのような表現がなされているか説明するので、映写時はノートをとることよりも、スライドをじっくり見てもらいたい。そのうえで、制作年代や注文主など、視覚表象と社会をめぐる諸問題を検討する。その際、ジェンダーやクラスの視点から注文主の権力や幻想、欲望を読み解く新しい美術史学（ニュー・アート・ヒストリー）の方法を紹介する。授業で紹介する手法を用いて、現代の我々を取り巻く視覚表象の問題についても考えてもらいたい。質問はコメントペーパーで受けつける。翌週の授業開始時に答え、皆でシェアする。筆記試験の結果と優秀レポートは、成績提出後に講評をおこなう。
また、現在私たちが作品を鑑賞する場のひとつになっている“展覧会”というイベントについて考えるために、授業期間中に開催されている日本美術の展覧会を紹介し、美術館・博物館が現在抱えている問題点を指摘するので、展覧会場に足を運んでもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、美術史概説	授業内容の説明、美術史の研究方法、ジャンル、時代区分
第 2 回	絵巻概説	絵巻の形態、鑑賞法
第 3 回	「鳥獣人物戯画」	「鳥獣人物戯画」の鑑賞と検討
第 4 回	「病草紙」	「病草紙」の鑑賞と検討
第 5 回	似絵	似絵作品の鑑賞と検討
第 6 回	「華厳宗祖師絵伝」	「華厳宗祖師絵伝」の鑑賞と検討
第 7 回	「北野天神縁起絵巻」	「北野天神縁起絵巻」の鑑賞と検討
第 8 回	「平治物語絵巻」	「平治物語絵巻」の鑑賞と検討

第 9 回	「男衾三郎絵巻」	「男衾三郎絵巻」の鑑賞と検討、レポートの書き方
第 10 回	「一遍聖絵」	「一遍聖絵」の鑑賞と検討
第 11 回	「春日権現験記絵巻」	「春日権現験記絵巻」の鑑賞と検討
第 12 回	「伊勢物語絵巻」	「伊勢物語絵巻」の鑑賞と検討
第 13 回	授業のまとめⅠ	筆記試験の説明
第 14 回	授業のまとめⅡ	様式の展開と各作品の相違点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。授業後、作品と作品名が一致するように、各自で参考図版を見ておくこと。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない。毎回スライドとプリントを使って進める。

【参考書】
入門書として、 若杉準治編『絵巻物の鑑賞基礎知識』（至文堂、1995）、榊原悟監修、佐伯英里子・内田啓一『すぐわかる絵巻の見かた』（東京美術、2004）。
各作品についての参考図版、参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
学期末の筆記試験 80 %、コメントペーパー 20 %。
筆記試験は、基礎知識を習得しているか否かを判断する。ただし、筆記試験の点数の 1/4 をレポート点に代えることもできる。レポートの提出は任意。レポートの内容については授業中に説明する。

【学生の意見等からの気づき】
前年度とは授業内容が異なるので、確認のうえ受講すること。教室の設備にかんする苦情は受けつけない。

【学生が準備すべき機器他】
毎回教室備えつけの液晶プロジェクターを使用して、スライドを映写する。対面授業の場合は、学生が準備すべき機器はない。

【その他の重要事項】
時間配分により、実際の授業では順序や内容が変わることがある。

【Outline and objectives】
This course introduces the basics of narrative scroll study to students taking this course.
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the analysis method of visual image.

GEO100BF

地理学概論（1）

前杢　英明

授業コード：A3401　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は「『地理』から『地理学』へ」と移行するための基礎的知識を学ぶことを目的とする。この講義を受講すれば、1. 高校の地歴科地理で学習する地理的知識を再確認でき、2. 高校の教科である「地理」と学問の一分野である「地理学」との違いを理解でき、3. 自然地理学の導入部分を学ぶことができる。科目名を自然地理学概論と読み替えてもよい。

【到達目標】
高校の地歴科「地理」で学習する地理の知識を再確認し、高校の教科としての地理と学問の一分野である地理学の違いを理解する。また、自然地理学を構成する地形、気候、陸水・海洋、植生などの自然環境や自然災害に関する基礎的な知識を身につけ、今後の学年進行に伴う専門教育を受けるための基礎を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で行う。毎週プレゼンファイルを使い、それを解説する形式である。プリントを配布するとともに、予習・復習に必要なプレゼンファイルの圧縮版および解説文を学習支援システムに上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学と自然地理学	地理学と自然地理学について説明する。本学期のシラバスについて確認する。
第 2 回	地球惑星科学と自然地理学	地球惑星科学の一分野としての自然地理学や自然史について説明する。
第 3 回	気候①＜大気大循環と気候要素・因子＞	地球の熱収支、大気大循環、気候要素、気候因子について講義する。
第 4 回	気候②＜世界の気候区分と日本の気候区分＞	ケッペンをはじめとした様々な気候区分、日本の気候の特色や気候区分、局地風や都市気候などについて講義する。
第 5 回	気候③＜最終氷期以降の気候変動＞	最終氷期以降の気候変動、自然環境の変化について講義する。
第 6 回	地形①＜世界と日本の大地形＞	大地形、地帯構造、プレートテクトニクスなどについて講義する。
第 7 回	地形②＜第四紀と氷期＞	第四紀、気候変動と地形、氷河・周氷河地形等について講義する。
第 8 回	地形③＜平野と海岸の地形＞	平野と海岸、台地と扇状地、沖積低地の微地形について講義する。
第 9 回	地形④＜変動地形＞	内作用に起因する変動地形や火山地形について講義する。
第 10 回	水文①＜水循環と流域＞	水循環と水収支、流域の水循環と物質循環、海洋循環について講義する。
第 11 回	水文②＜地下水と湖沼、雪氷と水資源＞	水文学のベースである地下水学の基礎と陸水学の起源である湖沼学の基礎について、また陸水中最も多い雪氷について講義する。
第 12 回	土壌と植生＜植生分布・植生景観・文化＞	土壌の基礎、世界の植生分布、日本の植生分布、生物多様性、生態系、エコトープなどについて講義する。
第 13 回	自然災害と環境問題	自然災害と環境問題、土地条件、開発と保全、自然保護と自然地理学の応用について講義する。
第 14 回	本学期の講義内容の振り返り	本学期の講義内容の振り返りとして確認試験などを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
高校で使用した地図帳があれば、授業理解に役立つ。授業中に配布したプリントを見直したり、プレゼンファイルの圧縮版および解説文を学習支援システムに上げておくので、予習・復習に役立てて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。プリントを配布する。

【参考書】
高橋日出男・小泉武栄（2008）：地理学基礎シリーズ 2「自然地理学概論」、朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】
試験 90%，平常点 10%で総合的に評価する。平常点は出席状況や積極的な質問等で判断する。開講回数の 2/3 以上出席していないと評価しない。初回からカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
初回授業で、本科目の主旨と講義の概要を説明するので、必ず出席すること。また、毎年の本講義の授業評価結果を踏まえて講義の改善に努める。

【学生が準備すべき機器他】
毎回、Power Point、および理解に有効な映像を適宜、用いて受講生の理解の一助に努めながら講義を構成する。資料は、学習支援システムでダウンロードした上で、予習・復習をする必要がある。

【その他の重要事項】
地理学科の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然地理学、（変動）地形学、第四紀学
＜研究テーマ＞
プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究
＜主要研究業績＞
前杢英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究．地理科学，vol.60-3，pp.136-142．
Maemoku, H. et.al.（1997）： Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.
Maemoku, H. et.al. (2012)Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97 – 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline and objectives】
The theme of this lecture is to confirm the foundation for shifting from "chiri" to "geography". The goal of this lecture is: 1. Reaffirming or reviewing geographical knowledge learned through the high school subject, 2.Understanding the differences Geography as a high school subject from Geography as a scientific doscipline, 3. And learning the introductory part of Physical geography.

GEO100BF

地理学概論（2）

中俣　均

授業コード：A3402　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理学、とくに人文地理学と称される問題群＝学問分野の全体像を把握すること。というのはあくまでカリキュラム上の本科目の建て前的趣旨である。さしあたっては、受講者が今後学んでゆくことになる地理学の、どういった方面にとくに興味や関心を抱くかを自覚した際に、そのことがこの学問全体の中でどう位置づけられるのかを認識する、そのための参照系（の一例）を提示することが目的である。

【到達目標】
上記の目的のような意味で、この授業は「概論」というよりはむしろ、地理学「原論」に近い性格を帯びることになる。だとすると、到達目標は容易に列挙できるような類いのものにはならない。これもさしあたりだが、例えば 4 年間の学生生活の総体としての卒業論文制作にあたって、適切なテーマを設定しそれに真摯に取り組んで成果をあげること（つまり合格すること）。あるいは、自分が学んだ地理学というものを、他者に簡潔かつ要領を得たことばで説明できるようになること。それが到達目標の一つの表現のしかたということであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地理学的発想について	・生活の身近にみられる地理学的発想について
第 2 回	地域差の存在と認識	・世界の多様さ ・他者認識から自己相対化へ
第 3 回	地域差の表現法としての主題図	・地理学的「言語」といわれる地図表現について
第 4 回	地域差存在の理由の説明と解釈　その 1	・主題図の作成法とその読み方
第 5 回	地域差存在の理由の説明と解釈　その 2	・主題図読解の具体的実例
第 6 回	地域の概念と地域区分　その 1	・地域概念の操作性 ・地域区分と地域分類という思想
第 7 回	地域の概念と地域区分　その 2	・地域区分の実例とそれらの意味
第 8 回	地域と空間	・人文地理学の対象としての地域 ・地域（空間）とそのスケールについて
第 9 回	現代の地理空間	・都市地域と村落地域 ・社会地域と産業地域（農業地域・鉱工業地域・商業地域） ・空間的分業
第 10 回	地理学の二元性	・系統地理と地誌（地域地理） ・自然地理学と人文地理学
第 11 回	人文地理学の構成	・具体的な人文地理学的研究の事例
第 12 回	地域研究と地域地理学	・地誌（地域地理学）の有用性について
第 13 回	地理学の応用	・国民国家と人文地理学 ・国土空間と地域開発 ・政策科学としての人文地理学
第 14 回	試験・まとめと解説	総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回ごとに紹介する文献を読んで、講義内容をより深く正確に身につけること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。毎回、教材プリントを配布する。

【参考書】
毎回の授業時に必要なものを指示する。それをよく読んで、次回の授業に備えること。

【成績評価の方法と基準】
期末試験の結果 (70 %) と平常点（30 %）を成績判定の材料とする

【学生の意見等からの気づき】
毎回、教室に「存在している」のは、単位取得のための当然の前提としても、そのことだけでは合格は至難であろう。次の段階は、教室に「存在して講義を聴く」ことだが、教員の語りを「耳に入れる」だけでも十分とは言えまい。すなわち、「聴いてその場で考える（できれば批判的・懐疑的に）」というステップまで到達することが必須である。そのためには、毎回体調を整え適度な緊張感をもって受講する必要がある。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】
This course deals with the fundamental thinking about what Human Geography Is, especially on thematic maps.

GEO100BF

地理実習（1）

小原　丈明

授業コード：A3403　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
秋学期・2 単位
備考（履修条件等）：**1 年生クラス分けあり：学生証番号末尾の数字が偶数の学生。2〜4 年はクラス分けなし。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，地理学科において地理学を 4 年間学んでいくために必要な知識・技能を修得するための授業です。具体的には，人文地理学の研究を行う上で必要となる調査方法や分析方法について，資料・データの収集や図表の作成といった作業を通じて学んでいきます。

【到達目標】
本授業を通じて，人文地理学という学問の性質を理解できるようになり，また，人文地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まずは，人文地理学の研究を行う上で必要となる基礎的な知識や方法を学びます。そして，さまざまな作業を通じて，それら知識や方法を修得できるようにします。したがって，授業の半分は講義形式で行い，残り半分は実習形式（作業）で行います。
課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。
なお，今年度，本授業は基本的に対面形式で授業を行うが，場合によってはオンライン形式となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	人文地理学における研究の基礎	研究とは何か？ 調査とは何か？ 分析とは何か？
第 2 回	調査・論文作成の基礎的作業①	文献の種類・探し方
第 3 回	調査・論文作成の基礎的作業②	論文を読む（読書ノートの作成）
第 4 回	データ・資料・地図の種類	統計データ，地図，各種資料について
第 5 回	データの加工・図表の作成①	表の作成
第 6 回	データの加工・図表の作成②	グラフの作成
第 7 回	データの加工・図表の作成③	地図表現を考える
第 8 回	データの加工・図表の作成④	主題図の作成①：点表現の定量図
第 9 回	データの加工・図表の作成⑤	主題図の作成②：面表現の定性図
第 10 回	データの加工・図表の作成⑥	主題図の作成③：点表現の定量図と面表現の定性図
第 11 回	フィールドワークの手法①	フィールドワークの意味，準備作業
第 12 回	フィールドワークの手法②	アンケート調査
第 13 回	フィールドワークの手法③	ヒアリング調査
第 14 回	講評・総括	全体の講評，人文地理学における研究方法についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の性格上，授業外の時間に取り組んでもらう課題が出されますので，それらにしっかりと取り組んでください。また，本授業で学ぶ資料や図表については，日常生活でも目にする機会が多々ありますので，日頃から意識するようにしてください。本授業における授業外課題の時間（準備・復習時間）はおおよそ 2 時間程度となります。

【テキスト（教科書）】
●野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原丈明編著（2017）：『ジオ・パル NEO ―地理学・地域調査便利帖―（第 2 版）』海青社，2,500 円（税抜）.
●その他に，担当者でレジュメ・配布プリントを用意します。

【参考書】
参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席，受講態度など）：30 %，各種課題：70 %で評価します。平常点については，出席することは当然として，積極的に取り組む姿勢を重視します。また，課題については，提出状況や正確性，丁寧さなどを重視します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生による作業進度の違いに対応できるよう留意します。

【Outline and objectives】
This course introduces various fundamental knowledge, skills and way of thinking which were needed in learning geography to students taking this course. So the goal of this course are to obtain fundamental knowledge of geography, to obtain methods and skills of geographical research, and to acquire ways of geographical thinking.

GEO100BF

地理実習（1）

小原　丈明

授業コード：A3404　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
春学期・2 単位
備考（履修条件等）：**1 年生クラス分けあり：学生証番号末尾の数字が奇数の学生。2〜4 年はクラス分けなし。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は，地理学科において地理学を 4 年間学んでいくために必要な知識・技能を修得するための授業です。具体的には，人文地理学の研究を行う上で必要となる調査方法や分析方法について，資料・データの収集や図表の作成といった作業を通じて学んでいきます。

【到達目標】
本授業を通じて，人文地理学という学問の性質を理解できるようになり，また，人文地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まずは，人文地理学の研究を行う上で必要となる基礎的な知識や方法を学びます。そして，さまざまな作業を通じて，それら知識や方法を修得できるようにします。したがって，授業の半分は講義形式で行い，残り半分は実習形式（作業）で行います。
課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。
なお，今年度，本授業は基本的に対面形式で授業を行うが，場合によってはオンライン形式となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	人文地理学における研究の基礎	研究とは何か？ 調査とは何か？ 分析とは何か？
第 2 回	調査・論文作成の基礎的作業①	文献の種類・探し方
第 3 回	調査・論文作成の基礎的作業②	論文を読む（読書ノートの作成）
第 4 回	データ・資料・地図の種類	統計データ，地図，各種資料について
第 5 回	データの加工・図表の作成①	表の作成
第 6 回	データの加工・図表の作成②	グラフの作成
第 7 回	データの加工・図表の作成③	地図表現を考える
第 8 回	データの加工・図表の作成④	主題図の作成①：点表現の定量図
第 9 回	データの加工・図表の作成⑤	主題図の作成②：面表現の定性図
第 10 回	データの加工・図表の作成⑥	主題図の作成③：点表現の定量図と面表現の定性図
第 11 回	フィールドワークの手法①	フィールドワークの意味，準備作業
第 12 回	フィールドワークの手法②	アンケート調査
第 13 回	フィールドワークの手法③	ヒアリング調査
第 14 回	講評・総括	全体の講評，人文地理学における研究方法についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の性格上，授業外の時間に取り組んでもらう課題が出されますので，それらにしっかりと取り組んでください。また，本授業で学ぶ資料や図表については，日常生活でも目にする機会が多々ありますので，日頃から意識するようにしてください。本授業における授業外課題の時間（準備・復習時間）はおおよそ 2 時間程度となります。

【テキスト（教科書）】
●野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原丈明編著（2017）：『ジオ・パル NEO ―地理学・地域調査便利帖―（第 2 版）』海青社，2,500 円（税抜）.
●その他に，担当者でレジュメ・配布プリントを用意します。

【参考書】
参考文献は授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（出席，受講態度など）：30 %，各種課題：70 %で評価します。平常点については，出席することは当然として，積極的に取り組む姿勢を重視します。また，課題については，提出状況や正確性，丁寧さなどを重視します。

【学生の意見等からの気づき】
受講生による作業進度の違いに対応できるよう留意します。

【Outline and objectives】
This course introduces various fundamental knowledge, skills and way of thinking which were needed in learning geography to students taking this course. So the goal of this course are to obtain fundamental knowledge of geography, to obtain methods and skills of geographical research, and to acquire ways of geographical thinking.

GEO100BF

地理実習（2）

羽佐田　紘大

授業コード：A3405　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
春学期・2 単位
備考（履修条件等）：**1 年生クラス分けあり：学生証番号末尾の数字がの偶数の学生。2〜4 年はクラス分けなし。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理学の最も基本的な分析ツールである地図について、一般図である地形図の利用方法と自然地理学的な主題図の作成方法を学んでいく。

【到達目標】
地形図の基本を理解して活用できる。目的に応じた主題図を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の授業において、地形図やさまざまな主題図の概要を説明した上で、学生自らが課題に取り組んでいく。距離・面積などの計測や地形断面図の作成などの作業を行ってもらう。次回の授業開始時に前回提出された課題に対する解説を行う。
※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要・計画・評価方法等の説明をする。
第 2 回	地形図の基本	地形図の基本的情報・図式・注記を理解する。
第 3 回	地形図と地形計測	地形計測（距離・面積・高さ）を行う。
第 4 回	地形図と段彩図	段彩図を作成する。
第 5 回	地形図と地形断面図	地形断面図を作成する。
第 6 回	地形図と土地利用図	土地利用を読みとり、地形との関係を考える。
第 7 回	ウェブ地図の利用	さまざまな主題図を確認し、地形図のみから読み取れる情報と比較する。
第 8 回	地性線の描き方	地性線図を作成する。
第 9 回	水系と流域の描き方	水系図・流域図を作成する。
第 10 回	等値線の描き方	等値線図を作成する。
第 11 回	接峰面図の作成（1）	接峰面図（方眼法）を作成する。
第 12 回	接峰面図の作成（2）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回の続き）。
第 13 回	接峰面図の作成（3）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回の続き）。
第 14 回	地表の簡易計測／空中写真の利用	ハンドレベルと歩測で高さと距離を測る基礎を学ぶとともに、空中写真の活用方法についても触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題（90 %）、平常点（10 %）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の受講環境に応じて、柔軟に対応できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
定規や色鉛筆、色ペンがあるとよい。
※対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意する、PDF ファイルをプリントアウトできるか、プリントをスキャンできるかを確認する（自宅にプリンターやスキャナーがなくても、コンビニエンスストアやスーパーマーケットにはそれらに対応したコピー機が設置されている）など、オンライン形式でも受講できる環境を整えておく。

【Outline and objectives】
This course deals with using topographic maps and developing thematic maps on physical geography.

GEO100BF

地理実習（2）

羽佐田　紘大

授業コード：A3406　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
秋学期・2 単位
備考（履修条件等）：**1 年生クラス分けあり：学生証番号末尾の数字が奇数の学生。2〜4 年はクラス分けなし。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理学の最も基本的な分析ツールである地図について、一般図である地形図の利用方法と自然地理学的な主題図の作成方法を学んでいく。

【到達目標】
地形図の基本を理解して活用できる。目的に応じた主題図を作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回の授業において、地形図やさまざまな主題図の概要を説明した上で、学生自らが課題に取り組んでいく。距離・面積などの計測や地形断面図の作成などの作業を行ってもらう。次回の授業開始時に前回提出された課題に対する解説を行う。
※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要・計画・評価方法等の説明をする。
第 2 回	地形図の基本	地形図の基本的情報・図式・注記を理解する。
第 3 回	地形図と地形計測	地形計測（距離・面積・高さ）を行う。
第 4 回	地形図と段彩図	段彩図を作成する。
第 5 回	地形図と地形断面図	地形断面図を作成する。
第 6 回	地形図と土地利用図	土地利用を読みとり、地形との関係を考える。
第 7 回	ウェブ地図の利用	さまざまな主題図を確認し、地形図のみから読み取れる情報と比較する。
第 8 回	地性線の描き方	地性線図を作成する。
第 9 回	水系と流域の描き方	水系図・流域図を作成する。
第 10 回	等値線の描き方	等値線図を作成する。
第 11 回	接峰面図の作成（1）	接峰面図（方眼法）を作成する。
第 12 回	接峰面図の作成（2）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回の続き）。
第 13 回	接峰面図の作成（3）	接峰面図（方眼法）を作成する（前回の続き）。
第 14 回	地表の簡易計測／空中写真の利用	ハンドレベルと歩測で高さと距離を測る基礎を学ぶとともに、空中写真の活用方法についても触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題（90 %）、平常点（10 %）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】
学生の受講環境に応じて、柔軟に対応できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
定規や色鉛筆、色ペンがあるとよい。
※対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意する、PDF ファイルをプリントアウトできるか、プリントをスキャンできるかを確認する（自宅にプリンターやスキャナーがなくても、コンビニエンスストアやスーパーマーケットにはそれらに対応したコピー機が設置されている）など、オンライン形式でも受講できる環境を整えておく。

【Outline and objectives】
This course deals with using topographic maps and developing thematic maps on physical geography.

GEO200BF

現地研究

地理学科教員

授業コード：A3407　｜　曜日・時限：**集中・その他**
年間・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「現地研究」は、他の学科にはない地理学科特有の科目です。いわゆる「野外調査 (フィールドワーク) 実習」を、法政大学の地理学科ではこう呼んでいます。地理学は、「地域」と密接に関係した学問です。地理学の研究に当たっては、ふだん教室で学んだことがらを、直接、「地域」の現地（＝現場）におもむいて確認・検証することが必要です。また現地で種々の手法を用いてデータを収集することも大切ですし、そうした過程で現地ならではの新しい発見も得られることになります。さらに、4 年生になると、必修科目としての卒業論文の作成が課されますが、卒業論文の執筆に際しては、一般に現地調査を必要とする場合が多くあります。そのための調査技術の訓練をおこない、各自が主体的に現地調査ができるようになることが、この科目の目標です。

【到達目標】
教室で学んだことがらを「地域」の現地（＝現場）で確認・検証し、さらにはデータを収集する方法を併せて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各専任教員が、それぞれ年 1〜2 回、いろいろな地域において「現地研究」を実施します。テーマとしては、自然地理学的な「現地研究」では地形調査、土壌調査、植生調査、気候調査、水文調査等が、人文地理学的な「現地研究」では農牧業、水産業、あるいは工業、交通などの経済活動、村落、都市などの社会生活、地域文化などについての調査が主となります。それらのテーマにしたがって、観察・観測・測定、聞き取り調査や質問票調査などが実施されます。したがって、休日以外に実施されることが多くあります（欠席せざるをえなかった授業の担当教員宛に、地理学科では、「現地研究参加証明書」を発行していますが、その取り扱いは各担当教員に任されています）。

各「現地研究」の実施案内と参加者募集の要領は、その都度掲示を通じて学生諸君にはお知らせしますので、掲示板確認を怠らないようにした上で、掲示の指示通りに参加手続きをとってください。卒業論文作成に生かすためにも、なるべく早い学年のうちに、「現地研究」を履修することを勧めます。現地研究は必修科目です。従って単位不足で卒業できないという事態にならないようにして下さい。

各「現地研究」の前には、事前に「説明会」が必ず実施されます。「説明会」では、参加希望者と教員相互で、フィールドワークの企画を行います。それは、準備し、仮説を立て、詳細な地域設定、調査の実施、まとめに至るという過程を確認、実行するためのものです。フィールドワークの実施のためには、事前に文献、地図・地形図、史資料の収集整理が必要ですが、それについては教員が概略を説明し、参加者は企画に基づいてさらに詳細な文献・地図・史資料を収集整理していきます。参加者はそれらを読みこなした上で、調査項目の検討を行います。得たそれら資料を予め地図化しておくことも必要です。実施日程やおおよその実施地域は教員が決定する場合が多いですが、それから先の詳細は参加者が主体的に企画に参加、実行していくことになります。したがって参加者募集は現地研究実施の数ヶ月前に行い、参加者が主体的に企画それ自体から積極的に参加できるように、「説明会」も複数回実施される場合が出てきます。説明会に出席しなければ、「現地研究」への参加は当然、認められません。

それらの上に「現地研究」本番、つまりフィールドワークの実施に臨むことになります。具体的には、それぞれの企画に従って観察・測定・面接等を行います。しかし、いくら参加者の主体性が重視されるとはいっても、機器を使った測定、観測等においては、教員が適切な機器使用方法を一から指導していかなければならないこともあり得ます。

「現地研究」終了後には、フィールドワークのまとめとして、指示に従ってレポートを作成、提出します。そのためには事前に収集整理した文献・地図・史資料等を使って、その上にフィールドワークで得た結果を図表化・分析・仮説検証することが必要になります。当然、報告会などに出席する必要があります。これらをすべてクリアして初めて、単位の認定が受けられることになります。この報告会などで、フィードバックが行われる予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	参加者の募集	募集通知は掲示を通じて行なう。これを見て、各自が参加を申し込む。宿泊施設や交通手段の関係などから定員が設けられるのが通常であるから、確実に参加するためには日ごろから掲示板によく注意していることが大切である。

第 2 回	事前説明会	各「現地研究」のおおまかな内容、実施時期、注意点などについて説明し、同時に「現地研究」実施のための企画を行う。これに欠席すると、当該「現地研究」への参加は認められない。
第 3 回	現地研究本番	集合（現地集合となることが多い）から解散まで、各教員の指導のもとに観測・観察、計測、聞き取り調査などを行ない、それらの結果を現地でとりまとめて議論する。
第 4 回	レポート作成・報告会	帰学後、現地研究の成果についてのレポートを作成し提出する。その上で報告会も実施する。 以上のような過程をすべて経たうえで、単位認定がなされることになる。

秋学期

回	テーマ	内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
上記の授業の概要と方法を参照して下さい。通常の授業では予習、復習時間、各 2 時間を標準としますが、この現地研究においては、上記のように準備、本番、リポート作成・報告会等をそれぞれ行っていきますので、通常授業の予習復習各 2 時間ではなく、各現地研究ごとに、各段階でその数倍の時間を費やすことが求められます。

【テキスト（教科書）】
各「現地研究」ごとに指示します。

【参考書】
各「現地研究」ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】
参加申し込み、説明会への参加、「現地研究」本番への参加、事後のレポート提出および報告会等への参加が、それぞれの現地研究の単位認定の必須条件であり、それらを総合して成績評価します。また、「現地研究」の単位は、4 年次にまとめて認定されます。履修登録は 4 年次に必ず行って下さい。2～4 年次の間に合計 2 回以上、履修して、総合した成績が合格基準に達していることを条件として、必修 2 単位が認定されます。各自の認定された参加回数は 1 年に 2 回、地理学科掲示板に掲示されますので、各自必ず確認して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
各現地研究ごとに指示します。

【その他の重要事項】
現地研究は、2 年生以上が参加可能です。各現地研究ごとに参加条件等が異なる場合もありますので、掲示に注意して下さい。参加申し込みは、BT12 階の地理学科事務室で各学期、受け付けます。参加申し込みは、必ず本人が行って下さい。現地研究への参加は、各学期、1 回を原則とします。申込時に「参加予約金」を徴収する場合があります。なお、参加費用は全て自己負担です。

【Outline and objectives】
The aim of this course(field work, excursion) is to enable each student to conduct field survey independently by training in survey technics.

GEO200BF

地誌学概論（1）

小寺　浩二

授業コード：A3408　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地誌学に関する基礎知識の習得と具体的な「自然誌」作成能力の育成

【到達目標】
「地理学」において、「系統地理学」と並んで重要な分野である「地誌学」の歴史や方法論などについての基礎知識を習得する。あわせて、具体的な地域を取り上げた「自然誌」を作成し、「地誌」作成の基礎能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業全体を通して、「地理学」および「地理学的概念」、「地理学的研究手法」において重要な役割を果たす「地誌学」の歴史、理論、手法などについての基礎知識が習得できるように構成している。
また、授業の流れに沿って指示される 2 つの「自然誌」作成と、その講評・課題提示によって、基本的な「自然誌」作成能力の育成を目指す。
さらに、データ処理や結果の図化、主題図の作成方法などについても講義し、レポート執筆能力の向上、論文作成技術の基礎を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義内容概略	授業計画と課題説明
第 2 回	地理学と地誌学	地理学の中での地誌学の位置づけ
第 3 回	地誌学の歴史	地誌学の発展の歴史と主要文献紹介
第 4 回	地誌学の学派・方法論	フランス・ドイツ・アメリカなどの学派と地誌の方法論
第 5 回	広域地誌	広域地誌の定義と事例
第 6 回	国家地誌	国家地誌の定義と事例
第 7 回	総合的地誌	総合的地誌の定義と事例
第 8 回	動態地誌	動態地誌の定義と事例
第 9 回	景観論	景観論とそれに基づいた地誌
第 10 回	行政界と自然界	地誌における地域界について
第 11 回	自然誌	総合自然誌と主題自然誌
第 12 回	自分誌	自分誌の定義と事例
第 13 回	歩く自然誌	実際の経験によって組み立てる地誌
第 14 回	画像・映像による地誌	様々な画像や映像を用いた地誌

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
新聞記事をもとに、様々な地域の地誌をまとめる。
自分の成長と共に変化した空間認識の違いについて「自分誌」としてまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景の中の自然地理「改訂版」』, 古今書院
・配布プリント資料

【参考書】
・長谷川典夫 (1994) ：『地誌学研究－地誌学作成法とその実例』, 大明堂
・山本正三・田中真吾・太田 勇（1973）：『世界の自然環境』, 大明堂
・藤岡謙二郎ほか（1982）：『世界地誌』-改訂増補版- , 大明堂
その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（小テスト）課題、試験による総合評価。
平常点３割、課題３割、試験４割とする。

【学生の意見等からの気づき】
今までの学生からの意見などをもとに、教材を新たに作成し直した。毎回の講義の欠課からも修正していくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】
原則として、PowerPoint や映像資料を活用してわかりやすく説明する。様々な分布図の作成のためのＧＩＳ活用法についてもコンピュータを用いて示す。

【その他の重要事項】
地理学科２年生に配置された重要な科目である。「地理学」を理解する上で欠かすことのできない「地誌学」を基礎から学ぶ科目であると同時に、卒論に至る重要なステップであるという位置づけのもとに授業内容を構成している。資料の検索・収集法からデータ整理・解析法の基礎、レポート・論文執筆のノウハウも伝授する。こうした知識・技術の習得如何で卒論の質が大きく異なってくるので、現段階での前向きな学習を期待する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞
１）水循環に伴う物質循環
２）人間活動に伴う水環境変化と保全
３）GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネージメント

【Outline and objectives】
Basic knowledge is acquired about the history of "topography science" and the methodology which are the important field as well as "systematic geography" in "geography". The "natural topography" I disqualified for an area in detail all together is made and the basis ability of the "topography" making is acquired.

GEO200BF

地誌学概論（２）

南　春英

授業コード：A3409　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の到達目標は、講義を通して地誌学的アプローチを理解し、グローバル地誌とテーマ別地誌、比較交流地誌的アプローチを組み合わせて対象とする地域を説明できるようになることです。地域概念について理解し、空間スケールに着目しながら日本および世界の地理的多様性に関する知見を深めます。

【到達目標】
本講義を受講することによって受講者は、特定の地域の特性や構造，およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できることと、地域を科学的に見ることが出来るよう目指します。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は教員の講義方式で進めていきます。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布します。途中、授業理解の促進のために、DVD 等を使用する予定です。また、受講生には、授業後にペーパー（あるいは授業支援システム）通して、感想・質問等のリアクションや課題の提出をお願いすることがあります。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	授業内容の説明
第 2 回	地誌学とは	地誌学の目的とアプローチ
第 3 回	地誌学と国際理解教育①	中国における地誌教育
第 4 回	地誌学と国際理解教育②	韓国における地誌教育
第 5 回	日本の地域を調べる①	郡上八幡町：水資源を利用したまちづくり
第 6 回	日本の地域を調べる②	九州における近代産業遺産
第 7 回	世界の多様性①	生活と環境
第 8 回	世界の多様性②	世界の肉文化
第 9 回	グローバル地誌①	現代世界のグローバル化地誌
第 10 回	グローバル地誌②	グローバリゼーションと日本
第 11 回	テーマ別地誌①	中国の多民族と文化の多様性
第 12 回	テーマ別地誌②	中国の都市化と課題
第 13 回	地域差①	自然環境と歴史からうまれた北京住民と上海住民の省民性
第 14 回	まとめ	授業内試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内外でレポート課題（授業外課題・小レポート課題等）に取り組んでもらいます。また，授業で紹介する参考文献については，自主的に読むことを求めます。
なお，本授業の授業外学習（レポート・準備・復習時間）は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。書籍や文献は授業のなかで随時紹介するので、積極的に読んでください。

【参考書】
時事的な社会情勢の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱っていきたい。
可児弘明ほか（1998）『民族で読む中国』朝日新聞社
河上税・田村俊和（2009）『日本からみた世界の地域　世界地誌概説』原書房
菊地俊夫（2011）『日本』朝倉書店
高井潔司・藤野 彰・曽根康雄（2012）『現代中国を知るための 40 章』明石書店
帝国書院編集部（2019）『図説地理資料　世界の諸地域 NOW』帝国書院
藤野 彰（2018）『現代中国を知るための 52 章』明石書店
矢ケ﨑典隆，加賀美雅弘，牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店
立正大学地理学教室（2007）『日本の地誌』古今書院

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業外課題）：40 %、期末試験（持ち込み不可）：60 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
多くの資料・データを提示することで、受講者自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となることを心掛けます。

【Outline and objectives】
This course introduces various fundamental knowledge of regional geography to students taking this course. The goal of this course are to obtain fundamental knowledge of various regions and to acquire the ability to generally and systematically consider various geographical phenomena.

GEO200BF

日本地誌（1）

中俣　均

授業コード：A3410　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本の中の「異文化」地域である「沖縄」について考えることを通じて、日本の実態＝実体を相対化する視点を養うことが目標である。スケールこそ違え、日本が大小さまざまな島嶼からなる一つの地域的まとまり（システム）であるように、沖縄もいわゆる沖縄本島を中心にした大小の離島の集合体である。したがって、それら日本の島嶼群が構成する地域システムの在り方を考えるためには、沖縄の島々が形作る地域システムは、格好の比較対照軸を提供してくれるはずである。

【到達目標】
世界を構成する個別地域について語る (「説明する」) こと、そうした個別地域を認識することとはどのようなことかを知ること。また、具体的には現在の沖縄という地域に関する知識・認識を深め、そのことを通じて「日本という地域」のありようとそれが抱える矛盾・問題点を認識すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。できるだけ視覚に訴える材料を提示しながら授業を進めたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに：「沖縄」について考えることの意味	地誌を考えるスケール、地域システムとしての島嶼群，異文化認識と理解，講義内容の説明，参考文献の指示
第 2 回	外から見る「沖縄」・内から見る「沖縄」	「沖縄」と「琉球」，島々の実像と呼称
第 3 回	高い島・低い島－島嶼群の自然的基盤	高島と低島，サンゴ礁とその性質，サンゴ礁の環境と人々の生活
第 4 回	「亜熱帯」？ の自然と景観	台風銀座，多雨地域の旱魃，特異な生物相
第 5 回	琉球王国以前：歴史論①	群雄割拠，グスク時代，古琉球
第 6 回	琉球王国の成立：歴史論②	三山統一，交易国家，島津の琉球入り
第 7 回	「世」替わりの中で：歴史論③	琉球処分，ヤマト世・アメリカ世・ウチナー世
第 8 回	沖縄の人口変動と都市・村落	海外移民，人口の偏在，高失業率と相互扶助
第 9 回	基地依存経済と観光振興：第 3 次産業論	基地依存経済，財政依存経済，観光化
第 10 回	沖縄の生業と産業：第 1 次産業論	農業の特色，サトウキビ・モノカルチュア，イモ・キビ・マメ・ブタ体系，電照菊
第 11 回	ふるわないモノ造り：第 2 次産業論	地場産業，伝統工芸，インフラ (交通網)、県土 (国土) 開発の矛盾
第 12 回	カミ観念と祭祀世界	ノロ (神女)，御嶽，ニライカナイ
第 13 回	風水思想と二元論的生活空間	風水思想，地割制集落，集落移動，二棟造り，方位観
第 14 回	せめぎ合う文化層	琉球方言の実相と方言論争，同化と異化，伝統の創造：太平洋の要石，NYMBY としての米軍基地，島嶼群としての沖縄と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
随時課題を指示する課題レポートの作成。また、新聞などのメディアで取り上げられる「沖縄」関連の出来事などへも目配りすることを忘れないようにしてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特に使用しないが、参照すべき文献については講義の中で随時指示する。またほとんど毎回、教材プリントを学習支援システムを通じて数枚配布する。

【参考書】
参照すべき文献については講義の中で随時指示する。それ以外に、下記の概説書をぜひ通読しておいてほしい。
・外間守善 (1986)『沖縄の歴史と文化』(中公新書)
・櫻澤　誠 (2015)『沖縄現代史』(中公新書)

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の結果 (70 %) と平常点（30 %）を成績判定の材料とする。平常点とは、数回提出してもらう課題レポートの成績のことである。

【学生の意見等からの気づき】
授業に関係する事項の、主体的な情報収集（既存メディアなどからの）を促すようつとめる。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to know the regional geography of OKINAWA,

GEO200BF

日本地誌（2）

羽佐田　紘大

授業コード：A3411　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、日本列島の自然環境に焦点を当てながら、そこで生活する人々の暮らしとの関係を考えていく。

【到達目標】
日本列島の自然環境について、基本的な知識を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めていく。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布する。配布資料は学習支援システムにもアップロードする。スライドやプリントに多くの図や写真などを示すことで、視覚的に理解できるように努める。また、地形図を用いた簡単な作業（授業時間内に実施）を行う。授業中に実施する小テストについては、テスト終了直後または次回の授業で解説を行う。
※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法等を説明する。
第 2 回	日本の国土	日本の国土（特に自然環境）について概説する。
第 3 回	北海道地方	北海道地方の自然環境と人々の暮らしについて説明する。
第 4 回	東北地方	東北地方の自然環境と人々の暮らしについて説明する。
第 5 回	関東地方（1）	関東地方（主に北関東）の自然環境と人々の暮らしについて説明する。
第 6 回	関東地方（2）	関東地方（主に南関東）の自然環境と人々の暮らしについて説明する。
第 7 回	関東地方（3）	関東地方（主に東京）の自然環境と人々の暮らしについて説明する。
第 8 回	中部地方（1）	中部地方（主に北陸地方と中央高地）の自然環境と人々の暮らしについて説明する。
第 9 回	中部地方（2）	中部地方（主に東海地方）の自然環境と人々の暮らしについて説明する。
第 10 回	近畿地方	近畿地方の自然環境と人々の暮らしについて説明する。
第 11 回	中国地方	中国地方の自然環境と人々の暮らしについて説明する。
第 12 回	四国地方	四国地方の自然環境と人々の暮らしについて説明する。
第 13 回	九州地方	九州地方の自然環境と人々の暮らしについて説明する。

第 14 回　南西諸島　　南西諸島の自然環境と人々の暮らしについて説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの授業内容を復習する。
日本列島の自然環境にかかわる話題や事柄に関心を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70%）、小テスト（30%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意するなどオンラインで受講できる環境を整えておくことが望ましい。

【Outline and objectives】
This course introduces mainly about the natural environment in the Japanese islands.

GEO200BF

地球科学概論 I

宍倉　正展

授業コード：A3412　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
春学期・2 単位
備考（履修条件等）：**「地球科学概論 I」の受講者は原則として秋学期の「地球科学概論 II」も連続して受講し、1 年を通じて受講すること。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球は生きていると言われるが、日本列島に住む我々は特に、地震や火山噴火といった現象を目の当たりにしてそれを実感していることだろう。本講義では「地球」がどのように誕生し、どのような歴史を辿ってきたのか，またどのような理（ことわり）で活動しているのか、そのダイナミクスを固体地球科学の観点から解説する。また地震や火山噴火の予測について説明し，地球科学が社会に貢献できる可能性とその限界についても理解してもらう。

【到達目標】
我々が住む地球がどのように生まれ、我々の祖先となる生物がどのように進化してきたのか、また潮汐や磁場のような地球規模の現象、プレートテクトニクス理論による地震や火山噴火など、地球にまつわる様々な事象を理解することを目標とする。また普段から地球科学に関するニュースに接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。毎回の授業においてリアクションペーパーや課題レポートを提出することで、授業内容の理解度が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。
毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。
提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する
補講として 14 回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義のテーマの説明と評価法などについて説明する。
第 2 回	宇宙の中の地球	宇宙論の変遷、太陽系の成因論、地球のでき方について説明する。
第 3 回	地球の概観 1	地球の形と大きさ、内部の構造などについて、どのように測るか説明する。
第 4 回	地球の概観 2	地球の磁場と潮汐について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。
第 5 回	地球誕生からの歴史	地球誕生 46 億年の歴史を生命の進化とともに説明する。
第 6 回	プレートテクトニクス 1	プレートテクトニクスの概念とメカニズムについて説明する。
第 7 回	プレートテクトニクス 2	プレートテクトニクスの研究の歴史について、日本における受容と拒絶を中心に説明する。
第 8 回	地震の基礎 1	地震の種類、震度とマグニチュードの違いなどを説明する。
第 9 回	地震の基礎 2	地震のメカニズム、予測に関する様々な観測などを説明する。
第 10 回	地震の基礎 3	地震予知情報に関する説明を行う。
第 11 回	グループワーク（地震）	地震をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 12 回	火山 1	火山の種類や噴火メカニズムなどについて説明する。
第 13 回	火山 2	火山災害に関する説明を行う。
第 14 回	グループワーク（火山）	火山をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
普段から宇宙や地球，地震，火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、レポート作成に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に定めない。関連する書籍や論文の重要なものは適宜紹介する。

【参考書】
西本昌司「改訂新版　地球のはじまりからダイジェスト–地球のしくみと生命進化の 46 億年」合同出版
http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product_id=487
泊 次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容　戦後日本の地球科学史」東京大学出版会
http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html
宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
http://www.schoolpress.co.jp/s-293/
大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版
http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518

【成績評価の方法と基準】
1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10 %）。
全 14 回（予定）の授業のうち 2/3 以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
以前はグループワークの実施と、そのディスカッション内容の発表会は週を分けて実施していたが、時間を空けるとディスカッション内容を忘れてしまうことと、発表会だけで 1 回の授業時間を丸ごと費やすのはもったいないという指摘から、両者を 1 回の授業内で効率よく行うこととした。

【その他の重要事項】
この授業はグループワークの班分けの都合から受講定員は 60 名程度とし、第 1 回の授業でそれ以上の受講希望者がいる場合は選抜を行う。
また地球科学概論Ⅰの受講者は原則として秋学期の地球科学概論Ⅱも連続して受講し、1 年を通じて受講すること。
本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。
教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline and objectives】
The ground motion of earthquakes and volcanic eruptions in the Japan Islands are giving a real sense of the living earth.　This lecture explains how the earth has appeared and evolution, and how the earth's actions work from the point of view of solid earth science. Also, explain the forecast of earthquakes and volcanic eruptions and ask them to understand the possibilities and limitations of earth science to contribute to society.

GEO200BF

地球科学概論Ⅱ

宍倉　正展

授業コード：A3413　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
秋学期・2 単位
備考（履修条件等）：**この授業は原則として春学期の「地球科学概論Ⅰ」から連続して受講するもの以外は受講を認めない。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地球表層の気圏，水圏・地圏それぞれで生じる現象は，我々人類に様々な影響を与えている。地震に伴う津波や地殻変動、また地球規模の気候変動やそれに伴うローカルな侵食・堆積などは、我々に災害をもたらすとともに、様々な恵みももたらしている。本講義では自然現象のメカニズムを説明するとともに、そこから生じる災害とそれに対する課題について議論をしていく。

【到達目標】
我々が目にする山や川、海岸の景色は、地球内部と外部の両面からの作用や人為的な作用によって形づくられていることを理解し、地球のシステムを知って自然を見る目を養うことで、地学現象と自然災害との関係を理解することを目標とする。また普段から自然災害や防災対策に関するニュースに接してもらい、地球科学と社会との関係を考える姿勢を身につける。毎回の授業において出される課題に答え、また感想・質問を書いて提出することで、授業内容の理解度が評価され、論理的な思考能力と表現能力が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。
毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。
提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する
補講として 14 回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	津波 1	最初に秋学期の講義全体の内容について説明。 後半は津波に関する講義を行う
第 2 回	津波 2	津波発生のしくみ、津波の高さの定義、津波堆積物について説明する。
第 3 回	グループワーク（津波）	津波をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 4 回	地殻変動 1	地殻変動の観測方法や緩急様々な様式の地殻変動を紹介する。
第 5 回	地殻変動 2	地形や生物に記録された地殻変動の調査研究例を紹介する。
第 6 回	活断層	活断層の定義や活断層の活動で形成される様々な地形、地層について説明する。
第 7 回	グループワーク（活断層）	活断層をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 8 回	気候変動 1	10 万年スケールで繰り返してきた氷期と間氷期の歴史とそのメカニズムについて説明する。
第 9 回	気候変動 2	歴史的な気候変動や現在の地球温暖化について考える。
第 10 回	グループワーク（気候変動）	気候変動をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 11 回	侵食と堆積 1	地球表層で生じる外的作用としておもに山の侵食について説明。
第 12 回	侵食と堆積 2	地球表層で生じる外的作用としておもに川・平野・海岸の侵食・堆積について説明。
第 13 回	グループワーク（土砂災害）	土砂災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

第 14 回	防災教育と地球科学	地球科学の防災上の意義と社会的貢献について説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
津波、地殻変動、気候変動、土砂災害などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、そこから課題を抽出して自身の考えをまとめるクセをつけること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に定めない。関連する重要な書籍や論文は講義中に紹介する。

【参考書】
杉村　新「大地の動きを探る」岩波書店
https://www.iwanami.co.jp/.BOOKS/11/7/1151980.html
宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社
http://www.schoolpress.co.jp/s-293/
矢守克也「巨大災害のリスク・コミュニケーション　災害情報の新しいかたち」ミネルヴァ書房
http://www.minervashobo.co.jp/book/b120801.html

【成績評価の方法と基準】
1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10 %）。
全 14 回（予定）の授業のうち 2/3 以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】
以前はグループワークの実施と、そのディスカッション内容の発表会は週を分けて実施していたが、時間を空けるとディスカッション内容を忘れてしまうことと、発表会だけで 1 回の授業時間を丸ごと費やすのはもったいないという指摘から、両者を 1 回の授業内で効率よく行うこととした。

【その他の重要事項】
この授業は原則として春学期の地球科学概論 I から連続して受講するもの以外は受講を認めない。
本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけではなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。
教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline and objectives】
Phenomena occurring in the aerosphere, hydrosphere and geosphere of the earth surface give human various influences. Tsunamis and crustal deformation associated with the earthquake, global climate change and the accompanying local erosion and sedimentation bring us not only disasters but also various blessings. This lecture explains the mechanism of such phenomena and also discuss associated disasters and its issues.

GEO100BF

地学実験 (1)（コンピュータ活用含む）

濱　侃

授業コード：A3509　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
春学期・1 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
水の量と質に関する特徴およびその変化について，水収支・水循環の視点から，水の性質が，その場所の環境とどのように反応し，その場所に則した存在となるか，といった広範囲な水の性格を取り上げる。

【到達目標】
水環境としての重要性を人間活動との関わりを視点に，基礎的な実験を行いながら地球科学（水文分野）の基礎知識の修得を目的とする。また、本授業が終えたとき、特に、個人およびグループ作業において地学的な実験技術の修得だけでなく、コンピュータによる作図作業をする能力が身に着けられていることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
自然地理学の柱の一つである「海洋・陸水学」を理解するために必要な基礎的な実験・実習を行い，実験器具・測定器材の使用法や情報機器を用いた測定データの処理法を学習する。また、コンピュータなどを利用しながら「水文」情報など、各種自然環境上を収集する方法、利用することで、調査計画から事前調査の仕方やレポートのまとめ方の修得も目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	実験の概要と注意	授業計画と履修の注意
第 2 回	水文科学の基礎知識	水収支計算
第 3 回	水文科学の応用	水環境問題と水質
第 4 回	水温に関する基礎知識と実験	水温の性質・温度計器差
第 5 回	電気伝導度実験に関する基礎知識と実験	EC の性質・測器の特性
第 6 回	pH 実験に関する基礎地誌式と と実験	pH の性質・測器の特性
第 7 回	水の汚れに関する基礎知識と実験	COD・TOC・DOC・NO3 など
第 8 回	様々な水質表現法	ヘキサダイアグラム・トリリニアダイアグラム
第 9 回	地域特性	対象地域地域特性解析
第 10 回	調査・分析・解析①	調査計画・調査機材準備
第 11 回	調査・分析・解析②	記録簿の整理・簡易濾過
第 12 回	調査・分析・解析③	分析・解析
第 13 回	調査・分析・解析④	コンピュータを用いた解析・図化
第 14 回	まとめ	考察・まとめ・報告書作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
水環境全般に関する情報を収集し，整理する。また，関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。前後の課題において，予習・復習を行い，新たな課題に向けて解決する方法を修得すること。本授業の準備学習・復習時間は，合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト等は必要に応じて紹介を行う。

【参考書】
小寺浩二（2019）：『自然地理学（海洋・陸水）』. 法政大学通信教育部.
「水環境調査の基礎」改訂版（新井正，古今書院，1994 年）
その他、適宜参考書の紹介を行う。

【成績評価の方法と基準】
実験科目なので出席を重視し，レポートにより成績評価を行う。平常点 50%，課題 50%の予定である。授業で課した課題・レポートは，次回以降の授業内でコメントを付して返却する。

【学生の意見等からの気づき】
苦手意識のある学生も興味を持って取り組めるよう，実験・実習の説明などを丁寧に行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】
データ整理・解析などにパソコンを用いるので，基本的な情報リテラシーの能力が必要である。

【その他の重要事項】
実験では，コンピュータを活用するので，基礎的な知識・能力を身につけておくこと。自信のないものは，電算実習科目の履修を推奨する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学・水文学・リモートセンシング
＜研究テーマ＞
1）センシング技術を用いたスマート農業
2）人間活動に伴う水環境変化と保全
3）GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネージメント

【Outline and objectives】
The importance as the aqueous environment, concerning with human activity, I have teaching of an elementary knowledge of a earth science (the water sentence field) for my object while making a basic experiment to a viewpoint. When this tuition has finished it, in particular, the individual and the thing by which the ability to do drawing work by a computer as well as learning of earth science-like experimental technique in group work is learned are made a target.

GEO100BF

地学実験 (1)（コンピュータ活用含む）

濱　侃

授業コード：A3510　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
秋学期・1 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
水の量と質に関する特徴およびその変化について，水収支・水循環の視点から，水の性質が，その場所の環境とどのように反応し，その場所に則した存在となるか，といった広範囲な水の性格を取り上げる。

【到達目標】
水環境としての重要性を人間活動との関わりを視点に，基礎的な実験を行いながら地球科学（水文分野）の基礎知識の修得を目的とする。また、本授業が終えたとき、特に、個人およびグループ作業において地学的な実験技術の修得だけでなく、コンピュータによる作図作業をする能力が身に着けられていることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
自然地理学の柱の一つである「海洋・陸水学」を理解するために必要な基礎的な実験・実習を行い，実験器具・測定器材の使用法や情報機器を用いた測定データの処理法を学習する。また，コンピュータなどを利用しながら「水文」情報など，各種自然環境上を収集する方法，利用することで，調査計画から事前調査の仕方やレポートのまとめ方の修得も目指す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	実験の概要と注意	授業計画と履修の注意
第 2 回	水文科学の基礎知識	水収支計算
第 3 回	水文科学の応用	水環境問題と水質
第 4 回	水温に関する基礎知識と実験	水温の性質・温度計器差
第 5 回	電気伝導度実験に関する基礎知識と実験	EC の性質・測器の特性
第 6 回	pH 実験に関する基礎地誌式と と実験	pH の性質・測器の特性
第 7 回	水の汚れに関する基礎知識と実験	COD・TOC・DOC・NO3 など
第 8 回	様々な水質表現法	ヘキサダイアグラム・トリリニアダイアグラム
第 9 回	地域特性	対象地域地域特性解析
第 10 回	調査・分析・解析①	調査計画・調査機材準備
第 11 回	調査・分析・解析②	記録簿の整理・簡易濾過
第 12 回	調査・分析・解析③	分析・解析
第 13 回	調査・分析・解析④	コンピュータを用いた解析・図化
第 14 回	まとめ	考察・まとめ・報告書作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
水環境全般に関する情報を収集し，整理する。また，関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。前後の課題において，予習・復習を行い，新たな課題に向けて解決する方法を修得すること。本授業の準備学習・復習時間は，合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキスト等は必要に応じて紹介を行う。

【参考書】
小寺浩二（2019）：『自然地理学（海洋・陸水）』. 法政大学通信教育部.
「水環境調査の基礎」改訂版（新井正，古今書院，1994 年）
その他，適宜参考書の紹介を行う。

【成績評価の方法と基準】
実験科目なので出席を重視し，レポートにより成績評価を行う。平常点 50%、課題 50%の予定である。授業で課した課題・レポートは，次回以降の授業内でコメントを付して返却する。

【学生の意見等からの気づき】
苦手意識のある学生も興味を持って取り組めるよう，実験・実習の説明などを丁寧に行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】
データ整理・解析などにパソコンを用いるので，基本的な情報リテラシーの能力が必要である。

【その他の重要事項】
実験では，コンピュータを活用するので，基礎的な知識・能力を身につけておくこと。自信のないものは，電算実習科目の履修を推奨する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞
1）センシング技術を用いたスマート農業
2）人間活動に伴う水環境変化と保全
3）GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネージメント

【Outline and objectives】
The importance as the aqueous environment, concerning with human activity, I have teaching of an elementary knowledge of a earth science (the water sentence field) for my object while making a basic experiment to a viewpoint. When this tuition has finished it, in particular, the individual and the thing by which the ability to do drawing work by a computer as well as learning of earth science-like experimental technique in group work is learned are made a target.

GEO100BF

地学実験 (2)（コンピュータ活用含む）

加藤　美雄

授業コード：A3511　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
春学期・1 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
気候・気象学は、自然地理学を構成する主要な柱の１つである。この授業では、気候・気象学を学習・理解するのに要求される基礎的な実験と実習を扱い、測定機材の使用方法やデータの処理方法の習得を目的とする。

【到達目標】
次の３つを到達目標とする。①気候学の分野の研究で利用される図を作成することにより、図から自然現象を理解する知識を身につけること。②気候学の研究で行う観測調査の結果を表現する技能を身につけること。③観測実習に取り組むときに必要な態度、例えば観測を成功させるために共同観測者と協調し、正確なデータを取る態度を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出された課題の解説、及び質問の回答など全体に対してフィードバックを行なう。
授業内容の１例として、大学前の外濠周辺で小気候観測を行い、そのデータより気温・相対湿度分布図を作成するなど、いくつかの実験目的を持って授業を展開していく。
気象観測やそのデータの解析など授業ごとにテーマを決め、１～３回の授業時間をかけてそのテーマの報告書を作成し、提出する。そのためには、まず出席して作業の狙いとその内容を充分に理解することが求められるので、出欠席を確認する。
なお、第 1 回目の授業は Zoom によるオンラインで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地学実験の履修、アメダスの内容と利用、等値線の書き方	半年間の授業の目的、内容について解説。また、アメダスデータの内容とその利用を説明。更に授業で基本となる等値線の書き方を練習する。
第 2 回	地上天気図の基礎と等圧線の書き方	天気図を作成するために基礎的な事項を説明し、等圧線を引く練習をする。
第 3 回	地上天気図の作成とその読み方	気象通報を聞き取り、天気図作成のためのデータを天気図用紙に記入する。更に、等圧線を引き、天気図を完成させ、分かることを読み取る。
第 4 回	アスマン通風乾湿計の使い方	乾湿計を読む練習とともに、器差補正のデータを集める。
第 5 回	外濠での小気候観測	大学周辺を観測フィールドとして気温・相対湿度の観測をする。
第 6 回	気温・相対湿度分布図の作成と時刻補正	前回の観測結果を公開・発表し、分布図を作成し、結果を考察する。また、時刻補正による分布図作成も実施する。
第 7 回	風向・風速計の使い方	携帯用の風向・風速計を使って、風の測定方法を学習する。
第 8 回	大学周辺の風の観測	大学周辺で風向・風速計を使って風の観測を行い、風の分布図作成のためのデータを集める。
第 9 回	風の分布図の作成	大学周辺の風の観測結果を公開・発表し、分布図の作成をする。また、その結果を考察する。
第 10 回	風配図の作成	アメダスの風のデータから風配図を作成し、考察する。
第 11 回	アイソプレスの作成	２次元上での３変数の同時表現方法（アイソプレス）の習得とその見方を学習する。
第 12 回	気候学図の作成と気象災害	降水量の平均値から日本列島の気候学図を作成する。また、気象災害を説明し、気象災害から身を守るためのグループ討議を行なう。
第 13 回	高層気象観測の内容と利用、及び移動平均	高層気象観測について説明し、データを用いた作図を行なう。また、移動平均を解説し、作図を実施する。
第 14 回	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」画像の原理と活用	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」について説明し、データの利用を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。
テキスト「地理調査法・自然編」の「第Ⅱ編　気候の調査」に各回で行う予定の内容が書かれているので、それを見て事前に内容を予習してくることで、実習課題にスムーズに取り組める。また、授業中に実習課題が終わらなかった学生は、その課題は次回の授業に提出のこと。必ず期限までに提出できるように課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
地理調査法（自然編）. 東郷正美・佐藤典人・ 井上奉生 著. 法政大学通信教育部 発行

【成績評価の方法と基準】
実験という科目の性格上、各実習課題の報告物を提出し、その内容を重視して評価する。また、平常点として、実験、実習での参加態度も評価する。したがって、定期試験による評価は行わない。
評価の配分は、各実習課題の報告物が 70 %、平常点が 30 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
気候・気象学における作図の基本となる等値線が作成できない学生が多いので、十分に指導していきたい。また、自然現象に興味を示す学生が多いので、授業の最初に紹介したい。

【学生が準備すべき機器他】
実験・実習には、色鉛筆（12 色程度の硬質が望ましい）、定規（15～30 ㎝程度）、電卓などを使用するので、各自で準備しておくこと。

【その他の重要事項】
講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールで受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。
実験・実習という本科目の性格上、出席して作業内容を習得することが前提であり、各実験・実習項目の作業結果を提出させる。したがって定期試験は実施しないが、各自、要点をよく理解するように努めること。また、「出席カード」を最初の授業で配布するので、必ず毎回持参して出席印をもらうこと。当然のことながら、この出席印がない場合には欠席扱いとなるので充分に注意すること。このカードは最後の授業で回収して、出席の集計に使用するので、その際には持参・提出を忘れないこと。
観測や作業は２人１組で行う場合があり、欠席するとお互いに不都合が生じる場合があるので、その点に配慮すること。また、作業結果の提出に関しては、その都度指示するので、それに従うこと。作業結果を評価して各自に返却する関係上、遅れての提出は原則として認めないので充分に注意すること。
なお授業では、気象庁での実務経験をもとに、気象観測やデータの処理について、原理から応用まで分かり易く解説する。また、南極での越冬体験による様々な気象現象を紹介することにより、大気現象の理解を深める。

【Outline and objectives】
Climatology / Meteorology are one of the main aspects of Physical Geography.
The course focuses on fundamental experiments and practical training to learn and understand climatology / meteorology.
The aim of this course is to acquire skills for using measuring instruments and process data.

GEO100BF

地学実験 (2)（コンピュータ活用含む）

加藤　美雄

授業コード：A3512　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
秋学期・1 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
気候・気象学は、自然地理学を構成する主要な柱の１つである。この授業では、気候・気象学を学習・理解するのに要求される基礎的な実験と実習を扱い、測定機材の使用方法やデータの処理方法の習得を目的とする。

【到達目標】
次の３つを到達目標とする。①気候学の分野の研究で利用される図を作成することにより、図から自然現象を理解する知識を身につけること。②気候学の研究で行う観測調査の結果を表現する技能を身につけること。③観測実習に取り組むときに必要な態度、例えば観測を成功させるために共同観測者と協調し、正確なデータを取る態度を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の初めに、前回の授業で提出された課題の解説、及び質問の回答など全体に対してフィードバックを行なう。
授業内容の１例として、大学前の外濠周辺で小気候観測を行い、そのデータより気温・相対湿度分布図を作成するなど、いくつかの実験目的を持って授業を展開していく。
気象観測やそのデータの解析など授業ごとにテーマを決め、１～３回の授業時間をかけてそのテーマの報告書を作成し、提出する。そのためには、まず出席して作業の狙いとその内容を充分に理解することが求められるので、出欠席を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地学実験の履修、アメダスの内容と利用、等値線の書き方	半年間の授業の目的、内容について解説。また、アメダスデータの内容とその利用を説明。更に授業で基本となる等値線の書き方を練習する。
第 2 回	地上天気図の基礎と等圧線の書き方	天気図を作成するために基礎的な事項を説明し、等圧線を引く練習をする。
第 3 回	地上天気図の作成とその読み方	気象通報を聞き取り、天気図作成のためのデータを天気図用紙に記入する。更に、等圧線を引き、天気図を完成させ、分かることを読み取る。
第 4 回	アスマン通風乾湿計の使い方	乾湿計を読む練習とともに、器差補正のデータを集める。
第 5 回	外濠での小気候観測	大学周辺を観測フィールドとして気温・相対湿度の観測をする。
第 6 回	気温・相対湿度分布図の作成と時刻補正	前回の観測結果を公開・発表し、分布図を作成し、結果を考察する。また、時刻補正による分布図作成も実施する。
第 7 回	風向・風速計の使い方	携帯用の風向・風速計を使って、風の測定方法を学習する。
第 8 回	大学周辺の風の観測	大学周辺で風向・風速計を使って風の観測を行い、風の分布図作成のためのデータを集める。
第 9 回	風の分布図の作成	大学周辺の風の観測結果を公開・発表し、分布図の作成をする。また、その結果を考察する。
第 10 回	風配図の作成	アメダスの風のデータから風配図を作成し、考察する。
第 11 回	アイソプレスの作成	２次元上での３変数の同時表現方法（アイソプレス）の習得とその見方を学習する。
第 12 回	気候学図の作成と気象災害	降水量の平均値から日本列島の気候学図を作成する。また、気象災害を説明し、気象災害から身を守るためのグループ討議を行なう。
第 13 回	高層気象観測の内容と利用、及び移動平均	高層気象観測について説明し、データを用いた作図を行なう。また、移動平均を解説し、作図を実施する。
第 14 回	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」画像の原理と活用	レーダー観測と気象衛星「ひまわり」について説明し、データの利用を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。
テキスト「地理調査法・自然編」の「第Ⅱ編　気候の調査」に各回で行う予定の内容が書かれているので、それを見て事前に内容を予習してくることで、実習課題にスムーズに取り組める。また、授業中に実習課題が終わらなかった学生は、その課題は次回の授業に提出のこと。必ず期限までに提出できるように課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】
地理調査法（自然編）. 東郷正美・佐藤典人・ 井上奉生 著. 法政大学通信教育部 発行

【成績評価の方法と基準】
実験という科目の性格上、各実習課題の報告物を提出し、その内容を重視して評価する。また、平常点として、実験、実習での参加態度も評価する。したがって、定期試験による評価は行わない。
評価の配分は、各実習課題の報告物が 70 %、平常点が 30 %とする。

【学生の意見等からの気づき】
気候・気象学における作図の基本となる等値線が作成できない学生が多いので、十分に指導していきたい。また、自然現象に興味を示す学生が多いので、授業の最初に紹介したい。

【学生が準備すべき機器他】
実験・実習には、色鉛筆（12 色程度の硬質が望ましい）、定規（15～30 ㎝程度）、電卓などを使用するので、各自で準備しておくこと。

【その他の重要事項】
講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールで受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。
実験・実習という本科目の性格上、出席して作業内容を習得することが前提であり、各実験・実習項目の作業結果を提出させる。したがって定期試験は実施しないが、各自、要点をよく理解するように努めること。また、「出席カード」を最初の授業で配布するので、必ず毎回持参して出席印をもらうこと。当然のことながら、この出席印がない場合には欠席扱いとなるので充分に注意すること。このカードは最後の授業で回収して、出席の集計に使用するので、その際には持参・提出を忘れないこと。
観測や作業は２人１組で行う場合があり、欠席するとお互いに不都合が生じる場合があるので、その点に配慮すること。また、作業結果の提出に関しては、その都度指示するので、それに従うこと。作業結果を評価して各自に返却する関係上、遅れての提出は原則として認めないので充分に注意すること。
なお授業では、気象庁での実務経験をもとに、気象観測やデータの処理について、原理から応用まで分かり易く解説する。また、南極での越冬体験による様々な気象現象を紹介することにより、大気現象の理解を深める。

【Outline and objectives】
Climatology / Meteorology are one of the main aspects of Physical Geography.
The course focuses on fundamental experiments and practical training to learn and understand climatology / meteorology.
The aim of this course is to acquire skills for using measuring instruments and process data.

GEO300BF

地質・岩石学及び実験

外田　智千

授業コード：A3416　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地質学及び岩石学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に学ぶ。

【到達目標】
地球の成り立ちや歴史への認識、また、地球表層の地殻を構成している地質と岩石について理解を深める。岩石標本に直に触れることで岩石に現れている組織や現象について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
地質学と岩石学の基本概念と基礎知識を最初に概説し、さらに個々の実例を紹介する。また、実習等によって岩石や鉱物の標本を観察し、その組織などからでき方を講義内容と比較して理解し，識別をしてもらう。また、簡単な計算等の演習などによって地質や岩石の構成についての理解を深める。
授業の初めに、前回の授業での提出課題等についてのフィードバックをおこなうとともに、必要に応じて「学習支援システム」を通じてのフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画の説明、空間・時間スケール
第 2 回	地球の内部構造	地球の層構造、地球内部を調べる方法
第 3 回	地殻の構成物質	地殻の化学組成、岩石の分類と特徴
第 4 回	造岩鉱物	造岩鉱物の特徴、種類
第 5 回	火成岩（1）	火成岩の成因、マグマの形成場
第 6 回	火成岩（2）	火成岩マグマの結晶作用、分類
第 7 回	火成岩（3）	火成岩の種類、標本観察、特徴
第 8 回	堆積岩（1）	堆積岩の成因、侵食・運搬・堆積作用
第 9 回	堆積岩（2）	堆積岩の種類、標本観察、特徴
第 10 回	変成岩（1）	変成岩の成因、大陸の進化と変成作用
第 11 回	変成岩（2）	変成岩の種類、標本観察、特徴
第 12 回	地球史（1）	年代測定法、地球の形成と初期の地殻
第 13 回	地球史（2）	地球の歴史と環境変遷、超大陸の形成
第 14 回	試験	全体のまとめ、評価のためのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各２時間を標準とします。地球の成り立ちに興味を持ち、地球の進化や岩石・鉱物に関する参考書、写真集、DVD 等を見ることで、自ら授業への動機付けをおこなう。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。プリントを利用する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）、試験（40%）、小課題等（10 %）で評価をおこなう。
小課題の回数等により、評価割合の若干の変更はありうる。

【学生の意見等からの気づき】
標本観察や演習をおこなうため、受講人数が多すぎると実習に支障が出たり、座席の確保自体が難しくなる。そのため、受講生の選抜が必要。

【学生が準備すべき機器他】
簡単な計算をおこなうことがあるので、計算機を持参してもよい。

【その他の重要事項】
国内外での地質調査の経験を持つ教員が、実試料・標本を用いた実習をおこなう。
初回授業で、本科目の主旨と講義の概要を説明し、また教室の収容人数の制約のため抽選等の選抜をおこなうので、必ず出席すること。

【Outline and objectives】
This subject aims at the understanding of basic knowledge of geology and petrology.

GEO200BF

自然環境論

羽佐田　紘大

授業コード：A3417　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、主に日本の流域・沿岸域に焦点を当て、自然環境の変遷を理解し、人々の暮らしとの関係を考えていく。

【到達目標】
さまざまな地域の自然環境の成り立ちを把握し、人々との関係を理解できる。自分自身や周囲の人々と身近な自然環境とのかかわりについて考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で進めていく。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布する。配布資料は学習支援システムにもアップロードする。スライドやプリントに多くの図や写真などを示すことで、視覚的に理解できるように努める。また、地形図を用いた簡単な作業（授業時間内に実施）を行う。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、要望、質問など）を提出してもらう。次回の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。
※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、計画、評価方法等を説明する。
第 2 回	日本の自然環境	日本の自然環境（特に地形）を概説する。
第 3 回	気候変動と地形の成り立ち	流域・沿岸域の自然環境のうち、地形に着目してその成り立ちを解説する。
第 4 回	沖積低地の形成（1）	人々が多く暮らす沖積低地（沖積平野）を中心に、それを構成する地形とその成り立ちについて説明する。
第 5 回	沖積低地の形成（2）	人々が多く暮らす沖積低地（海岸平野）を中心に、それを構成する地形とその成り立ちについて説明する。
第 6 回	地形図からみる自然環境の変化	新旧地形図を読み取り、さまざまな地域の自然環境の変遷を考える。
第 7 回	流域・沿岸域と水害・治水（1）	関東平野を例に水害・治水の歴史について述べる。
第 8 回	流域・沿岸域と水害・治水（2）	濃尾平野を例に水害・治水の歴史について述べる。
第 9 回	流域・沿岸域と台風	伊勢湾台風を例に流域・沿岸域での台風による被害について考える。
第 10 回	流域・沿岸域と地震	沖積低地を中心に地震の影響を説明する。
第 11 回	流域・沿岸域の人為的影響	流域・沿岸域で行われてきた地形改変と、人間活動が及ぼす影響について説明する。
第 12 回	流域・沿岸域の管理・保全・利用	流域・沿岸域の管理・保全・利用状況を確認する。
第 13 回	熱帯・亜熱帯の自然環境：サンゴ礁とマングローブ	熱帯・亜熱帯の自然環境の例としてサンゴ礁とマングローブを取り上げ、人々の暮らしとのかかわりについて述べる。
第 14 回	まとめ	これまでの授業内容の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの授業内容を復習する。
日常の自然環境にかかわる話題や事柄に関心を持つ。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
中間レポート（30%）、期末レポート（50%）、コメントの提出状況・内容（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
コメントシートの質問について、スライドを用いて説明していく。

【学生が準備すべき機器他】
対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意するなどオンラインで受講できる環境を整えておくことが望ましい。

【Outline and objectives】
This course introduces mainly from geomorphological perspective about the natural environment of drainage basin and coastal zone in Japan.

GEO200BF

地形学及び実験Ⅰ

前杢　英明

授業コード：A3418　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

【到達目標】
いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程をその背後に想像できるようになること、また地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
地形とは何かについて地球規模で確認することからはじめ、地形を形成する作用ごとに、地形形成の実例を紹介していく。授業の過程で地図や空中写真を用いた小作業を課すことがある。本授業では主に「外作用」とよばれる太陽の放射エネルギーを源とした地形形成作用について取り上げる。受講希望学生は第 1 回授業開始前から学習支援システムを使える状態にしておく必要がある。その理由は毎回授業の数日前までに授業用のプレゼンを教材としてあげるので、それを利用して予習復習を行ってもらいたい。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地形と生活	地形と我々の暮らし。日本の地形と地質の特徴。
第 2 回	地形形成に関する序説	地球の構造、地球規模での地形の意味、地形のスケール、地形の発達、第四紀の環境変動
第 3 回	風化作用	風化作用と地形形成における意味
第 4 回	マス・ムーブメント	集塊移動のメカニズム
第 5 回	河川による侵食地形	河川の形成、侵食の様式、さまざまな侵食地形
第 6 回	河川による堆積地形	堆積作用と堆積低地、地形と自然災害
第 7 回	海岸における作用	波の作用、沿岸流
第 8 回	海岸地形	海岸での堆積地形､侵食地形
第 9 回	風がつくる地形	風の作用と地形、乾燥地形
第 10 回	周氷河地形	周氷河作用と微地形
第 11 回	氷河作用と氷河地形	氷河の形成と流動および氷河による地形形成
第 12 回	カルスト地形	石灰岩特有の地形について
第 13 回	人類の活動と地形	増え続ける人類の地形への影響について
第 14 回	春学期授業の振り返り	春学期授業の振り返りとｓｈて、確認のための試験などを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムに授業で使用したプレゼンや説明をアップするので、予習・復習に利用してほしい。日本や世界の独特な地形､美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、ＤＶＤ教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを利用する。

【参考書】
『地形学入門』A.L. ブルーム、榧根　勇訳、1970 年
『写真と図で見る地形学』（復刻版）太田陽子ほか、東京大学出版会、2007 年
『発達史地形学』貝塚爽平、東京大学出版会、1998 年
『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版会、2010 年
『東京の自然史』貝塚爽平、講談社学術文庫、2011 年
『日本の地形』貝塚爽平、岩波新書、1977 年

【成績評価の方法と基準】
試験 (90 ～%)、平常点 (～ 10%）から総合的に判断する。なお、出席回数は評価点には加算されないが、2/3 以上の出席しないと、自動的に E 評価とする。14 回授業ならば 10 回以上の出席が必須。第 1 回授業からカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進度を調整し、シラバス通り消化できるようにする。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然地理学、（変動）地形学、第四紀学
＜研究テーマ＞
プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究
＜主要研究業績＞
前杢英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究．地理科学, vol.60-3，pp.136-142.
Maemoku, H. et.al.（1997）： Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.
Maemoku, H. et.al. (2012)Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97 – 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline and objectives】
Lecture on fundamental geomorphology

GEO200BF

地形学及び実験Ⅱ

前杢　英明

授業コード：A3419　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識や考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

【到達目標】
いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程をその背後に想像できるようになること、また地形と災害（特に内作用による）の関係を理解し、地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
最近の地球科学の成果をまず最初に概説し、そこから地球内部の構造が地球表面の形態とどのような関係にあるのかを考えていく。授業の過程で地図や空中写真を用いた小作業を課すことがある。本授業では主に「内作用」とよばれる地球内部の熱エネルギーを源とした地形形成作用と、地球環境変動による地形変化への影響について取り上げる。受講希望学生は第 1 回授業開始前から学習支援システムを使える状態にしておく必要がある。その理由は毎回授業の数日前までに授業用のプレゼンを教材としてあげるので、それを利用して予習復習を行ってもらいたい。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	プレートテクトニクスと大地形（1）	プレートテクトニクスと大陸の配置、プリュームテクトニクスの研究を紹介する。地形のスケール。
第 2 回	プレートテクトニクスと大地形（2）	内作用の種類、変動地形と変動帯の研究を紹介する。曲隆、曲降運動と山地の地形などを紹介する
第 3 回	プレートテクトニクスと大地形（3）	大地形とプレートテクトニクス、資源との関係などについて
第 4 回	断層変位地形	断層、褶曲、撓曲などによる変動地形の研究を紹介する
第 5 回	活断層と地震	地震の発生と断層運動の研究を紹介する
第 6 回	津波の原理と過去の津波	津波の原理と堆積物の研究を紹介する。古津波研究の紹介も行う。
第 7 回	火山の原理と火山地形	火山地形の形成過程と噴火様式、マグマの関係。地形と自然災害。
第 8 回	気候変動と氷河性海水準変動	氷河性海水準変動の理論の研究を紹介する。第四紀の環境変動。
第 9 回	氷河性海水準変動と海成段丘	氷河性海水準変動と海成段丘の形成過程について
第 10 回	最後の海進と沖積平野	沖積平野の地下構造と後氷期海進の関係について
第 11 回	地震性地殻変動と過去の巨大地震	海成段丘の変形と広域的地殻変動や地震性地殻変動の研究を紹介する。地形と地震災害。
第 12 回	アイソスタシーによる海岸地形の変動	氷河性アイソスタシーによる隆起海岸地形と大陸氷床変動の研究を紹介する
第 13 回	火山灰・年代測定と地形研究	地形研究に大きな進歩をもたらしたテフラ研究や年代測定法の概説の概要
第 14 回	秋学期授業の振り返り	秋学期授業の振り返りとして、目的到達の確認として試験等を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業支援システムに授業で使用したプレゼンや解説をアップするので、予習・復習に利用してほしい。日本や世界の独特な地形､美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、ＤＶＤ教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
プリントを利用する。

【参考書】
『変動地形を探る Ⅰ･Ⅱ』太田陽子、古今書院、1999 年
『環太平洋の自然史』米倉伸之、古今書院、2000 年
『地震と断層』島崎邦彦/松田時彦、東大出版会、1994 年
『写真でみる火山の自然史』町田洋/白尾元理、東大出版会、1998 年
『プレート収束帯のテクトニクス学』木村学、東大出版会、2002 年

【成績評価の方法と基準】
試験 (～ 90%)、平常点 (～ 10%) から総合的に判断する。なお、出席回数は評価点には加算されないが、2/3 以上の出席しないと、自動的に E 評価とする。14 回授業ならば 10 回以上の出席が必須。第 1 回授業からカウントする。

【学生の意見等からの気づき】
シラバス通りの授業内容を完遂できるよう時間配分を熟慮する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然地理学、（変動）地形学、第四紀学
＜研究テーマ＞
プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究
＜主要研究業績＞
前杢英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究. 地理科学, vol.60-3, pp.136-142.
Maemoku, H. et.al.（1997）： Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.
Maemoku, H. et.al. (2012)Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97 – 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline and objectives】
Lecture on fundamental geomorphology II

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験Ⅰ

小川　滋之

授業コード：A3420　｜　曜日・時限：**火曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，アジア，ヨーロッパ，オセアニアの寒帯から熱帯，乾燥帯など様々な地域の植生を取り上げ，その成因について気候や地質，地形，動物，人間生活などとの関係から考える．
世界中には植物が見られない地域はほとんどなく，どの地域でも何かしらの植物が景観の一部に含まれる．ただ見ていれば“植物”で終わるが，それぞれ地域ごとに特徴が異なる．こうしたことから，たとえば旅行でどこかの地域を訪れた時に，どんな植物が分布するのか．なぜ，そこに分布しているのかを少しでも考えられるようになれば観光地など地域への理解も深まる．このように植物から地域を理解する考え方を学ぶのがこの授業の目的である．

【到達目標】
（1）世界には様々な植生分布があることを理解すること．
（2）その地域の気候，地質，地形などから植生分布を考えられるようになること，あるいは植生分布から気候，地質，地形などが考えられるようになること．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は講義のみではなく，映像視聴や観察，実習を含む内容である．必要に応じて受講者から意見を集め，ディスカッションも交えて進行する．毎回の授業は，①前回復習と②質問や感想の紹介から始め，③今日の内容，最後に④次回予告と⑤小レポートという流れで行う．②質問や感想の紹介は，前回の授業に関する質問や感想を時間が許す限り答える．⑤小レポートは，授業内容に関連したものを出題し，授業終了までに解答する方法で行う．野外実習は，講義で紹介した植生分布を実際に観察し，現地でその成因についてディスカッションをしてもらう．
対面での授業が難しい場合は，ミーティングアプリ Zoom によるオンラインでの講義を行い，観察や実験の方法も変更する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	植生地理学とはどのような分野なのか．
第 2 回	植生分布に影響を及ぼす要因	気候，地質，地形が植生分布に及ぼす要因を解説する．
第 3 回	アジアの植生①　極東ロシアと北海道との関係	北海道の植生の成り立ちから北東アジアの植生分布について解説する．
第 4 回	アジアの植生②　朝鮮半島と本州との関係	本州にみられる冷温帯林の特徴．世界的にも珍しいブナの純林が生まれた背景を解説する．
第 5 回	野外実習（変更あり）	東京近郊において植生分布を左右する要因を観察する．
第 6 回	アジアの植生③　屋久島	縄文杉がみられる森林の成り立ちを気候と花崗岩による地質から解説する．
第 7 回	アジアの植生④　沖縄島，台湾，香港	暖温帯と亜熱帯の常緑広葉樹林の違いと島嶼における植生分布の特徴を解説する．
第 8 回	アジアの植生⑤　東南アジア	熱帯林の種類と特徴．フタバガキ科植物を中心に構成される森林の特徴を解説する．
第 9 回	ヨーロッパの植生①　北欧フィンランドとスコットランド	北欧の亜寒帯針葉樹林を事例をもとに，北東アジアの植生分布との関係を解説する．
第 10 回	ヨーロッパの植生②　自然植生とガーデン文化との関係	イングリッシュガーデンを事例に，ガーデン文化が生まれた背景と構造的な特徴を解説する．
第 11 回	ヨーロッパの植生③　南フランス	地中海沿岸地域の植生分布と観光地の景観を解説する．
第 12 回	ヨーロッパの植生④　スペイン領カナリア諸島	大西洋のガラパゴスといわれる島を事例に，海洋島と乾燥地域の植生分布について解説する．
第 13 回	オセアニアの植生　ニュージーランド	脊梁山脈によって異なる植生景観と外来種問題．温帯多雨林と乾性低木林の特徴を解説する．
第 14 回	まとめ	重要ポイントを再確認．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，授業の最後に次回内容の予告をする．次回，どのような地域を扱うのか事前に調べておくこと．準備学習・復習時間は 4 時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
使用せず．毎回の授業で必要な資料を配布する．

【参考書】
地図帳があると役立つ．参考文献や資料は授業中に紹介する．

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 点満点＋ α（小レポートなど，50 点満点）で評価する．
小レポートは，授業中にその回の内容に関わるテーマを出題して終了までに提出するという方法で行う．
オンライン授業の場合，期末試験あるいは代替レポート＋小レポートで採点する．小レポートの方法は、授業中に指示するが期限内での提出で出席とする．

【学生の意見等からの気づき】
小レポートの課題については次の授業で解説する．質問や要望については可能な限り対応する．

【学生が準備すべき機器他】
必要があれば授業中に指示する．

【その他の重要事項】
オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する．
野外実習は 5 月中に行う（変更あり）．

【Outline and objectives】
This class introduces basic thinking of vegetation geography. Objectives are to understand the following. (1) Factors affecting the distribution pattern of vegetation in polar, continental, temperate, tropical and dry climates of Asia, Europe and Oceania. (2) Relationship between vegetation, animal, human life and culture.

GEO200BF

生物・土壌地理学及び実験Ⅱ

小川　滋之

授業コード：A3421　｜　曜日・時限：**火曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業は土壌地理学に関わる内容を扱う．前半は土壌の性質や構造，生成という土壌の基礎を学び，世界中にみられる土壌の分布と成因について考える．後半は，野菜種子との関係，有機農業，アジアの伝統農業など，比較的身近な農業分野における土壌の特徴を事例に学ぶ．
土壌は，その地域の気候や地質，地形，植生などの影響を強く受けて成立したものであり，人間の生活や文化にも密接に関係しているといえる．しかし普段生活する中ではあまりなじみのない分野でもある．授業を通して，人間が生活する上で欠かせないものだということを理解してもらうのが目的である．

【到達目標】
（1）土壌の必要性について考えられるようになる
（2）土壌はすべて同じではなく様々な種類があることを理解する
（3）何気なく食する野菜が生まれた背景を土壌との関係から理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義のみではなく，映像視聴や観察，実験実習を含む内容である．必要に応じて受講者から意見を集め，ディスカッションも交えて進行する．毎回の授業は，①前回復習と②質問や感想の紹介から始め，③今日の内容，最後に④次回予告と⑤小レポートという流れで行う．②質問や感想の紹介は，前回の授業に関する質問や感想を時間が許す限り答える．⑤小レポートは，授業内容に関連したものを出題し，授業終了までに解答する方法で行う．実験実習は，講義で紹介した土壌を実際に観察し，その成因や環境についてディスカッションをしてもらう．
対面での授業が難しい場合は，ミーティングアプリ Zoom によるオンラインでの講義を行い，実験実習の方法も変更する．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	土壌地理学とはどのような分野なのか．講義の内容と目標を紹介．
第 2 回	土壌とは何か①	土壌の性質と構造．
第 3 回	土壌とは何か②	土壌の生成．異なる生成段階の土壌を室内で観察．
第 4 回	土壌の分布①	世界にみられる土壌分布とその分類方法とは．
第 5 回	土壌の分布②	日本列島の高山帯から温帯地域にみられる土壌分布．
第 6 回	土壌の分布③	日本列島の亜熱帯地域にみられる土壌分布．
第 7 回	土壌と農業①	農地の土壌環境，土壌の状態を診断する方法とは．
第 8 回	土壌と農業②	土壌と野菜種子との関係．
第 9 回	土壌と農業③	土壌にやさしい有機農業とは．
第 10 回	実験実習①（変更あり）	土壌の性質と構成を野外で観察．
第 11 回	実験実習②（変更あり）	様々な土壌を診断．
第 12 回	土壌と農業④	アジアの伝統農業とは．東南アジア山岳少数民族の事例から解説．
第 13 回	野菜の地理学	野菜は，どのように生まれて，どこから来たのか．野菜の伝播について解説．
第 14 回	まとめ	重要ポイントを再確認．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，授業の最後に次回の内容について予告を行う．事前に授業テーマに関連する項目や対象地域について調べておくこと．準備学習・復習時間は，4 時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
使用しない．毎回の授業で必要な資料を配布する．

【参考書】
適宜，授業中に参考文献や資料を紹介する．

【成績評価の方法と基準】
期末試験 100 点満点＋α（小レポート等、50 点満点）で評価する．
小レポートは，毎回の内容に関わるテーマを講義中に出題して終了までに提出するという方法で行う．
オンライン授業の場合，期末試験あるいは期末レポート（100 点満点）＋小レポートなど（50 点満点）で採点する．小レポートは、毎回の授業の最後に出題して締切日時までに提出するという方法で行う．なお，小レポートの提出をもって出席とみなす．

【学生の意見等からの気づき】
小レポートの課題については次の授業で解説する．質問や要望については可能な限り対応する．

【学生が準備すべき機器他】
必要があれば授業内で指示する．

【その他の重要事項】
オフィスアワー：毎回の授業終了後の教室やメールでも随時対応する．
実験実習： 11 月中に東京近郊あるいは室内で行う．
オンライン授業の場合，実験実習はオンラインで行うことを予定する．

【Outline and objectives】
This class introduces basic thinking of soil geography. Objectives are to understand the following. (1) Soil basics. (2) Soil distribution and factors influencing the soil pattern. (3) Relationship between agricultural soils and crops.

GEO200BF

気候・気象学及び実験Ⅰ

山口　隆子

授業コード：A3422　｜　曜日・時限：**火曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では気候学・気象学の基礎知識と日本の気候について学びます。

【到達目標】
気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、日本の身近な気候を中心に学ぶことにより、気候学的な観点から大気現象をとらえることが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートについては、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	気候学とは？	気候の定義と時空間スケール（大気候・中気候・小気候）
第 2 回	気候の表現方法	気候要素と気候因子について
第 3 回	気温	気温の日変化と地面の熱収支
第 4 回	気圧	気圧とは何か
第 5 回	風	風が吹く仕組み
第 6 回	雲と降水	雨が降る仕組み
第 7 回	日本の気候の特徴	4 つの気団と気圧配置（総観気候学）、気温、降水量、日照時間分布
第 8 回	日本の気候区分と気候誌	経験的気候区分と成因的気候区分
第 9 回	沿岸の気候	沿岸と内陸、海陸風
第 10 回	都市気候	ヒートアイランド現象
第 11 回	盆地の気候	盆地の気温と風
第 12 回	山岳の気候	山岳の気温と斜面温暖帯
第 13 回	局地風と気候景観	気象災害を引き起こす強風とフェーン現象
第 14 回	まとめ	春学期のまとめと筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義で実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』. ベレ出版, 261p.
仁科淳司（2019）：『やさしい気候学　第 4 版』. 古今書院, 144p.
森朗（2017）：『異常気象はなぜ増えたのか』. 祥伝社, 200p.
マーク＝マスソン（森島済監訳）(2016）：『気候』. 丸善, 198p.
古川武彦・大木勇人（2011）：『図解気象学入門』. 講談社, 301p.
小倉義光（2016）：『一般気象学　第２版補訂版』. 東京大学出版会, 320p.
水野一晴（2018）：『世界がわかる地理学入門』. 筑摩書房, 318p.
富田啓介（2017）：『はじめて地理学』. ベレ出版, 284p.

【成績評価の方法と基準】
小テスト・筆記試験： 70 %、課題： 30 %

【学生の意見等からの気づき】
講義資料は学習支援システムに掲載する。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料を学習支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】
「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を２年次で履修することが望ましい。なお、本科目「Ⅱ」の受講にはその内容理解の点から、この「Ⅰ」の履修を望む。さらに、本講義の受講生には予め１年次に「地学実験」を履修していることが望ましい。 なお、実験等があるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜します。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】
This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of Japan to students taking this course.

GEO200BF

気候・気象学及び実験Ⅱ

山口　隆子

授業コード：A3423　｜　曜日・時限：**火曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　**グローバル：**　**成績優秀：**○　**実務教員：**○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では気候学・気象学の基礎知識と世界の気候について学びます。

【到達目標】
気候・気象の基礎的な仕組みを学ぶとともに、大気大循環をはじめとした世界の気候を中心に学ぶことにより、地球温暖化などの今日的課題を理解出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
簡単な実験や実習などを適宜交えて講義を進行させます。リアクションペーパーや中間レポートは、コメントを付けて返却します。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	気候を身近にとらえる（導入）	本授業全体の概要。気候に関する博物館、科学館。
第 2 回	大気大循環	大気大循環とは何か
第 3 回	世界の気圧分布、地上風系、海流	気圧分布、季節風、風成循環、熱塩循環
第 4 回	世界の気温分布	地球の放射収支から考える
第 5 回	世界の降水量分布	世界の水収支
第 6 回	世界の気候区分	様々な気候区分
第 7 回	世界の気候景観	気候帯ごとの気候景観
第 8 回	異常気象	エルニーニョとラニーニャを事例として
第 9 回	地球温暖化（1）	地球温暖化の現状と今後
第 10 回	地球温暖化（2）	地球温暖化による影響
第 11 回	酸性雨	大気汚染
第 12 回	砂漠化	砂漠化の実態
第 13 回	気候変動・古気候	第四紀の気候変化と歴史時代以降の気候変化
第 14 回	気候学を学び続ける秋学期のまとめ（筆記試験）	どのように研究へと発展させていくか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実習的な課題が課される場合があるので、その際には自宅学習でそれを履行して出席すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
日下博幸（2013）：『学んでみると気候学はおもしろい』．ベレ出版，261p.
仁科淳司（2019）：『やさしい気候学　第 4 版』．古今書院，144p.
森朗（2017）：『異常気象はなぜ増えたのか』．祥伝社，200p.
マーク＝マスソン（森島済監訳）(2016）：『気候』．丸善，198p.
古川武彦・大木勇人（2011）：『図解気象学入門』．講談社，301p.
小倉義光（2016）：『一般気象学　第２版補訂版』．東京大学出版会，320p.
水野一晴（2018）：『世界がわかる地理学入門』．筑摩書房，318p.
富田啓介（2017）：『はじめて地理学』．ベレ出版，284p.

【成績評価の方法と基準】
小テスト・筆記試験： 70 %、課題： 30 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
講義資料を授業支援システムで配布するため、PC もしくはタブレットを用意することが望ましい。

【その他の重要事項】
「自然地理学演習（1）」を受講希望する学生は、本講義を２年次で履修することが望ましい。本科目「Ｉ」を履修していることが望ましい。地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】
This course introduces the basic knowledge of climatology and meteorology, and climate of the world to students taking this course.

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験Ⅰ

小寺　浩二

授業コード：A3424　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な基礎知識の習得を目指す。地域・課題としては、国内外の広範囲を対象とし、具体的な水問題に関する幅広い知識を習得する。

【到達目標】
海洋・陸水学、水文地理学、水文学の基礎知識を身につけると同時に、水環境情報の検索・整理・解析の基礎能力を修得する。
また、具体的な地域の水のサンプリングから分析まで行い、その結果を空間解析した上で主題図として表現する方法まで学び、具体的な水環境問題に取り組む基本的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎水文学としての水収支・水循環の視点から、水の性質がその場所の環境とどのように反応しその場所に則した存在となるか、といった広範囲な水の性格を取り上げる。また、水文地理学的視点に立った水環境情報の整理・解析・表現法についても指導する。
毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。
また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の基礎	概要と授業計画 降水・浸透・流出・蒸発散の地域特性
第 2 回	河川の基礎	河川の水環境と調査法 水害・土砂災害と砂防・水資源の利用
第 3 回	湖沼の基礎	湖沼特性と集水域環境 湖沼の水収支・熱収支
第 4 回	地下水の基礎	水循環と地下水 地下水流動
第 5 回	雪氷の基礎	降雪・積雪・融雪現象
第 6 回	海洋の基礎	沿岸域・閉鎖性水域
第 7 回	研究・調査計画	具体的課題決定と準備
第 8 回	調査法の基礎と準備	現地調査準備
第 9 回	調査結果の整理と解析	調査記録簿・台帳・分布図
第 10 回	水質分析①	濾過・アルカリ度・COD
第 11 回	水質分析②	シリカ・主要溶存成分・TOC
第 12 回	分析結果の整理と解析	ヘキサ・トリリニアダイアグラム
第 13 回	様々な水質表現法	分布図の作成と解釈 土地利用変化と流出変化
第 14 回	調査結果の考察	GIS を用いた解析と考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小寺浩二 (2019）：『自然地理学（海洋・陸水)』. 法政大学通信教育部

【参考書】
・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏一海洋と陸水』, 東海大学出版会, 211p, ￥2,625.
・新井　正（1994）：『水環境調査の基礎』, 古今書院, 168p, ￥2,625.
その他　授業ごとに適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
出席・課題・試験の結果を総合して評価する。配点は、出席３割・課題４割・試験３割を原則とするが、授業中に実施する実験レポートや小テストを評価に加え、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】
実験や実習に関する要望が多かったため、今年度は、適宜組み入れるようにする。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】
「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。あわせて海洋陸水学および実験Ⅱ・自然地理学演習（2）・地学実験・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞
１）水循環に伴う物質循環
２）人間活動に伴う水環境変化と保全
３）GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネージメント

【Outline and objectives】
When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical basic knowledge about the ocean and inland water science" which is the important one field. I make domestic and abroad wide range the subject and acquire wide knowledge about a water problem in detail as an area problem.

GEO200BF

海洋・陸水学及び実験Ⅱ

小寺　浩二

授業コード：A3425　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な知識の習得と応用能力の育成を目指す。講義の対象としては、国内外の具体的な課題を中心とする。

【到達目標】
海洋・陸水学、水文地理学、水文学の研究課題の基礎的知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用能力を身につける。
特に、①様々な水環境問題に関するレビュー、②具体的な資料の収集、③調査・研究法、④調査結果・収集データの整理、⑤各種データの解析、⑥結果の GIS を用いた表現などについて具体的な能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本分野における学習を深め、岩圏・水圏・気圏・生物圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水循環の過程における河川・湖沼などのあり方を、人間活動との関連を中心に、水収支・水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。
毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。
また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	海洋・陸水学の理論と応用	海洋・陸水学の基礎を踏まえて高度な理論と応用を理解する。
第 2 回	陸水学の理論と応用	陸水学全般の理論と応用を理解する
第 3 回	河川学の理論と応用	流域特性と流域 GIS 物質収支モデル
第 4 回	湖沼学の理論と応用	湖沼の分類・熱収支・集水域の物質収支
第 5 回	地下水学の理論と応用	水循環と地下水の挙動
第 6 回	雪氷学の理論と応用	降雪・積雪・融雪
第 7 回	海洋学の理論と応用	沿岸海域・閉鎖性水域
第 8 回	研究・調査計画	先行研究と地域特性
第 9 回	現地調査法	観測機材の補正・準備
第 10 回	現地調査結果整理解析	記録簿・台帳
第 11 回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度・EC・ｐ H
第 12 回	水質分析②	メンブラン濾過・シリカ・TOC・全窒素・全燐
第 13 回	水質分析結果整理解析	シュティフダイアグラム・トリリニアダイアグラム
第 14 回	総合的な解析・考察	GIS による分布図と解析・考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
小寺浩二 (2019):『自然地理学（海洋・陸水）』. 法政大学通信教育部

【参考書】
・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏 一海洋と陸水』, 東海大学出版会, 211p, ￥2,625
·新井　正（1994）：『水環境調査の基辞』, 古今書院, 168p, ￥2,625.
授業ごとに、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業内の実験・課題・試験を総合して評価する。配点は、実験３割、課題４割、試験３割を原則とするが、各授業に関する実験レポートや小テストを行ない、配点を修正する可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】
国内の事例だけでなく、国外についての要望もあったため、今年度は、国内・国外の具体的な調査・研究事例を扱う。

【学生が準備すべき機器他】
基本的には、毎回 PowerPoint や映像資料を活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーと GIS に関する技量が必要である。

【その他の重要事項】
「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。海洋陸水学および実験Ⅰの履修を前提とし、あわせて自然地理学演習（2）・地学実験・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞
１）水循環に伴う物質循環
２）人間活動に伴う水環境変化と保全
３）GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネージメント

【Outline and objectives】
When learning physical geography, I aim at acquisition of systematical knowledge and upbringing of the application ability about the ocean and inland water science" which is the important one field. The content of the lecture will focus on specific domestic and international issues..

HUG200BF

社会経済地理学（1）

小原　丈明

授業コード：A3426　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は社会経済地理学の基礎的科目として開講するものです。本年度は都市における様々な問題を題材にして，都市の構造や変化，社会的側面などの諸相を考えていきます。具体的には，発生場所や時代，内容などの観点から多岐にわたる都市問題を分類し，その背景や要因を社会的・空間的観点から考えていきます。

【到達目標】
本講義を通じて，地理学の立場から都市に関わる基本的な概念を理解できるようになります。また，都市問題を考えることを通じて，都市に関わる様々な事象の関係性や因果関係を，地理的（＝空間的）な観点から捉える力を身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義形式で行います。前述の通り，都市における様々な問題を題材にして，都市の構造や変化，社会的側面などの諸相を考えていきます。講義形式の授業であるため，担当者による話題提供が中心となりますが，講義内容に対して受講生自らの考えを表明することが大切であることから，授業中ならびに授業外でレポート課題を課すことがあります。授業外のレポート課題では，受講生自身が調べ，分析・考察することが求められます。
なお，課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。
今年度，本授業では基本的に対面形式の授業を行いますが，場合によっては，オンライン形式の授業になる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／都市の概念・成り立ち①	講義の方針・内容について／都市の概念・定義
第 2 回	都市の概念・成り立ち②	集落の成立
第 3 回	都市の概念・成り立ち③	都市の構造
第 4 回	都市問題①	都市問題の種類，発生場所
第 5 回	都市問題②	途上国の都市問題①
第 6 回	都市問題③	途上国の都市問題②
第 7 回	都市問題④	都心部の都市問題①
第 8 回	都市問題⑤	都心部の都市問題②
第 9 回	都市問題⑥	インナーシティの都市問題①
第 10 回	都市問題⑦	インナーシティの都市問題②
第 11 回	都市問題⑧	都市縁辺部の都市問題①
第 12 回	都市問題⑨	都市縁辺部の都市問題②
第 13 回	都市問題⑩	都市問題の時代的変遷
第 14 回	総括	まとめ・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に指示するレポート課題（授業内課題・授業外課題）に取り組んでもらいます。授業外のレポート課題では，実際に調査を行ってもらい，その上で分析・考察することを求めます。また，講義中に紹介する参考文献を積極的に読むことを期待します。なお，本授業の授業外学習（レポート課題・準備・予習・復習）は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】
本講義に関連する参考文献は講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内小レポート課題・授業外課題等）：30 %，筆記試験（持ち込み不可）：70 %。授業で扱う内容を正しく理解した上で，それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容は，できるかぎり各回で完結するよう心掛けますが，受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。

【Outline and objectives】
This course introduces the urban structures and the urban problems to students taking this course.

The goals of this course are to understand causes and influences of urban problems and the basic geographical concepts, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

HUG200BF

社会経済地理学（2）

伊藤　達也

授業コード：A3427　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業ではわが国の水問題を中心に全般的に学ぶとともに、自ら「身近な環境問題」を事例にレポートを作成することによって環境問題の現実の理解を目指します。

【到達目標】
授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。自らが作成するレポートからは、環境問題の現実を知り、より具体的に理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、DVD,PPT 等を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講義概要と目的の紹介
第 2 回	環境問題を考える視角	環境とは何か、環境問題とは何かについて説明します
第 3 回	環境の中の水資源	水資源の特徴について説明します
第 4 回	水資源利用の歴史	水資源利用の歴史について説明します
第 5 回	ダム・河口堰計画の特徴と環境コスト	ダム・河口堰による水資源開発の方法と環境コストについて説明します
第 6 回	環境問題を考える視角	日本の環境問題を考える視角について長良川河口堰問題を中心に説明します
第 7 回	全国のダム・河口堰反対運動	ダム・河口堰反対運動について説明します
第 8 回	ダムと山村	ダムが山村に与えた影響について説明します
第 9 回	利根川の水問題	利根川の水利用の現況と問題点について説明します
第 10 回	脱ダムの地域再生	熊本県五木村の地域再生について説明します
第 11 回	長良川河口堰開門検討委員会	長良川河口堰開門検討委員会の活動について説明します
第 12 回	農業用水と地域社会	わが国における農業用水の特徴と地域社会について説明します
第 13 回	カッパと水辺環境保全・地域振興	地域社会に占めるカッパ等妖怪の果たす役割について説明します
第 14 回	水環境を取り込んだ生活再編成	授業をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の中の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。そこからレポートのテーマを探してください。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。レポート作成に 2 時間をあててください。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。

【参考書】
参考書は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 70 %、レポート 30 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントの使用を基本とします。

【Outline and objectives】
The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in general, and aim to understand the reality of environmental problems by creating report on real environmental problem as examples.

HUG200BF

社会経済地理学（3）

片岡　義晴

授業コード：A3428　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「山村」を対象にして，その問題点を多面的に学びます。

【到達目標】
山村の特色、山村政策・対策、集落の現在、山村の産業、地域づくりなど、日本の「山村」が抱える問題点に関する客観的な理解度が深化し、それを通して日本社会の構造（＝仕組み）の一端が理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方】
かつて「過疎化」が進む代表的な場所として「山村」はとらえられてきました。一時期、過疎化は緩和されたと思われましたが、近年再び過疎化は進み、「限界集落」という用語も使われ、それに加えて「地方消滅」の議論すら登場するようになりました。過疎化の進展と近年の動向、産業（林業、農業）の動向、集落の機能と役割、地域づくりの展開等を検討することを通して、現代山村が抱える問題点について明らかにしていきます。「限界集落」「地方消滅」等の流行の用語についても検討を加えます。
【課題等に対するフィードバック方法】
授業の初めに、前回までの授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
【授業の進め方と方法】
講義形式で授業していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の山村の現局面 (1)	「山村」の概念と山村問題の地域性
第 2 回	日本の山村の現局面 (2)	山村問題の構造（都市資本・政策、山村内部の関連性）
第 3 回	過疎化の進展と山村振興策 (1) 日本の山村の現局面 (3)	過疎化の進展過程 山村問題の構造（都市資本、政策、山村内部）
第 4 回	過疎化の進展と山村振興策 (2)	山村振興法、過疎法
第 5 回	限界集落・消滅集落 (1)	限界集落のとらえ方、集落の機能
第 6 回	限界集落・消滅集落 (2)	山村の「空洞化」と「限界集落」論の問題点
第 7 回	「平成の大合併」と山村	大合併の要因と山村の危機
第 8 回	山村の産業 (1)	日本林業の動向
第 9 回	山村の産業 (2)	環境問題への注目と林業振興策
第 10 回	山村の産業 (3)	中山間地域農業の現状
第 11 回	山村の産業 (4)	中山間地域等直接支払制度
第 12 回	地域づくり (1)	山村堰堤論（静岡県龍山村森林組合の事例）
第 13 回	地域づくり (2)	自分たちで命を守ろうとした村（岩手県旧沢内村の事例）
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「地方」に関する報道に注視して下さい。「地方」に関するニュースは、東京近郊に居住していると、新聞ではその「片隅」にしか見いだせません。また、報道されても極めて「牧歌的」に語られるか、あるいは危機窮まっているかのような極端なものが多いのも事実です。それらの真偽のほどは如何に、と考えながら情報収集して下さい。
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。プリントを配布します。

【参考書】
小田切徳美（2009）『農山村再生－「限界集落」問題を超えて－』岩波書店（岩波ブックレット）

【成績評価の方法と基準】
学期末試験 100 %で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「山村問題」の解決策を提示することを、この授業ではめざしません。授業に対して「批判ばかりしている」という評価もしばしば受けます。しかし「客観的事実」を把握し、そのメカニズムを考えることから出発しない限り、真の意味での「解決策」にはなり得ないはずです。「安易」な解決策こそが、百害あって一利なしの、問題をより一層複雑化させている要因です。授業で「解決策」を示せるくらいなら、少なくとも日本からは、地域・社会問題など一掃されているはずです。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline and objectives】
Rural Problems in Japan.

HUG200BF

社会経済地理学（4）（エコツーリズム）

呉羽　正昭

授業コード：A3481　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
観光地理学を理解するために必要な諸概念（観光・ツーリズムの概念や構造など）、さまざまな地域的スケールでツーリズムに関する特徴について詳説します。加えて、エコツーリズムやそれを包含する自然ツーリズムの時間的・地域的展開みられる諸特徴と問題点、将来の課題について、具体的な地域事例を示しながら解説します。

【到達目標】
この授業は、観光の概念および観光地理学の方法論を習得すること、自然環境と観光・ツーリズムとの関係について、新しいツーリズムの形態であるエコツーリズムについて、日本における自然ツーリズムの地域的特徴について理解することを目標とします。ツーリズムやさらにそれを取り巻く生活・文化に関する地域的特色の理解を通じて、広い視野で現代社会を主体的に考察する視点を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。準備学習のまとめに使用するとともに、講義内容に関する意見・質問も記入してもらい、不明点を次回以降の講義で説明することを通じて理解度を確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	観光の概念　―観光やツーリズムとは何か？	観光やツーリズムとは何かを解説します
第 2 回	観光・ツーリズムの構造　―観光・ツーリズムの要素と構造	観光・ツーリズムの要素や構造を解説します
第 3 回	観光地理学の概念　―概念および方法論	観光地理学の概念および方法論を解説します
第 4 回	観光地域の変容プロセス　―モデルの解説	モデルに基づいて観光地域の変容プロセスを解説します
第 5 回	観光・ツーリズムの変遷　―古代～マスツーリズム時代～新しいツーリズムの出現	ツーリズムの変遷について解説します
第 6 回	自然環境と観光・ツーリズム　―自然環境と観光・ツーリズムとの関係とその変遷	自然環境と観光・ツーリズムとの関係について解説します
第 7 回	エコツーリズムの定義　―エコツーリズムとは何か？	エコツーリズムとは何かを解説します
第 8 回	エコツーリズムの発展　―エコツーリズムの発展プロセス	エコツーリズムの発展プロセスを解説します
第 9 回	エコツーリズムの特徴と展望　―西表島や屋久島などにおけるエコツーリズム	西表島や屋久島などの事例をもとにエコツーリズムの特徴や課題を解説します
第 10 回	ジオツーリズムの特徴と展望　― 国内外の事例	エコツーリズムに類似する点の多いジオツーリズムに関して、国内外の事例をもとに解説します
第 11 回	日本の自然ツーリズム（1）　― 避暑の地域的展開	避暑の地域的展開に関して解説します
第 12 回	日本の自然ツーリズム（2）　― 湯治・温泉ツーリズムの地域的展開	湯治・温泉ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第 13 回	日本の自然ツーリズム（3）　― リゾートの地域的展開	リゾートの地域的展開に関して解説します
第 14 回	日本のルーラル・ツーリズム　―ルーラル・ツーリズムの地域的展開	ルーラル・ツーリズムの地域的展開に関して解説します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義中に教員から示された次回講義のトピックに関する課題について、授業外に既存文献やインターネットなどで自ら調べます。その内容は次回講義の最初にリアクションペーパーにまとめます。講義後、リアクションペーパー記載内容が講義説明の中でどのように位置づけられるのかなどを自己確認します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業中の説明で使用する図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

【参考書】
岡本伸之編 2001『観光学入門』有斐閣.
溝尾良隆編 2009『観光学の基礎』原書房.
（財）日本交通公社編 2004『観光読本第 2 版』東洋経済新報社.
真板昭夫・石森秀三・海津ゆりえ編 2011『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社.
ピアス，D. 著，内藤嘉昭訳 2001『現代観光地理学』明石書店.
江口信清・藤巻正己編 2011『観光研究レファレンスデータベース』ナカニシヤ出版.
呉羽正昭 2017『スキーリゾートの発展プロセス：日本とオーストリアの比較研究』二宮書店.
矢ヶ﨑典隆・山下清海・加賀美雅弘編 2018『グローバリゼーション　縮小する世界』朝倉書店.

【成績評価の方法と基準】
この講義の目標に達したかどうかを期末試験（全体の 60 %）で評価します。また、毎時間提出してもらうリアクションペーパーの記載内容を評価して平常点（同 40 %）とします。

【学生の意見等からの気づき】
パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

【Outline and objectives】
Instructor will explain various concepts necessary for understanding geography of tourism (concepts and structures of tourism and sightseeing, etc.) and features related to tourism on various regional scales. In addition, the instructor will explain various features, problems and future challenges of ecotourism and nature-based tourism that encompasses it, while showing specific regional examples.

HUG200BF

文化地理学（1）

中俣　均

授業コード：A3482　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(人文) 地理学の本流である (と私は考える）文化地理学について，古典的・基本的な知識や概念，方法を、学説史の中に適切に位置付けながら、解説する。

【到達目標】
(人文) 地理学の本流である文化地理学について，古典的・基本的な知識や概念，方法を学ぶこと、とくに C.O.Sauer および Berkeley School の文化地理学の内容を理解することが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
20 世紀前半に隆盛をみた C.O.Sauer を学祖とするバークレイ学派の文化地理学を中心に講義し，併せて日本における文化地理学の発生やその伝統についても触れる。教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	近代地理学の発生	文化地理学成立の背景
第 3 回	C.Sauer の文化景観論	文化景観形成モデルについて
第 4 回	C.Sauer の地理学ー文化伝播について	農耕起源論など
第 5 回	文化地理学の五つのテーマ	文化地理学研究の手順
第 6 回	Sauer と Berkeley 学派	文化生態学の成立
第 7 回	文化生態学のモノグラフ	奄美諸島における「サトウキビ栽培と住民生活
第 8 回	照葉樹林文化論	日本版の文化生態学
第 9 回	日本列島の文化史（1）	先史時代の景観形成プロセス
第 10 回	日本列島の文化史（2）	水田稲作農耕の進展
第 11 回	日本列島の文化史（3）	米を基軸にした社会の展開と景観
第 12 回	日本列島の文化史（4）	高度成長期以降の社会変化と景観
第 13 回	Sauer の文化概念の問題点	素朴実証主義への批判
第 14 回	沖縄八重山のマラリア問題について	千葉徳爾の文化生態学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回の授業時に、各回の講義内容に関連した詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】
◎中俣均編著 (2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）￥3980.
◎高橋伸夫編著 (1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）￥2575.
◎中川正/森正人/神田孝治 (2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）￥2520.
また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の結果 (70 %) と平常点（30 %）を成績判定の材料とする。平常点とは、数回提出してもらう課題レポートの成績のことである。

【学生の意見等からの気づき】
１限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of classic Cultural Geography.

HUG200BF

文化地理学（2）

中俣　均

授業コード：A3483　｜　曜日・時限：**金曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(人文) 地理学の本流である (と私は考える）文化地理学について，古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野の最新の知識や概念，方法を解説する。したがって，春学期の文化地理学（1）と内容的に深い関連をもつので，文化地理学（1）の履修を前提として講義を進める。

【到達目標】
(人文) 地理学の本流である文化地理学について，古典的な文化地理学の基礎の上に、この分野での最新の知識や概念，方法を学ぶことが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
春学期の講義を踏まえながら，1980 年代から顕著になってきた新しい「景観」概念と，いわゆる Cultural Turn(文化論的転回) を経た「新しい文化地理学」について紹介し，同時にそれらの具体的研究成果の意味なども探ってみたい。教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	春学期の復習と補足
第 2 回	Berkeley 学派の文化概念とその批判	素朴実証主義への批判
第 3 回	景観概念の再考・拡張・変化	景観の客観性への懐疑
第 4 回	主観の地理学 (1)	E.Relph と Yi-Fu.Tuan
第 5 回	主観の地理学 (2)	人文主義地理学
第 6 回	風水論 (1)	景観創造の主観の解読
第 7 回	風水論 (2)	日本の古代宮都の立地原理
第 8 回	風水論 (3)	現代に生きる風水
第 9 回	場所イメージ論	共同主観の形成過程
第 10 回	文化概念の再考	構築主義へ
第 11 回	競われる空間の意味	空間の意味の争奪戦
第 12 回	伝統文化の創造	Invented Tradition　という考え方について
第 13 回	景観のイデオロギー性	民族・ジェンダー
第 14 回	新しい文化地理学	社会理論への接近

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
初回の授業時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
とくには使用しないが、下記の参考書は時に応じて開いてみてほしい。

【参考書】
◎中俣均編著 (2011)：『空間の文化地理』(朝倉書店)￥3980.
◎高橋伸夫編著 (1995)：『文化地理学入門』（東洋書林）￥2575.
◎中川正/森正人/神田孝治 (2006)：『文化地理学ガイダンス』（ナカニシヤ出版）￥2520.
また講義開始時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布する。

【成績評価の方法と基準】
学期末試験の結果 (70 %) と平常点（30 %）を成績判定の材料とする。平常点とは、数回提出してもらう課題レポートの成績のことである。

【学生の意見等からの気づき】
１限の授業への出席が辛い、という感想をしばしば聞くが、その気持ちを持ち続けて学生生活を送ろうと考えることと、本科目の履修登録とは両立しないであろう。どちらを選択するかは学生一人一人の自由である。本学の教室事情（数十名収容可能な教室の数とそれらの使用状況）についても理解してほしい。

【その他の重要事項】
できるだけ文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of contemporary Cultural Geography.

GEO300BF

地理学史

中俣　均

授業コード：A3513　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理学という「思想」の発生と展開、およびその背景を、過去の時代の文脈に即して理解し、現在の、そして将来の地理学のありかたを模索するのが、地理学史を学ぶ意味であろう。本科目では、A.Humboldt 以降の近代地理学の歩みを概観し、現代の地理学の存立基盤について講義する。半期授業なので、網羅的というよりはトピカルにエピソードを取り上げていくが、それら個々のことがらにこだわるよりも、おおまかな「思想」の流れを理解することが大切である。

【到達目標】
近代地理学の歩みについて、おおよそのイメージを持てるようになるとともに、受講者各自の地理学的な関心のあり方が、そうした文脈の中のどういったところに位置付けられるものかを自覚できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
近代地理学におけるパラダイム転換に寄与したと考えられるいく人かの人物や業績について、適宜具体的に取り上げてその意味を考える。初めに、世界の地理学の歩みについて概観したあと、日本の、とくにアカデミズムの地理学の歴史を、いくつかの「論争」を題材にしながら講義する。なお、主題はもっぱら、人文地理学分野を中心としたものになろう。教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	Darwin と進化主義思想の浸透	サンゴ礁の多様性
第 3 回	自然環境決定論	ハンチントンの気候決定論の問題点
第 4 回	景観概念の成立	関係から景観へ
第 5 回	Hartshorn の地理学方法論	地誌こそ地理学
第 6 回	Shaefer の「例外主義」批判	理論・計量地理学へ
第 7 回	Harris の都市の機能分類	計量地理学の盛衰
第 8 回	Relpf の近代主義批判	没場所性
第 9 回	Tuan の Humanism	トポフィリア
第 10 回	空間論的転回	20 世紀末の地理学の革新
第 11 回	帝国大学の地理学	日本のアカデミズムの地理学
第 12 回	和辻哲郎と「風土」	「風土」概念の問題点について
第 13 回	砺波散村成立論争	日本の人文地理学の黎明
第 14 回	総まとめと整理	世界地理学の地理学と日本の

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の講義の内容を、かならず振り返ってノートを整理しておくこと。また、できるなら各回のテーマに関連する原著論文を部分的にでもよいから読んでみようとすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　とくには使用しない。

【参考書】
◎杉浦芳夫 (1999)：地理学の歴史　歴史の地理学.
　『AERA MOOK 地理学がわかる』（朝日新聞社）
◎手塚章 (1988)：地理学の伝統と革新.
　中村和郎・高橋伸夫編『地理学講座 1　地理学への招待』（古今書院）
◎岡田俊裕 (2002)：『地理学史　人物と論争』（古今書院）

【成績評価の方法と基準】
原則として学期末の筆記試験（持ち込み自由）の結果により成績を評価する(100%)。なお、継続的に授業に出席しなければ単位取得は覚束ないと心得てほしい。

【学生の意見等からの気づき】
普段の授業ではあまり登場しない地理学者や地理学概念が頻出するであろうから、そういったトピックを受講者自身の興味関心にできるだけ引きつけて理解できるように心がけてほしい。

【Outline and objectives】
This course deals with the brief history of Human Geography.

GEO400BF

自然地理学演習（1）

山口　隆子

授業コード：A3434　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習は自然地理学のうち気候学、生気象学などを中心テーマとして扱うが、自然環境全般を対象としている。３年生は学術論文やグループワークを通して、自然地理学研究に対する知識・方法論を獲得することを目標とする。４年生は卒業論文の作成を目標とする。

【到達目標】
本演習の狙いや位置づけは、大学という学習の場にあって、単なる講義科目とは異なり、少人数での意見交換やプレゼンテーションを通じて、各自の思考力・創造力を高めることにあります。さらに、オリジナリティのある「卒業論文」を完成させ、学士号を取得することが最終目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
３年生を中心に運営していきます。４年生は卒業論文の構想発表、中間発表、最終発表などを通して、計画的に卒業論文執筆に取組んでいくとともに、３年生にアドバイスすることを通して、自らの卒業論文にフィードバックさせていくこととします。具体的な運営方法は、第１回目のゼミで話し合います。教員は、各発表に対して講評を行うとともに、オフィス・アワー等に研究室で指導を行っていきます。対面での講義が実施できない場合、ZOOM によるオンライン授業になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	１年間のゼミ運営について説明・決定
第 2 回	卒論構想発表	４年生の卒論構想発表
第 3 回	卒論構想発表	４年生の卒論構想発表
第 4 回	グループワーク	ゼミ合宿で訪問する地域を対象とした研究を検討
第 5 回	学生論文紹介	３年生３名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 6 回	学生論文紹介	３年生３名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 7 回	学生論文紹介	３年生３名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 8 回	学生論文紹介	３年生３名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 9 回	学生論文紹介	３年生３名の学生が論文を発表・紹介し、議論する。
第 10 回	グループ研究テーマ発表	グループごとに、研究テーマを発表
第 11 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表①
第 12 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表①
第 13 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表①
第 14 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表①

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表②
第 16 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表②
第 17 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表②
第 18 回	卒論中間発表	４年生の卒論中間発表②
第 19 回	グループ発表	グループごとに中間発表
第 20 回	卒論構想発表	３年生の卒論構想発表
第 21 回	卒論構想発表	３年生の卒論構想発表
第 22 回	卒論構想発表	３年生の卒論構想発表
第 23 回	卒論構想発表	３年生の卒論構想発表
第 24 回	グループ発表	グループごとに研究内容を発表
第 25 回	卒論最終発表	４年生の卒論発表
第 26 回	卒論最終発表	４年生の卒論発表
第 27 回	卒論最終発表	４年生の卒論発表
第 28 回	まとめ	今年度のまとめと翌年度に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の演習の内容を前提に、各自、ないし各グループで準備すること。論文発表・紹介の際には、２週間前までに論文を決定・提出すること。発表者は、必ずレジュメ（A3 もしくは A4　1 枚）を人数分準備し、パワーポイントを用いて発表すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
必要に応じてその都度、紹介する。

【参考書】
泉岳樹・松山洋（2017）：『卒論・修論のための自然地理学フィールド調査』. 古今書院，120 p.

【成績評価の方法と基準】
ゼミという科目の性格上、出席状況と本演習の場へ臨む「姿勢・取り組み方」（30 %)、「討論への参加と応答」（30 %)、「発表内容」（40 %）などを重視します。基本的に全回出席が原則です。休む時は理由の連絡をすること。

【学生の意見等からの気づき】
グループディスカッションの時間を増やします。

【その他の重要事項】
地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、自然環境全般の実践的な課題への取り組み方を指導していきます。

【Outline and objectives】
Although this exercise treats climatology, biometeorology and so on among the natural geography as the central theme, it covers the whole natural environment. Third graders aim to acquire knowledge and methodology for natural geography research through academic papers and group work. The 4th graders aim to create graduation theses.

GEO400BF

自然地理学演習（2）

小寺　浩二

授業コード：A3435　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「自然地理学」に関する調査・研究を行う基本的な能力を総合的に養う。原則として、各地で顕在化している水環境にかかわる課題に取り組む上で必要な水環境データの考察手法について習熟し，その手法，解釈・考察に関しても学ぶ。

一方、地理空間情報解析を唯一重点的に扱うゼミとして、自然地理学・人文地理学の分野にかかわらず、ＧＩＳを用いた地理学諸分野の研究についての基礎と応用についても学ぶ。

【到達目標】
水環境を中心とした自然地理学の基礎知識と調査・研究の基礎能力を修得する。

地理空間情報解析についても、基礎的な知識を身につけ、GIS を自由に活用できる能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「海洋・陸水学及び実験Ⅰ、Ⅱ」の講義内容に沿った具体的な課題に対する演習を中心とするが、環境問題に関わる異分野の文献も取り上げる。また、研究テーマ選定から、現地調査により得られる観測データに基づき，解析と図化の方法などの課題を通じて，研究遂行上必要な基本的能力の修得を目指す。

毎回、複数のテーマを分担し、事前に要旨などの資料を提出するとともに、PowerPoint を用いて発表し、質疑応答した上で、総括としてコメントする。

また、いわゆる「ゼミ論」の最終的な提出を求め、順序に従って、①文献リスト、②文献レビュー、③研究計画書、④調査計画書、⑤調査結果報告書、⑥中間発表、⑦最終発表などのレジメを提出し、PowerPoint による発表を行い、その結果をもとに指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	概要と計画	ゼミの概要と年間計画
第 2 回	様々な水環境問題	3 分間スピーチ
第 3 回	研究・調査法	研究手法調査と方法論
第 4 回	先行研究と課題	該当課題の概略理解
第 5 回	現地調査法	機材の整備と準備
第 6 回	調査結果整理①	調査簿・分布図
第 7 回	調査結果整理②	台帳・分布図（複合）
第 8 回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度
第 9 回	水質分析②	メンブラン濾過・TOC
第 10 回	分析結果表現①	ヘキサダイアグラム
第 11 回	分析結果表現②	トリリニアダイアグラム
第 12 回	分析結果表現③	複合表現
第 13 回	水文誌	水環境情報の整理
第 14 回	地域特性解析	複合的な情報解析

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	まとめと課題	春学期の反省と秋学期計画
第 16 回	夏期休暇活動報告	休暇中の研究報告
第 17 回	秋学期の課題と展望	研究結果中間報告
第 18 回	研究・調査計画	研究・調査方法修正
第 19 回	先行研究と課題	該当課題理解を深める

第 20 回	現地調査法	新調査法開発
第 21 回	調査結果整理①	調査簿・分布図
第 22 回	調査結果整理②	台帳・分布図（複合）
第 23 回	水質分析①	簡易濾過・アルカリ度
第 24 回	水質分析②	メンブラン濾過・TOC
第 25 回	分析結果表現①	ヘキサダイアグラム
第 26 回	分析結果表現②	トリリニアダイアグラム
第 27 回	分析結果表現③	複合表現
第 28 回	まとめ	結果の整理と考察

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自然環境・水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

課題・テーマに沿った発表を中心とするので、テキストは使用しない。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点と最終的なゼミ論によって評価を実施する。調査地域の水環境を事前に文献で調査し、与えられた課題についての文献調査結果をとりまとめ発表し、討論に参加することを期待する。平常点 50%、ゼミ論 50%の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

水環境分野に限らず、環境にかかわる幅広い分野に対応するように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

データ整理・解析などにパソコンを用いる。

【その他の重要事項】

受講に際しては、「地学実験」、「海洋・陸水学」及び「地理情報システム（GIS）」の履修を原則とするが、本分野で卒論を書かない学生（4 年生含む）の履修も歓迎する。

様々な分野の研究事例を学ぶことで，調査・研究の遂行上必要な基礎知識・データ管理・処理方法などの修得が可能である。異分野専攻の学生にも実感してもらいたい。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞
1）水循環に伴う物質循環
2）人間活動に伴う水環境変化と保全
3）GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネージメント

【Outline and objectives】

The basis ability of the elementary knowledge, the investigation and the study of the physiography which made the aqueous environment the center is acquired.
I also put on basic knowledge about a geographical spatial information analysis and bring the ability for which GIS can be utilized freely up.

GEO400BF

自然地理学演習（3）

前杢　英明

授業コード：A3436　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習は自然地理学のうち「地形」を中心とした内容であるが、第四紀学、自然災害科学、および人類文明環境史など、自然地理学が関係する周辺諸科学の領域についても自由に学習・議論し、自然環境と持続可能な人間社会のあり方について考察を深める。

【到達目標】

自然地理学諸分野の研究成果に自らが積極的に触れ、批判的に読み解き、また他者と議論する過程を通して、新たな現代的課題を発見し、自分自身がその解決手法を考え、実践していく能力を身に付ける。その成果は、卒業論文として実を結び学士号を取得することが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

ゼミは 3 年生を中心に運営して行く予定である。4 年生は自らの卒業論文の中間発表、最終発表などを授業計画に組み込むことによって、緊張感をもって卒論執筆に取り組むことができる。具体的な運営方法は第 1 回目のゼミで話しあう予定。教室での発表（プレゼンソフト使用が原則）、議論以外に、スポット的な野外調査や巡検、合宿なども想定している。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	1 年間のゼミ運営について議論・説明する
第 2 回	卒論構想発表 1	4 年生が春休みにまとめた卒論の枠組み（章構成）を発表する
第 3 回	卒論構想発表 2	4 年生が春休みにまとめた卒論の枠組み（章構成）を発表する
第 4 回	学生文献発表 1	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する。
第 5 回	学生文献発表 2	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 6 回	学生文献発表 3	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 7 回	学生文献発表 4	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 8 回	学生文献発表 5	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 9 回	学生文献発表 6	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 10 回	学生文献発表 7	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 11 回	学生文献発表 8	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 12 回	学生文献発表 9	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 13 回	卒論中間発表 1	4 年生の卒論中間発表
第 14 回	卒論中間発表 2	4 年生の卒論中間発表

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	ガイダンス	秋学期のゼミ運営について議論・説明する。
第 16 回	学生文献発表 10	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 17 回	学生文献発表 11	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 18 回	学生文献発表 12	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 19 回	学生文献発表 13	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 20 回	卒論中間発表 3	4 年生が卒論の中間発表を行う。合宿形式で行う。
第 21 回	卒論中間発表 4	4 年生が卒論の中間発表を行う。合宿形式で行う。
第 22 回	学生文献発表 14	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する

第 23 回	学生文献発表 15	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 24 回	学生文献発表 16	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 25 回	学生文献発表 17	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 26 回	学生文献発表 18	3 年生が自分が興味ある分野の学術論文を紹介し、議論する
第 27 回	3 年生卒論構想発表 1	卒論に向けたプレゼンテーション（第一次案）
第 28 回	3 年生卒論構想発表 2	卒論に向けたプレゼンテーション（第一次案）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
発表準備、プレゼンの工夫など、関連ビジネス書なども参考にする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。授業支援システムに授業資料をアップするので、各自授業に持参してほしい。

【参考書】
授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%
発表､議論への積極的参加。基本的に全回出席が原則。休む時は理由の連絡をすること。理由にかかわらず 1/3 以上欠席の場合評価しない。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン（もしあれば）、powerpoint

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
自然地理学、（変動）地形学、第四紀学
＜研究テーマ＞
プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究
＜主要研究業績＞
前杢英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究．地理科学，vol.60-3，pp.136-142.
Maemoku, H. et.al.（1997）： Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.
Maemoku, H. et.al. (2012)Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97 – 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline and objectives】
Training to make research work on Physical Geography

HUG400BF

人文地理学演習（1）

小田　宏信

授業コード：A3437 ｜ 曜日・時限：**火曜 3 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、人文地理学のなかでも経済地理・産業地理・都市地理分野の卒業論文を書くことができるように、当該分野の研究上の関心や学術論文作成に必要な基礎的な事項を学びます。３年生は研究の前提となる問題意識を深め、４年生は卒業論文作成を中心に行います。

【到達目標】
（1）学界における研究の流れをある程度踏まえた上で、学術論文（卒業論文）のテーマを自ら設定できる。
（2）研究に必要なデータを自ら獲得して、それを加工の上、分析・考察ができる。
（3）学術論文作成の基本が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
4 年生は、卒業論文の進捗状況を報告してもらいます。３年生は、テキストに基づき、各研究領域における問題意識や基本概念、研究事例等を報告してもらいつつ、各自の卒論構想につなげていってもらいます。グループワークを取り入れる場合があります。
フィードバックは、発表の際に口頭でお伝えするほか、個別の指導機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	自己紹介，発表順番の決定など
第 2 回	地理学論文の作法（1）	研究テーマの設定，文献収集の方法など
第 3 回	地理学論文の作法（2）	調査法、図表表現など
第 4 回	4 年生による卒業論文の進捗報告一巡目 (1)：ルーラル系	卒業論文作成に向けて，調査方法・調査計画について発表する
第 5 回	4 年生による卒業論文の進捗報告一巡目 (2)：アーバン系	卒業論文作成に向けて，調査方法・調査計画について発表する
第 6 回	3 年生による発表一巡目 (1)：情報化、グローバル化、サービス経済化、イノベーション等に関連するテーマ	テキストをもとに、発表コンテンツを考える。
第 7 回	3 年生による発表一巡目 (2)：産地、工業地域、産業の空間システム等に関連するテーマ	テキストをもとに、発表コンテンツを考える。
第 8 回	3 年生による発表一巡目 (3)：商業、流通等に関連するテーマ	テキストをもとに、発表コンテンツを考える。
第 9 回	3 年生による発表一巡目 (4)：都市、人口、社会等に関連するテーマ	テキストをもとに、発表コンテンツを考える。
第 10 回	3 年生による発表一巡目 (5)：地域経済開発、国土政策等に関連するテーマ	テキストをもとに、発表コンテンツを考える。
第 11 回	4 年生による卒業論文の進捗報告二巡目 (1)：農業、農村系	卒業論文作成に向けて，調査方法・調査計画について発表する

第 12 回	4 年生による卒業論文の進捗報告二巡目 (2)：産業系	卒業論文作成に向けて，調査方法・調査計画について発表する
第 13 回	4 年生による卒業論文の進捗報告二巡目 (2)：都市、商業系	卒業論文作成に向けて，調査方法・調査計画について発表する
第 14 回	夏季休暇前の最終報告	4 年生および 3 年生の発表

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	夏季休暇中の成果報告について	4 年生および 3 年生の発表
第 16 回	4 年生による卒業論文の進捗報告三巡目 (1)	夏期休暇中に行った調査の結果報告，データの分析
第 17 回	4 年生による卒業論文の進捗報告三巡目 (2)	夏期休暇中に行った調査の結果報告，データの分析
第 18 回	4 年生による卒業論文の進捗報告三巡目 (3)	夏期休暇中に行った調査の結果報告，データの分析
第 19 回	3 年生による発表二巡目 (1)	夏期休業中の探究課題についての成果発表
第 20 回	3 年生による発表二巡目 (2)	夏期休業中の探究課題についての成果発表
第 21 回	3 年生による発表二巡目 (3)	夏期休業中の探究課題についての成果発表
第 22 回	4 年生による卒業論文の最終報告 (1)	卒業論文のストーリーを組み立て，下書き提出に向けて発表する
第 23 回	4 年生による卒業論文の最終報告 (2)	卒業論文のストーリーを組み立て，下書き提出に向けて発表する
第 24 回	4 年生による卒業論文の最終報告 (3)	卒業論文のストーリーを組み立て，下書き提出に向けて発表する
第 25 回	4 年生による卒業論文の最終報告 (4)	卒業論文のストーリーを組み立て，下書き提出に向けて発表する
第 26 回	4 年生による卒業論文の最終報告 (5)	卒業論文のストーリーを組み立て，下書き提出に向けて発表する
第 27 回	3 年生による卒業論文テーマの発表①	翌年度の卒業論文作成にむけてテーマと先行研究を発表する
第 28 回	3 年生による卒業論文テーマの発表②	翌年度の卒業論文作成にむけてテーマと先行研究を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

4 年生は、卒業論文にむけて、先行研究の読み込み、データの収集、執筆などゼミ以外の時間にも、十分に時間をかけて各自で行ってください。グループワークでは，授業時間外の作業が多くなります。文献調査やデータ収集、レジュメの作成などを授業外で行う時間が多くなるでしょう。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準としますが、自身の発表の際には相応の準備時間が必要でしょう。

【テキスト（教科書）】

経済地理学会編『キーワードで読む経済地理学』原書房。（必ずご用意ください。現在販売しているものはオンデマンド版となります）

【参考書】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房。
ほか適宜、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（ゼミへの参加状況、発表内容で評価します。出席がもっとも重視されます。）

【学生の意見等からの気づき】

リリーフ役ですがよろしくお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

対面ないしオンラインかという状況に応じて、別途、お知らせいたします。

【その他の重要事項】

研究の進捗について、時間外で面談を行うことがあります。その場合、担当者の本務校までお越しいただくのはお気の毒ですので Zoom を使用する予定です。

【Outline and objectives】

This course examines building foundation skills to write papers in economic and industrial geography.

HUG400BF

人文地理学演習（2）

中俣　均

授業コード：A3438　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミで体得すべきことは，
① 書物や論文を「批判的に」読みこなす
② 発表の際のレジュメを「説得的に」書く
③ 特定のテーマを特定の場で発表（プレゼンテーション）しそれについて「生産的に」議論する の 3 点である。したがって，必然的に「出席なくして発言なし，発言なくして議論なし，議論なくして単位なし」ということになる。とくに肩肘はらずにフランクに，しかし節度を守って活発に議論するという習慣を身につけることを重視したい。議論に加わることは最初はなかなか勇気のいることかもしれないが、自分で自分の殻を破って活発に発言できるよう、ぜひつとめてほしい、そうした過程を経てこそ，お互いに真の意味での学友となり得ると考えるからである。

【到達目標】

上記①～③に習熟すること。特に、①と③を具体的目標として強調しておく。また 4 年生にとってはきちんとした卒業論文を執筆するための準備をこの授業を通じて行なうことが大きな目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業と、学習支援システムを通じての課題学習とを併用する。課題については、できるだけコメントを付して受講者に返却するとともに、対面授業で課題の意図・意味を詳しく説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】

通年

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	参加者の確定など
第 2 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング（1）	2～3 年生の課題論文読みこなしと発表 (1)
第 3 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング（2）	2～3 年生の課題論文読みこなしと発表 (2)
第 4 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング（3）	2～3 年生の課題論文読みこなしと発表 (3)
第 5 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング（4）	2～3 年生の課題論文読みこなしと発表 (4)
第 6 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング（5）	同 2～3 年生の課題論文読みこなしと発表（5）
第 7 回	主として 2～3 年生用の基礎的トレーニング（6）	同 2～3 年生の課題論文読みこなしと発表（6）
第 8 回	卒業論文作成に向けた共同指導（1）	4 年生の卒論第 1 次中間発表 (1)
第 9 回	卒業論文作成に向けた共同指導（2）	4 年生の卒論第 1 次中間発表 (2)
第 10 回	卒業論文作成に向けた共同指導（3）	4 年生の卒論第 1 次中間発表 (3)
第 11 回	卒業論文作成に向けた共同指導（4）	4 年生の卒論第 1 次中間発表 (4)
第 12 回	卒業論文作成に向けた共同指導（5）	4 年生の卒論第 1 次中間発表 (5)
第 13 回	参加者全体での議論（1）	共通テキスト読解と報告・議論 (1)
第 14 回	参加者全体での議論（5）	共通テキスト読解と報告・議論 (2)

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	参加者全体での議論（3）	共通テキスト読解と報告・議論 (3)
第 16 回	参加者全体での議論（4）	共通テキスト読解と報告・議論 (4)
第 17 回	参加者全体での議論（5）	共通テキスト読解と報告・議論 (5)
第 18 回	参加者全体での議論（6）	共通テキスト読解と報告・議論 (6)
第 19 回	参加者全体での議論（7）	共通テキスト読解と報告・議論 (7)
第 20 回	参加者全体での議論（8）	共通テキスト読解と報告・議論 (8)
第 21 回	卒業論文作成に向けた共同指導Ⅱ (1)	4 年生の卒論最終中間発表 (1)
第 22 回	卒業論文作成に向けた共同指導Ⅱ（2）	4 年生の卒論最終中間発表 (2)
第 23 回	卒業論文作成に向けた共同指導Ⅱ（3）	4 年生の卒論最終中間発表 (3)
第 24 回	卒業論文作成に向けた共同指導Ⅱ（4）	4 年生の卒論最終中間発表 (4)

第 25 回	卒業論文作成に向けた共同指導（5）	4 年生の卒論最終中間発表 (5)
第 26 回	参加者全体での議論の総まとめ（1）	共通テキスト関連諸文献の読解と報告・議論 (1)
第 27 回	参加者全体での議論の総まとめ（2）	共通テキスト関連諸文献の読解と報告・議論 (2)
第 28 回	参加者全体での議論の総まとめ (3)	共通テキスト関連文献の読解と報告・議論 (3)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
所定の時間内では議論が収束しないこともしばしばある。そうした場合にはサブゼミ的な時間（毎週の本ゼミ直後の時間帯）を設けるので、学生同士で主体的に議論を深化させてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
第一四半期の論文読解トレーニングの材料は、自分で担当する文献のコピーをとってもらう（費用は不要）。第三四半期のテキストは，候補を示して参加者と相談しながら決める。ただし年間数千円程度をテキスト購入等に充てる覚悟が必要である。月額にすれば，たいした数字ではあるまい。

【参考書】
随時指示する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ多くの学生に発表と議論の機会を保証するようこころがけたい。また参加者はそうした機会を利用しての主体的な学習を心がけてほしい。

【Outline and objectives】
This seminar is on Human Geography, especially on Social and Cultural Geography.

HUG400BF

人文地理学演習（3）

小原　丈明

授業コード：A3439　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本演習では各種の作業や調査，プレゼンテーションを通じて，自らの学習成果を発表する力を身に付けることを目標とします。具体的には，3 年生は人文地理学に対する関心を広めつつ知識・方法論を獲得することを目指します。4 年生はこれまでに身に付けてきた知識・方法論を活かして，オリジナルな卒業論文の作成を目標とします。

【到達目標】
上記のように，本授業を通じて，人文地理学の基礎的な知識や方法論を修得できるようになるとともに，各種の作業や調査，プレゼンテーションを通じて，自らの学習成果を発表する力を身に付けることを目標とします。
具体的には，4 年生には適切な問題意識，課題設定，知識（地理学・関連学問），資料，方法，論理展開，図表作成，文章作成，既往研究上の位置づけの下で，オリジナリティのある卒業論文を執筆することが求められます。また，3 年生にはグループワークによる調査・発表・論文作成や関心事項・論文構想の発表を通じて，4 年生時に上記のような卒業論文が作成できるようになるための素地をかためることが求められます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
●本授業はゼミ形式で行います。上記のように 3 年生と 4 年生とでは到達目標が異なることから，2 つのゼミに分けて（木 5 ： 3 年生用，木 6 ： 4 年生用）演習を行います。ただし，受講生は全員シラバスの記載通り，木曜日 5 時限目に受講登録をして下さい。
● 3 年生用ゼミでは，春学期には学術書の講読，各自が関心のある学術論文の紹介，研究における方法論についての概観，秋学期には調査方法や分析方法の検討，グループによる地域調査（グループワーク）および現地案内，卒業論文に向けての構想など各自が関心のあるテーマについての発表を予定しています。
● 4 年生用ゼミでは，一貫して卒業論文の作成に取り組みます。受講生は春秋学期ともに 3 回ずつの発表を行い，皆で討論を展開します。
● 3・4 年生全員が集まる合同ゼミも開催し，学年間の交流も図りたいと考えています。また，4 年生も 3 年生ゼミのグループワークに参加してもらい，3 年生をサポートしてもらいます。
●なお，4 月最初の時間には具体的なスケジュールなどを相談の上で決めますので，必ず出席するようにしてください。
●本授業は演習（ゼミナール）形式ですので，課題等のフィードバックは適宜行います。
●今年度，本授業は基本的に対面形式で行いますが，場合によっては，オンライン形式となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	3 年生：ガイダンス 4 年生：ガイダンス	3 年生：ゼミの進め方の説明 4 年生：ゼミの進め方の説明
第 2 回	3 年生：グループワークの作業 4 年生：卒論中間発表 1 回目	3 年生：グループワークのテーマ決定 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 3 回	3 年生：学術書の講読 4 年生：卒論中間発表 1 回目	3 年生：講読・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 4 回	3 年生：学術書の講読 4 年生：卒論中間発表 1 回目	3 年生：講読・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 5 回	3 年生：学術書の講読 4 年生：卒論中間発表 1 回目	3 年生：講読・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 6 回	3 年生：学術書の講読 4 年生：卒論中間発表 2 回目	3 年生：講読・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 7 回	3 年生：学術書の講読 4 年生：卒論中間発表 2 回目	3 年生：講読・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表

第 8 回	3 年生：グループワークの作業 4 年生：卒論中間発表 2 回目	3 年生：調査の準備 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 9 回	3 年生：学術論文の紹介 4 年生：卒論中間発表 2 回目	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 10 回	3 年生：学術論文の紹介 4 年生：卒論中間発表 3 回目	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 11 回	3 年生：学術論文の紹介 4 年生：卒論中間発表 3 回目	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 12 回	3 年生：学術論文の紹介 4 年生：卒論中間発表 3 回目	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 13 回	3 年生：学術論文の紹介 4 年生：卒論中間発表 3 回目	3 年生：文献紹介のプレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 14 回	3 年生：グループワークの作業 4 年生：総合討論	3 年生：調査の準備 4 年生：卒論研究に関する意見交換

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	3 年生：グループワークの作業 4 年生：卒論中間発表 4 回目	3 年生：調査の展開 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 16 回	3 年生：グループワークの作業 4 年生：卒論中間発表 4 回目	3 年生：調査の展開 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 17 回	3 年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4 年生：卒論中間発表 4 回目	3 年生：調査・分析の再検討 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 18 回	3 年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4 年生：卒論中間発表 4 回目	3 年生：調査・分析の再検討 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 19 回	3 年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：調査・分析の再検討 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 20 回	3 年生：人文地理学の調査方法・分析方法の検討 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：調査・分析の再検討 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 21 回	3 年生：グループワークの作業・報告 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：調査の中間報告 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 22 回	3 年生：グループワークの作業・報告 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：調査の中間報告 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 23 回	3 年生：卒論構想・テーマ発表 4 年生：卒論中間発表 5 回目	3 年生：プレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 24 回	3 年生：卒論構想・テーマ発表 4 年生：卒論中間発表 6 回目	3 年生：プレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 25 回	3 年生：卒論構想・テーマ発表 4 年生：卒論中間発表 6 回目	3 年生：プレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 26 回	3 年生：卒論構想・テーマ発表 4 年生：卒論中間発表 6 回目	3 年生：プレゼン・討論 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 27 回	3 年生：グループワークの作業・報告 4 年生：卒論中間発表 6 回目	3 年生：調査の報告 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表
第 28 回	3 年生：グループワークの作業・報告 4 年生：卒論中間発表 6 回目	3 年生：調査の報告 4 年生：卒論研究の進捗状況の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当然のことですが，ゼミの時間以外でも調査や発表の準備に力を入れる必要があります。また，自分の興味・関心事項に限らず，常日頃から幅広く情報を得るようにアンテナを張り巡らせるようにしておいてください。したがって，本授業の授業外学習の時間は各 4 時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

●野間晴雄ほか編（2017）：『ジオ・パル NEO ―地理学・地域調査便利帖―（第 2 版）』海青社.
→ 本書は地理学を学び，研究する上での必須事項が網羅されているテキストです。本年度はこのテキストを用いて，研究を行う上での方法論を学びます。
●「卒業論文について」Ver. 3.7（法政大学文学部地理学科発行）
●学術書の講読（3 年生ゼミ）の際に用いるテキストは，ガイダンスの際に紹介します。

【参考書】

人文地理学分野の文献に限らず，授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表・課題・成果： 60 %，討論： 40 %で評価します。当然ながら，ゼミには必ず出席しなければなりません。その上で，発表内容や討論への参加などゼミへの取り組む姿勢・意欲を重視して評価します。

なお，春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない，成績評価の方法と基準も変更する可能性があります。具体的な方法と基準は学習支援システムや授業を通じて提示します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者数により，受講生との相談の上で授業計画の詳細を決定します。

【Outline and objectives】

This seminar deals with the knowledge, skills, methods and ways of thinking which were needed in learning geography. The third year students work on reading books and theses about geographical phenomena, investigation of several subjects in some groups, presentation of various themes, and writing of theses regarding their own researches. The forth year students work on their own graduation theses throughout of the year.

HUG400BF

人文地理学演習（4）

伊藤　達也

授業コード：A3440　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
4 年生は卒業論文を作成します。3 年生は本や論文の講読、地域調査を行い、卒業論文作成のための必要知識、手段の獲得を目指します。

【到達目標】
4 年生はオリジナリティあふれる優秀な卒業論文の完成が目標です。3 年生は次年度からの卒業論文作成のための十分な知識と技法を獲得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
ゼミ形式で行います。4 年生と 3 年生一緒のゼミ実施を前提とします。4 年生は春学期 3 回、秋学期 2 回の発表を行い、卒論制作に備えます。2 月下旬には学科卒論発表会を行います。3 年生は本や論文の講読と地域調査を行います。4 年生の卒論に関しては、下書きのチェックなどを行い、3 年生のレポートについては、修正の上返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	レポートの書き方	レポートの書き方について学びます
第 2 回	文献検索法	文献の探し方を学びます
第 3 回	卒論発表 1 回目	4 年生全員がパワーポイントで発表します
第 4 回	卒論発表 2 回目 (1) －テーマの決め方－	4 年生の 1/4 が 2 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。卒論のテーマの決め方について学びます
第 5 回	卒論発表 2 回目 (2) －客観性の確保①－	4 年生の 1/4 が 2 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。論文作成上の客観性の確保において、文献提示について学びます
第 6 回	卒論発表 2 回目 (3) －客観性の確保②－	4 年生の 1/4 が 2 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。論文作成上の客観性の確保において、データの収集について学びます
第 7 回	卒論発表 2 回目 (4) －引用の仕方－	4 年生の 1/4 が 2 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。引用の仕方について学びます
第 8 回	地域調査の準備 (1) －テーマ、フィールド、調査担当の決定―	3 年生が行う地域調査の準備を行います。テーマ、フィールド、調査担当を決定します
第 9 回	卒論発表 3 回目 (1) －参考文献の提示－	4 年生の 1/4 が 3 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。参考文献の提示について学びます
第 10 回	卒論発表 3 回目 (2) －アンケート票の作成①－	4 年生の 1/4 が 3 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。アンケート票の作成について学びます①
第 11 回	卒論発表 3 回目 (3) －アンケート票の作成②－	4 年生の 1/4 が 3 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。アンケート票の作成について学びます②
第 12 回	卒論発表 3 回目 (4) －統計データ収集－	4 年生の 1/4 が 3 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。統計データの収集について学びます
第 13 回	地域調査の準備 (2) －調査内容の決定－	3 年生が行う地域調査の準備を行います。調査内容を決定します
第 14 回	地域調査の準備 (3) －調査の具体的日程の決定－	3 年生が行う地域調査の準備を行います。調査の具体的日程を決定します

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	後期のゼミガイダンス	4 年生は卒論制作の発表、3 年生は地域調査の報告書と卒論構想の発表をします
第 16 回	卒論発表 4 回目 (1) －アンケート票の集計－	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。アンケート票の集計について学びます
第 17 回	卒論発表 4 回目 (2) －単純集計－	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。単純集計について学びます
第 18 回	卒論発表 4 回目 (3) －クロス集計－	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。クロス集計について学びます
第 19 回	卒論発表 4 回目 (4) －検定－	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。検定について学びます
第 20 回	卒論発表 4 回目 (5) －報告書のまとめ方－	4 年生の 1/5 が 4 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。報告書のまとめ方について学びます
第 21 回	卒論発表 5 回目 (1) －漢字とひらがな－	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。論文における漢字とひらがなの使い分けについて学びます
第 22 回	卒論発表 5 回目 (2) －読点－	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。読点の使い方について学びます
第 23 回	卒論発表 5 回目 (3) －段落－	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。段落の作り方について学びます
第 24 回	卒論発表 5 回目 (4) －細かな規則－	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。西暦と元号、英数字の半角等について学びます
第 25 回	卒論発表 5 回目 (5) －表表現－	4 年生の 1/5 が 5 回目の発表をします。発表はレジュメを提出します。表の作成について学びます
第 26 回	卒論の構想発表 (1) －図表現－	3 年生の 1/3 が卒論構想について発表をします。発表はレジュメを提出します。図の作成について学びます
第 27 回	卒論の構想発表 (2) －理論とは①－	3 年生の 1/3 が卒論構想について発表をします。発表はレジュメを提出します。地理学の理論ついて学びます①
第 28 回	卒論の構想発表 (3) －理論とは②－	3 年生の 1/3 が卒論構想について発表をします。発表はレジュメを提出します。地理学の理論ついて学びます②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
3 年生は自分の関心領域の研究を進めるとともに常識力を高め、卒論のテーマを確定します。4 年生は卒論制作に打ち込みます。本演習の準備・復習時間は。各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。

【参考書】
伊藤ほか編（2020）『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房
山﨑 朗ほか（2016）『地域政策』中央経済社
竹中克行編（2015）『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房
藤井　正・神谷浩夫編（2014）『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房
富田和暁（2006）『地域と産業（新版）－経済地理学の基礎』原書房
山本健兒（2005）『経済地理学入門新版－地域の経済発展』原書房

【成績評価の方法と基準】
成績評価はゼミでの発表内容（50 %）と討論への参加程度（50 %）で行います。

【学生の意見等からの気づき】
ゼミをより充実した内容にする予定です。通常授業以外に多くの時間を必要とします

【Outline and objectives】
4th grader makes a graduation thesis. 3rd grader reads books and articles and does area investigations, for acquisition of necessary knowledge of graduation thesis.

HUG400BF

人文地理学演習（5）

米家　志乃布

授業コード：A3441　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
年間・4 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、人文地理学の卒業論文を書くことができるように、学術論文作成に必要な基礎的な事項を学びます。4 年生は卒業論文作成を中心に行います。担当教員の専門の関係から、歴史地理・観光地理分野の卒業論文の作成ができるように、日本の歴史地理・観光地理の基礎的な知識や方法論もゼミで学びます。

【到達目標】
(1) 学術論文（卒業論文）のテーマを自ら設定し，そのもとになるデータの取り方、その扱い方や分析ができること。
(2) グループワークを通して，史資料からのデータ収集・分析方法や学術論文のまとめ方について学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
3 年生はグループワークを通して，テーマの設定，データの収集，分析，まとめの方法を学びます。さらにその成果をレジュメにまとめて発表して議論します。4 年生は、卒業論文の進捗状況を報告してもらいます。随時、卒業論文の調査結果とまとめを行います。授業の文献・資料・レジュメはすべて Google ドライブあるいは Google クラスルームで共有します。アップされた課題について授業内に教員から修正や改善についてコメントします。感染予防対策のため紙での配布はしません。3 年生はゼミ中にデータ収集を行ったり、グループで Google 内で分析を行ったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
通年

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	グループの決定，発表順番の決定など
第 2 回	研究テーマの設定について①	人文地理学の学術論文を作成する方法を学ぶ～研究テーマの設定，文献収集の方法
第 3 回	研究テーマの設定について②	人文地理学の学術論文の作成する方法を学ぶ～調査の方法・データの分析
第 4 回	4 年生による卒業論文の進捗報告①	卒業論文作成に向けて，調査方法・調査計画について発表する
第 5 回	4 年生による卒業論文の進捗報告②	卒業論文作成に向けて，調査方法・調査計画について発表する
第 6 回	4 年生による卒業論文の進捗報告③	卒業論文作成に向けて，調査方法・調査計画について発表する
第 7 回	4 年生による卒業論文の進捗報告④	卒業論文作成に向けて、調査方法・調査計画について発表する
第 8 回	3 年生による論文発表①	テーマ「江戸東京の名所研究」に関する文献を読む
第 9 回	3 年生による論文発表②	テーマ「江戸東京の名所研究」に関する文献を読む
第 10 回	3 年生による論文発表③	テーマ「江戸東京の名所研究」に関する文献を読む
第 11 回	3 年生によるデータ収集①	授業内で様々なデータベースにアクセスし、情報を収集する
第 12 回	3 年生によるデータ収集②	エクセル表にデータを入力し、まとめる
第 13 回	3 年生によるデータ収集③	エクセル表にデータを入力し、まとめる
第 14 回	夏季休暇前の最終報告およびグループワークの計画について	4 年生および 3 年生の発表

秋学期

回	テーマ	内容
第 15 回	夏季休暇中の成果報告について	4 年生および 3 年生の発表
第 16 回	4 年生による卒業論文の進捗報告①	夏期休暇中に行った調査の結果報告，データの分析
第 17 回	4 年生による卒業論文の進捗報告②	夏期休暇中に行った調査の結果報告，データの分析
第 18 回	4 年生による卒業論文の進捗報告③	夏期休暇中に行った調査の結果報告，データの分析
第 19 回	3 年生によるグループワークの発表①	史資料分析の結果報告
第 20 回	3 年生によるグループワークの発表②	史資料分析の結果報告
第 21 回	3 年生によるグループワークの発表③	史資料分析の結果報告
第 22 回	4 年生による卒業論文の最終報告①	卒業論文のストーリーを組み立て，下書き提出に向けて発表する
第 23 回	4 年生による卒業論文の最終報告②	卒業論文のストーリーを組み立て，下書き提出に向けて発表する
第 24 回	4 年生による卒業論文の最終報告③	卒業論文のストーリーを組み立て，下書き提出に向けて発表する
第 25 回	4 年生による卒業論文の最終報告④	卒業論文のストーリーを組み立て，下書き提出に向けて発表する
第 26 回	4 年生による卒業論文の最終報告⑤	卒業論文のストーリーを組み立て，下書き提出に向けて発表する
第 27 回	3 年生による卒業論文テーマの発表①	翌年度の卒業論文作成にむけてテーマと先行研究を発表する
第 28 回	3 年生による卒業論文テーマの発表②	翌年度の卒業論文作成にむけてテーマと先行研究を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。4 年生は、卒業論文にむけて、先行研究の読み込み、データの収集、執筆などゼミ以外の時間にも、十分に時間をかけて各自で行ってください。グループワークでは，授業時間外の作業が多くなります。文献調査やデータ収集、レジュメの作成などを授業外で行う時間が多くなるでしょう。

【テキスト（教科書）】
3 年生のグループワークは「江戸東京の名所研究」がテーマです。論文リストは配布しますので、そこから発表論文を選んでください。史料は風俗画報別冊の『新撰東京名所図会』『東京近郊名所図会』を使います。地理学科事務室に全巻備えてありますし、図書館のデータベースにも揃っています。

【参考書】
適宜、3 年生のグループワークおよび 4 年生の卒論テーマに即して、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %（ゼミへの参加状況、発表内容で評価します。出席がもっとも重視されます。）特にグループワークでは、メンバーで協力して作業して、発表するようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】
3 年生のグループワークを共通テーマ「江戸東京の名所研究」とし、他の班の作業や発表にも関心がもてるように情報共有していくようにしました。

【学生が準備すべき機器他】
3 年生は、グループワークの作業時間を定期的に設けますので、必ずノート PC を持参してください。

【その他の重要事項】
3,4 年生の 2 学年が履修するゼミのため，正規の時間内では終わりません。卒論中心のサブゼミを 6 限に行いますので，積極的に参加するようにしてください。

【Outline and objectives】
This course examines building foundation skills to write papers in human geography, especially historical tourism in Japan.

GEO200BF

世界地誌（1）

狩野　真規

授業コード：A3443　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この地域の成り立ちや日本との関係性ならびに近年の状況を踏まえつつ、オセアニアの地域的特徴について注目していく。それらを通じて、オセアニア地域の概観や地域の特色について理解する内容とする。

【到達目標】
オセアニア地域における地理的特色を理解するとともに、分布図の見方やその説明のための表現方法などの獲得も目指す。具体的な到達目標としては、オセアニア地誌についてそれらを説明するのに必要なキーワードを交えた説明ができることや、対象地域に関する分布図やグラフから特徴を見出し、その説明ができることなどを目安とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
シラバス執筆段階では、教室での対面で講義を実施する予定である。基本的には講義冒頭で予習課題に即した小テストを実施し、その内容に関連した話題を配布資料（講義冒頭での配布のみで、Hoppii 等での配布はしない）を使いつつ講義形式で進めることとなる。講義の中では小テストの解答なども確認していくので、得点状況は講義内容から個々に判断できる形となる。場合によっては次回に全体に向けてその内容に関するフィードバックもする。講義終盤で次回のための予習課題を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オセアニアの概要	オセアニア地域の範囲を確認しつつ、その概要を紹介する。
第 2 回	オセアニアの歴史	人類の進出とその歴史からオセアニア地域の形成を考える。
第 3 回	オーストラリアの自然環境	オーストラリア大陸の自然環境とその成り立ちについて考える。
第 4 回	オーストラリアの農業・その 1	オーストラリアの農業、特に小麦生産について注目していく。
第 5 回	オーストラリアの農業・その 2	オーストラリアの農業、特に牛肉などについて注目していく。
第 6 回	オーストラリアの農業・その 3 ＋鉱物資源	オーストラリアのコメ生産と鉱物資源の事態に迫る。
第 7 回	オーストラリアの工業	自動車産業を中心にその実態を考えていく。
第 8 回	ニュージーランドの自然環境・その 1	ニュージーランドの自然とその成り立ちについて考える。
第 9 回	ニュージーランドの自然環境・その 2	日本と比較しながらその自然環境を考える。
第 10 回	ニュージーランドの産業	ニュージーランドの農業などを見つめていく。
第 11 回	ニュージーランドの氷河	かかる地域における氷河の動きとその要因についてみていく。
第 12 回	洋上国家の成り立ち・その 1	小さな島における歴史からその成り立ちについて考える。
第 13 回	洋上国家の成り立ち・その 2	小さな島における経済からその問題点を探る。
第 14 回	オセアニアとは？	これまでの内容に関して振り返りをしていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、次回のための予習課題を提示するので、それに取り組むことが必須となる。Web でデータを確認したりするだけではなく、できるだけ文献を手に取って確認するようなことが必要になるとイメージしてもらいたい。それから、オセアニア地域についてまとめられた文献などを日常的に手に取って読んでおくことが理想である。また、高校で地理を履修していなかった場合はできるだけ高等学校の地理Ｂの教科書を全体的に読んで、その内容を把握することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
現段階では特に指定はしない。

【参考書】
由井浜省吾編（1991）世界地誌ゼミナールⅧ　新訂　オセアニア　大明堂　や　菊地俊夫・小田宏信 編 (2014) 世界地誌シリーズ 7 東南アジア・オセアニア 朝倉書店　などがあげられる。これらについては目を通しておくとよいが、その他については適宜授業時に紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
各回に実施する課題（小テスト・50%）と期末に実施するテスト（50%）の合計で評価する予定である。特にテストについては、講義内容に即したものとし、重要キーワードを押さえた形での内容理解をしているか、図表などからの読み取りができるかがカギとなる。欠席については評価から減点するので、講義への出席は重要である。公欠については所定の手続きをしている場合には考慮するので、必要な手続きをしっかり行うことを求める。

【学生の意見等からの気づき】
これまで、毎回冒頭に実施する小テストについては、やや難しいとの意見があった。一方で、緊張感を保つことが出来たという意見もあった。講義以外の学習時間の確保の意味でも毎回の小テスト実施に関する取り組みについては踏襲していきたいと考えている。また、講義内の資料については、講義出席者と自己都合欠席者を同じ扱いにすることについての疑問の声があることを受け、Hoppii などへの公開はしない予定である。

【学生が準備すべき機器他】
状況が変わった時に備えて、授業支援システム（Hoppii）を利用できるようにしておくこと。特にオンライン講義に切り替わった際には、インターネットへの常時接続ができることが必要である。大学からの支援などが利用できることもあるので、各自で環境整備に努めていただきたい。

【その他の重要事項】
毎回小テストに関連する課題を提示するので、欠席した場合は各自で対応するように。基本的には次回向け課題の提示は講義内に限定し、Hoppii などを通じての資料配布はしない。特に初回講義での詳細説明を聞いていない場合は、注意すること。また、情勢の変化によっては試験の実施ができない場合も起こり得るので、その際には代替措置に切り替える可能性もある。

【Outline and objectives】
This course deals with the geographical characteristics of the Oceania area.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1.Obtain basic knowledge about the regional geography of the Oceania area.
2.Understand the relationship between Japan and the Oceania area from the viewpoint of the geography.

GEO200BF

世界地誌（2）

南　春英

授業コード：A3444　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業では、北米の地域性と全体像について、地誌学の視点と方法に基づいて授業を行っていきます。日本と深い関係を持つ北米地域を自然環境・歴史・産業・社会などの様々な視点から考察し、北米の地域性を理解するとともに、地誌学的な考え方を理解することを目的とします。北米地域の中でもアメリカ合衆国を中心に進めます。

【到達目標】
本授業は地誌学を理解し、地誌学的な視点から地域を理解することを目指します。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握できることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は教員の講義方式で進めていきます。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布します。また、受講生には、授業後にペーパー（あるいは授業支援システム）通して、感想・質問等のリアクションや課題の提出をお願いすることがあります。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	授業内容の説明
第 2 回	北アメリカの概略①	自然環境
第 3 回	北アメリカの概略②	人口分布／アメリカ合衆国・カナダ・メキシコの関係性
第 4 回	アメリカ合衆国の地誌①	農業地域の形成と食料生産
第 5 回	アメリカ合衆国の地誌②	工業の展開
第 6 回	アメリカ合衆国の地誌③	移民と多民族社会の発展
第 7 回	アメリカ合衆国の地誌④	生活文化と生活様式
第 8 回	カナダの地誌①	歴史・文化
第 9 回	カナダの地誌②	産業の展開
第 10 回	メキシコの地誌①	歴史・文化
第 11 回	メキシコの地誌②	産業の展開
第 12 回	アメリカ合衆国と世界①	世界に影響を与えるアメリカ合衆国
第 13 回	アメリカ合衆国と世界②	日本との関係性
第 14 回	まとめ	授業内試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習として、授業で扱う地域を地図帳などで確認し、基本的な位置関係や地名を確認しておくことを求めます。授業内外でレポート課題（授業外課題・小レポート課題等）に取り組んでもらいます。また，授業で紹介する参考文献については，自主的に読むことを求めます。
なお，本授業の授業外学習（レポート・準備・復習時間）は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。読んで欲しい書籍や文献は授業のなかで随時紹介するので、積極的に読んでください。

【参考書】
時事的な社会情勢の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱っていきたい。
飯野正子・竹中豊（2010）『現代カナダを知るための 57 章』明石書店.
オリヴィエ・ダベーヌ, フレデリック・ルオーほか（2018）『地図で見るラテンアメリカハンドブック』原書房.
クリスティアン・モンテス, パスカル・ネデレク（2018）『地図で見るアメリカハンド　ブック』原書房.
小塩和人・岸上伸啓編（2006）：『朝倉世界地理講座―大地と人間の物語―13　アメリカ・カナダ』朝倉書店.
国本伊代編著（2019）：『現代メキシコを知るための 70 章』明石書店.
ジェームス・M. バーダマン（2020）『地図で読むアメリカ』朝日新聞出版.
田辺　裕監修（1999）：『図説大百科世界の地理 4　中部アメリカ』朝倉書店.
田辺　裕・竹内信夫監訳（2008）：『アメリカ　ベラン世界地理体系 17』朝倉書店.
帝国書院編集部（2019）『図説地理資料　世界の諸地域 NOW』帝国書院.
矢ケ崎典隆　（2010）『食と農のアメリカ地誌』 東京学芸大学出版会.
矢ケ崎典隆　（2011）『アメリカ　（世界地誌シリーズ 4）』 朝倉書店.
矢ケ崎典隆，加賀美雅弘，牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店.

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業外課題）：40 %、期末試験（持ち込み不可）：60 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
多くの資料・データを提示することで、受講者自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となることを心掛けます。

【Outline and objectives】
This course introduces North American geography to students taking this course.The goals of this course are to be able to understand the basic geographical concepts and points of view, to analyze the causes, processes, influences and interrelationships of various phenomena of the areas, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

GEO200BF

世界地誌（3）

小寺　浩二

授業コード：A3445　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地理学において、系統地理学と並び重要な「地誌学」の基礎を理解し、中でも世界地誌・広域地誌の対象地域としてのアジアの具体的な地誌を学び、様々な地域特性とその地誌としての記述方法について学習する。まず、世界の中のアジアを理解し、つぎに、アジアの個々の地域について概観する。

【到達目標】
わが国と地理的にもっとも近いアジアの自然と、そこに暮らす人々の生活を理解する。気候・地形・植生・水環境など様々な自然環境の特徴を中心とした「自然誌」の理解を前提に、文化・社会的な特徴についても理解し、地誌の記述方法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
アジア全体の概観から各諸地域、個別の国の地誌を講義する。古くからの資料を活用しながらも、最新の研究成果なども紹介し、古くて新しいアジアの現況を示す。
また、具体的なデータなどから、自ら理解する工夫なども行い、「地誌の記述」についての理解も深めるよう指導する。
毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。
また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要・ガイダンス	講義の概要と授業の進め方について説明。
第 2 回	アジア総論（1） 世界の中のアジア概観	アジアの特殊性についての概要。
第 3 回	アジア総論（2） 位置・地質・地形	アジアの地理的位置・地質構造・大地形。
第 4 回	アジア総論（3） 河川・湖沼・気候	アジアの代表的な河川・湖沼と気候の特徴。
第 5 回	アジア総論（4） 植生・地域区分	アジアの植生の特徴と、地域区分を理解。
第 6 回	東アジア（1） 中国と台湾	隣国である中国と台湾について。
第 7 回	東アジア（2） モンゴル・韓国・北朝鮮・極東ロシア	中国と台湾以外の東アジアについて。
第 8 回	東南アジア（1） インドシナ半島	インドシナ半島の自然環境と諸国について。
第 9 回	東南アジア（2） 東南アジアの島嶼国	東南アジアの島嶼国について。
第 10 回	南アジア（1） 南アジア全域・インド	南アジア全域とインドの概要。
第 11 回	南アジア（2） インド以外の南アジア	スリランカ・パキスタン・バングラディッシュ・ネパールなど。
第 12 回	中央アジア（1） 全域・ウズベキスタン・カザフスタン	中央アジア全域とウズベキスタン・カザフスタンの概要。
第 13 回	中央アジア（2） その他の中央アジア	キルギスタン・タジキスタン・トルクメニスタンなど。
第 14 回	西アジアの概要	イラン・イラク・サウジアラビア・トルコなど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
普段からアジア全域の動きに注目し、テレビのニュースや新聞の記事には、つねに問題意識を持つようにしてほしい。特に復習に力を注いで頂きたい。
毎回の講義に対して、予習・復習をそれぞれ 2 時間、小レポートに関しては 3 時間程度、最終レポートに関しては、数時間以上は時間を確保して取り組むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】
多田文男 (1972)：『世界地誌Ⅰ (アジア)』, 法政大学通信教育部,291p.
古い教科書であるため、新しい情報は、講義の度にプリントなどで紹介する。

【参考書】
河野通博編 (1991)：世界地誌ゼミナールⅠ『新訂 東アジア』, 大明堂, 242p.
岩田慶治編 (1972)：世界地誌ゼミナールⅡ『南アジア』, 大明堂,212p.
など。
講義の度に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業への取り組み・課題・試験による総合評価。取り組み 3 割、課題 3 割、試験 4 割を原則とするが、その他小テストなどを行う場合もある。

【学生の意見等からの気づき】
なし（新規担当であるため）
ただし、資料や映像などをなるべく多く活用してわかりやすい講義とする。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞自然地理学・水文学・陸水学
＜研究テーマ＞
1）水循環に伴う物質循環
2）人間活動に伴う水環境変化と保全
3）GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネージメント

【Outline and objectives】
Even during understanding an important basis of "topography science" as well as systematic geography in a geography, an Asian topography in detail as a target area of the world topography and a wide area topography is learned and it's learned about a description method as various regional characteristics and the topography. First Asia in the world is understood and it next is surveyed about each Asian area.

GEO200BF

世界地誌（4）

伊藤　達也

授業コード：A3446　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
アジア諸国の社会・経済的特徴とその変化、それぞれの国・地域が抱える問題の把握を目ざします。中でも日本と強い関係を持つ韓国に焦点を当てて、その社会変容、経済変化について考えていきます。授業は講義形式です。また、テーマに関連した DVD,PPT 等視聴覚教材を使用することにより、テーマの理解を深めます。

【到達目標】
韓国についての全般的で適切な理解を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、DVD,PPT 等を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	イントロ	授業内容の説明
2	アジアと韓国（1）	アジア諸国の地理について解説する
3	アジアと韓国（2）	アジア諸国の経済成長の内容とメカニズムについて説明する
4	韓国の地理	韓国の人口の推移、中心都市・地域について説明する
5	韓国と日本の関係 (1)	日本と韓国の歴史的関係を明らかにする
6	韓国と日本の関係 (2)	日本人の韓国イメージと韓国人の日本イメージを明らかにする
7	韓国の政治と地域主義 (1)	中央政府と地方政府の関係、役割分担について明らかにする
8	韓国の政治と地域主義 (2)	歴代の大統領の業績について明らかにする
9	経済発展と財閥 (1)	韓国の国土計画と経済発展の推移について明らかにする
10	経済発展と財閥 (2)	韓国の経済発展を牽引した財閥について説明する
11	一極集中の国土形成	韓国の国土構造について明らかにする
12	韓国の経済問題	韓国が現在抱えている経済問題について明らかにする
13	韓国の社会問題	韓国が現在抱える社会問題について明らかにする
14	韓国の環境問題	韓国が現在抱えている環境問題について明らかにする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
韓国の基本的な地理（都市、道、河川、山等）については、事前に学習しておいてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】
古田博司（2018）『「統一朝鮮」は日本の災難』飛鳥新社
浅羽祐樹（2015）『韓国化する日本、日本化する韓国』講談社
百本和弘（2015）『韓国経済の基礎知識』日本貿易振興機構
裵 海善（2014）『韓国経済がわかる 20 講』明石書店
大西　裕（2014）『先進国・韓国の憂鬱』中公新書
古田博司（2014）『醜いが、目をそらすな、隣国・韓国！』WAC
辺　真一（2014）『大統領を殺す国　韓国』角川書店
浅羽祐樹（2013）『したたかな韓国』NHK 出版新書
内山清行（2013）『韓国　葛藤の先進国』日経プレミアシリーズ
朴　正雄著／本田務・青木謙介訳（2004）『韓国経済を創った男鄭周永伝』日経ＢＰ
洪夏祥著／宮本尚寛訳（2003）『サムスン経営を築いた男李健熙伝』日本経済新聞社

【成績評価の方法と基準】
定期試験で 100 %評価を行います。試験では講義内容の理解の程度を問います。

【学生の意見等からの気づき】
テンポの良い授業を目指します。

【Outline and objectives】
The main aim is to recognize the economical feature and the problem of the Asian countries.　I focus on inside and social and financial change of Korea where has a strong relationship with Japan.I deepen understanding of a theme by using audiovisual materials, ex PPT.

GEO300BF

地理学読図演習（1）

羽佐田　紘大

授業コード：A3449　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
国土地理院の 1:25,000 地形図をはじめとした地形図から、地形や土地利用を含めた環境に関する情報を読み取る技術を、地図作業を通じて習得する。

【到達目標】
地形図から地形や土地利用を含めた環境に関する情報を正確に読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式と実習形式（地図作業、現地踏査）の組み合わせで実施する。毎回、テーマに沿った資料を配布し、内容を説明した上で地図作業を行い、地形図からさまざまな情報を読み取るための基本的な技術の習得を目指す。次回の授業開始時に前回提出された課題に対する解説を行う。
※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。
第 2 回	1:25,000 地形図の基本	地形図のあらまし、地図記号・方位・縮尺などを確認する。
第 3 回	1:25,000 地形図における起伏の把握（1）	等高線、尾根・谷の読み取りを行う。
第 4 回	1:25,000 地形図における起伏の把握（2）	地形断面図を作成する。
第 5 回	ハザードマップの作成（1）	等高線の読み取りに基づいてハザードマップを作成する。
第 6 回	ハザードマップの作成（2）	作成したハザードマップを基に、防災・減災対策について考える。
第 7 回	1:25,000 地形図における水文環境の把握（1）	水系図を作成する。
第 8 回	1:25,000 地形図における水文環境の把握（2）	集水域マップを作成する。
第 9 回	1:25,000 地形図における土地利用の把握（1）	土地利用図を作成する。
第 10 回	1:25,000 地形図における土地利用の把握（2）	土地利用の変遷を把握する。
第 11 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）。
第 12 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）（前回の続き）。
第 13 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）（前回の続き）。
第 14 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）（前回の続き）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。
授業時間内にできなかった課題は宿題とする。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業内で適宜プリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）、課題（50%）により評価する。原則 3 分の 2 以上の出席がない場合は評価対象としない。また、現地踏査に参加していない場合は、原則として評価対象としない（正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので相談すること）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
色鉛筆（12 色以上）、定規を持参する。
※対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意する、PDF ファイルをプリントアウトできるか、プリントをスキャンできるかを確認する（自宅にプリンターやスキャナーがなくても、コンビニエンスストアやスーパーマーケットにはそれらに対応したコピー機が設置されている）など、オンライン形式でも受講できる環境を整えておく。

【その他の重要事項】
現地踏査（授業計画の※）は、土曜日または日曜日を利用して日帰りで実施する。第 1 回目に日程調整を行う。なお、現地踏査や実習が中心であるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜する。

【Outline and objectives】
This course deals with the technique to read information on the environment including the topography and land use using the topographical map of the Geospatial Information Authority of Japan.

GEO300BF

地理学読図演習（2）

羽佐田　紘大

授業コード：A3450　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地形図や地質図などのさまざまな地図から環境に関する情報を読み取る技術を習得する。

【到達目標】
地形図や地質図などから環境に関する情報を正確に読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
実習形式（地図作業、現地踏査）と演習形式（発表）の組み合わせで実施する。資料を配布し、内容を説明した上で地図作業を行い、地形図からさまざまな情報を読み取っていく。その後、読み取れた情報に関する発表を行ってもらう。課題に対してその都度フィードバックを行う。
※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方を説明する。
第 2 回	地形図読図の基本	地形図読図に関する基本的事項を確認する。
第 3 回	地形図以外の地図の読図	地形図以外のさまざまな地図の基本的事項を確認する。
第 4 回	グループによる読図（1）	グループごとで読図に使用する地図を準備する。
第 5 回	グループによる読図（2）	グループごとで読図を行う。
第 6 回	グループによる読図（3）	読図結果の発表準備を行う。
第 7 回	グループによる読図結果の発表（1）	グループごとに読図結果を発表する。
第 8 回	グループによる読図結果の発表（2）	グループごとに読図結果を発表する（第 7 回で発表したグループ以外）。
第 9 回	グループによる読図結果の発表（3）	グループごとに読図結果を発表する（第 7、8 回で発表したグループ以外）。
第 10 回	グループによる読図結果の発表（4）	グループごとに読図結果を発表する（第 7〜9 回で発表したグループ以外）。
第 11 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）。
第 12 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）（前回の続き）。
第 13 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）（前回の続き）。
第 14 回	現地踏査	読図結果を現地で確認する（※）（前回の続き）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
日常生活でみられる地図に関心を持ち、各自で情報収集する。
授業時間内にできなかった課題は宿題とする。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業内で適宜プリントを配布する。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点（50%）、課題（50%）により評価する。原則 3 分の 2 以上の出席がない場合は評価対象としない。また、現地踏査に参加していない場合は、原則として評価対象としない（正当な理由により参加できない場合は、別途レポートを課すなどの対応を行うので相談すること）。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
色鉛筆（12 色以上）、定規を持参する。
※対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word 等インストール済み）を用意する、PDF ファイルをプリントアウトできるか、プリントをスキャンできるかを確認する（自宅にプリンターやスキャナーがなくても、コンビニエンスストアやスーパーマーケットにはそれらに対応したコピー機が設置されている）など、オンライン形式でも受講できる環境を整えておく。

【その他の重要事項】
現地踏査（授業計画の※）は、土曜日または日曜日を利用して日帰りで実施する。第 1 回目に日程調整を行う。なお、現地踏査や実習が中心であるため履修上限人数は 48 名とし、初回授業で選抜する。地理学読図演習（1）を履修していることが望ましい。

【Outline and objectives】
This course deals with the technique to read information on the environment using various maps.

GEO300BF

自然地理学特講（1）

羽佐田　紘大

授業コード：A3500　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、自然地理学、特に地形学・堆積学分野の調査方法を修得していく。また、地形学での地理情報システム（GIS）の活用についても学んでいく。

【到達目標】
地形学・堆積学分野における地形や堆積物の観察・解析・分析方法を把握できる。
地形学にかかわる地理空間情報を GIS で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義および実習形式で進めていく。講義ではスライドを投影して説明していく。スライドに多くの図や写真を示すことで、視覚的に理解できるように努める。また、実習として、地形・地質の観察、堆積物の観察・分析、地質断面図作成、GIS を用いた地図作成等を行う。実習での成果をレポートとして提出してもらう。次回の授業開始時に前回提出された課題に対する解説を行う。なお、実習形式を取り入れていることもあり、授業の進み具合に応じて授業計画を若干再調整する可能性もある。その際はその都度学習支援システムでお知らせする。
※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたリアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／日本の沖積低地	授業の概要、計画、評価方法等を説明する。日本における沖積低地の分布を解説する。
第 2 回	沖積低地での調査	沖積低地での地形学・堆積学的な調査について述べる。
第 3 回	沖積低地と沖積層（1）	沖積低地の地形について説明する。
第 4 回	沖積低地と沖積層（2）	沖積層の層序区分について説明する。
第 5 回	堆積相と堆積システム	堆積相と堆積システムについて解説する。
第 6 回	沖積低地と土砂供給	過去数千年間の土砂供給量の変化について説明する。
第 7 回	堆積物の観察・記載	実際に堆積物を観察し、読み取れる情報を記載する。
第 8 回	堆積物の分析	堆積物の目視での観察結果と泥分含有率の測定結果を比較する。
第 9 回	地質図（1）	地質図、地質断面図について説明する。
第 10 回	地質図（2）	地層境界線の描き方を解説する。
第 11 回	地理情報システムの活用（1）	取得したデータを GIS 上に取り込む。
第 12 回	地理情報システムの活用（2）	得られたデータを基に地図を作成する。
第 13 回	ボーリング柱状図と地下構造の復原	ボーリング柱状図に基づく地下構造の復原について解説する。
第 14 回	野外実習：地形・地質の観察・記録	実際に地形や地質を観察し、フィールドノートに記録する。野外での実施が困難な場合には、バーチャルで行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前回までの授業内容を復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】
授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
レポート（70 %）および平常点（30 %）により評価する。原則 1 ／ 3 以上の欠席者は評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】
実物（地形や堆積物）に触れられる機会を増やすことを心掛けます。また、学生の受講環境に応じて、柔軟に対応できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】
GIS アプリケーションを使用するため、各自 PC を所有していることが望ましい。各自の PC に QGIS 3.10（https://qgis.org/ja/site/forusers/download.html）をインストールしてもらう予定である。

【その他の重要事項】
10 月か 11 月の土曜日もしくは日曜日に野外実習（関東圏の日帰り巡検）を実施する予定であるため、そのように心構えをしてほしい。第 1 回の授業で日程調整を行う。

【Outline and objectives】
This course introduces geomorphological and sedimentological survey methods and use of geographic information system (GIS) in fluvial-coastal plains.

GEO300BF

自然地理学特講（2）

飯泉　佳子

授業コード：A3452　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地表水の動態・水質変化と水循環について学ぶ。陸水学、水文学に関わる様々な現象や社会情勢などについて、国内外の具体的な事例を交えながら幅広い知識を修得する。

【到達目標】
水循環の過程における地表水のあり方を人間活動との関連に基づき理解し、地球上にさまざまな形で存在する水の量と循環について修得し、説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
PowerPoint やプリントを活用して講義を進める。試験、リアクションペーパー、課題などに対しては、授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	湖の成因と湖盆形態	世界と日本の湖、湖・沼の定義
第 2 回	湖の水収支	水位変動、浸透湖
第 3 回	湖水の流動と循環	湖流、静振
第 4 回	湖水中の光条件	湖水の色、透明度
第 5 回	湖の水温構造	水温成層、温帯湖・熱帯湖
第 6 回	試験 (1) 湖の水質組成	到達度の確認 pH、炭酸、塩分
第 7 回	回答 湖の生産と富栄養化	試験内容の解説 湖の遷移、栄養塩
第 8 回	湖沼と河川の流域水循環	流域の土地利用、水収支
第 9 回	河川の流況と降雨-流出過程	ハイドログラフ、直接流出、基底流出
第 10 回	河川の水系と水温・水質	ホートンの法則、河川の水温と水質変化
第 11 回	気候変動と水資源・水環境	温暖化 hiatus と水温変化
第 12 回	気候変動と自然災害	災害、防災・減災
第 13 回	試験 (2)	到達度の確認
第 14 回	回答とまとめ	試験内容の解説と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しない

【参考書】
森和紀・佐藤芳徳 『図説　日本の湖』 朝倉書店 2015 年 第 1 版
村上哲生・花里孝幸・吉岡崇仁・森和紀・小倉紀雄（監修） 『川と湖を見る・知る・探る―陸水学入門―』 地人書館 2011 年 第 1 版
上記に加え、授業の中で紹介する

【成績評価の方法と基準】
試験（70%）、平常点（30%）
平常点は、課題とリアクションペーパーにより評価します
総合的に判断し、60 点以上を合格とする

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
色鉛筆、定規などを使用する。詳細は、授業の中で指示する。

【Outline and objectives】
Main targets of this class are water cycle, chemical and physical dynamics of surface water.　Students who take this class study limnological and hydrological basics and recent specific cases.

GEO300BF

自然地理学特講（3）

山口　隆子

授業コード：A3453　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
気候学・生気象学を研究していくうえで必要となる環境気候学を学びます。

【到達目標】
環境と気候のとらえかたを学び、気候学に関する研究テーマを設定できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テキストを読み、各章についてレジュメの作成・発表を行います。
提出されたレジュメに対して、コメントを付けて返却します。
対面での講義が実施できない場合、レジュメの提出になります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講生との講義内容に関する意見交換
第 2 回	明治時代の気候と気象災害	明治時代の気候や気象災害の様子を、過去のデータから読み解く。
第 3 回	地球温暖化の実態とメカニズム	地球温暖化の実態とは
第 4 回	ヒートアイランドの性質	ヒートアイランドの実態とは
第 5 回	都市気候をめぐる話題	都市気候とは
第 6 回	気候変動の信頼性に関する問題	観測データの均質性、統計的な方法
第 7 回	夏の局地風と広域ヒートアイランド	海陸風と広域ヒートアイランド
第 8 回	猛暑の実態とその長期変化	猛暑とフェーン現象
第 9 回	気候変動と降水の変化	日本の大雨の特徴と降水の変化の実態
第 10 回	都市が降水に与える影響	都市と降水の関係
第 11 回	観測準備	都市気候に関する観測の準備
第 12 回	観測	観測実施
第 13 回	解析	観測データの解析
第 14 回	まとめ	都市気候の仕組みと実態に関するまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
レジュメ作成に際し、参考文献を読み、まとめることも含みます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
藤部文昭 (2012) ：『都市の気候変動と異常気象』. 朝倉書店,161p.

【参考書】
講義内でその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】
発表： 50 %、レジュメ作成： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、気候変動等の取組について講義していきます。

【Outline and objectives】
Learn the environmental climatology that is necessary for studying climatology and biometeorology.

HUG300BF

人文地理学特講（1）

小田　宏信

授業コード：A3455　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
産業立地論と産業集積論をベースにした経済地理学の主要な関心事について，基本的な考え方と研究事例を紹介します。これを通じて，地理的見方，考え方を培い，地理学の立場から現代の経済社会をみつめる一助とします。

【到達目標】
1．経済地理学の視点から，地域の発展と変容のメカニズムを理解できる。
2．産業立地論や産業集積論の基本を理解できる
3．産業立地と経済発展の関わりについて理解できる。
4．地理学の観点から現代社会を見つめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
オーソドックスな講義形式の授業です。
学習支援システムを通じた小課題の提出をお願いする予定です。フィードバックは授業時に口頭で、もしくは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	産業立地論の基本概念――距離と拡がり	産業活動にとっての距離と拡がりについて考えます。 → テキスト：序章、第 1 章 1 節
第 2 回	産業立地論の古典 (1)――チューネンの農業立地論	チューネン理論の意義について考えます。 → テキスト：第 1 章 2 節 (1)
第 3 回	産業立地論の古典 (2)――ウェーバーの工業立地論	ウェーバーの工業立地論について輸送費指向論を中心に紹介します。 → テキスト：第 1 章 2 節 (2)
第 4 回	産業立地論の古典 (3)――クリスタラーの中心地理論	中心地論の基本的な考え方を学びます。 → テキスト：第 1 章 2 節 (3)
第 5 回	集積と外部経済の理論	ウェーバー，マーシャルやヴァーノンの古典的理解を中心に，産業集積論の基本的な考え方を学びます。 → テキスト：第 1 章 3 節、第 10 章 1 節
第 6 回	グローバル化のなかでのローカリゼーション――ICT およびコンテンツ産業を中心に	グローバル化の中で、ローカルなもののもつ役割について考えます。 → テキスト：第 5 章 2 節 (1)、第 7 章 2 節 (3)、第 10 章 2 節 (1)、第 13 章
第 7 回	工業分散と企業内地域間分業――前グローバル化期までの日本を事例に	工業立地の分散と企業内地域間分業について，事例を通じて考えます。 → テキスト：第 1 章 3 節 (2)、第 5 章 1 節
第 8 回	グローバル生産ネットワークの形成――対外直接投資と多国籍企業の事業展開	直接投資の理論を紹介するとともに，日本の自動車メーカーを事例に，海外展開の実際を紹介します。 → テキスト：第 5 章 2 節 3 節、第 11 章
第 9 回	グローバルな商品流動と商品連鎖	グローバルな商品連鎖が途上国の発展の道筋に与える影響を考えます。 → テキスト：第 6 章
第 10 回	新興国の工業化と大都市問題	東南アジアを事例に工業化のプロセスを追い、それに伴う諸問題を考えます。 → テキスト：第 11 章
第 11 回	国民経済の地域間不均衡と都市群システム	地域格差の形成のメカニズムについて考えます。 → テキスト：第 2 章 2 節および第 9 章 2 節
第 12 回	大都市の衰退と再生、そして世界都市化	大都市圏のダイナミズムと世界都市化に伴う諸問題を考えます。 → テキスト：第 8 章および第 9 章 1 節
第 13 回	大都市のものづくり産業	東京を中心に大都市におけるものづくり産業集積の現代的意義を考えます。 → テキスト：第 7 章 2 節 (4) および第 10 章
第 14 回	まとめ	全体を振り返り、到達度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを用いて毎回の予習・復習を着実に心がけてください。復習用の課題が出た場合には，それに取り組んで下さい。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020 年。
このテキストの、序章、第 1 章、第 2 章、第 5 章、第 6 章、第 7 章、第 8 章、第 9 章、第 10 章、第 11 章、第 13 章の部分を扱います。

【参考書】
経済地理学会編『キーワードで読む経済地理学』原書房、2018 年.
小田宏信『現代日本の機械工業集積』古今書院、2005 年.
竹内淳彦・小田宏信編『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社、2014 年.
貝沼恵美・小田宏信・森島済『変動するフィリピン』二宮書店、2009 年.
杉浦芳夫編『空間の経済地理』朝倉書店、2004 年.
青山裕子ほか（小田宏信ほか訳）『経済地理学キーコンセプト』古今書院、2014 年.
菊地俊夫・小田宏信編『東南アジア・オセアニア』朝倉書店、2014 年.
加賀美雅弘編『ヨーロッパ』朝倉書店、2019 年.
矢ヶ崎典隆ほか編『グローバリゼーション』朝倉書店，2018 年.
サクセニアン，A.（山形浩生・柏木亮二訳）『現代の二都物語』日経 BP、2009 年.
サクセニアン，A.（酒井泰介訳）『最新・経済地理学』日経 BP、2008 年.
フロリダ，R.（井口典夫訳）『クリエイティブ都市論』ダイヤモンド社，2009 年.

【成績評価の方法と基準】
平常時の小課題（60 %）と最終の到達度確認テスト（40 %）より評価します。

【学生の意見等からの気づき】
最初の方は抽象的でイメージしにくい部分もあるかも知れませんが、徐々に具体的な話になってきますので、しばらくご辛抱ください。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】
配布プリントは毎回、A4 で 4 ページないし 8 ページ分をお渡しします。ファイリングする小冊子となりますので、整理を心がけてください。

【Outline and objectives】
This course provides an introduction to economic and industrial geography. Topic areas include economic globalization, spatial distribution of industrial sectors, multinational corporations, regional economic development, and illegal economic activities.

HUG300BF

人文地理学特講（2）

片岡　義晴

授業コード：A3456　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
食料自給率、農業政策、農業各部門（稲作、畜産、施設園芸等）等に関する問題を通して、現代日本の農業の実態を知ることをめざします。

【到達目標】
農業は土壌条件や気候条件に規定されているという、一見「地理学的」な説明を脱却して、世界の政治・経済の仕組み、それに規定された日本の農業政策、日本の経済動向を踏まえて、日本農業の実態に迫っていきます。例えば日頃飲む牛乳のパッケージに記載されている内容は日本の酪農の実態を反映した「具体的」なものであり、そうした身近な具体例を通して日本農業の実態に迫っていきます。それらを通じて日本農業の本質が理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の進め方】
土壌条件や気候条件による農業の地域性とかいう、一見「地理学的」説明であるかのごとき、悪しき農業地理学を廃して、世界の政治経済の仕組み、そしてそれに従属、いや「ただ乗り」しようとする日本農政、経済界の思惑に翻弄され続けている日本農業を概観したいと思います。
【課題等に対するフィードバック方法】
授業の初めに、前回までの授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
【授業の進め方と方法】
講義形式で授業していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の農業と環境 (1)	日本の食料自給率
第 2 回	日本の農業と環境 (2)	フードマイレージ
第 3 回	日本の農業と環境 (3)	バーチャルウォーター
第 4 回	戦後日本の農業政策 (1)	第二次世界大戦前から戦後復興期、高度経済成長期
第 5 回	戦後日本の農業政策 (2)	農業基本法農政から総合農政
第 6 回	戦後日本の農業政策 (3)	GATT・WTO 体制下農政
第 7 回	北海道農業 (1)	北海道農業の地域性と加工原料農産物への特化
第 8 回	北海道農業 (2)	北海道畑作の展開
第 9 回	北海道農業 (3)	北海道酪農と日本の酪農政策
第 10 回	稲作の変容	減反政策の展開と廃止
第 11 回	畜産業の展開 (1)	輸入飼料と飼料コンビナート
第 12 回	畜産業の展開 (2)	畜産インテグレーション―ブロイラー生産を事例に―
第 13 回	施設園芸の展開	花卉園芸の展開
第 14 回	卸売市場の展開と農産物流通	卸売市場法の変化と形骸化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ニュース、新聞等の報道において、どれだけ食料・農業・農村に関する話題が示されているか、注意を向けて下さい。そしてそれらはいったい「誰」の立場に立脚しているものなのか、それを意識して報道に注意を向けるようにして下さい。「消費者の立場」という「立場」も、決して一様ではないのです。様々な「立場」の「消費者」が存在し、どの「立場」の「消費者」に立脚した議論なのか、それを確認しようとして下さい。
なお本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使用しません。

【参考書】
樫原・江尻（2006）『現代の食と農を結ぶ』大月書店を一応の参考文献としますが、その他にも多数あるため、授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（論述式試験）によって成績評価します（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】
配付資料が多すぎるとの指摘がありますが、必要なものは提示せざるを得ません。資料の基となる一次資料の意義、限界についてもお話しできればと思います。

【学生が準備すべき機器他】
特にありません。

【Outline and objectives】
Agricultural problems under Japanese government's policies on agriculture.

HUG300BF

人文地理学特講（3）

小原　丈明

授業コード：A3457　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業は社会経済地理学の基礎的な内容を踏まえた上で，特に商業・流通にかかわる社会的・経済的事象について空間的観点から考える授業です。
具体的には，商業施設の立地展開や流通構造の変化，現代の社会問題について，各事例の理解を踏まえた上で，立地論などの理論や制度に関して考えていきます。

【到達目標】
本授業を通じて，商業・流通に関わる知識を得るだけでなく，近年の経済地理学（商業地理学・流通地理学）の動向を理解することができるようになります。また，諸事象を空間的に考える思考方法を修得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
まず，地理学において商業・流通がどのようにして教育・研究の対象となっているかを整理した上で，前半では，特色のある幾つかの商業施設の立地や形態，産業構造などについて空間的に考察します。
そして，後半では，流通構造の変化についての理解をはかるとともに，社会や都市との関係性に留意して商業・流通業の置かれている現状を考えます。
本講義では，授業で扱う事象について受講生自身が考え，意見を表明することを重視します。それゆえ，授業内外で小レポート等の課題を課すことになるので，積極的に取り組むことを期待します。
また，課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。
なお，本授業は基本的に対面形式で行いますが，場合によっては，オンライン形式となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／社会経済の変化と商業・流通	講義の方針・内容・進め方について／基礎的概念の整理，時代的変化
第 2 回	チェーンストアの立地展開（1）	百貨店
第 3 回	チェーンストアの立地展開（2）	スーパーマーケット
第 4 回	チェーンストアの立地展開（3）	コンビニエンスストア
第 5 回	チェーンストアの立地展開（4）	その他専門店
第 6 回	前半のまとめ：商業施設の立地	商業施設からみる立地論
第 7 回	流通構造の変化（1）	物流ネットワークの変化
第 8 回	流通構造の変化（2）	チェーンストアの流通構造
第 9 回	流通構造の変化（3）	第 1 次産業と流通
第 10 回	流通構造の変化（4）	第 2 次産業と流通
第 11 回	商業・流通をめぐる現代の諸問題（1）	中心市街地の空洞化
第 12 回	商業・流通をめぐる現代の諸問題（2）	買い物難民，フードデザート問題
第 13 回	商業・流通をめぐる現代の諸問題（3）	食の安全性
第 14 回	後半のまとめ：流通と社会	商業・流通からみる社会の変容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業内外で課題を課します。授業外の課題では簡単な調査を行ってもらいます。また，授業の中で紹介した文献を積極的に読むことを期待します。なお，本授業の授業外学習（レポート課題・準備・予習・復習）は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特定のテキストは使用せず，授業レジュメや資料はこちらで作成・準備し，配布します。

【参考書】
参考文献は講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（小レポート課題等）：30 %，筆記試験（持ち込み不可）：70 %。授業内容を正しく理解した上で，論理的な思考の下での独創的な考えの表明，積極的な姿勢を重視します。

【学生の意見等からの気づき】
できるかぎり各回で完結する講義内容となるように心掛けますが，受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。また，課題に対する受講生の成果をフィードバックすることを通じて，双方向的な授業になるよう心掛けます。

【Outline and objectives】
This course introduces social and economic phenomena, especially the location of various commercial facilities, the changes of distribution structure, and the social problems concerned with urban area to students taking this course. The goals of this course are to obtain the knowledge of commerce and distribution, to understand the trend of economic geography, and to acquire the way of geographical thinking.

HUG300BF

人文地理学特講（4）

伊藤　達也

授業コード：A3489　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義の内容は名古屋大都市圏の成立、発展、現状、問題点を、特に経済的側面から解説していきます。そしてトータルとしての名古屋大都市圏の形成論理、存立メカニズムの理解を目指します。

【到達目標】
本講義の内容は名古屋大都市圏の成立、発展、現状を適切に理解するようになることです。そして、トータルとしての名古屋大都市圏の形成論理、存立メカニズムの理解を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、DVD 等を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。授業とは別に「地域地誌」レポートを作成してもらいます。1 月に 1 日エクスカーションを実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
1	国際化社会	国際化社会の中での社会変容について説明します
2	国民経済と国家	現代における国家の役割について説明します
3	地域経済の成立	地域経済の成立メカニズムについて説明します
4	地域経済の成長原理	地域経済の成長メカニズムについて説明します
5	名古屋の成立	17 世紀初頭、城下町名古屋の成立について説明します
6	近代名古屋の出発	明治期の名古屋について説明します
7	名古屋の経済成長前期	明治後半の名古屋の産業（軽工業）発展について説明します
8	名古屋の経済成長後期	大正から昭和初期の名古屋の産業（重工業）発展について説明します
9	名古屋の歴史（ＤＶＤ）	名古屋の産業発展と都市発展について、ＤＶＤで学習します
10	名古屋大都市圏の成立	戦後の経済発展の中での名古屋大都市圏の成立について説明します
11	東京一極集中の中の名古屋	名古屋大都市圏の現状について説明します
12	名古屋の社会地域構造	名古屋大都市圏の社会地域構造について説明します
13	名古屋の課題	現在の名古屋大都市圏の特徴と課題について説明します
14	1 日エクスカーション	東京を巡ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の一環で、レポートを作成します。テーマは授業中に説明しますが、「○○地域の地誌」の予定です。本授業の準備。復習時間に各 1 時間をあて、レポート作成に 2 時間をあてます。

【テキスト（教科書）】
使用しません。関連資料は授業中に配布します。

【参考書】
名古屋大都市圏研究会編（2011）『新版　図説名古屋圏』古今書院
佐藤正明（2005）『ザ・ハウス・オブ・トヨタ－自動車王豊田一族の百五十年－』文芸春秋
砂川幸雄（1998）『森村市左衛門の無欲の生涯』草思社
城山三郎（1994）『創意に生きる－中京財界史－』文春文庫
中田　実・谷口　茂編（1990）『名古屋－第二の世紀への出発－』東進堂
楫西光速（1962）『豊田佐吉』吉川弘文館

【成績評価の方法と基準】
成績は期末試験（70 %）とレポート（30 %）で行い、両者の合計が 100 % です。

【学生の意見等からの気づき】
できるだけ学生のコメントに耳を傾けた授業を行いたいと思います。

【Outline and objectives】
The content of this lecture is to properly understand the establishment, development, current situation, and problems of the Nagoya metropolitan area, especially from the economic aspect. And we aim to understand the formation logic and existence mechanism of the Nagoya metropolitan area as a whole.

GEO200BF

地図学 I

若林　芳樹

授業コード：A3459　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デジタル化の進展により、いつでも、どこでも、誰もが自由に地図を使ったり作成に参加したりすることが容易になっている。しかし、適切に地図を作成・利用するためには、地図学の知識と技術をふまえた一定のリテラシーが必要になる。この授業では、地図学の基礎的事項を学ぶことで、身の回りの地図の善し悪しを評価し、自ら地図を作成するための方法を身につけることをねらいとする。

【到達目標】
地図の基礎的事項を理解した上で、地図表現の善し悪しを評価したり適正に利用したりできるようになる。自分で地図を作成するための知識や技術を習得する。また、デジタル地図を作成・利活用するための GIS の基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
前半では、地図の歴史を踏まえて現代の地図の特徴と基礎的事項を学習する。後半では、地図の利用と表現のためのさまざまな概念や方法を学んだ上で、身の回りの地図を収集し、目的に合った表現や内容になっているかどうかを評価する。最後に、この授業で学習した地図学の知識と技術をふまえて、自分自身で主題図を作成し、討論する。
課題等の提出は、基本的に「学習支援システム」を通じて行い、課題に対する解説や講評は授業内で行う。
なお、対面形式の実施を想定しているが、状況によってオンライン形式での実施に切り替える場合もある。その際は、事前に通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	地図の概念、授業計画
第 2 回	地図の歴史と空間情報伝達の変化	地図の歴史、メディアと伝達様式の変化
第 3 回	地図の図式と記号	図式と地図記号、地図デザイン
第 4 回	地図の分類と基本要素	基本図、主題図、地図投影法と座標系
第 5 回	地図の利用	地形図の読図、図上計測、地図分析
第 6 回	空間スケールと地図	スケールの意味、メッシュコードの体系、総描
第 7 回	さまざまな主題図	土地利用図、統計地図、道案内図、ハザードマップ
第 8 回	地図の記号化とデザイン	視覚変数、地図記号のデザイン
第 9 回	地図で嘘をつく方法	地図表現のレトリック
第 10 回	デジタルマップの時代	地形表現、時間表現、マルチメディア、参加型
第 11 回	地図の収集と評価	既存の地図を収集しグループで討論する
第 12 回	バーチャル地図とメンタルマップ	人間の空間認知と地図
第 13 回	地図と GIS	空間データの構造、空間データの視覚化
第 14 回	地図と社会	地図の政治性、地図と文化、地図の力

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
身の回りの地図を収集し、授業で学んだことをふまえて内容・表現・用途を吟味する。自ら情報を集めて主題図を作成する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない（プリントを配布）

【参考書】
『図の記号学』（ベルタン著、森田喬訳、平凡社、1983 年）、『地図学の基礎』（ロビンソン他著、永井信夫訳、帝国書院、1984 年）、『神の眼 鳥の眼 蟻の眼』（森田喬著、毎日新聞社、1999 年）、『地図を学ぶ』（菊地・岩田編、二宮書店、2005 年）、『オン・ザ・マップ』（ガーフィールド著、太田出版）、『地図の進化論』（若林芳樹著、創元社、2018 年）

【成績評価の方法と基準】
授業時の課題 80 %、小テスト 20 %で総合評価

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
Since the end of the 20th century, the widespread availability of information technology has led to an increased use of digital maps based on geospatial information. This trend has drastically changed the form and function of maps. The aim of this class is to acquire contemporary map literacy by learning the way of making and using a variety of maps.

GEO200BF

地図学Ⅱ

鈴木　厚志

授業コード：A3460　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
地図学や地理学との関わりのなかで地理情報科学をめぐる基本的事項について、適用事例を紹介しながら講義する。この授業では、地理情報科学と地図学・地理学との関連、地理情報科学の歩み、地理情報システムの概念と構成要素、地理空間情報の構造とその操作、 地理空間情報の視覚化、それらの地図表現のもつ社会的意義と課題を学ぶ。

【到達目標】
1 地図学や地理学と関連づけて地理情報科学の基本を理解することができる。
2 地理空間情報の基本構造と作成法を理解し説明できる。
3 地理情報システムを活用した地図表現の社会的意義と課題を理解し説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
　講義形態と一部作業を行いながら授業を進める。授業内容に関連し、各自のスマートフォンやタブレット端末等を使用して WebGIS を活用する。また、そうした内容に関連付けたリアクションペーパーの提出を複数回求める予定。提出後、それらの中から数点を授業において紹介し、本人からの解説を行ってもらうことにより、内容の共有を図る予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・地図学と地理情報科学	授業概要と注意事項、地図学と地理情報科学との関わりを解説
第 2 回	地理情報科学と地理情報システム	地図学や地理学との関係、発達、構成要素を説明
第 3 回	空間モデリングとデータ構造 1	空間モデリングの考え方を説明
第 4 回	空間モデリングとデータ構造 2	空間データ構造を解説
第 5 回	空間モデリングとデータ構造 3	属性データ構造を解説
第 6 回	地理空間情報 1	「数値地図」「国土数値情報」「地球地図」について解説
第 7 回	地理空間情報 2	「基盤地図情報」「電子国土基本図」等について解説
第 8 回	地理空間情報の作製 1	印刷地図・デジタル地形測量・GNSS からのデータ取得と作製方法を解説
第 9 回	地理空間情報の作製 2	リモートセンシング・レーザ計測等からのデータ取得と作製方法を解説
第 10 回	地理空間情報の視覚化	地図表現、総描、地図レイアウトと出力の基本を説明
第 11 回	地理情報システムによる分析	空間検索、重ね合わせ、バッファリング、空間分割等を解説
第 12 回	地図表現と社会 1	行政、防災分野における地理空間情報の活用を解説
第 13 回	地図表現と社会 2	ビジネス、教育等の分野における地理空間情報の活用を解説
第 14 回	地理情報科学と未来社会	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
地図学と地理情報科学をめぐる記述動向や社会的な応用に日々関心を持ち、テキストに加え新聞や雑誌などからの情報収集に努めること。授業時に図書や論文講読の指示、そしてレポート等の作成を課す予定。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
鈴木厚志編『地図表現と地理情報システム (2021 年版)』→ プリントとして配付予定

【参考書】
『地理情報科学　GIS スタンダード』(古今書院，2015)
『地理情報科学事典』(朝倉書店，2004)
『地図と測量の Q&A』(一財) 日本地図センター，2013)

【成績評価の方法と基準】
・出席率が 2/3 に達しない者は評価の対象としない。
・授業中に行う小テスト (10 点 ×3 回) と学期末試験 (70 点) の合計得点により評価する。
・リアクションペーパーの提出を数回求める予定。

【学生の意見等からの気づき】
授業用スライドの不明点を少なくする改善を心掛け、テキスト内容の不明点の解説も授業中に行っていく。用語については平明に説明する。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【Outline and objectives】
In this class, I will lecture the following contents. 1. Relationship between geographic information science and cartography and geography 2. History of geographic information science 3. Concept and elements of geographic information system 4. Structure of geospatial information and its operations 5. Visualization of geospatial information 6 Map representations and their social significance and problems.

GEO300BF

測量学及び測量実習Ⅰ

川本　利一

授業コード：A3461　｜　曜日・時限：**月曜 3 限**
春学期・2 単位
備考（履修条件等）：**「測量学及び測量実習Ⅰ」を履修する場合は，「測量学及び測量実習Ⅱ」も同時に履修すること。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である．位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である．この授業では，測量に関する基礎理論を学ぶとともに，実習を行い，測量の基礎的技術の習得を目指す．特に，測量データの基礎的な取り扱い及び測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量を中心に講義・実習を行う．

【到達目標】
測量に関する基礎的知識を習得する．測量に関する誤差を理解し誤差の計算ができるようになる．距離測量と水準測量の技術を習得し実施することができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
測量法及び測量の資格と社会との関係，測量の基本となる事項やさまざまな測量についての講義，測量で得られたデータ処理の基礎である誤差学に関する講義・計算実習，測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量の講義・実習・計算処理を行う．教室で行う講義と実際に測量機器を使った測量を組み合わせて学ぶ．測量結果に基づき計算を行い，最終成果として測量結果に基づき測量簿冊及び成果表を作成する．
課題等のフィードバックは「学習支援システム」及び授業を通じて行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	測量とは	測量の概要と歴史について講義する
第 2 回	測量の法律と資格	測量に関する法律と測量の資格について講義する
第 3 回	地球の大きさ・形状	地球の大きさ，形と測量の原理について講義する
第 4 回	誤差論 1	誤差の種類と対処方法について講義する
第 5 回	誤差論 2	誤差に関わる計算方法と計算実習
第 6 回	各種測量とその原理	角測量，距離測量，GPS 測量，トータルステーションを用いた測量，簡易測量の原理と方法について講義する
第 7 回	水準測量の原理	水準測量の原理，使用する機器について講義する
第 8 回	水準測量実習 1	レベルの使用方法
第 9 回	水準測量実習 2	観測方法の習得
第 10 回	水準測量実習 3	水準測量の観測実習（往）
第 11 回	水準測量実習 4	水準測量の観測実習（複）
第 12 回	水準測量のデータ処理 1	観測データの整理方法について講義する
第 13 回	水準測量のデータ処理 2	実習で行った観測データの整理
第 14 回	まとめ	観測結果を使用して新点の標高及び最確値等の計算

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題の宿題は，次の授業時までに必ず提出すること．
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までに終わらせておくこと．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
参考書：長谷川 昌弘・川端 良和『改訂新版　基礎測量学』電気書院

【参考書】
書店では測量学に関するさまざまなテキスト，図解テキストが売られている．自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい．
中堀義郎ほか著『絵で見る基準点測量　第２版』日本加除出版
斉藤博ほか著『新版　教程　基準点測量』山海堂

【成績評価の方法と基準】
平常点 (20%)，授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)，実習態度 (30%) を総合して評価する．提出物の欠如者には単位は与えられない．

なお，測量学及び測量実習Ⅰを履修する場合は，測量学及び測量実習Ⅱも同時に履修すること．測量学及び測量実習Ⅰだけの履修は認めない．また，受講を希望する者は第１回授業から出席すること．
また，使用する教室の関係から抽選によって履修者の決定を行う場合がある．

【学生の意見等からの気づき】
講義・実習は基礎的なものに重点を置き，測量の基礎について修得を目指す．また，測量機器の操作方法等の実習内容について判りやすい説明を行う．

【その他の重要事項】
関数電卓を必ず持参すること．
国土地理院職員として測地測量に従事した者が，高さを測る水準測量を中心に講義及び実習を指導する．

【Outline and objectives】
The most fundamental information regarding space is information regarding position.Surveying is the method used to get this information regarding position. In this class, studies along with actual practice will be held for learning the basic theories concerning surveying, all with the aim of learning the basics of surveying. In particular, leveling, which is one of the pillars in the basic handling of surveying data and in surveying will be the focus of this lesson's study and practice.

GEO300BF

測量学及び測量実習Ⅱ

川本　利一

授業コード：A3462　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・2 単位
備考（履修条件等）：**「測量学及び測量実習Ⅱ」を履修する場合は，「測量学及び測量実習Ⅰ」も同時に履修すること。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「測量学及び測量実習Ⅰ」に引き続き，測地測量のもう一つの柱である水平位置を求める測量の理論を学ぶとともに実習を行い，測量に関する基礎的技術の習得を目指す．特に，トータルステーションを用いた基準点測量及び最新の測量である GNSS 測量を中心に講義・実習する．

【到達目標】
基準点測量の理論を理解しデータ処理ができるようになる．GNSS 測量の原理，方法を理解できる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基準点測量の方法について学び，実習を行う．実習で得られたデータに基づいて誤差処理，計算を行う．また，GNSS 測量などについても簡単な実習を行う．この授業では，教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせて測量の方法について学ぶ．
課題等のフィードバックは「学習支援システム」及び授業を通じて行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	基準点測量の概要と使用機器	基準点測量の概要及び使用機器の原理について講義する
第 2 回	基準点測量の方法	基準点測量の方法について講義する
第 3 回	基準点測量の観測計画	トータルステーションを用いた基準点測量の観測計画（選点）の講義する
第 4 回	基準点測量の観測 1	基準点測量の観測方法と観測結果の許容範囲の見方について講義する
第 5 回	基準点測量の観測 2	トータルステーションを用いて角観測及び距離観測の方法を実習する
第 6 回	基準点測量の実習 1	トータルステーションを用いた観測点 1 の観測を実習する
第 7 回	基準点測量の実習 2	トータルステーションを用いた観測点 2 の観測を実習する
第 8 回	基準点測量の実習 3	トトータルステーションを用いた観測点 3 の観測を実習する
第 9 回	基準点測量データの処理 1	観測データ整理を行う
第 10 回	基準点測量データの処理 2	距離補正計算を行う
第 11 回	基準点測量データの処理 3	標高計算を行う
第 12 回	基準点測量データの処理 4	座標計算を行う
第 13 回	GNSS 測量 1	GNSS 測量の原理及び測量について講義する
第 14 回	GNSS 測量 2	ハンディー GPS を用いて GPS 単独測位を体験する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
演習問題の宿題は，次の授業時までに必ず提出すること．
授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次に授業時までに終わらせておくこと．また，授業時間内で終了しなかった計算は次に授業時までに各自終わらせておくこと．本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
参考書：長谷川昌弘・川端良和『改訂新版　基礎測量学』電気書院

【参考書】
書店では測量学に関するさまざまなテキスト，図解テキストが売られている．自分の興味やレベルに応じた本を参考とするとよい．
斉藤博ほか著『新版　教程　基準点測量』山海堂
飯村友三郎ほか著『公共測量教程　TS-GPS による基準点測量　三訂版』東洋書店

【成績評価の方法と基準】
平常点 (20%)，授業中に行う計算・測量の成果（最終課題）(50%)，実習態度 (30%) を総合して評価する．提出物の欠如者には単位は与えられない．
なお，測量学及び測量実習Ⅱを履修する場合は，測量学及び測量実習Ⅰも同時に履修すること．測量学及び測量実習Ⅱだけの履修は認めない．また，受講を希望する者は第 1 回授業から出席すること．
また，使用教室の関係から抽選によって履修者の決定を行う場合がある．

【学生の意見等からの気づき】
講義・実習は基礎的なものに重点を置き，測量の基礎について修得を目指す．
また，測量機器の取り扱いを含め実習内容について判りやすく説明を行う．

【その他の重要事項】
関数電卓および直定規を必ず持参すること．三角関数を用いた計算を行う．
国土地理院職員として測地測量に従事した者が，水平位置を求める基準点測量について講義及び実習を指導する．

【Outline and objectives】
In succession of [surveying and survey training Ⅰ], study along with training will be held for one more of the pillars in surveying, the theory of acquiring horizontal position. In particular, a course and practice will be held for control point surveying by total station and the latest GNSS surveying.

GEO300BF

写真判読 I

宮内　崇裕

授業コード：A3463　｜　曜日・時限：**水曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
空中写真の実体視や 3D 画像による地形判読および図化作業を通じて，「地形学」で学習した地形単元の特徴を理解する技術を習得する。本講義ではとくに平野地形・火山地形・変動地形・侵食地形の判読を行う。

【到達目標】
地理学の幅広い修得には，人間活動の舞台である多種多様な地形単元の実例を数多く判読・観察・議論・図化する技術の修得が必要である。本講義では，空中写真実体視の光学的理論を理解し，代表的な地形要素を一人で判読・抽出・図示することができるまでのレベルを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
初回 4 月 7 日（水）は Hoppii によるオンデマンド授業とする。2 回目以降授業は，受講者数の状況と情報実習室 F における 3 密回避対応を検討し，対面式かオンライン式で行うかを判断する。
空中写真のレビューと実体視理論を解説した後で，個々の地形単元ごとに判読資料を配付し，実体視を行う。実体視を通じて得られた地形イメージを地形図等へ図化表現（移写）することにより，判読実体を明確に記録し，地形形成プロセス理解へのてがかりとする。従って，各回の地形判読結果とその図示成果が習熟度の評価となるので，欠席せず毎回地形判読の作業を実施しレポートを提出することが必須である。なお，課題においた作業地形図を印刷し，地形判読結果を図化したものをスマホ等のカメラで撮影し，電子ファイルで提出すること。提出された課題については評価コメントをつけて返信するので，それを通して質疑を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地形判読とは	空中写真の歴史とそれを活用した地形判読を知る。
第 2 回	空中写真の実体視	空中写真の本質，歴史，種類，入手法，実体視について知る
第 3 回	実体視の原理とアナグリフの作成	光学的な視点から実体視の意味を理解し，アナグリフの作成法を学ぶ
第 4 回	平野地形 1	河成段丘の判読・図化
第 5 回	平野地形 2	沖積扇状地の判読・図化
第 6 回	平野地形 3	河成低地の微地形判読と図化
第 7 回	平野地形 4	海成段丘・離水海岸地形の判読と図化
第 8 回	東京（市ヶ谷キャンパス）の地形判読	多種多様な構成地形単元の同時判読
第 9 回	火山地形 1	単成火山の判読と図化
第 10 回	火山地形 2	複成火山（火砕流・溶岩・カルデラがつくる地形）の判読と図化
第 11 回	変動地形 1	縦ずれ断層変位地形の判読と図化
第 12 回	変動地形 2	横ずれ断層変位地形の判読と図化
第 13 回	変動地形 3	地震性隆起海岸地形の判読と図化
第 14 回	地すべり地形	マスウエイスティングの代表である地すべり地形の判読と図化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記参考書において，各回に該当する地形判読項目について読んでおく。また毎回の実習内容は宿題となるので，次週までに仕上げて提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
その都度必要資料を配付する。

【参考書】
貝塚ほか編「写真と図で見る地形学」，東京大学出版会.
東京地図研究社「東京の凹凸地図」，技術評論社.
(財) 日本地図センター「空中写真の知識」，日本地図センター.

【成績評価の方法と基準】
毎回配布される資料に，判読結果を図化し，地形学図を作成する。その提出と成果内容（100 %）によって評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】
簡便な実体視技術を用いて，平易に図化できる教材とする。

【学生が準備すべき機器他】
USB メモリ（容量 1GB），フリクションペン（0.5mm、赤青 1 本ずつ），12 色色鉛筆セット

【Outline and objectives】
This lecture aims to learn tecniques for undertstanding topopgraphic units and featrues throuh stereopcopic reading and mapping using air-photos and 3D images. Especially, we perform the reading and mapping works on plain, volcannic, tectonic and erosinal landforms.

GEO300BF

写真判読Ⅱ

郭　栄珠

授業コード：A3464　｜　曜日・時限：**水曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ポストデジタル情報時代に求められる社会人を育成するため、写真判読の最先端技術を通して DX 推進人材に求められるスキルや育成アプローチについて紹介・説明する。具体的には、航空写真及び人工衛星画像からどのような情報が読み取れるのか、目視による判読から簡易な画像処理の応用まで実習する。特に、衛星リモートセンシング技術による地形判読から地理学で重視する地域ごとに異なる空間的異質性・地域性・歴史性を結びつくことが目的である。さらに、長期的な土地利用変化、効率的な災害状況把握など衛星画像の応用例の可視化や実務スキルにも役に立つ画像判読などの手法を学ぶ。

【到達目標】
本講義で使用する高分解能光学衛星画像は、航空写真と同様に肉眼判読による情報抽出が容易であり、より広い範囲の地形判読が可能になる。さらに、地形判読の重要性を単画像だけではなく複数画像を使うことにより地形変化の基礎的な知識と判読技術が習得できる。本講義では、航空写真や衛星画像等のさまざまなデジタルデータによるリモートセンシング技術の原理を深く理解し、地理情報システム (GIS) 学をもとに簡便に計算できるデータ分析方法や判読力、応用スキルなどを身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義の前半は、理論講座（WEB 型式）で地形判読において衛星画像の原理について学ぶこと 、講義の後半は自主学習講座（対面型式）で GIS ソフトウェアとデジタル画像解析による地形判読の実習トレーニングを行う。実習トレーニングは、日本全国を対象に、各自で興味ある地域を選定し、デジタル空中写真や衛星画像等の実習データをダウンロードしつつデジタル写真判読や画像判読が可能になるよう課題解決の企画能力及び分析力を身につけるアクティブラーニング手法である。実習トレーニング結果は、授業内でのリアクションファイルやレポート（課題）を提出しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	衛星リモートセンシングとは？	航空写真と衛星画像との違いを理解する。
第 2 回	画像処理の基礎：電磁波	衛星画像の原理を理解及び把握する。
第 3 回	画像処理の基礎：投影法	衛星画像のマッピング原理（座標系）を理解及び理解する。
第 4 回	画像処理の基礎：幾何補正	統合型 GIS 上で衛星画像を重ね合わせる手法を理解する。
第 5 回	宇宙から撮った画像から地形判読 （1）：地形分類	高地地形、低地地形、海岸地形
第 6 回	宇宙から撮った画像から地形判読 （2）：可視化	地形の可視化（リニアメント）から断裂系の分布を判読する。
第 7 回	衛星データ準備：データダウンロード	JAXA の ALOS 衛星画像と NASA の Landsat, MODIS 衛星画像の実習データをダウンロードする。
第 8 回	3 次元地形判読：数値標高モデル (DEM) データ分析実習	地形判読に重要な数値標高モデル (JAXA W3D, SRTM, ASTER) の理解およびその 3 次元分析できる技術を習得する。
第 9 回	衛星画像を用いた土地被覆分類	衛星画像を用いた地表面土地被覆分類の自動アルゴリズムを理解し、衛星画像の実習データを解析して簡易土地被覆分類の実習を行う。
第 10 回	水災害による地形判読：洪水氾濫	国内・国外の洪水氾濫事例から洪水地形の特徴を把握し、衛星画像の実習データから洪水範囲の氾濫水を抽出する手法を習得する。
第 11 回	土砂災害による地形判読：地すべり、土石流、斜面崩壊	国内・国外で発生した地すべり、土石流、斜面崩壊の地形特徴を把握し、衛星画像の実習データを用いて土砂災害事例からその崩壊の判読範囲を描く実習を行う。
第 12 回	植生指標による地形判読	衛星画像の実習データを分析し、正規化植生指標 (NDVI) による植生分類図を試作する。
第 13 回	GIS データの変換	衛星画像から分類・抽出したデータを組み合わせて使うため GIS 標準フォマットのデータ変換手法を習得する。
第 14 回	実習による各自の成果発表	実習で学んだ内容を基に応用力向上のための各自 1 分スピーチ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ESRI ArcGIS Pro や Q-GIS のような地理情報関連ソフトウェアーの基礎を十分にマスターし、
日本の国土地理院や JAXA などの最近技術動向に興味を持ちながら写真判読の関連情報を調べておく必要がある。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書を使用しない。資料は各講義・実習中に配布

【参考書】
1）JAXA と NASA のウェブサイト
2）改訂版 図解リモートセンシング　日本リモートセンシング研究会編　（社）日本測量協会
3）Q-GIS　https://qgis.org/ja/site/
4）ArcGIS Pro　https://www.esrij.com/products/arcgis-desktop/

【成績評価の方法と基準】
対面授業の実習による成果のスピーチ（40 %）、期末試験（40 %）、出席・平常点（20 %）などにより評価する。ただし、コロナ影響による WEB 講義を行う場合、期末試験（40 %）はレポートと出席・平常点に代替

【学生の意見等からの気づき】
直近の授業改善アンケートを踏まえた授業改善のための取り組みや工夫の内容を示します。

【Outline and objectives】
This lecture introduces advanced topics, which give information created by interpretation of image data from air-photos and satellite images. Based on Spatial heterogeneity, locality, and historical geography, the ultimate objective is to understand and learn the new skills at high work-level using advanced Remote-Sensing and GIS technology.

GEO200BF

数理地理学（１）

永保　敏伸

授業コード：A3465　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
様々なデータの特徴を理解し，研究目的に応じた解析を行う．その際の，解析方法や視覚化方法などの基礎的な技術を習得する．

【到達目標】
地域的分布や経年的傾向の特徴を見出すために，現地調査の結果や，既存の統計資料など，様々なデータから統計処理を行い，解析結果を求められるよう必要な手順を習得する．そして，多変量解析などより高度な解析を行う準備ができるようにする．
また，各自が地域特性分析の方針をたて，求める結果に到達できるようにする．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【2021.04.06　21 ： 28 更新】
法政大学学習支援システムへのアクセスがしづらい状況です．
本講義の Zoom アドレス等は，下記担当教員のサイトから案内します．受講希望者は必ず閲覧してください．
http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~fb60065/2103su/index-1.html
＋＋＋

GEO300BF

外書講読（1）

前杢　英明

授業コード：A3469　｜　曜日・時限：木曜 2 限
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本授業の目的は、地図学および自然地理学を構成する主要な柱とも言える気候，地形，水文などの各分野に関する外国語 (主として英語) の文献をバランスよく読み，その内容を適正に理解することにある。また英語で問われた課題に関して英語で解答できるようになる。

【到達目標】
本授業を受講する学生のすべてが、英語で書かれた基本的な自然地理学分野の教科書を辞書を使いながら自ら読むことができ、さらに簡単な問題に英語で回答することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は学習支援システムを利用して自習・課題提出型のオンデマンド形式で行う。地理学の基本である地図学や自然地理学の各分野に関連する基礎的な外国語の文献を、学習支援システム上に教材・課題として授業開始時間までに毎回アップロードし、受講者に配布する。受講者は指定された課題を期日までに学習支援システム上で提出する。課題の解答例を〆切後にお知らせ欄にアップするので、その内容に関して受講者各自が確認し、内容の正しい理解に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	地図学分野の文献購読（1）	地図学分野の文献を読んで読解能力をつけるとともに、毎回のテーマに関する課題に英語で解答する。
第 2 回	地図学分野の文献購読（2）	第 1 回と同様
第 3 回	地図学分野の文献購読（3）	第 2 回と同様
第 4 回	地図学分野の文献購読（4）	第 3 回と同様
第 5 回	地図学分野の文献購読（5）	第 4 回と同様
第 6 回	自然地理学分野の文献講読（1）	自然地理学分野の文献を読んで読解能力をつけるとともに、毎回のテーマに関する課題に英語で解答する。
第 7 回	自然地理学分野の文献講読（2）	第 6 回と同様
第 8 回	自然地理学分野の文献講読（3）	第 7 回と同様
第 9 回	自然地理学分野の文献講読（4）	第 8 回と同様
第 10 回	自然地理学分野の文献講読（5）	第 9 回と同様
第 11 回	自然地理学分野の文献講読（6）	第 10 回と同様
第 12 回	自然地理学分野の文献講読（7）	第 11 回と同様
第 13 回	自然地理学分野の文献講読（8）	第 12 回と同様
第 14 回	自然地理学分野の文献講読（9）	第 13 回と同様

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システムを通じて配布する文献を読み，和訳した上で課題として与えられた問題を解く。このためには関連する事柄について調べたり，質問事項をまとめておくことが望ましい。学習支援システムに課題提出締切後に解答例ををアップするので、各自予習復習に利用して欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
アメリカの自然地理学の大学生レベルの教科書、およびワークブックを使用する。これを学習支援システムを通じて pdf で配布するので，受講者がテキストを購入する必要はない。

【参考書】
MxKnight's Physical Geography,Darrel Hess,ISBN 978-0-321-82043-3

【成績評価の方法と基準】
本科目の性格上，課題を提出することを前提とする。14 回の課題を 1 回 10 点満点で評価し、最終的に 100 点満点に換算することで評価する。最低 10 回以上課題を提出しない場合は、評価せず E とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
電子辞書、パソコン、タブレット（学習支援システムを画面で見る場合）。ネットで検索しながら解く課題もある。

【Outline and objectives】
Read English textbook and answer some questions in English to improve English skill

GEO300BF

外書講読（2）

中俣　均

授業コード：A3470　｜　曜日・時限：木曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学部におけるこの授業の意義は，
① 外国語（もっぱら英語。以下も同じ）に少しでも慣れること
② 「古典」との定評の確立した外国語の地理学文献に取り組む、あるいはそのための下準備をする
③ 外国における最新の学界動向を垣間見ること
などが考えられよう。しかし，半期という時間的制約があるため，これらをすべて満足させ ることは到底不可能である。本年は、上記②を重点的に意図し、地理学の「古典」といわれる著名な論文に取り組んでみたい。

【到達目標】
テキストとする英語論文の内容を正しく理解するとともに、自らの（卒業）論文執筆に資するよう取り組み、地理学の幅を広げることが目標である。ありていに言うなら入学時の英語の学力を取り戻しさらに発展させることを目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本年は、地理学を学ぶ学生に向けた入門書である下記の文献を取り上げる。
Alister Rogers and Heather Viles(2002)"The Student's Companion to Geography. second edition"(Blackwell)
この中から 人文地理学に関わるいくつかのエッセイを選んで読み進める。初回時にテキストのコピーを渡し，担当を決めて次回から読み進めていく。今年度は全授業をリモートで行なうので、受講者は定められたテキストのある個所を和訳し提出する・これについて、コメントを付して返却し、重要点などを指摘する。なお受講希望者は初回の授業時に必ず出席すること。例外は認められない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	英文文献読破のための基礎知識・方法について 輪読するテキストについての説明
第 2 回	テキストの読解と議論（1）	テキスト① 第 1 回
第 3 回	同上（2）	テキスト① 第 2 回
第 4 回	同上（3）	テキスト① 第 3 回
第 5 回	同上（4）	テキスト① 第 4 回
第 6 回	同上（5）	テキスト② 第 1 回
第 7 回	同上（6）	テキスト② 第 2 回
第 8 回	同上（7）	テキスト② 第 3 回
第 9 回	同上（8）	テキスト② 第 4 回
第 10 回	同上（9）	テキスト③ 第 1 回
第 11 回	同上（10）	テキスト③ 第 2 回
第 12 回	同上（11）	テキスト③ 第 3 回
第 13 回	同上（12）	テキスト③ 第 4 回
第 14 回	総まとめ	読み進んできたエッセイに関する総括と議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の分担者は、各自の分担部分について、英和辞書などを用いた単語などの下調べはもちろんのこと、登場する術語や人物についてもしかるべき事典を用いて調べておくこと。またほかの受講者もテキストをざっと読んで、そこでどのようなことが論じられているか、おおよその見通しをつけたうえで授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。。

【テキスト（教科書）】
初回時にテキストのコピーを配布する。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
随時に課せられる和訳レポートの質 (50%)，および毎回の議論の内容とによる平常点 (50%) で評価する。自分の担当部分はもちろんのこと，自分以外の人の担当部分についても毎回ちゃんと読んで（あるいは目を通して）授業に出席し、議論に加わるとともに，その内容の理解に努めることが大切である。であれば当然のこと，授業に出席することが単位取得に当たっては重要視される。

【学生の意見等からの気づき】
ただ単にテキストを読むだけでなく、その内容に関しての「議論」をできるだけ行ないたい。

【その他の重要事項】
地理学への入門の仕方は世界の各国ごとに違っている。本書は主にイギリスの大学での地理学入門書であるが、受講生が地理学に関心を持ち始めたころどのようなイントロダクションを受けてきたかを各自で振り返りながら、それと比較してほしい。

【Outline and objectives】
This course aims to brush up students' ability in English, and also to know new current themes and topics in western Human Geography.

GEO300BF

地理情報システム（ＧＩＳ）Ｉ

中山　大地

授業コード：A3471　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
デスクトップ型 GIS である ArcGIS もしくは QGIS を用いて，GIS の基本的な操作方法を習得することを目標とする．本講義ではさまざまな GIS データを用いて，ベクタ型・ラスタ型データの基本的な分析方法を学ぶ．

【到達目標】
GIS を用いてベースマップやコロプレスマップが作成できるようになることが本授業の到達目標である．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
20 分程度の説明と 80 分程度の実習を行う．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	GIS の基本的な操作 1	GIS の概念と構成，空間データの視覚化
第 2 回	GIS の基本的な操作 2	地図と GIS，空間データの構造，地図の投影法，地形表現
第 3 回	属性テーブル入門 1	属性テーブルの概念，基本的な操作
第 4 回	属性テーブル入門 2	属性検索
第 5 回	属性テーブル入門 3	属性結合
第 6 回	ネット上のデータの利用 1	センサスデータのダウンロードとコロプレスマップの作成
第 7 回	ネット上のデータの利用 2	センサスデータのマージ
第 8 回	ネット上のデータの利用 3	国土数値情報を用いた地図の作製，座標系の変換
第 9 回	数値地図の利用 1	数値地図のインポート，座標系の変換
第 10 回	位置情報の取得と表示 1	経緯度座標からの XY データ作成
第 11 回	位置情報の取得と表示 2	アドレスマッチングによる XY データの作成
第 12 回	人口分布の推定 1	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 13 回	人口分布の推定 2	センサスデータとジオプロセッシングを用いた面積按分による人口推定
第 14 回	レポートの作成	レポートとして GIS 操作マニュアルを作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする．

【テキスト（教科書）】
教科書は使わないが，参考書に挙げる文献が役立つ．

【参考書】
野上ほか (2001)『地理情報学入門』，古今書院．
佐土原ほか (2005)『図解!ArcGIS ―身近な事例で学ぼう』，古今書院．
高橋ほか (2005)『事例で学ぶ GIS と地域分析― ArcGIS を用いて』，古今書院．
村井ほか (2005)『GIS 実習マニュアル ArcGIS 版』，日本測量協会．

【成績評価の方法と基準】
レポート課題（80%），平常点（20%）で成績を決める．講義は出席するのが前提であるため，出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない．毎回の課題提出をもって平常点とする．レポートは GIS の操作マニュアルの作成である．

【学生の意見等からの気づき】
該当なし．

【学生が準備すべき機器他】
情報教室を使用する．

【その他の重要事項】
情報教室は使用可能台数が限られているため，受講希望者が多数の場合には選抜を行いグループで受講してもらう．受講を希望する学生は必ず初回の授業に出席すること．受講を許可されたにもかかわらず授業に出てこない学生が毎年いる．他の学生に迷惑をかけないよう，選抜されたという意識を持って授業に臨むこと．遅刻はグループのメンバーに迷惑をかけ授業の進行に支障をきたすため厳禁である．10 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回とするから注意すること．

【Outline and objectives】
The objective of this lecture is to learn the basic operation of GIS using ArcGIS or QGIS, which are desktop GIS. In this lecture, we learn basic analysis methods of vector and raster data using various GIS data.

GEO300BF

地理情報システム（ＧＩＳ）Ⅱ

中山　大地

授業コード：A3472　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
フリーのデスクトップ型 GIS である QGIS を用いて，GIS の応用的な分析手法を学ぶ．

【到達目標】
QGIS を用いた分析能力を習得し，課題を解決するために自らデータを収集・作成し，分析し，結論を導き出せるようになる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
PBL (Problem Based Learning) を行う．2 名一組のグループごとに，ある地域の災害避難場所を仮定し，GIS を用いてその避難所の設置プランを評価することが課題である．3 回目の実習終了時に全体的な計画書を提出する．それ以降は必要なテクニックを教授しながら作業を行う．毎回の作業後には作業報告を作成し，レポートとして最終報告書を提出する．
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 1	加重コスト距離を用いた空間分割と避難圏の分析
第 2 回	GIS を用いた避難場所の評価手法の説明 2	ジオプロセッシングを用いた避難圏の人口推定
第 3 回	計画書の作成	作業方針を決定
第 4 回	作業 1	災害弱者の定義，避難所選定方針の決定
第 5 回	作業 2	必要なデータの入手 1（位置情報を取得することにより，避難所データを入手・作成する）
第 6 回	作業 3	必要なデータの入手 2（属性結合による人口データの作成）
第 7 回	作業 4	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 1（ベクトルデータからラスタデータへの変換，空間分割）
第 8 回	作業 5	ジオプロセシング・面積按分を用いた災害弱者数の推定
第 9 回	作業 6	結果の検討 1（避難所・避難圏の評価）
第 10 回	作業 7	キャッチアップ
第 11 回	作業 8	加重コスト距離を用いた空間分割による避難圏の算出 2（別シナリオによる作業）
第 12 回	作業 9	結果の検討 2（避難所・避難圏の再評価）
第 13 回	作業 10	レポート作成 1（結果の地図化など）
第 14 回	作業 11	レポート作成 2（結果の考察など）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
QGIS は以下の URL からダウンロードしてインストールすること．
https://qgis.org/ja/site/forusers/download.html
Windows 使用者は QGIS スタンドアロンインストーラの 64 ビット版最新バージョン，
macOS 使用者は QGIS macOS インストーラの最新バージョンをインストールしてください．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使わない．自習ビデオとプリントを公開する．

【参考書】
自習ビデオとプリントを公開する．

【成績評価の方法と基準】
レポート課題 1 回（最終報告書，100 点満点）で成績を決める．講義は出席するのが前提であるため，出席率 70%以下の学生に対しては成績をつけない．毎回の作業報告の提出をもって出席とする．

【学生の意見等からの気づき】
該当なし．

【学生が準備すべき機器他】
フリーの GIS（QGIS）を受講生の PC にインストールするため，PC（Windows10 もしくは Mac）が必須です．スマートフォンにはインストールできません．

【その他の重要事項】
質問は授業支援システムで随時受け付けます．

【Outline and objectives】
The aim of this course is to learn application of Geographic information Systems using active learning (PBL and group work) using QGIS.

EDU200BF

理科教育法（1）

狩野　真規

授業コード：A3527　｜　曜日・時限：**水曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、中学校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。
また、今の日本の教育環境の変化の中で理科をどのように教えていくべきかを学生とともに考える場所となるような授業にすることも目指す。

【到達目標】
教科としての理科を指導できる能力を獲得することを最大の狙いとするが、到達目標としては、中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義冒頭に資料を配布し、それに基づいて進める。当然、受講者同士での議論もしてもらうし、講義終盤で次回のための予習課題を提示するので、一週間の中で準備をして、次回に小テストに取り組んでもらうこともする。フィードバックについてはできるだけその時間内で模範解答を提示したり、コメントをつけて次の回に返却していく予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	理科教育とは何か	理科教育の目的や理科教員に求められる育成を目指すための資質や能力について理解する。
第 2 回	理科教育の目標	中学・高校の学習指導要領などを通じて、理科の教育目標を確認する。
第 3 回	学習指導要領について・その 1	現行の中学学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第 4 回	学習指導要領について・その 2	現行の高校学習指導要領の内容を確認するとともに学習内容ごとに指導上の留意点について確認する。
第 5 回	日本の理科教育の変遷	明治以降の理科教育課程の変遷について追う。
第 6 回	国際学力調査とその結果の検討	ゆとり教育からの転換点となった国際学力調査について、その設題の実態や日本の結果とその推移から現状に対する課題を探る。
第 7 回	中学理科の科目研究・その 1	現行の中学理科の教科書を通じて、教材研究のヒントを示していく。
第 8 回	中学理科の科目研究・その 2	中学理科の学習に対する評価方法とその考え方について、テストや実験レポートなどの経験から探る。
第 9 回	中学理科の科目研究・その 3	実験機器の効果的活用とその指導法について理解するとともに授業設計に活かせる考え方を身に付ける。
第 10 回	中学理科の科目研究・その 4	実験実施に必要な安全管理と応急処置等について考える。
第 11 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の準備	学習指導案の作成について確認していく。
第 12 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業の実践（第 1 回）	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。
第 13 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業 の実践 (第 2 回)	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。特に前回での授業実践者の反省を踏まえたものとしてもらう。
第 14 回	授業実践にむけて・中学理科の模擬授業 の実践 (第 3 回)	学習指導案を作成した上で、それに沿った形での模擬授業を実施してもらう。特にこれまでの授業実践者の反省を踏まえたものとしてもらい、実践に立てるレベルに到達することをめざす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けって時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省　最新版）

【参考書】
中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省　最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
基本的には各回ごとに課題等に取り組んでもらうので、それらの客観評価で 50%、期末に実施してもらう模擬授業で 50%とする。特に模擬授業については受講者同士の相互評価も実施し、担当教員と受講者同士の相互評価で 25%ずつの割合で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えているので、検討してみたい。

【学生が準備すべき機器他】
事態が変化すれば、オンラインのみに移行することがある。その時にはインターネットに常時接続できる環境の構築が必須となるので、大学の支援について各自で確認するなどの対応が望まれる。また、Hoppii については必ず利用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】
単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して授業の組み立て方や教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。また、情勢の変化によって、模擬授業の実施が困難な場合は代替措置を持って評価となることもあり得る。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to　assemble science classes in the junior high school and high school.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.

EDU200BF

理科教育法（2）

狩野　真規

授業コード：A3528　｜　曜日・時限：**水曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことを基本とする。例えば、高校の理科の授業を実践するにあたり、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うには、どのような方法や考え方が必要かという視点を養うための内容などが想定される。
また、高校理科の物化生地の四分野の内容に通じているだけではなく、生徒の状況を踏まえつつ、ICT 教材の的確な利用や授業改善の視点や最新の理科教育の実践研究に触れながら、授業設計力ができる資質・能力の獲得ができるような内容も盛り込んでいく。

【到達目標】
中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するとともに、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身につけることとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には担当教員が話題提供する際には冒頭で資料を配布し、それに沿った講義形式である。その他にも課題実習や、模擬授業など、その実施形式は様々なものとなる予定である。課題に対するフィードバックについては、原則次回にしていく予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、高校理科の目標や全体の構成とその内容、指導上の留意点などを中学校理科と比較しながら改めて確認していく。
第 2 回	地学分野の発展的学習内容について（1）	高校地学における発展的学習内容に対する実践的にその内容を確認していく。この回では地質図についてみていく。
第 3 回	地学分野の発展的学習内容について（2）	前回に引き続き、高校地学の発展的内容として、高層天気図を見ていく。
第 4 回	地学分野の発展的学習内容について（3）	前回同様、高校地学の発展的内容として、HR 図を中心に天文の話題をみていく。
第 5 回	地学分野の発展的学習内容について（4）	前回に引き続き、高校地学の天文分野についてみていく。特にケプラーの 3 法則について扱っていく。
第 6 回	アクティブラーニングについて	理科教育におけるアクティブラーニングについて考える。特に先人の指導実践記録から発展的内容を探る。
第 7 回	高校理科の科目研究・その 1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 8 回	高校理科の科目研究・その 2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 9 回	高校理科の科目研究・その 3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 10 回	高校理科の科目研究・その 4	地学とその周辺領域との関係性を踏まえた教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 11 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 1 回)	先人による授業実践の動向を踏まえた授業設計への取り組みに主眼をおく。
第 12 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 2 回)	授業の実践・振り返りから授業改善の視点を養うことに主眼をおく。
第 13 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 3 回)	生徒の認識・思考・学力などの実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計に主眼をおく。
第 14 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 4 回)	ICT 機器などの効果的利用を考慮した授業設計に主眼をおく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けって時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省　最新版）

【参考書】
中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省　最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答 (30%)、模擬授業のために作成した学習指導案と模擬授業の内容 (45%)、模擬授業についての他の受講者の評価 (25%) も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する予定なので、知識だけではなく、授業実践のために必要な視点や能力などの獲得は重要である。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
Hoppii は必ず利用できるようにしておくこと。また、状況によってはオンライン講義に移行することもあるので、その際にはインターネットに常時接続できる環境が必要となる。大学からの支援などについて各自で確認し、対応すること。

【その他の重要事項】
単なる学習指導要領の内容や教科教育の方法を講義するのみではなく、学生には指導案を作成して模擬授業を行ったり、教材研究のノウハウを獲得していくなど、教育実習でも役立つような実践的な内容も行いたいと考えている。担当者は複数の中学校・高等学校で地学などの科目を担当した経験を有するので、教育実習だけではなく、将来教壇に立った時にフィードバックできるような内容の授業とすることを目指す。また、情勢の変化によっては模擬授業などが実施できなくなることもあり得るので、その際には代替措置に切り替える予定である。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to　assemble science classes in the junior high school and high school.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To　assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.

EDU200BF

理科教育法（3）

狩野　真規

授業コード：A3530　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理科教育法 (1)・(2) の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した中学理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も行えるものを目指す。

【到達目標】
中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけではなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案および板書計画の作成や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、講義冒頭で資料を配布し、それに基づいて進めていく講義形式とするが、受講者同士での意見交換、課題実習（紙ベース）への取り組みとそのフィードバック（添削した上で次回返却）、受講者による模擬授業等、様々な形式のものも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	理科教育とは何か	理科教育の目的や、理科教員に求められる生徒の育成に必要な資質や能力について改めて確認する。
第 2 回	理科教育の現状	各種報道から伺える理科教育の現状について確認しつつ、理科の学習評価の考え方を考える。
第 3 回	学習指導要領について・その 1	中学理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第 4 回	学習指導要領について・その 2	高校理科の旧課程と現行課程の比較をしつつ、改定により外された内容を知るとともに、現行課程の発展的内容の扱い方を探る。
第 5 回	中学入試から大学入試にみられる理科の位置づけ	進学指導と直結した現場での理科教育の現状を様々な角度から確認し、より現実的な指導内容について考える。
第 6 回	課題研究への取り組みとその指導法	クラブ等の課外活動を通じた課題研究について、先人の指導実践を辿るとともに、その指導の可能性について考える。
第 7 回	中学理科の発展的学習・その 1	物理分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 8 回	中学理科の発展的学習・その 2	化学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 9 回	中学理科の発展的学習・その 3	生物分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 10 回	中学理科の発展的学習・その 4	地学分野の発展的内容とその扱い方や指導上の留意点について実践的に考える。
第 11 回	授業実践・中学理科の模擬授業 (第 1 回)	教科書の発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第 12 回	授業実践・中学理科の模擬授業 (第 2 回)	生徒の実態 (認識力・思考力・学力など) に応じた発展的内容を盛り込んだ授業設計及び実践を目指す。
第 13 回	授業実践・中学理科の模擬授業 (第 3 回)	校外学習での指導実践を意識した授業設計及び実践を目指す。
第 14 回	授業実践・中学理科の模擬授業 (第 4 回)	知的好奇心の開発を意識した授業設計及び実践を目指す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けって時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省　最新版）

【参考書】
中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省　最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答 (15%)、模擬授業のために作成した学習指導案 (25%)、模擬授業の内容 (25%)、授業内討論での発言等 (20%) を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価 (15%) も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】
担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。なお、情勢の変化により予定通りシラバスの内容が実施できず、評価の手段も変更せざるを得ないことも可能性として否定できないので、その際には事前に相談させてもらうつもりでいる。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to　assemble science classes in the junior high school and high school.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To　assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.
Make it more developed content than (1) or (2).

EDU200BF

理科教育法（4）

狩野　真規

授業コード：A3531　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
理科教育法 (1)・(2) の内容から発展させたものとして位置付けている。具体的には学習指導案の内容理解を深めるとともに、より実態に即した高校理科の授業設計のための視点を養うことが出来る内容だけではなく、発展的内容の扱い方や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための実践的な能力の獲得も行えるものを目指す。

【到達目標】
中学校と高等学校における理科の学習指導要領の目標やその内容などについて全体を把握するだけではなく、現場で実践的に教科指導を行うにあたって必要な知識・能力を身につける。具体的には学習指導案や板書計画の作成や ICT 機器の利用やアクティブラーニングを取り入れた授業設計のための教材研究を通じて、現場での理科の授業を実践するための指導方法を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には、講義冒頭で資料を配布し、それに基づいて進めていく講義形式とするが、受講者同士での意見交換、課題実習（紙ベース）への取り組みとそのフィードバック（添削した上で次回返却）、受講者による模擬授業等、様々な形式のものも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	高校理科の学習内容の再確認	学習指導要領を通じて、全体の構成とその内容、指導上の留意点などを再確認していく。
第 2 回	視聴覚及び ICT 教材の活用	視聴覚・ ICT 教材の効果的活用法について、現場での実態と報告を元に考えていく。
第 3 回	高校理科の学習評価	理科における定期テストやレポートの評価について、現場での実態を元に考えていく。
第 4 回	理科教育の安全管理	実験室利用に伴う安全対策と危機管理について、実態を元に現場での対応能力の獲得につながる事柄について検討していく。
第 5 回	アクティブラーニングについて	高校理科におけるアクティブラーニングについて、実際に使えそうな新しい指導法の構築を目指す。
第 6 回	SSH について	文部科学省が指定するスーパーサイエンススクール (SSH) について、その取り組みから実態を探る。
第 7 回	高校理科の科目研究・その 1	物理学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 8 回	高校理科の科目研究・その 2	化学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 9 回	高校理科の科目研究・その 3	生物学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 10 回	高校理科の科目研究・その 4	地学の授業法の検討をする。地球科学とその周辺領域との関係性を踏まえた発展的教材研究・指導法の構築に必要なことを検討する。
第 11 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 1 回)	先人による授業実践の動向を踏まえた発展的内容の授業設計への取り組みについて考える。
第 12 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 2 回)	授業の実践・振り返りから授業改善の現実的対応法について考える。
第 13 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 3 回)	これまでの模擬授業の経験から授業改善を狙うとともに、生徒の実態を考慮しつつ、発展的内容を盛り込んだ授業設計の現実的対処法を考える。
第 14 回	授業実践・高校理科の模擬授業 (第 4 回)	ICT 機器の効果的利用を考慮した授業設計から、現状の問題点とその改善点を見出す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
中学・高校理科の教科書についてその内容をよく検討しておくことが重要である。そのためには、日頃から日常生活の中で模擬授業の教材となるものを探す必要がある。理科は、実際の生活と関係のある内容を扱っているはずなので、自分の普段の生活、今までの学習の中で理科教材となるものを見つけて模擬授業の教材とすることを勧める。教材探しの例としては、新聞記事や一般向けの自然科学書などから探す、過去の自分が学習体験した教材を改良するという方法がある。大事なことは、教科書だけに頼らない教材の開発・研究をすることである。このような教材の開発・研究の能力は、教育実習でも必要となるので、模擬授業に向けって時間をかけて取り組んで欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領（文部科学省　最新版）

【参考書】
中学校学習指導要領解説理科編および高等学校学習指導要領解説理科編（文部科学省　最新版）その他については講義内にて適宜紹介する予定である。

【成績評価の方法と基準】
授業期間中に提示された課題に対するレポートや解答 (15%)、模擬授業のために作成した学習指導案 (25%)、模擬授業の内容 (25%)、授業内討論での発言等 (20%) を評価の視点とする。また、模擬授業については他の受講者の評価 (15%) も加える。これらの合計で評価を決める。したがって、定期試験による評価を行う予定はない。特に模擬授業の指導案とその指導案を使って行った模擬授業の内容は重視する。また、教壇で生徒に模範を示す手前上、出席は当然であり、無断欠席はありえないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】
模擬授業をするための教材研究、教材づくり、指導案作成のための具体的な資料をさらに多く用意するべきではないかと考える。
また、実験に対する取り組みを検討すべきと考えている。

【学生が準備すべき機器他】
緊急時の連絡を授業支援システムを通じて行うこともあるので、できるだけ本システムを利用できる状態にしておくこと。

【その他の重要事項】
担当教員は複数の中学校・高等学校で地学等の科目を担当した経験を有するので、特に実践的指導能力の獲得を狙った本科目については、その経験をフィードバックしていくことを考えている。なお、情勢の変化により予定通りシラバスの内容が実施できず、評価の手段も変更せざるを得ないことも可能性として否定できないので、その際には事前に相談させてもらうつもりでいる。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to　assemble science classes in the junior high school and high school.
By the end of the course, students should be able to do the following:
1. An understanding of the Ministry of Culture's Courses of Study.
2. To　assemble science classes in the junior high school and high school for educational training.
3. To making skill in the Classes using ICT and active learning.
4. Apply theories or findings to real world situations.
Make it more developed content than (1) or (2).

PHY900BF

物理学概論Ⅰ

石川　壮一

授業コード：A3514　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は、物理学の基本分野のうち、力学、熱力学に関する内容を理解することを目的とする。
　個々の分野を単に学ぶだけではなく、身の回りで起きている現象が、種々の物理法則と関係していることを再発見し、現象を解析的に見る方法を学ぶ。

【到達目標】
　運動、熱　等の身の回りの現象とその背後にある物理法則との関係を理解し、種々の応用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・実際に問題を自分の手で解く演習を交えながら講義する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。
・大学の行動方針レベルが２となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	物理学の世界	授業内容全般の説明
第 2 回	力学（1）	力のつり合い
第 3 回	力学（2）	速度、加速度
第 4 回	力学（3）	ニュートンの運動法則
第 5 回	力学（4）	万有引力の法則
第 6 回	力学（5）	仕事とエネルギー
第 7 回	力学（6）	運動量
第 8 回	力学（7）	円運動
第 9 回	力学（8）	その他の運動
第 10 回	熱学（1）	熱に関する現象
第 11 回	熱学（2）	熱と仕事
第 12 回	熱学（3）	理想気体
第 13 回	熱学（4）	分子運動
第 14 回	まとめ	力学と熱学のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・演習問題を解く。
・授業内容と関連する現象について調べる。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「グラフィック講義　物理学の基礎」　和田純夫著　（サイエンス社、2013）

【参考書】
・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）
・「歴史で学ぶ物理学入門」　足利裕人著（ふくろう出版、2012

【成績評価の方法と基準】
レポート試験（60%）、演習・出席等の授業への貢献度（40%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
This course introduces the basics of Newtonian mechanics and thermal dynamics, which are fundamental fields in physics.
Students will learn not only contents of each physics law, but also the relation between various phenomena and physics law.

PHY900BF

物理学概論Ⅱ

石川　壮一

授業コード：A3515　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業は、物理学の基本分野のうち電磁気学、波動、光学、現代物理学に関する内容を理解することを目的とする。
　個々の分野を単に学ぶだけではなく、身の回りで起きている現象が、種々の物理法則と関係していることを再発見し、現象を解析的に見る方法を学ぶ。

【到達目標】
電磁気、波動、光等の身の回りの現象とその背後にある物理法則との関係を理解し、種々の応用ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・実際に問題を自分の手で解く演習を交えながら講義する。
・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	電磁気学（1）	電荷と電流
第 2 回	電磁気学（2）	回路
第 3 回	電磁気学（3）	電場と磁場
第 4 回	電磁気学（4）	発電機とモータ
第 5 回	電磁気学（5）	電磁波
第 6 回	波動（音、光）（1）	波動の基本
第 7 回	波動（音、光）（2）	偏光、回折、干渉
第 8 回	波動（音、光）（3）	屈折、分散、全反射
第 9 回	現代物理学（1）	光の粒子性
第 10 回	現代物理学（2）	熱放射と原子スペクトル
第 11 回	現代物理学（3）	原子モデル
第 12 回	現代物理学（4）	ミクロ世界の法則
第 13 回	現代物理学（5）	光の不思議な性質（相対性理論）
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
・演習問題を解く。
・授業内容と関連する現象について調べる。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「グラフィック講義　物理学の基礎」　和田純夫著　（サイエンス社、2013）

【参考書】
・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）
・「歴史で学ぶ物理学入門」　足利裕人著（ふくろう出版、2012

【成績評価の方法と基準】
レポート試験（60%）、演習・出席等の授業への貢献度（40%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【Outline and objectives】
This course introduces the basics of electromagnetism, waves, and light,which are fundamental fields in physics.
Students will learn not only contents of each physics law, but also the relation between various phenomena and physics law.
Also, some selected topics in modern physics will be presented.

CHM900BF

化学概論Ⅰ

中島　弘一

授業コード：A3516　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校の化学で教えられる内容について、結論に至る背景を学ぶことで、原子・分子レベルでその関係性を理解できるようになる、いろいろな「なぜ」に、自らが頭で原子・分子を思い描きながら答えをみつけられるようになることを目的とします。

【到達目標】
化学反応を原子、分子レベルで理解できるようになる。物質を構成する原子や分子の電子配置が物質の性質に関係していることを理解できるようになる。反応の量的関係をモルを基準として理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
高校で扱う物理化学、無機化学、有機化学の範囲を高校のレベルに立ち戻りながら各論の基礎を復習し、さらに教科内容を充分に理解するために、大学の基礎化学の内容に踏み込んで学習する。
講義形式で授業を行うが、内容にそって、その都度演習問題を解いて、理解度を深める。なお、科した課題については翌週の講義の中で解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	化学の歴史	元素とは何か？ 発見に至る過程から学ぶ
第 2 回	原子の構造（1）	原子の構造が解明される過程から原子構造の考え方を学ぶ
第 3 回	原子の構造（2）	原子量と同位体、モルの概念について学ぶ
第 4 回	電子軌道と電子配置	電子軌道が解明される過程から電子配置の考え方を学ぶ
第 5 回	電子配置と化学的性質	電子配置と周期律表の関係を知り、化学的性質と電子の関係を学ぶ
第 6 回	物質の構成と結合	化学結合の種類と反応性について学ぶ
第 7 回	物質の三態（1）	単位、並びに温度と圧力の考え方を学ぶ
第 8 回	物質の三態（2）	固体、液体、気体の状態の変化を学ぶ
第 9 回	気体の性質（1）	気体の温度、圧力、体積の関係を学ぶ
第 10 回	気体の性質（2）	理想気体と実在気体の違いは何か
第 11 回	濃度表示法	濃度の種類とそれらの違いを学ぶ
第 12 回	溶液の性質	溶液の振る舞いについて学ぶ
第 13 回	熱力学と反応	化学反応に伴う熱の出入りの考え方を学ぶ
第 14 回	反応速度と平衡	平衡とは何か、反応の進む向きを決める因子について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
テキストの章末問題、並びに、近隣都府県の教員採用試験の過去問を配布するので、指定された期日までに回答する。

【テキスト（教科書）】
「やさしく学べる基礎化学」基礎化学教育研究会編（森北出版）

【参考書】
「検定外　高校の化学」坪村　宏ほか著（化学同人）
「現代物理化学序説」井上勝也著（培風館）

【成績評価の方法と基準】
単元ごとに行う練習問題の正答率（30 %）と期末試験の結果（70 %）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度アンケート未実施

【Outline and objectives】
This course introduces the basis of chemistry to students taking teacher-training course.
By learning established theory and historical background of chemistry, the students are expected to describe chemical phenomena by using of atoms and molecules.

CHM900BF

化学概論Ⅱ

中島　弘一

授業コード：A3517　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
高校の化学で教えられる内容について、結論に至る背景を学ぶことで、原子・分子レベルでその関係性を理解できるようになる、いろいろな「なぜ」に、自らが頭で原子・分子を思い描きながら答えをみつけられるようになることを目的とします。

【到達目標】
化学反応を原子、分子レベルで理解できるようになる。物質を構成する原子や分子の電子配置が物質の性質に関係していることを理解できるようになる。反応の量的関係をモルを基準として理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
高校で扱う物理化学、無機化学、有機化学の範囲を高校のレベルに立ち戻りながら各論の基礎を復習し、さらに教科内容を充分に理解するために、大学の基礎化学の内容に踏み込んで学習する。
講義形式で授業を行うが、内容にそって、その都度演習問題を解いて、理解度を深める。なお、科した課題については翌週の講義の中で解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	酸と塩基（1）	酸と塩基の種類と定義について学ぶ
第 2 回	酸と塩基（2）	水素イオン濃度指数の概念を学ぶ
第 3 回	酸化還元（1）	酸化還元反応の考え方を学ぶ
第 4 回	酸化還元（2）	電池と電気分解を学ぶ
第 5 回	無機化学（1）	金属元素の単体と化合物の性質を学ぶ
第 6 回	無機化学（2）	非金属元素の単体と化合物の性質を学ぶ
第 7 回	有機化合物（1）	有機化合物の構造の特徴を学ぶ
第 8 回	有機化合物（2）	官能基による化合物の分類について学ぶ
第 9 回	有機化合物（3）	異性体の考え方と特徴を学ぶ
第 10 回	有機化合物（4）	脂肪族化合物と芳香族化合物の反応性の違いを学ぶ
第 11 回	有機化合物（5）	合成高分子化合物の種類と特徴を学ぶ
第 12 回	生化学（1）	糖質の構造と種類とその生体内での働きを学ぶ
第 13 回	生化学（2）	アミノ酸とタンパク質の生体内での働きを学ぶ
第 14 回	生化学（3）	遺伝子の構造と生体内での働きを学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
テキストの章末問題、並びに、近隣都府県の教員採用試験の過去問を配布するので、指定された期日までに回答する。

【テキスト（教科書）】
「やさしく学べる基礎化学」基礎化学教育研究会編（森北出版）

【参考書】
「検定外　高校の化学」坪村　宏ほか著（化学同人）
「現代物理化学序説」井上勝也著（培風館）

【成績評価の方法と基準】
単元ごとに行う練習問題の正答率（30 %）と期末試験の結果（70 %）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度アンケート未実施

【Outline and objectives】
This course introduces the basis of chemistry to students taking teacher-training course.　By learning established theory and historical background of chemistry, the students are expected to describe chemical phenomena by using of atoms and molecules.

BIO900BF

生物学概論 I

植木　紀子

授業コード：A3518　｜　曜日・時限：**水曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
春学期の「生物学概論 I 」では、初めに生物学の基本概念を学びます。その後、遺伝、膜構造、細胞骨格など、主に細胞レベルの生命現象を取り上げます。生物が長い年月をかけて作り上げてきた巧妙で美しいしくみを、生物学全体における位置付けを確認しながら学んでいきましょう。

【到達目標】
生物学はさまざまな視点から生命を理解する学問であると言えます。分子、細胞、個体、個体群、生態系といったさまざまなレベルから、また、多様性と時間軸という観点から、幅広く生物学を俯瞰する能力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書を用い、ゼミ対話形式で行います。対面もしくは Zoom を用いたリアルタイムオンライン授業となります。具体的な授業参加方法については、学習支援システムの「お知らせ」欄をご覧ください。
授業の終わりに、次回までの課題（教科書を事前に読む、演習問題を解く、等）を提示します。授業内で、それに対するフィードバックを行います。
教科書は以下のものを使用します。
『理系総合のための生命科学　第５版～分子・細胞・個体から知る “生命” のしくみ』東京大学生命科学教科書編集委員会／編　羊土社　定価 3,800 円＋税
第４版でも可。教科書が手に入らない場合は対応しますので相談してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	生物の基本概念と基本構造	生物学の学習のはじめにあたり、生物の二つの対立した特性、すなわち多様性と共通性について見ていきます。加えて、生物の基本的な属性である膜、増殖、遺伝、代謝、恒常性と環境応答などについて概観します。
第 2 回	生物の増殖と恒常性	細胞生物も多細胞生物も、自分と同じ形をした生物体を生み出して数を増やしていきます。また、外部の環境に適切に応答して体の内部環境を一定に保っています。生物にとって重要なこれらのしくみの基礎を学びます。
第 3 回	個体-環境相互作用	生物は環境から影響を受け、逆に生物も環境に影響を与えています。そして生物同士も相互に関わりあっています。自然選択・環境応答・光合成による生産や生態系について学び、生物と環境との関わりを理解します。
第 4 回	タンパク質と酵素	タンパク質は生体有機化合物の中で最も量が多く、あらゆる生命活動で重要な役割を果たしています。また、酵素タンパク質は、生物のほぼ全ての化学反応を触媒します。タンパク質の構造と酵素が働くしくみを学びます。
第 5 回	核酸の構造と DNA の複製	DNA には、親から子へ遺伝情報を伝える役割と、その情報を使って細胞を作り機能をもたらす役割があります。細胞増殖の際、DNA を正確に複製して分配しなくてはなりません。この DNA の構造と複製のしくみを学びます。
第 6 回	遺伝子の発現	遺伝情報が DNA、mRNA、タンパク質という流れで発現する概念をセントラルドグマと呼びます。この一連の流れに沿って、情報が写し取られる転写、その後の修飾、アミノ酸配列に変換される翻訳のしくみを学びます。
第 7 回	有性生殖と個体の遺伝	形質を親から子へと継承する遺伝という現象は、メンデルの法則の発見に始まり、モルガンの染色体説などを経て、現代の遺伝学へと発展を遂げました。この生命情報伝承の法則性と、そのプロセスについて解説します。
第 8 回	バイオテクノロジー	生命現象に関わる新しい知見は新しい技術を生み出し、それによって更なる知見が得られるというサイクルがあります。画期的な進歩をもたらした技術を学ぶことで、現代に至る生命科学の発展の歴史を感じてみましょう。
第 9 回	生体膜と細胞の構造	生体膜は細胞と外界を隔て、細胞内にも多様な膜区画を作ります。また、物質の輸送やシグナル伝達などの重要な機能にも関わります。生体膜の構造とはたらきを理解し、原核生物と真核生物の違いについても学びます。
第 10 回	代謝と生体エネルギー生産	生命活動に必要なエネルギーを生み出し、生体物質の合成や分解をする過程を代謝といいます。細胞内における基本的な代謝の流れを理解し、さらに、代謝の要になる解糖系、クエン酸回路、呼吸鎖について学びます。
第 11 回	光合成	30 億年ほど前にエネルギーを太陽光に求める生物が出現して以来、生物は無限のエネルギー源を手にすることになりました。ここでは、現在の地球の光環境を理解した上で、植物が行う光合成のプロセスを学びます。
第 12 回	細胞内輸送と細胞内分解	細胞の中では、その構成成分が絶え間なく取り込まれ、もしくは合成され、細胞内外の適所へと輸送され、そして分解されています。ここでは、細胞内で物質を「運ぶ」しくみと「壊す」しくみについて解説します。
第 13 回	細胞骨格と細胞運動	全ての真核細胞は、運動を発生する共通のメカニズムを持っています。細胞骨格と呼ばれるタンパク質繊維の上をモータータンパク質が滑走することで、筋肉の収縮や染色体の分配などが起こるしくみを学びます。
第 14 回	細胞間シグナル伝達系	多細胞生物が一つの個体として行動したり内部環境を一定に保つためには、細胞間で情報をやりとりすることが重要になります。ホルモンや神経伝達物質などを介した細胞間のコミュニケーションについて学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の終わりに、次回までの課題（教科書を事前に読む、演習問題を解く、等）を提示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『理系総合のための生命科学 第５版～分子・細胞・個体から知る “生命"のしくみ』
東京大学生命科学教科書編集委員会／編
羊土社　定価 3,800 円＋税
第４版でも可。教科書が手に入らない場合は対応しますので相談してください。

【参考書】
参考書は必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100 %）により評価します。止むを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生の意見等からの気づき】
途中に息抜きとなるような時間を挟んだりしたことが良かったとの感想をもらっていますので、このようなスタイルを続けていきます。

【その他の重要事項】
この科目は教職科目です。教職課程をとっていないと受講できませんのでご注意ください。

【Outline and objectives】
This class presents an overview of basic biological concepts and provides cellular-level biological subject such as genomics, membrane biology, cytoskeleton and cell motility. The goal is to provide students with extensive knowledge and perspective on fundamental life science.

BIO900BF

生物学概論Ⅱ

植木　紀子

授業コード：A3519　｜　曜日・時限：**水曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
秋学期の「生物学概論 II」では、多細胞生物が成り立つ原理や、進化、生態、生物多様性といったマクロレベルの生命現象を学びます。また、創薬、微生物の利用、情報生命科学など私たちの生活に関わる内容も取り上げていきます。

【到達目標】
生物学はさまざまな視点から生命を理解する学問であると言えます。分子、細胞、個体、個体群、生態系といったさまざまなレベルから、また、多様性と時間軸という観点から、幅広く生物学を俯瞰する能力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
教科書を用い、ゼミ対話形式で行います。対面もしくは Zoom を用いたリアルタイムオンライン授業となります。具体的な授業参加方法については、学習支援システムの「お知らせ」欄をご覧ください。
授業の終わりに、次回までの課題（教科書を事前に読む、演習問題を解く、等）を提示します。授業内で、それに対するフィードバックを行います。
教科書は以下のものを使用します。
『理系総合のための生命科学　第５版～分子・細胞・個体から知る “生命” のしくみ』東京大学生命科学教科書編集委員会／編　羊土社　定価 3,800 円＋税
第４版でも可。教科書が手に入らない場合は対応しますので相談してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	細胞内シグナル伝達系	細胞は、細胞表面の受容体と呼ばれるタンパク質でシグナル分子を受け取ります。それをきっかけにして細胞内のタンパク質がさまざまに変化し、情報が伝えられます。ここではそのしくみを、ヒトの細胞を例に解説します。
第 2 回	神経系の機能と生体恒常性	ヒトの脳は約 1,000 億個の神経細胞からできています。神経細胞は、イオンの移動によって細胞膜の電位を変化させることで非常に速い情報伝達を行うことを可能にしています。その巧みな機構と恒常性への寄与を概説します。
第 3 回	細胞周期	太古の昔から、一個の親細胞が分裂して二個の娘細胞になるというサイクルが繰り返されて今の生物世界があります。このサイクルが進むしくみと、それが間違いなく正確に進むために何重にも制御されている機構を学びます。
第 4 回	動物の発生	動物の体は、たった一個の受精卵が分裂を繰り返し、細胞が特殊化し、正しい場所と形に配置されて機能するようになることで作り出されます。この複雑な構造と機能を持つ動物の体が自律的に作られるしくみを解説します。
第 5 回	植物の発生	植物は、太陽光という無限のエネルギー源を利用し、動物とはまったく異なる戦略をとって地球上に繁栄しています。種子植物の基本構造と形づくりを学び、個体として理に適った営みを実現していることを理解していきます。
第 6 回	遺伝子発現の制御	生物は、持っている多くの遺伝子全てを常に利用しているわけではなく、環境や時期に応じて適した遺伝子が発現したり、不向きな遺伝子の発現が抑制されたりしています。この調節を引き起こす分子メカニズムを概説します。
第 7 回	ゲノムと進化	生物の持つ遺伝情報全体の一セットをゲノムと言います。ゲノム情報の解読技術の向上は、分類学や進化学の分野に対し、大きなインパクトを与えてきました。ここではその歴史と方法を学び、生命科学の今後について考えます。
第 8 回	生物群集と生物多様性	生物はそれぞれ独立して生きているわけではなく、他の多くの生物と相互に関係しながら生きています。生物多様性とは具体的にどのようなものか、それが生態系の保全にとってどのように重要になるのかについて解説します。
第 9 回	感染と免疫	免疫学の発展の歴史はヒトと感染症との戦いの歴史でもあります。ここでは、ペニシリンの発見から始まる 20 世紀の医学生物学における重要な発見を紹介します。さらに、免疫とその応答の基本的なしくみについて解説します。
第 10 回	がん	近年、がんにおけるさまざまな異常が、遺伝子、タンパク質、細胞、個体レベルで明らかになっています。がんの原因や進展にいたる経緯、がん遺伝子とがん抑制遺伝子について学び、がん治療の発展についても見ていきます。
第 11 回	創薬と生命科学	人間は何千年も前から動植物の抽出物などを薬として利用してきました。一方、化学合成による薬の開発が始まったのは 1890 年代という比較的最近のことです。創薬の歴史を紹介し候補薬の選別や創出までの過程を解説します。
第 12 回	生活・環境と微生物	微生物には、人間の役に立つものや逆に害をなすもの、ほぼヒトとは関与しない微生物もあり、多様な生物世界を形成しています。微生物と人との関わり、微生物の多様性のとらえ方、微生物学の現状と課題について学びます。
第 13 回	生物の情報科学	膨大なデータが蓄積する現代の生命科学にとって、情報科学はその基盤とも言えます。DNA 配列やタンパク質のアミノ酸配列がデータベース化された 1980 年代に始まる生物情報科学の進展と、その基本的な考え方を解説します。
第 14 回	脳	脳は環境から入力された情報を処理・統合し、出力するための情報処理装置とみなすことができます。一方、我々ヒトの「意識」と脳の関係は未だ深い謎に包まれています。これまでの知見と方法論、脳研究の現状を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の終わりに、次回までの課題 (教科書を事前に読む、演習問題を解く、等) を提示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
『理系総合のための生命科学 第５版～分子・細胞・個体から知る “生命"のしくみ』
東京大学生命科学教科書編集委員会／編
羊土社　定価 3,800 円＋税
第４版でも可。教科書が手に入らない場合は対応しますので相談してください。

【参考書】
参考書は必要に応じて授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（100 %）により評価します。止むを得ず欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生の意見等からの気づき】
途中に息抜きとなるような時間を挟んだりしたことが良かったとの感想をもらっていますので、このようなスタイルを続けていきます。

【その他の重要事項】
この科目は教職科目です。教職課程をとっていないと受講できませんのでご注意ください。

【Outline and objectives】
This course is designed to provide students with basic biological concepts of macro-level biological subject such as developmental biology, ecology, evolution, biodiversity, medical biology and bioinformatics.

PHY900BF

物理学実験Ⅰ (コンピュータ活用含)

吉田　智

授業コード：A3520　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・1 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、重力、波動、光などの広い範囲の物理現象に関連した実験を行う。実験装置は、身近なものから高度なものまで様々あり、簡単な実験技術や計算方法を身につけると共に、科学技術の進歩により装置が現在どのように工夫され、また改良されているのかということも学ぶ。

【到達目標】
実験実習を行うことにより、物理学の様々な分野についての理解を深め、中学・高校における理科・物理教育に必要となる知識を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各実験テーマに講義の時間を設け、内容や実験方法等を解説した翌週から 1 回もしくは 2 回にわたって実験実習を行います。講義の際には適宜ビデオ教材・配布プリントを用います。実験後の講義の際にフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	身近な量の測定	身近な量を測定してみることにより、器具の使用方法を学ぶ。
第 2 回	誤差、近似	誤差や近似について理解を深める。
第 3 回	重力について	第 4 回に実施する落体実験に関連する重力について、理解を深める。
第 4 回	落体実験	落体実験を行う。
第 5 回	波動について	第 6、7 回に実施する実験に関連する波動について、理解を深める。
第 6 回	交流の周波数の測定	交流の周波数の測定実験を行う。
第 7 回	音さの振動数の測定	音さの振動数の測定実験を行う。
第 8 回	光の波動性について	第 9 回に実施する実験に関連する光の波動性について、理解を深める。
第 9 回	レンズの曲率半径の測定	レンズの曲率半径の測定実験を行う。
第 10 回	光の粒子性について（エネルギー量子）	第 12、13 回に実施する実験に関連する光の粒子性について、理解を深める。
第 11 回	光の粒子性について（光量子仮説）	第 10 回に引き続き、光の粒子性について理解を深めると共に、光電効果について理解する。
第 12 回	光電流の測定	光電流の測定実験を行う。
第 13 回	プランク定数の測定	プランク定数測定実験を行う。
第 14 回	まとめ	第 1 回から第 13 回までに実施した実験について、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布される資料によって、実験方法を予習しておくことが必要です。また、実験後はデータの整理とレポート作成が必要です。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】
「学習支援システム」からの課題 20%と、実験レポートの成績 80%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline and objectives】
This course teaches general physics and experimental methods through making experiments on gravity, wave, light and so on.

PHY900BF

物理学実験Ⅱ (コンピュータ活用含)

吉田　智

授業コード：A3521　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
秋学期・1 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、熱、電気や光などの広い範囲の物理現象に関連した実験を行う。実験装置は、身近なものから高度なものまで様々あり、簡単な実験技術や計算方法を身につけると共に、科学技術の進歩により装置が現在どのように工夫され、また改良されているのかということも学ぶ。

【到達目標】
実験実習を行うことにより、物理学の様々な分野についての理解を深め、中学・高校における理科・物理教育に必要となる知識を修得することにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
各実験テーマに講義の時間を設け、内容や実験方法等を解説した翌週から 1 回もしくは 2 回にわたって実験実習を行います。また、講義の際には適宜ビデオ教材・配布プリントを用います。実験後の講義の際に、フィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	熱・エネルギーについて	第 2、3 回に実施する実験に関連する熱・エネルギーについて、理解を深める。
第 2 回	熱の仕事当量の測定	熱の仕事当量の測定実験を行う。
第 3 回	金属の比熱の測定	金属の比熱の測定実験を行う。
第 4 回	分子運動について	第 5 回に実施する実験に関連する分子運動について、理解を深める。
第 5 回	線膨張係数の測定	線膨張係数の測定実験を行う。
第 6 回	電気について	第 7 回に実施する実験に関連する電気回路について、理解を深める。
第 7 回	平行板コンデンサーの電気容量の測定	平行版コンデンサーの電気容量測定実験を行う。
第 8 回	原子・原子核について	第 9 回に実施する実験に関連する原子・原子核について、理解を深める。
第 9 回	電子の比電荷の測定	電子の比電荷の測定実験を行う。
第 10 回	レーザーについて	第 11 回に実施する実験で使用するレーザーについて、理解を深める。また、干渉実験の解析方法を理解する。
第 11 回	光の干渉実験	光の干渉実験を行う。
第 12 回	剛体について	第 13 回に実施する実験に関連する剛体について、理解を深める。
第 13 回	振り子による重力加速度の測定	ボルタの振り子による重力加速度の測定実験を行う。
第 14 回	まとめ	この授業で実施した実験について、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に配布される資料によって、実験方法を予習しておくことが必要です。また、実験後はデータの整理とレポート作成が必要です。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】
授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】
「学習支援システム」からの課題 20%と、実験レポートの成績 80%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline and objectives】
This course teaches general physics and experimental methods through making experiments on heat, electricity, light and so on.

CHM900BF

化学実験Ⅰ (コンピュータ活用含)

向井　知大

授業コード：A3522　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
春学期・1 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な化学実験について、自らが器具を整備し、溶液を調整し、実験手順を組み立てられるよう必要な基礎を実習を通じて学ぶ。

【到達目標】
実験器具や薬品の扱い方などの操作について習得するとともに、その実験の考え方や組み立て方など、その背景にある化学の基礎を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
対面形式で開講します。実験に関する基礎、並びに背景を講義した後、実験を行なうという形で進めていきます。コンピューターを用いた化学実験データの処理の方法などをもとにその活用法についても実習します。
実験レポートのフィードバックは授業内に行います。レポートを一旦返却し、見直しと修正の回を設けています (第 11 回)。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容と予習内容についての説明。
第 2 回	炎色反応	炎色反応のための溶液の調製と炎色スペクトル観察。
第 3 回	秤量と測容	質量と体積の測定における器具の選定や大気圧、温度の影響について。
第 4 回	測容器の精度	いくつかの測容器の精度を、純水を使って求める。
第 5 回	溶液の濃度	様々な濃度の計算方法と、その換算方法について。
第 6 回	溶液の調製	中和滴定で使用する酸、塩基水溶液の調製。
第 7 回	酸と塩基	酸と塩基の定義の種類、pH についての講義。
第 8 回	中和滴定実験 1	シュウ酸水溶液を用いて、各種塩基性水溶液の濃度を求める。
第 9 回	pH 変化のシミュレーション	中和滴定における pH 変化を Excel で計算する。
第 10 回	中和滴定実験 2	pH メーターを用いた、滴下量と pH 変化の関係。
第 11 回	実験レポートの点検	これまでの実験レポートの見直し。
第 12 回	金属イオンの沈殿生成	金属イオンと薬品の反応による色変化や沈殿生成。
第 13 回	金属イオンの系統分析 1	金属イオンの分属と分離について。
第 14 回	金属イオンの系統分析 2	未知試料に含まれる金属イオンの分析。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に関係する項目を高校の化学の教科書、参考書など事前に毎回読んでおく事。実験終了後は行なった実験について、高校や中学で生徒に行わせるとした場合の実験内容に吟味しなおし、注意点等を実験結果とともに考察すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
実験にあたってはプリントを配布します。

【参考書】
随時、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いませんが、全ての実験でレポートを提出してもらいます。そのレポートの内容で評価します。成績評価: レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】
高校において化学を未履修の学生には授業内容が難しく、ついてくるのは大変であるとの認識を持っています。できるだけ基礎的な部分からの解説を行ない、一人一人に確認（質問）しながら、説明を行なうようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
pH 変化のシミュレーションを行うときに PC を使います。

【その他の重要事項】
この授業は、第一部文学部地理学科に所属し、理科教職課程を受講していない学生は履修できません。

【Outline and objectives】
This course introduces chemical equipment, solution preparation and experimental procedure. The aim of the course is to enhance the development of students' skill in carrying out a chemical experiment.

CHM900BF

化学実験Ⅱ (コンピュータ活用含)

向井　知大

授業コード：A3523　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・1 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
基本的な化学実験について、自らが器具を整備し、溶液を調整し、実験手順を組み立てられるよう必要な基礎を実習を通じて学ぶ。

【到達目標】
対面授業で開講します。実験器具や薬品の扱い方などの操作について習得するとともに、その実験の考え方や組み立て方など、その背景にある化学の基礎を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
対面形式で開講します。実験に関する基礎、並びに背景を講義した後、実験を行なうという形で進めていきます。コンピューターを用いた化学実験データの処理の方法などをもとにその活用法についても実習します。
実験レポートのフィードバックは授業内に行います。レポートを一旦返却し、見直しと修正の回を設けています (第 14 回)。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容と予習内容についての説明。
第 2 回	有機化合物と無機化合物	有機化学と無機化学の違いについて
第 3 回	化学構造式	有機化合物の略式表記と化学構造式描画ソフトの使い方
第 4 回	分子模型 1	有機化合物の立体構造と、構造異性体について。
第 5 回	分子模型 2	共役二重結合を持つ分子の立体構造について。
第 6 回	分子模型 3	立体異性体、分子構造可視化ソフトの利用について。
第 7 回	アルコールの性質	アルコールの特徴とその反応について。
第 8 回	アルコール発酵	酵母を用いた糖の分解実験。
第 9 回	エステルの合成	脱水縮合反応による果物の香り成分の合成。
第 10 回	アミンの性質	アミノ基を持つ化合物、特にアニリンの特徴とその反応。
第 11 回	アセトアニリドの合成	アニリンと無水酢酸の反応、反応生成物の精製。
第 12 回	アゾ染料の合成	ジアゾカップリング反応による様々な色素の合成。
第 13 回	ナイロンの合成	ナイロンの合成と、その染色および赤外線吸収スペクトルの測定。
第 14 回	まとめ	これまでの実験レポートの見直し。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業に関係する項目を高校の化学の教科書、参考書など事前に毎回読んでおく事。実験終了後は行なった実験について、高校や中学で生徒に行わせるとした場合の実験内容に吟味しなおし、注意点等を実験結果とともに考察すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
資料を配布します。

【参考書】
随時、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
試験は行いませんが、全ての実験でレポートを提出してもらいます。そのレポートの内容で評価します。成績評価: レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】
高校において化学を未履修の学生には授業内容が難しく、ついてくるのは大変であるとの認識を持っています。できるだけ基礎的な部分からの解説を行ない、一人一人に確認（質問）しながら、説明を行なうようにしています。

【学生が準備すべき機器他】
化学構造式の描画や 3D 分子モデリングなどのソフトウェアを使った学習の際、PC を使います。

【その他の重要事項】
この授業は、第一部文学部地理学科に所属し、理科教職課程を受講していない学生は履修できません。

【Outline and objectives】
This course introduces chemical equipment, solution preparation and experimental procedure. The aim of the course is to enhance the development of students' skill in carrying out a chemical experiment.

BIO900BF

生物学実験Ⅰ (コンピュータ活用含)

島野　智之

授業コード：A3524　｜　曜日・時限：月曜 2 限
春学期・1 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物学・生命科学のさまざまな問題について，可能な限り身近な素材を用いて観察や生物実験を行うことを通して，教育の現場で応用可能な実験構築能力を身につけると共に，自然に対する認識をより深め，物事を生物学的に探求する能力を高める．

【到達目標】
教育の現場で使える生物学実験を計画でき，かつ教えることができるようになる．使用可能な材料や器具等を活用した実験のアイデアを習得し．生活の周りの自然・生物に対する関心を身につけるきっかけを習得することができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
生物学の基本は「観察」ですが、自然界には、肉眼で見える生物よりも見えないものの方が多い。たとえば，実際に自分たちで培養して実物に触れることから始める．主として高校の教科書で取り上げられている実験を中心に実験を行うが、授業中に行えない実験や最新のトピックスなどについては、ビデオを用いて紹介します。
　メール添付などの方法を利用して，課題等についてフィードバックします．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	顕微鏡の使用方法（含マイクロミクロメーターの使用法）	顕微鏡の使用方法の説明．顕微鏡の手入れと道具の作成
第 2 回	細胞・気孔の観察と顕微鏡での計測	植物細胞の観察．顕微鏡での計測方法．
第 3 回	原形質流動と原形質分離の観察	植物細胞の観察．顕微鏡での生細胞の観察．
第 4 回	細胞分裂と染色体の観察	細胞分裂の観察．染色体の観察．
第 5 回	昆虫の採集及び観察	野外にでて節足動物を調査する．レポートの作成
第 6 回	無脊椎動物の解剖	無脊椎動物（大型節足動物）の生理を学び，体の仕組みを理解する．
第 7 回	プランクトンの採集と観察	野外に出てプランクトンを採集し，顕微鏡観察するテクニックを学び，同定する方法を理解する．レポートの作成
第 8 回	土壌動物の抽出法	野外での土壌の観察と土壌動物の採集方法を学ぶ．
第 9 回	土壌動物の採集・分類と観察（コンピュータを使用した統計処理）	土壌動物とはなにか，図鑑の使い方，調査方法概説
第 10 回	群集生態学的解析 （コンピュータを使用した統計処理）	コンピューターの統計解析ソフトを使って，土壌動物の群集データを統計処理する方法を学ぶ．
第 11 回	細菌の観察（コンピュータを使用した統計処理）	細菌数を計測し，成長曲線をコンピュータソフトを使ってグラフに書く
第 12 回	真菌（不完全菌，接合菌，子のう菌，担子菌）の観察	真菌を採集し同定する．レポートの作成
第 13 回	植物の葉の内部構造の観察	単子葉，双子葉の茎頂などを観察し，植物の生長点について学ぶ．
第 14 回	試験，まとめ（レポートの書き方）	試験，まとめ（レポートの書き方）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。
次回の実験内容を毎回つたえるので，必要な知識などを事前に予習しておくこと（その方法なども伝えます）．また，実験の後は，必ずレポートを課すので，実験の目的および背景，方法，結果，考察の 4 点について，これをまとめて提出すること．本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
生物学辞典など

【成績評価の方法と基準】
　レポート（40%）と試験（30%）に加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し（30%）、総合的に判断する．
※春学期の少なくとも前半がオンライン開講となったことに伴い、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】
言われたことだけを行ったのでは、一人前とは言えません。疑問点などについては、自分で調べることが大切です。
20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかった
との意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント画像やビデオ映像も用います。器具と時間の都合で、実験できない項目については、DVD 映像を用いて行います。

【その他の重要事項】
授業の初めに、その日の実験に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、１０分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード２枚で１回欠席となります。

【Outline and objectives】
In addition to acquiring the ability to construct experiments that can be applied in the education in school as a teacher, it will deepen the recognition of nature and enhance the ability to explore things biologically.

BIO900BF

生物学実験Ⅱ (コンピュータ活用含)

島野　智之

授業コード：A3525　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
秋学期・1 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
生物学・生命科学のさまざまな問題について，可能な限り身近な素材を用いて観察や生物実験を行うことを通して，教育の現場で応用可能な実験構築能力を身につけると共に，自然に対する認識をより深め，物事を生物学的に探求する能力を高める．

【到達目標】
教育の現場で使える生物学実験を計画でき，かつ教えることができるようになる．使用可能な材料や器具等を活用した実験のアイデアを習得し，生活の周りの自然・生物に対する関心を身につけるきっかけを習得することができる．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
生物学の基本は「観察」ですが、自然界には、肉眼で見える生物よりも見えないものの方が多い。たとえば，実際に自分たちで培養して実物に触れることから始める．主として高校の教科書で取り上げられている実験を中心に実験を行うが、授業中に行えない実験や最新のトピックスなどについては、ビデオを用いて紹介します。
メール添付などの方法を用いて，課題等に対するフィードバックを行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	光学顕微鏡と電子顕微鏡の比較	光学顕微鏡と電子顕微鏡の仕組みを理解する．
第 2 回	植物組織と動物組織の観察	動物細胞（頬の粘膜細胞，その他，動物細胞）と，植物細胞の違いを学ぶ．
第 3 回	呼吸 [酵母の無気呼吸（発酵）による二酸化炭素の測定]	呼吸 [酵母の無気呼吸（発酵）による二酸化炭素の測定]
第 4 回	細胞運動 [魚鱗色素胞の観察]	魚鱗色素胞の観察
第 5 回	プランクトンの観察	多細胞性のプランクトンの体の構造や，クマムシのクリプトビオシスについて観察し理解する
第 6 回	カタラーゼとアミラーゼ（酵素活性測定実験）	酵素活性の測定
第 7 回	図鑑の使い方：学名の仕組み	苦手にされやすい，学名の構造について理解し，図鑑の使い方を学ぶ．
第 8 回	図鑑を作る：大学周辺の動物（コンピュータを使用したデータベース作成）	大学周辺の動物の写真を撮影し同定後，データベースを作成する
第 9 回	図鑑を作る：大学周辺のコケ（コンピュータを使用したデータベース作成）	大学周辺のコケの写真を撮影し同定後，データベースを作成する．
第 10 回	図鑑を作る：大学周辺の維管束植物（コンピュータを使用したデータベース作成）	大学周辺の維管束植物を撮影し同定後，データベースを作成する．
第 11 回	無菌操作の習得	クリーンベンチを用いた無菌操作の習得
第 12 回	プラスミド DNA の調製	プラスミド DNA と遺伝子組換えについて学ぶ
第 13 回	アガロースゲル電気泳動	得られたプラスミド DNA とゲノム DNA について，アガロースゲル電気泳動の方法を学ぶ．
第 14 回	試験，まとめ（レポートの書き方）	試験，まとめ（レポートの書き方）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
受け身の姿勢では、学問をしていることにはなりません。疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。
次回の実験内容を毎回つたえるので，必要な知識などを事前に予習しておくこと（その方法なども伝えます）．また，実験の後は，必ずレポートを課すので，実験の目的および背景，方法，結果，考察の 4 点について，これをまとめて提出すること．本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】
生物学辞典など

【成績評価の方法と基準】
　レポート（40%）と試験（30%）に加え、授業中の参加の度合、貢献度を考慮し（30%）、総合的に判断する．

【学生の意見等からの気づき】
言われたことだけを行ったのでは、一人前とは言えません。疑問点などについては、自分で調べることが大切です。
20 年度はコロナの影響で実験室での実験ができず、履修した学生からは実験をしたかった
との意見が多く寄せられ、21 年度はコロナ対応のもと実験室での授業再開を予定しています。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント画像やビデオ映像も用います。器具と時間の都合で、実験できない項目については、DVD 映像を用いて行います。

【その他の重要事項】
授業の初めに、その日の実験に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意下さい。正当な理由のある遅刻を除き、１０分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード２枚で１回欠席となります。

【Outline and objectives】
In addition to acquiring the ability to construct experiments that can be applied in the education in school as a teacher, it will deepen the recognition of nature and enhance the ability to explore things biologically.

PSY100BG

心理学概論／心理学１（心理学概論）１

福田　由紀

授業コード：A3601,A2254　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学の諸領域の基本的な理論や考え方に関する基礎知識を得ることが本授業の目的です。それにより，日常生活において心理学的な見方が身につくでしょう。また，法政心理で学べる心理学分野の概略が理解できます。さらに，実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】
①心理学の基礎知識が身につく。
②心理学的な見方ができる。
③聞きながらメモをとることができる。
④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。また，Hoppii を通じて，授業の前に宿題の提出，授業後に小テストへの回答をしてください。なお，授業の初めに、提出された宿題の内容に関して，全体に対してフィードバックを行います。
また，COVID-19 感染症蔓延状況に応じて，オンデマンド授業を中心に行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション，心理学的な見方	授業の進め方の説明，心理学的な見方とは
第 2 回	感覚・知覚	知覚の特性，視覚システムの特徴
第 3 回	行動の形成	遺伝－環境論争，人間の行動の特徴
第 4 回	学習理論とその応用	古典的条件づけ，道具的条件づけ，社会的学習
第 5 回	記憶とその変容	ワーキングメモリ，記憶の変容
第 6 回	読むことと書くこと	文章の理解と産出
第 7 回	思考	問題解決，人の思考のクセ
第 8 回	自他のこころの理解	自己意識の発達，心の理論
第 9 回	動機づけ	動機づけの機能と種類，ストレス
第 10 回	認知発達	ピアジェ・ヴィゴツキー・情報処理論的な考え方
第 11 回	集団の中の個人	集団の圧力，研究の倫理的な問題
第 12 回	帰属過程	帰属理論，帰属のバイアス
第 13 回	性格	性格の記述の考え方，性格測定法
第 14 回	期末テストとその解説，まとめ	期末テストの実施とその解説，授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＊次週の授業内容にあわせて，短い宿題が出ます。授業前に Hoppii から提出して下さい。
第 1 回　錯視を体験する。
第 2 回　ヒトの行動の形成に影響する要因を考え，書く。
第 3 回　自動的に行っている日々の行動を省察する。
第 4 回　自分の記憶術を振り返る。
第 5 回　行間を理解することを体験する。
第 6 回　覆面算と水がめ問題を体験する。
第 7 回　中間テストの準備を行い，自己評価する。
第 8 回　日常のストレス状態を省察する。
第 9 回　保存課題を体験する。
第 10 回　一人きりで一日を過ごせないことを省察する。
第 11 回　他者の行動の帰属を推測する。
第 12 回　性格テストを体験する。
第 13 回　期末テストの準備を行い，自己評価する。
＊受講した授業の内容に関して，小テストを Hoppii を通じて行います。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「心理学要論-こころの世界を探る-」福田由紀編　培風館　2010 年

【参考書】
適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点 20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を 80%として，総合点により決定されます。期末テストの追試は，履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容，自分で教科書を読んだ内容，そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度はオンデマンド授業が行われ，授業アンケートは実施されませんでした。そのため，2019 年度の授業のアンケート結果を紹介します。
約 8 割の受講生が「工夫していた」「授業を受けてよかった」と回答してくれました。ありがとうございます。自由記述を見ると，例年少なからずあった「スライドを移動が速すぎてメモ取れない」という不評コメントが減少し，「説明の速度がちょうどよかった」と改善されました。皆さんの授業改善アンケートが活かされた例ではないでしょうか！

【その他の重要事項】
今年度は対面授業を予定しています。しかし，COVID-19 感染状況により，他の形式の授業に変更される可能性があります。よって，大学からのお知らせに注意をしていてください。また，上記の授業計画等が変更になる可能性もあります。受講希望者は，初回のオリエンテーションに必ず出席をしてください。あるいは Hoppii からのお知らせに気をつけてください。

【実験や調査への参加】
授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく，他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【初回授業】
初回授業はオンラインで行います。ZoomID は Hoppii の「お知らせ」を通じて行います。
また，初回授業時に受講者の数を確定したいと思います。この授業の受講希望者は，必ず，出席をしてください。初回授業に欠席した場合，受講できない場合がありますので気をつけてください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn psychology widely. Students will be expected to to broaden their perspectives and deepen their understanding about psychology.

PSY100BG

心理学史／心理学１（心理学史）２

高砂　美樹

授業コード：A3602,A2255　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では心理学の歴史を学びます。心理学が独立した学問として認められたのはまだ 120 年ほど前のことであり、それからもさまざまな変遷がありました。現在の心理学を当たり前のものと考えずに、人々が人間のこころや行動について考えるとはどういうことかをさらに深く理解するために、心理学の歴史と前史を学びます。

【到達目標】
この心理学史を受講することで、心理学の流れを理解することができます。19 世紀後半にまず欧米の大学で心理学を学ぶことが可能になりましたが、なぜその時代にならないと学べなかったのかを理解するために、まず 19 世紀までの前史を学びます。そのあとで心理学における 20 世紀の３大潮流を学び、「心理学の世紀」と呼ばれた 20 世紀の展開を学びます。これらの知識から、なぜ今の心理学が統計学や実験方法を使う一方で、個人の主観的な言説をデータとして利用しているのかについて理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業はパワーポイントを利用した講義が中心です。心理学史において有名な人物は必ずしも他の授業のなかで登場するわけではないので、そういう人々の生涯も含めて説明します。また授業内で「学習支援システム」を利用した課題が与えられます。この課題の解説は授業内で行うほか、同システムを利用したフィードバックが行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	心理学史を学ぶ意義と、心理学史の方法論について
第 2 回	心理学前史	心理学という語の由来と、中世・ルネサンス期の概観
第 3 回	心理学成立の３要因 (1)	19 世紀哲学と心理学への影響について
第 4 回	心理学成立の３要因 (2)	19 世紀における医学と生物学が心理学に与えた影響について
第 5 回	近代心理学の始まり	ドイツで始まった精神物理学と生理学的心理学について
第 6 回	大学における心理学の展開	アメリカにおける大学心理学の展開について
第 7 回	現場における心理学の拡大	アメリカを中心とした発達心理学や臨床心理学の始まりについて
第 8 回	日本における心理学の展開	19 世紀末の日本の大学における心理学の登場と、その後の展開について
第 9 回	20 世紀の３大潮流 (1)	行動主義について
第 10 回	20 世紀の３大潮流 (2)	精神分析について
第 11 回	20 世紀の３大潮流 (3)	ゲシュタルト心理学について
第 12 回	20 世紀後半の心理学の展開	臨床心理学と認知心理学について
第 13 回	社会における心理学の関わり	心理検査の拡大と資格について
第 14 回	まとめ	授業内容を理解しているかどうかのテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は「心理学概論」の内容を理解していることを前提としています。それでも授業のなかで知らない概念が出てきた場合には、復習して理解してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に使いません。

【参考書】
サトウタツヤ・高砂美樹　2003　流れを読む心理学史　有斐閣アルマ
高砂美樹　2011　心理学史はじめの一歩　アルテ

【成績評価の方法と基準】
期末試験　80 %、平常点　20%

【学生の意見等からの気づき】
1 年生の受講科目だと思って油断していると、上級生でも単位を落とすことがあります。他学部の履修者にも心理学の基礎知識を要求しますので、それを理解したうえで受講してください。

【学生が準備すべき機器他】
使う予定の資料（pptx）は Hoppii にあげておきますので、適宜、事前に自分でダウンロードして教科書代わりに使用してください。

【Outline and objectives】
The lectures on the basic history of psychology, including Japanese one, are given. The students are supposed to understand the background and the transition of trends of psychology from the late 19th to the end of the 20th century after the whole lectures.

PSY100BG

脳の科学

高橋　敏治

授業コード：A3619　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
神経伝達物質から脳の高次脳機能まで，心理学の基礎となる脳の科学の基本的事項を学びます。精神生理学や精神薬理学など精神科臨床に関係する医師としての経験を活かし，心理学を学ぶ学生が知っておくべき脳科学の基礎知識や，認知科学の最新のトピックスを取り上げます。

【到達目標】
健康や臨床との関わりの中で，脳の役割の重要性を説明できるようにします。心，身体，自律神経，脳の各部位がそれぞれどのように結びつき，どのように反応するのかを概略し，説明できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
心理学を学ぶ上で最低限必要な脳の各部位の解剖，脳の生理的な働き，神経細胞の機能，最新の脳内の伝達物質などを学びます。心の働きと脳の基本的な関係を学習します。毎回の授業では，初めて触れる概念や用語等が多くあります。前回の内容の振り返り，新規の内容、前回の知識のミニテストというように無理のない授業進行で進めます。授業内で行った試験，課題の模範解答や主な質疑応答は授業内で紹介し，解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	脳の研究の歴史，授業の形式の説明
第 2 回	大脳皮質 1	前頭葉，頭頂葉の部位や機能
第 3 回	大脳皮質 2	後頭葉，側頭葉の部位や機能
第 4 回	脳幹部 1	間脳，橋の部位や機能
第 5 回	脳幹部 2	中脳，延髄の部位や機能
第 6 回	小脳、運動系	小脳や運動経路（錐体路と錐体外路）の部位機能
第 7 回	大脳辺縁系 1	本能・感情の生まれる場所
第 8 回	大脳辺縁系 2	記憶のメカニズム
第 9 回	神経ニューロン 1	ニューロン細胞の機能，構成
第 10 回	神経伝達物質 1	神経伝達物質の種類
第 11 回	神経伝達物質 2	気分障害，ストレス障害，統合失調症と神経伝達物質の関係
第 12 回	脳科学のトピックス 1	男性と女性の脳の分化の仕組み，ミラーニューロンやデフォルトネットワークの問題を解説する
第 13 回	総合的な知識の復習	達成度テストの総合的な復習・まとめ
第 14 回	総合的な達成度テストの振り返り，脳科学のトピックス 2	総合的な達成度テストのまとめの解説，グリンパテックシステムとアルツハイマー型認知症との関係、睡眠との関係を解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間合計 4 時間を設定しています。
第 2 回～14 回　達成度テストで成果を確認するので復習してください。
数回のレポート課題を実施します（脳の基礎知識の確認）。

【テキスト（教科書）】
教科書は用いません。授業内に適宜プリントを配布します。

【参考書】
　緑川晶・山口加代子・三村將（編）(2017)．公認心理師カリキュラム準拠 臨床神経心理学．医歯薬出版株式会社，東京．

【成績評価の方法と基準】
毎回授業の中で 10 分程度の達成度テストを行い，復習します．また期末に試験を行い，評価は達成度テスト・レポート課題を含む平常点（50 %）と期末試験（50 %）で行います。

【学生の意見等からの気づき】
78 人の受講者のうち 54 名から回答者を頂きました。4-5 の段階が、授業の工夫では 70 %，理解できたかで 52 %，履修してよかったかは 78 %の評価でした。授業外の学習時間は大半の人が 30 分から 120 分に含まれましたが，一方でほとんど行っていない人もみられ（22 %），授業外の課題学習などを工夫したいと思います。自由記述では，「毎回，授業中に前回の復習をして頂けたお陰で，内容理解に大きく繋がりました」，「達成度テストが復習になり勉強になった」，「リアルタイム形式だったので，より深い理解を得られた」「1 回目で分からなかったり書ききれなくても 2 回目で理解しやすくなった」などのコメントの一方で，「難しかった」，「時々他の受講生のミュートが解除されている事があり不快だった」，「授業で習ったところが，課題のどこに反映されているのかが分かりにくかった」などのコメントも寄せられました。この授業で初めて接する専門用語が多く，知識内容も多く，入門編としてはややハードルが高いかもしれません。しかし，皆さんの意見を聞いて達成度テストだけでなく，前回の授業の復習がかなり知識の習熟度や理解に役立っていることを確認できました。オンライン授業の課題や資料の名称の付け方についてもっと検討してみたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC を使用して，パワーポイントを使用します．学習支援システムを利用して，授業内配布のプリントや資料を掲載します。また，学習支援システムの「お知らせ」を使用します。普段使用しているメイルを学習支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】
【重要】新型コロナ肺炎に関する状況を考えて授業形態をオンライン授業などに変更する場合があります。皆さんの希望も調査したいと思いますので，初回の授業には必ず出席して下さい。
実施の順序については変更することがあるため，学習支援システムや授業の中で案内しますので，注意してください。
【オフィスアワー】シラバスの教員紹介に記載してあります。担当教員は，厚生労働省精神保健指定医，日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わって実務面の仕事をしています。この経験を生かし，脳と精神の関わりについて講義をします。

【Outline and objectives】
From the neurotransmitter to the higher brain function, we will learn basic matters of brain science which is the foundation of psychology.

PSY200BG

認知心理学

吉村　浩一

授業コード：A3620　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人の知覚を中心とする認知研究が、心理学の中でどのように行われているかの全体的流れを解説します。特に、知覚の中心的研究対象である視覚だけでなく、視覚と他の感覚様相との関係に焦点を当てます。

【到達目標】
「百聞は一見にしかず」という言葉に代表されるように、見ることほど確かなことはないようにいわれがちです。しかし、事象を公正に判断し、適切に表現する能力や態度を養うには、見ることをはじめ知覚し認知する人の心のはたらきの中に個人の経験や推測に基づく主観的枠組みが機能していることを学ぶ必要があります。それによってこそ、客観的に物事を捉え、広い視野に立ち物事を公正に判断する力をつけることができるはずです。本授業では、知覚し認知するという心のはたらきを扱う認知心理学の概要を学ぶことにより、そのような能力の基礎を身につけることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
第 1 回目の授業は、オンデマンド方式で行いますので、学年暦で最初の授業時間までに Hoppii の「お知らせ」の通知を受けられるようにしておいてください。授業は対面とオンデマンドのハイブリッド方式で行う予定ですが、状況により変更する可能性がありますので、毎回、Hoppii の「お知らせ」に注意しておいてください。授業では、さまざまな画像の呈示を必要とするためパワーポイントを頻繁に使います。
　課題は毎回出しますが、回答の中から手本となるものを選び、授業支援システムでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	心理学の中で「認知」という考え方がどう位置づけられているかの概要説明
第 2 回	思考過程まで守備範囲とする認知心理学	素朴物理学やヒューリスティックなど人間特有の思考法の解説
第 3 回	情報論的アプローチ	認知心理学の重要な特徴であるコンピュータ・アナロジーの説明と人工知能研究との分かれ目の指摘
第 4 回	心のはたらきのモデル化	3 つのタイプのモデルの提示と構成概念との関係の解説
第 5 回	知覚とイメージ	イメージすることと知覚することの類同性を裏づける実験
第 6 回	知覚の病理	脳損傷による知覚機能の障害例を紹介し、脳機能が知覚することにいかに重要に関わっているかの理解を促す
第 7 回	目の構造	ヒトの眼の構造の解説
第 8 回	眼球運動	視覚情報をキャッチするための目の動きの理解
第 9 回	逆さめがね実験（1）	目から入る映像情報が逆さになるめがねを着けたときどのようなことが起こるか、さらにはそれを長期間着け続けることによりどのような変化が生じるかの事実を解説する
第 10 回	逆さめがね実験（2）	上記の実験により生じる変化について、これまで心理学が行ってきた研究的解釈の紹介
第 11 回	視覚の優位	逆さめがね研究のように、視覚情報とそれ以外の感覚情報（触覚・聴覚・自己受容感覚など）が矛盾する情報を与えられたとき、原則的には視覚情報に沿う空間認知が章いることの解説
第 12 回	視覚の優位に反する知見	近年は、視覚の優位に反する事例が多く紹介されている。それらについての解説
第 13 回	資料に基づく議論の構築	心理学では実験を行うなど、取り組むテーマに関するデータを自ら生成し、それに基づいて議論を組み立て主張を行う。そのスタイルの意義についての解説
第 14 回	期末テストと全体の総括	期末テストを行った上で、その解説を中心とする全体の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で取り上げたテーマや内容について、毎回、課題を提示します。受講者はその課題について文献やインターネットで情報を収集し、一週間後に各課題に対する回答を提出してください。それを平常点とします。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません

【参考書】
三浦佳世（編著）『現代の認知心理学 1 ：知覚と感性』2010（北大路書房）

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %と期末テスト 30 %により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
教材の配布が少ないとの指摘を受け、授業で使うパワポ資料を授業の前の週に教材としてアップして配布します。

【その他の重要事項】
この授業は、例年、秋学期に開講していますが、本年度は春学期開講となります。

【Outline and objectives】
This course deals with the cognitive processes of human, especially with perceptual system concerning vision and other modal systems.

PSY200BG

発達心理学

渡辺　弥生

授業コード：A3622　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：○　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフスパンを視野にいれながらも、本授業では、胎児期から、乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に、時間の経過とともに質的および量的に変化するさまざまな発達的特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、社会的に還元できる知識や探索のしかたを学ぶ。

【到達目標】
心の発達についておおまかにでも各時期における発達の特徴を説明できるようになることが望ましい。また、関心のある知見についてグループで討論したり、こうした知識をいかに生活の中で役立てていくかを考え、将来、実際に活かすことができるようになることを目標とする。
（1）人間の発達についていくつかの理論を学ぶ。
（2）人間の発達を明らかにしていくための研究にふれる。
（3）生活のどのような部分に役立てられるかを意識し応用する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式であるが、人間の発達を実感できるようにビデオや DVD などの視聴覚教材を適宜用いていく。受講者には、各時間による積極的な発言や質問による参加を期待する。テキストを用いるので、事前に予習したり、復習することが必須である。授業の感想を毎回求める。☆例年、受講者数が多いので制限する可能性があることから、希望者は初回時には必ず出席すること。初回が終わり、受講者数が多いことから２回の仮登録までを履修者として、以降制限します。
課題のフィードバックについては、学習支援システムで実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	発達ということ	発達理論の枠組みの理解 「発達」が意味することや、研究方法、さらには、主要な理論の存在について認識する。
第 2 回	胎児の発達	お腹の中の赤ちゃんについて：胎児期に起きている神秘ともいえる変化について 理解する。
第 3 回	感覚・知覚の発達	見える世界、聞こえる世界の理解：感覚や知覚が年齢とともにどのように変化するのかを理解する。
第 4 回	感情の発達	泣くから悲しい？ 悲しいから泣く？ ：当たり前と考えていたことが、実は明確でないことや、感情のメカニズムについて知る。
第 5 回	認知の発達	考えることの発達：考えるということの意味や、認知と感情、行動の関係について学ぶ。
第 6 回	言語の発達	ことばを覚える、ことばを使う：言葉の獲得や言葉の使用など、言葉の発達の様々な側面を理解する。
第 7 回	親子関係の発達	「ひとりでも泣かないよ」 乳幼児期の親子関係を中心に、基本的な理論を習得する。
第 8 回	友人関係の発達	友人関係を築き維持すること：友人関係を築くこと、維持することなど、また、友人関係のトラブルへの対応などについて学ぶ。
第 9 回	知能の発達	頭が良いとはどういうこと？ 知能の概念や、それをどのように測定するかという点について理解する。
第 10 回	意欲・動機づけの発達	やる気のメカニズム：勉強嫌いや、無気力になってしまう原因などを考え、意欲的に学習するためのメカニズムを知る。
第 11 回	自我の発達	一生涯続く「自分とは何か：自我のめざめや自己意識の問題は生涯発達の軸になるテーマであるが、多くの理論を学ぶ。
第 12 回	性役割の発達	ジェンダーの獲得「男とは女とは」：生物的な違いなのか後天的な違いなのか、 いくつかの研究から考えてみる。
第 13 回	道徳性の発達	善悪の判断はどのように育つ？ ：道徳的な人とそうでない人は、発達的に違いがあるのか。善悪の判断や、向社会的な行動のメカニズムについて知る。
第 14 回	発達障害の理解	発達障害の理解と対応：近年、明らかにされてきた障害の特徴について知るとともに、どのように支援していけるかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の前日までに毎回、テキストの課題となる章を読み、テーマを理解する。知らない用語などは、自分で調べておくことが望ましい。テキストの図表から読み取れることを考え、わからないところを明確にしておく。わからないことは授業で質問するようにし、授業後は復習する。復習したことが理解されているかを確認するため、授業の最初に前の時間のレヴューや質問に答えるようにするが、専門用語などについてまとめるようにする。予習復習には、各２時間かけるようにする。

【テキスト（教科書）】
『ひと目でわかる発達心理学』、渡辺弥生・西野泰代　編著（福村出版）

【参考書】
『子どもの「１０歳の壁」とは何か？ ー乗り越えるための発達心理学』渡辺弥生著（光文社）
『発達心理学（シリーズ　心理学と仕事）』二宮克美・渡辺弥生編著（北大路書房）
『まんがでわかる発達心理学（仮）』（５月刊行予定）渡辺弥生監修（講談社）

【成績評価の方法と基準】
オンデマンド形式と対面のハイブリッド形式を予定していますが、その時の状況によって変更の場合があります。支援システムを参考にしてください、
毎回のミニクイズの回答（正答かどうか）とおおよそ４回ごとのミニ課題２回の総合点で評価することとします。ただし、ミニクイズの回答の評価は全クイズ数の 3 分の 2 を回答した人を対象にします。ミニクイズの評価は 40%です。ミニ課題は２つとも提出することが前提で、評価は全体の６０％となります。
ミニ課題だけ提出、ミニクイズだけ回答だけでは、成績を評価しません。

【学生の意見等からの気づき】
授業外の予習および復習ができるような課題を考える。

【学生が準備すべき機器他】
テキストを持参すること。授業支援システムに入ること。

【その他の重要事項】
授業支援システムに登録すること。初回を重視します。

【発達心理学】
https://sites.google.com/site/emywata/Home

【Outline and objectives】
From the viewpoint of lifelong development, including from infancy to elderly, we will attempt to understand the flow of research to date and research questions that have been previously clarified. We will aim to consider how to contribute to society by the researches.

PSY200BG

言語心理学

福田　由紀

授業コード：A3667　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ヒトが文章を読む時に，どのようなことが頭の中で起こっているか，言語心理学・脳生理学・認知心理学・教育心理学の研究の成果の知識や見方を得ることが目的です。また，実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】
①言葉を読むときに何が起こっているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
②①について他者に説明ができる。
③言葉の働きについて，心理学的な見方でできる。
④聞きながらメモをとることができる。
⑤階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。適宜，様々な問題について作業をし，その内容を体験したり，グループで討論したりしてもらいます。
また，Hoppii を通じて，授業の前に宿題の提出，授業後に小テストへの回答をしてください。なお，授業の初めに、提出された宿題の内容に関して，全体に対してフィードバックを行います。
さらに，COVID-19 感染症蔓延状況に応じて，オンデマンド授業を中心に行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション，言語心理学の研究の対象とその目的	授業の進め方，心的表象の特徴と種類
第 2 回	言語力の発達	語彙の発達，読み書きの発達の概観
第 3 回	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	言葉を使わないコミュニケーションの難しさの体験
第 4 回	単語認知に影響する要因	心的辞書，認知に影響する要因，材料を統制するとは？
第 5 回	処理過程からみた単語認知	ボトムアップ処理とトップダウン処理
第 6 回	文の理解：曖昧性の解消	ガーデンパス文，作業記憶量
第 7 回	文章の理解：対象と構成された知識	文章の何を理解するのか，読み手の推論の力
第 8 回	文章理解に影響する要因 1：既有知識	物語文法，物語スキーマ
第 9 回	文章理解に影響する要因 2：既有知識	スクリプト，視点
第 10 回	文章の理解モデル	状況モデル
第 11 回	状況モデルの新たな展開 1：モデルの深まり	最近の状況モデル研究
第 12 回	状況モデルの新たな展開 2：対象の広がり	メタ認知，自己概念，感情
第 13 回	状況モデルの新たな展開 3：日常生活への応用	広告の作成や教育
第 14 回	期末テストとその解説，まとめ	期末テストの実施とその解説，授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＊次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前に Hoppii から提出して下さい。
第 1 回　モーラの概念を使えるようにする。
第 2 回　コミュニケーションにおける言葉とそれ以外の割合を考え，書く。
第 3 回　類似語を選定する。
第 4 回　規則語と例外語の例を書く。
第 5 回　ガーデンパス文を修正する。
第 6 回　Sacks の実験材料を読み，質問に答える。
第 7 回　桃太郎の物語の要約を書く。
第 8 回　行間を読むとは具体的にはどのようなことを指すかを書く。
第 9 回　Morrow et al. の実験材料である地図を記憶する。
第 10 回　文庫本には行間が空いている箇所がある。その理由を書く。

第 11 回　小説を読んだときの体験を書く。
第 12 回　大学案内と車内広告作成におけるポイントを書く。
第 13 回　期末テストの準備を行い，自己評価する。
＊受講した授業の内容に関して，小テストを授業支援システムを通じて行います。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「言語心理学入門－言語力を育てる－」福田由紀編　培風館　2012 年

【参考書】
適宜，紹介します。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点 20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を 80%として，総合点により決定されます。期末テストの追試は，履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容，自分で教科書を読んだ内容，そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度はオンデマンド授業が行われ，授業アンケートは実施されませんでした。そのため，2019 年度の授業のアンケート結果を紹介します。
受講生の約 7 割が「工夫していた」「授業を受けてよかった」と回答してくれました。ありがとうございます。自由記述をみると，シャトルシートの記入が授業のメリハリになっている，自分でまとめられるので良かった等，好評でした。今後も続けていきますね。

【その他の重要事項】
今年度は対面授業を予定しています。しかし，COVID-19 感染状況により，他の形式の授業に変更される可能性があります。よって，大学からのお知らせに注意をしていてください。また，上記の授業計画等が変更になる可能性もあります。受講希望者は，初回のオリエンテーションに必ず出席をしてください。あるいは Hoppii からのお知らせに気をつけてください。
文化審議会国語分科会臨時委員の活動を通して得られた広い視野から，本授業では言語活動をいっしょに考察していきます。

【実験参加へのお願い】
授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく，他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【初回授業】
初回授業はオンラインで行います。ZoomID は Hoppii の「お知らせ」を通じて行います。
また，初回授業時に受講者の数を確定したいと思います。この授業の受講希望者は，必ず，出席をしてください。初回授業に欠席した場合，受講できない場合がありますので気をつけてください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn various activities of language in terms of psychological perspective. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding about psychology of language.

PSY200BG

学習心理学

押尾　恵吾

授業コード：A3624　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の活動に不可欠な「学習」という現象を，心理学的に幅広く捉え，理解することがこの授業の目的です。

【到達目標】
単に心理学の知識として授業内容を覚えるのではなくて，実際に自分自身の日常生活に応用できるように理解することを到達目標とします。また，そうすることで自分の生活を有意義なものにしていくという考え方を身につけてもらいたいと思います

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
条件づけという基礎的な学習理論から授業を始めますが，動物実験の結果は人間にも当てはまります。次に，主に教育場面における学習活動を客観的に捉え，動機づけや学習方略，メタ認知などについて学びます。また，知識の獲得過程として記憶のしくみの基礎を知り，自分自身の学習活動にも役立て下さい。講義形式の授業ですが，より深い理解を促すために，授業内容に関連した簡単な実験や質問紙を通じて，自分自身の学習過程についても見つめる機会をできるだけ提供します。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、授業の中で取りあげ，全体に対してフィードバックを行います。また，課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と目標の確認
第 2 回	古典的条件づけ	○○恐怖症の原因
第 3 回	オペラント条件づけ	報酬と罰の使い分け
第 4 回	観察学習	暴力映像視聴の影響
第 5 回	動機づけの基礎	やる気のメカニズム
第 6 回	動機づけの応用	やる気のコントロール
第 7 回	記憶の分類	認知活動を支える記憶
第 8 回	作動記憶・手続記憶	短期記憶と長期記憶
第 9 回	記憶の理論を活かす	エピソード記憶獲得法
第 10 回	学習方略	自律的な学習のために
第 11 回	メタ認知と学習観	認知の認知を客観視
第 12 回	ここまでのまとめ	振り返りと理解度確認
第 13 回	レポート回収と解説	自己評価と動機づけ
第 14 回	授業の総括	到達目標自己評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間の復習を標準とします。復習として、毎授業の内容を A4 用紙 1 枚程度でまとめます。

【テキスト（教科書）】
学習支援システムより，各回の授業資料を配布します。

【参考書】
「絶対役立つ教育心理学　実践の理論，理論の実践」 藤田哲也 (編)(2007) ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】
・平常点（55 %）…授業へ出席し，復習シートを作成して提出することを評価の対象とします。
・期末レポート（45%）…授業内容についての基本的な理解と，その授業内容を日常生活に応用できるレベルで理解できているかどうかの両者を主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません.

【学生が準備すべき機器他】
授業で用いる資料は授業支援システムより各自ダウンロードしてください。また，課題の提出についても授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】
授業の運営方針や授業計画の説明をしますので，受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
In this class, students understand the phenomenon of "learning" necessary for human activities from a psychological point of view.

PSY200BG

行動分析学

島宗　理

授業コード：A3670　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会の問題や個人の悩みは、よくよく考えてみると何らかの行動の問題であることが多いものです。心理学は行動の科学として“行動の予測と制御”に関わる法則を見いだしてきました。こうした法則をうまく適用すれば、社会の問題を解決し、個人の悩みを解消することも可能です。この授業では、社会的・個人的に重要な課題を行動問題としてとらえ、個人攻撃の罠に陥らず、環境を整備しながら問題を解決していく行動分析学の考え方を学びます。

【到達目標】
○基本的な行動原理（強化、弱化、消去、弁別など）、課題分析、ABC 分析、AB 分析などについて、概念や用語を説明できるようになり、日常の行動問題の原因推定に応用できるようになる。
○標的行動を具体的に定義し、測定し、記録できるようになる。
○日常的な行動について、行動分析学の概念を使って話し合い、討論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では企業におけるパフォーマンスマネジメント、安全管理、犯罪防止、スポーツのコーチング、医療福祉におけるケアマネジメントなどを扱います。毎回，課題やテストに取り組みます。課題へのフィードバックは授業および Google クラスで行います。テストの得点は Moodle でフィードバックされます。
【重要】新型コロナ感染拡大防止のために，この授業は感染状況に応じてオンラインと対面を適宜組み合わせて行います。学習支援システムのこの授業科目のトップページで，対応状況やそれに伴うシラバスからの変更点について案内しますのでご確認ください。教材の配信には Google クラスを使います。Google クラスの授業コードも学習支援システムのこの授業科目のトップページでお知らせします。
学習支援システム： https://hoppii.hosei.ac.jp/portal
Google Classroom（Google クラス）： https://classroom.google.com/
なお初回の授業は Zoom で時間割通りに実施します。その後の授業方法もその時点で説明しますので，必ず参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と方法、約束事を説明します。
第 2 回	「問題」とは？ 心と行動の区別	解決したい問題を時空間上に捉えます。問題の原因を推定します。個人攻撃の罠について学びます。
第 3 回	好子と嫌子	生得性・習得性好子と嫌子の定義を学び、日常生活から例をみつけます。
第 4 回	強化と弱化	基本的な行動随伴性について学びます。
第 5 回	課題分析	標的行動を具体化する課題分析の手法を学びます。
第 6 回	シェイピング	新しい行動レパートリーを教えるシェイピングの技法を学びます。
第 7 回	ABC 分析#1	行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC 分析の手法を学びます。
第 8 回	ABC 分析#2	行動の制御変数を見つける。機能的分析、ABC 分析の手法を学びます。
第 9 回	AB 分析#1	オペラントとレスポンデントの区別について学びます。恐怖や不安の条件づけや消去、系統的脱感作法について学びます。
第 10 回	AB 分析#2	情動の条件付けや知覚学習について学びます。
第 11 回	ABC 分析#3	ABC 分析を用いて行動を制御している変数を見つける方法を学びます。
第 12 回	観察法	インターバル記録法とタイムサンプリング記録法について学びます。
第 13 回	行動分析学の実験計画法	シングルケース研究法（反転法、多層ベースライン法、条件交替法、基準変化法）について学びます。
第 14 回	まとめ	授業で学んだ行動分析学の考え方を使って社会的な問題を解決する具体的な方法について考えます。 レポートを提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、次の授業で取り上げる内容について教科書を読み、web クイズに取り組んで予習してきます。
最終回までに、行動分析学を用いて、社会的な問題を解決する具体的な方法について考え、まとめるレポートを作成します。
本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
○『パフォーマンス・マネジメント− 問題解決のための行動分析学』島宗 理（著） 2000 年 米田出版

【参考書】
○『使える行動分析学—じぶん実験のすすめ—』島宗 理（著）2014 年 ちくま書房
○『人は、なぜ約束の時間に遅れるのか—素朴な疑問から考える「行動の原因」—』島宗 理（著）2010 年 光文社新書
○『行動分析学入門』杉山ら 1998 年 産業図書
○『行動の基礎—豊かな人間理解のために—』小野浩一（著）2016 年（改訂版）培風館

【成績評価の方法と基準】
○クイズ 50%、授業内演習課題 50%として成績を評価します。
○授業を欠席したときには授業内課題を補完するレポートを書いて提出してください。10 点満点で採点します。学期内 6 回まではこのレポートの得点で授業内の課題得点を補完できるものとします。授業内クイズの得点は該当する web 学習プログラムに取り組み，満点をとっていれば 10 点を補填します。どちらも期限は欠席した次の授業時間の開始時刻です。

【学生の意見等からの気づき】
（2020 年度は授業改善アンケートが実施されませんでした）
独自に行なったアンケートからはおおよそ高い評価をいただきました。
コロナ禍で急遽オンライン授業となりましたが，授業の課題にしっかり取り組んだ受講生が多かったです。毎週の課題にコメントをもらえたことに対する評価が高かったようです。一方，動画が長すぎるという声も多くいただきました。次年度はなんとかして，この授業本来のアクティブラーニング的活動を復活させようと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムへのアクセスやレポートの作成などに PC を多用します。

【その他の重要事項】
○本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。
○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to master basic principles, procedures, and research methods pertaining to applying behavior analysis in everyday life. Student will learn the terminology and use them to conduct functional analyses of behavioral problems.

PSY200BG

社会心理学／心理学２（社会心理学） 1

越智　啓太

授業コード：A3625,A2256　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業概要：
人間の社会行動を科学的に解明する
　社会心理学は、我々が、日々遭遇するさまざまな行動を心理学的な観点から分析していく学問です。この授業ではとくに、社会と個人の関係、個人と個人についての問題を取り上げていきます。「社会」などというと難しそうな感じがしますが、例えば、どのようにすれば良い印象を与えることができるのか、なぜ転校生が来るのがいやなのか、勉強してきたくせになぜみんなテストの日に「私全然やってない」っていうのか、どうせ外れるのになぜ宝くじを買い続けるのか、なぜ本屋と CD ショップはデパートの上の方の階にあるのか、性格と顔は恋愛においてどっちが重要なのか、恋愛が崩壊するのはなぜか、なぜ困っている人を助けない人がいるのか、いらいらするといじわるしたくなるのはなぜか、などの問題がじつは社会心理学と関係しており、とても身近な学問です。
授業の目的・意義
　社会心理学の基礎概念と方法論を科学的に理解し、我々が普段遭遇する社会的な事象について心理学的観点から分析できるようになる。

【到達目標】
(1) 社会心理学の基本的な概念について、その定義やその概念に関連した基本的な研究が解説できるようになる。
(2) それらの概念について自分の具体的な経験と結びつけて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業の進め方：我々の社会行動について順次取り上げて、その理論と根拠になった実験例、応用、問題点などについて順次紹介していく。半期の授業なので、広い社会心理学の分野をすべて取り上げることが出来ないが、みなが関心を持つようなテーマをいくつか選んで深く掘り下げてみたい。
授業方法：講義形式、記憶する必要のある用語のリストや基本的な授業のまとめノートは授業支援システムからダウンロードできる。
フィードバック：毎回リアクションペーパーを提出する。また何回かに 1 回、小レポートを提出させる。リアクションペーパーおよびレポート課題については次回の講義時の最初で講評および追加解説を行う。また、場合においては、Hoppii 等で追加の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	社会心理学とは何か	授業の進め方、採点ポリシーの説明、社会心理学の概要、社会心理学の研究方法
第 2 回	対人印象形成（1）	中心特性、初頭効果
第 3 回	対人印象形成（2）	ステレオタイプ、ステレオタイプの形成、ステレオタイプの維持
第 4 回	外見的魅力	美人、ハンサム、外見的魅力を規定する平均顔仮説
第 5 回	恋愛行動（1）	恋愛行動の形成、進展、SVR 理論、情動と恋愛、錯誤帰属、恋愛のスキル
第 6 回	恋愛行動（2）	恋愛の類型論、恋愛と情動、恋愛進展
第 7 回	恋愛行動（3）	恋愛の個人差、愛の結晶化現象、愛の再確認傾向と恋愛
第 8 回	ノンバーバルコミュニケーション	表情、動作、しぐさ、うその見破り
第 9 回	自己概念維持	自己概念、自己概念維持
第 10 回	セルフハンディキャッピング	獲得的セルフハンディキャッピング、主張的セルフハンディキャッピング
第 11 回	攻撃行動（1）メディアバイオレンス	マスメディアと攻撃の促進、バイオレンスゲームと攻撃行動、暴力メディアの長期的影響
第 12 回	攻撃行動（2）	攻撃行動の個人差、攻撃行動とパーソナリティ、攻撃行動のメカニズム
第 13 回	援助行動（1）	援助行動の規定要因、援助行動の実験室研究
第 14 回	援助行動（2）	社会的インパクト理論と援助行動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自受講に際しては、あらかじめ授業支援システムから該当する講義のプリントをダウンロードして読んでくること。ただし、予習よりは復習の部分に力を入れて欲しい。各チャプターごとに記憶すべき用語（キーワード）を提示するので、この用語を記憶し、使いこなせるようしておくこと。指定した授業に関する動画視聴と事前、事後課題を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　特に使用しない。プリントを使用する。プリントは授業支援システムで配布する。

【参考書】
　中里・松井・中村（編）社会心理学の基礎と展開　八千代出版を予復習用参考書に使用する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価のためには 3/5 以上の出席を前提とする。出席は基準を満たしているかどうかの判断にのみ使用する。
筆記試験（６０％）＋レポート（３５％）＋授業コメント（５％）

【学生の意見等からの気づき】
　毎回、比較的良い評価をいただいております。とくに知的好奇心が満たされた、などのポイントが高くなっています。昨年に比べ、ウェブを通じて配付する資料や動画資料を充実させました。また、授業で取り上げる、具体的な事例等を最新のものに刷新しました。今年は例年よりもより面白くなるように努力します！

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用する。
講義資料は各自、授業支援システムからダウンロードする。

【その他の重要事項】
（1）「集団社会心理学」とペアで社会心理学全体を概観する。そのため、「集団社会心理学」も同時に履修することが望ましい。
（2）試験の記述問題については、専門用語を使用し、現象を実証的に説明していくことが必要。ただの具体例や感想だけではもちろん点数にならない。
（3）授業時のパワーポイントの撮影は禁止。その代わりに資料を配付する。
（4）他の教員の授業に比べて、A ＋、A は少ない。毎年、D 評価のものが５％程度でているので、楽勝科目ではないと思う。

【Outline and objectives】
Overview of psychology on social-human relationship

PSY100BG

認知科学入門

田嶋　圭一

授業コード：A3621　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
見る，聞く，言葉を話す，覚える，考える，他者とかかわるといった日常的に無意識に行われる知的活動を可能にする心の働きを，学際的な観点から追究する「認知科学」という学問について学びます。

【到達目標】
認知科学の歴史と，視覚・聴覚・言語・記憶・推論・社会的認知といった各部門の概略について，各自の具体的な経験を踏まえて他者に説明できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式で行いますが，適宜視聴覚教材・ミニ実験・動画などを盛り込む予定です。また，授業中に個別あるいはグループで課題に取り組んだり，コメントシートを作成することで，授業への能動的な参加が期待されます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また，学生からの質問やコメントのいくつかを，次回の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。
初回の授業は時間割通りにリアルタイムで Zoom を用いたオンライン授業を行います。授業に関する重要な説明および講義を行いますので，受講希望者は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明，「認知科学」とはどんな学問か，認知科学が対象とする「知的活動」とはどんな活動か
第 2 回	認知科学の歴史	心理学の略歴，認知科学の誕生，認知科学の諸分野
第 3 回	知覚	心への入口としての感覚と知覚，感覚の範囲，物理量と心理量の関係，感覚のしくみと種類
第 4 回	視知覚	感覚の一般的特性，形の知覚と知覚的体制化
第 5 回	視知覚と高次認知過程	奥行き知覚，高次知覚過程（パターン認識，トップダウン処理とボトムアップ処理，文脈効果），顔の表情認知
第 6 回	聴知覚	音の正体，音の大きさ・高さ・音色の知覚，聴覚情景分析
第 7 回	視聴覚の統合	選択的注意，音声の知覚，視覚と聴覚の統合
第 8 回	言語	言語とはどんなものか，言語知識，言語獲得
第 9 回	記憶	記憶の流れと区分，短期記憶と長期記憶，日常生活と記憶，記憶の変容
第 10 回	知識	概念やスキーマとしての知識，心的表象（世界を脳内でどのように表現しているか），命題や文の心的表象
第 11 回	思考	思考，推論，問題解決
第 12 回	情動	情動とは，情動と脳，情動を認知するためのメカニズム，情動の変化を定量的に捉える
第 13 回	社会的認知	社会的認知とは何か，社会的条件の影響，対人認知, 認知科学の今後の展望
第 14 回	試験，授業の総括	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学習支援システムにアップされた資料を読んだり，課題に取り組んだりすることで，毎回の授業の復習や理解度チェックを行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しません。レジュメ等の資料をエチュード経由で配布します。

【参考書】
行場次郎・箱田祐司（編）（2014）．新・知性と感性の心理　―認知心理学最前線―　福村出版．
鈴木宏昭（2016）．教養としての認知科学　東京大学出版会．
内村直之・植田一博・今井むつみ・川合伸幸・嶋田総太郎・橋田浩一（2016）．はじめての認知科学　新曜社．
大津由紀雄・波多野誼余夫（編著）（2004）．認知科学への招待　―心の研究の面白さに迫る―　研究社．
都築誉史（編）（2002）．認知科学パースペクティブ　―心理学からの 10 の視点―　信山社．
大島尚（編）（1986）．ワードマップ：認知科学　新曜社．

【成績評価の方法と基準】
平常点・課題 30%，中間テスト 20%，期末テスト 50%の割合で評価する予定です。原則として，正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合，または期末テストを未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は授業改善アンケートが実施されませんでしたので，2019 年度のアンケート結果に基づいた気づきを以下に記します。
回答者 88 名のうち，「履修してよかった」という問「5」または「4」と回答してくれた人が 79 名（90%，前年は 91%），「理解できた」が 68 名（77%，前年は 81%），「工夫されていた」が 82 名（93%，前年は 86%）でした。いずれも前年度と大きく変化はなく，おおむね高い評価をいただきました。授業内容，レジュメ，小テスト，グループワーク，いずれについても肯定的なコメントをたくさんいただきました。中には「素晴らしい授業」「先生が優秀」といった嬉しいコメントもありました。授業外学習時間については「1～2 時間」が 33%，「30 分～1 時間」が 41%，「ほとんど行っていない」が 23%でした。成績の 3 割を占める合計 4 回の小テストがあるため学期中も授業外で定期的に復習などをしていた受講生が比較的多かったと考えられます。小テストの頻度・回数については「多すぎ」「少なすぎ」といった意見もありましたが，「ちょうどよかった」という意見が最も多かったです。「レジュメに余白が少なくて，自分で補足を書き込むと見にくくなってしまいます」というコメントがありました。ごもっともなご意見ですが，余白を増やすと印刷枚数が増えるので，他のノートなどに補足を書き込んでもらうのが良いのかも知れません。授業中の教え合いの時間は好評でした。その場で理解度チェックができ学生同士で質問し合えるので，今後も続けたいと思います。遅刻者が入室するとコメントシートを渡すのに授業が中断されるので改善してほしいというご意見がありました。改善策を考えたいと思います。

【その他の重要事項】
授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので，受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
This course introduces students to cognitive science, an interdisciplinary field that studies how the mind works, that is, the mental processes that enable people to engage in everyday activities such as seeing, hearing, using language, remembering, thinking, and interacting with others.

PSY100BG

心理統計法 I

三浦　大志

授業コード：A3701　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学をよく理解するために必要である、基本的な統計の手法を学ぶ。この授業では記述統計を主に扱うが、推測統計も一部取り扱う。

【到達目標】
この授業の目標は
・尺度水準や代表値、散布度や相関係数などの記述統計の概念を理解できる
・これらの値を算出できる
ことである。これらを通じて、心理学の文献を読むために必要な統計的知識の土台を築くことを目指す。また、統計を日常生活と結びつけることによって、統計的なものの考え方を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
心理学において、データや統計法は必要不可欠である。そのため、この授業では心理統計法の基礎的な事項について説明する。心理学研究の際に統計を効果的に利用出来るようになることが重要であるので、高度な数学的理解は求めない。難しい数式の理解や暗記も求めない。この授業は講義形式だが、演習 (統計処理の作業) やコメントシートなどを随時取り入れる予定である。また、授業のはじめに前回の授業で提出されたコメントシートをいくつか紹介し、フィードバックを行う予定である。第 1 回の授業で授業方針を詳しく説明するので、受講を考えている学生は出席すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・心理統計とは	授業内容・方針についてのガイダンス、心理統計について
第 2 回	記述統計とは	記述統計
第 3 回	尺度水準	尺度水準
第 4 回	分布と代表値	度数分布、代表値
第 5 回	分布と散布度	分散、標準偏差
第 6 回	標準化	標準得点
第 7 回	ここまでの事項の確認	中間テストおよびその解説
第 8 回	2 つの変数の関係 1	相関の図と共分散
第 9 回	2 つの変数の関係 2	相関係数
第 10 回	2 つの変数の関係 3	連関
第 11 回	推測統計とは	母集団と標本
第 12 回	標本から母集団を推測する 1	正規分布
第 13 回	標本から母集団を推測する 2	点推定と区間推定
第 14 回	ここまでの事項の確認	最終テストおよびその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の授業範囲をテキストなどで示すので、目を通しておくこと。
統計は知識の積み重ねが必要不可欠なので、分からない部分を残したまま先に進むことのないように復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
山田剛史・村井潤一郎「よく分かる心理統計」ミネルヴァ書房

【参考書】
山内光哉「心理・教育のための統計法＜第 3 版＞」サイエンス社
吉田寿夫「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房

【成績評価の方法と基準】
1．授業内容を毎回きちんと理解し、積み重ねていくこと
2．授業の最後に提出するコメントシートに答えることなどで、日常生活に近づけて統計を理解すること
以上の 2 つが重要であるので、平常点を成績に加味する。中間テストと学期末試験の成績 (70%) と平常点 (30%) を総合して評定する。

【学生の意見等からの気づき】
後半になると難易度が増すというコメントが一定数ありました。高校の授業で統計を既習の学生にとっては前半部分は易しいかもしれませんが、それで油断して期末テストで失敗する人が散見されるので、油断せず授業・家庭学習に取り組んで下さい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムで資料を配付するので、授業支援システムに登録しておいて下さい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts and methods of statistics. This course mainly deals with descriptive statistics.

PSY100BG

心理統計法Ⅱ

三浦　大志

授業コード：A3702　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学をよく理解するために必要である、基本的な統計の手法を学ぶ。この授業では推測統計を主に扱う。

【到達目標】
この授業の目標は
・t 検定や分散分析、カイ二乗検定などの統計的仮説検定を理解できる
・これらの検定を実行できる
ことである。これらを通じて、心理学の文献を読むために必要な統計的知識の土台を築くこと、自分が実験や調査を行う際に適切な統計手法を用いられるようになるための基礎を身につけることを目指す。また、統計を日常生活と結びつけることによって、統計的なものの考え方を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
心理学において、データや統計法は必要不可欠である。そのため、この授業では心理統計法の基礎的な事項について説明する。心理学研究の際に統計を効果的に利用出来るようになることが重要であるので、高度な数学的理解は求めない。難しい数式の理解や暗記も求めない。この授業は講義形式だが、演習 (統計処理の作業) やコメントシートなどを随時取り入れる予定である。また、授業のはじめに前回の授業で提出されたコメントシートをいくつか紹介し、フィードバックを行う予定である。第 1 回の授業で授業方針を詳しく説明するので、受講を考えている学生は出席すること。なお、この授業は春学期の心理統計法 I を受講したことを想定して授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容、方針についてのガイダンス
第 2 回	統計的仮説検定 1	検定とは・二項検定
第 3 回	統計的仮説検定 2	仮説、有意水準、2 種類の誤り
第 4 回	統計的仮説検定 3	適切な検定の選択
第 5 回	t 検定 1	独立した標本の検定
第 6 回	t 検定 2	対応のある標本の検定
第 7 回	ここまでの事項の確認	中間テストおよびその解説
第 8 回	分散分析 1	対応のない 1 要因
第 9 回	分散分析 2	対応のある 1 要因
第 10 回	分散分析 3	交互作用
第 11 回	分散分析 4	2 要因
第 12 回	その他の検定 1	相関係数の検定・回帰分析
第 13 回	その他の検定 2	カイ二乗検定
第 14 回	ここまでの事項の確認	最終テストおよびその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
次回の授業範囲をテキストなどで示すので、目を通しておくこと。
統計は知識の積み重ねが必要不可欠なので、分からない部分を残したまま先に進むことのないように復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
山田剛史・村井潤一郎「よく分かる心理統計」ミネルヴァ書房

【参考書】
山内光哉「心理・教育のための統計法＜第 3 版＞」サイエンス社
吉田寿夫「本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本」北大路書房
森敏昭・吉田寿夫「心理学のためのデータ解析テクニカルブック」北大路書房

【成績評価の方法と基準】
1．授業内容を毎回きちんと理解し、積み重ねていくこと
2．授業の最後に提出するコメントシートに答えることなどで、日常生活に近づけて統計を理解すること
以上の 2 つが重要であるので、平常点を成績に加味する。中間テストと学期末試験の成績 (70%) と平常点 (30%) を総合して評定する。

【学生の意見等からの気づき】
「他の授業でも統計が出てくるので、必要性を感じた」「丸暗記でなく、意味から理解することの大切さを学んだ」といったコメントをいくつかいただきました。推測統計は非常に利用頻度の高い重要なものなので、知的好奇心がかき立てられ、かつ最終的には理解できる授業になるよう努力したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムで資料を配付するので、授業支援システムに登録しておいて下さい。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts and methods of statistics. This course mainly deals with inferential statistics.

PSY200BG

心理統計法実習Ⅰ

[W 組]

伊藤　尚枝

授業コード：A3703　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学研究に必要な推測統計学の基礎知識を学び、統計的仮説検定の考え方を身につける。
・質的データの度数の差の検定方法を身につける。
・量的データの平均値の差の検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
・統計ソフト JASP の基本操作法を習得する。

【到達目標】
到達目標は、以下の４点です。
（1）データの尺度水準に適った統計分析の方法を選定できる。
（2）選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
（3）JASP の出力結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
（4）心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。
①毎回 1 つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
・統計量を手計算してもらうことがあります。
・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
③①で学習した内容に関する課題を出します。
・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
・次回の授業内で、課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	データの要約	分布の特性を表す統計量（平均値、分散、標準偏差など）
第 2 回	ランダムサンプリングとデータ	母集団と標本、確率と正規分布
第 3 回	統計的仮説検定１	統計的仮説と判定
第 4 回	統計的仮説検定２	判定に伴う２つの過誤、片側検定と両側検定
第 5 回	等分散性の検定	分散と F 分布の関係、等分散性の検定の手順
第 6 回	対応のない t 検定	考え方と手順
第 7 回	対応のない t 検定	結果の整理
第 8 回	対応のある t 検定	考え方と手順
第 9 回	対応のある t 検定	結果の整理
第 10 回	一元配置の分散分析	分散分析の考え方と手順 多重比較、結果の整理
第 11 回	度数の集計	度数分布表（1 変数）とクロス集計表（2 変数）
第 12 回	度数のカイ二乗検定１	適合度の検定（1 変数）
第 13 回	度数のカイ二乗検定２	独立性の検定（2 変数）
第 14 回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計ソフト JASP は、ユーザーインターフェースがすべて英語表記なので、準備学習で日本語訳を調べてもらいます（1 時間）。調べる箇所については、授業中に指定します。
授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（2 時間）。
授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（1 時間）。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。
授業中に、適宜プリントを配布します。

【参考書】
伊藤尚枝　2014　Q & A で理解する統計学の基礎　北大路書房
そのほかの参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題の提出（40 %）、最終テスト（30 %）、授業への取り組み・小テスト（30 %）で評価します。
出席については、遅刻２回で、１日の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。
・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

【その他の重要事項】
質問等は、授業中に教室にて受け付けます。

【Outline and objectives】
This course introduces statistical analyses of psychological research needed for inferential statistics and the basics of hypothetical testing. After completing this course, students will be able to:
· Understand statistical tests for qualitative data,
· Understand how to test the difference between the mean values of quantitative data and organize the results, and
· Use the statistical software, JASP, to make a psychological analysis.

PSY200BG

心理統計法実習Ⅰ

[X 組]

伊藤　尚枝

授業コード：A3704　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学研究に必要な推測統計学の基礎知識を学び、統計的仮説検定の考え方を身につける。
・質的データの度数の差の検定方法を身につける。
・量的データの平均値の差の検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
・統計ソフト JASP の基本操作法を習得する。

【到達目標】
到達目標は、以下の 4 点です。
（1）データの尺度水準に適った統計分析の方法を選定できる。
（2）選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
（3）JASP の出力結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
（4）心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。
①毎回 1 つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
・統計量を手計算してもらうことがあります。
・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
③①で学習した内容に関する課題を出します。
・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
・次回の授業内で、課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	データの要約	分布の特性を表す統計量（平均値、分散、標準偏差など）
第 2 回	ランダムサンプリングとデータ	母集団と標本、確率と正規分布
第 3 回	統計的仮説検定 1	統計的仮説と判定
第 4 回	統計的仮説検定 2	判定に伴う 2 つの過誤、片側検定と両側検定
第 5 回	等分散性の検定	分散と F 分布の関係、等分散性の検定の手順
第 6 回	対応のない t 検定	考え方と手順
第 7 回	対応のない t 検定	結果の整理
第 8 回	対応のある t 検定	考え方と手順
第 9 回	対応のある t 検定	結果の整理
第 10 回	一元配置の分散分析	分散分析の考え方と手順 多重比較、結果の整理
第 11 回	度数の集計	度数分布表（1 変数）とクロス集計表（2 変数）
第 12 回	度数のカイ二乗検定 1	適合度の検定（1 変数）
第 13 回	度数のカイ二乗検定 2	独立性の検定（2 変数）
第 14 回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計ソフト JASP は、ユーザーインターフェースがすべて英語表記なので、準備学習で日本語訳を調べてもらいます（1 時間）。調べる箇所については、授業中に指定します。
授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（2 時間）。
授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（1 時間）。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。
授業中に、適宜プリントを配布します。

【参考書】
伊藤尚枝　2014　Q & A で理解する統計学の基礎　北大路書房
そのほかの参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題の提出（40 %）、最終テスト（30 %）、授業への取り組み・小テスト（30 %）で評価します。
出席については、遅刻 2 回で、1 日の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。
・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

【その他の重要事項】
質問等は、授業中に教室にて受け付けます。

【Outline and objectives】
This course introduces statistical analyses of psychological research needed for inferential statistics and the basics of hypothetical testing. After completing this course, students will be able to:
· Understand statistical tests for qualitative data,
· Understand how to test the difference between the mean values of quantitative data and organize the results, and
· Use the statistical software, JASP, to make a psychological analysis.

PSY200BG

心理統計法実習Ⅱ

[W 組]

伊藤　尚枝

授業コード：A3705　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学研究でよく用いられる統計解析の理法と技法を習得する。
・二元配置の実験計画に準拠して収集された量的データの検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
・多変数の量的データを分類・圧縮する諸技法（多変量解析）を学ぶ。

【到達目標】
到達目標は以下の４点です。
（1）実験計画法や研究目的に適った分析方法を選択できる。
（2）選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
（3）JASP で分析した結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
（4）心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。
①毎回 1 つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
・統計量を手計算してもらうことがあります。
・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
③①で学習した内容に関する課題を出します。
・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
・次回の授業内で、課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	二元配置の分散分析 1	実験計画と分散分析の実行
第 2 回	二元配置の分散分析 2	二元配置以上の分散分析での検定の効果（主効果、交互作用効果、単純主効果）
第 3 回	二元配置の分散分析 3	結果の整理
第 4 回	因果関係と相関関係	散布図の読み取り
第 5 回	相関係数の算出	相関係数の有意性
第 6 回	単回帰分析１	相関と回帰の意義
第 7 回	単回帰分析２	結果の整理
第 8 回	重回帰分析１	考え方と手順
第 9 回	重回帰分析２	変数の選択、多重共線性の問題と対策
第 10 回	重回帰分析３	結果の整理
第 11 回	因子分析１	因子分析の考え方と手順
第 12 回	因子分析２	初期解の算出、軸の回転
第 13 回	因子分析３	結果と解釈
第 14 回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計ソフト JASP は、ユーザーインターフェースがすべて英語表記なので、準備学習で日本語訳を調べてもらいます（1 時間）。調べる箇所については、授業中に指定します。
授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（2 時間）。
授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（1 時間）。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。
授業中に、適宜プリントを配布します。

【参考書】
伊藤尚枝　2014　Q & A で理解する統計学の基礎　北大路書房
その他の参考書については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題の提出（40 %）、最終テスト（30 %）、授業への取り組み・小テスト（30 %）で評価します。
出席については、遅刻２回で、１日の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。
・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

【その他の重要事項】
質問等については、授業中に受け付けます。

【Outline and objectives】
This course is designed to help students acquire some of the methods and techniques frequently used in psychological research. After completing this course, students will be able to:
・Conduct a two-way ANOVA test for quantitative data collected under an experimental design and analyze the resulting data,
・Use multivariate statistical techniques for quantitative data with multivariate variables, and
・Use the statistical software, JASP, to make a psychological analysis.

PSY200BG

心理統計法実習Ⅱ

[X 組]

伊藤　尚枝

授業コード：A3706　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学研究でよく用いられる統計解析の理法と技法を習得する。
・二元配置の実験計画に準拠して収集された量的データの検定方法と、その結果の整理を学ぶ。
・多変数の量的データを分類・圧縮する諸技法（多変量解析）を学ぶ。

【到達目標】
到達目標は以下の４点です。
（1）実験計画法や研究目的に適った分析方法を選択できる。
（2）選定した分析方法を、統計ソフト JASP で実行できる。
（3）JASP で分析した結果を、心理学研究の形式に準拠して記述できる。
（4）心理学論文に書かれている分析結果を読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
各回の授業は、以下の①～③の流れで行います。ただし、進捗状況に応じて、順序を変更する場合があります。
①毎回 1 つの分析方法を取り上げて、その理法と技法を講義します。
・統計量を手計算してもらうことがあります。
・手計算をするときは、電卓、または、エクセルを使用する予定です。
・講義内容を理解したかを確認するために、小テストを行うことがあります。
②①で学んだ分析方法を、統計ソフト JASP を用いて演習形式で学びます。
・グループワークを取り入れて、JASP の基本操作への理解を深めます。
・JASP の分析結果を心理学研究の形式で記述する方法を学びます。
③①で学習した内容に関する課題を出します。
・②で学んだ操作内容を、実践してもらいます。
・課題の分析結果を、心理学論文に記載する形式でレポートにまとめ、提出してもらいます。
・次回の授業内で、課題の解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	二元配置の分散分析 1	実験計画と分散分析の実行
第 2 回	二元配置の分散分析 2	二元配置以上の分散分析での検定の効果（主効果、交互作用効果、単純主効果）
第 3 回	二元配置の分散分析 3	結果の整理
第 4 回	因果関係と相関関係	散布図の読み取り
第 5 回	相関係数の算出	相関係数の有意性
第 6 回	単回帰分析１	相関と回帰の意義
第 7 回	単回帰分析２	結果の整理
第 8 回	重回帰分析１	考え方と手順
第 9 回	重回帰分析２	変数の選択、多重共線性の問題と対策
第 10 回	重回帰分析３	結果の整理
第 11 回	因子分析１	因子分析の考え方と手順
第 12 回	因子分析２	初期解の算出、軸の回転
第 13 回	因子分析３	結果と解釈
第 14 回	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
統計ソフト JASP は、ユーザーインターフェースがすべて英語表記なので、準備学習で日本語訳を調べてもらいます（1 時間）。調べる箇所については、授業中に指定します。
授業内で説明した統計用語や JASP の操作に関して、常に復習を行ってください（2 時間）。
授業内で課題が終わらなかった場合は、次回授業までの宿題となります（1 時間）。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用しません。
授業中に、適宜プリントを配布します。

【参考書】
伊藤尚枝　2014　Q & A で理解する統計学の基礎　北大路書房
その他の参考書については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
課題の提出（40 %）、最終テスト（30 %）、授業への取り組み・小テスト（30 %）で評価します。
出席については、遅刻２回で、１日の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】
・図を多く取り入れた資料が好評だったので、資料を積極的に取り入れた授業を行います。
・グループワークを実施することで、授業内容の理解を促進します。

【その他の重要事項】
質問等については、授業中に受け付けます。

【Outline and objectives】
This course is designed to help students acquire some of the methods and techniques frequently used in psychological research. After completing this course, students will be able to:
・Conduct a two-way ANOVA test for quantitative data collected under an experimental design and analyze the resulting data,
・Use multivariate statistical techniques for quantitative data with multivariate variables, and
・Use the statistical software, JASP, to make a psychological analysis.

PSY100BG

心理学基礎実験 I

[W 組]

島宗　理

授業コード：A3707　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「心と行動を科学的にとらえる実験マインドを養おう！」をテーマに心理学の実験を体験し、人間の認知や行動を科学的に捉える実験マインドを養います。人間の心や行動の働きについて「なぜだろう？」と疑問を持つこと、そしてその疑問を実験的に検討するための基礎的な考え方を学ぶことが目標です。目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方やプレゼンテーション技法を身につけることも重視します。

【到達目標】
○心理学の実験を行いながら、行動を記録・測定し、データを分析して、仮説を検証したり、制御変数を探索したりすることができるようになる。
○チームでデータの分析方法や結果の解釈について生産的に話し合うことができるようになる。
○データをグラフとして作成したり、科学的なレポートとして執筆できるようになる。
○実験結果を発表することができるようになる。また、他のチームの発表を聞き、質疑応答のやりとりができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
知覚や認知、記憶や学習に関わる基礎的な心理学実験をチームに分かれて実習します。チームで話し合い、協力しながら、仮説と実験計画を立案し、準備を進め、実験を実施し、データを集計し、結果をプレセンテーションします。また、各自レポートをまとめ、提出します。
レポートの形式は、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については、日本心理学会の『執筆・投稿の手びき』に従って作成することを学びます。
レポートの提出・フィードバックは Google クラスを通じて行う予定です。クイズの得点は Moodle でフィードバックされます。授業全体の得点は学習支援システムを通じてフィードバックします。
【重要】新型コロナ感染拡大防止のために，この授業は感染状況に応じてオンラインと対面を適宜組み合わせて行います。学習支援システムのこの授業科目のトップページで，対応状況やそれに伴うシラバスからの変更点について案内しますのでご確認ください。教材の配信には Google クラスを使います。Google クラスの授業コードも学習支援システムのこの授業科目のトップページでお知らせします。
学習支援システム： https://hoppii.hosei.ac.jp/portal
Google Classroom（Google クラス）： https://classroom.google.com/
なお，初回授業は Zoom で時間割通りに行います。それ以降の授業について説明しますので，受講希望の人は必ず参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と方法、約束事について説明し、チームを編成します。後の実験に使うアンケートも実施します。
第 2 回	実験実習 (その 1）：対人関係における初頭効果　あなたの第一印象は？	対人関係における初頭効果について、クラス全体で実験をし、データを集計します。 前回回答したアンケートのデータを PC で入力します。
第 3 回	データの分析とレポートの執筆（その 1）心理学のイメージ：大学 1 年生はどんなイメージをいだいて入学してくるのだろう？	心理学に対して受講生の皆さんがいだくイメージを KJ 法を使って分析します。
第 4 回	データの分析とレポートの執筆（その 2）データの視覚化：データが語るところを視える化する。	初頭効果の実験のデータと心理学のイメージのデータを Excel を使って集計し、グラフにします。
第 5 回	データの分析とレポートの執筆（その 3）	初頭効果の実験と心理学のイメージについてレポートを書きます。レポートの書き方を解説し、練習します。
第 6 回	実験実習（その 2）記憶の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	記録の実験をクラス全体で実施してデータを集計します。
第 7 回	データの分析とレポートの執筆（その 4）	心理学の研究論文には書き方の約束事があります。これを解説し、記憶の実験のデータを使って約束事を守ってレポートを書く練習をします。
第 8 回	実験実習（その 3）運動の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	学習の実験をクラスごとに実施してデータを集計します。
第 9 回	実験実習（その 4）知覚の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	感覚モダリティ間の相互作用を検討する実験を行い、データを分析します。
第 10 回	データの分析とレポートの執筆（その 5）	前回の実験のレポートを書きながら、論文を推敲する練習をします。
第 11 回	研究発表（準備その 1）	プレゼンテーションの方法について説明します。研究からわかったことをわかりやすく伝えること、聞き手からの質問に答えて、次の研究のヒントになるアイディアをみつけることが目標です。 各チームで前期に行った実験から一つ選び、プレゼン資料を PowerPoint を使って作成し、発表の準備と練習をします。
第 12 回	研究発表（準備その 2）	同上
第 13 回	研究発表（本番）	チームごとにクラスの前に出てプレゼンテーションをします。質疑応答の練習もします。
第 14 回	レポート作成	春学期に行った実験やレポートを振り返り、まとめ、レポートを作成します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
実験実習は授業時間内に行いますが、データの集計や分析、レポートの作成などは、授業時間外に行うことになります。具体的には毎回授業終了時に指示します（例：「データを Excel にまとめる」「チームで実験結果について考察する」「レポートを作成し、提出する」）。
また、この授業では実験の「実習」が主な目的なので、各実験に関する詳しい解説は行いません。興味を持った人は各自積極的に参考書などを読んで勉強しましょう。
授業では Word、Excel、PowerPoint を多用します。これらのソフトウエアに慣れていない人は、情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで、自分から進んで補習して下さい。
本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。

【参考書】
○ 2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき　日本心理学会（2015）
○心理学実験ノート 心理学実験ノート編纂委員会 （2001）二瓶社
○パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐにできるコンピュータ実験 北村英哉・坂本正浩 (編) ナカニシヤ出版 (2004)
○実験とテスト：心理学の基礎 (実習編) 心理学実験指導研究会 (1985) 培風館
○心理学のためのレポート・卒業論文の書き方　杉本 敏夫（2005）サイエンス社
○ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方　石井一成（2011）ナツメ社
○この 1 冊できちんと書ける！　論文・レポートの基本　石黒 圭（2012）日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】
○実験実習の授業ですので、実習への参加、レポート作成を重視し、授業参加 50%、レポート 50%で成績をつけます。
○欠席が 5 回以上になると自動的に E 評価になります。
○実験実習という授業の特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公に認めている理由でも欠席扱いになりますので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
（2020 年度は授業改善アンケートが実施されませんでした） *独自に行なったアンケートからの気づきを書きます。
この授業の受講生のほとんどは新入生で，コロナ禍でいきなり 4 月からオンライン授業となりました。慣れない環境で大学に来ることもできず，友達もできないなか，みなさん全力を尽くして授業課題に取り組んでくれました。
対面授業が実現できなかったことや，Zoom などを使ったコミュニケーションもしなかったと，PC の課題が難しかったことに不満を述べる履修生が多かったです。
一方，都合のより時間に課題に取り組めることや，レポートにコメントがもらえたことなどを肯定的に評価している受講生も多かったです。
具体的な授業改善案を提案してくれた人も多かったので，コロナの感染拡大状況にもよりますが，次年度はできる限り，受講生同士のコミュニケーション機会を確保するように授業を計画します。

【学生が準備すべき機器他】
実験の実施やデータの分析、レポートの作成に PC を用います。

【その他の重要事項】
○ W・X クラスで内容は同じです。W クラスの人は月曜 2 限、X の人は月曜 3 限を履修して下さい。
○ オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】
As an introductory lab course, this course gives you hands-on experience with several elements of psychological research, such as planning, observation, measurement, data analysis, and discussion, by carrying out three to four experiments. The purpose of this course is to learn how to conduct experiments in psychology and how to present the results of the experiments in writing and in oral presentation.

PSY100BG

心理学基礎実験Ⅰ

[X 組]

島宗　理

授業コード：A3708　｜　曜日・時限：**月曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
「心と行動を科学的にとらえる実験マインドを養おう！」をテーマに心理学の実験を体験し、人間の認知や行動を科学的に捉える実験マインドを養います。人間の心や行動の働きについて「なぜだろう？」と疑問を持つこと、そしてその疑問を実験的に検討するための基礎的な考え方を学ぶことが目標です。目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートの書き方やプレゼンテーション技法を身につけることも重視します。

【到達目標】
○心理学の実験を行いながら、行動を記録・測定し、データを分析して、仮説を検証したり、制御変数を探索したりすることができるようになる。
○チームでデータの分析方法や結果の解釈について生産的に話し合うことができるようになる。
○データをグラフとして作成したり、科学的なレポートとして執筆できるようになる。
○実験結果を発表することができるようになる。また、他のチームの発表を聞き、質疑応答のやりとりができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
知覚や認知、記憶や学習に関わる基礎的な心理学実験をチームに分かれて実習します。チームで話し合い、協力しながら、仮説と実験計画を立案し、準備を進め、実験を実施し、データを集計し、結果をプレセンテーションします。また、各自レポートをまとめ、提出します。
レポートの形式は、目的、方法、結果、考察、引用文献の項からなる心理学における標準的なレポートとし、書式については、日本心理学会の『執筆・投稿の手びき』に従って作成することを学びます。
レポートの提出・フィードバックは Google クラスを通じて行う予定です。クイズの得点は Moodle でフィードバックされます。授業全体の得点は学習支援システムを通じてフィードバックします。
【重要】新型コロナ感染拡大防止のために，この授業は感染状況に応じてオンラインと対面を適宜組み合わせて行います。学習支援システムのこの授業科目のトップページで，対応状況やそれに伴うシラバスからの変更点について案内しますのでご確認ください。教材の配信には Google クラスを使います。Google クラスの授業コードも学習支援システムのこの授業科目のトップページでお知らせします。
学習支援システム： https://hoppii.hosei.ac.jp/portal
Google Classroom（Google クラス）： https://classroom.google.com/
なお，初回授業は Zoom で時間割通りに行います。それ以降の授業について説明しますので，受講希望の人は必ず参加してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の内容と方法、約束事について説明し、チームを編成します。後の実験に使うアンケートも実施します。
第 2 回	実験実習 (その 1）：対人関係における初頭効果　あなたの第一印象は？	対人関係における初頭効果について、クラス全体で実験をし、データを集計します。 前回回答したアンケートのデータを PC で入力します。
第 3 回	データの分析とレポートの執筆（その 1）心理学のイメージ：大学 1 年生はどんなイメージをいだいて入学してくるのだろう？	心理学に対して受講生の皆さんがいだくイメージを KJ 法を使って分析します。
第 4 回	データの分析とレポートの執筆（その 2）データの視覚化：データが語るところを視える化する。	初頭効果の実験のデータと心理学のイメージのデータを Excel を使って集計し、グラフにします。
第 5 回	データの分析とレポートの執筆（その 3）	初頭効果の実験と心理学のイメージについてレポートを書きます。レポートの書き方を解説し、練習します。

第 6 回	実験実習（その 2）記憶の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	記録の実験をクラス全体で実施してデータを集計します。
第 7 回	データの分析とレポートの執筆（その 4）	心理学の研究論文には書き方の約束事があります。これを解説し、記憶の実験のデータを使って約束事を守ってレポートを書く練習をします。
第 8 回	実験実習（その 3）運動の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	学習の実験をクラスごとに実施してデータを集計します。
第 9 回	実験実習（その 4）知覚の実験（具体的な内容は授業で明かされます）	感覚モダリティ間の相互作用を検討する実験を行い、データを分析します。
第 10 回	データの分析とレポートの執筆（その 5）	前回の実験のレポートを書きながら、論文を推敲する練習をします。
第 11 回	研究発表（準備その 1）	プレゼンテーションの方法について説明します。研究からわかったことをわかりやすく伝えること、聞き手からの質問に答えて、次の研究のヒントになるアイディアをみつけることが目標です。 各チームで前期に行った実験から一つ選び、プレゼン資料を PowerPoint を使って作成し、発表の準備と練習をします。
第 12 回	研究発表（準備その 2）	同上
第 13 回	研究発表（本番）	チームごとにクラスの前に出てプレゼンテーションをします。質疑応答の練習もします。
第 14 回	レポート作成	春学期に行った実験やレポートを振り返り、まとめ、レポートを作成します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実験実習は授業時間内に行いますが、データの集計や分析、レポートの作成などは、授業時間外に行うことになります。具体的には毎回授業終了時に指示します（例：「データを Excel にまとめる」「チームで実験結果について考察する」「レポートを作成し、提出する」）。

また、この授業では実験の「実習」が主な目的なので、各実験に関する詳しい解説は行いません。興味を持った人は各自積極的に参考書などを読んで勉強しましょう。

授業では Word、Excel、PowerPoint を多用します。これらのソフトウエアに慣れていない人は、情報処理の授業を履修したり、ピアが開催する講習会に参加したり、あるいは自習することで、自分から進んで補習して下さい。

本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

○ 2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき　日本心理学会（2015）
○心理学実験ノート 心理学実験ノート編纂委員会 （2001）二瓶社
○パーソナル・コンピュータによる心理学実験入門：誰でもすぐにできるコンピュータ実験 北村英哉・坂本正浩 (編) ナカニシヤ出版 (2004)
○実験とテスト：心理学の基礎 (実習編) 心理学実験指導研究会 (1985) 培風館
○心理学のためのレポート・卒業論文の書き方　杉本 敏夫（2005）サイエンス社
○ゼロからわかる 大学生のためのレポート・論文の書き方　石井一成（2011）ナツメ社
○この 1 冊できちんと書ける！　論文・レポートの基本　石黒 圭（2012）日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

○実験実習の授業ですので、実習への参加、レポート作成を重視し、授業参加 50%、レポート 50%で成績をつけます。
○欠席が 5 回以上になると自動的に E 評価になります。
○実験実習という授業の特性のため、怪我や病気、忌引き、部活動などの大会など、大学が公に認めている理由でも欠席扱いになりますので注意して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

（2020 年度は授業改善アンケートが実施されませんでした） *独自に行なったアンケートからの気づきを書きます。

この授業の受講生のほとんどは新入生で，コロナ禍でいきなり 4 月からオンライン授業となりました。慣れない環境で大学に来ることもできず，友達もできないなか，みなさん全力を尽くして授業課題に取り組んでくれました。

対面授業が実現できなかったことや，Zoom などを使ったコミュニケーションもしなかったと，PC の課題が難しかったことに不満を述べる履修生が多かったです。

一方，都合のより時間に課題に取り組めることや，レポートにコメントがもらえたことなどを肯定的に評価している受講生も多かったです。

具体的な授業改善案を提案してくれた人も多かったので，コロナの感染拡大状況にもよりますが，次年度はできる限り，受講生同士のコミュニケーション機会を確保するように授業を計画します。

【学生が準備すべき機器他】

実験の実施やデータの分析、レポートの作成に PC を用います。

【その他の重要事項】

○ W・X クラスで内容は同じです。W クラスの人は月曜 2 限、X の人は月曜 3 限を履修して下さい。
○ オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】

As an introductory lab course, this course gives you hands-on experience with several elements of psychological research, such as planning, observation, measurement, data analysis, and discussion, by carrying out three to four experiments. The purpose of this course is to learn how to conduct experiments in psychology and how to present the results of the experiments in writing and in oral presentation.

PSY100BG

心理学基礎実験Ⅱ

[W 組]

矢口　幸康

授業コード：A3709　｜　曜日・時限：月曜２限
秋学期・２単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学の重要な研究法として実験法があります。この授業では、心理学実験プログラム superLab（場合によって lab.js）を使って、実験を遂行する能力を身に付けます。

【到達目標】
心理学実験プログラム superLab は PC 上での実験実施を可能とし、反応時間・正答率・主観的評価などの様々な行動指標を測定することができます。行動指標に関わる 5 つの基本的テーマの実験でデータ測定を行い、実験レポートとして完成させる能力を身につけることを目指します。また、オンラインで実施する場合は上記内容をブラウザ上で実施可能な Lab.js を使用します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者は実験プログラムの作成およびデータ計測を体験し、受講者全員分のデータを集計・共有します。その作業を通して、５つの実験ごとに「目的と方法」「結果の整理」「考察」の枠組みをもった実験報告レポートを各自が提出します。５つの実験は以下の通りです。
1　サイモン課題：選択反応反応の計測
2　ストループ効果：インク色同定反応時間、誤答率の計測
3 ミュラーリヤー錯視：主観的等価点の計測
4　視覚的探索：探索反応時間の計測
5　心的回転：正答率及び反応時間の計測
*課題は変更の可能性があります。その際は速やかに周知します。
＜授業形態について＞授業は原則として対面式で実施する予定ですが、感染流行状況を鑑みオンラインで実施する場合があります。
＜フィードバックについて＞提出された各課題レポートは HoPPii 上で添削した上で修正点などについてフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要の説明	5 つの実験概要の説明
第 2 回	実験プログラムの学習	lab.js の使い方
第 3 回	サイモン課題（1）	選択反応時間計測の解説及び実験実施
第 4 回	サイモン課題（2）	選択反応時間計測の結果の共有及び統計解析
第 5 回	サイモン課題（3）	選択反応時間計測の統計解析結果及びレポート作成に向けた解説
第 6 回	ストループ効果実験 (1)	インク色同定時間および誤答率計測の解説及び実験実施
第 7 回	ストループ効果実験 (2)	インク色同定時間および誤答率計測の結果の共有及び統計解析
第 8 回	ストループ効果実験 (3)	インク色同定時間および誤答率計測の統計解析結果及びレポート作成に向けた解説
第 9 回	ミュラーリヤー錯視実験 (1)	主観的等価点計測の解説及び実験実施
第 10 回	ミュラーリヤー錯視実験 (2)	主観的等価点計測の結果の共有及、統計解析及びレポート作成に向けた解説
第 11 回	視覚的探索実験（1）	探索反応時間の計測の解説及び実験実施
第 12 回	視覚的探索実験（2）	探索反応時間計測の結果の共有、統計解析及びレポート作成に向けた解説
第 13 回	心的回転の実験（1）	心的回転の正答率及び反応時間計測の解説及び実験実施
第 14 回	心的回転の実験（2）	心的回転の正答率及び反応時間計測の結果の共有、統計解析及びレポート作成に向けた解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の内容に合わせて、データの整理及び解析、レポート作成を学生各自で授業時間外に行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
用いません

【参考書】
統計処理法の解説書などを適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レポート評価 100 %（5 課題レポートの平均点）で評価します。
なお以下の条件に当てはまる場合は上記の基準を満たしていても成績評価を E 判定とします。
① 3 回以上の欠席（出講禁止となる感染症・忌引きによる欠席はカウントから除外します）
②授業進捗を妨害する言動に対する注意が 3 回以上
③レポートにおける文献引用に基づかないコピペ、受講者同士での文章および図表の共有が発覚した場合。受講生同士での共有はどのような事情であっても該当者全員を E 判定とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業に対して概ね好意的な意見をいただきました。
オンラインでの実験実施に伴うサーバトラブルが発生したので、今年度オンラインで実験を実施する場合は退所できるようにいたします。

【その他の重要事項】
クラス授業で、W クラスが受講対象です。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a psychological experiments using Superlab(or Lab.js）.

PSY100BG

心理学基礎実験 Ⅱ

[X 組]

矢口　幸康

授業コード：A3710　｜　曜日・時限：**月曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学の重要な研究法として実験法があります。この授業では、心理学実験プログラム superLab（場合によって lab.js）を使って、実験を遂行する能力を身に付けます。

【到達目標】
心理学実験プログラム superLab は PC 上での実験実施を可能とし、反応時間・正答率・主観的評価などの様々な行動指標を測定することができます。行動指標に関わる 5 つの基本的テーマの実験でデータ測定を行い、実験レポートとして完成させる能力を身につけることを目指します。また、オンラインで実施する場合は上記内容をブラウザ上で実施可能な Lab.js を使用します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
受講者は実験プログラムの作成およびデータ計測を体験し、受講者全員分のデータを集計・共有します。その作業を通して、5 つの実験ごとに「目的と方法」「結果の整理」「考察」の枠組みをもった実験報告レポートを各自が提出します。5 つの実験は以下の通りです。
1　サイモン課題：選択反応反応の計測
2　ストループ効果：インク色同定反応時間、誤答率の計測
3 ミュラーリヤー錯視：主観的等価点の計測
4　視覚的探索：探索反応時間の計測
5　心的回転：正答率及び反応時間の計測
*課題は変更の可能性があります。その際は速やかに周知します。
＜授業形態について＞授業は原則として対面式で実施する予定ですが、感染流行状況を鑑みオンラインで実施する場合があります。
＜フィードバックについて＞提出された各課題レポートは HoPPii 上で添削した上で修正点などについてフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要の説明	5 つの実験概要の説明
第 2 回	実験プログラムの学習	lab.js の使い方
第 3 回	サイモン課題（1）	選択反応時間計測の解説及び実験実施
第 4 回	サイモン課題（2）	選択反応時間計測の結果の共有及び統計解析
第 5 回	サイモン課題（3）	選択反応時間計測の統計解析結果及びレポート作成に向けた解説
第 6 回	ストループ効果実験 (1)	インク色同定時間および誤答率計測の解説及び実験実施
第 7 回	ストループ効果実験 (2)	インク色同定時間および誤答率計測の結果の共有及び統計解析
第 8 回	ストループ効果実験 (3)	インク色同定時間および誤答率計測の統計解析結果及びレポート作成に向けた解説
第 9 回	ミュラーリヤー錯視実験 (1)	主観的等価点計測の解説及び実験実施
第 10 回	ミュラーリヤー錯視実験 (2)	主観的等価点計測の結果の共有及、統計解析及びレポート作成に向けた解説
第 11 回	視覚的探索実験（1）	探索反応時間の計測の解説及び実験実施
第 12 回	視覚的探索実験（2）	探索反応時間計測の結果の共有、統計解析及びレポート作成に向けた解説
第 13 回	心的回転の実験（1）	心的回転の正答率及び反応時間計測の解説及び実験実施
第 14 回	心的回転の実験（2）	心的回転の正答率及び反応時間計測の結果の共有、統計解析及びレポート作成に向けた解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の内容に合わせて、データの整理及び解析、レポート作成を学生各自で授業時間外に行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
用いません

【参考書】
統計処理法の解説書などを適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
レポート評価 100 %（5 課題レポートの平均点）で評価します。
なお以下の条件に当てはまる場合は上記の基準を満たしていても成績評価を E 判定とします。
① 3 回以上の欠席（出講禁止となる感染症・忌引きによる欠席はカウントから除外します）
②授業進捗を妨害する言動に対する注意が 3 回以上
③レポートにおける文献引用に基づかないコピペ、受講者同士での文章および図表の共有が発覚した場合。受講生同士での共有はどのような事情であっても該当者全員を E 判定とします。

【学生の意見等からの気づき】
授業に対して概ね好意的な意見をいただきました。
オンラインでの実験実施に伴うサーバトラブルが発生したので、今年度オンラインで実験を実施する場合は退所できるようにいたします。

【その他の重要事項】
クラス授業で、X クラスが受講対象です。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a psychological experiments using Superlab(or Lab.js）.

PSY200BG

心理学測定法 I

［W 組］

押尾　恵吾

授業コード：A3611　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学の測定法の中でも一般的な，質問紙（アンケート）法を用いて，自分自身で研究を行うための基礎的な力を習得することが授業の目的です。

【到達目標】
半期の授業が終了した時点で，以下のことができるようになっていることが到達目標です。
1．質問紙作成のための基礎的な知識を理解し，説明すること。
2．既存の質問紙（心理尺度）を利用して，質問紙研究を計画・実施すること。
3．得られたデータに対して，適切な分析および解釈をすること。
4．発表の場で，的確で効果的なプレゼンテーションを行うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
心理学の中でもよく用いられる「質問紙法」について，基礎的な手続きを一通り経験してもらいます。研究倫理や質問紙作成上の注意，技術的な側面から始め，質問紙を配付し，データを回収する上での留意点を学びます。そして，既存の質問紙を利用して，実際にデータを採り，基本的な分析をするという課題解決型学習（PBL）に取り組みます。

2 回目から 5 回目までの授業では，反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし，予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し，授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動（グループワーク）を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で，授業時間内の班活動に臨みます。研究成果の発表（プレゼンテーション）を含め，班活動が中心になりますから，必ず責任持って出席することが受講の条件となります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明，班構成，受講上の注意
第 2 回	質問紙作成の基礎	質問紙作成作業の流れと留意点
第 3 回	質問紙法の実施方法	配付及び回収の方法
第 4 回	心理尺度の作成	尺度とは，信頼性・妥当性
第 5 回	使用する心理尺度	一般的な質問紙調査の構成，具体的な心理尺度を知る
第 6 回	研究計画決定	研究計画申請書作成と質問紙の原版作成
第 7 回	質問紙の印刷・製本と，結果の入力	データのコーディングと入力方法
第 8 回	質問紙の実施 1	質問紙への回答
第 9 回	質問紙の実施 2	質問紙への回答およびデータ入力
第 10 回	結果の分析と考察	分析方法の確認と発表すべき結果の吟味
第 11 回	発表準備 1	結果の考察及び発表資料の作成
第 12 回	発表準備 2	スライドの作成
第 13 回	発表 1	研究成果の発表および発表に対するコメント
第 14 回	発表 2 + 総括	研究成果の発表および発表に対するコメント + 発表内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，授業支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み，事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも，自分たちの班で取り組むテーマの選定や，参考とする先行研究の文献検索や読解，発表準備などは授業外にも行う必要性があります。調査を行えるように質問紙を作成するなどの作業も必要です。研究成果の発表時には，練習を授業外で自主的に行うことが有効です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 (編著), 北大路書房,1998 年) 他に，適宜プリントを配布します。

【参考書】
レジュメの作り方や引用の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。
「大学基礎講座」（藤田哲也 (編), 北大路書房, 2006 年）。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）…平常点は，予習課題の事前提出と，出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には，班活動に能動的に関わり，発表時に質疑応答をするなど，受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い，質問・意見・感想等を書いて提出すること，授業内および H'etudes の掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究（40 %）…実際に作成した質問紙の適切さ，発表資料（レジュメ）・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ，質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動（20 %）…班ごとの研究に対する評価と，授業への参加回数を考慮して，班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
詳しい授業の運営方針や授業計画の説明および班分けをしますので，受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
In this class, students will acquire basic skills to conduct research using the questionnaire method which is common among psychological measurement methods.

PSY200BG

心理学測定法 I

［X 組］

押尾　恵吾

授業コード：A3612　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学の測定法の中でも一般的な，質問紙（アンケート）法を用いて，自分自身で研究を行うための基礎的な力を習得することが授業の目的です。

【到達目標】
半期の授業が終了した時点で，以下のことができるようになっていることが到達目標です。
1．質問紙作成のための基礎的な知識を理解し，説明すること。
2．既存の質問紙（心理尺度）を利用して，質問紙研究を計画・実施すること。
3．得られたデータに対して，適切な分析および解釈をすること。
4．発表の場で，的確で効果的なプレゼンテーションを行うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
心理学の中でもよく用いられる「質問紙法」について，基礎的な手続きを一通り経験してもらいます。研究倫理や質問紙作成上の注意，技術的な側面から始め，質問紙を配付し，データを回収する上での留意点を学びます。そして，既存の質問紙を利用して，実際にデータを採り，基本的な分析をするという課題解決型学習（PBL）に取り組みます。

2 回目から 5 回目までの授業では，反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし，予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し，授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動（グループワーク）を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で，授業時間内の班活動に臨みます。研究成果の発表（プレゼンテーション）を含め，班活動が中心になりますから，必ず責任持って出席することが受講の条件となります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明，班構成，受講上の注意
第 2 回	質問紙作成の基礎	質問紙作成作業の流れと留意点
第 3 回	質問紙法の実施方法	配付及び回収の方法
第 4 回	心理尺度の作成	尺度とは，信頼性・妥当性
第 5 回	使用する心理尺度	一般的な質問紙調査の構成，具体的な心理尺度を知る
第 6 回	研究計画決定	研究計画申請書作成と質問紙の原版作成
第 7 回	質問紙の印刷・製本と，結果の入力	データのコーディングと入力方法
第 8 回	質問紙の実施 1	質問紙への回答
第 9 回	質問紙の実施 2	質問紙への回答およびデータ入力
第 10 回	結果の分析と考察	分析方法の確認と発表すべき結果の吟味
第 11 回	発表準備 1	結果の考察及び発表資料の作成
第 12 回	発表準備 2	スライドの作成
第 13 回	発表 1	研究成果の発表および発表に対するコメント
第 14 回	発表 2 + 総括	研究成果の発表および発表に対するコメント + 発表内容の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，授業支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み，事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも，自分たちの班で取り組むテーマの選定や，参考とする先行研究の文献検索や読解，発表準備などは授業外にも行う必要性があります。調査を行えるように質問紙を作成するなどの作業も必要です。研究成果の発表時には，練習を授業外で自主的に行うことが有効です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 (編著), 北大路書房,1998 年) 他に，適宜プリントを配布します。

【参考書】
レジュメの作り方や引用の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明しますので購入してください。
「大学基礎講座」（藤田哲也 (編), 北大路書房, 2006 年）。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %）…平常点は，予習課題の事前提出と，出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には，班活動に能動的に関わり，発表時に質疑応答をするなど，受講生相互の交流に貢献することも含みます。授業の終わりに振り返りを行い，質問・意見・感想等を書いて提出すること，授業内および H'etudes の掲示板上でほかの班の発表に対してコメントすることも評価の対象に含まれます。

研究（40 %）…実際に作成した質問紙の適切さ，発表資料（レジュメ）・発表内容・発表のしかたのそれぞれの正確さとわかりやすさ，質疑応答の適切さが評価の対象です。

班活動（20 %）…班ごとの研究に対する評価と，授業への参加回数を考慮して，班活動への貢献度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
詳しい授業の運営方針や授業計画の説明および班分けをしますので，受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
In this class, students will acquire basic skills to conduct research using the questionnaire method which is common among psychological measurement methods.

PSY200BG

心理学測定法Ⅱ

[W 組]

菊池　理紗

授業コード：A3613　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学を学ぶにあたり，必要な測定法の理論と具体的な技法を学びます。特に心理尺度の構成と基本的な統計分析を習得します。

【到達目標】
心理学測定法の理論と技法を実践的に身につけることを目指します。具体的には，半期の授業が終わる頃には，次のことができるようになることを目標とします。
（1）心理尺度の構成ができる。
（2）因子分析を行える。
（3）相関分析や重回帰分析を行える。
（4）研究結果について効果的にプレゼンテーションできる。
（5）質問紙調査について，文献収集から調査実施，分析までの流れを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
心理学測定法の実践について基礎的な知識を習得し，受講者個人が自分で調査の企画を立て実施できる能力を身につけることを目的とした実践的な授業です。資料収集，問題設定，サンプリング，項目設定，調査の実施，分析，考察，結果報告など，心理学研究に関する調査実施の基本的な作業を網羅的に学びます。作業は，4～5 人のグループ単位で行ってもらいます。また各グループの理解度や作業の進行具合を鑑みて，予告した内容を変更することもあります。毎授業の始めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて，全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	秋学期の流れの確認，グループ分け
第 2 回	研究課題の設定と先行研究の概観 1	研究仮説の決定，論文検索法の学習・実践
第 3 回	研究課題の設定と先行研究の概観 2	研究仮説の決定，論文検索法の学習・実践
第 4 回	研究計画書・研究同意書の作成	問題と目的および仮説のまとめ，研究計画書・研究同意書の作成
第 5 回	質問項目の作成・選定 1	質問項目の候補の作成・選定
第 6 回	質問項目の作成・選定 2，質問紙作成 1	質問項目の候補の作成・選定，質問紙の作成
第 7 回	質問紙作成 2	質問紙の作成
第 8 回	質問紙調査の実施 1	作成した同意書・質問紙の配布，調査の実施，回収
第 9 回	質問紙調査の実施 2	作成した同意書・質問紙の配布，調査の実施，回収
第 10 回	データ分析・検討 1 データ分布，項目分析，探索的因子分析，信頼性分析	分析方法の学習，実際の調査のデータの分析
第 11 回	データ分析・検討 2 相関分析，確証的因子分析，重回帰分析	分析方法の学習，実際の調査のデータの分析
第 12 回	報告会レジュメ，スライドの作成	実際の調査のデータの分析，研究報告会の準備
第 13 回	報告会 1	研究成果の発表
第 14 回	報告会 2	研究成果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループで作業を行ってもらいますので，話し合いや先行研究の検索，文献を読むことは授業外で積極的に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを使用しますが，次のテキストを持っていることを前提に授業を行います。
「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 (編著), 北大路書房,1998 年)

【参考書】
発表の行い方については，「心理学測定法Ⅰ」と同様に次のテキストを持っていることを前提に説明します。
「大学基礎講座」（藤田哲也（編），北大路書房，2006 年）
また，次のテキストも大いに参考になりますので，適宜参照してください。
「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方」（浦上昌則・脇田貴文，東京図書，2008 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 20%，プレゼンテーション 50%，期末試験 30%
平常点は，グループ作業や話し合いに対する積極性と課題の提出で判断します。プレゼンテーションについては，第 13 回・第 14 回の報告会において，配布資料・スライドの完成度や発表の様子をグループ単位で評価します。また，期末試験は，調査研究を行う手順についての論述試験を，試験期間に行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
JASP がインストールされた PC

【その他の重要事項】
授業の進め方や評価方法の説明とグループ分けを行いますので，受講を希望する人は初回の授業に必ず出席してください。また，報告会（第 13 回・第 14 回）も成績評価に関わりますので，必ず出席してください。

【Outline and objectives】
Practice and learn about creating psychological tests and analysis methods.

PSY200BG

心理学測定法Ⅱ

[X 組]

菊池　理紗

授業コード：A3614　｜　曜日・時限：**月曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学を学ぶにあたり，必要な測定法の理論と具体的な技法を学びます。特に心理尺度の構成と基本的な統計分析を習得します。

【到達目標】
心理学測定法の理論と技法を実践的に身につけることを目指します。具体的には，半期の授業が終わる頃には，次のことができるようになることを目標とします。
（1）心理尺度の構成ができる。
（2）因子分析を行える。
（3）相関分析や重回帰分析を行える。
（4）研究結果について効果的にプレゼンテーションできる。
（5）質問紙調査について，文献収集から調査実施，分析までの流れを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
心理学測定法の実践について基礎的な知識を習得し，受講者個人が自分で調査の企画を立て実施できる能力を身につけることを目的とした実践的な授業です。資料収集，問題設定，サンプリング，項目設定，調査の実施，分析，考察，結果報告など，心理学研究に関する調査実施の基本的な作業を網羅的に学びます。作業は，4～5 人のグループ単位で行ってもらいます。また各グループの理解度や作業の進行具合を鑑みて，予告した内容を変更することもあります。毎授業の始めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて，全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期ガイダンス	秋学期の流れの確認，グループ分け
第 2 回	研究課題の設定と先行研究の概観 1	研究仮説の決定，論文検索法の学習・実践
第 3 回	研究課題の設定と先行研究の概観 2	研究仮説の決定，論文検索法の学習・実践
第 4 回	研究計画書・研究同意書の作成	問題と目的および仮説のまとめ，研究計画書・研究同意書の作成
第 5 回	質問項目の作成・選定 1	質問項目の候補の作成・選定
第 6 回	質問項目の作成・選定 2，質問紙作成 1	質問項目の候補の作成・選定，質問紙の作成
第 7 回	質問紙作成 2	質問紙の作成
第 8 回	質問紙調査の実施 1	作成した同意書・質問紙の配布，調査の実施，回収
第 9 回	質問紙調査の実施 2	作成した同意書・質問紙の配布，調査の実施，回収
第 10 回	データ分析・検討 1 データ分布，項目分析，探索的因子分析，信頼性分析	分析方法の学習，実際の調査のデータの分析
第 11 回	データ分析・検討 2 相関分析，確証的因子分析，重回帰分析	分析方法の学習，実際の調査のデータの分析
第 12 回	報告会レジュメ，スライドの作成	実際の調査のデータの分析，研究報告会の準備
第 13 回	報告会 1	研究成果の発表
第 14 回	報告会 2	研究成果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
グループで作業を行ってもらいますので，話し合いや先行研究の検索，文献を読むことは授業外で積極的に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
適宜プリントを使用しますが，次のテキストを持っていることを前提に授業を行います。
「心理学マニュアル 質問紙法」(鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 (編著), 北大路書房,1998 年)

【参考書】
発表の行い方については，「心理学測定法Ⅰ」と同様に次のテキストを持っていることを前提に説明します。
「大学基礎講座」（藤田哲也（編），北大路書房，2006 年）
また，次のテキストも大いに参考になりますので，適宜参照してください。
「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方」（浦上昌則・脇田貴文，東京図書，2008 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 20%，プレゼンテーション 50%，期末試験 30%
平常点は，グループ作業や話し合いに対する積極性と課題の提出で判断します。プレゼンテーションについては，第 13 回・第 14 回の報告会において，配布資料・スライドの完成度や発表の様子をグループ単位で評価します。また，期末試験は，調査研究を行う手順についての論述試験を，試験期間に行います。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
JASP がインストールされた PC

【その他の重要事項】
授業の進め方や評価方法の説明とグループ分けを行いますので，受講を希望する人は初回の授業に必ず出席してください。また，報告会（第 13 回・第 14 回）も成績評価に関わりますので，必ず出席してください。

【Outline and objectives】
Practice and learn about creating psychological tests and analysis methods.

PSY300BG

心理検査法 I

[W 組]

森　彩乃

授業コード：A3615　｜　曜日・時限：**水曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では，正しい実施や解釈のための方法を身につけます。また，パーソナリティ検査を中心に取り上げ，実習を通して自己理解を深める機会とします。

【到達目標】
①心理検査に関する基礎知識を身につける。
②実施や解釈について，体験的に理解するとともに，自己理解を深め，自身の成長へと生かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は，心理検査の実施と解釈および情報の伝達に関わる際に必要な基礎知識と基本姿勢の習得のために，講義形式を中心とします。後半は，体験的な理解を得るために，心理検査を実際に行う実習形式を中心とします。全体を通して，知識の習得に留まらず，能動的に考えを深め，思考の幅を広げるために，適宜ペアワークやグループワークを取り入れるほか，リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めることがあります。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要，授業計画，評価等の説明
第 2 回	心理検査概要	心理検査の種類と理論
第 3 回	心理検査の歴史と現状	歴史的背景と近年の現状
第 4 回	心理検査実施の注意点	倫理的配慮や基本姿勢など
第 5 回	パーソナリティ検査について	パーソナリティ検査の概論
第 6 回	YG 性格検査 ①	実施と採点
第 7 回	YG 性格検査 ②	解釈と解説
第 8 回	NEO-FFI 人格検査①	実施と採点
第 9 回	NEO-FFI 人格検査②	解釈と解説
第 10 回	P-F スタディ ①	実施と採点
第 11 回	P-F スタディ ②	解釈と解説
第 12 回	SCT	実施と解釈
第 13 回	振り返り	試験
第 14 回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の性質上，事前に心理検査の内容と解釈について予習する必要はありません。知識の定着のため，学習した内容は必ず復習し，授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は資料などを利用しながら，知識を広げ，理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は，合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第 2 版]　ナカニシヤ出版

【参考書】
願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版
津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査　誠信書房
上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第 2 版]　西村書店

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）と，試験（60%）によって評価します。平常点には，授業や実習への取り組みのほか，授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
適宜授業内でアナウンスします。

【その他の重要事項】
受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。心理検査を通して自己と向き合うことになり，心理的負担を感じる場合があります。この点を考慮して授業に臨んでください。※オンライン形式となる際は多少変更の予定あり。

【Outline and objectives】
Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using personality tests.

PSY300BG

心理検査法 I

［X 組］

森　彩乃

授業コード：A3616　｜　曜日・時限：**水曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では，正しい実施や解釈のための方法を身につけます。また，パーソナリティ検査を中心に取り上げ，実習を通して自己理解を深める機会とします。

【到達目標】
①心理検査に関する基礎知識を身につける。
②実施や解釈について，体験的に理解するとともに，自己理解を深め，自身の成長へと生かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
前半は，心理検査の実施と解釈および情報の伝達に関わる際に必要な基礎知識と基本姿勢の習得のために，講義形式を中心とします。後半は，体験的な理解を得るために，心理検査を実際に行う実習形式を中心とします。全体を通して，知識の習得に留まらず，能動的に考えを深め，思考の幅を広げるために，適宜ペアワークやグループワークを取り入れるほか，リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めることがあります。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要，授業計画，評価等の説明
第 2 回	心理検査概要	心理検査の種類と理論
第 3 回	心理検査の歴史と現状	歴史的背景と近年の現状
第 4 回	心理検査実施の注意点	倫理的配慮や基本姿勢など
第 5 回	パーソナリティ検査について	パーソナリティ検査の概論
第 6 回	YG 性格検査 ①	実施と採点
第 7 回	YG 性格検査 ②	解釈と解説
第 8 回	NEO-FFI 人格検査①	実施と採点
第 9 回	NEO-FFI 人格検査②	解釈と解説
第 10 回	P-F スタディ ①	実施と採点
第 11 回	P-F スタディ ②	解釈と解説
第 12 回	SCT	実施と解釈
第 13 回	振り返り	試験
第 14 回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の性質上，事前に心理検査の内容と解釈について予習する必要はありません。知識の定着のため，学習した内容は必ず復習し，授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は資料などを利用しながら，知識を広げ，理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は，合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第 2 版]　ナカニシヤ出版

【参考書】
願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版
津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査　誠信書房
上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第 2 版]　西村書店

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）と，試験（60%）によって評価します。平常点には，授業や実習への取り組みのほか，授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
適宜授業内でアナウンスします。

【その他の重要事項】
受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。心理検査を通して自己と向き合うことになり，心理的負担を感じる場合があります。この点を考慮して授業に臨んでください。※オンライン形式となる際は多少変更の予定あり。

【Outline and objectives】
Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using personality tests.

PSY300BG

心理検査法Ⅱ

［W 組］

森　彩乃

授業コード：A3617　｜　曜日・時限：**水曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では，心理検査の特徴について学びます。また，発達検査を中心に取り上げ，実習を通して理論と方法を学び，現実での課題と支援について理解を深めます。

【到達目標】
①心理検査の特徴を理解し，限界や課題を踏まえた活用について考えを深める。
②発達検査の実施方法と解釈についての基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と実習を混ぜつつ，授業を進めます。発達検査を用いた実習では，グループ内で役割を分担し，実際の検査状況を体験しつつ，採点や解釈について学びます。支援者や検査者となる場合，他者とのコミュニケーションは欠かせないため，全体を通して適宜ペアワークやグループワークを取り入れます。情報を取りまとめ，解釈を深める力を伸ばす必要があることから，リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めることがあります。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要，授業計画，評価等の説明
第 2 回	心理検査の特徴と支援	心理検査の活用と留意点
第 3 回	人間の発達と検査について	発達検査の種類と概要
第 4 回	描画法	実習と解説
第 5 回	新版 K 式発達検査①	概要説明と実習
第 6 回	新版 K 式発達検査②	結果の分析と解釈
第 7 回	WPPSI-Ⅲ①	概要説明と実習
第 8 回	WPPSI-Ⅲ②	結果の分析と解釈
第 9 回	WISC-Ⅳ ①	概要説明と実習
第 10 回	WISC-Ⅳ ②	結果の分析と解釈
第 11 回	WAIS-Ⅲ ①	概要説明と実習
第 12 回	WAIS-Ⅲ ②	結果の分析と解釈
第 13 回	振り返り	試験
第 14 回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の性質上，事前に心理検査の内容と解釈について予習する必要はありません。知識の定着のため，学習した内容は必ず復習し，授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は，レジュメ，参考書，検査手引書，官公庁の資料などを利用しながら，知識を広げ，理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は，合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第 2 版]　ナカニシヤ出版

【参考書】
願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版
津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査　誠信書房
上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第 2 版]　西村書店

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）と，試験（60%）によって評価します。平常点には，授業や実習への取り組みのほか，授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
適宜授業内でアナウンスします。

【その他の重要事項】
受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。受講者は「心理検査法Ⅰ」が履修済みであることが望ましいです。※オンライン形式となる際は多少変更の予定あり。

【Outline and objectives】
Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using developmental tests.

PSY300BG

心理検査法Ⅱ

［X 組］

森　彩乃

授業コード：A3618　｜　曜日・時限：**水曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理検査は他者の支援方略を立てたり自己理解を促進したりする際に良く用いられます。本授業では，心理検査の特徴について学びます。また，発達検査を中心に取り上げ，実習を通して理論と方法を学び，現実での課題と支援について理解を深めます。

【到達目標】
①心理検査の特徴を理解し，限界や課題を踏まえた活用について考えを深める。
②発達検査の実施方法と解釈についての基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
講義と実習を混ぜつつ，授業を進めます。発達検査を用いた実習では，グループ内で役割を分担し，実際の検査状況を体験しつつ，採点や解釈について学びます。支援者や検査者となる場合，他者とのコミュニケーションは欠かせないため，全体を通して適宜ペアワークやグループワークを取り入れます。情報を取りまとめ，解釈を深める力を伸ばす必要があることから，リアクションペーパーもしくは小レポートの提出を求めることがあります。提出物については翌週以降に全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業概要，授業計画，評価等の説明
第 2 回	心理検査の特徴と支援	心理検査の活用と留意点
第 3 回	人間の発達と検査について	発達検査の種類と概要
第 4 回	描画法	実習と解説
第 5 回	新版 K 式発達検査①	概要説明と実習
第 6 回	新版 K 式発達検査②	結果の分析と解釈
第 7 回	WPPSI-Ⅲ①	概要説明と実習
第 8 回	WPPSI-Ⅲ②	結果の分析と解釈
第 9 回	WISC-Ⅳ ①	概要説明と実習
第 10 回	WISC-Ⅳ ②	結果の分析と解釈
第 11 回	WAIS-Ⅲ ①	概要説明と実習
第 12 回	WAIS-Ⅲ ②	結果の分析と解釈
第 13 回	振り返り	試験
第 14 回	まとめ	復習と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業の性質上，事前に心理検査の内容と解釈について予習する必要はありません。知識の定着のため，学習した内容は必ず復習し，授業全体のまとめを各自作成してください。復習の際は，レジュメ，参考書，検査手引書，官公庁の資料などを利用しながら，知識を広げ，理解を深めることを心がけてください。試験や課題については授業内で説明します。本授業の準備・復習時間は，合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
沼初枝 (2020). 臨床心理アセスメントの基礎 [第 2 版]　ナカニシヤ出版

【参考書】
願興寺礼子・吉住隆弘 編 (2011). 心理検査の実施の初歩 ナカニシヤ出版
津川律子・篠竹利和 (2010). シナリオで学ぶ医療現場の臨床心理検査　誠信書房
上里一郎 監修 (2001). 心理アセスメントハンドブック [第 2 版]　西村書店

【成績評価の方法と基準】
平常点（40%）と，試験（60%）によって評価します。平常点には，授業や実習への取り組みのほか，授業内で示した小レポート等課題への評価が含まれます。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
適宜授業内でアナウンスします。

【その他の重要事項】
受講希望者は初回ガイダンスに必ず出席してください。受講者は「心理検査法Ⅰ」が履修済みであることが望ましいです。※オンライン形式となる際は多少変更の予定あり。

【Outline and objectives】
Students will be presented an overview of psychological tests and learn how to analyze results using developmental tests.

PSY200BG

演習Ⅰ（1）

高橋　敏治

授業コード：A3627　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に, 文献検索のしかた, 論文の構成, 専門用語の用い方, 文献の書き方など基本的ルールを学びます。また, データに基づき論証するテクニックまで, 優れた日本語論文および英語論文の文献を用いて具体的に学びます。さらに, 理解した内容をレジュメにして, プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】
具体的な目標として,
（1）研究に必要な論文を検索する力の獲得
（2）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
（3）論文の内容を理解し, 論理的また批判的に読む態度を身につける。
（4）論文を書く際に倫理的に留意する点や, 書く上でのルールを理解する。
（5）レジュメをもとに, 発表し討論するスキルを獲得する。
　以上, 一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら, 研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち,「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
査読論文を全員が読み, 論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び, 自分の関心のある領域の論文を探したり, 情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での倫理的な規定や, 書き方のルールについて理解します。日本語論文については, レジュメを用いて発表し, 英語論文については, レジュメを書くことで内容を把握し, クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティブラーニングをできるだけ取入れます。授業の初めに，前回の授業で提出された振り返りレポートやリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 ＊例示の日本語論文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で, 日本語論文や英語論文を発表する順番を決定しておく。
第 2 回	論文の種類の説明, 論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録, 問題提起, 方法, 結果, 考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用しての検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない）。
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明．教員側から, さらに, 検索に関するスキルを説明する。
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの, レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第 6 回	日本語論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう, コメントシート, リアクションペーパー, パートナーやグループワークを入れてもよい（日本語論文においてはレジュメのみとする）。
第 7 回	日本語論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第 8 回	日本語論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。
第 9 回	日本語論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）。 ＊英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め, 適切な英語論文を選択しているかを確認する。
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた, 発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。
第 11 回	英語論文 1	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第 12 回	英語論文 2	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第 13 回	英語論文 3	発表（パワポによる発表）レジュメの提出
第 14 回	全体統括	文献検索, 日本語論文・英語論文の発表を通し, 全体の振り返り, 反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が発表する論文だけではなく, 他の人が発表する論文も読み, 授業中に討論できるように準備しましょう（図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あります）。本授業の準備学習・復習時間は, 各 2 時間合計 4 時間を設定しています。
第 1 回　自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
第 2 回　論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
　PsycINFO　ID の獲得
第 3 回　検索の仕方をマスターし, 専門のキーワードの準備
第 4 回　PsycINFO による検索
第 5 回　日本語論文のレジュメの作り方をマスターし, 発表に備える。
第 6-9 回　発表準備　英語論文選択を同時並行して行っておく。
第 10-13 回　英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成, レジュメ提出
第 14 回　講義を通してのまとめや授業改善アンケート実施

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが, 資料を準備します。学習支援システムでダウンロード, あるいは心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】
授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
自分の担当論文を発表するのは当然ですが, 毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は, 単位認定は授業回数の３分の２以上（１０回以上）の出席を前提とし, 参加態度（意見や質問など）による平常点を４０％, 日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）３０％, 英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）３０％, の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新型コロナ肺炎流行のため，2020 年度は実施しませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC, パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】
【重要】新型コロナ肺炎に関する状況を考えて授業形態をオンライン授業などに変更する場合があります。初回の授業には必ず出席して下さい。
【オフィスアワー】シラバスの教員紹介に記載してあります。授業の運営方針や授業計画の説明, 発表順の決定などをしますので, 受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは, 図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため, 授業の中で案内しますので, 注意してください。発表の後には，振り返りレポートの提出をしてもらいます。

【Outline and objectives】
We will learn basic rules in the field of psychology such as how to search literature, composition of articles, how to use technical terms with the aim of being able to write research papers.

PSY200BG

演習Ｉ（2）

渡辺　弥生

授業コード：A3628　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます．また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます．さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います．

【到達目標】
具体的な目標として、
（1）研究に必要な論文を検索する力の獲得
（2）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得（3）論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける．
（4）論文を書く際に倫理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する．
（5）レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する．
　以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます．図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します．研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します．日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します．作成したレジュメは提出します．授業内に図書館利用ガイダンスを利用します．アクティヴラーニングをできるだけ取入れます．課題の
フィードバックは、学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介 ＊和文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく．この回で、和文や英文を発表する順番を決定しておく．
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用しての検索 （ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない．）
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する．
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する．
第 6 回	日本語論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい．（日本語論文においてはレジュメのみとする．）
第 7 回	日本語論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 8 回	日本語論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 9 回	日本語論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ） ＊英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適当な英文を選択しているかを確認する．
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える．
第 11 回	英語論文 1	発表（パワポによる発表） レジュメの提出．
第 12 回	英語論文 2	発表（パワポによる発表） レジュメの提出．
第 13 回	英語論文 3	発表（パワポによる発表） レジュメの提出．
第 14 回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う．

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）．
第 1 回　自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
第 2 回　論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
　　PsycINFO　ID の獲得
第 3 回　検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
第 4 回　PsycINFO による検索
予習復習には各２時間をかけることとする。
第 5 回　日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える
第 6-9 回　発表準備　英語論文選択を同時並行して行っておく．
第 10-13 回　英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出．
第 14 回講義を通してのまとめや改善点のアンケート実施．
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます．

【参考書】
授業内で参考図書・文献は適宜指示します．

【成績評価の方法と基準】
自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します．授業の評価は、単位認定は授業回数の３分の２以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を４０％、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）３０％、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）３０％、の配分で総合評価します．

【学生の意見等からの気づき】
13 人の受講者のうち 12 名から回答者を頂きました．4 － 5 の段階が, 授業の工夫では 100 %, 理解できたかで 100 %, 履修してよかったかは 86 %と高い評価をしてくれていました．週 2 時間以上の授業外学習が 57 %と課題に取り組んでくれたようです．自由記述では, 授業の雰囲気がよくストレスなく受講出来たようです．

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）．

【その他の重要事項】
オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります．授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください．文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください．

【Outline and objectives】
In this course, we will learn some basic rules concerning how to
conduct literature searches, the structure of research articles, and
how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to
write research papers in the field of psychology.

PSY200BG

演習Ⅰ（3）

三浦　大志

授業コード：A3629　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】
具体的な目標として、
（1）研究に必要な論文を検索する力の獲得
（2）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
（3）論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける
（4）論文を書く際に倫理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する
（5）レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する
　以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します。和文論文については、レジュメを用いて発表し、英論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティヴラーニングをできるだけ取り入れます。発表に関しては、授業内およびメールでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用しての検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない）
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する
第 6 回	和文論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 7 回	和文論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 8 回	和文論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 9 回	和文論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方	和文の発表についてのフィードバックと英文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える
第 11 回	欧英文論文 1	発表（パワポによる発表）
第 12 回	欧英文論文 2	発表（パワポによる発表）
第 13 回	欧英文論文 3	発表（パワポによる発表）
第 14 回	欧英文論文 4	発表（パワポによる発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。
第 1 回　自己紹介とシラバスに課題の準備
第 2 回　論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
　PsycINFO　ID の獲得
第 3 回　検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備

第 4 回　PsycINFO による検索
第 5 回　レジュメの作り方をマスターし、発表に備える
第 6-9 回　発表準備　英文選択を同時並行して行っておく
第 10-14 回　欧英文論文レジュメとパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出(講義を通してのまとめや改善点のアンケート)
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】
授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の３分の２以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を４０％、和文論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）３０％、欧英文論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）３０％、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
「論文は、ちゃんと読んでみると面白い」というコメントをいただきました。論文はとっつきにくい印象があるかもしれませんが、コメントの通りしっかり読むと発見があるかと思います。是非しっかり論文を読んでみて下さい。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】
授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。

【Outline and objectives】
In this course, we will learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.

PSY200BG

演習Ⅰ（4）

下山　晃司

授業コード：A3630　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】
具体的な目標として、
（1）研究に必要な論文を検索する力の獲得
（2）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得
（3）論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける
（4）論文を書く際に倫理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する
（5）レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する
　以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します。和文論文については、レジュメを用いて発表し、英論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティヴラーニングをできるだけ取り入れます。発表に関しては、授業内およびメールでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全体計画と進行の紹介
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用しての検索（ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない）
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する
第 6 回	和文論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 7 回	和文論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 8 回	和文論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 9 回	和文論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方	和文の発表についてのフィードバックと英文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える
第 11 回	欧英文論文 1	発表（パワポによる発表）
第 12 回	欧英文論文 2	発表（パワポによる発表）
第 13 回	欧英文論文 3	発表（パワポによる発表）
第 14 回	欧英文論文 4	発表（パワポによる発表）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。
第 1 回　自己紹介とシラバスに課題の準備
第 2 回　論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
　PsycINFO　ID の獲得
第 3 回　検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備

第 4 回　PsycINFO による検索
第 5 回　レジュメの作り方をマスターし、発表に備える
第 6-9 回　発表準備　英文選択を同時並行して行っておく
第 10-14 回　欧英文論文レジュメとパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出(講義を通してのまとめや改善点のアンケート)
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】
授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の３分の２以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を４０％、和文論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）３０％、欧英文論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）３０％、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度のデータが得られず、2019 年度（通常授業）から引用します。
「Q3. この授業内容を理解できましたかに」ついて、33.3%が a.5 大変理解できたと回答し、66.7%が b.4 と回答しました。
「Q4. この授業を履修してよかったと思いますか」について、50%が a.5 大変良かったと回答し、50%が b.4 と回答しました。
教員から見た学生のモチベーションは幅広いですが、概ね満足したと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】
授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。

【Outline and objectives】
In this course, we will learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.

PSY200BG

演習Ⅰ（5）

矢口　幸康

授業コード：A3631　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学分野で研究論文を書くことができることを目標に、文献検索のしかた、論文の構成、専門用語の用い方、文献の書き方など基本的ルールを学びます。また、データに基づき論証するテクニックまで、優れた和文および英文の文献を用いて具体的に学びます。さらには、理解した内容をレジュメにして、プレゼンテーションし討論する力も養います。

【到達目標】
具体的な目標として、
（1）研究に必要な論文を検索する力の獲得
（2）論文の構成や約束ごとを理解する。キーワードなどで専門的に検索するスキルを獲得（3）論文の内容を理解し、論理的また批判的に読む態度を身につける。
（4）論文を書く際に倫理的に留意する点や、書く上でのルールを理解する。
（5）レジュメをもとに、発表し討論するスキルを獲得する。
以上、一連の基本的な研究プロセスを繰り返し体験しながら、研究に必要なこれらの技能の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
査読論文を全員が読み、論文の読み方やデータの解釈の仕方などを学びます。図書館で検索のスキルを学び、自分の関心のある領域の論文を探したり、情報を得るスキルを獲得します。研究論文を書く上での倫理的な規定や、書き方のルールについて理解します。日本語論文については、レジュメを用いて発表し、英語論文については、レジュメを書くことで内容を把握し、クラスではパワーポイントのスキルを駆使して発表します。作成したレジュメは提出します。授業内に図書館利用ガイダンスを利用します。アクティヴラーニングをできるだけ取入れます。
＜授業形態について＞原則対面式を予定していますが、感染流行状況などを鑑みオンラインで実施する場合があります。
＜フィードバックについて＞講義内でのプレゼン内容および資料に対して、その場で教員より口頭でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 全体計画と進行の紹介	＊和文はあらかじめ教員側が選んでおいたものを配布しておく。この回で、和文や英文を発表する順番を決定しておく。
第 2 回	論文の種類の説明、論文の構成 1	論文の構成についての説明（題名・キーワード・抄録、問題提起、方法、結果、考察の書き方など）
第 3 回	文献検索 1	図書館を利用しての検索 （ただし、図書館のガイダンスがこの回になるか明確でない。）
第 4 回	文献検索 2	教員による専門的検索の説明 教員側から、さらに、検索に関するスキルを説明する。
第 5 回	レジュメの作り方の説明	研究論文を読んだあとの、レジュメの作成のしかたとポイントを解説する。
第 6 回	日本語論文の個人発表 1	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ。質問が活発になるよう、コメントシート、リアクションペーパー、パートナーやグループワークを入れてもよい。（日本語論文においてはレジュメのみとする。）
第 7 回	日本語論文の個人発表 2	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 8 回	日本語論文の個人発表 3	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ）
第 9 回	日本語論文の個人発表 4	発表の仕方や質問の仕方を学ぶ（レジュメのみ） ＊英語論文の選択を次回迄に決めるよう求め、適当な英文を選択しているかを確認する。

第 10 回	フィードバックとパワーポイントスライドのつくりかた、発表の仕方	日本語論文の発表についてのフィードバックと英語論文の発表のために必要なことを説明。パワーポイントのスキルを教える。
第 11 回	英語論文１	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第 12 回	英語論文２	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第 13 回	英語論文３	発表（パワポによる発表） レジュメの提出。
第 14 回	全体統括	文献検索、日本語論文・英語論文の発表を通し、全体の振り返り、反省を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自分が発表する論文だけではなく、他の人が発表する論文も読み、授業中に討論できるように準備しましょう（下記は、図書館ガイダンスの日程によって多少変更する可能性あり）。
第 1 回　自己紹介とシラバスにレポート課題作成の準備
第 2 回　論文の手引きによる復習と次回の検索のためのキーワードの用意
　　PsycINFO　ID の獲得
第 3 回　検索の仕方をマスターし、専門のキーワードの準備
第 4 回　PsycINFO による検索
第 5 回　日本語論文のレジュメの作り方をマスターし、発表に備える
第 6-9 回　発表準備　英語論文選択を同時並行して行っておく。
第 10-13 回　英語論文レジュメの選択とパワーポイントの原稿作成、レジュメ提出。
第 14 回講義を通してのまとめや改善点のアンケート実施。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは特に指定しませんが、資料を準備しています。授業支援システムでダウンロード、あるいは、心理実習室に閲覧できるようにしておきます。

【参考書】
授業内で参考図書・文献は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】
自分の担当論文を発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対するコメントや意見等平常点を重視します。授業の評価は、単位認定は授業回数の３分の２以上の出席を前提とし、参加態度（意見や質問など）による平常点を４０％、日本語論文の総合評価（レジュメによる発表・討論参加など）３０％、英語論文の総合評価（パワーポイントによるプレゼンテーションとレジュメ・討論参加など）３０％、の配分で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者の多くから高評価をいただきました。積極的に課題に取り組んでくれたことも伺える評価でした。講義の特性上、自発的な取り組みが必須となりますので今年度の受講生にもそれを求めます。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC、パワーポイント使用（最初の授業でできるだけ用意する順番を決めるようにします）。

【その他の重要事項】
オフィスアワー：シラバスの教員紹介に記載してあります。授業の運営方針や授業計画の説明、発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。文献検索の図書館での専門ゼミガイダンスは、図書館の日程調整が必要です。実施の順序については変更することがあるため、授業の中で案内しますので、注意してください。

【Outline and objectives】
In this course, we will learn some basic rules concerning how to conduct literature searches, the structure of research articles, and how to use technical terms, with the ultimate goal of being able to write research papers in the field of psychology.

PSY200BG

演習Ⅱ（１）

菊池　理紗

授業コード：A3711　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分たちの関心ある問題を設定し，適切な実験計画を立て，実験を実施し，結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで，心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】
以下の各要素が到達目標となります。
1. 実験計画を立てるのに必要となる，要因計画の基礎知識を理解し説明できるようになること。
2. 任意の問題意識に基づいて，２要因以上の実験計画を立てられるようになること。
3. 実験を実際に行う際の具体的な方法（手続き）を考案できること。
4. 得られたデータに対して適切な統計的手法を用いて分析できること。
5. 実験の成果を正確かつ効率よく情報発信できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実験による研究方法を身につけるため，先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て，実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では，反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし，予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し，授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で，授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て，計画発表をします。計画発表では，実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて，再度班で実験計画について検討をし，実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には，実際に実験で得られたデータに対する分析結果と，その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが，最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので，各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に，事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて，班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明，実験法についての概説，受講上の注意，班構成について
第 2 回	要因計画の基礎１	研究仮説とは，独立変数・従属変数，操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎２	剰余変数の統制，統制群と実験群，仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎３	統計的検定の意味，２要因分散分析における主効果と交互作用，単純主効果
第 5 回	計画発表準備１	研究テーマ決定，先行研究の読解，研究の目的・仮説の決定
第 6 回	計画発表準備２	実験方法の検討，発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備１	実験計画の修正，実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備２	実験の実施
第 10 回	本発表準備３	データ分析
第 11 回	本発表準備４	考察
第 12 回	本発表準備５	発表用資料の作成，パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り，到達状況の確認，フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み，事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも，自分たちの班で取り組むテーマの選定や，参考とする先行研究の文献検索や読解，発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも，発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って，本授業の準備時間は 3 時間，復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業はテキストに沿って行うとは限りませんが，次の本を持っていることを前提とします。随時，参照できるように授業に持ってくるとともに，予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤　潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】
レジュメの書き方や引用の仕方，発表の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也(編), 北大路書房, 2006 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 40%，計画発表 15%，本発表 25 %，ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は，予習課題の事前提出と，出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には，班活動に能動的に関わり，発表時に質疑応答をするなど，受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では，研究内容に加え，レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁，発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は，班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので，この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので，班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても，授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】
授業計画や運営方針の説明，班構成の決定などをしますので，受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は，遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは rs.kikuchi.11[at]gmail.com です（[at] を@マークに置き換えてください）。

【Outline and objectives】
In this class, students themselves set research questions, formulate appropriate experimental plans, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results. The purpose of this course is to help students deepen their understanding of psychology research methods by experiencing the experimental research process.

PSY200BG

演習Ⅱ（2）

藤巻　峻

授業コード：A3712　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分たちの関心ある問題を設定し，適切な実験計画を立て，実験を実施し，結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで，心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】
以下の各要素が到達目標となります。
1. 実験計画を立てるのに必要となる，要因計画の基礎知識を理解し説明できるようになること。
2. 任意の問題意識に基づいて，２要因以上の実験計画を立てられるようになること。
3. 実験を実際に行う際の具体的な方法（手続き）を考案できること。
4. 得られたデータに対して適切な統計的手法を用いて分析できること。
5. 実験の成果を正確かつ効率よく情報発信できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実験による研究方法を身につけるため，先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て，実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では，反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし，予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し，授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で，授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て，計画発表をします。計画発表では，実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて，再度班で実験計画について検討をし，実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には，実際に実験で得られたデータに対する分析結果と，その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが，最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので，各自で理解を深めておくことが重要です。
授業中に，事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて，班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明，実験法についての概説，受講上の注意，班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは，独立変数・従属変数，操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制，統制群と実験群，仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味，２要因分散分析における主効果と交互作用，単純主効果
第 5 回	計画発表準備 1	研究テーマ決定，先行研究の読解，研究の目的・仮説の決定
第 6 回	計画発表準備 2	実験方法の検討，発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備 1	実験計画の修正，実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備 2	実験の実施
第 10 回	本発表準備 3	データ分析
第 11 回	本発表準備 4	考察
第 12 回	本発表準備 5	発表用資料の作成，パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り，到達状況の確認，フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み，事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも，自分たちの班で取り組むテーマの選定や，参考とする先行研究の文献検索や読解，発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも，発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って，本授業の準備時間は 3 時間，復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業はテキストに沿って行うとは限りませんが，次の本を持っていることを前提とします。随時，参照できるように授業に持ってくるとともに，予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤　潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】
レジュメの書き方や引用の仕方，発表の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也(編), 北大路書房, 2006 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 40%，計画発表 15%，本発表 25 %，ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は，予習課題の事前提出と，出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には，班活動に能動的に関わり，発表時に質疑応答をするなど，受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では，研究内容に加え，レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁，発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は，班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので，この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので，班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても，授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートを最後に実施した 2018 年秋学期の結果によると，回答者 11 名のうち，82%が「積極的な工夫がされていた」，73%が「理解できた」，64%が「受講してよかった」に対して「4」または「5」と回答してくれました。授業外学習の時間については，「週 1-2 時間」が約 1/3 で最も多かったですが，「ほとんど行っていない」から「週 3 時間以上」まですべての選択肢に回答が分散しました。例年に比べて今年は満足度が低かった（「履修してよかった」が去年は 100%でしたが今年は 64%）のが気になったので，「履修してよかった」の得点と授業外学習時間の得点との相関を調べてみたところ，r=.541 という中程度の正の相関がありました。つまり，今年は授業への取り組みについてかなりの個人差があり，それが満足度の低下につながったようです。この授業を履修する意義や授業の位置づけについて，説明しているつもりではありますが，十分に伝わっていないのかも知れません。
授業自体には参加しているものの、予習課題を提出していないケースが見受けられました。
授業内での班活動のために不可欠なので、班活動への主体的な参加の観点からも全ての回で予習課題により組んでもらいたいと考えています。

【その他の重要事項】
授業計画や運営方針の説明，班構成の決定などをしますので，受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は，遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは shun.fujimaki.44[at]hosei.ac.jp　です（[at] を@マークに置き換えてください）。

【Outline and objectives】
In this class, students themselves set research questions, formulate appropriate experimental plans, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results. The purpose of this course is to help students deepen their understanding of psychology research methods by experiencing the experimental research process.

PSY200BG

演習Ⅱ（3）

吉村　浩一

授業コード：A3713　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分たちの関心ある問題を設定し，適切な実験計画を立て，実験を実施し，結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで，心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】
以下の各要素が到達目標となります。
1. 実験計画を立てるのに必要となる，要因計画の基礎知識を理解し説明できるようになること。
2. 任意の問題意識に基づいて，２要因以上の実験計画を立てられるようになること。
3. 実験を実際に行う際の具体的な方法（手続き）を考案できること。
4. 得られたデータに対して適切な統計的手法を用いて分析できること。
5. 実験の成果を正確かつ効率よく情報発信できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実験による研究方法を身につけるため，先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て，実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では，反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし，予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し，授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で，授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て，計画発表をします。計画発表では，実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて，再度班で実験計画について検討をし，実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には，実際に実験で得られたデータに対する分析結果と，その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが，最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので，各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に，事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて，班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明，実験法についての概説，受講上の注意，班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは，独立変数・従属変数，操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制，統制群と実験群，仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味，２要因分散分析における主効果と交互作用，単純主効果
第 5 回	計画発表準備 1	研究テーマ決定，先行研究の読解，研究の目的・仮説の決定
第 6 回	計画発表準備 2	実験方法の検討，発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備 1	実験計画の修正，実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備 2	実験の実施
第 10 回	本発表準備 3	データ分析
第 11 回	本発表準備 4	考察
第 12 回	本発表準備 5	発表用資料の作成，パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り，到達状況の確認，フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み，事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも，自分たちの班で取り組むテーマの選定や，参考とする先行研究の文献検索や読解，発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも，発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って，本授業の準備時間は 3 時間，復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業はテキストに沿って行うとは限りませんが，次の本を持っていることを前提とします。随時，参照できるように授業に持ってくるとともに，予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤　潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】
レジュメの書き方や引用の仕方，発表の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也(編), 北大路書房, 2006 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 40%，計画発表 15%，本発表 25 %，ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は，予習課題の事前提出と，出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には，班活動に能動的に関わり，発表時に質疑応答をするなど，受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では，研究内容に加え，レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁，発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は，班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので，この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので，班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても，授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】
学生同士がディスカッションする時間をできるだけ多く確保するようにします。

【Outline and objectives】
In this class, students themselves set research questions, formulate appropriate experimental plans, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results. The purpose of this course is to help students deepen their understanding of psychology research methods by experiencing the experimental research process.

PSY200BG

演習Ⅱ（4）

押尾　恵吾

授業コード：A3714　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分たちの関心ある問題を設定し，適切な実験計画を立て，実験を実施し，結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで，心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】
以下の各要素が到達目標となります。
1. 実験計画を立てるのに必要となる，要因計画の基礎知識を理解し説明できるようになること。
2. 任意の問題意識に基づいて，２要因以上の実験計画を立てられるようになること。
3. 実験を実際に行う際の具体的な方法（手続き）を考案できること。
4. 得られたデータに対して適切な統計的手法を用いて分析できること。
5. 実験の成果を正確かつ効率よく情報発信できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実験による研究方法を身につけるため，先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て，実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では，反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし，予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し，授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で，授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て，計画発表をします。計画発表では，実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて，再度班で実験計画について検討をし，実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には，実際に実験で得られたデータに対する分析結果と，その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが，最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので，各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に，事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて，班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明，実験法についての概説，受講上の注意，班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは，独立変数・従属変数，操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制，統制群と実験群，仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味，２要因分散分析における主効果と交互作用，単純主効果
第 5 回	計画発表準備 1	研究テーマ決定，先行研究の読解，研究の目的・仮説の決定
第 6 回	計画発表準備 2	実験方法の検討，発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備 1	実験計画の修正，実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備 2	実験の実施
第 10 回	本発表準備 3	データ分析
第 11 回	本発表準備 4	考察
第 12 回	本発表準備 5	発表用資料の作成，パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り，到達状況の確認，フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み，事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも，自分たちの班で取り組むテーマの選定や，参考とする先行研究の文献検索や読解，発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも，発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って，本授業の準備時間は 3 時間，復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業はテキストに沿って行うとは限りませんが，次の本を持っていることを前提とします。随時，参照できるように授業に持ってくるとともに，予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤　潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】
レジュメの書き方や引用の仕方，発表の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也(編), 北大路書房, 2006 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 40%，計画発表 15%，本発表 25 %，ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は，予習課題の事前提出と，出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には，班活動に能動的に関わり，発表時に質疑応答をするなど，受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では，研究内容に加え，レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁，発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は，班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので，この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので，班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても，授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
授業計画や運営方針の説明，班構成の決定などをしますので，受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は，遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは koshio11[at]u-gakugei.ac.jp　です（[at] を@マークに置き換えてください）。

【Outline and objectives】
In this class, students themselves set research questions, formulate appropriate experimental plans, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results. The purpose of this course is to help students deepen their understanding of psychology research methods by experiencing the experimental research process.

PSY200BG

演習Ⅱ（5）

田嶋　圭一

授業コード：A3715　｜　曜日・時限：**火曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分たちの関心ある問題を設定し，適切な実験計画を立て，実験を実施し，結果を分析して考察します。実験による研究過程を一通り体験することで，心理学の研究方法に関する理解を深めることが目的です。

【到達目標】
以下の各要素が到達目標となります。
1. 実験計画を立てるのに必要となる，要因計画の基礎知識を理解し説明できるようになること。
2. 任意の問題意識に基づいて，２要因以上の実験計画を立てられるようになること。
3. 実験を実際に行う際の具体的な方法（手続き）を考案できること。
4. 得られたデータに対して適切な統計的手法を用いて分析できること。
5. 実験の成果を正確かつ効率よく情報発信できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
実験による研究方法を身につけるため，先行研究を参考にしながら自分たちで実験計画を立て，実施するというプロジェクト型学習（PBL）に取り組みます。基本的に班活動（グループワーク）によって授業を進めます。2 回目から 5 回目までの授業では，反転授業の形態を採ります。事前に教科書およびビデオ教材によって予習をし，予習教材に設定されている課題を完成させた上で授業に参加し，授業時間内ではその予習教材の課題に関する話し合いなどの班活動を行うという方法です。6 回目以降も事前に予習教材の課題に取り組んだ上で，授業時間内の班活動に臨みます。班ごとに実験計画を立て，計画発表をします。計画発表では，実験の目的・仮説・方法・予定する分析方法を明確にします。計画発表を通じて得られたコメントをふまえて，再度班で実験計画について検討をし，実際に実験を行った上で本発表をします。本発表には，実際に実験で得られたデータに対する分析結果と，その結果に関する考察まで含めます。本発表までは班活動が中心ですが，最終的には卒業論文と同じ形式のミニ論文を個人で作成して提出することになるので，各自で理解を深めておくことが重要です。授業中に，事前課題の回答・班活動・計画発表・本発表などについて，班ごとにまたはクラス全体に向けてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバス記載事項の確認と補足説明，実験法についての概説，受講上の注意，班構成について
第 2 回	要因計画の基礎 1	研究仮説とは，独立変数・従属変数，操作的定義
第 3 回	要因計画の基礎 2	剰余変数の統制，統制群と実験群，仮説の検証
第 4 回	要因計画の基礎 3	統計的検定の意味，２要因分散分析における主効果と交互作用，単純主効果
第 5 回	計画発表準備 1	研究テーマ決定，先行研究の読解，研究の目的・仮説の決定
第 6 回	計画発表準備 2	実験方法の検討，発表用資料の作成
第 7 回	計画発表	実験計画の発表
第 8 回	本発表準備 1	実験計画の修正，実験刺激作成等
第 9 回	本発表準備 2	実験の実施
第 10 回	本発表準備 3	データ分析
第 11 回	本発表準備 4	考察
第 12 回	本発表準備 5	発表用資料の作成，パワーポイントのスライド作成
第 13 回	本発表	実験の発表
第 14 回	総括	授業の振り返り，到達状況の確認，フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，学習支援システムを通じて提示される予習教材の課題に取り組み，事前に提出した上で授業に参加してください。特に 2 回目から 5 回目の授業では事前にビデオ教材を視聴してから課題に取り組む必要があります。予習課題以外にも，自分たちの班で取り組むテーマの選定や，参考とする先行研究の文献検索や読解，発表準備などは授業外にも行う必要性があります。実験を行えるように実験刺激を作成するなどの作業も必要です。計画発表・本発表とも，発表の練習を授業外で自主的に行うことが有効です。最終的なミニ論文も授業外で作成することになります。従って，本授業の準備時間は 3 時間，復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業はテキストに沿って行うとは限りませんが，次の本を持っていることを前提とします。随時，参照できるように授業に持ってくるとともに，予習をしましょう。
後藤宗理・大野木裕明・中澤　潤（編著）「心理学マニュアル 要因計画法」北大路書房 2003 年

【参考書】
レジュメの書き方や引用の仕方，発表の仕方については，参考文献として次の本を持っていることを前提にして説明します。「大学基礎講座」（藤田哲也(編), 北大路書房, 2006 年）

【成績評価の方法と基準】
平常点 40%，計画発表 15%，本発表 25 %，ミニ論文 20%の割合で評価を行う予定です。二回の発表とも必須です。平常点は，予習課題の事前提出と，出席して積極的に授業に参加することを評価の対象とします。積極的な授業への参加には，班活動に能動的に関わり，発表時に質疑応答をするなど，受講生相互の交流に貢献することも含みます。計画発表・本発表では，研究内容に加え，レジュメ（本発表ではスライドも含む）の体裁，発表の仕方が評価対象となります。ミニ論文は，班での研究成果を個人ごとに卒業論文に準じた形式でまとめ直すもので，この授業の最終課題として提出は必須です。最終的には個人での理解度が評価対象となるので，班活動に積極的に参加しましょう。いずれの評価観点についても，授業内で詳しく説明を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】
授業改善アンケートを最後に実施した 2018 年秋学期の結果によると，回答者 11 名のうち，82%が「積極的な工夫がされていた」，73%が「理解できた」，64%が「受講してよかった」に対して「4」または「5」と回答してくれました。授業外学習の時間については，「週 1-2 時間」が約 1/3 で最も多かったですが，「ほとんど行っていない」から「週 3 時間以上」まですべての選択肢に回答が分散しました。例年に比べて今年は満足度が低かった（「履修してよかった」が去年は 100%でしたが今年は 64%）のが気になったので，「履修してよかった」の得点と授業外学習時間の得点との相関を調べてみたところ，r=.541 という中程度の正の相関がありました。つまり，今年は授業への取り組みについてかなりの個人差があり，それが満足度の低下につながったようです。この授業を履修する意義や授業の位置づけについて，説明しているつもりではありますが，十分に伝わっていないのかも知れません。

【その他の重要事項】
授業計画や運営方針の説明，班構成の決定などをしますので，受講者は初回授業に必ず参加してください。やむを得ず初回授業に参加できない場合は，遅くとも初回授業日中にメールで直接連絡をください。メールアドレスは tajima[at]hosei.ac.jp　です（[at] を@マークに置き換えてください）。

【Outline and objectives】
In this class, students themselves set research questions, formulate appropriate experimental plans, conduct experiments, analyze the data, and discuss the results. The purpose of this course is to help students deepen their understanding of psychology research methods by experiencing the experimental research process.

PSY300BG

研究法Ⅰ（1）

高橋　敏治

授業コード：A3643　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒論を含めた心理学研究の方法（問題提起，目的・仮説設定，方法，統計分析，結果の表示，考察の仕方など）について学びます。心理学研究の計画と実践を通じて論文作成の問題点を議論します。

【到達目標】
教員・学生との間の自由で活発なディスカッションを実践し，できるだけ早い時期に研究テーマを設定し，実際の調査や実験を行い，論文の執筆に結び付けられるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には受講生自身が準備してきたことを発表してもらい，それを討論するということを繰り返します。各自の発表の準備および実際の発表を通じて，自分の考えを整理して，そこで提出されたコメントを参考にしながら，客観的に自分の研究を検討する姿勢を獲得していきます。また，質問紙や実験方法の作成，実際に実施する際の教示や説明の練習の場として授業を活用していきます。。授業時
間内に，必ず質疑応答の時間を設け，生じた疑問や問題を討論します。発表後には，振り返りレポートを提出してもらい，疑問点などを授業内でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画説明と順序・役割決め
第 2 回	研究計画発表【1-1】	順番を決めた上で各自の計画の検討 1
第 3 回	研究計画発表【1-2】	順番を決めた上で各自の計画の検討 2
第 4 回	研究計画発表【1-3】	順番を決めた上で各自の計画の検討 3
第 5 回	研究計画発表【1-4】	順番を決めた上で各自の計画の検討 4
第 6 回	研究計画吟味 1	予備研究の実施 1
第 7 回	研究計画吟味 2	予備研究の実施 2
第 8 回	研究計画吟味 3	予備研究の実施 3
第 9 回	研究計画発表【2-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 10 回	研究計画発表【2-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2
第 11 回	研究計画発表【2-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 12 回	研究計画発表【2-4】	順番を決めた上で計画の吟味検討 4
第 13 回	研究計画実施 1	手順や方法の確立
第 14 回	研究計画実施 2 総括・まとめ	教示や分析方法の完成と倫理規定基準のクリア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は, 各 2 時間合計 4 時間を設定しています。
第 1 回　1 回目研究計画発表の原稿作成 1
第 2 回　1 回目研究計画発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
第 3 回　1 回目研究計画発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
第 4 回　1 回目研究計画発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
第 5 回　予備研究の実施要領作成
第 6 回　予備研究実施によるデータ採取のレポート作成
第 7 回　予備研究実施によるデータ解析のレポート作成
第 8 回　予備研究実施による問題点のレポート作成
第 9 回　2 回目研究計画発表の原稿作成 1 と発表後の修正版レポート作成
第 10 回　2 回目研究計画発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
第 11 回　2 回目研究計画発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
第 12 回　2 回目研究計画発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
第 13 回　研究計画の手順や方法のレポート作成
第 14 回　研究計画の教示や分析方法のレポート作成と倫理規定申請書作成
卒論問題提起を夏休み前に完成し提出

【テキスト（教科書）】
特に，テキストは用いません。各自が自らのテーマに関連する資料を用意していきます。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %），発表（40 %），レポート課題（20%）によって総合的に評価します。発表については，発表原稿だけでなく，発表時に議論された問題点や修正点を反映したものをまとめ，発表後に振り返りレポートとして提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
新型コロナ肺炎流行のため，2020 年度は実施しませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC，パワーポイントを使用しますので，ノート PC 準備係とプロジェクター係を決めます。授業支援システムを利用して，資料配布やお知らせをします。必ずファイルが添付できるメイルを授業支援システムに登録して下さい。

【その他の重要事項】
【重要】新型コロナ肺炎に関する状況を考えて授業形態をオンライン授業などに変更する場合があります。皆さんの希望も調査したいと思いますので，初回の授業には必ず出席して下さい。
【オフィスアワー】シラバスの教員紹介に記載してあります。卒論で脳波などの心理生理機器を使用する場合は，必ず生理心理学・生理心理学実習を履修することをお勧めします。また，卒論で睡眠や眠気に関する研究を希望される場合は，必ず精神生理学特講の履修をお勧めします。担当教員は，厚生労働省精神保健指定医，日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わってきています。この経験を生かし，一緒に考えていきます。

【Outline and objectives】
We will study about psychology research methods (raising questions, setting purpose / hypothesis, method, statistical analysis, display of results, way of thinking, etc.).

PSY300BG

研究法Ⅰ（2）

吉村　浩一

授業コード：A3644　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分の興味関心に基づいて研究テーマを見つけ、実証的研究として設計するために必要な心理学的知識とスキルを学びます。

【到達目標】
3 年次生は，関心ある研究テーマに対し文献的知識の蓄積を中心に学び、実践的研究の計画を作り上げる準備をします。4 年次生は、自分自身で研究を実践・考察する能力を身につけることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面とオンデマンドの回を原則として交互に行う予定ですが、状況により変更する可能性がありますので、Hoppii の「お知らせ」に注意しておいてください。
　3 年次と 4 年次の合同授業ですが，単なる合同ではなく、協同となる授業を目指します。そのために、他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢が重要です。具体的には、発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまることがないだろうかと探る態度で注意深く聞き、分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特に、研究計画書の書き方、発表の仕方、論文の書き方などは全員に共通する作業なので，お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。
　毎週の課題の提出およびフィードバックは、授業中ないしは授業支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方の説明と質疑応答
第 2 回	研究テーマについて	3 年次生は関心のあるテーマの提示，4 年次生はテーマ確定。
第 3 回	文献の検索	データベースを利用して関連論文を検索する。
第 4 回	文献の講読・発表（1）	4 年次生の文献発表と 3 年次生を中心とする質疑応答
第 5 回	文献の講読・発表（2）	4 年次生の文献発表と 3 年次生を中心とする質疑応答
第 6 回	テーマ構築（1）	3 年次生のテーマ構築のための文献講読と全員でのアドバイス
第 7 回	テーマ構築（2）	3 年次生のテーマ構築のための文献講読と全員でのアドバイス
第 8 回	実験・調査の立案（1）	4 年次生の実験・調査の研究立案を全員で検討
第 9 回	実験・調査の立案（2）	4 年次生の実験・調査の研究立案を全員で検討
第 10 回	調査研究の分析法	分析法まで見通した調査研究立案の解説
第 11 回	実験研究の分析法	分析法まで見通した実験研究立案の解説
第 12 回	発表の仕方	口頭発表の仕方と心得，プレゼン／配布用資料の作り方
第 13 回	成果発表（1）	成果発表，質疑応答
第 14 回	成果発表（2）	成果発表，質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各人の研究の流れ（テーマの設定，論文の講読，問題提起，実験・調査の計画）に沿って，ほぼ毎回何らかの達成目標を設定し，次の回までに研究を進展させます。具体的には、授業の進捗に合わせ、自分が関心を持つテーマに関する文献をはじめさまざまな情報収集，手に入れた文献の読み込みと質問事項の整理，研究法の立案などの下準備を，授業外に行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使いません。

【参考書】
研究テーマや課題に応じて適宜，各人に対して参考文献を授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 50 %，他者の発表へのコミットメント 10 %，成果発表 40 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
全員に関わる問題は、全員に問いを投げかけ，全員で検討していくスタイルの構築に努めます。

【その他の重要事項】
この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業です。重複履修を原則としていますので，3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to acquire the necessary skills and knowledge to take on a psychological research having an interest.

PSY300BG

研究法Ⅰ（3）

渡辺　弥生

授業コード：A3645　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業研究を対象とした専門演習です。2 年次、3 年次の演習の成果をふまえて、各自研究の計画を立案します。最新の論文を収集し、興味をもった研究の動向を明らかにします。先行研究の理解をもとに、問題点を明確にし、改善するオリジナリテイのある理論的展開や方法について検討します。また、研究にとどまらず、社会人として与えられた課題をこなし、成果を広く発表し、伝えていくためのソーシャルスキルも学びます。

【到達目標】
論文を書くことだけではなく、各自が社会にでて活かせるような力として、論理的思考、創造力、情報収集能力、計画遂行力をふくむソーシャルスキルを育むことを目標とします。
（1）専門の論文を検索できる。
（2）論文から研究の流れを理解する。
（3）先行研究の目的から考察迄の内容を理解できる。
（4）先行研究を批判し、オリジナリティを加えられる。
（5）具体的に自分の研究計画を立案する。
こうした、研究のスキルだけでなく、ゼミのネットワークを強める貢献をし、互いにペアやグループワークを活用し、相互に研究力だけでなく人間力を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
学習内容：自分の決めたテーマにかかわる文献を集め整理し、問題意識を明らかにします。そこから、仮説を立て研究計画を完成させます。その際、発達や臨床にかかわる研究の難しさや倫理的な配慮、モラルについても学びます。毎回、全員が何かしら発言し、互いの考えを共有できるようアットホームな形でのぞんでいきます。課題のフィードバックは、学習支援システムを通じて行う。
授業方法：演習・実習方式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	研究の枠組みについて確認	スキーマの獲得:研究のイメージをつかむことができるようになることを目標とする。
第 2 回	研究計画 1	テーマ決定：一口に心理学と言っても、かなりバリエーションがある。どのようなテーマがあるかを概観したうえで、興味あるテーマを決定する。
第 3 回	研究計画 2	先行研究のリスト：興味あるテーマを絞ったとしても、その歴史は長く、研究の経緯がある。まずは、ｓのリストをつくる。
第 4 回	研究計画 3	先行研究の理解：これまでの研究の流れを、理解 → 批判 → 問題提起という作業の枠組みを通して考える。
第 5 回	研究計画 4	先行研究の理解：前の時間をさらに継続する。

第 6 回	先行研究の論点の整理	先行研究のマップ作り：ビジュアルに理解できるように、ノートを工夫してまとめる作業をする。
第 7 回	先行研究の論点の整理	先行研究のマップ作り：先の作業を完成させる。
第 8 回	問題提起の作成	論理的な構造作り：マッピングした流れを、文章に書いてみる。論文の書き方を体験する。
第 9 回	問題と目的を書く 1	論理的な構造で書けているかをチェックする。
第 10 回	問題と目的を書く 2	ライティングの完成
第 11 回	方法について検討	その目的を実行するためにどのような方法が必要かを考える。協力者へのお願いの手紙など、協力者を得るための手続きも確認する。
第 12 回	発表	プレゼンテーション
第 13 回	発表	プレゼンテーション
第 14 回	総括	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、各授業内で消化できないことが出てくるので、授業時間外で予習復習に各２時間を補っておく。互いに、意見を交換したり、質問しあったり、活動レベルを高められるよう工夫します。研究論文を読みながら研究の流れを知ることと同時に、レヴュー本を読んで研究論文で扱われている問題が、広い領域のなかのある一部だということを理解する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業開始時に適宜紹介する。

【参考書】
授業開始時に適宜紹介する。論文の書き方をタイトルとした本を一冊準備する。
改訂新版　心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために 単行本 – 2010/7/13　松井 豊 (著)　などこの種の本を１冊読んでほしい。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題遂行 (70%) とプレゼンテーション (3 ０%)

【学生の意見等からの気づき】
かなり勉強したと評価している人がいるので、このペースで。「判断力」「苦手克服」という点がのびるようにしてほしい。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントやＤＶＤなど。

【その他の重要事項】
上記計画は、研究の進み具合によって、多少変更します。研究法をコアにした授業外のゼミ活動（ゼミ行事、合宿）で総合力を養ってほしい。授業支援システムに登録する。

【発達心理学】
https://sites.google.com/site/emywata/Home

【Outline and objectives】
This subject is specifically designed to support graduation researches. From experiences obtained from training in the second year and third year, students are required to plan and propose their research plans. In this training, students are expected to collect the latest theses and formulate their interest in researching trends. From the knowledge obtained from the collected theses, students will have to determine currently existed issues. Furthermore, students will have to conduct studies regarding original methods and theories which are then used to solve the identified problems. In addition, not stopping at researches, this training will also provide the necessary social skills for students to correctly convey the outcomes of the study which they conducted, helping students to become more confident as a member of the society.

PSY300BG

研究法Ｉ（４）

福田　由紀

授業コード：A3646　｜　曜日・時限：**水曜２限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では、演習Ｉと演習Ⅱで習得したことをふまえて、実際に実験・調査実施のための計画を立て，実施し，分析することが目標です。心理学は実証科学です。自分の興味をどのように実験や調査に持っていくのか？！ そこが研究のポイントです。自分の興味にあったテーマについて研究の「いろは」を体験しましょう。

【到達目標】
＊３年生:実際に実験を行い，分析し考察し，発表を行う。この一連の過程により，研究における注意事項を確認できるようになる。また，様々な装置を用いてその使い方を知る。そして，４年生の発表に対して積極的に聴くことにより，自分の研究テーマを絞り込んでいく。
＊４年生：３年時に蓄積した先行研究の知見をさらに発展させる。そして，目的にあった研究を自分自身で計画し，実施し発表する。その結果，一人で問題を発見し，それを解決できるようになる。また，自分の研究を発表することにより，よりよいプレゼンテーションができ，わかりやすい文章を書くことができるようになる。
＊共通の目標：論文として的確な文章を書ける。また，授業中，みんなの前で発表したり，それに対してクリティカルな意見を発言したり，他者が書いてきた文書をピアレビューしたりする。その結果，他者の仕事（発表・文書）に対して，建設的なアドバイスができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
３年生と４年生による協同学習を目指した合同授業です。両学年とも自分の研究を個別に発表したり，それぞれが書いた文書を推敲したりする方式が中心となります。その際，他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢を持って下さい。具体的には，発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまることがないだろうかかという態度で注意深く聞き，分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特に，研究計画書の書き方，発表の仕方，論文の書き方などは全員に共通する課題なので，お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。
また，Hoppii を通じて，授業の前に提出した事前課題に関しては，授業中に，全体に対してフィードバックを行います。
加えて，COVID-19 感染症蔓延状況に応じて，オンライン授業を中心に行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方とアジェンダの確認。卒論の概要説明。
第 2 回	発表スキル 1・文章力 1 アップ	PPT を使った自己紹介，文章力アップ１のピアレビュー。
第 3 回	分析力 1・文章力アップ 2	分析や結果を表現するための表計算ソフトの習得と確認，文章力アップ２のピアレビュー。
第 4 回	分析力 2・文章力アップ 3	分析ソフトの習得と確認，文章力アップ３のピアレビュー。
第 5 回	研究力 1・発表スキル 2 アップ	３年生：眼球運動測定装置の講習。 ４年生：研究の進捗状況の発表。
第 6 回	研究力 2・文章力 3 アップ	３年生：種論文の発表１。 ４年生：３年生へのアドバイス。 Touch & Go!
第 7 回	研究力 3・発表スキル 4 アップ	３年生：種論文の発表２。 ４年生：３年生へのアドバイス。 共通：コメントシートの修正のピアレビュー。
第 8 回	研究力 4・文章力 4 アップ	実験・調査前後に作成する書類の書き方のコツの講習。 文章力アップ４のピアレビュー。
第 9 回	研究力 5・発表スキル 5 アップ	３年生：研究の構想発表１。 ４年生：３年生へのアドバイス
第 10 回	研究力 6・文章力 5 アップ	倫理申請書類の書き方のピアレビュー１：研究計画申請書，同意書。

第 11 回	研究力 7・文章力 6 アップ	倫理申請書類の書き方のピアレビュー２：デブリーフィング用紙，参加者募集のちらし。 文章力アップ５のピアレビュー。
第 12 回	文章力 7 アップ	やり取りのある文章の書き方講習会
第 13 回	文章力 8 アップ	段落とは何か？ の講習会。 文章力アップ６のピアレビュー。
第 14 回	研究力 8・文章力 9 アップ	序論のピアレビュー。 Touch & Go!

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，発表や作業があります。授業計画に沿って，事前の課題を行い，自分の発表の準備と他人の発表資料を予習し，コメントを考えてくる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
適宜，授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
自分が発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対してコメントすることも重視します。評価は発表 60 %とコメント 20 %，事前の課題提出 20%によって決められます。発表は，わかりやすく的確に説明することが求められます。また，コメントは発表者に資するような建設的な意見を述べることが求められます。演習なので必ず出席してください。特に、自分の発表時に絶対に！ 欠席しないこと。やむを得ず欠席する場合には、事前に福田に連絡して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は主にオンデマンド授業が行われ，授業アンケートは実施されませんでした。そのため，2019 年度の授業のアンケート結果を紹介します。
アンケートでは，すべてに高評価で，ありがとうございました。授業外の学習も多く，充実したゼミ活動ができたようでうれしいです。自由記述欄に「4 年生の姿が来年の自分を見ているようで，ためになりました」というコメントがありました。そうなのです。複数学年いっしょのゼミ運営の目的の一つは，モデルを見てそれを活用することです。来年度，素敵な姿を新 3 年生に見せられるように，今から準備しましょう。

【その他の重要事項】
授業の運営方針や発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。実験・調査の内容は福田の守備範囲である言語心理学や教育心理学関係だとより詳細な指導が受けられると思います。また，この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので，3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

【初回授業】
初回授業はオンラインで行います。ZoomID は Hoppii の「お知らせ」を通じて行います。
また，初回授業時に受講者の数を確定したいと思います。この授業の受講希望者は，必ず，出席をしてください。初回授業に欠席した場合，受講できない場合がありますので気をつけてください。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn how to psychological research. Students will be expected to make a plan of one's research, and carry it out, and analyze it appropriately.

PSY300BG

研究法Ⅰ（5）

田嶋　圭一

授業コード：A3647 ｜ 曜日・時限：**火曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで学んできた心理学の知識を活かし，高水準の心理学研究を行うために必要なノウハウを習得し，みずから設定したテーマに沿って研究を行い，成果としてまとめ発信していくことを目指します。

【到達目標】
1. 論文検索を適切に行うことができ，論文の内容を正確に読解し，批判的に読めるようになること。
2. 1 の活動を踏まえて先行研究のレビューができ，心理学的研究に値する独自の問題点が提示できること。
3.（3 年生）種論を基本とした「追試＋ α 」の研究計画を立案できるようになること。（4 年生）複数の先行研究を基に独自の問題意識に基づく研究計画を立案できるようになること。
4. 研究計画を基に研究の実施に向けて素材・装置・倫理審査書類等が適切に準備できること。
5. 自分の研究成果を効果的に発表できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回何等かの課題を課します。次回までに課題に取り組み，授業にて発表・ディスカッション・相互フィードバックを行います。毎回休まずに出席する心積もりでいてください。自分自身の研究にだけ取り組むのではなく，他者の取り組みにも関心を寄せ，建設的なコメントを積極的に行うスキルを磨くことも重視します。したがって，個人発表だけでなくグループディスカッションや掲示板を利用したピアレビュー活動など取り入れながら授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明，達成目標の設定
第 2 回	文献レビュー（1）	【4 年生】卒論を見据えたテーマ設定と文献講読 1・発表。【3 年生】関心のあるテーマの選定と文献講読 1，4 年生へのコメント。
第 3 回	文献レビュー（2）	【4 年生】文献講読 2，3 年生へのコメント。【3 年生】文献講読 2・発表。
第 4 回	文献レビューと研究計画の立案（1）	【4 年生】文献講読 3，問題点の精査，発表。【3 年生】文献講読 3，問題点の精査，4 年生へのコメント。
第 5 回	文献レビューと研究計画の立案（2）	【4 年生】文献講読 4，問題点の精査，3 年生へのコメント。【3 年生】文献講読 4，問題点の精査，発表。
第 6 回	研究計画発表（1）	【全員】研究計画書の作成。【4 年生】発表。
第 7 回	研究計画発表（2）	【全員】研究計画書の作成。【3 年生】発表。
第 8 回	研究計画の具体化	変数の整理，刺激・材料等の準備
第 9 回	問題の設定，研究倫理	問題意識と研究目的の設定，研究倫理について
第 10 回	4 年次春成果発表（1）	【4 年生】成果発表。【3 年生】成果発表準備，4 年生へのコメント。
第 11 回	4 年次春成果発表（2）	【4 年生】成果発表。【3 年生】成果発表準備，4 年生へのコメント。
第 12 回	3 年次春成果発表（1）	【4 年生】倫理審査書類提出，3 年生へのコメント。【3 年生】成果発表。
第 13 回	3 年次春成果発表（2）	【4 年生】倫理審査書類提出，3 年生へのコメント。【3 年生】成果発表。
第 14 回	まとめと展望	春学期の総括，秋学期に向けての準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究の流れ（テーマの設定，論文の講読，問題提起，実験・調査の計画など）に沿って，ほぼ毎回何らかの達成目標を設定し，次の回までに研究を進展させます。進捗状況を報告するための資料を事前に準備し，授業にて適宜配布してください。ゼミ活動は授業時間だけでは時間が足りません。詳しいアドバイスなどが必要な場合はアポを取るかオフィスアワー（火曜 4 限）を活用してください。学生間のコミュニケーションや共同学習を促すため，ピアレビュー（仲間同士が相互に建設的・批判的なコメントを出し合う活動）を取り入れます。また，研究の「お作法」を解説した文献を必要に応じて読んでもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。参考書などは適宜授業で紹介します。

【参考書】
南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）(2001)．心理学研究法入門　―調査・実験から実践まで―　東京大学出版会.
高野陽太郎・岡　隆（編）(2004)．心理学研究法　―心を見つめる科学のまなざし―　有斐閣アルマ.
松井豊（2006）．心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために―　河出書房新社.

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%，文献レビュー 20%，発表 50%の割合で評価する予定。原則として，正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合や発表を怠った場合は単位が授与されないものとします。欠席する場合は必ず事前に理由を添えて教員に連絡してください。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は授業改善アンケートが実施されませんでしたので，2019 年度のアンケート結果に基づいた気づきを以下に記します。
回答者 11 名全員が「履修してよかった」「理解できた」「工夫されていた」という問に「4」または「5」と回答してくれました。また，授業外学習時間は 8 割以上の人が「週 3 時間以上」と回答しており，皆さんがとても熱心に授業に取り組んでいることがうかがえます。「課題の指示が的確で分かりやすいと思った」と評価していただきました。グループディスカッションがあること，また発表者がローテーションで複数のグループを回れることが好評でした。自分の研究について色々な意見がもらえるだけでなく，自分にとってなじみのない研究テーマについて興味を持つことができた，というコメントをいただきました。素晴らしいです。自分のことだけでなく周囲の人にも関心を寄せることは，結果的に自分自身をさらに伸ばすことにつながりますね。一方，「ディスカッションは上の学年しか基本的に話していない（話せない）ので三年生も話すような動機づけが必要かなと思いました」という意見がありました。学年や経験値にとらわれずに自由に発言できるような場になるように私も努めますので，皆さんも協力してもらえたらと思います。

【その他の重要事項】
この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので，3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。
　なお，授業計画や運営方針の説明などをしますので，受講者は初回授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
In this course, students will learn the skills necessary to conduct their own research project in psychology. Based on the knowledge that they have acquired so far, they will formulate their own research questions, conduct the research using appropriate methods, analyze the results, and present their achievements.

PSY300BG

研究法Ⅰ（7）

島宗　理

授業コード：A3649　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　社会的・個人的に重要な行動問題の解決策を科学的に発見、開発する方法論として、行動分析学の研究法を学びます。受講生は、それぞれ自分の問題意識から研究テーマを選び、標的となる行動を決め、その制御変数を実験によって見つけながら、この方法論を習得します。卒業論文を書き上げ、発表するまでを支援しますが、その過程で卒業後にも役立つ技術を習得することを目指します。

【到達目標】
　研究法Ⅰで主に目指すのは以下の知識や技術の習得です：特定の標的行動として具体化すること、解決に役立つ関連情報を調べること、行動の制御変数の候補を複数推定し、その中から実験で検討する変数を選び、先行研究を元に実験計画を立案すること、実験計画書を作成し、発表すること、実験装置や測定システムなどを準備し、予備実験からそれを改善すること、本実験を実施し、データを分析し、まとめて図表や文章、口頭発表などでコミュニケーションすること。
　これらはすべて研究にとって必要な技能や知識ですが、卒業して就職してからも皆さんの職場で必ず役に立つものです。卒論のためだけの研究法ではなく、この機会に、一生使える心理学の専門性を習得してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
　毎週、課題を出します。授業はゼミ形式で課題の発表と討論を中心に進めます。課題へのフィードバックは授業および掲示板で行います。3 年次には卒論の準備として小実験に取組みます。4 年次には各自の卒論研究を題材に課題を進めます。ゼミの時間の大半を発表や討論の練習に使います。積極的に参加して下さい。
　授業は初回からオンラインで開始します。ゼミの Slack で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全員： 授業内容と方法、約束事を説明します。実験計画のプレゼン方法、注意すべきこと、研究倫理（倫理委員会に提出する書類など）について解説します。 3 年次生： 小実験の候補を紹介します。
第 2 回	実験計画の発表 (1)	全員： 独立変数と従属変数、変数の統制、実験計画法、行動の観察と記録、仮説の立案や変数の探索などを学びます。 3 年次生： 小実験について討論し、予備実験の準備を進めます。 4 年次生： 各自、実験計画を発表し、討論します。GO サインがでたら予備実験に移れるように、実験計画は「概要」ではなく、刺激や記録用紙なども用意してプレゼンして下さい。
第 3 回	実験計画の発表 (2)	同上
第 4 回	実験計画の発表 (3)	同上
第 5 回	予備実験の報告 (1)	全員： データの分析、視覚化、傾向や変動の判断、データに基づいた改善（本実験の計画）などを学びます。 3 年次生も 4 年次生も、予備実験の結果を分析し、発表して、討論します。データの分析から「わかったこと」「わからなかったこと」をまとめて、伝えて、話し合う練習をします。
第 6 回	予備実験の報告 (2)	同上
第 7 回	予備実験の報告 (3)	同上

第 8 回	先行研究をまとめる (1)	全員： 先行研究や参考書、統計資料などを読み、現在の研究の流れや社会のニーズの中に自分の実験を位置づけます。研究のストーリーをまとめあげる方法について解説します。
第 9 回	先行研究をまとめる (2)	同上
第 10 回	先行研究をまとめる (3)	同上
第 11 回	本実験の報告 (1)	全員： データの分析、視覚化、傾向や変動の判断、データに基づいた改善（継続実験の計画）などをさらに学びます。 3 年次生も 4 年次生も、本実験の結果を分析し、発表して、討論します。データの分析から「わかったこと」「わからなかったこと」をまとめて、伝えて、話し合う練習をします。
第 12 回	本実験の報告 (2)	同上
第 13 回	本実験の報告 (3)	同上
第 14 回	まとめ (1)	全員： 各自、自分の研究のセールスポイントを抜き出し、これを伝える題目を考えて発表します。卒論のストーリーを端的に伝える練習をします。 3 年次生は小実験、4 年次生は本実験のレポートを提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、課題をだしますので、各自取り組み、提出して下さい。以下、いくつかの課題を例示します。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 3 時間を標準とします。
○興味がある実験について標的行動（従属変数）、介入方法（独立変数）、実験計画法の 3 つを考え、提案するための資料を作成する。
○実験計画について予測する結果を作図する。
○ 5 つ以上の先行研究を表にまとめる。

【テキスト（教科書）】
『ワードマップ：応用行動分析学』（島宗、2019）

【参考書】
研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します（以下はシングルケースデザイン法に関する参考書の例）。
○ Alberto, P., & Troutman, A. C. (1999). Applied behavior analysis for teachers. Prentice Hall.（アルバート, P. A.・トルートマン, A. C. 佐久間 徹・谷 晋二・大野裕史 (監訳) はじめての応用行動分析 日本語版 第 2 版 (2004) 二瓶社）
○ Barlow, D. H., & Hersen, M. (1984). Single case experimental designs: Strategies for studying behavior change. Pergamon. （バーロー, D. H.・ハーセン, M. 高木俊一郎・佐久間 徹（監訳）一事例の実験デザイン —ケーススタディの基本と応用— 二瓶社）
○ Cooper, J. C., Heron, T. E., & Heward, W. L. (2007). Applied Behavior Analysis. Pearson Education. （クーパー, J. C., ヘロン, T. E., & ヒューワード, W. L. 中野良顯（訳）(2013) 応用行動分析学　明石書店）
○岩本隆茂・川俣甲子夫 (1990). シングル・ケース研究法—新しい実験計画法とその応用—　勁草書房.

【成績評価の方法と基準】
○授業への参加（課題の発表や討論）（40 %）、課題遂行（40 %）、レポート提出（20 %）から成績を評価します。
○欠席が 5 回以上になると自動的に E 評価になります。

【学生の意見等からの気づき】
（2020 年度は授業改善アンケートが実施されませんでした）
コロナで急遽オンラインゼミとなりましたが，みんな見事に対応していました。大多数が計画通りに実験を実施することもできました。素晴らしかったです！

【その他の重要事項】
○ この科目は本年度より 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。
○ 研究テーマは受講生の興味を最優先して決めます。行動分析学は研究対象を限定しません。基本的に何でも研究できると考えて下さい。ただし、大学生活のかなりの部分をかけて取り組む研究ですから、自分の得意なこと、興味があること、これだけは人に負けないぞと自信があること、そういう自信をつけたいことなどを選んで下さい。こんなことでも実験できるのだろうか？と思いとどまらず、ぜひ一度相談して下さい。卒論ですから、大がかりな実験はできませんが、世界に二つとない実験を共につくりましょう。
○ オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn and master research methods in behavior analysis, including functional analyses of behavior, systematic observation and recording procedures, single-case designs, and visual inspection of time series data to evaluate effectiveness of an intervention. Students will select their own research topic, conduct a literature review, develop a research proposal, and run experiments.

PSY300BG

研究法Ⅰ（8）

越智　啓太

授業コード：A3650　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜授業概要＞
いままで学んできた知識を総合して自ら心理学研究を行う！
本演習では、おもに社会と人間との関わり、人間と人間との関わり、さまざまな社会現象に関する現象を対象にして、心理学的に問題を分析していく。受講者は、自ら研究テーマを設定し、文献を調べ、実験や調査を行って、分析し、その結果を論文としてまとめるという具体的な作業を行っていく。また、その過程で、口頭発表やポスター発表を行ったり、質疑応答や討論などを行う（場合によっては学会発表や学会投稿論文の作成も行う）。扱うテーマは、「社会」の中の人間行動を対象とするものであれば、ひろくて構わない。具体的には、説得的コミュニケーションや人間関係の進展、対人魅力、ノンバーバルコミュニケーション、うわさ、マーケティング、集団における意思決定やリーダーシップの問題、少年犯罪や犯罪捜査、DV（ドメスティックバイオレンス）や児童虐待の問題、テロの問題、少子化問題などである。
研究法Ⅰでは、まず、具体的なテーマをみつけ、それをもとに研究計画をたて、実験や調査を行う段階までを中心に作業を行う。研究法Ⅱでは、実験や調査の研究結果を統計的に分析し、そこから結論を導き、それを具体的に論文化したり、口頭で発表するという作業を行っていく。これらの作業は連続するものなので、研究法ⅠとⅡは同一教員の授業を取ることが必要である。また、原則として事前調査での希望通りに履修を行うこと。
＜学習目標＞
①自分の興味に従って研究テーマを具体化する
②研究テーマに関連する先行研究を読み理解する
③実験・調査計画を立て、それを実施する
④調査・実験結果を分析する
⑤分析結果から論理的に考察を行う
⑥結果を論文にする
⑦場合によっては学会発表を行ったり、その予行を行う

【到達目標】
自分で心理学の研究を出来るようになる。具体的には以下の点である。
研究のテーマ選択
先行文献の検索と整理
実験計画の作成
実験結果の分析
レポート・論文の作成
オーラルでの発表

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回、各自の研究報告とディスカッションを行う。
1 ～2 回程度土曜日か日曜日に長時間の補講を行う。
コメントや意見、レポートに対してのフィードバックについては、講評および補足解説を行う。方法については、授業時間、授業後に個別、授業後にウェブを通してのいずれかの方法で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、研究ポリシー、研究倫理などについて詳しく説明する
第 2 回	研究発表 1、文献収集指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。文献収集についての個別指導
第 3 回	研究発表 2、文献収集指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。文献収集についての個別指導
第 4 回	研究発表 3、文献収集指導 3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。文献収集についての個別指導
第 5 回	研究発表 4、実験調査指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。

第 6 回	研究発表 5、実験調査指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 7 回	研究発表 6、実験調査指導 3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 8 回	研究中間発表会	自分の研究の現状について 15 分でプレゼンテーションする。
第 9 回	研究発表 7、実験調査指導 4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 10 回	研究発表 8、実験調査指導 4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 11 回	研究発表 9、実験調査指導 5	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 12 回	研究発表 10、実験調査指導 6	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 13 回	研究発表 11、実験調査指導 7	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。
第 14 回	研究発表 12、実験調査指導 8	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。実験と調査について個別に指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回必ず、自分の研究の進行状況について説明してもらいますので、説明用資料を作成してくること。
その前提として、毎週必ず、自分の研究を少しずつでも進展させること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない

【参考書】
共通の参考書は指定しない。各自のテーマに従って個別に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
< 成績評価の方法と基準>
授業時のディスカッションへの参加 50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
例年、高く評価されています。本年度もさらに興味深くスキルの身につく演習になるようにがんばります。とくにプレゼンテーションの指導に力を入れます。

【その他の重要事項】
楽しい授業にしたいと思います。そのため、各自が積極的に発言するなどの参加をお願いします。
この授業は出席することが重要である。出席が規定日数に達さない場合には、就職が決まっていても単位を与えないので注意すること。欠席が多い場合には、メールによって 2 回だけ警告を行う。就職試験などでやむを得ず、欠席する場合には、必ず事前に届けること。この場合には、授業のかわりに、上限 4 回まで個別指導を出席とすることもあるが例外的な措置であるのでそのつもりで。

【Outline and objectives】
Do psychology research, learn analytical method, presentation method etc.

PSY300BG

研究法Ⅰ（9）

荒井　弘和

授業コード：A3716　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(1) 心理学の問いを設定すること、(2) 心理学の研究を実施する計画を立てること。

【到達目標】
(1) 心理学の問いを設定できるようになる (3 年生はこれが重点目標)、(2) 心理学の研究計画 (4 年生は卒業論文の研究計画) を立てられるようになる (4 年生はこれが重点目標)。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
(1) 研究論文を読んで発表したり、(2) 意見交換をしたりして、いくつかの研究のパターンを身につけることを目指します。授業中に行うことは、(1) プレゼンテーションと意見交換、(2) グループワークです。
課題に対するフィードバックは、「次の回の授業の序盤に受講生全体に対して」「メーリングリストを利用して受講生全体に対して」「個人的に」のいずれかの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	自分の関心を洗い出す (1)	関心のあるテーマを出し合う。その内容について、意見交換を行う。
第 2 回	自分の関心を洗い出す (2)	関心のあるテーマを出し合う。その内容について、意見交換を行う。
第 3 回	自分の関心を洗い出す (3)	関心のあるテーマを出し合う。その内容について、意見交換を行う。
第 4 回	先行研究を読み、内容をまとめる (1)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。 その内容について、意見交換を行う。
第 5 回	先行研究を読み、内容をまとめる (2)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。 その内容について、意見交換を行う。
第 6 回	先行研究を読み、内容をまとめる (3)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。 その内容について、意見交換を行う。
第 7 回	先行研究を読み、内容をまとめる (4)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。 その内容について、意見交換を行う。

第 8 回	先行研究を読み、内容をまとめる (5)	関心のあるテーマに関連する研究論文を読み、資料を作成して発表する。 その内容について、意見交換を行う。
第 9 回	研究計画を立てる (1)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 10 回	研究計画を立てる (2)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 11 回	研究計画を立てる (3)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 12 回	研究計画を立てる (4)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 13 回	研究計画を立てる (5)	研究計画申請書を作成し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究計画を立て直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 14 回	研究計画を完成させる	研究計画申請書を完成させ、倫理委員会に提出する。 （提出後、研究を実施する）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) 文献検索、(2) 授業中に提示された課題、(3) 発表資料の作成に取り組みます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト・参考書は用いません。必要に応じて、資料の配付・書籍や文献の紹介を行います。

【参考書】
2010 年度～2019 年度「法政大学文学部心理学科荒井ゼミ卒業論文集」

【成績評価の方法と基準】
(1) 作成したレポートや発表の内容が 60%、(2) 意見交換やグループワークへの参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

【学生の意見等からの気づき】
「荒井先生がご指導が丁寧で、履修してよかった」などのコメントをもらいました。意見交換・議論を中心に授業を展開し、関心のある研究テーマの発掘に時間をかけます。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【その他の重要事項】
授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。

【Outline and objectives】
Setting the question of psychology, planing to implement psychological research.

PSY300BG

研究法Ｉ（１０）

林　容市

授業コード：A3717　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，自らが問題・課題を提起し，それらを先行研究のレビュー，実験・調査およびデータ分析によって解決することを通じ，論文作成を見据えた研究の実践方法を学びます。

【到達目標】
1. 目的とするデータが掲載されている論文の検索し，情報を取りまとめる（レビュー）ことができる。
2. 論文に記載されている実験・調査方法，分析法が理解できる。
3. 研究計画を立て，研究計画書を作成できる。
4. 発表資料を作成し，聴衆が理解しやすいプレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
研究課題の設定，文献のレビュー，研究仮説の設定，研究計画書の作成，実験計画，実験・調査の遂行，統計解析，レポートの作成，プレゼンテーションなどの各方法を学び，実践します。まずはグループでの作業から取り組みますが，最終的には個人ごとにテーマを設定し，研究計画諸の作成およびプレゼンテーションを行います。本授業で対象とする予定の主たる研究テーマは以下の通りです。
○身体活動・スポーツ中の感覚認知 / 心理的情報と生理的状態の対応
○体型認識と減量行動・リバウンド・身体活動量
○痩身指向に関与する性格・意識の特徴
○高齢者・有疾患者の運動・身体活動と Quality of Life / 生活満足度
また，前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては，授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	概要の説明	授業計画や実践内容などについて説明を受け，グループ分けを行う。
第 2 回	研究テーマの設定	研究遂行に関する講義を受ける。グループごとの研究テーマを設定する。
第 3 回	研究課題の設定	研究テーマに関する文献をレビューし，グループごとに研究課題を設定する。
第 4 回	研究計画の立案 1	グループごとにミニ研究の計画を発表し，内容に関して論議する。
第 5 回	研究計画の立案 2	グループごとにミニ研究の計画を発表し，内容に関して論議する。
第 6 回	研究計画書の作成	研究計画書の作成方法に関して講義を受ける。グループで研究計画書を作成する。
第 7 回	研究の実践 1	グループごとに，ミニ研究に向けたデータ収集の準備・実践を行う。
第 8 回	研究の実践 2	グループごとに，データ分析，結果のまとめ・解釈を行う。
第 9 回	研究成果の発表	ミニ研究の結果報告会（ミニ研究の結果をグループごとに発表する）。
第 10 回	論文作成法の解説	研究結果を論文にまとめる技法などの講義を受ける。
第 11 回	個人研究の計画	卒業論文で対象としたい研究テーマについて文献をまとめ，課題を明らかにする。
第 12 回	個人研究の発表 1	卒業論文で対象としたい研究テーマについて，研究計画を発表する。
第 13 回	個人研究の発表 2	卒業論文で対象としたい研究テーマについて，研究計画を発表する。
第 14 回	個人研究の計画	卒業論文の研究計画について討論し，まとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
ほとんどの回で文献の検索やレビュー（まとめ），プレゼンテーションの準備，研究計画書の作成などの課題を課します。それに従って必ず資料等の作成，発表準備をしてきてください。各授業における準備および復習等の時間は，それぞれ 2 時間を標準とします。
また，個人研究，グループ研究共に，授業以外に時間を設けて実験・調査，発表準備などの作業を行う必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しません。必要に応じて適宜資料の配付，書籍・文献の紹介をします。

【参考書】
浦上昌則，脇田貴文．心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方．東京図書．

【成績評価の方法と基準】
評価は，1）実験・調査・発表の内容： 50%，2）最終的な個人研究の研究計画書の内容： 20%，3）授業への参画状況（出席・発言など）： 30%，で行います。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度はすべてオンラインでの授業でしたが，どうしても学生同士の交流が希薄になってしまい，グループでの活動が困難な状況でした。
卒業論文の作成やゼミ内での活動において重要な学生間のコミュニケーションが不十分な状況となってしまいました，また，各種実験機器に関しての説明も実施できませんでしたので，2021 年度は対面による様々な活動を充実させて行きたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
各種原稿・レポートに対してコメントをつけて返却した場合，タブレットやスマートフォンではそのコメントを確認できないという意見がありました。そのため，自宅または学内でパソコンを使用して原稿やレポートを確認できるように準備・使用環境の確認をしておいてください。

【その他の重要事項】
運営方針や初期の活動を行うグループ分けをしますので，受講者は初回の授業に必ず出席してください。
万が一、希望者が定員を超過した場合は，GPA および「演習Ⅱ事前調査票」の記述内容の具体性に基づいて受講者を選抜します。

【Outline and objectives】
This class aims to develop a research study with a view to paper preparation by raising problems and solving them through reviews of previous research, experiments, surveys, and data analysis.

PSY300BG

研究法Ⅱ（1）

高橋　敏治

授業コード：A3651　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今まで学んできた心理学の知識と方法論をベースに，卒業研究を実施する上での必要な能力を習得します。論文作成上の問題点を，ゼミ形式で検討します。

【到達目標】
実際の調査や実験を行い，論文の執筆に結び付けた問題点や修正点について活発な議論をします。まとめに至る段階で何回か，議論し，修正し，卒論を準備します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には受講生自身が準備してきたことを発表してもらい，それを討論するということを繰り返します。 各自の発表の準備および実際の発表を通じて，自分の考えを整理して，そこで提出されたコメントを参考にしながら，客観的に自分の研究を検討する姿勢を獲得していきます。 また，質問紙の作成や実際に実験を実施する際の教示や説明の練習の場として活用します。授業時間内に，必ず質疑応答の時間を設け，生じた疑問や問題を討論します。発表後には，振り返りレポートを提出してもらい，疑問点などを授業内でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	秋学期の授業計画説明と順序・役割決め
第 2 回	研究発表【3-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 3 回	研究発表【3-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2
第 4 回	研究発表【3-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 5 回	データ整理	Excel の使い方、データの扱い方など
第 6 回	研究相談 1	問題点や疑問点の整理
第 7 回	データ処理	データ処理，統計分析など
第 8 回	研究相談 2	問題点や疑問点の整理
第 9 回	図表のまとめかた	記述統計表やグラフの適応の仕方など
第 10 回	研究相談 3	論文の記載上の問題
第 11 回	研究発表【4-1】	順番を決めた上で計画の吟味検討 1
第 12 回	研究発表【4-2】	順番を決めた上で計画の吟味検討 2，卒論仮提出
第 13 回	研究発表【4-3】	順番を決めた上で計画の吟味検討 3
第 14 回	よく見かける論文記載上の間違い（実例） 総括・まとめ	仮提出論文フィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間合計 4 時間を設定しています。
第 1 回　3 回目研究発表の原稿作成 1
第 2 回　3 回目研究発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成
第 3 回　3 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
第 4 回　3 回目研究発表の原稿作成 4 と発表後の修正版レポート作成
第 5 回　卒論データの入力上の問題や作成上の問題点レポート作成 1
第 6 回　卒論データの統計上の問題点レポート作成
第 7 回　卒論仮説と対応させた統計分析の問題点レポート作成
第 8 回　卒論図表作成上の問題点レポート作成
第 9 回　卒論作成上の問題点レポート作成 1
第 10 回　4 回目研究発表の原稿作成 1 と発表後の修正版レポート作成，卒論仮提出用原稿作成
第 11 回　4 回目研究発表の原稿作成 2 と発表後の修正版レポート作成，卒論仮提出用原稿作成
第 12 回　4 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成，卒論仮提出用原稿作成
第 13 回　4 回目研究発表の原稿作成 3 と発表後の修正版レポート作成
第 14 回　卒論仮提出用原稿修正版の作成
　　要旨原稿の作成

【テキスト（教科書）】
特に，テキストは用いません。 各自が自らのテーマに関連する資料を用意していきます。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 %），発表（40 %），レポート課題（20%）によって総合的に評価します。 発表については，発表原稿だけでなく，発表時に議論された問題点や修正点を反映した振り返りレポートとして，それを提出して下さい。必要に応じて，次の授業で議論します。

【学生の意見等からの気づき】
15 名の受講者中 7 名から回答を頂きました。4-5 の段階が，授業の工夫では 57 %，理解できたかで 100 %，履修してよかったかは 86 %でした。授業外学習は 1 時間以上の人と 3 時間未満の人が大半でした。今年は，3 年は卒論の準備，4 年生には卒論制作に専念するように授業や課題の内容を変えたので，その影響があると思われます。自由記述では，「オンラインでもこまめに個人面談の機会を設けていただけてよかったです」「赤ペン先生（4 年生の卒論の添削）等、来年の卒論執筆に向けて知識が深まりました」などのコメントがありました。学生のいろいろな実情を考慮しながら授業の内容の工夫や進行を考えたいと思います。今年はコロナ禍の影響で夏休みにゼミ合宿やコンパを実施することができず，それが残念との意見も寄せられました。次年度は，そのような場合はオンライン飲み会などを設定し，皆さんとの親交をさらに深めようと思います。

【学生が準備すべき機器他】
ノート PC，パワーポイントを使用しますので，ノート PC 準備係とプロジェクター係を決めます。授業支援システムを利用して，資料配布やお知らせします. 必ずファイルが添付できるメイルを授業支援システムに登録して下さい。

【その他の重要事項】
【重要】新型コロナ肺炎に関する状況を考えて授業形態をオンライン授業などに変更する場合があります。皆さんの希望も調査したいと思いますので, 初回の授業には必ず出席して下さい。
【オフィスアワー】シラバスの教員紹介に記載してあります。卒論で脳波などの心理生理機器を使用する場合は，生理心理学・生理心理学実習を履修することをお勧めします。また，卒論で睡眠や眠気に関する研究を希望される場合は，精神生理学特講の履修をお勧めします。担当教員は，厚生労働省精神保健指定医，日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かして，一緒に考えて行きます。

【Outline and objectives】
Based on the knowledge and methodology of psychology we have learned so far, we will acquire the required abilities to conduct graduation research.

PSY300BG

研究法Ⅱ（2）

吉村　浩一

授業コード：A3652　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
自分の力で実践的研究を設計・実施し、考察するために必要な心理学的知識とスキルを学びます。

【到達目標】
3 年次生は、関心ある研究テーマに対し、実践的研究の計画を作り上げる準備をすることを目標とします。4 年次生は、3 年次に獲得した知識・能力に基づいて、自分自身の研究を実施し、それにより生み出したデータを整理する技能と考察する能力を身につけることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面とオンデマンドの回を原則として交互に行う予定ですが、状況により変更する可能性がありますので、Hoppii の「お知らせ」に注意しておいてください。
　3 年次と 4 年次とのあいだで共通するテーマや研究法があれば、3 年次生は 4 年次生の知識や技能を踏まえて発展させる努力を行ってください。逆に 4 年次生は、3 年次生に対して積極的にアドバイスすることを通して、自分の研究の進め方を客観的に捉え・評価する姿勢で臨んでください。特に、研究計画書の書き方や発表の仕方、論文の書き方などは全員に共通する課題なので、お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。
　毎週の課題の提出およびフィードバックは、授業中ないしは授業支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	現在位置の確認	3・4 年次生とも，現時点での到達点の自己評価
第 2 回	仮説の提示と検討	4 年次生は計画している研究での仮説を明確化し，3 年次生とともに検討
第 3 回	心理学的研究の土俵に載せる	3 年次生は関心あるテーマを心理学的に検討できる様式として提案し，全員で評価検討
第 4 回	研究倫理の確保	4 年次生の実施計画を研究倫理の観点から全員で検討
第 5 回	研究テーマの確立（1）	3 年次生は心理学的研究としてテーマを整理し、研究法を具体化
第 6 回	研究テーマの確立（2）	3 年次生は心理学的研究としてテーマを整理し、研究法を具体化
第 7 回	データの整理（1）	4 年次生が産出したデータの整理方法の検討
第 8 回	データの整理（2）	4 年次生が産出したデータの整理方法の検討
第 9 回	実験計画の立案（1）	3 年次生による実証的研究計画の構築
第 10 回	実験計画の立案（2）	3 年次生による実証的研究計画の構築
第 11 回	発表の仕方	口頭発表の仕方と心得，プレゼン／配布用資料の作り方
第 12 回	論文の書き方	学術論文と同様の内容・形式のミニ論文の書き方の実現
第 13 回	成果発表（1）	成果発表，質疑応答
第 14 回	成果発表（2）	成果発表，質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各人の研究の流れ（テーマの設定，論文の講読，問題提起，実験・調査の計画と遂行，データの分析，成果発表）に沿って，毎回、各人ごとの達成目標を設定し、次の回までに研究を進展させ発表する準備を授業時間外に行います。その成果を学習支援システムに課題として回答してください。具体的には、関心を持っているテーマに関する情報収集、文献の読み込み、研究法の立案などの準備を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは使いません。

【参考書】
研究テーマや課題に応じて適宜，各人に対して参考文献を授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
毎回の課題に対する回答を平常点とします。平常点を 70 %，学期末の成果レポートを 30 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
全員に関わる問題は全員に対して問いを投げかけ、全員で検討していくスタイルの構築に努めます。

【その他の重要事項】
この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業です。重複履修を原則としていますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to acquire the knowledge and skills to perform a psychological research.

PSY300BG

研究法Ⅱ（3）

渡辺　弥生

授業コード：A3653　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
卒業研究をめざした専門演習の最終ステップ。研究法Ⅰで完成させたプランを実行にうつす。問題と目的のもとにどのような方法を実行するかを決定します。対象者、調査・観察・実験などの確定。実施する時期やデータの収集方法や手続きについて計画を練り、結果の分析方法および考察の進め方などについても学びます。研究の遂行とともに推敲ともに各自論文の作成を実行します。

【到達目標】
心理学研究の論文の書き方について習得し集大成できる力を獲得します。同時に、プレゼンテーションなどについてのスキルや研究協力者を得たり、フィードバックできるソーシャルスキルを獲得します。すなわち、論文を書くということが、課題をくりクリエイティブに考えだし、効果的な方法で探求し、結果を適切に分析し、なぜそのような結果が得られたのか
深く考察するといった総合力を身につけることにつながり、結果的にキャリア形成に必要なスキルを学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
一人一人の予習・復習がベースになり、授業では集団の良さを生かした演習方式をとります。他人の考えを聞き、自分の考えを述べることができるようにします。ペアワーク、グループワークなどをもとに、課題解決をしていきます。全員が意見や質問を発言できることをめざします。アクティヴラーニングを基本とする。課題のフィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画のまとめ	全体の確認 問題と目的のライティング
第 2 回	方法論について	方法の確認：方法をライティング
第 3 回	材料および手続きの決定	ライティング
第 4 回	分析方法の想定	問題と目的で書いた仮説を検討するためにどのような方法が望ましいか決定。
第 5 回	分析方法について 1	分析を始める。データセットを確認してメインの分析をする。その結果を図表にしライティングする。
第 6 回	分析方法について 2	前の授業の継続
第 7 回	結果 1	結果についてライティングする。
第 8 回	結果 2	前の時間の継続
第 9 回	考察	結果を考察し、ライティングする。引用文献を入れて考察する。
第 10 回	研究発表 1 4 年生発表	プレゼンテーション
第 11 回	研究発表 2 4 年生発表	プレゼンテーション
第 12 回	研究発表 3 3 年生発表	プレゼンテーション

第 13 回　研究発表 4　　プレゼンテーション
　　３年生発表
第 14 回　シェアリング　　ディスカッション
　　予備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、各時間に消化できなかったことを補います。個人差が生じると予想されるが、遅れている人は時間外に補うようにします。個人、ペア、グループなどを効果的に用いて、応用力を伸ばせるようにします。予習復習に各２時間をかけることとする。

【テキスト（教科書）】
適宜授業時に伝える。

【参考書】
研究Ｉで紹介。論文を書くためのテキストで読みやすい本を一読しえおく。

【成績評価の方法と基準】
　質問や意見をいうなど参加態度を含む平常点（５０％）とプレゼンテーション（５０％）

【学生の意見等からの気づき】
個人の進行の差があるが、個人及び全体の観点からも充実した内容にしたい。また、議論が積極的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイント、ＤＶＤなど。

【その他の重要事項】
上記の進行は多少状況によって変化します。授業外のゼミ活動、研究協力者へのフィードバックを重視します。

【発達心理学】
https://sites.google.com/site/emywata/Home

【Outline and objectives】
This subject is specifically designed to support graduation researches. From experiences obtained from training in the second year and third year, students are required to plan and propose their research plans. In this training, students will have to conduct studies regarding original methods and theories which are then used to solve the identified problems. In addition, this training will also provide the necessary writing skills for students to correctly organize, discuss, and write the outcomes of the study which they conducted.

PSY300BG

研究法Ⅱ（４）

福田　由紀

授業コード：A3654　｜　曜日・時限：**水曜２限**
秋学期・２単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業では、演習Ｉ，演習Ⅱと研究法Ｉで習得したことをふまえて、実際に実験・調査したことを学術論文の形にまとめて，効果的に発表することが目標です。自分の興味にあったテーマの研究を公刊できる形にまとめていきましょう。

【到達目標】
＊３年生:自分の関心ある研究テーマに対し，心理学研究の計画を作り上げる。これにより，自分自身で問題を発見し，それを解決できるようになる。そして，４年生の発表に対して積極的に聴くことにより，分析技能や考察する力が身につく。
＊４年生：春学期で蓄えた知見や技能を用いて，適切な分析や考察を行い，発表する。これにより，高い分析技能や論理的に考察する力が身につく。また，ピアに発表することにより，自分の状態を客観的に評価するスキルも身につく。
＊共通の目標：論文として的確な文章を書ける。また，授業中，みんなの前で発表したり，それに対してクリティカルな意見を発言したり，他者が書いてきた文書をピアレビューしたりする。その結果，他者の仕事（発表・文書）に対して，建設的なアドバイスができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
　３年生と４年生による協同学習を目指した合同授業です。３年生は卒論を見据えた研究について発表を行います。４年生は個人の研究を個別に発表したり，それぞれが書いた文書を推敲したりする方式が中心となります。その際，他の人の発表や抱えている問題点を自分自身の問題として受けとめる姿勢を持って下さい。具体的には，発表者が抱えている問題のうち自分にも当てはまることがないだろうかかという態度で注意深く聞き，分からないことの質問や発表者の発表内容に対するコメントを積極的に行ってください。特に，発表の仕方，論文の書き方などは全員に共通する課題なので，お互いの発表・発言を生かしてよりよいものを作り上げる努力をしてください。
　また，Hoppii を通じて，授業の前に提出した事前課題に関しては，授業中に，全体に対してフィードバックを行います。
加えて，COVID-19 感染症蔓延状況に応じて，オンライン授業を中心に行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・文章力 1 アップ	授業の進め方とアジェンダの確認。各自の進捗状況の報告。
第 2 回	研究力 1・文章力 2 アップ	方法のピアレビュー。 文章力アップ７のピアレビュー。
第 3 回	発表スキル 1 アップ	３年生： 4 年生へアドバイス。 ４年生：結果・考察の発表１。
第 4 回	発表スキル 2 アップ	３年生： 4 年生へアドバイス。 ４年生：結果・考察の発表２。
第 5 回	研究力 2・発表スキル 3 アップ	３年生：関連論文の発表１。 ４年生：３年生へのアドバイス。 Touch & Go!
第 6 回	研究力 3・発表スキル 4 アップ	３年生：関連論文の発表１。 ４年生：３年生へのアドバイス。 共通：文章力アップ８のピアレビュー
第 7 回	研究力 4・発表スキル 5 アップ	３年生：プレ論文の結果・考察の発表１。 ４年生：３年生へのアドバイス。 Touch & Go!
第 8 回	研究力 5・発表スキル 6・文章力 3 アップ	３年生：プレ論文の結果・考察の発表２。 ４年生：３年生へのアドバイス。 共通：結果のピアレビュー。
第 9 回	研究力 6・文章力 4 アップ	修正された結果と考察のピアレビュー。 Touch & Go!
第 10 回	研究力 7・文章力 5 アップ	引用文献・図表・要旨のピアレビュー。
第 11 回	文章力 6・発表スキル 7 アップ	共通：論文の仮提出。 文章力アップ９のピアレビュー。 効果的な発表のコツの講習会

第 12 回	発表スキルアップ 8	3年生：卒論構想発表1 4年生：発表予行練習1
第 13 回	発表スキルアップ 9	3年生：卒論構想発表2 4年生：発表予行練習2
第 14 回	発表スキルアップ 10 とまとめ	3年生：卒論構想発表3 共通： Touch & Go!　授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，発表や作業があります。授業計画に沿って，事前の課題を行い，自分の発表の準備と他人の発表資料を予習し，コメントを考えてくる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
適宜，授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
自分が発表するのは当然ですが、毎回授業に参加し発表者に対してコメントすることも重視します。評価は発表 60 %とコメント 20 %，事前の課題提出 20%によって決められます。発表は，わかりやすく的確に説明することが求められます。また，コメントは発表者に資するような建設的な意見を述べることが求められます。演習なので必ず出席してください。特に、自分の発表時に絶対に！ 欠席しないこと。どうしても欠席する場合には、事前に福田に連絡して下さい。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は Zoom を使ったオンライン授業でした。うまくいくかなと心配していましたが，出席率はよく，かつ，発表もうまくできました。以下に受講生の感想を紹介します。社会に出る前に，オンラインでの効果的なプレゼンや聞き方を学べたことは，本当に良かったですね
・オンラインでの利点を生かして社会人になったときにある程度困らないようにはできたと思う。
・発表の仕方や文章の書き方など、卒論を執筆、発表する上で非常に重要なことを学びました。
また、発表を聞くときに何に注目すべきかということを、自分なりに考えられたと思います。

【その他の重要事項】
授業の運営方針や発表順の決定などをしますので、受講者は初回の授業に必ず出席してください。実験・調査の内容は福田の守備範囲である言語心理学や教育心理学関係だとより詳細な指導が受けられると思います。また，この科目は本年度より 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので，3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。

【初回授業】
初回授業はオンラインで行います。ZoomID は Hoppii の「お知らせ」を通じて行います。
また，初回授業時に受講者の数を確定したいと思います。この授業の受講希望者は，必ず，出席をしてください。初回授業に欠席した場合，受講できない場合がありますので気をつけてください。
なお，上記内容は 2021 年 3 月末現在の状況におけるお知らせです。変更がある場合は，Hopii の「お知らせ」機能を用いてアナウンスします。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn how to psychological research. Students will be expected to make a papar of one's research, and present it effectively.

PSY300BG

研究法Ⅱ（5）

田嶋　圭一

授業コード：A3655　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまで学んできた心理学の知識を活かし，高水準の心理学研究を行うために必要なノウハウを習得し，みずから設定したテーマに沿って研究を行い，成果としてまとめていくことがテーマです。

【到達目標】
1. 心理学的に意義があり倫理的に適切な研究計画を立案できること。
2. 自分が立案した研究計画に沿って研究を的確に遂行できること。
3. 収集したデータを図表にまとめ，適切な統計的手法を用いて分析・解釈できること。
4. 研究成果を口頭発表および論文として効果的に発信できること。4 年生は卒業論文を，3 年生はミニ卒論を完成させることを最終的な到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回何等かの課題を課します。次回までに課題に取り組み，授業にて発表・ディスカッション・相互フィードバックを行います。毎回休まずに出席する心積もりでいてください。自分自身の研究にだけ取り組むのではなく，他者の取り組みにも関心を寄せ，建設的なコメントを積極的に行うスキルを磨くことも重視します。したがって，個人発表だけでなくグループディスカッションや掲示板を利用したピアレビュー活動など取り入れながら授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明，研究計画の確認，発表順の決定
第 2 回	研究の準備	実験・調査の準備，倫理審査
第 3 回	研究の実施	研究の実施，進捗状況報告
第 4 回	研究の実施，論文執筆：目的，方法	研究の実施，研究目的から方法までの書き方
第 5 回	研究中間発表（1），研究の実施	【3 年生】中間発表前半。【全員】ピアレビュー。
第 6 回	研究中間発表（2），データの整理・加工	【3 年生】中間発表前半。【全員】ピアレビュー。
第 7 回	研究中間発表（3），記述統計量の計算	【4 年生】中間発表前半。【全員】ピアレビュー。
第 8 回	研究中間発表（4），推測統計の実施	【4 年生】中間発表前半。【全員】ピアレビュー。
第 9 回	結果の解釈，論文執筆：結果，考察	効果的な図表の作成，結果（事実）と考察（解釈）の書き方
第 10 回	論文執筆：導入から引用文献まで	問題と目的，引用文献などの書き方，論文全体の執筆・推敲
第 11 回	研究最終発表（1）	【3 年生】成果発表。【4 年生】論文仮提出。【全員】ピアレビュー。
第 12 回	研究最終発表（2）	【3 年生】成果発表。【全員】ピアレビュー。
第 13 回	研究最終発表（3）	【4 年生】成果発表。【3 年生】ミニ論文提出。【全員】ピアレビュー。
第 14 回	研究最終発表（4），総括	【4 年生】成果発表。【全員】ピアレビュー。授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究の流れ（テーマの設定，論文の講読，問題提起，実験・調査の計画・実施，データの分析，発表）に沿って，ほぼ毎回何らかの達成目標を設定し，次の回までに研究を進展させます。進捗状況を報告するための資料を必要に応じて事前に準備し，授業にて適宜配布・説明してください。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。参考書などは適宜授業で紹介します。

【参考書】
南風原朝和・市川伸一・下山晴彦（編）（2001）．心理学研究法入門　―調査・実験から実践まで―　東京大学出版会.
高野陽太郎・岡　隆（編）（2004）．心理学研究法　―心を見つめる科学のまなざし―　有斐閣アルマ.
松井豊（2006）．心理学論文の書き方―卒業論文や修士論文を書くために―　河出書房新社.

【成績評価の方法と基準】
平常点 30%，ピアレビュー 20%，発表 50%の割合で評価する予定です。原則として，正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合や発表を怠った場合は単位が授与されないものとします。欠席する場合は必ず事前に理由を添えて教員に連絡してください。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は授業改善アンケートが実施されませんでしたので，2019 年度のアンケート結果に基づいた気づきを以下に記します。
全員が「積極的な工夫がされていた」「履修してよかった」に対して，89%の人が「理解できた」に対して「4」または「5」と回答してくれました。授業外学習時間については 89%の人が「週 3 時間以上」という結果でした。秋学期は春より忙しかったですが，しっかりやる時と少し緩めにやる時とメリハリをつけて授業を展開したこと，こまめに課題の連絡などを行ったこと，ピアレビューを通してお互いに論文に対してコメントし合えたこと，論文執筆を数回に分けて行ったことなどが好評だったようです。一方で，グループディスカッションの時にどうしても 4 年生が中心となって話してしまい 3 年生がディスカッションに入りにくいこと，発表準備と別の課題（ピアレビューなど）が同時期にあって負担が大きいことなどは改善の余地があるかも知れません。

【その他の重要事項】
この科目は 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので，3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。
なお，授業計画や運営方針の説明などをしますので，受講者は初回授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
In this course, students will learn the skills necessary to conduct their own research project in psychology. Based on the knowledge that they have acquired so far, they will formulate their own research questions, conduct the research using appropriate methods, analyze the results, and present their achievements.

PSY300BG

研究法Ⅱ（7）

島宗　理

授業コード：A3657　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
社会的・個人的に重要な行動問題の解決策を科学的に発見、開発する方法論として、行動分析学の研究法を学びます。研究法 II では、3 年次生は小実験の報告書と卒論の実験計画書、4 年次生は卒業論文を書き上げ、発表するまでを支援しますが、その過程で、論理的な文章作成や根拠に基づいた提案、プレゼン、討論の練習をしていきます。

【到達目標】
研究法 II で主に目指すのは以下の知識や技術の習得です：自分の実験を社会的、学術的な文脈に位置づけること、実験から得られたデータを分析し、わかったこと、わからなかったことを整理し、わからなかったことはどうすればわかるようになるかを提案すること。わかったことを数量化し、図表にまとめ、読み手や聞き手にわかりやすいように発表すること、論理的に一貫した、読みやすい文章を書くこと。詳細な規定にきめ細かく対応した校正を行うこと。締切から逆算して計画をたて、遂行すること。自分では解決できない問題について仲間や指導教員から助言をもらうこと、助言すること。
これらはすべて研究にとって必要な技能や知識ですが、卒業して就職してからも皆さんの職場で必ず役に立つものです。卒論のためだけの研究法ではなく、この機会に、一生使える心理学の専門性を習得してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週、課題を出します。授業はゼミ形式で、課題の発表と討論を中心に進めます。課題へのフィードバックは授業および掲示板で行います。3 年次には研究法 I で行った小実験と次年度に行う卒論実験を題材に課題に取り組みます。4 年次には各自の卒論研究を題材に課題を進めます。ゼミの時間の大半を発表や討論の練習に使いますので積極的に参加して下さい。
授業をオンラインで行うか対面で行うかは感染状況によって決定し，事前にゼミ Slack で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	全員： 授業内容と方法、約束事を説明します。 3 年次生は小実験、4 年次生は卒論実験の内容を 1 分間でプレゼンする練習をします。
第 2 回	論文を書く： アウトラインを書く	全員： アウトラインを書いてから本文を書く方法を解説します。卒論の方法の章を使って練習をします。日本心理学会「執筆・投稿の手引き」の参照方法も解説します。 3 年次生は小実験のレポートを執筆します。4 年次生は卒論実験を論文にしていきます。
第 3 回	論文を書く： データの視覚的な提示	全員： 実験の中心的なデータを選び、それを視覚的に伝える図を描きます。独立変数と従属変数の関係性がわかりやすく提示できているかどうか、「手引き」やゼミの「チェックリスト」にそっているかどうかを確認します。
第 4 回	論文を書く： 推敲する (1)	全員： 方法の章の完成版を提出し、チェックリストに基づいて推敲します。方法の章で最も重要なのは読み手がその実験を追試できるように書かれているかどうかです。読み手の立場から自分の論文を読み直して推敲する練習をします。

第 5 回	論文を書く： 事実を書く	全員： アウトラインから書く方法を結果の章を使って練習します。読み手に自分の研究のセールスポイントをわかりやすく伝えるために、順序や論理展開を工夫する練習です。
第 6 回	論文を書く： 先行研究をまとめる	全員： 春学期にまとめた先行研究を表にし、「手引き」に即した作表方法を学びます。先行研究を紹介する段落を書き、文献引用の作法を練習します
第 7 回	論文を書く： 研究を位置づけるアウトラインを書く	全員： 第 6 回でまとめた先行研究の展望を活かし、また春学期に作成したストーリーを振り返り、序論のアウトラインを作成します。パラグラフ・ライティング法（段落をトピック文とサポート文で構成する手法）を解説し、練習します。
第 8 回	論文を書く： 推敲する (2)	全員： 第 5 回で作成したアウトラインに肉付けをして結果の章をまとめます。データの分析や統計が適切に、かつ充分に行われているかどうかを確認します。
第 9 回	論文を書く： 推敲する (3)	全員： パラグラフ・ライティング法を使って序論を完成させます。日本語の作文技術について確認し、推敲の練習をします。さらに、チェックリストを使って、「執筆・投稿の手引き」にそうように推敲します。
第 10 回	論文を書く： 執筆ルールに基づいて校正する	全員： 引用文献一覧を作成します。「執筆・投稿の手引き」にそうように推敲します。また、本文と見合わせて、引用の方法が適切かどうかを確認します。
第 11 回	論文を書く： 推敲する (4)	全員： 小実験レポート、卒論のゼミ内提出の前の最終確認とチェックリストを使った推敲の練習をします。また、自分で書いた文章を自分で推敲するのは困難であることを自覚するために、他の受講生の卒論を校正する練習もします。校正に使う一般的な記号を習得しましょう。
第 12 回	研究計画 (1)	3 年次生： 次年度に行う卒論の実験計画を発表し、討論します。 4 年次生： 卒論を推敲し、提出します。
第 13 回	研究計画 (2)	3 年次生： 次年度に行う卒論の実験計画を発表し、討論します。 4 年次生： 卒論の要旨を作成して提出します。要旨は卒論のストーリーをわかりやすく伝える文章です。セールスポイントの抽出と伝達、文字数が限られている場合の推敲方法について解説し、練習します。
第 14 回	研究計画 (3)	3 年次生： 次年度に行う卒論の実験計画を発表し、討論します。 4 年次生： 卒論発表会に備え、卒論研究の発表練習をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎週、課題をだしますので、各自取り組み、提出して下さい。以下、いくつかの課題を例示します。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 3 時間を標準とします。
○春学期に実施した実験の発表資料を作成し、練習をする。
○自分の研究の社会的意義を示す資料を収集し、発表資料としてまとめる。
○日本心理学会の「執筆・投稿の手びき」およびゼミの論文推敲チェックリストを用いて、「結果」の章を推敲し、提出する。

【テキスト（教科書）】
島宗 理 (2019). ワードマップ　応用行動分析学 新曜社

【参考書】
○論理が伝わる世界標準の「書く技術」 倉島保美（2012） 講談社
○ 2015 年改訂版 執筆・投稿の手びき　日本心理学会（2015）

【成績評価の方法と基準】
○授業への参加（課題の発表や討論）（40 %）、課題遂行（40 %）、レポート提出（20 %）から成績を評価します。
○欠席が 5 回以上になると自動的に E 評価になります。

【学生の意見等からの気づき】
（2020 年度の授業改善アンケートより）

コロナ禍で色々な制限がかかるなか，しっかり実験計画を立て，準備し，実施し，論文にまとめられたことが成果でした。授業運営としては，学生同士の話し合いにそば耳を立てて，混迷したり，間違った方向へ進んでいるところを矯正しにくいところが障壁でした。ゼミの歓迎会や合宿もできず，例年ならそうした活動を通して形成できる関係性が希薄なまま，研究という各種授業の中で最も強化率の低い活動に取り組むのは大変だっと思います。ただ，そうした卒論研究環境はみなさんが就職して働く職場環境に最も近いはずなので，本物の山に登る前に十分に練習を積んでいるとみなし，次に何を活かせるかに目を向けてください。

【その他の重要事項】
○ この科目は本年度より 3 年次生と 4 年次生の合同授業となります。重複履修を原則としていますので、3 年次と 4 年次には同じ教員の研究法Ⅰ・Ⅱを受講してください。本年度は旧カリの 4 年次生と新カリの新 3 年次生の合同授業となります。
○ オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn and master research methods in behavior analysis, including evaluation of single-case design data with visual inspection, and interpretation of functional relationship between dependent and independent variables. Student will also aim to master how to write a research paper, by learning about paragraph writing, Japanese Psychological Association's publication manual, and other miscellaneous rules in academic writing.

PSY300BG

研究法Ⅱ（8）

越智　啓太

授業コード：A3658　｜　曜日・時限：**火曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜テーマ＞
心理学研究を形にしていく！
本演習では、おもに社会と人間との関わり、人間と人間との関わり、さまざまな社会現象に関する現象を対象にして、心理学的に問題を分析していく。受講者は、自ら研究テーマを設定し、文献を調べ、実験や調査を行って、分析し、その結果を論文としてまとめるという具体的な作業を行っていく。また、その過程で、口頭発表やポスター発表を行ったり、質疑応答や討論などを行う（場合によっては学会発表や学会投稿論文の作成も行う）。扱うテーマは、「社会」の中の人間行動を対象とするものであれば、ひろくて構わない。具体的には、説得的コミュニケーションや人間関係の進展、対人魅力、ノンバーバルコミュニケーション、うわさ、マーケティング、集団における意思決定やリーダーシップの問題、少年犯罪や犯罪捜査、DV（ドメスティックバイオレンス）や児童虐待の問題、テロの問題、少子化問題などである。
研究法Ⅰでは、まず、具体的なテーマをみつけ、それをもとに研究計画をたて、実験や調査を行う段階までを中心に作業を行う。研究法Ⅱでは、実験や調査の研究結果を統計的に分析し、そこから結論を導き、それを具体的に論文化したり、口頭で発表するという作業を行っていく。これらの作業は連続するものなので、研究法ⅠとⅡは同一教員の授業を取ることが必要である。また、原則として事前調査での希望通りに履修を行うこと。

【到達目標】
①自分の興味に従って研究テーマを具体化する
②研究テーマに関連する先行研究を読み理解する
③実験・調査計画を立て、それを実施する
④調査・実験結果を分析する
⑤分析結果から論理的に考察を行う
⑥結果を論文にする
⑦場合によっては学会発表を行ったり、その予行を行う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
毎回各自の研究の進展状況をパワーポイントで発表し、ディスカッションを行う。実験や調査を授業外で行ってもらうほか、２～３回程度土曜か日曜に集中的な補講を行う。授業時におけるコメントや意見、レポートに対する回答、講評および補足解説については、授業時間、授業後に個別、授業後にウェブを通してのいずれかの方法で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、採点ポリシーなどについて詳しく説明する
第 2 回	研究発表 1、分析方法指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。統計的な事象について個別に指導する。
第 3 回	研究発表 2、分析方法指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。統計的な事象について個別に指導する。
第 4 回	研究発表 3、図表レイアウト指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。研究論文執筆に当たってのグラフ、表の記法について個別に指導する
第 5 回	研究発表 4、図表レイアウト指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。研究論文執筆に当たってのグラフ、表の記法について個別に指導する
第 6 回	研究発表 5、参考文献記法指導	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。参考文献リストの作成についての指導
第 7 回	研究発表 6、論文の構成指導	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。論文作成に当たっての構成についての個別指導を行う。
第 8 回	研究中間発表	各自の研究を 15 分間で効果的にプレゼンテーションする。
第 9 回	研究発表 7、論文指導 1	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 10 回	研究発表 8、論文指導 2	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 11 回	研究発表 9、論文指導 3	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 12 回	研究発表 10、論文指導 4	受講者は、研究の進展状況、問題点等について発表を行う。他のメンバーはそれにアドバイスを行う。研究論文について個別に内容を指導する。
第 13 回	プレゼンテーション演習 1	各自の研究発表について個別に指導する
第 14 回	プレゼンテーション演習 2	各自の研究発表について個別に指導する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回必ず、その週に行った研究活動について報告してもらいますので、その準備をしてくること。
その前提として、毎週、少しずつでも自分の研究を進展させること。
パワーポイントの使い方、オーラルでの発表について、毎回、練習してくること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しない。個別の研究テーマに従った文献を紹介する。

【参考書】
使用しない。各自の研究テーマに従った文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】
授業時のディスカッションへの参加 50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】
例年、高い評価を得ています。本年度はさらに受講者に興味深く、スキルの修得が出来るような演習にするようにがんばります。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用する。
各自、パワーポイントのスキルをあらかじめ、つけておくこと。

【その他の重要事項】
大学 4 年間の総仕上げの授業なので、全力でがんばろう！
この授業は出席をもっとも重視する。出席が規定日数に達さない場合には、就職が決まっていても単位を与えないので注意すること。欠席が多い場合には、メールによって 2 回だけ警告を行う。就職試験などでやむを得ず、欠席する場合には、必ず事前に届けること。この場合には、授業のかわりに、上限 4 回まで個別指導を出席とすることもあるが例外的な措置であるのでそのつもりで。
正規の授業時間以外に１～２回、土曜１～5 限を使用した集中授業（研究のための集中作業日）を行う。1 月には、同様に 1 日かけて、口述試験用のプレゼンテーション練習会を行う。

【Outline and objectives】
Do psychological study and learn writing papers

PSY300BG

研究法Ⅱ（9）

荒井　弘和

授業コード：A3718　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
(1) 心理学の研究計画を実施すること、(2) 心理学の研究論文を執筆すること。

【到達目標】
研究法 I で立案した研究計画に基づき、(1) その研究計画を実施する。そして、(2) 実施した結果を論文化する (3 年生は研究レポート、4 年生は卒業論文)。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
(1) データ分析の結果を報告したり、(2) その解釈について意見交換をしたりして、論文を執筆することができるようになることを目指します。授業中に行うことは、(1) プレゼンテーションと意見交換、(2) グループワークです。
課題に対するフィードバックは、「次の回の授業の序盤に受講生全体に対して」「メーリングリストを利用して受講生全体に対して」「個人的に」のいずれかの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	研究計画の実施経過を報告する	実施経過を報告し、その内容について、意見交換を行う。
第 2 回	データを分析する (1)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 3 回	データを分析する (2)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 4 回	データを分析する (3)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 5 回	データを分析する (4)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 6 回	データを分析する (5)	集めたデータを分析し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 データを再分析して、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 7 回	研究論文を完成させる (1)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 8 回	研究論文を完成させる (2)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 9 回	研究論文を完成させる (3)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 10 回	研究論文を完成させる (4)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 11 回	研究論文を完成させる (5)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 12 回	研究論文を完成させる (6)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 13 回	研究論文を完成させる (7)	研究論文を執筆し、発表する。その内容について、意見交換を行う。 研究論文を書き直し、再度発表する。その内容について、意見交換を行う。
第 14 回	研究内容を口頭発表する	研究論文を元に発表資料を作成し、口頭発表を行う。 その後、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
(1) 研究の実施 (データ収集やデータの分析も含む)、(2) 授業中に提示された課題、(3) 発表資料の作成に取り組みます。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキスト・参考書は用いません。必要に応じて、資料の配付・書籍や文献の紹介を行います。

【参考書】
2010 年度～2019 年度「法政大学文学部心理学科荒井ゼミ卒業論文集」

【成績評価の方法と基準】
(1) 作成したレポートや発表の内容が 60%、(2) 意見交換やグループワークへの参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

【学生の意見等からの気づき】
「相談しやすい雰囲気が良かった」などのコメントをもらいました。意見交換・議論を中心に授業を展開し、研究の実施においては、個別のコミュニケーションも重視したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【その他の重要事項】
授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。

【Outline and objectives】
To implement psychological research plan, to write a psychological research paper.

マス・メディア論

君塚　洋一

授業コード：A3803　｜　曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2 単位
備考（履修条件等）：**文学部共通科目（本来科目：国際文化学部主催「メディアと情報」）**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代社会におけるコミュニケーションを成り立たせるメディアと情報の特性とはたらきをさまざまな分野の考察を通して理解し、生活者として、また社会や市場への幅広い発信に携わる職業人として、メディアに対する姿勢とその活用の基礎を習得する。

【到達目標】
以下 3 点を目標とする。
1）身の回りで起こるメディアを介したコミュニケーションのメカニズム、メディアのはたらきを自覚する。
2）環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有など、社会においてさまざまな目的のために行われるメディア・コミュニケーションの必要性と問題性の両面を学習する。
3）メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行えるようにする。あわせて、あらゆる社会的活動に不可欠となる他者からの理解と支持を得るための情報発信（PR ＝パブリック・リレーションズ）の視点を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
21 年度、この科目は、原則としてオンライン授業で開講され、講義動画の配信（オンデマンド）によりすすめる。授業の初めに、前回の授業で゛提出されたリアクションペーパー（小課題）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定で゛す。
＊
メディア史やメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、SNS などの具体的な題材を通して、情報テクノロジーと社会・文化のあり方、生活者のメディア利用行動やリアリティ意識の変容、市場情報システム、IT 化の進むメディア産業の帰趨など、情報化社会とメディア・人間をめぐるさまざまな問題を考える。
また、著作権をはじめとした知的財産権の取扱いや、個人情報やプライバシーの保護、インターネット等メディアの活用において求められるモラルなど、情報倫理の問題についてもあわせて考えていく。
テーマに関連した資料映像を適宜鑑賞しながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義のテーマと履修上の注意
第 2 回	メディアとは何か-1	メディアとは何か？ 何がメディアになるのか？
第 3 回	メディアとは何か-2	何がメディアになるのか？ メディアの類型（タイプ）
第 4 回	コミュニケーションとは何か-1	コミュニケーション」のさまざまなモデル、その成否を決める要因（1）
第 5 回	コミュニケーションとは何か-2	コミュニケーション」のさまざまなモデル、その成否を決める要因（2）
第 6 回	情報（ニュース）-1	情報とは何か？ どんな要件を満たせばニュースになるのか？ 社会におけるニュースの役割・機能
第 7 回	情報（ニュース）-2 ふりかえりレポート-1	マス・メディアの報道におけるニュースの要件
第 8 回	パブリック・メディア-1	プロパガンダ (宣伝) と広報 (PR) 近年の推奨コミュニケーションの問題
第 9 回	パブリック・メディア-2	環境の監視とジャーナリズム
第 10 回	ソーシャル・メディア-1	ソーシャル・メディアとは何か? その普及と社会
第 11 回	ソーシャル・メディア-2	ソーシャル・メディアの光と影 （1）ネット炎上の実態 （2）SNS での自己演出・アイデンティティ創出
第 12 回	メディア・リテラシー-1	共感をシェアするコミュニケーションとは？

第 13 回	メディア・リテラシー-2	社会をより適切に理解するコミュニケーションとは？ ・ポスト真実／フェイクニュースの拡散と影響など
第 14 回	まとめ ふりかえりレポート-2	社会の動きを適切にとらえ、コミュニケーションを行うためにメディアをどう使いこなすか？ ・情報源の識別／ファクトチェック／メディアと感情 ／メディアのはたらきをどう考えるか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
0）復習として、動画講義のスライドと見比べつつ、配布資料をよく読んでおくこと。
1) テレビやインターネット、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について考える習慣を身につける。
2) あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手 (媒体社、広告会社等) の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。
3）前半の 1 回では、自分が注目したマス・メディアのニュース、まわりの人と話題にしたニュースをピックアップして提出し、授業の題材とする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
原則として使用しない。

【参考書】
・石田英敬『大人のためのメディア論講義』ちくま新書、筑摩書房、2016 年
・ダニエル・ブーニュー『コミュニケーション学講義――メディオロジーから情報社会へ』書籍工房早山、2010 年
・鈴木みどり編『Study Guide　メディア・リテラシー　入門編』リベルタ出版、2000 年
・竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著『新版メディア・コミュニケーション論 1』北樹出版、2005 年
・笠原和俊『フェイクニュースを科学する――拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ』化学同人、2018 年
・カリン・ウォール＝ヨルゲンセン『メディアと感情の政治学』勁草書房、2020 年
・立岩陽一郎、揚井人文『ファクトチェックとは何か』岩波ブックレット No.982、岩波書店、2018 年

【成績評価の方法と基準】
毎回の小課題の提出（約 40 %）、ふりかえりレポート（2 回程度：約 60 %）を課す。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。ただし、7 ～ 8 割以上の小課題の提出、すべてのふりかえりレポートの提出を単位要件とする。

【学生の意見等からの気づき】
メディアと情報について理論と実際の双方を扱うため、とりわけ前者はこの分野の基礎を習得した人でないとやや理解しにくいところがあるかと思う。より平易に伝える努力をする。
毎回、テーマに関わる映像資料、配布資料を用意しており、これらは理解の助けになっているようである。
また、メディア業界における実務について映像を中心に具体的に理解する回を設けているが、業界に関心がある人には好評のようである。

【学生が準備すべき機器他】
とくになし。

【その他の重要事項】
メディアやさまざまな作品表現に興味を持つ学生の受講を希望する。メディア論についての基礎的知識を持っていることを前提とした中級者向けの講義を行う。

【受講上の留意点】
本科目は、講義動画、授業内課題、ふりかえりレポートの 3 つで成り立つ。テーマについて高い関心をもち、積極的なレスポンスと活動を行う意欲のある受講者を求める。

【Outline and objectives】
Students are advised to understand the characteristics and functions of media and information that make communication in modern society through consideration of various fields. And also they should learn the attitude towards media and the basis of their use as consumers, as future professionals engaged in broad dissemination to society and markets.

PSY300BG

研究法Ⅱ（１０）

林　容市

授業コード：A3719　｜　曜日・時限：**水曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
これまでに修得した知識，経験，手法等を用いて実際に情報収集，データ収集・分析，文章作成を行い，卒業論文を作成すること。

【到達目標】
・研究テーマ・課題を設定でし，適切な研究計画を立案できる。
・妥当な方法を用いてデータ収集・分析し，適切に図表を用いて結果を提示できる。
・得られた結果に対して，論理的な考察ができる。
・的確な表記・表現を用いて学術論文が執筆できる。
・得られた結果を効果的にプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
自らの興味に沿って研究テーマを設定し，研究計画について発表し，全体で論議を行います。計画が立案した後は，各自でデータ収集や分析を行い，結果について発表を行い，履修者間で意見交換をします。最終的に卒業論文に関する内容のプレゼンテーションを行います。
また，前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては，授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と卒業論文執筆に向けたスケジュールの確認をする。
第 2 回	研究計画発表	研究計画を発表し，問題点などを含めて全体で論議する。
第 3 回	論文の執筆：方法	論文の「方法」を執筆し，全体で論議・推敲する。
第 4 回	収集データ・分析結果の発表 1	収集データを分析して発表し，全体で論議する。
第 5 回	収集データ・分析結果の発表 2	全体での論議を踏まえて図表を踏まえて結果を示し，発表する。
第 6 回	論文の執筆：結果	論文の「結果」を執筆して全体で論議・推敲する。
第 7 回	論文の執筆：考察（1）	論文の「考察」を執筆して全体で論議・推敲する。
第 8 回	論文の執筆：考察（2）	前回の遂行を踏まえて執筆した「考察」を発表し，意見交換を行う。
第 9 回	論文の執筆：全体	卒業論文全体を執筆し，全体で推敲・意見交換を行う。
第 10 回	要約の執筆	卒業論文の要約を完成させ，発表する。
第 11 回	プレゼンテーション（1）	卒業論文の内容をプレゼンテーションし，意見交換を行う（1）。
第 12 回	プレゼンテーション（2）	卒業論文の内容をプレゼンテーションし，意見交換を行う（2）。
第 13 回	口頭発表練習（1）	指定の時間内でプレゼンテーションを行い，内容などについて討議する（1）。
第 14 回	口頭発表練習（2）	指定の時間内でプレゼンテーションを行い，発表内容の改善に向けて意見交換する（2）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業外での予習・復習の作業が，論文の完成や種々の発表の重要な要件となります。課された課題に添って，資料作成や発表準備を行って下さい。また，各回のテーマ・内容に沿って，授業内活動の補足など，必要な作業をしてください。なお，各授業における準備および復習等の時間は，それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて，または授業中に資料を配付します。

【参考書】
・松井豊（2010）心理学研究法改訂新版　心理学論文の書き方 -卒業論文や修士論文を書くために．河出書房新社
・酒井 聡樹（2007）これからレポート・卒論を書く若者のために．共立出版

【成績評価の方法と基準】
1）研究実施状況・研究論文の内容： 70%，2）発表・質疑応答の内容 20%、2）発表への質問状況・論議への参加状況： 10%，として総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度はすべてオンラインでの授業でしたが，どうしても学生同士の交流が希薄になってしまい，グループでの活動が困難な状況でした。
ゼミ内での活動において重要な学生間のコミュニケーションが不十分な状況となってしまいました。また，2020 年度は 4 年生の卒業論文の内容について十分に理解できなかったという意見もありましたので，今年度は出来るだけ多く 3 年生と 4 年生とで共同で作業を行う機会を設け，受講者全体としての活動を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】
各種原稿・レポートに対してコメントをつけて返却した場合，タブレットやスマートフォンではそのコメントを確認できないという意見がありました。そのため，自宅または学内でパソコンを使用して原稿やレポートを確認できるように準備・使用環境の確認をしておいてください。

【その他の重要事項】
・シラバスの内容については，授業の進行状況や学習者の理解状況によって多少の変更が生じる場合があります。
・授業の運営方針や受講に際しての注意点などを説明しますので，受講者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
The purpose of this class is creating a graduation thesis through the conduct of collect data, analyze, sentence writing with the aid of the knowledge, experience, and methods learned while one is still in university.

言語文化論 I

栗飯原　文子

授業コード：A3805　｜　曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位
備考（履修条件等）：**文学部共通科目（本来科目：国際文化学部主催「英語圏の文化Ⅲ（現代事情）」）**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英語圏世界とは、むろんイギリスや北米だけではなく、世界中に広がるイギリスの統治地域や植民地（そしてアメリカの領土なども）を多く含みこむ。したがって、英語圏世界について学ぶこととは、多くの場合、旧植民地地域について学ぶことでもある。そのためにもこの授業では、かつて「第三世界」あるいは「南」と呼ばれた旧植民地地域の歴史的な軌跡を概観して、「世界史」を異なる視座から学び、ひいては「英語圏」という枠組を再考することを目的とする。

【到達目標】
・旧植民地地域について学び、現代の国際状況の理解につなげる。
・旧植民地地域の歴史を振り返り、その主体性を重んじながら、西洋の視点から語られる「世界史」に対する別様の視点を身につける。またそこから、多様な文化的背景をもつ人々および国々の相互交流とその意義や課題について複数の角度から理解する。
・東西の対立という観点から説明され、理解されがちな冷戦を、旧植民地地域の経験から再考する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
・授業は学習支援システムを通じたオンライン（オンデマンド方式）での開講となる。授業開始直前に「お知らせ」を配信するので確認すること。
・毎回資料を配布するので各自で学習して、期限までに課題を提出すること。
・リアクションペーパーにおけるコメントの紹介、質問に対する応答を通じて、さらなる議論に活かしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と進め方、成績評価の基準などについて説明。まず、「英語圏の文化」とはなにか考える。
第 2 回	英語圏とはなにか	英語圏、英語使用地域の歴史的な背景と現在の状況について考える。
第 3 回	第一次世界大戦後の世界―民族自決	第一次世界大戦のとらえ方、1919 年の「民族自決」の世界的な動向について学ぶ。
第 4 回	反帝国主義連盟	植民地地域から多数の代表が集まった 1927 年のブリュッセル会議、その意義について学ぶ。
第 5 回	第二次世界大戦後の世界―独立への道	第二次世界大戦前後の植民地地域の独立への動きを考える。
第 6 回	アジア・アフリカ会議	1955 年のアジア・アフリカ会議（バンドン会議）の重要性を再考する。
第 7 回	アフリカ諸国独立	1957 年のガーナ独立からアフリカ諸国独立の時代を振り返り、また、独立後の困難について考える。
第 8 回	非同盟諸国運動	1961 年にベオグラードで誕生した非同盟諸国運動というまとまりについて学ぶ。
第 9 回	キューバ革命と三大陸人民会議	1959 年のキューバ革命の衝撃、革命後のキューバを中心にして発展した連帯運動、この時代を覆うアメリカの影について学ぶ。
第 10 回	第三世界から見る冷戦①	旧植民地において冷戦とは、決して「冷戦」などではなく、その影響下で激しい戦争が起こっていた。また、多くの場ではアメリカによる軍事介入を受けた。旧植民地地域における「冷戦」とはなんであったか、二度にわけて学ぶ。
第 11 回	第三世界から見る冷戦②	前回の続き。いくつかの地域と国の事例をもとに、旧植民地地域の「冷戦」の経験を学ぶ。
第 12 回	構造調整の時代―第三世界の弱体化	旧植民地地域はどのようにして苦境に陥っていったのか。その背景をたどり、現在の文脈につなげて考える。

第 13 回	現代の諸問題	現在の英語圏および旧植民地地域について概観する。
第 14 回	期末課題の説明とまとめ	全体の復習をおこない、期末課題について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
復習として授業時に配布したハンドアウトや資料を読み直すこと。
また、参考文献を適宜紹介するので、それを読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
資料を配布する。

【参考書】
授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法と基準は次の通り。
・各回の課題（リアクションペーパーなど）の提出（60 %）
・期末課題（40 %）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
受講生の思考をうながし、積極的に参加できるような講義を行うよう努力したい。

【その他の重要事項】
定員を超える受講希望者がいる場合には抽選をおこなう。
受講希望者は必ず 1 回目の授業に出席すること。

【Outline and objectives】
This course is designed to provide students with new insights into concepts and contours of the "English-speaking world" by focussing on the experiences of formerly colonised peoples and countries. Students will be expected to gain a comprehensive understanding of the historical trajectories of the "Third World" and thus a different perspective on World History.

PSY200BG

生理心理学

松田　いづみ

授業コード：A3665　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学では一般に，主観や行動の側面から心をとらえる。これに加え，生理の側面を知ることで，心をより多角的にとらえることができる。本講義では，中枢・末梢神経系のしくみと機能を学んだうえで，心理学研究においてそれらがどのように活用されるかを学ぶ。

【到達目標】
(1) 中枢・末梢神経系のしくみと機能を理解する。
(2) 感情・認知と中枢・末梢神経系とのかかわりを理解する。
(3) 心理学において中枢・末梢神経系がどのように測定・解析されるかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
基礎的な知識を講義形式で学んだのち，実際に生体信号を観察することで理解を深める。授業で課題が課された場合，次の授業開始までに提出する。次の授業の冒頭で課題へのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	心理学における生体信号測定の意義と高校公民の教育における本授業の意味について学ぶ。
第 2 回	中枢神経系の基礎知識	中枢神経系のしくみと機能を学ぶ。
第 3 回	末梢神経系の基礎知識	末梢神経系のしくみと機能を学ぶ。
第 4 回	心理学における生理反応	心理学において生理反応がどのように利用されてきたかを学ぶ。
第 5 回	生体信号計測の基礎知識	フィルタ・サンプリング周波数などの基礎知識を学ぶ。
第 6 回	皮膚電気反応	原理を学び，心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 7 回	心拍数	原理を学び，心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 8 回	呼吸	原理を学び，心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 9 回	皮膚電気反応・心拍数・呼吸の測定・解析デモ	実際にどのように測定され，解析されるのかを学ぶ。
第 10 回	眼電図・筋電図	原理を学び，心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 11 回	脳波	原理を学び，心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 12 回	事象関連電位	原理を学び，心理学研究でどのように利用されているのかを知る。
第 13 回	脳波の測定・解析デモ	実際にどのように測定され，解析されるのかを学ぶ。
第 14 回	まとめ	半期の内容の復習・まとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に学習予定の生理指標の予習をし，疑問点を明確にしておくことが望ましい。各授業のあとに課題が出ることがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準する。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した資料を配布する。

【参考書】
堀忠雄・尾崎久記（監修）「生理心理学と精神生理学 第Ⅰ・Ⅱ巻」北大路書房, 2017

【成績評価の方法と基準】
課題（80%）と授業への積極的な参加態度（20%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
提出課題に対してはできるだけはやくフィードバックする。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを利用することがあります。学習支援システムをとおして課題の提出を求めます。

【その他の重要事項】
生理機器の個数の都合上，受講希望者が多数の場合は抽選となる場合がある。初回の授業には必ず出席すること。

【Outline and objectives】
In psychology, we usually evaluate mind from subjective and behavioral measures. In addition to these measures, physiological measures enable us to evaluate mind more deeply.In this lecture, we learn structures and functions of central and peripheral nervous system. Moreover, we learn how to measure those systems in psychological research.

言語文化論Ⅱ

大野　ロベルト

授業コード：A3806　｜　曜日・時限：**木 3/Thu.3**
春学期授業/Spring・2 単位
備考（履修条件等）：**文学部共通科目（本来科目：国際文化学部主催「日英翻訳論」）**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
英訳を通して日本語に触れることは、ときに日本語のみを媒介とするよりも明瞭に、日本語の実像を描き出してくれる。その果てに見えてくるのは日本語に特有のもの、すなわち日本語のエッセンスであるから、実はこの授業のタイトルは「日英翻訳不可能論」とすべきである。この授業では、とくに「裸」の状態に近い日本語に触れるために、古典の英訳を中心にとりあげる。講義は秋学期に開講される「世界の中の日本語」と響き合う内容となっている。

【到達目標】
英語の運用能力が向上すると共に、受験勉強の「負の遺産」をなげうち、自由なアプローチで古典本来の味わいを楽しめるようになる。現代言語学を中心とする文学理論の知識が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
リアルタイムでの作業を伴わない、フルオンデマンド形式のオンライン授業として実施する。このため講義が中心となるが、毎回のリアクションペーパーに加えて、学習内容に基づいた課題を 2 つ提出してもらう。これらについては授業内で言及するほか、学習支援システムを通して個人的にも随時フィードバックを行う。最後に期末レポートを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方について説明し、翻訳とは何かについて考える。
2	日本的なるもの	「もののあはれ」の概念を素材に、前回に引き続き翻訳について考える。
3	詩歌を翻訳する１	俳句の翻訳について考える。
4	詩歌を翻訳する２	和歌の翻訳について考える。
5	日本語の淵源１	『古今和歌集』の序文を参考に、日本における詩歌の位置について考える。
6	日本語の淵源２	『万葉集』などを材料に、日本語の「成立」について考える。
7	物語の誕生１	『伊勢物語』をとりあげ、物語と文化の関係について考える。
8	物語の誕生２	『土佐日記』をとりあげ、母国語と外国語の関係について考える。
9	私を書く１	『枕草子』を素材に、言語と自我の関係について考える。
10	私を書く２	『徒然草』を素材に、自己と他者の関係について考える。
11	社会を描く１	『方丈記』をとりあげ、現実とフィクションの問題について考える。
12	社会を描く２	『無名草子』をとりあげ、言語とジェンダーについて考える。
13	日本語的なるもの	古典と向き合った翻訳者たちの姿から、彼らの見た「日本像」を探る。

14	まとめ	今学期の内容をふりかえりつつ、近現代の日本語に起こった変化について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各回の講義のテーマとなるテクストについては、日本語の原典と英訳を事前に丁寧に読み比べ、単語の意味などについては事前に調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
使用しない。資料は必要に応じて教員が配布する。

【参考書】
授業中に折に触れて紹介するが、以下を挙げておく。
クリステワ『心づくしの日本語』ちくま新書、2011

【成績評価の方法と基準】
平常点 30 %、課題 30 %、レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】
本年度担当者変更によりフィードバック不可。

【Outline and objectives】
This course invites the students to survey the essence of the Japanese language by reading the classical texts translated into English. In order to truly discover Japan, it is essential to look for things that are left untranslated.

PSY200BG

生理心理学実習

松田　いづみ

授業コード：A3666　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学では一般に，主観や行動の側面から心をとらえる。これに加え，生理の側面を測ることで，心をより多角的にとらえることができるようになる。本講義では，実際に生理指標を測定して心理状態を推定することで，心理生理学的なアプローチを体験的に学ぶ。

【到達目標】
(1) 心理学研究でよく用いられる生理指標を正しく測定できるようになる
(2) 心理状態と生理反応との関係を理解できるようになる
(3) 心理状態を測るのに適切な実験手続き・生理指標を選択できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業はグループまたは個別での実習形式で行う。レポートはコメントをつけて返却するとともに，授業でもフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	実習グループを決定する。高校公民の教育における本授業の意義を学ぶ。
第 2 回	自律神経系反応による隠匿情報検査実験①	実験計画を理解する。教示など，実験に必要な資料を作成する，
第 3 回	自律神経系反応による隠匿情報検査実験②	データを取得する。
第 4 回	自律神経系反応による隠匿情報検査実験③	データの分析を行う。
第 5 回	自律神経系反応による隠匿情報検査実験④	レポートの作成を行う。
第 6 回	感情喚起刺激に対する生理反応の測定①	実験計画を理解する。教示など，実験に必要な資料を作成する。
第 7 回	感情喚起刺激に対する生理反応の測定②	データを取得する。
第 8 回	感情喚起刺激に対する生理反応の測定③	データを分析を行う。
第 9 回	感情喚起刺激に対する生理反応の測定④	レポートの作成を行う。
第 10 回	脳波の測定①	実験計画を理解する。教示など，実験に必要な資料を作成する。
第 11 回	脳波の測定②	データを取得する。
第 12 回	脳波の測定③	データの分析を行う。
第 13 回	脳波の測定④	レポートの作成を行う。
第 14 回	まとめ	これまでの実験をまとめ，新たな実験を考案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に学習予定の生理指標について予習し，不明点などを明らかにしておくことが望ましい。各実習のあとにはレポートが課される。本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
担当教員が作成した資料を配布する。

【参考書】
堀忠雄・尾崎久記（監修）「生理心理学と精神生理学 第Ⅰ・Ⅱ巻」北大路書房，2017

【成績評価の方法と基準】
レポート（80%）と授業への積極的な参加態度（20%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】
提出したレポートに対するフィードバックはなるべく早く行う。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンを利用することがあります。レポートの提出は学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】
春学期の生理心理学を受講し基礎的な知識をすでに学んでいることが望ましい。受講希望者は初回授業に必ず参加すること。受講希望者が許容範囲を超える場合は制限を行うことがある。

【Outline and objectives】
In psychology, we usually evaluate mind from subjective and behavioral measures. In addition to these measures, physiological measures enable us to evaluate mind more deeply. In this lecture, we perform several experiments that record physiological measures to estimate mind.

PSY200BG

感情心理学

足立　にれか

授業コード：A3668　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
心理学において感情は人の理性や思考・認知プロセスにおいて邪魔な存在とされ、またそれゆえ研究対象からも除外されてきた。近年、感情についてのそうした見方が変わり、感情は人の様々な発達的局面における重要な基盤であること、また、認知的側面を支える機能を果たしていることが確認されている。本授業では、主要な感情研究と理論を踏まえながら、感情と心理的諸側面との関連性について学んでいく。具体的には、発達、認知、社会、臨床の各心理学領域における感情研究の基本理論や知見を概観しながら、心理学的観点から見た感情の役割や機能について理解を深める機会を提供する。

【到達目標】
人間の「感情」がどのように発達し、機能しているのか、また「感情」が心理的・行動的側面にどのような影響を与えるか等、心理学における感情の捉え方を、思想的背景も含めながら理解すること。併せて、感情を扱う心理学的な実験手続き等の基礎的な知識を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
全てオンライン授業（オンデマンド型の講義）とする。資料配布やファイルの共有は、基本的に Google ドライブや Google Classroom を利用して進める。具体的な受講方法などについては、事前に学習支援システム（hoppii）で指示するので、受講予定者は hoppii の「授業情報」や「お知らせ」で初日の授業前日までに確認すること。
感情および心理学領域での感情研究について具体的にイメージしやすくなるよう、単元によっては動画鑑賞や、簡単な実験、心理尺度の実施を行う。また、各回毎にリアクションペーパーを提出して貰い、次の授業内でそれへのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	感情の定義、扱われる研究領域、授業の進め方の説明
第 2 回	感情研究の理論と研究（1）	感情研究の生理的・認知的理論と研究について
第 3 回	感情研究の理論と研究（2）	感情研究の進化適応的理論と研究について
第 4 回	感情の発達	感情のめばえと感情発達について
第 5 回	感情と非言語的行動	表情、音声、動作などの非言語的行動と感情認知の関連について
第 6 回	感情の操作と測定	感情の操作方法、および、測定方法の説明
第 7 回	対人魅力と恋愛	対人魅力の理論、および、アタッチメントと対人関係について
第 8 回	感情と社会的判断	感情と社会的判断の関連について
第 9 回	感情と自己	感情と自己認知の関連について
第 10 回	感情のコントロール	ストレス・コーピング、感情制御について学ぶ
第 11 回	うつの病理と治療	うつ状態とその治療方法について
第 12 回	不安の病理と治療	不安障害とその治療方法について
第 13 回	幸福論	幸福感を心理学的観点から考える
第 14 回	まとめ	感情心理学について再考する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業ごとに配布する文献・資料を熟読した上での授業参加を前提とする。その他、興味を持ったトピックについては、授業内で紹介する文献を含む関連図書・文献を読み、積極的に知識を深めていくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、毎回プリントおよび資料を配布する

【参考書】
授業で配布するプリントを参照すること

【成績評価の方法と基準】
平常点 60 %＋小レポート 20 %＋期末レポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】
受講者が理解を深められるよう、講義を聞くだけでなく映像教材や簡単な実験、質問紙形式のワークシートを活用して授業を進める。受講者の授業へのコメントを受講者同士が共有することで、互いの意見や疑問を通して講義内容を多面的に理解し、「交流」することが可能となり好評だったため、オンデマンド型の授業形式ということで制約はあるが、活発な「意見交換」ができるようサポートしたい。

【学生が準備すべき機器他】
本授業では Google ドライブ、Google Classroom、Google フォーム等を利用するため、学習支援システム（hoppii) に登録するメールアドレスは、かならず大学から付与されたメールアドレスとすること（大学から付与されたメールアドレス以外のものを登録している場合には Google ドライブや Classroom を利用できないため、できるだけ早く変更を行うこと）。
授業資料等については、授業支援システム（hoppii）および Google ドライブにアップするので、指定されたサイトにアクセスして入手すること。配布資料は事前にプリントアウトすることが望ましい。

【その他の重要事項】
コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、リモート（遠隔）によるオンライン授業（オンデマンド形式）がメインになります。授業内容、受講方法や変更等については、学習支援システムを通じて告知していきます。受講前に必ず確認するようにしてください。
受講方法については、必要に応じて個別にサポートしますので、受講方法に不安がある人は、Hoppii にある本授業の「授業情報」に記載した連絡先にメッセージを入れてください。情報環境に不安がある場合にも同様に連絡をしてください。
※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

【Outline and objectives】
There is a prevalent view in psychology about human emotion. One of the notion is that human emotion is obstacle to rational thinking and therefore has negative influence on cognitive processing. Although this view seems to be plausible and robust, many investigations have re-evaluated the nature and the function of emotion. It has been revealed that psychological systems are related to emotion and the emotion itself is the important basis of human development and cognition.
At the end of the course, participants are expected to understand and obtain basic knowledge about psychological view of and important function of emotion.

PSY200BG

対人認知論

足立　にれか

授業コード：A3671　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは日常生活の様々な局面で他者や事象について判断したり推論したりする。この講義では、主にそうした判断や推論を導く心理特性や心理的プロセス、それらに影響を与える内的・外的諸要因について学ぶことを目的とする。受講生の皆さんは受講を通して、普段の何気ない判断や推論に影響する諸要因について基礎的な知識を身につけ、社会的認知（人の社会・文化的な背景が不可避に織り込まれる認知）という観点から人についての理解を深めて欲しい。

【到達目標】
私たちが人や物事をとらえる際に影響する様々な心理特性や心理的プロセスについて学び、単に教科書的な理解にとどまらず、それらがどのように自分自身の日常生活や社会問題に密接に関わっているか理解できるようにすることが本講義の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
全てオンライン授業（オンデマンド型の講義）とする。資料配布やファイルの共有は、基本的に Google ドライブや Google Classroom を利用して進める。具体的な受講方法などについては、事前に学習支援システム（hoppii）で指示するので、受講者予定者は初日の授業前日までに本授業の「授業情報」や「お知らせ」で確認すること。
授業前半では、印象形成やステレオタイプ研究など他者に関する判断や推論に関わる対人認知について学び、さらに併せて「他者」認知と密接に関わる「自己」認知プロセスについて学ぶ。後半では、人から事象へと対象を広げ、社会的事象に関する態度、推論や意思決定等についての認知プロセスを取り上げる。各回毎にリアクションペーパーを提出して貰い、次の授業内でそれへのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	対人認知の定義、扱われる研究領域、授業の進め方の説明
第 2 回	古典的対人認知研究の理論と研究	認知革命以前の対人認知研究の理論と研究の紹介
第 3 回	近年の対人認知研究の理論と研究	認知革命以後の対人認知研究の理論と研究の紹介
第 4 回	ステレオタイプに関する基礎知識	ステレオタイプの基礎的知識を学ぶ
第 5 回	ステレオタイプの維持	ステレオタイプがどのように維持されるかを学ぶ
第 6 回	ステレオタイプの変容	ステレオタイプがどのように変容するかを学ぶ
第 7 回	メディアと対人認知	対人認知に関わるメディア研究について学ぶ
第 8 回	対人認知と対人関係の発達	対人認知と対人関係の発達的側面について学ぶ
第 9 回	自己認知と他者	他者が自己認知に及ぼす影響について学ぶ
第 10 回	社会的推論と原因帰属	人や社会的事象を判断する際の、原因推論に関わるエラーとバイアスについて学ぶ
第 11 回	メディアと社会的認知	メディアと、人や社会事象に対する認知との関係性について学ぶ
第 12 回	ヒューリスティック	社会的推論をする際に使用されやすい直観的な判断方略について学ぶ

第 13 回　態度と説得	社会的態度および経済・消費行動にはたらく心理メカニズムについて学ぶ
第 14 回　まとめ	対人認知について再考する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布する資料を読んで授業に臨むこと。リアクションペーパーは授業当日中の提出を原則とする。興味を持ったトピックやテーマについては、授業で紹介する関連図書や文献に当たるなどして積極的に知識を深める。本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わず、毎回資料プリントを配布する。

【参考書】
授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】
平常点 60 %＋小レポート課題 10 %＋期末レポート 30 %。

【学生の意見等からの気づき】
受講者が理解を深められるよう、講義を聞くだけでなく映像教材や簡単な実験、質問紙形式のワークシートを活用して授業を進める。受講者の授業へのコメントを受講者同士が共有することで、互いの意見や疑問を通して講義内容を多面的に理解し、「交流」することが可能となり好評だったため、オンデマンド型の授業形式ということで制約はあるが、活発な「意見交換」ができるようサポートしたい。

【学生が準備すべき機器他】
本授業では Google ドライブ、Google Classroom、Google フォーム等を利用するため、学習支援システム（hoppii) に登録するメールアドレスは、かならず大学から付与されたメールアドレスとすること（大学から付与されたメールアドレス以外のものを登録している場合には Google ドライブや Classroom を利用できないため、できるだけ早く変更を行うこと）。
授業資料等については、授業支援システム（hoppii）および Google ドライブにアップするので、指定されたサイトにアクセスして入手すること。配布資料は事前にプリントアウトすることが望ましい。

【その他の重要事項】
コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、今期も引き続きリモート（遠隔）によるオンライン授業となります。授業内容や方法の変更等については、学習支援システム（hoppii）を通じて告知していきます。授業前に必ず確認するようにしてください。
受講方法については必要に応じて個別にサポートしますので、受講方法に不安がある人は、hoppii にある本授業の「授業情報」に記載した連絡先にメッセージを入れてください。また情報環境に不安がある場合にも同様に連絡してください。
※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

【Outline and objectives】
This course introduces the influence of psychological and social factors on interpersonal cognition as well as our everyday causal inference.
At the end of the course, participants are expected to obtain basic knowledge and understand how those factors function and form our social realities especially from the perspective of social cognition.

PSY200BG

産業組織心理学

島宗　理

授業コード：A3721　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
企業における様々な課題に心理学の知見を活かして取り組む方法を学びます。経営、マーケティング、商品開発、品質管理、販売管理、マネジメント、メンタルヘルス、リーダーシップとコーチング、安全管理、コンプライアンスなどをテーマに、組織を健全に運営するために役立つ考え方や研究について学びます。

【到達目標】
企業における課題をまず知ることから始めます。このため、日本の企業が直面している問題や取組を具体的に学びます。基本的なビジネス用語の意味を定義できるようになることも目標とします。その上で、消費者や社員の行動に影響を及ぼす心理学的な要因や介入方法について述べられるようになることを目標とします。たとえば、日本企業が東南アジア諸国における自社製品の販売を促進しようとするときに問題となることやその解決方法を論じられるようになることがこの授業の到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を行います。毎回、前回の授業で学んだことをテストで確認します。
講義を通して、ビジネスや産業組織心理学の基本を理解し、重要なキーワードを覚え、使えるようになったかどうかを評価します。
毎回行うテストの得点は Google クラスでフィードバックします。授業全体の得点は学習支援システムを通じてフィードバックします。
【重要】新型コロナ感染状況に応じて，この授業は対面とオンラインを組み合わせて実施します。授業内容にも変更があります。学習支援システムのこの授業科目のトップページで案内しますのでご確認ください。授業には Google Classroom を使います。授業コードも学習支援システムのこの授業科目のトップページでお知らせしますので，登録して受講してください。
学習支援システム： https://hoppii.hosei.ac.jp/portal
Google Classroom ： https://classroom.google.com/

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と方法、約束事を説明します。ビジネス心理学の概要について講義します。
第 2 回	小売業その 1 ：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。価格競争、市場（マーケット）、消費者心理、購入行動、貯蓄行動、投資行動、差別化、ブランド、機能のコモディティ化、売上げ、利益、利益率、費用、固定費、変動費、原価率、売上総利益率（粗利）
第 3 回	小売業その 2 ：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）、減価償却、コンサルティング、アウトソーシング、PB（プライベートブランド）、NB（ナショナルブランド）、OEM、ブランディング
第 4 回	テーマパークその 1 ：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。リピーター、同一性と新奇性、イノベーション、ブランド・ロイヤルティ、スイッチングコスト（感情的コミットメント、計算的コミットメント）、ロールプレイを用いた接客訓練、接客訓練の維持・般化促進のための強化、トークンシステム、トークンシステムを運用するさいの注意点、職務分析

第 5 回	テーマパークその 2 ：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。需産業と外需産業（日本の自動車会社は？）、市場調査（マーケティングリサーチ）、顧客満足度（CS ： Customer Satisfaction）、定量分析、定性評価、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（金のなる木、花形製品、負け犬、問題児）、従業員満足度（ES ： Employee Satisfaction）、ロイヤルティー
第 6 回	業績評価指標（KPI）とそのマネジメント	様々な業界の業績評価指標（KPI）を紹介します。これに関連して、経営目標（売上，利益，粗利，利益率などなど），目標管理制度（MBO），バランス・スコアカード（BSC），PDCA サイクル（Plan-Do-Check-Action サイクル）などについて学びます。
第 7 回	企業におけるメンタルヘルス	いわゆるブラック企業問題について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。５大疾病（糖尿病、脳卒中、がん、心臓病、精神疾患）、努力ー報酬不均衡モデル、日本的雇用慣行（新卒者の一斉採用、専門性の軽視（入社後の研修や訓練を重視）、終身雇用、年功序列、ボーナスによる人件費調整）、休職や離職のリスク、労働基準法、法令違反、法令遵守、コンプライアンス、法令違反の例（残業代の未払い、上司によるパワハラ、長時間労働、不当解雇、退職勧奨）、労働契約書、就業規則、労働基準監督署、内部告発、是正勧告、労働組合 (連合) と経団連、労使交渉、労災申請、福利厚生、従業員支援プログラム (EAP)、一次的、二次的、三次的予防（ストレスコーピング法、定期検診、ストレスチェックリスト、復職支援と再発予防）
第 8 回	働きがいのある会社	働きがいをつくる方法を検討しながら、以下のキーワードについて学びます。休職や離職のリスク、職業紹介所、ハローワーク、採算ライン、損益分岐点、権限委譲、エンパワーメント、コーチング、OJT、Off-JT、人事評価（人事考課）、給与体系（賃金体系）、目標管理制度、ジョブローテーション、(復習）固定費、変動費、ワークライフバランス、人材の多様化（ダイバーシティ）、女性活躍推進
第 9 回	特別講義（内容は未定です）	企業や団体で働く実践家をお招きし、組織における心理的な問題や対応などについてお話しをうかがいます。
第 10 回	広告とブランドづくりその 1	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ドラッカー、コトラー、マーケティング、ニーズ、ウォンツ、デマンズ、名言されたニーズ、真のニーズ、名言されないニーズ、喜びのニーズ、隠れたニーズ、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、バリュープロポジション、顧客価値の三本柱： QSP、マーケティング・チャネル、コミュニケーションチャネル、流通チャネル、サービスチャネル、サプライチェーンとサプライチェーンマネジメン、市場のセグメンテーション（C、T、F、M など）、AIDMA、ローランド・ホール
第 11 回	広告とブランドづくりその 2	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ワトソン、パブロフ、間接推奨広告、古典的条件づけ（レスポンデント条件づけ）、単純接触効果、鋭敏化、要求特性のバイアス（実験者効果）、内観報告 (/質問紙法) の欠点、評価条件づけ、古典的条件づけの成立条件、AIDMA から AISAS/AISCEAS へ、商品価値、有形価値 (プロダクト)、無形価値 (ブランド) 、行動経済学、行動分析学、対応法則、プランディング、マーケティング調査とマーケティング戦略
第 12 回	産業組織心理学は役に立つのか？	産業組織心理学の歴史や現状について解説します。
第 13 回	グローバリゼーションとローカリゼーション	日本企業の海外進出に関して検討しながら、以下のキーワードについて学びます。グローバリゼーション、ローカリゼーション、自社ブランド製品、有形価値の文化差、個人差、マーケティング・チャネル（コミュニケーションチャネル、流通チャネル、サービスチャネル）、AISAS モデル、BOP ビジネス、CSR
第 14 回	まとめと振り返り	今学期の授業内容について振り返り、まとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○毎回、授業開始時に、前回の授業内容に関する復習クイズを実施します。受講生は授業ノートで示される各回のキーワードの定義や例を読み返し、理解を深めて復習し、クイズに備えて下さい。
○授業で解説しなかったキーワードも出題されることがあります。スライド資料や参考文献は提供していますので，自習を含めた復習をしてください。
○本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

○島宗 理 (2015). リーダーのための行動分析学入門 日本実業出版社

【参考書】

研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します（以下は一例です）。
○山岡道男・浅野忠克 (2009). アメリカの高校生が読んでいる起業の教科書 アスペクト
○リー・コールドウェル (2013). 価格の心理学―なぜ、カフェのコーヒーは「高い」と思わないのか?― 武田玲子 (訳) 日本実業出版社
○森岡 毅 (2016). USJ のジェットコースターはなぜ後ろ向きに走ったのか? 角川文庫

【成績評価の方法と基準】

○授業内クイズ 100%で成績を評価します。
○授業を欠席したときには授業内クイズを補完するレポートを書いて提出してください。学期内 6 回まではこのレポートの得点で授業内クイズの得点を補完できるものとします。

【学生の意見等からの気づき】

（2020 年度の授業改善アンケートより）
高い評価をいただきました。コロナ禍でオンライン授業が始まって２学期めだったこともあり，皆さんも慣れてきたようで，初めて使った Google クラスや確認テスト，動画配信も受講しやすかったという声が多く聞かれ，ホッとしました
急遽採用した教科書についても「学期で１冊読み終えた」ことについて良かったという感想があり，こちらも安心しました。ただ，教科書より動画の方が良かったという意見もあったので，バランスを考えようと思います。
オンデマンド型の動画・教材配信も高評価でした。この授業は概論で，受講生間で行うアクティブラーニング的活動はないので，受講生各自の都合にあわせて取り組めるこの方式の方が実は合っているのだと思います。
コロナ禍対応で，まだ動画，教科書，スライド，テスト間の対応が完全ではないので，その摺合せもしたいと思います。

【その他の重要事項】

○本授業では企業へのコンサルテーションを行っている担当者がその経験を活かして講義します。
○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to learn basic concepts in industrial/organizational psychology that are relevant to current problems in the workplace. The topic of the lecture will cover from marketing, cost-profit analysis, quality control, staff management, human resources, and overseas expansion.

PSY200BG

人工知能

市瀬　龍太郎

授業コード：A3674　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人工知能とは知能の仕組みを機械で実現する学問です．この授業では，人間の知能を機械で実現する方法を通して，人間の知能を考えていきます．

【到達目標】
人工知能を通して，人間や機械の知能の仕組み，考え方についての説明ができるようになることを目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
人工知能の仕組みを紹介することによって，人間の知能と機械の知能（人工知能）の共通点，相違点についての理解を深め，知能について考えていきます．授業は，主に講義形式で行います．また，適宜，ビデオなどの視聴覚教材も使用します．授業の最後に小テストを行い，次の授業時に，その回答からいくつか取り上げ，全体にフィードバックを行います．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	人工知能とは？	人工知能の概要
第 2 回	人工知能の研究分野	人工知能研究全体像の概観
第 3 回	知的エージェント	人間の知能がいかにして機械で実現可能かを議論
第 4 回	認知アーキテクチャ	知的動作を実現するための内部構造を解説
第 5 回	問題解決・探索	問題解決を行う方法を解説
第 6 回	ゲーム	知能の一つとしてゲームを取り上げ，機械の知能の実現方法を解説
第 7 回	中間まとめ	人工知能の授業についての中間まとめ
第 8 回	推論	論理を使った思考方法について解説
第 9 回	知識の表現	知識の表現方法について解説
第 10 回	機械学習	機械が学習する手法について解説
第 11 回	データマイニング	データからの知識発見手法について解説
第 12 回	自然言語処理	言語をどのように機械が理解するかについて解説
第 13 回	人工知能と社会	人工知能技術の応用と社会的影響について解説
第 14 回	まとめ	人工知能の授業についてのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回，授業の内容に応じて，文献調査．復習のためのレポート作成などの課題を行う．本授業の学習・復習時間は、各 2.5 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
人工知能　改訂２版，本位田監修，松本，宮原，永井，市瀬著，オーム社，2016
その他，授業の内容に則して，適宜，参考文献を紹介します．

【参考書】
エージェントアプローチ人工知能，第２版，Russell ら著，古川監訳，共立出版，（2008）

【成績評価の方法と基準】
授業中の小テスト（30 %），レポート課題（30 %），期末試験またはレポート（40 %）の合計により評価．

【学生の意見等からの気づき】
授業内容・配布資料の改善，および，授業における復習の強化．

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを閲覧できる環境，および，学習支援システムに投稿できる文書の作成環境

【Outline and objectives】
This course introduces the foundations of artificial intelligence to students taking this course.

PSY200BG

精神生理学特講

高橋　敏治

授業コード：A3659　｜　曜日・時限：**木曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
睡眠と生体リズムを主題にした精神生理学的な課題のアプローチへの方法を通して研究手法や授業課題を中心に学びます。専門医として臨床経験を活かし，睡眠学の領域の現場の問題を取り上げます。

【到達目標】
健康や臨床との関わりの中で，睡眠の果たすべき役割の重要性を説明できるようにする。精神生理学的領域の研究を再現し，論文作成に活用できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
睡眠科学と時間生物学の現状を学びながら，精神生理学のアプローチの成果を学びます。心理学論文に発表された実験や調査の課題を検討しながら，睡眠の基礎から，睡眠障害・その結果生じるメンタルヘルスの問題までを学びます。睡眠，過眠，リズム障害をキーワードにして，24 時間社会の問題点を最新の論文，トピックスなどから取り上げます。授業内で行った試験，課題の模範解答や疑問への解答は授業内で紹介し，解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと精神生理学の基礎	授業計画・注意点の説明（特に遠隔授業も含むため）
第 2 回	睡眠の基礎	睡眠はなぜ必要か、REM 睡眠・NREM 睡眠の違い
第 3 回	睡眠と健康	睡眠と病気の関係（生活習慣病と睡眠の関係）
第 4 回	睡眠測定法 1	睡眠を含む精神生理指標の測定方法
第 5 回	睡眠測定法 2	睡眠や眠気を調べる調査用紙の実際
第 6 回	日本の大人の睡眠	日本の成人の睡眠の特徴（世界に冠たる短時間睡眠の国！）
第 7 回	日本の子供の睡眠	日本の子供の睡眠の特徴（幼稚園と保育所の子供に睡眠の違いがある！）
第 8 回	睡眠の諸特性	性格、長さ、時間帯（朝型夜型）の違い
第 9 回	生体リズムと睡眠と病気	病気は夜に作られる？
第 10 回	身近な生体リズムと睡眠の問題	時差ぼけ・シフト勤務睡眠障害の克服の仕方を教えます！
第 11 回	夢と睡眠	夢の諸特性-夢は本当に REM 睡眠に関係するのか？
第 12 回	睡眠と記憶	眠りのとり方で記憶が良くなる？
第 13 回	睡眠障害あれこれ	睡眠時無呼吸症候群，むずむず脚症候群，REM 睡眠行動障害など
第 14 回	睡眠とメンタルヘルス総括・まとめ	うつ病は学生時代の不眠と関係する？うつ病による自殺防止に睡眠が大きな役割を果たす？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間合計 4 時間を設定しています。
第 1 回　睡眠に関した精神生理学的基礎知識確認レポート作成
第 2 回～第 10 回　授業内容で扱う睡眠全般に関関したレポート作成
第 11-13 回　期末レポートに関する質問や参考事項
第 14 回　期末試験（時期は授業内で指示）

【テキスト（教科書）】
教科書は用いませんが，事前に文献・プリントを配布します。

【参考書】
堀忠雄（2008）．睡眠心理学．北大路書房，京都．
堀忠雄（2008）．生理心理学．培風館，東京．

【成績評価の方法と基準】
授業内の課題提出を含む平常点（50 %），期末試験（50 %）で評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】
新型コロナ肺炎流行のため，2020 年度は実施しませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
パソコンや学習支援システム（資料配布，課題提出，お知らせのため）を使用します。学習支援システムには，必ず普段よく使用するメイルを登録してください。

【その他の重要事項】
【重要】割り当て教室の収容人員が例年の受講希望者人数を考慮すると，比較的余裕がないため，授業形態を一部あるいはほとんどをオンライン授業などに変更する場合があります。皆さんの希望も調査したいと思いますので，初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり，授業の中や学習支援システムを用いて案内しますので，注意してください。
【オフィスアワー】履修の手引きの教員紹介に記載してあります．担当教員は，厚生労働省精神保健指定医，日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし，この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

【Outline and objectives】
In this class, we will learn sleep and biological rhythms by the psychophysiological research methods.

PSY200BG

言語学特講Ⅰ／日本言語学特殊研究Ａ

田嶋　圭一

授業コード：A3660,A2557　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
春学期・2 単位
備考（履修条件等）：**日文の学生は「日本言語学特殊研究Ａ」の科目名で履修します。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは，ことばを無意識に，かつ流暢に使いこなします。しかしそこには大変複雑な知識が潜んでいます。本授業では，その言語に関わる知識の解明に迫る言語学について概観します。春学期では，言語学の中でも特に「単語」や「文」の構造を扱う形態論・統語論を中心に授業を進めます。

【到達目標】
言語学の中でも特に「単語」や「文」の構造を扱う形態論・統語論の基礎的枠組みを学び，その枠組みが日本語や英語などの諸言語にどのように当てはまるかを具体例を通して理解し，問題を解く能力を身に付けることを授業の目標とします。授業を通して，無意識に使っている言語の背後にある知識を意識化し，言語に対する観察力を磨くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
単語の内部構造や新しい単語を作り出す仕組み（形態論），単語から句や文を作り出す仕組み（統語論）について学びます。身近な日本語や英語からたくさん例を挙げながら、言語学の基礎概念を初歩から学びます。授業は基本的に講義形式ですが、個別あるいはグループで問題を解く作業やコメントシートを作成する作業なども交えて授業を進めます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用してフィードバックします。また，学生からの質問やコメントのいくつかを，次回の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入，言語と言語学	シラバスの説明，言語とは，「真の言語」の特徴
第 2 回	言語知識	2 種類の言語，言語に関する様々な知識，言語学の諸分野
第 3 回	形態論への導入	心内辞書と一般辞書，形態論と形態素，形態素の種類
第 4 回	語形成過程（1）：様々な語形成過程	語形成過程の種類，偶発的な語形成，少し規則的な語形成，規則性の高い語形成：複合
第 5 回	語形成過程（2）：複合，派生	複合語の意味，主要部の考え方，派生語
第 6 回	語形成過程（3）：派生，転換，屈折	複雑な派生語の構造，語の樹形図，転換，屈折・活用
第 7 回	形態素解析（1），異形態	形態素解析の方法と練習問題，異形態とは
第 8 回	形態素解析（2），語彙範疇，格	形態素解析の練習問題つづき，日英語の語彙範疇格とその種類
第 9 回	統語論（1）：導入	構成素，句構造，句の主要部
第 10 回	統語論（2）：カテゴリー，意味役割，マージ	言語の階層構造，文を作り上げるための材料：カテゴリー，項と意味役割，文を組み立てる仕組み：マージ，様々な種類の句
第 11 回	統語論（3）：文の組み立て	英語の文・日本語の文の組み立て，VP の組み立て，屈折辞と格，一般的な句の構造
第 12 回	統語論（4）：補文	VP の拡張，補部と指定部，文の中の文＝補文
第 13 回	統語論（5）：補文つづき，授業のまとめ	課題の復習，授業のまとめ
第 14 回	期末試験，授業の振り返り	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の指定範囲を読んだり，出題された問題に取り組み学習支援システムで提出したりする作業を通して，授業内容を復習し次の回に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。レジュメ等をエチュード経由で配布します。

【参考書】
参考書として以下を挙げておきます。
西光義弘（編集）(1999)．日英語対照による英語学概論：増補版　くろしお出版.
上山あゆみ（1991）．はじめての人の言語学　―ことばの世界へ―　くろしお出版.
星浩司（2006）．言語学への扉　慶應義塾大学出版会.
大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則（編）(2002)．言語研究入門　―生成文法を学ぶ人のために―　研究社.
Fromkin, V., Rodman, R., & Hyams, N. (2003). *An Introduction to Language*, 7th edition. Boston: Heinle.
Tserdanelis, G. & Wong, W. Y. P. (2004). *Language Files, 9th edition*. Ohio State University Press.

【成績評価の方法と基準】
平常点・課題 30%、中間テスト 20%、期末テスト 50%の割合で評価する予定です。
言語学は知識だけでなく問題を解く能力が要求されるので独学は困難です。また，積み重ねの要素が大きく，授業を休むとその後の内容が分からなくなります。毎回授業に参加し，授業外でも概念の習得や問題を解く作業に時間を掛ける心づもりでいてください。また，課題や中間テストを通して，内容の理解度チェックをこまめに行ってください。原則として，正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合，または期末テストを未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は授業改善アンケートが実施されませんでしたので，2019 年度のアンケート結果に基づいた気づきを以下に記します。
回答者 28 名のうち，25 名（89%）が「履修してよかった」(前年 95%)，24 名（86%）が「理解できた」(前年 95%)，28 名（100%）が「工夫されていた」(前年 95%) と回答してくれました。いずれも高い評価をいただき大変嬉しく思います。授業外学習時間については「30 分〜1 時間」と「週 1 時間以上 2 時間未満」という回答がおよそ 4 割ずつで，こちらも前年度と同程度でした。授業内容，配布資料，小テスト，課題，グループワーク，いずれについても肯定的なコメントを多くいただきました。授業中に講義内容に関連する問題を自分で解いてみる → グループワークの時間に学生同士で理解度チェックや不明な点を確認し合う → 家に帰って課題に取り組む → 課題提出後に表示されるフィードバックを読んで間違えた箇所をチェックする → 次回の授業で特に誤答の多かった問題に関する解説を聞く，という一連の流れが効果的だったようなので，今後も続けたいと思います。一方，配布資料が多かった，課題の問題数が多かった，課題提出のリマインダーが欲しい，といったコメントもいただきました。リマインダーについては，エチュードにそういう機能がないので仕方ありません。配布資料の多さは否めませんが，資源の無駄遣いにならない他の配布方法が今のところ思い当たりません。課題の問題数の多さは，内容の定着にはやむを得ないと考えていますが，見直してみる余地はあるかも知れません。

【その他の重要事項】
授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので，受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
Being able to speak a particular language requires knowledge of many aspects of that language. This course introduces students to the field of linguistics, which attempts to uncover this tacit knowledge of language. The spring semester will focus on morphology and syntax, which deal with the structure of words and sentences.

PSY200BG

言語学特講Ⅱ／日本言語学特殊研究 B

田嶋　圭一

授業コード：A3661,A2559　｜　曜日・時限：**木曜 4 限**
秋学期・2 単位
備考（履修条件等）：**日文の学生は、「日本言語学特殊研究 B」の科目名で履修します。**

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
私たちは、ことばを無意識に、かつ流暢に使いこなします。しかしそこには大変複雑な知識が潜んでいます。本授業では、その言語に関わる知識の解明に迫る言語学について概観します。秋学期では，言語学の中でも特に言語の「音」を扱う音声学・音韻論を中心に授業を進めます。

【到達目標】
言語学の中でも特に言語の「音」を扱う音声学・音韻論の基礎的枠組みを学び，その枠組みが日本語や英語などの諸言語にどのように当てはまるかを具体例を通して理解し，問題を解く能力を身に付けることを授業の目標とします。授業を通して，無意識に使っている言語の背後にある原理を意識化し，言語に対する観察力を磨くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業はオンデマンド形式で行う予定です。様々な言語音の発音方法や表記方法（音声学），日本語や英語など色々な言語の音の特徴や決まり（音韻論）について学びます。身近な日本語や英語からたくさん例を挙げながら、言語学の基礎概念を初歩から学びます。授業は基本的に講義形式ですが、個別あるいはグループで問題を解く作業やコメントシートを作成する作業なども交えて授業を進めます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また，学生からの質問やコメントのいくつかを，次回の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入，音声学と音韻論	シラバスの説明，音声学と音韻論の違い
第 2 回	音声学への導入，発話のメカニズム	音声学とは，発話のメカニズム，音声器官，音声学的直観を磨く：母音
第 3 回	母音	母音の調音的記述・有標性，音声学的直感を磨く：子音
第 4 回	子音	子音の調音的記述・有標性，自然音類
第 5 回	音声を書き起こす方法	日本語の音素表記と音声表記
第 6 回	日本語の発音	長音，促音，撥音，ガ行鼻音化，母音無声化など
第 7 回	英語の発音	英語の音素表記と音声表記
第 8 回	音韻論への導入，音素	音と意味との関係，音素，ミニマルペア、音素設定の基準：重複分布・相補分布、音声的類似性，音素分析
第 9 回	日本語の音韻変化	撥音の同化，ハ行音の同化，母音の融合・交替，連濁など、音素分析の練習問題
第 10 回	音象徴	音象徴，オノマトペ，音素分析の練習問題つづき
第 11 回	リズム	日本語のリズム，モーラ，英語のリズム，音節
第 12 回	アクセント	アクセントとは，東京方言のアクセント，アクセントの規則と表記法
第 13 回	アクセントと方言，複合語のアクセント，イントネーション，授業のま	アクセントの方言差，複合語のアクセント変化，イントネーション
第 14 回	期末試験，授業の振り返り	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
配布資料の指定範囲を読んだり，出題された問題に取り組み学習支援システムで提出したりする作業を通して，授業内容を復習し次の回に備えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。レジュメ等を学習支援システムから配布します。

【参考書】
参考書として以下を挙げておきます。

西光義弘（編集）（1999）．日英語対照による英語学概論：増補版　くろしお出版．
上山あゆみ（1991）．はじめての人の言語学　―ことばの世界へ―　くろしお出版．
星浩司（2006）．言語学への扉　慶應義塾大学出版会．
大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則（編）（2002）．言語研究入門　―生成文法を学ぶ人のために―　研究社．
Fromkin, V., Rodman, R., & Hyams, N. (2003). *An Introduction to Language, 7th edition*. Boston: Heinle.
Tserdanelis, G. & Wong, W. Y. P. (2004). *Language Files, 9th edition*. Ohio State University Press.

【成績評価の方法と基準】
平常点・課題 30%、中間テスト 20%、期末テスト 50%の割合で評価する予定です。
言語学は知識だけでなく問題を解く能力が要求されるので独学は困難です。また，積み重ねの要素が大きく，授業を休むとその後の内容が分からなくなります。毎回授業資料を利用して内容理解に努めてください。原則として，正当な理由なく 4 回を超えて課題が未提出の場合，または期末試験を未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は授業改善アンケートが実施されませんでしたので，2019 年度のアンケート結果に基づいた気づきを以下に記します。
回答者 18 名のうち，95%が「積極的な工夫がされていた」，89%が「理解できた」，同じく 89%が「受講してよかった」という問に「4」または「5」と回答してくれました。授業外学習については，過半数の人が「週 30 分― 1 時間」という回答でしたが，「ほとんど行っていない」と回答した人も数名いました。具体的な感想として「課題、小テストは覚える量や理解度が重要なこの授業内容において非常に効果的なものだったと思う」「内容の興味深さもさることながら、課題や小テストなど、勉強そのものが楽しいと感じられる構成になっていたことが、やはり素晴らしいと感じる」といったありがたいコメントをいただきました。ペアワークについては，肯定的な意見（理解が深まるなど）が多かったですが否定的な意見（毎回組む人が変わると辛い）もゼロではありませんでした。苦痛を感じながら授業を受けるのはとても気の毒に思いますが，「誰でも対応できる力」は社会人にとって重要なスキルです。今から授業を通して磨くのも悪くないと思います。

【Outline and objectives】
Being able to speak a particular language requires knowledge of many aspects of that language. This course introduces students to the field of linguistics, which attempts to uncover this tacit knowledge of language. The fall semester will focus on phonetics and phonology, which deal with the sounds of language.

PSY200BG

認知科学特講

田嶋　圭一

授業コード：A3662　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間は言語を「話す」または「聞く」能力を 3-4 歳までにある程度習得しますが，「読む」または「書く」能力はより時間と労力を要します。また，人間同様に流暢に会話ができるコンピュータは未だ完成していません。これはなぜでしょう？　本授業ではこのような疑問を出発点に，話し言葉の認知処理過程について学びます。具体的には，音声言語の発話と知覚の仕組み，音声の物理的な特徴，乳幼児による母国語の知覚能力の発達，成人による外国語音声の学習などについて，音声科学，音響学，心理学といった分野の知見を学びます。

【到達目標】
話し言葉が話し手にどのように産出され，音としてどのような特徴を持ち，聞き手にどのように知覚されるのかについて，説明できるようになることが目標です。音声分析ソフトを使って話し言葉の特徴を分析できるようになることも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち，「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は基本的に講義形式で行いますが，適宜視聴覚教材・ミニ実験・動画などを盛り込む予定です。また，授業中に個別あるいはグループで課題に取り組んだり，コメントシートを作成したりする時間も取り入れる予定です。さらに，音声分析ソフト Praat を使った演習も実施する予定です。課題に関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また，学生からの質問やコメントのいくつかを，次回の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明，コミュニケーションの手段，音声言語と文字言語，「言葉の鎖」
第 2 回	音声とは	音声の確実性と速さ，音声産出のメカニズム，母音と子音
第 3 回	音響音声学の基礎（1）	音の正体，音の種類，音を可視化する方法，音声のデジタル化
第 4 回	音声の音響分析	Praat を使った音声の録音・可視化・編集・分析
第 5 回	音響音声学の基礎（2）	フィルタ，音声産出の音源フィルタ理論，基本周波数，フォルマント周波数
第 6 回	母音の知覚	分節音とプロソディ―，聴覚器官，母音の特徴と知覚，母音の正規化
第 7 回	子音の知覚（1）	音響的不変性の欠如，ローカス理論，音声の符号化
第 8 回	音声の再合成	Praat を使った音声の録音・分析・再合成
第 9 回	子音の知覚（2），カテゴリー知覚	調音点の知覚，声の有無の知覚，カテゴリー知覚とは，同定と弁別
第 10 回	音声知覚の実験	Praat を使った同定課題と弁別課題の演習
第 11 回	音声知覚の発達	生得と学習，乳児の音声知覚，満 1 歳までに起こる変化
第 12 回	外国語の音声知覚	成人でも外国語が聞き取れるようになるか，知覚と産出との関係，外国語音の知覚的同化
第 13 回	文脈の影響	トップダウン処理とボトムアップ処理，音声知覚と単語認知のモデル
第 14 回	音声と社会的認知，総括	話し方と対人認知の関係，授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業にて指示されたテキストの範囲を読み，課題に取り組み，次の授業までに学習支援システムで回答を提出すること。また，音声分析用フリーソフト Praat を使った課題を学期中に数回課すので，課題を行い成果を提出すること。

【テキスト（教科書）】
以下の本を授業で参照したり，関係する章を宿題として読んでもらったります。該当部分を学習支援システムにアップしますので，各自保存・印刷してください。

ジャック・ライアルズ（著），今富摂子他（訳）（2003）．音声知覚の基礎　海文堂.

【参考書】
音声科学，言語心理学などの入門書として，以下を挙げておきます。
北原真冬・田嶋圭一・田中邦佳（2017）．音声学を学ぶ人のための Praat 入門　ひつじ書房.
石川圭一（2005）．ことばと心理　くろしお出版.
針生悦子（編）（2005）．朝倉心理学講座 5　言語心理学　朝倉書房.
廣谷定男（編著）（2017）．聞くと話すの脳科学　コロナ社.
川崎恵里子（編著）（2005）．ことばの実験室　ブレーン出版.
森　敏昭（編著）（2001）．おもしろ言語のラボラトリー　北大路書房.
重野　純（2003）「音の世界の心理学」ナカニシヤ出版.
ダニー・スタインバーグ（著），竹中龍範，山田純（訳）（1995）「心理言語学への招待」大修館書店.
Denes, P. & Pinson, E. (1993). *The Speech Chain: The Physics and Biology of Spoken Language*, W H Freeman & Co.

【成績評価の方法と基準】
平常点・一般課題 30%，Praat 課題 30%，期末レポート 40%の割合で評価する予定です。原則として，授業を 4 回を超えて欠席した場合，期末レポートの提出がなかった場合，あるいは Praat 課題の提出がなかった場合は，単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度は授業改善アンケートが実施されませんでしたので，2019 年度のアンケート結果に基づいた気づきを以下に記します。
受講者が例年より少なかったですが，そのぶん受講者の理解度に合わせて授業を進められたように思います。「積極的な工夫がされていた」「受講してよかった」については 100%の人が，「理解できた」については 75%の人が「5」または「4」と回答してくれました。授業内容が難しかったため，理解度が不十分と感じた人がいたのかも知れません。授業外学習については，「週 30 分— 1 時間」が 1 名，「週 1-2 時間」が 1 名，「週 2-3 時間」が 2 名いました。「授業中のグループワークや課題が理解度のチェックになった」「学べたことが多い良い授業でした」といった肯定的なコメントもありましたが，「エチュードの課題提出ページがギリギリまで上がっていないことがあった」といった改善点の指摘もいただきました。以後気を付けたいと思います。

【その他の重要事項】
授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので，受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline and objectives】
People can learn to talk by the time they are 3-4 years old, but learning to read and write takes more time and effort. Meanwhile, building computers that can talk as fluently as people has been and continues to be a challenge. Why is this? This course addresses these questions by introducing students to the cognitive processes underlying the use of spoken language. Students will learn about how spoken language is produced and perceived, what physical characteristics spoken language have, and how it is processed by adults, children, and non-native speakers.

PSY200BG

認知心理学特講

吉村　浩一

授業コード：A3663　｜　曜日・時限：**木曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
知覚心理学が扱っているいくつかのテーマを取り上げ、知覚という機能の重要性を理解することを目的とします。

【到達目標】
「百聞は一見にしかず」という言葉に代表されるように、見ることほど確かなことはないようにいわれがちですが、事象を公正に判断し、適切に表現する能力や態度を養うには、見ることをはじめ知覚し認知する人の心のはたらきの中に個人の経験や推測に基づく主観的枠組みが機能していることを学ぶ必要があります。それによってこそ、客観的に物事を捉え、広い視野に立ち物事を公正に判断する力をつけることができるはずです。本授業では、認知心理学の中でも知覚機能に焦点を当て、大学生のみならず中高生にとっても興味関心の高いアニメーションの動き・色彩やアート、食べ物の食感などの知覚のありようを捉え、個々人の知覚を絶対視せず、公正に評価できる能力を育てる一助となることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面とオンデマンドの回を原則として交互に行う予定ですが、状況により変更する可能性がありますので、Hoppii の「お知らせ」に注意しておいてください。
　講義形式での授業ですが、知覚心理学における画像や運動現象を中心に扱うので、パワーポイントなどを活用し、授業で取り上げるさまざまな知覚現象をデモンストレーションしつつ進めます。
　毎週の課題の提出およびフィードバックは、授業中ないしは授業支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義全体の概要説明
第 2 回	視覚の神経メカニズム	講義全体を理解する基礎的知識としての知覚神経生理の解説
第 3 回	知覚の諸理論	知覚に関わる諸現象を理解する枠組みとして必要な主要な知覚理論の解説
第 4 回	左右の混同と鏡像反転問題	空間の左右性をめぐる諸問題の解説
第 5 回	運動知覚の不思議	動き始めるとそれまでとはまってく違って見える諸現象の紹介
第 6 回	アニメーションと運動知覚（1）	仮現運動とアニメーションの動きについて解説
第 7 回	アニメーションと運動知覚（2）	実写映画とアニメーションの動きの違い
第 8 回	アニメーションと運動知覚（3）	アニメーションの技法としての「オバケ」の解説
第 9 回	不可能図形への心理学からの取り組み	平面図形のもつ不思議さの解説
第 10 回	アート鑑賞	絵画の展示解説文から知覚と鑑賞との関係を捉える
第 11 回	色彩の心理学	色彩は知覚対象であるだけでなく、イメージなど印象形成にも大きく貢献する。色彩についての知覚的アプローチとイメージ研究とを比較しながら解説
第 12 回	食感の感性	「味覚」と考えられているもののかなりの部分は「食感」が担っている。食感についての心理学的研究を解説
第 13 回	言葉のもつ多感覚性	多感覚的情報をもつ語彙群というべき「オノマトペ」を認知心理学的に利用する研究の可能性を紹介
第 14 回	全体の総括	授業で取り上げてきた内容を振り返り、相互の関連性を中心とする全体の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
１、２回ごとに１問、授業についての問いを掲げそれを学レポートのテーマとしますので、各回の授業終了後、記憶が鮮明な打ちに復習し、授業内容を補足する情報を収集し、自分の考えとしてまとめる作業を授業時間外に行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使いません

【参考書】
吉村浩一『運動現象のタキソノミー：心理学は“動き”をどのように捉えてきたか』2016 ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
平常点 70 %と期末テスト 30 %により評価します。

【学生の意見等からの気づき】
解説内容が抽象的にならないよう、授業者自身が実際に行ってきた研究を使って解説を組み立てます。また、授業で使うパワーポイントの原稿は、授業の前の週にアップするようにします。

【その他の重要事項】
この授業は、例年は春学期開講ですが、本年度は秋学期開講となります。

【Outline and objectives】
This course deals with some topics in the field of perceptual psychology, and the aim of this course is to help students understand the importance of the function.

PSY200BG

言語心理学特講

福田　由紀

授業コード：A3723　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　この授業の目的は，私たちが日々直面している言語的コミュニケーションの問題を心理学的なアプローチから解決することです。その方策をグループ活動（実習）を通して考えて，自分の言語力をあげていきましょう。この授業では，言語力とは，1つの能力だけでなく，話す・聞く・読む・書くといった領域にまたがる総合的な言語運用能力を指します。

【到達目標】
①言葉を読むときに何が起こっているかに関する心理学的・脳科学的な知識が身につく。
②言語心理学的知識を基礎にして，日常への応用への提言ができる。
③自分の言語力を省察し，開発することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
　本授業は講義と実習を組み合わせた形式です。授業中，教科書を使いますので用意しておいてください。また，様々な問題について 10 回の実習を行います。そこでは，グループで討論をし、発表します。
　また，Hoppii を通じて，授業の前に宿題の提出してください。なお，授業の初めに、提出された宿題の内容に関して，全体に対してフィードバックを行います。
さらに，COVID-19 感染症蔓延状況に応じて，オンライン授業を中心に行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション，言語力とは	授業の進め方の確認，言語力とは？
第 2 回	共有された世界	よりよいコミュニケーションの実現のために必要なこと
第 3 回	合意形成とは：実習①「砂漠に不時着」	合意形成を体験する
第 4 回	キャリア教育からみた言語力：実習②グループディスカッション	グループディスカッションを体験し，より良い合意形成を目指す
第 5 回	伝わる文章１：言葉の特性，実習③どんな情景？	言語の特性を知る
第 6 回	伝わる文章２：実習④悪文から学ぶ	校正を通して，分かりやすい文章を作成する
第 7 回	医療現場からみた言語力：実習⑤「スキーマって何ですか？」	既有知識に差がある相手に対して，わかりやすく説明をする
第 8 回	物語文の指導：実習⑥感情推論	情景理解，イメージ能力，心情理解，感情推論
第 9 回	説明文の指導：実習⑦トピックセンテンス	ＰＩＳＡの読解力，米国の実践例，眼球運動の実験
第 10 回	英語教育からみた言語力：実習⑧英語の RST	第二言語の難しさ
第 11 回	発達性読み書き障がいとは１	ビデオの視聴
第 12 回	発達性読み書き障がいとは２：実習⑨支援をグループディスカッションから考える	どのような支援ができるか，洗練された討論を通じて合意形成を目指す
第 13 回	発達性読み書き障がいへの支援：実習⑩模擬テスト	支援を見据えた障がいの捉え方，支援の考え方
第 14 回	期末レポートの作成と授業のまとめ	期末レポートの作成，授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＊次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。授業前に Hoppii から提出して下さい。
第 1 回　言葉は何かを伝える道具です。何を伝えると思いますか？ 思いつく限り，書いてください。
第 2 回　集団で合理的な意志決定を行うためにはどんな方法がいいと思いますか？

第 3 回　合意形成の極意は何だと思いますか？ 1 番重要だと思う事から順に 3つ挙げてください。
第 4 回　言葉にまつわることで，何か誤解したことや，笑い話しはありませんか？
第 5 回　『彼女 (あなたの友人) は視線を外して「おはよう・・・」と言った。』どうしてだと思いますか？ その理由を書いてください。
第 6 回　スキーマの定義を書いてください
第 7 回　次の文章を読んでください。トムはどんな気持ちになったと思いますか？
第 8 回　文章の挿絵は理解を促進しますか？
第 9 回　あなたはどのくらい英語が得意ですか？
第 10 回　発達性読み書き障がい字・者の日常生活上の困難を予想する。
第 11 回　WAIS-R の数唱は何を調べているか？
第 12 回　模擬期末テスト（客観式）を作成する。
第 13 回　期末テストの準備を行い，自己評価する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「言語心理学入門－言語力を育てる－」　福田由紀編　培風館　2012 年

【参考書】
適宜，紹介します。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点 40%（宿題と実習点）と期末テストの結果を 60%として，総合点により決定されます。期末テストの追試は，履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容，自分で教科書を読んだ内容，そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度の授業は，Zoom を使ったオンライン授業をしました。実習＝グループワークが中心の授業形式の中で，オンラインのグループワークがうまくいくか，心配でしたが，受講生のみなさんは上手に出来ていたようです。よかったです。以下にグループワークの効用に関する受講生の感想を紹介します。
・友達でない人とグループワークを繰り返したことで、グループワークへの苦手意識が薄まった点が良かったです。
・授業内容そのものもグループワークも就活に役立ちそうなことが多かった。

【その他の重要事項】
今年度は対面授業を予定しています。しかし，COVID-19 感染状況により，他の形式の授業に変更される可能性があります。よって，大学からのお知らせに注意をしていてください。また，上記の授業計画等が変更になる可能性もあります。受講希望者は，初回のオリエンテーションに必ず出席をしてください。あるいは Hoppii からのお知らせに気をつけてください。
また，この授業では，文化審議会国語分科会臨時委員の活動を通して得られた知見に基づき，受講生の言語力をあげるためのグループワークを行います。

【実験や調査への参加】
授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく，他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【初回授業】
初回授業はオンラインで行います。ZoomID は Hoppii の「お知らせ」を通じて行います。
また，初回授業時に受講者の数を確定したいと思います。この授業の受講希望者は，必ず，出席をしてください。初回授業に欠席した場合，受講できない場合がありますので気をつけてください。
なお，上記内容は 2021 年 3 月末現在の状況におけるお知らせです。変更がある場合は，Hopii の「お知らせ」機能を用いてアナウンスします。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn various psychological approaches trying to solve the problems in our communication. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding about psychology of language by participating in group activities.

PSY200BG

行動分析学特講

島宗　理

授業コード：A3669　｜　曜日・時限：**金曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
行動分析学は「人はなぜそのように行動するのか？」を実験的に解明していく心理学です。この授業は「行動分析学」（授業コード A3670）の上級コースとして、実験的行動分析学、応用行動分析学、理論的行動分析学で検討されてきた数々のトピックを紹介し、掘り下げます。研究によって解明された様々な原理や法則を使って、人の複雑な行動を理解し、社会的な問題の解決に応用できるようにマスターすることを目的とします。
また、受講生それぞれが自らの行動について「じぶん実験」を実施します。これまで受講生が取り組んできたテーマはダイエットや自己学習、恋愛、節約など、様々です。個々人の興味を重視しますので、相談して決めましょう。

【到達目標】
以下の２つを目標とします。
(1) 発達、記憶、言語などに関する、人や動物の認知的な現象について、行動分析学の基礎的な概念や用語を用いて解釈できるようになる。
(2) 日常生活における行動問題に対し、ABC 分析や AB 分析を駆使して、原因推定し、解決策を立案できるようになる。
(3) 日常場面における行動の測定、記録、データの視覚化、シングルケースデザインを用いた評価ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
発達臨床（自閉症や ADHD）、組織行動マネジメント、広告や消費者行動、スポーツにおけるコーチング、カウンセリングなど、各種応用領域における研究や実践と、その元になっている基礎研究を紹介する講義をします。
毎回、「じぶん実験」に関する演習を行います。そして学期末には「じぶん実験」の結果を授業内で発表し、レポートにまとめて提出してもらいます。演習課題やレポートへのフィードバックは授業および Google クラスで行います。
【重要】新型コロナ感染拡大防止のために，この授業は感染状況に応じてオンラインと対面を適宜組み合わせて行います。学習支援システムのこの授業科目のトップページで，対応状況やそれに伴うシラバスからの変更点について案内しますのでご確認ください。教材の配信には Google クラスを使います。Google クラスの授業コードも学習支援システムのこの授業科目のトップページでお知らせします。
学習支援システム： https://hoppii.hosei.ac.jp/portal
Google Classroom（Google クラス）： https://classroom.google.com/

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業内容と方法、約束事を説明します。 ・発達障害に関する基礎について講義します。
第 2 回	発達臨床 I	・以下の内容について学びます：発達障害、知的障害、自閉症、ADHD、LD。 ・じぶん実験の標的行動を決定します。
第 3 回	発達臨床 II	・以下の内容について学びます：発達臨床、言語行動の機能的分析と訓練。 ・じぶん実験の記録方法を決めます。
第 4 回	“理解” の行動分析学	・以下の内容について学びます：刺激般化、刺激等価性、関係フレーム理論。 ・じぶん実験でベースラインを測定します。
第 5 回	組織行動マネジメント I	・以下の内容について学びます：行動コンサルテーション、行動の焦点化、コーチング、パフォーマンスフィードバック。 ・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化します。
第 6 回	組織行動マネジメント II	・以下の内容について学びます：大規模な介入、学校コンサルテーション、PBIS。 ・じぶん実験の記録をグラフとして視覚化したデータの読み取り方を学びます。

第 7 回	シングルケースデザイン法	・以下の内容について学びます：反転法、多層ベースライン法、条件交替法、基準変化法、社会的妥当性。 ・じぶん実験の記録から、自らの行動を制御している変数を ABC 分析で見つけることを学びます。
第 8 回	広告と消費者行動 I	・以下の内容について学びます：ブランド価値、選択反応、対応法則、遅延割引。 ・じぶん実験で介入計画を立てます。
第 9 回	広告と消費者行動 II	・以下の内容について学びます：「意味」や「理解」が行動の原因としては不適切な理由、関係性のタクト、刺激等価性、反射律、対称律、推移律、等価律、般化、意味による般化、刺激クラス。 ・じぶん実験で介入計画を実施します。
第 10 回	“記憶” の行動分析学	・以下の内容について学びます：感覚記憶、刺激性制御、遅延見本合わせ、問題解決行動。 ・じぶん実験で介入の効果を視覚化し、検証します。
第 11 回	行動的コーチング I	・行動的コーチングの演習を行います。 ・じぶん実験の結果から制御変数にいて考察します。
第 12 回	行動的コーチング II	・行動的コーチングの演習を行います。 ・じぶん実験の結果から制御変数にいて考察します。
第 13 回	“動機づけ” の行動分析学	・以下の内容について学びます：マズローの欲求の階層説、弁別刺激と観察反応、確立操作、強化スケジュール。
第 14 回	プレゼンテーションとまとめ	・じぶん実験の結果を発表します。 ・じぶん実験のレポートを作成し、提出します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回、「じぶん実験」に関する課題を出します。教科書を読みながら課題に取り組んで下さい。最終的に「じぶん実験」の結果を授業内で発表し、レポートにまとめて提出して下さい。本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
○『使える行動分析学—じぶん実験のすすめ—』島宗 理（著）2014 年 ちくま書房
○『ワードマップ：応用行動分析学』島宗 理（著）2019 年 新曜社

【参考書】
○『人は、なぜ約束の時間に遅れるのか—素朴な疑問から考える「行動の原因」—』島宗 理（著）2010 年 光文社新書
○『行動分析学入門』杉山ら 1998 年 産業図書
○『行動の基礎—豊かな人間理解のために—』小野浩一（著）2016 年（改訂版）培風館
他にも、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】
○毎回授業内で提出してもらう演習のワークシートもしくはクイズを採点し得点化します。配分はじぶん実験に関する課題が最終レポートを含めて 50%、その他の授業内課題が 50%です。但し、最終レポートを提出しないと成績はつきませんので注意して下さい。
○授業を欠席したときには授業内課題を補完するレポートを書いて提出してください。学期内 6 回まではこのレポートの得点で授業内の課題得点を補完できるものとします。

【学生の意見等からの気づき】
（2020 年度の授業改善アンケートより）
高い評価をいただきました。ただ，例年に比べると，学期当初の履修登録者のうち，最後まで授業に参加した人の割合が低く，授業改善アンケートの回答率も低かったので手放しでは喜べません。
脱落率が高かった原因を推測すると，コロナ禍対応で教科書を採用し，専門性が高い内容を扱ったことと，通常時なら他の受講生と話しあい，助け合いながら進められるじぶん実験に，そうした共助の仕組みがなかったことでしょうか。
とはいえ，実は通常時の授業では教科書や参考書もないような専門的な内容を取り扱っている授業でもあり（“記憶” や “理解” を行動分析学から解釈するなど），学問的な目標を低くするのも妥当とは思えません。となると，受講生同士の共助を支援する仕組みを導入するということになりますね。来学期はそうしてみようと思います。

【その他の重要事項】
○本授業は「行動分析学」を単位履修後に受講して下さい。
○本授業では、行動分析学の専門家として企業や学校、自治体などにコンサルテーションを提供している担当者がその経験を活かした講義をします。
○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】
As an advance course in behavior analysis, the purpose of this course is to master application of basic principles and research methods in changing behaviors. The student will conduct "self-experiment," in which each will select his/her own target behavior, record its frequency, visualize data, develop a behavior modification plan, execute, evaluate, and improve the plan. Student will also learn how to interpret "cognitive" activities, such as remembering and understanding, from a behavior analysis point of view.

PSY200BG

情報処理技法 I

[W 組]

山口　剛

授業コード：A3675　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目（情報処理技法 I, II）は，心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ，様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。春学期（情報処理技法 I）は Microsoft Office Word, Excel, Power Point の操作方法について，必要な技法を習得しようとする。必要な技法とは，レポートや卒業論文の執筆時には日本心理学会が発行する『心理学研究の執筆・投稿の手引き』が求めるページ設定や作表・作図の方法である。この技法は調査や実験を行う際，あるいはその準備段階においても十分に役立てることができる。
（なお，上述のように習得を目指す技法は心理学の研究に特化します。そのため，基本的な Microsoft Office の各アプリケーションの多様な使用法を知りたい場合は，他の情報処理に関する科目を履修することをお勧めします。）

【到達目標】
心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み，あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して，Microsoft Office の各アプリケーションを組み合わせて適切に用いることができる。加えて，上記の作業中に起こりえるトラブルを適切に対処できる。詳細は以下の通りである。
＜ Word ＞
ページのレイアウトや詳細な設定を適切に行うことができる。また，Excel や PowerPoint で作成した図表を適切に添付することができる。
＜ Excel ＞
基本操作を身につけ，実験や調査の準備に用いることができる。そして，実験あるいは調査で得られたデータについて，適切な形成や処理を行うことができる。また，処理の結果を表や図で表現することができる。
＜ PowerPoint ＞
プレゼンテーションの基礎を理解し，自身のプレゼン内容を適切に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインでも対面でも共通して，各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し，受講生が自分の採点結果を参照できるようにします。また，授業後の感想や質問などは匿名にしてまとめて，次回の授業の冒頭でフィードバックします。
【オンラインで実施される場合】
自宅の PC で配付資料（動画を含む）をもとに学習をし，課題に取り組んでもらいます。配付資料や動画の閲覧，自分で実際に取り組む過程，それらを合わせても通常の 100 分で収まる分量となるように調整します。具体的な授業展開やソフトウェア環境は，第 1 回「ガイダンス」で詳細にお知らせします。
【対面で実施される場合】
授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。
100 分のうち，30, 40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は，授業担当者による解説やデモンストレーション，あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は，時間外に取り組み，次の授業までに終えて提出するようにしてください。
なお，受講生の皆さんの理解度や習熟度によって以下の進行予定を変更する場合もあります。その場合は，事前にお知らせするようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業進行などの確認，タッチタイピングやショートカットキーについて
第 2 回	Word 1: 論文とは何か，基本操作	Word の基本操作の確認，論文とレポートについて
第 3 回	Word 2: 論文作成に用いる機能	ページレイアウト，スタイル，ページ番号など
第 4 回	Word 3: 論文作成に用いる機能の応用	図表の作成・挿入など
第 5 回	Word 4: 機能の確認	前 3 回分の機能の総括
第 6 回	Excel 1: 基本操作	数式の挿入，関数とは，オートフィルなど
第 7 回	Excel 2: 参照と関数	相対参照と絶対参照，複合参照，よく使う関数
第 8 回	Excel 3: 実験や調査に用いる関数	統計に関わる関数，擬似ランダムなど
第 9 回	Excel 4: データセットの形成と処理	データセットとは何か，フィルターなど
第 10 回	Excel 5: 作図と作表	論文に適切な図表の形，用いる機能の確認
第 11 回	Excel 6: Word との連携	先に学習した Word に Excel の機能を反映させる
第 12 回	Power Point 1: プレゼンテーション基礎	プレゼンテーションとは何か，基本操作と注意点
第 13 回	Power Point 2: Word, Excel との連携	先に学習したアプリケーションとの連携確認
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「最終課題」もあるため（下記，成績評価の方法と基準，を参照のこと），授業内課題に関する復習を求めます。また，すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので，その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。必要な場合は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
【オンラインで実施される場合】
・授業内課題（40%）：毎回の授業で指定の期間内までの提出を求めます。どのような課題かは，各授業でその都度お知らせします。
・最終課題（30%×2）：本科目「情報処理技法 I」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。実験と統計でそれぞれ一つずつ，合計二つ出題する予定です。
【対面で実施される場合】
・平常点（10%）：積極的な授業への参画と授業終了時の感想によって決定します。遅刻せずに出席し，感想を指定の字数以上書けた場合はその回の満点となります。なお，感想は次の「授業内課題」に付随する形で提出を求めます。
・授業内課題（40%）：毎回の授業中，あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求めます。どのような課題かは，各授業でその都度お知らせします。たとえ授業に出席していなくても，提出は認めることができます。なお，上記の「平常点」における感想はこの課題に付ける形で提出を求めます。
・最終課題（25%×）：2 回に分けて出題する予定です。本科目「情報処理技法 I」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。提出の一ヶ月前までに詳細な内容をお知らせするようにします。
注）4 回以上理由の認められない欠席があった場合，4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合，「最終課題」を提出しなかった場合，これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。また，理由の認められない遅刻は 2 回で欠席 1 回と換算します。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方が早いとの意見と，遅いとの意見が半々みられました。得意不得意があると思うので，授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。オンラインの場合は動画がメインになると思うので，その際の質問や課題の提出など混乱が生じないように使用するシステムをできるだけ統一します。

【学生が準備すべき機器他】
【オンラインで実施される場合】
自宅 PC がどのような環境なのか，特にトラブルが起きたときなどに，その詳細を把握するのに必要となります。そのため，自分自身で把握するようにしてほしいと思います。卒業論文に関わる研究などで本科目を通して学んだことを活かしたい場合には，USB などに保存しておくと便利かもしれません。

【その他の重要事項】
教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は，初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。
欠席や遅刻については上述の通りですが，病気の場合や公共の交通機関のトラブルに関しては，ある程度の配慮はするつもりです。社会人への予行演習として，(1) 病気の場合は専門家（医者など）の発行する日付入りの診断書や処方箋，(2) 交通機関のトラブルの場合は該当機関の発行する日付入りの証明書をもってきてください。コピーでも構いません。

【Outline and objectives】
This course (Information Processing Techniques I, II) aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the spring semester (Information Processing Techniques I), students will learn how to use Microsoft (R) Office Word, Excel and Power Point. Techniques to be instructed are, for example, page setting, drawing and tabulation methods required by The JPA (Japanese Psychological Association) Publication Manual.

PSY200BG

情報処理技法 I

[X 組]

山口　剛

授業コード：A3676　｜　曜日・時限：**水曜 4 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目（情報処理技法 I, II）は，心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ，様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。春学期（情報処理技法 I）は Microsoft Office Word, Excel, Power Point の操作方法について，必要な技法を習得しようとする。必要な技法とは，レポートや卒業論文の執筆時には日本心理学会が発行する『心理学研究の執筆・投稿の手引き』が求めるページ設定や作表・作図の方法である。この技法は調査や実験を行う際，あるいはその準備段階においても十分に役立てることができる。
（なお，上述のように習得を目指す技法は心理学の研究に特化します。そのため，基本的な Microsoft Office の各アプリケーションの多様な使用法を知りたい場合は，他の情報処理に関する科目を履修することをお勧めします。）

【到達目標】
心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み，あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して，Microsoft Office の各アプリケーションを組み合わせて適切に用いることができる。加えて，上記の作業中に起こりえるトラブルを適切に対処できる。詳細は以下の通りである。
＜ Word ＞
ページのレイアウトや詳細な設定を適切に行うことができる。また，Excel や PowerPoint で作成した図表を適切に添付することができる。
＜ Excel ＞
基本操作を身につけ，実験や調査の準備に用いることができる。そして，実験あるいは調査で得られたデータについて，適切な形成や処理を行うことができる。また，処理の結果を表や図で表現することができる。
＜ PowerPoint ＞
プレゼンテーションの基礎を理解し，自身のプレゼン内容を適切に表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインでも対面でも共通して，各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し，受講生が自分の採点結果を参照できるようにします。また，授業後の感想や質問などは匿名にしてまとめて，次回の授業の冒頭でフィードバックします。
【オンラインで実施される場合】
自宅の PC で配付資料（動画を含む）をもとに学習をし，課題に取り組んでもらいます。配付資料や動画の閲覧，自分で実際に取り組む過程，それらを合わせても通常の 100 分で収まる分量となるように調整します。具体的な授業展開やソフトウェア環境は，第 1 回「ガイダンス」で詳細にお知らせします。
【対面で実施される場合】
授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。
100 分のうち，30, 40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は，授業担当者による解説やデモンストレーション，あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は，時間外に取り組み，次の授業までに終えて提出するようにしてください。
なお，受講生の皆さんの理解度や習熟度によって以下の進行予定を変更する場合もあります。その場合は，事前にお知らせするようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業進行などの確認，タッチタイピングやショートカットキーについて
第 2 回	Word 1: 論文とは何か，基本操作	Word の基本操作の確認，論文とレポートについて
第 3 回	Word 2: 論文作成に用いる機能	ページレイアウト，スタイル，ページ番号など
第 4 回	Word 3: 論文作成に用いる機能の応用	図表の作成・挿入など
第 5 回	Word 4: 機能の確認	前 3 回分の機能の総括
第 6 回	Excel 1: 基本操作	数式の挿入，関数とは，オートフィルなど
第 7 回	Excel 2: 参照と関数	相対参照と絶対参照，複合参照，よく使う関数
第 8 回	Excel 3: 実験や調査に用いる関数	統計に関わる関数，擬似ランダムなど
第 9 回	Excel 4: データセットの形成と処理	データセットとは何か，フィルターなど
第 10 回	Excel 5: 作図と作表	論文に適切な図表の形，用いる機能の確認
第 11 回	Excel 6: Word との連携	先に学習した Word に Excel の機能を反映させる
第 12 回	Power Point 1: プレゼンテーション基礎	プレゼンテーションとは何か，基本操作と注意点
第 13 回	Power Point 2: Word, Excel との連携	先に学習したアプリケーションとの連携確認
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「最終課題」もあるため（下記，成績評価の方法と基準，を参照のこと），授業内課題に関する復習を求めます。また，すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので，その際には予習として今一度履修した科目の内容を復習するように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。必要な場合は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
【オンラインで実施される場合】
・授業内課題（40%）：毎回の授業で指定の期間内までの提出を求めます。どのような課題かは，各授業でその都度お知らせします。
・最終課題（30%×2）：本科目「情報処理技法 I」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。実験と統計でそれぞれ一つずつ，合計二つ出題する予定です。
【対面で実施される場合】
・平常点（10%）：積極的な授業への参画と授業終了時の感想によって決定します。遅刻せずに出席し，感想を指定の字数以上書けた場合はその回の満点となります。なお，感想は次の「授業内課題」に付随する形で提出を求めます。
・授業内課題（40%）：毎回の授業中，あるいは授業中に終えられなかった場合は指定の期間までに提出を求めます。どのような課題かは，各授業でその都度お知らせします。たとえ授業に出席していなくても，提出は認めることができます。なお，上記の「平常点」における感想はこの課題に付ける形で提出を求めます。
・最終課題（25%×）：2 回に分けて出題する予定です。本科目「情報処理技法 I」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。提出の一ヶ月前までに詳細な内容をお知らせするようにします。
注）4 回以上理由の認められない欠席があった場合，4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合，「最終課題」を提出しなかった場合，これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。また，理由の認められない遅刻は 2 回で欠席 1 回と換算します。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方が早いとの意見と，遅いとの意見が半々みられました。得意不得意があると思うので，授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。オンラインの場合は動画がメインになると思うので，その際の質問や課題の提出など混乱が生じないように使用するシステムをできるだけ統一します。

【学生が準備すべき機器他】
【オンラインで実施される場合】
自宅 PC がどのような環境なのか，特にトラブルが起きたときなどに，その詳細を把握するのに必要となります。そのため，自分自身で把握するようにしてほしいと思います。卒業論文に関わる研究などで本科目を通して学んだことを活かしたい場合には，USB などに保存しておくと便利かもしれません。

【その他の重要事項】
教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は，初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。
欠席や遅刻については上述の通りですが，病気の場合や公共の交通機関のトラブルに関しては，ある程度の配慮はするつもりです。社会人への予行演習として，(1) 病気の場合は専門家（医者など）の発行する日付入りの診断書や処方箋，(2) 交通機関のトラブルの場合は該当機関の発行する日付入りの証明書をもってきてください。コピーでも構いません。

【Outline and objectives】
This course (Information Processing Techniques I, II) aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the spring semester (Information Processing Techniques I), students will learn how to use Microsoft (R) Office Word, Excel and Power Point. Techniques to be instructed are, for example, page setting, drawing and tabulation methods required by The JPA (Japanese Psychological Association) Publication Manual.

PSY200BG

情報処理技法 II

[W 組]

山口　剛

授業コード：A3677　｜　曜日・時限：**水曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目（情報処理技法 I, II）は，心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ，様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。秋学期（情報処理技法 II）は無料の心理学実験実施ソフトウェア（例えば PsychoPy, lab.js, jsPsych など），および無料の統計解析ソフトウェア（例えば JASP, R など）あるいはアプリケーションの操作に必要な技法を習得しようとする。また，実験に関して学ぶ内容は，調査においても用いることができる。
（なお，扱う内容は実験や調査，統計解析に関する科目を履修していなくても理解できるようにします。が，その他の科目を履修することで理解がより深まると予想されます。）

【到達目標】
心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み，あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して，各アプリケーションを適切に用いることができる。また，設定のミスなどに自ら気がつくことができ，適切に対処することができる。詳細は以下の通りである。
＜実験作成・実施ソフトウェア（PsychoPy など）＞
適切な実験計画を立て，その計画をアプリケーション上に適切に反映することができる。
（PsychoPy は視覚的に操作をして実験計画を組むことが可能な，比較的自由度の高いソフトウェアです。卒業論文のレベルで実施できるような技術の習得を目指します。）
＜統計解析ソフトウェア（JASP など）＞
研究目的やデータに適切な分析を実施することができる。また，その結果を適切な形式や表現で報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインでも対面でも共通して，各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し，受講生が自分の採点結果を参照できるようにします。また，授業後の感想や質問などは匿名にしてまとめて，次回の授業の冒頭でフィードバックします。
【オンラインで実施される場合】
自宅の PC で配付資料（動画を含む）をもとに学習をし，課題に取り組んでもらいます。配付資料や動画の閲覧，自分で実際に取り組む過程，それらを合わせても通常の 100 分で収まる分量となるように調整します。皆さんの PC 環境は様々だと思われますので，使用するソフトウェア／アプリケーションを，先にお知らせしたモノから変更される可能性があります。具体的な授業展開やソフトウェア環境は，第 1 回「ガイダンスとソフトウェアの導入」で詳細にお知らせします。
【対面式で実施される場合】
授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。
100 分のうち，30, 40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は，授業担当者による解説やデモンストレーション，あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は，時間外に取り組み，次の授業までに終えて提出するようにしてください。なお，受業生の皆さんの理解度や習熟度によって以下の進行予定を変更する場合もあります。その場合は，事前にお知らせするようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとソフトウェアの導入	授業進行とソフトウェアの導入などの確認
第 2 回	（実験）実験の技法と注意点	実験とは何か，その注意点，どのような機能があるか
第 3 回	（実験）刺激の作成	刺激の準備とその留意点，刺激ファイルの取り込み
第 4 回	（実験）実験に必要な「操作」	操作とは何か，その注意点，実験ファイルに操作を反映する
第 5 回	（実験）分岐の手続	反応によって実験の進行が分岐する手続を作成する
第 6 回	（統計）記述統計の出し方	統計量を把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 7 回	（統計）相関分析と回帰分析	相関と回帰について把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 8 回	（統計）平均値の比較と一般線形モデル	平均値の比較の方法について把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する。また，回帰分析との対応も確認する。
第 9 回	（統計）偏相関と重回帰分析	重回帰分析の方法について把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 10 回	（統計）分散分析と主効果	分散分析とは何か，どのようなときに使うのかを把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する。また一般線形モデルについても再度確認する。
第 11 回	（統計）分散分析と交互作用効果	分散分析における交互作用効果を把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 12 回	（統計）分散分析の応用	実験計画に沿う分散分析の応用について把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 13 回	（統計）因子分析と構造方程式モデリング	探索的因子分析とは何か，測定方程式と構造方程式は何か把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「最終課題」もあるため（下記，成績評価の方法と基準，を参照のこと），授業内課題に関する復習を求めます。また，すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので，その際には予習として今一度その科目の内容を復習するように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。必要な場合は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
【オンラインで実施される場合】
・授業内課題（40%）：毎回の授業で指定の期間内までの提出を求めます。どのような課題かは，各授業でその都度お知らせします。
・最終課題（30%×2）：本科目「情報処理技法 II」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。実験と統計でそれぞれ一つずつ，合計二つ出題します。
【対面式で実施される場合】
・平常点（10%）：積極的な授業への参画と授業終了時の感想によって決定します。遅刻せずに出席し，感想を指定の字数以上書けた場合はその回の満点となります。なお，感想は次の「授業内課題」に付随する形で提出を求めます。
・授業内課題（40%）：毎回の授業中，あるいは授業中に終えられなかった場合は次の授業までに提出を求めます。どのような課題かは，各授業でその都度お知らせします。たとえ授業に出席していなくても，提出は認めることができます。なお，上記の「平常点」における感想はこの課題に付ける形で提出を求めます。
・最終課題（25%×2）：本科目「情報処理技法 II」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。実験と統計でそれぞれ一つずつ，合計二つ出題します。提出の一ヶ月前までに詳細な内容をお知らせするようにします。
注）4 回以上理由の認められない欠席があった場合，4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合，二つの「最終課題」のどちらかでも提出しなかった場合，これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。また，理由の認められない遅刻は 2 回で欠席 1 回と換算します。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方が早いとの意見と，遅いとの意見が半々みられました。得意不得意があると思うので，授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。オンラインの場合は動画がメインになると思うので，その際の質問や課題の提出など混乱が生じないように使用するシステムをできるだけ統一します。

【学生が準備すべき機器他】
【オンラインで実施される場合】
自宅 PC がどのような環境なのか，特にトラブルが起きたときなどに，その詳細を把握するのに必要となります。そのため，自分自身で把握するようにしてほしいと思います。また，必須ではありませんが，自宅 PC にソフトウェア／アプリケーションをインストールしたくない場合などは USB メモリに保存する方法もあります。この場合は，自宅 PC の環境に合ったものを事前に準備するようにしてください。
【対面式で実施される場合】
USB メモリを使用する可能性があります。大学 PC で扱うことのできる USB を準備しておいてください（USB 3.0 など）。
授業時間外に課題に取り組む場合，あるいは卒業論文に関わる研究などで本科目を通して学んだことを活かしたい場合には，USB などに保存しておくと便利かもしれません。また，扱うソフトウェアはいずれも無料で OS も選ばないものなので，自宅の PC にダウンロードしてもいいかもしれません。

【その他の重要事項】
教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は，初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。
最終課題には春学期の知識が問われる可能性もあります。なので，本科目（情報処理技法 II）を履修する場合は春学期「情報処理技法 I」も履修することを強くお勧めします。それが難しい場合は個別にお問い合わせください。上記の定員を超えた際の措置に，「春学期も履修していたか」が含まれる可能性もあります。

欠席や遅刻については上述の通りですが，病気の場合や公共の交通機関のトラブルに関しては，ある程度の配慮はするつもりです。社会人への予行演習として，(1) 病気の場合は専門家（医者など）の発行する日付入りの診断書や処方箋，(2) 交通機関のトラブルの場合は該当機関の発行する日付入りの証明書をもってきてください。コピーでも構いません。

【Outline and objectives】
This course (Information Processing Techniques I, II) aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the fall semester (Information Processing Techniques II), students will learn how to use PsychoPy (or lab.js, jsPsych) which can visually construct experiments and JASP (or R) which can perform statistical analysis visually. Techniques to be instructed are, for example, control of stimulus, setting of if-else conditions (by PsychoPy), ANOVA, multiple regression analysis, and exploratory factor analysis (by JASP).

PSY200BG

情報処理技法 II

[X 組]

山口　剛

授業コード：A3678　｜　曜日・時限：**水曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本科目（情報処理技法 I, II）は，心理学を専攻する学生がレポートや卒業論文をはじめ，様々な課題の遂行や実験・調査の実施にあたって必要な情報処理の技法を習得することを目的とする。秋学期（情報処理技法 II）は無料の心理学実験実施ソフトウェア（例えば PsychoPy, lab.js, jsPsych など），および無料の統計解析ソフトウェア（例えば JASP, R など）あるいはアプリケーションの操作に必要な技法を習得しようとする。また，実験に関して学ぶ内容は，調査においても用いることができる。
（なお，扱う内容は実験や調査，統計解析に関する科目を履修していなくても理解できるようにします。が，その他の科目を履修することで理解がより深まると予想されます。）

【到達目標】
心理学におけるレポートの作成および卒業論文の執筆や課題への取り組み，あるいは実験や調査の実施およびその準備に際して，各アプリケーションを適切に用いることができる。また，設定のミスなどに自ら気がつくことができ，適切に対処することができる。詳細は以下の通りである。
＜実験作成・実施ソフトウェア（PsychoPy など）＞
適切な実験計画を立て，その計画をアプリケーション上に適切に反映することができる。
（PsychoPy は視覚的に操作をして実験計画を組むことが可能な，比較的自由度の高いソフトウェアです。卒業論文のレベルで実施できるような技術の習得を目指します。）
＜統計解析ソフトウェア（JASP など）＞
研究目的やデータに適切な分析を実施することができる。また，その結果を適切な形式や表現で報告することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
オンラインでも対面でも共通して，各授業の課題は原則的に次の授業までに採点し，受講生が自分の採点結果を参照できるようにします。また，授業後の感想や質問などは匿名にしてまとめて，次回の授業の冒頭でフィードバックします。
【オンラインで実施される場合】
自宅の PC で配付資料（動画を含む）をもとに学習をし，課題に取り組んでもらいます。配付資料や動画の閲覧，自分で実際に取り組む過程，それらを合わせても通常の 100 分で収まる分量となるように調整します。皆さんの PC 環境は様々だと思われますので，使用するソフトウェア／アプリケーションを，先にお知らせしたモノから変更される可能性があります。具体的な授業展開やソフトウェア環境は，第 1 回「ガイダンスとソフトウェアの導入」で詳細にお知らせします。
【対面式で実施される場合】
授業開始時刻までには PC の電源を立ち上げるようにしてください。
100 分のうち，30, 40 分は演習の時間に充てたいと思います。その他の時間帯は，授業担当者による解説やデモンストレーション，あるいは共に手続きを確認します。授業時間内の演習の時間に出された課題が終えられなかった場合は，時間外に取り組み，次の授業までに終えて提出するようにしてください。
なお，受講生の皆さんの理解度や習熟度によって以下の進行予定を変更する場合もあります。その場合は，事前にお知らせするようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとソフトウェアの導入	授業進行とソフトウェアの導入などの確認
第 2 回	（実験）実験の技法と注意点	実験とは何か，その注意点，どのような機能があるか
第 3 回	（実験）刺激の作成	刺激の準備とその留意点，刺激ファイルの取り込み
第 4 回	（実験）実験に必要な「操作」	操作とは何か，その注意点，実験ファイルに操作を反映する
第 5 回	（実験）分岐の手続	反応によって実験の進行が分岐する手続を作成する
第 6 回	（統計）記述統計の出し方	統計量を把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 7 回	（統計）相関分析と回帰分析	相関と回帰について把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する

第 8 回	（統計）平均値の比較と一般線形モデル	平均値の比較の方法について把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する。また，回帰分析との対応も確認する。
第 9 回	（統計）偏相関と重回帰分析	重回帰分析の方法について把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 10 回	（統計）分散分析と主効果	分散分析とは何か，どのようなときに使うのかを把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する。また一般線形モデルについても再度確認する。
第 11 回	（統計）分散分析と交互作用効果	分散分析における交互作用効果を把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 12 回	（統計）分散分析の応用	実験計画に沿う分散分析の応用について把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 13 回	（統計）因子分析と構造方程式モデリング	探索的因子分析とは何か，測定方程式と構造方程式は何か把握し，使用するソフトウェアで適切に算出する
第 14 回	まとめ	半期の振り返りとレポートの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「最終課題」もあるため（下記，成績評価の方法と基準，を参照のこと），授業内課題に関する復習を求めます。また，すでに他の科目で学習している内容を活用する機会もあるので，その際には予習として今一度その科目の内容を復習するように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。

【参考書】
特に指定しません。必要な場合は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】
【オンラインで実施される場合】
・授業内課題（40%）：毎回の授業で指定の期間内までの提出を求めます。どのような課題かは，各授業でその都度お知らせします。
・最終課題（30%×2）：本科目「情報処理技法 II」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。実験と統計でそれぞれ一つずつ，合計二つ出題します。
【対面式で実施される場合】
・平常点（10%）：積極的な授業への参画と授業終了時の感想によって決定します。遅刻せずに出席し，感想を指定の字数以上書けた場合はその回の満点となります。なお，感想は次の「授業内課題」に付随する形で提出を求めます。
・授業内課題（40%）：毎回の授業中，あるいは授業中に終えられなかった場合は次の授業までに提出を求めます。どのような課題かは，各授業でその都度お知らせします。たとえ授業に出席していなくても，提出は認めることができます。なお，上記の「平常点」における感想はこの課題に付ける形で提出を求めます。
・最終課題（25%×2）：本科目「情報処理技法 II」で学んだことを総合して用いる課題を設定します。実験と統計でそれぞれ一つずつ，合計二つ出題します。提出の一ヶ月前までに詳細な内容をお知らせするようにします。
注）4 回以上理由の認められない欠席があった場合，4 回分以上「授業内課題」を提出しなかった場合，二つの「最終課題」のどちらかでも提出しなかった場合，これらのいずれかに当てはまった際には成績評価の対象外となります。また，理由の認められない遅刻は 2 回で欠席 1 回と換算します。

【学生の意見等からの気づき】
授業の進め方が早いとの意見と，遅いとの意見が半々みられました。得意不得意があると思うので，授業外でも授業のことを復習できるような資料を配付して対応するようにしています。オンラインの場合は動画がメインになると思うので，その際の質問や課題の提出など混乱が生じないように使用するシステムをできるだけ統一します。

【学生が準備すべき機器他】
【オンラインで実施される場合】
自宅 PC がどのような環境なのか，特にトラブルが起きたときなどに，その詳細を把握するのに必要となります。そのため，自分自身で把握するようにしてほしいと思います。また，必須ではありませんが，自宅 PC にソフトウェア／アプリケーションをインストールしたくない場合などは USB メモリに保存する方法もあります。この場合は，自宅 PC の環境に合ったものを事前に準備するようにしてください。
【対面式で実施される場合】
USB メモリを使用する可能性があります。大学 PC で扱うことのできる USB を準備しておいてください（USB 3.0 など）。
授業時間外に課題に取り組む場合，あるいは卒業論文に関わる研究などで本科目を通して学んだことを活かしたい場合には，USB などに保存しておくと便利かもしれません。また，扱うソフトウェアはいずれも無料で OS も選ばないものなので，自宅の PC にダウンロードしてもいいかもしれません。

【その他の重要事項】
教室の関係で定員があります。万が一履修希望者が定員を超えた場合は，初回の授業に参加した方を優先します。それでも定員を超える場合は抽選を行います。
最終課題には春学期の知識が問われる可能性もあります。なので，本科目（情報処理技法 II）を履修する場合は春学期「情報処理技法 I」も履修することを強くお勧めします。それが難しい場合は個別にお問い合わせください。上記の定員を超えた際の措置に，「春学期も履修していたか」が含まれる可能性もあります。
欠席や遅刻については上述の通りですが，病気の場合や公共の交通機関のトラブルに関しては，ある程度の配慮はするつもりです。社会人への予行演習として，(1) 病気の場合は専門家（医者など）の発行する日付入りの診断書や処方箋，(2) 交通機関のトラブルの場合は該当機関の発行する日付入りの証明書をもってきてください。コピーでも構いません。

【Outline and objectives】
This course (Information Processing Techniques I, II) aims to acquire knowledge of information processing techniques for psychology reports and graduation theses. In the fall semester (Information Processing Techniques II), students will learn how to use PsychoPy (or lab.js, jsPsych) which can visually construct experiments and JASP (or R) which can perform statistical analysis visually. Techniques to be instructed are, for example, control of stimulus, setting of if-else conditions (by PsychoPy), ANOVA, multiple regression analysis, and exploratory factor analysis (by JASP).

PSY200BG

心理学英語 I

常深　浩平

授業コード：A3720　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
いわゆる英文和訳ではなく、テキストの内容を理解するための基礎を身につけることを目標とする。英語による心理学専門用語や論文の形式、表現に慣れ、英語文献を理解し、自らの学習に生かすための基礎力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
英語による心理学文献を理解するための基礎的読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
リーディング教材に関する質問について、意見を出し合ったり、クラス全体で議論、確認したりする演習型の授業を行う。
授業の初めに、前回の授業で提出された授業内課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	学習の準備	自分の英語力を知り、今学期の目標を立てる
第 2 回	Nature and Nurture	生まれか育ちかを巡る心理学小史の英文読解例を聞き、今後の発表形式を理解する
第 3 回	Contemporary psychological perspectives	自分の関心のある心理学の領域についての小文を和訳して発表する
第 4 回	Attachment (1)	ハーロウのアカゲザルの実験の読解（全体像をつかみ、要約する）
第 5 回	Attachment (2)	ハーロウのアカゲザルの実験の読解（実験の内容を理解する） 実験のビデオを見る
第 6 回	Obedience to Authority (1)	ミルグラムの服従の研究の読解（なぜこのような研究を行ったかを理解する）
第 7 回	Obedience to Authority (2)	ミルグラムの服従の研究の読解（この研究の社会的影響を考察する）
第 8 回	Identity Development (1)	アイデンティティーの発達に関する英文の読解（全体像をつかみ、要約する）
第 9 回	Identity Development (2)	アイデンティティーに関する内容に基づいて考察し、簡単な英文で表現する
第 10 回	Identity Development (3)	アイデンティティーに関する内容を相互に発表し合う
第 11 回	Brain and Neuron	脳と神経細胞に関する英文の読解
第 12 回	Brain and Area	脳領域に関する英文の読解および読解内容に基づくディベート
第 13 回	A study of Infant Memory	乳児の記憶についての小文を読み，元となった論文について知る
第 14 回	学術論文を読む練習	論文の構成・実験と考察の読み方を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
リーディング教材は必ず事前に目を通しておく。
出されたリーディング、ライティング課題は、必ず締め切りまでにやって、遅れずに提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、リーディング教材を配布する。

【参考書】
英和辞典等（高校までに使っていたもの等で可）

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内課題）60%
発表（担当箇所のレジュメ作成・発表）40%

【学生の意見等からの気づき】
リーディング課題は下読みの時間に余裕が取れるよう早めに提示する。

【Outline and objectives】
This class develops student's basic English skills not for translation, but for comprehend English texts. To be familiar with academic terms, forms of journal papers, expressions of psychology in English, and utilize them to one's own study.

PSY200BG

心理学特殊講義 I

島宗　理

授業コード：A3722　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では心理学や“データサイエンス”の研究開発プロジェクトで求められる，刺激提示や行動測定，データの視覚的分析の方法を学びます。プログラミング言語としては Python（パイソン）を用います。プログラミングの基本を学ぶと伴に，こうしたプロジェクトをチームで円滑に進めるための技術も習得します。

【到達目標】
Python を使って以下のようなプログラムが組めるようになることを目標とします。
①画像や文字，音声などの刺激をディスプレイに提示する。
②マウスやキーボードなどの入力装置を使って行動を測定する。
③その他の外部入力装置を用い，より複雑で大量の行動データを測定する（例：カメラやマイクで静止画や動画，音声データを測定して数量化するなど）。
④得られた行動データからグラフを作成して視覚化する。
さらに，プログラミングのテクニックや必要なライブラリやモジュールなどの情報を入手する方法や，困ったときに他の人に相談したり，困っている人に助言したりするスキルなど，研究開発プロジェクトにチームで取り組むさいに必要となる知識や技術の習得も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】
毎週プログラミングの課題を用意しますので，授業時間内外に関わらず，各自で自主的に取り組んでください。授業内ではチーム内で課題の進捗を報告し，情報を共有したり，プログラミングについて相談したり，協力して問題解決していくことに時間をかけます。
プログラミングの習得や実技にかかる時間には大きな個人差があります。人によっては課題を完成させるために週 6 時間以上かかることもあります。全ての課題を事前に公開していますから，ゆっくり，じっくり時間をかけて取り組みたいと思う人，どうしても時間がかかってしまう人は，あらかじめ計画をして時間を確保した上で履修してください。
課題へのフィードバックは Slack を使って行います。
【重要】新型コロナ感染拡大防止のために，この授業は感染状況に応じてオンラインと対面を適宜組み合わせて行います。学習支援システムのこの授業科目のトップページで，対応状況やそれに伴うシラバスからの変更点について案内しますのでご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション Python の基本と開発環境	○課題と課題の進め方，提出方法，評価について説明します。 ○ Python と PyCharm をインストールし，開発環境をセットアップします。
第 2 回	プログラミングの基本	○変数の型について学びます。 ○条件判断をするプログラムを作成します。 ○繰り返し処理をするプログラムを作成します。
第 3 回	刺激制御	○ Kivy をインストールし，ディスプレイに文字や画像を表示するプログラムを作成します。
第 4 回	刺激制御	○ Kivy を使って複雑な画面レイアウトをディスプレイに示すプログラムを作成します。
第 5 回	入力処理	○キーボードから文字を入力するプログラムを作成します。 ○画面に表示されている画像をマウスでクリックした位置を測定するプログラムを作成します。
第 6 回	刺激制御	○音源データを提示し，キーボードまたはマウスでそれに対する反応を測定するプログラムを作成します。
第 7 回	ファイル制御	○刺激提示や反応データをテキストファイルとして保存するプログラムを作成します。
第 8 回	関数とモジュール	○プログラム開発に必要な外部関数やモジュールを見つけて使う方法を学びます。
第 9 回	データの視覚化	○ Matplotlib をインストールし，データからグラフを作成するプログラムを作成します。
第 10 回	プログラム開発 (1)	○受講生がそれぞれ作成するプログラムを設計し，開発計画を立案します。
第 11 回	プログラム開発 (2)	○自作プログラムを開発します。
第 12 回	プログラム開発 (3)	○自作プログラムを開発します。
第 13 回	プログラム開発 (4)	○自作プログラムを開発します。
第 14 回	プログラム開発 (5)	○自作プログラムを公表し，評価し合います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
○全 14 回ぶんの課題を学期開始前に公開します。受講生は授業時間外も自主的に課題に取り組んでください。
○本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。ただし、プログラミングには，予想以上に時間がかかってしまうことがあったり、楽しくなってしまって時間をかけてしまう性質があることを知っておいてください。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しません。

【参考書】
何冊か例示しますが，図書館や書店に足を運んで，自分でページをめくり，読みやすそうなもの，必要な情報の例が多い本を選びましょう。
○プログラミング演習 Python 2019 喜多一（2020）https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/245698 からダウンロードできます(無料)。
○東京大学のデータサイエンティスト育成講座 ~Python で手を動かして学ぶデータ分析~　塚本ら　マイナビ出版 (2019)
○エキスパート Python プログラミング 改訂 2 版　Jaworski　ら　ドワンゴ (2018)
○入門 Python 3 (日本語) Lubanovic　オライリージャパン (2015)
○独学プログラマー ~Python 言語の基本から仕事のやり方まで~アルソフ 日経 BP (2018)
○ Python 実践入門 ~言語の力を引き出し、開発効率を高める~　陶山 技術評論社 (2020)

【成績評価の方法と基準】
○全 14 課題の課題得点中の獲得割合（%）で評価します。最終課題（自作プログラムの提出と報告）の比重は 50%とします。
○授業を欠席した場合には課題を期限までに提出してください。期限後に提出された課題は 1/2 で採点します。

【学生の意見等からの気づき】
(2020 年度の授業改善アンケートから)
今年度開講した新しい授業でどうなるか最後まで不安でした。不安は半分的中し，授業改善アンケートの回答にもそれが反映されていました。
課題が明確で基本的な学習を進める前半は特に問題がなかったのですが，受講生がそれぞれ課題を考える後半で脱落率が高くなりました。特に受講生それぞれが自分でプログラム開発をする最終課題を最後まで完走できた受講生が少なかったです。
プログラミング言語を一学期 14 週で習得し，自分で考えたプログラムを作るという目標が高すぎる可能性はあると思います。ただ，今回，それでも最後まで課題遂行できた人たちもいたので，まったく無理な目標ではないともいえます。
プログラミングの基礎を一から一つずつ学びたいという声もありましたが，そうすると一学期では自作プログラムの作成までは到達できません。授業課題も単純になり，コピペでこなせるようになると，できる人にとっては面白くなくなってしまいます。
たぶん現実的なのは，基礎課題については補習教材を用意し，あらかじめ，この授業の負荷についてもっと明確に告知することかもしれません（補習教材としては無料の参考書を指定していたのですが，授業課題として設定しないと自発的な取り組みは促せないということだと思います）。
また，プログラムの自作にはプロジェクトマネジメントの技術も必要になるので，来年度はその支援をすることにします。

【学生が準備すべき機器他】
○大学のノート PC には管理者権限がなく，自分でソフトなどをインストールできないので，自分の PC を使うことをお勧めします。マイ PC を持っていなかったり，用意できなければ事前に相談してください。
○対面授業の日にはノート PC を持参してください。

【その他の重要事項】
○本授業では民間のソフトウエア開発会社でプログラマー・SE として勤務した経験を有する教員がその経験を活かして担当します。
○オフィスアワーは春学期は金曜日の 4 限、秋学期は火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn basic programming skills to control stimuli, measure behaviors, and visualize data, using Python. These workflows are common in research and development projects in psychology and, more generally, in “data science.” Another goal of this course is to obtain skill sets that facilitates collaboration when working on a team project involving computer programming.

PSY200BG

教育心理学

福田　由紀

授業コード：A3623　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
教育心理学とは、教育における人間の営みに関する心理学です。教育心理学は，発達心理学や学習心理学，言語心理学，脳科学などの知見を教育に応用する学問です。毎日，皆さんが通っている「学校」という場を心理学的な観点から紹介していきます。また，実社会で望まれるスキルである「聞きながらメモを取る」「階層構造を意識したノートを取る」こともこの授業で身につけられます。

【到達目標】
①教育心理学の基礎的な知識が身につく。
②学ぶー教える関係に関して，心理学的な観点から分析できる。
③聞きながらメモをとることができる。
④階層構造を意識したノートをとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本は講義形式です。教科書は毎時間「使用します！」ので持参してください。また，Hoppii を通じて，授業の前に宿題の提出，授業後に小テストへの回答をしてください。なお，授業の初めに、提出された宿題の内容に関して，全体に対してフィードバックを行います。
また，授業のテーマにも記しましたが，教育心理学は応用心理学の一つです。そのために，心理学に対する基礎的な知識が必要です。具体的には，心理学概論といった授業を修得したレベルを考えています。また，授業では，時間の制約のために，基礎知識については扱いません。教科書の指定した箇所は，自分で読んできてください。
加えて，COVID-19 感染症蔓延状況に応じて，オンデマンド授業を中心に行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・教育心理学とは	授業の進め方の説明，教育心理学の目標・対象・研究法，教育心理学への３つのアプローチ
第 2 回	円滑なコミュニケーションの実現のために	言語力と心の理解の発達
第 3 回	教える人と教わる人の関係	友人関係の発達，道徳性の発達
第 4 回	学習理論・記憶理論とその応用	自己意識の発達，他者理解の発達，円滑なコミュニケーション
第 5 回	深い理解とは	適応的熟達者，知識のネットワーク
第 6 回	読み書きからの学習	文章による学習，読解力，書くことの学習
第 7 回	学校不適応とその予防	いじめのメカニズム，いじめ防止策
第 8 回	上手に教える 1	授業過程，伝統的な教授法
第 9 回	上手に教える 2	最近流行の教授法，素朴概念への挑戦
第 10 回	上手に学ぶ	メタ認知，学習方略
第 11 回	知能と認知スタイル	知能検査の結果や認知スタイルを教室に活かす
第 12 回	学力と評価	最適な評価とテストの組合せとは
第 13 回	学習障がいとその支援	学習障がい，ADHD など
第 14 回	授業のまとめ，期末レポート提出	授業のまとめと期末レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
＊次週の授業内容にあわせて短い宿題が出されます。Hoppii から提出して下さい。
第 1 回　自分の心の理解の発達と他者の心の理解の発達はどちらの方が早いと思いますか？　それとも同じくらいですか？　その理由は？
第 2 回　一番好きだった先生は，いつのどの教科，あるいは部活の先生でしたか？
第 3 回　記憶の定着は休息すると良くなるのでしょうか？　それとも，睡眠を取ると良くなるのでしょうか？　ヒントはコラム 3 ！ "
第 4 回　使える知識にするためには，学習者にはどのような工夫が必要ですか？
第 5 回　読書の効用を３つ挙げてください。
第 6 回　生徒同士のいざこざをいじめに発展させないために，どうしたらいいと思いますが？　自分の意見を書いてください。
第 7 回　どのような形式の授業が一番好きでしたか？
第 8 回　小集団に分かれての授業形式の良い点を２つと悪い点を２つ挙げてください。
第 9 回　添付ファイルを読んでください。記事の中に下線が引かれた部分が 2 カ所あります。これらは，ある心理学的な概念を活用した具体的な例です。それぞれについて，その心理学的な概念は何でしょうか？
第 10 回　添付ファイルを開いて下さい。標準図形と全く同じ図形を選択図形 A から F の中から１つ選んでください。
第 11 回　テスト以外に生徒・学生の思考力をどのように評価をしたらいいと思いますか？
第 12 回　模擬期末試験問題を基礎問題と応用問題の二つを作成して下さい。
第 13 回　期末レポートの準備を行い，自己評価する。
＊受講した授業の内容に関して，小テストを授業支援システムを通じて行います。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
「教育心理学 -言語力からみた学び-」　福田由紀他　培風館　2015 年

【参考書】
適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
評価は、平常点 20%（宿題と小テスト）と期末テストの結果を 80%として，総合点により決定されます。期末テストの追試は，履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容，自分で教科書を読んだ内容，そして応用問題が問われます。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度の授業はオンデマンド授業でしたが，動画の内容や時間の設定等が良かったためか，皆さんから高い評価をもらいました。とてもうれしかったです。その例をいくつか紹介します。
・動画１つの時間が短いので集中力の持続につながった。
・階層構造を意識してノートを作れるようになった。自分のメモが大変見やすくなりました。
・授業以外でも役に立つ情報を得られました。
・小テストや宿題もあり、より理解が深まった。
・教育現場だけでなく、日常場面の具体例も挙げられており、理解しやすかったと思います。
・授業がとても丁寧な説明でわかりやすかったです！ 私は教職課程を履修しているので、将来にとても役立つ学習ができました！

【その他の重要事項】
今年度は対面授業を予定しています。しかし，COVID-19 感染状況により，他の形式の授業に変更される可能性があります。よって，大学からのお知らせに注意をしていてください。また，上記の授業計画等が変更になる可能性もあります。受講希望者は，初回のオリエンテーションに必ず出席をしてください。あるいは Hoppii からのお知らせに気をつけてください。

【実験や調査への参加】
授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく，他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【初回授業】
初回授業はオンラインで行います。ZoomID は Hoppii の「お知らせ」を通じて行います。
また，初回授業時に受講者の数を確定したいと思います。この授業の受講希望者は，必ず，出席をしてください。初回授業に欠席した場合，受講できない場合がありますので気をつけてください。
なお，上記内容は 2021 年 3 月末現在の状況におけるお知らせです。変更がある場合は，Hopii の「お知らせ」機能を用いてアナウンスします。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn educational activities in terms of psychological perspective.　Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding about educational psychology.

PSY200BG

学校心理学

原田　恵理子

授業コード：A3626　｜　曜日・時限：**木曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学校における全ての児童生徒の成長・発達への援助を意図するのみならず学校コミュニティへの援助の理解を目指す学校心理学では、児童生徒（個人）への働きかけだけでなく、学級・学校環境や教師と生徒との関係調整、校内外の支援システムづくりなど（集団）、現代社会の特徴を踏まえた支援の工夫が求められています。したがって、本授業では、学校心理学の基本的概念を理解し、援助サービスの理論と技法を学びつつ、受講生自身の経験もふまえ、IoT 社会における学校教育現場に対する支援の在り方の理解を深めることを目的とします。

【到達目標】
「３つの心理教育的援助サービス」について説明できるようになり、学校教育が直面しているいじめ、不登校などの様々な課題について、学校心理学の観点からのアプローチを例示できるようになることを目標とします。また、発達障がいなどのハンディキャップについて説明でき、合理的配慮に基づいた児童生徒への支援や指導について考えることができるようになることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
原則として、全 14 回の授業を対面形式で実施しますが、開始時刻に対して弾力的な対応をすることもあります。その際は、資料・動画等の配信型講義を組み合わせます。
・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
・リアクションペーパーや準備学習レポート等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。その中で、課題やレポート等に対して講評します。
・アセスメント、カウンセリング、コンサルテーションなどの技法を体験し、不登校やいじめなど具体的な事例に即して、有用な視座や方法論について学びます。
・学校内で実施可能なさまざまな心理的支援について考えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス/現代社会における学校心理学の意義と学校教育臨床の歴史	講義内容や評価方法など/学校教育臨床の歴史を説明しつつ学校心理学の意義を解説する
第 2 回	現在の学校教育と課題	IOT 社会に向けたこれからの学校教育の動向について理解する（資料・動画等配信型授業）
第 3 回	３段階の心理的援助サービス	援助する対象と 4 つの援助/3 段階の心理的援助サービスについて理解する
第 4 回	心理教育的アセスメント	子どもと子どもの環境を取り巻く心理教育的アセスメントについて理解する
第 5 回	学校心理学に基づく実践（１）カウンセリング	カウンセリングについて説明し、ロールプレイを通して理解する
第 6 回	学校心理学に基づく実践（２）コンサルテーション	学校教育におけるコンサルテーションについて説明し、ロールプレイを通して理解する
第 7 回	学校心理学に基づく実践（３）チームとしての学校	チーム援助の在り方と、スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーについて理解する（資料配信・課題提出型授業）
第 8 回	心理教育的援助の実践（１）不登校	子どもをめぐる課題について説明し、不登校事例から支援の在り方の工夫について話し合う
第 9 回	心理教育的援助の実践（２）いじめ	いじめの事例をもとに心理教育的援助を説明し、支援の在り方の工夫について話し合う
第 10 回	心理教育的援助の実践（３）発達障がいの特徴と援助	発達障がいの特徴と援助について事例をもとに説明し、合理的配慮に基づく支援の在り方を話し合う
第 11 回	心理教育的援助の実践（４）家庭・地域社会	虐待など、家庭をめぐる課題について説明し、事例から支援の在り方を検討する
第 12 回	心理教育的援助の実践（５）学校・教師	教師をめぐる課題について説明し、話し合い活動を通して理解を深める
第 13 回	心理教育的援助の実践（６）予防的・開発的教育（社会性・道徳性・情報モラル）	予防的・開発的教育について説明し、実際に体験してみる
第 14 回	心理教育的援助の課題と展望	心理教育的援助およびチーム学校での効果的な援助の課題と今後の展望について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習の課題に取り組むことで授業準備をしてください。また、事後学習として課題に取り組み、理解を深めて知識の定着をはかってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
使用しません。毎回、レジュメと資料を配布します。

【参考書】
石隈利紀　学校心理学　誠心書房
渡辺弥生・西山久子編　生徒指導・教育相談　北樹出版
これ以外にも、必要に応じて参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】
小テスト（10 %）フィードバック及び準備学習のレポート (40%)、話し合いやロールプレイなどの参画度 (30%)、課題レポート（20%）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
具体的な事例の紹介や体験が参考になったという学生のアンケートの感想を踏まえ、各回では、テーマに即した事例紹介、ロールプレイや話し合いを取り入れて授業をしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
情報機器、ネット環境を整えておいてください。ICT を活用した授業を行います。資料配布・課題提出などのために授業支援システム等を資料します。

【その他の重要事項】
弾力的な対応をする回については、事前に、授業内か「学習支援システム」を通じて連絡をします。

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of school psychology. It also enhances the development of students' skill in the skills of counseling and support to the school community. By the end of the course, students should be able to do the following:
· Recognize and recall major terms and concepts in school psychology,
· Describe and explain major assistance service methods and theories,
· Apply theories or practices to real world situations.

PSY200BG

発達臨床心理学Ⅰ

桜井　美加

授業コード：A3683　｜　曜日・時限：**水曜 1 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ひとの発達過程においては、様々な課題が想定される。それらをひとはどのように乗り越え、問題解決していくのか、発達臨床心理学の観点から学ぶ。

【到達目標】
発達プロセスにおける課題と解決方法について、発達臨床心理学の理論から理解することができる。
発達臨床心理学の知識を習得することで、自己他者理解を深めることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態は講義で知識習得し、授業内のグループディスカッションや発表で応用力を身に着ける。授業の予習、復習で主体的に取り組む態度を養う。また、課題等に対するフィードバック方法は、オンラインのみの場合には G メールで、対面が含まれる場合には授業前後に個別に対応するので、遠慮せずに質問や相談をしてほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	臨床心理学の歴史・概念	教科書第 1 章臨床心理学とは？ を読み、歴史や定義について学ぶ。
第 2 回	心理アセスメント	教科書第 2 章を読み、発達理論におけるアセスメントについて学ぶ。
第 3 回	心理検査	教科書第 3 章を読み、心理検査の種類や臨床場面の適用について学ぶ。
第 4 回	心理カウンセリング・心理療法	教科書第 4 章を読み、基礎的なカウンセリングや心理療法について学ぶ。
第 5 回	子どもを対象とした心理療法	教科書第 5 章を読み、子どもを対象とした心理療法について学ぶ。
第 6 回	日本が発祥の心理療法	教科書第 6 章を読み、森田療法、内観法について学ぶ。
第 7 回	家族療法・集団心理療法	教科書第 7 章を読み、家族療法、集団心理療法について学ぶ。
第 8 回	臨床心理学をとりまく概念	教科書第 8 章を読み、臨床心理学をとりまく概念について学ぶ。
第 9 回	子どもをとりまく問題	教科書第 9 章を読み、子どもをとりまく問題、不登校、発達障害、児童虐待について学ぶ。
第 10 回	思春期・青年期をとりまく問題	教科書第 10 章を読み、摂食障害や自傷行為について学ぶ。
第 11 回	成人期をとりまく問題	教科書第 11 章を読み、不安障害、気分障害について学ぶ。
第 12 回	高齢期をとりまく問題	教科書第 12 章を読み、高齢者の心理的課題と援助方法について学ぶ。
第 13 回	臨床心理学の倫理の問題	教科書第 13 章を読み、臨床心理学に関連する法律や倫理の問題について学ぶ。
第 14 回	まとめ テスト	これまで学んできた発達臨床心理学を講義ノートや教科書のキーワードを中心に学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習として、教科書を読んでおく。復習としては、学んだキーワードに関連する論文を 1 本読んだり、質問をメモしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
横田正夫編　津川律子・篠竹利和・山口義枝・菊島勝也・北村世都著　2016
　ポテンシャル臨床心理学　サイエンス社

【参考書】
矢澤美香子編　2018　基礎から学ぶ心理療法　ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
小テストまたはリアクションペーパー 1 回 5 点満点 ×14 回＝ 70 点満点
課題レポート 1 回 30 点満点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
双方向の授業が可能になるように準備していきたいと思います。

【Outline and objectives】
There are many obstacles to overcome in developmental process for human being.　The aim for this course is to learn psychological approaches how people can solve problems.

PSY200BG

発達臨床心理学Ⅱ

桜井　美加

授業コード：A3684　｜　曜日・時限：水曜 1 限
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
幼少期から高齢者に至る発達過程において示される心理的諸問題、対人関係の問題や様々な精神障害に対する対応や臨床心理的アプローチについて、ケーススタディを用いながら基礎的知識と応用力を身に付ける。また、各理論をベースとした心理療法について学ぶ。

【到達目標】
生涯発達心理学の観点から、各ライフステージで見られる心理的葛藤および望ましい臨床心理的アプローチについて、理解できるようになり、文章で適切に表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業形態はオンデマンド型オンライン授業である。指定されている教科書を購入し、内容についてはスライドを随時示す。履修生は、知識を習得しつつ、リアクションペーパや課題レポート作成により、各テーマについての理解を深める。また課題などのフィードバック方法は、オンラインのみの場合は G メールで、対面が含まれる場合は授業前後で、遠慮なく質問や相談に来てほしい。対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 心理療法の意義と学び	教科書第 1 部心理療法の定義、効果、構造について、また臨床心理学における、援助とはなにかについても併せて学ぶ。
第 2 回	クライエント中心療法	教科書第 2 部 1 章クライエント中心療法の理論と技法、効用と限界について学ぶ
第 3 回	分析心理学	教科書第 3 章分析心理学の理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 4 回	アドラー心理学	教科書第 4 章アドラーの理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 5 回	行動療法	教科書第 5 章行動療法の歴史、理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 6 回	認知行動療法	教科書第 6 章認知行動療法の歴史、理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 7 回	ゲシュタルト療法	教科書第 9 章ゲシュタルトの理論と技法、効用と限界について学ぶ
第 8 回	ブリーフセラピー	教科書第 15 章ブリーフセラピーの理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 9 回	ナラティブセラピー	教科書第 16 章ナラティブセラピーの理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 10 回	家族療法	教科書第 17 章家族療法の理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 11 回	遊戯療法	教科書第 18 章遊戯療法の理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 12 回	芸術療法	教科書第 19 章芸術療法について学ぶ。
第 13 回	エンカウンター・グループ	教科書第 21 章エンカウンター・グループの理論と技法、効用と限界について学ぶ。
第 14 回	総まとめ	発達臨床心理学について振り返り、重要なポイントを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備は、授業のテーマに関する疑問点をまとめ、自力でできるところは調べておく。
復習は、学習したテーマに関する本もしくは学術論文を 1 本以上読み、得られた知識を深めておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
矢澤美香子編　2018　基礎から学ぶ心理療法　ナカニシヤ出版

【参考書】
渡辺弥生・榎本淳子編　2012　発達と臨床の心理学　ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】
リアクションペーパー 1 回 5 点満点 ×15 回= 75 点満点+期末レポート 1 回= 25 点満点で評価する。こつこつとすべての回にオンラインでアクセスし、リアクションペーパーなどを提出することで総合評価は高まるので、履修生はそれを意識し授業に臨んでほしい。

【学生の意見等からの気づき】
教科書を早めに 2 冊指示するので、授業開始と同時に準備しておくと、スムーズに履修できます。

【学生が準備すべき機器他】
ノートパソコン、タブレットほか、オンライン授業に必要とされる機器。

【Outline and objectives】
Goal to achieve is to understand psychological development from childhood through adulthood including midlife crisis and aging issues. Participants should be able to enhance skills to solve problems such as bullying. They are able to learn acknowledgements, assessmenst and counseling skills to address those issues.

PSY200BG

精神保健学 I

高橋　敏治

授業コード：A3685　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
精神の正常から異常の概念を含めて精神保健の基礎を幅広く学びます。精神科医として 30 年以上活動している臨床現場での経験をもとに，学生が知っておくべき臨床の知識，対処法や予防法を取り上げます。

【到達目標】
メンタルヘルスの基礎，重要性を説明できるようにすること。メンタルヘルスに関連した法律，実例を説明できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
人間理解の一助として精神医学を学ぶための多面的なアプローチの仕方を学びます。また，どのような種類の異常な状態があるのかを，なるべく実例をひも解きながら学んでいきます。基本的には講義形式です。適宜，視聴覚教材などを用います。できるかぎり映画や TV から講義内容と関連した場面を取り上げて解説しきます。授業内で生じた疑問などは授業時間内で質疑応答の時間を設けてフィードバックします。授業内で行った試験，課題の模範解答や疑問への解答は授業内で紹介し，解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の興味・希望をアンケートで調査
第 2 回	精神保健の基礎知識	ICD-10 と DSM-IV など診断基準，心理の正常異常
第 3 回	ライフサイクルと精神保健学	発達によるメンタルヘルスの問題（幼児，青年期，成人，老人）
第 4 回	精神保健主要症候学 1	幻覚妄想など思考面の問題の内容や種類
第 5 回	精神保健主要症候学 2	うつやそうなどの気分の問題の内容と種類
第 6 回	精神保健主要症候学 3	意識のレベルの問題の種類（せん妄など）
第 7 回	精神保健主要症候学 4	急性と慢性の場合の脳の器質的な病変
第 8 回	自殺	自殺の種類，日本の現状や問題点，予防法
第 9 回	ターミナルケア	がん患者の心理，そのケアの方法
第 10 回	法律と精神保健	精神保健福祉法，触法精神障害の歴史や問題点
第 11 回	精神保健治療学総論 1	薬物療法の概観（種類，副作用など）
第 12 回	精神保健治療学総論 2	非薬物療法の概観（心理療法，リハビリテーション技法など）
第 13 回	精神保健のトピックス	最近文献紹介やアンケートからピックアップした疑問への回答
第 14 回	総括・まとめ	メンタルヘルスの春学期に学んだことの総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間合計 4 時間を設定しています。
第 1 回　精神保健学に関する基礎知識のレポート作成
第 2 回　ICD と DSM による診断課題
第 3 回　達成度の確認（診断基準）
第 4 回　達成度の確認（ライフサイクル精神保健）
第 5 回　達成度の確認（幻覚妄想）
第 6 回　達成度の確認（気分）
第 7 回　達成度の確認（せん妄など）
第 8 回　達成度の確認（自殺）
第 9 回　達成度の確認（ターミナルケア ）
第 10 回　達成度の確認（精神保健福祉法）
第 11 回　達成度の確認（薬物療法の種類，副作用）
第 12 回　達成度の確認（心理療法など）
第 13 回　達成度の確認（リハビリテーション技法）
第 14 回　達成度の確認（春学期期全般）

【テキスト（教科書）】
教科書は用いません。適宜プリントを配布します。

【参考書】
柄沢昭秀（2006）．精神医学入門．中央法規，東京．
尾崎紀夫 (2018)．標準精神医学 第 7 版. 医学書院, 東京.

【成績評価の方法と基準】
期末試験を実施します。平常点（30 %）, 数回の課題レポート（20 %）, 期末試験（50 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
新型コロナ肺炎流行のため，2020 年度は実施しませんでした。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用して, 授業内配布のプリントや資料を掲載します。また, 学習支援システムのお知らせを使用します。普段使用しているメイルを学習支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】
【重要】割り当て教室の収容人員が例年の受講希望者人数を考慮すると，比較的余裕がないため，授業形態を一部あるいはほとんどをオンライン授業などに変更する場合があります。皆さんの希望も調査したいと思いますので, 初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり，授業の中や学習支援システムを用いて案内しますので，注意してください。
【オフィスアワー】履修の手引きの教員紹介に記載してあります．担当教員は，厚生労働省精神保健指定医，日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし，この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

【Outline and objectives】
In this lesson, we will learn the fundamentals of mental health broadly, including the concept of mental normality to abnormality.

PSY200BG

精神保健学Ⅱ

高橋　敏治

授業コード：A3686　｜　曜日・時限：**金曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では, いろいろな種類の精神障害を, 他の障害と比べながら, 症状の特徴, 治療法を学びます。精神科医として 30 年以上活動している臨床現場での経験をもとに, 学生が知っておくべき臨床の知識, 対処法や予防法を取り上げます。

【到達目標】
メンタルヘルスの各論を通して, 人間の心の不思議や理解の仕方などを説明できるようにすること。その異常心理が, どのような特徴を持ち, どのように診断を受けるのかを理解しながら, 精神保健の実態を説明できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式です。適宜, 視聴覚教材を用い, 最新の知見を紹介します。春学期と同じく, できるかぎり映画や TV から講義内容と関連した場面を取り上げて解説したいと思います。授業内で生じた疑問などは授業時間内で質疑応答の時間を設けてフィードバックします。授業内で行った試験，課題の模範解答や疑問への解答は授業内で紹介し，解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の興味・希望をアンケートで調査
第 2 回	症状性を含む器質性精神障害（F0-1）	脳の感染症, 外傷、身体障害時の精神症状
第 3 回	老人性器質性障害（F0-2）	アルツハイマー型, 脳血管性の痴呆
第 4 回	薬物使用による精神および行動の障害（F1-1）	大麻, 覚せい剤, 麻薬, コーヒー, ニコチンなど
第 5 回	アルコールによる精神および行動の障害（F1-2）	アルコール依存やその周辺の障害, 家族問題
第 6 回	統合失調症とその関連障害（F2-1）	統合失調症の歴史, 原因や診断の基準
第 7 回	統合失調症とその関連障害（F2-2）	統合失調症の症状や主な病型, 予後, 問題点
第 8 回	統合失調症とその関連障害（F2-3）	統合失調症の治療法（薬物療法, リハビリテーション）
第 9 回	気分障害とその関連障害（F3-1）	気分障害の症状（そうとうつ）, 病型, 原因
第 10 回	気分障害とその関連障害（F3-2）	気分障害の治療（薬物療法, 認知行動療法）
第 11 回	神経症障害, ストレス関連障害（F4）	ストレスに関連した病態の種類, 原因, 治療法
第 12 回	摂食障害と睡眠障害（F5）	生理的な問題のうち摂食障害と睡眠障害の種類, 原因
第 13 回	人格の障害（F6）	人格障害の歴史, 種類, 問題点
第 14 回	総括まとめ	秋学期に学んだ精神保健学各論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は, 各 2 時間合計 4 時間を設定しています。
第 1 回　精神保健学に関する基礎知識レポート作成
第 2 回　達成度の確認 (摂食障害)
第 3 回　達成度の確認（器質性精神障害）
第 4 回　達成度の確認（老人性痴呆）
第 5 回　達成度の確認（物質常用障害）
第 6 回　達成度の確認（アルコール精神障害）
第 7 回　達成度の確認（統合失調症 1）
第 8 回　達成度の確認（統合失調症 2）
第 9 回　達成度試験の勉強（統合失調症 3）
第 10 回　達成度の確認（気分障害 1）
第 11 回　達成度の確認（気分障害 2）
第 12 回　達成度の確認（ストレス関連障害）
第 13 回　達成度の確認（摂食障害と睡眠障害）
第 14 回　達成度の確認（人格障害および全体のまとめ）

【テキスト（教科書）】
教科書は用いません。適宜プリントを配布します。

【参考書】
柄沢昭秀（2006）精神医学入門　中央法規, 東京.
尾崎紀夫 (2018) 標準精神医学 第 7 版. 医学書院, 東京.

【成績評価の方法と基準】
期末試験を実施します。平常点（30 %, 数回の課題レポート（20 %）, 期末試験（50 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
63 名の受講者のうち 27 名から回答を頂きました。4-5 の段階が，授業の工夫では 63 %，理解できたかで 67 %，履修してよかったかは 85 %の人が評価をしてくれていました。授業外の学習時間は 56 %の人が 1 時間から 3 時間実施していたが，ほとんど行っていない人（14.8 %）があり，この点の工夫が次年度の課題となります。自由記述では，「前回の復習をしていただけて、次の授業に進みやすかった」「例えとして出していたのがすごくわかりやすかった」などの一方で，「資料の管理を丁寧にしてほしかった」「オンデマンド式の方が、講義を繰り返しみることができたのでよかった」などの意見もあった。春がオンデマンド，秋がズームであったので，ズームの場合がたとえ話や逸話などを授業の中に織り込むことがしやすく，ズーム講義の内容を繰り返し学習ができるようにしていきたい。授業の課外レポート作成課題が例年より多めとなりましたが，課題のフィードバックを行なった評価してもらっていました。この点は続けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
学習支援システムを利用して, 授業内配布のプリントや資料を掲載します。また, 学習支援システムのお知らせを使用します。普段使用しているメイルを学習支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】
【重要】割り当て教室の収容人員が例年の受講希望者人数を考慮すると，比較的余裕がないため，授業形態を一部あるいはほとんどをオンライン授業に変更する場合があります。皆さんの希望も調査したいと思いますので, 初回の授業には必ず出席して下さい。実施の順序については変更することがあり，授業の中や学習支援を用いて案内しますので，注意してください。
【オフィスアワー】履修の手引きの教員紹介に記載してあります。担当教員は，厚生労働省精神保健指定医，日本精神神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わっています。この経験を生かし，この授業に関連するエピソードを交えて講義をします。

【Outline and objectives】
In this lesson, we will compare various types of mental disorders with other disorders, and learn characteristics of symptoms and treatment.

PSY200BG

人格心理学

杉山　崇

授業コード：A3724　｜　曜日・時限：**金曜 5 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では「人格（パーソナリティ）」を手がかりに、人間と社会に関する心理学的理解を深めましょう。さらに、ワークやレポートを通して自己理解、他者理解、人間関係の理解を深めましょう。
人格には 1）人間の心理的な個人差（特徴）、2）個人の社会相互作用（社会適応）の様式、3）生得的な生理・反応・行動傾向、4）後天的な認知構造・信念・スキーマの様式、などさまざまな側面があります。これは、人間が非常に多面的な存在であることを意味しています。この授業では、まず心理学的な「人格」の考え方、人格心理学の基礎的な方法論を学びます。続いて人格心理学の応用や実際問題について実例を交えて学び、「人」を見る視点に幅を持たせましょう。

【到達目標】
1）「人格＝パーソナリティ」の基礎知識・基礎用語を身につける
2）人格心理学を通じた自己理解と他者理解を自分の言葉で語れるようになる。
3）人格心理学を通して人間と人間社会の理解を深め，自分の言葉で語れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
・「学習支援システム Hopii」を活用します。授業時間に必ず Hopii にアクセスし、「お知らせ」の支持に従って学修を進めて下さい。
・担当教員が配布した講義動画の視聴、または講義資料を熟読した後、課題を提出する形で行います。
・課題には「より深く学ぶための質問」も可能にしています。このシステムを活用して双方型授業として行います。
・課題の提出がない場合は欠席とみなします。
なお、課題として毎回、リアクションペーパーの提出（またはそれに代わるオンライン上での記入）を貸し、その内容については次回の授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	人格とは	ガイダンスと人格心理学の人間観
第 2 回	人格の理論①	精神分析的アプローチ
第 3 回	人格の理論②	学習理論、自己理論
第 4 回	人格の病理	パーソナリティ障害
第 5 回	類型論①	ユングのタイプ論：パーソナリティと職業
第 6 回	類型論②	ミロンの類型論
第 7 回	特性論①	因子分析と特性 5 因子論
第 8 回	特性論②	生物学的特性論
第 9 回	パーソナリティと欲求，恋愛	パーソナリティの偏り
第 10 回	人格の発達と統合①	遺伝行動学と生涯発達心理学
第 11 回	人格の発達と統合②	人格（スキーマ）形成と初期経験，スキーマ療法と人格の最適化
第 12 回	人格の発達と統合③	心理－社会的要因による情動調整
第 13 回	人格と進化論①	扁桃体の 3F とその統制の進化論
第 14 回	人格と進化論②	日本文化と謙遜

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【予習】次回授業のキーワードを 2 時間ほど調べ理解しておくこと。なお，キーワードを事前に知らせます。
【事後学習】人格心理学を通した 2 時間程度の自己理解の課題を毎回課す。

【テキスト（教科書）】
使用しない。必要に応じて資料やスライドを活用して実施する。
なお，資料は web で配布するので授業支援システムにアクセスできる環境が必須である。

【参考書】
『心理学要論』培風館
『心理学ビジュアル百科』創元社

【成績評価の方法と基準】
平常点（各授業における課題の提出）50%とレポート（到達目標の達成度）50%
レポートは授業内で指示します。

【学生の意見等からの気づき】
学生諸君の忌憚のないご意見を伺い、次年度の改善に役立てたい。みなさんのご意見を楽しみにしています。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムで資料配布し課題を出すため PC、インターネットを活用できる環境が必須。また、動画を配信する場合もあります。詳しくは授業支援システムで指示します。

【その他の重要事項】
この授業では人格について知識を深め、自己理解、および他者理解が深まることを目指しましょう。
人格心理学は一つの応用的な心理学の一分野です。心理学には個人差を誤差として、万人共通のメカニズムや法則を探るアプローチ（たとえば学習心理学）や、個人内ではなく環境や状況に人間の行動や感情、認知を変容させる仕組みがあるとするアプローチ（たとえば社会心理学）がありますが、人格心理学には個人内の過程に注目して、個人差の測定を行う観点もあります。応用的な心理学を学ぶための前提として、認知心理学、学習心理学、神経－生理心理学、社会心理学などの基礎的な心理学をある程度理解していることが必要です。
担当教員 HP ：　sugys-lab.com

【Outline and objectives】
Let’s deepen the psychological understanding of human beings and society with this clue as a clue of "personality " in this class. In addition, let’s deepen your understanding of self-understanding, others understanding, and human relations through work and reports.

PSY200BG

集団社会心理学／心理学２（集団社会心理学）２

越智　啓太

授業コード：A3725,A2303　｜　曜日・時限：**火曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
＜授業概要＞
人間の社会行動を科学的に解明する
社会心理学は、我々が、日々遭遇するさまざまな行動を心理学的な観点から分析していく学問です。集団社会心理学の授業では、そのなかでも特に集団と人との交わりの部分、パーソナリティと集団の関係の部分に焦点を当てて検討していきます。具体的には、集団内での自分のポジショニング (キャラを作っていくこと)、ものを売るとき買うときの心理、効果的な広告の方法、部活などにおいて適切なリーダーシップとは、人を説得するときどうすれば良いのか、集団でものを決めると本当にうまくいくのか、3 人寄れば文殊の知恵というのは本当か、なぜ国どおしが憎しみあうのかなど、ミクロからマクロまでさまざまなテーマを取り扱います。実際、とても身近な学問です。
＜学習目標＞
社会心理学の基礎概念と方法論を科学的に理解し、我々が普段遭遇する社会的な事象について心理学的観点から分析できるようにする。

【到達目標】
＜到達目標＞
(1) 社会心理学の基本的な概念について、その定義や基本的な研究が解説できるようになる。
(2) それらの概念について自分の具体的な経験と結びつけて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
＜授業内容＞
我々の社会行動について順次取り上げて、その理論と根拠になった実験例、応用、問題点などについて順次紹介していく。基本的には講義形式である。半期の授業なので、広い社会心理学の分野をすべて取り上げることが出来ないが、みなが関心を持つようなテーマをいくつか選んで深く掘り下げてみたい。授業後には毎回リアクションペーパーを、何回かに 1 回、小レポートを提出させる。リアクションペーパーおよびレポート課題については次回の講義時の最初で講評および追加解説を行う。また、場合においては、Hoppii 等で追加の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	集団社会心理学とは何か	授業の進め方、採点ポリシーの説明、社会心理学の概要、社会心理学の研究方法
第 2 回	消費者行動（1）	価格認知、プロスペクト理論、内的参照価格、ヒューリスティクス
第 3 回	消費者行動（2）	価格戦略、ブランドコミュニケーション、ブランド認知
第 4 回	説得的コミュニケーション（1）	態度、説得、送り手の効果、メッセージの効果、スリーパー効果
第 5 回	説得的コミュニケーション（2）	恐怖喚起コミュニケーション、比較広告、精緻化見込みモデル
第 6 回	説得的コミュニケーション（3）	要請過程、フットインザドア、ドアインザフェイステクニック、悪徳商法
第 7 回	うわさ（1）	うわさの伝達を規定する要因、不安と曖昧さの効果
第 8 回	うわさ（2）	都市伝説の伝達、都市伝説の誕生
第 9 回	同調とマイノリティインフルエンス（1）	同調行動、同調行動を規定する要因、アッシュの実験
第 10 回	同調とマイノリティインフルエンス（2）	マイノリティインフルエンス、服従、洗脳
第 11 回	集団意思決定（1）	社会的手抜き現象
第 12 回	集団意志決定（2）	集団意志決定におけるバイアス、リスキーシフト
第 14 回	リーダーシップ（1）	リーダーシップのスタイル、リーダーシップを規定する要因、PM 理論
第 14 回	リーダーシップ（2）	コンティンジェンシー理論、パス＝ゴール理論、組織学習、地位は人を作るか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自受講に際しては、ダウンロードした授業資料の該当部分を読むことが必要であるが、予習よりは復習の部分に力を入れて欲しい。授業資料には、各チャプターごとに記憶すべき用語（キーワード）と設問が書かれているので、この用語を記憶し、使いこなせるようにするとともに、設問を解いておくこと。設問についてはレポートとして提出させる。授業に関連した動画を視聴する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
　特に使用しない。プリントを使用する。プリント（パワーポイントの抄録版）は、授業支援システムからダウンロードできるようにしておく

【参考書】
　中里・松井・中村（編）社会心理学の基礎と展開　八千代出版を予復習用参考書に使用する。

【成績評価の方法と基準】
成績評価のためには 3/5 以上の出席を前提とする。
筆記試験（６０％）＋ レポート（３５％）＋コメント（５％）

【学生の意見等からの気づき】
　毎回、比較的良い評価をいただいております。とくに知的好奇心が満たされた、などのポイントが高くなっています。今年は例年よりもより面白くなるように努力します！ 昨年に比べ、ウェブを通して配付する資料を充実させました。

【学生が準備すべき機器他】
パワーポイントを使用する。
講義資料は各自、授業支援システムからダウンロードする。

【その他の重要事項】
（1）「社会心理学」（哲学科は心理学２社会心理学）とペアで社会心理学という学問全体を概観する。そのため、「社会心理学」と同時に履修することが望ましい。
（2）D 評価のものが毎年５％～１０％程度はでているので、決して、「楽勝科目」ではない。
（3）授業のパワーポイントの撮影を禁止する。重要なことはダウンロード資料に書かれている。

【Outline and objectives】
Lecture on psychology of group and communication

PSY200BG

臨床心理学／心理学３（臨床心理学） 1

杉山　崇

授業コード：A3690,A2258　｜　曜日・時限：**金曜 4 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
現代臨床心理学の体系的な理解を通して、現代社会における心理学の応用について一つの視野を形成することを目指す。

【到達目標】
臨床心理学が扱う心の問題と心の正常な機能，および問題を軽減して正常化を図る方法としての心理療法の正しい知識を身につけることを通して，人間への深い理解を形成する。また，人間への深みのある理解を通して，自己理解，他者理解，人間社会の理解を自分の言葉で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
臨床心理学は人間の十全な人生の展開を心理－社会的に支えるために発展した応用心理学である。臨床心理学の対象は非常に広く、医学的な診断名のあるうつ病、統合失調症、不安障害、パーソナリティ障害などの各種精神疾患から、不登校、NEET、家族不和、子育て、職場の人間関係、キャリア開発、各種福祉サービスなど実社会的問題まで扱う。
　そのため社会心理学、認知心理学、神経－生理心理学、行動心理学などいわゆる心理科学から、精神医学、精神分析、分析心理学まで幅広く統合して今日の臨床心理学は構成されている。
　ここでは講義を中心に体験的なワークも交えて、現代社会に比較的多い症状の理解、その心理的支援の理解、そして心理科学と臨床心理学アプローチを学ぶ。なお担当教員は臨床心理学の幅広いフィールドで心理的な支援の実際に関わっているが、この 10 数年の社会変動の中で臨床心理学とその実践が大きく変化するのを目の当たりにしてきた。実社会における心理学の応用・活用の諸問題について学生諸君とともに考えたい気持ちである。心理学の連続性について体系的な理解を目指す。
　なお、課題として毎回、リアクションペーパーの提出（またはそれに代わるオンライン上での記入）を貸し、その内容については次回の授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	臨床心理学総論①	歴史とガイダンス
第 2 回	臨床心理学総論②	目的と対象
第 3 回	力動的アプローチ	精神分析とユング心理学
第 4 回	人間性と欲求	欲求とパーソナリティ
第 5 回	生物・心理・社会モデル	効果的なカウンセリングのためのアセスメント
第 6 回	関係構築と願望	カウンセリングの 3steps モデル
第 7 回	心を整える方法	認知再構成法
第 8 回	行動を整える方法	セリフモニタリングと活動記録
第 9 回	対人関係療法①	社会脳と対人関係
第 10 回	対人関係療法②	社会的感情と社会的欲求
第 11 回	対人関係療法③	人間関係の最適化
第 12 回	事例研究①	適正に悩む女性の事例
第 13 回	事例研究②	不安、強迫観念、抑うつ
第 14 回	事例研究③	うつ病からの復職支援

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
予習：配布資料およびテキストの指定範囲を読み込み，専門用語について 2 時間ほど調べてくること。
復習：各回あたり 2 時間程度の復習課題を課し，復習のためのレポートを随時課す。

【テキスト（教科書）】
『事例でわかる、働く人へのカウンセリングと認知行動療法・対人関係療法』金子書房

【参考書】
『カウンセリングの援助と実際』北樹出版
臨床心理学の「現場」を実態を通して紹介した画期的な良書。事例を学ぶのに最適。
http://www.hokuju.jp/books/view.cgi?cmd=dp&num=821&Tfile=Data
『事例でわかる，基礎心理学のうまい活かし方』金剛出版
心理学がどのように心理療法に活かされているか，事例を通して学ぶ画期的な図書。
https://7net.omni7.jp/detail/1106063973

【成績評価の方法と基準】
平常点（復習課題＋授業態度）30%とレポート（到達目標の達成度）70%

【学生の意見等からの気づき】
　学生諸君の忌憚のないご意見を伺い、次年度の改善に役立てたい。みなさんのご意見を楽しみにしています。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムで資料配布し課題を出すため PC、インターネットを活用できる環境が必須。また、動画を配信する場合もあります。詳しくは授業支援システムで指示します。

【Outline and objectives】
Through systematic understanding of modern clinical psychology, we aim to form a viewpoint of application of psychology in contemporary society.

PSY200BG

犯罪心理学／心理学３（犯罪心理学）２

越智　啓太

授業コード：A3691,A2259　｜　曜日・時限：月曜 3 限
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：○

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
犯罪者の行動を科学的に分析する
犯罪心理学は、犯罪に関する人間行動を科学的に解明していく学問であるが、なぜ犯罪が起きるのかについて検討する「犯罪原因論」、犯罪捜査への心理学の応用について検討する「捜査心理学」、犯罪者や非行少年をいかに更正させていくかについて検討する「矯正心理学」などの分野がある。この授業では、このうち、「捜査心理学」を取り上げ、その基本的な原理から最先端の研究までを概観する。具体的には連続殺人、大量殺人、テロリズム、子どもに対する性犯罪、ストーキングなどを取り扱う。また、プロファイリングや犯罪者に対する処遇、精神疾患の犯罪者の責任能力、FBI の捜査システム、日本の警察における犯罪捜査の現状と問題点、などの問題に関しても時間が許す限り取り上げてみたい。なお、授業の中では実際の事件以外にも、映画や小説などもとりあげる。推理小説、刑事映画マニアの人の受講も歓迎する。。

【到達目標】
（1）犯罪についての科学的研究のアプローチ方法について説明できるようになる。
（2）各種犯罪についての基本的な用語、知識について説明できるようになる。
（3）各種犯罪についての学問的な成果を元に犯罪現象について心理学的な観点から論ずることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
　授業方法は、講義形式。基本的にパワーポイントを使用する。毎回リアクションペーパーを提出する。何回かに 1 回、小レポートを提出する。リアクションペーパーおよびレポート課題については次回の講義時の最初で講評および追加解説を行う。また、場合においては、Hoppii 等で追加の解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	犯罪心理学の概要	犯罪原因論、捜査心理学、裁判心理学、矯正心理学の概要、犯罪心理学の方法論、犯罪精神医学と犯罪心理学の違い、犯罪捜査の問題点など
第 2 回	連続殺人（1）	連続殺人捜査の問題点、連続殺人の具体的な事例
第 3 回	連続殺人（2）	ホルムズによる連続殺人の動機のタイポロジー、連続殺人の原因
第 4 回	連続殺人（3）	女性の連続殺人、タイポロジーと動機
第 5 回	大量殺人 (1)	大量殺人の定義とタイポロジー、典型的な事例
第 6 回	大量殺人（2）	大量殺人犯人の動機と典型的な行動パターン、防犯手法とその問題点
第 7 回	テロリズム（1）	政治テロリズム、政治テロリストの動機と典型的な行動パターン
第 8 回	テロリズム（2）	宗教テロ、新興宗教のテロ類似行為
第 9 回	テロリズム（3）	ローンウルフ型個人テロ、エコテロリズム、新しいタイプのテロ、生物化学テロなど
第 10 回	子どもに対する性犯罪（1）	子どもに対する性犯罪の加害者、被害者、犯行手口
第 11 回	子どもに対する性犯罪（2）	犯行の起こる場所、環境的防犯手法、防犯対策
第 12 回	子どもに対する性犯罪（3）	犯人に対する矯正手法、社会防衛手法
第 13 回	非行（1）	非行の現状と問題点、非行に対する司法システムの概略と心理職の役割
第 14 回	非行（2）	非行の原因に関する諸理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
あらかじめ、テキストの指定する部分を読んでおく。また、あらかじめ、テキスト（プログレスのほう）の該当する章の予習問題をやっておく。復習としては、授業内で取り上げる各種事件について、インターネットなどを使用してより詳しく調査しておくとともに受講中に新聞やニュースをチェックし、関連する事件があった場合にはその内容をまとめておく。適宜そのまとめをレポートとして提出させる。授業とは別に課題の動画を視聴する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
越智啓太　ケースで学ぶ犯罪心理学　北大路書房
越智啓太　プログレス＆アプリケーション　司法犯罪心理学　サイエンス社

【参考書】
越智啓太ほか（編著）　法と心理学の事典　朝倉書店
越智啓太　ワードマップ　犯罪捜査の心理学　新曜社
越智啓太　桐生正幸（編著）　テキストブック司法犯罪心理学　北大路書房

【成績評価の方法と基準】
筆記試験（６０％）＋レポート（３５％）＋授業コメント（５％）

【学生の意見等からの気づき】
本授業は、毎年高い評価をいただいておりますが、要望に応え、本年は新しい事例をくわえました。また、動画、配付コンテンツなどを充実させ、これを hoppii より利用できるようにしてあります。さらに新しく、さらに知的好奇心を満たすものにすべく努力します。

【学生が準備すべき機器他】
基本的にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】
（1）本講義は、犯罪という不快な現象を取り扱い、不快な資料なども使用する可能性があるので、各自の進路や適性を十分考慮して受講するか否かを決定すること。
（2）授業のパワーポイントを撮影することを禁止する。重要なことはテキストに書いてありますし、不足の部分があれば資料を配付します。
（3）例年、５％～１０％が D 評価になります。他の教員に比べて A,A+はつきにくいので楽勝科目ではありません。
（4）講師は、警視庁科学捜査研究所での実務経験があるので、実際の犯罪捜査場面やケースなどと関連付けながら講義を行う。

【Outline and objectives】
Learn about scientific analysis and profiling of criminal behavior

PSY200BG

カウンセリング心理学

下山　晃司

授業コード：A3726　｜　曜日・時限：**月曜 5 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業前半は、カウンセリングおよび心理療法の主要理論について、各理論の成り立ち（対象者・創始者の哲学）や限界などについて学びます。人間の抱える心理的困難について、複数のアプローチから多角的に理解できるようになることを目標とします。
授業後半は、継続的なロールプレイングを体験することにより、基本的な傾聴スキルを身につけることをテーマとします。これにより、カウンセリングおよび心理療法を学問としてだけではなく、対人援助における「実践の技（アート）」としても理解することを目指します。

【到達目標】
各理論の基礎的な内容（理論・対象者等）を理解すること。理論間の相違点および共通部分を理解すること。
ロールプレイングを通して、「傾聴」に必要な言語的・非言語的スキルを身につけること、および他者・自己の変化を捉える観察力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
力動的アプローチ、パーソン・センタード・アプローチ、行動療法等の主要理論を下記「授業計画」に沿って、講義形式で解説していきます。
ロールプレイングでは、各自が Co（カウンセラー）、Cl（クライエント）、Ob（オブザーバー）役を担当して、ロールプレイングを反復して行います。
毎回の授業でリアクションペーパーを回収し、次回授業冒頭でいくつかを紹介します（匿名）。質問・意見・要望等に対して全体にフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・「行動を見る」ヒント・各理論の共通基盤	授業の進め方
第 2 回	精神分析 1	理論と対象者
第 3 回	精神分析 2	防衛機制・転移感情
第 4 回	パーソン・センタード・アプローチ	カウンセラーの態度とグループエンカウンター
第 5 回	行動療法	基盤となる理論と対象者
第 6 回	行動変容	基盤となる理論と対象者
第 7 回	認知行動療法	理論と対象者
第 8 回	中間試験	前半部分の理解度測定
第 9 回	ロールプレイング 1	4 種類のサポート実習
第 10 回	ロールプレイング 2	テーマが決められた面接 1
第 11 回	ロールプレイング 3	テーマが決められた面接 2
第 12 回	ロールプレイング 4	テーマが決められた面接 3
第 13 回	ロールプレイング 5	テーマが自由な面接 1
第 14 回	ロールプレイング 6	テーマが自由な面接 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業で扱う主要理論について、教科書の該当箇所を予習すること。
ロールプレイングで習得した内容を実践すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
矢澤美香子（編）　2018　基礎から学ぶ心理療法　株式会社ナカニシヤ出版

【参考書】
W. ドライデン & J. ミットン著　酒井汀訳　2005　カウンセリング／心理療法の 4 つの源流と比較　北大路書房
ポール・ワクテル著　杉原保史訳　2002　心理療法の統合を求めて　精神分析・行動療法・家族療法　金剛出版

【成績評価の方法と基準】
主要理論の理解度および基礎的な知識を測定する筆記試験を中間に実施します（50%）。
反復したロールプレイングを通して得られた知見をまとめたレポートを期末に課します（50%）。レポートの評価の観点は、授業中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】
7 人/13 人の回答を得ました。
「Q1. この授業では、積極的な工夫がされていましたか」に対して、71.4%が a.5 大変工夫していたと回答しました。
「Q4. この授業を履修してよかったと思いますか」に対して、85.7%が a.5 大変良かったと回答しました。
自由記述として、「カウンセリングという，オンラインで行うには非常に困難な講義を，オンラインで工夫して行っていただき，ありがとうございました。ブレークアウトルームを利用したロールプレイでの経験は非常に有益なものだったと思います。」、「ロールプレイングを通じて、カウンセリングというものを体験することができたのでとても貴重な時間になりました。また、授業を重ねるにつれ、自分が少しずつ成長していくのが分かったのでとても面白かったです。」とある一方で、「出来れば対面で行いたかった。」とありました。オンライン故のロールプレイングのハードルの低さと限界を認識しました。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システム

【Outline and objectives】
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the major counseling methods. It also enhances the development of students' skill in listening to others. Through consecutive role-playing, participants are expected to understand counseling as an 'art,' as well as theory of human understanding.

PSY200BG

身体運動の心理と生理

林　容市

授業コード：A3738　｜　曜日・時限：**月曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業では，身体運動の基礎となる心理的・生理的基礎を学び，様々な身体活動やスポーツ実践時における身体動作の学習や発達について理解することを目的とします。

【到達目標】
・身体運動に関わる心理的・生理的基礎を学習する。
・様々な身体運動の制御や発達に関する知識・情報を学習する。
・自身の身体運動についてそのメカズムを理解し，必要に応じて改善できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の目的の達成には，いかにその課題を解決するかを「考え，実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ，身体運動に関連した心理的・生理的知識を学ぶことが授業目的の一つとなります。その知識を，日常における自らの身体運動時にどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し，毎回の授業でリアクションペーパーの提出を求め，その内容を次回以降の授業に反映させます。また，授業内容に関連した個人の考え・意見をまとめたミニレポートの提出を求め，評価の一部とします。なお，授業の初めに，前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ，全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認，身体活動に関わる諸要因について学ぶ
第 2 回	身体運動時における骨格筋の働き	骨格筋の構造・機能や筋力・筋パワーについて学ぶ
第 3 回	身体運動時における神経系の働き・調節 1	身体運動時の神経系の基礎的な働きについて学ぶ
第 4 回	身体運動時における神経系の働き・調節 2	神経系による身体動作の調節，運動と様々な反射について学ぶ
第 5 回	身体運動の知覚と運動の意図	身体運動時の感覚に関するメカニズムを学ぶ
第 6 回	身体運動の制御と学習	身体運動制御に関する 2 つのアプローチについて学ぶ
第 7 回	身体運動とイメージ	身体運動や身体のイメージの知覚に関する基礎を学ぶ
第 8 回	身体運動の動作を分析する	スポーツの動作を分析する手法や解釈を学ぶ
第 9 回	複雑な身体運動の獲得	複合運動学習について学ぶ
第 10 回	姿勢制御のメカニズム	姿勢を制御するシステムやその発達について学ぶ
第 11 回	移動性機能制御のメカニズム	歩行等を制御するシステムやその発達について学ぶ
第 12 回	物品操作時の身体運動制御のメカニズム	把握やリーチ等を制御するシステムやその発達について学ぶ
第 13 回	身体運動の感覚と個人差	子供の身体運動感覚と発達における個人差について学ぶ
第 14 回	身体運動の発育・発達と幼児期の身体運動の考え方	幼児期・児童期における身体の発育・発達と身体運動のあり方について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
原則として，シラバスに記載されている授業内容に関し，事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で，毎回のリアクションペーパーにコメント・回答をしてください。また，ミニレポートの作成に向けて授業ごとに内容を復習し，個人の考え・意見をまとめておいてください。なお，これらの授業に向けた準備および復習の時間はそれぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて，または授業中に資料を配付します。

【参考書】
健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】
1）授業参画の状況と理解度（授業ごとのリアクションペーパーなどで評価）：70%，2）ミニレポート：30%，の配分で総合評価する。
※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため，「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】
2020 年度はすべてオンラインでの授業となってしまいましたが，当初予定していた実習・演習が全く実践できず，単に講義を聞くだけになってしまいました。
2021 年度は，原則対面での授業を実施する予定となっていますので，前年度の様に知識の提供だけでなく，実際に身体活動時においてどのような心理的・生理的な反応が生じ，両者がどのように関連するのかを体験しながら授業を展開し，受講生の理解を深められるようにしたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn the psychological and physiological factors underlying body movements and exercise and to understand the learning and development of body movements and exercise during various physical activities and sports.

PSY200BG

発達心理学特講

渡辺　弥生

授業コード：A3680　｜　曜日・時限：**火曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
人間の発達過程のうちの幼児期から青年期に焦点を当て、子どもの社会性や道徳性の発達を中心に最新の発達心理学研究に触れていく。春学期の発達心理学より、実際の研究論文を読んだり、分析方法や結果考察のありかたなどを含め深く解説する。したがって、先に発達心理学を受講した方が望ましい。

【到達目標】
発達心理学研究の知識を身につけ、どのようなことを解明するためにどういった研究方法の工夫が必要かを考え、実際に自分が発達心理学の研究を行うのに必要な知識の獲得をめざす。いまだ解明されていないことも多く、問題提起しそれを研究する意欲を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には講義形式。人間の発達の奥深さを実感できるように、できるだけビデオや DVD などの視聴覚教材を用いる。ペア・ワークやグループ・ワークなどアクションラーニングを盛り込みながら、発達心理学研究のテーマやさまざまな研究アプローチがあることを理解できるようにする。受講希望者は初回時には必ず出席する。課題などのフィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	発達心理学への誘い 「発達」と「成長」はどう違うのか。	今後の授業の方針と評価の仕方について説明。発達心理学とは何か、歴史的な展開、遺伝か環境か、発達の意味について学ぶ。
第 2 回	発達心理学の研究方法の特徴 人の心の発達をどのようにして科学的に理解しようとするのか。	横断研究と縦断研究。観察方、実験法、面接法、質問紙法など。また検査の用い方。関連領域と仕事との関係。
第 3 回	胎児・乳児の心理学 赤ちゃんってすごいな！ 親子関係の始まり。	乳幼児期の愛着、養育態度：親になるということはどういうことなのか、親子の愛情のきずなはどのように形成されるのかを理解する。
第 4 回	幼児期を育ちゆく子ども 「自分」という意識はどのように獲得していくのか。	自己意識をどのように獲得していくのか。自分の顔を鏡で見て理解できるのか。また幼児期の認識の発達を学ぶ。
第 5 回	幼児期に身につける力 言葉を獲得していくことによって、気持ちも表現できるようになる。	自分の気持ちを理解するようになると、コントロールできるようになる。自分を抑制したり、主張したり、マネジメントできるようになることを学ぶ。遊びの大切さ。
第 6 回	児童期の誕生 「学校」にいくことで変化すること、求められることは何か。	児童期における認知発達のプロセスを学ぶ。自分の視点からのみ理解していたところ方、他人の視点を予測できるようになる、と言った視点取得について学ぶ。
第 7 回	児童期の対人関係の広がり：自己理解が進み、他者の気持ちを想像できるようになると、どんな世界が広がるのか。	友達関係を築き、維持するためには、社会性や道徳性などが必要になるが、どのように発達するかを学ぶ。生じるトラブルや問題についても考える。
第 8 回	中学生・高校生の心理学。大人でもなく、「もう、子どもジャない！」という気持ちが生じるこの時期の変化とは。	自己嫌悪感や嫉妬、など発達するからこそみえる思春期の特徴を学ぶ。
第 9 回	中学生・高校生の心理 中１ギャップって何？ 自尊感情はどうすれば高まるのか。	思春期の思いやりや規範意識の発達について学ぶ。いじめはなぜ起きるのか、どうすれば予防できるかについても学ぶ。
第 10 回	大学生・有職青年の心は。進路と仕事についてどのように考えていくのか。	就職すること、人生について考えるようになるが、個性化と社会化について葛藤するプロセスを学ぶ。ポジティブに生きる力について学ぶ。
第 11 回	成人の心理学 中年期以降、人生をどのように俯瞰し、生きることになるのか。	年齢を重ねるからこそ、見出せる能力や幸福感について考える。時間軸、対人関係、社会や文化との関連について学ぶ。
第 12 回	時間的展望の発達 時間の概念を獲得し、過去を振り返り、現在を生き、未来を予測することができることは、何に影響を及ぼすか。	昨日も明日もわからなかった赤ちゃんが、３０年ローンなどを考えるようになることが、生きることにどのような影響を及ぼすか。
第 13 回	対人関係が広がることで、自分だけではなく、多くの人のことを考えるようになることは、生き方にどのような影響を及ぼすか。	：人を助ける人もあれば傷つける人もいる。この違いは何かを考えてみる。対人関係の広がりがもたらすことについて考える。
第 14 回	総括の時間。人が自身を客観的に俯瞰し、悩む意味は何か。	発達心理学が生きることに役立つだけでなく、社会にどのように役立つか仕事を通して考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回ミニテストを実施し、各授業のポイントを押さえているかを確認する。試験や課題については、授業時に説明する。予習復習に各２時間をかけることとする。

【テキスト（教科書）】
『発達心理学　シリーズ　心理学と仕事』二宮克び・渡辺弥生編著　北大路書房

【参考書】
『原著で学ぶ社会性の発達』渡辺弥生・伊藤順子・杉村伸一郎編　ナカニシヤ出版
『子どもの１０歳の壁とは何か？』渡辺弥生著（光文社新書）
『感情の正体ー発達心理学で気持ちをマネジメントする』（ちくま新書）
『中１ギャップを乗り越える方法』渡辺弥生著（宝島社）

【成績評価の方法と基準】
授業への出席は単位修得の前提条件であり、成績評価は、アクティブな参加（ミニ課題で正答を考えること）と、課題への能動的な取り組みとする。具体的には、毎回のミニクイズ（60%）とミニレポート課題２つ (40%) の両方を評価する。ただしミニクイズは全体の 3 分の２以上、ミニレポート課題２つを最低提出しないと評価はできない。

【学生の意見等からの気づき】
授業支援システムからの質問や感想などから、テキストを踏まえた授業と、それを応用するミニクイズや課題などは楽しいとあったので、継続したい。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに入ること。

【その他の重要事項】
学習支援システムや Google Classroom などの活用

【発達心理学】
https://sites.google.com/site/emywata/Home

【Outline and objectives】
We will understand a developmental perspective including the background, challenges, and methodology of related research, focusing on infancy, childhood, and adolescence. We will aim to understand the diversity and variability of human development.

PSY200BG

社会心理学特講

島宗　理、高橋　敏治、田嶋　圭一、渡辺　弥生、福田　由紀

授業コード：A3687　｜　曜日・時限：**土曜 3.4.5 限（隔週）**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：○　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
多様化、高齢化が急速に進む現代社会においては、わが国の歴史や文化に対する理解を深めながら、広い視野を持ち、自分とは異なる価値観や考え方を持つ他者と共生していけること、すなわち、良識ある公民たることが求められます。
本授業では、現代社会が直面している様々な問題を取り上げ、これに対する心理学からのアプローチを紹介します。

【到達目標】
様々な社会的問題を、1) 先行研究や統計資料などのデータを活用して記述し、2) 多面的、客観的、主体的に考察し、3) 他者との議論を活かしながら、公正な判断を下せるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は変則的な隔週のオムニバス形式で行います。2 ～ 3 回の授業時限を 1 単元とし、単元ごとに 1 つの社会的問題や課題を取り上げ、これに関連する心理学の研究や実践などについて担当教員が講義します。学生はこれをもとに、自らの考えをまとめ、授業内で討論します。さらに、自らの考えを他者に伝え、他者の考えを積極的に聞く練習をしながら、最終的に単元ごとにレポートを作成して提出します。
レポートの提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。
授業日と内容は以下の通りで，オンラインで授業を行う予定である。
第 01 回（2021/10/02）持続可能な社会と心理学：講義（島宗） 3, 4, 5 時限
第 02 回（2021/10/16）現代社会における家族と心理学：講義（高橋） 3, 4, 5 時限
第 03 回（2021/11/06）異文化・言語と心理学：講義（田嶋） 3, 4, 5 時限
第 04 回（2021/11/20）危機予防の心理学：講義（渡辺） 3, 4, 5 時限
第 05 回（2021/12/04）共生社会における相互理解と心理学：演習（福田） 3, 4 時限

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	現代社会が直面する問題について概観し、本授業の進め方やレポート課題、成績評価方法などについて説明する。
第 2 回	持続可能な社会と心理学 (1)	資源や環境問題について、持続可能な社会を実現するための行動分析学からのアプローチについて解説する。
第 3 回	持続可能な社会と心理学 (2)	持続可能な社会を実現するための方法論についてチーム内で議論し、各自がレポートのアウトラインを作成する。
第 4 回	現代社会における家族と心理学 (1)	戦後の家族規範の変化、夫婦制家族・核家族化への変化、父系から母系家族への変化など、日本の家族の歴史的変遷について考える。
第 5 回	現代社会における家族と心理学 (2)	家族の変化に伴い精神保健的な家族問題がいろいろと顕在化している。具体的には、アダルトチルドレンの問題、EE（Emotional Expression）研究、家族学習会（家族ネット）、痴呆ケアの家族の問題、虐待と家族など危機に瀕した家族の問題を取り上げ、チームで発表議論する。
第 6 回	テーマ別調べ学習とレポート作成	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入手し、レポートを作成する。
第 7 回	危機予防の心理学 (1)	いじめ、不審者侵入などあらゆる種類の学校危機に対する予防のあり方をエビデンスをもとに解説する。
第 8 回	危機予防の心理学 (2)	心理的な危機を予防するためにどのようなアプローチやプログラムが可能かを議論し、具体案を作成する。

第 9 回	共生社会における相互理解と心理学 (1)	既有知識がある場合と無い場合における相手とのコミュニケーションを体験して、共有された世界を構築するために何が必要なのかを考える。
第 10 回	共生社会における相互理解と心理学 (2)	共有された世界を構築するために、どのような活動が必要かを体験を通して考える。
第 11 回	異文化・言語と心理学 (1)	言語はなぜ文字通りに伝わらないのか、しゃべっていないのになぜ伝わるのか、言語によって相手や自分にどのように気を配っているか、特に異文化間の違い注目しながら考える。
第 12 回	異文化・言語と心理学 (2)	異文化あるいは同一文化の相手と誤解なくかつ円滑に意思疎通を図るにはどのようにすればよいか、チームで議論し、レポート作成の準備を行う。
第 13 回	テーマ別調べ学習とレポート作成	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入手し、レポートを作成する。
第 14 回	まとめ、質疑応答とレポート作成	授業全体を振り返り、チーム内でレポートの下書きを読み合い、意見交換する。 必要に応じて講義担当教員へ質問し、最終的にレポートをまとめ、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業時間内にも調べ学習などの時間をとってありますが，単元ごとに提出するレポートの作成には図書館へ行ったり，文献を検索したり，レポートを書く時間を確保しておきましょう。各単元のレポートにかかる時間は各単元ごとの復習 6 時間とレポート作成 6 時間の計 12 時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】
テキストはありません。

【参考書】
参考文献を紹介します（以下は一例です）。
○ Chance, P., & Heward, W. L. (2010). Climate Change: Meeting the Challenge. The Behavior Analyst, 33, 197 – 206.
○ Abrahamse, W., Steg, L., Vlek, C., & Rothengatter, T. (2005). A review of intervention studies aimed at household energy conservation. Journal of Environmental Psychology, 25, 273-291.
○山崎勝幸• 戸田有一• 渡辺弥生 (2013). 世界の学校予防教育 金子書房
○ Brock, S.E, & Jimerson, S. R. (Eds.) (2012). Best Practices in School Crisis Prevention and Intervention 2nd edition, National Association of School Psychologists.
○石原 邦雄 (2008). 家族のストレスとサポート 放送大学教育振興会
○井出 祥子・平賀 正子 (2005). 講座社会言語科学〈第 1 巻〉異文化とコミュニケーション ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】
テーマ別レポート（全 5 題）をそれぞれ 20 点満点で採点し、合計得点が満点（100 点）に占める割合で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】
（2020 年度は未開講でした）

【その他の重要事項】
代表として島宗のオフィスアワーを掲載しておきます。他の教員のオフィスアワーについては各自が担当する授業シラバスを参照して下さい。
島宗のオフィスアワー：春学期は金曜 4 時限、秋学期は火曜 4 時限、場所はどちらも研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline and objectives】
In today's rapidly diversifying and aging society, we need to be sensible citizens, who understand our country's history and culture, have a broad perspective, and are able to coexist with others who have different values and ways of thinking from our own. The purpose of this course is to learn research-based psychological solutions to various social problems that modern society is facing such as energy consumption, family issues, risk management at schools, communication and cross-cultural understanding.

PSY200BG

スポーツ心理学特講

荒井　弘和

授業コード：A3664 ｜ 曜日・時限：**月曜 3 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
授業のテーマは、スポーツ心理学の基本的なテーマ（スポーツ・運動・身体活動への心理学的アプローチ）を学習することです。

【到達目標】
運動やスポーツを含む身体活動は、私たちの「こころ」と深い関わりをもっています。スポーツ心理学の研究や知見を理解することによって、「こころの仕組み」に関する理解を深め、身体活動・運動・スポーツ場面において心理学的な支援を実践できるようになることを目標とします。また、スポーツを通じて現代社会のあり方を考え、スポーツを通じて広い視野を養い、良識ある市民となることを目指します。
なおこの授業は、文部科学省が育成を推進している「就業力」の構成要素である「情報収集・分析・発信力（主に、仮説構築力、信頼関係構築力、対象者確定力、情報伝達力）」と「状況判断・行動力（主に、環境変革力、共同行動力）」の育成に貢献することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業では、運動学習や運動の習慣化に関連する理論モデルから、メンタルトレーニングやスポーツパーソンシップまで、幅広い内容を扱います。さらに、欧米で注目されている最新のトピックや、実際のスポーツ場面で生じた事例についても触れます。
以上のことによって、現代社会においてスポーツ心理学が果たす役割について具体的に考え、心理学的な支援を実践できるようになることを目指します。
授業は、講義形式が中心となります。ただし、一方向的な講義ではなく、講義の内容に基づいて、実習を採用したり、グループワークにおいて意見交換を行ったり、プレゼンテーションを行ったりしながら、課題の解決を考え、実践します。
なお、この授業は、スポーツに関心のない学生にも履修を勧めます。なぜなら、スポーツ心理学の知識・技法は、就職活動などにも適用できるためです。
授業中の課題に対するフィードバックは、次の回の授業の序盤に、受講生全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	スポーツ心理学とは何か？ を学ぶ	スポーツ心理学の全体像を理解し、説明できるようになる。
第 2 回	競技スポーツの心理学を学ぶ　1）スポーツメンタルトレーニングを学ぶ（1）	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第 3 回	競技スポーツの心理学を学ぶ　1）スポーツメンタルトレーニングを学ぶ（2）	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。
第 4 回	競技スポーツの心理学を学ぶ　1）スポーツメンタルトレーニングを学ぶ（3）	メンタルトレーニングのスキルを理解し、実践し、活用できるようになる。

第 5 回	競技スポーツの心理学を学ぶ　2）チームビルディングを学ぶ（1）	チームビルディングの概要を理解する。
第 6 回	競技スポーツの心理学を学ぶ　2）チームビルディングを学ぶ（2）	ファシリテーションを用いたチームビルディングの方法を理解し、実践し、活用できるようになる。
第 7 回	競技スポーツの心理学を学ぶ　2）チームビルディングを学ぶ（3）	集団効力感の観点から、チームビルディングの方法を理解し、実践し、活用できるようになる。
第 8 回	競技スポーツの心理学を学ぶ　3）スポーツ選手の健康問題に対する心理学的アプローチを学ぶ（1）	スポーツ選手の健康問題を理解し、その問題に対する心理学的アプローチを提案できるようになる。
第 9 回	競技スポーツの心理学を学ぶ　3）スポーツ選手の健康問題に対する心理学的アプローチを学ぶ（2）	スポーツ選手の健康問題を理解し、その問題に対する心理学的アプローチを提案できるようになる。
第 10 回	健康スポーツの心理学を学ぶ　1）運動とメンタルヘルスとの関連を学ぶ	健康のために実施する運動の効果について説明できるようになる。
第 11 回	健康スポーツの心理学を学ぶ　2）運動を促進させるための働きかけを学ぶ	行動科学の方法論やマーケティング手法を用いて、自分や周りの人に対して、運動を促進するための働きかけができるようになる。
第 12 回	競技スポーツの心理学を学ぶ　4）アダプテッド・スポーツの心理を学ぶ	障がいのある人が行うスポーツ活動の特徴を理解し、心理学的な支援を実践できるようになる。
第 13 回	競技スポーツの心理学を学ぶ　5）スポーツパーソンシップを考える	スポーツパーソンシップについて学び、自分の考えとその根拠を明確にできるようになる。
第 14 回	スポーツの仕組みの心理学を学ぶ	スポーツの技術を身につけて、実践する際のメカニズムを学び、説明できるようになる。スポーツ場面で生じる現象のメカニズムを学び、説明できるようになる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義内容を実践・活用できるようになることを目指して、毎回の授業中に提示されるレポート課題に取り組めるよう、情報を収集してから授業に参加してください。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは設定しません。必要に応じて、資料配付・文献紹介を行います。

【参考書】
日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版」大修館書店
荒井弘和（編著）「アスリートのメンタルは強いのか？ ―スポーツ心理学の最先端から考える―」晶文社

【成績評価の方法と基準】
(1) 授業の到達目標と対応した期末レポートが 60%、(2) 授業中に実施する課題、プレゼンテーション、グループワーク、意見交換への参加状況が 40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が低下します。

【学生の意見等からの気づき】
「ワークも挟みながらの授業は楽しかったです」という意見がありました。引き続き、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】
ありません。

【その他の重要事項】
授業の概要を理解するために、また、授業の予定を立てるために、初回の授業には必ず出席してください。
アクティブ・ラーニングを行いますので、協力的な姿勢で授業に参加してください。

【Outline and objectives】
To learn the basic theme of sports psychology (e.g. psychological approach to sports, exercise, and physical activity).

PSY200BG

心理学英語Ⅱ

常深　浩平

授業コード：A3730　｜　曜日・時限：**月曜 2 限**
秋学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
いわゆる英文和訳ではなく、テキストの内容を理解するための基礎を身につけることを目標とする。英語による心理学専門用語や論文の形式、表現に慣れ、英語文献を理解し、自らの学習に生かすための基礎力を身につけることを目標とする。

【到達目標】
英語による心理学文献を理解するための基礎的読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
リーディング教材に関する質問について、意見を出し合ったり、クラス全体で議論、確認したりする演習型の授業を行う。
授業の初めに、前回の授業で提出された授業内課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	学習の準備	各自今学期の到達目標を決める
第 2 回	長文読解になれる（1）	記憶に関する英語論文の読解（全体を軽く読む）
第 3 回	長文読解になれる（2）	言語発達に関する英語論文の読解（全体を軽く読む）
第 4 回	英語論文の探し方	授業後半で使う英語論文の探し方
第 5 回	英語論文を読む（1）	英語論文の構成をつかむ 見出しの名称と内容
第 6 回	英語論文を読む（2）	タイトルとアブストラクトから何が分かるか
第 7 回	英語論文を読む（3）	メソッドの読み取り方
第 8 回	英語論文を読む（4）	リザルトとディスカッション、全体の構成
第 9 回	アカデミックライティング①	読みから書きへ
第 10 回	アカデミックライティング②	一文の英作文①
第 11 回	英語論文を読んで、それをレポートする（1）	一文の英作文②
第 12 回	英語論文を読んで、それをレポートする（2）	一段落の英作文
第 13 回	英語論文を読んで、それをレポートする（3）	長文の英作文を書くために
第 14 回	英語レポート発表	作成した英語レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
リーディング教材は必ず事前に目を通しておく。
出されたリーディング、ライティング課題は、必ず締め切りまでにやって、遅れずに提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書は使用せず、 リーディング教材を配布する。

【参考書】
英和辞典・和英辞典等

【成績評価の方法と基準】
平常点（授業内課題）60%
期末レポート　40%

【学生の意見等からの気づき】
授業内で論文を扱う回を前年度より増やすこととする。

【Outline and objectives】
This class develops student's basic English skills not for translation, but for comprehend English texts. To be familiar with academic terms, forms of journal papers, expressions of psychology in English, and utilize them to one's own study.

PSY200BG

心理学特殊講義Ⅱ

吉村　浩一

授業コード：A3727　｜　曜日・時限：**木曜 3 限**
春学期・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この科目のテーマは「心理学研究法総論」です。入学以来学習してきた「実験法」「調査法」「検査法」「観察法」「面接法」のそれぞれの方法が持つ特徴を把握するとともに、実際に使用するにあたっての重要な問題点について学習します。受講生の皆さんは、自分が利用する可能性がある方法としてそれぞれの方法の適切な利用法とその方法のもつ問題点とを両面から捉えていってください。
　日本心理学会が認定する「認定心理士（心理調査）」の資格認定を取ることを少しでも考えている人には、特にこの科目の受講を薦めます。

【到達目標】
実験法、調査法、検査法、観察法、面接法、それぞれの特徴と使用時の主な注意点を理解し、実際に自らの研究でこれらの方法を使えるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は対面とオンデマンドの回を原則として交互に行う予定ですが、状況により変更する可能性がありますので、Hoppii の「お知らせ」に注意しておいてください。
　受講者自身がそれぞれの研究法を自らの研究に活用できる可能性を探ります。5 つの異なる研究法のそれぞれを数回ずつ学習し、最後の回では各受講者が興味をもった、あるいは使用する可能性のある研究法について、それを用いることの利点と問注意点を自覚する形で利用内容を発表します。
　毎週の課題の提出およびフィードバックは、授業中ないしは授業支援システムを通して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
春学期

回	テーマ	内容
1	はじめに	授業全体の概要説明。
2	心理学研究法の類型化	さまざまな研究法を類型化し、受講者自身がこれまで取ってきた俸給法をその中に位置づける作業を行う
3	実験法（1）準実験という考え方	「準実験」という考え方の理解と研究の生態学的妥当性について考える
4	実験法（2）実験計画法	分散分析法が利用されるに至った経緯と現在の利用状況の解説
5	実験法（3）精神物理学的測定法	古典的と言われるこの方法に現在でも有効なさまざまな方法があることを解説
6	実験法（4）反応時間という指標	認知心理学の実験で多用される反応時間という指標について、整理する。
7	調査法（1）実態・意識調査	心理学の調査と社会学の調査の違いについて整理する。
8	調査法（2）無作為抽出の非現実性	調査研究は無作為抽出を土台に構築されているが、それを実行できない事情と、それに代わる方法の検討を行う。
9	調査法（3）評定尺度の使用	心理学での調査は評定尺度を用いることが多いが、その際に注意すべき問題点を理解する。
10	検査法（1）調査と検査の違い	両者の違いの本質は何かを理解する。
11	検査法（2）テストの標準化	標準化とは何かを理解する。
12	面接法	心理学でもちら入れているさまざまなインタビュー法について理解する。
13	受講者による発表	受講者が自ら行っている研究を研究法という観点から俯瞰する発表を行う。
14	受講者による発表	受講者が関心をもった研究法を 1 つ取り上げ、研究法という視点からの注意事項を吟味した上で研究計画を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

各回に取り上げた研究法について、受講者自身の研究に活用できる可能性を検討する作業を授業時間外の学習として行います。特に、12 回目以降に行う発表・解説に向け、2 回目から 11 回目までの授業で取り上げた研究法を自らが活用できる可能性について検討する作業を毎回の授業時間外学習とします。

【テキスト（教科書）】
吉村浩一・関口洋美・野川中（2019）「心理学研究法総論」をどう教えるか（Ⅰ） 法政大学文学部紀要, 78, 165-183.
吉村浩一（2019）「心理学研究法総論」をどう教えるか（Ⅱ） 法政大学文学部紀要, 79, 111-125.
を用います。これらの論文の抜刷を冊子体または PDF で授業開始時に配布します。

【参考書】
授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点 70%と、「受講者による発表」内容 30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】
受講者による成果発表では、受講生が取り組んでいる研究の方法について見つめ直し深められるような形での発表を喚起します。

【その他の重要事項】
「心理学研究法総論」というテーマでの授業は、本年度だけ行います。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 知覚・認知心理学
＜研究テーマ＞
逆さめがね着用などによる変換された視覚世界への順応過程の研究。心理学研究法。アニメーションにおける動きの研究。博物館・科学館における科学的思考を促すイベントの開発。
＜主要研究業績＞
・吉村浩一 2006 運動現象のタキソノミー：心理学は"動き"をどう捉えてきたか ナカニシヤ出版
・Yoshimura, H. and Tabata,T. 2007 Relationship between frames of reference and mirror-image reversals. Perception, 36, 1049 -1056.
・吉村浩一 2009 直交３軸のうち１軸反転が生み出す形・動き知覚の歪み―不可能図形と影絵の回転による検討― アニメーション研究, 10A, 27-36.

【Outline and objectives】
This lesson aims to give you an overview of the five methods used in psychology, that is, experiments, survey methods, mental tests, observations, and interviews. Students are required to brush up the methods assuming to use them in their own research.

PSY200BG

心理学特殊講義Ⅲ

福田 由紀

授業コード：A3728 ｜ 曜日・時限：**木曜 1 限**
秋学期・2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この授業の目的は，言葉を使っている時の脳活動に関する知識と，NIRS(近赤外分光法）を使い，脳血流量を測定するスキルを身につけることです。

【到達目標】
①言語使用時の脳活動に関する基礎知識が身につく。
② NIRS を使った測定スキルが身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業は講義と実習を組み合わせた形式です。実習を行った結果は，グループで討論をし、発表します。
また，Hoppii を通じて，授業の前に課題の提出してください。なお，授業の初めに、提出された課題の内容に関して，全体に対してフィードバックを行います。
さらに，COVID-19 感染症蔓延状況に応じて，オンライン授業を中心に行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方の確認
第 2 回	脳の基礎知識	中枢神経系の仕組みを知る
第 3 回	脳の機能的働き	言語使用時の脳活動を知る
第 4 回	言語使用時の脳の活動測定方法： fNIRS，fMRI，脳波など	言語使用時の心理学で利用されている測定方法： fNIRS，fMRI，脳波などの実例を知る
第 5 回	fNIRS の仕組み	fNIRS の仕組みを知る
第 6 回	言語流暢性課題を使用した NIRS の実習 1	言語流暢性課題とは何かを知る
第 7 回	言語流暢性課題を使用した NIRS の実習 2	NIRS 装置の使い方が身につく
第 8 回	言語流暢性課題を使用した NIRS の実習 3	基本的な測定方法が身につく
第 9 回	言語流暢性課題を使用した NIRS の実習 4	高度な測定方法が身につく
第 10 回	言語流暢性課題を使用した NIRS の実習 5	基本的なデータの分析方法が身につく
第 11 回	言語流暢性課題を使用した NIRS の実習 6	高度なデータの分析方法が身につく
第 12 回	言語流暢性課題を使用した NIRS の実習 7	考察の観点が身につく
第 13 回	言語流暢性課題を使用した NIRS の実習 8	効果的なプレゼンテーションの仕方が身につく
第 14 回	言語流暢性課題を使用した NIRS の実習 9	実習の発表とディスカッション，全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
第 2 回から毎回，授業計画に沿った事前の課題を行い，Hoppii を通じて提出します。第 2 回から第 5 回の講義形式の授業では，該当授業の内容に関して事前に調べてもらいます。第 6 回から第 14 回の実習形式の授業では，実際に自分がスムーズに測定するための準備に関する事前課題が用意されています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
福田正人（編）「光トポグラフィー検査ガイドブック 改訂」中山書店
など，適宜授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
最後の授業の発表（70%）と他者の発表に対するコメント（10%），実習への積極的な参加態度（20%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】
NIRS を使った測定を実習する授業のために，受講希望者が多数の場合は抽選となる場合があります。受講希望者は【初回の授業に必ず出席】してください。

また，COVID-19 感染状況により，他の形式の授業に変更される可能性があります。よって，大学からのお知らせに注意をしていてください。また，上記の授業計画等が変更になる可能性もあります。受講希望者は，初回のオリエンテーションに必ず出席をしてください。あるいは Hoppii からのお知らせに気をつけてください。

【実験や調査への参加】
授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく，他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【初回授業】
初回授業はオンラインで行います。ZoomID は Hoppii の「お知らせ」を通じて行います。
また，初回授業時に受講者の数を確定したいと思います。この授業の受講希望者は，必ず，出席をしてください。初回授業に欠席した場合，受講できない場合がありますので気をつけてください。
なお，上記内容は 2021 年 3 月末現在の状況におけるお知らせです。変更がある場合は，Hopii の「お知らせ」機能を用いてアナウンスします。

【Outline and objectives】
The purpose of this course is to learn brain activities when we use language あ and to develop measurement skills for NIRS. Students will be expected to broaden their perspectives and deepen their understanding about brain activities and develop measurement skills for NIRS.

BME200NA

福祉工学

川瀬　利弘

授業コード：A3801,A3821　｜　曜日・時限：月 3/Mon.3
秋学期授業/Fall・2 単位

他学部公開：　グローバル：　成績優秀：　実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】
1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原理と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】
後期

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測 1 ：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測 2 ：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測 3 ：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを解説する。
5	生活支援工学 1 ：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学 2 ：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学 3 ：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。
8	生活支援工学 4 ：ブレイン-マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。
9	治療工学 1 ：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学 2 ：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学 3 ：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学 4 ：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要となる機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器に残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
期末のレポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章としてまとめる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
授業内に資料を配布するため不要

【参考書】
『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリバースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『バイオメカニズム・ライブラリー 表面筋電図』（東京電機大学出版局）
『基礎 福祉工学（ロボティクスシリーズ）』（コロナ社）
『ME の基礎知識と安全管理』（南江堂）

【成績評価の方法と基準】
評価方法：毎回の講義中における小テスト (50%)、および期末のレポート課題 (50%) で評価する
評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】
毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、授業内容の改善に努めている。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【Outline and objectives】
In the context of health welfare, students will learn about the roles which mechanical/electrical engineering and software engineering play. Through this, they will understand how engineering technology and understanding of human are essential factors in the development of the field.

法政大学
HOSEI University